

IMS

バージョン 15.1.0

メッセージおよびコード 第 2

巻:

DFS 以外のメッセージ

IBM

IMS

バージョン 15.1.0

メッセージおよびコード 第 2

巻:

DFS 以外のメッセージ

IBM

お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、639 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IMS 15 (プログラム番号 5635-A06)、IMS Database Value Unit Edition V15.01.00 (プログラム番号 5655-DS5)、IMS Transaction Manager Value Unit Edition V15.01.00 (プログラム番号 5655-TM4)、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリソースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： GC27-6790-00
IMS
Version 15.1.0
Messages and Codes, Volume 2:
Non-DFS Messages
(November 2, 2017 edition)

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

© Copyright IBM Corporation 1974, 2017.

目次

本書について	v
前提知識	v
新規および変更された情報の識別方法	vi
IMS 15 のアクセシビリティ機能	vi

第 1 章 IMS 15 の新規、および変更または削除されたメッセージとコード	1
IMS 15 の新しいメッセージとコード	1
IMS 15 で変更されたメッセージとコード	2
IMS 15 で削除されたメッセージおよびコード	3

第 2 章 IMS 問題判別	9
---------------------------------	----------

第 3 章 BPE メッセージ (基本プリミティブ環境)	13
---	-----------

第 4 章 CQS メッセージ (共通キュー・サーバー)	37
---	-----------

第 5 章 CSL メッセージ (Common Service Layer)	81
CSL メッセージ	81
CSLM メッセージ	119
CSLN メッセージ	131

第 6 章 DSP メッセージ (データベース・リカバリー管理)	141
DSP メッセージ DSP0001 - DSP0050	141
DSP メッセージ DSP0051 - DSP0100	153
DSP メッセージ DSP0101 - DSP0150	161
DSP メッセージ DSP0151-DSP0200	173
DSP メッセージ DSP0201 - DSP0250	183
DSP メッセージ DSP0251 - DSP0300	193
DSP メッセージ DSP0301 - DSP0400	202
DSP メッセージ DSP0501 - DSP0800	215
DSP メッセージ DSP0801 - DSP0900	221
DSP メッセージ DSP1001 - DSP1050	228
DSP メッセージ DSP1051 - DSP1100	231
DSP メッセージ DSP1101 - DSP1150	240
DSP メッセージ DSP1151-DSP1200	250
DSP メッセージ DSP1201-DSP2000	259
DSP メッセージ DSP2001 - DSP3000	277

第 7 章 DSPM メッセージ (HALDB 区画定義ユーティリティー)	279
DSPM メッセージ DSPM000I-DSPM050I	279
DSPM メッセージ DSPM051I-DSPM100W	286
DSPM メッセージ DSPM101W-DSPM145I	291

第 8 章 DXR メッセージ (IRLM)	299
---	------------

第 9 章 FRP メッセージ (リポジトリ・サーバー)	301
---	------------

第 10 章 G メッセージ (システム定義) 331	
G メッセージ G000 - G100	331
G メッセージ G101 - G400	338
G メッセージ G401 - G500	347
G メッセージ G501 - G600	352
G メッセージ G601 - G800	356
G メッセージ G801 - G900	364
G メッセージ G901 - G1000	367
G メッセージ G1001 - G9999	378

第 11 章 HWS メッセージ (IMS Connect)	383
HWS メッセージ HWSA0300E-HWSI1816W	383
HWS メッセージ HWSI0001 - HWSK3500	422
HWS メッセージ HWSL0001 - HWSQ3000	440
HWS メッセージ HWSR0001 - HWSX2000	472

第 12 章 MDA メッセージ (動的割り振り)	543
--	------------

第 13 章 PSBGEN メッセージ (PCB、PGEN、SEG、SFLD)	547
PSBGEN の PCB メッセージ	547
PSBGEN の PGEN メッセージ	553
PSBGEN の SEG メッセージ	556
PSBGEN の SFLD メッセージ	558

第 14 章 DBDGEN メッセージ (AREA、DBD、DGEN、DMAN、EXT、FIN、FLD、LCHD、SEGM、SOUR、XDFLD)	561
DBD 生成の AREA メッセージ	561
DBD 生成の DBD メッセージ	562
DBD 生成の DGEN メッセージ	567
DBD 生成の DMAN メッセージ	572
DBD 生成の EXT メッセージ	579
DBD 生成の FLD メッセージ 100 から 615	579
DBD 生成の FLD メッセージ 616 から 649	585
DBD 生成の FLD メッセージ 650 から 692	594
DBD 生成の FLD メッセージ 700 から 999	604
DBD 生成の LCHD メッセージ	612
DBD 生成の SEGM メッセージ 100 から 480	616
DBD 生成の SEGM メッセージ 500 から 840	623
DBD 生成の SOUR メッセージ	628

DBD 生成の XDFLD メッセージ 628
特記事項 **639**
商標 641

製品資料に関するご使用条件 641
IBM オンライン・プライバシー・ステートメント 642
参考文献 **643**

本書について

本書には、IMS™ によって生成される異常終了コード、メッセージ、状況コード、および戻りコードの参照情報が記載されています。

本書には、IMS によって生成される異常終了コード、メッセージ、状況コード、および戻りコードの参照情報が記載されています。

第 1 巻は、DFS 接頭部が付いた IMS メッセージの参照情報を、それに関連する戻りコードと一緒に提供します。また、プログラマー、オペレーター、およびシステム・サポート担当者が IMS の問題を診断する際に役立つ、診断情報も提供します。

第 2 巻は、IMS Base Primitive Environment (BPE)、IMS Common Queue Server (CQS)、IMS Common Service Layer (CSL)、データベース・リカバリー管理 (DBRC) 機能、IMS Connect、および IBM® リソース・ロック・マネージャー (IRLM) などに関連する、DFS 以外の接頭部が付いた IMS メッセージについて、参照情報を提供します。また、プログラマー、オペレーター、およびシステム・サポート担当者が IMS の問題を診断する際に役立つ、診断参照情報を提供します。

第 3 巻は、すべての IMS 異常終了 (アベンド) コードに関する参照情報を、分析、説明、考えられる原因、および APAR 処理命令も含めて提供します。

第 4 巻は、IMS Base Primitive Environment (BPE)、IMS Common Queue Server (CQS)、IMS Common Service Layer (CSL)、データベース・リカバリー管理 (DBRC) 機能、IMS Connect、IBM リソース・ロック・マネージャー (IRLM) などの戻りコード、理由コード、センス・コード、機能コード、および状況コードを提供します。また、プログラマー、オペレーター、およびシステム・サポート担当者が IMS の問題を診断する際に役立つ、診断参照情報も提供します。

本書は、IBM Knowledge Centerの一部として www.ibm.com/support/knowledgecenter で入手できます。

前提知識

本書を使用するには、IMS Database Manager (DB) または IMS Transaction Manager (TM) の知識が必要です。さらに、z/OS® および IMS の基本的概念やインストールされている IMS システムについて理解しており、プロジェクト計画に関する作業の一般的な知識を持っていることが必要です。

本書を使用するには、IMS Database Manager (DB) または IMS Transaction Manager (TM) のいずれかの知識が必要となります。さらに、z/OS および IMS の基本的概念やインストールされている IMS システムについて理解しており、プロジェクト計画に関する作業の一般的な知識を持っていることが必要です。

本書の読者は、z/OS、そのシステム生成、および通信について、また、IMS で使用されるアクセス方式について理解しておく必要があります。関連資料は、『参考文献』にリストされています。

z/OS の詳細については、IBM Knowledge Center の「z/OS basic skills」トピックを参照してください。

IMS の基本概念を理解するには、「*An Introduction to IMS*」(IBM Press 出版)をお読みになると役立ちます。

IBM では、IMS の学習に役立つような講習会や自習講座を数多く提供しています。利用可能な講習の詳しいリストについては、IBM Skills Gateway にアクセスして、IMS を検索してください。

新規および変更された情報の識別方法

IMS ライブラリーの PDF 資料のほとんどの新規および変更された情報は、左マージン内の文字 (改訂マーカー) によって示されています。「リリース計画」、ならびに「*Program Directory*」および「*Licensed Program Specifications*」の第 1 版 (-00) には、改訂マーカーは含まれていません。

改訂マーカーは、以下の一般的な規則に従っています。

- 技術的な変更のみにマークが付けられています。形式上の変更や文法的な変更には、マークは付けられていません。
- 段落、構文図、リスト項目、操作手順、または図などの要素の一部が変更された場合、その要素の一部だけの変更であっても、要素全体に改訂マーカーが付けられています。
- トピックの変更が 50% を超えた場合には、そのトピック全体に改訂マーカーが付けられています (そのため、新規トピックではなくても、新規トピックのように見えることがあります)。

改訂マーカーは情報に加えられたすべての変更を示しているとは限りません。削除されたテキストとグラフィックスには、改訂マーカーでマークを付けることはできないためです。

IMS 15 のアクセシビリティ機能

アクセシビリティ機能は、運動障害または視覚障害など身体に障害を持つユーザーが情報技術製品を快適に使用できるようにサポートします。

アクセシビリティ機能

以下のリストは、IMS 15 を含む z/OS 製品の主なアクセシビリティ機能を示しています。これらの機能は、以下をサポートしています。

- キーボードのみの操作。
- スクリーン・リーダー (読み上げソフトウェア) およびスクリーン拡大鏡によって通常使用されるインターフェース。
- 色、コントラスト、フォント・サイズなど表示属性のカスタマイズ。

キーボード・ナビゲーション

IMS 15 ISPF パネル機能には、キーボードまたはキーボード・ショートカット・キーを使用してアクセスできます。

TSO/E または ISPF を使用して IMS 15 ISPF パネルをナビゲートする詳細については、「z/OS TSO/E 入門」、「z/OS TSO/E ユーザーズ・ガイド」、および「z/OS 対話式システム生産性向上機能 (ISPF) ユーザーズ・ガイド 第 1 巻」を参照してください。上記の資料には、キーボード・ショートカットまたはファンクション・キー (PF キー) の使用方法を含む、各インターフェースのナビゲート方法が記載されています。それぞれの資料では、PF キーのデフォルトの設定値とそれらの機能の変更方法についても説明しています。

関連のアクセシビリティ情報

IMS 15 のオンライン資料は、IBM Knowledge Center で参照できます。

IBM におけるアクセシビリティ

IBM のアクセシビリティに対する取り組みについて詳しくは、*IBM Human Ability and Accessibility Center* (www.ibm.com/able) を参照してください。

第 1 章 IMS 15 の新規、および変更または削除されたメッセージとコード

IMS 15 には、新規、および変更または削除されたメッセージとコードが多数あります。

IMS 15 の新しいメッセージとコード

IMS 15 には、以下にリストされている新しいメッセージが含まれています。

新しい **CQS** メッセージ

以下は新規メッセージです。

CQS0224E

新しい **DFS** メッセージ

以下は新規メッセージです。

DFS0745E

DFS3253W

DFS3458

DFS4690I

DFS4691I

DFS4692E

DFS4861W

DFS4862W

DFS4863W

DFS4864W

新しい **G** メッセージ

以下は新規メッセージです。

G116

G117

G118

G119

G120

G121

G122

新しい **HWS** メッセージ

以下は新規メッセージです。

HWSX0915W

HWSX0916W

新しい異常終了コード

以下の異常終了コードは新規コードです。

0421
0423
0424
0425
0426

新しいコンポーネント・コード

以下のコンポーネント・コードは新規コードです。
IMS Connect 出口の戻りコードおよび理由コード

IMS 15 で変更されたメッセージとコード

このリリースでは、以下にリストされている、DSP メッセージが変更されています。

変更された **DFS** メッセージ

以下のメッセージが変更されました。

DFS0413I
DFS1934E
DFS2205I
DFS2385E
DFS2679A
DFS3254I
DFS3377
DFS3398E
DFS4610E
DFS4615E
DFS554A
DFS3438
DFS3446

変更された **DSP** メッセージ

以下のメッセージが変更されました。

DSP0012I

変更された異常終了コード

以下の異常終了コードが変更されました。

U0711
U0070
U0071
U0073
U1002
1143

変更されたコンポーネント・コード

以下のコンポーネント・コードが変更されました。

OTMA C/I 戻りコード

IMS 15 で削除されたメッセージおよびコード

以下のセクションにリストされているメッセージは、IMS 15 では削除されています。

このリリースでは、以下のメッセージが削除されました。

DFS2211I

G040

G043

G904

G042

G1205

G1212

削除された **LGEN** メッセージ

大規模システム定義 (LGEN) のサポートの中止により、以下のメッセージが削除されました。

DFS3512I	G008
DFS3514I	G1211
DFS3516I	
DFS3518I	
DFS3520I	
DFS3522I	
DFS3524I	
DFS3526I	
DFS3528I	
DFS3530I	
DFS3532I	
DFS3534I	
DFS3536I	
DFS3538I	
DFS3540I	
DFS3546I	
DFS3548I	
DFS3550I	
DFS3552I	
DFS3554I	
DFS3556I	
DFS3558I	
DFS3559A	
DFS3560I	
DFS3562I	
DFS3564I	
DFS3566I	
DFS3567I	
DFS3568I	
DFS3569I	
DFS3570I	
DFS3572I	
DFS3574I	
DFS3577A	
DFS3593I	
DFS3599I	

削除された RSR メッセージ

リモート・サイト・リカバリー (RSR) のサポートの中止により、以下のメッセージおよび異常終了が削除されました。これらのメッセージには、トランスポート・マ

ネージャー・サブシステムおよびその他の RSR サービス (オンライン順方向リカバリー、ログ・ルーター、DBRC などのサービス・グループ) により発行されるメッセージが含まれます。

異常終了	DFS2953I	DFS4030A
360	DFS2954I	DFS4031A
361	DFS2955W	DFS4032A
362	DFS2956I	DFS4033I
363	DFS2959I	DFS4034A
364	DFS2960A	DFS4034I
365	DFS2961I	DFS4035A
378	DFS2962I	DFS4036I
379	DFS2963A	DFS4037A
380	DFS2964I	DFS4039A
381	DFS2965A	DFS4041I
388	DFS2966A	DFS4042A
3090	DFS2967A	DFS4043A
3091	DFS2968A	DFS4044A
3399	DFS2969A	DFS4045A
DFS メッセージ (IMS)	DFS2980E	DFS4046A
DFS170	DFS2981E	DFS4047A
DFS176	DFS2982E	DFS4048I
DFS2903I	DFS2983E	DFS4049I
DFS2908I	DFS2984I	DFS4050A
DFS2909I	DFS2989I	DFS4051I
DFS2910I	DFS4010W	DFS4052A
DFS2911I	DFS4011I	DFS4053A
DFS2912I	DFS4012I	DFS4054A
DFS2913I	DFS4013W	DFS4055I
DFS2914I	DFS4014I	DFS4056I
DFS2915I	DFS4015I	DFS4057A
DFS2916W	DFS4016A	DFS4058A
DFS2917I	DFS4017A	DFS4060I
DFS2918A	DFS4018I	DFS4061A
DFS2922A	DFS4019I	DFS4062W
DFS2923I	DFS4020I	DFS4063I
DFS2924I	DFS4021I	DFS4064W
DFS2925I	DFS4022I	DFS4065A
DFS2926I	DFS4024I	DFS4066I
DFS2927I	DFS4025I	DFS4067A
DFS2928I	DFS4026I	DFS4068A
DFS2929A	DFS4027I	DFS4069A
DFS2931I	DFS4028I	DFS4070A
DFS2932I	DFS4029I	DFS4071I
DFS2933I		
DFS2935I		
DFS2936I		
DFS2937I		

DFS4072A	DSP メッセージ (DBRC)
DFS4073A	DFS4130I
DFS4074W	DFS4131A
DFS4075A	DFS4132A
DFS4076A	DFS4133A
DFS4077I	DFS4134I
DFS4078I	DFS4135I
DFS4079A	DFS4136I
DFS4085W	DFS4150I
DFS4086W	DFS4152A
DFS4087A	DFS4153W
DFS4088A	DSPM058I
DFS4089A	DSPM059I
DFS4090A	DSP1001I
DFS4091I	DSP1002I
DFS4092A	DSP1030I
DFS4094A	DSP1004I
DFS4095A	DSP1005I
DFS4096A	DSP1006I
DFS4097I	DSP1007I
DFS4098A	DSP1009I
DFS4099A	DSP1010I
DFS4100I	DSP1011I
DFS4101A	DSP1012I
DFS4102A	DSP1013I
DFS4103I	DSP1014I
DFS4104A	DSP1016I
DFS4105A	DSP1017I
DFS4106I	DSP1021I
DFS4107A	DSP1022I
DFS4108A	DSP1025I
DFS4109	DSP1027I
DFS4111I	DSP1028I
DFS4112A	DSP1029I
DFS4113I	DSP1030I
DFS4114A	DSP1032I
DFS4115I	DSP1035I
DFS4121I	DSP1036I
DFS4122A	DSP1037I
DFS4123I	DSP1038I
DFS4124I	DSP1042I
DFS4125I	DSP1043I
DFS4126I	DSP1044I
DFS4127A	

ELX メッセージ (TMS)		G メッセージ (SYSGEN)
ELX0001A	ELX0201W	G1205
ELX0002A	ELX0202I	G1212
ELX0003A	ELX0203W	
ELX0004A	ELX0204I	
ELX0005A	ELX0205I	
ELX0100A	ELX0209I	
ELX0101W	ELX0210A	
ELX0102W	ELX0211I	
ELX0103I	ELX0212A	
ELX0104A	ELX0213A	
ELX0105I	ELX600A	
ELX0106A	ELX1001E	
ELX0107I	ELX1002I	
ELX0108I	ELX1003W	
ELX0109I	ELX1004W	
ELX0111A	ELX1005W	
ELX0112I	ELX1010I	
ELX0113A	ELXC106I	
ELX0114I	ELXC109I	
ELX0115I	ELXC112A	
ELX0116A	ELXC160I	
ELX0118A	ELXC161I	
ELX0119I	ELXC162A	
ELX0120I	ELXC181I	
ELX0122I	ELXC315I	
ELX0128I		
ELX0129I		
ELX0130I		
ELX0150I		
ELX0170I		
ELX0171A		
ELX0181A		
ELX0183A		
ELX0184I		
ELX0185I		
ELX0187I		
ELX0188I		
ELX0189I		
ELX0200I		

第 2 章 IMS 問題判別

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

問題判別は、障害のあるモジュールまたはプログラムを特定し、示された問題の解決をユーザーまたは IBM のどちらが担当するかを判別するための手順を使用して行われます。

本書内にリストされたメッセージおよびコードに、該当する場合は、問題判別情報が含まれています。ほとんどの場合、メッセージまたはコードの『問題判別』という見出しの後に、1 つ以上の番号 (例えば、「4、6」) が表示されています。これらの番号は、以下に示す、ユーザーが取る標準的な問題判別処置リストの番号付き項目への相互参照です。

1. z/OS コンソールからコンソール・シートを保管します。
2. ジョブに関連する入力を保管します。
3. ジョブに関連する SYSOUT (システム出力) を保管します。
4. IMS 制御領域の障害時のストレージ・メモリー・ダンプを保管し、関連するすべてのメッセージ領域のメモリー・ダンプを保管します。(SYS1.DUMP が使用される場合は、それを印刷して保管します。)
5. IMS ログ印刷出力を保管します。
6. IMS マスター端末の印刷出力を保管します。
7. ローカルまたはリモート端末の印刷出力を保管します。
8. JCL リストを保管します。
9. ACB 生成の出力を保管します。
10. MSGEN リストを保管します。
11. SYSABEND メモリー・ダンプを保管します。(SYS1.DUMP が使用される場合は、それを印刷して保管します。)
12. ユーザー修正の IMS モジュールのアセンブリー・リストを保管します。
13. バインド・マップを保管します。
14. LOG トレースを保管します。
15. 異常終了の直前に書き込まれたレコードで始まる IMS ログの印刷出力を保管します。
16. MFS 言語ユーティリティーの実行の出力リストを保管します。
17. 次の問題に関連するデータを収集します。
 - a. バッチで実行している場合、システム・メモリー・ダンプ。
 - b. オンラインで実行している場合、ログ・レコード・タイプ X'67'、サブレコード・タイプ X'FF' (疑似異常終了) を印刷します。これらのレコードを印刷するには、ファイル選択およびフォーマット設定印刷プログラムを使用します。OPTION PRINT 制御ステートメントで EXITR=DFSERA30 を指定する必要があります。

- c. 障害のあった呼び出しの前後で、SNAP ステートメントを指定した DL/I テスト・プログラム (DFSDDLTO) を実行します。
 - d. 障害に関連した PSB および DBD のリストまたはステートメント (あるいは両方) を保管します。
 - e. ログ・レコード・タイプ X'67'、サブレコード・タイプ X'FE' (プログラム分離トレース) のメモリー・ダンプを作成します。ファイル選択およびフォーマット設定印刷プログラムを使用して、レコードを印刷します。ログを作成するときに、プログラム分離トレースを使用可能にする必要があります。OPTION PRINT 制御ステートメントで EXITR=DFSERA40 を指定する必要があります。
 - f. オンラインの場合、オンライン領域のログからのスナップ。
 - g. データベースのバックアウト、リカバリー、および再編成のアクティビティの履歴。
18. 関連する DBD のアセンブリー・リストを保管します。
 19. 関連する PSB のアセンブリー・リストを保管します。
 20. 障害時の関連データ・セットの VSAM カタログ項目のリストを保管します。
 21. 将来の利用のために予約済み。
 22. 将来の利用のために予約済み。
 23. IBM に連絡して、ハードウェア・サポートを要求します。
 24. IMS ログから 3270 診断エラー・ログ・レコード (レコード・タイプ X'67': サブレコード・タイプ X'03') のメモリー・ダンプを作成します。
 25. IMS ログのコピーを実行します。
 26. スクラッチパッド域の SPACCB フィールド、または CTBCCBPT フィールドから、関連する CCB を判別します。関連する (a) ソースと出力 CNT、および (b) 回線と PTERM (CTB) を判別します。

ログ・レコード 01、02、03、07、08、11、12、および 13 から、会話の状況を判別します。

- a. メッセージは準備できたが、アプリケーションがスケジュールされませんでした。01 宛先は会話型 SMB です。
- b. アプリケーションがスケジュールされ、08 レコードが生成されました。
- c. アプリケーションが、会話型端末にセグメントを挿入しました。メッセージの宛先が CNT の場合、03 および 13 レコードが生成されます。
- d. アプリケーションが、会話型プログラムにセグメントを挿入しました。SPA は、03 レコード内のメッセージの最初のセグメントです。
- e. アプリケーションは正常に終了したか、または異常終了しました。07 レコードに、会話型アプリケーションの完了コードが入っています。DLRFLAG2 エリア (07 ログ・レコードの最終ワード) に、同期点情報が入っています。
- f. 12 レコードは、会話が終了したことを示します。
- g. コマンド /EX1、/HOLD、/REL、または /START LINE (PTERM なし) に対して生成された 02 レコードが、会話中の端末に影響を与えたかどうかを判別します。
- h. IMS の再始動が会話に影響を与えますか?詳しくは、再始動への入力ログおよび再始動からの出力ログを参照してください。

27. z/OS ハードコピー・メッセージ・ログ出力を保管します。
28. 通常操作中に、このシステムが接続されている他のシステム内で作動している z/OS および IRLM の状況を判別します。
29. 障害時に生成された IRLM アドレス・スペース・ダンプを保管します。
30. IRLM 障害の近辺の時間に障害のあった IMS オンラインまたはバッチのアドレス・スペースのメモリー・ダンプを保管します。IMS メモリー・ダンプに関連する IMS の問題判別手順に従ってください。IMS 障害は、IRLM 障害に関連している可能性があります。
31. IRLM 始動プロシージャ JCL のリストを保管します。
32. IRLM をインストールするために実行された IMSGEN のリストを保管します。
33. IRLM をインストールするために実行された VTAM[®] 定義のリストを保管します。
34. 障害時のアクティビティーを示すために使用可能であれば、GTF トレース出力を保管します。
35. 問題を解決するためにさらに支援が必要であれば、次のマニュアルを参照してください。
 - IMS V15 メッセージおよびコード 第 1 巻: DFS メッセージ
 - IMS V15 メッセージおよびコード 第 2 巻: DFS 以外メッセージ
 - IMS V15 メッセージおよびコード 第 3 巻: IMS 異常終了コード
 - IMS V15 メッセージおよびコード 第 4 巻: IMS コンポーネント・コード
 - IMS Version 15 Diagnosis

すべての入力 that 正確かどうかを調べ、すべてのメモリー・ダンプを分析します。

それでも問題を解決できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を受けてください。

36. 問題を解決できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を受けてください。
37. タイプ X'02' ログ・レコードのコピーを実行依頼します。
38. CCTL SNAP または SDUMP データ・セットを保管します。
39. DBRC RECON のリストを保管します。
40. SVC メモリー・ダンプを取得し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を受けてください。

第 3 章 BPE メッセージ (基本プリミティブ環境)

基本プリミティブ環境 (BPE) によって発行されるメッセージは、BPE で始まります。

BPE0000I *displayoutput*

説明: このメッセージは、BPE リソースに対する DISPLAY コマンド verb によって生成された出力を示します。

メッセージ・テキスト内で、*displayoutput* は、DISPLAY verb からの出力テキストです。一般に、DISPLAY コマンドがリソースに対して発行されると、出力は、ヘッダー行およびその表示されるリソースに関する情報を含む 1 つ以上のデータ行から成ります。

システムの処置: 処理は続行されます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: BPECTRA0、BPECURF0、BPEHT100

BPE0001E BPE INITIALIZATION ERROR IN MODULE *module* *details*

説明: 早期 BPE 初期設定中にエラーが発生しました。このメッセージには 2 つの行が含まれます。各行はメッセージ番号で始まります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

module エラーを検出したモジュール

details 検出されたエラーのタイプの 1 行の説明

このメッセージの *details* 行は、検出されたエラーの詳細を説明するもので、以下のいずれかになります。

ERROR LOADING MODULE *module* BPELOAD

RC=rc モジュールのロードが失敗しました。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

module ロードできなかったモジュールの名前

rc BPE ロード・サービス BPELOAD からの戻りコード

ERROR LOADING MODULES *module...* BPELOAD

RC=rc 複数のモジュールのロードが失敗しました。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

module ロードできなかった複数モジュールの最初のモジュールの名前

rc BPE ロード・サービス BPELOAD からの戻りコード

ERROR PARSING *datasettype*, BPEPARSE RC=*rc*

構成データ・セットの構文解析の試行中に、エラーが検出されました。このメッセージは、エラーについての詳細を示すメッセージ BPE0003E の後に続きます。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

data_set_type

構文解析中だったデータ・セットのタイプの記述。これは、次のいずれかです。

- **BPE CONFIG MEMBER:** 始動 JCL またはプロシーチャーの BPECFG パラメーターで指定されたメイン BPE 構成 PROCLIB メンバー。
- **component USER EXIT LIST MEMBER:** 示された IMS コンポーネント (例えば、BPE、CQS、OM、RM、または SCI) のユーザー出口リスト PROCLIB メンバー。これは、BPE 構成 PROCLIB メンバーの EXITMBR ステートメントで指定されたユーザー出口リスト・メンバーです。

rc BPE 構文解析サービス BPEPARSE からの戻りコード

ERROR READING PROCLIB DATA SET, BPERDPDS RC=*rc*

BPE が PROCLIB DD データ・セットを読み取れませんでした。このメッセージは、読み取れなかった特定のデータ・セットおよびメンバーについての詳細を示すメッセージ BPE0002E の後に続きます。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc BPE 区分データ・セット読み取りサービス BPERDPDS からの戻りコード

INITIALIZATION FAILED FOR *service*, RC=*rc*

BPE が BPE システム・サービスを初期設定できませんでした。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

service 初期設定に失敗した BPE サービスの名前。このフィールドの値には次のものがあります。

- **BPE RESMGR:** BPE で使用されるグローバル・リソースをクリーンアップするために、BPE がリソース・マネージャー・ルーチンを設定しようとしたときに、エラーが発生しました。このメッセージにある戻りコードは、失敗した MVS™ RESMGR マクロ呼び出しからの戻りコードです。
- **USER EXITS:** ユーザー出口モジュールをロードしようとしているときに、エラーが発生しました。このメッセージの前に、問題を示す他のエラー・メッセージが出力されていることがあります。ユーザー出口 (BPEUXRF0) をロードするモジュールからの戻りコードが、このメッセージの *rc* フィールドに入ります。
- **BPE SVC:** BPE が BPE SVC ルーチンを初期設定しようとしたときに、エラーが発生しました。BPE は、BPE および IMS コンポーネントでの使用のために、内部 SVC ルーチンを提供しています。SVC は、BPE アドレス・スペースを開始したときに動的にインストールされます。このエラー・メッセージは、BPE SVC をインストールできなかった場合に発行されます。メッセージの *rc* フィールドが X'00000020' である場合は、おそらく、必要な保守レベルでない z/OS システムでアドレス・スペースを開始しようとしています。MVS システムは、少なくとも MVS SP 4.3.0 以降でなければなりません。MVS システムが MVS SP 5.2.0 以前である場合、MVS APAR の OW13312 および OW13315 の適用が必要です。

rc エラーを検出した下位レベルの初期設定モジュールからの戻りコード。

INVALID CALLABLE SERVICE CODE *code* IN MODULE *module*

BPE が、示されたモジュール内で無効なユーザー出口呼び出し可能サービス・コードを検出しました。BPE および BPE を使用して実行する IMS コンポーネントの両方で、ユーザー出

口が使用できる呼び出し可能サービスを定義できます。各呼び出し可能サービスは、サービスを要求するのに使用される呼び出し可能サービス・コードを持っています。このエラーは、示されたモジュール内に定義エラーがあることを示しています。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

code エラーがあった呼び出し可能サービス・コード (16 進数)。

module 無効な呼び出し可能サービス・コードが定義された呼び出し可能サービス・モジュールの名前。

MODULE *module* HAS AN INVALID VERSION NUMBER *version*

BPE 定義モジュールのバージョン番号が無効です。BPE は、ロードされる定義モジュールと実行中の BPE のバージョンが一致するかどうかを確認するために、バージョン番号を整合性検査に使用します。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

module 無効なバージョンが検出された BPE 定義モジュール

version 定義モジュールからの 16 進数の無効なバージョン番号

MODULE *module* IS LINKED REENTRANT - IT MUST BE NON-REENTRANT

BPE 定義モジュールが、キー 0 のストレージにロードされました。BPE 定義モジュールは、データ (制御ブロック) を含むモジュールであり、そのため、BPE を実行しているストレージと同じストレージ・キーのストレージにロードする必要があります。このエラー・メッセージの原因として最も一般的なものは、定義モジュールを再入可能としてリンクしたため、キー 0 ストレージにロードされてしまうことです。BPE 定義モジュールは、再入不可としてバインドする必要があります。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

module キー 0 ストレージにロードされた BPE 定義モジュール

MODULE *module* IS NOT A VALID *type* DEFINITION MODULE

BPE で、内部 BPE 定義モジュールに関するエラーが検出されました。BPE は、実行環境を構成するために定義モジュールを使用します。定義モジュールが正しくないと、BPE は適切な環境を構築できません。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

module エラーのあった BPE 定義モジュールの名前

type エラーのあった定義モジュールのタイプ

NAME-TOKEN CREATE ERROR, RC=rc

z/OS 名前トークン・サービスの作成呼び出しが失敗しました。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc z/OS 名前トークン作成呼び出しからの戻りコード。詳しくは、「z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Reference, Volume 2 (EDT-IXG)」内の IEANTCR サービスの戻りコードを参照してください。

NAME-TOKEN RETRIEVE ERROR, RC=rc

z/OS 名前トークン・サービスの検索呼び出しが失敗しました。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc z/OS 名前トークン検索呼び出しからの戻りコード。詳しくは、「z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Reference, 第 2 巻 (EDT-IXG)」内の IEANTRT サービスの戻りコードを参照してください。

STORAGE OBTAIN ERROR, STORAGE RC=rc

ストレージを取得するための z/OS STORAGE OBTAIN 呼び出しが失敗しました。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc z/OS STORAGE OBTAIN 呼び出しからの戻りコード。詳しくは、「z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Reference, 第 4 巻 (SET-WTO)」内の STORAGE OBTAIN の戻りコードを参照してください。

UNABLE TO CREATE *threadtype* THREAD,**BPETHDCR RC=rc**

BPE スレッド (内部作業単位) を作成する要求が失敗しました。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

threadtype 作成できなかったスレッド・タイプの 4 文字の名前

rc スレッド作成サービス BPETHDCR からの戻りコード

UNABLE TO GET NECESSARY STORAGE,**BPEGETM RC=rc**

BPE が、必要なストレージを取得できませんでした。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc BPE GETMAIN サービス BPEGETM からの戻りコード

UNABLE TO GET STORAGE FOR *blocktype***BLOCK, BPECBGET RC=rc**

BPE が、必要な制御ブロックのストレージを取

得できませんでした。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

blocktype 取得できなかった内部 BPE 制御ブロックの 4 文字の名前

rc BPE 制御ブロック取得サービス BPECBGET からの戻りコード

UNKNOWN ERROR, MODULE RC=rc

BPE が認識していない内部エラーが発生しました。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc 障害のあったモジュールからの戻りコード

システムの処置: このメッセージの後に、サブコード 05 を伴った IMS 異常終了 3400 が続きます。アドレス・スペースは終了します。

システム・プログラマーの応答: このメッセージの中で記述されているエラーの原因が環境条件 (例えば、ストレージの不足や IMS.SDFSRESL からのモジュールの欠落など) にある場合は、示された問題を訂正してアドレス・スペースを再始動してください。それ以外の場合は、メモリー・ダンプおよび SYSLOG 情報を保管してから、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: PEAWI00, BPECBI00, BPECMDI0, BPEDSI00, BPEHTI00, BPEINIT0, BPEMSGI0, BPEPCFG0, BPERV1I0, BPETRI00, BPEUXI00

関連資料:

➡ BPELOAD コード (メッセージおよびコード)

➡ BPETHDCR コード (メッセージおよびコード)

➡ BPEGETM コード (メッセージおよびコード)

➡ BPEBPCRE コード (メッセージおよびコード)

➡ BPERDPDS コード (メッセージおよびコード)

➡ BPEPARSE コード (メッセージおよびコード)

➡ z/OS: STORAGE OBTAIN の戻りコードおよび理由コード

➡ z/OS: IEANTRT サービスの戻りコードおよび理由コード

➡ z/OS: IEANTCR サービスの戻りコードおよび理由コード

関連情報:

➡ IMS 異常終了 3400

 BPE0002E (メッセージおよびコード)

BPE0002E ERROR READING *ddname* MEMBER
member
details

説明: 区分データ・セット・メンバーを読み取ろうとして、エラーが発生しました。このメッセージには 2 つの行が含まれます。各行はメッセージ番号で始まります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ddname 読み取り中のデータ・セットの DD 名

member

読み取り中のデータ・セットのメンバー名

details 検出されたエラーのタイプの 1 行の説明

BPE0002E メッセージの *details* 行は、検出されたエラーの詳細を説明するもので、以下のいずれかになります。

OPEN FAILED FOR DATA SET

BPE PDS 読み取りサービスが、読み取り用にデータ・セットをオープンできませんでした。

DATA SET RECORDS ARE NOT FIXED

FORMAT

データ・セットで、固定形式でないレコードが指定されました。BPE PDS 読み取りサービスでは、固定形式のデータ・セットが要求されません。

MEMBER NOT FOUND IN DATA SET

示されたメンバーが区分データ・セット内ではありませんでした。

BSAM READ FAILED READING MEMBER

データ・セット・メンバーの読み取り中にエラーが発生しました。

UNABLE TO OBTAIN SUFFICIENT STORAGE

FOR MEMBER TO BE READ

PDS 読み取りサービスが、データ・セット・メンバーの読み取りに必要なストレージを取得できませんでした。

システムの処置: BPE PDS 読み取りサービスは、このメッセージの出力後、これ以上の処置を取りません。サービスの呼び出し側が、追加の診断メッセージを提供するか、またはアドレス・スペースを終了させることができます。

システム・プログラマーの応答: このメッセージに示されたエラーを訂正します。

モジュール: BPERDPD0

BPE0003E AN ERROR OCCURRED PARSING
description

AT LINE *line*, CHARACTER *char*

FAILING TEXT: "*text*"

details

説明: BPE 構文解析サービスでエラーが発生しました。このメッセージは 4 行のメッセージです。各行はメッセージ番号で始まります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

description

構文解析されたものを示すテキスト記述。

line エラーが発生したデータの行番号。行単位でないデータの場合、行番号は省略されます。

char エラーが検出された行の文字の位置。行単位でないデータの場合、*char* は、入力データ内での文字の位置を示します。

text エラーが検出された、最大 16 文字までのテキスト。

details 検出されたエラーのタイプの 1 行の説明

BPE0003E メッセージの *details* 行は、検出されたエラーの詳細を説明するもので、以下の値のいずれかになります。

INVALID KEYWORD DETECTED

構文解析プログラムが入力データ内で不明なキーワードを検出しました。

UNKNOWN POSITIONAL PARAMETER

構文解析プログラムが、予期しなかったときに入力データ内で定位置パラメーターを検出しました。

"=" ENCOUNTERED WHEN "(" EXPECTED

構文解析プログラムが、入力データ内で左括弧が必要な位置で等号を検出しました。

EARLY END OF INPUT DATA

すべてのレベルの括弧が閉じる前に入力データが終了しました。

KEYWORD ENCOUNTERED WHEN VALUE EXPECTED

構文解析プログラムが、入力データ内で値を必要とした位置にキーワードを検出しました。

NUMERIC VALUE OUTSIDE OF LEGAL RANGE

数値が、パラメーターに許された範囲外でした。

DECIMAL NUMBER CONTAINED NONDECIMAL DIGITS

10 進数に、10 進数字以外の文字が含まれていました。

HEXADECIMAL NUMBER CONTAINED NONHEX DIGITS

16 進数に、16 進数字以外の文字が含まれていました。

UNKNOWN KEYWORD VALUE DETECTED

構文解析プログラムが、キーワード値のセットの 1 つである可能性があるパラメーターを検出しました。しかし、そのパラメーターは、セット内の値のいずれでもありません。

DUPLICATE KEYWORD PARAMETER DETECTED

構文解析プログラムが、入力データ内で反復不能なキーワードを複数回検出しました。

A REQUIRED PARAMETER WAS OMITTED

必要パラメーターが入力データ内で検出されませんでした。

CHARACTER VALUE WAS TOO LONG FOR PARAMETER

指定された文字値がパラメーター・フィールドには長過ぎました。

A REQUIRED VALUE WAS OMITTED

値を指定しないでキーワードがコーディングされました。値が必要です。

UNEXPECTED RIGHT PARENTHESIS ENCOUNTERED

入力データ内の括弧が一致しませんでした。右括弧が多過ぎました。

PARSER DIRECTIVE IMBEDDED IN A SUBLIST

括弧で囲まれた構文解析プログラム入力データであるサブリストの処理中に、構文解析プログラムで構文解析プログラム・ディレクティブが検出されました。構文解析プログラム・ディレクティブは構文解析プログラムのメタデータであり、不等号括弧 (< および >) で区切られません (例: <SECTION=section_name>)。構文解析プログラム・ディレクティブは、構文解析プログラム・データのサブリスト内では使用できません。

INVALID PARSER DIRECTIVE VALUE

構文解析プログラム・ディレクティブの右側が無効でした。構文解析プログラム・ディレクティブのフォームは <directive=value> でなければなりません。値は単一のワードでなければならず、右不等号括弧 (>) を含める必要があります。

PARSER DIRECTIVE ENCOUNTERED WHEN VALUE EXPECTED

構文解析プログラムは、keyword=value パラメーターの右側の値を予想していたときに構文解析プログラム・ディレクティブを検出しました。

AN EXPECTED RIGHT PARENTHESIS WAS NOT FOUND

構文解析プログラムは、左括弧と一致する右括弧を入力データ内で検出しませんでした。

システムの処置: BPE 構文解析サービスは、このメッセージの出力後、これ以上の処置を取りません。サービスの呼び出し側が、追加の診断メッセージを提供するか、またはアドレス・スペースを終了させることがあります。

システム・プログラマーの応答: BPE0003E メッセージに示されたエラーを訂正します。

モジュール: BPEPARSO

BPE0004I BPECFG= NOT SPECIFIED ON STARTUP PARMS - DEFAULTS BEING USED

説明: BPE が始動パラメーター内で BPE 構成データ・セットの指定を検出できませんでした。

システムの処置: アドレス・スペースは初期設定を継続します。BPE は、BPE 構成データ・セットの全パラメーターについて、デフォルトを使用して実行します。

システム・プログラマーの応答: BPE 構成パラメーターのデフォルトが受け入れ可能であれば、処置は必要ありません。それ以外の場合は、PROCLIB DD ステートメントで指し示されるデータ・セット内に BPE 構成メンバーを作成し、アドレス・スペースを始動するジョブの始動パラメーターで BPECFG=member_name を指定します。

モジュール: BPEPCFG0

BPE0005I UNKNOWN component TRACE TYPE type IN PROCLIB MEMBER member-IGNORED

説明: 不明なトレース・テーブル・タイプの BPE 構成 PROCLIB データ・セット・メンバーで TRCLEV= ステートメントが検出されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

component

構文解析中の TRCLEV ステートメントで指定された IMS コンポーネントの名前 (例えば、BPE、CQS、OM、RM、または SCI)

type

不明なトレース・テーブルのタイプ

member

処理中であった PROCLIB DD データ・セットのメンバー名

システムの処置: アドレス・スペースは初期設定を継続

BPE0006I

します。 BPE は、無効なトレース指定を無視します。
システム・プログラマーの応答: TRCLEV ステートメントを訂正します。

モジュール: BPEPCFG0

BPE0006I *aaaa bbbb ttt ABEND cdddd-eeeeeee,
THD=ffff DIAG=lllllll mm retrystatus*

MODULE ID = *gggggggggggggggggg EP = hhhhhhhh*
PSW = *iiiiiii iiiiii OFFSET = jjjjjjj*
R00-03 *kkkkkkkk kkkkkkkk kkkkkkkk kkkkkkkk*
R04-07 *kkkkkkkk kkkkkkkk kkkkkkkk kkkkkkkk*
R08-11 *kkkkkkkk kkkkkkkk kkkkkkkk kkkkkkkk*
R12-15 *kkkkkkkk kkkkkkkk kkkkkkkk kkkkkkkk*

または

*aaaa bbbb ttt ABEND cdddd-eeeeeee, THD=ffff
DIAG=lllllll mm retrystatus*

MODULE ID = *gggggggggggggggggg EP = hhhhhhhh*
PSW = *iiiiiii iiiiii OFFSET = jjjjjjj*
R0 *kkkkkkkk kkkkkkkk R1 kkkkkkkk kkkkkkkk*
R2 *kkkkkkkk kkkkkkkk R3 kkkkkkkk kkkkkkkk*
R4 *kkkkkkkk kkkkkkkk R5 kkkkkkkk kkkkkkkk*
R6 *kkkkkkkk kkkkkkkk R7 kkkkkkkk kkkkkkkk*
R8 *kkkkkkkk kkkkkkkk R9 kkkkkkkk kkkkkkkk*
R10 *kkkkkkkk kkkkkkkk R11 kkkkkkkk kkkkkkkk*
R12 *kkkkkkkk kkkkkkkk R13 kkkkkkkk kkkkkkkk*
R14 *kkkkkkkk kkkkkkkk R15 kkkkkkkk kkkkkkkk*

説明: この複数行のメッセージは、異常終了が発生した場合に出力されます。このメッセージは、異常終了時の環境を示しています。各行はメッセージ番号で始まります。

BPE0006I メッセージの最初の形式 (32 ビット・レジスター) は、異常終了しているプログラムが AMODE 64 ではなく、不揮発性 64 ビット・レジスター R2 から R14 の上位半分がすべてゼロである場合に発行されます。この形式には、異常終了時の各汎用レジスターの下部 32 ビットのみが示されます。

BPE0006I メッセージの 2 番目の形式 (64 ビット・レジスター) は、異常終了しているプログラムが AMODE 64 である場合、または不揮発性 64 ビット・レジスター R2 から R14 の上位半分がゼロ以外である場合に発行されます。この形式には、異常終了時の各汎用レジスターの完全な 64 ビット値が示されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaa 異常終了した TCB または SRB を所有する

IMS コンポーネント (例えば、BPE、CQS、OM、RM、または SCI)。
bbbb 異常終了した TCB または SRB の 4 文字の TCB または SRB タイプ。
ttt 異常終了した z/OS ディスパッチ可能単位 (TCB または SRB) の 3 文字のタイプ。
c 異常終了がシステム異常終了かユーザー異常終了かの区別。 S は、システム異常終了を示します。 U はユーザー異常終了を示します。
dddd 異常終了コード。システム異常終了の場合、このコードは 3 桁の 16 進コードです。ユーザー異常終了の場合、このコードは 4 桁の 10 進コードです。
eeeeeee 異常終了の理由コード、あるいは異常終了の理由コードが利用不可である場合は、異常終了時の R15 の値。
ffff 異常終了が発生したときに実行していた BPE スレッド (内部作業単位) の 4 文字の名前。 THD=ffff テキストは、最初に異常終了した TCB について出された BPE0006I メッセージの場合のみ出力されます。最初の異常終了の結果として異常終了された後続の TCB について出された BPE0006I メッセージでは、これは省略されます。異常終了したスレッドのタイプを BPE が判別できない場合は、THD=ffff は最初の BPE0006I メッセージでも省略されます。
lllllll 診断データ。
lllllll は、BPE リカバリー・ルーチンに渡された SDWA の 4 バイト・フィールド SDWAFLGS の 16 進値です。このワードのフラグ・ビットのいくつかは、IMS BPE のリカバリー処理を制御します。このワードは、BPE リカバリー・ルーチンでの問題判別に役立つように、診断データとして提供されます。オペレーティング・システムからリカバリー・ルーチンに SDWA が渡されないときには、このフィールドは表示されません。
mm 追加の診断データ。
mm は、BPE リカバリー・ルーチンに渡された SDWA の 1 バイト・フィールド SDWACMPF の 16 進値です。
retrystatus システムが異常終了からのリカバリーを試みているかどうかを示します。システムがリカバリーを試みている場合は、文字ストリング「(RETRYING)」が、メッセージの最後の、*retrystatus* で示されている位置に追加されません。異常終了が再試行されていなければ *retrystatus* データはありません。メッセージは DIAG=llllllllmm で終わります。

gggg... モジュール ID からの異常終了モジュールの名前 (判別できる場合)。

hhhhhhhh

異常終了モジュールのエントリ・ポイント・アドレス (判別できる場合)。

iiiiii iiiiii

異常終了時の PSW (プログラム状況ワード) の内容。

jjjjjjj 異常終了が発生したモジュール内でのオフセット (判別できる場合)。

kkkkkkkk

異常終了時のレジスターの内容。

システムの処置: 異常終了が再試行中 (メッセージの最初の行の *retrystatus* が「(RETRYING)」) の場合、システムは異常終了からのリカバリーを試み、アドレス・スペースは機能し続けます。

異常終了が再試行中ではない場合、このメッセージの後に取られる処置は、異常終了する TCB または SRB がアドレス・スペースにとって重要なディスパッチ可能単位と見なされるかどうかによって異なります。重要ではない場合、ディスパッチ可能単位は終了しますが、アドレス・スペースは実行を継続します。重要であれば、アドレス・スペースは異常終了します。

システム・プログラマーの応答: メモリー・ダンプおよび SYSLOG 情報を保管してから、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: BPEINIT0、BPESYES0、BPESRFR0

BPE0007I *component* BEGINNING PHASE 1 OF SHUTDOWN

説明: BPE がアドレス・スペースのシャットダウンの最初のフェーズを開始しています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

component

シャットダウンされる IMS コンポーネントの名前。

システムの処置: アドレス・スペースは終了の最初のフェーズを開始し、すべての IMS コンポーネント TCB を終了します。

モジュール: BPESYTR0

BPE0008I *component* BEGINNING PHASE 2 OF SHUTDOWN

説明: BPE がアドレス・スペースのシャットダウンの 2 番目のフェーズを開始しています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

component

シャットダウンされる IMS コンポーネントの名前。

システムの処置: アドレス・スペースは終了の 2 番目のフェーズを開始し、すべての BPE システム TCB を終了します。

モジュール: BPESYTR0

BPE0009I *component* SHUTDOWN COMPLETE

説明: アドレス・スペースのシャットダウンが完了しました。BPE は z/OS に戻ります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

component

シャットダウンされる IMS コンポーネントの名前。

システムの処置: アドレス・スペースは正常に終了します。

モジュール: PESYTR0

BPE0010I PSW AND REGISTERS AT ABEND ARE NOT AVAILABLE

説明: 異常終了が発生し、BPE システム・リカバリー・ルーチン (ESTAE または FRR) が制御を受け取りました。異常終了時のプログラム状況ワード (PSW) やレジスターの内容などの診断情報は、z/OS によってリカバリー・ルーチンに提供されませんでした。

システムの処置: 診断情報がないため、BPE は限られた機能を使用して、異常終了の処理を続行します。

モジュール: BPESYES0、BPESRFR0

BPE0011E ABEND IN BPE SYSTEM ESTAE ROUTINE (BPESYES0)

説明: BPE システム ESTAE モジュールが前の異常終了の処理中に、そのモジュール自体の中で異常終了が発生しました。

システムの処置: このメッセージの後に、z/OS コンソール上での z/OS 症状メモリー・ダンプが続きます。さらに、異常終了に関して SYS1.LOGREC 項目が生成されます。BPE ESTAE モジュールは、異常終了からのリカバリーを試みてから、元の異常終了の処理を継続します。

モジュール: BPESYES0

**BPE0012E BPE ETXR UNABLE TO FIND block
BLOCK FOR TCB AT address**

説明: アドレス・スペース内のタスク制御ブロック (TCB) が終了したとき、BPE タスク終了出口ルーチン (ETXR) が呼び出されました。このルーチンはタスク終了を処理しようとしたが、必要な BPE 制御ブロックを見つけることができませんでした。この問題は、おそらく、内部制御ブロック・エラーまたはアドレス・スペース内のオーバーレイが原因です。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

block 検出できなかった BPE 制御ブロックの名前
アドレス

終了する TCB のアドレス

システムの処置: BPE は TCB のクリーンアップを試みます。しかし、必要な制御ブロックなしではクリーンアップが失敗し、アドレス・スペース内の他の TCB が終了しない可能性があります。

システム・プログラマーの応答: アドレス・スペースがハングしているように見える (処理していない、または終了しない) 場合、アドレス・スペースをメモリー・ダンプ付きで取り消し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: BPESYETO

**BPE0013E VERSION MISMATCH BETWEEN
BPE AND component
BPE MODULE VERSION IS
bver.brel.bptrel
component WAS ASSEMBLED AT BPE
VERSION pver.prel.pptrel**

説明: 示された IMS コンポーネントを構築するのに使用された BPE バージョンが、ロードされた BPE モジュールのバージョンと一致しません。この状態は、例えば、開始している IMS コンポーネントが、ある BPE バージョンでアセンブルされ、IMS.SDFSRESL には別の BPE レベルの BPE モジュールが含まれていた場合に発生します。

このメッセージには 3 つの行が含まれます。各行はメッセージ番号で始まります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

component

開始されている IMS コンポーネントの最高 4 文字までの名前

bver BPE モジュールのバージョン番号

brel BPE モジュールのリリース番号

bptrel BPE モジュールのポイント・リリース番号

pver IMS コンポーネントがアセンブルされたときの BPE マクロのバージョン番号

prel IMS コンポーネントがアセンブルされたときの BPE マクロのリリース番号

pptrel IMS コンポーネントがアセンブルされたときの BPE マクロのポイント・リリース番号

システムの処置: BPE は、初期設定の早い段階で、異常終了 3400、サブコード X'09' で異常終了します。

システム・プログラマーの応答: この問題は、おそらく、IMS.SDFSRESL のミスマッチが原因です。開始されている IMS コンポーネントが、正しいバージョンの IMS.SDFSRESL を使用しているかどうかを確認します。

モジュール: BPEINITO

関連情報:

 BPE 異常終了 3400

BPE0014E ABEND IN RECOVERY ROUTINE

説明: コードのセクションで異常終了のリカバリーを提供するのが目的である BPE リカバリー・ルーチン (BRR) 自体で異常終了が発生しました。BRR は、機能エリアを保護するために、BPE または BPE を使用する IMS コンポーネントのいずれかによって確立された内部リカバリー・ルーチンです。BRR は、z/OS ESTAE 環境または FRR 環境のいずれかで実行され、メインライン・コードで発生した異常終了からのリカバリーを試みます。

システムの処置: BPE ESTAE または FRR はこの異常終了を、リカバリー・ルーチンがリカバリー不能であると示したかのように扱い、異常終了処理を継続します。通常は、この結果、アドレス・スペースが異常終了します。ただし、異常終了が発生したときに他の BRR が確立されていれば、元の異常終了のリカバリーが引き続き行われることがあります。

システム・プログラマーの応答: メモリー・ダンプおよび SYSLOG 情報を保管してから、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: BPESYES0、BPESRFR0

**BPE0015I UNKNOWN component EXIT TYPE type
IN EXIT LIST PROCLIB MEMBER
member- IGNORED**

説明: ユーザー出口リスト PROCLIB メンバーの処理中に、BPE に定義されていないユーザー出口タイプを指定した EXITDEF ステートメントを BPE が検出しました。示されたタイプについての出口定義は無視されません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

component

処理中であったユーザー出口リスト・メンバーを所有する IMS コンポーネントの名前 (例えば、BPE、CQS、OM、RM、または SCI)。

type 未定義であった、最高 8 文字までの出口タイプ名

member

ユーザー出口リスト PROCLIB メンバー名

システムの処置: このユーザー出口定義は無視されません。ユーザー出口リスト PROCLIB メンバーの処理は続行されます。

システム・プログラマーの応答: 示されたユーザー出口リスト PROCLIB メンバーを調べて、示されたユーザー出口タイプの EXITDEF ステートメントを訂正します。

モジュール: BPEUXRF0

BPE0016I ERROR LOADING *component type*
EXIT module (service RC=rc)

説明: ユーザー出口リストの PROCLIB メンバーの処理中に、EXITDEF ステートメントで指定されたユーザー出口を BPE がロードできませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

component

処理中であったユーザー出口リスト・メンバーを所有する IMS コンポーネントの名前 (例えば、CQS、OM、RM、または SCI)。

type ロードできなかった出口の、最高 8 文字までの出口タイプ名。

module ロードできなかった出口のロード・モジュール名。

service 出口がロードされるのを妨げた、失敗したサービスの名前。失敗した可能性が最も高いサービスは、ロードするユーザー出口モジュールを探し出すために BPE が使用する z/OS サービスである BLDL です。この状態は、通常、示された出口モジュールを、BLDL がジョブの STEPLIB または JOBLIB データ・セット内で検出できなかったことを意味します。

rc 失敗したサービスからの 4 桁の 16 進戻りコード

システムの処置: このユーザー出口モジュールは無視されます。PROCLIB メンバーの処理は続行されます。このエラーが、アドレス・スペース初期設定の早い段階で、初期 PROCLIB メンバー処理で発生した場合、BPE は、異常終了 3400、サブコード 5 で異常終了します。このエラーが、REFRESH USEREXIT コマンド処理中に

発生した場合、コマンドは無視され、ユーザー出口環境は変更されません。

システム・プログラマーの応答: ユーザー出口リストについて、示された PROCLIB メンバーを調べて、示されたユーザー出口タイプおよびモジュールに関する EXITDEF ステートメントを訂正します。アドレス・スペースの初期設定中に BPE0016I メッセージが発行された場合、アドレス・スペースを再始動します。メッセージが、REFRESH USEREXIT コマンドへの応答として発行された場合、このコマンドを再発行します。

モジュール: BPEUXRF0

BPE0017I MULTIPLE *type* **STATEMENTS IN**
member PROCLIB MEMBER - LAST
WILL BE USED

説明: PROCLIB メンバーの処理中に、特定のタイプで複数のステートメントが検出されたが、そのタイプではただ 1 つのステートメントが要求されています。BPE は、重複したタイプの最後のステートメントを使用し、その他は無視されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

type 重複していたステートメントのタイプについての簡略説明。

member

PROCLIB メンバー名。

システムの処置: 処理は続行されます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

示された PROCLIB メンバーを調べて、最後のステートメントに指定された値が正しいかどうかを確認する必要があります。

モジュール: BPETRI00、BPEUXRF0、BPEDSI00

BPE0018I DUPLICATE EXIT *module* **SPECIFIED**
FOR *component type* **EXIT - IGNORED**

説明: ユーザー出口リストの PROCLIB メンバーの処理中に、EXITDEF ステートメント上の 1 つの出口リスト (EXIT パラメーター) 内に同じユーザー出口モジュールが複数回指定されていることを BPE が検出しました。モジュールの最初のインスタンスのみが有効であり、モジュールに関する後続のすべての指定は無視されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

module 複数回指定されたユーザー出口モジュールの名前。

BPE0019E • BPE0020I

component

処理中であったユーザー出口リスト・メンバーを所有する IMS コンポーネントの名前 (例えば、BPE、CQS、OM、RM、または SCI)。

type 処理中の出口の、最高 8 文字までの出口タイプ名。

システムの処置: 最初に出現した後の重複するユーザー出口は無視されます。ユーザー出口 PROCLIB の処理は続行されます。

システム・プログラマーの応答: 応答は必要ありません。ただし、EXITDEF ステートメントを調べて、指定された出口が、ご使用のシステムに応じた正しい順序でリストされているかどうかを確認する必要があります。ユーザー出口は、EXITS ステートメントにリストされている順序で呼び出されます。

モジュール: BPEUXRF0

BPE0019E *component type* **USER EXIT MODULE**
module **ABEND code**

説明: ユーザー出口モジュールの制御下で異常終了が発生しました。「制御下」とは、BPE が出口に制御を渡したことを意味します。ただし、異常終了が出口モジュール自体の中で発生しているとは限りません。このメッセージは、出口が別のモジュールを呼び出した後、そこで異常終了した場合にも発行されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

component

呼び出されたユーザー出口のタイプを所有する IMS コンポーネントの名前 (例えば、CQS、OM、RM、または SCI)。

type 異常終了した出口の、最高 8 文字までの出口タイプ名。

module 異常終了した出口のロード・モジュール名。
コード 異常終了コード。システム異常終了の場合、コードのフォーマットは Sxxx です (xxx は 3 桁の 16 進の異常終了コード)。ユーザー異常終了の場合、コードのフォーマットは Udddd です (dddd は 4 桁の 10 進の異常終了コード)。

システムの処置: BPE は、リカバリー・ルーチンを使用してすべてのユーザー出口を保護します。ユーザー出口が異常終了すると、BPE は異常終了からのリカバリーを試み、処理を続行します。リカバリー処置には次のものがあります。

- 特定のユーザー出口モジュールがロードされた後で最初に異常終了すると、BPE は SDUMP を発行して、異常終了のアドレス・スペースのダンプを取ります。最初の異常終了より後の異常終了の場合、BPE は再

びアドレス・スペースをダンプせずに、異常終了が発生するたびに SYS1.LOGREC 項目を生成します。

- 特定のユーザー出口モジュールの異常終了回数が、その出口のユーザー出口タイプの異常終了しきい値に達するかまたはそれを超えると、その出口に対するその後の呼び出しは、リフレッシュされるまで行われません。出口タイプの異常終了制限は、EXITDEF ステートメントの ABLIM パラメーターで指定されます。

ユーザー出口が異常終了すると、BPE は、EXITS 出口リスト内の障害のあった出口の後に指定されている他の出口モジュールの呼び出しを試みます。

システム・プログラマーの応答: SDUMP または SYS1.LOGREC 項目、あるいはその両方を調べて、ユーザー出口に関する問題を判別します。出口の問題を訂正し、出口をジョブのライブラリーに再バインドし、REFRESH USEREXIT コマンドを発行します。REFRESH USEREXIT コマンドは、訂正された出口のコピーをロードし、そのタイプの出口が開始されたときはいつでも BPE が出口モジュールの呼び出しを再開するようにします。

モジュール: BPEUXCLO

BPE0020I **ABEND LIMIT REACHED FOR**
component type **USER EXIT MODULE**
module

説明: 示されたユーザー出口モジュールが、EXITDEF ステートメントの ABLIM パラメーターで指定された、その出口タイプに対する異常終了制限に達しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

component

呼び出されたユーザー出口のタイプを所有する IMS コンポーネントの名前 (例えば、BPE、CQS、OM、RM、または SCI)。

type 異常終了した出口の、最高 8 文字までの出口タイプ名。

module 異常終了した出口のロード・モジュール名。

システムの処置: 示されたユーザー出口モジュールへのこれ以上の呼び出しは、この出口の次のリフレッシュまで行われません。ユーザー出口のリフレッシュにより、この出口の異常終了カウントがゼロにリセットされ、この出口が再び呼び出されるようになります。

システム・プログラマーの応答: SDUMP または SYS1.LOGREC 項目、あるいはその両方を調べて、ユーザー出口に関する問題を判別します。出口の問題を訂正し、出口をジョブのライブラリーに再バインドし、REFRESH USEREXIT コマンドを発行します。REFRESH USEREXIT コマンドは、訂正された出口のコ

ピーをロードし、そのタイプの出口が開始されたときはいつでも BPE が出口モジュールの呼び出しを再開するようにします。

モジュール: BPEUXCLO

BPE0021E ABEND code IN BPE SVC INIT
MODULE BPESVCIO, PSW=*psw1 psw2*

説明: モジュール BPESVCIO の制御下で異常終了が発生しました。モジュール BPESVCIO は、BPE SVC ルーチン (BPE および他のIMS コンポーネントによって使用される内部 SVC) を初期設定するモジュールです。BPESVCIO 処理は内部 ESTAE によって保護されます。この ESTAE は、異常終了からの再試行、および BPESVCIO が取得したグローバル・リソース (共通ストレージ、MVS エンキュー) のクリーンアップを試行します。このメッセージが発行されて、異常終了が発生したことをオペレーターに警告します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- コード 異常終了コード。システム異常終了の場合、コードのフォーマットは *Sxxx* です (*xxx* は 3 桁の 16 進の異常終了コード)。ユーザー異常終了の場合、コードのフォーマットは *Udddd* です (*dddd* は 4 桁の 10 進の異常終了コード)。
- psw1* 異常終了時の PSW (プログラム状況ワード) の最初のワード。
- psw2* 異常終了時の PSW の 2 番目のワード。

システムの処置: BPE は異常終了に関する診断データを収集してから、BPESVCIO 内のクリーンアップ・ルーチンでの実行を再開します。このルーチンは、BPESVCIO がその処理の一部として取得したグローバル・リソースの解放を試みます。ルーチンは BPESVCIO の呼び出し側に制御を戻し、呼び出し側で、処理を継続するか異常終了するかを選択できます。

BPESVCIO が最初に異常終了すると、その ESTAE はアドレス・スペースの SDUMP を作成し、SYS1.LOGREC データ・セットにレコードを書き込んで異常終了を記録します。BPESVCIO が 2 度目以降に異常終了した場合、その ESTAE は新たな SDUMP を作成しません。ただし、SYS1.LOGREC にレコードを書き込みます。

システム・プログラマーの応答: メモリー・ダンプ、SYSLOG、および SYS1.LOGREC の情報を保管し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: BPESVCIO

BPE0022E ABEND code IN BPE SVC
PROCESSING, PSW=*psw1 psw2*

説明: BPE SVC 処理中に異常終了が発生しました。BPE SVC モジュール (BPESVC00) は、その処理を保護するために ESTAE を設定します。この ESTAE は、異常終了からの再試行、および BPESVC00 が取得したグローバル・リソース (共通ストレージ、MVS エンキュー) のクリーンアップを試行します。このメッセージが発行されて、異常終了が発生したことをオペレーターに警告します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- コード 異常終了コード。システム異常終了の場合、コードのフォーマットは *Sxxx* です (*xxx* は 3 桁の 16 進の異常終了コード)。ユーザー異常終了の場合、コードのフォーマットは *Udddd* です (*dddd* は 4 桁の 10 進の異常終了コード)。
- psw1* 異常終了時の PSW (プログラム状況ワード) の最初のワード。
- psw2* 異常終了時の PSW の 2 番目のワード。

システムの処置: BPE は異常終了に関する診断データを収集してから、BPESVC00 内のクリーンアップ・ルーチンでの実行を再開します。このルーチンは、BPESVC00 がその処理の一部として取得したグローバル・リソースの解放を試み、BPESVC00 の呼び出し側に制御を戻します。呼び出し側は、処理を継続するか異常終了するかを選択できます。

BPESVC00 が最初に異常終了すると、その ESTAE はアドレス・スペースの SDUMP を作成し、SYS1.LOGREC データ・セットにレコードを書き込んで異常終了を記録します。BPESVC00 が、同じ SVC 呼び出しについて 2 度目以降に異常終了した場合、その ESTAE は新たな SDUMP を作成しません。ただし、SYS1.LOGREC にレコードを書き込みます。

システム・プログラマーの応答: メモリー・ダンプ、SYSLOG、および SYS1.LOGREC の情報を保管し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: BPESVC00

BPE0023I command COMMAND REJECTED

説明: コマンドが発行されたが、処理できませんでした。IMS コンポーネントによっては、コマンドがリジェクトされるときに、このメッセージが発行されないこともあります。BPE を使用する IMS コンポーネントでは、コマンドをリジェクトする独自のメッセージを出力することを選択し、BPE がこのメッセージを出力しないように要求することがあります。

BPE0024E • BPE0026E

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

command

リジェクトされたコマンド。入力されたコマンドが MVS STOP コマンド (P jobname) の場合は、MVS STOP がコマンドとして表示されます。その他のコマンドの場合、コマンド verb およびリソース・タイプが表示されます (例えば、UPDATE TRACETABLE または REFRESH USEREXIT)。

システムの処置: コマンドは処理されません。

モジュール: BPEMOD00、BPECMD10

BPE0024E *command* COMMAND FAILED

説明: コマンドの処理が失敗しました。IMS コンポーネントによっては、コマンドが失敗したときに、このメッセージが発行されないこともあります。BPE を使用する IMS コンポーネントでは、コマンドの失敗に関する独自のメッセージを出力することを選択し、BPE が BPE0024E メッセージを出力しないように要求することがあります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

command

失敗したコマンド。入力されたコマンドが MVS STOP コマンド (P jobname) の場合は、MVS STOP がコマンドとして表示されます。その他のコマンドの場合、コマンド verb およびリソース・タイプが表示されます (例えば、UPDATE TRACETABLE または REFRESH USEREXIT)。

システムの処置: コマンドが失敗しました。

モジュール: BPEMOD00、BPECMMD10

BPE0025I STOP OF *component* IS IN PROGRESS

説明: BPE を使用して実行中の IMS コンポーネントに対して、MVS STOP コマンドが発行されました。BPE は停止要求を処理中です。IMS コンポーネントによっては、アドレス・スペースが停止されるときに、このメッセージが発行されないこともあります。BPE を使用する IMS コンポーネントでは、独自のシャットダウン・メッセージを出力することを選択し、BPE がこのメッセージを出力しないように要求することがあります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

component

停止中の IMS コンポーネントの名前 (例えば、BPE、CQS、OM、RM、または SCI)。

システムの処置: BPE はアドレス・スペースのシャットダウンを開始します。

モジュール: BPEMOD00

BPE0026E CLEANUP FAILURE RC=*rc* RSN=*rsn* *component*

説明: BPE リソース・クリーンアップ処理中に、エラーが発生しました。一部のリソースが適切にクリーンアップされていない可能性があります。BPE サービスを使用するアドレス・スペースが終了すると、BPE は、グローバル・リソースをクリーンアップするためのリソース・マネージャー・ルーチンを確立します。リソース・マネージャーは、特定のリソースをクリーンアップできない場合、このメッセージを出力します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc 失敗したサービスからの戻りコード (該当する場合)。このコードは、障害の原因を識別するのに役立つことがあります。

rsn 失敗したサービスからの理由コード (該当する場合)。

component

クリーンアップできなかったコンポーネントまたはリソースを示す短いテキスト・ストリング。 *component* には以下のものがあります。

- **BPE SVC:** BPE SVC のクリーンアップが失敗しました。メッセージ内の戻りコードおよび理由コードは、BPE SVC EOMCLEANUP 機能からのものです。このエラーは、終了するアドレス・スペースによって登録された SVC 機能の一部が、正常に登録解除されなかった可能性があることを示します。
- **ALESERV:** 現行のアドレス・スペースの STOKEN を取得するための MVS ALESERV サービスに対する呼び出しが失敗しました。メッセージ内の戻りコードは、ALESERV マクロ呼び出しからの戻りコードです。理由コードは常にゼロです。

システムの処置: BPE リソース・クリーンアップ処理は次のリソースについて継続し、アドレス・スペースは終了します。

ユーザーの処置: クリーンアップ障害の原因によっては、BPE が SDUMP を作成していた可能性があります。作成していた場合は、メモリー・ダンプ、SYSLOG、および SYS1.LOGREC の情報を保管し、

IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。
BPE が SDUMP を作成しなかった場合、BPE0026E メッセージから戻りコード、理由コード、およびコンポーネントを入手して、これらの情報を IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: BPERSM00

BPE0027E ABEND code IN BPE RESMGR PROCESSING, PSW=*psw1 psw2*

説明: BPE サービスを使用して実行しているアドレス・スペースの終了中、BPE リソース・マネージャーの処理で異常終了が発生しました。BPE リソース・マネージャー・モジュール (BPERSM00) は、その処理を保護するために ESTAE を設定します。この ESTAE は、異常終了からの再試行、およびグローバル・リソースのクリーンアップの継続を試行します。このメッセージが発行されて、異常終了が発生したことをオペレーターに警告します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

コード 異常終了コード。システム異常終了の場合、コードのフォーマットは *Sxxx* です (*xxx* は 3 桁の 16 進の異常終了コード)。ユーザー異常終了の場合、コードのフォーマットは *Udddd* です (*dddd* は 4 桁の 10 進の異常終了コード)。
psw1 異常終了時の PSW (プログラム状況ワード) の最初のワード。
psw2 異常終了時の PSW の 2 番目のワード。

システムの処置: BPE は、異常終了に関する診断データを収集してから、メイン BPERSM00 ルーチンで実行を再開します。このルーチンは、異常終了が発生したときに処理中だったリソースの後の次のリソースに対してクリーンアップの続行を試みます。

BPERSM00 が最初に異常終了すると、その ESTAE はアドレス・スペースの SDUMP を作成し、SYS1.LOGREC データ・セットにレコードを書き込んで異常終了を記録します。BPERSM00 が 2 度目以降に異常終了した場合、その ESTAE は新たな SDUMP を作成しません。ただし、SYS1.LOGREC にレコードを書き込みます。

システム・プログラマーの応答: メモリー・ダンプ、SYSLOG、および SYS1.LOGREC の情報を保管し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: BPERSM00

BPE0028I SDUMP FAILED FOR *abend* ABEND, RC=*rc*, RSN=*rsn*

説明: BPE が、異常終了後にアドレス・スペースのメモリー・ダンプを生成するために、z/OS に対して SDUMP 呼び出しを発行しましたが、SDUMP が正常に実行されませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

abend ストレージ・ダンプが作成された対象の異常終了コード。システム異常終了の場合、コードのフォーマットは *Sxxx* です (*xxx* は 3 桁の 16 進の異常終了コード)。ユーザー異常終了の場合、コードのフォーマットは *Udddd* です (*dddd* は 4 桁の 10 進の異常終了コード)。
rc MVS SDUMP マクロからの戻りコード。
rsn MVS SDUMP マクロからの理由コード。

システムの処置: SDUMP はスキップされます。

システム・プログラマーの応答: MVS SDUMP マクロからの戻りコードおよび理由コードを使用して、SDUMP 障害の原因を判別します。可能であれば、将来のメモリー・ダンプが逸失しないように、障害の原因を訂正します。

モジュール:

BPEINIT0, BPERSM00, BPESVC10, BPESVC00, BPESYES0, BPESRFR0

関連資料:

 z/OS: SDUMP の戻りコードおよび理由コード

BPE0029I DAE SUPPRESSED DUMP FOR *abend* ABEND

説明: BPE が、異常終了後にアドレス・スペースのメモリー・ダンプを生成するために、z/OS に対して SDUMP 呼び出しを発行しましたが、SDUMP は z/OS ダンプ分析重複回避機能 (DAE) によって抑止されました。

BPE リカバリー・ルーチンは、異常終了に関連する症状ストリング・データを収集し、SDUMP が要求されたときにこのデータを z/OS に提供します。DAE が使用可能な場合、z/OS は重複したメモリー・ダンプ、例えば、直前に収集されたメモリー・ダンプとまったく同じ症状ストリングを持つダンプを抑止します。DAE は、MVS ADYSETxx PARMLIB メンバーおよび MVS SET DAE コマンドを介して制御されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

abend ストレージ・ダンプが作成された対象の異常終了コード。システム異常終了の場合、コードの

BPE0030I • BPE0033E

フォーマットは Sxxx です (xxx は 3 桁の 16 進の異常終了コード)。ユーザー異常終了の場合、コードのフォーマットは Udddd です (dddd は 4 桁の 10 進の異常終了コード)。

システムの処置: SDUMP はスキップされます。BPE で生成されるメモリー・ダンプは、症状ストリングが直前のダンプと一致し、ADYSETxx での現行の DAE 設定が SUPPRESS または SUPPRESSALL のいずれかであれば抑止されます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール:

BPEINIT0, BPERSM00, BPESVC10, BPESVC00, BPESYES0, BPESEFR0

関連資料:

 z/OS: ADYSETxx のステートメント/パラメーター

BPE0030I *displayheader*

説明: このメッセージは、BPE リソースに対する DISPLAY コマンドによって生成されたヘッダー行 (複数の場合もあり) を表示します。

メッセージ・テキスト内で、*displayheader* は、DISPLAY コマンドからの出力に関連する、1 行以上のヘッダー情報です。

BPE0031E *verb* COMMAND IS INVALID

または

*verb resource*type **COMMAND IS INVALID**

説明: BPE で認識しないコマンドが発行されました。有効なコマンド *verb* を入力した場合でも、必要なリソース・タイプを省略するか、またはその *verb* に適用できないリソース・タイプを指定すると、このメッセージが生成されます。例えば、DISPLAY NAME(DISP) を入力した場合、次のエラー・メッセージが返されます。

BPE0031E DISPLAY COMMAND IS INVALID

DISPLAY コマンドには操作の対象のリソース・タイプが必要なため、このエラーが発生します。

同様に、REFRESH TRACETABLE NAME(AWE) を入力した場合は、次のエラー・メッセージが返されます。

BPE0031E REFRESH TRACETABLE COMMAND IS INVALID

REFRESH コマンドは、TRACETABLE リソース・タイプではなく、USEREXIT リソース・タイプに適用されるため、このエラーが発生します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

verb 発行されたコマンドからのコマンド *verb*。
*resource*type

もしあれば、発行されたコマンドからのリソース・タイプ。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

システム・プログラマーの応答: 正しい *verb*、あるいは *verb* とリソース・タイプを使用してコマンドを再入力します。

モジュール: BPECMD00, BPECMD10

BPE0032I *verb* COMMAND COMPLETED

または

*verb resource*type **COMMAND COMPLETED**

説明: コマンドが処理を完了しました。このメッセージは、次の 2 つのケースで発行されます。

- DISPLAY コマンドのように、可変の行数の出力を生成するコマンドの場合。このメッセージはコマンド出力の終わりを示します。
- 他のメッセージを生成しないコマンドの場合。このメッセージは、コマンド処理が完了したというフィードバックを示します。

単一の応答行またはエラー・メッセージ行などの、固定の行数の出力をコマンドが生成する場合、このメッセージは出力されません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

verb 発行されたコマンドからのコマンド *verb*。
*resource*type

もしあれば、発行されたコマンドからのリソース・タイプ。

システムの処置: 処理は続行されます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: BPECMD10

BPE0033E MISSING COMMAND VERB

説明: コマンド・ストリングの最初のワードである、コマンド *verb* が欠落したコマンドが入力されました。*keyword(value)* パラメーターのみからなるコマンドを入力した場合のみ、このメッセージを受け取ります。例えば、NAME(DISP) OWNER(BPE) を入力すると、このメッセージが発行されます。このコマンドには、キーワ

ード以外の、コマンド `verb` として機能するパラメーターがありません。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

システム・プログラマーの応答: 有効なコマンド `verb` を指定してコマンドを再入力します。

モジュール: BPECMD00

BPE0034E NO MATCH FOUND FOR *resourcetype* WITH NAME *name*

説明: コマンドの `NAME` パラメーター上の名前またはワイルドカード・パターンが、要求されたリソース・タイプのどのインスタンスとも一致しませんでした。例えば、コマンド `DISPLAY TRACETABLE NAME(ZZZZ,QQ*)` は以下の応答を生成します。

```
BPE0034E NO MATCH FOUND FOR TRACETABLE
WITH NAME "ZZZZ"
```

```
BPE0034E NO MATCH FOUND FOR TRACETABLE
WITH NAME "QQ*"
```

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

resourcetype

コマンドで指定されたリソース・タイプ。

名前 そのリソース・タイプのどのインスタンスとも一致しなかった、`NAME` パラメーターに指定された名前またはワイルドカード・パターン。

システムの処置: コマンドの `NAME` パラメーターにリストされた名前の一部が既存のリソース・インスタンスと一致した場合、コマンドはそれらのインスタンスを処理します。 `NAME` パラメーターにリストされたどの名前も既存のリソース・インスタンスと一致しない場合、コマンドは無視されます。

システム・プログラマーの応答: 適切なリソース・タイプ名を指定してコマンドを再入力します。

モジュール: BPECTRA0、BPECURF0

BPE0035E INVALID VALUE "*value*" FOR KEYWORD *keyword*

説明: 示されたキーワードに指定された値が無効でした。例えば、コマンド `UPDATE TRACETABLE NAME(DISP) OWNER(ABCD) LEVEL(GROUND)` は以下の応答を生成します。

```
BPE0035E INVALID VALUE "ABCD" FOR KEYWORD OWNER
BPE0035E INVALID VALUE "GROUND" FOR KEYWORD LEVEL
```

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

value エラーのあるキーワード・パラメーター値

keyword

値がエラーであるキーワード

システムの処置: コマンドは、無視されます。

システム・プログラマーの応答: 示されたキーワードに適切な値を指定してコマンドを再入力します。

モジュール: BPECTRA0、BPECURF0

BPE0036E INTERNAL COMMAND PROCESSING ERROR, *service* RC=*rc*

説明: コマンド処理中に、BPE で内部エラーが発生しました。障害の詳細については、BPE サービス戻りコード情報内に *service* および *rc* で示されているサービス戻りコードを参照してください。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

service コマンドが処理されるのを妨げた、失敗したサービスの名前。

rc 失敗したサービス呼び出しからの戻りコード。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

システム・プログラマーの応答: このメッセージを出力する一部の内部エラーは、一時的なストレージ不足などの、一時的な状態が原因である可能性があります。他のエラーは、製品コード内の論理エラーの可能性を示します。コマンドを再入力して、エラーが再発するかどうかを調べます。再発する場合、コマンド入力の直後にアドレス・スペースのコンソール・メモリー・ダンプを実行してから、IBM サポートに連絡してください。問題の解決に必要なトレース情報を確実に使用可能にするために、`CMD`、`SSRV`、`STG`、`DISP` の BPE トレースを `LEVEL(HIGH)` でオンにします。

モジュール: BPECMD00、BPECMD10、BPECTRA0、BPECURF0

関連資料:



BPE サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

BPE0037E UNABLE TO START BPE: *details*

説明: BPE アドレス・スペース始動モジュール (BPEINI00 または BPEINIT0) がエラーを検出したため、BPE アドレス・スペースを始動できません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

details アドレス・スペースの開始を妨げている問題の記述。 *details* は、次の状態のいずれかです。

NOT APF AUTHORIZED

開始されるアドレス・スペースが、

APF 許可ではありません。BPE および IMS コンポーネントのモジュールはすべて、APF 許可データ・セット内になければなりません。また、モジュール BPEINI00 は、許可コード 1、つまり SETCODE AC(1) でバインドされている必要があります。

NOT RUNNING IN KEY 7

BPE 初期設定がキー 7 以外のキーで制御を受け取りました。BPE はキー 7 で実行する必要があります。アドレス・スペースの JCL EXEC ステートメントの PGM= パラメーターで指定されたモジュールが、MVS PPT に正しく追加され、KEY(7) を指定していることを確認します。

BPEINIT= PARM MISSING OR INVALID

モジュール BPEINI00 が、BPEINIT= キーワードを JCL 始動パラメーター (PARM=) 内で検出できなかったか、あるいは指定したモジュール名が欠落しているか無効です。BPEINIT= パラメーターは必須であり、BPE 始動パラメーター・モジュールの名前を指定します。パラメーター・モジュールは、開始する IMS、開始する IMS コンポーネント・アドレス・スペースのタイプを定義します。

ERROR LOADING BPEINIT= MODULE

module JCL 始動パラメーター (PARM=) の BPEINIT= キーワードで指定されたモジュールをロードできません。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

module BPEINIT= キーワードで指定されていたが、ロードできなかったモジュールの名前。

BPEINIT= MODULE *module* LINKED AS REENTRANT

JCL 始動パラメーター (PARM=) の BPEINIT= キーワードで指定されたモジュールは、キー 0 のストレージにロードされました。この状態は、モジュールが再入可能としてバインドされていたために発生したと考えられます。このモジュールは、再入不可としてバインドする必要があります。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

module BPEINIT= キーワードで指定

されており、再入可能としてリンクされたモジュールの名前。

MISSING OR INVALID PARMS IN

BPEINIT= MODULE *module*

BPEINI00 モジュールは、JCL 始動パラメーターの BPEINIT= キーワードで指定されたモジュール内で、妥当な始動パラメーター・データ域 (UCDB ブロック) を検出することができませんでした。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

module BPEINIT= キーワードで指定されたモジュール名。

UNABLE TO GET STORAGE FOR COPY OF MVS PARAMETERS

BPEINI00 モジュールは、z/OS 入力パラメーターのコピー用ストレージを獲得できませんでした。

UNKNOWN ERROR

BPEINI00 モジュールが不明なエラーを検出しました。

システムの処置: 始動中のアドレス・スペースは、BPE 異常終了 3401 または 3403 のいずれかで異常終了します。

オペレーターの応答: このメッセージで説明されているエラーの原因が環境条件である場合 (例えば、不適切な許可または無効なパラメーターなど)、示された問題を訂正してから、アドレス・スペースを再始動します。そうでなければ、ジョブ・ログおよびシステム・ログ情報を保管し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: BPEINI00、BPEINIT0

関連情報:

➡ BPE 異常終了 3401

➡ BPE 異常終了 3403

BPE0038E BPE STACK MANAGER INTERNAL ERROR

説明: BPE スタック・ストレージ・マネージャーが、新しいスタック・ブロック用のストレージを取得できませんでした。

システムの処置: BPE スタック・ストレージ・マネージャーは、この状態が初めて発生したときに SDUMP を発行して、問題についての診断データを収集します。次に、スタック・マネージャーは、スタック・ブロックが別のスレッドによって最終的に解放されるまで、呼び出し側を中断します。

システム・プログラマーの応答: アドレス・スペース内のスタック・ストレージの内部要求を満たすにはストレージが不足している場合、このメッセージが発行されます。BPE は、ストレージが使用可能になるまで、追加のスタック・ストレージを要求している作業単位を中断します。ただし、この中断により、このアドレス・スペース内で実行しているプロダクトに関して、機能の縮小およびパフォーマンスの低下を招くことがあります。できるだけ早く、このアドレス・スペースについて、使用可能な領域サイズを増やし、シャットダウンし、再始動する必要があります。このメッセージが継続して出力される場合、BPE によって生成される SDUMP を保管してから、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: BPESTKM0

BPE0039E BPE STACK MANAGER MULTIPLE INTERNAL ERRORS

説明: BPE スタック・ストレージ・マネージャーが、新しいスタック・ブロック用のストレージを取得できない複数のケースを検出しました。

システムの処置: BPE スタック・ストレージ・マネージャーは、必要に応じて新しいスタック・ブロックを取得できなかった最初の時に、メッセージ BPE0038E を出力します。後続の障害では、追加の BPE0038E メッセージは生成されません。ただし、スタック・マネージャーがストレージを獲得できない事態が繰り返される場合、最終的にこのメッセージが出力されます。このメッセージは、ストレージ問題がおそらく慢性的なものであること、およびストレージ不足を解決するために速やかに処置を取るべきであることを示しています。このメッセージの出力の他に、障害が繰り返された後で追加の診断ステップを収集するために、BPE は 2 番目の SDUMP も作成します。

システム・プログラマーの応答: このメッセージは、ストレージの取得に繰り返し失敗した後で、BPE スタック・マネージャーによって発行されます。この時点で、アドレス・スペースが十分に機能する見込みはありません。このアドレス・スペースについて、使用可能な領域サイズを増やし、シャットダウンし、再始動する必要があります。このメッセージが継続して出力される場合、BPE によって生成される SDUMP を保管してから、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: BPESTKM0

関連情報:

 BPE0038E (メッセージおよびコード)

BPE0040E DYN *type* FAILED FOR *dstype*,
RC=*rclrsn*
DSN=*dsn*

説明: データ・セットの動的割り振りまたは動的割り振り解除が失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

type 失敗したサービスのタイプ。

- 動的割り振りの場合は ALLOC
- 動的割り振り解除の場合は UNALLOC

dstype BPE が割り振りまたは割り振り解除できなかったデータ・セットのタイプまたはデータ・セットの DD 名。

rc MVS DYNALLOC 呼び出しからの戻りコード。

rsn MVS DYNALLOC 呼び出しからの理由コード。

dsn BPE が割り振りまたは割り振り解除を試みていたデータ・セットの名前。

システムの処置: BPE 動的割り振りサービスは、呼び出し元に制御を戻します。呼び出し元は障害に基づいて、追加メッセージの発行または異常終了などの、追加処置をとることがあります。

システム・プログラマーの応答: 動的割り振りまたは割り振り解除に失敗したデータ・セットの状態を分析してください。データ・セットは、カタログ式でなければなりません。動的割り振りまたは割り振り解除の戻りコードおよび理由コードについては、「z/OS MVS Programming Authorized Assembler Services Guide」(SA22-7608) を参照してください。

モジュール: BPEDYA00

関連資料:

 z/OS: DYNALLOC からのエラー理由コードの解釈

BPE0041E UNABLE TO ALLOCATE REQUESTED STORAGE

説明: BPE ストレージ割り振りサービス BPEGETM が、呼び出し側によって要求されたストレージを割り振れませんでした。このメッセージは、BPEGETM がストレージを取得できなかった最初の時のみ発行されます。

システムの処置: BPEGETM は、呼び出し側にエラー戻りコードを戻します。

システム・プログラマーの応答: このメッセージの発行を導いたストレージ不足は、アドレス・スペースの領域サイズを小さく設定し過ぎたことが原因である可能性があります。アドレス・スペースの JCL の REGION= パ

BPE0042E • BPE0043E

ラメーターを変更して領域サイズを増やしてから、アドレス・スペースを再始動します。

問題が解決しない場合には、メモリー・ダンプをすべて保管してから、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。メモリーダンプが生成されない場合、このメッセージが発行される原因となっているアドレス・スペースのコンソールのメモリー・ダンプを作成します。

モジュール: BPESTG00

BPE0042E ERROR INITIALIZING BPE LIMITED FUNCTION SERVICES: details

説明: BPE 限定機能サービス (LFS) の初期設定が失敗しました。BPE LFS は、他の場合に BPE サービスを使用しない特定のアドレス・スペース (IMS 制御領域など) で使用されます。LFS 環境を正常に初期設定できない場合、BPE はこのメッセージを発行してエラーを文書化します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

details 検出されたエラーのタイプ。

BPE0042E メッセージの *details* 部分は、検出されたエラーの詳細を説明するもので、次のいずれかになります。

UNABLE TO GET STORAGE

STORAGE OBTAIN 呼び出しが、BPE LFS 環境の初期設定に必要なストレージの獲得に失敗しました。

UNABLE TO LOAD BPEZLFS0

BPE はメイン BPE LFS モジュール BPEZLFS0 をロードできませんでした。

INVALID BPEZLFS0 VECTOR TABLE

モジュール BPEZLFS0 の先頭のベクトル・テーブルが無効でした。このテーブルは、BPEZLFS0 ロード・モジュール内に含まれるすべての機能ルーチンを見つけるために使用されます。このテーブルの処理中に、BPE は無効な項目を検出しました。

UNABLE TO CREATE NAME-TOKEN

BPE は、後で BPE LFS によって使用される z/OS 名前トークンを作成しようとして、この作成呼び出しが失敗しました。

UNKNOWN ERROR

BPE LFS 初期設定中に予期しないエラーが発生しました。

システムの処置: BPE LFS 初期設定が失敗し、非ゼロの戻りコードが呼び出し元に戻されます。BPE LFS サ

ービスは使用できません。呼び出し元が IMS 制御領域である場合は、IMS 初期設定が失敗します。IMS はメッセージ DFS2930I を出し、続いて異常終了 0071 を出します。

システム・プログラマーの応答: このメッセージの中で記述されているエラーの原因が環境条件 (例えば、ストレージの不足や IMS.SDFSRESL からのモジュールの欠落など) にある場合は、示された問題を訂正してアドレス・スペースを再始動してください。それ以外の場合は、メモリー・ダンプおよび SYSLOG 情報を保管してから、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: BPEZINIO

関連情報:

➡ DFS2930I (メッセージおよびコード)

➡ IMS 異常終了 0071

BPE0043E ERROR DURING EXTERNAL TRACE PROCESSING IN MODULE *module* BPE0043E details

説明: 外部トレース処理中にエラーが発生しました。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

module エラーを検出したモジュール

details *details* 行では、検出されたエラーをさらに詳しく説明します。*details* は次のいずれかです。

UNABLE TO OBTAIN *type* STORAGE

IMS システム・プログラマーに連絡してください。

UNABLE TO ENQUEUE AN AWE TO START EXTERNAL TRACE

IMS システム・プログラマーに連絡してください。

UNABLE TO ENQUEUE AN AWE TO STOP EXTERNAL TRACE

IMS システム・プログラマーに連絡してください。

EXTTRACE PARM NOT DEFINED IN BPE CONFIG PARM MBR

BPE 構成パラメーター・メンバー (BPECFG=) で EXTTRACE パラメーターを定義し、アドレス・スペースの立ち上げを再試行します。

UNIT() SPECIFIED WITHOUT VOLSER() ON EXTTRACE PARAMETER

BPE 構成パラメーター・メンバー (BPECFG=) の EXTTRACE パラメーターを変更して、UNIT() と VOLSER() の両方を組み込みます。

VOLSER() SPECIFIED WITHOUT UNIT() ON EXTTRACE PARAMETER

BPE 構成パラメーター・メンバー (BPECFG=) の EXTTRACE パラメーターを変更して、UNIT() と VOLSER() の両方を組み込みます。

STORCLAS() AND UNIT/VOL SPECIFIED ON EXTTRACE PARAMETER

BPE 構成パラメーター・メンバー (BPECFG=) の EXTTRACE パラメーターを変更して、UNIT()/VOLSER() の組み合わせか STORCLAS() のどちらかを組み込みます。

SPACEUNIT() AND AVGREC() SPECIFIED ON EXTTRACE PARAMETER

BPE 構成パラメーター・メンバー (BPECFG=) の EXTTRACE パラメーターを変更して、SPACEUNIT または AVGREC のどちらかを組み込みます。

UNABLE TO LOAD DYNAMIC ALLOCATION MODULE

IMS システム・プログラマーに連絡してください。

UNABLE TO ALLOCATE EXTERNAL TRACE DATA SET

IMS システム・プログラマーに連絡してください。

UNABLE TO OPEN EXTERNAL TRACE DATA SET

IMS システム・プログラマーに連絡してください。

INVALID EXTERNAL TRACE DATA SET attr DCB ATTRIBUTE

IMS システム・プログラマーに連絡してください。

UNABLE TO CALCULATE EXTERNAL TRACE DATA SET TRACK SPACE

IMS システム・プログラマーに連絡してください。

UNABLE TO ALLOCATE EXTERNAL TRACE DATA SET COPY BUFFERS

IMS システム・プログラマーに連絡してください。

UNABLE TO FREE EXTERNAL TRACE DATA SET COPY BUFFER

IMS システム・プログラマーに連絡してください。

ENCOUNTERED EXTERNAL TRACE DATA SET action I/O ERROR

IMS システム・プログラマーに連絡してください。

ENCOUNTERED ERROR DURING EXTERNAL TRACE DATA SET SWITCH

IMS システム・プログラマーに連絡してください。

ENCOUNTERED INVALID EXTERNAL TRACE DATA SET COPY BUFFER

IMS システム・プログラマーに連絡してください。

UNABLE TO CLOSE EXTERNAL TRACE DATA SET

IMS システム・プログラマーに連絡してください。

INTERNAL PROCESSING ERROR, service RC=rc

テキストに含まれている *service* によって示される、BPE 内の内部エラー。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

service エラー戻りコードを戻す BPE 内部サービス。

rc 失敗した BPE 内部サービスからの戻りコード。

EXTERNAL PROCESSING ERROR, service RC=rc/rsn

テキストに含まれている *service* によって示される、外部エラーが検出されました。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

service 外部サービスの名前。

rc 失敗したサービスによって戻された戻りコード。

rsn 失敗したサービスによって戻された理由コード (提供される場合)。

システムの処置: BPE 外部トレース機能が使用できなくなりました。

システム・プログラマーの応答: このメッセージの前に、エラーの理由をさらに説明するメッセージが出力されることがあります。このような説明的なメッセージについては、障害のあったジョブからのジョブ・ログ出力を参照してください。

問題についての環境上の原因を判別して訂正することができない場合、ストレージ・メモリー・ダンプおよび SYSLOG 情報を保管します。その上で IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: BPETRBG0、BPETRFO0、BPETROC0

BPE0044I BPE EXTERNAL TRACE FUNCTION NOT ACTIVE

説明: 外部トレース処理中にエラーが発生し、外部トレース機能がアクティブでなくなりました。このメッセージは、BPE UPDATE TRTAB コマンドを使用して外部トレース機能が停止される場合も発行されます。

システムの処置: BPE 外部トレース機能が使用できなくなりました。

システム・プログラマーの応答: このメッセージの前に、エラーの理由をさらに説明するメッセージが出力されることがあります。このような説明的なメッセージについては、障害のあったジョブからのジョブ・ログ出力を参照してください。

UPD TRTABLE コマンドを発行して外部トレース機能を再始動します。

問題についての環境上の原因を判別して訂正することができない場合、ストレージ・メモリー・ダンプおよび SYSLOG 情報を保管してから、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: BPETRF00、BPEXXTF0

BPE0045E BPE ver.rel REQUIRES facility

説明: BPE が、使用不可であったシステム機能を必要としていたため、BPE を使用するアドレス・スペースを開始できませんでした。BPE の開始を妨げる機能には、ハードウェア (特定のハードウェア・レベルまたは機能がないものを含む)、およびソフトウェア (必要なソフトウェア・コンポーネントがインストールされていないか、正しいレベルでないものを含む) が含まれる場合があります。

メッセージ・テキスト内の情報は次のとおりです。

ver.rel BPE の内部バージョンおよびリリース・レベル。例えば、1.6 は、IMS V10 の内部 BPE バージョンおよびリリースです。

facility BPE が必要としたにもかかわらず、使用不可であった機能。facility の値は、次のいずれかです。

Z/ARCHITECTURE MODE

BPE 1.6 以降は、z/Architecture[®] モードで稼働しているプロセッサでのみ実行できます。ESA およびそれ以下はサポートされなくなりました。

z/Architecture モードで z/OS システムを再 IPL するか、z/Architecture モードで稼働している別のマシンに、開始しようとしているアドレス・スペースを移動する必要があります。

64-BIT VIRTUAL SUPPORT

BPE 1.6 以降は、64 ビット仮想ストレージをサポートする z/OS リリースの下でのみ実行できます。このメッセージを受け取る場合、64 ビット仮想ストレージを許可しない、サポートされていない z/OS レベルで BPE を実行しています。ご使用の z/OS を、現行リリースの BPE に対する最小レベルにアップグレードする必要があります。サポートされる z/OS の最小リリースについては、ソフトウェア要件 (リリース計画) を参照してください。

SYSTEM Z10 OR HIGHER

BPE 2.1 以降は、System z10[®] プロセッサ (マシン・タイプ 2097) 以上でのみ実行できます。サポートされるプロセッサの完全なリストについては、「IMS V15 リリース計画」を参照してください。

システムの処置: アドレス・スペースは異常終了 3400 で終了します。

システム・プログラマーの応答: 示された機能を、BPE アドレス・スペースを実行するマシンで使用可能にします。あるいは、示された機能を持つ別のマシンで BPE アドレス・スペースを実行します。

モジュール: BPEINIT0

関連資料:

➡ プロセッサ要件 (リリース計画)

関連情報:

➡ 3400 (メッセージおよびコード)

BPE0046I EXTERNAL TRACE DATA SET dsn OPENED (or CLOSED) ON VOL vol

説明: *dsn* によって示される BPE 外部トレース・データ・セットがオープンまたはクローズされました。

システムの処置: 外部トレース・データ・セットがオープンされるのは、現行のデータ・セットが満杯になる場合、または外部トレース機能が開始される場合です。外部データ・セットがクローズされるのは、そのデータ・セットが満杯になる場合、または外部トレース機能が停止される場合です。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: BPETROC0

**BPE0047E ERROR DURING UPDATE
TRACETABLE REREAD PROCESSING
details**

説明: UPDATE TRACETABLE コマンドの OPTION(REREAD) オプションの処理時にエラーが発生しました。この UPDATE コマンドは処理されません。

このメッセージの *details* は、検出されたエラーに関する詳細情報を提供し、次のいずれかになります。

UNABLE TO GET NECESSARY STORAGE

BPE は、EXTTRACE パラメーターの更新値を取得しようとしたときに、BPE 構成 PROCLIB メンバーの再処理に必要なストレージを取得できませんでした。

ERROR READING BPE CONFIGURATION

PROCLIB MEMBER *member*

BPE 構成 PROCLIB メンバーの読み取りでエラーが発生しました。このメッセージには、エラーの詳細情報を提供するメッセージ BPE0002E が先行します。*details* テキストの *member* は、読み取ることができなかった BPE 構成 PROCLIB メンバーの名前を識別します。

ERROR PARSING BPE CONFIGURATION

PROCLIB MEMBER *membername*

BPE 構成 PROCLIB メンバーの構文解析でエラーが発生しました。この原因が構文解析中のデータ内の構文エラーである場合、このメッセージには、エラーを記述するメッセージ BPE0003E が先行します。*details* テキストの *membername* は、構文解析できなかった BPE 構成 PROCLIB メンバーの名前を識別します。

**UNKNOWN ERROR *rc* FROM PARSING
MODULE BPEPCF10**

モジュール BPEPCF10 は、UPDATE TRACETABLE コマンド・プロセッサに、予期しない戻りコードを戻しました。BPEPCF10 は、BPE 構成 PROCLIB メンバーを読み取り、構文解析するモジュールです。*details* テキスト内の *rc* は、モジュール BPEPCF10 からの不明な戻りコードです。

LOAD FAILED FOR BPEPCF10, BPELOADC

RC=*rc* モジュール BPEPCF10 をロードできませんでした。BPEPCF10 は、BPE 構成 PROCLIB メンバーを読み取り、構文解析するモジュールです。*details* テキスト内の *rc* は、BPEPCF10 のロードと呼び出しに使用される BPELOADC サービスからの戻りコードです。

**BPE CONFIG PROCLIB MEMBER NAME WAS
NOT CODED ON STARTUP PARMS**

アドレス・スペースの始動パラメーターでメンバー名が指定されなかったため、BPE 構成

PROCLIB メンバーを再読み取りすることができませんでした。ジョブ・パラメーターに BPECFG= パラメーターを含める必要があります。また、UPDATE TRACETABLE コマンドで使用可能であるように、OPTION(REREAD) パラメーターに有効な BPE 構成 PROCLIB メンバー名を指定する必要があります。

OPTION(REREAD) は、アドレス・スペースのこの実行には適用されません。

**PREVIOUS UPDATE COMMAND REREAD
PROCESSING IN PROGRESS**

前の UPDATE TRACETABLE コマンドで OPTION(REREAD) が指定されました。この前の UPDATE コマンドに対する EXTTRACE ステートメントの再処理がまだ完了していません。最初のコマンドの処理が完了するまで、OPTION(REREAD) を指定した 2 番目の UPDATE TRACETABLE コマンドを処理できません。

**NO MATCHING EXTTRACE STATEMENT
FOUND FOR ADDRESS SPACE**

BPE 構成 PROCLIB メンバーに、このアドレス・スペースに適用される EXTTRACE ステートメントが含まれていませんでした。適用するには、EXTTRACE ステートメントに、現行のアドレス・スペースにコンポーネント・タイプを指定する COMP= パラメーターが含まれていなければなりません。そうでない場合は、COMP= パラメーターを指定してはなりません(その結果、EXTTRACE ステートメントはすべてのアドレス・スペースに適用されます)。

システムの処置: UPDATE TRACETABLE コマンドが失敗し、トレース・テーブルの設定には変更が加えられません。

システム・プログラマーの応答: 訂正可能なエラー (例えば、構文解析エラー、誤ったパラメーター、誤って名前が指定された PROCLIB メンバー) の場合、エラーを訂正し、UPDATE TRACETABLE コマンドを再発行します。

メッセージ BPE0047E を出力する一部の内部エラーは、一時的なストレージ不足などの、一時的な状態が原因である可能性があります。コマンドを再入力して、エラーが再発するかどうかを確認してください。再発する場合、コマンド入力の直後にアドレス・スペースのコンソール・メモリー・ダンプを実行してから、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。問題の解決に必要なトレース情報を確実に使用可能にするために、CMD、SSRV、STG、DISP の BPE トレースを LEVEL(HIGH) でオンにします。

モジュール: BPECTRA0

**BPE0048E ABEND IN BPE SYSTEM FRR
ROUTINE (BPESRFR0)**

説明: BPE システム FRR モジュールが前の異常終了の処理しているときに、そのモジュールで異常終了が発生しました。

システムの処置: このメッセージの後に、z/OS コンソール上での z/OS システム・ダンプが続きます。さらに、異常終了に関して SYS1.LOGREC 項目が生成されます。BPE FRR モジュールは、異常終了からのリカバリーを試みてから、元の異常終了の処理を続行します。

システム・プログラマーの応答: ダンプおよび SYSLOG 情報を保管してから、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: BPESRFR0

**BPE0049I BPE IS TERMINATING ALL
BPE-MANAGED SRBS**

説明: BPE アドレス・スペースの異常終了時に、BPE はアドレス・スペースの強制終了を続行する前に、BPE が管理するすべての SRB に対して終了するように要求します。この通知メッセージは、BPE が SRB の終了プロセスを開始したことを示しています。

システムの処置: このメッセージを発行した後、BPE は、すべての BPE 管理 SRB を終了します。

システム・プログラマーの応答: 処置は必要ありません。

モジュール: BPESRPG0

BPE0050I BPE SRB TERMINATION COMPLETE

説明: BPE アドレス・スペースの異常終了時に、BPE はアドレス・スペースの強制終了を続行する前に、BPE が管理するすべての SRB に対して終了するように要求します。この通知メッセージは、BPE が SRB の終了を完了したことを示しています。

システムの処置: このメッセージを発行した後、BPE は、アドレス・スペースの異常終了を続行します。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: BPESRPG0

**BPE0051E SRB TYPE *type* IS BEING
ABNORMALLY TERMINATED -
DIAG *diag1 diag2***

説明: BPE アドレス・スペースの異常終了時に、BPE はアドレス・スペースの強制終了を続行する前に、BPE

が管理するすべての SRB に対して終了するように要求します。しかし、1 つ以上の SRB が終了しませんでした。BPE は、異常終了を続行する前に、それらの SRB を ABENDU3405 で異常終了します。BPE は、正常に終了しない各 SRB に対して BPE0051E メッセージを出した後で、その SRB を ABENDU3405 で異常終了します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

type 終了中の SRB の 4 文字のタイプ。

diag1 異常終了中の SRB を表す、内部 BPE TCBT 制御ブロックのアドレス。このデータと *diag2* のデータが診断情報であり、IBM ソフトウェア・サポートによる問題判別に役立つ可能性があります。

diag2 異常終了中の SRB を表す、内部 BPE TCBT 制御ブロックおよび DWA 制御ブロックからの 4 つのフラグ・バイト。この値の最初の 2 バイトは、BPE TCBT ブロックからのフラグ TCBT_FLG と TCBT_FLG2 です。この値の 2 番目の 2 バイトは、BPE DWA ブロックからのフラグ DWA_FLG1 と DWA_FLG2 です。このデータと *diag1* のデータが診断情報であり、IBM ソフトウェア・サポートによる問題判別に役立つ可能性があります。

システムの処置: このメッセージを出した後、BPE は示された SRB を ABENDU3405 理由コード X'01' で異常終了します。

システム・プログラマーの応答: すべてのダンプ、ジョブ・ログ、およびコンソール・ログを保管して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: BPESRPG0

**BPE0052E BPE SRB FRR WAS ENTERED
HOLDING A CPU LOCK**

ABEND *abendcode* **RSN** *reasoncode* **PSW** *psw1 psw2*
DIAG *diag1 diag2 diag3 diag4*

説明: BPE 管理 SRB を保護している機能復旧ルーチン (FRR) が、z/OS CPU ロックを保持している制御を受け取りました。CPU ロックの保持は、FRR が割り込み禁止で実行されていることを示します。これは、異常終了からのリカバリーまたは異常終了に関する診断情報の収集のいずれかのために FRR が実行できる処理内容を制限する制約モードです。BPE は、メッセージ BPE0052E を発行して異常終了を記録してから、ABENDU3405 理由コード X'02' でアドレス・スペースを終了します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

abendcode

FRR が駆動される原因となった異常終了コード。

reasoncode

異常終了に関連した理由コード (該当する場合)。使用可能な理由コードがない場合、このフィールドは "?????????" になります。

psw1 psw2

異常終了時のプログラム状況ワード (PSW) の 2 つのワード。異常終了 PSW が使用可能でない場合、このフィールドは "?????????" になります。

diag1 異常終了中の SRB を表す、内部 BPE TCBT 制御ブロックのアドレス。このデータと *diag2*、*diag3*、および *diag4* のデータが診断情報であり、IBM ソフトウェア・サポートによる問題判別に役立つ可能性があります。

diag2 異常終了中の SRB を表す、内部 BPE DDB 制御ブロックのアドレス。

diag3 BPE SRB FRR パラメーター域 FRPL_FLGWD からのフラグ・バイト。

diag4 BPE CSCD フラグ・ワード CSCD_STAFGLS からのフラグ・バイト。BPE CSCD アドレスを FRR で使用できない場合、このフィールドは "?????????" になります。

システムの処置: このメッセージを発行した後、BPE CSCD アドレスを FRR で使用できる場合は、FRR は BPE ジョブ・ステップ (JSTP) TCB を ABENDU3405 理由コード X'02' で異常終了して、アドレス・スペースを終了します。

システム・プログラマーの応答: すべてのダンプ、ジョブ・ログ、コンソール・ログ、および SYS1.LOGREC を保管して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: BPESRFR0

BPE0053E BPE *rcvrtntype* IS UNABLE TO GET STORAGE FOR AN SDUMP SRB

説明: ABEND 処理中に、BPE リカバリー・ルーチンが、ダンプを生成するために SRB 用のストレージを取得しようとして失敗しました。ストレージは使用不可でした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rcvrtntype

ストレージ・エラーが発生した BPE リカバリー・ルーチンのタイプ ("ESTAE" (TCB の場合) または "FRR" (SRB の場合)) を指定します。

システムの処置: BPE は ABEND 処理を続行します。ただし、ダンプは生成されません。

システム・プログラマーの応答: 処理は不要です。ただし、このメッセージは、システムの共通ストレージが限られていることを示している可能性があります。

モジュール: BPESRFR0

BPE0054I BPE *rcvrtntype* PROCESSING COMPLETE FOR *duname dutytype* - DIAG *diag1 diag2 diag3*

説明: 示されているディスパッチ可能単位 (TCB または SRB) で BPE リカバリー・ルーチン処理が完了しました。このメッセージは、異常終了した初期の TCB または SRB、および BPE ジョブ・ステップ TCB (タイプ JSTP) に対して発行されます。このメッセージは、DU の終了に関する診断情報を提供するために発行され、具体的な問題は示しません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rcvrtntype

ストレージ・エラーが発生した BPE リカバリー・ルーチンのタイプ ("ESTAE" (TCB の場合) または "FRR" (SRB の場合)) を指定します。

duname

異常終了したディスパッチ可能単位 (TCB または SRB) の 4 文字の名前。

dutytype 異常終了したディスパッチ可能単位のタイプ ("TCB" または "SRB")。

diag1 異常終了した BPE TCB または SRB を表す、内部 BPE TCBT 制御ブロックのアドレス。このデータと *diag2* および *diag3* のデータが診断情報であり、IBM ソフトウェア・サポートによる問題判別に役立つ可能性があります。

diag2 内部 ESTAE または FRR 作業域フラグ。

diag3 ダブルワード内部トレース (EWRKKNYTR または FWRKKNYTR) の内容。

システムの処置: BPE リカバリー・ルーチンは z/OS に戻ります。

システム・プログラマーの応答: 処置は必要ありません。これは診断メッセージです。

モジュール: BPESRFR0、BPESYES0

第 4 章 CQS メッセージ (共通キュー・サーバー)

共通キュー・サーバー (CQS) によって発行されるメッセージには、接頭部 CQS が付いています。

CSL サービスの戻りコードおよび理由コードについては、構造化呼び出しインターフェースに関する情報を参照してください。また、CQS 制御リスト項目に関する情報も参照してください。

関連概念:

➡ CSL Structured Call Interface の概要 (システム管理)

関連資料:

➡ CQS 制御リスト項目 (メッセージおよびコード)

CQS0001E CQS INITIALIZATION ERROR IN

module, message text

説明: 示されたモジュールで CQS アドレス・スペースの初期設定中にエラーが発生しました。このメッセージの *message text* は次のいずれかの場合があります。

service name RC=rc RSN=rsn

または

service name RC=rc text

これらの形式の *message text* の情報には、次のものがあります。

service name

失敗したサービスの名前。

rc

失敗したサービスからの戻りコード。これらのコードの説明については、CQS サービス戻りコードに関する情報を参照し、BPE サービス・コードの説明については、BPE サービス戻りコードに関する情報を参照してください。

rsn

失敗したサービスからの理由コード。

text

エラーを説明する追加情報。

service name の値と問題の説明は次のとおりです。

BPELOAD

CQS はモジュールをロードしようとして失敗しました。メッセージに表示されるテキストは、ロードできなかったモジュールの名前です。モジュールが IMS.SDFSRESL にリンクされているかどうかを確認してください。

CSLSCREG

SCI 登録要求。この要求の RC= およ

び RSN= 値については、

『CSLSCREG: 登録要求』で説明されています。

CQSIXCF0, with RC=X'28'

2 つの別々の CQS アドレス・スペースで、実行パラメーターまたは CQSIPxxx PROCLIB メンバーの SSN パラメーターに同じ値を指定しました。いずれかの CQS アドレス・スペースの SSN 値を変更してください。

ENFREQ

RC= は、MVS ENFREQ サービスからの戻りコードです。

PARM VALIDATION ERROR *parmname*

parmname は、検証された実行パラメーターまたは PROCLIB パラメーターで、次のいずれかです。

SSN

このパラメーターが、実行パラメーターにも CQSIPxxx PROCLIB メンバーにも指定されませんでした。

CQSGROUP

このパラメーターが、実行パラメーターにも CQSIPxxx PROCLIB メンバーにも指定されませんでした。

ARMRST

実行パラメーターまたは CQSIPxxx PROCLIB メンバーで、ARMRST キーワードに無効な値が指定されました。

STRNAM SL

このパラメーターが、CQSSLxxx PROCLIB メンバー内の構造定義で指定されませんでした。

CHKPTDSN

このパラメーターが、CQSSLxxx PROCLIB メンバー内の構造定義で指定されませんでした。

SYSCHKPT

CQSSLxxx PROCLIB メンバー内の構造定義で、SYSCHKPT キーワードに無効な値が指定されました。

CK/CK DSN

CQSSLxxx PROCLIB メンバー内で、2 つの別の構造定義のチェックポイント・データ・セット名 (CHKPTDSN) に同じ値が指定されました。

STRNAM SG

このパラメーターが、CQSSGxxx PROCLIB メンバー内の構造定義で指定されませんでした。

ST/OV DEF

CQSSGxxx PROCLIB メンバー内で、単一の構造定義の基本構造名 (STRNAME) とオーバーフロー構造名 (OVFLWSTR) に同じ値が指定されました。

SRDSDSN1

このパラメーターが、CQSSGxxx PROCLIB メンバー内の構造定義で指定されませんでした。

SRDSDSN2

このパラメーターが、CQSSGxxx PROCLIB メンバー内の構造定義で指定されませんでした。

S1/S2 DEF

CQSSGxxx PROCLIB メンバー内で、単一の構造定義の構造リカバリー・データ・セット名 1 (SRDSDSN1) と構造リカバリー・データ・セット名 2 (SRDSDSN2) に同じ値が指定されました。

LOGNAME

このパラメーターが、CQSSGxxx PROCLIB メンバー内の構造定義で指定されませんでした。

OVFLWMAX=

CQSSGxxx PROCLIB メンバー内の構造定義で、OVFLWMAX キーワードに無効な値が指定されました。

STRMIN

CQSSGxxx PROCLIB メンバー内の構造定義で、STRMIN キーワードに無効な値が指定されました。

ST/OV SG

CQSSGxxx PROCLIB メンバー内で、

2 つの別の構造定義の基本構造名 (STRNAME) とオーバーフロー構造名 (OVFLWSTR) に同じ値が指定されました。

OVFSTR SG

CQSSGxxx PROCLIB メンバー内で、2 つの別の構造定義のオーバーフロー構造名 (OVFLWSTR) に同じ値が指定されました。

LOGNAM SG

CQSSGxxx PROCLIB メンバー内で、2 つの別の構造定義のログ・ストリーム名 (LOGNAME) に同じ値が指定されました。

S1/S2 SG

CQSSGxxx PROCLIB メンバー内の 2 つの異なる構造定義について、構造リカバリー・データ・セット名 1 (SRDSDSN1) または構造リカバリー・データ・セット名 2 (SRDSDSN2)、あるいはその両方に同じ値が指定されました。

CQSSL STR

CQSSLxxx PROCLIB メンバーの構造定義で指定された構造名が CQSSGxxx PROCLIB メンバー内に見つからなかったか、または CQSSLxxx PROCLIB メンバー内に重複した構造名がありました。

CQSSG STR

CQSSGxxx PROCLIB メンバーの構造定義で指定された構造名が CQSSLxxx PROCLIB メンバー内に見つからなかったか、または CQSSGxxx PROCLIB メンバー内に重複した構造名がありました。

CK/SR DSN

CQSSLxxx PROCLIB メンバー内の構造定義で、チェックポイント・データ・セット名 (CHKPTDSN) が指定されたが、その名前は、CQSSGxxx PROCLIB メンバー内の構造リカバリー・データ・セット名 1 (SRDSDSN1) または構造リカバリー・データ・セット名 2 (SRDSDSN2)、あるいはその両方に使用されている名前と同じです。

UNKNOWN TCB TYPE *tcname*

tcname は TCB の名前です。

システムの処置: CQS は、異常終了コード 0010 または 0014 で異常終了します。

システム・プログラマーの応答: 問題を解決できない場

合は、SYSLOG およびダンプを保管してから、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して支援を受けてください。

プログラマーの応答: 説明されていないエラーの場合、メッセージ・テキスト、異常終了コード、異常終了サブコード、およびダンプを保管してから、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: CQSICCHK0, CQSICQS0, CQSIENF0, CQSIOFL0, CQSIRQS0, CQSIST00, CQSIST10, CQSIST20, CQSIST30, CQSIST40, CQSITCB0

関連資料:

➡ CQS サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

➡ BPE サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

➡ CSLSCREG: 登録要求 (システム・プログラミング API)

➡ z/OS: ENFREQ -- システム・イベントの listen

関連情報:

➡ CQS 異常終了 0010

➡ CQS 異常終了 0014

CQS0007I CQS *cqsname* INITIALIZATION WAITING FOR REBUILD TO COMPLETE.

説明: CQS は、構造再作成を待機してから、構造に接続し、初期設定を継続します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cqsname

待機中の CQS の名前

システムの処置: CQS の処理は続行されます。

システム・プログラマーの応答: 再作成が完了するのを待ちます。

モジュール: CQSSTS10

CQS0008W STRUCTURE *structurename* IS VOLATILE; CONSIDER STRUCTURE CHECKPOINT

または

STRUCTURE *structurename* IS VOLATILE

説明:

構造 *structurename* は揮発性です。構造チェックポイントをサポートしない構造 (リソース構造など) の場合は、2 番目のこのメッセージ形式が発行されます。

システムの処置: CQS の処理は続行されます。

システム・プログラマーの応答: 構造チェックポイントをサポートする構造の場合は、構造の揮発性のために構造が失われる場合に備えて、構造チェックポイントの取得を検討してください。

モジュール: CQSSTE00, CQSSTS10

CQS0009W STRUCTURE *structurename* REQUIRES STRUCTURE CHECKPOINT FOR RECOVERY

説明: CQS の初期設定中、構造にクライアント・データが含まれていることを CQS が検出しましたが、そのデータは構造リカバリーが必要な場合に別のソースから利用できませんでした。構造リカバリー・データ・セット (SRDS) も CQS ログ・ストリームも構造リカバリーには無効で、どちらの SRDS にも有効なクライアント・データが含まれていません。CQS ログ・ストリームには、ログ X'4001' レコードの先頭が含まれていません。メッセージ・テキストの *structurename* は、CQS が処理中の構造の名前です。

システムの処置: CQS の処理は続行されます。

システム・プログラマーの応答: CQS アドレス・スペースのすべてが再始動を完了したら、示された構造に対して構造チェックポイントを開始します。IMS ユーザーの場合、IMS 制御領域が CQS アドレス・スペースに接続されたら、IMS コマンド /CQCHKPT SHAREDQ を入力して構造チェックポイントを開始できます。

モジュール: CQSIST30

CQS0010I STRUCTURE *structurename* function RC=*rc* RSN=*rsn* DIAG=*diag1* *diag2*

説明: CQS が、構造への接続、構造からの切断、または構造の削除を行いました。このメッセージは、このイベントに関連する診断情報を提供します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

structurename

構造の名前。

function

構造に対して実行されている機能。考えられる機能は以下のとおりです。

CONNECT

CQS は、IXLCONN マクロを使用し
て構造に接続しました。

CONNECT REBUILD

CQS は、IXLCONN マクロを使用し
て再作成構造に接続しました。この機
能でゼロ以外の戻りコード

(RC=00000004 RSN=xxxx0407) が返
されることは正常です。この戻りコー
ドは、この構造の再作成が進行中であ
ることを示しています。

DISCONNECT

CQS は、IXLDISC マクロを使用して
構造から切断しました。

DISCONNECT-FP

CQS は、IXLDISC マクロを使用し
て、障害持続接続である構造からの接
続を切断しました。

DELETE

CQS は、IXLFORCE マクロを使用し
て構造を削除しました。

DELETE ALLCONNS

CQS は、構造とのすべての障害持続
接続を IXLFORCE マクロを使用して
削除しました。この機能でゼロ以外の
戻りコード (RC=0000000C

RSN=xxxx0C2A) が返されることは正
常です。この戻りコードは、削除する
接続がないことを示します。

- rc* IXL マクロからの戻りコード。
rsn IXL マクロからの理由コード。
diag1 関係する構造の構造ブロック内のフィールド
STRRBLWD の、現在の 4 バイト 16 進値。
このデータと *diag2* のデータが診断情報であ
り、IBM ソフトウェア・サポートによる問題
判別に役立つ可能性があります。
diag2 追加の 4 バイト 16 進診断データ。*diag2* の値
は、構造タイプおよび機能によって異なりま
す。
- キュー構造の場合、*diag2* はリソース構造ブ
ロック内のフィールド STRSTAT1W の値で
す。
 - リソース構造の場合、*diag2* はリソース構造
ブロック内のフィールド STRSTAT1W の値
です。

さらに、機能が CONNECT または
CONNECT REBUILD の場合、*diag2* フィ
ールドの低位バイトは、接続応答域のフィールド
CONAFLAGS 内の IXLCONN によって返さ
れる値に置き換えられます。

システムの処置: CQS の処理は続行されます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはあ
りません。

このメッセージは、構造への CQS 接続に関するデー
タを提供します。このデータは診断の特定の状態で、IBM
サービスに役立つことがあります。

モジュール: CQSSTS10

関連資料:

➡ z/OS: IXLCONN の戻りコードおよび理由コード

➡ z/OS: IXLDISC の戻りコードおよび理由コード

➡ z/OS: IXLFORCE の戻りコードおよび理由コード

CQS0013E **STRUCTURE** *structurename* **ALLOC**
ERROR; CFNAME=*cfname* **RSN=***rsncode*
SIZE NEEDED(4K BLOCKS)=*4kblocks*

説明: CQS 初期設定で構造の割り振りを試みまし
た。割り振り用の適切なカップリング・ファシリティ
が見つからなかったため、構造割り振りが失敗しま
した。CQS が構造の割り振りを試みた (CFRM ポリシー
設定リスト内の) カップリング・ファシリティごと
に、CQS0013E メッセージが 1 つ発行されます。

次のいずれかの理由で、構造割り振りが失敗した可能性
があります。

- 構造のサイズが小さすぎて、z/OS 制御スペースおよ
び CQS 構造属性 (キュー構造の場合の EMC など)
を収容できない可能性があります。構造のサイズは、
INITSIZE または SIZE パラメーターを用いて
CFRM ポリシーで定義されます。
- CFRM ポリシー設定リスト内には、CFRM ポリシー
で定義された構造サイズを収容できるカップリング・
ファシリティがありません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりで
す。

structurename

割り振りに失敗した構造名。

cfname 構造割り振りが試行されたカップリング・ファ
シリティの名前。

rsncode 構造割り振り失敗の理由。構造割り振りが成功
した場合、理由コードはゼロですが、構造属性
が CQS に受容されないものでした (例えば、
キュー構造に EMC が定義されていないな
ど)。

4Kblocks

z/OS 制御スペース、および CFRM ポリシー
で定義された構造 INITSIZE または SIZE の

CQS 構造属性を収容するために必要な最小の構造サイズを示す 4 K のブロック数 (16 進)。

システムの処置: CQS は 0014-00000200 で異常終了します。

システム・プログラマーの応答: 構造を収容できる十分なストレージがどのカップリング・ファシリティにもない場合は、拘束されているカップリング・ファシリティのストレージを解放し、構造を割り振れるようにします。

必要な最小サイズよりも構造サイズが小さい場合は、構造に必要な最小サイズに見合う SIZE または INITSIZE を定義する新規 CFRM ポリシーをアクティブにします。16 進値 4Kblocks を 10 進数に変換してから、結果の数値を 4 倍して、必要な最小サイズを計算します。

モジュール: CQSSTS10

関連情報:

 CQS 異常終了 0014

CQS0014E STRUCTURE *structurename* INIT FAILURE; *failure reason*.

説明: CQS 初期設定または構造再作成で、構造を初期設定できませんでした。構造接続、構造切断、または構造のアクセス時に、*structurename* の構造初期設定が失敗しました。

CQSGLOBAL ミスマッチ・エラーが検出されるたびにこのメッセージが発行されます。CQSGLOBAL ミスマッチには、次のうちの 1 つ以上があります。

- OVERFLOW STRUCTURE MISMATCH
- SRDS1 MISMATCH
- SRDS2 MISMATCH
- LOG STREAM MISMATCH
- QTYPE COUNT MISMATCH
- XCF GROUP NAME MISMATCH

failure reason は次のいずれかです。

REQUEST=func XES RC=returncode RSN=rsncode

構造への接続、構造からの切断、制御リスト項目の読み取り、制御リスト項目の書き込み、制御リスト・ヘッダーのロック、または制御リスト・ヘッダーのアンロックを行うための MVS IXL 要求が失敗しました。可能性のある機能およびその意味は次のとおりです。

CONN

IXLCONN (コードについては、z/OS: IXLCONN の戻りコードおよび理由コードを参照してください。)

DISC IXLDISC (コードについては、z/OS: IXLDISC の戻りコードおよび理由コードを参照してください。)

EVNQ IXLLIST FUNC=MONITOR_EVENTQ

LOCK IXLLIST FUNC=LOCK (コードについては、z/OS: IXLLIST の戻りコードおよび理由コードを参照してください。)

UNL IXLLIST REQUEST=LOCK(unlock)

CRT IXLLIST FUNC=READ OR WRITE (制御リスト項目の作成)

READ

IXLLIST FUNC=READ (コードについては、z/OS: IXLLIST の戻りコードおよび理由コードを参照してください。)

RBLD IXLREBLD (コードについては、z/OS: IXLREBLD の戻りコードおよび理由コードを参照してください。)

returncode は z/OS システム間拡張サービス (XES) の戻りコードで、*rsncode* は XES の理由コードです。XES 戻りコードおよび理由コードは、「z/OS MVS プログラミング: システム・サービス解説書」(SA88-8584) に文書化されています。

STRUCTURE NOT DEFINED IN POLICY

構造がカップリング・ファシリティ・リソース管理 (CFRM) ポリシーに定義されていないため、構造接続が失敗しました。

STRUCTURE TOO SMALL

共用キュー構造が、カップリング・ファシリティ・リソース管理 (CFRM) ポリシーに定義された最小構造サイズより小さいサイズです。構造が空の場合のみ、CQS が異常終了します。

PROCLIB の CQSSGxxx メンバーに指定された STRMIN 値を調べて、STRMIN 値を CFRM ポリシーで指定された構造サイズと比較してください。より大きな共用キュー構造を CQS が割り振れるように、CFRM ポリシーを変更する必要があるかどうかを判別します。構造のサイズを増やすには、ポリシー変更および構造再作成が必要になることがあります。

OVERFLOW STRUCTURE MISMATCH

PROCLIB メンバー CQSSGxxx 内の OVFLWSTR パラメーターで指定されたオーバーフロー構造名が、この構造の CQSGLOBAL 制御リスト項目内の値と一致しません。この CQS が構造に接続したときに、構造はすでに割り振られていました。

SRDS1 MISMATCH

PROCLIB メンバー CQSSGxxx 内の SRDSDSN1 パラメーターで指定された SRDS1 データ・セット名が、この構造の CQSGLOBAL 制御リスト項目内の値と一致しません。この CQS が構造に接続したときに、構造はすでに割り振られていました。

SRDS2 MISMATCH

PROCLIB メンバー CQSSGxxx 内の SRDSDSN2 パラメーターで指定された SRDS2 データ・セット名が、この構造の CQSGLOBAL 制御リスト項目内の値と一致しません。この CQS が構造に接続したときに、構造はすでに割り振られていました。

LOG STREAM MISMATCH

PROCLIB メンバー CQSSGxxx 内の LOGNAME パラメーターで指定されたログ・ストリーム名が、この構造の CQSGLOBAL 制御リスト項目内の値と一致しません。この CQS が構造に接続したときに、構造はすでに割り振られていました。

QTYPE COUNT MISMATCH

この CQS に対してローカルに定義された QTYPE カウント値が、この構造の CQSGLOBAL 制御リスト項目内の値と一致しません。(QTYPE は内部値です)。この CQS バージョンが、構造を割り振った CQS のバージョンと同期が取れていない可能性があります。

BPEGETM ERROR

CQSOVERFLOWQNAME 制御リスト項目を読み取るためのストレージの要求が失敗しました。

BACKLEVEL CF LEVEL

この CQS に必要なカップリング・ファシリティーのレベルが、構造が割り振られたときのカップリング・ファシリティーのレベルより前のレベルです。この CQS バージョンが、構造を割り振った CQS のバージョンと同期が取れていない可能性があります。

UNACCEPTABLE STRUCTURE ATTRIBUTE

構造への接続は成功したが、いずれかの構造属性が CQS で受け入れ不能です。受け入れ不能な属性の例は次のとおりです。

- 構造が永続的でない。
- リスト・ヘッダーの数が一致しない。
- 構造がキーをサポートしない。
- 構造が付加属性エリアをサポートしない。
- 構造がデータ・エレメントをサポートしない。
- データ・エレメントのサイズが一致しない。

CQS は、このエラーを検出すると、異常終了の前に構造から切断されます。

NO EMCS ALLOCATED

構造への接続は成功したが、イベント・モニター制御 (EMC) は割り振られませんでした。EMC を使用可能にするのに必要な最小の構造サイズが、割り振られた構造のサイズより大きいからです。CQS がキュー上の作業をクライアントに通知するために、EMC が必要です。おそらく、CFRM ポリシーに定義された構造は、EMC をサポートするには大きさが不十分です。CQS は、このエラーを検出すると、異常終了の前に構造から切断されます。

XCF GROUP NAME MISMATCH

CQS 実行パラメーターまたは PROCLIB メンバー CQSIPxxx 内で XCF グループ名を定義する CQSGROUP パラメーターが、この構造の CQSGLOBAL 制御リスト項目内の値と一致しません。この CQS が構造に接続したときに、構造はすでに割り振られていました。

IXLUSYNC SET IN PROGRESS

構造への接続は成功したが、IXLUSYNC SET イベントが進行中でした。内部エラーのため、CQS は IXLUSYNC イベントを確認できませんでした。CQS は、このエラーを検出すると、異常終了の前に構造から切断します。CQS アドレス・スペースを再始動してください。

システムの処置: 構造の初期設定エラーが発生したときに CQS が初期設定中の場合、CQS は異常終了 0014 で終了します。構造の初期設定エラーが発生したときに構造が再作成中の場合、構造再作成は異常終了します。

システム・プログラマーの応答: 接続の理由が構造再作成の場合、異常終了サブコードまたはメッセージ CQS0242E の再作成障害の戻りコードを分析します。

構造に最初に接続する CQS は、その CQS に対して定義されたパラメーターを使用して、構造を割り振ります。それらのパラメーター値を記憶しておき、その後と同じ構造に接続する他の CQS にも同じ値を使用する必要があります。パラメーター値が異なると、MISMATCH エラーが発生します。異常終了した CQS で誤ったパラメーターが指定されている場合、パラメーターを訂正してから、CQS を再始動します。

構造を割り振った CQS で誤ったパラメーターが指定された場合、値を変更するには、その構造を削除し、再割り振りする必要があります。構造を削除するには、「IMS V15 システム管理」を参照してください。

CQS は、次回に初期設定するとき、構造を再割り振りし、必要な場合は構造リカバリーを開始します。

モジュール: CQSIST20、CQSIST30、CQSSTS10、CQSSTS30

関連概念:

 Common Queue Server の使用 (システム管理)

関連情報:

 CQS 異常終了 0014

62 ページの『CQS0242E』

CQS0015E **STRUCTURE** *strname1* **INIT FAILURE;**
CHKPTDSN
DSN=*dsn*
IS FOR CQS *cqsname*, **STRUCTURE**
strname2

説明: CQS がこの構造で使用していたチェックポイント・データ・セットに、別の CQS または別の構造、あるいはその両方の情報が含まれています。チェックポイント・データ・セットは、この CQS および構造に対して初期設定されているか、または空である必要があります。

このメッセージは、CQS 初期設定中に発行されることがあります。あるいは、CQS システム・チェックポイント中に、システム・チェックポイントがチェックポイント・データ・セットを割り振ったが、データ・セットの妥当性検査で障害が起きた場合に、このメッセージが発行されます。この状態は、前のシステム・チェックポイントがデータ・セット・エラーを検出し、チェックポイント・データ・セットを割り振り解除した場合にのみ発生します。

このメッセージには 3 つの行が含まれます。各行は、メッセージ番号で始まり、初期設定中またはシステム・チェックポイントを処理中の CQS の CQS ID (*cqsid*) で終わります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

strname1 構造の名前。この構造が初期設定中であるか、またはこの構造に対してシステム・チェックポイントが処理中です。

dsn チェックポイント・データ・セットの名前。

cqsname チェックポイント・データ・セット内の CQS ID。

strname2 チェックポイント・データ・セット内の構造の名前。

システムの処置: エラーが発生したときに CQS が初期設定中の場合、CQS は異常終了 0014 で終了します。

エラーが発生したときにシステム・チェックポイントが実行中の場合、システム・チェックポイントは終了し、CQS の処理は続行されます。

システム・プログラマーの応答: CQSSLxxx PROCLIB メンバー内に正しいチェックポイント・データ・セットを指定します。必要な場合、示されたデータ・セットを削除し、再割り振りします。システム・チェックポイント中にエラーが発生した場合、データ・セットの問題が訂正されたらすぐに CQS システム・チェックポイントを開始して、再始動が必要になった場合に CQS で使用可能なチェックポイントを確保するようにします。

モジュール: CQSCHK10、CQSIST30

関連情報:

 CQS 異常終了 0014

CQS0017E **CQSREAD RESYNC ERROR,**
CQSMOV10 RC = *rc*
LOCK KEY *hex_lock_key*
QNAME *hex_qname* (*char_qname*)
UOW1 = *first_half_uow*
UOW2 = *second_half_uow*

説明: CQSREAD 再同期処理中、データ・オブジェクトをロック・キューからコールド・キューに移動しているときに、エラーが発生しました。データ・オブジェクトはロック・キューに残されています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc CQSMOV10 からの戻りコード。

hex_lock_key データ・オブジェクトのロック・キー (16 進数)。

hex_qname データ・オブジェクトのキュー名 (16 進数)。

char_qname データ・オブジェクトのキュー名 (文字)。

first_half_uow データ・オブジェクトの作業単位 (UOW) の前半。

second_half_uow データ・オブジェクトの UOW の後半。

システムの処置: CQS の処理は続行されます。

システム・プログラマーの応答: CQS サービス戻りコード情報でモジュール CQSMOV10 を参照し、メッセージ内の戻りコードに基づいてエラーを修正します。*rc* = 28 の場合、データ・オブジェクトは、次の再同期処理中にロック・キューからコールド・キューに移動されます。

モジュール: CQSRD030

関連資料:

➡ CQS サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

CQS0018E CQS RESTART FAILED FOR STRUCTURE *structurename*

説明: CQS 再始動処理中にエラーが発生しました。
structurename は、エラーを検出した構造の名前です。
エラーによっては、メッセージ CQS0001E も発行され、追加情報が提供されます。

システムの処置: CQS は、異常終了コード 0018 で異常終了します。

モジュール: CQSIST40

関連情報:

37 ページの『CQS0001E』

➡ CQS 異常終了 0018

CQS0019E CQS RESTART INTERNAL ERROR FOR STRUCTURE *structurename* RC=llssrrrr

説明: CQS 再始動処理中のエラーにより、1 つ以上の作業単位 (UOW) が未確定状態で残っていることがあります。影響を受けた UOW に関するデータ・オブジェクトは、カップリング・ファシリティにコピーされていない可能性があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

structurename
構造の名前。

llssrrrr エラー理由コード。CQS サービス戻りコードの情報を参照してください。

システムの処置: CQS の処理は続行されます。

システム・プログラマーの応答: 問題を解決できない場合は、SYSLOG および CQS アドレス・スペースのダンプをコピーしてから、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を受けてください。

関連資料:

➡ CQS サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

CQS0020I CQS READY

説明: CQS の初期設定が完了しました。

モジュール: CQSIST00

CQS0021I CQS SHUTDOWN COMPLETE

説明: CQS のシャットダウンが完了しました。

モジュール: CQSTRM00

CQS0030I SYSTEM CHECKPOINT COMPLETE, STRUCTURE *structurename* LOGTOKEN *logtoken*

説明: CQS がシステム・チェックポイントを取りました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

structurename
構造の名前。

logtoken
このチェックポイントから再始動するために CQS に必要なログ・トークン

システムの処置: CQS の処理は続行されます。

システム・プログラマーの応答: チェックポイント・データ・セットおよびカップリング・ファシリティ構造の障害の場合の CQS 再始動で、オペレーターは、このメッセージに表示されたログ・トークンを使用する必要があります。CQS が別のソースからログ・トークンを読み取れない場合、CQS 再始動中に、オペレーターは、最新のシステム・チェックポイントからのログ・トークンを指定して CQS0032A メッセージに応答する必要があります。

モジュール: CQSCHK10

関連情報:

45 ページの『CQS0032A』

CQS0031A CONFIRM CQS RESTART FOR STRUCTURE *structurename*, FROM CHECKPOINT LOGTOKEN *logtoken*

説明: CQS は、チェックポイント・データ・セットからシステム・チェックポイントのログ・トークンを読み取れなかったが、共用キュー構造内の制御項目でシステム・チェックポイントのログ・トークンを検出しました。システム・プログラマーが応答を入力する必要があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

structurename
CQS 再始動が処理中の構造の名前

logtoken
制御項目からのログ・トークン

このメッセージのフォーマット設定中にシステム・エラーが発生した場合、ログ・トークンはメッセージ・テキスト内に表示されません。

システムの処置: CQS は応答を待ちます。

システム・プログラマーの応答: 次のいずれかの応答を入力します。

CONFIRM

CQS は、このメッセージ内のログ・トークンを再始動処理に使用します。

COLD CQS はコールド・スタート処理を開始します。

CANCEL

CQS は、CQS 異常終了 0020、理由コード X'00000004' で再始動処理を終了させます。

logtoken

CQS は、この構造の再始動処理のために、応答で入力されたログ・トークンを使用します。(ログ・トークンはメッセージ CQS0030I から入手します。)

モジュール: CQSIST40

関連情報:

CQS0030I

 CQS 異常終了 0020

CQS0032A ENTER CHECKPOINT LOGTOKEN FOR CQS RESTART FOR STRUCTURE *structurename*

説明: CQS は、チェックポイント・データ・セットからも共用キュー構造内の制御項目からも、システム・チェックポイントのログ・トークンを読み取れませんでした。CQS は、ログ・トークンなしでは、ログの読み取り開始の位置を識別できません。システム・プログラマーが応答を入力する必要があります。

メッセージ・テキストの *structurename* は、CQS が処理中の構造の名前です。

このメッセージは、構造チェックポイントが成功したため、必要なシステム・チェックポイントのログ・レコードがログから削除された場合にも発行されます。構造チェックポイントのログ・レコードより古いログ・レコードは、構造チェックポイント中に削除されます。この場合は、**COLD** と応答します。

このメッセージが CQS の最初の開始時に発行された場合、**COLD** を応答して初期コールド・スタートを実行します。

システムの処置: CQS は応答を待ちます。

システム・プログラマーの応答: 次のいずれかの応答を入力します。

COLD CQS はコールド・スタート処理を開始します。

CANCEL

CQS は、CQS 異常終了 0020、理由コード X'00000008' で再始動処理を終了させます。

logtoken

CQS は、この構造の再始動処理のために、応答で入力されたログ・トークンを使用します。(ログ・トークンはメッセージ CQS0030I から入手します。)

モジュール: CQSIST40

関連情報:

CQS0030I

 CQS 異常終了 0020

CQS0033A ENTER CHECKPOINT LOGTOKEN FOR STRUCTURE *structurename* CLIENT *clientname* CQS *cqsname*

説明: 次のいずれかのエラーが発生しました。

- CQS が、共用キュー構造内の制御項目から、失敗したクライアントに接続された CQS のシステム・チェックポイントのログ・トークンを読み取れませんでした。CQS は、ログ・トークンなしでは、ログの読み取り開始の位置を識別できません。
- クライアント接続再始動処理のログ・レコードの読み取り中に、CQS が必要なすべてのログ・レコードにアクセスするのを妨げるエラーを、CQS が検出しました。

システム・プログラマーが応答を入力する必要があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

structurename

クライアント・テークオーバー再始動が処理している構造の名前

clientname

クライアントの名前

cqsname

失敗したクライアントに接続された CQS の CQS ID

システムの処置: CQS は応答を待ちます。

システム・プログラマーの応答: 次のいずれかの応答を入力します。

COLD CQS はクライアント・テークオーバー・コールド・スタート処理を開始します。

CQS0034A

REJECT

CQS は、完了コード X'00000018' で CQSCONN 要求をリジェクトします。

logtoken

CQS は、入力されたログ・トークンを、この構造のクライアント・テークオーバー再始動処理のために使用します。失敗したクライアントに接続された CQS のログ・トークンをメッセージ CQS0030I から入手します。

CQS は、ログ・トークンによって示されたログ・レコードの読み取りを試みます。CQS がそのログ・レコードを読み取れない場合、メッセージ CQS0033A が再発行されます。このメッセージの理由がログ・エラーによるものである場合、ログ・レコードを必要としない応答を選択する必要があります。

モジュール: CQSCON30

関連情報:

CQS0030I

CQS0034A CANNOT REBUILD STRUCTURE
structurename FROM LOGTOKEN,
ENTER *options*

説明: CQS が構造リカバリーを実行できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

structurename

構造の名前。

options

次のいずれかです。

COLD、**CONTINUE**、または **CANCEL**

CQS の初期設定中に、構造リカバリーが必要であることを CQS が検出しました。しかし、構造リカバリー・データ・セット (SRDS) も CQS ログ・ストリームも構造リカバリーには無効で、どちらの SRDS にも有効なクライアント・データが含まれていません。CQS ログ・ストリームには、X'4001' ログ・レコードの先頭レコードが含まれていません。これは、構造チェックポイントが実行され、そのときにログ・レコードが削除されたことを意味します。リカバリーに必要なログ・レコードがないため、ログ・ストリームのみを使用しても構造リカバリーを実行することはできません。

COLD CQS は構造のコールド・ス

タートを実行します。ログ・レコードおよびオーバーフロー構造 (ある場合) は、すべて削除されます。CQS はコールド・スタートされます。

CANCEL

CQS は、CQS 異常終了 0020、理由コード X'0000000C' で再始動処理を終了させます。

CONTINUE

CONTINUE は現在は無効です。CONTINUE は COLD と同じアクションを実行します。COLD を入力してください。

ABEND または CONTINUE

構造リカバリー処理中に、CQS ログ・レコードを読み取りおよび処理するための CQSLRR00 への呼び出しが失敗しました。再作成マスターは、構造リカバリー処理を継続できなかったことを示すために、このメッセージを発行しました。

ABEND

再作成マスター CQS と、再作成を失敗した構造を共用するその他のすべての CQS は、CQS 異常終了 0104、理由コード X'00000008' で異常終了します。

CONTINUE

再作成マスターは、現在のリカバリー処理を打ち切り、再作成停止イベントを続行します。構造の現在の状況によって、別の構造リカバリーが開始またはスキップされる可能性があります。

システムの処置: CQS は応答を待ちます。

システム・プログラマーの応答: WTOR メッセージから *options* のいずれかを入力します。

ログ・データの脱落または損傷のために共用キュー構造の再作成が失敗した場合、その構造はリカバリーすることができません。その場合は、CQS0034A メッセージに対して ABEND と応答して、この構造に接続されているすべての CQS アドレス・スペースを終了させます。その後、ログ・ストリームを削除し、再度 SRDS を初期設定して、障害のあった構造のコールド・スタートを CQS に行わせてください。

ログ・データの脱落や損傷以外の理由で共用キュー構造の再作成が失敗した場合、その構造は、構造リカバリー・データ・セットの名前を CQS0246I メッセージの DSN= フィールドに示されているものに変更し、新しい構造の再作成を開始することによってリカバリーできることがあります。この構造の再作成では、もう一方の以前の構造リカバリー・データ・セットが使用されるため、場合によって、再作成を正常に完了できることがあります。構造の再作成が終了した時点で、必ず、名前変更した SRDS の名前を元の名前に戻してください。

モジュール: CQSIST30、CQSSTE20

関連タスク:

 CQS 構造のコールド・スタート (オペレーションおよびオートメーション)

関連情報:

 CQS 異常終了 0014

 CQS 異常終了 0020

**CQS0035E CQS SYSTEM CHECKPOINT FAILED,
STRUCTURE *structurename*,
RC=*nnnnnnnn***

説明: CQS システム・チェックポイント処理が失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

structurename

構造の名前。

nnnnnnnn

システム・チェックポイントの戻りコード。

nnnnnnnn は、以下のようにエラーの理由を示します。

X'00000004'

再始動がまだ完了していないため、CQS がシステム・チェックポイントを実行できませんでした。システム・チェックポイントは、再始動が完了したら開始されます。

X'00000008'

CQS システム・チェックポイントがすでに進行中のため、CQS はシステム・チェックポイントを実行できませんでした。アクションは不要です。

X'0000000C'

CQS が構造静止ラッチを取得できませんでした。

X'00000010'

CQS がシステム・チェックポイント開始ログ・レコードを書き込めませんでした。

X'00000014'

CQSPUT 要求のシステム・チェックポイント処理が失敗しました。

X'00000018'

CQSREAD 要求のシステム・チェックポイント処理が失敗しました。

X'0000001C'

CQS がシステム・チェックポイント終了ログ・レコードを書き込めませんでした。

X'00000020'

CQS がシステム・チェックポイント・データ・セットをオープンできませんでした。CQS0054E を参照して、システム・チェックポイントのオープンが失敗した理由を判別してください。データ・セットのエラーを訂正してから、システム・チェックポイントを開始してください。

X'00000024'

CQS がシステム・チェックポイント・データ・セットを読み取れませんでした。CQS0054E を参照して、システム・チェックポイントの読み取りが失敗した理由を判別してください。データ・セットのエラーを訂正してから、システム・チェックポイントを開始してください。

X'00000028'

CQS がシステム・チェックポイント・データ・セットを書き込めませんでした。CQS0054E を参照して、システム・チェックポイントの書き込みが失敗した理由を判別してください。データ・セットのエラーを訂正してから、システム・チェックポイントを開始してください。

X'0000002C'

CQS がシステム・チェックポイント・データ・セットをクローズできませんでした。CQS0054E を参照して、システム・チェックポイントのクローズが失敗した理由を判別してください。データ・セットのエラーを訂正してから、システム・チェックポイントを開始してください。

CQS0050E

X'00000030'

CQS が、制御リスト・ヘッダーに対するロックを取得できませんでした。

X'00000034'

CQS が、CQSLOCAL 制御リスト項目を書き込めませんでした。

X'00000038'

CQS が、制御リスト・ヘッダーに対するロックを解放できませんでした。

X'0000003C'

CQS がシステム・チェックポイント・データ・セットを割り振れませんでした。CQS0050E を参照して、データ・セットの割り振りが失敗した理由を判別してください。データ・セットのエラーを訂正してから、システム・チェックポイントを開始してください。

X'00000040'

CQS がシステム・チェックポイント・データ・セットの割り振りを解除できませんでした。CQS0050E を参照して、データ・セットの割り振りが失敗した理由を判別してください。データ・セットのエラーを訂正してから、システム・チェックポイントを開始してください。

X'00000044'

CQS は、書き込みチェックポイント・ログ・レコードをログ・ストリームに書き込むことができませんでした。システム・チェックポイントは取られませんでした。

X'00000048'

CQS は、読み取りチェックポイント・ログ・レコードをログ・ストリームに書き込むことができませんでした。システム・チェックポイントは取られませんでした。

システムの処置: CQS の処理は続行されます。

システム・プログラマーの応答: 問題を解決できない場合は、SYSLOG および CQS アドレス・スペースのメモリー・ダンプをコピーしてから、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して支援を受けてください。

モジュール: CQSCHK10

関連情報:

『CQS0050E』

49 ページの『CQS0054E』

CQS0050E DYN *type* FAILED FOR *ds_type*,
RC=rrrrrrrr/ssssiiii
DSN=*dsn*

説明: 動的割り振りまたは動的割り振り解除が失敗しました。このメッセージには 2 つの行が含まれます。各行は、メッセージ番号で始まり、CQS ID (*qsid*) で終わります。

type 動的割り振りの場合は ALLOC、動的割り振り解除の場合は UNALLOC。

ds_type

データ・セット・タイプであり、次のいずれかです。

CHKPTDSN

データ・セットが、CQSSLxxx
PROCLIB メンバー内のチェックポイント・データ・セットであることを示します。

SRSDSN1

データ・セットが、CQSSGxxx
PROCLIB メンバー内の最初の構造リカバリー・データ・セットであることを示します。

SRSDSN2

データ・セットが、CQSSGxxx
PROCLIB メンバー内の 2 番目の構造リカバリー・データ・セットであることを示します。

rrrrrrrr DYNALLOC 戻りコード。

ssss DYNALLOC 理由コード。

ssss DYNALLOC 情報理由コード。

dsn CQS が割り振りまたは割り振り解除を試みていたデータ・セットの名前。

システムの処置: このエラーが初期設定中に発生した場合、CQS は異常終了します。それ以外の場合、CQS は処理を継続します。

システム・プログラマーの応答: 問題のデータ・セットの状況を分析します。データ・セットは、カタログ式 VSAM データ・セットでなければなりません。動的割り振りまたは割り振り解除の戻りコードおよび理由コードの説明については、「z/OS MVS Programming Authorized Assembler Services Guide」(SA22-7608) を参照してください。

モジュール: CQSDYNA0

関連資料:

 z/OS: DYNALLOC からのエラー理由コードの解釈

CQS0054E *service* **FAILED FOR** *ds_type*,
RC=rrrrrrrr/sss
DSN=dsn

説明: データ・セットの障害が発生しました。このメッセージには 2 つの行が含まれます。各行は、メッセージ番号で始まり、CQS ID (*cqsid*) で終わります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

service 次のいずれかです。

OPEN
 READ
 WRITE
 CLOSE
 POINT

ds_type

次のいずれかです。

CHKPTDSN

データ・セットが、CQSSLxxx
 PROCLIB メンバー内のチェックポイント・データ・セットであることを示します。

SRSDSN1

データ・セットが、CQSSGxxx
 PROCLIB メンバー内の最初の構造リカバリー・データ・セットであることを示します。

SRSDSN2

データ・セットが、CQSSGxxx
 PROCLIB メンバー内の 2 番目の構造リカバリー・データ・セットであることを示します。

rrrrrrrr MVS/DFP サービスからの戻りコード。

sss MVS/DFP サービスからの理由コード。

dsn データ・セット名。

システムの処置: このエラーが初期設定中に発生した場合、CQS は異常終了します。それ以外の場合、CQS は処理を継続します。

システム・プログラマーの応答: 問題のデータ・セットの状況を分析します。データ・セットは、カタログ式 VSAM データ・セットでなければなりません。戻りコードの説明については、「z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets」を参照してください。CQS READ および WRITE データ・セット・サービスのエラーについては、VSAM GET および PUT マクロの戻りコードを参照してください。

モジュール: CQSDSS00

関連資料:

 z/OS: VSAM マクロの戻りコードおよび理由コード

CQS0101I CQS CLEANUP SUCCESSFUL

説明: 終了処理中に、CQS リソース・クリーンアップが正常に完了しました。

モジュール: CQSRSM00

CQS0102E CQS CLEANUP FAILURE IN *module*, RC=*rc* RSN=*reason status*

説明: アドレス・スペースまたは TCB の終了中、CQS リソースのクリーンアップを試みているときに、CQS リソース・クリーンアップ処理が失敗しました。

メッセージ内の項目は以下のとおりです。

module 障害を検出した CQS リソース・マネージャー・クリーンアップ・モジュールの名前。

rc 失敗したサービスからの戻りコード。障害の原因が異常終了の場合、このフィールドには *ABEND* というストリングが入ります。

reason 失敗したサービスからの理由コード (該当する場合)。障害の原因が異常終了の場合、このフィールドには、異常終了からの 16 進数の異常終了コードが入ります。

status 障害が発生したときに実行していたリソース・クリーンアップ処理を示すテキスト・ストリング。リソースがモジュール CQSRSM00 の場合、「*status*」は次のいずれかの値です。

UNKNOWN

クリーンアップされているリソースを判別できませんでした。

CGIB CLEANUP

CQS グローバル・インターフェース・ブロック (CGIB) がクリーンアップされていました。

CQSLOGP0 LOAD

モジュール CQSLOGP0 (ログ・レコード・ページ・プロセッサ) のロード中でした。

CQSLOGP0 PURGE

モジュール CQSLOGP0 は、CQS ログ・レコードのページ処理中でした。

SRB CPOOL FREE

グローバル SRB セル・プールが解放されていました。

ENF DELETE

ENF LISTEN が削除されていました。

システムの処置: リソース・クリーンアップ処理は、その次のリソース・タイプについて引き続き行われます。

CQS0103I • CQS0106W

status フィールドに示されたリソースのクリーンアップは、一部分のみ実行されることも、完全にスキップされることもあります。

システム・プログラマーの応答: ジョブ・ログおよびコンソール・ログ出力を保管してから、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

このメッセージ内のモジュール名が CQSRSM00 の場合で、しかも CQS が異常終了した場合、次のいずれかの処置を取る必要があります。

- 終了している CQS がその構造のセットで実行していた唯一の CQS である場合、すぐに CQS を再始動します。
- 他に実行している CQS がある場合、終了した CQS をすぐに再始動するか、または残存しているいずれかの CQS で構造チェックポイントを開始します。

構造再作成が必要な場合に共用キュー上のデータの状態を保持するには、失敗した CQS の再始動、または構造チェックポイントの取得、あるいはその両方を正常に行うことが必要です。終了中の CQS からログにページされなかったログ・レコードが存在する可能性があります。

モジュール: CQSRSM00

CQS0103I CLEANUP SUCCESSFUL: CLIENT=cccccccc

説明: CQS リソース・マネージャーが、クライアント・アドレス・スペースに関連するインターフェース・ストレージをクリーンアップすることができました。このメッセージは、クライアント・アドレス・スペースで発行されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cccccccc

クライアント名

モジュール: CQSRSM20

CQS0104W CLEANUP FAILED: CLIENT=cccccccc, RSN=rrr

説明: クライアント・アドレス・スペース内のクライアントに関連するインターフェース・ストレージをクリーンアップ中に、CQS リソース・マネージャーが問題を検出しました。理由コードにより問題が示されます。このメッセージは、クライアント・アドレス・スペースで発行されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cccccccc

クライアント名

rrr 次のいずれかの理由コード。

- 104 CGCT ブロックが損傷を受けました。
- 108 CCIB ブロックが損傷を受けました。
- 10C CCIB ストレージを解放中にエラーが発生しました。
- 110 CRET ブロックが損傷を受けました。
- 114 CRET ブロックのストレージを解放中にエラーが発生しました。
- 118 CQSRSM20 が不明な理由で異常終了しました。
- 11C 不明なエラーが発生しました。

システム・プログラマーの応答: このエラー・メッセージは、CSA ストレージが使用できない可能性があることを示します。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: CQSRSM20

CQS0105I INTF CLEANUP SUCCESSFUL: CLIENT=cccccccc

説明: CQS リソース・マネージャーが、クライアント・イベント出口を駆動して、クライアントからの未解決の CQS 要求のすべてを通知または再開することができました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cccccccc

クライアント名

モジュール: CQSRSM10

CQS0106W INTF CLEANUP FAILED: CLIENT=cccccccc, RSN=rrr

説明: CQS アドレス・スペースが終了したとき、クライアントの CQS をモニターする CQS リソース・マネージャーが、そのクリーンアップのフェーズで失敗しました。理由コードが、発生した問題を示します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cccccccc

クライアント名

rrr 次のいずれかの理由コード。

- 104 リソース・マネージャーが、CQS が終了したことをクライアントに通知するための CXSH ブロック用の共通ストレージを取得できませんでした。
- 108 リソース・マネージャーが、CQS が終了したことをクライアントに通知す

るための、クライアント・アドレス・スペースに対する SRB をスケジュールできませんでした。

- 10C** リソース・マネージャーが、CQS インターフェース・ブロックをクリーンアップするための、クライアント・アドレス・スペースに対する SRB をスケジュールできませんでした。
- 110** リソース・マネージャー (CQSRSM10) で異常終了が発生しました。

システム・プログラマーの応答: CQS リソース・マネージャーが処理を完了する前にクライアント・アドレス・スペースが終了した場合、理由コード 108 または 10C を伴ったこのメッセージが表示されます。この場合、他の CQS リソース・マネージャーが CQS インターフェース・ストレージをクリーンアップしているので、処置は必要ありません。

それ以外の場合はすべて、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。理由コード 110 が表示された場合、SYS1.LOGREC のレコードを印刷して、異常終了に関する情報を入手します。

モジュール: CQSRSM10

CQS0110W CLIENT *client_id* **EXIT SRB ABEND**
abend_code **PSW=psw R15=r15**
CQSSRB10=srb10_addr
EXIT=exit_addrstatus

説明: CQS が、CQS クライアント出口を駆動するために、クライアント *client_id* のアドレス・スペースに対して SRB をスケジュールしました。CQS SRB ルーチンまたはクライアント出口が異常終了しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

client_id

終了したクライアントの 8 文字の CQS クライアント ID。

abend_code

発生した異常終了 (システム異常終了の場合は Sxxx、ユーザー異常終了の場合は Uxxxx)。

psw

異常終了時の PSW (プログラム状況ワード) の内容。

r15

終了時のレジスター 15 の内容。一部の異常終了の場合、これは異常終了サブコードです。

srb10_addr

CQS モジュール CQSSRB10 のアドレス。CQSSRB10 は、クライアントのアドレス・スペースにスケジュールされる CQS SRB ルーチンです。

exit_addr

呼び出されるクライアント出口のアドレス。

status クライアント出口処理中に異常終了が発生した場所を示すテキスト・ストリング。 *status* フィールドの値は、次のいずれかです。

BEFORE EXIT

クライアント出口が呼び出される前に異常終了が発生しました。

IN EXIT

クライアント出口の制御下で異常終了が発生しました。

AFTER EXIT

クライアント出口から戻った後で異常終了が発生しました。

このメッセージは、クライアント・アドレス・スペースで発行されます。

システムの処置: クライアント出口 SRB が異常終了した場合、CQS はクライアントのアドレス・スペースも CQS アドレス・スペースも終了させず、またメモリー・ダンプも作成しません。SRB の機能復旧ルーチン (FRR) は、z/OS に戻る前に次の処置を行います。

- このメッセージを発行する。
- クライアントおよび CQS のアドレス・スペースの SDUMP を生成する
- 要求に関連する CQS およびクライアントのストレージのクリーンアップを試みる

FRR は、異常終了に関する診断情報を LOGREC データ・セットに記録します。

システム・プログラマーの応答: 生成されたメモリー・ダンプのコピーを保管し、この異常終了に関連する LOGREC レコードのコピーを保管または印刷します。このメッセージの *status* フィールドが IN EXIT 以外の値であり、クライアントが IBM 製品 (IMS など) の場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。 *status* フィールドが IN EXIT で、クライアントが IBM 製品でない場合、そのクライアントの提供業者に連絡してください。

モジュール: CQSRSM00

CQS0111W CQS INTERFACE ABEND *abend_code*
PSW=psw
R15=r15module=module_addrstatus

説明: CQS 要求の処理中に、クライアントと CQS の間のインターフェースで異常終了が発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

abend_code

発生した異常終了 (システム異常終了の場合は Sxxx、ユーザー異常終了の場合は Uxxxx)。

psw 異常終了時の PSW (プログラム状況ワード) の内容。

r15 異常終了時のレジスター 15 の内容。一部の異常終了の場合、これは異常終了サブコードです。

module 異常終了を検出した CQS インターフェース・モジュールの名前。これは、必ずしも終了したモジュールではありません。異常終了が発生したためにリカバリー・ルーチン (ESTAE または FRR) が駆動されたモジュールです。このフィールドの値には、以下のものがあります。

CQSREG00

CQS への登録中に終了が発生しました。

CQSREG20

CQS への登録中に終了が発生しました。

CQSRQS00

インターフェースの入力側で終了が発生しました。インターフェースの入力側は、CQS アドレス・スペースに要求を送信します。

CQSSRB00

インターフェースの出力側で終了が発生しました。インターフェースの出力側は、CQS 要求の結果を CQS からクライアントに戻します。

module_addr

検出したモジュールのアドレス。

status

クライアント出口処理中に異常終了が発生した場所を示すテキスト・ストリング。この *status* フィールドは、このメッセージを出力するすべてのモジュールについて存在するわけではありません。

module が CQSREG00 または CQSREG20 の場合、*status* はブランクです。 *module* が CQSRQS00 の場合、*status* は以下のいずれかになります。

BEFORE COPY

要求データが CQS アドレス・スペースにコピーされる前に終了が発生しました。

IN COPY

要求データを CQS アドレス・スペースにコピーする処理中に終了が発生しました。異常終了の原因は、おそらく、クライアントから渡された無効なデータのためです。

IN ENQUEUE

要求を CQS アドレス・スペースにエンキュー中に終了が発生しました。

AFTER COPY

要求を CQS アドレス・スペースにコピーおよびエンキューした後で終了が発生しました。

STATUS UNKWN

異常終了が発生したときに、FRR が要求の状況を判別できませんでした。

module が CQSSRB00 の場合、*status* は以下のいずれかになります。

BEFORE COPY

要求データがクライアント・アドレス・スペースにコピーされる前に終了が発生しました。

IN COPY

要求データをクライアント・アドレス・スペースにコピーする処理中に終了が発生しました。異常終了の原因は、おそらく、クライアントから渡された無効なデータのためです。

AFTER COPY

要求データがクライアント・アドレス・スペースにコピーされた後で終了が発生しました。

IN POST

要求が完了した後、クライアントをウェイクアップさせるための通知 (または再開) が行われているときに終了が発生しました。

STATUS UNKWN

異常終了が発生したときに、FRR が要求の状況を判別できませんでした。

システムの処置: 要求インターフェースで異常終了が発生した場合、インターフェースの機能回復ルーチンが z/OS から制御を受け取ります。FRR は、異常終了を分析し、適切なりカバリー処置を実施し、診断データを収集します。

CQS インターフェースの異常終了には、次のような複数の原因が考えられます。

- クライアント・プログラムによって渡された無効データ
- インターフェース・モジュール内のエラー
- 環境エラー (オーバーレイされた制御ブロックまたはストレージ問題など)
- 終了した CQS についての CQS リソース・クリーンアップでの問題、または現在終了中の CQS についてのタイミング条件

上記リストの最後の原因は、CQS アドレス・スペースが終了を強制され、いくつかの CQS リソースがクリーンアップされなかった場合に発生します。また、要求が

発行されるのと同時に CQS が終了中の場合にも発生することがあります。これらの場合、もはや存在しない CQS アドレス・スペースの呼び出しをインターフェースが試みているために、終了が発生する可能性があります。これらのタイプの異常終了の場合、インターフェース FRR はリカバリーし、CQS が使用不能であることを示す戻りコードを戻しますが、CQS0111W メッセージまたは SDUMP を発行することはありません。

その他すべての異常終了では、インターフェース FRR はこのメッセージを発行し、クライアント・アドレス・スペースおよび (可能ならば) CQS アドレス・スペースの SDUMP を生成します。また、FRR は、診断情報を LOGREC データ・セットに記録し、要求に関連するリソースのクリーンアップを試みます。

FRR が安全に再試行できるポイントで異常終了が発生した場合、FRR は再試行し、クライアントにゼロ以外の戻りコードを戻します。要求の状況が不明であるか、再試行によりデータ安全性が失われる可能性があるためにリカバリーが不可能なポイントで異常終了が発生した場合、異常終了は再試行されません。これらの場合、クライアントが終了するか、または要求が完了しないことがあります。

システム・プログラマーの応答: 生成されたメモリー・ダンプのコピーを保管し、この異常終了に関連する LOGREC レコードのコピーを保管または印刷します。クライアントが IBM 製品 (IMS など) の場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。クライアントが IBM 製品でない場合、そのクライアントの提供者に連絡してください。

モジュール: CQSREG00, CQSREG20, CQSRQS00, CQSSRB00

CQS0112I SDUMP FAILED FOR *abend* ABEND, RC=*rc*, RSN=*rsn*

説明: CQS が、異常終了後にアドレス・スペースのメモリー・ダンプを生成するために、z/OS に対して SDUMP 呼び出しを発行しましたが、SDUMP が正常に実行されませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

abend ストレージ・メモリー・ダンプが作成された対象の異常終了コード。システム異常終了の場合、コードのフォーマットは Sxxx です (xxx は 3 桁の 16 進の異常終了コード)。ユーザー異常終了の場合、コードのフォーマットは Udddd です (dddd は 4 桁の 10 進の異常終了コード)。

rc MVS SDUMP マクロからの戻りコード。

rsn MVS SDUMP マクロからの理由コード。

システムの処置: SDUMP はスキップされます。

システム・プログラマーの応答: MVS SDUMP マクロからの戻りコードおよび理由コードを使用して、SDUMP 障害の原因を判別します。可能であれば、将来のメモリー・ダンプが逸失しないように、障害の原因を訂正します。

モジュール: CQSRQS00, CQSRSM00, CQSSRB00, CQSSRB10

関連資料:

 z/OS: SDUMP の戻りコードおよび理由コード

CQS0113I DAE SUPPRESSED DUMP FOR *abend* ABEND

説明: CQS が、異常終了後にアドレス・スペースのメモリー・ダンプを生成するために、z/OS に対して SDUMP 呼び出しを発行しましたが、SDUMP は z/OS メモリー・ダンプ分析重複回避機能 (DAE) によって抑止されました。

CQS リカバリー・ルーチンは、異常終了に関連する症状ストリング・データを収集し、SDUMP が要求されたときにこのデータを z/OS に提供します。DAE が使用可能な場合、z/OS は重複したメモリー・ダンプ、例えば、直前に収集されたメモリー・ダンプとまったく同じ症状ストリングを持つダンプを抑止します。DAE は、MVS ADYSETxx PARMLIB メンバーおよび MVS SET DAE コマンドを介して制御されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

abend メモリー・ダンプが作成された対象の異常終了コード。システム異常終了の場合、コードのフォーマットは Sxxx です (xxx は 3 桁の 16 進の異常終了コード)。ユーザー異常終了の場合、コードのフォーマットは Udddd です (dddd は 4 桁の 10 進の異常終了コード)。

システムの処置: SDUMP はスキップされます。CQS で生成されるメモリー・ダンプは、症状ストリングが直前のダンプと一致し、ADYSETxx での現行の DAE 設定が SUPPRESS または SUPPRESSALL のいずれかであれば抑止されます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: CQSRQS00, CQSRSM00, CQSSRB00, CQSSRB10

関連資料:

 z/OS: ADYSETxx (ダンプの抑止)

z/OS: ADYSETxx のステートメント/パラメータ

CQS0114E CQS RESMGR ABEND *abend_code*
PSW=*psw* **RSN=***reason* **module=***modaddr*
status

説明: リソース・クリーンアップ処理中に、CQS リソース・マネージャーのクリーンアップ・モジュールで異常終了が発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

abend_code

発生した異常終了 (システム異常終了の場合は Sxxx、ユーザー異常終了の場合は Uxxxx)。

psw 終了時の PSW (プログラム状況ワード) の内容。

reason 異常終了理由コード、理由コードがない場合は N/A。

module 異常終了を検出した CQS リソース・モジュールの名前。これは、必ずしも終了したモジュールではありません。異常終了が発生したためにリカバリー・ルーチン (ESTAE) が駆動されたモジュールです。

modaddr

検出したモジュールのアドレス。

status 終了発生時に実行していたリソース・クリーンアップ処理を示すテキスト・ストリング。リソースがモジュール CQSRSRM00 の場合、「status」は次のいずれかの値です。

UNKNOWN

クリーンアップされているリソースを判別できませんでした。

CGIB CLEANUP

CQS グローバル・インターフェース・ブロック (CGIB) がクリーンアップされていました。

CQSLOGP0 LOAD

モジュール CQSLOGP0 (ログ・レコード・ページ・プロセッサ) のロード中でした。

CQSLOGP0 PURGE

モジュール CQSLOGP0 は、CQS ログ・レコードのページ処理中でした。

SRB CPOOL FREE

グローバル SRB セル・プールが解放されていました。

ENF DELETE

ENF LISTEN が削除されていました。

モジュールが CQSRSRM10 の場合、「status」は次のいずれかの値です。

UNKNOWN

クリーンアップされているリソースを判別できませんでした。

REQUEST CLEANUP

CQSRSRM10 は、CQS の終了後に、経過中要求のクリーンアップ処理中でした。異常終了は、一般のクリーンアップ (特定の要求のクリーンアップではなく) の処理中に発生しました。要求のクリーンアップ処理は終了します。

CLNT RQST POST

CQSRSRM10 は、終了発生時に待ち要求を通知していました。処理は、次の経過中要求から続行されます。

CLNT RQST RESUME

CQSRSRM10 は、異常終了の発生時に、中断状態の要求の TCB を再開していました。処理は、次の経過中要求から続行されます。

システムの処置: リソース・マネージャーのクリーンアップ・ルーチンのリカバリー・ルーチンが、データを SYS1.LOGREC に保管します。状況によっては、問題の診断データを収集するためのメモリー・ダンプも作成されます。異常終了からのリカバリーが可能であれば、リカバリー・ルーチンは制御をリソース・マネージャーに戻して、リソース・クリーンアップ処理を続行できるようにします。

プログラマーの応答: メモリー・ダンプが生成された場合はそのメモリー・ダンプを保管し、この異常終了に関連する SYS1.LOGREC レコードのコピーを保管または印刷します。その上で IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: CQSRSRM00、CQSRSRM10

CQS0115E ABEND RECURSION DETECTED IN
module - **RETRY WILL BE SKIPPED**

説明: CQS リカバリー・ルーチンが異常終了再帰を検出しました (同じ場所で何度も繰り返す異常終了、または同じルーチン内での過剰な回数の異常終了)。リカバリー・ルーチンは、この再帰が繰り返されないようにするため、異常終了の再試行を行わずになっています。

メッセージ・テキストの *module* は、異常終了再帰を検出したリカバリー・ルーチンのある CQS モジュールの名前です。

システムの処置: リカバリー・ルーチンは、現在の異常終了の再試行 (異常終了からのリカバリー) を試みません。代わりに、このルーチンは異常終了を次のリカバリ

ー・ルーチン (もしあれば) に移動します。これにより、アドレス・スペースが終了する可能性があります。

プログラマーの応答: 生成されたメモリー・ダンプを保管し、そのデータのコピーを SYS1.LOGREC 内に保管または印刷してから、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: CQSRS00、CQSRS10

**CQS0116I INTERNAL ABNORMAL
DISCONNECT PROCESSED FOR
CLIENT *client* REASON *rr***

説明: CQS は、以前に接続されたクライアントのアドレス・スペースが、CQS から切断および登録解除されずに終了したことを検出しました。CQS は、接続していたすべての構造からクライアントを内部的に切断します。この状態は、次のいずれかの理由で発生します。

- 正常終了するときに CQS 構造から切断するように、CQSDISC マクロが CQS クライアントでコーディングされていない場合。
- 異常終了するときに ESTAE 処理中に CQS 構造から切断するように、CQSDISC マクロが CQS クライアントでコーディングされていない場合。
- そのリカバリー・ルーチンが制御の取得 (MVS FORCE コマンドや MEMTERM など) を行えなくなるような重大な障害が、CQS クライアントで発生した場合。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

client 内部異常切断が処理されたクライアントの名前。

rr 終了したクライアントの検出および内部異常切断の開始を行った CQS モジュールを示す理由コード。この理由コードは次のいずれかです。

01 CQSCON00 - クライアントの新規インスタンスの接続処理で、クライアントの前のインスタンスがまだ接続されていたことが検出されました。

02 CQSRS20 - クライアントをモニターする CQS リソース・マネージャーが、クライアント終了時に駆動されました。

04 CQSRQS40 - CQS が今終了したクライアントが発行した CQS 要求の結果を戻そうとしている際に、そのクライアントのアドレス・スペースがアクティブではなくなっていることを検出しました。

06 CQSRQS60 - CQS がクライアント出口を駆動しようとしている際に、その

クライアントのアドレス・スペースがアクティブではなくなっていることを検出しました。

システムの処置: CQS は、CQS アドレス・スペース内の終了クライアントの接続をクリーンアップします。

システム・プログラマーの応答: 応答は必要ありません。CQS はクライアント接続をクリーンアップして再利用できるようにします。しかし、このクライアントがインストール先作成の CQS クライアント・プログラムの場合は、そのクライアントを変更して、終了前に CQS から切断する CQSDISC 呼び出しが適切に発行されるように図る必要があります。

**CQS0200I STRUCTURE *structurename* QUIESCED
FOR *quiesce reason***

説明: 構造プロセスが開始したため、CQS が構造を静止しました。CQS は、静止した構造上でのアクティビティを許可しません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

structurename

CQS が静止した構造の名前

quiesce reason

次の構造プロセスのいずれかです。

OVERFLOW THRESHOLD PHASE 1
OVERFLOW THRESHOLD PHASE 2
OVERFLOW SCAN START
OVERFLOW SCAN END
STRUCTURE CHECKPOINT
STRUCTURE DUPLEXING
STRUCTURE REBUILD
STRUCTURE DUPLEXING

システムの処置: CQS の処理は継続するが、構造上でのアクティビティは許可されません。

モジュール: CQSSTE00、CQSSTE10、CQSSTE20

**CQS0201I STRUCTURE *structurename* RESUMED
AFTER *quiesce reason***

説明: CQS が、構造プロセスの完了後に、静止した構造を再開しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

structurename

CQS が再開した構造の名前

quiesce reason

次の構造プロセスのいずれかです。

OVERFLOW THRESHOLD PHASE 1
OVERFLOW THRESHOLD PHASE 2

CQS0202I • CQS0210I

OVERFLOW SCAN START
OVERFLOW SCAN END
STRUCTURE CHECKPOINT
STRUCTURE DUPLEXING
STRUCTURE REBUILD
STRUCTURE DUPLEXING

システムの処置: CQS の処理は継続し、構造上のアクティビティが再び許可されます。

モジュール: CQSSTE10、CQSSTR00、CQSSTE20

CQS0202I STRUCTURE *structurename* STATUS CHANGED; STATUS= *structure status*

説明: CQS が構造との接続を失うか、または構造との接続を再取得するか、あるいは構造で障害が発生すると、状況変更を示すためにこのメッセージが発行されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

structurename

状況が変更された構造の名前

structure status

次のいずれかです。

CONNECTION

接続が失われた後、CQS が構造に接続できました。

LOST CONNECTION

CQS が構造との接続を失いました。

STRUCTURE FAILURE

構造障害が発生しました。

システムの処置: CQS の処理は続行されます。

モジュール: CQSSTE00、CQSSTR00

CQS0205E STRUCTURE *structurename* IS FULL

説明: 示された構造が満杯です。いくつかのデータ・オブジェクトが除去されるまでは、新しいデータ・オブジェクトをこの構造に入れることができません。このメッセージは、最初に CQS が構造満杯状態に達したときに発行されます。このメッセージが再び発行されるのは、CQS がオーバーフロー・モードを終了し、オーバーフロー・モードに戻り、再び構造満杯状態に達した場合のみです。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

structurename

満杯になった構造の名前

リソース構造の場合、このメッセージは、リソース構造が満杯であるためにリソース・リスト項目の CQSUPD

要求が失敗した場合に発行されます。リソース更新リスト内でそのような失敗が初めて発生すると、このメッセージが表示されます。リソース更新リストについて CQS0205E メッセージが多くても 1 つだけ発行されません。

システムの処置: CQS の処理は続行されます。

システム・プログラマーの応答: データ・オブジェクトを構造から除去する処置を取ります。また、まだオーバーフロー構造を使用して実行していない場合は、それも検討します。

モジュール: CQSPUT00、CQSPUT20、CQSMOV10、CQSSTS20、CQSUPD00

関連概念:

 CQS 構造フルの防止 (システム管理)

CQS0206I CQS *structurename percentage* BELOW THRESHOLD LEVEL

説明: CQS 構造スペース使用率が、しきい値レベル未満の示されたパーセンテージに低下しました。前のしきい値処理で、オーバーフロー構造にキューを移動しなかったため、この構造はオーバーフロー処理には不適格でした。このメッセージが発行されると、構造はしきい値処理に適格になります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

structurename

スペース使用率がしきい値レベル未満に低下した構造の名前。

percentage

しきい値レベル未満に低下した構造のスペース使用率のパーセンテージ。

システムの処置: CQS の処理は続行されます。示された構造は現在、しきい値処理に適格です。

モジュール: CQSDEL10、CQSMOV10

CQS0210I STRUCTURE *strname* REPOPULATION REQUESTED

説明: リソース構造が失敗しました。CQS は、新規の構造を正常に割り振ったので、クライアントに構造の再設定を要求しました。

メッセージ・テキスト内の *strname* は、リソース構造名です。

システムの処置: CQS は、構造 vent 出口で構造を再設定するよう、クライアントに通知しました。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: CQSSTE30

CQS0220I **CQS** *cqsname* **STARTED STRUCTURE CHECKPOINT FOR STRUCTURE**
structurename

説明: 構造チェックポイントを取得中です。構造チェックポイントが開始されると、その構造に接続されているすべての CQS がこのメッセージを出力します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

structurename

CQS がチェックポイントを取る構造の名前

cqsname

構造チェックポイントのマスターである CQS の名前

システムの処置: CQS の処理は続行されます。

モジュール: CQSSTE10

CQS0221I **CQS** *cqsname* **COMPLETED STRUCTURE CHECKPOINT FOR STRUCTURE** *structurename*

説明: 構造チェックポイントの処理が完了しました。構造チェックポイントが成功すると、その構造に接続されているすべての CQS がこのメッセージを出力します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

structurename

CQS がチェックポイントを取った構造の名前

cqsname

構造チェックポイントのマスターである CQS の名前

システムの処置: CQS の処理は続行されます。

モジュール: CQSSTE10

CQS0222E **CQS** *cqsname* **FAILED STRUCTURE CHECKPOINT FOR STRUCTURE**
structurename **RC=***xxxxxxxx*

説明: 構造チェックポイントが失敗しました。構造に接続されているすべての CQS がこのメッセージを出力します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cqsname

構造チェックポイントのマスターである CQS の名前

structurename

CQS がチェックポイントを試みた構造の名前

xxxxxxxx

構造チェックポイントの戻りコード。ここで、

xx は、エラーを検出した次のいずれかのモジュールを示し、*nnnnnn* はエラーの理由を示します。

X'10' CQSSTE10

X'30' CQSCHK30

X'40' CQSCHK40

X'60' CQSCHK60

X'FF' CQSSTE00

xxxxxxxx は次のいずれかです。

X'10020000'

この CQS の CQS 構造チェックポイント処理が、構造静止ラッチを取得できませんでした。この CQS の構造チェックポイントの処理は終了します。

ラッチを取得できない場合、マスター CQS は次のいずれかの方法でエラーを処理します。

- CQS0222E RC=10020000 および異常終了 U0100-00000004
- CQS0222E RC=10020000 および CQS0222E RC=30000098、および構造チェックポイント処理の終了

参加プログラムである CQS がラッチを取得できず、U0100-00000004 で異常終了する場合、マスター CQS は構造チェックポイントの処理を継続します。この CQS が異常終了しない場合、マスター CQS は構造チェックポイントの処理を終了させます。

関連する理由コード 10220000 および 30000098 を参照してください。

X'10220000'

別の CQS の CQS 構造チェックポイント処理が、構造静止ラッチを取得できませんでした。これは伝搬エラーです。この CQS の構造チェックポイントの処理は終了します。エラーがマスター CQS に伝搬される場合、CQS0222E RC=10220000 は発行されません。マスター CQS は、構造チェックポイント処理を終了させて、CQS0222E RC=30000098 を発行します。

関連する理由コード 10020000 および 30000098 を参照してください。

X'30000004'

別の CQS がすでに構造チェックポイントの処理を実行中のため、CQS が構造チェックポイントを実行できませんでした。構造は、別の CQS によってチェックポイントを取られるため、構造チェックポイントでのこの試みは終了

CQS0222E

します。処置は必要ありません。このエラー・メッセージの前に、CQS0220 メッセージは発行されていません。

X'30000008'

構造リカバリーが必要なため、CQS が構造チェックポイントを実行できませんでした。構造チェックポイントでのこの試みは終了します。構造リカバリーの完了後、CQS によって構造チェックポイントが開始されます。アクションは不要です。

X'3000000C'

CQS 構造チェックポイントが、CQS 終了ラッチを取得できませんでした。構造チェックポイントの処理は終了します。このエラー・メッセージの前に、CQS0220 メッセージは発行されていません。

X'30000010'

CQS 構造チェックポイントが、構造静止ラッチを取得できませんでした。構造チェックポイントの処理は終了します。このエラー・メッセージの前に、CQS0220 メッセージは発行されていません。

X'30000020'

CQS 構造チェックポイントが、制御リスト・ヘッダーに対するロックを取得できませんでした。構造チェックポイントの処理は終了します。このエラー・メッセージの前に CQS0220 メッセージが発行されていない可能性があります。

X'30000024'

CQS 構造チェックポイントが、CQSSTRCHKPTINPRG 制御リスト項目を読み取れませんでした。構造チェックポイントの処理は終了します。

X'30000028'

CQS 構造チェックポイントが、CQSOVERFLOW 制御リスト項目を読み取れませんでした。構造チェックポイントの処理は終了します。

X'3000002C'

CQS が、現在、オーバーフローしきい値またはオーバーフロー・スキャンの処理中です。構造チェックポイントでのこの試みは終了します。オーバーフローの処理の完了後、CQS によって構造チェックポイントが開始されます。アクションは不要です。

X'30000030'

CQS 構造チェックポイントが、CQSOVERFLOW 制御リスト項目を書き込めませんでした。構造チェックポイントの処理は終了します。このエラー・メッセージの前に、CQS0220 メッセージは発行されていません。

X'30000034'

CQS 構造チェックポイントが、CQSSTRCHKPT 制御リスト項目を書き込めませんでした。構造チェックポイントの処理は終了します。

X'30000038'

CQS 構造チェックポイントが、CQSSTRCHKPTINPRG 制御リスト項目を書き込めませんでした。構造チェックポイントの処理は終了します。このエラー・メッセージの前に、CQS0220 メッセージは発行されていません。

X'3000003C'

CQS 構造チェックポイントが、CQSSTRCHKPTINPRG 制御リスト項目を削除できませんでした。構造チェックポイントの処理は終了します。

X'30000040'

CQS 構造チェックポイントが、制御リスト・ヘッダーに対するロックを解放できませんでした。構造チェックポイントの処理は終了します。このエラー・メッセージの前に CQS0220 メッセージが発行されていない可能性があります。

X'30000050'

CQS 構造チェックポイントが、構造リカバリー・データ・セットを割り振れませんでした。構造チェックポイントの処理は終了します。CQS0050E メッセージを参照して、データ割り振りが失敗した理由を判別してください。

X'30000054'

CQS 構造チェックポイントが、構造リカバリー・データ・セットをオープンできませんでした。構造チェックポイントの処理は終了します。CQS0054E メッセージを参照して、オープンが失敗した理由を判別してください。データ・セットのエラーを訂正してから、新たな構造チェックポイントを開始してください。

X'30000058'

CQS 構造チェックポイントが、SRDS 制御レコードの読み取り/書き込みのためのバッファを (BPEGETM を使用して) 割り振れませんでした。構造チェックポイントの処理は終了します。

X'3000005C'

CQS 構造チェックポイントが、構造リカバリー・データ・セットの制御レコードを読み取れませんでした。構造チェックポイントの処理は終了します。CQS0054E メッセージを参照して、オープンが失敗した理由を判別してください。

い。データ・セットのエラーを訂正してから、新たな構造チェックポイントを開始してください。

X'30000060'

CQS 構造チェックポイントが、構造リカバリー・データ・セットの制御レコードを書き込めませんでした。構造チェックポイントの処理は終了します。CQS0054E メッセージを参照して、オープンが失敗した理由を判別してください。データ・セットのエラーを訂正してから、新たな構造チェックポイントを開始してください。

X'30000064'

CQS 構造チェックポイントが、構造リカバリー・データ・セットをクローズできませんでした。構造チェックポイントの処理は終了します。CQS0054E メッセージを参照して、クローズが失敗した理由を判別してください。データ・セットのエラーを訂正してから、新たな構造チェックポイントを開始してください。

X'30000068'

CQS 構造チェックポイントが、構造リカバリー・データ・セットの割り振りを解除できませんでした。構造チェックポイントの処理は終了します。CQS0050E メッセージを参照して、データ割り振りが失敗した理由を判別してください。データ・セットのエラーを訂正してから、新たな構造チェックポイントを開始してください。

X'30000080'

CQS 構造チェックポイントが、データ・スペースを初期設定できませんでした。構造チェックポイントの処理は終了します。

X'30000084'

CQS 構造チェックポイントが、構造チェックポイント開始ログ・レコードを書き込めませんでした。構造チェックポイントの処理は終了します。

X'30000088'

CQS 構造チェックポイントが、構造チェックポイント終了ログ・レコードを書き込めませんでした。構造チェックポイントの処理は終了します。

X'3000008C'

CQS 構造チェックポイントが、AWE を (BPECBGET を使用して) 割り振れませんでした。構造チェックポイントの処理は終了します。

X'30000090'

CQS 構造チェックポイントが、AWE を (BPEAWSRV を使用して) IXLUSYNC プロセ

ッサーにエンキューできませんでした。構造チェックポイントの処理は終了します。

X'30000094'

CQS 構造チェックポイントが、AWE を (BPEAWSRV を使用して) CQSCHK60 にエンキューできませんでした。構造チェックポイントの処理は終了します。

X'30000098'

CQS 構造チェックポイントが、構造を静止できませんでした。1 つ以上の CQS が構造静止ラッチを取得できませんでした。構造チェックポイントの処理は終了します。ラッチを取得できなかった CQS は、メッセージ CQS0222E RC=10020000 を出力します。

関連する理由コード 10020000 および 10220000 を参照してください。

X'3000009C'

CQS 構造チェックポイントが、CQSCHK40 のスレッドを作成できませんでした。構造チェックポイントの処理は終了します。

X'300000F0'

CQS が終了中に、構造チェックポイントが要求されました。構造は、別の CQS によってチェックポイントを取られるため、構造チェックポイントでのこの試みは終了します。

X'300000F4'

CQS 構造チェックポイントが、構造を静止できませんでした。内部シリアライゼーション・エラーが発生したため、CQS チェックポイント処理が構造チェックポイント・データのコピーを開始したときに構造が正しく静止されませんでした。構造チェックポイントを手動で発行して、別の構造チェックポイントを試みてください。

X'40000004'

CQS 構造チェックポイントが、構造からの読み取りを試みたときにエラーを検出しました。CQS が構造に接続されていないため、IXLLIST 要求が失敗しました。このエラーは、接続が失敗し、CQS が構造を再作成できない場合に発生します。この場合、CQS が構造から切断されていて、構造がアクセス不能である可能性があります。構造チェックポイントの処理は終了します。

X'40000008'

CQS 構造チェックポイントが、構造からの読み取りを試みたときにエラーを検出しました。構造障害のため、IXLLIST 要求が失敗しました。構造チェックポイントの処理は終了します。

CQS0223I

X'4000000C'

CQS 構造チェックポイントが、構造からの読み取りを試みたときにエラーを検出しました。IXLLIST 要求が、予期しない戻りコードおよび理由コードで失敗しました。構造チェックポイントの処理は終了します。

X'40000010'

CQS 構造チェックポイントが、GETBUF 要求を実行するために CQSCHK50 を呼び出しました。要求は失敗しました。構造チェックポイントの処理は終了します。

X'40000014'

CQS 構造チェックポイントが、BUFCMPLT 要求を実行するために CQSCHK50 を呼び出しました。要求は失敗しました。構造チェックポイントの処理は終了します。

X'60000004'

CQS 構造チェックポイントが、構造リカバリー・データ・セットにデータを書き込むためのバッファを (BPEGETM を使用して) 割り振れませんでした。構造チェックポイントの処理は終了します。

X'60000008'

CQS 構造チェックポイントが、バッファを (BPEFREEM を使用して) 解放できませんでした。構造チェックポイントの処理は終了します。

X'6000000C'

CQS 構造チェックポイントが、構造リカバリー・データ・セットに書き込めませんでした。構造チェックポイントの処理は終了します。CQS0054E メッセージを参照して、書き込みが失敗した理由を判別してください。データ・セットのエラーを訂正してから、新たな構造チェックポイントを開始してください。

X'60000010'

CQS 構造チェックポイントが、モジュール CQSCHK60 からの TERMWRT 要求を処理中にエラーを検出しました。モジュールが、書き込みに必要なエクステント・ブロックを検出したが、エクステント・ブロック内のシーケンス番号が正しいシーケンス番号ではありません。

X'60000014'

CQS 構造チェックポイントが、モジュール CQSCHK60 からの TERMWRT 要求を処理中にエラーを検出しました。モジュールが、SRDS に書き込まれていなければならないエクステント・ブロックが内部 WRITE PENDING キュー上にまだ存在していることを検出しました。

X'FF000004'

CQS 構造チェックポイント・マスターが、フ

ェーズ 1 とフェーズ 2 の間で失敗しました。マスター *cqsname* は、構造チェックポイントを引き継いだ CQS です。構造チェックポイントでのこの試みは正常に終了せず、新しい試みが開始されます。アクションは不要です。

X'FF000008'

CQS 構造チェックポイント・マスターが、フェーズ 2 とフェーズ 3 の間で失敗しました。マスター *cqsname* は、構造チェックポイントを引き継いだ CQS です。構造チェックポイントでのこの試みは正常に終了せず、新しい試みが開始されます。アクションは不要です。

X'FF00000C'

CQS 構造チェックポイント・マスターが、フェーズ 1 とフェーズ 2 の間で失敗しました。この時点で構造に接続されていた CQS がいないため、構造チェックポイントは引き継げませんでした。メッセージ内の *cqsname* は、構造を再接続した後で障害を検出した CQS の ID です。構造チェックポイントでのこの試みは正常に終了しません。開始される新しい構造チェックポイントはありませ

X'FF000020'

この CQS が、構造チェックポイントのフェーズ 1 と 2 の間で、構造への接続を失いました。 *cqsname* は、接続を失った CQS の ID です。この CQS の構造チェックポイントは正常に終了しませんでした。この CQS が構造チェックポイント・マスターではなかった場合、構造チェックポイントは、構造にまだ接続している CQS のすべてについて継続します。

システムの処置: CQS の処理は続行されます。

システム・プログラマーの応答: 問題を解決できない場合は、SYSLOG およびマスター CQS アドレス・スペースのダンプをコピーしてから、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を受けてください。

モジュール: CQSCHK30, CQSSTE10

関連情報:

48 ページの『CQS0050E』

49 ページの『CQS0054E』

CQS0223I **STRUCTURE** *structurename*
 ENTRIES=#*entries* **ELEMENTS**=#*elements*
 EMCS=#*emcs*

説明: このメッセージは、構造が静止された後、マスター・チェックポイントである CQS による構造チェックポイントの開始時に発行されます。このメッセージは、その構造で現在使用中の項目、エレメント、およびイベ

ント・モニター制御 (EMC) の数に関する情報を示します。

項目は CQS キュー構造上の 1 つのオブジェクトを表します。オブジェクトごとに 1 つの項目があります。エレメントはオブジェクトのデータを表します。オブジェクトごとに 1 つ以上のエレメントがあります。CQS 構造の場合、各エレメントは 512 バイトです。各オブジェクトには、そのオブジェクトのデータを含むために必要な数のエレメントが割り振られます。EMC は 1 つのキュー名に対する通知要求 (CQSINFRM) を表します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

structurename

チェックポイントが取られている構造の名前。

#entries

その構造で現在使用中の項目の数。

#elements

その構造で現在使用中のエレメントの数。

#emcs

その構造で現在使用中の EMC の数。

システムの処置: CQS の処理は続行されます。

システム・プログラマーの応答: ありません。このメッセージは通知メッセージです。ただし、構造チェックポイントに長時間かかる場合は、チェックポイントが取られている項目とエレメントの数をそれ以前の他のチェックポイントと比較して、読み取り対象の情報量が多いことが遅延の原因であるかどうかを確認できます。EMC ではチェックポイントが取られません。EMC の統計は、情報の完全性を確保するために提供されます。

モジュール: CQSCHK30

CQS0224E CQS *cqsname* FAILED AUTOMATIC STRUCTURE CHECKPOINT FOR STRUCTURE *structurename*

説明: ユーザー指定のログ・レコード番号に基づいた自動構造チェックポイントが失敗しました。構造に接続されているすべての共通キュー・サーバー (CQS) が、このメッセージを発行する可能性があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cqsname

構造チェックポイントのマスターである CQS の名前。

structurename

CQS がチェックポイントを取ろうとした構造の名前。

システムの処置: CQS の処理は続行されます。

出力宛先: システム・ログ。

システム・プログラマーの応答: 手動で /CQSCHKPT コマンドを発行して手動構造チェックポイントを実行してください。

問題判別: 手動で /CQSCHKPT コマンドを発行しても問題が継続する場合は、SYSLOG、およびマスター CQS アドレス・スペースのダンプをコピーしてから、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: CQSCHK30

関連資料:

 /CQCHKPT コマンド (コマンド)

CQS0240I CQS *cqsname* STARTED STRUCTURE REBUILDTYPE FOR STRUCTURE *structurename*

説明: CQS が、キューをリカバリーまたはコピーするための、z/OS システム間拡張サービス (XES) の構造再作成を開始しました。マスター CQS は、再作成のタイプを判別し、再作成を実行します。構造に接続されているその他の CQS は、構造再作成に参加しているが、実際にはキューのリカバリーもコピーも行いません。構造再作成が開始されると、その構造に接続されているすべての CQS がこのメッセージを出力します。

構造リカバリーは、構造リカバリー・データ・セットおよび z/OS システム・ログからのキューのリカバリーを伴います。構造のコピーは、あるリスト構造から別のリスト構造へのキューのコピーを伴います。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cqsname

構造再作成のマスターである CQS の名前

structurename

CQS が再作成する構造の名前

rebuildtype

実行される構造再作成のタイプ (RECOVERY、COLDSTART、または COPY のいずれか)

システムの処置: CQS の処理は続行されます。

モジュール: CQSSTR00

CQS0241I CQS *cqsname* COMPLETED STRUCTURE REBUILDTYPE FOR STRUCTURE *structurename*

説明: CQS が、キューをリカバリーまたはコピーするための、z/OS システム間拡張サービス (XES) の構造再作成を完了しました。構造再作成が完了すると、その構造に接続されているすべての CQS がこのメッセージを出力します。

CQS0242E • CQS0244E

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

structurename

CQS が再作成した構造の名前

rebuildtype

失敗した構造再作成のタイプ
(COPY、COLDSTART、または RECOVERY
のいずれか)

cqsname

構造再作成処理のマスターである CQS の名前

システムの処置: CQS の処理は続行されます。

モジュール: CQSSTR00

CQS0242E CQS *cqsname* FAILED STRUCTURE
rebuildtype FOR STRUCTURE
structurename RC=ttssrrrr

説明: キューを新しい構造にコピーするための、または構造リカバリー・データ・セットおよび z/OS システム・ログからキューをリカバリーするための、リスト構造再作成が失敗しました。構造再作成が失敗すると、その構造に接続されているすべての CQS がこのメッセージを出力します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cqsname

構造再作成のマスターであった CQS の名前。
CQS が再作成のマスターをまだ認識していない場合、このフィールドはブランクです。

structurename

CQS が再作成を試みた構造の名前。

rebuildtype

失敗した構造再作成のタイプ
(COPY、COLDSTART、または RECOVERY
のいずれか)。

ttssrrrr これらの理由コードについての説明は、CQS
コード情報を参照してください。

システムの処置: CQS の処理は続行されます。

システム・プログラマーの応答: 構造上での処理を可能にするには、その前に構造をリカバリーする必要があります。問題を訂正してから、z/OS コンソールで SETXCF START,REBUILD コマンドを入力することにより、別の再作成を開始します。

新しい構造が満杯になるかまたは失敗した場合、カップリング・ファシリティーの使用法を分析して、CQS が、その構造を収容できる十分に大きな共用キュー構造をカップリング・ファシリティー上に割り振ることができるようにするために、カップリング・ファシリティー・リソース管理 (CFRM) ポリシーを変更する必要がありますかかどうかを判別します。構造をリカバリーするに

は、ポリシー変更および構造再作成が必要になることがあります。

再作成構造の初期設定が失敗した場合、メッセージ CQS0014E に示された問題を訂正してから、別の再作成を開始します。

問題を解決できない場合は、SYSLOG およびマスター CQS アドレス・スペースのダンプをコピーしてから、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を受けてください。

モジュール: CQSSTR00

関連資料:

 CQS コード (メッセージおよびコード)

関連情報:

41 ページの『CQS0014E』

CQS0243E UNABLE TO PARTICIPATE IN
REBUILD FOR STRUCTURE
structurename

説明: CQS が、再作成構造に接続できないため、構造再作成に参加できません。CQS は、再作成処理のマスターまたは実行される再作成のタイプ (構造リカバリーまたは構造コピー) を認識していません。この CQS は、メッセージ CQS0240I および CQS0241I、または CQS0242E の代わりにこのメッセージを発行します。構造が正常に再作成されても、この CQS はその構造にアクセスしません。

システムの処置: CQS の処理は続行されます。

システム・プログラマーの応答: 再作成が成功した場合、この CQS をその構造にアクセスさせる必要があれば、別の再作成の開始を検討してください。

モジュール: CQSSTE00

CQS0244E STRUCTURE RECOVERY REQUIRED
AFTER RECOVERY FAILURE FOR
STRUCTURE *structurename*

説明: 示された構造リカバリーが失敗しました。

システムの処置: CQS の処理は続行されます。

システム・プログラマーの応答: z/OS コンソールで SETXCF START,REBUILD 要求を出すことにより、構造をリカバリーするための別の再作成を試みます。構造上での作業は許可されているが、再作成の前に発生した作業の一部またはすべては、構造がリカバリーされるまで使用不能です。構造チェックポイントおよび構造オーバーフローの処理などの構造プロセスは、構造が正常にリカバリーされるまで許可されません。

モジュール: CQSSTR00

CQS0245E STRUCTURE *structurename* REBUILD ERROR
error detail RC=rc RSN=rsn
CLNTQ=client_queue_name
UOW1=first_half_uow
UOW2=second_half_uow

説明: データ・オブジェクトの処理中に、構造再作成でエラーが検出されました。このメッセージにより、エラーおよび再作成の処理中であったデータ・オブジェクトについての詳細が示されます。CQS0245E は 5 行で示されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

structurename

再作成される構造の名前。

errordetail

エラーに関する詳細。詳細は、最大 15 文字です。エラー詳細の例として、CQSUNLCK FAILED (CQSUNLCK 要求が失敗した) があります。

rc

戻りコード。戻りコードの例として、XLLISTREQUEST=MOVE があります。

rsn

理由コード。理由コードの例として、XLLISTREQUEST=MOVE があります。

client_queue_name

データ・オブジェクトに関連付けられたクライアント・キューの名前。

first_half_uow

データ・オブジェクトの UOW の前半。

second_half_uow

データ・オブジェクトの UOW の後半。

システムの処置: CQS は、構造再作成の実行を続けます。

システム・プログラマーの応答: このエラーを IBM に報告してください。SYSLOG、IMS ログ・レコード、CQS ログ・レコード、および CQS アドレス・スペースのメモリー・ダンプをコピーし、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して支援を受けてください。

モジュール: CQSMOV20

CQS0246I CQS SRDS READ STARTED,
DSN=structure_recovery_data_set_name

説明: このメッセージは、構造再作成用の構造リカバリー・データ・セットのうち、CQS がより新しいものを読み取っていることを示します。構造の再作成に失敗した場合は、CQS0246I メッセージの DSN= フィールドに示されているように構造リカバリー・データ・セット

を名前変更し、新たな構造再作成を開始することにより、構造をリカバリーできる可能性があります。この構造の再作成では、もう一方の以前の構造リカバリー・データ・セットが使用されるため、場合によって、再作成を正常に完了できることがあります。構造の再作成が終了した時点で、必ず、名前変更した SRDS の名前を元の名前に戻してください。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

structure_recovery_data_set_name

構造再作成用に現在使用されている構造リカバリー・データ・セットの名前。

システムの処置: CQS の処理は続行されます。

モジュール: CQSSTR00

関連情報:

 CQS0245E

CQS0247W OPERATOR-INITIATED REBUILD FOR STRUCTURE *structure name* WAS REJECTED DUE TO AN ACTIVE OVERFLOW PROCESS

説明: このメッセージは、オーバーフローしきい値プロセスまたはスキャン・プロセスが進行中であったため、オペレーターが開始した再作成を CQS がリジェクトしたことを示します。オペレーターは、オーバーフロー・プロセスの完了後に再作成コマンドを再発行できます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

structure name

構造再作成用に現在使用されている構造の名前。

システムの処置: CQS の処理は続行されます。

システム・プログラマーの応答: オーバーフロー・プロセスの完了後に再作成コマンドを再発行してください。

モジュール: CQSSTE20

CQS0248I OVERFLOW MOVE *variable text* FOR STRUCTURE *structure name*, OBJECTS MOVED COUNT *movecount*

説明: このメッセージは、オーバーフロー移動処理中における基本構造とオーバーフロー構造の間のデータ・オブジェクト移動の進行状況を示します。

データ・オブジェクトの移動中、IN PROGRESS メッセージがおよそ 1 分に 1 回発行されます。movecount 値は、その特定時点においてオーバーフロー構造との間で移動されたオブジェクトの総数を示します。

movecount 値には、オーバーフロー構造に移動されたオブジェクトの数と、さらにオーバーフロー構造から基本構造に返されたオブジェクトの数の両方が含まれる場合があるので注意してください。(こうした状況は、移動プロセス中にオーバーフロー構造が満杯になると発生する可能性があります。この場合、CQS はオーバーフローへの移動をバックアウトし、オブジェクトを基本構造に戻します。)

選択されたキュー名のすべてのオブジェクトが移動されると、COMPLETED メッセージが発行されます。オーバーフローへの移動プロセス中にオーバーフロー構造が満杯にならなかった場合、この値は、オーバーフローしきい値を超えた時点で、オーバーフロー用に選択されたキュー上にあるオブジェクトの数と同じになります。この数には、しきい値を超えた後にその構造に書き込まれたオブジェクトは含まれません。このような CQSPUT は、移動プロセスが完了するまで据え置かれます。

移動プロセス中にオーバーフロー構造が満杯になり、それ以上のオブジェクトをオーバーフローに移動できなくなった場合、COMPLETED メッセージに示されるカウントは、オーバーフロー構造に移動された後にオーバーフロー構造から返されたオブジェクトの数の 2 倍 (構造間でのオブジェクト移動の総数) になります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

variable text

IN PROGRESS または COMPLETED.

structure name

基本構造の名前。

movecount

基本構造とオーバーフロー構造の間でそれまでに移動されたオブジェクトの数を示すカウント。

システムの処置: CQS の処理は続行されます。

モジュール: CQSOFL10、CQSOFL50

CQS0260I CQS *cqsname* STARTED OVERFLOW THRESHOLD PROCESSING FOR STRUCTURE *structurename*

説明: 構造がインストールで指定されたオーバーフローしきい値に達したため、CQS がオーバーフローしきい値の処理を開始しました。オーバーフロー・モードになるように、キューが選択されます。構造オーバーフロー処理が完了すると、その構造に接続されているすべての CQS がこのメッセージを出力します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cqsname

オーバーフローしきい値処理のマスターである CQS の名前

structurename

オーバーフローしきい値の処理を実行中の構造の名前

システムの処置: CQS の処理は続行されます。オーバーフローしきい値の処理が完了するか、または失敗するまで、構造は静止されます。

モジュール: CQSSTE10、CQSSTR00

CQS0261I CQS *cqsname* COMPLETED OVERFLOW THRESHOLD PHASE 1 FOR STRUCTURE *structurename*

説明: CQS が、構造のオーバーフローしきい値フェーズ 1 を完了しました。基本構造に対する構造アクティビティーが再開されます。オーバーフロー内にあるか、またはオーバーフロー用に選択されたキュー名は、まだ静止したままです。構造に接続されているすべての CQS がこのメッセージを出力します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cqsname

オーバーフローしきい値処理のマスターである CQS の名前

structurename

オーバーフローしきい値フェーズ 1 を完了した構造の名前

システムの処置: CQS の処理は続行されます。基本構造アクティビティーを再開できます。オーバーフロー・アクティビティーは、まだ静止したままです。

モジュール: CQSSTE10

CQS0262I CQS *cqsname* COMPLETED OVERFLOW THRESHOLD PHASE 2 FOR STRUCTURE *structurename*

説明: CQS が、構造のオーバーフローしきい値フェーズ 2 を完了しました。オーバーフロー内にあるか、またはオーバーフロー用に選択されたキュー名の構造アクティビティーが再開されます。構造に接続されているすべての CQS がこのメッセージを出力します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cqsname

オーバーフローしきい値処理のマスターである CQS の名前

structurename

オーバーフローしきい値フェーズ 2 を完了した構造の名前

システムの処置: CQS の処理は続行されます。オーバーフロー構造アクティビティを再開できます。

モジュール: CQSSTE10

CQS0263E CQS *cqsname* FAILED OVERFLOW THRESHOLD PROCESSING FOR STRUCTURE *structurename* RC=xxxxxxx

説明: 構造のオーバーフローしきい値の処理が失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cqsname

オーバーフローしきい値の処理のマスターであった CQS の名前。

structurename

CQS がオーバーフローしきい値の処理を試みた構造の名前。

xxxxxxx

理由コード。

理由コード
説明

X'00000008'

オーバーフローしきい値 IXLUSYNC 1 と IXLUSYNC 2 の間で構造が静止中、CQS オーバーフローしきい値処理が、その構造のアクセスを試みたときにエラーを検出しました。CQS が構造に接続されていないか、または構造が失敗したため、IXLLIST 要求が失敗しました。マスター CQS は IXLUSYNC 2 を発行して構造を再開し、再作成が処理できるようにします。再作成が成功した場合、再作成の後でオーバーフローしきい値の処理が継続するため、処置は必要ありません。再作成が失敗した場合、オーバーフローしきい値の処理は再開しません。

X'0000000C'

CQS オーバーフローしきい値マスターが、IXLUSYNC 1 と IXLUSYNC 2 の間で失敗しました。メッセージ内のマスター *cqsid* は、オーバーフローしきい値処理を引き継いだ CQS の ID です。オーバーフローしきい値の処理

でのこの試みは終了し、新しい試みが開始されます。アクションは不要です。

X'00000010'

CQS オーバーフローしきい値処理が、フェーズ 1 中に (BPEBPGET を介して) バッファを割り振れませんでした。オーバーフローしきい値の処理は終了します。

X'00000014'

CQS オーバーフローしきい値処理が、「オーバーフローしきい値開始」または「オーバーフローへの移動」ログ・レコードを書き込めませんでした。オーバーフローしきい値の処理は終了します。

X'00000018'

CQS オーバーフローしきい値処理が、フェーズ 1 中にキュー・タイプをリスト・ヘッダー番号に変換しようとして失敗しました。CQS サービス CQSLHS は、キュー・タイプが無効であることを示しました。オーバーフローしきい値の処理は終了します。

X'0000001C'

CQS オーバーフローしきい値処理が、フェーズ 1 中に構造のアクセスを試みたときに、エラーを検出しました。これは、再作成が必要な障害であった可能性があるが、再作成が開始されなかったか、または失敗しました。オーバーフローしきい値の処理は終了します。

X'00000020'

CQS オーバーフローしきい値処理が、構造を静止できませんでした。1 つ以上の CQS が構造静止ラッチを取得できませんでした。オーバーフローしきい値の処理は終了します。

X'00000024'

オーバーフロー用のキュー名が選択されていませんでした。これは、キュー・オーバーフロー出口ルーチンがオーバーフロー用のキュー名の選択を許可しなかったために発生した可能性があります。また、構造のデータ・オブジェクトのすべてが、CQS 専用キュー内にあるか、またはオーバーフローに不適格なクライアント・キュー・タイプである場合にも発生します。オーバーフローしきい値の処理は終了し、

構造サイズがオーバーフローしきい値を 20% 下回るまで実行できなくなります。

X'00000028'

CQS オーバーフローしきい値処理が、フェーズ 1 中にリソース・ラッチの取得を試みているときに、エラーを検出しました。オーバーフローしきい値の処理は終了します。

X'0000002C'

この CQS が、オーバーフローしきい値 IXLUSYNC フェーズ 1 と 2 の間で、構造への接続を失いました。メッセージ内の *qcsid* は、オーバーフロー・マスター CQS の ID です。この CQS の構造オーバーフローしきい値の処理は正常に終了しません。この CQS がオーバーフロー・マスターであった場合、構造に接続している別の CQS があれば、その CQS がオーバーフロー処理を引き継ぎます。この CQS がオーバーフロー・マスターではなかった場合、オーバーフローしきい値は、構造にまだ接続している CQS のすべてについて継続します。

X'00000040'

この CQS 内の CQS オーバーフローしきい値の処理が、構造静止ラッチを取得できませんでした。この CQS のオーバーフローしきい値の処理は終了します。

マスター CQS は、構造静止ラッチを取得できない場合、次のいずれかを発行します。

- RC=X'00000040' 付きの CQS0263E。U0100-00000004 で異常終了します。
- RC=X'00000040' 付きの CQS0263E および RC=X'00000020' 付きの CQS0263E。

次に、マスター CQS はオーバーフローしきい値処理を終了します。

参加プログラムである CQS が構造静止ラッチを取得できず、U0100-00000004 で異常終了する場合、マスター CQS はオーバーフローしきい値の処理を続行します。この CQS が異常終了しない場合、マスター CQS はオーバーフローしきい値の処理を終了します。

詳しくは、理由コード

RC=X'00000044' および

RC=X'00000020' を参照してください。

X'00000044'

別の CQS 内の CQS オーバーフローしきい値の処理が、構造静止ラッチを取得できませんでした。これは伝搬エラーです。この CQS オーバーフローしきい値の処理は終了します。マスター CQS は RC=X'00000044' 付きのメッセージ CQS0263E を発行しません。マスター CQS はオーバーフローしきい値の処理を終了し、RC=X'00000020' 付きの CQS0263E メッセージを発行します。

詳しくは、理由コード

RC=X'00000040' および

RC=X'00000020' を参照してください。

X'00000100'

CQS オーバーフローしきい値処理が、フェーズ 2 中に (BPEBPGET を介して) バッファを割り振れませんでした。オーバーフローしきい値の処理は終了します。

X'00000104'

CQS オーバーフローしきい値処理が、オーバーフローしきい値終了ログ・レコードを書き込めませんでした。オーバーフローしきい値の処理はすでに終了しています。

X'00000108'

CQS オーバーフローしきい値処理で、フェーズ 2 における構造へのアクセスの試行時にエラーが検出されました。この状況は再作成が必要な障害であった可能性があります。再作成が開始されなかったか失敗しました。オーバーフローしきい値の処理は終了します。

X'0000010C'

CQS オーバーフローしきい値処理が、フェーズ 2 中にリソース・ラッチの取得を試みているときに、エラーを検出しました。オーバーフローしきい値の処理は終了します。

X'00000110'

CQS オーバーフローしきい値処理が、フェーズ 2 中に BPE AWE サービスからゼロ以外の戻りコードを受け

取りました。オーバーフローしきい値の処理は終了します。

X'00000114'

CQS オーバーフローしきい値処理が、フェーズ 2 中にキュー・タイプをリスト・ヘッダー番号に変換しようとしてしました。CQS サービス CQSLHS は、キュー・タイプが無効であることを示しました。オーバーフローしきい値の処理は終了します。

X'00000118'

しきい値処理のフェーズ 2 中に、オーバーフロー構造にキューが移動されませんでした。次のいずれかが発生するまでは、しきい値処理は再び行われることはありません。

- CQS がもうオーバーフロー・モードではない (現行のしきい値処理が開始する前に CQS がすでにオーバーフロー・モードであった場合)。
- オーバーフロー構造が再作成される。

X'0000011C'

この CQS が、オーバーフローしきい値 IXLUSYNC フェーズ 2 と 3 の間で、構造への接続を失いました。メッセージ内の *cqsid* は、オーバーフロー・マスター CQS の ID です。この CQS の構造オーバーフローしきい値の処理は正常に終了しません。この CQS がオーバーフロー・マスターであった場合、構造に接続している別の CQS があれば、その CQS がオーバーフロー処理を引き継ぎます。この CQS がオーバーフロー・マスターではなかった場合、オーバーフローしきい値は、構造にまだ接続している CQS のすべてについて継続します。

システムの処置: CQS の処理は続行されます。次に CQS が構造にデータを書き込むときに、システムがまだオーバーフローしきい値を超えている場合、オーバーフローしきい値の処理が再び開始されます (理由コードが X'00000024' の場合を除く)。

システム・プログラマーの応答: 問題を解決できない場合は、SYSLOG およびマスター CQS アドレス・スペースのダンプをコピーしてから、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を受けてください。

モジュール: CQSSTE10、CQSOFL00、CQSOFL50

CQS0264I CQS *cqsname* TERMINATED OVERFLOW THRESHOLD PROCESSING, ALTER SUCCESSFUL FOR STRUCTURE *structurename*

説明: CQS オーバーフローしきい値処理が、構造のサイズを増やすために、IXLALTER 要求を出しました。この変更により、構造がオーバーフローしきい値未満になるように、サイズが十分に増えました。しきい値の処理は終了します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cqsname

オーバーフローしきい値の処理のマスターであった CQS の名前。

structurename

CQS がオーバーフローしきい値の処理を開始した構造の名前。

システムの処置: CQS の処理は続行されます。

モジュール: CQSSTE10、CQSOFL00

CQS0265I STRUCTURE ALTER REQUEST STARTED *structurename*

説明: 次のいずれかが発生したため、構造変更要求が開始されました。

- オペレーターが SETXCF START,ALTER コマンドを入力した。
- CQS がオーバーフローしきい値レベルに達した。
- リソース構造が満杯であることを CQS が検出した。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

structurename

変更要求が開始された構造の名前。

システムの処置: CQS の処理は続行されます。

モジュール: CQSSTE00

CQS0266I STRUCTURE ALTER REQUEST COMPLETED FOR STRUCTURE *structurename*

説明: 構造変更要求が正常に完了しました。オペレーターが SETXCF START,ALTER コマンドを入力したか、または CQS がオーバーフローしきい値レベルに達したため、この要求が開始されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

structurename

変更要求が正常に完了した構造の名前。

システムの処置: CQS の処理は続行されます。

モジュール: CQSSTE00

**CQS0267W STRUCTURE ALTER REQUEST
FAILED FOR STRUCTURE**
structurename RC=xxxxxxx

説明: 構造変更要求が失敗しました。構造の ALTER は次の方法によって開始された可能性があります。

- オペレーターによって、構造のサイズを変更するために入力された SETXCF START,ALTER コマンド。
- オーバーフローしきい値に達したときに構造のサイズを増やすための、CQS オーバーフローしきい値処理。
- EMC (イベント・モニター制御) のための余地がない場合に構造のサイズを増やすための、CQS 通知処理。通知処理は、CQSINFRM 要求の場合、構造再作成の場合、または構造への再接続の後に発生します。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

structurename

変更要求が失敗した構造の名前。

xxxxxxx

戻りコード。次のいずれかのコードになります。

戻りコード

説明

X'00000004'

CQS が、カップリング・ファシリティー構造をターゲット・サイズに変更できませんでした。構造のサイズが変更されていない可能性があります。構造変更が構造のサイズまたは EMC パーセンテージを増やそうとしたが、カップリング・ファシリティー内には変更された構造用に十分なスペースがない場合に、この戻りコードが戻されます。また、オペレーターが開始した構造変更によって構造のサイズを減らそうとしたが、構造のデータ・オブジェクトがその小さい構造に適合しない場合も、この戻りコードが返される可能性があります。

X'00000008'

CQS が、カップリング・ファシリティー構造をターゲット・サイズに変更

できませんでした。変更処理中に再作成が開始されました。カップリング・ファシリティー構造のサイズは変更されませんでした。

X'0000000C'

CQS が、カップリング・ファシリティー構造をターゲット・サイズに変更できませんでした。変更処理中に構造が失敗しました。カップリング・ファシリティー構造のサイズは変更されませんでした。

X'00000010'

CQS が、カップリング・ファシリティー構造をターゲット・サイズに変更できませんでした。変更処理中に構造の接続が失われました。カップリング・ファシリティー構造のサイズは変更されませんでした。

X'00000018'

CQS が、カップリング・ファシリティー構造をターゲット・サイズに変更できませんでした。変更要求で指定された率が、構造と整合しません。カップリング・ファシリティー構造のサイズは変更されませんでした。

X'0000001C'

CQS が、カップリング・ファシリティー構造をターゲット・サイズに変更できませんでした。不明なエラーが発生しました。カップリング・ファシリティー構造のサイズは変更されませんでした。

X'00000020'

CQS が、カップリング・ファシリティー構造をターゲット・サイズに変更できませんでした。構造変更がオペレーターによって停止されました。カップリング・ファシリティー構造のサイズは変更されませんでした。

X'00000024'

CQS は、カップリング・ファシリティー構造をターゲット・サイズに変更できましたが、EMC 用に割り振られたスペースがありませんでした。ターゲット EMC カウントがゼロでした。CQS はカップリング・ファシリティー構造を以前のサイズに復元するために別の IXLALTER を開始しました。

システムの処置: CQS の処理は続行されます。

システム・プログラマーの応答: 問題を解決できない場合は、SYSLOG をコピーし、マスター CQS アドレ

ス・スペースのメモリー・ダンプを作成してから、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して支援を受けてください。

モジュール: CQSSTE00

CQS0268W OVERFLOW STRUCTURE
structurename IS LESS THAN percentage
OF THE PRIMARY STRUCTURE SIZE

説明: CQS がオーバーフロー構造に接続したとき、オーバーフロー構造のサイズが、基本構造のサイズの示されたパーセンテージより小さい値であることを、CQS が検出しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

structurename

オーバーフロー構造の名前。

percentage

最小オーバーフロー構造のサイズを決定するのに使用される、基本構造のサイズのパーセンテージ。

システムの処置: CQS 初期設定中に、CQS はオーバーフロー構造に接続します。CQS は、オーバーフロー構造のサイズが基本構造のサイズの示されたパーセンテージより小さいことを検出すると、このメッセージを出力します。オーバーフロー構造が小さ過ぎる場合でも、CQS は初期設定を行うことができます。CQS は、CQS 初期設定の終了時にオーバーフロー構造から切断され、オーバーフロー構造は削除されます。

CQS は、オーバーフローしきい値が到達するまで、オーバーフロー構造への再接続を試行しません。オーバーフロー構造の CFRM ポリシー定義が変更されないままであれば、CQS は再びこのメッセージを出力します。CQS はオーバーフロー・モードに入りますが、オーバーフロー構造は使用されません。オーバーフローに対して選択されたそれらのキューにデータ・オブジェクトを追加するという要求はリジェクトされます。

システム・プログラマーの応答: オーバーフロー処理中にオーバーフロー構造を使用する場合は、オーバーフロー構造のサイズを増やします。オーバーフロー構造の最適なサイズとして、CFRM ポリシー内で基本構造のサイズの少なくとも X パーセントを定義する必要があります。ここで、X は、CQS がオーバーフロー・モード(オーバーフローしきい値)になる前に基本構造で使用中のパーセンテージです。例えば、オーバーフローしきい値が OVFLWMAX= パラメーターによって基本構造サイズの 75% に定義されていた場合、オーバーフロー構造のサイズは、少なくとも基本構造サイズの 75% である必要があります。

オーバーフロー・モード中に、CQS がオーバーフロー

構造に接続を試みることはありません。基本構造が、オーバーフロー構造なしにオーバーフロー・モードになる場合、オーバーフロー構造に接続する別の試みが行われる前に、CQS はオーバーフロー・モードを終了しなければなりません。オーバーフローしきい値の処理中に、CQS はオーバーフロー構造に接続します。

モジュール: CQSSTS10

CQS0269E CQS *cqsname* FAILED OVERFLOW SCAN *phase* PROCESSING FOR STRUCTURE *structurename*
RC=xxxxxxx

説明: 構造のオーバーフロー・スキャン処理が失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cqsname

オーバーフロー・スキャン処理のマスターであった CQS の名前。

phase

失敗したオーバーフロー・スキャン処理のフェーズ。START または END のどちらか。

structurename

CQS がオーバーフロー・スキャンの処理を試みた構造の名前。

xxxxxxx

理由コード。

理由コード

説明

X'00000040'

この CQS 内の CQS オーバーフロー・スキャンの処理が、構造静止ラッチを取得できませんでした。この CQS のオーバーフロー・スキャンの処理は終了します。

X'00000044'

別の CQS 内の CQS オーバーフロー・スキャンの処理が、構造静止ラッチを取得できませんでした。このエラーは伝搬されます。この CQS オーバーフロー・スキャンの処理は終了します。

システムの処置: CQS の処理は続行されます。CQS がまだオーバーフロー・モードの場合、オーバーフロー・スキャンの処理は 15 分後に再度開始します。

システム・プログラマーの応答: 問題を解決できない場合は、syslog およびマスター CQS アドレス・スペースのダンプをコピーしてから、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を受けてください。

モジュール: CQSSTE10

CQS0270I THE FOLLOWING QUEUE NAMES ARE ADDED TO OVERFLOW FOR STRUCTURE *structurename*

tt-cccccccccccccc

または

tt-xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx

説明: CQS で、1 つ以上のキュー名をオーバーフロー構造に置くことが選択されました。

CQS がオーバーフロー・モードのキュー名を選択するたびに、このメッセージの 1 行目が発行されます。その行の後に、選択されたキュー名のリストが続きます。キュー名は、文字、または 16 進数 (名前に印刷不能文字が含まれる場合) のどちらかで表示されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

structurename

カップリング・ファシリティーの 1 次メッセージ・キュー構造の名前。

tt キュー名のキュー・タイプ・コード (16 進数)。CQS キュー名は、キュー名の最初のバイトを使用して、キューのタイプを識別します。

キュー・タイプの意味は、CQS のクライアントによって定義されます。IMS 共用キュー構造の場合、*tt* は以下のいずれかである可能性があります。

- 01 - トランザクション作動可能キュー
- 02 - トランザクション・ステージング・キュー
- 03 - トランザクション中断キュー
- 04 - トランザクション・シリアル・キュー
- 05 - LTERM 作動可能キュー
- 06 - LTERM ステージング・キュー
- 07 - APPC 作動可能キュー
- 08 - リモート作動可能キュー
- 09 - OTMA 作動可能キュー

IMS 共用急送メッセージ・ハンドラー (EMH) 構造の場合、*tt* は以下のいずれかである可能性があります。

- 01 - プログラム作動可能キュー
- 05 - LTERM 作動可能キュー

cccccccccccccc

オーバーフローに移動された 15 文字のキュー名 (印刷可能 EBCDIC)。

xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx

オーバーフローに移動された 15 バイトのキュー名 (16 進数)。キュー名には、印刷可能 EBCDIC 文字ではないバイトが 1 バイト以上含まれていました。

システムの処置: このメッセージで識別されるキュー名

には、オーバーフロー・モードであるというマークが付けられます。

オーバーフロー構造が定義される場合、1 次構造にあり、影響を受けるキュー名上のオブジェクトはすべて、オーバーフロー構造に移動されます。影響を受けるキュー名のキューに入れられる新しいオブジェクトもすべて、オーバーフロー構造に入れられます。

オーバーフロー構造が定義されていない場合、CQS は、示されたキュー名に対する後続の CQSPUT 要求をリジェクトします。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

このメッセージは、オーバーフロー構造にオフロードするために選択されたキュー名を識別します。CQS は、最大数のカップリング・ファシリティー構造エレメントを使用するキュー名を移動対象として選択します。

しかし、このメッセージからの情報を使用して、特定のキュー宛先が、そのキューに入れられたメッセージを処理しないかどうかの判別に役立てることができます。

モジュール: CQSOFL50

CQS0271I THE FOLLOWING QUEUE NAMES ARE REMOVED FROM OVERFLOW FOR STRUCTURE *structurename*

tt-cccccccccccccc

または

tt-xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx

説明: CQS はオーバーフローから 1 つ以上のキュー名を除去しました。このメッセージが発行されるのは、CQS がオーバーフロー・スキャン処理を実行し、オーバーフロー内にあったキュー名のキューに入れられたメッセージがなくなったことを検出した場合です。

CQS がオーバーフロー・モードからのキュー名の除去処理を実行するたびに、このメッセージの 1 行目が 1 回発行されます。その行の後は、オーバーフロー・モードから除去されたキュー名のリストが続きます。印刷可能文字のみで構成されるキュー名は EBCDIC で表示されます。印刷不能文字を 1 つ以上含むキュー名は 16 進数で表示されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

structurename

カップリング・ファシリティーの 1 次メッセージ・キュー構造の名前。

tt キュー名のキュー・タイプ・コード (16 進数)。CQS キュー名では、キュー名の最初のバイトによってその名前前のキュー・タイプが示されます。キュー・タイプの意味は、CQS のク

クライアントによって定義されます。IMS 共用キュー構造の場合、*tt* は以下のいずれかである可能性があります。

- 01 - トランザクション作動可能キュー
- 02 - トランザクション・ステージング・キュー
- 03 - トランザクション中断キュー
- 04 - トランザクション・シリアル・キュー
- 05 - LTERM 作動可能キュー
- 06 - LTERM ステージング・キュー
- 07 - APPC 作動可能キュー
- 08 - リモート作動可能キュー
- 09 - OTMA 作動可能キュー

IMS 共用急送メッセージ・ハンドラー (EMH) 構造の場合、*tt* は以下のいずれかである可能性があります。

- 01 - プログラム作動可能キュー
- 05 - LTERM 作動可能キュー

cccccccccccccc

オーバーフローから除去された 15 文字のキュー名 (印刷可能 EBCDIC)。この形式のメッセージは、キュー名のすべての文字が印刷可能 EBCDIC 文字であるときに使用されます。

xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx

オーバーフローから除去された 15 バイトのキュー名 (16 進数)。この形式のメッセージは、キュー名の少なくとも 1 つのバイトが印刷可能 EBCDIC 文字でないときに使用されます。

システムの処置: 示されたキュー名はオーバーフロー・モードから除去されます。影響を受けるキュー名のキューに入れられる新しいオブジェクトはすべて、基本構造に入れられます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: CQSOFL50

使用して許可を与えます。ユーザー ID は、構造名に対して少なくとも UPDATE 権限を持っていなければなりません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

client 接続を試みているクライアント ID。
userid クライアント・アドレス・スペースに関連付けられたユーザー ID。このフィールドに *NONE* が入っている場合、クライアントはユーザー ID の指定なしで実行中です。

structure クライアントが接続を試みている対象の CQS 構造名。

r15 RACROUTE 呼び出しからのレジスター 15 の値。

rc RACROUTE 呼び出しからの RACF® 戻りコード。

rsn RACROUTE 呼び出しからの RACF 理由コード。

システムの処置: 接続要求はリジェクトされ、クライアントは、要求された CQS 構造にアクセスすることができません。

システム・プログラマーの応答: 示されたユーザーが、要求された CQS 構造にアクセスできるようにする必要がある場合、構造リソースに対する少なくとも RACF UPDATE 権限をユーザーに許可します。示されたユーザーに、要求された CQS 構造へのアクセスを許可すべきでない場合、そのユーザーが接続を試みる理由を調べ、無許可または悪意のあるアクセスから保護するための適切な処置を取る必要があります。

モジュール: CQSCON00

関連資料:

➡ z/OS: RACROUTE の戻りコードおよび理由コード

CQS0280I CONNECT REJECTED FOR CLIENT=*client* USERID=*userid* INSUFFICIENT AUTHORITY TO STRUCTURE *structure* RACROUTE AUTH R15=*r15* RC=*rc* RSN=*rsn*

説明: クライアントが CQSCONN 要求を使用して CQS 構造への接続を試みたが、このクライアントは構造へのアクセスが許可されていませんでした。CQS は RACROUTE REQUEST=AUTH 呼び出しを発行して、接続中のクライアントが、要求された構造にアクセスするための適切な権限を持っているかどうかを判別します。CQS は、クライアントのジョブ・ユーザー ID を

CQS0281I REGISTRATION REJECTED FOR CLIENT=*client* USERID=*userid* INSUFFICIENT AUTHORITY TO CQS *cqsid* RACROUTE AUTH R15=*r15* RC=*rc* RSN=*rsn*

説明: クライアントが、CQSREG 要求を使用して CQS に登録を試みたが、このクライアントはこの CQSID への登録が許可されていませんでした。CQS は RACROUTE REQUEST=AUTH 呼び出しを発行して、登録中のクライアントが、要求された CQSID に登録するための適切な権限を持っているかどうかを判別します。CQS は、クライアントのジョブ・ユーザー ID を使用して許可を与えます。このユーザー ID は、CQSID

に対して少なくとも UPDATE 権限を持っていない限りなりません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

<i>client</i>	登録を試みていたクライアント ID。
<i>userid</i>	クライアント・アドレス・スペースに関連付けられたユーザー ID。このフィールドに *NONE* が入っている場合、クライアントはユーザー ID の指定なしで実行中です。
<i>cqsid</i>	クライアントが登録を試みている対象の CQS の CQSID。
<i>r15</i>	RACROUTE 呼び出しからのレジスター 15 の値。
<i>rc</i>	RACROUTE 呼び出しからの RACF 戻りコード。
<i>rsn</i>	RACROUTE 呼び出しからの RACF 理由コード。

システムの処置: 登録要求はリジェクトされ、クライアントは、要求された CQS にアクセスすることができません。

システム・プログラマーの応答: 示されたユーザーが、要求された CQS にアクセスできるようにする必要がある場合、構造リソースに対する少なくとも RACF UPDATE 権限をユーザーに許可します。示されたユーザーに、要求された CQS 構造へのアクセスを許可すべきでない場合、そのユーザーが接続を試みる理由を調べ、無許可または悪意のあるアクセスから保護するための適切な処置を取ります。

モジュール: CQSREG20

関連情報:

z/OS: z/OS RACROUTE REQUEST=AUTH の戻りコードと理由コード

CQS0282W CQS OVERFLOW STRUCTURE *structurename* IS APPROACHING FULL; SOME QUEUES COULD NOT BE MOVED

説明: オーバーフローしきい値の処理時に、オーバーフロー構造にキューを保持する十分なスペースがなかったために、CQS は一部のキューをオーバーフロー構造に移動できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

<i>structurename</i>	オーバーフロー構造の名前。
----------------------	---------------

システムの処置: CQS の処理は続行されます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: CQSOFL00

CQS0300I *command* COMMAND REJECTED, RC=*rc*

説明: CQS がコマンドを処理できませんでした。コマンドはリジェクトされます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

<i>command</i>	リジェクトされたコマンド。
<i>rc</i>	コマンドがリジェクトされた理由を示す戻りコード。次の戻りコードが定義されています。 01000004

CQS にまだ接続されているクライアントがあるため、CQS アドレス・スペースに対する z/OS STOP コマンドがリジェクトされました。CQS アドレス・スペースに対する z/OS STOP コマンドは、接続されているクライアントがない場合にのみ処理されます。

CQS0300I メッセージの後に 1 つ以上の CQS0301I メッセージが続きます。これらのメッセージは、まだ CQS に接続されているクライアントを識別します。

システムの処置: コマンドは処理されません。

モジュール: CQSCMD00

CQS0301I CLIENT *client* IS REGISTERED TO CQS, JOBNAME *jobname* ASID *asid*

説明: CQS アドレス・スペースを停止するために、z/OS STOP コマンドが発行されました。CQS にまだ接続されているクライアントがあるため、コマンドはリジェクトされました。STOP コマンドに回答して、CQS は、現在接続されているクライアントごとに 1 つの CQS0301I メッセージを発行します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

<i>client</i>	CQS アドレス・スペースに接続されているクライアントの CQS クライアント名。
<i>jobname</i>	クライアントの z/OS ジョブ名。
<i>asid</i>	クライアントの z/OS アドレス・スペース ID (ASID)。

システムの処置: 必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答: 応答は必要ありません。ただし、z/OS STOP コマンドを使用して CQS を

停止する場合は、CQS0301I メッセージにリストされている各クライアントのアドレス・スペースを停止するか、各クライアントが CQS から切断されるようにしてから、z/OS STOP コマンドを再発行して CQS を終了します。

モジュール: CQSCMD00

CQS0350W *reason*

LOG STREAM: *logstreamname*

STRUCTURE: *structurename cqsid*

説明: CQS がシステム・ロガーの機能を要求しました。システム・ロガーは、ゼロ以外の戻りコードおよび理由コードを CQS に戻しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

reason reason は、次の値のいずれかです。

CQS LOG CONNECT DS DIRECTORY

FULL CQS が、システム・ロガー接続要求 (IXGCONN) から、戻りコード X'00000004' および理由コード X'00000408' を受け取りました。

CQS LOG CONNECT POSSIBLE LOSS OF DATA

ログ・ストリーム (ログ構造ではなく) を削除してから再定義し、CQS を再始動し、2 つの構造チェックポイントを取ります。CQS が、システム・ロガー接続要求 (IXGCONN) から、戻りコード X'00000004' および理由コード X'00000407' を受け取りました。

CQS LOG CONNECT PREVIOUS OFFLOAD ERROR

CQS が、システム・ロガー接続要求 (IXGCONN) から、戻りコード X'00000004' および理由コード X'00000409' を受け取りました。

CQS LOG WRITE LOSS OF DATA

CQS が、システム・ロガー書き込み要求 (IXGWRITE) から、戻りコード X'00000004' および理由コード X'00000405' を受け取りました。

CQS LOG WRITE POSSIBLE LOSS OF DATA

CQS が、システム・ロガー書き込み要求 (IXGWRITE) から、戻りコード X'00000004' および理由コード X'00000407' を受け取りました。

CQS LOG WRITE PREVIOUS OFFLOAD ERROR

CQS が、システム・ロガー書き込み要求 (IXGWRITE) から、戻りコード

X'00000004' および理由コード X'00000409' を受け取りました。

これらの戻りコードおよび理由コードを最初に CQS が受け取ったときに、この理由でメッセージ CQS0350W が発行されます。このメッセージは、直前のオフロード・データに関する問題が解決され、その後で同じ戻りコードと理由コードを CQS が再び受け取った場合のみ再度発行されます。

CQS LOG WRITE UNABLE TO DUPLEX LOG DATA TO STAGING DATA SETS

CQS が、システム・ロガー書き込み要求 (IXGWRITE) から、戻りコード X'00000004' および理由コード X'0000040A' を受け取りました。ロガー書き込み要求は正常に完了しましたが、ロガーはログ・データをステージング・データ・セットに二重化できませんでした。

SYSTEM LOGGER UNAVAILABLE

CQS が、システム・ロガーの接続、書き込み、ブラウズ、または削除の要求 (IXGCONN、IXGWRITE、IXGBRWSE、IXGDELET) から、戻りコード X'00000008' および理由コード X'00000890' を受け取りました。

LOG STREAM IS NOT AVAILABLE

DIAG=diag1 diag2 diag3

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

diag1 IXGENF DSECT のフィールド *IxgenfEvents* の中の 4 バイトの値、またはフィールド *Ansaas_Diag1* の中の 4 バイトの値。

diag2 IXGENF DSECT のフィールド *IxgenfEventReasons* の中の 4 バイトの値、またはフィールド *Ansaas_Diag2* の中の 4 バイトの値。

diag3 IXGENF DSECT のフィールド *IxgenfEventSpecificInfo* の中の 4 バイトの値、またはフィールド *Ansaas_Diag3* の中の 4 バイトの値。

logstreamname

この構造に関する CQS の接続先のログ・ストリームの名前。この名前は CQSSGxxx PROCLIB メンバーに定義されます。

structurename

カップリング・ファシリティのメッセージ・キュー構造の名前。

cqsid CQS ID。

CQS LOG FULL, OFFLOAD ERRORS DIAG=*diag1*

diag2 diag3

CQS が、システム・ロガー書き込み要求 (IXGWRITE) から、戻りコード X'00000008' および理由コード X'0000085D' を受け取りました。システム・ロガー CF 構造またはステージング・データ・セット・スペースがいっぱいになり、ロガーがデータをオフロードしようとしたときに重大なエラーが発生しました。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

diag1 IXGWRITE 要求で返された応答域のフィールド *Ansa_Diag1* からの診断データ。

diag2 IXGWRITE 要求で返された応答域のフィールド *Ansa_Diag2* からの診断データ。

diag3 IXGWRITE 要求で返された応答域のフィールド *Ansa_Diag3* からの診断データ。

LOG STREAM CF STRUCTURE FULL DIAG=*diag1*

diag2 diag3

CQS が、システム・ロガー書き込み要求 (IXGWRITE) から、戻りコード X'00000008' および理由コード X'00000860' を受け取りました。ロガー書き込み要求は正常に行われませんでした。このログ・ストリーム用に割り振られているカップリング・ファシリティ構造スペースがいっぱいです。カップリング・ファシリティ構造内のログ・データが DASD ログ・データ・セットにオフロードされるまでは、これ以上要求を処理することはできません。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

diag1 IXGWRITE 要求で戻された応答域内のフィールド *Ansa_Diag1* からの診断データ。

diag2 IXGWRITE 要求で戻された応答域内のフィールド *Ansa_Diag2* からの診断データ。

diag3 IXGWRITE 要求で戻された応答域内のフィールド *Ansa_Diag3* からの診断データ。

システムの処置: システムの処置は、機能および結果によって決定されます。

CQS LOG CONNECT DS DIRECTORY FULL

または

CQS LOG CONNECT PREVIOUS OFFLOAD ERROR

このエラーが発生した場合、CQS は構造チェックポイントを開始し、処理は続行されます。CQS が初期設定中である場合、構造チェックポイントは CQS が再始動するまで延期されません。

CQS LOG CONNECT POSSIBLE LOSS OF DATA

CQS の初期設定中にこの警告を受け取ると、CQS はモジュール CQSIST10 から異常終了 0014、サブコード X'000000A0' を発行します。その他の時にこのエラーが発生した場合、CQS は構造チェックポイントを開始し、処理は続行されます。

CQS LOG WRITE LOSS OF DATA

または

CQS LOG WRITE POSSIBLE LOSS OF DATA

CQS は、構造チェックポイントを開始し、処理は続行されます。

SYSTEM LOGGER UNAVAILABLE

この警告が発生した場合、CQS はシステム・ロガーのアドレス・スペースが使用可能になるのを待ちます。CQS は、CQS ログ・ストリームへのアクセスが必要な、この構造に関するどのような作業も処理できません。

CQS LOG WRITE PREVIOUS OFFLOAD ERROR

このエラーが発生した場合、CQS は構造チェックポイントを開始し、処理は続行されます。

LOG STREAM IS NOT AVAILABLE

ロガーは、ログ・ストリームが利用不能であると判断して、このメッセージを発行しました。通常、この状態は、ログ・ストリーム構造の再作成、ログ・ストリームのオフロード、またはログ・リソースの変更中に短時間続くだけです。CQS は、ログ・ストリームが使用可能になるのを待ちます。ログ・ストリームが使用可能であるという通知をロガーから CQS が受け取った後、メッセージ CQS0351I が発行されます。

CQS LOG WRITE UNABLE TO DUPLEX LOG DATA TO STAGING DATA SETS

この問題が生じると、CQS は CQS0350W メッセージをオペレーター・コンソールに書き込み、処理を続行します。CQS 処理は続行しますが、CQS ログ・ストリームはステージング・データ・セットに二重化されません。

CQS LOG FULL, OFFLOAD ERRORS

このエラーが発生した場合、CQS は構造スペースが解放されるとすぐ、オフロードの完了前に、z/OS ロガーによって書き込み要求を試みることができます。CQS は定期的にログ・ストリームへの書き込み要求を再試行します。そ

の書き込み試行が成功する場合があります、CQS がオフロード処理中にそのクライアントの要求の処理を続行できるようになります。

LOG STREAM CF STRUCTURE FULL

このエラーが発生した場合、CQS は構造スペースが解放されるとすぐ、オフロードの完了前に、z/OS ロガーによって書き込み要求を試みることができます。CQS は定期的にログ・ストリームへの書き込み要求を再試行します。その書き込み試行が成功する場合があります、CQS がオフロード処理中にそのクライアントの要求の処理を続行できるようになります。

システム・プログラマーの応答: プログラマーの応答は、機能および結果によって決定されます。

CQS LOG CONNECT POSSIBLE LOSS OF DATA

ログ・ストリームを削除してから再定義し、CQS を再始動し、構造チェックポイントを取ります。

SYSTEM LOGGER UNAVAILABLE

システム・ロガーのアドレス・スペースは、現在は CQS で使用できません。CQS の処理を継続するには、システム・ロガーのアドレス・スペースを開始して、CQS が CQS ログ・ストリームに接続できるようにする必要があります。

CQS LOG WRITE PREVIOUS OFFLOAD ERROR

メッセージ IXG301I についてシステム・ログを調べて、エラーの原因を判別します。

LOG STREAM IS NOT AVAILABLE

このメッセージの後にメッセージ CQS0351I が表示されず、CQS アクティビティが数分間行われない場合は、おそらく CQS でリカバリ不能エラーが発生しています。問題を解決できない場合は、SYSLOG をコピーし、CQS アドレス・スペース、ロガーのアドレス・スペース、およびロガーに関連するすべてのデータ・スペースのメモリー・ダンプを作成してください。その上で IBM ソフトウェア・サポートに連絡して援助を求めてください。

CQS LOG WRITE UNABLE TO DUPLEX LOG DATA TO STAGING DATA SETS

CQS は、ステージング・データ・セットなしに処理を続行します。ステージング・データ・セットの二重化が必要な場合は、原因を判別し、ロガー・ステージング・データ・セットを使用して問題を解決してください。

CQS LOG FULL, OFFLOAD ERRORS

メッセージ IXG301I についてコンソール・ログを調べて、システム・ロガー・オフロード・

エラーの原因を判別します。ロガー・オフロード・エラーを修正して、この問題が再発しないようにします。

LOG STREAM CF STRUCTURE FULL

ロガー・オフロード・エラーを修正して、この問題が再発しないようにします。

他のすべての理由の場合、構造チェックポイントが正常に完了したかどうかを確認します。

関連情報:

 CQS 異常終了 0014

『CQS0351I』

CQS0351I CQS LOG STREAM IS AVAILABLE;
LOG STREAM: *logstreamname*
STRUCTURE: *structurename cqsid*

説明: CQS が、使用可能通知 ENF48 イベントをロガーから受け取りました。変数 *reason* のテキストを LOG STREAM IS NOT AVAILABLE にして CQS0350W を発行した後、通常、CQS はログ・ストリームが再度使用可能になったときにこのメッセージを表示します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

logstreamname

この構造に関する CQS の接続先のログ・ストリームの名前。この名前は CQSSGxxx PROCLIB メンバーに定義されます。

structurename

カップリング・ファシリティのメッセージ・キュー構造の名前。

cqsid CQS ID。

システムの処置: CQS の処理は続行されます。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: CQSLEN00

関連情報:

73 ページの『CQS0350W』

CQS0352E LOG WRITE ERROR *reason*
LOG *logstreamname* **STRUC**
structurename cqsid

説明: CQS ログへのログ・レコードの書き込みを試みているときに、エラーが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

reason

- DUE TO BUFFER SIZE, LEN=*blocklen*
 MAX=*maxbufsize*

CQS が書き込みを試みたログ・レコードの長さが、ログに書き込める最大のバッファ・サイズを超えています。CQS は必要なログ・レコードを書き込むことができません。ログ・レコードの書き込みを試みた処理は正常に終了しません。

このログ・ストリームに接続しているすべての CQS アドレス・スペースは、ログ・ストリームから切断するために、シャットダウンする必要があります。

blocklen

CQS が CQS ログ・ストリームへの書き込みを試みたバッファの長さ。この値は、CQS によって MVS IXGWRITE マクロの BLOCKLEN= パラメーターで指定されるもので、CQS ログ・レコードの長さです。

maxbufsize

CQS ログ・ストリームに書き込めるバッファの最大長。この値は、ユーザーによって LOGR ポリシーの MAXBUFSIZE パラメーターで指定されます。

logstreamname

この構造に関する CQS の接続先のログ・ストリームの名前。この名前は CQSSGxxx PROCLIB メンバーに定義されます。

structurename

カップリング・ファシリティのメッセージ・キュー構造の名前。

cqsid CQS ID。

システムの処置: CQS の処理は続行されます。

プログラマーの応答: LOGR ポリシー内の MAXBUFSIZE パラメーターを十分な大きさに変更して、CQS によって書き込まれる最長のログ・レコードを収容できるようにします。

ログ構造および古い LOGR ポリシーを削除してから、新しい LOGR ポリシーを活性化します。CQS が前の実行から正常にシャットダウンした場合、CQS をウォーム・スタートできます。CQS が正常にシャットダウンしなかった場合、再始動処理のために読み取るログがないため、CQS をコールド・スタートする必要があります。

重要: MAXBUFSIZE の変更中に、構造が失われるか、またはキューを含む CF で障害が起こる場合、メッセージ・キューをリカバリーできなくなります。

MAXBUFSIZE を変更し、すべての CQS アドレス・スペースを再始動した後、構造または CF の障害が発生し

た場合に構造をリカバリーできるようにするために、構造ごとに構造チェックポイントを開始します。

モジュール: CQSLOG20

CQS0353I *variable text*

LOG *logstreamname* STRUC *structurename*cqsid

説明: メッセージが LOG READ を示している場合、CQS はログ・ストリームを読み取り中です。このメッセージは、ログ読み取りが開始中か、進行中か、または完了したかを示します。ログ・ストリームを読み取り中の場合、進行中であることを示すメッセージが、1 分以上のインターバルで発行されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

variable text

- CQS LOG READ STARTED FROM BEGINNING OF LOG
- CQS LOG READ STARTED FROM LOGTOKEN *logtoken*
- CQS LOG READ STARTED FROM TIMESTAMP *timestamp*
- CQS LOG READ IN PROGRESS, LOG RECORD COUNT *logrecordcount*
- CQS LOG READ COMPLETED, LOG RECORD COUNT *logrecordcount*

ここで、

logtoken

CQS がログ・ストリームの読み取りを開始したログ・トークン。

timestamp

CQS がログ・ストリームの読み取りを開始したログ・レコードのタイム・スタンプ。

logrecordcount

ログ・ストリームから読み取られたログ・レコードの現在の数。

logstreamname

この構造に関する CQS の接続先のログ・ストリームの名前。この名前は CQSSGxxx PROCLIB メンバーに定義されます。

structurename

カップリング・ファシリティのメッセージ・キュー構造の名前。

cqsid CQS ID。

システムの処置: CQS の処理は続行されます。

モジュール: CQSLOG30、CQSLOG50

CQS0354E *variable text* LOG logstreamname STRUC
structurename cqsid RC=return_code
RSN=reason_code

説明: メッセージが LOG READ を示している場合、CQS ログ・ストリームの読み取り処理が失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

variable text

CQS LOG READ FAILED, LOG RECORD
COUNT logrecordcount
logrecordcount

ログ・ストリームから読み取られたログ・レコードの現在の数。

logstreamname

この構造に関する CQS の接続先のログ・ストリームの名前。この名前は CQSSGxxx PROCLIB メンバーに定義されます。

structurename

カップリング・ファシリティのメッセージ・キュー構造の名前。

cqsid CQS ID。

return_code

IXGBRWSE サービスからの 16 進戻りコードを示します。詳細については、IXGBRWSE マクロの資料を参照してください。

reason_code

IXGBRWSE サービスからの 16 進理由コードを示します。詳細については、IXGBRWSE マクロの資料を参照してください。

システムの処置: このエラーが初期設定中に発生した場合、CQS は異常終了します。このエラーが構造再作成処理中に発生すると、CQS は再作成を終了します。その他の場合は、CQS は処理を継続します。

IXGBRWSE サービスが戻りコード 08 と理由コード 0807 (無効なブラウズ・トークン) を戻す場合は、CQS0034A メッセージに対して「CONTINUE」を応答し、コマンド SETXCF

START,REBUILD,STRNAME=structurename を使用して新しい再作成を開始してください。

システム・プログラマーの応答: 問題を解決できない場合は、SYSLOG および CQS アドレス・スペースのメモリー・ダンプをコピーしてから、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して支援を受けてください。

モジュール: CQSLOG50

CQS0360W QUEUE REGISTRATION FAILED
FOR STRUCTURE structurename;
CHANGE CFRM POLICY AND
REBUILD

説明: イベント・モニター制御 (EMC) がすべて使用中のため、1 つ以上のキューのキュー登録が失敗しました。EMC のパーセンテージを増やすために CQS が構造の変更を試みましたが、増やすことができませんでした。構造が変更または再作成され、より多くの EMC が使用可能になるまで、以後のすべてのキュー登録は失敗します。正常なキュー登録が実行された後、キュー登録が失敗するたびにこのメッセージが発行されます。キュー登録は、次の場合に行われます。

- CQSINFRM 要求がある場合。
- 構造再作成の終了時。
- 構造への CQS 再接続の後。
- CQS がキューをオーバーフロー構造に移動した後

システムの処置: CQS の処理は続行されます。

システム・プログラマーの応答: CFRM ポリシーを変更して、構造のサイズを増やします。新しい CFRM ポリシーを活性化し、z/OS オペレーター・コマンド SETXCF START,REBUILD を使用して構造再作成を開始します。

モジュール: CQSINF00

CQS0370I STRUCTURE structurename IS
DEFINED AS NON-RECOVERABLE

説明: メッセージで識別された構造をリカバリー不能と定義しました。つまり、CQS グローバル・パラメーターの PROCLIB メンバーである CQSSGxxx で RECOVERABLE=NO と指定しました。この構造のデータは、構造に障害が起こると失われます。この構造に関連付けられた z/OS ログ・ストリームはありません。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

structurename

リカバリー不能と定義されている構造の名前。

システムの処置: CQS の処理は続行されます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: CQSICQSO

CQS0371I CQS COLD START FORCED FOR
NON-RECOVERABLE STRUCTURE
structurename

説明: structurename で識別された構造はリカバリー不能な構造であるため、それに対し CQS コールド・スタ

ートが強制されました。リカバリー不能な構造には、リカバリーのためにそれに関連付けられた z/OS ログ・ストリームがないので、それらの構造は、CQS の再始動時に必ず CQS のコールド・スタート処理を経なければなりません。加えて、CQS は、リカバリー不能な構造に障害が起こった場合にも、構造再作成プロセスの一部として、その構造をコールド・スタートします (それを空に初期設定します)。このメッセージは、これら双方のケースに発行されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

structurename

CQS がコールド・スタートした構造の名前。

システムの処置: このメッセージが CQS の再始動処理中に発行された場合、CQS の処理は続行されます。このメッセージがリカバリー不能な構造障害と再作成が原因で発行された場合には、CQS は、CQS 異常終了 0373 で、構造のコールド・スタート完了時に異常終了します。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

リカバリー不能な構造障害が起きた場合には、そのクライアントとの再同期処理を実行するため、および空の新しい構造を使用して操作を再開するために、CQS を再始動します。

モジュール: CQSIST40、CQSSTR00

関連情報:

 CQS 異常終了 0373

CQS0372E CQS COLD START FAILED FOR NON-RECOVERABLE STRUCTURE
structurename

説明: 前の構造障害の後で、リカバリー不能な基本キュー構造で CQS のコールド・スタートを試みているときに、エラーが発生しました。再作成構造はコールド・スタートできませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

structurename

CQS が始動を試みていた構造の名前。

システムの処置: CQS は、CQS 異常終了 0372 で異常終了します。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

基本構造またはオーバーフロー構造のいずれであっても、残存している古い構造がまだ割り振られている場合には、手動でその構造を削除します。次に、CQS を再

始動して、CQS の初期設定による構造の新たな割り振りとコールド・スタートを許可します。構造を削除するには、その構造を使用するすべての CQS が停止していることを最初に確認します。次に、以下の z/OS コマンドを使用して、構造を削除します。

SETXCF FORCE,STR,STRNAME=*structurename*

モジュール: CQSSTE20

関連情報:

 CQS 異常終了 0372

CQS0373E CQS CLEAN UP COMPLETED FOR NON-RECOVERABLE STRUCTURE
structurename

説明: CQS は、障害のあったリカバリー不能な構造に対するクリーンアップ処理を完了しました。

リカバリー可能な構造で障害が起きた場合、CQS は、システム・リカバリー・データ・セット (SRDS) および z/OS ログ・ストリームからその構造のリカバリーを試みます。CQS は、新しい構造を割り振って、SRDS およびログからその新しい構造にデータ・オブジェクトを入れます。リカバリー不能な構造 (CQSSGxxx PROCLIB メンバーに RECOVERABLE=NO が定義されている構造) には、そこからリカバリーするログ・ストリームはありません。代わりに、CQS は新しい構造を割り振り、それをコールド・スタートします。つまり、それを空の CQS 構造として初期設定します。このメッセージは、クリーンアップ・プロセスの完了を示します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

structurename

CQS がクリーンアップ処理を実行した、障害のあった構造の名前。

システムの処置: 障害のあった構造のクリーンアップとそのコールド・スタート後に、CQS は、CQS 異常終了 0373 で異常終了しました。この終了が必要なのは、次の理由によります。つまり、CQS は、CQS の再始動後のクライアント再接続処理中に起きる CQS の再同期処理をアクティブ・クライアントが終えるまで、アクティブ・クライアントに新しい空の構造の使用を許可できないからです。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

CQS を再始動します。CQS は、そのクライアントの再接続時に、空の新しい構造に接続して再同期処理を実行します。障害が起きた元の構造上にあったメッセージは、その構造がリカバリー不能と定義されていたためすべてが失われます。

モジュール: CQSSTE20

関連情報:

 CQS 異常終了 0373

CQS0374I STRUCTURE CHECKPOINT SKIPPED FOR NON-RECOVERABLE STRUCTURE *structurename*

説明: CQS 処理が、その処理の一部として構造チェックポイントをトリガーしました。しかし、関係する構造は、リカバリー不能構造でした。このため、構造チェックポイントはスキップされました。CQS の内部構造チェックポイントは、オーバーフローや再作成などの重大な構造イベントの後に生成されます。CQS は、リカバリー不能構造の内部構造チェックポイントを取るのをスキップします。これらの構造は、構造チェックポイントから再作成できないからです。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

structurename

内部構造チェックポイントがスキップされた基本キュー構造の名前

システムの処置: CQS は処理を続行します。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

これは、重大な構造イベントが生じる場合にリカバリー不能構造について予期されるメッセージです。このメッセージは、診断のために発行されます。

モジュール: CQSCHK30

CQS0375E CONNECT TO NON-RECOVERABLE STRUCTURE *structurename*
CQS0375E details

説明: このメッセージは、共通キュー・サーバー (CQS) がリカバリー不能キュー構造に接続し、エラーを検出すると発行されます。このエラーが発生すると、CQS は異常終了して再始動しなければなりません。このメッセージの後に CQS 異常終了 0373 が発行されます。

リカバリー不能キュー構造に障害が発生すると、CQS はその構造をコールド・スタートする再作成処理を実行しなければならず、その後、CQS は異常終了します。この目的は、CQS を再始動し、そのクライアントと再同期することにより、その構造がコールド・スタートしたことをクライアントに知らせることです。

CQS はこのメッセージに続けて CQS 異常終了 0373 を発行します。この再作成処理またはコールド・スタート処理が行われたときに CQS がキュー構造に接続しな

い場合、コールド・スタートは次回 CQS がその構造に接続したときに行われます。

メッセージ・テキストで、各変数の意味は以下のとおりです。

details 検出されたエラー。以下のいずれかの値を含む可能性があります。

REBUILD IN PROGRESS AND STRUCTURE IS IN *state* **STATE**

CQS がリカバリー不能構造に接続し、障害が発生した構造または CQS が接続を失った構造で再作成が進行中であることを検出しました。

VERSION MISMATCH *prev_version*
cur_version

CQS は、リカバリー不能構造に接続し、その構造の論理インスタンス・バージョン番号が前回の接続時とは異なることを検出しました。これは、CQS がその構造に接続していなかった間に、その構造がコールド・スタートされたことを示します。

structurename

CQS が接続している構造の名前。

state

構造の状態。以下のいずれかの値になります。

FAILED

CQS が構造から切断する前に、その構造で障害が発生しました。

CONLOSS

構造が CQS への接続を失いました。

prev_version

前回 CQS が接続したときの構造の論理インスタンス・バージョン番号。このバージョン番号は、その構造が最初に初期設定されたときの、ストア・クロック (STCK) 形式での 8 バイトのハードウェア時刻 (TOD) クロック値です。

cur_version

構造の現在の論理インスタンス・バージョン番号。このバージョン番号は、その構造が前回コールド・スタートされたときの、STCK 形式での 8 バイトのハードウェア時刻 (TOD) クロック値です。

システムの処置: CQS は CQS 異常終了 0373 を発行して異常終了します。

システム・プログラマーの応答: CQS を再始動します。CQS は、そのクライアントの再接続時に、新しい構造に接続して再同期を実行します。障害が発生した構造および CQS が接続を失った構造についてのメッセー

ジはすべて、その構造がリカバリー不能として定義されているため失われます。

第 5 章 CSL メッセージ (Common Service Layer)

Common Service Layer (CSL) は、CSL で始まるメッセージを発行します。

Common Service Layer (CSL) によって発行されるメッセージには、次のものがあります。

- Operations Manager (OM)
- Resource Manager (RM)
- TSO 単一制御点 (SPOC)
- 構造化呼び出しインターフェース (SCI) (Structured Call Interface (SCI))
- Open Database Manager (ODBM)

CSL メッセージ

ここでは、次のメッセージについて説明します。

CSL0001E CSL INITIALIZATION ERROR IN
modulename servicename RC=rc detail

または

CSL INITIALIZATION ERROR IN *modulename*
PARAM VALIDATION ERROR *parmname*

または

CSL INITIALIZATION ERROR IN *modulename*
UNKNOWN TCB TYPE *tcctype*

または

CSL INITIALIZATION ERROR IN *modulename*
servicename RC=rc RSN=rsn

または

CSL INITIALIZATION ERROR IN *modulename*
COEXISTENCE ERROR *errortext*

説明: CSL アドレス・スペースの初期化中にエラーが発生しました。初期設定エラーが発生することがあるのは、サービスの処理中、PROCLIB メンバーのパラメーターの妥当性検査中、または TCB の初期設定中です。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

detail エラーに関する追加情報です。

modulename

エラーを発行したモジュールの名前。

parmname

エラーになった PROCLIB メンバーのパラメーターの名前。この変数の値は次のいずれかです。

ARMRST

ARMRST パラメーターが無効です。有効な値は Y または N です。このパラメーターは、CSL アドレス・スペース・ランタイム・パラメーターとして指定するか、または CSL アドレス・スペース初期設定 PROCLIB メンバー (CSLOIxxx、CSLRIxxx、または CSLSIxxx) 内で指定します。

CMDSEC

OM ランタイム・パラメーター CMDSEC が無効です。有効な値は、A、E、N、または R です。

CQSSSN

CQSSSN パラメーターが無効です。このパラメーターが指定されている場合、値がすべてブランクであってはなりません。組み込みブランクは無視されます。 CSLRIxxx PROCLIB メンバーが CQSSSN パラメーターを定義します。

CQSSSN=MISSING

IMSplex はリソース構造 (STRNAME) 付きで定義されていますが、CQS サブシステム名の定義 (CQSSSN) が欠落しています。CQS サブシステム名は、リソース構造には必須です。

IMSPLEX COUNT>MAX

OM CSLOIxxx、SCI CSLSIxxx、または RM CSLRIxxx PROCLIB メンバーが定義する IMSplex 数が無効です。IMSplex 数が、サポートされる最大数より大きくなります。

NAME

IMSplex 名を定義する NAME パラメーターが無効です。このパラメーターが指定されている場合、値がすべて空白であってはなりません。組み込み空白は無視されます。

NAME パラメーターは、CSLOIxxx、CSLRIxxx、または CSLSIxxx PROCLIB メンバー内に指定されま

NO SECURITY EXIT

CMDSEC=A または CMDSEC=E オプションによりセキュリティー出口を要求していますが、ユーザー出口 PROCLIB メンバー内では BPE に対してセキュリティー出口が定義されていませんでした。

ODBMNAME

ODBM に ODBMNAME パラメーターが指定されていません。このパラメーターは、ODBM ランタイム・パラメーターとして指定するか、CSLDIxxx PROCLIB メンバー内に指定する必要があります。

OMNAME

OM の OMNAME パラメーターが指定されていません。このパラメーターは、OM ランタイム・パラメーターとして指定するか、または CSLOIxxx PROCLIB メンバーに指定する必要があります。

RMNAME

RM の RMNAME パラメーターが指定されていません。このパラメーターは、RM ランタイム・パラメーターとして指定するか、または CSLRIxxx PROCLIB メンバーに指定する必要があります。

RRS

ODBM にオプションの RRS パラメーターが正しく指定されませんでした。このパラメーターを指定する場合は、値を Y または N に設定します。

RSRCSTRUC

CSLRIxxx PROCLIB メンバーが CQS サブシステム (CQSSSN) を定義していますが、リソース構造

(RSRCSTRUC) 付きの IMSplex は、CSLRIxxx PROCLIB メンバー内に定義されていません。CQS サブシステム名には、リソース構造が必須です。

SCINAME

SCI の SCINAME パラメーターが指定されていません。SCINAME パラメーターは、SCI ランタイム・パラメーターとして指定するか、または CSLSIxxx PROCLIB メンバーに指定する必要があります。

STRNAME

STRNAME パラメーターが無効です。このパラメーターが指定されている場合、値がすべて空白であってはなりません。組み込み空白は無視されます。CSLRIxxx PROCLIB メンバーが STRNAME パラメーターを定義します。

rc 失敗したサービスについての戻りコード。
BPE サービス戻りコード、および CQS 戻りコードと理由コードに関する情報を参照してください。

rsn 失敗したサービスからの理由コード。

servicename

エラーを検出したサービスの名前。サービスは、以下のものによって提供されます。

BPEservicename

BPE サービス戻りコードについての情報を参照してください。

失敗したサービス名として BPELOAD が表示される場合、CSL アドレス・スペースはモジュールのロードを試みていました。メッセージに表示されるテキストは、ロードできなかったモジュールの名前です。モジュールが IMS.SDFSRESL にリンクされているかどうかを確認してください。

CSLZARM0

ARM サービス名については、z/OS: IXCARM の説明を参照してください。

CSLZLIC0

CSLZLIC0 から返される可能性のある戻りコードは、以下のとおりです。
X'04' CSLZLIC0 に無効な機能コードが渡されました。

CQSservicename

CQS 戻りコードおよび理由コードに関する情報を参照してください。

MVSservicename

z/OS がサービスを提供することもあります。z/OS サービスについては、以下を参照してください。

z/OS MVS Programming:
Authorized Assembler Services
Reference, Vol. 1
z/OS MVS Programming:
Authorized Assembler Services
Reference, Vol. 2
z/OS MVS Programming:
Authorized Assembler Services
Reference, Vol. 3
z/OS MVS Programming:
Authorized Assembler Services
Reference, Vol. 4

tcctype エラーを検出した TCB タイプ。
errortext

エラー・テキストは以下のいずれかの値になります。

REPOSITORYINPLEX

リポジトリを使用するために上位の RM が使用可能に設定されていました。IMS の旧バージョンの RM は、IMSplex 内で上位の RM と共存させることはできません。旧バージョンの IMS を再始動する前に、IMSplex 内でのリポジトリの使用を不可に設定する必要があります。

システムの処置: CSL アドレス・スペースは、CSL 異常終了 0010 で異常終了します。

システム・プログラマーの応答: 問題を解決できない場合は、SYSLOG およびメモリー・ダンプを保管してから、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して支援を受けてください。

モジュール: CSLDCF00, CSLDIN00, CSLDIN10, CSLDIT00, CSLOIN00, CSLOIN10, CSLOIT00, CSLRIN10, CSLRIT00, CSLSH00, CSLSING0, CSLSIN00, CSLSIS00, CSLSIT00, CSLSIT10, CSLSIX00, CSLSPL10, CSLSFRC0

関連資料:

 BPE サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

 CQS サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

 CSL 異常終了 0010

CSL0002E IMSPLEX INITIALIZATION ERROR
IN *modname servicenm* RC=*rc* detail

または

IMSPLEX INITIALIZATION ERROR IN *modname*
PARAM VALIDATION ERROR detail

または

IMSPLEX INITIALIZATION ERROR IN *modname*
servicenm RC=*rc* RSN=*rsn* CC=*compcode*

または

IMSPLEX INITIALIZATION ERROR IN *modulename*
servicenm RC=*rc* RSN=*rsn*

説明: IMSplex 初期設定でエラーが検出されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

compcode

サービス完了コード。

detail

特定のエラーに固有の、エラーに関する追加の詳細。この変数の値は次のいずれかです。

MULTIPLE RMS

この RM は IMSplex に結合できません。理由は、IMSplex に複数の RM が存在することになり、そのうちの少なくとも 1 つの RM にリソース構造が定義されていないからです。リソース構造を指定せずに IMSplex に存在することが許される RM は、1 つのみです。

RMGLOBAL IMSPLEX

この RM によって定義された IMSplex 名は、IMSplex 内の他の RM によって定義された IMSplex 名に一致していません。IMSplex 名は、RM のグローバル・リソースに定義されます。

STRUCTURE TYPE

RM が接続した構造のタイプは、RM によりサポートされていません。RM は、リソース構造にのみ接続できません。CSLRlxxx STRNAME パラメーターで定義された構造はリソース構造ではありません。

modulename

エラーを発行したモジュールの名前。モジュー

ル名の最初の 4 文字が、エラーを検出した CSL アドレス・スペースを示します。

- CSLO は OM を表します。
- CSLR は RM を表します。
- CSLS は SCI を表します。
- CSLD は ODBM を表します。

rc OM、RM、または SCI サービスの戻りコード。

rsn サービス理由コード。

servicename

エラーを検出したサービスの名前。サービス・プロバイダーは、BPE、OM、RM、または SCI です。BPE サービス戻りコード情報、OM、RM、または SCI サービスの戻りコードに関する情報、および CSL コード情報を参照してください。

システムの処置: CSL アドレス・スペースは、CSL 異常終了 0010 で異常終了します。

ODBM がコマンドを OM に登録しようとしている場合、障害が発生しても ODBM アドレス・スペースは終了しません。代わりに、OM が使用可能になったときに登録が再試行されます。

システム・プログラマーの応答: 問題を解決できない場合は、SYSLOG およびダンプを保管してから、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を受けてください。

モジュール:

CSLDPL10、CSLOPL10、CSLRPL10、
CSLRPL20、CSLRPL30、CSLSINP0、
CSLSINX0、CSLSRGSO、CSLSXCG0、
CSLDPL20

関連資料:

 BPE サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

 CSL コード (メッセージおよびコード)

関連情報:

 IMS 異常終了 0010

CSL0003A *csltype* IS WAITING FOR *target*

説明:

CSL アドレス・スペースは、ターゲット・アドレス・スペースがアクティブになるのを待っています。CSL アドレス・スペースは、ターゲット・アドレス・スペースへのアクセスを数回試行します。ターゲット・アドレス・スペースが非アクティブのままであれば、CSL アドレス・スペースは、CSL 異常終了 0010 で異常終了

します。ターゲット・アドレス・スペースがまだ始動していなければ、始動する必要があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

csltype CSL タイプ。これは、OM、RM、または ODBM です。

target ターゲット・アドレス・スペース。これは SCI または CQS です。

システムの処置: CSL アドレス・スペースは、*target* アドレス・スペースとの通信を試行し続けます。*target* アドレス・スペースが非アクティブのままであれば、CSL アドレス・スペースは、CSL 異常終了 0010 で異常終了します。

オペレーターの応答:

ターゲット・アドレス・スペースを始動します。

- ターゲットが CQS の場合は、CQSSSN= パラメーターによって CSLRIxxx PROCLIB メンバー内で指定された CQS を始動します。
- ターゲットが SCI の場合、*csltype* の初期設定 PROCLIB メンバー内の IMSplex 名は、SCI 初期設定 PROCLIB メンバー (CSLSIxxx) 内の IMSplex 名と一致する必要があります。

CSL タイプの初期設定 PROCLIB メンバーは、OM (CSLOIxxx)、RM (CSLRIxxx)、および ODBM (CSLDIxxx) です。

モジュール: CSLDPL10、CSLDPL20、CSLDREG0、CSLOPL10、CSLRIN10、CSLRPL10

CSL0004E CSLOMREG REQUEST FAILED IN
MODULE*name* VERB=*verb*
KEYWORD=*keyword* CC=*cc* OM=*om*。

説明: ODBM などの CSL コンポーネントが Operations Manager (OM) にコマンドを登録しようとしたが、登録は失敗しました。失敗したコマンドとキーワードの組み合わせごとに、CSL0004E メッセージが 1 つずつ出されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cc OM での登録に失敗したコマンドの完了コード。*cc* の値は、CSLORR マクロで定義されています。

keyword

OM での登録に失敗したキーワード

modulename

エラーを発行したモジュールの名前。

omname

コマンドの登録に失敗した OM の名前。

verb

OM での登録に失敗したコマンド *verb*

システムの処置: CSL コンポーネントは、リスト内の残りのコマンドの登録を試みます。コマンドが失敗するごとに CSL0004E メッセージが出力されます。すべての試みが完了した後、CSL0002E メッセージが出力されます。

オペレーターの応答: OM での登録に失敗したタイプ 2 コマンドがなくては操作を続行できない場合は、CSL コンポーネントを強制終了します。OM でのタイプ 2 コマンドの登録失敗は、CSL コンポーネントまたは OM のインスタンスの内部的なエラーです。必要な診断データを収集し、IBM ソフトウェア・サポート に連絡して支援を受けてください。

システム・プログラマーの応答: OM でのタイプ 2 コマンドの登録失敗は、CSL コンポーネントまたは OM のインスタンスの内部的なエラーです。必要な診断データを収集し、IBM ソフトウェア・サポート に連絡して支援を受けてください。必要な診断データとは、このメッセージと、CSL コンポーネント・アドレス・スペースのコンソール・ダンプです。

モジュール: CSLDPL20

CSL0012I THIS CSL REGION IS REGISTERED AS AN IMS VUE PRODUCT

説明: CSL 領域は、システム管理機能 (SMF) に IMS Value Unit Edition (VUE) 製品として登録されています。ODBM アドレス・スペースの初期設定中に領域が SMF に IMS Database VUE 製品として登録されている場合、このメッセージが発行されます。IMS Database VUE 製品の契約条件が受諾された場合、ODBM アドレス・スペースは IMS Database VUE 製品として登録されます。

システムの処置: ODBM アドレス・スペースは、SMF に IMS Database Value Unit Edition (VUE) 製品として登録されています。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: CSLZLIC0

CSL0020I csl READY

説明: CSL アドレス・スペースは使用可能であり、作動可能です。メッセージ・テキスト内の *csl* は CSL のタイプであり、OM、RM、または SCI です。

システムの処置: 処理は続行されます。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール:

CSLDIN10, CSLOIN10, CSLRIN10, CSLSIS00

CSL0021I csl SHUTDOWN COMPLETE

説明: *csl* に示された CSL アドレス・スペースは、シャットダウンを完了しました。

メッセージ・テキスト内の *csl* は、OM、RM、または SCI です。

システムの処置: 処理は続行されます。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール:

CSLDTM20, CSLOTM20, CSLRTM20, CSLSTM20

CSL0300I csl SHUTDOWN REQUESTED, CLIENT COUNT=cnt IMSPLEX=plex

説明: *plex* に示された IMSplex 内の、*csl* に示された CSL アドレス・スペースのシャットダウンが要求されました。*csl* アドレス・スペースにはクライアントが接続されています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

csl シャットダウン要求が出されたアドレス・スペース。この変数は OM、RM、ODBM、または SCI です。

cnt *csl* アドレス・スペースに接続されているクライアント数。

plex *csl* がある IMSplex の名前。

システムの処置: OM の場合、未処理のコマンドがすべて完了するか、またはタイムアウトになると、内部でクライアントが登録解除され、シャットダウンが進行します。

RM の場合、内部でクライアントが登録解除され、シャットダウンが進行します。

ODBM の場合、未処理の要求がすべて完了するか、またはタイムアウトになると、内部でクライアントが登録解除され、シャットダウンが進行します。

SCI の場合、すべてのアウトスタンディング要求が完了するか、またはタイムアウトになると、シャットダウンが進行します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール:

CSLDTM10, CSLOTM10, CSLRTM10, CSLSTM10

CSL1000I Error reconnecting to OM Audit Trail logstream. 処理を続行します。
IXGCONN RC=return_code
RSN=reason_code

説明: LOGENF AWE キュー・サーバーが MVS ログ

CSL2020I • CSL2021E

への再接続を試みました。再接続は成功しましたが、IXGCONN REQUEST=CONNECT サービスは警告戻りコードを返しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

return_code

IXGCONN サービスからの 16 進戻りコードを示します。

reason_code

IXGCONN サービスからの 16 進理由コードを示します。

システムの処置: 処理は正常に続行されます。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: CSLOLEN0

関連資料:

 z/OS: IXGCONN マクロの戻りコードおよび理由コード

CSL2020I **STRUCTURE** *strname* **REPOPULATION SUCCEDED**

説明: リソース構造の障害後に、構造の再設定が必要であることが CQS によってリソース・マネージャー (RM) に通知されました。RM はリソース構造のリソースを正常に再設定しました。

メッセージ・テキスト内の *strname* は、リソース構造名です。

システムの処置: 処理は続行する

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: CSLRPOPO

CSL2021E **STRUCTURE** *strname* **REPOPULATED ERROR, details**

説明: リソース構造の障害後に、リソース構造の再設定が必要であることが CQS によってリソース・マネージャー (RM) に通知されました。RM はリソースの再設定を試みましたが、失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

strname

リソース構造の名前。

details エラーの詳細を示します。詳細な情報は、以下のうちの 1 つです。

servicename **RC=retcode** **RSN=rsncode**
CC=compcode

ただし、次のとおりです。

servicename

エラーが発生したサービスの名前。

retcode サービス戻りコード。

rsncode サービス理由コード。

compcode

サービス完了コード。

resourcename *resourcevalue* *errortext*

ただし、次のとおりです。

resourcename

エラーが発生したリソースの名前。リソース名の CSLRRTYP は、リソース・タイプ・テーブルを表します。リソース名の CSLRGBL は、RM グローバル情報リソースを表します。

resourcevalue

エラーのあるリソースの属性値。リソース値の IMSPLEXNAME は、IMSpIex 名が、リソース構造上の CSLRRTYP リソース内の IMSplex 名に一致していないことを表します。

errortext

エラーに関する追加テキストです。エラー・テキストが MISMATCH の場合、リソース値がリソース構造上のリソース値に一致していないことを表します。

resourcename *errortext*

ただし、次のとおりです。

resourcename

エラーが発生したリソースの名前。リソース名の CSLRRTYP は、リソース・タイプ・テーブルを表します。リソース名の CSLRGBL は、RM グローバル情報リソースを表します。

errortext

エラーに関する追加情報です。エラー・テキストが CQS UNAVAILABLE の場合、CQS が使用できないため再設定が失敗したことを表します。エラー・テキストが

STRUCTURE

UNAVAILABLE の場合、構造が使用不可であるため再設定が失敗したことを表します。

システムの処置: RM は IMSplex でのアクティビティを静止するので、もはや RM 要求を処理しません。

システム・プログラマーの応答: RM が RM 要求を処理できなくなったため、RM をシャットダウンします。シャットダウン後に RM の再始動を試みることができません。

モジュール: CSLRPOPO

CSL2030I RM *rmid* IS QUIESCED; CQS *cqsid* IS UNAVAILABLE

説明: RM *rmid* は静止されるので、RM 要求を処理できません。原因は、CQS *cqsid* を使用できなくなったからです。RM が RM 要求を処理するには、CQS が必要です。RM *rmid* は CQS *cqsid* と関連しています。CQS が利用不可になっても、RM が別の理由ですでに静止されている場合は、このメッセージは発行されません。

システムの処置: RM は静止されることを SCI に通知するので、SCI は RM 要求をこの RM に送付するのを停止します。

システム・プログラマーの応答: CQS *cqsid* を立ち上げ、RM *rmid* を使用可能にします。RM 要求を処理できる RM が少なくとも 1 つ IMSplex 内にあることを確認します。

問題を解決できない場合は、SYSLOG をコピーし、CQS および RM のアドレス・スペースをダンプしてから、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して支援を受けてください。

モジュール: CSLRCQE0

CSL2031I RM *rmid* IS AVAILABLE; CQS *cqsid* IS AVAILABLE

説明: CQS *cqsid* が使用可能になったので、*rmid* によって示されるリソース・マネージャー (RM) は、再び RM 要求の処理に使用できるようになります。RM *rmid* は CQS *cqsid* と関連しています。

システムの処置: RM は CQS に登録し、そのリソース構造に接続します。RM は、要求を処理する準備ができたことを SCI に通知します。SCI はこの RM へ要求の経路指定を再開します。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: CSLRCQE0

CSL2040I RM *rmid* IS QUIESCED; STRUCTURE *strname* IS UNAVAILABLE

説明: *rmid* で示されるリソース・マネージャー (RM) は静止され、RM 要求の処理に使用できません。原因は、リソース構造 *strname* が使用できなくなったからです。RM は、リソース構造なしでは RM 要求を処理できません。RM *rmid* は CQS *cqsid* と関連しています。構造が利用不可になっても、RM が別の理由ですでに静止されている場合は、このメッセージは発行されません。

システムの処置: RM は静止されることを SCI に通知するので、SCI は RM 要求をこの RM に送付するのを停止します。

システム・プログラマーの応答: 構造が利用不可である理由を突き止め、問題を訂正します。

構造に障害がある場合、新規構造は割り振れません。カップリング・ファシリティーの使用法および CFRM ポリシーを分析して、新規の構造割り振りができなかった原因を判別します。

リンクが失敗した場合は、リンクを復元するか、または構造のコピーを開始し、すべての CQS がアクセスするカップリング・ファシリティーにリソース構造をコピーします。RM 要求を処理できる RM が少なくとも 1 つ IMSplex 内にあることを確認します。

問題を解決できない場合は、SYSLOG をコピーし、CQS および RM のアドレス・スペースをダンプしてから、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して支援を受けてください。

モジュール: CSLRSTEO

CSL2041I RM *rmid* IS AVAILABLE; STRUCTURE *strname* IS AVAILABLE

説明: リソース構造 *strname* が使用可能になったので、リソース・マネージャー (RM) *rmid* が再び RM 要求の処理に使用できるようになりました。RM *rmid* は CQS *cqsid* と関連しています。

システムの処置: RM は、要求を処理する準備ができたことを SCI に通知します。SCI はこの RM へ要求の経路指定を再開します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: CSLRSTEO

CSL2050E SERVICE *servicename* ERROR
MODULE *modulename* RC=*rc* RSN=*rsn*
CC=*compcode*

または

SERVICE *servicename* ERROR MODULE RC=*rc*
RSN=*rsn*

説明: リソース・マネージャー (RM) の通常の処理で呼び出したサービスが失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

servicename

失敗したサービスの名前。サービスとは、CQS 要求、つまり CQSREG、または CQSCONN などです。

modulename

サービスを呼び出したモジュール。

rc

サービス戻りコード。

rsn

サービス理由コード。

compcode

サービス完了コード。

理由コード、戻りコード、および完了コードについては、CQS サービス戻りコードの情報を参照してください。

システムの処置: CQS が使用可能になり、RM CQSREG または CQSCONN 要求が失敗した場合、RM は静止状態のままです。

システム・プログラマーの応答: サービス名、戻りコード、理由コード、および完了コードをルックアップし、問題を訂正可能かどうか判別します。

問題を解決できない場合は、SYSLOG をコピーし、CQS および RM のアドレス・スペースをダンプしてから、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して支援を受けてください。

モジュール: CSLRCQE0

関連資料:

 CQS サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

CSL2200I CLIENT *client* INITIATED PROCESS
imsplexprocess **FOR IMSPLEX**
imsplexname

説明:

IMSplex 全体にわたるプロセスが、クライアントによって開始されたか、RM 障害またはリソース構造障害の後で再開始されました。プロセスの間に RM 障害または

リソース構造障害が発生し、クライアントが障害から処理ステップを強制リカバリーすると、このメッセージが複数回現れることがあります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

client プロセスを開始したクライアントの名前。

imsplexprocess

開始されたプロセスの名前。

imsplexname

プロセスが開始された IMSplex の名前。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: CSLRPR00、CSLRPR10

CSL2201I CLIENT *client* TERMINATED
PROCESS *imsplexprocess* FOR IMSPLEX
imsplexname

説明: クライアントは IMSplex 全体のプロセスを正常に終了しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

client プロセスを終了したクライアントの名前。

imsplexprocess

終了したプロセスの名前。

imsplexname

プロセスが終了した IMSplex の名前。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: CSLRPR40

CSL2210I RM SHUTDOWN TERMINATED
PROCESS *imsplexprocess* FOR IMSPLEX
imsplexname

説明: リソース構造が定義されていない IMSplex に対してリソース・マネージャー (RM) のシャットダウンを要求しましたが、IMSplex 全体にわたるプロセスが進行中のため、シャットダウンを進めることができませんでした。RM は、RM のシャットダウンが進むように、そのプロセスを終了します。IMSplex 全体にわたるプロセスのナレッジをクリーンアップするのは、そのプロセスを所有する RM クライアントの責任です。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

imsplexprocess

IMSplex 全体にわたるプロセスの名前。DFS0LC は、IMS グローバル・オンライン変更プロセスを示します。

imsplexname

IMSplex の名前。

システムの処置: IMSplex 全体にわたるプロセスは終了します。RM には IMSplex 全体のプロセスに関する認識はなくなります。

システム・プログラマーの応答: RM クライアントが IMSplex 全体にわたるプロセスのナレッジをクリーンアップすることを確認します。

モジュール: CSLRTOTO

**CSL2500I RM *rmid request* REQUEST
SUCCESSFUL FOR
REPOSITORY NAME=*reponame*,
REPOSITORY TYPE=*reptype***

説明: リソース・マネージャー (RM) は IMSRSC リポジトリに正常に接続しました。このリポジトリの名前は、CSLRIxxx PROCLIB メンバーまたはリソース構造から取得されたものです。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rmid メッセージを発行している RM の RM ID を示します。

request 要求のタイプを示します。この値は CONNECT または DISCONNECT のいずれかです。

reponame RM が接続されるリポジトリの名前 (44 バイト) を示します。

reptype RM が接続されるリポジトリのタイプ (8 バイト) を示します。サポートされる値は IMSRSC のみです。

システムの処置: RM は処理を続行します。RM はリポジトリに接続されるか、またはリポジトリから切断されます。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

**CSL2501I INITIALIZATION OF REPOSITORY
SUCCESSFUL FOR THE
REPOSITORY NAME=*reponame*,
REPOSITORY TYPE=*reptype***

説明: リソース・マネージャー (RM) は、キーおよび索引フィールド、RM 制御情報、またはその両方を使用して、IMSRSC リポジトリを正常に初期設定しました。このメッセージは、RM がリポジトリに接続したときに、リポジトリ内のキーおよび索引フィールドまたは RM 制御情報が初期設定されていなかったことを示しています。

注: IMSplex では、複数の RM が同時に開始されている場合、またはリポジトリ・データ・セットがスクラッチおよび再割り振りされた後で複数の RM がリポジトリに接続した場合、CSL2501I が複数の RM によって発行される可能性があります。これは、それぞれの RM が、キーおよび索引フィールドや RM 制御情報などの異なるエンティティを初期設定している可能性があるためです。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

reponame

RM が接続されるリポジトリの名前 (44 バイト) を示します。

reptype

RM が接続されるリポジトリのタイプ (8 バイト) を示します。サポートされる値は IMSRSC のみです。

システムの処置: RM はリポジトリに接続されます。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

**CSL2502A RM WAITING FOR MASTER
REPOSITORY SERVER ADDRESS
SPACE**

説明: RM は CSLRIxxx メンバー内の IMSRSC リポジトリで使用可能になっています。ただし、RM がリポジトリ・サーバー (RS) アドレス・スペースに登録できないため、RM の初期設定が完了していません。CSL2502A メッセージの前に発行される CSL2510E メッセージが、RS REGISTER 要求で RM が受け取ったエラーを識別します。

CSL2502A メッセージは強調表示され、RM が RS に正常に登録できるようになるまで強調表示されたままです。

RM は 5 秒おきに RS への登録を試みます。RM が RS に正常に登録でき、RM の初期設定を続行できるようにするには、RS REGISTER 要求に関するエラーを修正する必要があります。

システムの処置: RM は CSL2502A メッセージと CSL2510E メッセージを 1 回発行します。RM は、RS への登録が成功するまで、または CANCEL コマンドを使用して RM が終了されるまで、5 秒おきにその登録を試みます。

オペレーターの応答: RM が RS アドレス・スペースに正常に登録できるよう、CSL2510E メッセージに示さ

CSL2503A • CSL2504I

れている方法でエラーを修正します。または、CANCEL コマンドを使用して RM を終了し、RS REGISTER エラーが修正されたら RM を再始動します。

システム・プログラマーの応答: RM が RS アドレス・スペースに正常に登録できるよう、CSL2510E メッセージに示されている方法でエラーを修正します。または、CANCEL コマンドを使用して RM を終了し、RS REGISTER エラーが修正されたら RM を再始動します。

ユーザーの処置: RM が RS アドレス・スペースに正常に登録できるよう、CSL2510E メッセージに示されている方法でエラーを修正します。または、CANCEL コマンドを使用して RM を終了し、RS REGISTER エラーが修正されたら RM を再始動します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: CSL2510E メッセージでエラーの戻りコードおよび理由コードを確認し、エラーを修正して RM が RS アドレス・スペースに登録できるようにします。

モジュール: CSLRRP10

CSL2503A **CSL2503A RM WAITING FOR REPOSITORY,**
REPOSITORY TYPE=*reptype*
REPOSITORY NAME=*reponame*

説明: RM は CSLRIxxx メンバー内の IMSRSC リポジトリで使用可能になっています。ただし、RM は初期設定中に CSL2503A メッセージに名前が指定されているリポジトリに接続できません。CSL2503A メッセージの前に発行される CSL2511E メッセージが、リポジトリの CONNECT 要求で RM が受け取ったエラーを識別します。

CSL2503A メッセージは強調表示され、メッセージに名前が指定されているリポジトリに RM が正常に接続できるようになるまで強調表示されたままです。

RM は 5 秒おきにリポジトリへの接続を試みます。RM がリポジトリに接続でき、RM の初期設定を続行できるようにするには、RS CONNECT 要求に関するエラーを修正する必要があります。

メッセージ・テキスト内の項目は以下のとおりです。

reptype

リポジトリ・タイプを示します。

reponame

リポジトリ名を示します。

システムの処置: RM は CSL2503A メッセージと CSL2511E メッセージを 1 回発行します。RM はリポジトリへの接続が成功するまで、または CANCEL コマンドを使用して RM が終了されるまで、5 秒おきにその接続を試みます。

オペレーターの応答: RM がリポジトリに正常に接続できるよう、CSL2511E メッセージに示されている方法でエラーを修正します。または、CANCEL コマンドを使用して RM を終了し、RS CONNECT エラーが修正されたら RM を再始動します。

システム・プログラマーの応答: RM がリポジトリに正常に接続できるよう、CSL2511E メッセージに示されている方法でエラーを修正します。または、CANCEL コマンドを使用して RM を終了し、RS CONNECT エラーが修正されたら RM を再始動します。

ユーザーの処置: RM がリポジトリに正常に接続できるよう、CSL2511E メッセージに示されている方法でエラーを修正します。または、CANCEL コマンドを使用して RM を終了し、RS CONNECT エラーが修正されたら RM を再始動します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: CSL2511E メッセージでエラーの戻りコードおよび理由コードを確認し、エラーを修正して RM がリポジトリに接続できるようにします。

モジュール: CSLRRP20

CSL2504I **RM rmid ENABLED FOR REPOSITORY REQUESTS FOR REPOSITORY NAME=***reponame*,
REPOSITORY TYPE=*reptype*

説明: リソース・マネージャー (RM) が初期設定を完了し、クライアント・リポジトリ要求を処理するために使用可能になりました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rmid メッセージを発行している RM の RM ID を示します。

reponame

RM が接続されるリポジトリの名前 (44 バイト) を示します。

reptype

RM が接続されるリポジトリのタイプ (8 バイト) を示します。サポートされる値は IMSRSC のみです。

システムの処置: RM は、クライアント・リポジトリ要求を処理するために使用可能です。

オペレーターの応答: IMSRSC リポジトリへのアクセスを必要とする任意の IMS コマンドを発行できません。

システム・プログラマーの応答: IMSRSC リポジトリへのアクセスを必要とする任意のユーティリティまたは IMS コマンドを発行できます。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

CSL2505W RM request FOR IMSID=*imsid* is WAITING FOR A LOCK HELD BY ANOTHER REQUEST IN PROGRESS
PARM1 = *request_type*
PARM2 = *imsid*

説明: IMS のリソース・マネージャー (RM) 要求が、進行中の別の要求によって保持されているロックを待機しています。その別の要求は、同じ RM 内または別の RM 内にあります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

request_type

ロックを取得できなかった RM 要求を示します。

imsid ロックを取得できず、待機中の IMS の ID を示します。

システムの処置: RM は、最初にロックを取得できなかった時点でこのメッセージを発行します。その後、RM は 6 秒待ってロック要求を再試行します。このメッセージは強調表示され、ロックが取得されるか、要求が取り消されるか、または RM が終了するまで強調表示されたままになります。

オペレーターの応答: ロックが取得されるのを待機するか、ロックを待機しているジョブを取り消します。

システム・プログラマーの応答: ロックが取得されるまで要求を待機させるか、ロックを待機しているジョブを取り消します。

ユーザーの処置: ロックが取得されるまで要求を待機させるか、ロックを待機しているジョブを取り消します。

CSL2510E *rqstname* REQUEST TO REPOSITORY SERVER DID NOT SUCCEED,
RC=*rc*,RSN=*rsn*,ERRORTEXT=*errtext*

説明: リポジトリ・サーバー (RS) への REGISTER または DEREGISTER 要求が失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rqstname

成功しなかった要求のタイプを示します。この値は REGISTER または DEREGISTER のいずれかです。

rc RS からの戻りコードを示します。

rsn RS からの理由コードを示します。

errtext RS 要求からのエラー・テキストを示します。エラー・テキストは、ヌルか、または 6 ワードのテキストのいずれかです。

RS からの戻りコードおよび理由コードの説明については、IMS.SDFSMAC データ・セット内の FRPSRVRS マクロを参照してください。

システムの処置: RM の初期設定中に CSL2510E メッセージが発行された場合、CSL2510E メッセージの後に CSL2502A メッセージが続きます。CSL2510E メッセージと CSL2502A メッセージは 1 回発行されます。RM の初期設定は完了しておらず、RM は、RS への登録要求が成功するまで、または RM が終了されるまで、5 秒おきにその登録を試みます。

コマンド・マスターまたは非コマンド・マスターのいずれかの RM で UPDATE RM コマンドの処理中にこのメッセージが発行された場合、このメッセージは RM がリポジトリを使用できるように設定されていないことを示します。

オペレーターの応答: RM の RS への登録を妨げているエラーを修正します。

RM の初期設定中に CSL2510E メッセージが発行された場合、エラーが修正されると RM の初期設定は続行されます。

UPDATE RM コマンドの処理中にこのエラー・メッセージが発行された場合は、RM を再始動するか UPDATE RM コマンドを発行して、RM が再び RS に登録できるようにします。

システム・プログラマーの応答: RM の RS への登録を妨げているエラーを修正します。

RM の初期設定中に CSL2510E メッセージが発行された場合、エラーが修正されると RM の初期設定は続行されます。

UPDATE RM コマンドの処理中にこのエラー・メッセージが発行された場合は、RM を再始動するか UPDATE RM コマンドを発行して、RM が再び RS に登録できるようにします。

ユーザーの処置: RM の RS への登録を妨げているエラーを修正します。

RM の初期設定中に CSL2510E メッセージが発行された場合、エラーが修正されると RM の初期設定は続行されます。

UPDATE RM コマンドの処理中にこのエラー・メッセージが発行された場合は、RM を再始動するか UPDATE RM コマンドを発行して、RM が再び RS に登録できるようにします。

モジュール: CSLRRP10

CSL2511E *rqstname* **REQUEST TO REPOSITORY DID NOT SUCCEED,**
RC=rc,RSN=rsn,ERRORTEXT=errtext
REPOSITORY NAME= reponame

説明: リポジトリ・サーバー (RS) への要求が失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rqstname

成功しなかった要求の名前を示します。この値は以下のいずれかになります。

- CONNECT
- DISCONNECT
- CONTROLQUERYFIELDS
- CONTROLSETFIELDS
- CONTROLSETAUDIT
- STARTUOW

reponame

RM が接続または切断を試みているリポジトリの 44 バイトの名前を示します。

rc RS からの戻りコードを示します。

rsn RS からの理由コードを示します。

errtext RS 要求からのエラー・テキストを示します。エラー・テキストは、ヌルか、または 6 ワードのテキストのいずれかです。

RS からの戻りコードおよび理由コードの説明については、IMS.SDFSMAC データ・セット内の FRPSRVRS マクロを参照してください。

システムの処置: RM の初期設定中に CSL2511E メッセージが発行された場合、CSL2511E メッセージの後に CSL2503A メッセージが続きます。RM の初期設定中、RM が RS CONNECT でエラーを検出するたびに、CSL2511E メッセージと CSL2503A メッセージが 1 回発行されます。RM の初期設定は完了しておらず、RM は、RS への接続要求が成功するまで、または RM が終了されるまで、5 秒おきにその接続を試みます。

コマンド・マスターまたは非コマンド・マスターのいずれかの RM で UPDATE RM コマンドの処理中にこのメッセージが発行された場合、このメッセージは RM がリポジトリを使用できるように設定されていないことを示します。

オペレーターの応答: RM のリポジトリへの接続を妨げているエラーを修正します。

RM の初期設定中に CSL2511E メッセージが発行された場合、エラーが修正されると RM の初期設定は続行されます。

UPDATE RM コマンドの処理中にこのエラー・メッセージが発行された場合は、RM を再始動するか

UPDATE RM コマンドを発行して、RM がリポジトリに接続できるようにします。

システム・プログラマーの応答: RM のリポジトリへの接続を妨げているエラーを修正します。

RM の初期設定中に CSL2511E メッセージが発行された場合、エラーが修正されると RM の初期設定は続行されます。

UPDATE RM コマンドの処理中にこのエラー・メッセージが発行された場合は、RM を再始動するか UPDATE RM コマンドを発行して、RM がリポジトリに接続できるようにします。

ユーザーの処置: RM のリポジトリへの接続を妨げているエラーを修正します。

RM の初期設定中に CSL2511E メッセージが発行された場合、エラーが修正されると RM の初期設定は続行されます。

UPDATE RM コマンドの処理中にこのエラー・メッセージが発行された場合は、RM を再始動するか UPDATE RM コマンドを発行して、RM がリポジトリに接続できるようにします。

モジュール: CSLRRP20, CSLRPX30, CSLRRPM0

CSL2512W THE REPOSITORY NAME FOR REPOSITORY TYPE=*reptype* IS OVERRIDDEN WITH THE RESOURCE STRUCTURE REPOSITORY NAME; RMINIT MBR VALUE: *reponame* RSC STR VALUE: *rsctrreponame*

説明: CSLRIxxx メンバーに指定された IMSRSC リポジトリ名が、リソース構造のリポジトリ名と異なります。リポジトリに最初に接続したリソース・マネージャー (RM) が、そのリポジトリ名をリソース構造に保管します。IMSplex 内のアクティブ・リポジトリは 1 つであるため、後続の RM はリソース構造のリポジトリ名を使用します。

このメッセージは、ユーザーに不一致を通知するための通知メッセージとして発行されます。これにより、ユーザーは CSLRIxxx メンバーを修正して、すべての RM が同じリポジトリ名を使用するように図ることができます。すべての RM アドレス・スペースで同一になるように CSLRIxxx メンバーが変更されない場合、RM は次の RM の再始動時に CSL2512W メッセージを発行します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

repotype

RM が接続されるリポジトリのタイプ (8 バイト) を示します。サポートされる値は IMSRSC のみです。

reponame

RMINIT メンバーからのリポジトリ名を示します。

rsrstreponame

RM リソース構造から読み取られたリポジトリ名を示します。

システムの処置: RM は、リソース構造から取得した情報を使用してリポジトリに接続します。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答: CSLRIxxx メンバーを変更して、すべての RM が、指定されたリポジトリ・タイプに対して同じリポジトリ名を使用するように図ります。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

CSL2513E DUPLICATE REPOSITORY STATEMENTS FOR REPOSITORY TYPE=*repotype* IN THE RMINIT MEMBER=*rminitmbr*

説明: 同じ IMSRSC リポジトリ・タイプに対して重複したステートメントが存在していたため、リソース・マネージャー (RM) が CSLRIxxx PROCLIB メンバーを REPOSITORY セクションとして処理できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

repotype

8 バイトのリポジトリ・タイプを示します。有効な値は IMSRSC のみです。

rminitmbr

RM の初期設定時に使用される CSLRIxxx PROCLIB メンバー名を示します。

システムの処置: RM はリポジトリに接続されません。

オペレーターの応答: RM がリポジトリを使用できるように CSLRIxxx メンバーを変更した後に、UPDATE RM コマンドを発行します。

システム・プログラマーの応答: 指定された CSLRIxxx PROCLIB メンバーの REPOSITORY セクション内のエラーを修正します。REPOSITORY セクション内のエラーについては、BPEPARSE エラー・メッセージを参照してください。RM がリポジトリを使用できるように CSLRIxxx メンバーを変更した後に、RM を再始動するか UPDATE RM コマンドを発行します。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

CSL2514E INVALID CHARACTERS IN REPOSITORY SECTION FOR *parmname* PARAMETER IN THE RMINIT MEMBER=*rminitmbr*

説明: REPOSITORY セクション内のパラメーターに無効文字が含まれていたため、リソース・マネージャー (RM) は、IMS PROCLIB データ・セットの CSLRIxxx メンバーを処理できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

parmname

無効文字を含むパラメーターを示します。*parmname* は 8 バイトで、値は GROUP または NAME のいずれかです。

rminitmbr

RM の初期設定時に使用される CSLRIxxx メンバー名を示します。

システムの処置: RM はリポジトリに接続されません。

オペレーターの応答: CSLRIxxx メンバーを訂正してから、UPDATE RM コマンドを発行して RM がリポジトリを使用できるようにします。

システム・プログラマーの応答: 指定された CSLRIxxx PROCLIB メンバーの REPOSITORY セクション内のエラーを修正します。REPOSITORY セクション内のエラーについては、BPEPARSE エラー・メッセージを参照してください。RM がリポジトリを使用できるように CSLRIxxx メンバーを変更した後に、RM を再始動するか UPDATE RM コマンドを発行します。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

関連資料:

 BPEPARSE コード (メッセージおよびコード)

CSL2515E CANNOT CONNECT TO REPOSITORY NAME=*reponame*; CQS ERROR FOR RESOURCE STRUCTURE REQUEST=*rqstname*, RC=*rc*, RSN=*rsn*

説明: リソース構造に対する読み取りまたは書き込み中の共通キュー・サーバー (CQS) エラーのために、リソース・マネージャー (RM) が IMSRSC リポジトリに接続できませんでした。RM はリポジトリに接続されません。

CQS 要求の戻りコード、理由コード、および完了コー

ドは、CQSRRxxx (xxx はトレース対象の機能を表します) という命名規則を使用するマクロによってマップされます。例えば、マクロ CQSRRPUT は、CQSPUT 要求に関連付けられている戻りコード、理由コード、および完了コードをマップします。エラーを識別するには、メッセージで返された要求名に基づいたマクロを使用してください。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

reponame

RM が接続しようとしているリポジトリの名前 (44 バイト) を示します。

rqstname

エラーが発生した CQS 要求を示します。

rc CQS 要求の戻りコードを示します。

rsn CQS 要求の理由コードを示します。

システムの処置: RM はリポジトリに接続されません。

オペレーターの応答: RM がリポジトリを使用できるように CQS エラーを修正した後に、UPDATE RM コマンドを発行します。

システム・プログラマーの応答: RM がリポジトリを使用できるように CQS エラーを修正した後に、RM を再始動するか UPDATE RM コマンドを発行します。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

関連資料:

 CQS 要求の戻りコードと理由コード (システム・プログラミング API)

CSL2516E REPOSITORY *parmname* PARAMETER SPECIFIED IN RMINIT MEMBER *mbrname* IS INVALID

説明: IMS PROCLIB データ・セットの CSLRIxxx メンバーに指定されたリポジトリ名が無効であったため、リソース・マネージャー (RM) は IMSRSC リポジトリに接続できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

parmname

無効なパラメーターを示します。*parmname* は 8 バイトで、値は GROUP または NAME のいずれかです。

mbrname

処理されている CSLRIxxx RMINIT メンバーを示します。

システムの処置: RM は、リポジトリが使用可能でない状態で処理を続行します。

オペレーターの応答: 有効なりポジトリ名または z/OS システム間カップリング・ファシリティ (XCF) グループ名を使用して RMINIT メンバーを訂正してから、UPDATE RM コマンドを発行します。

システム・プログラマーの応答: 有効なりポジトリ名、またはエラー・メッセージに指定されている XCF グループ名を使用して RMINIT メンバーを訂正します。その後に、RM を再始動するか UPDATE RM コマンドを発行して、RM がリポジトリを使用できるようにします。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: CSLRIN20

関連資料:

 IMS PROCLIB データ・セットの CSLRIxxx メンバー (システム定義)

CSL2517E THE XCFGROUP NAME FOR REPOSITORY TYPE=*repotype* DID NOT MATCH THE XCFGROUP NAME FROM THE RESOURCE STRUCTURE; RMINIT MBR VALUE: *xcfggrpname* RSC STR VALUE: *rscstrxcfggrpname*

説明: CSLRIxxx メンバーに指定された XCFGGRP 名の値が RM リソース構造の XCFGGRP 名と一致しなかったため、リソース・マネージャー (RM) はリポジトリ・サーバー・アドレス・スペースに登録できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

repotype

RM が接続されるリポジトリのタイプ (8 バイト) を示します。サポートされる値は IMSRSC のみです。

xcfggrpname

RMINIT メンバーから読み取られた XCFGGRP 名を示します。

rscstrxcfggrpname

RM リソース構造から読み取られた XCFGGRP 名を示します。

システムの処置: RM は、リポジトリが使用可能でない状態で処理を続行します。

オペレーターの応答: 有効なりポジトリ名が含まれるように RMINIT メンバーを変更した後に、UPDATE RM コマンドを発行します。

システム・プログラマーの応答: 有効な XCFGGRP 名を使用して RMINIT メンバーを修正します。RM を再始

動するか UPDATE RM コマンドを発行して、RM がリポジトリを使用できるようにします。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: CSLRIN20

CSL2518E *modulename* **COULD NOT INITIALIZE REPOSITORY TYPE** *repotype*
servicename **RC=returncode**

または

CSLRIN20 COULD NOT INITIALIZE REPOSITORY TYPE *repotype* **ERRORTEXT=errortext**

説明: IMSRSC リポジトリの初期設定が失敗しました。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

modulename

メッセージを発行したモジュールの名前。
modulename は、CSLRDIR0、CSLRIN20、または CSLRRP20 のいずれかです。

repotype

リソース・マネージャー (RM) が接続されるリポジトリのタイプ (8 バイト)。サポートされる値は IMSRSC のみです。CSLRxxxx PROCLIB メンバーに指定されたリポジトリ名が RM の初期設定でまだ読み取られていない場合、*repotype* は UNKNOWN になります。

servicename

エラーが検出された RM サービスの名前 (8 バイト)。*servicename* は、BPEPARSE や CSLSCMSG などの BPE または SCI サービス、あるいは以下のいずれかの内部 RM サービスの場合があります。

- GETIOBUF - 入出力バッファ要求
- INITAFMT - 属性フィールド・マッピング・テーブルの初期設定
- INITMBT - メンバー・テーブルの初期設定
- STRGREQ - ストレージ要求
- UPDAFMT - 属性フィールド・マッピング・テーブルの更新

returncode

失敗した *servicename* からの 4 バイトの戻りコード。

errortext

リポジトリを初期設定できなかった理由を説明する 16 バイトのエラー・テキスト。エラー・テキストは以下のいずれかの値になります。

- EMPTYSECTION - CSLRxxxx メンバーが REPOSITORY セクション・ヘッダーを使用して定義されましたが、REPOSITORY= ステートメントが定義されませんでした。RM の初期設定は、リポジトリが使用可能でない状態で完了します。

システムの処置: RM の初期設定中にこのメッセージが出された場合、ユーザーがエラーを訂正でき、リポジトリの初期設定が再試行されると、RM は初期設定を続行します。訂正可能なエラーの例として、以下のものがあります。

- RM が、CSLRxxxx メンバーを含む PDS を読み取ることができません。
- REPOSITORY セクションの CSLRxxxx メンバー内に構文エラーがあります。

RM の初期設定で、ストレージを取得できなかったか RM の処理に必要な初期設定機能を実行できなかった場合、RM は異常終了します。RM の初期設定が完了した後にこのメッセージが出された場合、RM は RS に登録されたままであり、IMSRSC リポジトリに接続されたままになります。CSL2518E メッセージの原因になったエラーが解決されると、RM は RS に再登録し、リポジトリに再接続します。

オペレーターの応答: 有効なリポジトリ名または z/OS システム間カップリング・ファシリティー (XCF) グループ名を使用して RMINIT メンバーを訂正してから、UPDATE RM コマンドを発行します。

QRY RM TYPE(REPO) を発行して、IMSRSC リポジトリが使用可能かどうかを確認します。リポジトリが使用可能でない各 RM で、UPDATE RM SET(REPO(Y)) コマンドを発行してリポジトリを使用可能にします。このコマンドは、リポジトリが使用可能に設定されていないすべての RM に経路指定する必要があります。

システム・プログラマーの応答: RM が異常終了する場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: CSLRRP20、CSLRPX30、CSLRRPM0

CSL2600I *modid* **WRITE TO REPOSITORY WAS SUCCESSFUL FOR**
REPOTYPE=*repotype*,
REPONAME=*repository_name*

説明: 情報がリポジトリに書き込まれました。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

modid モジュール ID を示します。この値として CSLURP10 が考えられます。

CSL2601E • CSL2602E

reptype

IMSRSC リポジトリのタイプを示します。この値として IMSRSC が考えられます。

repository_name

リポジトリの名前を示します。

システムの処置: 処理は続行されます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: CSLURP10

CSL2601E *modid* FAILED TO START BPE LIMITED FUNCTION SERVICES, RC=*rc*

説明: *modid* に示されたユーティリティーが、BPE 限定機能サービス (LFS) の開始に失敗しました。BPESTART FUNC=STARTLFS 機能から戻りコードが返されます。エラーの詳細については、BPESTART サービスおよび BPE0042E を参照してください。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

modid モジュール ID を示します。この値は、CSLURP10 または CSLURP20 のいずれかです。

rc BPESTART FUNC=STARTLFS 機能からの戻りコードを示します。

システムの処置: CSLURP10 または CSLURP20 は戻りコード 8 で終了します。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答: BPE LFS を開始できなかった理由について詳しくは、BPE0042E メッセージを参照してください。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: CSLURP10、CSLURP20

関連資料:

 BPESTART コード (メッセージおよびコード)

関連情報:

30 ページの『BPE0042E』

CSL2602E *modid* FAILED TO OPEN THE *ddname* DATA SET, RC=*rc*

または

modid FAILED TO OPEN THE *ddname* DATA SET, CC=*cc*

説明: *modid* に示されたユーティリティーが、必要なデータ・セットの 1 つをオープンできませんでした。このメッセージの RC=*rc* バージョンは、OPEN 戻りコードの 1 つを参照しています。これらの OPEN 戻りコードは、「z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets」の OPEN マクロの非 VSAM マクロに関する説明に記載されています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

modid モジュール ID を示します。この値は、CSLURP10 または CSLURP20 のいずれかです。

ddname オープン・エラーが発生したデータ・セットを識別します。この値は、SYSPRINT または RDDSDSN のいずれかです。

rc このメッセージの RC=*rc* バージョンでは、*rc* は戻りコードを示します。

cc このメッセージの CC=*cc* バージョンでは、*cc* は完了コードを示します。完了コードは以下のいずれかの値になります。

表 1. CSL2602E の完了コード

完了コード	意味	処置
0100	DCB ABEND EXIT が呼び出された	ジョブを再実行する前に、RDDSDSN OPEN 障害および実行すべきアクションについて説明するコンソール・メッセージを探してください。
0101	ブロック・サイズが 4096 より小さいか、または 32760 より大きい。	ジョブを再実行する前に、4096 から 32760 バイトまでの有効範囲内に収まるように RDDSDSN のブロック・サイズを訂正してください。
0102	BLKSZ-RECFM が 4 でない	指定されたブロック・サイズよりも 4 バイト小さくなるように、RDDSDSN のレコード・サイズを訂正してください。
0103	RECFM が VB でない	ジョブを再実行する前に、RDDSDSN の RECFM を VB (可変ブロック) に訂正してください。

表 1. CSL2602E の完了コード (続き)

完了コード	意味	処置
0104	未確定の OPEN エラー	ジョブを再実行する前に、RDDSDSN OPEN 障害および実行すべきアクションについて説明するコンソール・メッセージを探してください。

システムの処置: CSLURP10 または CSLURP20 は戻りコード 8 で終了します。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答: データ・セットの DD ステートメントが正しく定義されていることを確認してください。

モジュール: CSLURP10、CSLURP20

関連資料:

 z/OS: DFSMS の非 VSAM OPEN マクロの戻りコード

CSL2603I *modid IS PROCESSING RDDS dsname*

説明: *modid* に示されたユーティリティが、名前が *dsname* に指定されているリソース定義データ・セット (RDDS) を使用しています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

modid モジュール ID を示します。この値として CSLURP10 が考えられます。

dsname 処理されている RDDS の名前を示します。

システムの処置: CSLURP10 は処理を続行します。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: CSLURP10

CSL2604E *modid FAILED TO OBTAIN A 64-BIT BUFFER, SIZE=size, RC=rc*

説明: *modid* に示されたユーティリティが、内部バッファ用 64 ビット・ストレージを取得しようとしてエラーを検出しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

modid モジュール ID を示します。この値として CSLURP10 が考えられます。

size ストレージ所要量を示します。

rc 64 ビット仮想記憶域割り振り (IARV64) 要求から返される戻りコードを示します。

システムの処置: CSLURP10 は戻りコード 8 で終了します。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答: EXEC または JOB ステートメントのいずれかの MEMLIMIT パラメーターが 4 GB 以上に設定されていることを確認してください。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: CSLURP10

関連資料:

 BPE サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

CSL2605E *modid FAILED TO OBTAIN STORAGE, SIZE=size, RC=rc*

説明: *modid* に示されたユーティリティが、示されたコンポーネント用にストレージを取得しようとしてエラーを検出しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

modid モジュール ID を示します。この値は、CSLURP10 または CSLURP20 です。

size ストレージ所要量を示します。

rc ストレージ・サービスから返される戻りコードを示します。

システムの処置: CSLURP10 または CSLURP20 は戻りコード 8 で終了します。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答: ユーティリティが使用できる領域サイズを増やします。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: CSLURP10、CSLURP20

関連資料:

 z/OS: GETMAIN マクロの戻りコードおよび理由コード

CSL2606E *modid* ENCOUNTERED AN ERROR TRYING TO READ THE SYSIN DATA SET, RC=*rc*

説明: *modid* に示されたユーティリティが、SYSIN データ・セット内の入力パラメーターを読み取ろうとしてエラーを検出しました。BPERDPDS マクロは SYSIN データ・セットを開き、読み取ります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

modid モジュール ID を示します。この値は、CSLURP10 または CSLURP20 のいずれかです。

rc BPERDPDS サービスから返される戻りコードを示します。

システムの処置: CSLURP10 または CSLURP20 は戻りコード 8 で終了します。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答: SYSIN DD ステートメントが正しく定義されていることを確認してください。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: CSLURP10、CSLURP20

関連資料:

➡ BPERDPDS コード (メッセージおよびコード)

CSL2607E *modid* ENCOUNTERED AN ERROR TRYING TO PARSE THE SYSIN DATA, RC=*rc*

説明: *modid* に示されたユーティリティが、SYSIN データ・セット内のデータを解析しようとしてエラーを検出しました。BPEPARSE マクロは SYSIN データを構文解析します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

modid モジュール ID を示します。この値は、CSLURP10 または CSLURP20 のいずれかです。

rc BPEPARSE サービスから返される戻りコードを示します。

システムの処置: CSLURP10 または CSLURP20 は戻りコード 8 で終了します。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答: BPEPARSE エラーに

ついて詳しくは、BPE メッセージ BPE0003E を参照してください。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: CSLURP10、CSLURP20

関連資料:

➡ BPEPARSE コード (メッセージおよびコード)

関連情報:

16 ページの『BPE0003E』

CSL2608E *modid* ENCOUNTERED AN ERROR TRYING TO *rqstname* THE RDDSDSN DD, RC=*rc*

説明: *modid* に示されたユーティリティが、RDDSDSN DD ステートメントに指定された RDDSDSN DD に対して読み取りまたは書き込みを行おうとしてエラーを検出しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

modid モジュール ID を示します。この値は、CSLURP10 または CSLURP20 のいずれかです。

rqstname

要求のタイプを示します。この値は READ または WRITE のいずれかです。

rc QSAM GET マクロから返される戻りコードを示します。このエラーの戻りコード情報は、「z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets」の QSAM GET マクロの説明に記載されています。

システムの処置: CSLURP10 または CSLURP20 は戻りコード 8 で終了します。

システム・プログラマーの応答: RDDSDSN が置かれている装置を調べます。永続装置エラーが検出されない場合、ユーティリティを再度実行してください。

モジュール: CSLURP10、CSLURP20

関連資料:

➡ z/OS: QSAM GET マクロ

CSL2609E *modid* DETECTED THAT THE RDDSDSN DD DOES NOT CONTAIN VALID DATA, RSNTTEXT=*rsnttext*

説明: *modid* に示されたユーティリティが、RDDSDSN DD ステートメントに指定されたリソース定義データ・セット (RDDSDSN) が RDDSDSN でないか、正常

なエクスポートからのデータを含んでいないことを検出しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

modid モジュール ID を示します。この値として CSLURP10 が考えられます。

rsntext エラーの理由を示します。*rsntext* は次のいずれかの値です。

- DATA SET IS NOT AN RDDSDSN
- DATA IS NOT FROM A SUCCESSFUL EXPORT

システムの処置: ユーティリティは終了し、戻りコード 8 が示されます。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答: 以下のいずれかのデータ・セットを指すように、RDDSDSN DD ステートメントを更新します。

- 正常に行われたエクスポート手順から取得した有効なリソースを含む RDDSDSN
- いずれかの RDDSDSN 作成ユーティリティから正常に作成された RDDSDSN

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: CSLURP10

CSL2610E *modid* AN ERROR OCCURRED TRYING TO PROCESS THE RDDSDSN DD STATEMENT RSNTTEXT=*rsntext*

説明: *modid* に示されたユーティリティが、RDDSDSN DD ステートメントを処理しようとしてエラーを検出しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

modid モジュール ID を示します。この値は、CSLURP10 または CSLURP20 のいずれかです。

rsntext エラーの理由を示します。*rsntext* は次のいずれかの値です。

- RDJFCB REQUEST FAILED TO RETURN DSNAME
- MULTIPLE RDDSDSN DATA SETS DEFINED

システムの処置: CSLURP10 または CSLURP20 は戻りコード 8 で終了します。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答: RDDSDSN DD ステートメントが正しくコーディングされること、および連

結データ・セットを含んでいないことを確認してください。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: CSLURP10、CSLURP20

CSL2611E *modid* INVALID IMSID SPECIFIED *imsid*

説明: IMSID パラメーターに無効文字が含まれています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

modid モジュール ID を示します。この値は、CSLURP10 または CSLURP20 のいずれかです。

imsid 無効な IMSID パラメーターを示します。

システムの処置: CSLURP10 または CSLURP20 は戻りコード 8 で終了します。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答: IMSID パラメーターを訂正し、有効な英数字のみが含まれるようにします。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: CSLURP10、CSLURP20

CSL2612E *modid* INVALID IMSPLEX NAME SPECIFIED. *plexname*

説明: *modid* に示されたユーティリティが、IMSPLEX NAME パラメーターに無効値を指定しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

modid モジュール ID を示します。この値は、CSLURP10 または CSLURP20 のいずれかです。

plexname

無効な IMSPLEX(NAME=*plexname* パラメーター値を示します。

システムの処置: CSLURP10 または CSLURP20 は戻りコード 8 で終了します。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答: IMSPLEX (NAME=*plexname* に指定された IMSplex 名を訂正し、有効な英数字のみが含まれるようにします。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

CSL2613E • CSL2615E

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: CSLURP10、CSLURP20

CSL2613E *modid* FAILED TO REGISTER WITH
SCI, CSLSCREG REQUEST RC=*rc*,
RSN=*rsn*

説明: *modid* に示されたユーティリティが、構造化呼び出しインターフェース (SCI) に登録するための CSLSCREG 要求に失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

modid モジュール ID を示します。この値は、CSLURP10 または CSLURP20 のいずれかです。

rc CSLSCREG 要求からの戻りコードを示します。

rsn CSLSCREG 要求からの理由コードを示します。

システムの処置: ユーティリティは終了し、戻りコード 8 が示されます。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答: 指定された IMSplex 用の SCI が使用可能であることを確認します。SCI が使用可能になった後にユーティリティを再始動します。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: CSLURP10、CSLURP20

関連資料:

 CSLSCREG: 登録要求 (システム・プログラミング API)

CSL2614E *modid* FAILED TO REGISTER WITH
RM, RMNAME=*rmname*, RC=*rc*,
RSN=*rsn*

または

***modid* FAILED TO REGISTER WITH RM,
RMNAME=*rmname*, ERRORTXT=*errortxt***

説明: *modid* に示されたユーティリティが、*rmname* に示されたリソース・マネージャー (RM) システムへの登録に失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

modid モジュール ID を示します。この値は、CSLURP10 または CSLURP20 のいずれかです。

rmname CSLRMREG 登録要求が失敗した RM システムの名前を示します。

rc CSLRMREG 要求からの戻りコードを示します。

rsn CSLRMREG 要求からの理由コードを示します。

errortxt RM 登録が妨げられた理由を示します。この値は以下のいずれかになります。

- NOT READY (RM が作動不能な場合)
- NOT REACHABLE (RM にアクセスできない場合)
- LOWERVERRMINPLEX (RM のレベルが V1.5 未満の場合)

システムの処置: このユーティリティは、IMSplex 内の別のアクティブ RM への登録を試みます。すべての RM に対して登録が失敗した場合、メッセージ CSL2622E が発行され、ユーティリティは戻りコード 8 で終了します。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答: エラーを修正し、ユーティリティを再試行します。指定された IMSplex で少なくとも 1 つの RM システムが使用可能であること、およびその RM システムが IMSRSC リポジトリで使用可能になっていることを確認してください。IMSplex 内の RM システムはレベル 1.5 (IMS バージョン 12 の場合) 以上でなければなりません。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: CSLURP10、CSLURP20

関連資料:

 CSLSCREG: 登録要求 (システム・プログラミング API)

CSL2615E *modid* TOO MANY NAME=
PARAMETERS SPECIFIED

説明: *modid* に示されたユーティリティで、SYSIN 入力ステートメントの IMSPLEX(NAME= パラメーターを使用して複数の IMSplex 名が指定されています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

modid モジュール ID を示します。この値は、
CSLURP10 または CSLURP20 のいずれかです。

システムの処置: ユーティリティは終了し、戻りコード 8 が示されます。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答: IMSPLEX(NAME= パラメーターを 1 つだけ指定して、SYSIN 入力ステートメントを訂正します。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: CSLURP10、CSLURP20

CSL2616E *modid request* **REQUEST FAILED**
RC=rc, RSN=rsn

または

modid request **REQUEST FAILED RC=rc, RSN=rsn**
ERRORTXT=errortext

または

modid request **REQUEST FAILED RC=rc, RSN=rsn**
ERRORTXT=errortext
RSCNAME=rscname, RSCTYPE=rsctype, CC=compcode

説明: *modid* に示されたユーティリティが、IMSRSC リポジトリでのリソース定義の更新に失敗しました。どのようなエラーが発生した場合でも、要求全体が取り消されます。エラー・テキストがリポジトリ固有のエラーを示します。示されたリソース名とリソース・タイプにより、エラーの原因となったリソース名が特定されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

modid モジュール ID を示します。この値は、
CSLURP10 または CSLURP20 のいずれかです。

request 要求を示します。この値は、CSLRPUPD または CSLRPQRY です。

rc CSLRPUPD または CSLRPQRY 要求から返された戻りコードを示します。戻りコードの説明については、CSLRRR または CSLSRR マクロを参照してください。

rsn CSLRPUPD または CSLRPQRY 要求から返された理由コードを示します。理由コードの説明については、CSLRRR または CSLSRR マクロを参照してください。

errortext

スル、またはリポジトリ・エラー情報を含む 6 ワードのエラー・テキストを示します。

rscname

エラーが発生したリソースの名前を示します。

rsctype

エラーが発生したリソースのタイプを示します。

compcode

エラーの完了コードを示します。詳しくは、CSLRRR マクロを参照してください。

システムの処置: ユーティリティは終了し、戻りコード 8 が示されます。

システム・プログラマーの応答: CSLRPUPD または CSLRPQRY 要求からの戻りコードおよび理由コードに示されたエラーを修正し、ユーティリティを再実行してください。

モジュール: CSLURP10、CSLURP20

CSL2617E *modid* **CSLSCQRY REQUEST FAILED**
RC=rc, RSN=rsn

説明: *modid* に示されたユーティリティの CSLSCQRY 要求で、IMSpIex 内のアクティブ RM システムを識別できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

modid モジュール ID を示します。この値は、
CSLURP10 または CSLURP20 のいずれかです。

rc CSLSCQRY 要求から返された戻りコードを示します。

rsn CSLSCQRY 要求から返された理由コードを示します。

システムの処置: ユーティリティは終了し、戻りコード 8 が示されます。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答: エラーを修正し、ユーティリティを再実行します。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: CSLURP10、CSLURP20

関連資料:

 CSLSCQRY: 照会要求 (システム・プログラミング API)

CSL2618I *modid* IS PROCESSING PLEX=*plexname*,
IMSID LIST FROM *imsidsrc*, *imsid*

または

modid IS PROCESSING PLEX=*plexname*, IMSID
LIST FROM SYSIN, *imsid imsidlist*

説明: *modid* に示されたユーティリティが、IMSplex *plexname* と、ユーティリティ入力にリストされた *imsid* リストを処理しています。 *imsidlist* 行は複数ある場合があります。この入力が SYSIN からのものである場合、SYSIN に指定されている *n* 番目の IMSID の 1 つ前の IMSID が、最後の行の 1 つ前にくるように返されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

modid モジュール ID を示します。この値は、
CSLURP10 または CSLURP20 のいずれかです。

plexname
指定された IMSplex 名を示します。

imsidsrc
SYSIN または RDDDS。

imsid SYSIN の最初の IMSID、または RDDDS の
IMSID を示します。

imsidlist
指定された *n* 番目の IMSID の次の IMSID
を示します。

システムの処置: ユーティリティは処理を続行します。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: CSLURP10、CSLURP20

CSL2619E *modid* RM NOT DEFINED WITH
REPOSITORY FOR RMNAME=*rmname*,
REPOTYPE=*reptype*

説明: *modid* に示されたユーティリティが、メッセージに指定された IMSRSC リポジトリ・タイプで使用可能になっていない、またはそのタイプによって定義されていないリソース・マネージャー (RM) に登録しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

modid モジュール ID を示します。この値は、
CSLURP10 または CSLURP20 のいずれかです。

rmname
RM の名前を示します。

reptype
リポジトリのタイプを示します。

システムの処置: ユーティリティはその RM との登録を解除し、IMSplex 内で次に使用可能な RM への登録を試みます。そのリポジトリによって定義された RM がない場合、ユーティリティは戻りコード 8 で終了します。

システム・プログラマーの応答: ユーティリティを開始する前に、少なくとも 1 つの RM がそのリポジトリで使用可能になっていることを確認してください。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: CSLURP10、CSLURP20

CSL2620I *modid* SUCCESSFUL REGISTRATION
WITH RM, RMNAME=*rmname*

説明: *modid* に示されたユーティリティが、メッセージに指定されたリソース・マネージャー (RM) に正常に登録しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

modid モジュール ID を示します。この値は、
CSLURP10 または CSLURP20 のいずれかです。

rmname
RM の名前を示します。

システムの処置: ユーティリティは処理を続行します。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: CSLURP10、CSLURP20

CSL2621E *modid* FAILED TO LOAD MODULE
loadmod RC=*rc*

説明: *modid* に示されたユーティリティが、z/OS LOAD マクロを使用して、*loadmod* に示されたモジュールをロードできませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

modid モジュール ID を示します。この値として CSLURP20 が考えられます。

loadmod

z/OS LOAD マクロを使用してロードできなかったモジュールの名前を示します。

rc LOAD 戻りコードを示します。

システムの処置: ユーティリティは RC=8 で終了します。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答: 返された *rc* 値から、LOAD の失敗の理由を判別します。問題を訂正し、ユーティリティを再実行してください。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: CSLURP20

関連資料:

 z/OS: LOAD の戻りコードおよび理由コード

CSL2622E *modid* **COULD NOT REGISTER TO ANY RM IN THE IMSPLEX**

説明: *modid* に示されたユーティリティが、どのリソース・マネージャー (RM) システムにも登録できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

modid モジュール ID。この値は、CSLURP10 または CSLURP20 のいずれかです。

システムの処置: ユーティリティは終了し、戻りコード 8 が示されます。

システム・プログラマーの応答: エラーを修正し、ユーティリティを再試行します。指定された IMSplex で少なくとも 1 つの RM システムが使用可能であること、およびその RM システムが IMSRSC リポジトリで使用可能になっていることを確認してください。

IMSplex 内の RM システムはレベル 1.5 (IMS バージョン 12 の場合) 以上でなければなりません。

モジュール: CSLURP10、CSLURP20

CSL2625I *modid* **WRITE TO RDDS WAS SUCCESSFUL FOR RDDSdsn=rddsdsn_name FROM REPOTYPE=repotype REPONAME=reponame**

説明: Repository-to-RDDS ユーティリティ (CSLURP20) は、指定された IMSRSC リポジトリから指定されたリソース定義データ・セット (RDDS) に

正常にリソース定義を書き込みました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

modid モジュール ID を示します。この値は CSLURP20 です。

rddsdsn_name

RDDS データ・セット名を示します。

repotype

リポジトリ・タイプを示します。この値として IMSRSC が考えられます。

reponame

リポジトリ名を示します。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: CSLURP20

CSL3000E **SCI IMSPLEX INITIALIZATION ERROR IMSplex ALREADY MANAGED BY SCI sciname**

説明: 異なる名前の SCI が、z/OS イメージ上の IMSplex をすでに管理しています。この SCI はアクティブでない可能性があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

plex IMSplex の名前。

sciname

z/OS システム上の IMSplex を管理している SCI の名前。

システムの処置: 初期化中の SCI は異常終了します。

オペレーターの応答: 次のいずれかの処置を取ってください。

- SCI が異常終了 0010 サブコード X'0000072C' で終了する場合、IMSplex はアクティブな SCI によって管理されています。IMSPLEX パラメーターが CSLSIxxx (SCI 初期設定 PROCLIB メンバー) に正しくコーディングされている場合は、IMSplex はアクティブな SCI によって管理されているため応答は必要ありません。
- SCI が異常終了 0010 サブコード X'00000730' で終了する場合、IMSplex はアクティブではなくなっている SCI によって管理されていました。新しい SCI で IMSplex を管理するためには、FORCE=(ALL,SHUTDOWN) 始動パラメーターを指定し、古い名前を使用して SCI を始動する必要があります。この処置によって前の SCI が残したグロー

CSL3001E • CSL3011W

バル・ブロックがクリーンアップされるため、別の名前の SCI を使用して IMSplex を管理できるようになります。

モジュール: CSLSINP0

関連情報:

 CSL SCI 異常終了コード 0010

CSL3001E SCI IMSPLEX ERROR SCI *sciname* ALREADY EXISTS IN IMSPLEX *plex*

説明: 同名の SCI が IMSplex ですすでにアクティブです。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

sciname

IMSplex にすでに存在する SCI の名前。

plex IMSplex の名前。

システムの処置: 初期化中の SCI は異常終了します。

オペレーターの応答: CSLSIxxx (SCI 初期設定 PROCLIB メンバー) 内を調べ、IMSplex の *sciname* と同名の SCI がないことを確認します。同じ名前がある場合は、その SCI 名を変更します。

モジュール: CSLSXCG0

CSL3002E SCI INITIALIZATION ERROR *sciname* ALREADY ACTIVE ON OS IMAGE

説明: *sciname* により指定された SCI は、すでに z/OS イメージ上でアクティブです。

システムの処置: 初期化中の SCI は異常終了します。

オペレーターの応答: CSLSIxxx (SCI 初期設定 PROCLIB メンバー) 内を調べ、z/OS イメージ上に同名の SCI がないことを確認します。同じ名前がある場合は、その SCI 名を変更します。

モジュール: CSLSING0、CSLSFRCO

CSL3011W UNABLE TO CLEANUP *storage_type* *storage_id* - *reason*

説明: 構造化呼び出しインターフェース (SCI) は、グローバル・ストレージのクリーンアップを試行しましたが、制御ブロックまたはモジュールを削除できませんでした。このクリーンアップは通常の SCI 初期化中に行われたか、FORCE 始動パラメーターが使用されたために行われました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

storage_type

解放できなかったストレージのタイプ。ストレージが登録セル・プールの場合、ID は RG CPOOL です。表示される可能性のある値は、次のとおりです。

CONTROL BLOCK

ストレージは SCI グローバル制御ブロックです。

CPOOL

ストレージは登録セル・プールです。

MODULE

ストレージは SCI グローバル・モジュールであり、そのアドレスは SGBL から取得しました。

MODULE (CURR)

ストレージは SCI グローバル・モジュールであり、そのアドレスは現行 SGRT から取得しました。

MODULE (PREV)

ストレージは SCI グローバル・モジュールであり、そのアドレスは前の SGRT から取得しました。

storage_id

解放できなかったストレージ部分の ID。ストレージが制御ブロックの場合、ストレージ ID は制御ブロック名です。ストレージがモジュールの場合、ストレージ ID はモジュール名です。

reason

ストレージを解放できなかった理由。表示される可能性のある値は、次のとおりです。

BAD DATA

ストレージが制御ブロックの場合、目印が間違っているか、長さが負であるか、または長さが長すぎるかです。ストレージがモジュールの場合、ストレージのエントリー・ポイント・アドレスまたは目印の位置に、ベクトル・テーブルを示す、通常の初めの 2 バイトがありません。

ABEND

ストレージのアクセスまたは解放の試行中に、異常終了が発生しました。

システムの処置: SCI は処理を継続します。

システム・プログラマーの応答: 問題の原因は、SCI で前に発生した問題 (例、ストレージ・オーバーレイなど) である可能性があります。問題を解決できない場合は、SYSLOG および LOGREC データを保管してから、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して支援を受けてください。

モジュール: CSLSFRCO、CSLSIS00

**CSL3012W UNABLE TO DELETE MVS NAME
TOKEN FOR *control_blk_id nt_name*
RC=*return_cd***

説明: SCI は、指定された z/OS 名前/トークンを削除できません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

control_blk_id

削除される名前/トークンが表す制御ブロックの ID。表示される可能性のある値は、次のとおりです。

CSLSSGBL

名前/トークンは SCI グローバル・ブロックを表していました。

CSLSPGBL

名前/トークンは IMSplex グローバル・ブロックを表していました。

nt_name

削除される名前/トークンを指定するために使用された名前。

return_cd

IEANTDL サービスからの戻りコード。

システムの処置: SCI は処理を継続します。

IEANTDL サービスから受け取った戻りコードによっては、SCI の初期設定中に後で名前/トークンを追加できない可能性があるため、SCI を初期設定できないことがあります。

システム・プログラマーの応答: 問題の原因は、SCI で前に発生した問題 (例、ストレージ・オーバーレイなど) である可能性があります。問題を解決できない場合は、SYSLOG および LOGREC データを保管してから、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して支援を受けてください。

モジュール: CSLSFRC0

**CSL3013W MVS NAME TOKEN NOT FOUND
FOR *nt_type nt_name*. UNABLE TO
DELETE ASSOCIATED GLOBAL
STORAGE**

説明: グローバル・ストレージのクリーンアップを FORCE 始動パラメーターで SCI に要求したときに、示されたタイプおよび名前の z/OS 名前/トークンを SCI が見つけれられない場合に、このメッセージが発行されます。この名前/トークンに関連付けられている可能性があるグローバル・ストレージは、削除されません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nt_type SCI が探し出せない z/OS 名前/トークンのタイプ。表示される可能性のある値は、次のとおりです。

SCI SCI インスタンスを表す名前/トークン。

IMSPLEX

IMSpIex を表す名前/トークン。

nt_name

削除される名前/トークンを指定するために使用された名前。

システムの処置: SCI は処理を継続します。名前/トークン・タイプに関連したグローバル・ストレージの削除は行われません。

システム・プログラマーの応答: ストレージおよび名前/トークンは、前の SCI インスタンスによってすでにクリーンアップされた可能性があるか、または SCI が開始されなかったため名前/トークンがシステム上に作成されませんでした。このメッセージが発行された理由が不明で、問題を解決できない場合は、SYSLOG および LOGREC データを保管してから、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して支援を受けてください。

モジュール: CSLSFRC0

**CSL3014I SHUTDOWN REQUESTED AFTER
GLOBAL STORAGE CLEANUP**

説明: このメッセージは、FORCE 始動パラメーターの SHUTDOWN パラメーターを指定して構造化呼び出しインターフェース (SCI) が開始されると発行されます。このメッセージは、SCI がグローバル・ストレージのクリーンアップを完了し、シャットダウンの準備ができた後に発行されます。

システムの処置: SCI は、戻りコード 4 でシャットダウンします。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: CSLSIN00

**CSL3051I *resource_type* IN SHORT SUPPLY, XCF
RC=*return_code* RSN=*reason_code*,
failure_count FAILURES SINCE LAST
MESSAGE**

説明: このメッセージは、XCF のリソース不足のため XCF を使用して SCI がデータを送信できないときに発行されます。SCI は 1 秒待ってから、データの再送信を試みます。1 つのデータについて決められた回数試行した後もリソース不足が緩和されない場合、SCI はそのデータを送信しません。どのリソース・タイプについ

ても、このメッセージは 1 分につき 2 回以上発行されません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

resource_type

XCF で不足しているリソースのタイプ。表示される可能性のある値は、次のとおりです。

BUFFER

XCF のメッセージ・バッファが一時的に不足しています。この状態は、バッファの使用量が急に増えると起こることがあります。原因として、大容量の SCI XCF メッセージ・トラフィックか、または他の XCF ユーザーからの大容量のメッセージ・トラフィックが考えられます。

RESOURCE

バッファ以外の XCF のリソースが一時的に不足しています。XCF の他のリソースの例として、シグナル・パス、メッセージ・スペース、およびストレージがあります。メッセージにリストされた XCF 戻りコードと理由コードを基に、不足しているリソースを判別します。

XCF RC=return_code RSN=reason_code

SCI がデータ送信を試みたときに受け取ったコード。

failure_count

前回のメッセージを発行後に発生した、指定されたリソース・タイプの障害の回数。

システムの処置: SCI は 1 秒待ってから、データの再送信を試みます。1 つのデータについて数回試行した後もリソース不足が緩和されない場合、SCI はそのデータを送信しません。

システム・プログラマーの応答: XCF 経由のデータ送信が一時的に急増したために不足が起きたのであれば、データ・トラフィック量の減少とともにこの状態は解決されるので、何の処置も不要です。問題が解決しない場合には、XCF 構成を調整してください。

モジュール: CSLSXCO0

関連資料:

➡ z/OS: IXCMMSGC の戻りコードおよび理由コード

**CSL3070I SCI INSTANCE ssssssss FOUND
INACTIVE MEMBER mmmmmmmmm
WHICH REGISTERED WITH SCI
INSTANCE tttttttt**

説明: ある z/OS LPAR で実行されている SCI インスタンスが、別の z/OS LPAR で実行されている SCI インスタンスに、非アクティブな IMSplex メンバーが登録されたことを検出しました。非アクティブ・メンバーは、その SCI から登録解除されます。

このメッセージは、非アクティブ・メンバーを検出した SCI インスタンスと、非アクティブ・メンバーの登録先の SCI メンバーの両方から発行されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ssssssss メンバー・リスト内で非アクティブ・メンバーを検出した SCI のメンバー名。

mmmmmmmm 非アクティブ・メンバーのメンバー名。

tttttttt 非アクティブ・メンバーの登録先の SCI インスタンスのメンバー名。

システムの処置: 非アクティブ・メンバーは、その非アクティブ・メンバーを検出した SCI インスタンスのメンバー・リストから除去されます。

システム・プログラマーの応答: 2 つの SCI アドレス・スペースのコンソール・ダンプを取り、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: CSLSRML0

CSL3101I SCI CLEANUP COMPLETE sciname

説明: z/OS リソース・マネージャーは、*sciname* により指定された SCI のクリーンアップを完了しました。

システムの処置: 処理は続行されます。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: CSLSRM00

**CSL3102I SCI CLEANUP HAS COMPLETED
FOR MEMBER membername**

説明: SCI は、*membername* により指定された IMSplex メンバーのクリーンアップを完了しました。*membername* が **UNKN** の場合、SCI は IMSplex メンバーの名前を判別できませんでした。

システムの処置: 処理は続行されます。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: CSLSRM20

CSL3110E MEMBER *member_name* EXIT SRB
ABEND *abend_code* PSW=*psw* RSN=*rsn*
modname=module_address
EXIT=*exit_address status*

説明: 構造化呼び出しインターフェース (SCI) は、SCI メンバー出口を駆動するか、またはメンバーのアドレス・スペースのタスクを実行するために、*member_name* に示されたメンバーのアドレス・スペースにサービス要求ブロック (SRB) をスケジュールしました。SCI SRB ルーチンまたはメンバー出口が異常終了しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

member_name

異常終了が発生した IMSplex メンバーの名前。

abend_code

発生した異常終了 (システム異常終了の場合は Sxxx、ユーザー異常終了の場合は Uxxxx。)

psw 異常終了時の PSW (プログラム状況ワード) の内容。

rsn 異常終了理由コード (ある場合)、ない場合は N/A。

modname

SCI によってスケジュールされた SRB モジュールの名前。

module_address

modname に示されたモジュールのアドレス。

exit_address

呼び出されたメンバー出口のアドレス。
 CSLSSR50 で異常終了が発生した場合は、このフィールドは表示されません。

status SCI インターフェースの処理中に起きた異常終了の発生場所を示すテキスト。 *status* は次のいずれかの値です。

BEFORE EXIT

メンバー出口が呼び出される前に異常終了が発生しました。

IN EXIT

メンバー出口の制御下で異常終了が発生しました。

AFTER EXIT

メンバー出口から戻った後で異常終了が発生しました。

システムの処置: SCI メンバーのアドレス・スペース SRB ルーチンの異常終了の場合、SCI は、メンバーも SCI アドレス・スペースも異常終了しません。SRB リカバリー・ルーチンは、z/OS に戻る前に次の処置を取ります。

- このメッセージを発行する。

- メンバーおよび SCI のアドレス・スペースの SDUMP を生成する
- SRB インスタンスに関連した SCI およびメンバーのストレージのクリーンアップを試みる

リカバリー・ルーチンは、異常終了に関する診断情報を LOGREC データ・セットに記録します。

システム・プログラマーの応答: 生成されたメモリー・ダンプのコピーを保管し、この異常終了に関連する LOGREC レコードのコピーを保管または印刷します。このメッセージの *status* フィールドが IN EXIT 以外の値で、メンバーが IBM 製品 (IMS など) である場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。 *status* フィールドが IN EXIT で、メンバーが IBM 製品でない場合、そのメンバーの提供業者に連絡してください。

モジュール: CSLSSR00、CSLSSR10、CSLSSR20

CSL3111E SCI INTERFACE ABEND *abend_code*
PSW=*psw* RSN=*rsn*
modname=module_address status

説明: 構造化呼び出しインターフェース (SCI) 内で、SCI サービス要求の処理中に異常終了が発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

abend_code

発生した異常終了 (システム異常終了の場合は Sxxx、ユーザー異常終了の場合は Uxxxx。)

psw 異常終了時の PSW (プログラム状況ワード) の内容。

rsn 異常終了理由コード (ある場合)、ない場合は N/A。

modname

終了した SCI 呼び出しを処理したメイン・モジュールの名前。 *modname* が示すモジュールは、異常終了が発生したモジュールではないことがあります。

module_address

modname に示されたモジュールのアドレス。

status SCI インターフェースの処理中に起きた異常終了の発生場所を示すテキスト。 *status* は次のいずれかの値です。

AFT CPY BACK

メンバー・データが要求側のアドレス・スペースにコピーされた後で、異常終了が発生しました。

AFTER COPY

メンバー・データが宛先アドレス・スペースにコピーされた後、データが使

用可能であることを宛先に通知する前に、異常終了が発生しました。

AFTER SVC

登録または登録解除のいずれかで SVC が発行された後に異常終了が起きました。

BEFORE COPY

メンバー・データが宛先アドレス・スペースにコピーされる前に、異常終了が発生しました。

BEFORE SVC

登録または登録解除のいずれかで SVC が発行される前に異常終了が起きました。

IN COPY

メンバー・データを宛先アドレス・スペースにコピー中に、異常終了が発生しました。この異常終了は、誤りのデータがソース・メンバーから渡されたために発生した可能性があります。データのコピー中に宛先アドレス・スペースが終了すると、この異常終了になることがあります。

IN COPY BACK

要求の結果を要求側のアドレス・スペースにコピー中に異常終了が発生しました。この異常終了は、欠陥のある出力域アドレスが要求側または応答側メンバーから提供されたために発生した可能性があります。

REQUEST RTND

データが宛先メンバーに戻された後で、異常終了が発生しました。

REQUEST SENT

データが宛先メンバーに送信された後で、異常終了が発生しました。

STATUS UNKNW

異常終了が発生したときに、リカバリー・ルーチンがメンバー・サービス要求の状況を判別できませんでした。

SCI インターフェースの異常終了には、次のような複数の原因が考えられます。

- メンバー・プログラムによって渡された無効データ。
- インターフェース・モジュール内のエラー。
- 環境エラー (例えば、オーバーレイされた制御ブロックまたはストレージ問題)
- サービス要求の処理中での、宛先メンバーの終了。
- 終了した SCI の SCI リソース・クリーンアップの問題、または現在終了中の SCI のタイミング条件の問題。

SCI インターフェースの処理中に宛先メンバーが終了すると、インターフェース処理が異常終了することがあります。このタイプの異常終了では、インターフェース・リカバリー・ルーチンがリカバリーし、宛先メンバーが利用不可であることを示す戻りコードと理由コードを戻します。このタイプの異常終了には、メッセージまたは SDUMP は作成されません。

SCI インターフェースの処理中に SCI 自体が終了すると、インターフェース処理が異常終了することがあります。このタイプの異常終了では、インターフェース・リカバリー・ルーチンがリカバリーし、SCI が利用不可であることを示す戻りコードと理由コードを戻します。このタイプの異常終了には、メッセージまたは SDUMP は作成されません。

他の状態での異常終了の場合はすべて、インターフェース・リカバリー・ルーチンがこのメッセージを発行し、メンバーのアドレス・スペースおよび SCI アドレス・スペースの SDUMP を作成します (可能な場合)。また、リカバリー・ルーチンは、診断情報を LOGREC データ・セットに記録し、サービス要求に関連するリソースのクリーンアップを試みます。

リカバリー・ルーチンが安全に再試行できるポイントで異常終了が発生した場合、リカバリー・ルーチンは再試行し、メンバーにゼロ以外の戻りコードを戻します。状況が不明なためにリカバリーが不能であるポイントで異常終了が発生した場合、異常終了は再試行されません。このような場合、メンバーが異常終了したか、またはサービス要求が完了していない可能性があります。

システムの処置: SCI インターフェースで終了が発生した場合、インターフェース・リカバリー・ルーチンが z/OS から制御を受け取ります。リカバリー・ルーチンは、異常終了を分析し、適切なりカバリー処置を実施し、診断データを収集します。

システム・プログラマーの応答: ダンプのコピーを保管し、この異常終了に関連する LOGREC レコードのコピーを保管または印刷します。メンバーが IBM 製品 (IMS、OM、RM など) である場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。メンバーが IBM 製品でない場合、そのメンバーの提供業者に連絡してください。

モジュール: CSLSDR00, CSLSPC10, CSLSPC30, CSLSRG00, CSLSRQ00, CSLSRQ10

CSL3112E SDUMP FAILED FOR *abend* ABEND, RC=*rc*, RSN=*rsn*

説明: 構造化呼び出しインターフェース (SCI) が、異常終了後にアドレス・スペースのメモリー・ダンプを生成するために、z/OS に対して SDUMP 呼び出しを発

行しましたが、その SDUMP が失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

abend ストレージ・ダンプが作成された対象の異常終了コード。システム異常終了の場合、コードのフォーマットは *Sxxx* です (*xxx* は 3 桁の 16 進の異常終了コード)。ユーザー異常終了の場合、コードのフォーマットは *Udddd* です (*dddd* は 4 桁の 10 進の異常終了コード)。

rc z/OS SDUMP マクロからの戻りコード。

rsn z/OS SDUMP マクロからの理由コード。

システムの処置: SDUMP はスキップされます。

システム・プログラマーの応答: z/OS SDUMP マクロからの戻りコードおよび理由コードを使用して、SDUMP 障害の原因を判別します。可能であれば、将来のメモリー・ダンプが逸失しないように、障害の原因を訂正します。

モジュール: CSLSSR00 (ABENDDMP サブルーチン)

関連資料:

➡ z/OS: SDUMP の戻りコードおよび理由コード

CSL3113I DAE SUPPRESSED DUMP FOR *abend* ABEND

説明: 構造化呼び出しインターフェース (SCI) が、異常終了後にアドレス・スペースのメモリー・ダンプを生成するために、z/OS に対して SDUMP 呼び出しを発行しましたが、SDUMP は z/OS ダンプ分析重複回避機能 (DAE) によって抑止されました。

SCI リカバリー・ルーチンは、異常終了に関連する症状ストリング・データを収集し、SDUMP が要求されたときにこのデータを z/OS に提供します。DAE が使用可能な場合、z/OS は重複したメモリー・ダンプ (例えば、前に収集されたメモリー・ダンプとまったく同じ症状ストリングを持つダンプ) を抑止します。DAE は、MVS ADYSETxx PARMLIB メンバーおよび MVS SET DAE コマンドを介して制御されます。DAE オプションの指定について詳しくは、「z/OS MVS 初期設定およびチューニング ガイド」(SA88-8563) を参照してください。

メッセージ・テキストの *abend* は、ストレージ・ダンプが作成された異常終了コードです。システム異常終了の場合、コードのフォーマットは *Sxxx* です (*xxx* は 3 桁の 16 進の異常終了コード)。ユーザー異常終了の場合、コードのフォーマットは *Udddd* です (*dddd* は 4 桁の 10 進の異常終了コード)。

システムの処置: SDUMP はスキップされます。SCI が生成するメモリー・ダンプの症状ストリングが直前の

ダンプに一致しており、ADYSETxx 内の現行 DAE 設定値が SUPPRESS または SUPPRESSALL である場合、ダンプは抑止されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: CSLSSR00 (ABENDDMP サブルーチン)

関連資料:

➡ z/OS: ADYSETxx (ダンプの抑止)

➡ z/OS: ADYSETxx のステートメント/パラメータ

CSL3114I ABEND RECURSION DETECTED IN *modname* - RETRY WILL BE SKIPPED

説明: リカバリー・ルーチンで異常終了が処理されている間に、構造化呼び出しインターフェース (SCI) は再試行が許可されない条件を検出しました。再帰的異常終了が検出されるか、リカバリー・ルーチンに入った回数が多すぎるか、または z/OS が SCI に再試行が許可されないことを通知すると、この状態になることがあります。SCI はクリーンアップを試みてから、パーコレートします。

メッセージ・テキストの *modname* は、再試行がスキップされるルーチンの名前です。

システムの処置: エラー・リカバリー処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: CSLSPC10、CSLSPC30、CSLSRQ00、CSLSRQ10、CSLSXMG0

CSL3115E ABEND OCCURRED IN *module* PROCESSING - UNABLE TO LOCATE SCI BLOCKS FOR DIAGNOSTICS

説明: SCI インターフェース・モジュールで異常終了が発生しました。通常、メッセージ CSL3110E または CSL3111E が発行され、異常終了を文書化するためにストレージ・ダンプが作成されます。ところが、SCI リカバリー・ルーチンは、この診断処理を実行するために必要な SCI 制御ブロックを見つけることができませんでした。異常終了であっても、データは SYS1.LOGREC に書き込まれます。

メッセージ・テキストの *module* は、リカバリー・ルーチンが駆動された SCI モジュールの名前です。

システムの処置: 診断データは SYS1.LOGREC に書き込まれます。異常終了処理は続行されますが、他のエラー・メッセージは書き込まれず、このメッセージを発行したモジュールは SDUMP を作成しません。この異常

CSL3116E • CSL3117E

終了からリカバリーすることはおそらく不可能であり、この結果、関連した SCI クライアントが異常終了することがあります。

システム・プログラマーの応答: SYS1.LOGREC およびコンソール・ログのコピーを保管または印刷します。別のコンポーネントから関連メモリー・ダンプが作成される場合は (例えば、クライアントが異常終了から異常な終了をしたためなど)、そのメモリー・ダンプも保管します。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール:

CSLSDR00, CSLSDR20, CSLSPC10, CSLSPC30,
CSLSRG00, CSLSRG20, CSLSRQ00, CSLSRQ10,
CSLSSR00, CSLSSR10, CSLSSR20, CSLSSR30,
CSLSSR40, CSLSSR60, CSLSRM00, CSLSRM20,
CSLSXMG0

CSL3116E **SRB ABEND** *abend_code* **MEMBER**
member_name **PSW=psw** **RSN=rsn**
module_name=module_address

説明: IMSplex メンバー出口をスケジュールに入れない SCI サービス要求ブロック (SRB) ルーチンで異常終了が発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

abend_code

発生した異常終了 (システム異常終了の場合は Sxxx, ユーザー異常終了の場合は Uxxxx)。

member_name

SRB がスケジュールされたメンバーが使用可能であればその名前、使用可能でなければ適用外。

psw 異常終了時の PSW (プログラム状況ワード) の内容。

rsn 異常終了理由コード (ある場合)、または適用外。

module_name

異常終了が発生したモジュールの名前。

module_address

異常終了が発生したモジュールのアドレス。

システムの処置: SCI メンバーのアドレス・スペース SRB ルーチンの異常終了の場合、SCI は、メンバー・アドレス・スペースも SCI アドレス・スペースも異常終了しません。SRB リカバリー・ルーチンは、z/OS に戻る前に次の処置を取ります。

- CSL3111E メッセージを発行する
- メンバーおよび SCI のアドレス・スペースの SDUMP を生成する
- SRB インスタンスに関連した SCI およびメンバーのストレージのクリーンアップを試みる

リカバリー・ルーチンは、異常終了に関する診断情報を LOGREC データ・セットに記録します。

システム・プログラマーの応答: 生成されたダンプのコピーを保管し、この異常終了に関連する LOGREC レコードのコピーを保管または印刷します。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: CSLSSR70

関連情報:

107 ページの『CSL3111E』

CSL3117E **SVC ABEND** *abend_code* **MEMBER**
member_name **PSW=psw** **RSN=rsn**
module_name=module_address *status*

説明: 構造化呼び出しインターフェース (SCI) SVC ルーチンで異常終了が発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

abend_code

異常終了コード (システム異常終了の場合は Sxxx, ユーザー異常終了の場合は Uxxxx)。

member_name

SVC が発行されたメンバーの名前。

psw

異常終了時の PSW (プログラム状況ワード) の内容。

rsn

異常終了理由コード (ある場合)、または N/A。

module_name

異常終了が発生したモジュールの名前。

module_address

異常終了が発生したモジュールのアドレス。

status

SCI SVC 処理中に起きた異常終了の発生場所を示すテキスト。状況は、次のいずれかです。

CLEANUP

エラーの検出後、登録 SVC ルーチンのクリーンアップ中に異常終了が発生しました。

COPY BACK

登録 SVC ルーチンが登録出力データをコピー中に異常終了が発生しました。

DECR ACT CNT

MGBL ブロック内のアクティブ・メンバー・カウントを減らしているときに異常終了が発生しました。

DELET RESMGR

SCI のこのメンバーをモニターする z/OS リソース・マネージャーを削除中に異常終了が発生しました。

DEQ DEQ で ENQ を解放中に異常終了が発生しました。

IXCLEAVE

XCF グループを終了中に異常終了が発生しました。

PURGEDQ

MVS PURGEDQ の発行中に異常終了が発生しました。

REG PROC

登録 SVC ルーチンが登録を処理中に異常終了が発生しました。

RLSE MRT

MRT が含まれているストレージを解放中に異常終了が発生しました。

SCHED SR40

SCI アドレス・スペースで CSLSR40 をスケジューリング中に異常終了が発生しました。

SYSVNT OKSWP

SYSEVENT OKSWAP を発行中に異常終了が発生しました。

TERM SBM

メンバー・アドレス・スペースの SCI バッファ・マネージャーを終了中に異常終了が発生しました。

SCI 登録および登録解除の異常終了には、次のような複数の原因が考えられます。

- メンバー・プログラムによって渡された無効データ。
- インターフェース・モジュール内のエラー。
- 環境エラー (例えば、オーバーレイされた制御ブロックまたはストレージ問題)
- 現在終了中の SCI のリソース・クリーンアップの問題。

SCI アドレス・スペースが強制的に終了され、特定の SCI リソースがまだクリーンアップされていない場合、SCI リソース・クリーンアップまたは現在終了中の SCI のタイミング条件で問題が発生する可能性があります。

SVC ルーチンでの異常終了の場合、SVC リカバリー・ルーチンがこのメッセージを発行し、メンバーのアドレス・スペースおよび SCI アドレス・スペースの SDUMP を作成します (可能な場合)。また、リカバリー・ルーチンは、診断情報を LOGREC データ・セットに記録し、サービス要求に関連するリソースのクリーンアップを試みます。

リカバリー・ルーチンが安全に再試行できるポイントで異常終了が発生した場合、リカバリー・ルーチンは再試行し、メンバーにゼロ以外の戻りコードを戻します。状況が不明なためにリカバリーが可能でないポイントで異常終了が発生した場合、異常終了は再試行されません。

このような場合、メンバーが終了したか、またはサービス要求が完了していない可能性があります。

システムの処置: SCI 登録または登録解除 SVC で異常終了が発生した場合、SVC リカバリー・ルーチンが z/OS から制御を受け取ります。リカバリー・ルーチンは、異常終了を分析し、適切なリカバリー処置を実施し、診断データを収集します。

システム・プログラマーの応答: ダンプのコピーを保管し、この異常終了に関連する LOGREC レコードのコピーを保管または印刷します。メンバーが IBM 製品 (IMS、OM、RM など) である場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。メンバーが IBM 製品でない場合、そのメンバーの提供業者に連絡してください。

モジュール: CSLSRG20、CSLSDR20

CSL3118E RES MGR ABEND *abend_code*
MEMBER *member_name* **PSW**=*psw*
RSN=*rsn* **module_name**=*module_address*
status

説明: 構造化呼び出しインターフェース (SCI) MVS リソース・マネージャーで異常終了が発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

abend_code

異常終了コード (システム異常終了の場合は Sxxx、ユーザー異常終了の場合は Uxxx)。

member_name

リソース・マネージャーの実行対象になっているメンバーの名前。CSLSRM00 の場合、*member_name* は常に SCI です。

psw

終了時の PSW (プログラム状況ワード) の内容。

rsn

異常終了理由コード (ある場合)、または N/A。

module

異常終了が発生したモジュールの名前。

module_address

異常終了が発生したモジュールのアドレス。

status

SCI MVS リソース・マネージャー処理中に起きた異常終了の発生場所を示すテキスト。表示される可能性のある値は、次のとおりです。

CMBR VALIDTE

モジュールに渡された CMBR を CSLSRM20 が検証しようと試みている時に異常終了が発生しました。

DECR ACT CNT

MGBL ブロック内のアクティブ接続カウントを CSLSRM20 が減らしているときに異常終了が発生しました。

DEQ CSLSRM20 が DEQ で ENQ を解放しているときに異常終了が発生しました。

IXCLEAVE
CSLSRM20 が XCF グループを終了しているときに異常終了が発生しました。

MBR NOTIFY
SCI が終了したことを CSLSRM00 がローカル IMSplex メンバーに通知しているときに異常終了が発生しました。未処理の要求も、このプロセスの一部として POST されます。

PGBL RESET
PGBL ブロック内のアクティブ・フラグを CSLSRM00 がリセットしているときに異常終了が発生しました。

PURGEDQ
CSLSRM20 が MVS PURGEDQ を発行しているときに異常終了が発生しました。

SCHED SR40
CSLSRM20 が SCI アドレス・スペースで CSLSSR40 をスケジューリング中に異常終了が発生しました。

STORAGE RLSE
CSLSRM00 がローカル IMSplex メンバーの通知を完了後にストレージを解放しているときに異常終了が発生しました。

SCI MVS リソース・マネージャーの異常終了には、次のような複数の原因が考えられます。

- インターフェース・モジュール内のエラー。
- 環境エラー (例えば、オーバーレイされた制御ブロックまたはストレージ問題)

リソース・マネージャーでの問題は、稀です。ただし、モジュールの 1 つが異常終了した場合、それはリカバリーし、可能であれば、クリーンアップを続けます。

リソース・マネージャー・ルーチンでの異常終了の場合、リカバリー・ルーチンがこのメッセージを発行し、メンバーのアドレス・スペースおよび SCI アドレス・スペースの SDUMP を作成します (可能な場合)。また、リカバリー・ルーチンは、診断情報を LOGREC データ・セットに記録し、サービス要求に関連するリソースのクリーンアップを試みます。

リカバリー・ルーチンが安全に再試行できるポイントで異常終了が発生した場合、リカバリー・ルーチンは再試行します。特定の異常終了が原因で異常終了が再試行できないか、または再試行が不能であると z/OS が示し

ている場合、リソース・マネージャーはクリーンアップを終了せず、クリーンアップ完了メッセージは発行されません。

システムの処置: SCI MVS リソース・マネージャー・ルーチンで異常終了が発生した場合、リカバリー・ルーチンが z/OS から制御を受け取ります。リカバリー・ルーチンは、異常終了を分析し、適切なりカバリー処置を実施し、診断データを収集します。

システム・プログラマーの応答: ダンプのコピーを保管し、この異常終了に関連する LOGREC レコードのコピーを保管または印刷します。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: CSLSRM00、CSLSRM20

CSL3119E **SRB ABEND** *abend_code* **MEMBER**
member_name **PSW=psw** **RSN=rsn**
module_name=module_address *status*

説明: 構造化呼び出しインターフェース (SCI) アドレス・スペースで実行される SCI サービス要求ブロック (SRB) ルーチンで、異常終了が発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

abend_code

異常終了コード (システム異常終了の場合は Sxxx、ユーザー異常終了の場合は Uxxx)。

member_name

SRB がスケジュールされたメンバーが使用可能であればその名前、使用可能でなければ N/A。

psw

終了時のプログラム状況ワード (PSW) の内容。

rsn

異常終了理由コード (ある場合) か、理由コードがない場合は N/A。

module_name

異常終了が発生したモジュールの名前。

module_address

異常終了が発生したモジュールのアドレス。

status

SCI SRB 処理中に起こった異常終了の発生場所を示すテキスト。 *status* は次のいずれかです。

AFTER ENQUEUE

AWE がエンキューされた後で異常終了が発生しました。

AFTER ENQUEUE ER

AWE のエンキューでエラーが検出された後で異常終了が発生しました。

AFTER RQST RET

リモート要求が処理中であり、AWE のエンキューでエラーが検出された後

および要求が戻された後で異常終了が発生したと判別されました。

BEFORE ENQUEUE

AWE がエンキューされる前に異常終了が発生しました。

BEFORE RQST RET

リモート要求が処理中であり、AWE のエンキューでエラーが検出された後、ただし要求が戻される前に異常終了が発生したと判別されました。

IN ENQUEUE

AWE のエンキュー中に異常終了が発生しました。

REG RETURN

登録が戻された後で異常終了が発生しました。

STATUS UNKWN

異常終了が発生したときに、リカバリー・ルーチンがメンバー・サービス要求の状況を判別できませんでした。

SCI アドレス・スペースで実行される SCI SRB ルーチンでは、異常終了が発生してはなりません。異常終了が発生するような場合、これはおそらく、オーバーレイによるものであるか、SCI アドレス・スペースに送信されているデータに関連していない他の何らかのエラー状態によるものです。

SRB ルーチンでの異常終了の場合、SRB リカバリー・ルーチンがこのメッセージを発行し、SCI アドレス・スペースの SDUMP を作成します。また、リカバリー・ルーチンは、診断情報を LOGREC データ・セットに記録します。

リカバリー・ルーチンが安全に再試行できるポイントで異常終了が発生した場合、リカバリー・ルーチンは再試行します。メンバーにはエラーの発生が通知されない場合があります。状況が不明なためにリカバリーが可能でないポイントで異常終了が発生した場合、異常終了は再試行されません。

システムの処置: SCI アドレス・スペースで実行中の SCI SRB ルーチンで異常終了が発生した場合、SRB リカバリー・ルーチンは z/OS から制御を受け取ります。リカバリー・ルーチンは、異常終了を分析し、診断データを収集し、適切なリカバリー処置を実行します。

システム・プログラマーの応答: メモリー・ダンプのコピーを保管し、この異常終了に関連する LOGREC レコードのコピーを保管または印刷します。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: CSLSSR30, CSLSSR40, CSLSSR60

CSL3120E MSG-IN EXIT ABEND *abend_code*
MEMBER *member_name* **PSW**=*psw*
RSN=*rsn* **modname**=*module_address*

説明: 構造化呼び出しインターフェース XCF Message-In 出口で異常終了が発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

abend_code

異常終了コード (システム異常終了の場合は Sxxx、ユーザー異常終了の場合は Uxxxx)。

member_name

XCF 経由で送信されるデータの宛先メンバーの名前。宛先メンバーがない場合、このフィールドには N/A が入ります。

psw

終了時のプログラム状況ワード (PSW) の内容。

rsn

異常終了理由コード (ある場合)、または N/A (ない場合)。

modname

異常終了が発生したモジュールの名前。

module_address

異常終了が発生したモジュールのアドレス。

SCI Message-In 出口で異常終了が発生する最も一般的な理由は、ルーチンが宛先メンバーにデータを送信中に、そのメンバーが SCI から登録解除されたことです。これらの異常終了の場合、メッセージは出されず、メモリー・ダンプも取られません。これはタイミングの問題であり、エラーではないからです。

このメッセージが出された場合は、予期しない状態が発生したことを意味しています。異常終了が発生したときに、メッセージが送信の途中であった場合、そのメッセージは失われます。

システムの処置: SCI Message-In 出口で異常終了が発生した場合、Message-In 出口リカバリー・ルーチンが z/OS から制御を受け取ります。リカバリー・ルーチンは、異常終了を分析し、診断データを収集し、適切なリカバリー処置を実行します。

システム・プログラマーの応答: メモリー・ダンプのコピーを保管し、この異常終了に関連した LOGREC レコードのコピーを保管または印刷します。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: CSLSXMG0

CSL4001A RRS not active but RRS=Y specified -
Reply: RETRY, CONTINUE, or
CANCEL

説明: RRS=Y を指定したか、またはデフォルトとして

そのまま使用して、CSL Open Database Manager (ODBM) を始動しましたが、RRS/MVS サブシステムはアクティブではありません。

システムの処置: オペレーターが応答をサブミットするまで ODBM は初期設定を中断します。

オペレーターの応答: ODBM の初期設定を続行するか、再試行するか、または取り消すには、オペレーターは以下のいずれかの応答をサブミットする必要があります。

CANCEL

ODBM は初期設定を終了し、CSL 異常終了 0411-07 が出されます。

CONTINUE

ODBM は初期化を続けます。オペレーターが後から RRS/MVS を始動した場合、ODBM は自動的に RRS に接続します。

RETRY

ODBM は RRS/MVS への再接続を試みます。

モジュール: CSLDRRS1

関連情報:

 CSL ODBM 異常終了 0411

CSL4002I ODBM Registration with RRMS/MVS complete

説明: CSL Open Database Manager (ODBM) が RRMS/MVS への登録を完了しました。ODBM は、RRS が制御する同期点プロセスに RRMS リソース・マネージャーとして参加できるようになりました。

システムの処置: ODBM は実行を続けます。

管理者の応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: CSLDRRS1

CSL4003W ODBM Disconnected from RRMS/MVS due to RRS/MVS not available

説明: RRS/MVS が終了したため、CSL Open Database Manager (ODBM) が RRMS/MVS から切断されました。

システムの処置: RRS/MVS が再始動されると、ODBM は RRMS からの通知を受け取り、自動的に再び RRMS に登録されます。

オペレーターの応答: RRS/MVS サブシステムを再始動します。

モジュール: CSLDRRS1

CSL4004I ODBM Connected to IMS datastore
cccc

説明: CSL Open Database Manager (ODBM) は、示された IMS データ・ストアに正常に接続しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cccc SCI および IMSplex に登録された、IMS データ・ストアの IMS ID を示します。

システムの処置: ODBM は実行を続けます。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: CSLDIN10、CSLDREG0

CSL4005W ODBM Failed to connect to IMS data store cccc due to reason text

説明: CSL Open Database Manager (ODBM) は、メッセージ・テキストに示す理由のため、示された IMS データ・ストアに接続できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cccc IMSplex 内の IMS データ・ストアの IMS ID。

reason text

ODBM が IMS データ・ストアに接続できなかった理由。

- IMS が RRS/MVS 対応ではない
- IMS が利用不能
- AIB rc=xxxx, AIB rsn=yyyy, AIB

errxt=zzzzzzzz

これらのコードは、DL/I 処理中にアプリケーション・インターフェース・ブロック (AIB) 内で設定された AIB 戻りコードおよび理由コードです。

システムの処置: このメッセージが ODBM の初期設定中にモジュール CSLDIN10 から発行された場合、ODBM は CSL 異常終了 0010-4D8 で終了します。ただし、IMS データ・ストアが RRS/MVS で使用可能になっていないか、アクティブでないために接続が失敗した場合は除きます。

このメッセージが ODBM オンライン処理中にモジュール CSLDREG0 から発行された場合、ODBM はオンライン処理を続行します。

オペレーターの応答: IMS データ・ストアが使用不可であったことが失敗の原因である場合は、IMS を始動してください。ODBM は自動的に IMS データ・ストアへの接続を試みます。

IMS が RRS/MVS 用に使用可能になっていなかったこ

とが失敗の原因である場合は、RRS=Y オプションを指定して IMS を始動してください。

AIB 戻りコードおよび理由コードに関する情報を参照して、問題を判別してください。

モジュール: CSLDIN10 または CSLDREG0

関連資料:

➡ AIB 理由コードと戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

➡ CSL ODBM 異常終了 0010

CSL4006W ODBM Failed to connect to IMS
datastore cccc due to AIB rc=xxxx, AIB
rsn=yyyy, errxt=zzzzzzz

説明: CSL Open Database Manager (ODBM) は、メッセージ・テキストに示す理由のため、示された IMS データ・ストアに接続できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cccc IMSplex 内の IMS データ・ストアの IMS ID。

reason text

ODBM が IMS データ・ストアに接続できなかった理由。理由には、次のいずれかのコードが使用されます。

- *errxt* - 詳細情報
- *rc* - 戻りコード
- *rsn* - 理由コード

このメッセージは、UPD ODBM START (CONNECTION) DATASTORE() コマンドのコマンド応答と共に、メッセージ内で OM API に返されます。

システムの処置: メッセージに示されたデータ・ストアに対する UPD ODBM START(CONNECTION) DATASTORE() コマンドが失敗します。

オペレーターの応答: 該当する IMS 資料を調べて、AIB 戻りコード/理由コードの意味を判別してください。

モジュール: CSLDU010

関連資料:

➡ AIB 理由コードと戻りコード (メッセージおよびコード)

CSL4007W ODBM Failed to disconnect to IMS
datastore cccc due to AIB rc=xxxx, AIB
rsn=yyyy, errxt=zzzzzzz

説明: CSL Open Database Manager (ODBM) は、メッセージ・テキストに示す理由のため、示された IMS データ・ストアへの接続を切断できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cccc IMSplex 内の IMS データ・ストアの IMS ID を示します。

reason text

ODBM が IMS データ・ストアに接続できなかった理由を示します。理由には、次のいずれかのコードが使用されます。

- *errxt* - 詳細情報
- *rc* - 戻りコード
- *rsn* - 理由コード

このメッセージは、UPD ODBM STOP (CONNECTION) DATASTORE() コマンドのコマンド応答と共に、メッセージ内で OM API に返されます。

システムの処置: CSL4006W メッセージに示されたデータ・ストアに対する UPD ODBM STOP(CONNECTION) DATASTORE() コマンドが失敗します。

オペレーターの応答: 該当する IMS 資料を調べて、AIB 戻りコード/理由コードの意味を判別してください。

モジュール: CSLDU010

関連資料:

➡ AIB 理由コードと戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

『CSL4006W 』

CSL4008E ODBM thread nnnnnnnnn has been
terminated during DL/I ffff call. 異常終了 *sss/uuuuu* が検出されました。

説明: Open Database Manager (ODBM) スレッド・リカバリー・ルーチンが、メッセージに示されたスレッドの異常終了を検出しました。スレッドをクリーンアップするために、リカバリーが試みられました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nnnnnnnnn

スレッド ID。この ID は、最大 32 文字です。

CSL4009I • CSL4101E

ffff DL/I 呼び出し機能。
sss システム異常終了。
uuuu ユーザー異常終了。

システムの処置: ODBM 処理は継続します。

オペレーターの応答: 異常終了コードを使用して、問題を修正できるかどうかを判断してください。問題を解決できない場合は、SYSLOG をコピーし、エラーに関して取得されたメモリー・ダンプを収集してから、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: CSLDDBR00

関連情報:

115 ページの『CSL4006W』

CSL4009I ODBM Disconnected from IMS datastore *cccc*

説明: CSL Open Database Manager (ODBM) は、示された IMS データ・ストアから正常に切断されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cccc SCI および IMSplex に登録された、IMS データ・ストアの IMS ID を示します。

システムの処置: ODBM 処理は継続します。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: CSLDREG0

CSL4100E A requested field is beyond the length of the data returned: FIELD OFFSET=*fldos* FIELD LENGTH=*fldln* DATA LENGTH=*dtaln*

説明: ODBM を通じて IMS データベースにアクセスしているクライアント・アプリケーション・プログラムが、要求されたデータ・フィールド用に指定したオフセットと長さは、合計すると、DL/I 呼び出しで IMS によって ODBM に返されたデータの長さを超えてしまいます。原因としては、可変長セグメントが使用されていることが考えられます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

fldos クライアント・アプリケーション・プログラムが指定した、要求されたデータ・フィールドのオフセット

fldln クライアント・アプリケーション・プログラムが指定した、要求されたデータ・フィールドの長さ

dtaln IMS によって ODBM に返されたデータの実際の長さ

システムの処置: ODBM はクライアント要求をリジェクトします。

プログラマーの応答: クライアント・アプリケーションが、IMS Enterprise Suite Explorer for Development によって生成された、または IMS カタログによって検証されたデータベース・メタデータを検討することによってデータベースを正しく把握していること、およびデータベース・レコードの長さを超えるデータを要求していないことを確認します。

(DRDA プログラマー) クライアント・アプリケーションが、データベースを正しく把握していること、およびデータベース・レコードの長さを超えるデータを要求していないことを確認します。

モジュール: CSLDDBR00

CSL4101E An ODBM DL/I call=*cccc* failed. AIBRETRN=*xxxxxxxx* AIBREASN=*yyyyyyyy* AIBERRXT=*zzzzzzzz* DLI PCB status=*cc*.

説明: メッセージ・テキストの *cccc* に示す DL/I 呼び出しが、クライアント・アプリケーション要求の代わりに Open Database Manager (ODBM) によって発行されましたが、失敗しました。戻りコードと理由コードは、メッセージに含まれています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cccc 失敗した DL/I 呼び出し

xxxxxxxx

AIB 戻りコード

yyyyyyyy

AIB 理由コード

zzzzzzzz

AIB エラー・コード拡張

cc

PCB 状況コード

システムの処置: ODBM は、クライアント・アプリケーション・プログラムの要求をリジェクトします。

プログラマーの応答: エラーの原因を判別するには、AIB 戻りコードおよび理由コードの資料を参照してください。問題を修正して、再実行します。

モジュール: CSLDDBR00

関連資料:

 AIB 理由コードと戻りコード (メッセージおよびコード)

CSL4102E A continue query (CNTQRY) request was received but the corresponding open query (OPNQRY) request was not found.

説明: Open Database Manager (ODBM) は、オープン RETRIEVE コマンドを継続する要求を受け取りましたが、対応する検索を見つけることができませんでした。原因としては、OPNQRY RETRIEVE コマンドが発行されていないことが考えられます。

システムの処置: クライアント要求は ODBM によってリジェクトされています。

プログラマーの応答: クライアント・アプリケーションが OPNQRY RETRIEVE 要求を発行することを確認してください。

モジュール: CSLDBR00

CSL4103E Update failed: update data exceeds length of the record. Data length=*dlen*, Data offset=*doffset*, Record length=*rlen*

説明: CSL Open Database Manager (ODBM) は、データベース・レコードを更新する要求を受け取りましたが、クライアント・アプリケーション・プログラムによって指定されたオフセットからの、更新要求内のデータの長さが、クライアント・アプリケーションが使用しているデータベース・メタデータ定義で示されるデータベース・レコードの長さの合計を超えています。

更新要求内のデータの長さが、データベース・レコードの長さの合計を超える可能性があるのは、以下の場合です。

- 更新要求内のセグメントのオフセットが誤って指定された
- 更新要求内のセグメントの長さが誤って指定された

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dlen データベース・レコードの長さを超えるデータを含む、更新要求内のセグメントまたはフィールドの長さ (バイト単位)。

doffset データベース・レコードの長さを超えるデータを含む、更新要求内のセグメントまたはフィールドのオフセット。

rlen データベース・メタデータ定義で定義されたデータベース・レコード・セグメントの長さの合計。

システムの処置: クライアント要求は ODBM によってリジェクトされています。

プログラマーの応答: クライアント・アプリケーションが、IMS Enterprise Suite Explorer for Development

によって生成された、または IMS カタログによって検証されたデータベース・メタデータを検討することによってデータベースを正しく把握していることを確認します。また、アプリケーションが、データベース・レコードの長さを超えるデータを更新していないことも確認してください。

(DRDA プログラマー) クライアント・アプリケーションが、データベースを正しく把握していること、およびデータベース・レコードの長さを超えるデータを更新していないことを確認します。

モジュール: CSLDBR00

CSL4104E No datastore or alias is available to process the request. Verify that at least one datastore and alias that can process the request is active.

説明: Open Database Manager (ODBM) は、DL/I APSB 呼び出しを処理するためのアクティブなデータ・ストアまたは別名を見つけることができませんでした。

システムの処置: クライアント要求は ODBM によってリジェクトされています。

プログラマーの応答: データ・ストアおよび別名がアクティブであることを確認してください。

モジュール: CSLDBR00

CSL4105E The ODBM buffer pool is depleted. Recycle ODBM.

説明: Open Database Manager (ODBM) は、内部出力バッファ・プールからストレージを取得できませんでした。

システムの処置: クライアント要求は ODBM によってリジェクトされています。

プログラマーの応答: ODBM を再起動 (recycle) してください。

モジュール: CSLDM00

CSL4106E ODBM is not registered with RRS. The global transaction request is rejected.

説明: Open Database Manager (ODBM) は z/OS リソース・リカバリー・サービス (RRS) で登録されていません。ローカル・トランザクション要求は許可されています。グローバル・トランザクション要求はリジェクトされます。

システムの処置: グローバル・トランザクション要求は ODBM によってリジェクトされています。

CSL4107E • CSL4111E

プログラマーの応答: RRS=Y と指定して ODBM を再始動することにより、ODBM を RRS サービスに登録してください。

モジュール: CSLDBR00

CSL4107E ODBM was unable to perform a system function. Return code=xxxxxxx Reason code=yyyyyyyy.

説明: Open Database Manager (ODBM) に内部システム障害が発生しました。

システムの処置: クライアント要求は ODBM によってリジェクトされています。

プログラマーの応答: エラーの原因を判別するには、戻りコードと理由コードをチェックしてください。

コードの説明については、CSLDMI 戻りコードおよび理由コードの情報を参照してください。

モジュール: CSLDBR00

関連資料:

 CSLDMI: ODBM アプリケーション・プログラム・インターフェース (システム・プログラミング API)

CSL4108E An ODBM request to RRS failed. ODBM service name=odbmserv. ODBM RRS service name=odbm_rrs_service RC=rc.

説明: Open Database Manager (ODBM) によって送信された z/OS リソース・リカバリー・サービス (RRS) サービス要求が失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

odbmserv

クライアントが送信した分散データ管理 (DDM) 要求

odbm_rrs_service

失敗した RRS サービス要求

rc RRS 戻りコード

システムの処置: 否定応答がクライアントに返されません。

オペレーターの応答: RRS 障害について調べ、問題を訂正してください。

モジュール: CSLDBR00

CSL4109E ODBM has detected a RRS system failure. A rollback has been performed. The PSB is deallocated and the thread is terminated. RRS return code=xxxxxxx.

説明: Open Database Manager (ODBM) が z/OS リソース・リカバリー・サービス (RRS) システム障害を検出しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxxxxx

RRS 戻りコード

システムの処置: トランザクションがロールバックされ、PSB が割り振り解除され、スレッドが終了します。

管理者の応答: RRS 障害について調べてください。RRS を再始動します。

モジュール: CSLDBR00

CSL4110E An ODBM has detected an abnormal thread termination due to abend ssss | uuuu. A rollback has been performed. The PSB is deallocated and the thread is terminated.

説明: Open Database Manager (ODBM) が異常スレッド終了を検出しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ssss システム異常終了コード

uuuu ユーザー異常終了コード

システムの処置: トランザクションがロールバックされ、PSB が割り振り解除され、スレッドが終了します。

管理者の応答: スレッド終了障害について調べてください。

モジュール: CSLDBR00、CSLD1ENU

CSL4111E The syncpoint request resulted in a rollback because datastore dddd was terminated. The thread has been terminated.

説明: クライアントは、同期点要求を発行しましたが、データ・ストアが終了したため、ロールバックが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dddd データ・ストアの名前。

システムの処置: ODBM は、スレッドがロールバック

を完了してから、スレッドを強制終了します。

プログラマーの応答: それに応じて、他のすべての作業がロールバックされることを確認します。

モジュール: CSLDBR00、CSLDBR10

CSL4112E A database request contains text

説明: ODBM を介して IMS データベースにアクセスしているクライアント・アプリケーションが、無効な組み合わせのセグメント記述子を含む要求を発行しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- text* このストリングは以下のいずれかです。
- 固定長 (#####) および可変長 (vvvvvvvv) の両方の記述子。
 - 固定長 (#####) 記述子と可変セグメント情報 (SEGMLIST)
 - 可変長記述子 (vvvvvvvv) なしの、可変セグメント情報 (SEGMLIST)
 - セグメント・カウントが (1) 未満の可変セグメント情報 (SEGMLIST)
 - セグメント情報 (SEGMLIST) に記述されていないセグメントのセグメント要求 (vvvvvvvv)

これらの変数には、以下のものがあります。

- ##### = RTRVFLD または FLDENTRY
- vvvvvvvv = RTRVFLDREL または FLDENTRYREL

CSLM メッセージ

CSLM で始まるメッセージは、TSO 単一制御点 (SPOC) によって発行されます。

これらのメッセージには、以下のものがあります。

CSLM001I (C) Copyright IBM Corp. 2000. All rights reserved.

説明: このメッセージは IBM の著作権文です。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSSPOC

CSLM005E START or STOP fields are mutually exclusive with the SET fields.

説明: 相互に排他的なパラメーターを指定しました。SET フィールドを START または STOP フィールドと一緒に指定することはできません。

システムの処置: ODBM はクライアント要求をリジェクトします。

プログラマーの応答: クライアント・アプリケーションがデータベースを正しく把握していることを確認します。IMS Enterprise Suite Explorer for Development によって生成された、または IMS カタログによって検証されたデータベース・メタデータを検討してください。

(DRDA プログラマー) クライアント・アプリケーションがデータベースを正しく把握していることを確認します。

モジュール: CSLDRDA0

CSL4115E The request was rejected by the ODBM text

説明: ODBM を介して IMS データベースにアクセスするクライアント・アプリケーション要求がユーザー出口によってリジェクトされました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- text* このストリングは以下のいずれかになります。
- 入力ユーザー出口
 - 出力ユーザー出口

システムの処置: ODBM はクライアント要求をリジェクトします。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: CSLDBR00

システムの処置: 更新は実行されません。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

SET フィールドからテキストを除去するか、START または STOP フィールドからテキストを除去します。処理を続行するには、Enter キーを押して更新します。

モジュール: DFSSPOC

CSLM006I No commands have been issued.

説明: ShowLog キーを押しましたが、コマンドが発行されなかったため、表示されるコマンドがありません。

システムの処置: コマンド・ログは表示されません。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

CSLM007I • CSLM014W

後でコマンドの発行後に、Showlog キーを使用できません。

モジュール: DFSSPOC

CSLM007I The response has expired. The command response is not available.

説明: コマンド状況表示パネルにコマンド応答情報の表示を試みました。しかし、オリジナルのコマンド応答は、もはや表示できません。コマンド応答は、ユーザーが TSO SPOC をログオフするか、または DFSSPOC モジュールを出て Erase Command Responses を応答すると、廃棄されます。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: コマンドを再発行する場合は、DFSSPOC コマンド状況リストの左マージンの行コマンド域に I を入力します。

モジュール: DFSSPOC

CSLM008I The expanded command was not issued.

説明: 「Expand Command」パネルに入りましたが、PF3 のコミット・キーを押さずに CANCEL コマンドを発行して終了しました。その結果、Expand コマンドは発行されませんでした。

システムの処置: コマンドは発行されません。

ユーザーの処置: 「Expand Command」パネルを使用するときは、End (終了) キーでパネルを終了します。エディター・セッションでは、必ず自動保管機能をオンにしてください。

モジュール: DFSSPOC

CSLM009I The return code from the editor is not recognized, return code= editrc

説明: TSO SPOC は、ユーザーが「Expand Command」パネルを終了後に、ISPF エディターから認識できない戻りコードを受け取りました。拡張コマンドは発行されませんでした。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: エディターの戻りコードについては、「OS/390 対話式システム生産性向上機能 (ISPF) サービスの手引き」を参照してください。問題を調べて、解決します。

モジュール: DFSSPOC

CSLM012I The user preferences have not been set. Please set them now using the Preferences panel from the Options list.

説明: 「Preferences」パネルでユーザー・プリファレンスを設定しておかないと、コマンドの発行はできず、IMSpIex 名を指定することもできません。IMSpIex 名は 8 文字です。先頭の 3 文字には、接頭部 CSL が自動的に割り当てられます。残りの 5 文字をユーザーが割り当てることができます。例えば、CSLxxxxx となります。残りの 5 文字を割り当てるときに CSL を再使用しないでください。

システムの処置: プリファレンスが設定されるまで、コマンドは受け入れられません。

ユーザーの処置:

1. メニューから、「Options」を選択し、さらに「Preferences」を選択します。「Preferences」パネルが表示されます。
2. 「Preferences」に適切な値を入力してから、Enter (キー) を押します。

「Preferences」パネルを変更せず、そのままにする場合は、Cancel (F12) キーを押します。

モジュール: DFSSPOC

CSLM013I The information was written to the ISPF list file.

説明: コマンド応答情報が ISPF リスト・ファイルに書き込まれました。

ISPF を終了するときに、このファイルをプリンターに経路指定できますし、他のユーティリティーを使用して、このファイルの内容を印刷することもできます。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSSPOC

CSLM014W There is a problem with the LIST file. The information was not written.

説明: ISPF リスト・ファイルに情報が書き込まれているときに、エラーが発生しました。

システムの処置: コマンド応答情報は、ISPF リスト・ファイルに書き込まれませんでした。

ユーザーの処置: ISPF リスト・ファイルの名前は *your_prefix*.SPFn.LIST になります。 *your_prefix* 変数は、ユーザーが指定したリスト・ファイル用の接頭部を示し、*n* は 0 (ゼロ) から 9 までの数値です。ファイル

が使用可能であり、保管するデータ量に見合う十分なスペースがファイルにあるか確認します。

モジュール: DFSSPOC

CSLM015W A group name must be provided for a group definition.

説明: 「Group Definition」パネルに項目が追加されましたが、グループ名が提供されていませんでした。

システムの処置: グループ名として疑問符 (?) が挿入されます。

ユーザーの処置: 「Group Definition」パネルにグループ名を指定します。グループ名には、通常の PDS メンバー名の構文を使用します。

モジュール: DFSSPOC

CSLM016I Group group has been added.

説明: TSO SPOC は、グループ定義テーブルに新規グループを正常に追加しました。

システムの処置: 新規グループが、グループ定義テーブルに正常に追加されました。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSSPOC

CSLM017I A group named group already exists.

説明: group に示されたグループ名が、「Group Definition」パネルの「New Group」フィールドに追加されましたが、その名前はグループ定義テーブル内にすでに存在しています。

システムの処置: 重複するグループ名がグループ定義テーブルに追加され、接頭部として疑問符 (?) が追加されました。

ユーザーの処置: 重複するグループ名を固有の名前になるように変更し、疑問符 (?) を除去します。

モジュール: DFSSPOC

CSLM018I Group group has been deleted.

説明: group に示されたグループは、グループ定義テーブルから正常に削除されました。

システムの処置: グループは正常に削除されました。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSSPOC

CSLM019I Group group has been changed.

説明: TSO SPOC は、group に示されたグループ定義の変更を正常に処理しました。

システムの処置: グループ定義テーブルが変更されました。このパネルを出るために Cancel キーを押すと、情報が ISPTABL ファイルに保管され、TSO SPOC メインパネルに戻ります。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSSPOC

CSLM020I Group group will now be used for default routing.

説明: TSO SPOC グループ定義パネルの「Action」列に S オプションが指定されました。そのため、group に示されたグループが、デフォルトの経路指定として使用されます。

システムの処置: TSO SPOC は、TSO SPOC コマンドを経路指定する際のデフォルトとして group を使用するようになりました。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSSPOC

CSLM021W The command did not complete successfully. Use SHOWLOG to view results.

説明: システムがお客様に代わってコマンドを発行しましたが、そのコマンドが正常に完了しませんでした。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: SHOWLOG としてマークされている PF キーを使用して、コマンド応答を表示してください。

モジュール: DFSSPOC

CSLM022I A resource name is required.

説明: 処理を続行する前にリソース名を指定する必要があります。

システムの処置: リソース名が入力されるのをシステムは待機します。

ユーザーの処置: リソース名を入力し、Enter キーを押して処理を続行するか、Cancel キーを押して前のパネルに戻ります。

モジュール: DFSSPOC

CSLM023I The resource name is too long.

説明: リソースに対して入力した名前が長すぎます。リソース名の長さは 8 文字にしかなることができません。

システムの処置: システムはリソース名の訂正を待機します。

ユーザーの処置: リソース名を訂正し、Enter キーを押して処理を続行するか、Cancel キーを押して前のパネルに戻ります。

モジュール: DFSSPOC

CSLM024I Valid input is Y (yes) or N (no).

説明: 無効な値を入力しました。有効な値は Y または N です。

システムの処置: 有効な値が入力されるのをシステムは待機します。

ユーザーの処置: 正しい値を入力し、Enter キーを押して処理を続行するか、Cancel キーを押して前のパネルに戻ります。

モジュール: DFSSPOC

CSLM025I Valid input is Excl, Brws, Read, or Upd

説明: 無効な値を入力しました。正しい値は **excl**、**brws**、**read**、または **update** です。

システムの処置: 有効な入力データが入力されるのをシステムは待機します。

ユーザーの処置: 正しい値を入力し、Enter キーを押して処理を続行するか、Cancel キーを押して前のパネルに戻ります。

モジュール: DFSSPOC

CSLM026I There is no information to save or print.

説明: 情報の印刷または「**Save As**」オプションの使用を試みましたが、印刷または保管するコマンド応答情報は現在ありません。

システムの処置: 出力ファイルに印刷または保管される情報はありません。

ユーザーの処置: 情報を入手するためのコマンドを発行してから、「**Save As**」または「**Print**」オプションを再び使用します。

モジュール: DFSSPOC

CSLM027E Program DFSSPOC cannot run outside of ISPF.

説明: TSO SPOC プログラムが正しく処理を行うには、ISPF ダイアログ・サービスが必要です。TSO SPOC は、ISPF 内から呼び出されなければなりません。

システムの処置: TSO SPOC は開始されませんでした。

ユーザーの処置: ISPF を始動して、ISPF コマンド行から DFSSPOC コマンドを発行します。

モジュール: DFSSPOC

CSLM028I Valid input is Y (yes).

説明: 誤った値を入力しました。正しい値は Y またはブランクのみです。

システムの処置: パネルでは、別の処置の実行を待ちます。

ユーザーの処置: フィールドに正しい値を入力し Enter キーを押すか、Cancel キーを押して前のパネルに戻ります。

モジュール: DFSSPOC

CSLM029I Valid values are blank or *.

説明: 誤った値を入力しました。正しい値は * またはブランクのみです。

システムの処置: パネルでは、別の処置の実行を待ちます。

ユーザーの処置: フィールドに正しい値を入力し Enter キーを押すか、Cancel キーを押して前のパネルに戻ります。

モジュール: DFSSPOC

CSLM030I Valid input is E (exclusive) or N (not)

説明: 無効な値を入力しました。E または N を入力する必要があります。

システムの処置: 有効な入力データが指定されるのをシステムは待機します。

ユーザーの処置: E または N を入力し、Enter キーを押して処理を続行するか、Cancel キーを押して前のパネルに戻ります。

モジュール: DFSSPOC

CSLM031I Valid input is 1, 2, 3, 4, or 5

説明: 無効な値を入力しました。有効な入力 は 1、2、3、4、または 5 です。

システムの処置: 有効な入力データが指定されるのをシステムは待機します。

ユーザーの処置: 有効な入力データを入力し、Enter キーを押して処理を続行するか、Cancel キーを押して前のパネルに戻ります。

モジュール: DFSSPOC

CSLM032I Valid input is 1 or 2

説明: 無効な値を入力しました。入力は 1 または 2 にすることができます。

システムの処置: 有効な入力データが指定されるのをシステムは待機します。

ユーザーの処置: 有効な入力データを入力し、Enter キーを押して処理を続行するか、Cancel キーを押して前のパネルに戻ります。

モジュール: DFSSPOC

CSLM033I The resource was not found.

説明: リソースの名前を入力しましたが、そのリソースを検出できませんでした。

システムの処置: システムは既存リソースの名前の指定を待機します。

ユーザーの処置: リソース名のスペルが正しく、リソースが存在することを確認します。次に Enter キーを押して処理を続行するか、Cancel キーを押して前のパネルに戻ります。

モジュール: DFSSPOC

CSLM034I The query type is not valid for descriptors.

説明: 指定されたリソース・タイプと両立しない照会タイプを入力しました。

システムの処置: 有効な照会が入力されるのをシステムは待機します。

ユーザーの処置: リソース・タイプまたは照会タイプ・フィールドを変更して両立可能にして、Enter キーを押して処理を続行するか、Cancel キーを押して前のパネルに戻ります。

モジュール: DFSSPOC

CSLM035I You must change the resource name.

説明: そのリソースに対する CREATE 処置が正常に終了しました。同じ名前を持つ別のリソースを作成することはできません。

システムの処置: システムはリソース名の変更を待機します。

ユーザーの処置: リソースの名前を変更し、Enter キーを押して処理を続行するか、Cancel キーを押して前のパネルに戻ります。

モジュール: DFSSPOC

CSLM036I Valid input is ON or OFF.

説明: 無効な値を指定しました。有効な値は On または OFF です。

システムの処置: 有効な値が入力されるのをシステムは待機します。

ユーザーの処置: On または OFF を入力し、Enter キーを押して処理を続行するか、Cancel キーを押して前のパネルに戻ります。

モジュール: DFSSPOC

CSLM040E There are no SYSIN records.

説明: SYSIN ファイル内でレコードが検出されませんでした。

システムの処置: バッチ SPOC ユーティリティーはコマンドを発行せず、戻りコード 8 で終了します。

ユーザーの処置: SYSIN ファイルに IMS オペレーター・コマンドを追加し、ジョブを再度実行依頼してください。

モジュール: CSLUSPOC

CSLM047E 指定したパラメーターは認識されませんでした。

説明: PARM=(...) テキストで指定されたパラメーターが認識されません。有効なパラメーターは、次のとおりです。

F=*option* (ここで *option* は、WRAP、BYCOL、または BYRSC のいずれかです)

システムの処置: 処理を続行します。メッセージは SYSPRINT ファイルに書き込まれます。

プログラマーの応答: パラメーターを訂正し、ジョブを再実行します。

モジュール: CSLULALE

CSLM048I Search for *string* was successful.

説明: 「Find」メニュー・オプションまたは「RFIND」キーにより、*string* に示されたテキストが検出されました。

システムの処置: カーソルは、検出された検索ストリング上に置かれます。検索ストリングを表示するために、ディスプレイがスクロールされた可能性があります。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSSPOC

CSLM049I Text *string* not found. Press RFIND key to continue from the top.

説明: *string* に示されたテキストが、コマンド応答ログ内に見つかりませんでした。

システムの処置: 検索ストリングが見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 「RFIND」キー (F5) を押して、コマンド応答ログの先頭から検索します。

モジュール: DFSSPOC

CSLM050I The command was issued, see Command Status for results.

説明: 今入力したコマンドは発行されました。ユーザーのプリファレンスの指示では、TSO SPOC が応答待ちをしないことになっています。応答情報は、「Command Status」パネルからのみ使用可能です。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 「Command Status」パネルに切り替えるには、アクション・バーを使用します。コマンドが完了したら、選択文字 (/) を入力してから、コマンド応答ログを表示するために Enter (キー) を押します。

モジュール: DFSSPOC

CSLM051I The command has been deleted.

説明: ユーザーの要求により、コマンド状況テーブルの項目が削除されました。

システムの処置: コマンドは削除され、もはやコマンド状況テーブルにはありません。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSSPOC

CSLM052W Unrecognized line command.

説明: コマンド状況表示の「Action」列に今入力された行コマンドは、サポートされていません。

システムの処置: 無効な行コマンドは表示から除去されました。他の行コマンドが発行されていなければ、カーソルは同じ行に置かれたままです。

ユーザーの処置: 有効な行コマンドのリストを表示するには、「Action」列にカーソルを置き、F1 を押します。

モジュール: DFSSPOC

CSLM053E DFSSPOC severe error - getmain failed.

説明: TSO SPOC に仮想記憶域が必要でしたが、取得できませんでした。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: ログオン時に指定した領域サイズが、発行されたコマンドにとっても、TSO ユーザー・アドレス・スペースでアクティブな他のアプリケーションにとっても十分な量であるか確認します。可能な場合は、より大きい領域サイズを指定します。

モジュール: DFSSPOC

CSLM054E The last line contained a continuation character, but no continuation line was found.

説明: SYSIN ファイルの最終行には、継続文字が入っています。しかし、予想された継続行が検出されませんでした。

システムの処置: バッチ SPOC ユーティリティーはコマンドを発行せず、戻りコード 8 で終了します。

ユーザーの処置: 行を追加してコマンドを完了するか、SYSIN ファイルの最終行から継続文字を除去します。

モジュール: CSLUSPOC

CSLM055I Data sorted by *column_name* in ascending order

説明: *column_name* に示された列名によるデータのソートが要求されました。ソートのデフォルトでは、ソートされたデータは昇順に表示されます。ユーザーが降順を要求した場合、メッセージ・テキストには「descending」と表示されます。アクション・バーを使用するか、またはカーソルを列見出しの上に置いて Enter (キー) を押すことにより、ソートを開始できません。

システムの処置: 要求されたソート順で、リストが表示されます。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSSPOC

CSLM056I The command selected has not yet completed.

説明: コマンド状況表示パネルに選択文字 ('/) を入力しましたが、コマンドが完了していないので、コマンドの応答はまだ利用不可です。

システムの処置: 処置はありません。

ユーザーの処置: コマンドが完了するまで待ちます。

Enter キーを押すと、状況リストが更新されます。

「Status」列に「Complete」が表示されてから、コマンド応答を再選択することができます。

モジュール: DFSSPOC

CSLM057I Find canceled by the cancel command.

説明: 「Find」パネルが表示されたが、Enter キーを押して処理する代わりに、Cancel キーを押しました。

システムの処置: 「Find」パネルに入力されたデータは廃棄されました。コマンド応答ログは検索されません。

ユーザーの処置: テキスト検索を実行する場合は、「Find」パネルを再度立ち上げます。検索ストリングを入力し、Enter キーを押します。

モジュール: DFSSPOC

CSLM058W The WAIT parameter has invalid syntax.

説明: 「WAIT」フィールドに正しい構文フォーマットが入っていません。

システムの処置: コマンドはリジェクトされました。

ユーザーの処置: 「WAIT」フィールドのフォーマットを訂正します。フォーマットは SSSS (秒数) または MMM:SS (分:秒) です。

モジュール: DFSSPOC

CSLM059I You must type '/' to confirm the removal of the group.

説明: 「TSO SPOC Group Definition」パネルからグループを削除する場合、そのグループ名がデフォルトの経路リストにリストされているときには、スラッシュ (/) を入力することにより、経路リストからそのグループを除去することを確認しなければなりません。

システムの処置: 除去確認がなされるまで、またはユーザーが F12 キーを押して除去を取り消すまで、処置は行われません。

ユーザーの処置: デフォルトの経路リストからグループを除去することを確認するには、スラッシュ (/) を入力して Enter (キー) を押します。

モジュール: DFSSPOC

CSLM060I Removal of the group was canceled by CANCEL command.

説明: デフォルトの経路リストからグループを除去する確認がなされませんでした。代わりに、Cancel キーが押されました。

システムの処置: グループ名はデフォルト経路リストに残っています。

ユーザーの処置: Cancel キーが誤って押された場合は、「Act」フィールドで D コマンドを再発行しなければなりません。

モジュール: DFSSPOC

CSLM061E The record format for SYSIN is not supported.

説明: SPOC ユーティリティは、レコード・フォーマットに問題があるため、SYSIN ファイルを処理できませんでした。RECFM タイプの F、FB、V、または VB のみがサポートされます。

システムの処置: バッチ SPOC ユーティリティはコマンドを発行せず、戻りコード 8 で終了します。

ユーザーの処置: サポートされている RECFM タイプを持つように SYSIN ファイルのデータ・セット属性を変更して、ジョブを再度実行依頼してください。

モジュール: CSLUSPOC

CSLM062I The changes to the group were canceled by CANCEL command.

説明: グループ定義の変更時に問題が検出され、その問題の訂正を求めるプロンプトが出されましたが、ユーザーが変更を取り消しました。

システムの処置: 前のグループ定義が復元されます。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSSPOC

CSLM063I The information was saved to *svadsn*.

説明: type-1 コマンドまたは type-2 コマンドからの応答が、*svadsn* に示されたユーザー指定データ・セットに保管されました。

システムの処置: コマンド応答データは *svadsn* に保管されます。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSSPOC

CSLM064W There is a problem with the SAVE file. The information was not saved.

説明: コマンド応答情報の保管中に、問題が発生しました。

システムの処置: 情報は、保管ファイルに保管されません。

ユーザーの処置: 指定したデータ・セットが存在しており、その属性が適切であるかを確認します。このデータ・セットは、区分データ・セットであるか、レコード・フォーマットが FB または VB の順次データ・セットでなければなりません。レコード長は 120 文字でなければなりません。書き込まれるレコード数を保持できるほど大きいデータ・セットであるかを確認します。

モジュール: DFSSPOC

CSLM065I A shortcut command name must be provided for a shortcut command definition.

説明: 「TSO SPOC Command Shortcuts」パネルにショートカットを作成しましたが、コマンド名を指定しませんでした。

システムの処置: ショートカットは ? の名前でもリストに追加されます。

ユーザーの処置: ショートカット・テーブルで固有の名前になるように、コマンド名を変更します。「Action」列の「D」行コマンドを使用して、疑問符 (?) が付いている項目を除去してから、Enter (キー) を押します。

モジュール: DFSSPOC

CSLM066I Shortcut command *text* has been added.

説明: *text* に示されたコマンドは、TSO SPOC コマンド・ショートカット・テーブルに追加されました。

システムの処置: 新規項目は、アルファベット順にテーブルに追加されます。「New Entry」行は表示されたままです。複数のコマンド・ショートカットがすでに定義

されていると、新規項目が画面上で見えないことがあります。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSSPOC

CSLM067I A shortcut command named *text* already exists.

説明: 「TSO SPOC Command Shortcuts」パネルにショートカット・コマンドを作成しましたが、そのコマンド名はショートカット・テーブルにすでに存在します。

システムの処置: そのショートカット名は、疑問符 (?) の接頭部付きでショートカット・テーブル・リストに追加されます。

ユーザーの処置: ショートカット・テーブルで固有の名前になるように、コマンド名を変更します。「Action」列の「D」行コマンドを使用して、疑問符 (?) が付いている項目を除去してから、Enter (キー) を押します。

モジュール: DFSSPOC

CSLM068I Shortcut command *shrtcmd* has been deleted.

説明: *shrtcmd* に示されたコマンド・ショートカットは、ショートカット定義テーブルから正常に削除されました。

システムの処置: ショートカット・コマンドは削除されます。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSSPOC

CSLM069I Shortcut command *shrtcmd* has been changed.

説明: TSO SPOC は、*shrtcmd* に示されたコマンド・ショートカットの変更を正常に処理しました。

システムの処置: 「Command Shortcut」パネルによって使用されるテーブルが変更されます。TSO SPOC メインパネルに戻るために Cancel キーを押すと、情報が ISPTABL ファイルに保管されます。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSSPOC

CSLM070I The member name was not specified.

説明: 区分データ・セット名を指定しましたが、メンバー名が指定されていません。

システムの処置: 処置は取られません。

ユーザーの処置: メンバー名を指定するか、またはデータ・セット名を順次データ・セットに変更します。

モジュール: DFSSPOC

CSLM071W *savedsn* has an unsupported record format.

説明: 「**Save As options**」パネルに指定したデータ・セットのレコード・フォーマットはサポートされていません。FB および VB のデータ・セットのみがサポートされます。

システムの処置: データは保管されません。

ユーザーの処置: 「**Save As**」データ・セットとしての別のデータ・セットを使用するか、またはこのデータ・セットを FB または VB を用いて再定義します。

モジュール: DFSSPOC

CSLM072W *savedsn* has an unsupported dataset type: *sysdsorg*.

説明: 「**Save As options**」パネルで *savedsn* に指定されたデータ・セット編成はサポートされていません。順次データ・セットまたは区分データ・セットのみがサポートされます。

システムの処置: データ・セットは保管されません。

ユーザーの処置: 「**Save As options**」パネルで別のデータ・セットを使用するか、またはこのデータ・セットを区分データ・セット編成または順次データ・セット編成で再定義します。

モジュール: DFSSPOC

CSLM073W *sysmsglvl2*

説明: TSO REXX プロセッサの LISTDSI 組み込み機能が、ゼロ以外の戻りコードを戻しました。このメッセージには、LISTDSI によって REXX 変数 *sysmsglvl2* に戻された問題記述が含まれています。

システムの処置: コマンド応答は保管されません。

ユーザーの処置: このメッセージについては、「TSO/E REXX/MVS Reference」(SC28-1883) を参照してください。

モジュール: DFSSPOC

CSLM074I Template name not found.

説明: 指定した名前を持つテンプレートを検出できませんでした。

システムの処置: 有効なテンプレート名が入力されるのをシステムは待機します。

ユーザーの処置: テンプレート名を変更し、Enter キーを押して処理を続行するか、Cancel キーを押して前のパネルに戻ります。

モジュール: DFSSPOC

CSLM077I The command entered is too long: *n* characters.

説明: 入力したコマンドが長すぎます。「TSO SPOC Expand Command」ダイアログで発行されるコマンドの長さは 32 760 バイトにしかすることができません。

システムの処置: コマンドは発行されません。

ユーザーの処置: コマンドが正しくコーディングされていることを確認します。もっと長いコマンドが必要な場合は、バッチ SPOC ユーティリティーからコマンドを発行してください。

モジュール: DFSSPOC

CSLM078I The command entered, with the added shortcut, is too long.

説明: 入力したコマンドが長すぎます。指定したショートカットのフルテキストを使用してコマンドが拡張されました。

システムの処置: コマンドは発行されません。

ユーザーの処置: コマンドを変更して短くするか、「TSO SPOC preferences」パネルからショートカットの使用をオフにします。

モジュール: DFSSPOC

CSLM079I *class resource action* successfully

説明: 前の機能が正常に完了しました。*class* および *resource* はリソースを識別します。*action* は、実行された機能を識別します。

システムの処置: システムは次の処置を待ちます。

ユーザーの処置: 別のコマンドで処理を続行するか、TSO SPOC を終了します。

モジュール: DFSSPOC

CSLM080I NO IMSPLEX DATA FOUND FOR THIS COMMAND

説明: ユーザーは **Print All** 機能を要求しましたが、このコマンド応答には IMSplex 情報が含まれていません。

システムの処置: type-1 IMS コマンド出力のみが、ISPF リスト・ファイルに追加されます。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSSPOC

CSLM081W Dynamic resource management is not enabled.

説明: 必要な動的リソース管理が使用不可です。

システムの処置: TSO SPOC パネルは、他のユーザー入力を待機します。

出力宛先: TSO SPOC パネル。

ユーザーの処置: TSO SPOC リソース管理アプリケーションを使用する前に、動的リソース定義 (DRD) を使用可能にしてください。

モジュール: CSLULCD2、CSLULCP2、CSLULCR2、CSLULCT2、CSLULKDM、CSLULQP2、CSLULUP2、CSLULUT2

CSLM082I Valid input is a forward slash '/'

説明: スラッシュ (/) 以外の文字を入力しました。

システムの処置: システムは値の変更を待ちます。

ユーザーの処置: 有効な値になるようにフィールドを変更し、**Enter** キーを押して処理を続行するか、**Cancel** キーを押して前のパネルに戻ります。

モジュール: DFSSPOC

CSLM083I Valid input is 1.

説明: 無効な入力データを入力しました。

システムの処置: システムは入力値の変更を待機します。

ユーザーの処置: 有効な値を入力し、**Enter** キーを押して処理を続行するか、**Cancel** キーを押して前のパネルに戻ります。

モジュール: DFSSPOC

CSLM084I Valid input is 1, 2, or 3

説明: 無効な入力データを入力しました。有効な値は 1、2、または 3 です。

システムの処置: システムは入力値の変更を待機します。

ユーザーの処置: 有効な値を入力し、**Enter** キーを押して処理を続行するか、**Cancel** キーを押して前のパネルに戻ります。

モジュール: DFSSPOC

CSLM085I Valid input is Access, Schd, or Updates

説明: 無効な入力データを入力しました。有効な値は Access、Schd、または Updates です。

システムの処置: システムは入力値の変更を待機します。

ユーザーの処置: 有効な値を入力し、**Enter** キーを押して処理を続行するか、**Cancel** キーを押して前のパネルに戻ります。

モジュール: DFSSPOC

CSLM086I Valid input is ALL or ACTIVE

説明: 無効な入力データを入力しました。有効な値は ALL および ACTIVE です。

システムの処置: システムは入力値の変更を待機します。

ユーザーの処置: 有効な値を入力し、**Enter** キーを押して処理を続行するか、**Cancel** キーを押して前のパネルに戻ります。

モジュール: DFSSPOC

CSLM087I You must only select either START or STOP, but not both.

説明: START と STOP の両方を選択しました。どちらか一方しか選択できません。

システムの処置: システムは値の変更を待機します。

ユーザーの処置: START か STOP のどちらかを選択し、**Enter** キーを押して処理を続行するか、**Cancel** キーを押して前のパネルに戻ります。

モジュール: DFSSPOC

CSLM088I This option is mutually exclusive with another option.

説明: 相互に排他的な 2 つのオプションを入力しました。

システムの処置: システムは、値の 1 つの変更を待機します。

ユーザーの処置: カーソルによって示されるオプションの選択を解除するか、相互に排他的なオプションから選択文字を除去します。例えば、OPEN と NOOPEN を同時に指定することはできません。**Enter** キーを押して処理を続行するか、**Cancel** キーを押して前のパネルに戻ります。

モジュール: DFSSPOC

CSLM089I This option is invalid.

説明: 無効なオプションを入力しました。

システムの処置: システムは値の変更を待ちます。

ユーザーの処置: OPTION フィールドに有効なオプションを入力したことを確認してください。IMS コマンドの資料を調べて、OPTION フィールドに指定できるパラメーターを判別します。有効な値になるようにフィールドを変更し、Enter キーを押して処理を続行するか、Cancel キーを押して前のパネルに戻ります。

モジュール: DFSSPOC

CSLM090E Required IMSPLEX name was not supplied.

説明: IMSplex の名前を指定しませんでした。IMSplex 名は必須です。

システムの処置: バッチ SPOC ジョブは戻りコード 8 で終了します。

ユーザーの処置: IMSplex 名を JCL で指定し、ジョブを再度実行依頼します。

モジュール: CSLUSPOC

CSLM091E Failed registration to IMSPLEX

説明: バッチ SPOC は IMSplex に登録できませんでした。

システムの処置: バッチ SPOC ジョブは戻りコード 8 で終了します。

ユーザーの処置: IMSplex 名を正しく指定していることを確認します。また、その IMSplex の SCI アドレス・スペースが開始されていることも確認してください。

モジュール: CSLUSPOC

CSLM092E Length of IMSPLEX name is invalid

説明: 指定した IMSplex の名前が長すぎました。IMSplex の名前の長さは 1 文字から 5 文字にすることができます。名前の一部として CSL 接頭部を指定しないでください。

システムの処置: バッチ SPOC ジョブは戻りコード 8 で終了します。

ユーザーの処置: IMSplex 名を正しく指定していることを確認します。IMSplex 名を修正し、ジョブを再度実行依頼します。

モジュール: CSLUSPOC

CSLM093W Wait time is invalid.

説明: 指定した待ち時間のフォーマットが無効です。

システムの処置: デフォルトの待ち間隔を使用してジョブは処理を続行します。

ユーザーの処置: 必要に応じて待ち時間を変更します。

モジュール: CSLUSPOC

CSLM094I No output information to print.

説明: 入力したコマンドで情報が戻されませんでした。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: コマンドが正しく指定されていたかどうかを確認してください。

モジュール: CSLUSPOC

CSLM095I Resource name must start with an alphabetic character.

説明: 指定したリソース名が正しくありませんでした。先頭文字は英字でなければなりません。

システムの処置: システムは値の変更を待機します。

ユーザーの処置: 有効なリソース名を入力し、Enter キーを押して処理を続行するか、Cancel キーを押して前のパネルに戻ります。

モジュール: DFSSPOC

CSLM096I Resource name contains invalid character.

説明: 指定したリソース名に無効文字が入っていました。

システムの処置: システムは値の変更を待機します。

ユーザーの処置: 有効なリソース名を入力し、Enter キーを押して処理を続行するか、Cancel キーを押して前のパネルに戻ります。

モジュール: DFSSPOC

CSLM097I Resource name can not match with reserved name.

説明: 入力したリソース名が、予約名と同じです。

システムの処置: システムはリソース名の変更を待機します。

ユーザーの処置: リソースに有効な名前を入力し、Enter キーを押して処理を続行するか、Cancel キーを押して前のパネルに戻ります。

モジュール: DFSSPOC

CSLM098I The resource name is duplicated.

説明: 指定したリソースのリストに、同じ名前を持つリソースが少なくとも 2 つ含まれています。

システムの処置: システムはリソースのリストの変更を待機します。

ユーザーの処置: リソースのリストを訂正し、Enter キーを押して処理を続行するか、Cancel キーを押して前のパネルに戻ります。

モジュール: DFSSPOC

CSLM099I Valid input is Access

説明: 入力した入力データが無効です。

システムの処置: 有効な入力データが入力されるのをシステムは待機します。

ユーザーの処置: 有効な入力データを入力し、Enter キーを押して処理を続行するか、Cancel キーを押して前のパネルに戻ります。

モジュール: DFSSPOC

CSLM100I Invalid character in name field.

説明: リソース・タイプの名前フィールドに無効文字を入力しました。各種リソースには、異なる命名要件があります。

システムの処置: TSO SPOC はコマンドを発行せず、問題が解決された後、再び Enter キーが押されるまで待ちます。

ユーザーの処置: 無効な文字を除去して、Enter キーを押します。カーソルを名前フィールドに置き、ヘルプ・キーを押してヘルプ情報を表示します。

モジュール: DFSSPOC

CSLM101I Enter a numeric value between *min* and *max*.

説明: 入力した数値が必須範囲内にありません。

システムの処置: TSO SPOC はコマンドを発行せず、問題が解決された後、再び Enter キーが押されるまで待ちます。

ユーザーの処置: 指定範囲内の数に値を変更し、Enter キーを押して処理を続行します。

モジュール: DFSSPOC

CSLM130I Unable to connect to the log stream

説明: OM 監査証跡ビューアーが、ログ・データ・ストリームに接続できません。

システムの処置: プログラムは処理を続行します。

ユーザーの処置: ログ・ストリーム・データ・セット名が正しく、大文字で指定されていることを確認します。データ・セット名が正しい場合、システム・ログで IXC メッセージを検索します。例えば、次のメッセージ IXC513I はログ・ストリーム・データ損失を示します。

```
IXG513I  LOGGER SUBSYSTEM (LOGR) EXIT ENCOUNTERED POSSIBLE
LOSS OF DATA DD=SYSUT1 LOGSTREAM=IMS.OM.PLEX1.LOG
EXIT=IXG5EXIT SERVICE=IXGCONN RSNCODE=00000407
```

IXG 理由コードおよび修正処置について詳しくは、「z/OS MVS システム・メッセージ」資料を参照してください。

モジュール: CSLUSPOC

関連資料:

 z/OS: IXC メッセージ

CSLM136W The response was not displayed because the record was truncated.

説明: z/OS システム・ロガーで出力が切り捨てられています。コマンド応答出力が 32,760 バイトを超えていたか、z/OS システム・ロガーの最大バッファ・サイズを超えていました。

システムの処置: 応答を処理できません。情報は SYSPRINT ファイルに書き込まれず、表示もされません。

ユーザーの処置: より具体的なキーワードまたはパラメーターを指定してコマンドを発行することで、応答の長さが 32,760 バイトより短くなるようにします。z/OS システム・ロガーの最大バッファ・サイズを最小の 32,760 に設定します。CSLOERA3 フォーマットおよび印刷出口を使用して、部分レコードをダンプします。

モジュール: CSLULALE

CSLM139E The format option specified is not supported.

説明: F= キーワードで指定したパラメーターが認識されませんでした。

システムの処置: バッチ SPOC (モジュール CSLUSPOC) の場合、ジョブは実行されません。ジョブは戻りコード 8 で終了します。

プログラマーの応答: WRAP、BYCOL、または BYRSC のいずれかのフォーマット・オプションを指定して、ジョブを再度実行してください。

モジュール: CSLUSPOC、CSLULALE

CSLM140E BATCHSPOC GETMAIN が失敗しました。

説明: バッチ SPOC ユーティリティの実行中に、GETMAIN 要求が失敗しました。

システムの処置: ユーティリティは終了し、このメッセージが出されます。

ユーザーの処置: エラーの原因を判別し、ユーティリティを再実行してください。

モジュール: CSLULRD2

CSLM141E You entered an invalid value for TYPE.

説明: TYPE フィールドに入力した値は無効です。TYPE で有効な値を調べるには、TYPE フィールドのヘルプ (PF1) を表示させてください。

システムの処置: システムは値の変更を待ちます。

ユーザーの処置: TYPE フィールドに有効な値を入力

CSLN メッセージ

CSLN で始まるメッセージは、IBM 単一制御点アプリケーションから発行されません。

これらのメッセージは、操作または Common Service Layer (CSL) の状態に対応して、単一制御点アプリケーションから発行されます。これらのメッセージには、以下のものがあります。

CSLN002W The IMS SCI is not available.

説明: 構造化呼び出しインターフェース (SCI) が、デフォルトとして指定された IMSplex、またはデフォルトをオーバーライドするために指定された IMSplex に対してアクティブではありません。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

ユーザーの処置: 指定した IMSplex 用の SCI アドレス・スペースが開始済みであることを確認します。

IMSplex の他のメンバーが開始済みであることを確認します。

モジュール: DFSSPOC

CSLN004W You are not authorized to use the IMS SPOC with this IMSplex.

説明: RACF プロファイルでは、TSO ユーザー ID がこの SCI での登録を許可されていません。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

し、Enter を押してください。

モジュール: DFSSPOC

CSLM142E The batch SPOC utility not have enough storage for command response.

説明: バッチ SPOC ユーティリティがコマンド応答を出力するための仮想ストレージを必要としていましたが、それを取得できませんでした。

システムの処置: IMS はコマンドを処理しましたが、バッチ SPOC ユーティリティがコマンド応答を出力できず、戻りコード 12 で終了しました。

システム・プログラマーの応答: ジョブ・ステートメントの REGION パラメーターによって指定された領域サイズ (「z/OS MVS JCL Reference」を参照) がコマンド応答の印刷出力に十分であることを確認してください。可能な場合は、より大きい領域サイズを指定して、ユーティリティを再実行します。

モジュール: CSLUSPOC

ユーザーの処置: IMSplex の名前が入力が正しいか確認します。

プログラマーの応答: 許可されていない TSO ユーザー ID を使用して、IMSplex (ファシリティー・クラスの CSL.imsplex_name) のアクセスを試みています。ユーザー ID は少なくとも UPDATE 権限を持っていない限りなりません。セキュリティ管理者に連絡し、このユーザー ID の RACF プロファイルの作成または変更を依頼します。

モジュール: DFSSPOC

CSLN005W The command issued was rejected. return code=rc reason = reason

説明: SPOC を介して発行されたコマンドは、X'02000008' の rc で示される不明な理由のため、プロセッサによりリジェクトされました。

システムの処置: コマンドはリジェクトされました。

プログラマーの応答: 適切な応答については、

CSLOMCMD 戻りコードおよび理由コードの情報を参照してください。これらの戻りコードおよび理由コードのリストについては、CSLOMCMD コマンド要求に関する情報を参照してください。

モジュール: DFSSPOC

関連資料:

 CSLOMCMD: コマンド要求 (システム・プログラミング API)

CSLN011W The command entered has more than one filter specified.

説明: コマンドに排他的フィルター (キーワード) を入力すると、このメッセージが出ます。例えば、QUERY IMSPLEX コマンドに TYPE と STATUS の両方を指定すると、このメッセージが出ます。

システムの処置: 今入力されたコマンドはリジェクトされました。

ユーザーの処置: コマンド構文が正しいかを確認します。

モジュール: DFSSPOC

CSLN022I There are no active clients in the route list.

説明: 経路リスト内のクライアントが IMSplex 内でアクティブではないため、コマンドはどのクライアントへも経路指定されませんでした。

システムの処置: 経路リスト内のクライアントが IMSplex 内でアクティブではないため、コマンドはどのクライアントへも経路指定されませんでした。

ユーザーの処置: 適切な応答については、CSLOMCMD 戻りコードおよび理由コードの情報を参照してください。これらの戻りコードおよび理由コードのリストについては、CSLOMCMD コマンド要求に関する情報を参照してください。

モジュール: DFSSPOC

関連資料:

 CSLOMCMD: コマンド要求 (システム・プログラミング API)

CSLN023I At least one request was successful.

説明: コマンドは複数のクライアントに経路指定されました。少なくとも 1 つのクライアントが要求を正常に処理して、コマンド応答データまたは応答メッセージを戻すことができました。

システムの処置: type-2 コマンド応答が使用可能である

132 メッセージおよびコード 第 2 巻: DFS 以外のメッセージ

れば、それが戻されます。コマンド応答が使用可能でなければ、その応答は SPOC ログ表示に表示されます。

ユーザーの処置: 適切な応答については、CSLOMCMD 戻りコードおよび理由コードの情報を参照してください。これらの戻りコードおよび理由コードのリストについては、CSLOMCMD コマンド要求に関する情報を参照してください。LOG 表示に切り替えて完了コードを表示することが必要な場合があります。

モジュール: DFSSPOC

関連資料:

 CSLOMCMD: コマンド要求 (システム・プログラミング API)

CSLN024I No requests were successful.

説明: 入力は処理されましたが、情報が何も戻されませんでした。今発行したコマンドは複数のクライアントに経路指定されましたが、どのクライアントもその要求を正常に処理できませんでした。

システムの処置: このコマンドで、どのクライアントからの応答データも応答メッセージも戻されませんでした。

ユーザーの処置: 追加情報については、ログ・パネルにあるこの要求の完了コードを参照してください。

モジュール: DFSSPOC

CSLN028E An internal error was detected. return code=omrcx reason=omreax

説明: エラーが発生しました。戻りコード *omrcx* および理由コード *omreax* で問題が特定されます。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 適切な応答については、CSLOMCMD 戻りコードおよび理由コードの情報を参照してください。これらの戻りコードおよび理由コードのリストについては、CSLOMCMD コマンド要求に関する情報を参照してください。

モジュール: DFSSPOC

関連資料:

 CSLOMCMD: コマンド要求 (システム・プログラミング API)

CSLN029W The command contains an invalid primary keyword or no client registered for the keyword.

説明: 今入力されたコマンドの基本キーワードが無効です。キーワード自体が無効であるか、またはそのキーワ

ードのクライアントが登録されていない可能性があります。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

ユーザーの処置: コマンド構文が正しいかを確認します。構文が正しい場合は、QUERY IMSPLEX コマンドを発行して、クライアントが使用可能であるかどうかを判別します。クライアントが使用可能でない場合は、システム管理者に連絡してください。

モジュール: DFSSPOC

CSLN030W The command timed out.

説明: すべてのコマンド応答情報を収集する前に、コマンドがタイムアウトになりました。1 つ以上のクライアントが応答していない可能性があります。または、いずれかのクライアントがコマンド処理時間を長くする必要があった可能性もあります。

ユーザーのプリファレンスが、コマンド応答情報を待機する設定になっている場合、タイムアウトになったコマンドはユーザーが最後に入力したコマンドです。ユーザーのプリファレンスが、処理を継続する設定になっている場合は、コマンド状況テーブルを検査して、タイムアウトになったコマンドを判別してください。

システムの処置: タイムアウトになる前に収集されたすべてのコマンド応答情報が戻されます。

ユーザーの処置: 「Preferences」パネルに待機インターバルが指定されている場合は、コマンドを処理できる十分長い時間が指定されているかを確認します。

インターバルが指定されていない場合、デフォルトは 5 分です。そのコマンドの処理時間として、5 分よりも長いインターバルを指定します。

モジュール: DFSSPOC

CSLN031W The input exit rejected your command.

説明: INPUT 出口ルーチンは、今入力されたコマンドをリジェクトしました。

システムの処置: コマンドはリジェクトされました。

ユーザーの処置: INPUT 出口ルーチンは、お客様のプログラマーによって作成されました。IMS プログラマーに連絡し、INPUT 出口ルーチンがコマンドをリジェクトした理由を判別します。

モジュール: DFSSPOC

CSLN034W The command entered contains an invalid keyword.

説明: 今入力されたコマンドに、無効なキーワードが含まれています。

システムの処置: コマンドはリジェクトされました。

ユーザーの処置: コマンド構文が正しいかを確認します。

モジュール: DFSSPOC

CSLN035W The command entered contains an unknown positional parameter.

説明: BPE は、今入力されたコマンド内で不明な位置パラメーターを検出しました。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

ユーザーの処置: コマンド構文が正しいかを確認します。

モジュール: DFSSPOC

CSLN036W The command entered contains an invalid keyword sublist.

説明: キーワードが等号付きの keyword= で指定されたが、このキーワードは、値のサブリスト付き keyword() で定義されています。値のサブリストを指定するには、小括弧を使用する必要があります。

システムの処置: コマンドはリジェクトされました。

ユーザーの処置: コマンド構文が正しいかを確認します。

モジュール: DFSSPOC

CSLN037W The command entered contains an incomplete keyword parameter.

説明: 今入力されたコマンド内のキーワードまたはキーワード・パラメーターの指定が不完全です。

システムの処置: コマンドはリジェクトされました。

ユーザーの処置: コマンド構文が正しいかを確認します。

モジュール: DFSSPOC

CSLN038W The command entered is missing a required parameter.

説明:

今入力されたコマンドには、必要パラメーターが欠落しています。

システムの処置: コマンドはリジェクトされました。
ユーザーの処置: コマンド構文が正しいかを確認します。
モジュール: DFSSPOC

CSLN039W The command entered contains an invalid keyword parameter value.

説明: 今入力したコマンドのキーワードに、無効なパラメーターを指定しました。
システムの処置: コマンドはリジェクトされました。
ユーザーの処置: コマンド構文が正しいかを確認します。
モジュール: DFSSPOC

CSLN040W The command entered contains duplicate keywords.

説明: 今入力したコマンドで、重複キーワードを指定しました。
システムの処置: コマンドはリジェクトされました。
ユーザーの処置: コマンド構文が正しいかを確認します。
モジュール: DFSSPOC

CSLN041W The command entered has an invalid syntax.

説明: 今入力したコマンドの構文が正しくありません。構文エラーを含むテキストは、コマンド応答ログのメッセージ・セクションに入れて戻されます。
システムの処置: コマンドはリジェクトされました。
ユーザーの処置: コマンド構文が正しいかを確認します。
モジュール: DFSSPOC

CSLN042W The command processing client required to process this command is not ready.

説明: コマンド応答ログのメッセージ・セクションに示されたコマンド・プロセッサは、今入力されたコマンドを処理できませんでした。このコマンド・プロセッサは、コマンド処理の準備ができていませんでした。
システムの処置: コマンドはリジェクトされました。
ユーザーの処置: コマンド・プロセッサが作動可能になってから、コマンドを再発行します。
モジュール: DFSSPOC

CSLN043W The command processing client required to process this command is not registered.

説明: コマンド応答ログのメッセージ・セクションに示されたコマンド・プロセッサは、今入力されたコマンドを処理できませんでした。コマンド・プロセッサは、このコマンド処理用に登録されていません。
システムの処置: コマンドはリジェクトされます。
ユーザーの処置: 「Route」フィールドの入力が正しいこと、および適切なコマンドが発行されたことを確認します。
モジュール: DFSSPOC

CSLN044W The system required to process this command is not active in this IMSPLEX.

説明: コマンド応答ログの「Member」セクションに示されたコマンド・プロセッサは、今入力されたコマンドを処理できませんでした。コマンド・プロセッサが IMSplex でアクティブではありません。
システムの処置: コマンドはリジェクトされました。
ユーザーの処置: 「Route」フィールドの入力が正しいこと、およびコマンド・プロセッサがアクティブであることを確認します。
モジュール: DFSSPOC

CSLN045E Your userid is not authorized to issue this command.

説明: 今入力したコマンドを処理できませんでした。コマンドの発行に使用した TSO ユーザー ID は許可されていません。ログ情報を調べ、クライアントが許可されていない理由を判別してください。
システムの処置: コマンドはリジェクトされました。
ユーザーの処置: セキュリティー管理者に連絡し、RACF プロファイルの作成または変更を依頼する必要があります。IMS コマンドを制御するプロファイルは OPERCMDS クラスにあります。
モジュール: DFSSPOC

CSLN046W The command entered contains an invalid verb or no client registered for the verb.

説明: 今入力したコマンドが無効です。コマンド自体が無効であるか、またはそのコマンドのクライアントが現在登録されていない可能性があります。

システムの処置: コマンドはリジェクトされました。

ユーザーの処置: コマンド構文が正しいかを確認します。クライアントが使用可能であるかどうかを判別するために、QUERY IMSPLEX コマンドを発行します。クライアントが使用可能でない場合は、システム管理者に連絡してください。

モジュール: DFSSPOC

CSLN050E Command not supported with currently running OM version.

説明: 発行したコマンドは、現在実行中の Operations Manager (OM) のバージョンではサポートされていません。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

ユーザーの処置: このコマンドを処理できる適切なバージョンの OM へアップグレードします。

モジュール: DFSSPOC

CSLN054I No clients returned return code 0. Check return code(s)

説明: コマンドは複数のクライアントに経路指定されました。コマンドを処理したどのクライアントも、戻りコード 0 と理由コード 0 を Operations Manager に戻りませんでした。CSL0MCMD コマンド要求の戻りコードと理由コードは、問題の特定に役立ちます。

システムの処置: 少なくとも 1 つのコマンド・クライアントがコマンド応答データまたは応答メッセージを戻しました。

ユーザーの処置: TSO SPOC ログ表示を調べて、それぞれのコマンド・プロセッサからの戻りコードおよび理由コードを判別します。ログには、問題を特定する追加メッセージが含まれていることもあります。

適切な応答については、CSL0MCMD 戻りコードおよび理由コードの情報を参照してください。これらの戻りコードおよび理由コードのリストについては、CSL0MCMD コマンド要求に関する情報を参照してください。

モジュール: DFSSPOC

関連資料:

 CSL0MCMD: コマンド要求 (システム・プログラミング API)

CSLN055I THE COMMAND COMPLETED WITH WARNING(S) CHECK RETURN CODE(S)

説明: コマンドは複数のクライアントに経路指定されました。コマンドを処理したすべてのクライアントが、戻りコード 0 と理由コード 0 を Operations Manager に戻したわけではありません。また、少なくとも 1 つのクライアント・メンバーが戻りコード 4 を戻しました。

これらの戻りコードおよび理由コードのリストについては、CSL0MCMD コマンド要求に関する情報を参照してください。

システムの処置: 少なくとも 1 つのコマンド・クライアントがコマンド応答データまたは応答メッセージを戻しました。

ユーザーの処置: TSO SPOC ログ表示を調べて、それぞれのコマンド・プロセッサからの戻りコードおよび理由コードを判別します。ログには、問題を特定する追加メッセージが含まれていることもあります。

モジュール: DFSSPOC

関連資料:

 CSL0MCMD: コマンド要求 (システム・プログラミング API)

CSLN061W The Operations Manager is not available.

説明: Operations manager (OM) が使用不可であり、CSLSCRQS が戻りコード X'01000010' および理由コード X'0000400C' を発行しました。

システムの処置: コマンドはリジェクトされました。

ユーザーの処置: OM がアクティブでなかった理由を判別してから、システム管理者に連絡して OM の再始動を依頼します。

また、CSLSCRQS および CSLSCMSG のサービスと戻りコードの情報も確認してください。

モジュール: DFSSPOC

関連資料:

 CSLSCRQS: 要求送信 (システム・プログラミング API)

 CSLSCMSG: メッセージ送信要求 (システム・プログラミング API)

CSLN070W User Id cannot be greater than 8 characters

説明: 入力されたユーザー ID が 8 文字を超えています。

システムの処置: ユーザー・ログインはリジェクトされました。

ユーザーの処置: 有効なユーザー ID を入力します。

CSLN071W Password cannot be greater than 8 characters

説明: 入力したパスワードが 8 文字を超えています。

システムの処置: ユーザー・ログインはリジェクトされました。

ユーザーの処置: 有効なパスワードを入力します。

CSLN072W You must enter a User Id

説明: ログイン・ダイアログでユーザー ID が入力されませんでした。

システムの処置: ユーザー・ログインはリジェクトされました。

ユーザーの処置: 有効なユーザー ID を入力します。

CSLN073W You must enter a Password

説明: ログイン・ダイアログでパスワードを入力されませんでした。

システムの処置: ユーザー・ログインはリジェクトされました。

ユーザーの処置: 有効なパスワードを入力します。

CSLN074E Invalid client data returned

説明: ログイン処理中に、IMSplex は IMSplex メンバーに関するデータを戻そうとしました。このデータを受け取ったときには、データが破壊されていました。

システムの処置: ありません。

ユーザーの処置: ログインを再試行します。エラーが解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

CSLN075E Invalid syntax data returned

説明: ログイン処理中に、IMSplex は使用可能なコマンドに関するデータを戻そうとしました。このデータを受け取ったときには、データが破壊されていました。

システムの処置: ありません。

ユーザーの処置: ログインを再試行します。エラーが解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

CSLN076E This group has no assigned members

説明: ウィザードを起動したグループ・フォルダーには、メンバーが割り当てられていませんでした。

システムの処置: ありません。

ユーザーの処置: グループ・フォルダーを変更し、少なくとも 1 つのメンバーを選択します。

CSLN077E The IMSplex system name that you are adding already exists

説明: ユーザーが「Add System」ダイアログを使用して、重複する IMSplex システムの追加または定義を試みました。システム (IMSplex) 名は固有でなければなりません。

システムの処置: ありません。

ユーザーの処置: 別の IMSplex 名を選択します。

CSLN078E A group with this name already exists

説明: ユーザーが「Add Groups」ダイアログを使用して、重複するグループを追加または定義しようとした。グループの名前は固有でなければなりません。

システムの処置: ありません。

ユーザーの処置: 追加する別のグループ名を選択します。

CSLN079E You entered a folder name that is reserved

説明: グループ名を定義しようとしたが、指定した名前が予約済みです。

システムの処置: ありません。

ユーザーの処置: 別のグループ名を選択します。

CSLN080E Please make a selection from page(s) *pagename*

説明: ウィザードのページ (*pagename* に示されている) で選択が必要ですが、選択が行われていません。

システムの処置: ありません。

ユーザーの処置: ウィザードのページで必要な選択をします。

CSLN081E Internal error, Return Code:rc

説明: 内部エラーが検出されました。

システムの処置: ありません。

ユーザーの処置: IBM サポートに連絡してください。
必ず、このメッセージから戻りコード *rc* を提供してください。

CSLN082E Enter valid port number

説明: 指定したポート番号が無効でした。非数値が含まれていました。

システムの処置: ありません。

ユーザーの処置: 数値をもつポート番号を入力します。

CSLN082W The IMSplex system name that you are changing to already exists

説明: 既存の IMSplex システムの名前を (「Change System」ダイアログを使用して) 変更しようとしたが、新しい名前は現在別の IMSplex システムに割り当てられています。システム (IMSplex) 名は固有でなければなりません。

システムの処置: ありません。

ユーザーの処置: 新規のシステム名が、希望する名前であるかを確認します。

CSLN083E The following required keywords are missing from the command: keywords.

説明: 発行しようとしているコマンドには特定のキーワードが必要ですが、メッセージ・テキストに示されているキーワードが欠落しています。

システムの処置: コマンドは発行されませんでした。

ユーザーの処置: 必要なキーワードをコマンドに追加します。

CSLN084E Parenthesis mismatch. Please make sure that each opening parenthesis has a closing parenthesis.

説明: 入力したコマンドには左括弧が含まれていますが、対応する右括弧がありません。

システムの処置: コマンドは発行されませんでした。

ユーザーの処置: コマンドの構文を調べて、左括弧のそれぞれに右括弧があるようにしてください。

CSLN085E Invalid hostname entered.

説明: 「Add or Change System」ダイアログで入力した IP アドレスが無効でした。

システムの処置: ありません。

ユーザーの処置: 有効な IP アドレスを入力します。

CSLN086E Error opening socket to host.

説明: 「Add or Change System」ダイアログで指定した IP アドレスにアクセスできません。接続が失敗しました。

システムの処置: ありません。

ユーザーの処置: IP アドレスの状況をシステム管理者に確認します。

CSLN087E Error receiving response from host.

説明: 「Add or Change System」ダイアログで指定した IP アドレスにアクセスできません。接続が失敗しました。

システムの処置: ありません。

ユーザーの処置: IP アドレスの状況をシステム管理者に確認します。

CSLN088E Error sending command to host.

説明: ホスト・システムからのデータの受信中に内部エラーが発生しました。

システムの処置: ありません。

ユーザーの処置: IBM サポートに連絡してください。

CSLN089E Required resource type is missing

説明: 入力したコマンドには、必要なリソース・タイプが欠落していました。

システムの処置: ありません。

ユーザーの処置: コマンドに必要なリソース・タイプを指定して、コマンドを再入力します。

CSLN090E Invalid IMSplex name

説明: 「Add System」ダイアログで指定された IMSplex システム名は、ホスト・システムで現在定義されていないので、接続できません。

システムの処置: ありません。

ユーザーの処置: 現在ホストに定義済みの IMSplex 名を入力します。

CSLN092E IMS Connect がシャットダウン中。

説明: IMS Connect はシャットダウン状態であるため、IMSplex への接続を確立できませんでした。

システムの処置: ありません。

ユーザーの処置: IMS Connect を再始動します。

CSLN093E Error detected by SCI. Reason code: *rsn*

説明: IMS Connect で発生したエラーが、IMSplex の構造化呼び出しインターフェース (SCI) によって検出されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rsn CSLOMI 理由コード

システムの処置: ありません。

ユーザーの処置: 適切な応答については、CSLOMI 戻りコードおよび理由コードに関する情報を参照してください。

関連資料:

 CSLOMI: API 要求 (システム・プログラミング API)

CSLN094E Connection to host does not exist

説明: ホストへのソケット接続が失敗しました。

システムの処置: ありません。

ユーザーの処置: IP アドレスの状況をシステム管理者に確認します。

CSLN095E Invalid response from host

説明: IMS Connect から戻されたデータの長さが無効です。

システムの処置: ありません。

ユーザーの処置: このメッセージが表示されたときに IMS Connect Recorder がオープンされていない場合は、Recorder をオープンして、エラーの原因になったアクションを再実行します。

IMS Connect Recorder のオープン中にメッセージ CSLN095E を受け取った場合は、

1. Recorder をクローズします。
 2. IMS Connect の IDCAMS ジョブを用いて Recorder の出力を収集します。
 3. IBM サポートに連絡してください。
-

CSLN096E Error detected by IMS Connect:

Return Code: *rc* Reason Code: *rsn*

説明: IMS Connect がエラーを検出しました。戻りコードおよび理由コード (メッセージ・テキスト内の *rc* および *rsn*) の詳細については、IMS Connect 戻りコードおよび理由コードに関する情報を参照してください。

システムの処置: ありません。

ユーザーの処置: 適切な応答については、IMS Connect 戻りコードおよび理由コードに関する情報を参照してください。

関連資料:

 IMS Connect 戻りコードおよび理由コード (メッセージおよびコード)

CSLN097E Connection to IMSplex is terminating

説明: IMS Connect は、IMSplex への接続を終了中であることを確認しました。IMS Connect が登録された SCI は、シャットダウン中です。

システムの処置: ありません。

ユーザーの処置: SCI がシャットダウンされた理由を判別し、この状態を訂正します。

CSLN099E Connection to IMSplex has been stopped

説明: IMS Connect は、IMSplex 内の構造化呼び出しインターフェース (SCI) と通信できませんでした。IMSplex の SCI アドレス・スペースは停止されています。

システムの処置: ありません。

ユーザーの処置: SCI アドレス・スペースが停止した理由を判別します。問題を訂正して SCI を再始動し、再接続を試行します。

CSLN101E Security failure

説明: IMS Connect RACF 認証がオンにされましたが、IMS Connect による RACF 呼び出しが失敗しました。「User Login」ダイアログから入力されたユーザー ID またはパスワード、あるいはその両方が、無効の可能性があります。

システムの処置: ありません。

ユーザーの処置: システム・コンソールの IMS Connect エラー・メッセージを参照してエラーを判別し、有効なユーザー ID、有効なパスワード、あるいはその両方を入力します。

CSLN102E IMS Connect protocol error

説明: IMS Connect が通信プロトコル・エラーを検出しました。

システムの処置: ありません。

ユーザーの処置: IMS Connect アドレス・スペースの SDUMP を作成し、IBM サポートに連絡してください。

CSLN103E Error detected by OM. Reason Code:rsn

説明: IMS Connect で発生したエラーが、IMSplex の Operations Manager (OM) によって検出されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rsn CSLOMI 理由コード

システムの処置: ありません。

ユーザーの処置: 適切な応答については、CSLOMI 戻りコードおよび理由コードに関する情報を参照してください。

関連資料:

 CSLOMI: API 要求 (システム・プログラミング API)

CSLN105E Invalid command shortcuts file.

説明: 内部ファイル cmdshortcuts.xml を読み取ることができません。壊れている可能性があります。

システムの処置: ありません。

ユーザーの処置: IBM サポートに連絡してください。

CSLN106E I/O error when importing command shortcuts.

説明: 内部 cmdshortcuts.xml ファイルの読み取り中に入出力エラーが発生しました。

システムの処置: ありません。

ユーザーの処置: IBM サポートに連絡してください。

CSLN107I Invalid verb or resource in the command.

説明: 「Adding or Changing Default Parameter」ウィンドウでコマンドに無効な verb かリソースのどちらかを入力しました。

システムの処置: ありません。

ユーザーの処置: デフォルト・パラメーター・ウィンド

ウに入力するコマンドに有効なコマンド verb またはリソースが含まれるようにします。

CSLN108I The command you entered has already been used. Please use a different command.

説明: 「Adding or Changing Default Parameter」ウィンドウで、入力したコマンドは以前に定義済みです。

システムの処置: ありません。

ユーザーの処置: 追加または変更されるコマンドが、必要なコマンドであるようにします。既存のコマンドを変更するには、コマンドを選択し、「Change」ボタンをクリックして、更新を行います。

CSLN109I A short name must begin with an &

説明: 「Adding or Changing Short Name」ウィンドウで、入力した短縮名がアンパーサンド (&) で始まっていませんでした。

システムの処置: ありません。

ユーザーの処置: 短縮名の先頭にアンパーサンド (&) を追加します。

CSLN110I The short name you entered contains a space. Spaces are not allowed in short names.

説明: 「Adding or Changing Short Name」ウィンドウで、1 つ以上のスペースを含む短縮名を入力しました。短縮名フィールドではスペースは使用できません。

システムの処置: ありません。

ユーザーの処置: 短縮名フィールドのスペースを除去します。

CSLN111I The short name you entered has already been used. Please use a different short name.

説明: 「Adding or Changing Short Name」ウィンドウで、すでに定義されている短縮名を入力しました。短縮名は固有でなければなりません。

システムの処置: ありません。

ユーザーの処置: 別の短縮名を定義します。既存のショート・ネームを変更するには、ショート・ネームを選択し、「Change」ボタンをクリックして、更新を行います。

CSLN112E Invalid character was found within the command; please remove the invalid character.

説明: コマンド・エディターで入力したコマンドに無効文字が含まれていました。

システムの処置: ありません。

ユーザーの処置: コマンド内の無効文字を除去して、コマンドを再実行します。

CSLN113E The command short name is not defined. Please define a short name.

説明: コマンド・エディターで入力した短縮名が定義されていませんでした。

システムの処置: ありません。

ユーザーの処置: 短縮名名の追加ウィンドウで、望ましい短縮名を定義するか、またはコマンドを訂正して、再実行します。

CSLN114I Please select from the following keywords: *keywords*

説明: コマンド・ダイアログにリストされたキーワードは必須ですが、選択がされていません。

システムの処置: ありません。

ユーザーの処置: メッセージでリストされたキーワード・コントロール用に選択を行います。

CSLN115E Error encountered during SSL processing. Error: *error_code*

説明: セキュア・ソケットの作成が失敗しました。エラー・コードの説明は、「z/OS Cryptographic Services System SSL (Secure Sockets Layer) プログラミング」(SD88-6252) に記載されています。

システムの処置: ありません。

ユーザーの処置: 「z/OS Cryptographic Services System SSL (Secure Sockets Layer) プログラミング」の説明に基づいてエラーを訂正します。

第 6 章 DSP メッセージ (データベース・リカバリー管理)

データベース・リカバリー管理 (DBRC) 機能によって発行されるメッセージは、DSP で始まります。

DSP メッセージ DSP0001 - DSP0050

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DSP0001I INSUFFICIENT MAIN STORAGE

説明: 要求されたユーティリティー機能を実行するためには、ストレージが不足していました。

システムの処置: ユーティリティー機能は終了しました。

プログラマーの応答: 領域サイズを増やしてから、ユーティリティー機能を再実行します。

問題判別: 2、3、8

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0002I UNABLE TO OPEN *ddname* DATA SET DSNAME=*dsname* VSAM RETURN CODE=*nn* ERROR CODE=*nnnn*

説明: VSAM データ・セットをオープンする試みが失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ddname データ・セットのタイプ (例えば、RECON データ・セットの DD 名)

dsname オープンできなかった VSAM データ・セットの名前

nn VSAM 戻りコード

nnnn ACB エラー・フィールドからの VSAM エラー・コード

システムの処置: ユーティリティー機能は終了しました。

プログラマーの応答: VSAM 戻りコードおよびエラー・コードについては、「z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets」を参照してください。

問題判別: 1、2、3、8、20

モジュール: DSPURI00、DSPURI10、DSPURU00

関連資料:

 z/OS: VSAM マクロの戻りコードおよび理由コード

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0002W UNABLE TO OPEN *ddname* DATA SET DSNAME=*dsname* VSAM RETURN CODE=*nn* ERROR CODE=*nnnn*

説明: VSAM データ・セットをオープンする試みが失敗しました。このメッセージが出力された場合は、予期しない RECON 競合を示します。このメッセージは、DBRC がオープンを試みたモードと互換性のないアクセス・モード (LSR モードまたは Transactional VSAM モード) でオープンされたデータ・セットがジョブにあることを意味する場合があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ddname データ・セットのタイプ (例えば、RECON データ・セットの DD 名) を識別します。

dsname オープンできなかった VSAM データ・セットの名前

nn VSAM 戻りコード

nnnn ACB エラー・フィールドからの VSAM エラー・コード

システムの処置: エラー・コード 168 (X'A8') の場合、DBRC は、RECON のオープンを 90 秒ごとに最大 18 時間まで試みます。その他のエラー・コードの場合、DBRC は、RECON のオープンを定期的につまでも試みます。

ユーザーの処置: 1 つ以上の RECON データ・セットを予約したジョブ、またはこの DBRC が使用しようとしたモード以外のモードでオープンされた RECON データ・セットがあるジョブを判別します。問題が非互換のアクセス・モードに起因する場合、どのジョブが正しくないモードで RECON をオープンしたか、正しくな

DSP0003I • DSP0006I

いモードでのオープンを試行したかを判別して、そのジョブを終了します。それ以外の場合は、メッセージで示されている RECON を所有するジョブのメモリー・ダンプを作成して、メッセージを発行したジョブのメモリー・ダンプを作成します。

問題判別: 1、2、3、8、20、40、41

モジュール: DSPURI1P

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0003I **UNABLE TO CLOSE** *generic-name*
DATA SET DSNAME=*dsname* VSAM
RETURN CODE=*nn* ERROR
CODE=*nnn*

説明: VSAM データ・セットをクローズする試みが失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

generic-name

データ・セットのタイプ (例えば、RECON1
または RECON2)

dsname クローズできなかった VSAM データ・セット
の名前

nn VSAM 戻りコード

nnn ACB エラー・フィールドからの VSAM エラ
ー・コード

システムの処置: ユーティリティ機能は終了しまし
た。

プログラマーの応答: VSAM 戻りコードおよびエラ
ー・コードについては、「z/OS DFSMS Macro
Instructions for Data Sets」を参照してください。

問題判別: 1、2、3、8、20

関連資料:

 z/OS: VSAM マクロの戻りコードおよび理由コー
ド

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0004I **UNABLE TO CREATE VSAM**
control-block DSNAME=*dsname* VSAM
RETURN CODE=*nn* REASON
CODE=*rr*

説明: 示された VSAM 制御ブロック (例えば、
RPL、ACB、または EXLST) を GENCB マクロによっ
て作成する試みが失敗しました。 *dsname* は、影響を受
けたデータ・セットを示します。最初の *nn* は VSAM

戻りコード (レジスター 15 に戻される) を示し、2 番
目の *nn* は VSAM 理由コード (レジスター 0 に戻さ
れる) を示します。

システムの処置: この制御ブロックを必要とする要求さ
れた操作は実行できません。ユーティリティ機能は終
了します。

プログラマーの応答: 制御ブロック障害の原因を判別し
ます。

問題判別: 2、3、8、20

関連資料:

 z/OS: VSAM マクロの戻りコードおよび理由コー
ド

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0005I **UNABLE TO MODIFY VSAM**
control-block DSNAME=*dsname* VSAM
RETURN CODE=*nn* REASON
CODE=*rr*

説明: 示された VSAM 制御ブロック (例えば、
RPL、ACB、または EXLST) を MODCB マクロによっ
て変更する試みが失敗しました。 *dsname* は、影響を受
けたデータ・セットを示します。最初の *nn* は VSAM
戻りコード (レジスター 15 に戻される) を示し、2 番
目の *nn* は VSAM 理由コード (レジスター 0 に戻さ
れる) を示します。

システムの処置: この制御ブロックを必要とする要求さ
れた操作は実行できません。ユーティリティ機能は終
了します。

プログラマーの応答: 制御ブロック障害の原因を判別し
ます。

問題判別: 2、3、8、20

関連資料:

 z/OS: VSAM マクロの戻りコードおよび理由コー
ド

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0006I **UNABLE TO ACCESS VSAM**
control-block DSNAME=*dsname* VSAM
RETURN CODE=*nn* REASON
CODE=*rr*

説明: 示された VSAM 制御ブロック (例えば、
RPL、ACB、または EXLST) を SHOWCB マクロによ
ってアクセスする試みが失敗しました。 *dsname* は、影

響を受けたデータ・セットを示します。最初の *nm* は VSAM 戻りコード (レジスター 15 に戻される) を示し、2 番目の *nn* は VSAM 理由コード (レジスター 0 に戻される) を示します。

システムの処置: この制御ブロックを必要とする要求された操作は実行できません。ユーティリティ機能は終了します。

プログラマーの応答: 制御ブロック障害の原因を判別します。VSAM 戻りコードおよび理由コードについては、「z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets」を参照してください。

問題判別: 2、3、8、20

関連資料:

➡ z/OS: VSAM マクロの戻りコードおよび理由コード

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0007I RECORD LENGTH APPROACHING
RECON MAXIMUM RECORD
LENGTH = *lllllll* *ppp*% OF
RECORDSIZE *ssssssss***

説明: DBRC がレコードを RECON に書き込んだところ、レコードのサイズが、CHANGE.RECON コマンドで指定された SIZALERT 値を超えました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

lllllll レコード・サイズ (10 進数)。

ppp 最大サイズに対するレコードのパーセンテージ。

ssssssss レコードに可能な最大サイズ。

このメッセージの後に、フォーマットされたレコード・キーをリストする DSP0020I が続きます。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: もしあれば、示されたレコードが最大サイズを超えないようにするために必要な処置を判別します。RECON の初期設定および保守についての追加情報は、「IMS V15 システム管理」を参照してください。

モジュール: DSPURI00

関連情報:

146 ページの『DSP0020I』

**DSP0008I VSAM LOGICAL ERROR ON *ddname*
DATA SET DSNAME=*dsname* VSAM
FEEDBACK CODE=*nnn***

説明: *ddname* で示された VSAM データ・セットが、これ以上の処理を妨げる VSAM 論理エラーを検出しました。メッセージ内の情報は、IBM 担当者の問題分析用です。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ddname エラーのあるデータ・セットに関連した DD 名

dsname 影響を受けたデータ・セットの名前

nnn RPL フィードバック域からの VSAM フィードバック・コード

このメッセージの後に、フォーマットされたレコード・キーをリストする DSP0020I が続きます。

システムの処置: 進行中の要求は、異常終了および関連するダンプを伴って終了しました。

プログラマーの応答: VSAM 論理エラーの原因を判別します。問題を修正して、再実行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連資料:

➡ z/OS: VSAM マクロの戻りコードおよび理由コード

関連情報:

146 ページの『DSP0020I』

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0009I VSAM PHYSICAL ERROR ON *ddname*
DATA SET DSNAME=*dsname* VSAM
FEEDBACK CODE=*nnn***

説明: 示された VSAM データ・セットについて、読み取りまたは書き込みの要求を試みているときに、物理入出力エラーが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ddname エラーのあるデータ・セットに関連した DD 名

dsname 影響を受けたデータ・セット

nnn RPL フィードバック域からの VSAM フィードバック・コード

このメッセージに続いてメッセージ DSP0010I が出力されて、VSAM から戻された物理エラーに関する情報が示されます。

DSP0010I • DSP0012I

システムの処置: ユーティリティー機能は終了しました。

プログラマーの応答: 物理エラーの原因を判別するには、DSP0010I メッセージを参照してください。

問題判別: 1、2、3、8、20

関連資料:

➡ z/OS: VSAM マクロの戻りコードおよび理由コード

関連情報:

DSP0010I

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0010I *timestamp, ---rba---,'DATA' or 'INDEX',
volser, jobname, stepname, cuu, da,
ddname, ccw-op, message text, bbcchhr,
vsam*

説明: VSAM データ・セットに対する読み取りまたは書き込みの操作を試みているときに、物理入出力エラーが発生しました。メッセージは、エラーの結果として VSAM から戻された情報を示します。

システムの処置: ユーティリティー機能を継続できない場合、この機能の処理は終了します。

プログラマーの応答: このメッセージ内のフィールドについては、「z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets」を参照してください。

問題判別: 1、2、3、8、20

関連資料:

➡ z/OS: VSAM マクロの戻りコードおよび理由コード

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0011I *ddname DD STATEMENT IS
IGNORED - CONTAINS AN
INVALID OR MISSING DSNAME*

説明: *ddname* で示された DD ステートメントが、次のいずれかです。

- 入力が必要だが、欠落している
- DUMMY と指定されている
- データ・セット名 NULLFILE が含まれている

このメッセージは、オンラインIMS、バッチ IMS、または DBRC のジョブから発行されます。

システムの処置: 処理は終了します。

プログラマーの応答: 正しい DD ステートメントを指

定して、ジョブを再実行します。

ユーティリティーを実行中にメッセージが発行された場合、DBRC を使用して新しい JCL を生成し、新しい JCL と元の JCL を比較してエラーの可能性を調べます。

問題判別: 8

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0012I *SVC nnn IS NOT A VALID DBRC
TYPE 4 SVC*

説明: DBRC の初期設定で、以下のいずれかの理由によりタイプ 4 SVC 番号 *nnn* が無効な DBRC SVC であると判別されました。

- DBRC タイプ 4 SVC が正しく定義されなかった。
- DBRC タイプ 4 SVC は下位互換性があります。IMS 15 のタイプ 4 SVC は、IMS バージョン 13 または IMS 14 で使用できます。IMS 15 では、下位リリースのタイプ 4 SVC を使用できません。
- 指定された IMS リリースのタイプ 4 SVC によって、以下の ID がレジスター 15 (R15) 内の DBRC に戻されます。

ID	IMS リリース
4MVS	IMS バージョン 13
5MVS	IMS 14
6MVS	IMS 15

- 現行リリース (または互換性のあるリリース) の DBRC の SVC モジュール DSP00MVS が、SYS1.LPALIB または MLPA ライブラリーに IGC00*** (***) は符号付き 10 進数の SVC 番号。例えば、SVC 255 = 25E) という名前でもリンクされなかった。

システムの処置: 処理は終了します。

プログラマーの応答: エラーの原因となった状態を訂正し、やり直してください。

新しいルーチンを LPA ライブラリーにリンクした後で新規バージョンの DBRC タイプ 4 SVC をインストールするには、2 つのオプションがあります。

- z/OS を再度 IPL します。
- IMS Dynamic SVC Utility (DFSUSVC0) を使用して、z/OSをロードすることなく、新規コピーを動的にインストールします。

IMS Dynamic SVC ユーティリティー (DFSUSVC0) を使用して新しい DBRC タイプ 4 SVC を動的にインストールした場合は、メッセージ DFS1886A が発行され

る可能性があります。このメッセージは、インストール中にエラーが発生し、コマンド応答がインストールの続行であったことを示します。新しい DBRC タイプ 4 SVC のインストールが必要な場合もあります。

DFSUSVC0 を使用して新しい DBRC タイプ 4 SVC を動的にインストールしなかった場合、CLPA または MLPA=xx、あるいはその両方を指定して z/OS は再始動されませんでした。

モジュール: DSPUIN00, DSPBIN20

関連情報:

 DFS1886A (メッセージおよびコード)

DSP0014I DYNAMIC ALLOCATION FAILED FOR RECON_n RETURN CODE=xx REASON CODE=xxxx

説明: 示された RECON データ・セットの割り振りの試みが失敗しました。メッセージ内に、失敗した動的割り振り監視プログラム呼び出しから戻された 16 進数の戻りコードが、理由コードとともに示されます。

システムの処置: 最小限のセットの RECON データ・セットが使用可能であれば、処理は継続します。それ以外の場合、ユーティリティ機能は終了します。

注: XRF 環境では、DBRC が二重 RECON モードに再び入れるまでは、このメッセージが繰り返し発行されることがあります。RECON データ・セットの割り振りおよび初期設定については、「DBRC 用の RECON データ・セットの初期設定 (システム定義)」を、RECON データ・セットの保守については、「RECON データ・セットの保守 (システム管理)」をそれぞれ参照してください。

プログラマーの応答: 動的割り振り監視プログラム呼び出しから戻される戻りコードおよび理由コードの説明については、「z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Guide」(SA22-7608) を参照してください。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連資料:

 z/OS: DYNALLOC からのエラー理由コードの解釈

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0015I VSAM SEVERE ERROR ON ddname DATA SET NAME=dsname VSAM FEEDBACK CODE=xxx

説明: ddname、データ・セット名 dsname で示されているデータ・セットで VSAM 重大エラー (戻りコード 16) が発生しました。xxx は、RPL フィードバック域からの VSAM フィードバック・コードです。

システムの処置: シリアル・アクセスが使用中であった場合、進行中の要求は、異常終了および関連するダンプを伴って終了しました。並行アクセスが使用中であった場合、進行中の要求はバックアウトされ、RECON データ・セットはクローズされてから再びオープンされ、要求は再処理されます。問題が続く場合、メッセージ DSP1184W が発行される可能性があります。

システム・プログラマーの応答: 問題が続く場合、VSAM 重大エラー (RC=16) の原因を判別します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

モジュール: DSPURI00, DSPUR01, DSPUR02

関連資料:

 z/OS: RPLERRCD 理由コード

関連情報:

DSP1184W

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0016I DBRC HAS RECOVERED FROM RESERVE ERROR

説明: DBRC による RESERVE 要求の処理中に、いずれかの RECON データ・セットに対して異常終了が起きました。DBRC は異常終了からリカバリーされました。この問題は、予約中のボリュームで入出力エラーが発生したときに起きます。

システムの処置: RESERVE が失敗したデータ・セットは廃棄され、残りの RECON データ・セットについては処理が継続されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

DSP0017I DYNAMIC DEALLOCATION FAILED FOR RECON_n RETURN CODE=xx REASON CODE=xxxx

説明: 示された RECON データ・セットの割り振り解除の試みが失敗しました。メッセージ内に、失敗した動的割り振り監視プログラム呼び出しから戻された 16 進数の戻りコードが、理由コードとともに示されます。

システムの処置: 処理は続行されます。

DSP0018I • DSP0024I

プログラマーの応答: 動的割り振り監視プログラム呼び出しから戻される戻りコードおよび理由コードの説明については、「z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Guide」(SA22-7608) を参照してください。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連資料:

➡ z/OS: DYNALLOC からのエラー理由コードの解釈

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0018I *type* ERROR ON *name* DATA SET, DD NAME *ddname*

説明: GENJCL コマンドの処理中、指定されたデータ・セット (JCLPDS または JCLOUT) にアクセスしているときに、メッセージに示されたエラー (OPEN、CLOSE、または I/O) が発生しました。このデータ・セットの DD ステートメントは *ddname* に示されています。RECON の動的割り振りの処理中、MDAPDS データ・セット DD NAME IMSDALIB にアクセスしているときに OPEN または CLOSE エラーが発生した場合にも、このメッセージは発行されます。

システムの処置: コマンドの処理は終了します。後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: 問題判別に記述された情報を検討し、エラーの理由を判別し、問題を訂正してから、コマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0019I INCOMPLETE SEGMENTED RECORD FOUND

説明: RECON データ・セットのアクセス中に、DBRC はセグメント化された RECON レコードのすべての物理セグメントを見つけることができませんでした。メッセージ DSP0008I または DSP0009I に、エラーに関する詳細が含まれています。

システムの処置: DBRC は、不完全レコードが入っているデータ・セットを廃棄し、使用可能なデータ・セットが別に存在する場合は、処理を継続します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DSPURI00、DSPURI30、DSPURI40

関連情報:

146 メッセージおよびコード 第 2 巻: DFS 以外のメッセージ

143 ページの『DSP0008I』

143 ページの『DSP0009I』

DSP0020I FORMATTED RECORD KEY: KEY TYPE= , DBD= ,DDN | GRPN | SSID= TIME= *record time*

説明: このメッセージには、診断の目的でフォーマットされたレコード・キーが含まれています。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DSPURL00

DSP0021I RECON DATA SETS SUCCESSFULLY UPDATED

説明: このメッセージに関連するリカバリー管理ユーティリティのコマンドの完了後、RECON データ・セットが正常に更新されて、コマンドの結果が反映されました。

システムの処置: ユーティリティの処理は継続します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

DSP0022I SIGNOFF NOT PERFORMED FOR SUBSYSTEM (xxxxxxx OR UNKNOWN)

説明: 異常終了が発生した後で、IMS が DBRC に対して SIGNOFF コマンドを発行しました。DBRC が異常終了の時点でアクティブだったため、DBRC はサインオフ要求を処理できません。

プログラマーの応答: リカバリーするための適切な処置を取ります。このメッセージの後にメッセージ DFS0036I (BATCH BACKOUT IS REQUIRED) が続く場合、バッチ・バックアウトを実行します。その他の場合、ABNORMAL パラメーターを指定して CHANGE.SUBSYS コマンドを発行します。

問題判別: 1、2、3、8、および RECON データ・セットのリスト

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0024I RECON(*n*) HEADER RECORD MISSING OR INVALID

説明: RECON データ・セットを識別するヘッダー・レコードが、示された RECON データ・セット内で検出されなかったか、または正しいキーを持つレコードに

識別情報が含まれていませんでした。

RECON データ・セットのリリースが現行の IMS リリースより低い場合、新しいリリースの IMS を使用して CHANGE.RECON UPGRADE コマンドを発行します。データ・セットが RECON データ・セットとして初期設定されている場合 (すなわち、ヘッダー・レコードが存在し、しかも正しい場合)、ヘッダー・レコードが不注意で変更されているので、訂正する必要があります。もう一方の RECON データ・セットが有効なヘッダー・レコードを含む場合、アクセス方式サービス・プログラムの REPRO コマンドを使用して、それを無効なヘッダー・レコードを含む RECON データ・セットにコピーします。

システムの処置: 処理は終了します。

プログラマーの応答: 示された RECON データ・セットが RECON データ・セットとして初期設定されていない場合、リカバリー管理ユーティリティの INIT.RECON コマンドを使用して初期設定します。RECON アップグレード・ユーティリティが開始した場合は、このメッセージを無視します。データ・セットが RECON データ・セットとして初期設定されている場合 (すなわち、ヘッダー・レコードが存在し、しかも正しい場合)、ヘッダー・レコードが不注意で変更されているので、訂正する必要があります。もう一方の RECON データ・セットが有効なヘッダー・レコードを含む場合、アクセス方式サービス・プログラムの REPRO コマンドを使用して、それを無効なヘッダー・レコードを含む RECON データ・セットにコピーします。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0025I RECON RECORD ALREADY EXISTS RECORD KEY=*record key*

説明: 同一のキーを持つレコードが存在しているため、RECON データ・セットにレコードを追加するコマンドが失敗しました。

このメッセージの後に、フォーマットされたレコード・キーをリストする DSP0020I が続きます。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: コマンドを固有なものに変更してから再発行し、また、実行されなかった後続のすべてのコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

モジュール: DSPURI00

関連情報:

146 ページの『DSP0020I』

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0026I UNABLE TO BUILD VSAM LSR POOL - REASON CODE = *nn*

説明: DBRC が、ESA 環境での RECON の処理に必要なローカル共有リソース (LSR) プールを作成できませんでした。理由コード *nn* は、「z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets」(SC26-7408) で説明されている VSAM リソース・プール作成 (BLDVRP) マクロに指定されたコードに対応しています。

システムの処置: DBRC は、RECON を処理するために非共有リソース (NSR) オプションの使用に復帰し、それによって DBRC のパフォーマンスは低下します。この結果、DBRC は別のコピーの DBRC による RECON の再構成を検出すると、後で BLDVRP マクロの再発行を試みます。問題を起こした条件が解消されない場合、このメッセージは定期的に繰り返されます。この条件は、RECON データ・セットの保全性には影響しません。VSAM データ・セットの LSR および NSR の処理について詳しくは、「z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets」を参照してください。

プログラマーの応答: 理由コード 8 (使用可能なストレージの不足) の場合、DBRC を実行する領域のサイズを増やすか、または DBRC が LSR モードで使用している索引またはデータ・バッファの数を減らします。

「IMS V15 出口ルーチン」に、RECON データ・セット用に使用されるバッファの数をバッファ・サイズ指定機能 (DSPBUFFS) で制御する方法が説明されています。

理由コード 4 または 32 の場合、同じアドレス・スペース内の DBRC および他のプログラムが、すべての VSAM LSR バッファ・プール ID の使用に関して競合状態にあります。可能であれば、VSAM データ・セットを処理するのに、より少ない VSAM LSR バッファ・プール ID を使用するように、他のプログラムを変更します。

問題判別: 2、3、8、35、およびこのメッセージが発行されたときに使用していた稼働環境の記述 (例えば、バッチ・ジョブ、TSO の下での実行、ユーザー/ベンダー製品が付加された DBRC など)。

関連資料:

 z/OS: BLDVRP 戻りコード

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0027I ddname DATA SET IS FULL

説明: メッセージの *ddname* によって示された RECON データ・セットに割り振られたスペースのすべてが使用されました。

システムの処置: 示された RECON はシステムによって廃棄されます。残りの RECON データ・セットは、使用可能な予備のデータ・セットにコピーされます (存在する場合)。処理は続行されます。

プログラマーの応答: 示された RECON データ・セットを削除および再定義し、スペース割り振りを増やします。再定義された RECON SPARE 状況はそのままにしておくことができます。これは次回 DBRC コピー機能が必要になったときに使用されます。代わりに、CHANGE.RECON REPLACE(置き換える RECON を指定) を使用することができます。これにより、DBRC は適切な RECON を再定義された RECON にコピーします。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0028I RECON DATA SETS MUST BE INITIALIZED

説明: RECON データ・セットが一度も初期設定されていないため、RECON データ・セットのアクセスまたは更新の要求が失敗しました。

システムの処置: 要求は失敗しました。

プログラマーの応答: RECON1 および RECON2 DD ステートメントに不適切なデータ・セットが指定されている場合、それを訂正します。RECON1 および RECON2 DD ステートメントに正しいデータ・セットが指定されている場合、INIT.RECON コマンドを発行して、これらのデータ・セットを RECON データ・セットとして初期設定します。訂正を行った後、失敗したジョブ・ステップを再実行します。

問題判別: 2、3、8、およびアクセス方式サービス・プログラムの PRINT コマンドによって生成された RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0029I RECORD WITH LENGTH OF
nnnnnnnnn BYTES EXCEEDS THE
MAXIMUM DBRC RECON RECORD
SIZE OF nnnnnnnn BYTES**

説明: RECON データ・セット用に定義された最大 DBRC レコード・サイズを超過したため、RECON データ・セット内のレコードの追加または変更の試みが失敗しました。nnnnnnnnn は、バイト数を示す 10 進数値です。

このメッセージの後に、フォーマットされたレコード・キーをリストする DSP0020I が続きます。レコード・キーに無効なタイプが含まれる場合、このメッセージの後にメッセージ DSP0186I およびレコード・キーの 16 進数形式の印刷出力が続きます。

システムの処置: レコードは、追加も変更もされません。レコードの追加または変更を試みたユーティリティの処理は終了します。

プログラマーの応答: RECON データ・セット用の VSAM DEFINE CLUSTER ステートメントの RECORDSIZE 値を増やしてから、失敗したユーティリティ・ジョブ・ステップを再実行します。

メッセージ DSP0029I が BACKUP.RECON コマンドから受け取られた場合、アクセス方式サービス・プログラムの IDCAMS REPRO コマンドまたは DFSMSdss を使用して RECON をバックアップする必要があります。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

146 ページの『DSP0020I』

179 ページの『DSP0186I』

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0030E RECON IS READ MODE ONLY -
action IS NOT ALLOWED**

説明: READONLY ユーザーが RECON データ・セットの変更を試行しました。READONLY ユーザーは、RECON を変更することはできません。メッセージ変数 *action* は、次のいずれかです。

CONFIG

RECON データ・セットの再編成が試行されました。

DELETE

RECON からのレコードの削除が試行されました。

INSERT

新規 RECON レコードの作成が試行されました。

UPDATE

既存の RECON レコードの更新が試行されました。

UPGRADE

RECON データ・セットのアップグレードが試行されました。

MODE-SW

アクセス・モードの切り替えが試行されました。

システムの処置: 入出力操作は失敗して、戻りコード 12 が設定されます。データベース・リカバリー管理ユーティリティーが RECON を更新するコマンドを実行しようとした場合、コマンドは失敗して、後続のコマンドは処理されません。

システム・プログラマーの応答: READONLY パラメーターを指定せずにジョブを再実行依頼します。

問題判別: 2、3、8、23

モジュール: DSPURI00

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0031I DATA BASE NOT REGISTERED IN RECON DBD=*database name*

説明: 存在しないデータベース・レコードを参照する DBRC コマンドが発行されました。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。RECON データ・セットは更新されません。

プログラマーの応答: データベース名が無効でないか、またはスペルが誤っていないかを調べます。エラーを訂正してから、このコマンドおよび処理されなかった後続の全コマンドを発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

モジュール: DSPURCM8、DSPURDPT、DSPURMPT

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0032I RECON DATA SET ALREADY UPGRADED

説明: すでに現行レベルになっている RECON データ・セットをアップグレードする要求が出されました。

システムの処置: 処理は終了します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0034I RECON INCONSISTENCY, PARTITION RECORD CANNOT BE FOUND DBD=..... PART=.....

説明: DBRC が、区画データベース・レコード (TYPE=PART) に関連する区画レコードを見つけることができませんでした。RECON データ・セット内に不整合があります。すべての区画データベース・レコードには、対応する区画レコードがなければなりません。

システムの処置: 処理は終了します。RECON データ・セットは更新されません。

プログラマーの応答: IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を受けてください。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0036I UPGRADE ATTEMPTED WHILE RECON MULTIPLE UPDATE FLAG IS ON

説明: RECON ヘッダー・レコード内の RECON データ・セット複数更新フラグがオンになっています。フラグがオフになるまで RECON データ・セットをアップグレードできません。

システムの処置: 処理は終了します。

プログラマーの応答: RECON 複数更新フラグは、RECON データ・セット内で発生する通常の更新アクティビティ中にオフにされます。CHANGE.RECON UPGRADE コマンドを再度発行してください。問題が続く場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

DSP0037I RECON DATA SET NOT UPGRADED

説明: アップグレードされなかった RECON データ・セットに対して、DBRC 要求またはコマンドが発行されました。

システムの処置: 処理は終了します。

プログラマーの応答: 新しいリリースの IMS を使用して、CHANGE.RECON UPGRADE コマンドを発行します。

問題判別: ありません。

**DSP0038I RECON INCONSISTENCY RECON
HEADER RECORD NOT FOUND**

説明: INIT.RECON コマンド以外のコマンドの処理中に、DBRC が RECON ヘッダー・レコードを検出できませんでした。RECON データ・セット内に不整合があります。

システムの処置: 処理は終了します。RECON データ・セットは更新されません。後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: 失敗したコマンドの実行を試みます。この問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、問題解決の支援を依頼してください。

問題判別: 2、3、8、35、ABEND 処理で出力されたメモリー・ダンプ、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0040I UNABLE TO LOAD MODULE
(modname)**

説明: IMS システム内の DBRC の初期設定中に、モジュール (modname) をロードできませんでした。

システムの処置: 処理は終了します。

プログラマーの応答: JCL で定義されたライブラリー内に DBRC モジュールがあるかどうかを確認します。DBRC モジュールが正しいライブラリー内に存在する場合、モジュール (modname) をロードするために必要なストレージが不足しています。DBRC がモジュールをロードできるように、領域サイズを増やします。

問題判別: 2、3、8、10、13

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0041I RECON INCONSISTENCY DB
RECORD CANNOT BE FOUND
DBD=database name**

説明: DELETE.DBDS コマンド、あるいはパラメーター ICON、ICOFF、RECOV、または NORECOV のいずれかが指定された CHANGE.DBDS コマンドの処理中に、データベース・データ・セット・レコードに関連するデータベース・レコードを DBRC が検出できませんでした。すべてのデータベース・データ・セット・レコードには対応するデータベース・レコードが必要なため、RECON データ・セット内に不整合があります。

あるいは、NOTIFY.IC、NOTIFY.UIC、

NOTIFY.RECOV、NOTIFY.REORG、NOTIFY.ALLOC、または他のデータベース指向のコマンドの実行中、DBRC が、割り振り、イメージ・コピー、再編成、またはリカバリーの各レコードに関連するデータベース・レコードを検出できませんでした。RECON データ・セット内に不整合があります。あるいは、対応するデータベース・レコードが必要な、上記にリストされた各レコード・タイプに不整合があります。

システムの処置: 処理は終了します。RECON データ・セットは更新されません。

プログラマーの応答: 失敗したコマンドの実行を試みます。この問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、問題解決の支援を依頼してください。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0042I RECON INCONSISTENCY CAGRP
RECORD REFERENCED BY DBDS
RECORD CANNOT BE FOUND
DBD= dbdname DDN= ddname
CAGRP= cagrp name**

説明: コマンド処理中に、DBDS レコードまたは AREA レコードに関連する CAGRP レコードを DBRC が検出できませんでした。DBDS または AREA レコードは、DBDS が、示された CA グループのメンバーであることを示していたが、その CA グループは RECON データ・セットに登録されていませんでした。この問題は、RECON データ・セット内に不整合があることを示します。

システムの処置: LIST コマンドの処理中にエラーが発生した場合、処理は継続します。その他の場合、コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: 失敗したコマンドの実行を試みます。この問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、問題解決の支援を依頼してください。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0043I DATA BASE ALREADY REGISTERED
IN RECON DBD=*database name***

説明: INIT.DB コマンドの DBD パラメーターで指定されたデータベースがすでに存在しています。

システムの処置: 処理は終了します。RECON データ・セットは更新されません。

プログラマーの応答: データベース名が無効でないか、不注意に指定されていないか、またはスペルが誤っていないかを調べます。エラーを訂正してから、INIT.DB コマンドを再び実行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0044I DATA BASE STILL AUTHORIZED
BY A SUBSYSTEM**

説明: DELETE.DB または CHANGE.DB コマンドの処理中、削除または変更対象のデータベースがサブシステムによってまだ許可されています (DB レコードにサブシステム項目があります)。この場合、データベースを変更または削除することはできません。

CHANGE.DB コマンドの場合、許可されているデータベースに対して NONRECOV または RECOVABL キーワードを指定できません。

LIST.DB CHKAUTH コマンドの場合、このメッセージは、指定された DBD がまだサブシステムに対して許可されていることを報告するために使用されます。また、戻りコード RC=04 を受け取ります。

データベースの現行 USID 値より大きな USID 値を指定する NOTIFY.ALLOC コマンドの場合、このメッセージは、指定された DBD がまだサブシステムに対して許可されていることを報告します。戻りコード RC=12 も受け取ります。

システムの処置: 処理は終了します。RECON データ・セットは更新されません。後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: それでも DB レコードを削除する場合は、この DB レコードによって参照されるすべてのサブシステム・レコードをまず削除する必要があります。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0045I DATA BASE STILL AUTHORIZED
BY A SUBSYSTEM DBD=*database name***

説明: CHANGE.DB (ALL) コマンドの処理中、データベースがサブシステムによってまだ許可されているときに (DB レコードにサブシステム項目があるときに)、データベースの共用レベルの変更が試みられました。

CHANGE.DB コマンドの処理中、データベースがまだ許可されていました。データベースを無許可にしているから、コマンドを継続する必要があります。

CHANGE.DB UNAUTH コマンドの処理中、指定された SSID に一致するサブシステム・レコードがまだ RECON 内に存在します。この状態で、CHANGE.DB コマンドを使用してデータベース許可を除去することはできません。代わりに、CHANGE.SUBSYS STARTRCV および CHANGE.SUBSYS ENDRECOV コマンドを使用します。

全機能データベースに対する CHANGE.DBDS コマンドの処理中、データベースがサブシステムによってまだ許可されているときに、DD 名の変更、エラー・キュー・エレメント (EQE) の追加または削除、データ・セット名の変更、またはリカバリー必要状況 (RECOV/NORECOV) の変更が試みられました。

DELETE.SUBSYS または CHANGE.DBDS コマンドでも、指定されたデータベースが、指定されたサブシステムにまだ許可されている場合にはこのメッセージが出力されます。この時点では、CHANGE.DB、DELETE.SUBSYS、または CHANGE.DBDS コマンドは許可されません。

システムの処置: 処理は終了します。RECON データ・セットは更新されません。

プログラマーの応答: データベースが無許可になるまで待ちます。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連資料:

 CHANGE.DB コマンド (コマンド)

 CHANGE.DBDS コマンド (コマンド)

 DELETE.SUBSYS コマンド (コマンド)

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0046I SUBSYSTEM ID NOT FOUND IN
DATA BASE RECORD DBD=*database
name* SSID=*subsystem id***

説明: CHANGE.DB コマンドの処理中、指定されたデータベースには SSID パラメーターで指定されたサブシステム名が含まれていませんでした。

システムの処置: 処理は終了します。RECON データ・セットは更新されません。

プログラマーの応答: データベース・レコードを変更するには、まず、データベース・レコードが参照しているサブシステム・レコードをすべて変更します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0047I SUBSYSTEM ALREADY MARKED
ABNORMAL SSIDNAME=*subsystem-
name***

説明: CHANGE.SUBSYS コマンドが ABNORMAL パラメーターを指定して発行されました。しかし、RECON の SUBSYS レコードは、すでに異常とマークされていました。異常属性は変更されませんが、コマンドの他のパラメーターは処理されます。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: ありません。

**DSP0048I SUBSYSTEM ALREADY REGISTERED
IN RECON SSID=*subsystem-name***

説明: NOTIFY.SUBSYS コマンドの SSID パラメーターで指定されたサブシステムがすでに存在します。

システムの処置: 処理は終了します。RECON データ・セットは更新されません。

プログラマーの応答: サブシステム名が無効でないか、不注意に再指定されていないか、またはスペルが誤っていないかを調べます。エラーを訂正してから、NOTIFY.SUBSYS コマンドを再び発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0049I AREA STILL AUTHORIZED BY A
SUBSYSTEM**

説明: DBRC コマンド (つまり、DELETE.ADS、DELETE.DBDS、DELETE.DB、CHANGE.ADS、または NOTIFY.ALLOC) の処理中、削除対象の高速処理データベースまたはエリアがサブシステムによってまだ許可されている (エリア・レコードにサブシステム項目がある) ことが検出されました。この操作は許可されていません。

エリアがサブシステムによってまだ許可されているときに、NOTIFY.ALLOC コマンドに対して、エリアの現行 USID 値より大きな USID 値が指定されました。

システムの処置: 処理は終了します。RECON データ・セットは更新されず、また、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: それでも、データベースまたはエリア・レコードを削除または変更する場合、まず、エリアを許可したすべてのサブシステムによってエリアが無許可にされなければなりません。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0050I AREA IS STILL AUTHORIZED BY A
SUBSYSTEM DBD=*database name*,
SSID=*subsystem ID***

説明: DBRC コマンド (つまり、CHANGE.DB、CHANGE.DBDS、または INIT.ADS AVAIL) の処理中、エリアがサブシステムによってまだ許可されている (エリア・レコードにサブシステム項目がある) ときに、データベース、エリア、またはエリア・データ・セット・レコードを変更または初期設定する試みが行われたことがわかりました。

CHANGE.DBDS コマンドの処理中、エリアがまだ許可されていることがわかりました。エリアを無許可にしてから、コマンドを完了する必要があります。

システムの処置: 処理は終了します。RECON データ・セットは更新されず、また、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: エリアが無許可になるまで待ちます。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP メッセージ DSP0051 - DSP0100

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DSP0051I AREA DATA SET NOT DEFINED IN RECON DBD=*database name* AREA=*area name* ADDN=*area data set dd name*

説明: DEDB 初期設定ユーティリティーまたはデータベース・リカバリー・ユーティリティーの実行中、または DBRC コマンド (つまり、CHANGE.ADS または DELETE.ADS) の処理中、RECON データ・セットに該当のエリア・データ・セットのレコードがないため、示されたエリア・データ・セットに関連する RECON データ・セットからの情報の要求が失敗しました。

システムの処置: このコマンドは失敗します。

プログラマーの応答: RECON データ・セットに指定されたエリア・データ・セットを指定するように、コマンドを訂正します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0052I AREA NOT DEFINED IN RECON DBD=*database name* AREA=*area name*

説明: 次の問題のいずれかが発生したため、このメッセージが発行されます。

- リカバリー管理ユーティリティーおよびオンライン・イメージ・コピー・ユーティリティーの実行中に、示されたエリアが RECON データ・セット内で検出されませんでした。
- DEDB 初期設定ユーティリティーの実行中に、示されたエリアが RECON データ・セット内で検出されませんでした。
- DBRC コマンド処理の際、RECON データ・セットに該当のエリアのレコードがないため、示されたエリアに関連する RECON データ・セットからの情報の要求が失敗しました。
- HSSP イメージ・コピー開始出口または HSSP イメージ・コピー終了出口の実行中に、示されたエリアが RECON データ・セット内で検出されませんでした。

システムの処置: このコマンドは失敗します。

プログラマーの応答: RECON データ・セットに指定されたエリアを指定するように、コマンドを訂正します。2 番目の事例では、正常な処理が継続されるので、プログラマー応答はありません。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0053I AREA ALREADY DEFINED TO RECON DBD=*database name* AREA=*area name*

説明: INIT.DBDS コマンドの実行中、作成されるエリア・レコードは RECON データ・セット内に存在しないが、AREA AUTH レコードはすでに RECON に存在します。このメッセージは、DBRC の内部の問題を示しています。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: エラーになったコマンドの再実行を試みます。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0054I AREA DATA SET ALREADY DEFINED TO RECON DBD=*database name* AREA=*area name* ADDN=*area data set dd name*

説明: DBRC コマンド (つまり、CHANGE.ADS、INIT.ADS) の処理中、指定されたエリア・データ・セットがすでに RECON データ・セットに登録されていました。database name、area name、および area data set dd name により高速機能エリア・データ・セットが識別されます。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: 事前に初期設定済みのエリア・データ・セットをコマンドで指定した理由を調べます。必要に応じて、コマンドを訂正し、再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0055I NO type DB RECORD EXISTS IN RECON

説明: LIST.DB TYPEIMS, LIST.DB TYPEFP, または LIST.DB TYPHALDB コマンドが発行されたが、RECON データ・セットに *type* レコードが存在しません。*type* は、次のいずれかです。

- TYPE IMS
- TYPE FPE
- TYPE HALDB

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

DSP0056I RIOP DATA AU=... OP=... AL=... Q=..... S=..... R=... I=...

説明: このメッセージは、RECON 入出力パフォーマンス・データを提供します。この情報は、DBRC が RECON 入出力要求を処理した方法を判別する上で役立ちます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- AU** 指定されたインターバル中に起こった許可要求の数
- OP** 指定されたインターバル中に起こったデータベース・オープン要求の数
- AL** 指定されたインターバル中に起こった割り振り要求の数
- Q** 指定されたインターバル中の RECON の平均キューイング時間 (QT)。キューイング時間は、RECON データ・セットの DBRC の予約要求状態から DBRC の予約完了状態までの時間の測定です。所定時間の形式は、次のように *ssthm* です。
 - ss* は秒を表します
 - t* は 10 分の 1 秒を表します
 - h* は 100 分の 1 秒を表します
 - m* は 1000 分の 1 秒を表します
- S** 指定されたインターバル中の RECON の平均サービス時間 (ST)。サービス時間は、RECON データ・セットの DBRC の予約完了状態から DBRC のデキュー完了状態までの時間の測定です。DBRC は、所定のサービス時間中に 1 つ以上の RECON 入出力要求を発行します。所定時間の形式は、次のように *ssthm* です。
 - ss* は秒を表します
 - t* は 10 分の 1 秒を表します
 - h* は 100 分の 1 秒を表します
 - m* は 1000 分の 1 秒を表します
- R** 指定されたインターバル中に計算された 1 分当たりの RECON 要求率

I インターバル値。インターバル値は、DBRC が RECON 入出力パフォーマンス・データをメッセージ DSP0056I に提示する前に実行する必要があります。許可、データベース・オープン、および割り振り以外の機能に対する RECON 使用要求がインターバル中に出される可能性があるため、AU、OP、および AL のカウントの合計がインターバル値 **I** より小さくなる可能性があります。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

DSP0057I MESSAGE BUFFER FULL, OUTPUT TRUNCATED

説明: オンライン DBRC コマンド処理で、以下のいずれかのエラーが発生しました。

- /RMLIST コマンドが OM API (TSO SPOC など) から発行された場合、/RMLIST コマンドの出力が、DBRC 内部出力バッファが保持できるサイズを超えていました。DBRC 内部出力バッファは、DBRC 領域サイズにより制限されます。
- コマンドが OM API 以外の入力ソースから入力された場合、オンライン DBRC コマンド (/RMxxxx) の出力が、IMS から渡された出力バッファに保管できるサイズを超えていました。多くの DBRC コマンドは、このバッファ・サイズを超える出力を生成します (/RML DBRC='RECON' コマンドなど)。/RMLIST コマンドの場合、バッファのサイズは 32 KB です。その他すべての /RMxxxx コマンドの場合、バッファのサイズは 4 KB です。

システムの処置: コマンドの処理は終了し、残りの出力があれば廃棄されます。

プログラマーの応答: 完全な出力を入手するには、DBRC リカバリー管理ユーティリティを使用して DBRC コマンドを発行します。

/RMLIST コマンドを発行した場合は、OM API からそのコマンドを再発行するか (まだ行っていない場合)、または DBRC API を使用して RECON データ・セットから情報を照会することができます。

LIST.DB または LIST.DBDS コマンドを発行し、リカバリー関連の情報が目的でない場合は、NORCVINF キーワードを使用してコマンドを再発行することで出力サイズを最小化します。

無効な DBRC 内部バッファによりエラーが発生した場合は、さらに大きい DBRC 領域サイズを指定してください。この大きい DBRC 領域サイズは、IMS をリサイクルするまで有効になりません。

問題判別: ありません。

モジュール: DSPUCP40、DSPURX00

DSP0058I RMx COMMAND COMPLETED

説明: このメッセージが発行されるのは、IMS に戻る前にコマンド処理が完了した場合です。

システムの処置: システムは処理を続行します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: ありません。

DSP0059I RM COMMAND EXECUTION TERMINATED, verb [modifier] NOT SUPPORTED

説明: このメッセージが発行されるのは、オンライン・コマンド実行中に、コマンド処理で無効な verb または修飾子が検出された場合です。

システムの処置: システムは処理を続行します。

プログラマーの応答: verb または修飾子を訂正します。

問題判別: ありません。

DSP0060I NO PARTITIONS REGISTERED FOR THE DATABASE DBDNAME=db name

説明: コマンドが、db name によって示された HALDB の全区画の処理を試みています。しかし、RECON データ・セット内にこのデータベースの区画が存在しません。どの HALDB にも、少なくとも 1 つの区画を定義しておく必要があります。

システムの処置: LIST コマンド処理は継続します。その他の処理は終了します。

プログラマーの応答: IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を受けてください。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0061I SUBSYS SSID=ssidname CURRENTLY ACTIVE, COMMAND REQUEST REJECTED

説明: オンライン IMS サブシステムが /RMD コマンドを使用して RECON 内のそれ自体のサブシステムを削除すること、または /RMC コマンドを使用してそれ自体に対して CHANGE.SUBSYS SSID(ssidname) ABNORMAL を実行することは許可されません。

システムの処置: /RMD または /RMC コマンドは失敗します。

プログラマーの応答: このサブシステムの SSID を使用して /RMD または /RMC コマンドを入力しないでください。

問題判別: ありません。

DSP0062I NO DATA BASE DATA SET REGISTERED FOR THE DATA BASE DBD=dbd name

説明: LIST.DB、LIST.HISTORY、または LIST.DBDS コマンドが、データベース名の指定はあるが DD 名を指定せずに発行されました。指定されたデータベースについて、データベース・データ・セットまたは DEDB エリアが RECON データ・セット内に登録されていませんでした。あるいは、LIST.RECON が発行されたが、データベースのいずれかについて、データベース・データ・セットまたは DEDB エリアが RECON データ・セット内に登録されていませんでした。

システムの処置: このメッセージを出力して、処理は継続します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0063I IMAGE-COPY DATA SET WITHIN RECOVERY PERIOD CANNOT BE REUSED DBD=dbdname DDN=ddname RUNTIME=oldest ic time

説明: イメージ・コピー・ユーティリティの実行の前に処理される検査出口処理で、次の状態が確認されました。

- GENMAX に達した。
- 最も古いイメージ・コピーはリカバリー期間内であるため、再使用できない。
- 使用可能なイメージ・コピーが存在しない。

システムの処置: 処理は終了します。

プログラマーの応答: INIT.IC コマンドを発行して、要求されたタイプの使用可能なイメージ・コピーを定義するか、または CHANGE.DBDS コマンドを発行して、リカバリー期間を変更します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0064I IMAGE-COPY DATA SET WITHIN RECOVERY PERIOD CANNOT BE DELETED DBD=*dbdname* DDN=*ddnname* RUNTIME=*oldest IC time*

説明: 次の問題のいずれかが発生したため、このメッセージが発行されます。

- 検査出口処理 (イメージ・コピー・ユーティリティーの実行の前に処理される) が、指定された DBDS が RECON データ・セット内で NOREUSE 属性を持つように定義された場合、RECON 内の最も古い IC を削除できないと判別しました。 GENMAX 値に達したが、リカバリー期間を超えていません。
- CHANGE.DBDS コマンドの実行中に、CHANGE.DBDS コマンドによって変更中の GENMAX の値に適合させるようにリカバリー期間内の IC を削除することはできません。新しい GENMAX 値が記録されます。

システムの処置: 処理は終了します。

プログラマーの応答: DBDS に対する現行の RECOVPD 値では、DBRC によって保守された場合の方が GENMAX によって指定された場合よりも多くのイメージ・コピーを取るようになる可能性があります。RECOVPD 値および GENMAX 値を調べて、必要な場合は、CHANGE.DBDS コマンドを使用してそれらの値を調整します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0065I PREDEFINED IC HAS BEEN USED, GENMAX EXCEEDED DBD=*dbdname* DDN=*ddnname*

説明: イメージ・コピー・ユーティリティーの実行の前に処理される検査出口処理で、次の状態が確認されました。

- GENMAX に達した。
- 最も古いイメージ・コピーはリカバリー期間内であるため、再使用できない。

イメージ・コピー・ユーティリティーが正常に完了するまで RECON データ・セット内で使用可能なまま残っている事前定義の IC が使用されます。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: DBDS に対する現行の

RECOVPD 値では、DBRC によって保守された場合の方が GENMAX によって指定された場合よりも多くのイメージ・コピーを取るようになる可能性があります。RECOVPD 値および GENMAX 値を再評価して、必要な場合は、CHANGE.DBDS コマンドを使用してそれらの値を調整します。

DSP0067I IMPLIED DBDS GROUP DBD=*dbname* IS EMPTY

説明: 暗黙の DBDS グループが GENJCL コマンドで指定されました。例えば、DDN またはエリアの指定なしで DBD が指定されました。しかし、指定されたデータベースについて、データベース・データ・セットまたは DEDB エリアが RECON データ・セット内に登録されていません。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: 正しいデータベース名を指定してコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0068I DDN OR AREA PARAMETER INVALID WITH GROUP PARAMETER

説明: コマンドがデータベース・データ・セット (DBDS) グループまたは変更累積 (CA) グループの処理を要求したが、特定の DDN または AREA も指定されました。パラメーターの組み合わせが無効です。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: パラメーターを訂正してから、コマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0069I NO AVAILABLE SUBSYSTEM ENTRIES LEFT

説明: NOTIFY.MN 処理が、すでに 64 個のサブシステム項目を持つ MN レコードを検出したが、別のサブシステム項目を追加する要求が受け取られます。

システムの処置: この NOTIFY.MN コマンドの処理は

終了します。 RECON データ・セット内の既存の MN レコードは未変更で残ります。

プログラマーの応答: レコードをマージします。

問題判別: ありません。

DSP0070I GRPNAME *grpname* ALREADY DEFINED TO RECON

説明: RECON データ・セットにデータベース・データ・セット (DBDS) グループまたは変更累積 (CA) グループのレコードを追加する試みが失敗しました。同じグループ名を持つ DBDS または CA グループ・レコードが、すでに RECON データ・セット内にあります。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: 別のグループ名を指定してコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0071I DBDS OR DEDB AREA NOT DEFINED IN RECON, NAME=(*dbname,ddname*)

説明: INIT.DBDSGRP または CHANGE.DBDSGRP コマンドが発行されたが、MEMBERS または ADDMEM リストには RECON データ・セットに定義されていないデータベース・データ・セット (DBDS) または高速処理データベース (DEDB) AREA の名前が含まれていました。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: メンバー名を訂正してから、コマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0072I DUPLICATE GROUP MEMBER SPECIFICATION, NAME=(*dbname,ddname*)

説明: INIT.DBDSGRP または CHANGE.DBDSGRP コマンドが発行されたが、対応する MEMBERS、ADDMEM、または DELMEM リストに重複したメンバー名が現れました。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: 重複があるかどうか、除外できるかどうかを調べます。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0075I NAME TO BE DELETED FROM GROUP=*name* IS NOT A MEMBER. NAME=(*dbname,ddname*)

説明: 指定されたメンバーをデータベース・データ・セット (DBDS) グループまたは変更累積 (CA) グループから削除する試みが、指定されたグループ内でメンバーが検出されなかったため失敗しました。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: 正しいメンバー名またはグループ名を判別し、コマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0076I NAME TO BE ADDED TO GROUP=*name* IS ALREADY A MEMBER. NAME=(*dbname,ddname*)

説明: 示されたメンバーを変更累積 (CA) グループまたはデータベース・データ・セット (DBDS) グループに追加する試みが、指定されたグループ内にそのメンバーがすでに存在するため失敗しました。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: 正しいメンバー名を判別し、コマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0078I *dbname {areaname}* ALREADY IN RECOVERY GROUP *grpname*

説明: INIT.DBDSGRP RECOVGRP または CHANGE.DBDSGRP ADDRECOV コマンドを処理中で

DSP0079I • DSP0084I

す。 *dbname* および *areaname* に示されたデータベースまたはエリアは、すでに別のリカバリー・グループに属しているため、このリカバリー・グループに追加できませんでした。

システムの処置: コマンドは実行されません。

システム・プログラマーの応答: このデータベースまたはエリアを他のリカバリー・グループから削除するか、またはコマンドを訂正します。

DSP0079I RECORD NOT ACCESSIBLE

説明: DBRC 機能が、より新しい DBRC のリリースでのみアクセス可能な RECON レコードの検索を試みました。このメッセージの発行後に、フォーマットされたレコード・キーが表示されます。このメッセージの後に、他のエラー・メッセージまたは予測不能の結果が続くこともあります。

このメッセージは、区画データベースに属する DBDS 名を含む CAGRP または DBDSGRP レコードが使用された場合、あるいはこのリリースではアクセス不能なレコードがアクセスまたは変更された場合にも発行されます。アクセス不能なレコードの例は、区画データベースに属する DB または DBDS レコード、およびリカバリー・グループとして指定された DBDSGRP レコードです。

システムの処置: 実行が継続されます。

ユーザーの処置: 不適切な DBRC リリースを使用して RECON レコードのアクセスを試みないでください。

モジュール: DSPURUCO

DSP0080I *dbtype* DB NOT ELIGIBLE FOR RECOV GRP - NAME= *dbname*

説明: 不適格なタイプのデータベースをリカバリー・グループに追加しようとしていました。

メッセージ内の項目は以下のとおりです。

dbtype 次のいずれかのタイプです。

FAST PATH

PARTITION

dbname 追加しようとしていたデータベースの名前。

リカバリー・グループは、DL/I (非 HALDB) データベース、HALDB データベース、または高速機能エリアに対してのみ定義できます。高速機能データベースおよび区画データベースは、リカバリー・グループの一部にすることができません。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 次のタイプのみでリカバリーを再定義

し、ジョブを再実行します。

- DL/I (非 HALDB) データベース
- HALDB データベース
- 高速機能エリア

モジュール: DSPURM70

DSP0081I DATA SETS BEING USED ARE PREDEFINED IN RECON

説明: データ・セットは、実行していたユーティリティーで使用するために RECON データ・セットに事前定義されています。ユーティリティーによって使用されるデータベース・データ・セットまたは変更累積グループは、RECON データ・セット内の REUSE 属性で識別されます。

システムの処置: ユーティリティーの処理は継続します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: ありません。

DSP0084I INITIALIZE MORE IMAGE COPY DATA SETS TO RECON DBDNAME=*dbname* DDNAME=*ddname*

説明: 示されたデータベース・データ・セットまたはエリアは、REUSE 属性を指定して RECON データ・セットに定義され、またイメージ・コピー・データ・セット (IDS) の最大数には達していません。しかし、示されたデータベース・データ・セットまたはエリア用に事前定義された IDS には、イメージ・コピー・ユーティリティーまたは HSSP イメージ・コピー処理による使用に必要な分が残っていません。

システムの処置: イメージ・コピー・ユーティリティーまたは HSSP IC 開始出口による処理は終了します。

プログラマーの応答: INIT.IC コマンドを発行して、示されたデータベース・データ・セットまたはエリアに使用可能な IDS を作成し、それを RECON データ・セットに記録します。代替方法として、CHANGE.DBDS コマンドを発行して、維持される世代の最大数を変更し、その数がすでに使用中のイメージ・コピー・データ・セットの数と等しくなるようにします。次に、失敗したイメージ・コピー・ユーティリティー・ジョブを再実行するか、または HSSP アプリケーションを再起動します。

問題判別: ありません。

**DSP0085I INITIALIZE MORE CHANGE
ACCUMULATION DATA SETS TO
RECON CAGRP=*name***

説明: 示された変更累積グループは、RECON データ・セット内で REUSE 属性を使用して定義されています。グループに対して維持される変更累積データ・セットの最大数に達しておらず、リカバリー期間に達していませんが、変更累積データ・セットには変更累積ユーティリティで使用可能なレコードが残っていません。

システムの処置: 変更累積ユーティリティの処理は終了します。

プログラマーの応答: CA グループに対して空の変更累積データ・セットを作成し、その存在を INIT.CA コマンドを使用して RECON データ・セットに記録します。維持される変更累積データ・セットの最大数 (GRPMAX) に達していない場合は、代替方法として CHANGE.CAGRP コマンドを発行して GRPMAX 値を変更し、その数がすでに使用中の変更累積データ・セットの数と等しくなるようにします。GRPMAX 値に達しているが、リカバリー期間 (RECOVPD) を超えていない場合は、CHANGE.CAGRP コマンドを発行してリカバリー期間を短くし、最も古い変更累積データ・セットを再使用できるようにします。その後、失敗した変更累積ユーティリティを再実行します。

問題判別: ありません。

モジュール: DSPJCCAC、DSPUGP00

**DSP0087I GROUP MEMBER COUNT WILL
EXCEED ALLOWABLE MAXIMUM**

説明: 新規のデータベース・データ・セット (DBDS) グループまたは変更累積 (CA) グループの定義中、または既存の DBDS グループまたは CA グループの変更中に、グループ・メンバーの数が最大の 32767 を超えました。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: グループ・メンバーの数を 32767 に制限してから、コマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0088I DBRC EXTERNAL TRACE IS NOT
ACTIVATED. GTF WAS NOT
STARTED.**

説明: このメッセージは、GTF (汎用トレース機能) が開始していなかったため、DBRC 外部トレース (GTF トレース) が活動化されていなかったことに関する警告です。

システムの処置: DBRC トレース・レコードは GTF データ・セットに出力されません。

プログラマーの応答: GTF データ・セット内に DBRC トレース・レコードを含める場合、USR イベントに対して外部モードとして GTF を開始させる必要があります。

関連資料:

 z/OS: 汎用トレース機能 (GTF)

**DSP0089I AN IMAGE COPY IS
RECOMMENDED FOR DBD=*dbd*
DDN=*ddn*; AREA=*areaname***

説明: *ddn* または *areaname* で示されたデータベースを更新するように、DBRC に対して要求が出されました。しかし、DBDS またはエリアがまだイメージ・コピーを取られていません。イメージ・コピーなしでは、DBDS またはエリアをリカバリーできません。

プログラマーの応答: 示されたエリアまたは DBDS のイメージ・コピーをスケジューリングします。イメージ・コピーは必要ないと判断した場合、CHANGE.DBDS ICOFF コマンドを使用して、IC RECOMMENDED 状態をリセットします。

**DSP0090I CONCURRENT IMAGE COPY OF A
NON-RECOVERABLE DATA BASE IS
NOT ALLOWED.**

説明: リカバリー不能またはユーザー・リカバリー可能とマークされているデータベースに対して、並行イメージ・コピーが試行されました。割り振りレコードは、ユーザー・リカバリー可能データベースの RECON に記録されないため、並行イメージ・コピーはサポートされません。リカバリー不能データベースに対する変更内容はログに記録されません。したがって、並行イメージ・コピーによって作成されたイメージは、ファジーで使用不能です。

このメッセージは、GENJC.IC コマンド、データベース・イメージ・コピー・ユーティリティ (DFSUDMP0)、またはデータベース・イメージ・コピー 2 ユティリティ (DFSUDMT0) の実行中に出力されます。

システムの処置: GENJCL.IC コマンドの実行中にエラーが発生した場合、コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。データベース・イメージ・コピー・ユーティリティーの実行中にエラーが発生した場合、ユーティリティーの処理は終了します。

ユーザーの処置: CIC 実行パラメーターを指定せずにイメージ・コピー・ユーティリティーを実行します。

**DSP0092I HSSP IMAGE COPY PROCESSING
HAS ALREADY BEEN ENDED**
DBDNAME=*dbdname*
AREANAME=*areaname*

説明: すでに処理が終了している高速順次処理 (HSSP) イメージ・コピー (IC) を終了する要求が出されました。

システムの処置: HSSP IC 終了出口による処理は終了するか、または CHANGE.IC コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: CHANGE.IC コマンドが発行された場合、処理終了中の HSSP イメージ・コピーをコマンドが正しく識別したかどうかを確認し、コマンドを再発行します。それ以外の場合、この問題は内部 HSSP エラーであるため、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を依頼してください。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0093I NO DBDSGRP RECORD FOUND IN
RECON**

説明: LIST.DBDSGRP ALL または LIST.RECON コマンドが発行されたが、RECON データ・セット内に DBDSGRP レコードがありませんでした。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0094I GRPNAME *grpname* DOES NOT
EXIST IN RECON**

説明: コマンドは、示されたグループが RECON データ・セット内にあることを想定していたが、そのグループは RECON データ・セットに定義されていません。

システムの処置: このコマンドは RC=4 または 12 で失敗しました。RC=4 の場合は後続のコマンドの処理が続き、RC=12 の場合は後続のコマンドが失敗します。

プログラマーの応答: 正しいグループ名を指定して、失敗したコマンドを再発行します。また、処理されなかった他のコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0095I DBDS GROUP RECORD DELETED,
GRPNAME= *name***

説明: 示されたデータベース・データ・セット (DBDS) グループのすべてのメンバーおよび空のグループのレコードが削除されました。

システムの処置: ありません。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

**DSP0096E THE STATUS OF THE SPECIFIED
CA RECORD CANNOT BE
CHANGED**

説明: 変更累積 (CA) レコードに対して、CHANGE.CA VALID (または INVALID) コマンドが発行され、PITCA フラグが ON に指定されました。ERR フラグを ON のままにして、他の DBRC 機能がその使用を試行しないようにする必要があるため、コマンドは失敗しました。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

ユーザーの処置: VALID または INVALID パラメーターを除去した後で CHANGE.CA コマンドを再実行依頼するか、別の CA レコードを指定します。

モジュール: DSPURM00

**DSP0099I THE AREA DOES NOT HAVE THE
IC DATA SET REUSE ATTRIBUTE**
DBDNAME=*dbdname*
AREANAME=*areaname*

説明: 高速順次処理 (HSSP) イメージ・コピーでは、エリア内に再使用可能イメージ・コピー・データ・セットが必要です。

システムの処置: HSSP IC 開始出口による処理は終了するか、またはコマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: 示されたエリアに対して CHANGE.DBDS REUSE コマンドを発行します。HSSP アプリケーションが終了した場合、示されたエリアに対して INIT.IC コマンドを発行して、新しいイメージ・コピー・データ・セットを RECON に示してから、HSSP アプリケーションを再始動します。DBRC コマンドが失敗した場合、そのコマンドおよび処理され

なかった他のコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP メッセージ DSP0101 - DSP0150

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DSP0101I IMAGE COPY DATA SET CANNOT BE PREDEFINED DBDNAME=*dbdname* DDNAME=*ddname*

説明: このメッセージ・テキストに示されたデータベース・データ・セットまたはエリア・データ・セットが、RECON データ・セット内で NOREUSE 属性を使用して識別されました。このデータベース・データ・セットまたはエリア・データ・セット用の空のイメージ・コピー・データ・セットは、データベース・データ・セットまたはエリア・データ・セットが REUSE 属性で再定義された場合のみ、RECON データ・セットに登録できません。

システムの処置: INIT.IC コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。RECON データ・セットは変更されません。

プログラマーの応答: コマンドが不適切でなかったかどうかを判別します。不適切な場合は、訂正し、コマンドを再発行します。それ以外の場合、リカバリー管理ユーティリティの CHANGE.DBDS コマンドを REUSE パラメーター指定付きで使用して、示された DBDS またはエリア・データ・セット用のイメージ・コピー・データ・セットを事前定義します。その後、失敗したコマンドを再発行します。

問題判別: ありません。

DSP0102I CHANGE ACCUMULATION DATA SET CANNOT BE PREDEFINED CAGRP=*name*

説明: 変更累積 (CA) グループ *name* が、RECON データ・セット内で NOREUSE 属性を使用して識別されました。この変更累積グループ用の空の変更累積データ・セットは、変更累積グループが REUSE 属性で再定義された場合のみ、RECON データ・セットに登録できます。

システムの処置: INIT.CA コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。RECON データ・セットは変更されません。

プログラマーの応答: コマンドが不適切でなかったかどうかを判別します。不適切な場合は、訂正し、コマンドを再発行します。それ以外の場合、リカバリー管理ユーティリティの CHANGE.CAGRP コマンドを REUSE パラメーター指定付きで使用して、示された CA グループ用の変更累積データ・セットを事前定義します。その後、失敗したコマンドを再発行します。

問題判別: ありません。

DSP0103I DATA SET NAME DOES NOT FOLLOW NAMING CONVENTION DSNAME=*dsname*

説明: メッセージ・テキストで *dsname* に示されているデータ・セット名が、RECON データ・セット内で識別されるデータ・セットに関するリカバリー管理ユーティリティのオプションのデータ・セット命名規則に準拠していません。

システムの処置: データ・セット名は受け入れられませんが、その固有性は保証できません。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

データ・セット名が命名規則に準拠しなければならない場合、適切なコマンドを使用してデータ・セット名を変更します。

問題判別: ありません。

DSP0104I DSNAME IS NOT UNIQUE WITHIN RECON DSNAME=*dsname*

説明: イメージ・コピー・データ・セットまたは変更累積 (CA) データ・セットの名前を RECON データ・セットに追加する試みが行われました。その名前が、すでにそこに存在するデータ・セット名と同一です。

システムの処置: リカバリー・ユーティリティのコマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。RECON データ・セットは変更されません。

プログラマーの応答: 固有のデータ・セット名を指定してコマンドを再発行し、また、処理されなかった他のコマンドを再発行します。

DSP0105I • DSP0109I

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0105I *parm1* PARAMETER SPECIFIED WITHOUT CORRESPONDING *parm2* PARAMETER

説明: *parm1* では *parm2* も指定する必要があります。しかし、コマンドで *parm2* が指定されませんでした。

システムの処置: 処理は終了します。RECON データ・セットは更新されません。後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: 欠落したパラメーターをコマンドに追加します。その後、失敗したコマンド、および処理されなかった他のコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0106I *parm1* TIME-STAMP *time-stamp* NOT WITHIN VALID RANGES

説明: メッセージ・テキストで *parm1* によって示されているパラメーターのタイム・スタンプ値が有効な範囲内ではありません。*time-stamp* フィールドは、無効なタイム・スタンプの定様式イメージです。

システムの処置: このコマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: 無効なタイム・スタンプを訂正します。失敗したコマンド、および処理されなかった他のコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0107I DATA BASE DATA SET ALREADY DEFINED TO CA-GROUP *name* DBDNAME=*dbdname* DDNAME=*ddname*

説明: 示されたデータベース・データ・セットまたはエリア・データ・セットを変更累積 (CA) グループに追加する要求が失敗しました。これは、そのデータベース・データ・セットまたはエリア・データ・セットがすでに変更累積グループのメンバーであるためです。

システムの処置: このコマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: データベース・データ・セットまたはエリア・データ・セットの名前が誤って指定されていた場合は、それを修正します。あるいは、変更累積グループを再定義してから、コマンドを変更せずに再発行します。処理されなかった他のコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0108I DATA BASE DATA SET CANNOT BE INCLUDED IN CA-GROUP *grpname* DBDNAME=*dbdname* DDNAME=*ddname*

説明: 示されたデータベース・データ・セットまたはエリア・データ・セットを、*grpname* で示された変更累積 (CA) グループに追加する要求が失敗しました。これは、そのデータベース・データ・セットまたはエリア・データ・セットが次の状態であるためです。

- RECON データ・セット内で識別されない。
- ユーザー・リカバリー可能領域。ユーザー・リカバリー可能領域を変更累積グループに追加することはできません。

システムの処置: このコマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: データベース・データ・セットまたはエリア・データ・セットの名前が誤って指定された場合、それを訂正します。データベース・データ・セットまたはエリア・データ・セットが RECON データ・セット内で識別されない場合、INIT.DBDS または INIT.ADS コマンドを使用して識別します。その後、失敗したコマンド、および処理されなかった他のコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0109I DATA BASE DATA SET NOT DEFINED IN RECON DBDNAME=*dbdname* DDNAME=*ddname*

説明: 次の問題のいずれかが発生したため、このメッセージが発行されます。

- リカバリー管理ユーティリティの実行中、RECON データ・セットに該当のデータベース・データ・セットのレコードがないため、示されたデータベース・デ

ータ・セットに関連する RECON データ・セットからの情報の要求が失敗しました。

- IMS リカバリー・ユーティリティ、イメージ・コピー・ユーティリティ、または /DBRC 処理の実行中に、示されたデータベース・データ・セットが RECON データ・セット内にありませんでした。
- LIST コマンドが発行されたが、コマンドで指定された、またはコマンドで指定されたグループに属するデータベース・データ・セットまたは DEDB AREA が、RECON データ・セットに定義されていません。

システムの処置: 最初の事例では、コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。2番目のおよび3番目の事例では、通常の処理が継続します。

プログラマーの応答: 最初の事例では、RECON データ・セットに指定されているデータベース・データ・セットを指定するようにコマンドを訂正するか、または RECON データ・セット内のデータベース・データ・セットを初期設定します。その後、失敗したコマンド、および処理されなかった他のコマンドを再発行します。2番目のおよび3番目の事例では、応答は必要ありません。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0110I UNABLE TO OPEN *ddname* DATA SET

説明: 非 VSAM データ・セットをオープンする試みが失敗しました。 *ddname* フィールドは、オープンできなかったデータ・セットを記述する DD ステートメントを示します。

システムの処置: このユーティリティの処理は終了します。

プログラマーの応答: OPEN 障害の理由を判別し、問題を訂正してから、失敗したユーティリティを再実行します。

問題判別: 1、2、3、8

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0111I DATA BASE DATA SET NOT DEFINED IN RECON
DBDNAME=*dbdname* DDNAME=*ddname*
DSNAME=*dsname***

説明: IMS リカバリー・ユーティリティおよびイメ

ージ・コピー・ユーティリティの実行中に、示されたデータベース・データ・セットが RECON データ・セット内にありませんでした。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0112I VOLSER *volser* SPECIFIED FOR *newvol*
ALREADY EXISTS IN LOG RECORD**

説明: CHANGE.PRILOG または CHANGE.SECLOG コマンドが NEWVOL パラメーターを指定して発行されたが、指定されたボリューム通し番号が PRILOG または SECLOG レコード内で検出されました。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: ボリューム通し番号を訂正してから、コマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0113I *record type* RECORD NOT FOUND IN
RECON DBDNAME=*dbdname*
DDNAME=*ddname* TIME=*time-stamp***

説明: RECON データ・セット内のレコードにアクセスまたは変更する要求が、指定された属性を持つレコードが検出されなかったため失敗しました。

示されるレコード・タイプは、ALLOC、IMAGE、REORG、または RECOV です。DBDNAME および DDNAME フィールドは、要求で指定されたデータ・セットを示します。TIME フィールドは、要求内のレコードのタイム・スタンプを示します。

システムの処置: RECON データ・セット内のレコードにアクセスまたは変更する要求が失敗します。

プログラマーの応答: レコードを識別する属性を訂正し、失敗したコマンドを再発行します。

**DSP0114I CHANGE ACCUMULATION RECORD
NOT FOUND IN RECON
CAGRP=*name* RECORD
TIME=*time-stamp***

説明: RECON データ・セット内の変更累積 (CA) 実行レコードにアクセスまたはこれを更新する要求が、指定された属性を持つレコードを検出できなかったため失敗しました。name は変更累積グループを示し、time-stamp はレコードのタイム・スタンプを示します。

システムの処置: 要求された RECON データ・セットのアクセスまたは更新は完了しません。

プログラマーの応答: レコードを識別する属性を訂正し、コマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0115I *record-type* **RECORD NOT FOUND IN RECON RECORD TIME=time-stamp**

説明: RECON データ・セット内のレコードにアクセスまたは変更する要求が、指定された属性を持つレコードが検出されなかったため失敗しました。

システムの処置: RECON データ・セット内のレコードにアクセスまたは変更する要求が失敗します。

続行するために示されたレコードが要求で必要であった場合、コマンドは戻りコード 12 で失敗し、後続のコマンドは処理されません。ただし、処理においてこのレコードが存在することが予期されたが、このレコードがなくても処理を続行できる場合は、戻りコード 4 が設定されます。

プログラマーの応答: レコードを識別する属性を訂正し、失敗したコマンドを再発行します。このメッセージは、DELETE.ALLOC コマンド処理中に、対応する LOGALL レコードを見つからず、割り振りレコードが削除された場合にも、通知メッセージとして出力されます。

戻りコード 4 の場合、このメッセージは通知用であり、これ以上の処置は必要ありません。戻りコード 12 の場合、失敗したコマンドを修正します。このコマンド、および処理されなかった他のコマンドを再実行依頼します。

問題判別: 2、3、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0116I **RECON DATA SETS TO BE INITIALIZED ARE NOT EMPTY**

説明: すでに初期設定されている RECON データ・セットに対して、INIT.RECON コマンドが発行されました。

システムの処置: INIT.RECON コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: INIT.RECON コマンドを変更して、空の RECON データ・セットを指定するようにします。使用可能かどうかを判別するため、指定されたデータ・セットの内容をリストしておきます。その後、このコマンドおよび処理されなかった他のコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0117I **DATA BASE DATA SET ALREADY DEFINED TO RECON**
DBDNAME=dbdname DDNAME=ddname

説明: INIT.DBDS コマンドで、すでに RECON データ・セットで識別されているデータベース・データ・セットが指定されました。dbdname および ddname フィールドは、データベース・データ・セットを示します。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: 事前に初期設定済みのデータベース・データ・セットをコマンドで指定した理由を調べます。必要に応じて、コマンドを訂正し、再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0118I **CHANGE ACCUMULATION GROUP ALREADY DEFINED TO RECON**
CAGRP=name

説明: INIT.CAGRP コマンドで、すでに RECON データ・セットで識別されている変更累積 (CA) グループが指定されました。メッセージ・テキストの name は、変更累積グループ名を示していました。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: 事前に初期設定済みの変更累積グ

ループをコマンドで指定した理由を調べます。必要に応じて、コマンドを訂正し、再発行し、さらに処理されなかった他のコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0119I RECORD WITH SAME TIME-STAMP
ALREADY EXISTS IN RECON** *record*

説明: RECON データ・セットにレコードを追加するコマンドで、同一タイプのレコードにすでに存在するタイム・スタンプが指定されています。record フィールドは、重複したタイム・スタンプを持つレコードを示します。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。RECON データ・セットは変更されません。

プログラマーの応答: 失敗したコマンドが、RECON データ・セットに実際に重複しているレコードを追加するために使用されるのか、または別のイベントのレコードを追加するのに使用されるのかを判別します。後者の場合、タイム・スタンプは固有でなければなりません。タイム・スタンプを訂正してから、失敗したコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0120I NEW DDNAME ALREADY EXISTS
IN RECON** *DBDNAME=dbdname
DDNAME=ddname*

説明: RECON データ・セット内でデータベース・データ・セットの DDNAME を変更するコマンドが、RECON データ・セット内に同じ DBDNAME および DDNAME を持つデータベース・データ・セットがすでに存在しているため失敗しました。dbdname および ddname フィールドは、データベース・データ・セットを示します。

システムの処置: このコマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: コマンドに指定した新規 DDNAME が不適切でなかったかどうか判別します。不適切であった場合は、それを訂正し、失敗したコマンドおよび処理されなかった他のコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0121I DATA BASE DATA SET NOT
DEFINED IN DBD LIBRARY**
DBDNAME=dbdname DDNAME=ddname

説明: RECON データ・セット内でデータベース・データ・セットを識別するため、または RECON データ・セット内ですでに識別されているデータベース・データ・セットの編成または DD 名を変更するためにコマンドが発行されました。IMS DBD ライブラリーには、このデータベース・データ・セットのレコードがありません。

システムの処置: このデータベース・データ・セットのレコードは、RECON データ・セット内で追加も変更も行われません。

プログラマーの応答: データベース・データ・セットの ID を変更し、失敗したコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3。IMS DBD ライブラリーのリストも参照してください。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0122I NO PREDEFINED CHANGE
ACCUMULATION DATA SETS
REMAINING** *CAGRP=name*

説明: 示された変更累積 (CA) グループ名に対して、空の変更累積データ・セットが残っていません。このグループ用に維持される変更累積データ・セットの最大数にはまだ達していません。(このため、グループ内の既存の変更累積データ・セットの再利用が可能です)。現行の変更累積ユーティリティの実行は正常に完了し、示された変更累積グループ用に残っていた最後の事前定義の変更累積データ・セットが使用されました。後続の変更累積ユーティリティの要求は、以下のいずれかの処置が行われない限り失敗します。

- 示された変更累積グループ用に追加の変更累積データ・セットが事前定義される。
- 示された変更累積グループの GRPMAX 値が変更されて、次の変更累積ユーティリティの実行時に変更累積データ・セットの再利用が可能になる。
- 示された変更累積グループの RECOVPD 値が変更されて、次の変更累積ユーティリティの実行時に変更累積データ・セットの再利用が可能になる。

システムの処置: 変更累積ユーティリティの処理は継続します。

プログラマーの応答: INIT.CA コマンドを発行して、示された変更累積グループ用に新規の変更累積データ・セットを定義するか、あるいは CHANGE.CAGRP コマンドを発行して GRPMAX または RECOVPD の値を変更します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0123I NO PREDEFINED IMAGE COPY DATA SETS REMAINING
DBDNAME=dbdname DDNAME=ddname

説明: データベース・データ・セットまたはエリア・データ・セットに、空のイメージ・コピー・データ・セットが残っていません。このデータベース・データ・セットまたはエリア・データ・セット用に維持されるリカバリ生成の最大数にはまだ達していません。この場合は、既存のイメージ・コピー・データ・セットの再利用が可能です。現行のイメージ・コピー・ユーティリティーの実行は正常終了し、残っていた最後の事前定義のイメージ・コピー・データ・セットが使用されました。

後続のイメージ・コピー・ユーティリティーの実行は、次のいずれかの条件を満たさない限り失敗します。

- 示されたデータベース・データ・セットまたはエリア・データ・セット用に追加のイメージ・コピー・データ・セットが事前定義される。
- 示されたデータベース・データ・セットまたはエリア・データ・セットの GENMAX 値が変更されて、次のイメージ・コピー・ユーティリティーの実行時にイメージ・コピー・データ・セットの再利用が可能になる。

システムの処置: イメージ・コピー・ユーティリティーの処理は継続します。

プログラマーの応答: INIT.IC コマンドを発行して、示されたデータベース・データ・セットまたはエリア・データ・セット用の新規のイメージ・コピー・データ・セットを定義するか、または CHANGE.DBDS コマンドを使用して GENMAX 値を変更します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0124I DSNAME IS NOT UNIQUE WITHIN ADS DBD=dbd name AREA= area name
ADSN=ADS DSN name

説明: DBRC コマンド (つまり、CHANGE.ADS または INIT.ADS) の処理中、指定されたデータ・セット名が RECON データ・セットにすでに登録されていました。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: 事前に初期設定済みのデータ・セット名をコマンドで指定した理由を調べます。必要に応じて、コマンドを訂正し、再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0125I CHANGE ACCUMULATION GROUP NOT DEFINED IN RECON
CAGRP=grpname

説明: 指定されたグループのレコードが RECON データ・セットにないため、grpname で示されている変更累積 (CA) グループに関する情報の要求が失敗しました。

システムの処置: このコマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: 失敗したコマンドを修正して、RECON データ・セットで識別される変更累積グループを指定するようにします。このコマンドおよび処理されなかった他のコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0126I NUMBER OF INACTIVE PRILOG RECORDS DELETED WAS
nnnnnnnnnn

説明: このメッセージは、DELETE.LOG コマンドによって削除された非アクティブ PRILOG レコードの数を示します。削除される PRILOG ごとに、対応する SECLOG、PRISLDS、および SECSLDS レコードも削除されました。

システムの処置: DELETE.LOG コマンドによる処理は継続します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0127I NO LOG DATA SETS DEFINED IN RECON

説明: RECON データ・セット内で識別される全ログ・データ・セットのリストを要求するため、LIST.LOG コマンドまたは LIST.RECON コマンドが使用されたが、ログ・データ・セットのレコードが見つかりませんでした。

システムの処置: コマンドの処理は継続します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: RECON データ・セットのリスト

DSP0128I NO CHANGE ACCUMULATION GROUPS DEFINED IN RECON

説明: RECON データ・セット内で定義されたすべての変更累積 (CA) グループのリストを要求するために、LIST.CAGRP コマンドまたは LIST.RECON コマンドが使用されましたが、変更累積グループのレコードが見つかりませんでした。

システムの処置: コマンドの処理は継続します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0129I INSUFFICIENT MAXIMUM RECORD SIZE FOR RECON DATA SET

説明:

RECON データ・セットとして初期設定されるデータ・セットの少なくとも 1 つが、RECON データ・セットとして使用されるデータ・セットには不十分な最大レコード・サイズまたは CI サイズで作成されました。

システムの処置: INIT.RECON コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。RECON データ・セットは初期設定されません。

プログラマーの応答:

RECON の処理に十分な最大レコード・サイズ、CI サイズ、またはその両方を指定して、RECON データ・セットとして初期設定されるデータ・セットを再作成します。

問題判別: 2、3、8

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0130I IMAGE COPY DATA SET NAMES NOT UNIQUE

説明: RECON データ・セット内でイメージ・コピー・データ・セットのレコードを追加または変更するコマンドに、既存のデータ・セット名が指定されました。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: イメージ・コピー・データ・セットのデータ・セット名を固有なものにします。失敗したコマンド、および処理されなかった他のコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0131I DUPLICATE MEMBERS IDENTIFIED FOR CHANGE ACCUMULATION GROUP DBDNAME=*dbdname* DDNAME=*ddname*

説明: INIT.CAGRP コマンドによって初期設定される変更累積グループのメンバーとして、重複したデータベース・データ・セット名が指定されました。重複したデータベース名 (*dbdname*) およびデータ・セット DD 名 (*ddname*) は、メッセージ内に示されます。

プログラマーの応答: INIT.CAGRP コマンド内で、すべてのデータベース・データ・セットが固有の名前を持つようにします。このコマンド、および処理されなかった他のコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0132I IMAGE COPY NEEDED FOR DBD=*dbd* DDN=*ddn*

説明: HD 再ロード操作が完了したか、またはアプリケーションがデータベース (PROCOPT=L または PROCOPT=LS) をロードしたところです。アプリケーションがスケジュールされてこのデータベース・データ・セットまたはエリア・データ・セットが使用される前に、イメージ・コピーを取る必要があります。

システムの処置: ありません。

プログラマーの応答: 示されたデータベース・データ・

DSP0133I • DSP0137I

セットまたはエリア・データ・セットのアプリケーションによる使用をスケジュールする前に、イメージ・コピー操作をスケジュールします。

問題判別: ありません。

DSP0133I PRILOG IS ASSOCIATED WITH AN ACTIVE SUBSYSTEM RECORD TIME=*timestamp* SSIDNAME=*ssidname*

説明: このメッセージは、DBRC コマンドによって PRILOG または SECLOG レコードが次のいずれかの状態であることが確認されたことを示します。

- PRILOG または SECLOG レコードが、DELETE.LOG のログ保存期間内であった。
- PRILOG または SECLOG レコードが、CLEANUP.RECON コマンドによって指定された時間内であった。
- アクティブな割り振りレコードがなかった。
- PRILOG または SECLOG がサブシステム・レコードに関連付けられている。

システムの処置: DELETE.LOG コマンドによる処理は、戻りコード = X'04' が戻されて、継続します。

CLEANUP.RECON コマンドの処理は、戻りコード = X'04' が戻されて、継続します。RECON ログ・レコードは削除されません。NOTIFY コマンドによる処理は、戻りコード X'0C' で失敗します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

CLEANUP.RECON の場合、ログが本当にアクティブであるかどうか評価する必要があります。アクティブでない場合、サブシステム・レコードおよび関連する RECON ログ・レコードを削除します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

モジュール: DSPURD60、DSPURT50、DSPURT80

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0134I DATA BASE DATA SET HAS BEEN UPDATED SINCE HISAM UNLOAD DBDNAME=*dbdname* DDNAME=*ddname* STARTIME=*timestamp*

説明: HISAM アンロード操作が完了してから再ロード操作が実行されるまでの間に、示されたデータベース・データ・セットが更新されたことを、割り振りレコードが示しています。

システムの処置: HISAM 再ロード操作は失敗します。

プログラマーの応答: データベース・データ・セットへ

の変更を保持する必要がある場合、HISAM アンロード操作および再ロード操作を再実行します。データベース・データ・セットの変更をバックアウトする必要がある場合、DELETE.ALLOC コマンドを使用してから、HISAM 再ロード・ユーティリティを再実行します。

DSP0135I LOG RECORD(S) COMPRESSED, RECORD TIME=*timestamp*

説明: DELETE.LOG INACTIVE コマンド、NOTIFY.PRILOG RLDS コマンド、IMS ログ保存ユーティリティ、またはバッチ・ロギング・ユーティリティを実行中に、DBRC が、指定された PRILOG に非アクティブ・データ・セット項目があることを検出し、それらを削除して、PRILOG を圧縮しました。SECLOG、PRISLDS、および SECSLDS 内の対応する項目も、適切な場合は圧縮されました。非アクティブ・データ・セット項目とは、リカバリーに必要な最も古いログよりも古い項目のことです。

システムの処置: 処理は続行されます。

DSP0136I MAXIMUM NUMBER OF CHANGE ACCUMULATION DATA SETS ALREADY DEFINED CAGRP=*cagrpname*

説明: 変更累積データ・セットの最大数がすでに定義されている変更累積グループについて、RECON データ・セットに、変更累積データ・セットを事前定義するために INIT.CA コマンドが発行されました。メッセージの *cagrpname* は、変更累積グループを示します。

システムの処置: INIT.CA コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: 示された変更累積グループについて、追加の変更累積データ・セットを定義する必要がある場合、CHANGE.CAGRP コマンドを使用して、RECON データ・セットに維持される変更累積データ・セットの最大数を増やします。INIT.CA コマンドおよび処理されなかった他のコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0137I *parameter 1* IS INCONSISTENT WITH PREDEFINED VOLUME INFORMATION

説明: NOTIFY.IC または NOTIFY.CA コマンドのパラメーターで指定されたボリューム情報が、RECON データ・セット内にある、このコマンドに関連するイメー

ジ・コピー・データ・セットまたは変更累積データ・セットのレコードのボリューム情報と一致しません。RECON データ・セット内のボリューム情報は、NOTIFY.IC コマンドで指定されたボリューム情報と同じか、またはそのサブセットでなければなりません。また、RECON データ・セット内のボリューム情報は、NOTIFY.CA コマンドで指定されたボリューム情報と同じでなければなりません。

システムの処置: NOTIFY.IC または NOTIFY.CA コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: RECON データ・セットまたは失敗したコマンドのいずれかのボリューム情報を変更します。その後、このコマンドおよび処理されなかった他のコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0138I *parameter1* TIME-STAMP IS NOT GREATER THAN *parameter2* TIME-STAMP

説明: 実行されるコマンドまたは機能では、*parameter1* は *parameter2* のタイム・スタンプより後のタイム・スタンプを指定する必要があります。

NOTIFY PRI/SEC LOG 切り替え呼び出し (既存のエントリーをクローズし、同時に新規 OLDS エントリーをオープンする) の場合、*parameter1* (挿入実行時刻) はクローズされる OLDS のタイム・スタンプを指し、*parameter2* (挿入開始時刻) は既存の OLDS エントリーの開始時刻のタイム・スタンプを指します。

コマンドが NOTIFY.CA であり、指定されたタイム・スタンプが正しい場合、*parameter1* は指定された実行時刻を指し、*parameter2* は既存の変更累積 (CA) の停止時刻を指します。

HSSP イメージ・コピー終了処理の場合、*parameter1* は HSSP イメージ・コピーの停止時刻を指し、*parameter2* は開始時刻を指します。

DASD ロギング切り替え出口の場合、現行 OLDS について、*parameter1* はクローズ時刻を指し、*parameter2* は開始時刻を指します。

DASD ロギング・クローズ出口の場合、クローズされる OLDS について、*parameter1* はクローズ時刻を指し、*parameter2* は開始時刻を指します。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: タイム・スタンプを訂正してか

ら、失敗したコマンドおよび処理されなかった他のコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0139I RECON ALREADY INFORMED OF DEALLOCATION

説明: データベース・データ・セットの割り振り解除に関するレコードを RECON データ・セットに追加するために、NOTIFY.ALLOC コマンドが発行されました。対応する割り振りレコードには、すでに割り振り解除情報が含まれています。

システムの処置: NOTIFY.ALLOC コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: NOTIFY.ALLOC コマンドで、データベース・データ・セットおよび割り振り解除のタイム・スタンプを正しく指定しているかどうかを確認します。正しい場合、RECON データ・セットを訂正するために、既存の割り振りレコードを RECON データ・セットから削除し、NOTIFY.ALLOC コマンドを発行して、RECON データ・セットに正しい割り振りおよび割り振り解除の情報を追加します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0140I REQUIRED *parameter* PARAMETER NOT SPECIFIED

説明: メッセージ・テキストで *parameter* によって示されているパラメーターが指定されなかったため、コマンドは処理されませんでした。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: 欠落したパラメーターを追加します。その後、このコマンドおよび処理されなかった他のコマンドを発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0141I *parameter* **PARAMETER SHOULD NOT BE SPECIFIED**

説明: メッセージ・テキストで *parameter* によって示されているパラメーターに問題があったため、コマンドは処理されませんでした。パラメーターは、このコマンドでは無効か、または RECON 内の既存情報と不整合です。

このエラーの原因として、以下の状態が考えられます。

- キーワード FULLSEG、NOFULLSG、または SHADOW が非高速機能データベースに対して指定された。
- キーワード OSAM8G または NOOSAM8G が非 OSAM HALDB データベースに対して指定された。
- キーワード OSAM8G が、オンラインで再編成可能なデータベースに対して指定された。

システムの処置: このコマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: 示されたパラメーターを削除します。その後、このコマンドおよび処理されなかった他のコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0142I **REQUIRED** *parameter* **PARAMETER NOT SPECIFIED**

説明: コマンドで必須パラメーターが指定されなかったため、コマンドは処理されませんでした。パラメーターは、メッセージ・テキストで *parameter* によって示されています。

システムの処置: 処理は終了します。RECON データ・セットは更新されず、また、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: 指定すべき正しいパラメーターを判別します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0143I *parameter* **PARAMETER SHOULD NOT BE SPECIFIED**

説明: 示されたパラメーターが指定されたため、コマンドは処理されませんでした。メッセージ・テキストで

parameter によって示されたパラメーターは、このコマンドでは無効か、または RECON データ・セット内の既存の情報と不整合です。

システムの処置: NOTIFY.PRILOG または NOTIFY.SECLOG コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: 示されたパラメーターを削除するか、または指定すべき正しいパラメーターを判別します。その後、このコマンドおよび処理されなかった他のコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0144I *parameter* **PARAMETER INCONSISTENT WITH RECON INFORMATION**

説明:

- CHANGE.DBDS コマンド用に CFSTR2 パラメーターが入力されました。エリアが MAS パラメーターで定義されている場合、CFSTR2 は定義できません。MAS パラメーターは、エリアが複数エリア構造 (MAS) に常駐することを指定します。これらの構造については、IMS 二重化はサポートされません。
- イメージ・コピー・レコード内に重複したイメージ・コピー・データ・セット情報がない場合、DELETE.IC コマンドで ICDSN2 パラメーターを指定できない。
- イメージ・コピー・レコード内に重複したイメージ・コピー・データ・セット情報がなく、また重複したイメージ・コピー・データ・セットに関する情報を追加するための ICDSN2 パラメーターが CHANGE.IC コマンドに指定されていない場合、CHANGE.IC コマンドで、VOLLIST2、INVALID2、VALID2、FILESEQ2、または UNIT2 パラメーターを指定できない。
- LIST.LOG コマンドで、STARTIME パラメーターとともに SSID パラメーターが指定された。指定された SSID が、指定された STARTIME を持つログ・レコード内の SSID と一致しなかった。
- RECON データ・セットの使用可能な未使用のレコードを変更するなどのコマンドでも、INVALID または VALID パラメーターが指定できない。
- 標準外イメージ・コピー・データ・セットがデータベース・データ・セットに関連付けられている場合、CHANGE.DBDS コマンドで REUSE 属性を指定できない。

- NOTIFY.PRILOG OLDS コマンドで指定された STARTIME が、指定されたサブシステム ID について RECON データ・セット内で識別された既存のオンライン・ログ・データ・セットの時刻範囲内にある。これは許可されません。
- NOTIFY.PRILOG OLDS コマンドで指定された STOPTIME が、指定されたサブシステム ID について RECON データ・セット内で識別された既存のオンライン・ログ・データ・セットの時刻範囲内にある。これは許可されません。
- NOTIFY コマンドで指定された PURGLIST 項目の数が、変更累積 (CAGROUP) レコードで (グループ・メンバーとして) 定義されたデータベース・データ・セットの数より多い。これは許可されません。
- DBDS グループ内でメンバーを変更する場合、CHANGE.DBDSGRP コマンドで ADDDB | DELDB パラメーターを指定できない。
- DB グループ内でメンバーを変更する場合、CHANGE.DBDSGRP コマンドで ADDMEM | DELMEM パラメーターを指定できない。
- NORTA パラメーターを指定して CHANGE.SG コマンドが発行されたが、リモート・テークオーバー処理が要求されなかったか、またはテークオーバーを逆戻りできないようにする処置が (オペレーターによって) 取られた。 /RTAKEOVER コマンドが完了した後、新しいアクティブ・システムまたは新しいトラックを開始するか、またはバッチ・バックアウト・ジョブを開始した場合、最初にトラッキング・サブシステム・データベースの再インストールをしないと、リモート・テークオーバーを反転できません。
- リカバリー可能データベースに対して CHANGE.DB コマンドで NOICREQ パラメーターが指定された。
- NOTIFY コマンドで指定された PURGLIST、LSN、USID、LRID、または DSSN のキーワード値の総数が、変更累積 (CAGROUP) レコードで (グループ・メンバーとして) 定義されたデータベース・データ・セットの総数より多い。これは許可されません。例えば、グループに 5 つのメンバーがあり、このグループに対して LSN の値を指定する場合、LSN(101,102,103,104,105) のように、LSN 値は最大 5 つまでしか指定できません。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

システム・プログラマーの応答: エリアが複数エリア構造内に常駐することを示す MAS パラメーターでこのエリアが定義されている場合は、CHANGE.DBDS コマンドから CFSTR2 パラメーターを除去します。このエリアが IMS 二重化のある単一エリア構造に常駐する (CFSTR1 および CFSTR2 が定義されている) 場合、MAS キーワードを除去します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0145I RECON ALREADY INFORMED OF LOG DATA SET CLOSE

説明: ログ・データ・セットのクローズに関する情報を RECON データ・セットに追加するために、NOTIFY.PRILOG または NOTIFY.SECLOG コマンドが発行されました。RECON データ・セット内のログ・データ・セットのレコードには、クローズに関してゼロ以外のタイム・スタンプがすでに含まれており、この情報がすでに入力されていることを示しています。

システムの処置: NOTIFY.PRILOG または NOTIFY.SECLOG コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: ログ・データ・セットおよびそのクローズのタイム・スタンプがコマンドに正しく指定されているかどうかを確認します。コマンドに、必要な変更を行います。コマンドは正しいが、RECON データ・セットの情報が不適切である場合、CHANGE.PRILOG または CHANGE.SECLOG コマンドを使用して、レコードを訂正します。その後、このコマンドおよび処理されなかった他のコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0146I MORE THAN 255 VOLUMES SPECIFIED FOR LOG DATA SET

説明: ログ・データ・セット用の追加ボリュームを定義するために、NOTIFY.PRILOG または NOTIFY.SECLOG コマンドが使用されました。しかし、ボリュームの総数が最大許容数の 255 を超えています。

システムの処置: NOTIFY.PRILOG または NOTIFY.SECLOG コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: RECON データ・セットまたは失敗したコマンドのいずれかのボリューム情報を変更します。その後、このコマンドおよび処理されなかった他のコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0147I RECOVERY TO *timestamp* IS NOT VALID

説明: データベース・データ・セットのリカバリーに関するレコードを RECON データ・セットに追加するために、NOTIFY.RECOV コマンドが発行されました。コマンドに指定され、メッセージにリストされた RCVTIME 値が、RECON データ・セット内の情報によれば無効です。この値は、DBDS またはエリアが更新中でなかった時の時刻でなければなりません。すなわち、RECON のアクティブ ALLOC レコードによってカバーされていない時刻、および既存のタイム・スタンプ・リカバリーの範囲内ではない時刻です。

システムの処置: NOTIFY.RECOV コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されませんでした。

プログラマーの応答: NOTIFY.RECOV コマンドで指定された RCVTIME 値を訂正してから、このコマンドおよび処理されなかった他のコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0148I *parameter* TIME-STAMP IS NOT GREATER THAN LAST VOLUME STOPTIME

説明: ログ・データ・セットの停止時刻を RECON データ・セット内で追加または変更するために、NOTIFY.PRILOG、NOTIFY.SECLOG、CHANGE.PRILOG、または CHANGE.SECLOG コマンドが発行されました。コマンドに指定されたタイム・スタンプが、このログ・データ・セットに関して RECON データ・セットにすでに記録されているタイム・スタンプより大きな値ではありません。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: コマンドのタイム・スタンプを訂正します。その後、このコマンドおよび処理されなかった他のコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0149I USER IMAGE COPY OR REORG NOTIFICATIONS NOT VALID WITH REUSE ATTRIBUTE DBDNAME=*name* DDNAME=*name*

説明: 示されたデータベース・データ・セットまたはエリア・データ・セットに対して NOTIFY.UIC または NOTIFY.REORG コマンドが発行されました。示されたデータベース・データ・セットまたはエリア・データ・セットが RECON データ・セット内に REUSE 属性で定義されているため、このコマンドは完了しませんでした。

NOTIFY.REORG が発行された場合、REORG レコードは書き込まれるが、イメージ・コピー・レコードは作成されません。

システムの処置: NOTIFY.UIC または NOTIFY.REORG コマンドは完了しません。NOTIFY REORG コマンドの場合、REORG レコードのみが作成され、IC レコードは作成されません。

プログラマーの応答: REUSE 属性を持ったデータベース・データ・セットまたはエリア・データ・セットに関しては、データベース・イメージ・コピー・ユーティリティまたはオンライン・イメージ・コピー・ユーティリティによって作成されたデータベース・イメージ・コピー・データ・セットのみを RECON データ・セットに記録できます。データベース・データ・セットまたはエリア・データ・セットがこの属性を持つ必要がなくなれば、CHANGE.DBDS コマンドを使用して属性を変更します。これにより、示されたデータベース・データ・セットまたはエリア・データ・セットのための標準外イメージ・コピー・データ・セットに関する情報を、RECON データ・セットに追加することができます。その後、このコマンドおよび処理されなかった他のコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0150I DATA SET IDENTIFIER IN DBDLIB AND RECON DO NOT MATCH DBDNAME=*name* DDNAME=*name*

説明: NOTIFY.REORG、CHANGE.DBDS、または INIT.DBDS コマンドにより、IMS DBD ライブラリー内のデータ・セット ID が RECON データ・セット内のデータ・セット ID と一致しないことが判明しました。コマンド発行の対象となったデータベース・データ・セットまたはエリア・データ・セットは、メッセージ内に示されています。

システムの処置: NOTIFY.REORG、CHANGE.DBDS、または INIT.DBDS コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

INIT.DBDS コマンドにより、RECON と一致しないすべての DBDS または AREA レコードが報告されます。

プログラマーの応答: 最新の DBDGEN により、DBDLIB 内のデータベースが再順序付けされました。データ・セット ID が変更されたため、すべてのイメージ・コピー・データ・セット、変更累積データ・セット、およびログに記録されたデータベース変更は、示されたデータベース・データ・セットまたはエリア・デー

タ・セットのリカバリーに使用するには無効です。

再順序付けの原因を変更してから、DBDGEN を再実行します。これを行わない場合、INIT.DBDS コマンドを使用して、RECON 内の示されたデータベース・データ・セットまたはエリア・データ・セットをすべて削除し、再初期設定してから、新しいイメージ・コピーを取得する必要があります。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP メッセージ DSP0151-DSP0200

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DSP0151I DATA BASE OR DATA SET ORGANIZATION HAS CHANGED

説明: NOTIFY.REORG または CHANGE.DBDS コマンドが処理されました。データベース・データ・セットのデータベース編成、またはそのデータ・セット編成が、RECON データ・セットに前に記録された内容に切り替えられました。

システムの処置: コマンドが NOTIFY.REORG であった場合、処理は継続します。コマンドが CHANGE.DBDS であった場合、処理は終了します。データベースの編成またはデータベース・データ・セットの編成が変更された場合、NOTIFY.REORG コマンドを使用してこの情報を RECON データ・セットに追加してから、失敗した CHANGE.DBDS コマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0152I IMAGE COPY NOTIFICATIONS NOT VALID FOR DATA BASE ORGANIZATION DBDNAME=name DDNAME=name

説明: イメージ・コピー・データ・セットを指定した NOTIFY.REORG コマンドが、対応するデータベースが HISAM データベースでないため処理されませんでした。このため、このイメージ・コピー・データ・セットは、データベース・リカバリー・ユーティリティで使えません。

システムの処置: NOTIFY.REORG コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: NOTIFY.REORG コマンドから、イメージ・コピー・データ・セットに関する情報を除去します。その後、このコマンドおよび処理されなかった他のコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0153A DEALLOCATION EXIT FAILED FOR DBDNAME=dbdname DDNAME=ddname ALLOCATION timestamp1 DEALLOCATION timestamp2

説明: *timestamp2* の割り振り解除を記録する要求が失敗しました。 *timestamp1* または *timestamp2* が印刷されない場合、タイム・スタンプが無効でした。

システムの処置: これ以降、データベースへの許可は禁止されます。メッセージ DSP0300I が発行され、検出された以下のエラーを示します。

- ALLOC レコードがない
- ALLOC はすでに割り振り解除された

これらのエラーについては、メッセージ DSP0300I を参照してください。

オペレーターの応答: RECON 内の情報を検討し、割り振り解除出口障害の発生理由を判別します。以下の処置の中の 1 つを行って、データベースを確実にリカバリーできるようにするための適切な処置を取ります。

- データベースまたはエリアのイメージ・コピーを取る。
- NOTIFY.ALLOC コマンドを発行して、割り振りレコードを RECON に記録する。

DSP0154I • DSP0157I

必要に応じて、データベースまたはエリアにアクセスできるように、CHANGE.DB AUTH コマンドを発行します。

この問題が DBRC 内の論理エラーと思われる場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

問題判別: 2、3、35、および RECON のリスト。

関連情報:

DSP0300I

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0154I SPECIFIED IMAGE RECORD IS USER IMAGE COPY

説明: DELETE.IC または CHANGE.IC コマンドが失敗しました。理由は、コマンドで指定されたイメージ・コピー・レコードが標準外イメージ・コピー・データ・セットであるためです。

システムの処置: DELETE.IC または CHANGE.IC コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: RECON データ・セット内の標準外イメージ・コピー・データ・セットのレコードが正しい場合、DELETE.UIC または CHANGE.UIC を使用して、そのレコードを削除または変更します。その後、処理されなかった他のコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0155I SPECIFIED IMAGE RECORD IS STANDARD IMAGE COPY

説明: DELETE.UIC または CHANGE.UIC コマンドが失敗しました。理由は、コマンドで指定されたイメージ・コピー・レコードが、イメージ・コピー・ユーティリティーまたはオンライン・イメージ・コピー・ユーティリティーによって作成されたイメージ・コピー・データ・セット (標準イメージ・コピー・データ・セット) であるためです。

システムの処置: DELETE.UIC または CHANGE.UIC コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: RECON データ・セット内の標準イメージ・コピー・データ・セットのレコードが正しい場合、DELETE.IC または CHANGE.IC を使用して、そのレコードを削除または変更します。その後、処理されなかった他のコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0156I NO ACTIVE ALLOCATIONS TO BE DELETED

説明: 次のいずれかの理由により、DELETE.ALLOC コマンドが失敗しました。

- コマンドで指定されたデータベース・データ・セットのアクティブな割り振りが、対応する LOGALL レコードで見つからなかった。
- RECON データ・セットで、対応する PRILOG レコードがクローズされていない。

システムの処置: DELETE.ALLOC コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: DELETE.ALLOC コマンドで削除対象の割り振りが正しく指定されているかどうかを判別します。そうでない場合、コマンドを訂正します。その後、このコマンドおよび処理されなかった他のコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0157I IMAGE COPY DATA SET NAME INCONSISTENT WITH RECON INFORMATION

説明: RECON データ・セット内の指定されたイメージ・コピーから、重複イメージ・コピー・データ・セットに関する情報を削除するため、DELETE.IC コマンドが発行されました。コマンドの ICDSN2 パラメーターで指定された名前が、RECON データ・セットの指定されたレコード内の重複イメージ・コピー・データ・セットの名前と一致しないため、コマンドは失敗しました。

システムの処置: DELETE.IC コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: DELETE.IC コマンドの ICDSN2 パラメーターで指定された名前を訂正します。その後、このコマンドおよび処理されなかった他のコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0158I MEMBER OF CHANGE
ACCUMULATION GROUP NOT
FOUND IN RECON DBDNAME=*name*
DDNAME=*name***

説明: DELETE.CAGRP コマンドが失敗しました。メッセージ内に示されたデータベース・データ・セットまたはエリア・データ・セットは削除対象の CAGRP のメンバーであったが、データベース・データ・セットまたはエリア・データ・セットのヘッダー・レコードが RECON データ・セット内に見つかりませんでした。この状態は、RECON データ・セット内に不整合があることを示します。

システムの処置: DELETE.CAGRP コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: RECON データ・セットのリストを入手して、不整合の位置および範囲を判別します。示されたデータベース・データ・セットまたはエリア・データ・セットが RECON データ・セットから削除されていた場合、CAGRP レコードの対応する項目も 2 進ゼロにリセットされていなければなりません。RECON データ・セット内の不整合を訂正します。その後、失敗したコマンドおよび処理されなかった他のコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0159I DATA BASE DATA SET NOT
DEFINED IN CHANGE
ACCUMULATION GROUP
DBDNAME=*name* DDNAME=*name***

説明: DELETE.CAGRP コマンドが失敗しました。メッセージに示されたデータベース・データ・セットまたはエリア・データ・セットのヘッダー・レコードは、DELETE.CAGRP コマンド発行の対象の変更累積グループのメンバーではないことを示しています。しかし、変更累積グループのレコードは、そのメンバーの中に、示されたデータベース・データ・セットまたはエリア・データをリストしています。この状態は、RECON データ・セット内に不整合があることを示します。

システムの処置: DELETE.CAGRP コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: RECON データ・セットのリストを使用して、不整合の箇所を識別します。RECON データ・セット内の不整合を訂正します。その後、この

コマンドおよび処理されなかった他のコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0160I *parameter* TIME-STAMP IS
INCONSISTENT WITH RECON
INFORMATION**

説明: CHANGE.PRILOG または CHANGE.SECLOG コマンドのパラメーターでログ・データ・セットの最後のボリュームのタイム・スタンプが指定されましたが、そのタイム・スタンプが RECON データ・セット内のものと等しくありません。パラメーターは、メッセージ・テキストで *parameter* によって示されています。

システムの処置: CHANGE.PRILOG または CHANGE.SECLOG コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: 示された *parameter* のタイム・スタンプを訂正します。その後、このコマンドおよび処理されなかった他のコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0161I VOLLIST AND RUNTIMES LISTS
DO NOT CONTAIN THE SAME
NUMBER OF ENTRIES**

説明: VOLLIST と RUNTIMES パラメーターが同じ数の項目を含んでいないため、CHANGE.PRILOG または CHANGE.SECLOG コマンドが失敗しました。

システムの処置: CHANGE.PRILOG または CHANGE.SECLOG コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: コマンドのパラメーターを訂正します。その後、このコマンドおよび処理されなかった他のコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0162I LOG DATA SET VOLUME
INFORMATION CANNOT BE
CHANGED**

説明: ログ・データ・セットがクローズされていないため、RECON データ・セット内のログ・データ・セットに関する情報を変更するための CHANGE.PRILOG または CHANGE.SECLOG コマンドが失敗しました。VOLLIST および RUNTIMES パラメーターは、停止時刻がゼロ以外 (クローズされていることを示す) のログ・データ・セットの場合のみ指定できます。

システムの処置: CHANGE.PRILOG または CHANGE.SECLOG コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: ログ・データ・セットのクローズが RECON データ・セットに記録されるまで待ちます。その後、失敗したコマンドおよび処理されなかった他のコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0164I ONLY ONE CHECKPOINT COUNT
VALUE CAN BE SPECIFIED FOR A
TRACKING LOG RECORD.**

説明: チェックポイント・カウント値を変更するために CHANGE コマンドが発行されましたが、複数の値が指定されました。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: チェックポイント・カウント値を 1 つのみ指定して、コマンドを再発行します。

モジュール: DSPURM35、DSPURM40

**DSP0165I DATA BASE RECORD NOT FOUND
IN RECON DBD=*database name***

説明: 存在しないデータベース・レコードに対して、LIST.DB または LIST.HISTORY コマンドが発行されました。メッセージ・テキストで *database name* によって示されているデータベースが HALDB の区画である場合、RECON の不整合が検出されました。

システムの処置: HALDB をリスト中にエラーが発生した場合、DBRC の処理は終了します。それ以外の場合、処理は継続します。

プログラマーの応答: HALDB のリスト中にこのエラーが発生した場合は、IBM ソフトウェア・サポートに

連絡して、支援を依頼してください。それ以外の場合、コマンドでデータベース名のつづりの誤りがなかったかどうかを判別します。失敗したコマンド、および処理されなかった他のコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0166I BACKOUT RECORD NOT FOUND
IN RECON SSID=*subsystem name***

または

**SUBSYSTEM RECORD NOT FOUND IN RECON
SSID=*subsystem name***

または

**SUBSYSTEM RECORD WAS FOUND IN RECON
SSID=*subsystem name***

説明: 存在しないサブシステム名に対して、CHANGE、DELETE、あるいは LIST のバックアウト (BKOUT) またはサブシステム (SUBSYS) コマンドが発行されました。既存のサブシステム名に対して、NOTIFY.BKOUT コマンドが発行された可能性もあります。

システムの処置: 処理は終了します。RECON データ・セットは更新されません。後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: つづりの誤りがなかったかどうかを判別します。その後、失敗したコマンド、および処理されなかった他のコマンドを発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0167I IRLMID *irlmid* NOT FOUND IN ANY
SUBSYSTEM RECORDS**

説明: CHANGE.SUBSYS コマンドの処理中に、指定された IRLMID がどのサブシステム・レコードにも見つからないことが判明しました。

メッセージ・テキスト内の *irlmid* は IRLMID を識別します。

システムの処置: 処理は終了します。RECON データ・セットは更新されません。

プログラマーの応答: IRLMID につづりの誤りがない

かどうか、または指定された IRLMID に未解決のサブシステム・レコードがないかどうかを判別します。IRLMID のつづりの誤りがあった場合、つづりを訂正し、コマンドを再実行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0168I BATCH BACKOUT IS NEEDED FOR SUBSYSTEM SSID=*ssid*

説明: CHANGE.SUBSYS ABNORMAL コマンドの結果、RECON 内のサブシステム・レコードに異常終了のマークが付けられました。メッセージは、次のいずれかの理由により発行されました。

1. サブシステムがデータベースを更新したが、障害のあるサブシステムが原因で一部のデータベースをバックアウトする必要があった。
2. サブシステムは IRLM を使用するバッチ・サブシステムであったが、データベースを更新しなかった。

バックアウト・ユーティリティーを実行して、IRLM ロックをクリーンアップする必要があります。

システムの処置: コマンドは成功します。

プログラマーの応答: IMS バックアウト・ユーティリティーを実行します。

DSP0169I BATCH BACKOUT IS NOT NEEDED FOR SUBSYSTEM SSID=*subsystem name*

説明: CHANGE.SUBSYS ABNORMAL の実行中に、RECON 内のサブシステム・レコードが削除されました。バッチ・バックアウトを実行する必要はありません。サブシステムがデータベースを更新しなかったため、サブシステム・レコードは削除されました。サブシステムによって許可されたすべてのデータベースは、許可を取り消されました。

システムの処置: コマンドは成功します。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

問題判別: ありません。

DSP0170I NO DATA BASE RECORDS FOUND IN RECON

説明: LIST.DB コマンドが発行されたが、RECON データ・セット内にデータベース・レコードが存在しません。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0171I ABNORMAL AND (STARTRCV|ENDRECOV) SHOULD NOT BE SPECIFIED TOGETHER

説明: CHANGE.SUBSYS コマンドの処理中に、ABNORMAL パラメーターが STARTRCV または ENDRECOV パラメーターとともに指定されていることが判明しました。この状態は不整合です。

システムの処置: 処理は終了します。RECON データ・セットは更新されません。

ユーザーの処置: 正しいパラメーターを判別し、コマンドを再実行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0172I NO SUBSYSTEM RECORDS FOUND IN RECON

説明: LIST.SUBSYS コマンドが発行されたが、RECON データ・セット内にサブシステム・レコードが存在しません。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0174I CORRESPONDING PRILOG RECORD NOT FOUND

説明: LIST.HISTORY コマンドの処理中に、RECON データ・セット内で、対応する PRILOG レコードがない ALLOC レコードが見つかりました。これは、RECON データ・セット内に不整合があることを示します。対応する PRILOG レコードがない ALLOC レコードは、このメッセージの前にリストされます。

システムの処置: LIST 要求の処理は継続します。

プログラマーの応答: RECON データ・セット内の不整合を訂正します。

DSP0175I • DSP0180I

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0175I UNAUTHORIZATION PROCESSING WAS UNSUCCESSFUL DBD=*dbdname* SSIDNAME=*subsystem name* RC=*return code*

説明: サブシステムがデータベースの許可を取り消すために DBRC を呼び出したが、DBRC は、正常な許可取り消しを妨害する問題を検出しました。RC はエラー戻りコードを示します。戻りコードの意味については、DBRC 要求戻りコードを参照してください。

RC=24 の場合、DBRC は新しい保留許可状態を計算しようとしたが、有効な状態が取得されませんでした。サブシステムの許可は取り消されたが、RECON データ・セット内でそのデータベースの使用が他のサブシステムに許可されないように、データベース・レコードにマークが付けられます。この問題は、DBRC または IMS 内のプログラム・エラーです。

システムの処置: 不成功を示す戻りコードが呼び出し側に渡されます。

ユーザーの処置: 許可取り消し処理に関する情報を収集し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。RC=24 の場合、SSID リストに示された全サブシステムがデータベースの許可を取り消された後で、データベースを再び許可することができます。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

モジュール: DSPSDBUA

関連資料:

 DBRC 要求戻りコード

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0177I NO *type* RECORDS DEFINED IN RECON

説明: LIST コマンドの結果、このメッセージ内に *type* で示されたタイプのレコードが RECON 内で見つかりませんでした。

システムの処置: 処理は続行されます。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0178I CORRESPONDING LOGALL NOT FOUND

説明: LIST.LOG または LIST.RECON コマンドの処理中、RECON データ・セット内で、対応する LOGALL レコードを持たない PRILOG レコードが見つかりました。この問題は、RECON データ・セット内に不整合があることを示します。対応する LOGALL レコードを持たない PRILOG レコードは、このメッセージの前にリストされます。

システムの処置: LIST 要求の処理は継続します。

ユーザーの処置: RECON データ・セット内の不整合を訂正します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0179I EXTRANEOUS *record-type* RECORD FOUND IN RECON

説明: メッセージの *record-type* で示されるレコード (LOGALL または SECLOG) が RECON データ・セット内で見つかったが、対応する PRILOG レコードが見つかりませんでした。この状態は、RECON データ・セット内に不整合があることを示します。このメッセージの後に、この無関係なレコードがリストされます。

システムの処置: LIST 要求の処理は継続します。

ユーザーの処置: RECON データ・セット内の不整合を訂正します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0180I NUMBER OF RECORDS LISTED IS *nnnnn*

説明: このメッセージは、DBRC LIST コマンドによって表示されたレコードの総数を示します。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

DSP0181I NO type RECORD FOUND

説明: LIST.HISTORY コマンドの処理中に、リストしようとしているデータベース・データ・セットまたは DEDB エリアについて、示された *type* のレコードが見つかりませんでした。有効なレコード・タイプは以下のとおりです。

使用可能な IC
 使用可能な CA
 IC
 CA
 ALLOC
 MRGND
 REORG
 RECOV

システムの処置: ありません。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

DSP0182I EXTRANEIOUS SECSLDS RECORD FOUND SSID=*ssid* TIME= *timestamp*

説明: LIST.LOG コマンドの処理中に、示された SSID および開始時刻を持つ 2 次システム・ログ・データ・セット (SLDS) レコードが見つかったが、対応する 1 次 SLDS レコードがありません。この問題の原因は、RECON データ・セット内の不整合です。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: RECON データ・セット内の不整合を訂正します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0183I NO record-type RECORD FOUND DBDNAME=*dbdname* DDNAME=*ddname*

説明: DBRC 処理は、メッセージ・テキストで *record-type* によって示されているこのデータベース・データ・セットのレコード・タイプを見つけられなかったため、失敗しました。

システムの処置: DBRC 処理は終了します。

プログラマーの応答: IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を受けてください。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0184I USE OF THE INPUT LOG BY THIS RELEASE IS UNSUPPORTED

説明: この IMS リリースでは、入力ログを使用できません。

システムの処置: 処理は終了します。

プログラマーの応答: この入力ログを、作成時の IMS リリースを使用して処理します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

モジュール: DSPARC00、DSPARC10、DSPLRC00、DSPLRC10、DSPUBK00

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0185I RECON RECORD LENGTH IS ZERO record key

説明: RECON データ・セットのレコードを追加または変更する試みが、渡されたレコード・イメージの長さがゼロのため失敗しました。

このメッセージの後に、フォーマットされたレコード・キーをリストする DSP0020I が続きます。

システムの処置: レコードは、追加も変更もされません。データベース・リカバリー管理ユーティリティの処理は終了します。

プログラマーの応答: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

モジュール: DSPARC00、DSPARC10、DSPLRC00、DSPLRC10、DSPUBK00

関連情報:

146 ページの『DSP0020I』

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0186I UNRECOGNIZABLE RECON RECORD TYPE record-key

説明: RECON データ・セット内で、認識できないレコード・タイプを含むレコードが見つかりました。このレコードのキーが、メッセージに示されます。

システムの処置: コマンドの処理は続行します。

ユーザーの処置: 認識できないレコードを調べます。アクセス方式サービス・プログラムの PRINT コマンドを使用して、問題のレコードの 16 進数表示のリストを入手できます。このリストを使用して、訂正が必要なエラー

ー・キーを持つ真の RECON レコードであるか、またはまったく認識できないレコード・タイプであるかを判別します。認識できない場合、このレコードを RECON データ・セットから削除する必要があります。アクセス方式サービス・プログラムの REPRO コマンドを使用して、認識できないレコードを除く、RECON データ・セット内のすべてのレコードをコピーできます。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0187I CAGRP= *grpname* AND ALL ASSOCIATED CA RECORDS ARE DELETED

説明: *grpname* で示されている変更累積 (CA) グループのすべてのメンバー、空の CAGRP レコード、および関連するすべての CA 実行レコードが削除されました。

システムの処置: ありません。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

DSP0188I BACKOUT RECORD COMMAND FAILED- REASON *nbr*

説明: 次のいずれかの理由で、NOTIFY、CHANGE、または DELETE バックアウト (BKOUT) レコードのコマンドが失敗しました (ここで、*nbr* は理由コード)。

コード 意味

- 1 リカバリー単位 (UOR) パラメーターで、無効文字が検出されました。文字は、0 から 9 または A から F の範囲の 16 進数でなければなりません。
- 2 バックアウト・レコードに新規の UOR が追加されるときに、DBD パラメーターも BKO パラメーターも指定されませんでした。少なくとも 1 つは必要です。
- 3 DBD と BKO の両方のパラメーターに同じデータベース名が指定されました。データベースがバックアウトを必要とし、同時に バックアウト済みであることはありえません。
- 4 CHANGE.BKOUT コマンドのオプション・パラメーターが 1 つも指定されませんでした。コマンドに何らかの処置を指図する必要があります。
- 5 DELETE パラメーターが指定されたが、UOR および UORTIME パラメーターで指定された UOR が、SSID で指定されたバックアウト・レコードに存在していません。

6 DELETE パラメーターにリストされたデータベースのうちの少なくとも 1 つが、関連するバックアウト・レコードの、指定された UOR 項目に存在しません。

7 バックアウト処理が完了している UOR に対して、データベースの状況を追加または変更して、バックアウトを必要としているデータベースの状況にする試みが行われました。バックアウト済み (BKO パラメーター) および削除済み (DELETE パラメーター) とマークされたデータベースのみがこの UOR に存在できます。このエラー状態は、保全性の目的で含まれていません。ただし、正常な変更の場合、UOR に対する有効な変更は、現行値への PSB のリセットのように、CHANGE.BKOUT コマンドを使用して実行されます。その後、失敗したコマンドを再発行します。DBRC は、追加または変更されたデータベースをバックアウトが必要なものとして受け入れます。

8 NOTIFY.BKOUT コマンドを使用して、DBD または BKO パラメーターにリストされたデータベースのいずれかに対して許可されているサブシステム (SSID) のバックアウト・レコードを作成することはできません。このエラーは、つづりを誤った SSID またはデータベース名が原因であることがあります。

システムの処置: 処理は終了します。RECON データ・セットは更新されず、また、後続のコマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 必要に応じてパラメーターを訂正、除去、または組み込みます。その後、バックアウト・コマンド、および処理されなかった他のコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0189I GENJCL COMMAND REJECTED FOR USER-RECOVERABLE DATABASES DBD= *database name* AREA=*area name*

説明: DBRC GENJCL コマンド処理は、GENJCL.RECOV コマンドがユーザー・リカバリー可能データベースで指定されていることを検出しました。

システムの処置: このコマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

モジュール: DSPJCMIAI、DSPJCRCV

DSP0190I GENERATED UTILITY JCL:

説明: この通知メッセージに続いて、GENJCL コマンドによって生成されたジョブ制御言語がリストされます。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0191E INVALID GENJCLIC STATEMENT SYNTAX, REASON=*nn*

説明: GENJCLIC コマンドの制御ステートメントは、次のいずれかの理由で無効です。

理由コード *nn*

意味

01 VOLLIST2、VOLLIST3、または VOLLIST4 がパラメーター SMSONLC または SMSOFFLC と一緒に指定されている。

02 SMSONLC または SMSOFFLC に対して無効な数の出力コピーが指定されている。

03 以下の 1 つ以上のパラメーターが指定されているが、HLQ パラメーターが指定されていない。

DSNSUF
NODSNSUF
STORCLAS
MGMTCLAS

HLQ パラメーターも指定しないと、これらのパラメーターを指定することはできません。

04 以下の 1 つ以上のパラメーターが指定されているが、SMSONLC パラメーターも SMSOFFLC パラメーターも指定されていない。

HLQ
DSNSUF
NODSNSUF
STORCLAS
MGMTCLAS

SMSONLC パラメーターまたは SMSOFFLC パラメーターのいずれかも指定しないと、これらのパラメーターを指定することはできません。

05 生成された出力データ・セット名が 44 文字を超えているか、無効な修飾子を含んでいる。

06 パラメーター STORCLAS またはパラメーター MGMTCLAS のいずれかが VOLLIST と一緒に指

定されている。これらのパラメーターを VOLLIST と一緒に指定することはできません。

07 SETPATCH パラメーターに構文エラーが含まれている。

08 パラメーター SMSONLC、SMSOFFLC、SMSCIC、または SMSNOCIC を指定する場合のみ、SETPATCH パラメーターを指定できる。

システムの処置: 制御ステートメント処理は終了します。ユーティリティの戻りコードは 8 です。

システム・プログラマーの応答: 示されている問題を訂正して、再び GENJCLIC コマンドを発行し、データベース・イメージ・コピー 2 ユーティリティの入力を作成します。

モジュール: DSPJCMG

DSP0192I SAMEDS KEYWORD NOT VALID

説明: GENJCLIC コマンドのサブパラメーターとして SAMEDS キーワードが指定されましたが、以下のいずれかの問題が起っています。

- ONEJOB キーワードが省略されました。
- GROUP キーワードで指定されたグループのメンバー数が、255 を超えています。

システムの処置: コマンド処理は終了し、後続のコマンドは無視されます。

ユーザーの処置: SAMEDS キーワードを指定せずに、コマンドを再入力します。

問題判別: 2、3

モジュール: DSPJCMAI、DSPJCMG

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0193I *parameter* PARAMETER IS INCONSISTENT WITH REUSE ATTRIBUTE

説明: GENJCLIC コマンドまたは GENJCL.OIC コマンドで指定されたデータベース・データ・セット、あるいは GENJCL.CA コマンドで指定された変更累積グループは、RECON データ・セット内で REUSE 属性によって識別されます。メッセージに示された *parameter* は、RECON データ・セット内で NOREUSE 属性により識別されているデータベース・データ・セットまたは変更累積グループの場合のみ指定できます。

システムの処置: コマンド (GENJCLIC、GENJCL.OIC、または GENJCL.CA) は失敗し、後続のコマンドは処理されません。

DSP0194I • DSP0199I

ユーザーの処置: 示されたパラメーターを除去し、障害のあったコマンドを再発行します。処理されなかった他のコマンドも再発行できます。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0194I OPERATION NOT ALLOWED FOR ILDS OR INDEX DATABASE DATA SETS DBD=*db name* DDN=*dd name*

説明: 要求された操作、コマンド、またはユーティリティーが、HALDB の ILDS または索引データ・セットに対する実行を試みています。これらのデータ・セットはリカバリー可能でないため、この操作は許可されません。複数の DBDS に関連する操作の場合、DBD および DDN によって問題の DBDS が示されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

db name

問題のデータベース・データ・セットを含む HALDB の名前を示します。

dd name

問題が起きているデータ・セットの DD 名を示します。

システムの処置: このユーティリティーまたはコマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: 操作で正しく DBDS を指定したかどうかを確認します。必要な変更を行ってから、この操作を再実行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0195I *keyword* KEYWORD IS NOT ALLOWED FOR THIS DL/I PARTITIONED-DB RECORD DBDNAME=*db name*

説明: *keyword* で示されたキーワードは、HALDB に関連するレコードには適用されないか、または許可されません。複数のデータベースに関連する操作の場合、*db name* によって問題のデータベースが示されます。

システムの処置: コマンドが特定のデータベースを対象にしている場合、コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。複数のデータベースに関連するコマン

ドの場合、結果は警告 (RC=4) になります。後続のコマンドは処理されます。

プログラマーの応答: コマンドで正しくレコードを指定したかどうかを確認します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0197I ONLINE REORG NOTIFICATION NOT VALID FOR DATABASE ORGANIZATION

説明: HALDB OLR に関して RECON を更新するコマンドが、正しいタイプではないデータベースに対して発行されました。HALDB OLR は HALDB PHDAM または PHIDAM データベースにのみ有効です。

システムの処置: 処理は終了します。コマンドは失敗します。RECON の内容を検討して、適切なコマンドを再発行します。

プログラマーの応答: さらに支援が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0198I RECOVERY NOT ALLOWED DURING ONLINE REORGANIZATION

説明: HALDB OLR がアクティブなとき、リカバリーは許可されません。

システムの処置: 処理は終了します。コマンドは失敗します。RECON の内容を検討して、適切なコマンドを再発行します。

プログラマーの応答: さらに支援が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0199I IMAGE COPY RUNTIME COINCIDES WITH ONLINE REORG EXECUTION

説明: イメージ・コピーを追加するために NOTIFY コマンドが発行されました。しかし、HALDB オンライン

再編成 (OLR) がアクティブでした。

システムの処置: 処理は終了します。コマンドは失敗します。RECON の内容を検討します。

プログラマーの応答: さらに支援が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP メッセージ DSP0201 - DSP0250

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DSP0201I THE FOLLOWING REQUIRED PARAMETERS ARE MISSING:

*parameter1 parameter2 parameter3
parameter4 parameter5*

説明: コマンドに必要な、示されたパラメーター (1 つ以上) が見つかりませんでした。このメッセージの一般的な原因は、コマンドの継続が不適切なことです。

システムの処置: このコマンドは処理されません。

ユーザーの処置: コマンドに必要なすべてのパラメーターを指定し、正しい継続方法を使用して、コマンドを再発行します。

問題判別: 2、3

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0202I INVALID PARAMETER: *string*

説明: パラメーターが予想される場所のコマンドに、*string* で示された文字ストリングが見つかりました。文字ストリングは、処理中のコマンドに有効なパラメーターのどれとも一致しません。メッセージは、検出された入力の最初の 20 文字を示し、それらの文字をパラメーターとして解釈しています。

示された無効なパラメーターは、他のパラメーターによって暗黙指定された場合があり、コマンドの一部として入力されたものでない場合もあります。例えば、グループに対するコマンドの入力は、DDN(...) または AREA(...) パラメーターのいずれかを暗黙指定し、その結果このコマンドには無効になることもあります。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

ユーザーの処置: パラメーターにあった誤りを訂正後、コマンドを再発行します。

問題判別: 2、3

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

CONDITION CODE *nn*

説明: コマンドが、示された条件コードで完了しました。

システムの処置: ありません。

ユーザーの処置: 条件コードが 0 でない場合、他のメッセージからエラーの原因を判別します。

DSP0204I INVALID VALUE FOR PARAMETER *parameter*

説明: パラメーターの要件を満たしていないコマンド・パラメーターまたは EXEC カード・パラメーターの値が見つかりました。メッセージ・テキストの *parameter* は、このパラメーターを示しています。エラーとして、次のものが考えられます。

- 数値が、許可された限度内にない。
- 値に非数字が含まれている。
- 値の前の左括弧が欠落している。
- 文字ストリングが無効な長さを持つか、または無効な文字を含んでいる。

システムの処置: このコマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

オペレーターの応答: パラメーター値を訂正してから、コマンドを再発行します。

問題判別: 2、3

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0205I PARENTHESIS ERROR AFTER KEYWORD *keyword*

説明: これは、コマンド内での括弧に次のような問題があります。

- キーワード値を区切る括弧が多過ぎる。
- 所定の位置以外に括弧がある。
- オプション・パラメーターまたは必須パラメーターの前に括弧がある (欠落の可能性はある)。

エラーは、示されたキーワードの後で検出されました。

DSP0203I COMMAND COMPLETED WITH

DSP0206I • DSP0211I

システムの処置: このコマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

ユーザーの処置: エラーを訂正し、コマンドを再発行してください。処理されなかった他のコマンドを再発行できます。

問題判別: 2、3

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0206I INVALID COMMAND NAME *string*

説明: コマンドとして *verb.modifier* が予想される場所に、メッセージ・テキストで *string* として示された文字ストリングが見つかりました。文字ストリングは、有効なコマンド名のどれとも一致しません。メッセージは、検出された入力最初の 20 文字を示し、それらの文字をパラメーターとして解釈しています。

システムの処置: このコマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

ユーザーの処置: コマンド名を訂正し、コマンドを再発行します。処理されなかった他のコマンドも再発行できます。

問題判別: 2、3

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0207I INVALID APOSTROPHE AFTER KEYWORD *keyword*

説明: コマンド内の所定の位置以外で特殊文字のアポストロフィが見つかりました。エラーは、示されたキーワードの後で発生しました。

システムの処置: このコマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 無効文字を訂正してから、コマンドを再発行します。処理されなかった他のコマンドを再発行できます。

問題判別: 2、3

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0208I END OF COMMENT DELIMITER MISSING - ONE IS ASSUMED

説明: コマンド行でコメントの終わりを示す */ 区切り文字がコマンドの終わりで見つからず、行を継続するための継続区切り文字も指定されていません。

システムの処置: 入力行の最後に */ 区切り文字が想定

されます。コマンドの処理は継続します。

ユーザーの処置: 想定された */ 区切り文字によって他の問題が発生した場合、コマンドを訂正します。

問題判別: 2、3

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0209I PROCESSING TERMINATED WITH CONDITION CODE = *nn*

説明: 先行するエラー・メッセージで記述されたエラーのため、コマンドの処理が終了しました。*nn* フィールドは、検出された最高の条件コードを示します。

システムの処置: 処理は終了します。後続のコマンドは無視されます。

ユーザーの処置: エラーを訂正してください。失敗したコマンド、および処理されなかった後続のコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0210I CLOSING QUOTE DELIMITER MISSING - ONE IS ASSUMED

説明: 引用符で始まる文字ストリングの終わりを示す引用符区切り文字がコマンド入力行の終わりまで見つからず、行を継続するための負符号の継続区切り文字も指定されていません。

システムの処置: 入力行の最後にクローズ引用符区切り文字が想定されます。コマンドの処理は継続します。

ユーザーの処置: 想定された引用符区切り文字によって他の問題が発生した場合、コマンドを訂正します。

問題判別: 2、3

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0211I COMMAND PROCESSING COMPLETE. HIGHEST CONDITION CODE=*nn*

説明: SYSIN 入力データ・セット内のすべてのリカバリ管理ユーティリティー・コマンドが処理されました。*nn* フィールドは、検出された最大の条件コードを示します。

システムの処置: ありません。

ユーザーの処置: 条件コードが 0 でない場合、処理が

成功したかどうかは他のメッセージから判別します。

問題判別: 2、3、8

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0212I STRING BEGINNING *string* IS TOO LONG

説明: 処理中のコマンドに指定された文字ストリングが 255 文字を超えています。メッセージは、エラーのストリングの最初の 20 文字までを示しています。このエラーは、クローズ引用符区切り文字の欠落が原因と考えられます。

システムの処置: このコマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

ユーザーの処置: エラーのある文字ストリングを訂正してから、コマンドを再発行します。

問題判別: 2、3

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0213I COMMAND CONTINUATION ERROR

説明: コマンドの最後のレコードに、コマンドが継続されていることを示す継続区切り文字が含まれているが、継続レコードが見つかりません。

システムの処置: このコマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 継続区切り文字を除去するか、または継続レコードを追加します。失敗したコマンド、および処理されなかった他のコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0214I NO COMMANDS IN INPUT FILE

説明: SYSIN 入力ファイル内にコマンドが見つかりませんでした。

システムの処置: 処理は実行されません。

ユーザーの処置: SYSIN 入力を訂正し、ジョブを再実行します。

問題判別: 2、3

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0215I NEITHER *parameter1* NOR *parameter2* PARAMETERS SPECIFIED

説明: このコマンドには、*parameter1* パラメーターまたは *parameter2* パラメーターが必要ですが、どちらも指定されていません。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

ユーザーの処置: コマンドを訂正し、再発行します。処理されなかった他のコマンドも再発行できます。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0216I BOTH *parameter1* AND *parameter2* PARAMETERS SPECIFIED

説明: 処理中のコマンドでは、*parameter1* と *parameter2* パラメーターは互いに排他的なパラメーターであるのに、両方とも指定されています。

システムの処置: コマンドは処理されます。

ユーザーの処置: コマンドの処理結果を調べます。相互に排他的なパラメーターがコマンドで指定された場合、最後に指定された方のパラメーターが使用されます。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0217I THE FOLLOWING SYSIN RECORDS HAVE BEEN SKIPPED:

説明: 先行するエラー・メッセージで記述されたエラーのため、SYSIN 入力の残りが処理されませんでした。このメッセージの後に、処理されなかったレコードがリストされます。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0218I END OF SKIPPED SYSIN RECORDS

説明: このメッセージは、前のエラーのために処理されなかった SYSIN レコードのリストの終わりを示します。

システムの処置: 処理は完了します。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0219I CLOSING PARENTHESES ASSUMED

説明: パラメーター値の終わりを区切る 1 つ以上の括弧が、コマンド入力行の終わりまでに見つかりませんでした。行を継続するための負符号の継続区切り文字も指定されていません。

システムの処置: 入力行の最後に右括弧が想定されません。コマンドの処理は継続します。

ユーザーの処置: 想定された右括弧によりコマンドの処理で他の問題が発生した場合、コマンドを訂正します。

問題判別: 2、3

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0220I COMMAND COMPLETION TIME
time

説明: 処理されたばかりの DBRC コマンドが、示された時刻に完了しました。

システムの処置: ありません。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

問題判別: ありません。

DSP0221I DSN PARAMETER MUST BE SPECIFIED WITH DDN FOR A DL1 DBDS
DBD=dbd name DDN=ddnname

説明: INIT.DBDS DBD(*dbd*) DDN(*ddn*) コマンドが、DSN パラメーターなしで発行されました。DDN パラメーターがある場合は、DSN パラメーターも必要です。

システムの処置: コマンドが失敗しました。

ユーザーの処置: コマンド構文を調べます。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0222I SPECIFIED PARAMETERS CONFLICT

説明: DBRC コマンド処理で、以下のいずれかのエラーが見つかりました。

- CHANGE.DB コマンドが、ALL キーワードおよび以下の 1 つ以上のキーワードと一緒に指定された。
 - PINIT または NOPINIT
 - REORGI または NOREORGI
 - NONRECOV、USERRCOV、または RECOVABL
 - ICREQ または NOICREQ
 - PARTSEL または HIKEY
 - DBQUI、DBQUIH、NOBQUI、または NOBQUIH
 - OLRRGON または OLRGGOFF
 - OLRIMSID() または NOOWNER
 - OLRDBDS(A) または OLRDBDS(M)
 - OLRBytes()
 - OLRSegs()
 - OLRRoots()
 - OLRREL または OLRNOREL
 - FULLSEG または NOFULLSEG
 - ALTER または NOALTER
 - OSAM8G または NOOSAM8G
- CHANGE.DB コマンドが、GSGNAME および NOTCOVER キーワードを指定して発行された。これらのキーワードは互いに排他的です。
- CHANGE.DB コマンドが、OLRCAP および OSAM8G キーワードを指定して発行された。これらのキーワードは互いに排他的です。
- CHANGE.DB コマンドが、OSAM8G キーワードを使用して発行されたが、データベースはオンラインで再編成対応である。これは、許されません。
- CHANGE.DB コマンドで、UNAUTH キーワードと、DBD、AREA、または ACTIVE|TRACKING 以外のキーワードが発行された。
- INIT.DB コマンドで、NOICREQ キーワードが指定されたが、NONRECOV または USERRCOV キーワードが発行されなかった。
- INIT.DB コマンドで、USERRCOV キーワードが指定されたが、TYPEFP が発行されなかった。
- INIT.DB コマンドで、OLRCAP または OLRNOCAP キーワードが指定されたが、TYPHALDB が発行されなかった。
- INIT.DB コマンドで、OSAM8G または NOOSAM8G キーワードが指定されたが、TYPHALDB が発行されなかった。
- INIT.DBDS または CHANGE.DBDS コマンドが、NOPREO と PRELOAD の両方のキーワードを指定して発行された。最初に VSO エリアがオープンされている場合は、これをプリロードすることのみ可能です。

- LIST.DB コマンドが、CHKAUTH キーワードは使用したが、必須の DBD キーワードを使用せずに発行された。
- LIST.DBDS DBD (*dbd*) DDN(*ddn*) コマンドが次のように指定されている。
 - DDN キーワードが指定されたが、DBDS は DEDB である。
 - AREA キーワードが指定されたが、DBDS は DL/I DBDS である。
- NOTIFY.ALLOC コマンドが、QUIESCE と STARTIME の両方のキーワードを指定して発行された。QUIESCE は、DEALTIME を指定した場合のみ有効です。
- CHANGE.DB コマンドでは、OLRBYTES、OLRSEGS、および OLRROOTS は、ALL、UNAUTH、OLRCAP、および OLRNOCAP と一緒に指定できない。

システムの処置: LIST.DBD コマンドの場合、このメッセージを出力して、処理は続きます。その他のコマンドの場合、処理は失敗し、後続のコマンドは処理されません。

ユーザーの処置: LIST.DBD コマンドの場合、処置は必要ありません。その他のコマンドの場合、パラメーターを訂正してからコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

モジュール: DSPURM10、 DSPURM20、 DSPURM35、 DSPURM40、 DSPURM45、 DSPURPSS、 DSPURS00、 DSPUR10、 DSPURT10、 DSPURX00

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0223I NO PARAMETERS SPECIFIED

説明: CHANGE.RECON または REPAIR.RECON コマンドが、パラメーターの指定なしで発行されました。

システムの処置: 処理は終了し、戻りコード 12 が示されます。

ユーザーの処置: コマンドを訂正してから、再発行します。

問題判別: 2、3、8

モジュール: DSPURS10、 DSPURR00

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0224I SPECIFIED PARAMETERS ARE NOT ALLOWED

説明: コマンド内に指定されたパラメーターが許可されていません。このエラーの原因として、以下の状態が考えられます。

- CHANGE.DB コマンドで、非 HALDB に対して PINIT または NOPINIT キーワードが指定された。
- DL/I データベースで高速機能 DEDB 用のパラメーターが指定されたか、または高速機能 DEDB で DL/I データベース用のパラメーターが指定された。
- CHANGE.DBDS コマンドが、GSGNAME および NOTCOVER パラメーターを指定して発行された。これらのパラメーターは互いに排他的です。
- CHANGE.DBDS コマンドが、DDN パラメーターに加えて GSGNAME、NOTCOVER、RCVTRACK、DBTRACK の各パラメーターの内の 1 つ以上を指定して発行された。これらのパラメーターは、DDN パラメーターと一緒に指定できません。
- CHANGE.DBDS PRELOAD|NOPREL コマンドが、非 VSO エリアに対して発行された。
- 全機能 DBDS に対して、CHANGE.DBDS または INIT.DBDS コマンドが、VSO|NOVSO、PREOPEN|NOPREO、または PRELOAD|NOPREL を指定して発行された。これらのパラメーターは、高速機能 DEDB エリアにのみ適用できます。
- CHANGE.DBDS コマンドが、CFSTR1、CFSTR2、LKASID の各パラメーターの内の 1 つ以上を指定して発行された。これらのパラメーターは、共用レベル 0 または 1 の DEDB には指定できません。
- GENJCL.IC コマンドが、NOCIC または CIC パラメーター、および COPIES(3) または COPIES(4) を指定して発行されました。COPIES(3) または COPIES(4) は、SMSNOCIC または SMSCIC が指定されている場合のみ指定できます。
- 非区画データベースに対しては、PINIT または NOPINIT パラメーターを指定できません。
- 区画選択ルーチンを変更すると区画を初期設定する必要があるため、NOPINIT を HIKEY と共に指定することはできません。
- 以下のいずれかのパラメーターが指定されましたが、ターゲット・データベースが HALDB マスター・データベースではありませんでした。
 - HIKEY または PARTSEL
 - OLRCAP または OLRNOCAP
 - OSAM8G または NOOSAM8G
- ALTER パラメーターまたは NOALTER パラメーターは、HALDB および DEDB とのみ指定できます。
- IMSPLEX () または NOPLEX が指定された場合、ACCESS(SERIAL) または ACCESS(PARALLEL) コマンドは許可されません。

DSP0225I • DSP0228I

- OLRBYTES、OLRSEGS、および OLRROOTS は、OLR (OLRNOCAP) を実行できない区画データベースには無効である。
- CHANGE.DB コマンドに対して、PINIT および DBQUI を指定できない。
- CHANGE.DB コマンドの場合、高速機能 DEDB に対してのみ RANDOMZR()|NORAND を指定できます。

システムの処置: このコマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: 指定されたパラメーターを訂正してから、コマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

モジュール: DSPCHKWD、DSPJCMG、DSPURM10、DSPURM60、DSPURS00、DSPURT20、DSPURM90

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0225I SUBSYSTEM RECORD NOT MARKED AS RECOVERY PROCESSING STARTED SSID=*ssid*

説明: RECON データ・セットで、示されたサブシステム・レコード内の「リカバリー処理開始済み」フラグがオンでないため、コマンドが失敗しました。

システムの処置: 処理は終了します。RECON データ・セットは更新されません。

ユーザーの処置: DBRC CHANGE.SUBSYS STARTRCV コマンドを発行して、サブシステム・レコードに「リカバリー処理開始済み」のマークを付けます。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0226I SPECIFIED DBDS IS NOT FOR FAST PATH DBD=*dbd name* AREA=*area name*

説明: DBRC コマンド処理中に、CHANGE.ADS、DELETE.ADS、または INIT.ADS コマンドが発行されたが、DBDS は高速機能 DEDB ではありません。

システムの処置: このコマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: 有効な高速機能 DEDB がコマンドで指定されているかどうかを判別してから、このコマ

ンドおよび処理されなかった他のコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0227I USE THE CHANGE OR DELETE BKOUT COMMAND INSTEAD REFERENCING DBDNAME=.....

説明: 少なくとも 1 つのバックアウト・レコードにデータベースに関するバックアウト情報が含まれているため、CHANGE.BKOUT または DELETE.BKOUT コマンドを使用する必要があります。

システムの処置: コマンドが失敗しました。

ユーザーの処置: CHANGE.BKOUT または DELETE.BKOUT コマンドを使用します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0228I NEW AREANAME ALREADY EXISTS IN RECON DBD=*database name* AREA=*area name*

説明: DBRC コマンド (つまり、CHANGE.DBDS) の処理中に、RECON データ・セット内の高速機能エリアの AREANAME を変更するためのコマンドが、RECON 内に同じ名前の DBDNAME および AREANAME がすでに存在していたため失敗しました。dbd 名 (*database name*) およびエリア名 (*area name*) フィールドは高速機能パスを識別します。

システムの処置: このコマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

ユーザーの処置: コマンドに指定した新規 AREANAME が不適切でなかったかどうか判別します。不適切であった場合、それを訂正し、失敗したコマンドおよび処理されなかった他のコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0229I VOLUME NOT FOUND IN LOG RECORD, VOLSER= *volser*

説明: CHANGE.PRILOG または CHANGE.SECLOG コマンドが、OLDVOL パラメーターを指定して発行されました。しかし、指定されたボリューム通し番号が、PRILOG レコードにも SECLOG レコードにも見つかりませんでした。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: ボリューム通し番号を訂正してから、コマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0230I UNAUTHORIZATION PROCESSING WAS UNSUCCESSFUL DBD=*dbdname* AREA=*areaname* SSID=*subsystem name* RC=*return code*

説明: サブシステムが AREA の許可を取り消すために DBRC を呼び出したが、DBRC は、正常な許可取り消しを妨害する問題を検出しました。RC はエラー戻りコードを示します。戻りコードの意味については、DBRC 要求戻りコードに関する情報を参照してください。

RC=24 の場合、DBRC は新しい保留許可状態を計算しようとしたが、有効な状態が取得されませんでした。サブシステムの許可は取り消されたが、AREA レコードは、RECON データ・セット内で、その AREA の使用が他のサブシステムに許可されないようにマークが付けられます。これは、DBRC または IMS 内のプログラム・エラーです。

システムの処置: 不成功を示す戻りコードが呼び出し側に渡されます。

ユーザーの処置: 許可取り消し処理に関する情報を収集し、IBM サポートに連絡してください。RC=24 の場合、許可された全サブシステムが AREA の許可を取り消した後で AREA を再び許可することができます。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

モジュール: DSPSDBUA

関連資料:

 DBRC 要求戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0231I SPECIFIED AREA IS NOT IN RECOVERY NEEDED STATUS DBD=*dbdname* AREA=*areaname*

説明: DEDB に対してトラック・リカバリーを実行するために、DB リカバリー・ユーティリティの GENJCL.RECOV ステートメントに、示されたエリアが指定されました。しかし、指定されたエリアは、リカバリー必要状況ではありません。

システムの処置: 処理は終了します。

プログラマーの応答: 指定されたエリアがリカバリー必要状況 (つまり、エリアのリカバリー必要フラグがオフ) かどうかを調べます。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0232I AREA IS NOT IN RECOVERY NEEDED STATUS DBD=*dbd name* AREA=*area name*

説明: DEDB 初期設定ユーティリティの実行のために、SYSIN 制御ステートメントで、示されたエリア・データ・セットが指定されました。しかし、指定されたエリアは、リカバリー必要状況ではなく、また指定されたエリア・データ・セットが使用不能状況でもありません。DEDB 初期設定ユーティリティを実行できるのは、指定されたエリアのリカバリー必要フラグがオン (リカバリー必要状況) の場合です。

システムの処置: DEDB 初期設定ユーティリティの処理は終了します。

ユーザーの処置: RECON 内の指定された AREA レコードのリカバリー・フラグをオンに変更する必要があるかどうかを判別します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0233I AREA IS IN RECOVERY NEEDED STATUS DBD=*dbd name* AREA=*area name*

説明: INIT.ADS AVAIL または CHANGE.ADS AVAIL コマンドが、示された高速機能エリアに対して

DSP0234I • DSP0238I

発行されました。しかし、この AREA は、リカバリー必要状況です。INIT.ADS AVAIL または CHANGE.ADS AVAIL コマンドは、AREA がリカバリー必要状況でない場合のみ指定できます。リカバリー必要 AREA に対して INIT.ADS AVAIL または CHANGE.ADS AVAIL を指定しなければならない場合、その AREA をリカバリー不要状況に変更する必要があります。

システムの処置: このコマンドは失敗します。

ユーザーの処置: そのエリアに対して順方向リカバリー・ユーティリティを実行するか、または CHANGE DBDS コマンドを発行してリカバリー・フラグをオフにします。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0234I MAX NUMBER OF AREA DATA SETS BEEN REACHED DBD=*dbd name* AREA=*area name*

説明: AREA データ・セットの最大数に達している AREA に対して、INIT.ADS コマンドが発行されました。1 つのエリアの下で、最大 7 個までのエリア・データ・セットを定義できます。AREA データ・セットの総数が最大許容数の 7 個を超えています。

システムの処置: このコマンドは失敗します。

ユーザーの処置: この AREA に属する AREA データ・セットの数を調べます。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0235I THE DS NAME OF THE FIRST AREA DATA SET WAS USED FOR THE DBDS DBD=*dbd name* DDN=*ddname*

説明: DEDB レコードに対して CHANGE.DB TYPEIMS コマンドが発行されました。現行の DEDB に複数の AREA データ・セットがある場合、このメッセージが発行されます。このメッセージは、ADS-LIST の最初のデータ・セットが、DL/I DBDS レコードの DDN および DSN として割り当てられていることを示します。このメッセージは、通知用としてのみ出されます。

システムの処置: 処理は続行されます。

190 メッセージおよびコード 第 2 巻: DFS 以外のメッセージ

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0236I AREA IS STILL AUTHORIZED AND ADS IS AVAILABLE DBD=*dbdname* AREA=*area name* AREA=*area name* ADDN=*ADS dd name*

説明: DELETE.ADS コマンドが、まだ使用可能で、そのエリアがまだ許可されているエリア・データ・セットに対して発行されました。AREA が許可されていて、指定された ADS が使用可能な場合、DELETE.ADS コマンドは使用できません。

システムの処置: このコマンドは失敗します。

ユーザーの処置: エリアの許可が取り消されるまで、または ADS が使用不能になるまで待ちます。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0237I AREA IS STILL AUTHORIZED AND ADS IS BEING USED BY THE CREATE UTILITY DBD=*dbd name* AREA=*area name* ADDN=*ADS dd name*

説明: DELETE.ADS コマンドが、その AREA がまだ許可されていて、作成ユーティリティを実行中のエリア・データ・セットに対して発行されました。AREA が許可され、エリア・データ・セットに対して作成ユーティリティを実行中の場合、DELETE.ADS コマンドは使用できません。

システムの処置: このコマンドは失敗します。

ユーザーの処置: エリアの許可が取り消されるまで、または作成ユーティリティが完了するまで待ちます。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0238I CANNOT DELETE OLDS SSID=*ssid* DDNAME=*ddname*

説明: サブシステムで最後にクローズされたオンライン・ログ・データ・セット (OLDS) を削除する要求が出されました。このデータ・セットは、後の再始動で最

初のオンライン・ログ・データ・セットをクローズするのに必要になることがあるため、削除してはなりません。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

ユーザーの処置: データ・セットを削除する必要がある場合、LASTCLOS キーワードを指定して DELETE.LOG コマンドを実行します。

問題判別: ありません。

DSP0239I INCORRECT NUMBER OF TIME STAMPS FOR NEWTIME PARAMETER

説明: CHANGE.PRILOG または CHANGE.SECLOG コマンドに、NEWTIME パラメーターが指定されました。NEWTIME パラメーターに指定されたタイム・スタンプの数が不適切です。NEWTIME パラメーターのタイム・スタンプの数は、NEWVOL パラメーターに指定されたボリューム数より 1 つ小さい数でなければなりません。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: 正しい数のタイム・スタンプを指定して、コマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0240I NO AREA DATA SETS TO PROCESS

説明: 入力されたコマンドの選択基準を満たすエリア・データ・セットがありません。GENJCL.RECOV コマンドの場合、利用不能の ADS がありません。GENJCL.IC コマンドの場合、処理できる ADS がありません。

システムの処置: このコマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: CHANGE.ADS コマンドを発行して、ADS を適宜 AVAIL または UNAVAIL に設定します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0242I ddname1 DSN=dsname REPLACED BY ddname2 DSN=dsname

説明: ddname1 で示されている RECON データ・セットが、ddname1 で示されているデータ・セットによってアクティブな RECON データ・セットとして置き換えられました。この状況は、RECON で入出力エラーが発生したため、または CHANGE.RECON REPLACE(RECONn) コマンドが発行されたために起きます。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

問題判別: ありません。

DSP0243I JOB TERMINATED DUE TO UNAVAILABLE SPARE RECON DATA SET. THE ONLY AVAILABLE RECON IS DSN=dsname.

説明: DBRC が、2 つの一致する RECON データ・セットを見つけることができないため、使用可能な予備の RECON データ・セットがありません。この操作モードでは、単一の RECON データ・セットで実行することが許可されません。複数の RECON データ・セットがジョブに提示された場合、最新のデータ・セットが dsname で示されます。

システムの処置: ジョブは終了します。

ユーザーの処置: 予備の RECON データ・セットを 2 つ定義してから、ジョブを再実行します。

問題判別: ありません。

DSP0244I JOB CONTINUING IN SPITE OF UNAVAILABLE SPARE RECON DATA SET

説明: DBRC が、2 つの一致する RECON データ・セットを見つけることができないため、使用可能な予備の RECON データ・セットがありません。この操作モードでは、単一の RECON データ・セットで実行することが許可されます。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0245I JOB TERMINATED DUE TO
UNAVAILABLE RECON DATA SETS**

説明: DBRC が RECON データ・セットを見つけることができませんでした。

システムの処置: ジョブは終了します。

ユーザーの処置: RECON データ・セットを定義してから、ジョブを再実行します。

問題判別: ありません。

**DSP0246I DSSN PROCESSING UNABLE TO
CONTINUE DBDNAME=*dbd*
DDNAME=*ddn* DSSN=*nnnnnnnn***

説明: 変更累積出口または GENJCL.CA コマンドの DBRC 処理中に、ログ・ボリューム・チェーン内でログ・ボリュームの場所を判別する DSSN 処理でエラーが検出されました。2 つのログ・ボリュームによって変更されるデータベース・データ・セットの DSSN 値が矛盾しています。

システムの処置: 処理は終了します。コマンドが処理中だった場合、後続のコマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ログ・レコードおよび割り振りレコードに関する情報を入力するために NOTIFY コマンドが使用された場合、割り振りレコードの DSSN の値を調べる必要があります。NOTIFY コマンドが使用されなかった場合、APAR 分析用に情報を収集します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0247I INVALID LOG VOLUME SUBSET
WAS FOUND**

説明: 変更累積ユーティリティの入力妥当性検査中、またはユーティリティ用の JCL を生成中に、必要なログ・ボリュームの 1 つ以上が利用不能であることが DBRC で判別されました。

このメッセージが入力妥当性検査中に発行された場合、ユーティリティ JCL で必要なすべてのログ・ボリュームを指定しなかったか、または指定されたログ・ボリュームの 1 つ以上が利用不能でした。

このメッセージが JCL 生成中に出力された場合、生成されるジョブに含めるべきログ・ボリュームの 1 つ以上が利用不能でした。

次の 1 つ以上の理由で、ログ・ボリュームは利用不能です。

- 必要なボリュームは、アクティブ・サブシステムで使用中であった。
- アーカイブされていないオンライン・ログ・データ・セットが要求された。
- 必要なログ・ボリュームが、エラーとマークされていた。

このメッセージは、GENJCL.CA コマンドで無効な CATIME パラメーターが指定された場合にも出力されます。

システムの処置: 処理は終了します。このメッセージが GENJCL 処理中に発行された場合、後続のコマンドは処理されません。

ユーザーの処置: JCL で有効なログ・サブセットを指定するか、または CATIME パラメーターで有効な値を指定して、ジョブを再実行します。アクティブ・サブシステムで使用中のログ・ボリュームをクローズして、必要な OLDS データ・セットをアーカイブするか、または IMS ログ・リカバリー・ユーティリティを使用し、エラーとマークされたログ・ボリュームをリカバリーする必要があります。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0248I RECON DATA SET PARTIALLY
UPGRADED**

説明: 単一 RECON データ・セットの非並行アップグレードが試行されたが失敗しました。RECON データ・セットの一部はアップグレードされており、この後の操作でアクセス不能です。

システムの処置: 処理は終了します。

プログラマーの応答: 削除してから、新規 RECON データ・セットを再割り振りします。CHANGE.RECON UPGRADE コマンドを再発行します。

ヒント: 2 つの RECON データ・セットと予備の RECON データ・セットを使用してください。障害が発生した場合、DBRC は自動的に RECON データ・セットを元の状態に復元し、使用不可の RECON データ・セットを廃棄します。

**DSP0249I RECON IN USE, CANNOT
UPGRADE**

説明:

このメッセージは、CHANGE.RECON UPGRADE コマンドを実行する RECON バッチ・コマンド・プロセ

ッサーによって発行されます。RECON は現在 1 つ以上の IMS サブシステムで使用されており、コマンドは次のいずれかの理由で実行できません。

- 使用しているバージョンの IMS の共存 SPE が、1 つ以上の IMS サブシステムに適用されていない。
RECON は、アップグレードされた RECON を読み取るように作成されていないサブシステムによって使用中の場合はアップグレードできません。メッセージ DSP1113A は、DBRC マイグレーション/共存の保守が適用されていないことが検出された、サブシステムのレコードごとに発行されます。
- CHANGE.RECON UPGRADE コマンドが、3 個未満の RECON データ・セットが割り振られているため実行できない。この条件では、アップグレード処理中に入出力エラーが発生すると、RECON の保全性を損なうことがあります。

システムの処置:

CHANGE.RECON UPGRADE コマンドは RC=8 で失敗します。

プログラマーの応答: CHANGE.RECON UPGRADE コマンドを発行する前に、次の項目を確認してください。

- RECON にアクセスするすべてのサブシステムに、該当するバージョンの IMS の IMS 共存 SPE が適用されている。
- 予備のデータ・セットに加えて、2 つの RECON データ・セットが割り振られている。

RECON のすべてのサブシステム・レコードとその共存レベルのリストを生成するには、LIST.SUBSYS ALL コマンドを発行します。各サブシステム・レコードでは、フィールド COEXISTENCE LEVEL に、サブシステムが共存可能な IMS の最大のリリースがリストされません。

モジュール: DSPUGR00

DSP メッセージ DSP0251 - DSP0300

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DSP0251I RECON COPY *n* UPGRADE IS BEGINNING

説明: CHANGE.RECON UPGRADE コマンドが、メッセージに示された RECON コピー・データ・セットのレコードをアップグレードするために開始中です。コピー 1 のアップグレード中に障害が発生した場合、DBRC は RECON を再構成し、コピー 1 を破棄します。この場合、CHANGE.RECON UPGRADE コマンドを再実行してください。コピー 2 のアップグレード中に障害が発生した場合、DBRC は RECON を再構成し、コピー 2 を破棄することを試みます。この場合、アップグレードは成功し、CHANGE.RECON UPGRADE コマンドを再実行する必要がありません。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: DSPURI00

DSP0252I RECON COPY *n* UPGRADED SUCCESSFULLY

説明: CHANGE.RECON UPGRADE コマンドが、メッセージに示された RECON コピー・データ・セット内の全レコードを正常にアップグレードしました。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: DSPURI00

DSP0255I RECON n IS NOT IN USE

説明: CHANGE.RECON REPLACE(RECON n) コマンドが、指定された RECON データ・セットを予備の RECON データ・セットと置き換えるために使用されました。しかし、コマンドが発行されたとき、DBRC は、指定された RECON データ・セットを使用していませんでした。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

ユーザーの処置: アクティブ RECON データ・セットを指定して、コマンドを再発行します。

問題判別: ありません。

DSP0256I NO SPARE RECON DATA SET AVAILABLE

説明: CHANGE.RECON コマンドが、二重 RECON モードに再入するか、またはアクティブ RECON データ・セットを予備の RECON データ・セットと置き換えるために使用されました。しかし、使用可能な予備の RECON データ・セットがありませんでした。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 予備の RECON データ・セットを定義してから、コマンドを再発行します。

問題判別: ありません。

DSP0260I NO insrt-1 RECORDS FOUND IN RECON insrt-2

説明: RECON データ・セットに、指定された特性を持つオンライン・ログ・データ・セットに関する、指定されたタイプのレコードがありません。 *Insrt-1* は ONLINE LOG、UNARCHIVED LOG、INT-ONLINE LOG、INTERIM RLDS/SLDS、TRACKING SLDS、または UNARCHIVED SLDS のいずれかです。 *Insrt-2* は、SSID=8 文字の名前またはブランクです。このエラーは、IMS ログ保存ユーティリティ、GENJCL.ARCHIVE コマンド、GENJCL.CLOSE コマンド、LIST.RECON コマンド、または LIST.LOG コマンドの実行中に発生することがあります。 LIST.LOG コマンドの場合、レコードのサブセットが要求されたがオンライン・レコードが存在しないと、このメッセージはより大きなセットに対応します。例えば、LIST.LOG UNARCH が発行され、オンライン・レコードが存在しない場合、メッセージは NO UNARCHIVED LOG RECORDS FOUND... ではなく、NO ONLINE LOG RECORDS FOUND... となります。

システムの処置: LIST コマンドの実行中にエラーが発生した場合、処理は続きます。 GENJCL.ARCHIVE コマンドの実行中にエラーが発生した場合、コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。 IMS ログ保存ユーティリティの実行中にエラーが発生した場合、ユーティリティ処理は終了します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0261I NO ONLINE LOG FOUND IN RECON SSID=ssid DDNAME=ddname

説明: 示された IMS サブシステムに関して、示された DD ステートメントで指定されたオンライン・ログ・データ・セットのレコードが RECON データ・セットにありません。このエラーは、IMS ログ保存ユーティリティ、GENJCL.ARCHIVE コマンド、LIST.LOG コマンド、または DELETE.LOG コマンドの実行中に発生することがあります。

システムの処置: LIST.LOG コマンドの実行中にエラーが発生した場合、処理は続きます。 DELETE.LOG または GENJCL.ARCHIVE コマンドの実行中にエラーが発生した場合、コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。 IMS ログ保存ユーティリティの実行中にエラーが発生した場合、ユーティリティ処理は終了します。

ユーザーの処置: SSID および DDNAME パラメータ

ーが正しく指定されたかどうかを判別します。そうでない場合、コマンドを訂正してから、要求を再実行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0262I NO insrt-1 insrt-2 RECORDS FOUND IN RECON insrt-3

説明: LIST.LOG OPEN または LIST.LOG ERROR コマンドが発行されたが、RECON データ・セットに *insrt-1* レコードが存在しません。 *insrt-1* は、ERROR または OPEN のいずれかです。 *insrt-2* は、UNARCHIVED、ONLINE、または INT-ONLINE のいずれかです。 *insrt-3* は、SSID=8 文字またはブランクです。 LIST.LOG コマンドの場合、レコードのサブセットが要求されたがオンライン・ログ・データ・セットまたは一時オンライン・ログ・データ・セットのレコードが存在しないと、メッセージ DSP0260I が表示されます。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0263 EXTRANEOUS SECOLDS RECORD FOUND IN RECON SSID=ssid

説明: 特定のサブシステムに対して、LIST.LOG SSID(ssid) コマンドが発行されました。 PRIOLDS レコードは存在しないが、SECOLDS レコードは存在します。これは、RECON データ・セット内に不整合があることを示します。このメッセージの発行後に、余分なレコードが表示されます。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: RECON データ・セット内の不整合を訂正します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0264I SSID PARAMETER REQUIRED WITH OLDS(DDNAME) - BECAME ALLOLDS

説明: LIST.LOG OLDS(ddname) コマンドが、サブシステム名を指定せずに発行されました。このコマンドは、ALLOLDS が指定されたように扱われます。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

問題判別: ありません。

ユーザーの処置: IMS ログ・リカバリー・ユーティリティを使用して、エラーのオンライン・ログ・データ・セットをクローズします。ddname には、エラーのオンライン・ログ・データ・セットをクローズするジョブを生成するための GENJCL.CLOSE コマンドに指定すべき DD 名がリストされます。エラーのオンライン・ログ・データ・セットをクローズしてから、このコマンドおよび処理されなかった他のコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0265I OLDS SSID=ssid TIME=timestamp IS NEEDED TO CLOSE OLDS DDNAME=ddname

説明: RECON データ・セットからオンライン・ログ・データ・セットのレコードを削除する要求が出されました。指定されたオンライン・ログ・データ・セットの直前に使用されたオンライン・ログ・データ・セットを IMS がクローズしなかったため、要求が失敗しました。このため、指定されたオンライン・ログ・データ・セットは、直前のオンライン・ログ・データ・セットをクローズするのに必要になります。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

DSP0266I insrt1 insrt2 INCONSISTENT WITH PRIOLDS SSID=ssid

説明: NOTIFY.SECLOG OLDS、NOTIFY.PRILOG OLDS INTERIM、または NOTIFY.SECLOG OLDS INTERIM が発行されました。しかし、コマンド内の情報は、RECON データ・セット内の既存の情報と不整合です。

メッセージ **DSP0266I** のエラー条件: 次の表は、考えられるエラー条件をリストしています。

表 2. メッセージ DSP0266I の考えられるエラー条件

通知のタイプ	レコードの場合	対応するレコード	状況またはエラー条件	INSRT1	INSRT2
OPEN	SECOLDS	PRIOLDS	ARCHIVED-SCHEDULED または ARCHIVED-STARTED または ARCHIVED-COMPLETE	SECOLDS	STATUS
OPEN	IPRIOLDS	PRIOLDS	ARCHIVED-STARTED または ARCHIVED-COMPLETE	IPRIOLDS	STATUS
OPEN	ISECOLDS	IPRIOLDS	ARCHIVED-COMPLETED または ARCHIVED-STARTED	SECOLDS	STATUS
CLOSE	SECOLDS	PRIOLDS	ARCHIVED-NEEDED 以外の状況、または SECOLDS STOPTIME が PRIOLDS STOPTIME を指している	SECOLDS SECOLDS	STATUS RUNTIME
CLOSE	IPRIOLDS	PRIOLDS	ARCHIVED-NEEDED 以外の状況、または IPRIOLDS STOPTIME が PRIOLDS STOPTIME を指している	IPRIOLDS IPRIOLDS	STATUS RUNTIME
CLOSE	ISECOLDS	IPRIOLDS	ARCHIVED-NEEDED 以外の状況、または ISECOLDS STOPTIME が IPRIOLDS STOPTIME を指している	SECOLDS SECOLDS	STATUS RUNTIME

DSP0267I • DSP0270I

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

ユーザーの処置: エラーを訂正し、エラーのあったコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0267I *record type* CAN NOT BE CHANGED, DATA SET NOT CLOSED

説明: ログ・データ・セットの RECON レコードを変更するために、CHANGE.PRILOG または CHANGE.SECLOG コマンドが発行されました。しかし、ログ・データ・セットはまだオープン中です。RECON がデータ・セットのクローズを通知されるまで、ログ・データ・セットの RECON レコードを変更できません。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

ユーザーの処置: NOTIFY.PRILOG または NOTIFY.SECLOG コマンドを使用して、ログ・データ・セットのクローズを RECON に通知してから、コマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0268I *record-type* RECORD NOT FOUND IN RECON SSID=*ssid* DDNAME=*ddname*

または

record-type RECORD NOT FOUND IN RECON
SSID=*ssid* TIME=*timestamp*

または

record-type RECORD NOT FOUND IN RECON
SSID=*ssid* DDNAME=*ddname* TIME=*timestamp*

説明: RECON データ・セット内のログ・データ・セットのレコードにアクセスまたは変更する要求が、指定された属性を持つレコードが見つからなかったため失敗しました。SSID、DDNAME、および STARTIME パラメーターにより、要求されたレコードが識別されません。

システムの処置: RECON データ・セットのアクセス

または変更の要求は失敗します。

ユーザーの処置: レコードを識別する属性を訂正し、失敗したコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0269I *type* RECORD ALREADY EXISTS IN RECON SSID=*ssid* DDNAME=*ddname*

または

type RECORD ALREADY EXISTS IN RECON
SSID=*ssid* TIME=*timestamp*

説明: RECON データ・セットにレコードを追加するコマンドで、同一タイプのレコードにすでに存在するサブシステム ID および DD ステートメント、または開始時刻が指定されています。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。RECON データ・セットは変更されません。

オペレーターの応答: 固有のサブシステム ID および DD ステートメントを指定して、コマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0270I ONLINE LOG ALREADY *status* SSID=*ssid* DDNAME=*ddname*

説明: RECON データ・セットのオンライン・ログ・データ・セットの状況を変更する要求が出されました。しかし、オンライン・ログ・データ・セットの RECON レコードは、すでに、示された状況になっていました。*status* は、ARCHIVED、STARTED、または CLOSED のいずれかです。このエラーは、IMS ログ保存ユーティリティー、GENJCL.ARCHIVE コマンド、GENJCL.CLOSE コマンド、CHANGE.PRILOG コマンド、または CHANGE.SECLOG コマンドの実行中に発生することがあります。

システムの処置: このエラーが IMS ログ保存ユーティリティー、IMS ログ・リカバリー・ユーティリティー、またはコマンドの実行中に発生した場合、次の状態になります。

IMS ログ保存ユーティリティー

すべての入力オンライン・ログ・データ・セッ

トがすでにアーカイブされているか、またはアーカイブ中 (アーカイブ STARTED) の場合、ユーティリティ処理は終了します。少なくとも 1 つの入力オンライン・ログ・データ・セットがアーカイブされていない場合、ユーティリティは、そのアーカイブされていないオンライン・ログ・データ・セットのアーカイブを継続します。

IMS ログ・リカバリー・ユーティリティ
処理は終了します。

コマンド

コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。STARTED 状況であれば、コマンドは失敗しません。「ユーザーの応答」を参照してください。

ユーザーの処置: このメッセージは通知目的のみであり、ほとんどの場合、ユーザーの応答は必要ありません。示されたオンライン・ログ・データ・セットが他のジョブによって現在アーカイブ中の場合、STARTED 状況は正常です。

このメッセージが GENJCL 中に出力された場合、その OLDS は生成された JCL に含まれません。このメッセージが IMS ログ保存ユーティリティ中に出力された場合、その OLDS は、以前にアーカイブされたように扱われます。LIST.LOG OLDS(ddname) により、実行中のアーカイブ・ジョブ名が表示されます。そのジョブが失敗し、DBRC に通知されなかった場合、OLDS 状況は ARC 開始済みのままになり、その OLDS は、CHANGE.PRILOG OLDS(ddname) ARNEEDED コマンドが発行されるまでアーカイブされません。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0271I ONLINE LOGS TO BE ARCHIVED ARE NON-CONTINUOUS

説明: 一組のオンライン・ログ・データ・セットをアーカイブする試みが行われたが、アーカイブ対象のオンライン・ログ・データ・セットが連続していません。すなわち、最初に指定されたオンライン・ログ・データ・セットと最後に指定されたオンライン・ログ・データ・セットとの間に使用されたオンライン・ログ・データ・セットが少なくとも 1 つ存在します。

システムの処置: IMS ログ保存ユーティリティの処理は終了します。

ユーザーの処置: ALLOLDS パラメーターを指定した LIST.OLDS コマンドを使用して、欠落しているオンライン・ログ・データ・セットを判別します。アーカイブ

されていないすべてのオンライン・ログ・データ・セットを指定して、GENJCL.ARCHIVE コマンドを発行するか、または ALL を指定して GENJCL.ARCHIVE コマンドを発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0272I ONLINE LOG TO BE ARCHIVED IS state SSID=ssid DDNAME=ddname

説明: 示されたサブシステム ID および DD ステートメントを指定して、オンライン・ログ・データ・セットをアーカイブする要求が出されました。しかし、オンライン・ログ・データ・セットの RECON レコードは、オンライン・ログ・データ・セットが STILL OPEN または IN ERROR のいずれかであることを示しています。このエラーは、IMS ログ保存ユーティリティまたは GENJCL.ARCHIVE コマンドの実行中に発生することがあります。

システムの処置: IMS ログ保存ユーティリティの実行中にエラーが発生した場合、ユーティリティ処理は終了します。GENJCL.ARCHIVE コマンドの実行中にエラーが発生した場合、コマンドが成功したかどうかは戻りコードによって判別されます。GENJCL.ARCHIVE ALL が実行中で、アーカイブ可能な少なくとも 1 つの OLDS が見つければ、コマンドは戻りコード 4 で正常に完了します。

ユーザーの処置: GENJCL.ARCHIVE コマンドが戻りコード 4 で完了した場合、JCL を実行できます。示された state が STILL OPEN の場合、IMS が OLDS の使用を終了するまで待つてから、要求を再発行します。示された state が IN ERROR の場合、IMS ログ・リカバリー・ユーティリティを使用してエラーを訂正してから、要求を再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0273I ONLINE LOG NOT ARCHIVED SSID=ssid DDNAME=ddname

説明: 示されたログ・データ・セットに対する DELETE.LOG コマンドが発行されたが、このデータ・セットはアーカイブされていません。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

DSP0274I • DSP0277I

ユーザーの処置: IMS ログ・リカバリー・ユーティリティーを使用してこのオンライン・ログ・データ・セットをアーカイブしてから、DELETE.LOGコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0274I UTILITY REQUESTING AN
UNARCHIVED ONLINE LOG OR AN
UNAVAILABLE LOG
DBDNAME=*dbdname* DDNAME=*ddname*
ALLOC TIME=*time***

説明: ユーティリティー要求が、アーカイブされていないオンライン・ログ・データ・セットを必要としています。オンライン・ログ・データ・セットがシステム・ログ・データ・セットにアーカイブされるまで、ユーティリティーはログ・データを使用できません。このエラーは、IMS データベース・リカバリー・ユーティリティー、IMS 変更累積ユーティリティー、GENJCL.RECOV コマンド、または GENJCL.CA コマンドの実行中に発生することがあります。

システムの処置: 処理は継続し、DBRC は、要求された機能のためにオープン・ログが必要かどうかを判別します。

プログラマーの応答: 要求された機能のためにオープン・ログが必要な場合、IMS ログ保存ユーティリティーを使用してこのオンライン・ログ・データ・セットをアーカイブします。アーカイブが完了したら、要求を再発行します。

オープン・ログが見つからない場合、データベース割り振り時間は PRILOG 停止時刻よりも長くなります。割り振り時刻は、DBRC コマンドを使用して、手動で入力できます。IMS ログ・リカバリー・ユーティリティー (DFSULTR0) は ERRC=0000 (最初にエラーが検出されたときに新規のログがクローズされる) で実行されている可能性があります。問題を解決してから、要求を再発行します。

このメッセージが GENJCL.CA の最中または IMS 変更累積ユーティリティーによって発行された場合、割り振り時刻は、最初に検出された使用不能なログの DBRC を示します。それ以前の他のログを処理に使用できる場合、ジョブは続行します。

ユーティリティーを実行中にメッセージが発行された場合、DBRC を使用して JCL を生成します。その後、新しい JCL と元の JCL を比較してエラーの可能性を調べます。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0275I DDNAME *ddname* APPEARS MORE
THAN ONCE**

説明: GENJCL.ARCHIVE コマンドがオンライン・ログ・データ・セット DD ステートメントのリストを指定して発行されました。しかし、指定された DD ステートメントは、DD ステートメント・リスト内で複数回指定されています。

システムの処置: 処理を続行します。余分の DD ステートメントは無視されます。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0276I NO ONLINE LOG DATA SETS TO
BE PROCESSED**

説明: GENJCL.ARCHIVE コマンドの実行中、コマンドの要件を満たすオンライン・ログ・データ・セットがなく、どのオンライン・ログ・データ・セットもアーカイブされていません。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

注: IMS 通常シャットダウンの後、緊急時再始動 (/ERE) が発行された場合、緊急時再始動処理によって実行依頼された自動アーカイブ・ジョブは失敗するが、このメッセージは無視できます。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0277I ONLINE LOG HAS INCORRECT
DATA SET NAME SSID=*ssid*
DDNAME=*ddname***

説明: 示されたサブシステム ID (*ssid*) および DD 名 (*ddname*) を指定して、オンライン・ログ・データ・セットをアーカイブする要求が出されました。しかし、アーカイブ・ユーティリティーの DD ステートメントで指

定されたデータ・セット名が、RECON データ・セットで示されたデータ・セット名と異なります。

システムの処置: アーカイブ・ユーティリティーの処理は終了します。

ユーザーの処置: おそらくユーザー・エラーです。アーカイブ・ユーティリティーの JCL を訂正してから、アーカイブ・ジョブを再実行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0280I TRACK OPTION INVALID - USE ICKDSF UTILITY

説明: GENJCL.RECOV コマンドで TRACK オプションが指定されました。このオプションは、DFP V3.1 ではサポートされなくなりました。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: TRACK オプションを指定せずにコマンドを再発行するか、または ICKDSF ユーティリティーを実行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0281I LOG MERGE REQUIRED FOR RECOVERY REQUEST DBDNAME=dbdname DDNAME=ddname

説明: GENJCL.RECOV コマンドまたは IMS データベース・リカバリー・ユーティリティーの実行中、データベース・データ・セットをリカバリーするためには、複数のログ・データ・セットをマージしなければならないことが判明しました。データベース・データ・セットのリカバリーの前に、ログ・データ・セットをマージする必要があります。

システムの処置: GENJCL.RECOV またはデータベース・リカバリー・ユーティリティーの実行は失敗しません。

ユーザーの処置: ログ・データ・セットをマージする必要があります。データベース・データ・セットが変更累積グループのメンバーである場合、IMS 変更累積ユーティリティーを使用してログ・データ・セットをマージします。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0282I BACKOUT NEEDED FOR DBD dbname-RECOVERY PROCESS ABORTED

説明: GENJCL.RECOV または IMS データベース・リカバリー・ユーティリティーの実行中に、示されたデータベースがバックアウト必要状況でした。このデータベースが開始されると、自動的に動的バックアウトが実行されるため、リカバリーは許可されません。リカバリーに続いてバックアウトを実行すると、データベースが損傷を受けることがあります。

システムの処置: データベースの処理が終了します。このエラーが、グループに対する GENJCL 中に発生した場合、グループの他のメンバーについては処理を続けます。

プログラマーの応答: データベースの BACKOUT を実行するか、またはリカバリーの実行の前に CHANGE.DB NOBACK コマンドを発行して BACKOUT NEEDED フラグをオフにします。

問題判別: 通知メッセージのみ。

DSP0283I UNABLE TO DELETE ERROR QUEUE ELEMENT(S) AS DBDS dbdsname CONTAINS NO EQS

説明: 示された DBDS または DEDB AREA レコードからエラー・キュー・エレメントを削除する要求が、レコード内にエラー・キュー・エレメントが存在しないため失敗しました。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0284I UNABLE TO DELETE ERROR QUEUE ELEMENT eqe FOR DBDS dbdsname AS THE SPECIFIED EQE DOES NOT EXIST

説明: DBDS または DEDB AREA レコードから、示されたエラー・キュー・エレメントを削除する要求が、

レコード内にこのエラー・キュー・エレメントが存在しないため失敗しました。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: エラー・キュー・エレメントを訂正してから、コマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0285I IRLMID SPECIFIED FOR
SUBSYSTEM SSID=*ssid* INCORRECT**

説明: 代替サブシステムの存在または削除を DBRC に通知する試みが行われました。コマンドで指定された IRLMID パラメーターが、サブシステム・レコード内の IRLMID と一致しません。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: LIST.SUBSYS コマンドを発行して、指定されたサブシステムに対して IRLMID が正しいかどうかを確認します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0286I NO BACKUP SUBSYSTEM EXISTS
FOR SUBSYSTEM SSID= *ssid***

説明: 代替 (バックアップ) サブシステムを削除する要求が、示されたサブシステムには代替サブシステムが存在しないため失敗しました。

システムの処置: ありません。

プログラマーの応答: 示されたサブシステムに対して LIST.SUBSYS コマンドを発行して、代替サブシステム名が存在するかどうかを確認します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0287I OLDS SWITCH PROCESSING
TERMINATED PRILOG|PRISLDS
RECORD LENGTH CRITICAL**

説明: すべての OLDS (切り替え元の OLDS および切り替え先の OLDS を含む) がアーカイブされた後の、アーカイブ・データ・セットを記録するのに必要なスペース量が PRILOG または PRISLDS レコードの最大長を超えています。

システムの処置: OLDS への切り替えは、戻りコード 44 (X'2C') で失敗し、IMS はメッセージ DFS2482I を出力し、IMS 制御領域は異常終了 0071 で終了します。

オペレーターの応答: (マスター端末) 制御領域の緊急時再始動を試みる前に、IMS 制御領域の終了前に生成されたアーカイブ・ジョブを実行します。

関連情報:

➡ DFS2482I (メッセージおよびコード)

➡ IMS 異常終了 0071

**DSP0287W *WARNING* PRILOG|PRISLDS
RECORD LENGTH CRITICAL**

説明: ロギングを継続すると、(すべての OLDS がアーカイブされた後で) 追加の OLDS 切り替えによって PRILOG または PRISLDS レコード長を超える場合、DBRC は OLDS 切り替えを終了させ、IMS を強制的にシャットダウンし、メッセージ DSP0287I を出力します。IMS 処理内でこのメッセージが発行される正確な場所は、DBRC CHANGE.RECON コマンドの LOGALERT の値によって決定されます。

システムの処置: IMS は処理を続行します。

オペレーターの応答: (マスター端末) できるだけ早く、IMS 制御領域を停止します。

関連情報:

『DSP0287I』

**DSP0289I "ABNORMAL" PARAMETER IS
INVALID WHEN A BACKUP
SUBSYSTEM IS AVAILABLE**

説明: サブシステム・レコードの状況を異常 (ABNORMAL) に変更する要求が、バックアップ・サブシステムが使用可能 (BACKUP=YES) なため失敗しました。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: バックアップ・サブシステムが実際に使用不能かどうかを判別します。使用不能であ

ば、CHANGE.SUBSYS NOBACKUP コマンドを発行して、バックアップ・フラグをリセットします。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0291I THE TIME ZONE LABEL TABLE IS FULL.

説明: CHANGE.RECON TIMEZONE コマンドによる、時間帯ラベル・テーブルへの新規項目の追加が試みられたが、テーブルにはすでに最大数の 32 項目が含まれています。

システムの処置: コマンドは失敗します。

オペレーターの応答: テーブル内で不要な項目をすべて除去してから、コマンドを再発行します。

モジュール: DSPURM90

DSP0292I ONLINE REORG ACTIVE FOR DBD=XXXXXXXX

説明: RECON データ・セットの情報を追加または変更するためのコマンドが発行されました。このコマンドは、HALDB OLR がアクティブなときは処理できません。HALDB OLR がアクティブであって、現在アクティブな所有 IMS がある場合、パラメーター OLRRGON | OLRRGOFF、OLRIMSID() | NOOWNER、および OLRDBDS(A|M) は許可されません。HALDB OLR がアクティブな場合、パラメーター OLRDBDS(A|M) は許可されません。

CHANGE.DB コマンドの実行時に、オンライン再編成がアクティブであるか、所有 IMS が異常終了していない場合は、REL | NOREL パラメーターを変更することはできません。

システムの処置: 処理は終了します。コマンドは失敗します。RECON の内容を検討します。

プログラマーの応答: 追加の支援が必要な場合は、IBM サポートに連絡してください。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0293I ACTIVE DBDS=M-V FOR DBD=XXXXXXXX

説明: RECON データ・セットの情報を追加または変更するためのコマンドが発行されました。このコマンドは、M-V DBDS データ・セットがアクティブなときは処理できません。

システムの処置: 処理は終了します。コマンドは失敗します。RECON の内容を検討します。

プログラマーの応答: 追加の支援が必要な場合は、IBM サポートに連絡してください。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0294I MINVERS PARAMETER INCONSISTENT WITH SUBSYSTEM RECORD FOUND IN RECON FOR SSID=xxxxxxxx

説明: RECON データ・セットで見つかった現行サブシステム・レコードより低いバージョンに MINVERS パラメーターを変更するコマンドが、試みられました。下位リリースの RECON データ・セットで見つかったサブシステム・レコードのサブシステム ID が、このコマンドに含まれています。

システムの処置: コマンドは失敗します。

システム・プログラマーの応答: このサブシステム・レコードが、もはやアクティブではないサブシステム用であって、再始動やバックアウトに必要ではなくなる場合は、これを RECON データ・セットから削除します。サブシステム・レコードが現行アクティブ・システム用であれば、これが完了するまで待ちます。サブシステムがすべて、MINVERS パラメーターで示されたリリースにアップグレードされているときは、もう一度コマンドを発行します。

モジュール: DSPURM90

DSP0295I SUBSYSTEM RECORD NOT FOUND IN RECON

説明: HALDB OLR について所有 IMS を変更するためのコマンドが発行されましたが、OLRIMSID 名のサブシステム・レコードが見つかりませんでした。

システムの処置: 処理は終了し、コマンドは失敗します。RECON の内容を検討します。サブシステム・レコードを終了する必要があります。

プログラマーの応答: 追加の支援が必要な場合は、IBM

DSP0299I • DSP0301I

サポートに連絡してください。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0299I ONLINE SUBSYSTEM RECORD SSID=*name* BEING DELETED BY COMMAND

説明: SSID パラメーターで名前が示されているオンライン・サブシステム・レコードが、コマンド処理により(例えば、DELETE.SUBSYS SSID(*name*) コマンドを使用して)削除されました。

このメッセージは通知であり、sstype=online のサブシステム・レコードがコマンド処理により削除された場合に発行されます。

オンライン IMS システムおよびオンライン・イメージ・コピー・ジョブによって作成された両方のサブシステム・レコードには、sstype=online が設定されます。

コマンド DELETE.SUBSYS SSID (*name*) を発行する前に、データベース許可をオンライン・サブシステム・レコードに移動するために CHANGE.SUBSYS

STARTRCV および CHANGE.SUBSYS ENDRECOV コマンドを発行する場合、このメッセージも出力されません。

プログラマーの応答: このメッセージは WTO として発行されるので、メッセージを発行するジョブが識別されます。誤って DELETE.SUBSYS SSID(*name*) コマンドを発行したのであれば、このメッセージを無視できます。この場合、RECON からの欠落データに気付くと、オンライン・システムは異常終了します。

問題判別: 1、2、3

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0300I INTERNAL DBRC ERROR *mmmmmmmmmm(aaaaaaa) +X oooo #nn* *term/dump* DIAG=*dddddddd*

DSP メッセージ DSP0301 - DSP0400

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DSP0301I LOG INPUT NOT USABLE BEYOND *timestamp*

説明: ユーティリティが 1 次ログ・データ・セットの使用を試みました。しかし、1 次ログ・データ・セ

説明: IMS データベース・リカバリー管理機能で内部エラーが検出されました。*term* および *dump* の値を除いて、メッセージ内の情報は、IBM 担当者の問題分析用です。このメッセージに続いて、異常終了 2480 が発行される可能性があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

mmmmmmmmmm

エラーを検出したモジュールの名前。

aaaaaaaa

モジュールの保守レベル。

oooo

メッセージが発行されたモジュール内のオフセット。

nn

モジュール内での *nn* 番目の DSPSTOP 呼び出し。例えば、*nn*=5 の場合、メッセージは 5 番目の DSPSTOP 呼び出しで生成されました。

term

次のいずれかです。

TERM DBRC は異常終了 2480 で終了しました。

CONT 異常終了 2480 がダンプ付きで要求された場合であっても、DBRC の実行は継続します。

dump

次のいずれかです。

DUMP

異常終了 2480 がダンプ付きで要求されました。

NODUMP

ダンプの要求はありませんでした。

dddddddd

より詳しくエラーを示す文字ストリング。

ユーザーの処置: IBM サポートに連絡してください。

問題判別: 2、3、8、35、ABEND 処理で出力されたダンプ (要求された場合)、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

 IMS 異常終了 2480

ティリティーまたはログ・リカバリー・ユーティリティーを除いて、後続のユーティリティーの処理には使用できません。 *timestamp* フィールドは、ボリューム開始時刻によって 1 次ログ・データ・セットを示しています。変更累積ユーティリティーが実行中であり、このメッセージに付随してメッセージ DSP0247I が出力される場合、ユーティリティーの実行は失敗します。それ以外の場合、変更累積ユーティリティーは、使用不可のログ・ボリュームより前に見つかったログ・ボリュームの処理を継続します。

システムの処置: 1 次ログ・データ・セットの使用を試みるユーティリティーの処理は終了します。

ユーザーの処置: 示された 1 次ログ・データ・セットの状況を判別して、次のいずれかを実施してから、失敗したジョブを再実行します。

- 1 次ログ・データ・セットを終了またはリカバリーする必要がある場合、それぞれ、システム・ログ終了ユーティリティーまたはシステム・ログ・リカバリー・ユーティリティーを実行します。システム・ログ・リカバリー・ユーティリティーが使用される場合、CHANGE.PRILOG または CHANGE.SECLOG コマンドを発行して、新しいログ・ボリュームに関する情報を RECON データ・セットに記録します。
- ログ・データ・セットを無視すべき場合、DELETE.LOG コマンドを発行して、ログ・データ・セットのレコードを削除します。
- 1 次ログ・データ・セットの停止時刻が RECON データ・セットに記録されていないが、その他の点では 1 次ログ・データ・セットが正しい場合、NOTIFY.PRILOG コマンドを発行して、停止時刻情報を RECON データ・セットに追加します。
- ログ・データ・セットが使用可能になったら、CHANGE.PRILOG または CHANGE.SECLOG コマンドを発行して、ログ・データ・セットのレコードに、使用可能であることを示す情報を追加します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

**DSP0302I PRIMARY LOG NOT FOUND WITH
START TIME *timestamp*
DBDNAME=*name* DDNAME=*name***

説明: DBDNAME および DDNAME フィールドによって示されるデータベース・データ・セットまたはエリア・データ・セットのための RECON データ・セット内の割り振りレコードが、1 次ログ・レコードの存在を示しているが、RECON データ・セット内でそのレコードが見つかりませんでした。これは、RECON データ・セット内に不整合があることを示します。タイム・スタ

ンプ・フィールドは、1 次ログ・データ・セットの開始時刻を示します。

システムの処置: ユーティリティーは失敗します。

ユーザーの処置: RECON データ・セットのリストから、示された 1 次ログ・データ・セットに関する情報の不整合について識別します。RECON データ・セットから 1 次ログ・データ・セットのレコードが誤って削除された場合、NOTIFY.PRILOG コマンドを発行して、RECON データ・セットにこのレコードを追加します。割り振りレコードが不適切である場合、DELETE.ALLOC コマンドを使用してそれらのレコードを削除し、NOTIFY.ALLOC コマンドを使用して正しい情報を追加します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0303I AN OPEN LOG VOLUME WAS
FOUND DBDNAME=*dbdname*
DDNAME=*ddname***

説明: 正常にクローズされなかったログ・ボリュームが存在し、そこには、DBDNAME フィールドおよび DDNAME または ADDN フィールドによって示されるデータベース・データ・セットまたはエリア・データ・セットに関する変更レコードが含まれている可能性があります。これは、RECON データ・セット内にあるボリュームに関する情報が完全でないか、または示されたデータベース・データ・セットのリカバリーを妨げるログ・エラーが存在することを示します。

システムの処置: 変更累積ユーティリティー以外のユーティリティーは失敗します。変更累積ユーティリティーが実行中で、このメッセージとともにメッセージ DSP0247I が出力される場合、ユーティリティーの実行は失敗します。それ以外の場合、変更累積ユーティリティーは、使用不可のログ・ボリュームより前に見つかったログ・ボリュームの処理を継続します。

ユーザーの処置: 次のことを行ってください。

1. すべての IMS アクティビティを停止します。
2. ALL パラメーターを指定した LIST.LOG コマンドを発行して、RECON データ・セット内のすべてのログ・データ・セットに関するすべての情報をリストします。
3. ボリューム停止時刻を持たないログ・ボリュームごとに (現行のログ・ボリュームを除く)、作成された順序と同じ順序でシステム・ログ終了ユーティリティーを実行します。ログ・ボリュームが正常に終了していた場合、NOTIFY.PRILOG または

DSP0304I

NOTIFY.SECLOG コマンドを発行して、RECON データ・セットにボリューム停止時刻を追加します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0304I **TIMER SERVICES**
FAILUREFUNCTION = *function*
DIAGNOSTIC CODE = *diagcd*
CALLER = *modname*
TIMESTAMP=*timestamp*

説明: DBRC モジュール *modname*によって呼び出された DBRC タイム・サービス・モジュール DSPTIME0 が、示された IMS タイム・サービス機能からエラー戻りコードを受け取りました。

function の値は次のとおりです。

EXTERNAL TO INTERNAL
GET CURRENT TIME
UTC TO LOCAL
LOCAL TO UTC
INTERNAL TO EXTERNAL COMPRESSED
INTERNAL TO EXTERNAL PUNCTUATED
ADD/SUBTRACT INCREMENT

EXTERNAL TO INTERNAL 機能のみが、直接的なユーザー・エラー (DBRC コマンドまたはユーティリティー SYSIN 制御ステートメントにコーディングされた無効なタイム・スタンプ値) に影響されます。

その他の機能でのエラーの原因は、ハードウェア障害、システム論理エラー、または RECON データ・セット内の無効なデータです。後者の場合、LIST コマンドの処理中にエラーが発生すると、このメッセージに続くリストの部分で、エラーのある時刻フィールドに文字

*****ERROR*****

でマークが付けられます。

診断コード *diagcd* はエラー内容を示します。数値は、IMS タイム・サービス機能から戻されたシステム内部エラー・コードを示します。非数値はユーザー・エラーを示します。

タイム・スタンプでのユーザー・エラーの場合に可能性のある *diagcd* 値には次のものがあります。

コード 意味

YYL YY の長さが 2 または 4 ではない。

DDL DDD の長さが 3 ではない。

DDD DDD の値が 001 より小さいか、366 より大きい。

以上 3 つのエラー・コードは、年および日に含まれる値とは表面上は無関係なエラーを示すこともあります。例えば、次のものがあります。

- ブランクを含むタイム・スタンプがアポストロフィで囲まれていなかった。
- 4 桁の年が圧縮時刻フォーマット (2 桁のみ可能) で入力された。
- ユーティリティー制御カードのフォーマットが変更されているが、既存の JCL が更新されていない。

HHL HH の長さが 2 ではない。

HH HH の値が 24 より大きい。

MML MM の長さが 2 ではない。

MM MM の値が 59 より大きい。

SSL SS の長さが 2 ではない。

SS SS の値が 59 より大きい。

OFFSET

オフセット値が無効。

MSEPS

連続する非数値分離文字がある。

EXCESS

時刻値が長過ぎるか、または終わりに非数値データがある。

MVSOFF

z/OS オフセットが無効。z/OS 地方時クロックの設定が原因で UTC からのオフセットが無効 (+14 より大きい、または -11 より小さい)。

ZERO ゼロが認められていない時刻値にゼロが入力された。

LABEL

入力タイム・スタンプに、定義されていないラベルが含まれています。

timestamp は、呼び出し側モジュール *modname* によって渡される内部タイム・スタンプの 16 進表記です。ユーザーによって入力された値は、常に、このメッセージに先立ってユーティリティー出力に表示されるため、ユーザー・エラーの場合はこのフィールドは表示されません。

オペレーターの応答: 診断コードがユーザー・エラーを示す場合、エラーを訂正し、再実行します。(DBRC コマンドでタイム・スタンプ・データを入力する方法については、「DBRC タイム・スタンプ (コマンド)」のコマンド構文に関するトピックを参照してください。) それ以外の場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DSPTIME0

DSP0305I RECON CLEANUP WAS SUCCESSFUL

説明: 前のシステム障害により、RECON データ・セットへの更新操作中に障害が発生したため、RECON データ・セット間に不整合が残りました。RECON データ・セットは相互に整合性のある状態に復元されました。RECON データ・セットの変更を必要とし、システム障害の前に発行された要求は実行されていない可能性もあります。

システムの処置: 処理は継続します。

ユーザーの処置: RECON データ・セットのリストより、RECON データ・セット内で行われなかった変更を判別します。変更が必要なものをすべて再実行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0306I RECON CLEANUP UNSUCCESSFUL. REASON CODE code

説明: 前のシステム障害により、RECON データ・セットへの更新操作中に障害が発生したため、RECON データ・セット内に不整合が残りました。RECON データ・セットは相互に整合性のある状態に復元されていません。理由コードにより不整合の理由が示されます。

理由コードには、以下の意味があります。

コード 意味

- 01 RECON データ・セットをオープンできなかった。
- 02 RECON データ・セットで入出力エラーが発生した。
- 03 RECON ヘッダー・レコードが見つからない。
- 04 RECON クリーンアップ論理エラー。
- 05 CAGRP または DBDS に関するヘッダー・レコードが見つからない。
- 06 DBDS ヘッダー・レコード内の CAGRP 名に誤りがある。
- 07 DBDS の DD 名変更の要求に必要な新 DBID も旧 DBID も CAGRP レコードに含まれていない。
- 08 LOGALL レコードが見つからない。

システムの処置: IMS の処理は終了します。

ユーザーの処置: アクセス方式サービス・プログラムの PRINT コマンドを使用して、RECON データ・セットの不一致の程度を判別します。一致していない場合、誤りの少ない方のデータ・セットを判別し、アクセス方式サービス・プログラムの REPRO コマンドを使用し

て、それを誤りの多い方のデータ・セットにコピーします。RECON データ・セットが一致したら、適切な NOTIFY、CHANGE および DELETE コマンドを使用して、両方に対してさらに変更を行います。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0308I COMMAND xxx HAS ABENDED

説明: コマンド xxx の処理中に、重大エラーが発生しました。このメッセージは、IMS または CICS® CICS オンライン環境でのみ発行されます。

システムの処置: コマンドは失敗し、オンライン呼び出しの残りに対し使用不可にされます。ABEND の後、通常の処理が再開される前に、DBRC アドレス・スペースのストレージ・ダンプが作成されます。このコマンドは、このオンライン領域が再始動されたときに使用可能になります。他のオンライン領域でこのコマンドを発行することには影響はありません。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: 2、3、8、および ABEND 処理で出力されたダンプ。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0309I COMMAND xxx UNAVAILABLE

説明: コマンド xxx で重大エラーが発生し、これ以上は使用できなくなりました。

システムの処置: コマンド xxx は失敗し、このオンライン領域が再始動されるまで、またはコマンドがリセットされるまで使用不能です。

プログラマーの応答: 始めの失敗の原因を判別して訂正後、RESET パラメーターが指定されたオンライン・コマンドを再サブミットすることによりコマンドをリセットできます。

問題判別: 2、3、8

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0310I CLOSE REQUESTED FOR AN ACTIVE SUBSYSTEM

説明: ログ・リカバリー・ユーティリティがオンライン・ログ・データ・セットのクローズを試みたが、RECON データ・セットでは、このログ・データ・セッ

トがアクティブ・サブシステムに関連付けられていることを示しています。

システムの処置: ログ・リカバリー・ユーティリティーが処理を終了します。

ユーザーの処置: JCL を訂正して正しいオンライン・ログ・データ・セットを指定してから、ジョブを再実行します。正しいオンライン・ログ・データ・セットが指定され、関連するサブシステムがアクティブでない場合、次のいずれかを行います。

- DELETE.SUBSYS コマンドを発行して、RECON データ・セットからそのサブシステム・レコードを削除してから、ジョブを再実行します。
- ABNORMAL パラメーターを指定した CHANGE.SUBSYS コマンドを発行して、サブシステムが終了したことを示してから、ジョブを再実行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0311I INPUT ONLINE LOG RECORD NOT FOUND IN RECON

説明: IMS ログ・リカバリー・ユーティリティーまたは IMS ログ保存ユーティリティーの妥当性検査中、JCL で指定されたデータ・セット名とボリューム通し番号の組み合わせと一致するレコードが、RECON データ・セット内に見つかりませんでした。

システムの処置: ユーティリティーの実行は終了します。

ユーザーの処置: JCL を訂正して有効なログ・データ・セットを指定してから、ジョブを再実行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0313I DUPLICATE INPUT LOG DATA SET RECORD TIME=time

説明: IMS ログ・リカバリー・ユーティリティーまたは IMS ログ保存ユーティリティーの入力妥当性検査中に、同じデータ・セット名とボリューム通し番号の組み合わせを持つ複数の RECON レコードが見つかりました。

システムの処置: 処理は終了します。

ユーザーの処置: 44 文字のデータ・セット名全体を比

較してデータ・セット名が固有である場合は、LOG DSN CHECK=xxxxx の RECON ヘッダーを確認してください。ここで、xxxxx は CHECK17 または CHECK44 です。この値は、使用されているログ・データ・セット名検査のタイプを示します。CHECK17 が使用されていて、データ・セット名の最後の 17 文字だけを対象としたときに重複したデータ・セット名が存在する場合、CHANGE.RECON CHECK44 コマンドを発行して、44 文字のデータ・セット名全体が比較に使用されるようにします。

そうでない場合は、DELETE.LOG コマンドを使用して、RECON データ・セットから重複した情報を削除します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0314I CONCATENATED SLDS INPUT IS NOT CONTIGUOUS

説明: 入力妥当性検査中に、IMS ログ保存ユーティリティーが、連続したログ・データ・セットを表していない連結入力 DD ステートメントを検出しました。

システムの処置: ログ保存ユーティリティーは処理を終了します。

ユーザーの処置: 不連続なログを、同一のジョブ・ステップではアーカイブできません。JCL を訂正してから、ジョブを再実行依頼します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0315I NO STOPTIME IN record, TIME=timestamp

説明: IMS ログ保存ユーティリティーの入力妥当性検査中に、入力ログ・データ・セットの RECON レコードで、このログ・データがクローズされていないことが示されました。

システムの処置: ログ保存ユーティリティーの処理は終了します。

ユーザーの処置: IMS ログ・リカバリー・ユーティリティーを使用して、このログ・データ・セットをクローズしてから、アーカイブ・ジョブを再実行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0316I INPUT *rectype* DATA SET RECORD
MARKED IN ERROR RECORD
TIME=*timestamp***

説明: IMS ログ保存ユーティリティーへの入力 of 妥当性検査中に、JCL で指定されたデータ・セットと一致するレコードが RECON データ・セット内で見つかりました。この入力データ・セット・レコードはエラーがあるとマークされます。*rectype* は、エラーのあるレコードのタイプを示し、PRILOG、SECLOG、PRISLDS、または SECSLDS のいずれかです。

システムの処置: 重複ロギング環境では、JCL で指定された重複ログのいずれかが RECON データ・セットでエラーとしてマークされていないければ、ユーティリティーの実行は継続します。単一ロギング環境では、ユーティリティーの実行は終了します。

ユーザーの処置: アーカイブされるログ・データ・セットにエラーがある場合、ログ・リカバリー・ユーティリティーを使用してそのログ・データ・セットを訂正してから、アーカイブ・ジョブを再実行します。

**DSP0317I CLOSE REQUIRES ONLINE LOG
SSID=*ssid* DDNAME=*ddname***

説明: オンライン・ログ・データ・セットをクローズするため、IMS ログ・リカバリー・ユーティリティーが呼び出されました。RECON データ・セットの情報によると、エラーのあるオンライン・ログ・データ・セットをクローズするには、メッセージで示されたオンライン・ログ・データ・セットが必要です。しかし、ログ・リカバリー要求は、エラーのあるオンライン・ログ・データ・セットのクローズに IMS 先行書き込みデータ・セットまたは無効なオンライン・ログ・データ・セットの使用を指定しています。

システムの処置: ログ・リカバリー・ユーティリティーの処理は終了します。

ユーザーの処置: 示されたオンライン・ログ・データ・セットを指定して、クローズ要求を再実行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0318I INPUT ONLINE LOG RECORD NOT
FOUND IN RECON**

説明: IMS ログ・リカバリー・ユーティリティーからの入力ログ・データ・セットのオープン呼び出し中に、オンライン・ログ・データ・セットに関するレコードが RECON データ・セットに見つかりませんでした。

DUP または CLS 処理の場合、PRIOLDS レコードが見つかりませんでした。REP 処理の場合、中間レコードが見つかりませんでした。

システムの処置: ログ・リカバリー・ユーティリティーの処理は終了します。

ユーザーの処置: LIST コマンドを使用して、正しいオンライン・ログ・データ・セットを判別します。JCL を訂正してから、ジョブを再実行依頼します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0320I CLOSE REQUEST REQUIRES WRITE
AHEAD DATA SET**

説明: IMS ログ・リカバリー・ユーティリティー DFSULTR0 のクローズ・モードまたは複写およびクローズ・モードの実行中に、入力オンライン・ログ・データ・セットは次のオンライン・ログ・データ・セットを使用してクローズしなければならないことが判明しました。RECON データ・セット内の情報は、オンライン・ログ・データ・セットを、先行書き込みデータ・セットを使用してクローズしなければならないことを示しています。

システムの処置: ユーティリティーの処理は終了します。

ユーザーの処置: オンライン・ログ・データ・セットが先行書き込みデータ・セットを使用してクローズされるように指定して、ユーティリティー・ジョブを再実行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0321I INPUT ONLINE LOG DATA SET
ALREADY CLOSED**

説明: IMS ログ・リカバリー・ユーティリティー DFSULTR0 を使用して、先行書き込みデータ・セットを使用したオンライン・ログ・データ・セットのクロー

ズが試みられました。RECON データ・セット内の情報は、オンライン・ログ・データ・セットがすでにクローズされていることを示しています。先行書き込みデータ・セットは、オープンされたオンライン・ログ・データ・セットをクローズするためにのみ使用できます。あるいは、IMS の終了時に正常にクローズされたオンライン・ログ・データ・セットをクローズするために、GENJCL.CLOSE コマンドが発行されました。

システムの処置: ユーティリティーの処理は終了します。

ユーザーの処置: ログ・リカバリー・ユーティリティーの実行中にこの障害が発生した場合、オンライン・ログ・データ・セットが次のオンライン・ログ・データ・セットを使用してクローズされるように指定して、ジョブ・リカバリー・ジョブを再実行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0322I INPUT LOGS TO ARCHIVE ARE FROM DIFFERENT SUBSYSTEMS

説明: IMS ログ保存ユーティリティーへの入力ログが、複数の異なるサブシステムによって作成されました。アーカイブ・ユーティリティーで処理する前に、このログを共通サブシステムに関連付ける必要があります。

システムの処置: アーカイブ・ユーティリティーの処理は終了します。

ユーザーの処置: アーカイブ・ジョブの JCL を変更して、アーカイブ対象のログの正しいセットを指定してから、ジョブを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0325I SKELETAL JCL MEMBER *name* NOT FOUND, DD NAME *ddname*

説明: 示された基幹 JCL メンバーが、示された *ddname* に関連付けられたデータ・セット内に見つかりませんでした。

システムの処置: GENJCL コマンドの処理は終了し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: このエラーの原因として、次の 2 つが考えられます。

1. 指定された基幹 JCL データ・セットが不適切でした。
2. 指定されたメンバー名が不適切でした。このメンバー名は、GENJCL コマンドの MEMBER または DEFAULTS パラメーターによって指定されたか、あるいは、INIT.DBDS または INIT.CAGRP コマンドを使用して暗黙的に指定された可能性があります。

最初の問題を訂正するには、正しい基幹 JCL データ・セットを指定してコマンドを再発行します。2 番目の問題を訂正するには、コマンドで正しい基幹 JCL メンバーを指定するか、あるいは、CHANGE.DBDS または CHANGE.CAGRP コマンドを使用して、暗黙的に指定されたメンバー名を変更します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0326I UNDEFINED SIMPLE KEYWORD
keyword name IN SKELETAL JCL
MEMBER *member name* DD NAME
ddname RECORD NUMBER *nnn*

説明: 示された基幹 JCL メンバーの処理中に、レコード番号 *nnn* で、値が割り当てられていない単純キーワードが見つかりました。コメント・ステートメント内の未定義の単純キーワードによっても、このメッセージが出力されることがあります。基幹 JCL メンバーは、示された *ddname* に関連付けられた基幹 JCL データ・セットから取得されます。

システムの処置: GENJCL コマンドの処理は継続します。未定義のキーワードに関しては、置換が行われません。このキーワードは、変更なしで出力ファイルに含まれます。コマンド完了コードは 4 に設定されます。

プログラマーの応答: このキーワードに関して、置換すべきだったかどうかを判別します。そうであれば、USERKEYS パラメーターまたはデフォルトの基幹 JCL メンバーを介して、キーワードに値を指定して、GENJCL コマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および基幹 JCL データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0327I **INVALID** *statement type* **CONTROL**
KEYWORD IN SKELETAL JCL
MEMBER *member name* **DD NAME**
ddname **RECORD NUMBER** *nnn*

説明: 示された基幹 JCL メンバーの処理中に、レコード番号 *nnn* で、無効な制御キーワード・ステートメントが検出されました。 *statement type* は %delete または %select のいずれかです。基幹 JCL メンバーは、示された *ddname* に関連付けられた基幹 JCL データ・セットから取得されます。

システムの処置: GENJCL コマンドの処理は終了し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: 基幹 JCL メンバーの制御キーワード・ステートメントの構文を訂正してから、GENJCL コマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および基幹 JCL メンバーのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0328I *statement type* **CONTROL KEYWORD**
MISSING IN SKELETAL JCL
MEMBER *member name* **DD NAME**
ddname

説明: 示された基幹 JCL メンバーの処理中に、次のいずれかの問題が発生しました。

- %select または %delete 制御キーワード・ステートメントが検出されたが、対応する %endsel または %enddel 制御キーワード・ステートメントがなかった。
- %endsel または %enddel 制御キーワード・ステートメントが検出されたが、対応する %select または %delete 制御キーワード・ステートメントがなかった。

基幹 JCL メンバーは、示された *ddname* により識別される基幹 JCL データ・セットから取得されました。

システムの処置: GENJCL コマンドの処理は終了し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: 欠落している制御ステートメントを基幹 JCL メンバーに追加してから、コマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および基幹 JCL メンバーのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0329I **INVALID NESTING OF** *statement type*
CONTROL KEYWORDS IN
SKELETAL JCL MEMBER *member name*
DD NAME *ddname*

説明: 示された基幹 JCL メンバーの処理中にネストされた制御キーワード・ステートメントが見つかりました。これは、2 つの %delete または 2 つの %select ステートメントが、間に %enddel または %endsel ステートメントを入れずに指定されたことを意味します。%delete グループを %select グループ内に含めること、およびその逆も可能であるが、%delete グループも %select グループもネストできません。基幹 JCL メンバーは、示された *ddname* により識別される基幹 JCL データ・セットから取得されました。

システムの処置: GENJCL コマンドの処理は終了し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: 基幹 JCL メンバーを訂正してから、GENJCL コマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および基幹 JCL メンバーのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0330I **INVALID SKELETAL JCL**
ASSIGNMENT RECORD IN
SKELETAL JCL MEMBER *member name*
DD NAME *ddname* **RECORD**
NUMBER *nnn*

説明: 示されたデフォルトの基幹 JCL メンバーの処理中に、レコード *nnn* で、無効な割り当てステートメントが見つかりました。デフォルトの基幹 JCL メンバーは、示された *ddname* により識別される基幹 JCL データ・セットから取得されました。

システムの処置: GENJCL コマンドの処理は終了し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: 割り当てステートメントを訂正してから、GENJCL コマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および基幹 JCL メンバーのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0331I **CA EXECUTION IS NOT THE**
LATEST

説明: 複数の CA レコードと同じか、それより古い

STOPTIME を指定する NOTIFY.CA コマンドが入力されました。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: コマンドが正しく入力されていた場合は、DELETE.CA コマンドを使用して、NOTIFY.CA コマンドに関連付けられた CA レコードよりも最近の CA レコードを削除します。

問題判別: これは通知メッセージです。

モジュール: DSPURT30

DSP0332I NO *rtype* RECORDS SATISFY THE SELECT GROUP SELECTION CRITERIA

説明: GENJCL.USER コマンドの処理中に、選択グループが処理されましたが、選択基準が満たされていないため、レコードは返されませんでした。*rtype* は、選択しようとした RECON レコード・タイプです。

rtype の値は次のいずれかです。

ALLOC

割り振り

CA 変更累積データ・セット

DBDS データベース・データ・セット

IC イメージ・コピー・データ・セット

OLDS オンライン・ログ・データ・セット

RLDS 1 次リカバリー・ログ・データ・セット (PRILOG)

SRLDS

2 次リカバリー・ログ・データ・セット (SECLOG)

SLDS 1 次システム・ログ・データ・セット (PRISLDS)

SSLDS

2 次システム・ログ・データ・セット (SECSLDS)

システムの処置: GENJCL コマンドの処理は継続します。コマンド完了コードは 4 に設定されます。CA グループまたは DBDS グループに対して GENJCL コマンドを実行している場合、グループ内の各メンバーは個別に処理され、このメッセージは適用されるメンバーごとに出力されます。

ユーザーの処置: このメッセージは、通知目的としてのみ発行されます。必要な出力を得るためには、選択グループの選択基準の変更が必要になることもあります。

DSP0338E A RECON LOGALL RECORD INCONSISTENCY WAS DETECTED RECORD TIME=*time* DBDNAME=*dbdname* DDNAME=*ddname*

説明: メッセージ・テキストで *time* によって示されている LOGALL レコードで、DBDS またはエリアの ALLOC カウントが、PRILOG の RECON に存在する ALLOC レコードの実数と一致しません。

システムの処置: システムが DBDS またはエリアのイメージ・コピー (ユーティリティまたは NOTIFY.IC) を記録していた場合、イメージ・コピーは正常に記録されましたが、余分なりカバリー関連のレコード (ALLOC、RECOV、および REORG) が削除されませんでした。

ALLOC レコードが DELETE.ALLOC コマンドを使用して削除されている場合、コマンドは失敗して、ALLOC レコードは削除されません。

ユーザーの処置: この不整合は発生してはなりません。IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を受けてください。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

モジュール: DSPURULA

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0340I ALLOCATION DURING THE TIME RANGE OF THE COMPRESSED LOG DATA SET ENTRY NOT ALLOWED, RECORD TIME=*timestamp*

説明: 示された開始時刻を持つログに関する割り振り情報を追加するために NOTIFY.ALLOC コマンドが発行されました。しかし、割り振り時刻は、圧縮データ・セット項目の時刻範囲内にあります。圧縮データ・セット項目は、リカバリーには不要になったと決定されたログ・データ・セットを示すため、これは許可されません。

システムの処置: このコマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: 必要に応じて、コマンドを訂正し、再発行し、さらに処理されなかった他のコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0347I THE RESTORE PARAMETER IS REQUIRED TO GENERATE RECOVERY JCL FOR THE NON-RECOVERABLE DBDS
DBD=dbname DDN=ddname

または

THE RESTORE PARAMETER IS REQUIRED TO GENERATE RECOVERY JCL FOR THE NON-RECOVERABLE AREA **DBD=dbname**
AREA=areaname

説明: RESTORE パラメーターなしの GENJCL.RECOV コマンドが、単一のコマンド、あるいは明示的または暗黙的なグループ呼び出しの一部として、示されたリカバリ不能データベース・データ・セット (DBDS) またはエリア・データ・セットに対して発行されました。

システムの処置: 単一の GENJCL.RECOV コマンドが入力された場合、コマンドは終了します。コマンドが明示的または暗黙的なグループ呼び出しの一部である場合、この DBDS またはエリアについては JCL は生成されませんが、他のグループ・メンバーについてはコマンドが実行されます。

プログラマーの応答: この DBDS またはエリアに対して GENJCL.RECOV コマンドを発行しなければならない場合、RESTORE パラメーターを指定してコマンドを入力します。

問題判別: 1、2、3、8、40

モジュール: DSPJCMIAI、DSPJCRCV

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0348I THE RESTORE PARAMETER MAY NOT BE SPECIFIED FOR GENERATING RECOVERY JCL FOR THE DBDS **DBD=dbname DDN=ddname**

または

THE RESTORE PARAMETER MAY NOT BE SPECIFIED FOR GENERATING RECOVERY JCL FOR THE AREA **DBD=dbname AREA=areaname**

説明: RESTORE パラメーターを指定した GENJCL.RECOV コマンドが、単一のコマンド、あるいは明示的または暗黙的なグループ呼び出しの一部として、示された通常またはリカバリ可能データベース・データ・セット (DBDS) またはエリア・データ・セットに対して発行されました。

システムの処置: 単一の GENJCL.RECOV コマンドが

入力された場合、コマンドは終了します。コマンドが明示的または暗黙的なグループ呼び出しの一部である場合、この DBDS またはエリアについては JCL は生成されませんが、他のグループ・メンバーについてはコマンドが実行されます。

プログラマーの応答: この DBDS またはエリアに対して GENJCL.RECOV コマンドを発行しなければならない場合、RESTORE パラメーターなしでコマンドを入力します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0349I THE FOLLOWING RECORD SHOULD NOT BE ADDED FOR A NON-RECOVERABLE DATABASE.
RECORD TYPE=record type

説明: 示されたレコードをリカバリ不能データベース・データ・セット (DBDS) または高速機能ユーザー・リカバリ可能領域に追加することはできません。NOTIFY コマンドにより、このレコードが検出されました。

システムの処置: コマンドが失敗しました。

プログラマーの応答: NOTIFY コマンドの DBDS ID を調べて、DBDS のリカバリ可能性を確認します。

問題判別: 2、3

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0351I ddname DD INFORMATION IS INCONSISTENT WITH RECON

説明: 示された DD ステートメントで提供された情報が、RECON データ・セット内の関連情報と不整合です。RECON データ・セットの情報がメッセージに表示されます。この情報は、フィールド名 (例えば、DSNAME、FILE SEQ NUMBER、VOLUME、または VOLUME SER NUMBER) および期待されるフィールド値です。

DBRC は、生成された JCL ステートメントを検査して、RECON データ・セットの情報が実行時と同じかどうかを確認します。JCL 生成と実行との間に RECON が変更されると、このメッセージが表示されます。

このエラーは、NOCATDS が指定されたために、カタログされたマルチボリューム・データ・セットが DBRC によって別々に順序付けられた場合にも発生します。メッセージ・テキスト内の、他のボリュームに関連付けら

れていないデータ・セットのボリュームは分離され、そのデータ・セットにエラーのフラグが立てられます。メッセージの DDNAME に関連付けられたデータ・セットは、DD 連結リストと突き合わされます。

このメッセージは、RECON 内に REUSE 属性付きで定義されている DBDS に、同一データ・セット (Same Data Set) オプションが指定された場合、データベース・イメージ・コピー 2 ユーティリティーによっても発行されます。この場合、「同一データ・セット」オプションは許可されません。

システムの処置: このコマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 不整合の原因を判別し、DD ステートメントを訂正するか、または RECON データ・セットを訂正します。

JCL が実行される前に、RECON 内の情報が変更されていれば、GENJCL ジョブを再実行してから、JCL を実行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0352I *ddname* DD INFORMATION IS INCOMPLETE

説明: 示された DD ステートメントで指定された情報は、RECON データ・セットと整合しているが、要求されたユーティリティー機能 (例えば、データベース・リカバリー・ユーティリティーがデータベース・データ・セットを要求された状態に復元する) を実行するには不十分です。示された DD ステートメントに指定された最後の情報がリストされます。この情報の後に、必要な追加情報 (RECON データ・セット内に定義されている) が続き、メッセージ内でフィールド名 (例えば、DSNAME、FILE SEQ NUMBER、VOLUME、または VOLUME SER NUMBER) および可能なフィールド値として示されます。

システムの処置: ユーティリティーの処理は終了します。

ユーザーの処置: ユーティリティーの JCL に、メッセージで示された追加入力データを指定して、ユーティリティーを再実行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0370I AMS REPRO FUNCTION COMPLETE, AMS RETURN CODE=*code*

説明: DBRC がアクセス方式サービス・プログラムの REPRO コマンドを呼び出した後、示された戻りコードとともに制御を取り戻しました。DBRC によって戻される条件コードは、アクセス方式サービス・プログラムから戻された最大の戻りコードです。

システムの処置: 通常の処理が続けられます。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0379I INSUFFICIENT DD INFORMATION TO COMPLETE THE AMS REQUEST

説明: DBRC がアクセス方式サービス・プログラムの REPRO 機能の実行を試みたが、要求に必要な DD ステートメントが JCL に含まれていないことを入力制御ステートメントから判別しました。終了条件コードは 4 です。

システムの処置: BACKUP.RECON 要求は終了します。

ユーザーの処置: 必要な DD ステートメントが含まれているかどうか確認します。例えば、BACKUP.RECON RECON1 が入力制御ステートメントの場合、BACKUP1 DD および RECON1 DD ステートメントが必要です。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0380I RECON_x COPY TO RECON_y STARTED.

説明: RECON_x で示される RECON データ・セットを、RECON_y で示されるデータ・セットにコピー中です。これは、次のいずれかの結果として発生します。

- 1 つの RECON (COPY1) および少なくとも 1 つの予備 RECON データ・セットを持つ DBRC の初期設定
- CHANGE.RECON DUAL コマンド
- CHANGE.RECON REPLACE(RECON_n) コマンド
- いずれかの RECON データ・セットでの入出力エラー

コピー操作が正常に完了した場合、コピー先のデータ・セットは COPY2 RECON データ・セットに、またコピー元のデータ・セットは COPY1 RECON データ・セットになります。コピー操作が正常に完了しなかった場合、COPY1 および COPY2 RECON データ・セットは、この操作を開始する前のまま残ります。上記の最初および 2 番目の状況の場合、予備 RECON が 1 つ使用され、最終的に 2 つの RECON (COPY1 および COPY2) がアクティブになります。予備 RECON データ・セットが 2 つある場合、最終的に 2 つの RECON がアクティブになり、1 つの予備 RECON データ・セットが残ります。その他の状況の場合 (3 番目および 4 番目)、予備が使用され、コピー操作に関係しない RECON データ・セットは廃棄されます。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要な場合、廃棄されたデータ・セットを削除および再定義して、使用可能な予備 RECON を再び作成します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0381I COPY COMPLETE, RC = *nnn*

説明: このメッセージは、RECON コピー操作の完了を示します (メッセージ DSP0380I を参照)。戻りコードがゼロでない場合、前のメッセージに問題が示されています。戻りコードがゼロでない場合は、以下のとおり。

- この操作が入出力エラーの結果で開始された場合、アクティブ RECON データ・セットは現在ただ 1 つのみ存在します。
- この操作が CHANGE.RECON REPLACE(RECONn) コマンドの結果であった場合、コマンドは失敗し、元の RECON は変更されずに残ります。
- この操作が DBRC 初期設定中に発生し、予備 RECON が 1 つしかなかった場合、新しいジョブの開始で STARTNEW または NONEW のいずれのオプションが選択されるかによって継続するかどうかが決まります。NONEW が指定された場合、このジョブは終了します。空のデータ・セットが 2 つ使用可能な場合、残りの予備 RECON を使用して新たなコピー操作が開始されます。

戻りコードがゼロの場合の期待される結果については、メッセージ DSP0380I を参照してください。

システムの処置: ただ 1 つのアクティブ RECON データ・セットを使用し、ジョブ処理に NONEW オプションを選択した場合で、DBRC 初期設定中にゼロ以外の

戻りコードが発生しない限り、処理は継続します。

プログラマーの応答: 戻りコードがゼロ以外の場合、前のエラー・メッセージに必要な応答が示されています。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

DSP0380I

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0383A RETAINED LOCKS EXIST ON COPY1|COPY2 OF RECON

説明: DBRC が、以下のアクティビティのいずれかを実行しようとしていました。

- アクセス方式サービス・プログラム REPRO 機能
- RECON データ・セットのアップグレード
- RECON データ・セットでの特定の問題の確認または修復

DBRC は、メッセージに示されているように、保持ロックが現在 RECON の *copy1* または *copy2* に存在すると判別しました。RECON は、並行 RECON アクセス・モードを使用しています。保持ロックは、Transactional VSAM (TVS) または SMS サーバー (SMSVSAM) で障害が起こった場合に検出されます。

システムの処置:

BACKUP.RECON、CHANGE.RECON UPGRADE、または REPAIR.RECON 要求は終了します。

ユーザーの処置: RECON データ・セットにアクセスするすべてのプロセッサで SMS サーバー (SMSVSAM) がアクティブであり、Transactional VSAM (TVS) がアクティブであることを確認します。要求を再実行依頼します。

問題判別: 2、3、40

モジュール: DSPURS10、DSPURR01

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0387W WARNING: rrrrrrrr SIZE ALERT RECORD LENGTH = llllllll ppp% OF RECORDSIZE ssssssss SSID = iiii STARTIME = timestamp

説明: OLDS がオープンされた場合、またはシステムにより 1 つの OLDS から別の OLDS に切り替えられた場合に、このメッセージが発行されます。このメッセージは、すべてのアクティブ OLDS データ・セットがアーカイブされた時に、示されたレコードのサイズが、CHANGE.RECON コマンドの SIZALERT パラメーターで設

DSP0388I • DSP0390W

定された値を超えることを示しています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rrrrrrrr 可能なログ・レコード・タイプ。PRILOG、SECLOG、PRISLD、SECSLD、PRTSLD、または SETSLD のいずれかです。

llllllll ログ・レコードのサイズ (10 進数)。

ppp 最大サイズに対するログ・レコードのパーセンテージ。

ssssssss ログ・レコードに可能な最大サイズ。

iiiiiii ログ・レコードが関連付けられる IMS サブシステム。

timestamp

ログ・レコードの開始時刻。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: IMS の終了を回避するために介入が必要かどうかを判断します。メッセージ DSP0287W が発行されている場合、介入はできません。

モジュール: DSPOLD00

DSP0388I SSID=ssidname FOUND

nnnn **SSYS RECORD(S) IN THE RECON AT RECONFIGURATION**

説明: RECON の再構成中に、サブシステムが再構成を認識する前に処置を必要とする可能性のあるサブシステムを、DBRC が検出しました。

サブシステムのリストには、再構成を検出したサブシステムは含まれません。また、サブシステムのリストは、RECON 内に存在するすべてのサブシステム・レコードを必ずしも含みません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ssidname

処置を必要とするサブシステム。

nnnn RECON 内で見つかった、処置を必要とするサブシステム・レコードの数。

例えば、次のようなメッセージが発行されます。

```
DSP0380I RECON2 COPY TO RECON3 STARTED
DSP0388I SSID=IMS1 FOUND
DSP0388I 0001 SSYS RECORD(S) IN THE RECON
          AT RECONFIGURATION
DSP0381I COPY COMPLETE, RC = 000
```

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

これは単なる通知メッセージです。関連するメッセージ DSP0380I および DSP0381I を参照してください。

モジュール: DSPURI20

関連情報:

212 ページの『DSP0380I』

213 ページの『DSP0381I』

DSP0390W WARNING: nnnnnnnnnnnnnnnnn TIME DELAY - SSID=xxxxxxx CURRENT TIME = timestamp1 TIMESTAMP FROM OLDS = timestamp2

説明: DBRC が呼び出しの処理時にタイム・スタンプで不整合を検出しました。DBRC は、現在時刻が、IMS 再始動および OLDS 切り替えに対する前の OLDS で見つかった時刻、または OLDS クローズ呼び出しに対する現行 OLDS のオープン時刻よりも後になるまで待ちます。IMS は、DBRC が最初にこのエラーを検出したときに、このメッセージを発行します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nnnnnnnnnnnnnnnn

処理中の呼び出し。値は、次のいずれかです。

IMS RESTART
OLDS SWITCH
OLDS CLOSE

xxxxxxx

サブシステム ID。

timestamp1

DBRC が現在の MVS クロックから取得した時刻。

timestamp2

以前の OLDS の最新停止時刻、または現行 OLDS のクローズ開始時刻のいずれか。

システムの処置: DBRC は、1/10 秒ごとに、より最新のタイム・スタンプを取得しようと試みます。IMS 再始動、OLDS クローズ、OLDS 切り替えのすべての呼び出しが、DBRC の終了を待ちます。

タイム・スタンプ・エラーの理由として、次のものが考えられます。

- MVS クロックが最近リセットされた。
- RECON に OLDS レコードが追加または変更されたか、これから先の日付を有する、IMS の前のインスタンスの最後の OLDS がクローズされた。

IMS を再始動する前に、日付が無効な、RECON にある OLDS を RECON から削除する必要があります。

ユーザーの処置: タイム・スタンプで不整合が起きた理由を判別します。2 つのタイム・スタンプを検討することにより、DBRC が待機する必要がある時間の長さを決定できます。時間の隔たりが小さい場合、DBRC は、時間の後れを取り戻したときに続行します。隔たりが大

きい場合は、DBRC または IMS を取り消さなければならない場合があります。

問題判別: 2、3、および RECON データ・セットのリスト。

モジュール: DSPOLD00

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0397E AREA DATA SET CAN ONLY BE INITIALIZED IF IT IS UNAVAILABLE DBD=*dbd name* AREA=*area name* ADDN=*ads dd name*

説明: 示されているエリア・データ・セットはこの DEDB で既に使用可能になっているため、このエリア・データ・セットをフォーマット設定するために DEDB 初期設定ユーティリティを実行できません。

システムの処置: DEDB 初期設定ユーティリティの処理は終了します。

ユーザーの処置: DEDB 初期設定ユーティリティを使用してフォーマット設定できるように、RECON 内の指定された ADS の状況を変更する必要があるかどうかを判断してください。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト

モジュール: DSPDIU00

DSP0398E OPERATION IS NOT ALLOWED WHILE DB *dedbname* IS BEING ALTERED

説明: DEDB 変更ユーティリティは、*dedbname* で示されている DEDB データベースに対して実行されています。以下のいずれかの操作が試みられていますが、DEDB 変更ユーティリティの実行中はその操作は許可されません。

- DEDB 初期設定ユーティリティが、この DEDB データベースのシャドー・エリア・データ・セットまたはシャドー・ユーザー・イメージ・コピー・データ・セットをフォーマットしようとしています。
- INIT.DBDS コマンドがシャドー・エリアを登録しようとしています。

システムの処置: DEDB 初期設定ユーティリティまたはコマンドは、要求された機能を実行せずに終了しました。

システム・プログラマーの応答: DEDB 変更ユーティリティが処理を完了するまで待つか、または RECON データ・セット内の指定された DEDB データベースの状況を変更して、操作を実行できるようにしてください。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト

モジュール: DSPDIU00、DSPURS00

DSP0399E COMMAND NOT ALLOWED WHILE AREA IS BEING ALTERED

説明: まだ使用可能で、エリアが変更されていたシャドー・エリア・データ・セット (ADS) に対してコマンドが発行されました。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドはいずれも処理されません。

システム・プログラマーの応答: DEDB 変更ユーティリティが処理を終了するまで、または ADS が使用可能になるまで待ちます。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト

モジュール: DSPURD40、DSPURM50、DSPURS20

DSP メッセージ DSP0501 - DSP0800

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DSP0501I NUMBER OF PREDEFINED DATA SETS DOES NOT AGREE WITH JCL

説明: RECON データ・セットに事前定義されたイメージ・コピー・データ・セットの数が、イメージ・コピー・ユーティリティのジョブ制御言語ステートメントで要求されたイメージ・コピーの数と一致しません。

システムの処置: イメージ・コピー・ユーティリティの要求は処理されません。

ユーザーの処置: JCL ステートメントを変更するか、または RECON データ・セット内に事前定義されたイメージ・コピー・データ・セットの数を変更することにより、不整合を訂正します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0502I IMAGE COPY OF A KSDS INDEX
NOT SUPPORTED IN RECON**

説明: VSAM キー順データ・セット (KSDS) の索引からイメージ・コピー・データ・セットを作成する要求が出されました。しかし、VSAM キー順データ・セットの索引部分に関する情報は RECON データ・セットに記録されないため、イメージ・コピー・データ・セットの存在は RECON データ・セットには記録されません。

システムの処置: イメージ・コピー・ユーティリティまたはオンライン・イメージ・コピー・ユーティリティは要求の処理を継続します。RECON データ・セットに対して、情報の獲得も書き込みもありません。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

問題判別: 2、3、8

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0503I IMAGE COPY OUTPUT DD
STATEMENT IS MISSING OR
DUMMY**

説明: イメージ・コピー・ユーティリティまたはオンライン・イメージ・コピー・ユーティリティの出力データ・セットを示すのに必要な DD ステートメントが、指定されなかったか、またはダミーとして指定されました。これらのユーティリティでは、出力 DD ステートメントが指定され、しかもそれが既存のデータ・セットを示すことが必要とされます。

システムの処置: イメージ・コピー・ユーティリティまたはオンライン・イメージ・コピー・ユーティリティは失敗します。

ユーザーの処置: 出力データ・セット用の DD ステートメントを正しく指定して、ジョブを再実行します。

問題判別: 8

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0510I THE DBDS/AREA HAS NEVER BEEN
INITIALIZED DBD=*dbdname*
DDN=*ddname***

説明: 一度も初期設定されていない DBDS またはエリアのトラッキング・サイトで、イメージ・コピーが試みられました。

システムの処置: イメージ・コピー・ユーティリティによる処理は、戻りコード 16 で終了します。

オペレーターの応答: DBDS またはエリアを受け取り、再試行します。

モジュール: DSPUIC00

**DSP0511I UNABLE TO DETERMINE
EFFECTIVE IMAGE COPY TIME
DBD=*dbdname* DDN=*ddname***

説明: トラッキング・サイトでイメージ・コピーが試みられたが、DBRC は IC に対して有効な時刻を判別できませんでした。これは、例えば、データベースが RCVTRACK として定義され、更新が受け取られない場合に発生します。

システムの処置: イメージ・コピー・ユーティリティによる処理は、戻りコード 16 で終了します。

オペレーターの応答: ありません。イメージ・コピーは必要ありません。

モジュール: DSPUIC00

**DSP0512I IMAGE COPY RECORD ALREADY
EXISTS DBD=*dbdname* DDN=*ddname*
TIME=*timestamp***

説明: トラッキング・サイトでイメージ・コピーが試みられたが、DBRC がこのイメージ・コピー (IC) に対して有効であると決定した時刻と同じ時刻を持つ IC がすでに存在しています。DBRC は、同じ時刻を持つ 2 つのイメージ・コピーを許可しないため、このジョブは終了します。

システムの処置: イメージ・コピー・ユーティリティによる処理は、戻りコード 16 で終了します。

オペレーターの応答: ありません。追加のイメージ・コピーは必要ありません。

モジュール: DSPUIC00

**DSP0701I MEMBER OF CHANGE
ACCUMULATION GROUP NOT
FOUND IN RECON CAGRP=*name*
DBDNAME=*dbdname* DDNAME=*ddname***

説明: 示された変更累積グループのレコードは、示されたデータベース・データ・セットまたはエリア・データ・セットがその変更累積グループのメンバーであることを示しています。しかし、RECON データ・セットには、示されたデータベース・データ・セットまたはエリア・データ・セットに関するヘッダー・レコードが含まれていません。これは、RECON データ・セット内に不整合があることを示します。

システムの処置: 変更累積ユーティリティの処理は終了します。

ユーザーの処置: RECON データ・セットのリストを入手して、不整合が存在する場所を判別します。データベース・データ・セットが DELETE.DBDS コマンドで削除されたか、またはエリア・データ・セットが DELETE.ADS コマンドで削除された場合、変更累積グループ・レコードの対応するフィールドは、2 進ゼロにリセットされていなければなりません。RECON データ・セット内の不整合を訂正してから、ジョブを再実行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0702I CHANGE ACCUMULATION GROUP
RECORD NOT FOUND IN RECON
CAGRP=cagrpnme DBDNAME=dbdname
DDNAME=ddname**

説明: 示された変更累積グループ *cagrpnme* のレコードが RECON データ・セット内に見つかりませんでした。これは、RECON データ・セットに不整合があることを示します。

システムの処置: 変更累積ユーティリティの処理は終了します。

ユーザーの処置: RECON データ・セットのリストを入手して、不整合が存在する場所を判別します。変更累積グループが DELETE.CAGRP コマンドで削除された場合、各メンバーのデータベース・データ・セットまたはエリア・データ・セットのヘッダー・レコードの対応するフィールドは、2 進ゼロでリセットされていなければなりません。RECON データ・セット内の不整合を訂正してから、ジョブを再実行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0703I DATABASE DATA SET NOT
DEFINED IN CHANGE
ACCUMULATION GROUP
CAGRP=cagrpnme DBDNAME=dbdname
DDNAME=ddname**

説明: 変更累積ユーティリティが、示された変更累積グループを処理していました。SYSIN ステートメントで、示されたデータベース・データ・セットまたはエリア・データ・セットに関する変更が累積されるように指定されたが、このデータ・セットは処理中の変更累積グループのメンバーではありません。SYSIN 制御ステ

ートメントで指定された最初のデータベース・データ・セットまたはエリア・データ・セットによって、処理される変更累積グループが判別されます。示されたデータベース・データ・セットまたはエリア・データ・セットは、別の変更累積グループのメンバーであるか、またはどの変更累積グループのメンバーでもありません (この場合、メッセージの *cagrpnme* フィールドには ***** が入ります)。

システムの処置: 変更累積ユーティリティの処理は終了します。

ユーザーの処置: SYSIN 制御ステートメントを訂正します。変更累積ユーティリティの 1 回の実行で SYSIN 制御ステートメントに指定されるデータベース・データ・セットまたはエリア・データ・セットはすべて、(1) RECON データ・セットに定義されていないか、または (2) RECON データ・セットに定義され、しかも同じ変更累積グループのメンバーでなければなりません。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0704I DATABASE DATA SET ALREADY
SPECIFIED DBDNAME=dbdname
DDNAME=ddname**

説明: 変更累積ユーティリティの実行時に、示されたデータベース・データ・セットが複数の SYSIN 制御ステートメントで指定されました。

システムの処置: 変更累積ユーティリティの処理は終了します。

ユーザーの処置: SYSIN 制御ステートメントの重複を除去し、ジョブを再実行します。

問題判別: 2、3、8

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0705I CHANGE ACCUMULATION INPUT
INCONSISTENT WITH RECON
CAGRP=name**

説明: 変更累積ユーティリティの SYSIN 入力が、次のいずれかの点で、RECON データ・セット内の情報と不整合です。

- 示された変更累積グループの一部のメンバーが、SYSIN 制御ステートメントで指定されていない。

- SYSIN 制御ステートメントで指定されたデータベース・データ・セットの一部が、RECON データ・セットに定義されていない。

システムの処置: 変更累積ユーティリティの処理は終了します。

ユーザーの処置: 示された変更累積グループのメンバーであるデータベース・データ・セットのすべての名前を含むように、しかもそれ以外を含まないように、SYSIN 制御ステートメントを訂正します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0706I IMAGE COPY NOT FOUND IN
RECON FOR DBDNAME=*dbdname*
DDNAME=*ddname***

説明: 示されたデータベース・データ・セット (DBDS) またはエリア・データ・セット (ADS) に関する変更が累積できませんでした。RECON データ・セット内に、この DBDS/ADS に関する使用可能なイメージ・コピー・データ・セットのレコードがないためです。変更累積ユーティリティは、イメージ・コピー・データ・セットのタイム・スタンプを使用して、累積すべき変更レコードを判別します。

システムの処置: GENJCL.CA 処理中にこのメッセージを受け取った場合、処理は継続するが、示された DBDS/ADS は、生成された JCL から除去されます。変更累積ユーティリティの実行中にこのメッセージを受け取った場合、処理は終了します。

ユーザーの処置: GENJCL.CA 処理中にこのメッセージを受け取った場合、適切なイメージ・コピー情報を RECON データ・セットに追加します。GENJCL.CA コマンドを再発行します。

変更累積ユーティリティの実行中にこのメッセージを受け取った場合、RECON データ・セットの状態が、JCL 生成から JCL 実行までの間に変更されています。GENJCL.CA コマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0707I *generic-name* INPUT IS NOT
ALLOWED - *ddname* DD STATEMENT
IS NOT DUMMY CAGRP=*name***

説明: 示された変更累積グループに対する変更累積ユーティリティを実行する要求が、*generic-name* (例えば、CHANGE ACCUMULATION または LOG TAPE) によって示された入力を使用できません。データ・セット *ddname* に対応する DD ステートメントは、ダミーとして指定するか、または省略する必要があります。

システムの処置: ユティリティの要求は処理されません。

ユーザーの処置: 示された DD ステートメントを省略するか、またはダミーに変更してから、要求を再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0708I DDNAME MUST BE SPECIFIED FOR
DBDNAME=*dbdname***

説明: 変更累積ユーティリティの DB0 SYSIN 制御ステートメントに、メッセージで示されたデータベース名が含まれているが、対応するデータ・セットの DD 名が含まれていません。データベース・リカバリー管理では、変更累積ユーティリティの DB0 制御ステートメントでデータベース名とデータ・セット DD 名の両方を指定する必要があります。

システムの処置: 変更累積ユーティリティの処理は終了します。

ユーザーの処置: エラーのあった DB0 制御ステートメントに、必要な DD 名を追加してから、変更累積ユーティリティを再実行します。

問題判別: 2、3、8

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0709I NO IMAGE COPY OBTAINED
FOLLOWING REORGANIZATION
DBDNAME=*dbdname* DDNAME=*ddname***

説明: GENJCL.CA 処理中にこのメッセージを受け取った場合、メッセージに示されているデータベース・データ・セット (DBDS) またはエリア・データ・セット (ADS) のオフライン再編成が RECON データ・セットに記録されました。しかし、そのオフライン再編成以降に作成された使用可能なイメージ・コピー・データ・セ

ットのレコードがなく、オンライン再編成が行われていません。このメッセージは、CA JCL が GENJCL.CA コマンドで作成されておらずページ時刻を含んでいなければ、CA ユーティリティの処理中に発行されることもあります。

システムの処置: 処理する DBDS が他にある限り、GENJCL.CA の処理は続行します。メッセージ内の *dbname* で示される DBDS は、生成された JCL ジョブから削除されます。処理する DBDS が他にない場合、GENJCL.CA コマンドは失敗します。CA ユーティリティの実行は失敗します。

ユーザーの処置: 次の GENJCL.CA コマンドでは、次の変更累積ユーティリティ用に新しい開始点を使用します。CA ユーティリティが実行中の場合は、新しい GENJCL.CA コマンドを発行してください。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0710I DB0 *ALL OPTION NOT ALLOWED

説明: DB0 SYSIN 制御ステートメントで *ALL パラメーターが指定されたか、または変更累積ユーティリティの実行でデフォルト指定されました。このオプションは、IMS データベース・リカバリー管理がインストールされている場合は無効です。

システムの処置: 変更累積ユーティリティの処理は終了します。

ユーザーの処置: DB0 SYSIN 制御ステートメントの *ALL 指定を、処理対象のデータベース・データ・セットの名前を含む DB0 制御ステートメントで置き換えます。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0712I NO INPUT TO PROCESS FOR CHANGE ACCUMULATION GROUP CAGR*name*

説明: 変更累積グループ内のすべてのデータベース・データ・セットに関して、使用可能な最新の変更レコードが、すでに変更累積ユーティリティによって処理されています。

システムの処置: 変更累積ユーティリティは、どの変更累積データ・セットも処理せずに終了します。

ユーザーの処置: データベースが CA グループに追加されている場合は、その追加されたメンバーについて処理する必要のある変更レコードがある可能性があります。ただし、結果として発生する CA は無効です。STOPTIME は、最後に作成された CA よりも早いからです。最新の CA レコードを RECON から削除するか、または CAGRP でメンバーに対して追加の更新が発生するのを待つ必要があります。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0713I DATABASE DATA SETS BEING PROCESSED ARE NOT DEFINED IN RECON

説明: 変更レコードを累積中のデータベース・データ・セットが、RECON データ・セットに定義されていません。ユーティリティへの入力として使用されるデータ・セットの検査は行われず、結果が RECON データ・セットに記録されることもありません。

システムの処置: 変更累積ユーティリティは処理を継続します。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0714I SPECIFIED PURGETIME IS EARLIER THAN THE CURRENT PURGETIME FOR DBDNAME=*dbname* DDNAME=*ddname* CURRENT PURGETIME *timestamp* IS NOT USED

説明: 変更累積ユーティリティ実行中に、示されているデータベース・データ・セットまたはエリア・データ・セットに対する SYSIN 制御ステートメントで指定された PURGETIME が、現行のページ時刻ではありませんでした。GENJCL.CA コマンドの完了以降に、以下のいずれかが発生した可能性があります。

- 後の方のイメージ・コピーが完了して、RECON に記録されています。
- オンライン再編成が完了しました。オンライン再編成の入力データ・セットに対する変更は不要になりました。そのページ時刻は、そのオンライン再編成の停止時刻として設定されます。

DSP0715E • DSP0717E

- OLDS がアーカイブされ、選択されたページ時刻は、イメージ・コピー・タイプ、割り振り、チェックポイント ID、およびログ・ボリューム上のチェックポイントの数に基づきます。

システムの処置: ログ入力検証される限り、変更累積ユーティリティーの処理は続きます。SYSIN 制御ステートメントで指定された PURGETIME が使用されません。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

変更累積が失敗した場合、失敗は別の理由によるもので、失敗の理由を示す別のメッセージが発行されます。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0715E SPECIFIED PURGETIME IS LATER THAN THE CURRENT PURGETIME FOR DBDNAME=*dbdname* DDNAME=*ddname* CURRENT PURGETIME = *timestamp*

説明: 変更累積ユーティリティー実行中に、示されたデータベース・データ・セットまたはエリア・データ・セットに対する SYSIN 制御ステートメントで指定された PURGETIME が、使用可能なイメージ・コピー・データ・セットまたはオンライン再編成に基づいて DBRC が選択したページ時刻より後です。

GENJCL.CA コマンドの完了以降に、以下のいずれかが起こった可能性があります。

- 最新のイメージ・コピーが、エラーとマークされた。
- オンライン再編成が RECON から削除された。
- イメージ・コピーが RECON から削除された。

システムの処置: 変更累積ユーティリティーによる処理は失敗します。

ユーザーの処置: GENJCL.CA コマンドを発行して、新しい CA JCL を実行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0716I LATER OFFLINE REORGANIZATION FOLLOWING PURGETIME FOR DBDNAME=*dbdname* DDNAME=*ddname*

RUNTIME = *timestamp*

説明: 変更累積ユーティリティー処理中にこのメッセージを受け取った場合、示されたデータベース・データ・セット (DBDS) のオフライン再編成が RECON データ・セットに記録されたが、そのオフライン再編成以降に作成された使用可能なイメージ・コピー・データ・セットのレコードがなく、オンライン再編成が行われていません。メッセージ・テキストの *timestamp* は、オフライン再編成のタイム・スタンプを示します。

システムの処置: SYSIN ステートメントのページ時刻が使用されます。JCL へのログ入力でのオフライン再編成後の変更が見つかった場合、変更累積ユーティリティーは失敗します。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

JCL にオフライン再編成後の変更が含まれていない限り、変更累積ユーティリティーは SYSIN ステートメントのページ時刻を使用して完了します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0717E CHANGES INCLUDED AFTER OFFLINE REORGANIZATION FOR DBDNAME=*dbdname* DDNAME=*ddname*

説明: 変更累積ユーティリティーの処理中に、オフライン再編成後に変更が組み込まれました。

システムの処置: 変更累積ユーティリティーは失敗しません。

ユーザーの処置: 変更累積ユーティリティーが、オフライン再編成後にログを入力として使用しました。新しいイメージ・コピーが必要です。新しいイメージ・コピーを入手した後で GENJCL.CA コマンドを再実行して、その JCL を実行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP メッセージ DSP0801 - DSP0900

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DSP0802I IMAGE COPY INPUT IS REQUIRED FOR RECOVERY

説明: データベース・リカバリー・ユーティリティーの SYSIN 制御ステートメント (または、GENJCL.RECOV コマンドの USEDDBS/USEAREA パラメーター) で、イメージ・コピー・データ・セットをリカバリー処置への入力として使用しないことが示されています。このリカバリー要求の前に、正常なタイム・スタンプ・リカバリーが行われ、データベース・データ・セットがリカバリーされた時刻以降に発生した変更のみを適用すればよい場合に、このオプションは有効です。しかし、データベース・リカバリー・ユーティリティーは、以前のタイム・スタンプ・リカバリー以降にデータベース・データ・セットへの変更が行われたか、または以前のリカバリーでデータベース・データ・セットが別のタイム・スタンプ・リカバリー範囲内の時刻に対して復元されたかのいずれかであると判別しました。したがって、イメージ・コピー・データ・セットを使用した完全リカバリーが必要です。

システムの処置: データベース・リカバリー・ユーティリティーは、処理中の DBDS に対する処理を終了します。DBDS グループのリカバリーが要求された場合、グループの残りのメンバーの処理が継続します。

ユーザーの処置: 完全リカバリーを要求するように SYSIN 制御ステートメント (または GENJCL コマンド) を変更して、ジョブを再実行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0804I DATABASE DATA SET REORGANIZED *timestamp*

説明: 特定のタイム・スタンプへのデータベース・データ・セットのリカバリーが要求されました。しかし、指定されたタイム・スタンプでは、データベース・リカバリー・ユーティリティーへの入力として、データベース・データ・セットの再編成の前後に作成された両方のデータ・セットの使用が必要になるため、これは不可能です。再編成のタイム・スタンプは、メッセージに表示されます。

システムの処置: データベース・リカバリー・ユーティリティーの処理は終了します。

ユーザーの処置: 再編成より前のタイム・スタンプを選

択するか、再編成の後に記録された情報のみが必要なタイム・スタンプを選択します。データベース・データ・セットをそのタイム・スタンプにリカバリーします。データベース・データ・セットを再編成より前の状態にリカバリーする必要がある場合、再編成で DBDLIB データ・セットで保守される情報を変更していれば、DBDLIB の変更が必要になります。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0805I *generic-name* INPUT IS NOT ALLOWED - *ddname* DD STATEMENT IS NOT DUMMY

説明: *generic-name* フィールドで示された入力 (IMAGE COPY、CHANGE ACCUMULATION、または LOG TAPE) は、このデータベース・リカバリー・ユーティリティーの実行への入力に使用できません。*ddname* フィールドで示される DD ステートメントが DUMMY ではありません。省略しない限りは、DUMMY にする必要があります。

システムの処置: データベース・リカバリー・ユーティリティーの処理は終了します。

ユーザーの処置: このファイルはリカバリーに必要ありません。示された DD ステートメントを DUMMY に変更して (または省略して)、ジョブを再実行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0806I PARTIAL RECOVERY OPTION INVALID FOR TRACK RECOVERY

説明: データベース・リカバリー・ユーティリティーの SYSIN 制御ステートメントで、矛盾する情報が指定されました。ステートメントの 2 桁目に、トラック・リカバリーの要求を示す T が含まれ、同じステートメントの 31 から 43 桁目に、タイム・スタンプ・リカバリーの要求を示すタイム・スタンプまたはコメントが含まれています。トラック・リカバリーとタイム・スタンプ・リカバリーは、相互に排他的です。

システムの処置: データベース・リカバリー・ユーティリティーの処理は終了します。

ユーザーの処置: データベース・リカバリー・ユーティリティのいずれのタイプのリカバリーを実行するかを決定し、それに応じて SYSIN 制御ステートメントを変更してから、ジョブを再実行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0807I NO IMAGE COPY OPTION INVALID FOR TRACK RECOVERY

説明: データベース・リカバリー・ユーティリティの SYSIN 制御ステートメントには、以下の両方が含まれています。

- 44 桁目の C。入力としてイメージ・コピー・データ・セットを使用しないことを示します。
- 2 桁目の T。トラック・リカバリーが要求されたことを示します。

トラック・リカバリー要求では、入力としてイメージ・コピー・データ・セットを使用する必要があります。

システムの処置: データベース・リカバリー・ユーティリティの処理は終了します。

ユーザーの処置: 実行すべきリカバリーのタイプを判別し、SYSIN 制御ステートメントの 2 桁目の T または 44 桁目の C のいずれかを除去してから、ジョブを再実行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0808I RECOVERY OF A KSDS INDEX NOT SUPPORTED IN RECON

説明: データベース・リカバリー・ユーティリティが、VSAM キー順データ・セット (KSDS) の索引をリカバリーする要求を処理しました。VSAM キー順データ・セットの索引部分に関する情報は RECON データ・セット内に維持されないため、この機能はリカバリー処置にまったく関与しません。

システムの処置: リカバリー要求の処理は継続します。RECON データ・セットに対して、情報の獲得も書き込みもありません。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

問題判別: 2、3、8

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0809I SPECIFIED TIMESTAMP *timestamp* IS INVALID

説明: 示されたタイム・スタンプ (SYSIN 制御ステートメントで指定されたもの) が無効です。無効文字を含むか、または値が許容範囲内にありません。許容範囲は、GENJCL.RECOV コマンドの説明に定義されています。

システムの処置: データベース・リカバリー・ユーティリティの処理は終了します。

ユーザーの処置: タイム・スタンプを訂正してから、コマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0810I REQUIRED CHANGE ACCUMULATION INPUT NOT FOUND FOR TRACK RECOVERY

説明: トラック・リカバリーでは常に、入力として変更累積データ・セットが必要であるが、RECON データ・セットには、指定されたデータベース・データ・セットに関する変更累積データ・セットのレコードが、最後のイメージ・コピー・データ・セット以後含まれていません。

システムの処置: データベース・リカバリー・ユーティリティの処理は終了します。

ユーザーの処置: トラック・リカバリーを実行する必要がある場合、変更累積ユーティリティを実行して、必要な変更累積データ・セットを取得します。あるいは、データベース・データ・セットの完全リカバリーを実行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0812I USER HAS SPECIFIED A NULL RECOVERY REQUEST

説明: 入力としてイメージ・コピー・データ・セットを指定しないで、データベース・データ・セット (DBDS) のリカバリーが要求されました。これは、タイム・スタンプ・リカバリーの後では有効なオプションです。データベース・リカバリー・ユーティリティは、リカバリ

一される特定の DBDS が、最後のタイム・スタンプ・リカバリー以後に割り振られていないと判断しました。イメージ・コピー・データ・セットがなく、割り振りもないということは、リカバリーを実行するための入力がないことを意味します。

システムの処置: データベース・リカバリー・ユーティリティーは、処理中の DBDS に対する処理を終了します。DBDS グループのリカバリーが要求された場合、グループの残りのメンバーの処理が継続します。

ユーザーの処置: SYSIN 制御ステートメントが正しいかどうか判別します。正しくない場合、入力を訂正してから、ジョブを再実行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0813I DATABASE CHANGES MAY EXIST BEYOND CHANGE ACCUMULATION

説明: RECON データ・セットには、要求されたトラック・リカバリーで使用された最新の変更累積データ・セットによって処理されたログ・ボリュームより、さらに新しいログ・ボリュームのレコードがあります。リカバリーされたトラックには、リカバリー処置の前にデータベース・データ・セット内の該当トラックに対して行われた最新の変更が含まれていない可能性もあります。

システムの処置: データベース・リカバリー・ユーティリティーの処理は継続します。

ユーザーの処置: 変更累積ユーティリティーを実行して、変更累積データ・セットに最新の変更を反映してから、トラック・リカバリーを再実行し、最新の変更が含まれるようにします。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

DSP0814I DATABASE DATA SET NOT FOUND IN CHANGE ACCUMULATION GROUP CAGRP=*name*

説明: データベース・リカバリー・ユーティリティーの実行中に、データベース・データ・セットのリカバリーに使用される変更累積データ・セットに関して、RECON データ・セット内で矛盾する情報が検出されました。RECON データ・セットの DBDS レコードでは、リカバリーされるデータベース・データ・セットが、メッセージに示されている変更累積グループのメンバーであることが指定されています。しかし、RECON データ・セットの変更累積グループ・レコードでは、データベース・データ・セットがこの変更累積グループの

メンバーであることを示していません。

システムの処置: データベース・リカバリー・ユーティリティーの処理は、入力として変更累積データ・セットを使用せずに継続します。

ユーザーの処置: RECON データ・セットのリストを入手して、矛盾した情報が存在する場所を判別します。問題を訂正するには、まず変更累積グループを削除します。これにより、この変更累積グループの既存の全変更累積データ・セットが削除されます。次に、変更累積グループおよび対応する変更累積データ・セット (空と見なされる) を RECON データ・セット内で再定義します。その後、失敗したジョブを再実行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0815I NO USABLE IMAGE COPY AVAILABLE FOR RECOVERY

説明: データベース・データ・セットを要求状態に復元するのに使用可能なイメージ・コピー・データ・セットが存在しないため、リカバリー要求を実行できません。ユーザー・イメージ・コピー (標準外イメージ・コピー) をリカバリーに使用できません。「ユーザーの応答」の注釈を参照してください。

システムの処置: データベース・リカバリー・ユーティリティーの処理は終了します。

ユーザーの処置: RECON データ・セットより、データベース・データ・セットに対するイメージ・コピー・データ・セットが存在するかどうかを判別します。存在する場合、以前に行ったデータベース・データ・セットのタイム・スタンプ・リカバリーのために使用不能であるか、または無効とマークされているために使用不能であるかのいずれかです。データベース・データ・セットをリカバリーする別のタイム・スタンプを指定して、有効なイメージ・コピー・データ・セットが選択されるようにします。その後、ジョブを再実行します。標準外イメージ・コピーを使用してデータベースをリカバリーするには、まず、標準外イメージ・コピーから DBDS を復元します。次に、RCVTIME (IC ランタイム) を指定した NOTIFY.RECOV コマンドを入力して、この復元を RECON に記録します。USEDDBDS パラメーターを指定して、GENJCL.RECOV コマンドを発行します。現行の状態のデータベースに変更を加えるための JCL が生成されます。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0816I INVALID RECOVERY OPTION
 SPECIFIED IN CONTROL
 STATEMENT**

説明: データベース・リカバリー・ユーティリティーの SYSIN 制御ステートメントの 57 桁目が、C でもブランクでもありません。

システムの処置: データベース・リカバリー・ユーティリティーの処理は終了します。

ユーザーの処置: 制御ステートメントのエラーを訂正してから、ジョブを再実行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0817I CHANGE ACCUMULATION GROUP
 RECORD NOT FOUND IN RECON
 CAGRP=name**

説明: データベース・データ・セットのリカバリー中に、このデータベース・データ・セットのヘッダー・レコードは、これがメッセージにリストされた変更累積グループのメンバーであることを示しているが、RECON データ・セットにはその変更累積グループは存在しません。これは、RECON データ・セット内に不整合があることを示します。

システムの処置: データベース・リカバリー・ユーティリティーの処理は終了します。

ユーザーの処置: RECON データ・セットのリストを入手して、不整合が存在する場所を判別します。必要なリカバリー管理ユーティリティーのコマンドを使用して、RECON データ・セットを整合した状態に復元してから、失敗したジョブを再実行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP0818I LOGS USED FOR PRIOR RECOVERY
 ARE NOT USABLE**

説明: 次の一連のイベントが前に起きたため、リカバリーされるデータベース・データ・セットが正しく復元されるかどうか、DBRC は判別できません。

- 特定のログ・ボリューム (通常は、1 次ログ・ボリューム) のセットを使用して、データベース・データ・セットに対するタイム・スタンプ・リカバリーが実行された。
- タイム・スタンプ・リカバリーの後、データベース・データ・セットからイメージ・コピーが作成されなかった。
- タイム・スタンプ・リカバリーで使用された 1 つ以上のログ・ボリュームが、RECON データ・セット内で、入出力エラーのマークが付けられた。
- データベース・データ・セットが変更された。
- 処理中のリカバリー要求は、以前に行ったタイム・スタンプ・リカバリーのときのタイム・スタンプより前のタイム・スタンプに、データベース・データ・セットを復元しようとしている。この一連の状況での問題は、前に行われた部分リカバリーの結果を失う可能性があることです。
- 重複ロギング・モードでは、リカバリーに必要な変更累積データ・セットは、変更累積ユーティリティーの実行以後、エラーのマークを付けられた PRILOG 項目を含む。

現行のリカバリー要求は次のように処理されます。

- タイム・スタンプ・リカバリーより前の、最新のイメージ・コピーが使用される。
- タイム・スタンプ・リカバリーに使用されたログ・ボリュームの入出力エラーのため、別のログ・ボリューム (通常は、2 次ログ・ボリューム) のセットが使用される。IMS の 1 次ログ・ボリュームおよび 2 次ログ・ボリュームはボリューム終了で同期化されません。したがって、タイム・スタンプ・リカバリー要求で使用されたボリュームには存在しなかったデータベース変更が、現行リカバリー要求で使用されるログ・ボリュームの新しいセット上には存在する可能性もあります。最終的な結果として、リカバリーされたデータベース・データ・セットには、前のタイム・スタンプ・リカバリーの結果が反映されないこともあります。
- エラーのマークが付いた PRILOG 項目に対応する SECLOG 項目が、生成される JCL に含まれる。

システムの処置: データベース・リカバリー・ユーティリティーの処理は継続します。

ユーザーの処置: 復元されたデータベース・データ・セットを調べて、要求状態にリカバリーされているかどうかを確認します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0819I RECOVERY REQUEST REQUIRES AN OPEN LOG VOLUME

説明: リカバリー要求で、RECON データ・セットにボリューム停止時刻が記録されていないログ・ボリュームが要求されました。ボリュームは、RECON データ・セットに停止時刻が記録されるまでは、リカバリーで使用可能とは見なされません。

システムの処置: データベース・リカバリー・ユーティリティーの処理は終了します。

ユーザーの処置: RECON データ・セットに終了のレコードが追加されずにボリュームが正常に終了した場合、CHANGE.PRILOG または CHANGE.SECLOG コマンドを使用して、この情報を RECON データ・セットに追加します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0821I TRACK RECOVERY OPTION INVALID FOR NON-VSAM DATA SET

説明: データベース・リカバリー・ユーティリティーの制御ステートメントでトラック・リカバリーが要求されました。トラック・リカバリー処置が要求されたデータベース・データ・セットが VSAM データ・セットでないため、リカバリーを実行できません。

システムの処置: データベース・リカバリー・ユーティリティーの処理は終了します。

ユーザーの処置: データベース・データ・セットが正しく指定されなかった場合、制御ステートメントを訂正します。データベース・データ・セットが正しく指定され、その中に永続入出力エラーがあるためにリカバリーが必要な場合、データベース・リカバリー・ユーティリティーの制御ステートメントで完全リカバリーを指定します。いずれの場合も、制御ステートメントを訂正してから、ジョブを再実行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0822I RECOVERY REQUESTED TO TIMESTAMP *timestamp* DBD=*dbdname* *xxxx=name*

説明: このメッセージは、データベース・リカバリー・

ユーティリティーの実行で、示されたタイム・スタンプへのリカバリーが要求されたことを示します。*xxxx* が AREA の場合、*name* はエリア名です。*xxxx* が DDN の場合、*name* は *ddn* 名です。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0823I RECOVERY REQUEST INCONSISTENT WITH RECON ALLOC RECORD OF ALLOCTIME *timestamp*

説明: 示されたタイム・スタンプへのリカバリー要求の処理中に、DBRC が RECON データ・セット内で、要求されたリカバリーと不整合な状態を検出しました。このメッセージが発行される原因となった状態は、以下のとおりです。

- 要求されたリカバリー時刻をまたがる更新を含む PRILOG レコードに対応する ALLOC レコードが見つかった。
- 停止時刻またはボリューム終了時刻が、要求されたリカバリー時刻より後であり、要求されたリカバリー時刻と停止時刻またはボリューム終了時刻との間で更新が行われた PRILOG レコードに対応する ALLOC レコードが見つかった。

メッセージは、不整合を判別するために使用すべき割り振りレコードを示しています。

ユーザーの処置: 割り振り時刻、要求されたリカバリー時刻、および RECON データ・セットのリストを使用して不整合を判別します。割り振り時刻は、不整合が検出された時に処理されていた ALLOC レコードを識別します。ALLOC レコードの開始時刻を使用して、関連する PRILOG レコードを見つけ、これらのレコード内の情報を分析します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0828I NO USEABLE IC TO RECEIVE FOR DBD *dbdname* DDN/AREA *ddname/areaname*

説明: DBRC が、GENJCL.RECEIVE または NOTIFY.RECOV コマンドの実行中に、使用可能なイメ

ージ・コピーを検出できませんでした。使用可能なイメージ・コピーには、次の特性があります。

- 『in error』 というフラグが立てられていない。
- IMS バッチ・イメージ・コピー・ユーティリティにより作成された。
- トラッキング・サイトで更新が受け取られた後で作成された。

システムの処置: コマンドは終了します。

システム・プログラマーの応答: 使用可能なイメージ・コピー・データ・セットをアクティブ・サイトで作成し、それをトラッキング・サイトに送信し、NOTIFY を使用して RECON に登録します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

モジュール: DSPURVTN

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0829I NO IMAGE COPY AFTER A POINT-IN-TIME RECOVERY

説明: GENJCL.RECOV コマンドまたはデータベース・リカバリー・ユーティリティの実行中に、DBRC は、PITR パラメーターを指定したリカバリー・ユーティリティ (以前に作成された) への入力が必要であることを判別しました。この後の PITR リカバリーではコミット済みデータのみが適用され、そのためバックアウト・レコードが除去される可能性があるため、DBRC はデータベースの健全性を保証できません。コマンドまたはユーティリティ、あるいはその両方は失敗します。

システムの処置: GENJCL.RECOV コマンドは失敗し、後続のコマンドはスキップされます。このエラーがユーティリティの実行中に検出された場合、リカバリーは終了します。

ユーザーの処置: 時刻指定リカバリーの後、後続のリカバリーが有効な開始点を持つようにするために、イメージ・コピーを取る必要があります。データベースの健全性が損なわれないことがわかっている場合、DBRC DELETE.RECOV コマンドを使用して RECOV を削除してから、ジョブを再実行します。それ以外の場合、RECOV レコードを削除してから、データベース・リカバリー・サービスを使用してデータベースをリカバリーし、PITR パラメーターを指定します。例えば、元の PITR リカバリーを再作成します。その後、データベースを使用する前に、イメージ・コピーを取ります。

モジュール: DSPURVIN

DSP0830I RECOVERY REQUEST INCONSISTENT WITH ONLINE REORG RUNTIME timestamp

説明: RECON データ・セットに矛盾する情報が検出されたため、要求されたリカバリーは無効です。次のいずれかが発生しました。

- HALDB OLR が完全リカバリーより前に完了しており、示された HALDB OLR レコードはリカバリーへの入力として使用できません。
- リカバリー終了時刻が HALDB OLR 内にあるため、タイム・スタンプ・リカバリーは許可されません。

システムの処置: 処理は終了します。RECON データ・セットは更新されません。リカバリーへの入力として HALDB OLR レコードを使用できない場合は、有効なタイム・スタンプを選択するか、またはアクティブな DBDS をリカバリーします。リカバリー終了時刻が HALDB OLR 内にある場合は、有効なタイム・スタンプを選択します。

プログラマーの応答: 追加の支援が必要な場合は、IBM サポートに連絡してください。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0831I ONLINE REORG INPUT NOT VALID FOR RECOVERY

説明: USEOLRRG を指定して GENJCL.RECOV コマンドが発行されましたが、DBRC は代りにイメージ・コピーが必要であると判別しました。

システムの処置: 処理は終了します。コマンドは失敗します。RECON の内容を検討して、適切なコマンドを再発行します。

プログラマーの応答: 追加の支援が必要な場合は、IBM サポートに連絡してください。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0832I FULL RECOVERY NOT ALLOWED FOR AN INACTIVE DBDS

説明: DBDS の完全リカバリーが要求されました。しかし、指定された DBDS は HALDB 区画の非アクティブ DBDS です。

システムの処置: GENJCL.RECOV コマンドまたはデータベース・リカバリー・ユーティリティーは、DBDS に対する処理を終了します。

プログラマーの応答: GENJCL.RECOV コマンドまたは SYSIN 制御ステートメントが正しいかどうか判断します。正しくない場合は、訂正してから、ジョブを再実行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

モジュール: DSPURVIN

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0833I ONLINE REORG INPUT IS BEING USED FOR RECOVERY DBD=*dbname* DDN=*ddname*

説明: このメッセージは、示された DBDS のリカバリーが HALDB OLR をリカバリーの開始点として使用して実行されることを示します。データベースをリカバリーするときに、前回のオンライン再編成以降のイメージ・コピーがない場合、このメッセージが出されます。この場合、オンライン再編成の結果としてデータベース内のすべてのセグメントがログに記録されるため、リカバリーにイメージ・コピーは必要ありません。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

モジュール: DSPURVIN

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP0834I TIMESTAMP RECOVERY NOT ALLOWED FOR AN INACTIVE DBDS

説明: ある区画 DBDS について、タイム・スタンプ・リカバリーの実行または JCL の生成が試みられましたが、この DBDS はリカバリー・ポイントの時点でアクティブではありませんでした。

システムの処置: リカバリーまたは GENJCL ジョブは失敗します。

プログラマーの応答: DBDS が非アクティブだったことを確認してください。この DBDS がアクティブだったときの適切なタイム・スタンプを選択するか、またはアクティブな DBDS をリカバリーします。

モジュール: DSPURVIN

DSP0835I GENJCL SKIPPING INACTIVE DBDS DBD=*dbname* DDN=*ddname*

説明: HALDB 区画について、GENJCL.RECOV コマンドが要求されました。リカバリー時点で非アクティブだった DBDS は、スキップされています。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: 必要ありません。

モジュール: DSPURVIN

DSP0836I RESET OUTPUT DATA SET FOR ONLINE REORG DBD=*ddddddd* DDN=*nnnnnnnn*

説明: この HALDB 区画に対して GENJCL.RECOV コマンドまたはリカバリーが実行されました。このメッセージは、DBDS が終了前にまだ HALDB オンライン再編成によって更新されていないことを報告します。このリカバリーに必要なログはありません。HALDB オンライン再編成が再開できるように、データ・セットはリセットされます。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: ありません。

モジュール: DSPURVIN

DSP0837E ONLINE REORG INPUT IS INVALID FOR THIS NON-RECOVERABLE DATABASE

説明: オンライン再編成は、リカバリーの開始点として選択されます。この区画データベースはリカバリー可能でないため、オンライン再編成用に変更が記録されません。このメッセージの前に、データ・セットを示すメッセージ DSP0833I が発行されます。

システムの処置: ジョブは失敗します。

プログラマーの応答: イメージ・コピーが存在する場合は、RESTORE オプションを指定して最新のイメージ・コピーへのタイム・スタンプ・リカバリーを実行できません。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

モジュール: DSPURVIN

関連情報:

『DSP0833I』

DSP0838A A PURGE OF LOG RECORDS IS REQUIRED FOR THIS RECOVERY REQUEST DBDNAME=*dbdname* DDNAME=*ddname*

説明: GENJCL.RECOV コマンドまたは IMS データベース・リカバリー・ユーティリティの実行中に、このリカバリーに対して使用されている HALDB オンライン再編成の実行時間前にログで更新が見つかりました。このリカバリーを実行する前に、この更新をログから消去する必要があります。

システムの処置: GENJCL.RECOV コマンドまたは IMS データベース・リカバリー・ユーティリティの実行は失敗しました。

プログラマーの応答: HALDB オンライン再編成の前に変更累積ユーティリティを実行してログ・レコードを消去し、データベース・データ・セットをリカバリーします。

DSP メッセージ DSP1001 - DSP1050

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DSP1015I INCONSISTENT RLDS/SLDS RECORDS, SSID=*subsystem_name* START TIME=*timestamp*

説明: IMS 要求の処理中に、DBRC は OLDS、PRILOG、または PRISLDS レコード間の矛盾を検出しました。 *timestamp* は、存在するレコードの開始時刻であり、それに対応する PRILOG または PRISLDS レコードが存在していなければなりません (しかし、存在していません)。

システムの処置: DBRC は IMS にエラー・コードを戻します。 IMS は異常終了するか、またはメッセージを出力してから終了します。

プログラマーの応答: 継続する前に、不整合を訂正する必要があります。サービスまたは保守プロセスを開始して、問題を診断し、解決します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト

モジュール: DSPQLOGS、DSPTLG00

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

オペレーターの応答: コマンドを訂正して、有効な DBDS グループの名前を指定します。このコマンドおよび処理されなかった他のコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト

モジュール: DSPJCMAL、DSPURPHI

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1023I PARAMETER INVALID FOR DBD=*database name*

または

PARAMETER INVALID FOR DBD=*database name* AREA=*area name*

説明: 次のいずれかのエラーが発生しました。

- パラメーター GSGNAME、NOTCOVER、RCVTRACK、DBTRACK を指定して CHANGE.DB コマンドが発行されました。これらのパラメーターは、高速機能 DEDB では使用できません。
- 許可されていないリカバリー不能またはユーザー・リカバリー可能データベースに対して、GSGNAME を指定した CHANGE.DB が発行されました。
- カバーされた DL/I データベースに対して、TYPEFP、USERRCOV、または NONRECOV パラメーターを指定し NOTCOVER パラメーターを指定せずに CHANGE.DB コマンドが発行されました。
- 変更累積グループの一部であるデータベースに対して USERRCOV パラメーターを指定した CHANGE.DB コマンドが発行されました。
- カバーされていないデータベースまたはエリアに対して、GENJCL.RECEIVE は無効です。
- DL/I データベースに対して USERRCOV パラメーターを指定した INIT.DB コマンドが発行されました。

DSP1018I GROUP *grpname* IS NOT A VALID DBDS GROUP

説明: 示されたグループが RECON で DB グループまたは RECOV グループとして初期設定されました。つまり、DBGRP キーワードまたは RECOVGRP キーワードを指定して INIT.DBDSGROUP コマンドが使用されました。 GENJCL コマンドまたは LIST.HISTORY コマンドの GROUP キーワードで指定するグループ名は、DBDS グループまたは CA グループのいずれかでなければなりません。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

- 高速機能エリアに対して、GSGNAME、RCVTRACK、または DBTRACK のパラメーターの 1 つを指定して INIT.DBDS コマンドが発行されました。しかし、この DEDB はリカバリー不能 (unrecoverable) またはユーザー・リカバリー可能 (User-Recoverable) と定義されており、これらのパラメーターは、リカバリー不能またはユーザー・リカバリー可能データベースに対しては使用できません。
- OLRIMSID()、NOOWNER、OLRDBDS(A|M)、OLRRGON、または OLRRGOFF を変更するために CHANGE.DB コマンドが指定されて、REORG INTENT フラグがオンになっているか、あるいは、静止が進行中であるか、区画データベースに対して静止保留フラグがオンになっています。

システムの処置: コマンドは終了し、後続のコマンドは無視されます。

オペレーターの応答: 正しいパラメーターを指定してコマンドを再発行します。

OLRIMSID()、NOOWNER、OLRDBDS(A|M)、OLRRGON、または OLRRGOFF パラメーターが指定された CHANGE.DB コマンドの場合、データベースの再編成または静止が終了するまで待機します。オンになっているフラグでエラーが発生している場合は、CHANGE.DB コマンドを発行してフラグをオフに設定します。コマンドを再発行してください。

モジュール: DSPURCM8、DSPURS00、DSPURM10

DSP1031I STARTIME/TOTIME OR SSID WAS NOT GIVEN

説明: タイム・スタンプまたは SSID パラメーターを必要とするコマンドが、このパラメーターなしで発行されました。

システムの処置: コマンドは処理されません。

オペレーターの応答: 適切なパラメーターを指定してコマンドを再発行します。

モジュール: DSPTSIGN、DSPURD65

DSP1033I LOG CONTAINS MORE THAN ONE DSN, DSN=*data set name*

説明: DSN パラメーターを指定した DELETE.LOG コマンドが発行されました。STARTIME により指定されたログ・レコードのいずれかに、示されたデータ・セット名を持つ RECON 内の複数のデータ・セット項目が含まれていました。

システムの処置: コマンドは処理されません。

オペレーターの応答: 重複した項目のいずれかのデー

タ・セット名を訂正してから、コマンドを再発行します。

モジュール: DSPURD60

DSP1034I LOG DOES NOT CONTAIN DATA SET

説明: DSN パラメーターを指定した DELETE.LOG コマンドが発行されました。RECON 内に、指定されたデータ・セット名を持つデータ・セット項目がないか、または指定されたタイム・スタンプが見つかりませんでした。

システムの処置: コマンドは処理されません。

オペレーターの応答: RECON 内にこのデータ・セット名が存在しているかどうかを確認してから、コマンドを再発行します。LIST.RECON コマンドを使用すると、項目を調べて、元の失敗したコマンドに使用されたパラメーターと照合して検査することができます。

モジュール: DSPURD60

DSP1039I DEFAULT OF NOCIC USED

説明: CIC または NOCIC のどちらのキーワードも指定されずに、GENJCL.IC コマンドが発行されました。DBDS エリアまたは DEDB エリアは、ユーザー・リカバリー可能 DEDB であったか、またはリカバリー不能であったため、デフォルトの NOCIC が使用されました。

システムの処置: 処理は続行されます。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DSPJICMG

DSP1040I SPECIFIED DSN FOUND MORE THAN ONCE WITH DIFFERENT LSN RANGES

説明: DSN キーワードを指定した DELETE.LOG コマンドが発行されました。STARTIME で指定された複数の RLDS および SLDS レコード内でデータ・セットの項目が見つかったが、別のログ・シーケンス番号 (LSN) の範囲でした。

システムの処置: コマンドは終了し、後続のコマンドは無視されます。

プログラマーの応答: 指定されたデータ・セットの項目を含む RLDS および SLDS レコードを削除し、NOTIFY を使用して、正しいログ・シーケンス番号でレコードを再作成します。

モジュール: DSPURD60

DSP1045E REORG INTENT CHANGE IS NOT ALLOWED FOR DATABASE
DBNAME REASON: reason

説明: データベースを再編成しようとしているか、または再編成が完了したかを示すために、このデータベースに対して、CHANGE.DB REORGI または NOREORGI コマンドが発行されました。メッセージの中で DBNAME で示されているデータベースは、コマンドで使用された名前です。

reason は次のいずれかです。

BATCH SUBSYSTEM AUTHORIZED ssid

バッチ・サブシステムは、現在、データベースに対する権限が与えられています。データベースに対して権限が与えられているバッチ・サブシステムがある場合は、そのデータベースを再編成できません。すべてのバッチ・ジョブが正常に処理を終了したときに、コマンドを再試行します。HALDB を処理中の場合、ssid は表示されることがあり、またリストされません。

HALDB OLR ACTIVE

HALDB OLR (オンライン再編成) が現在実行中であり、区画データベースについて次の状況が RECON に設定されています。

- OLREORG CURSOR ACTIVE = YES
- OLRIMSID=imsid (IMS が OLR を所有)

INVALID DATABASE TYPE

有効なデータベース・タイプは、全機能データベース (HALDB を含む) です。

REORG INTENT IS ALREADY SET ON

REORG INTENT フラグはすでにオンに設定されています。

REORG INTENT IS ALREADY SET OFF

REORG INTENT フラグはすでにオフに設定されています。

NO SUBSYSTEM ssid

データベースに対する権限が与えられているとしてリストされたサブシステムについて、サブシステム・レコードが見つかりませんでした。HALDB を処理中の場合、ssid は表示されることがあり、またリストされません。

ERROR LOCATING SUBSYSTEM ssid

データベースに対する権限が与えられているとしてリストされたサブシステムについてサブシステム・レコードを見つけようとしている間に、入出力エラーが検出されました。HALDB を処理中の場合、ssid は表示されることがあり、またリストされません。

システムの処置: コマンドは失敗します。DBD が HALDB の場合、この HALDB のすべての区画データベースについてこのコマンドが失敗しました。システム

は、後続のコマンドまたは区画データベースを処理しません。

ユーザーの処置: エラー状態を訂正して、適切であればコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、および RECON データ・セットのリスト。

モジュール: DSPURM10

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1047I DELETED DSN=data_set_name, FILESEQ=nnnn,VOLSER=vvvvvv(...)

または

DELETED DSN=data_set_name FILESEQ=nnnn,VOLSER=vvvvvv(...)
VOLSER=vvvvvv(...)

説明: DELETE.LOG コマンドが発行されたため、またはログ・レコードがしきい値を超えた後にログ圧縮が発生したため、ログ・データ・セットが RECON データ・セットから削除されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

data_set_name

削除されたデータ・セットの名前

nnnn DBRC によって RECON データ・セット内に記録されるファイル・シーケンス番号

vvvvvv ボリューム通し番号

このメッセージは、すべてのボリューム通し番号をリストするために、必要に応じて繰り返されることがあります。メッセージ・テキストは、データ・セット名が 1 行で収まらない場合は、上記に示されるように複数行にまたがります。

CATDS オプションが使用される場合、ファイル・シーケンス番号およびボリューム通し番号はリストされません。OLDS がアーカイブされた時に RLDS が作成されなかった場合、重複したデータ・セット名 (SLDS の DSN) がリストされます。

システムの処置: RECON 内のログ・レコードからデータ・セット項目が除去されるか、または RECON からログ・レコード全体が削除されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

このメッセージは、DELETE.LOG コマンドで LISTDL が指定されたため、またはそれがデフォルトであるため、発行されます。このメッセージを出力しないようにするには、CHANGE.RECON コマンドを使用して、デフォ

ルトとして NOLISTDL を指定するか、または DELETE.LOG コマンドで NOLISTDL を指定します。

モジュール: DSPDSN00

DSP1048I INVALID LOGRET TIME INTERVAL

または

INVALID LOGRET|RETPRD TIME INTERVAL

説明: LOGRET または RETPRD キーワードに指定された時間間隔が無効です。無効な値を説明するメッセージ DSP0106I が、このメッセージの前に出力されることがあります。指定される間隔は、ゼロであってはなりません。また、365 日を超えてはなりません。

システムの処置: このコマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: 無効な時間間隔を訂正します。失敗したコマンド、および処理されなかった他のコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8

モジュール: DSPURS00, DSPURC00

関連情報:

162 ページの『DSP0106I』

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP1049I INSUFFICIENT STORAGE
 AVAILABLE TO LIST DATA SETS**

説明: このメッセージが発行されるのは、RECON データ・セットから削除されるログ・データ・セット名をリストするとき、削除されるすべてのデータ・セットをリストするのに必要なストレージが不足している場合です。ログ・データ・セットは、DELETE.LOG コマンドまたはアーカイブ・ジョブ中のログ圧縮のいずれかによって削除されます。

DSP メッセージ DSP1051 - DSP1100

ここでは、次のメッセージについて説明します。

**DSP1051I DBD MEMBER *dbname* IS NOT A
 HALDB**

説明: メンバー *dbname* が DBD ライブラリーから読み取られたが、HALDB として定義されていません。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: *dbname* を訂正するか、または DBD メンバーを HALDB として定義します。その後、コマンドを再発行します。

システムの処置: このメッセージの原因が DELETE.LOG コマンドである場合、コマンドは失敗し、後続のコマンドは実行されません。

このメッセージがアーカイブ・ジョブ中に出力された場合、ジョブは完了します。ジョブが正常に完了すると、ログ圧縮が行われ、1 つ以上のログ・データ・セットがリストされることもなく削除されます。

プログラマーの応答: JOB または EXEC ステートメントで指定される REGION サイズを増やして、より多くのストレージをジョブで使用可能にするか、または NOLISTDL オプションを指定してジョブを実行します。NOLISTDL は DELETE.LOG コマンドで指定するか、または CHANGE.RECON コマンドでデフォルトとすることができます。

モジュール: DSPDSN00

**DSP1050I DATABASE NOT DEFINED IN DBD
 LIBRARY DBD=*dbname***

説明: *dbname* で示されたメンバーが、DBRC に識別された DBD ライブラリー内に存在しません。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: *dbname* を訂正するか、正しい DBD ライブラリーを指定するか、または DBD ライブラリーにメンバーを追加します。その後、コマンドを再発行します。

問題判別: 2、3

モジュール: DSPUDB00

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

問題判別: 2、3

モジュール: DSPUDB00, DFSURMPT, DSPURSPT

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP1052I DATABASE *dbname* IS IN USE BY
 HALDB PARTITION DEFINITION
 UTILITY**

説明: HALDB が HALDB 区画定義ユーティリティー

DSP1053I • DSP1057I

の制御下にある場合は、DBRC によって HALDB を変更できません。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: DBRC または区画定義ユーティリティーのいずれか一方のみを使用して、変更を加えません。

問題判別: 2、3

モジュール: DSPURCM8、DSPURDPT、DSPURD10、DSPURMPT、DSPURSPT

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1053I KEYSTRNG LENGTH MUST BE AN EVEN NUMBER WHEN A HEX VALUE

説明: KEYSTRNG 値が 16 進数 (X'0FACDE' の形式) で入力されたが、16 進文字の数が偶数ではありません。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: 正しい 16 進数値を指定して、ジョブを再実行します。

問題判別: 2、3

モジュール: DSPURMPT、DSPURSPT

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1054I dbname partname ALREADY DEFINED TO DBRC

説明: INIT.PART コマンドで指定した区画がすでに存在しています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dbname この区画を含むデータベース。

partname

すでに DBRC に定義されている区画。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: 区画名を訂正してから、コマンドを再発行します。

問題判別: 2、3

モジュール: DSPURSPT

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1055I PARTITION NAME partname IS GREATER THAN 7 CHARACTERS

説明: INIT.PART コマンドで指定された区画名 (*partname*) は、7 文字を超えてはなりません。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: 区画名を 7 文字以下で指定して、コマンドを再発行します。

問題判別: 2、3

モジュール: DSPURDPT、DSPURSPT

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1056I DSNPREFIX IS LONGER THAN 37 CHARACTERS

説明: INIT.PART コマンドで指定された DSNPREFIX 名が 37 文字を超えています。DBRC では、DSNPREFIX の後に 7 文字の接尾部 (ピリオド . で始まる) を追加してデータ・セット名 (44 文字までの制限あり) を構成するため、DSNPREFIX は最大 37 文字に制限されます。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: DSNPREFIX を 37 文字以下で指定して、コマンドを再発行します。

問題判別: 2、3

モジュール: DSPURMPT、DSPURSPT

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1057I KEYSTRNG PARAMETER (HIGH KEY VALUE) IS REQUIRED

説明: 区画選択出口が定義されていない HALDB に対して、INIT.PART コマンドに KEYSTRNG パラメーターが指定されませんでした。区画選択出口がない場合、KEYSTRNG パラメーターで指定されるハイ・キー値を各区画に定義する必要があります。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: KEYSTRNG 値を指定するか、または HALDB に区画選択出口を定義してから、コマンドを再発行します。

問題判別: 2、3

モジュール: DSPURSPT

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1058I KEYSTRNG PARAMETER (HIGH KEY VALUE) IS TOO LONG, MAX= *mmm*

説明: KEYSTRNG パラメーターが、この HALDB に許可されている最大長を超えました。許可されている最大長は、ルート・セグメント・キーの長さであり、*mmm* で示されています。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: KEYSTRNG 値を訂正してから、コマンドを再発行します。

問題判別: 2、3

モジュール: DSPURMPT、DSPURSPT

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1060I *parameter* NOT ALLOWED FOR NON PHDAM DATABASE

説明: PHDAM データベース以外の HALDB に対する INIT.PART コマンドで、PHDAM データベースにのみ使用可能なパラメーター (*parameter*) が指定されました。このパラメーターには、RANDOMZR、ANCHOR、HIBLOCK、または BYTES があります。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: このパラメーターを除去してから、コマンドを再発行します。

問題判別: 2、3

モジュール: DSPURMPT、DSPURSPT

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1061I FBFF VALUE CANNOT BE 1

説明: FBFF (フリー・ブロック頻度係数) は、1 を除く、0 から 100 の範囲の数が可能です。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: FBFF 値を訂正してから、コマンドを再発行します。

問題判別: 2、3

モジュール: DSPURMPT、DSPURSPT

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1062I MORE BLOCKSZE VALUES SPECIFIED THAN DATASET GROUP NUMBER

説明: データ・セット・グループ数より多い数の BLOCKSZE 値が、コマンドで指定されました。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: データ・セット・グループ数と等しいか、それより少ない数の BLOCKSZE 値を指定して、コマンドを再実行依頼してください。

問題判別: 2、3

モジュール: DSPURMPT、DSPURSPT

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1063I BLOCKSZE VALUE *number* MUST BE AN EVEN NUMBER

説明: BLOCKSZE 値に指定できるのは、32,766 以下の偶数です。少なくとも 1 つの値で、偶数でないものが指定されています。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: 該当の BLOCKSZE 値を訂正し (さらに、すべての値を検査し)、コマンドを再発行します。

問題判別: 2、3

モジュール: DSPURMPT、DSPURSPT

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1064I KEYSTRNG (HIGH KEY VALUE) MUST BE UNIQUE, DBD= *dbname* PART= *partname*

説明: INIT.PART コマンドの KEYSTRNG パラメーターで指定されたハイ・キー値が、既存の区画のハイ・キー値と同じです。ハイ・キー値は、区画ごとに固有でなければなりません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dbname この区画を含むデータベース。

partname

同じハイ・キー値を持つ、既存の区画。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: 固有のハイ・キー値を指定して、コマンドを再発行します。

問題判別: 2、3

モジュール: DSPURMPT、DSPURSPT

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP1065I INIT COMMAND FAILED, RC= *rc*
RSN=*rsn***説明: INIT.PART コマンドが、戻りコード *rc* および理由コード *rsn* で失敗しました。通常、これは、RECON データ・セットでエラーが発生したことが原因です。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: 訂正処置は、メッセージが RECON に関する問題を示しているかどうかによって異なります。RECON についての訂正可能な問題である場合、RECON を修復してから、コマンドを再発行します。そうでない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

問題判別: 2、3

モジュール: DSPURSPT

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP1066I KEYSTRNG CONTAINS AN
INVALID HEX VALUE**

説明: KEYSTRNG 値が 16 進文字 (X'0FACDE' の形式) で入力されたが、無効な 16 進文字が含まれています。有効な 16 進文字は、0、1、2、3、4、5、6、7、8、9、A、B、C、D、E、および F です。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: 16 進値を訂正してから、コマンドを再発行します。

問題判別: 2、3

モジュール: DSPURMPT、DSPURSPT

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP1067I PARTITION NAME *partname* IS NOT
UNIQUE**説明: INIT.PART コマンドの PART パラメーターで指定された名前 (*partname* で示される) が、HALDB マスター、別の区画、または非区画データベースのいずれかにすでに存在します。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: 別の区画名を選択して、コマンドを再発行します。

問題判別: 2、3

モジュール: DSPURSPT

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP1068I KEYSTRNG PARAMETER LONGER
THAN 256 or 512 HEX**

説明: KEYSTRNG パラメーターの最大長は 256 文字です。16 進数値で指定された場合、2 つの 16 進文字で 1 つの 16 進数値になるので、最大長は 512 です。例えば、ストリング X'AB' では引用符の中に 2 文字が含まれていますが、結果は 1 バイトになります。絶対的な最大値は 256 であるが、KEYSTRNG がハイ・キー値を定義している場合 (区画選択ストリングとは対照的に)、最大長は、ルート・セグメント・キーに対して定義された長さに制限されます。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: 256 バイトを超えない値 (または、ハイ・キー値に関しては、ルート・セグメント・キー長を超えない値) を指定します。

問題判別: 2、3

モジュール: DSPURMPT、DSPURSPT

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP1069I ALREADY AT MAX NUMBER OF
PARTITIONS**

説明: HALDB に対して最大数の区画 (1,001) がすでに定義されているため、INIT.PART コマンドが失敗しました。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: この状態は、パラメーターの修正およびコマンドの再発行では訂正できません。IBM ソフトウェア・サポートへの連絡を DBA に依頼して、支援を受けてください。

問題判別: 2、3

モジュール: DSPURSPT

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1070I CANNOT INSERT PARTITION, NEXT ONE IS AUTHORIZED

説明: 次の区画が使用中 (許可されている) のため、区画を挿入する試みが失敗しました。INIT.PART コマンドの KEYSTRNG パラメーターで定義されたハイ・キー値が、既存の区画のハイ・キー値より小さいです。結果として、新規区画は挿入中です (最後には追加されません)。次の区画が使用中の場合、区画は挿入できません。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: /DBR コマンドを使用して次の区画を停止し、コマンドを再発行します。

問題判別: 2、3

モジュール: DSPURSPT

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1071I DATABASE *dbname* IS NOT A HALDB

説明: *dbname* で示されたデータベースが DBRC に TYPHALDB として定義されていないため、INIT.PART コマンドが失敗しました。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: *dbname* を訂正するか、またはデータベースを削除 (DELETE.DB を使用) してから TYPHALDB として再定義 (INIT.DB コマンドを使用) するかのいずれかです。

重要: データベースを削除すると、関連するすべての DBDS レコードおよびリカバリー関連レコードが除去されます。データベースを削除する前に、それが正しい処置であることを必ず確認してください。

問題判別: 2、3

モジュール: DSPURCM8、DSPURDPT、DSPURD10、DSPURMPT、DSPURSPT

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1072 PARTSEL ENTERED WITHOUT TYPHALDB

説明: PARTSEL パラメーターを指定したが、TYPHALDB パラメーターを指定せずに、INIT.DB コマンドが入力されました。PARTSEL は HALDB に対してのみ有効です。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: PARTSEL パラメーターを除去するか、または TYPHALDB パラメーターを追加して、コマンドを再発行します。

問題判別: 2、3

モジュール: DSPURS10

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1073I BLOCKSIZE IS ALLOWED ONLY FOR OSAM DATABASE

説明: BLOCKSIZE が HALDB 区画に対して指定されたが、その区画は OSAM データベースではありません。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: BLOCKSIZE パラメーターを除去してから、コマンドを再発行します。

問題判別: 2、3

モジュール: DSPURMPT、DSPURSPT

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1074E MORE ALTERSZE VALUES SPECIFIED THAN DATASET GROUP NUMBER

説明: データ・セット・グループ数より多い数の ALTERSZE 値が、コマンドで指定されました。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: データ・セット・グループ数と等しいか、それより少ない数の ALTERSZE 値を指定して、コマンドを再実行依頼してください。

問題判別: 2、3

モジュール: DSPURMPT、DSPURSPT

関連タスク:

➡ HALDB の変更によるブロック・サイズまたは CI サイズの変更 (データベース管理)

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1075E ALTERSZE VALUE *number* MUST BE AN EVEN NUMBER

説明: ALTERSZE 値に指定できるのは、32,766 を超えない偶数です。少なくとも 1 つの値で、偶数でないものが指定されています。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: ALTERSZE 値を訂正して確認してから、コマンドを再発行します。

問題判別: 2、3

モジュール: DSPURMPT、DSPURSPT

関連タスク:

➡ HALDB の変更によるブロック・サイズまたは CI サイズの変更 (データベース管理)

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1076I INVALID MINVERS RELEASE LEVEL

説明: MINVERS パラメーターが無効なレベル値を使用して指定されました。有効なレベルは以下のとおりです。

- | • '13.1' (IMS バージョン 13 の場合)
- | • '14.1' (IMS 14 の場合)
- | • '15.1' (IMS 15 の場合)

注:

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: MINVERS パラメーターを訂正してから、コマンドを再発行します。

問題判別: 2、3

モジュール: DSPURM90、DSPURS00

関連資料:

➡ CHANGE.RECON コマンド (コマンド)

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1077I THE ACTIVE DBDS IS BEING IMAGE COPIED

説明: 非アクティブ DBDS のイメージ・コピーが要求されました。アクティブ DBDS のみをイメージ・コピーすることができます。アクティブ DBDS がイメージ・コピーされます。

システムの処置: 処理を続行します。

プログラマーの応答: さらに支援が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1078I INACTIVE M-V DBDS RECORDS FOR DBD=XXXXXXXXX DELETED FROM RECON

説明: RECON データ・セットの情報を変更するためのコマンドが発行されました。コマンド処理の結果、非アクティブ M-V DBDS が削除されました。Y DBDS が存在した場合は、それらも削除されました。

システムの処置: 処理を続行します。

プログラマーの応答: さらに支援が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1079I RECON INCONSISTENCY, DBDS RECORD CANNOT BE FOUND FOR DBD=XXXXXXXXX DBN=XXXXXXXXX

説明: RECON データ・セット内に不整合が検出されました。示された DBD および DBN の DBDS レコードが見つかりませんでした。

システムの処置: 処理は終了します。RECON データ・セットは更新されません。

プログラマーの応答: さらに支援が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP1080I ONLINE REORG WITH RUNTIME
TIMESTAMP HAS BEEN RESET TO
ACTIVE STATUS**

説明: HALDB OLR レコードの状況を変更するために不明なコマンドが使用されました。

システムの処置: 処理は続行する

プログラマーの応答: さらに支援が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP1081I INACTIVE M-V DBDS RECORDS DO
NOT EXIST FOR DBD=xxxxxxx**

説明: HALDB オンライン再編成の情報を追加または変更しようとして、メッセージの xxxxxxxx で示される区画データベースについて、失敗しました。この要求を処理するには、M-V DBDS レコードが RECON に存在している必要があります。次のいずれかが発生しました。

- ONLINE パラメーター付きで NOTIFY.REORG コマンドを使用して、HALDB オンライン再編成レコードを RECON に追加しようとした。
- OLRRGON、OLRRGOFF、OLRIMSID()、NOOWNER、および OLRDBDS(A|M)HALDB のいずれかのパラメーター付きで CHANGE.DB コマンドを使用して、HALDB オンライン再編成の状況についての情報を変更しようとした。

システムの処置: NOTIFY.REORG または CHANGE.DB コマンドは失敗します。

ユーザーの処置: 誤って ONLINE パラメーターを NOTIFY.REORG コマンドに含めた場合は、それを除去してジョブを再実行します。HALDB オンライン再編成を実行して、M-V DBDS レコードを RECON に作成します。(M-V DBDS パラメーター付きで INIT.PART コマンドを使用して区画データベースが RECON に登録されるたびに、M-V DBDS が作成される可能性があります。)

モジュール: DSPURT00、DSPURCM8

**DSP1084A COMMAND NOT ALLOWED FOR A
DBDS OF A DL/I PARTITIONED
DATABASE**

説明: 処理中のコマンドは、DL/I 区画データベースに関連付けられている DBDS に対するものです。このコ

マンドを使用して DBDS を処理することはできません。

システムの処置: コマンドは失敗します。後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: 区画の個々の DBDS を削除または初期設定することはできません。DELETE.PART コマンドを使用して区画を削除するか、または INIT.PART コマンドを使用して区画を作成する必要があります。

問題判別: 2、3

モジュール: DSPURD00、DSPURS00

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP1085A THE DATA SET GROUP COUNT
DOES NOT MATCH THE DATA SET
GROUP COUNT IN THE DBDLIB**

説明: CHANGE.PART 処理中、RECON 内のデータ区画セット区画グループ区画カウントが、DBDLIB 内のデータ区画セット区画グループ区画カウントと一致しません。この状態は、誤った DBDLIB が使用されているか、または新しい DBDGEN が実行された場合に発生することがあります。

システムの処置: コマンドは失敗します。

プログラマーの応答: DBDLIB が変更された場合は、DELETE.PART コマンドを入力する必要があります。

問題判別: 2、3

モジュール: DSPURMPT

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP1086A THE DATABASE ORGANIZATION
DOES NOT MATCH THE
DATABASE ORGANIZATION IN
THE DBDLIB**

説明: CHANGE.PART 処理中、RECON 内のデータベース編成が、DBDLIB 内のデータベース編成と一致しません。RECON に HALDB を登録した後で DBD 定義が変更されたか、または不適切な DBDLIB を使用している可能性があります。

システムの処置: コマンドは失敗します。

プログラマーの応答: DBD 定義が変更された場合、DBRC 内で該当 HALDB の削除および再定義を行います。

問題判別: 2、3

DSP1087A • DSP1092A

モジュール: DSPURMPT

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1087A INCONSISTENT PARAMETERS SPECIFIED FOR *dbname partname*

説明: 区画に指定されたパラメーターが、RECON に記録された現行情報と不整合です。CHANGE.PART コマンドの場合、次のいずれかが当てはまります。

- ENABLE または DISABLE が指定されたが、別のパラメーターも指定された。これは認められません。
- 区画が使用不可とマークされているが、ENABLE 以外の別のパラメーターを変更しようとした。これは認められません。

システムの処置: コマンドは失敗します。

プログラマーの応答: 矛盾を訂正し、コマンドを再発行します。

問題判別: 2, 3

モジュール: DSPURMPT

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1088A THE MASTER DATABASE *dbname* NOW USES A PARTITION SELECTION ROUTINE

説明: 区画選択ルーチン名を追加した後で、区画ストリングがすべての区画から除去されました。

システムの処置: 区画ハイ区画キーは消去されます。

プログラマーの応答: 区画ストリング値を定義します。

問題判別: 2, 3

モジュール: DSPURCM8

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1089A SET HIGH KEY VALUES FOR EACH PARTITION BEFORE USING

説明: 選択ルーチンの名前がクリアされました。使用前に、区画ごとにハイ区画キー値を設定します。

システムの処置: 区画選択ストリングはクリアされません。

プログラマーの応答: 再びハイ区画キー値を設定します。

問題判別: 2, 3

モジュール: DSPURCM8

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1090I VALUES SPECIFIED IN CHANGE COMMAND ARE NOT DIFFERENT FROM VALUES ALREADY DEFINED

説明: 定義済みのものから変更されていません。

システムの処置: コマンドは失敗します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: 2, 3

モジュール: DSPURCM8

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1091A DATA BASE DATA SET NOT DEFINED IN RECON FOR *dbname ddname*

説明: 区画を変更しようとしたのですが、データベース・データ・セットが見つかりませんでした。少なくとも 1 つのデータベース・データ・セットが存在していなければなりません。この問題は、通常 RECON にアクセスする際の入出力エラーです。

システムの処置: コマンドは失敗します。

プログラマーの応答: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

問題判別: 2, 3

モジュール: DSPURMPT

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1092A CANNOT CHANGE PARTITION, NEXT ONE IS AUTHORIZED

説明: この区画への変更は、許可されている隣の区画に影響を及ぼします。

システムの処置: コマンドは失敗します。

プログラマーの応答: 隣の区画が許可されなくなるまで待機し、コマンドを再発行します。

問題判別: 2, 3

モジュール: DSPURMPT

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP1093A CANNOT DELETE PARTITION,
NEXT ONE IS AUTHORIZED**

説明: この区画の削除は、許可されている隣の区画に影響を及ぼします。

システムの処置: コマンドは失敗します。

プログラマーの応答: 隣の区画が許可されなくなるまで待機し、コマンドを再発行します。

問題判別: 2、3

モジュール: DSPURDPT

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP1094A CHANGE COMMAND FAILED, RC=
rc RSN= rsn**

説明: CHANGE.PART コマンドが、戻りコード *rc* および理由コード *rsn* で失敗しました。通常、この問題は、RECON データ・セットでエラーが発生したことが原因です。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: 訂正処置は、RECON に問題があることをメッセージが示しているかどうかによって異なります。RECON についての訂正可能な問題である場合、RECON を修復してから、コマンドを再発行します。そうでない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

問題判別: 2、3

モジュール: DSPURMPT

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1095A DATABASE *dbname* IS AUTHORIZED

説明: HALDB または区画の DELETE または CHANGE 処理中に、データベースが許可されていることが判明しました。

システムの処置: コマンドは失敗します。

プログラマーの応答: データベースが許可されなくなったときに、コマンドを再発行します。

問題判別: 2、3

モジュール: DSPURDPT、DSPURD10

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP1096A DELETE COMMAND FAILED, RC= rc
RSN= rsn**

説明: DELETE.PART コマンドが、戻りコード *rc* および理由コード *rsn* で失敗しました。通常、この問題は、RECON データ・セットでエラーが発生したことが原因です。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: 訂正処置は、RECON に問題があることをメッセージが示しているかどうかによって異なります。RECON についての訂正可能な問題である場合、RECON を修復してから、コマンドを再発行します。そうでない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

問題判別: 2、3

モジュール: DSPURMPT

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP1097E PARTITION *partname* CANNOT BE
CHANGED WHILE HALDB *dbname* IS
BEING ALTERED**

説明: パーティションを含む HALDB データベースの構造が変更されているときに、パーティションの定義を変更することはできません。

システムの処置: コマンドは失敗します。

プログラマーの応答: データベースの変更処理が完了して、オンライン変更機能によって新しいデータベース構造が活動化された後、パーティション定義の変更を再試行してください。

問題判別: 2、3

モジュール: DSPURMPT

関連タスク:

 オンライン HALDB データベースの定義の変更 (データベース管理)

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP1098A PARTITION *dbname partname* IS NOT
DEFINED TO DBRC**

説明: CHANGE.PART または DELETE.PART コマンドの処理中に、RECON 内で該当の区画が見つかりませんでした。

DSP1099A • DSP1102I

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: 正しい区画名が指定されたかどうかを調べます。エラーが見つかった場合は、区画名を訂正してから、コマンドを再発行します。そうでない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

問題判別: 2、3

モジュール: DSPURMPT、DSPURDPT

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1099A PARTID ν alue IS ALREADY IN USE FOR ν artname

説明: INIT.PART または CHANGE.PART ENABLE コマンドの処理中に、該当の区画 ID 値が、使用可能な既存の区画によって既に使用中です。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: INIT.PART コマンド処理の場合、固有の区画 ID を選択します。CHANGE.PART ENABLE の場合、重複した区画 ID は認められないため、変更される区画、またはこのメッセージで示された ν artname のいずれかを削除する必要があります。

問題判別: 2、3

モジュール: DSPURMPT、DSPURSPT

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1100I DBRC IS BUILDING THE DMB TABLE RECORD

説明: DBRC は、データ管理ブロック (DMB) テーブル・レコードを作成または再作成するために、RECON データ・セット内のすべてのデータベース・レコードを読み取っています。

INIT.DB コマンドを使用して RECON データ・セットに最初のデータベースを登録する際に、DMB テーブル・レコードが作成されます。DMB テーブル・レコードは、すべてのデータベースが削除された場合でも RECON データ・セット内に残ります。

REPAIR.RECON DMBTABLE コマンドを発行すると、欠落している DMB テーブル・レコードが作成されるか、現在の DMB テーブル・レコードが再作成されます。

システムの処置: DBRC が DMB テーブル・レコードを作成します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: 2、3、40

モジュール: DSPURS10、DSPURR01

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP メッセージ DSP1101 - DSP1150

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DSP1101I THE DMB LIMIT HAS BEEN EXCEEDED

説明: 新しいデータベースを DBRC に登録しようとしたのですが、32,767 という制限にすでに達しているために失敗しました。

システムの処置: コマンドは失敗します。

システム・プログラマーの応答: DMB 番号が 32,767 に達した後もデータベース登録が可能な IMS のリリースを使用してください。そのようなリリースが使用可能でない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DSPURS10

DSP1102I THE DMB LIMIT HAS BEEN REACHED

説明: RECON データ・セットに 32,767 のデータベースが登録されています。これは許容できる最大数です。RECON データ・セットにデータベースをもう 1 つ登録する処理は失敗します。現行のデータ管理ブロック (DMB) テーブル・レコードが検索されましたが、現在 DMB 番号はすべて登録済みデータベースに割り当てられています。

システムの処置: DBRC にデータベースをもう 1 つ登録する試みは失敗します。

プログラマーの応答: このメッセージが誤って出された場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。メッセージが正しく出され、すでに使用されていない古いデータベースがまだ RECON データ・セットに登録されている場合は、それらのデータベースを RECON データ・セットから削除します。

モジュール: DSPURS10

**DSP1103I OBTAINING THE NEXT DMB
NUMBER FROM RECON DMB
TABLE FAILED**

説明: DBRC はデータベースを登録するときに割り当てる次のデータ管理ブロック (DMB) 番号を取得しようとして、エラーを検出しました。

システムの処置: コマンドは失敗します。

プログラマーの応答: エラーを説明するメッセージが前に出されていない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DSPURS10

**DSP1104I THE OLRCAP DATABASE CANNOT
BE PROCESSED AS REQUESTED IN
THIS RELEASE**

説明: このデータベースについては、IMS の上位リリースで HALDB オンライン再編成を行うことができます。GENJCL 処理、データベース・イメージ・コピー、データベース・イメージ・コピー 2、データベース・リカバリー、および変更累積などのユーティリティーは、上位リリースの IMS で実行する必要があります。

システムの処置: コマンドまたはユーティリティーは失敗します。

プログラマーの応答: コマンドまたはユーティリティーを、上位リリースの IMS で実行してください。

モジュール: DSPJCAI、DSPUCAIN、DSPUIC00、DSPURN00、DSPURVIN

**DSP1106A FBFF AND FSPF PARAMETERS
CANNOT BE CHANGED WHILE OLR
IS ACTIVE OR OWNED**

説明: 既存の区画フリー・スペース属性を変更する要求が出されましたが、その区画は現在 HALDB オンライン再編成中です。

システムの処置: 区画変更の要求は失敗します。指定された区画のフリー・スペース・パーセント係数およびフリー・ブロック頻度係数は、未変更のままになります。HALDB オンライン再編成が完了した後で、再度コマンドをサブミットしてください。

プログラマーの応答: HALDB オンライン再編成が完了した後で、再度コマンドをサブミットしてください。

モジュール: DSPURMPT

**DSP1107E NEW REORG# xxxxx INVALID WITH
CURRENT REORG# yyyyyy FOR
DATABASE database name**

説明: このメッセージは、HALDB 区画の処理中に出されます。REORG 呼び出しで渡された再編成番号 xxxxx が無効でした。再編成番号の変更が DBRC に通知されなかったか、または再編成番号がデータ・セット上で破壊されて、再編成が行われた可能性があります。現行再編成番号がゼロでない場合は、新規再編成番号は現行再編成番号より大きければ有効になります。

システムの処置: 区画再編成番号は更新されません。ジョブは失敗します。

プログラマーの応答: データベースの妥当性を検査して、適切な問題判別処置をとってください。

問題判別: 1、4、11、17g、40

モジュール: DSPURN00

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP1108I REORG# CHANGED FROM xxxxx TO
yyyyyy FOR DATABASE database name**

説明: このメッセージは、HALDB 区画の処理中に出されます。再編成番号 xxxxx が yyyyyy に更新されました。

システムの処置: 再編成番号は RECON 内にありました。

モジュール: DSPURN00

**DSP1109I REORG# NOT PASSED FOR
DATABASE database name**

説明: このメッセージは、HALDB 区画の処理中に出されます。このデータベースの再編成番号が渡されなかったか、あるいはゼロでした。

システムの処置: 再編成番号は更新されませんでした。再編成番号を設定するためにオンライン IMS が DBRC を呼び出した場合は、予期しない論理エラーが発生しています。制御領域は異常終了 0979 で異常終了します。再編成を DBRC に通知するために呼び出しが行われた場合、現在の再編成番号はゼロであり、ゼロのままになります。ジョブは正常に完了します。

問題判別: 1、4、11、17g、40

モジュール: DSPURN00

関連情報:

 IMS 異常終了 0979

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1110I REORG# NOT SET FOR DATABASE
database name

説明: このメッセージは、HALDB 区画の処理中に出されます。このデータベースには再編成は設定されません。現在の再編成番号は、RECON のパーティション・データベース・レコード内でゼロです。

システムの処置: 現在の再編成番号はゼロであり、ゼロのままになります。ジョブは正常に完了します。

モジュール: DSPURN00

DSP1112E PARAMETER *parameter* IS INVALID FOR HALDB DEFINED AS OLRNOCAP

説明: HALDB オンライン再編成実行可能として定義された区画について、M-V,Y データ・セットを作成するために、この区画について、MVDBDS または NOMVDBDS パラメーターを指定して INIT.PART コマンドが発行されました。HALDB が HALDB オンライン再編成実行可能として定義されていないため、このパラメーターは無効です。

システムの処置: コマンドは失敗します。後続のコマンドは処理されません。

ユーザーの処置: HALDB を HALDB オンライン再編成実行可能にしたい場合は、CHANGE.DB OLRNOCAP コマンドをこの HALDB に対して発行してから、コマンドを再発行します。そうでなければ、MVDBDS または NOMVDBDS パラメーターを除去してからコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、および RECON データ・セットのリスト。

モジュール: DSPURSPT

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1113A A SUBSYSTEM RECORD FOR *ssid* WAS FOUND WITHOUT COEXISTENCE SPE APPLIED

説明: RECON のアップグレード中に、必要な DBRC マイグレーション/共存 SPE が適用されていない、*ssid* に示されるサブシステム・レコードが、RECON 内に検出されました。

システムの処置: RECON アップグレードが失敗しました。

プログラマーの応答: リストされているサブシステムか

らアクセスされる RESLIB ごとに、適切な DBRC マイグレーション/共存 SPE を適用する必要があります。

サブシステム・レコードが有効でなくなった場合は、RECON をアップグレードする前に、RECON からそのレコードを削除する必要があります。サブシステム・レコードを削除する必要があるかどうかを確認してください。

問題判別: 1、2、3、40

モジュール: DSPUGR00

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1114E DB QUIESCE IN PROGRESS CHANGE IS NOT ALLOWED FOR DATABASE *dbname* REASON: *reason*

説明: データベースの状況を変更する CHANGE.DB DBQUI コマンドまたは NODBQUI コマンドがデータベースに対して発行されました。メッセージの中で *dbname* で示されているデータベースは、コマンドで使用された名前です。*reason* は次のいずれかの値です。

MINVERS INVALID

このコマンドが許可されるには、現在の MINVERS が 11.1 以上でなければなりません。

BACKOUT NEEDED

コマンドを発行する前に、データベースのバックアウトが必要です。

RECOVERY NEEDED

コマンドを発行する前に、データベースのリカバリーが必要です。

BATCH SUBSYSTEM *ssid* AUTHORIZED

バッチ・サブシステムは、現在、データベースに対する更新アクセスの権限が与えられています。

DATABASE IS BEING REORGANIZED

DB REORG INTENT フラグがデータベース内でオンになっています。

HALDB ONLINE REORGANIZATION IS ACTIVE

データベースが OLR に所有されているか、または OLREORG CURSOR ACTIVE フラグがデータベース内でオンに設定されています。

DB QUIESCE IN PROGRESS ALREADY SET

QUIESCE IN PROGRESS フラグはすでにオンまたはオフに設定されています。

DB QUIESCE HELD FLAG IS ON

QUIESCE HELD フラグはオンに設定されています。QUIESCE HELD フラグもオフに設定しない限り、QUIESCE IN PROGRESS フラグをオフに設定できません。

INVALID DATABASE TYPE

このデータベース・タイプに対してコマンドが許可されていません。サポートされるデータベース・タイプは以下のとおりです。

- IMS
- 高速機能 (Fast Path)
- HALDB
- パーティション・データベース

要確認: DBRC は GSAM データベースの処理には関係がないため、RECON に GSAM データベースを登録しないでください。DBRC は、DBDS レコードに GSAM 用のデータ・セット編成があるかどうかを検査しません。

PARTITION NEEDS TO BE INITIALIZED

パーティション初期設定フラグがオンです。

システムの処置: コマンドは失敗します。DBD が HALDB の場合、この HALDB のすべてのパーティション・データベースについてこのコマンドが失敗しました。DBD が DEDB の場合、すべてのエリアでこのコマンドが失敗しました。システムは、後続のコマンド、パーティション・データベース、またはエリアを処理しません。

ユーザーの処置: エラー状態を訂正して、適切であればコマンドを再試行します。

問題判別: 2、3、および RECON データ・セットのリスト。

モジュール: DSPURM10, DSPURCM8

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP1115E DB QUIESCE IN PROGRESS
CHANGE IS NOT ALLOWED FOR
AREA areaname REASON: reason**

説明: エリアの状況を変更する CHANGE.DBDS DBQUI コマンドまたは NODBQUI コマンドをエリアに対して発行しました。メッセージの中で *areaname* で示されているエリアは、コマンドで使用された名前です。*reason* は次のいずれかの値です。

MINVERS INVALID

このコマンドが許可されるには、現在の MINVERS が 11.1 以上でなければなりません。

RECOVERY NEEDED

コマンドを発行する前に、エリアのリカバリーが必要です。

DB QUIESCE IN PROGRESS ALREADY SET

QUIESCE IN PROGRESS フラグはすでにオンまたはオフに設定されています。

DB QUIESCE HELD FLAG IS ON

QUIESCE HELD フラグはオンに設定されています。QUIESCE HELD フラグもオフに設定しない限り、QUIESCE IN PROGRESS フラグをオフに設定できません。

システムの処置: コマンドは失敗します。システムは、後続のコマンドを処理しません。

ユーザーの処置: エラー状態を訂正して、適切であればコマンドを再試行します。

問題判別: 2、3、および RECON データ・セットのリスト。

モジュール: DSPURM60, DSPURCM8

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP1116E DB QUIESCE HELD CHANGE IS
NOT ALLOWED FOR DATABASE
dbname REASON: reason**

説明: データベースの状況を変更する CHANGE.DB DBQUIH コマンドまたは NODBQUIH コマンドをデータベースに対して発行しました。メッセージの中で *dbname* で示されているデータベースは、コマンドで使用された名前です。*reason* は次のいずれかの値です。

MINVERS INVALID

このコマンドが許可されるには、現在の MINVERS が 11.1 以上でなければなりません。

BACKOUT NEEDED

コマンドを発行する前に、データベースのバックアウトが必要です。

RECOVERY NEEDED

コマンドを発行する前に、データベースのリカバリーが必要です。

BATCH SUBSYSTEM ssid AUTHORIZED

バッチ・サブシステムは、現在、データベースに対する更新アクセスの権限が与えられています。

DATABASE IS BEING REORGANIZED

DB REORG INTENT フラグがデータベース内でオンになっています。

HALDB ONLINE REORGANIZATION IS ACTIVE

データベースが OLR に所有されているか、または OLREORG CURSOR ACTIVE フラグがデータベース内でオンに設定されています。

DB QUIESCE HELD ALREADY SET

QUIESCE HELD フラグはすでにオンまたはオフに設定されています。

DB QUIESCE HELD FLAG NOT ALLOWED

QUIESCE IN PROGRESS フラグがオフであ

り、DBQUI パラメーターがコマンドに組み込まれていないため、QUIESCE HELD フラグを設定できません。

INVALID DATABASE TYPE

このデータベース・タイプに対してコマンドが許可されていません。サポートされるデータベース・タイプは以下のとおりです。

- IMS
- 高速機能 (Fast Path)
- HALDB
- パーティション・データベース

要確認: DBRC は GSAM データベースの処理には関係がないため、RECON に GSAM データベースを登録しないでください。DBRC は、DBDS レコードに GSAM 用のデータ・セット編成があるかどうかを検査しません。

システムの処置: コマンドは失敗します。DBD が HALDB の場合、この HALDB のすべてのパーティション・データベースについてこのコマンドが失敗しました。DBD が DEDB の場合、すべてのエリアでこのコマンドが失敗しました。システムは、後続のコマンド、パーティション・データベース、またはエリアを処理しません。

ユーザーの処置: エラー状態を訂正して、適切であればコマンドを再試行します。

問題判別: 2、3、および RECON データ・セットのリスト。

モジュール: DSPURM10, DSPURCM8

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1117E DSP1117E DB QUIESCE HELD CHANGE IS NOT ALLOWED FOR AREA areaname REASON: reason

説明: エリアの状況を変更する CHANGE.DB DBQUIH コマンドまたは CHANGE.DB NODBQUIH コマンドをエリアに対して発行しました。メッセージの中で *areaname* で示されているエリアは、コマンドで使用された名前です。*reason* は次のいずれかの値です。

MINVERS INVALID

このコマンドが許可されるには、現在の MINVERS が 11.1 以上でなければなりません。

RECOVERY NEEDED

コマンドを発行する前に、エリアのリカバリーが必要です。

DB QUIESCE HELD ALREADY SET

QUIESCE HELD フラグはすでにオンまたはオフに設定されています。

DB QUIESCE HELD FLAG NOT ALLOWED

QUIESCE IN PROGRESS フラグがオフであり、DBQUI パラメーターがコマンドに組み込まれていないため、QUIESCE HELD フラグを設定できません。

システムの処置: コマンドは失敗します。システムは、後続のコマンドを処理しません。

ユーザーの処置: エラー状態を訂正して、適切であればコマンドを再試行します。

問題判別: 2、3、および RECON データ・セットのリスト。

モジュール: DSPURM60, DSPURCM8

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1118I THE REORGANIZATION NUMBER yyyyyy IS NOT USED FOR DATABASE xxxxxxxx REASON: REORGANIZATION NUMBER VERIFICATION IS NOT ACTIVE

説明: NOTIFY.RECOV コマンドで REORG パラメーターが指定されましたが、RECON データ・セットに対して再編成番号検査がアクティブになっていません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

yyyyyy NOTIFY.RECOV REORG() に指定された値。これは無視されます。

xxxxxxx

DBD パラメーターで指定されたデータベース名。

システムの処置: REORG パラメーターは無視され、コマンドは正常に完了しました。IMS システムは、通常の処理を続行します。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

NOTIFY.RECOV コマンドの REORG パラメーターは、HALDB 再編成番号検査が使用可能になっていないと常に無視されます。

モジュール: DSPURT20

DSP1119I THE REORGANIZATION NUMBER FOR DATABASE xxxxxxxx IS CHANGED FROM yyyyyy to zzzzzz DUE TO A RECOVERY

説明: HALDB 区画リカバリーが正常に完了し、データベースの再編成番号が更新されました。このメッセージは、データベース・リカバリー・ユーティリティー操作によって生成されます。

リカバリー操作が完全リカバリーであった場合は、前回のタイム・スタンプ・リカバリー操作が実行され、RECON データ・セット内のデータベースの再編成番号が変更されました。このメッセージを生成した完全リカバリーによって、前回のタイム・スタンプ・リカバリーによる変更が無視され、新しいバージョンのデータ・セットが作成されます。

リカバリー操作がタイム・スタンプ・リカバリーであった場合は、再編成が開始する前にこのリカバリーが実行されるか、または前回のリカバリーが実行されて RECON データ・セット内のデータベースの再編成番号が変更されました。このメッセージを生成したタイム・スタンプ・リカバリーによって、前回のリカバリーによる変更が無視されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

yyyyyy 古い再編成番号。これは無効になります。
xxxxxxx

DBD パラメーターで指定されたデータベース名。

zzzzz データベースの新しい再編成番号。

システムの処置: このデータベースに対する RECON データ・セットの区画データベース・レコードの再編成番号が *zzzzz* に更新され、システムの処理が続行されます。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: DSPURT20、DSPURVTR

DSP1123I *jjjjjjj* DBRC REGISTERED WITH IMSPLEX *ppppp* {USING EXIT}

説明: DBRC は、この名前前の IMSplex 用として SCI に正常に登録されました。自動 RECON 損失通知は、この DBRC によって受け取られます。メッセージに USING EXIT が組み込まれている場合、DBRC は SCI 登録出口を使用して IMSplex 名を判別しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

jjjjjjj ジョブ名
ppppp IMSplex 名

システムの処置: DBRC 初期設定は継続します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DSPRLI00

DSP1124I DBRC NOT PARTICIPATING IN IMSPLEX *ppppp*

説明: DBRC は IMSplex に接続されておらず、*ppppp* に示された IMSplex が RECON データ・セットに記録されています。この状態は、DBRC の初期設定以後に、IMSplex が RECON データ・セットに記録されたことを意味します。

システムの処置: DBRC は操作を継続しますが、IMSplex から自動 RECON 損失通知を受け取ることはできません。

プログラマーの応答: IMSplex にアクセスするつもりであれば、応答は不要です。

IMSplex が誤って RECON データ・セットに記録され、しかも *ppppp* に示された IMSplex に SCI が使用可能であれば、CHANGE.RECON NOPLEX コマンドを実行して、非 IMSplex 環境に復帰します。

モジュール: DSPURI30

DSP1125A IMSPLEX NAME CONFLICT - *xxxxx* FROM DSPSCIX0, *yyyyyy* FROM IMS

説明:

オンライン環境で、IMS Common Service Layer PROCLIB メンバー内の IMSplex 名 (*yyyyyy*) が、DBRC で使用される IMSplex 名 (*xxxxx*) と矛盾しています。DBRC は、SCI 登録出口 (DSPSCIX0) から、またはジョブ・ステップ EXEC ステートメントの IMSPLEX パラメーターから、IMSplex 名を得ます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

yyyyyy DSPSCIX0 (SCI 登録出口) によって戻される名前と矛盾する IMS Common Service Layer PROCLIB メンバー内の IMSplex の名前。

xxxxx IMS Common Service Layer PROCLIB メンバー内の IMSplex の名前と矛盾する、DSPSCIX0 によって戻される名前。

システムの処置: このメッセージに続いて、メッセージ DSP0300I が出力され、異常終了 2480 になります。

オペレーターの応答: IMS PROCLIB メンバー内の IMSplex 名、または DBRC が使用しようとしている IMSplex 名のいずれかを変更します。

モジュール: DSPRLI00

関連情報:

202 ページの『DSP0300I』

 IMS 異常終了 2480

**DSP1126I QUIESCE NOTIFICATION RECEIVED
FROM xxxxxxxx (yyyyyy)**

説明: DBRC は、ジョブ xxxxxxxx から理由 yyyyyy で QUIESCE の通知を受け取りました。理由 yyyyyy は次のいずれかです。

ALLOCFAIL

アクティブ RECON データ・セットの割り振りが失敗したため、DBRC は予備の RECON データ・セットにコピーしています。

BACKUP

BACKUP.RECON コマンドが発行されました。

DUAL

DBRC は、単一 RECON モードで実行した後に RECON をコピーしています。

IOERR

いずれかの RECON データ・セットでの入出力エラーが処理されています。

LIST

STATIC および QUIESCE を指定する LIST コマンドが処理されています。

PRAOFF

並行 RECON アクセスがオフにされています。

PRAON

並行 RECON アクセスがオンにされています。

REPAIR

REPAIR.RECON コマンドが処理されています。

REPLACE

CHANGE.RECON REPLACE コマンドが処理されています。

RESETGSG

RESET.GSG コマンドが処理されています。

RESYNC

DBRC は、QUIESCE 処理の終了時に RECON データ・セットを誤ったモードでオープンした後で、正しいアクセス・モードで再オープンしています。

SHUNTEDIO

1 つ以上の RECON データ・セットのシャント済み入出力が再試行されています。

UPGRADE

CHANGE.RECON UPGRADE コマンドが発行されました。

システムの処置: DBRC は、ジョブ xxxxxxxx に RECON データ・セットへの排他的アクセスを許可しません。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: 2、3、40

モジュール: DSPRLXB0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1127I QUIESCE ACKNOWLEDGED

説明: DBRC は QUIESCE 通知を確認しました。

システムの処置: DBRC は、RECON アクセスを中断して、RECON アクセスの復元を待機しています。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DSPRLN00

DSP1128I END QUIESCE NOTIFICATION RECEIVED

説明: DBRC は、QUIESCE 処理が完了したという通知を受け取りました。

システムの処置: DBRC は RECON アクセスを再確立します。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DSPRLXB0

DSP1129I END QUIESCE ACKNOWLEDGED

説明: DBRC は、END QUIESCE 通知を受け取った後で RECON アクセスを再確立しました。

システムの処置: DBRC は通常処理を継続します。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DSPRLN00

DSP1130I WAITING FOR QUIESCE ACKNOWLEDGEMENT FROM

```
job1| *** NO SCI ***
{job2
{job3
{more}}
```

説明: QUIESCE 通知がブロードキャストされてから、あるいは最後にこのメッセージが発行されてから、30 秒間が経過しました。リストされているジョブは、QUIESCE を確認しておらず、さらなる処理を妨げています。*** NO SCI *** がリストされている場合、SCI 領域は利用不可です。

システムの処置: DBRC は、リストされているジョブからの QUIESCE の確認応答を待ちます。

システム・プログラマーの応答: *** NO SCI *** がリストされている場合、SCI 領域を再始動します。

モジュール: DSPRLTI0

DSP1131I QUIESCE ACKNOWLEDGEMENT COMPLETE

説明: すべての DBRC インスタンスが QUIESCE 通知を確認しました。

システムの処置: DBRC は排他的 RECON アクセスを継続します。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DSPRLN00

DSP1132I WAITING FOR END QUIESCE ACKNOWLEDGEMENT FROM

```
job11 *** NO SCI ***
{job2
{job3
{more}}
```

説明: END QUIESCE 通知がブロードキャストされてから、あるいは最後にこのメッセージが発行されてから、30 秒間が経過しました。リストされているジョブは、END QUIESCE を確認しておらず、さらなる処理を妨げています。*** NO SCI *** がリストされている場合、SCI 領域は利用不可です。

システムの処置: DBRC は、リストされているジョブからの END QUIESCE の確認応答を待ちます。

システム・プログラマーの応答: *** NO SCI *** がリストされている場合、SCI 領域を再始動します。

モジュール: DSPRLTI0

DSP1133I END QUIESCE ACKNOWLEDGEMENT COMPLETE

説明: すべての DBRC インスタンスが END QUIESCE 通知を確認しました。

システムの処置: DBRC は通常処理を継続します。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DSPRLN00

DSP1134A EXIT MODULE *exitname* NOT FOUND

説明:

exitname に示された出口が見つかりませんでした。

システムの処置: DBRC コマンドが失敗しました。RECON は更新されません。後続のコマンドは処理されません。

オペレーターの応答: DBRC コマンド許可レベルが EXIT または BOTH に設定されている場合は、DBRC コマンド許可出口がリンクされていなければなりません。出口を使用しない場合は、CHANGE.RECON コマンドを使用して、コマンド許可レベルを SAF または NONE に変更します。

モジュール: DSPDCAI0

DSP1135A SCI REGISTRATION FAILED, IMSPLEX NAME=*nnnnn*, RC=*xxxxxxxx*, RSN=*yyyyyyyy*, JOB=*jjjjjjj*

説明: DBRC は、IMSpdex 名 *nnnnn* を使用して SCI に登録を試みましたが、失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nnnnn SCI 登録に失敗した IMSplex の名前。
xxxxxxxx

SCI CSLSCREG 戻りコード。

yyyyyyyy

SCI CSLSCREG 理由コード。

jjjjjjj ジョブ名です。

DBRC が IMSplex 名を取得する方法については、「CSLSCREG: 登録要求 (システム・プログラミング API)」を参照してください。

システムの処置: RECON アクセスは失敗します。

オペレーターの応答: 該当する処置については、CSLSCREG: 登録要求 (システム・プログラミング API) を参照してください。

モジュール: DSPRLI00

DSP1136A RECON ACCESS DENIED, IMSPLEX NAME *nnnnn* NOT VALID, JOB=*jjjjjjj*

説明: DBRC が使用した IMSplex は、これらの RECON データ・セットに関連していません。 *nnnnn* は、RECON アクセスに失敗した IMSplex の名前を示します。 *nnnnn* が ******* の場合、DBRC は IMSplex に関与していないが、RECON には IMSplex が必須であることを表します。

システムの処置: RECON アクセスは失敗します。

オペレーターの応答: 正しい IMSplex 名を使用します。緊急状態の場合は、SCI 登録出口 DSPSCIX0 を用いて RECON アクセスを強制することができます。DSPSCIX0 の使用について詳しくは、「DBRC SCI 登録出口ルーチン (DSPSCIX0) (出口ルーチン)」を参照してください。

モジュール: DSPRLI00

**DSP1137I IMSPLEX MAY NOT BE CHANGED,
DBRC ACTIVE FOR**
job1
{job2
{job3
{more}}

説明: RECON の使用中に、CHANGE.RECON IMSPLEX()/NOPLEX を用いて IMSplex を変更しようとしてしました。メッセージ・テキスト内の job1、job2、および job3 は、RECON 内でアクティブである DBRC ジョブを表します。ジョブ・リストに 4 つ以上の名前がある場合は、MORE が表示されます。

システムの処置: コマンドは失敗します。

オペレーターの応答: ジョブがこれらの RECON を使用しなくなるまで待ちます。

モジュール: DSPURI30、DSPURM90

**DSP1138I QUIESCE CONFLICT, ABORTING
CURRENT QUIESCE**

説明: QUIESCE 処理中に、別の DBRC から QUIESCE 通知を受信しました。QUIESCE 競合解決は、QUIESCE 通知が現在の QUIESCE プロセスより先に行われると判別しました。

システムの処置: 現在の QUIESCE プロセスは、新しいプロセスを優先するために中止されます。新しい QUIESCE プロセスのイニシエーターを識別するメッセージ DSP1126I がこのメッセージの後に発行されます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DSPRLX10

関連情報:

246 ページの『DSP1126I』

**DSP1139A RECON ACCESS DENIED BY
DSPSCIX0, JOB=jjjjjjj**

説明: SCI 登録出口 DSPSCIX0 が戻りコード 12 を発行しました。出口の作成方法および理由コードの影響について詳しくは、「IMS 出口ルーチン作成のためのガイドライン (出口ルーチン)」を参照してください。

システムの処置: RECON アクセスは失敗します。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

ユーザーの処置: 登録出口を訂正して、再実行してください。

モジュール: DSPRLI00

**DSP1140A UNEXPECTED RETURN CODE FROM
aaaaaaaa REQUEST RC=nnnnnnnnn,
RSN=rrrrrrrr, JOB=jjjjjjj**

説明: DBRC による SCI サービス (aaaaaaaa) 要求が失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

失敗した SCI サービス。以下のサービスの中の 1 つです。

CSLSCBFR

SCI バッファを SCI に戻す。

CSLSCQRY

SCI 登録リストを照会する。

CSLSCRDY

タイプによる SCI メッセージの受け取りを使用可能にする。

CSLSCMSG

他の SCI 登録システムにメッセージを送信する。

CSLSCDRG

SCI への登録を抹消します。

nnnnnnnn

SCI 戻りコード。

rrrrrrrr

SCI 理由コード。

jjjjjjj

ジョブ名です。

システムの処置: CSLSCBFR 要求および CSLSCQRY 要求の場合、DBRC は処理を継続します。他の要求が失敗した場合はすべて、異常終了になります。

オペレーターの応答: 適切な処置については、『SCI 戻りコードおよび理由コード』を参照してください。

モジュール:

DSPRLI00、DSPRLN00、DSPRLTR0、DSPRLX10

関連概念:

 CSL SCI 要求 (システム・プログラミング API)

**DSP1141I RECON LOSS NOTIFICATION
RECEIVED, JOB=jjjjjjj**

説明: DBRC は、RECON 損失通知を受け取りました。RECON 損失について詳しくは、「RECON 損失の通知 (システム管理)」を参照してください。

システムの処置: DBRC は RECON をクローズしてから再オープンします。DBRC は、エラーが検出された RECON を廃棄します。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DSPRLXB0

DSP1142A EXIT MODULE *exitname* FOUND IN UNAUTHORIZED LIBRARY: *dsn*

説明: *exitname* に示された出口が *dsn* に示されたデータ・セット内で検出されたが、これは許可ライブラリーではなく、LINKLST のメンバーでもありません。
exitname は次のいずれかになります。

DSPSCIX0

SCI 登録出口

DSPDCAX0

DBRC コマンド許可出口

システムの処置: DSPSCIX0 の場合、RECON アクセスは失敗します。DSPDCAX0 の場合、DBRC コマンドが失敗しました。RECON は更新されません。後続のコマンドは処理されません。

オペレーターの応答: 許可ライブラリーを指定します。

モジュール: DSPDCAI0、DSPRLI00

DSP1143I RECON ACCESS FORCED BY DSPSCIX0, JOB=*jjjjjjj*

説明: SCI 登録出口 DSPSCIX0 が、戻りコード 8 を戻しました。出口の作成方法および理由コードの影響については、「IMS V15 出口ルーチン」を参照してください。

システムの処置: IMSplex による RECON 使用の可能性を無視して、SCI 登録無しで RECON アクセスが継続します。並行アクセスがオンになっている場合でも、RECON データ・セットはシリアル・モードでアクセスされます。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DSPRLI00

関連概念:

 IMS 出口ルーチン作成のためのガイドライン (出口ルーチン)

関連資料:

 DBRC SCI 登録出口ルーチン (DSPSCIX0) (出口ルーチン)

DSP1144I IMSPLEX PARAMETER NOT ALLOWED

説明: オンライン IMS から /RMCHANGE コマンドを使用して要求を発行することにより IMSplex 値を変更しようとしてしました。この操作は許可されていません。

システムの処置: コマンドは戻りコード 12 で終了します。

プログラマーの応答: IMSplex の初期値を設定するには、DBRC の全アクティビティを停止してから、SCI 登録出口 DSPSCIX0 を使用するか、または IMSplex 値を設定するための IMSplex パラメーターを使用して、DBRC の新規アクティビティを開始します。

IMSplex 値を変更するには、DBRC の全アクティビティを停止し、データベース・リカバリー管理ユーティリティ DSPURX00 を使用してコマンドを実行します。いずれの場合も、対象となる RECON に関与している DBRC アクティビティのみを停止させる必要があります。

モジュール: DSPURM90

DSP1145I RECON LOSS NOTIFICATION NOT SENT, JOB=*jjjjjjj*

説明: SCI を使用できないため、RECON 損失通知は送信されませんでした。

システムの処置:

DBRC は処理を継続します。

プログラマーの応答: RECON 損失通知を送信できるように、SCI を再始動する必要があります。

モジュール: DSPRLN00

DSP1146A EEQE LIMIT OF 32767 FOR DB DBD=*xxxxxxx*

説明: 拡張エラー・キュー・エレメント (EEQE) の追加要求により、*xxxxxxx* データベースの限度に達します。

システムの処置: CHANGE.DBDS コマンドは失敗します。

オペレーターの応答: EEQE が書き込まれるつど、エラー・メッセージが発行されました。データベースは停止されないので、EEQE の DBRC 限度に達しました。*xxxxxxx* データベースをリカバリーする必要があります。

これが DBRC 内の論理エラーと思われる場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

問題判別: 2、3、35、および RECON のリスト。

モジュール: DSPRLI00

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP1147I DBRC REGION WAITING FOR SCI,
IMSPLEX NAME=ppppp**

説明: DBRC 自動 RECON 損失通知はアクティブですが、IMSPLEX *ppppp* に対して SCI が使用可能ではありませんでした。

システムの処置: IMS は、DBRC 初期設定を継続する前に、ユーザーが IMSPLEX *ppppp* の SCI 領域を開始するまで待ちます。

プログラマーの応答: IMS が待っている SCI 領域を開始します。

モジュール: DSPRLI00

**DSP1150I LOG RECORD(S) COULD NOT BE
COMPRESSED,
RECORD TIME = *timestamp1*
compression time = *timestamp2***

説明: DBRC は、以下のコマンドまたは処理の実行中に、*timestamp1* に示された PRILOG を圧縮できないと判断しました。

- DELETE.LOG INACTIVE
- NOTIFY.PRILOG RLDS

- IMS ログ保存ユーティリティ
- CLEANUP.RECON

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

timestamp1

関連 PRILOG のタイム・スタンプ。

compression time

ログの圧縮を制限する下記のタイム・スタンプの中の 1 つが示されます。

- EARLIEST ALLOC TIME
- LOG RETENTION TIME
- EARLIEST CHECK POINT
- RECON CLEANUP TIME

timestamp2

関連 *compression time* のタイム・スタンプ。LOG RETENTION TIME の場合、これは、現在時刻からログ保存期間 (Log Retention Period) をマイナスしたものです。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: DSPURD60

DSP メッセージ DSP1151-DSP1200

ここでは、次のメッセージについて説明します。

**DSP1154A DBRC REQUEST AUTHORIZATION
DENIED BY *userexit* FOR USER *userid*
RESOURCE NAME=*resource name*
RC=*rc***

または

**DBRC COMMAND AUTHORIZATION DENIED
BY *userexit* FOR USER *userid* RESOURCE
NAME=*resource name* RC=*rc***

説明: メッセージ・テキストに示されているユーザー出口が、*resource name* によって保護されている DBRC コマンドまたは API 要求を実行依頼するためのユーザー ID *userid* の許可を拒否しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

userexit

ユーザー出口。このストリングは以下の出口のいずれかです。

- DSPDCAX0 (DBRC セキュリティー出口)
- BPE EXIT (BPE に定義された出口ルーチン)

userid DBRC コマンドまたは API 要求の実行依頼の許可を拒否されたユーザー ID。

リソース名 (*resource name*)

発行された DBRC コマンドまたは API 要求を保護しているリソースの名前。

rc 出口戻りコード。DSPDCAX0 戻りコードの情報については、「DBRC コマンド許可出口ルーチン (DSPDCAX0) (出口ルーチン)」を参照してください。

システムの処置: 問題の原因が DBRC コマンドにある場合、コマンドは RC=12 で失敗します。RECON データ・セットは更新されません。後続のコマンドは処理されません。

HALDB 区画定義ユーティリティを実行中の場合、RECON 要求は失敗します。

問題が DBRC API を使用するアプリケーションであった場合、要求された機能は RC=12 および機能に固有の理由コードで失敗します。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

プログラマーの応答: セキュリティー管理者に連絡して、示されている DBRC リソースに対する権限を取得します。

モジュール: DSPDCAI0

DSP1157A USER *userid* NOT AUTHORIZED FOR REQUEST RESOURCE NAME=*resource name* REQUEST=*reqtype* SAF RC=*safrc* RACF RC=*racfrc* RACF REASON=*racfrsn*

または

USER *userid* NOT AUTHORIZED FOR COMMAND RESOURCE NAME=*resource name* REQUEST=*reqtype* SAF RC=*safrc* RACF RC=*racfrc* RACF REASON=*racfrsn*

説明: DBRC は、ユーザーが *resource name* によって保護されている DBRC コマンドまたは DBRC API 要求の発行許可を持っているかを判別するために、RACROUTE 許可要求を発行しました。RACF またはそれと同等なセキュリティ製品からの戻りコードおよび理由コードは、そのユーザーが許可されていないことを示しています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

userid コマンド実行許可を持たないユーザー ID。

リソース名 (*resource name*)

発行されたコマンドまたは API 要求を保護しているリソースの名前。

reqtype RACROUTE 要求のタイプ。

racfrc ユーザーが許可されていないことを示す RACF 戻りコード。

racfrsn ユーザーが許可されていないことを示す RACF 理由コード。

SAF 戻りコード、RACF 戻りコード、および RACF 理由コードについて詳しくは、「z/OS Security Server RACROUTE マクロ解説書」(SA88-8621) を参照してください。

システムの処置: DBRC コマンドまたは API 要求が失敗しました。DBRC 処理は RC=12 で終了しました。RECON データ・セットは更新されませんでした。後続のコマンドは処理されません。これが HALDB 区画定義ユーティリティまたは DBRC API 要求の場合、RECON 要求は失敗します。

これが DBRC API を使用するアプリケーションであった場合、要求された機能は RC=12 および機能に固有の理由コードで失敗します。

プログラマーの応答: セキュリティ管理者に連絡して、示されている DBRC リソースに対する権限を取得します。

問題判別: 1、2、3、8、40

モジュール: DSPDCAI0

関連資料:

➡ z/OS: System Authorization Facility (SAF)

➡ z/OS: RACROUTE の戻りコードおよび理由コード

➡ z/OS: RACROUTE (標準形式) 戻りコード

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1158I INVALID COMMAND AUTHORIZATION OPTION SPECIFIED

説明: 無効な DBRC コマンド許可オプション付きで CMDAUTH キーワードが指定されました。有効なオプションは以下のとおりです。

SAF
EXIT
BOTH
NONE

システムの処置: コマンドが失敗しました。後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: 正しい CMDAUTH オプションを指定して、このコマンド、および処理されなかった他のコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

モジュール: DSPURX00

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1159I HIGH LEVEL QUALIFIER REQUIRED WITH THE SPECIFIED CMDAUTH OPTION

説明: DBRC コマンド許可オプション SAF、EXIT、または BOTH 付きで CMDAUTH キーワードが指定されました。これらのオプションでは高位修飾子を指定する必要があります。

システムの処置: コマンドが失敗しました。後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: CMDAUTH キーワード値を訂正し、このコマンド、および処理されなかった他のコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

モジュール: DSPDCAI0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1160I HIGH LEVEL QUALIFIER NOT ALLOWED WITH CMDAUTH OPTION NONE

説明: CMDAUTH オプション NONE に、高位修飾子 (*safhlq* オプション) または *rcnqual* オプションのいずれかが指定されました。高位修飾子および *rcnqual* オプションを指定できるのは、オプション SAF、EXIT、または BOTH のみです。

システムの処置: コマンドが失敗しました。後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: CMDAUTH キーワード値を訂正し、このコマンド、および処理されなかった他のコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

モジュール: DSPURX00

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1161I COMMAND AUTHORIZATION LEVEL CANNOT BE CHANGED WITH ONLINE COMMAND

説明: CMDAUTH キーワードが、オンライン CHANGE.RECON コマンド (/RMCHANGE) で指定されました。DBRC コマンド許可では、オンライン・コマンドをサポートしません。したがって、オンライン・コマンドを用いてコマンド許可レベルの変更はできません。

システムの処置: コマンドが失敗しました。後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: モジュール DSPURX00 の DBRC コマンド・プロセッサを用いてコマンド許可レベルを変更します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

モジュール: DSPURX00

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1162A DBRC RESOURCE NAME TABLE DEFINITION ERROR FOR COMMAND VERB *cmdname* MODIFIER *modname*

説明: 内部 DBRC リソース名テーブルには、指定されたコマンドのリソースが含まれていないか、または修飾子が一致するリソースがこのコマンドに定義されていません。

システムの処置: コマンドが失敗しました。後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: これは DBRC 内部の問題です。IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を受けてください。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

モジュール: DSPDCAI0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1164E PARALLEL RECON ACCESS CANNOT BE ENABLED: *reason*

説明: CHANGE.RECON ACCESS(PARALLEL) コマンドまたは INIT.RECON ACCESS(PARALLEL) コマンドが、次のいずれかの理由 (*reason*) により失敗しました。

NOT IN IMSPLEX

RECON データ・セットが IMSplex に関連付けられていないか、DBRC SCI 登録出口が SCI に登録せずに RECON データ・セットへのアクセスを強制しました。

NO SCI FOR *ssid*

現在 RECON データ・セットを使用している 1 つ以上の DBRC インスタンスが SCI に登録されていません。RECON データ・セットで検出された、SCI に登録されていない最初のアクティブ・バッチ・サブシステムのサブシステム ID は *ssid* としてリストされます。

UNAVAILABLE DATA SET

少なくとも 1 つの RECON データ・セット、RECON1、RECON2、または RECON3 が使用不可です。

OPEN FAILURE

DBRC は、2 つのアクティブ・コピーを並行アクセス・モードでオープンできませんでした。詳細情報を提供するためにメッセージ DSP0002I または DSP0002W が発行される場合があります。

LOG MODE ERROR

DBRC は、1 つ以上の RECON データ・セットに対して LOG(UNDO) を設定できませんでした。ログ・モードの UNDO への変更が失敗したデータ・セットを識別するために、メッセージ DSP1172I も発行される可能性があります。

NO SPARE

予備の RECON データ・セットが利用不可であるか、空ではありません。

DUPLICATE GROUP ID

複数の RECON データ・セットが、同じグループ ID で使用されています。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

システム・プログラマーの応答: CHANGE.RECON ACCESS(PARALLEL) コマンドの場合、3 つの RECON データ・セットが使用可能であること、および予備のデータ・セットが空であることを確認します。RECON データ・セットが IMSplex に関連付けられていない場合は、並行 RECON アクセスを使用可能にする前に、自動 RECON 損失通知 (ARLN) を使用可能にします。自動 RECON 損失通知が使用可能になる前にアクティブであった IMS システムが現在実行中の場合は、それらのシステムがシャットダウンするまで並行 RECON アクセスを使用可能にすることはできません。

INIT.RECON ACCESS(PARALLEL) コマンドの場合、3 つの RECON データ・セットが使用可能で、空であることを確認します。並行 RECON アクセスで RECON データ・セットを作成する前に、自動 RECON 損失通知 (ARLN) を使用可能にします。

理由が DUPLICATE GROUP ID である場合、並行 RECON アクセスを使用可能にする前に、CHANGE.RECON IMSPLEX コマンドを使用して DBRC グループ ID を変更する必要があります。このコマンドの発行時に、アクティブな DBRC インスタンスが RECON データ・セットにアクセスしてはなりません。別の RECON データ・セットを使用する同じ IMSplex で別の DBRC がアクティブである場合は、これらも終了する必要があります。あるいは、以下の手順を実行します。

1. レジスター 15 - 8 を設定することによって、SCI 登録なしに RECON データ・セット・アクセスを強制する代替の SCI 登録出口を作成します。
2. CHANGE.RECON IMSPLEX(*plexname,group_id*) コマンドを発行するジョブを実行して、RECON データ・セットのグループ ID を変更します。このジョブは、代替の SCI 登録出口を使用する必要があります。

3. SCI 登録出口を更新して、RECON データの新規グループ ID を戻します。

CHANGE.RECON ACCESS(PARALLEL) コマンドが理由 NO SCI FOR *ssid* で失敗する場合は、このコマンドを再発行してください。タイミングが原因でコマンドが失敗した可能性があります。

モジュール: DSPURM90、DSPURI02、DSPURS00

DSP1166E IMSPLEX NAME CANNOT BE RESET, REQUIRED FOR PARALLEL ACCESS

説明: 並行アクセスが RECON に対してアクティブです。並行アクセスでは、CHANGE.RECON NOPLEX コマンドを処理するために IMSplex 環境が必要です。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

システム・プログラマーの応答: RECON に関連する IMSplex 名を消去するには、その前に並行アクセスをオフにする必要があります。

モジュール: DSPURM90

DSP1168E SERIAL RECON ACCESS CANNOT BE ENABLED: *reason*

説明: CHANGE.RECON ACCESS(SERIAL) コマンドが、次のいずれかの理由で失敗しました。

SHUNTED I/O EXISTS

いくつかの RECON 入出力が Transactional VSAM によってシャットされました。これは、Transactional VSAM が更新をバックアウトできなかった別の DBRC の障害を示しています。

OPEN FAILURE

DBRC は、RECON データ・セットをシリアル・アクセス・モードでオープンできませんでした。詳細情報を提供するためにメッセージ DSP0002I または DSP0002W が発行される場合があります。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

システム・プログラマーの応答: コマンドを再発行する前に、オープン障害を解決します。シャット済み入出力が存在する場合、コマンドを再発行します。問題が続く場合、必要に応じて IDCAMS SCHDS RETRY または PURGE コマンドを使用してシャット済み入出力を解決します。このコマンドの使用については、「z/OS DFSMS カタログのためのアクセス方式サービス・プログラム」(SC88-9109) を参照してください。シャット済

DSP1169I • DSP1172W

み UR の詳細については、「z/OS DFSMStvs Planning and Operating Guide」(SC26-7348) を参照してください。

モジュール: DSPURI02

関連資料:

➡ z/OS: SHCDS

➡ z/OS: シャント済みリカバリー単位

関連情報:

141 ページの『DSP0002I』

141 ページの『DSP0002W』

DSP1169I RECON ACCESS MODE IS ALREADY SET

説明: CHANGE.RECON コマンドの ACCESS キーワードが、RECON に現在設定されているモードと同じアクセス・モード SERIAL または PARALLEL を指定しました。

システムの処置: ACCESS キーワードは無視されません。コマンドの他のキーワードは処理されます。コマンドの戻りコードは 4 (後続のエラーが検出された場合は、それ以上) です。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DSPURM90

DSP1170I SPECIFICATION OF LOG(ALL) IS NOT SUPPORTED AND WILL BE ALTERED DSN=*dsname*

説明: 実行されたコマンドまたはジョブが、示されている RECON データ・セットの定義で LOG(ALL) を指定しました。DBRC が順方向リカバリー (再実行) ロギングをサポートしないため、LOG(ALL) はサポートされません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dsname LOG(ALL) が指定されたデータ・セットの名前。

システムの処置: DBRC は、並行アクセスのために RECON をオープンする場合は LOG 指定を UNDO に変更して、シリアル・アクセスのために RECON をオープンする場合は NONE に変更します。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DSPURI15

DSP1171I ALTER OF LOG SPECIFICATION FOR *ddname* BEING ATTEMPTED

説明: メッセージに示されている RECON データ・セットの LOG 指定は、RECON データ・セットへのアクセスに使用されるアクセス・モード (TVS または非 TVS) に適切となるように変更する必要があります。これは、CHANGE.RECON ACCESS 処理中に起こり、LOG 指定が一致しない場合に初期設定時に起こる場合もあります。

システムの処置: RECON データ・セットへの TVS アクセスが必要な場合、ログ指定の UNDO への ALTER が実行されます。非 TVS アクセスが必要な場合、ログ指定の NONE への ALTER が実行されます。

システム・プログラマーの応答: RECON データ・セットの DEFINE CLUSTER ステートメントの LOG 指定を検討して、アクセス・モードに対して正しいことを確認します。JCL で LOG パラメーターが指定されている場合は、除去してください。

モジュール: DSPAMS10

DSP1172W ALTER OF LOG SPECIFICATION FOR *ddname* FAILED RC *nnnn*

説明: *ddname* で示されている RECON データ・セットに対するログ指定の ALTER の試行が失敗しました。

システムの処置: ALTER が CHANGE.RECON ACCESS 処理中に試行された場合、コマンドは失敗して、アクセス・モードは未変更のままになります。ALTER が INIT.RECON ACCESS 処理中に試行された場合、コマンドは失敗して、RECON データ・セットは初期設定されません。それ以外の場合、RECON データ・セットには異なる LOG 属性が指定されており、DBRC が、データ・セットの LOG 属性を DBRC が使用するべきと判断したアクセス・モード (シリアルまたは並行) と一致するように変更しようとした。この場合、処理は続行します。しかし、メッセージで示されている RECON データ・セットは使用不可の可能性がありえます。

システム・プログラマーの応答: LIST.RECON STATUS コマンドを発行して、RECON データ・セットの状況およびアクセス設定を調べます。アクセス方式 サービス・プログラム (AMS) を使用して RECON データ・セットを削除および再定義するか、必要に応じてデータ・セットの LOG 指定の ALTER を行います。

モジュール: DSPAMS10

DSP1174I RECON DATA SETS INDICATE THAT *type* ACCESS IS REQUIRED

説明: DBRC が RECON データ・セットをオープンしようとしたが、不整合を検出しました。

メッセージ・テキストで、*type* は次のいずれかです。

PARALLEL

並行アクセスが必要です。しかし、LOG 指定が NONE であるか、LOG 属性が指定されていないため、DBRC は RECON データ・セットをシリアル (非 TVS) アクセスでオープンしました。RECON データ・セットの情報は、並行 RECON アクセスがオンになっていたことを示しています。

SERIAL

シリアル・アクセスが必要です。しかし、LOG 指定が UNDO であるため、DBRC は RECON データ・セットを並行アクセスでオープンしました。RECON データ・セットの情報は、並行 RECON アクセスがオンになっていなかったことを示しています。

システムの処置: DBRC 初期設定は、データ・セットのクローズ、LOG 指定の ALTER、および正しいアクセス・モードでの RECON データ・セットの再オープンを試行します。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DSPURI10

DSP1175E RECON COPY_n DATA SET NAME MISMATCH THIS DBRC ALLOCATED DSN=*xxxx* OTHER DBRC USING DSN=*dsnm2*

説明: RECON データ・セットのオープン時に、DBRC が、IMSplex の他の DBRC インスタンスがアクセスしているのと同じアクティブ (COPY1 または COPY2) データ・セットにアクセスしていないと判別しました。この状態は、DBRC が他の DBRC インスタンスが割り振った 1 つ以上のデータ・セットを割り振ることができなかったか、あるいはこの DBRC が誤った RECON データ・セットにアクセスしていることを意味しています。並行 RECON アクセスの場合、1 つの DBRC インスタンスに対してアクティブな RECON データ・セットは、IMSplex のすべての DBRC インスタンスに対してアクティブでなければなりません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

COPY_n

n は、1 または 2 で、一致しなかった RECON データ・セットのコピーです。

xxxx

これは、データ・セット名または *NOT AVAILABLE* です。これがデータ・セット名である場合、DBRC が COPY_n データ・セットで使用しているデータ・セットを識別します。データ・セットをこのコピーに割り振ることができなかった場合は *NOT AVAILABLE* が表示されます。

dsnm2

これは、他の DBRC インスタンスが COPY_n データ・セットに使用されたデータ・セット名です。

システムの処置: この DBRC 領域がオンライン IMS サブシステムに関連付けられている場合、メッセージ DSP1176A が WTOR として発行されます。そうでなく、DBRC の初期設定中に不一致が発生する場合、DBRC の初期設定は RECON データ・セットが不十分であるために失敗します。その他の時点でエラー不一致が検出される場合、DBRC は 2480 異常終了で終了します。

システム・プログラマーの応答: エラーの原因が、DBRC がすべての RECON データ・セットに対するアクセス権を持っていないことである場合、メッセージで示されている RECON データ・セットをこの DBRC インスタンスに対して使用可能にします。エラーの原因が、DBRC が誤ったデータ・セットにアクセスしていることである場合は、DBRC インスタンスによって使用されている RECON データ・セットが正しいことを確認するために適切な処置を実行します。

モジュール: DSPURI10

関連情報:

DSP1176A

DSP1176A REQUIRED RECON DATA SETS UNAVAILABLE - REPLY 'RETRY' OR 'CANCEL'

説明: このメッセージは、DSP1175E メッセージに続いて出力されます。DBRC には、前の DSP1175E メッセージで示される RECON データ・セットへのアクセスが必要です。この DBRC インスタンスは、それらのデータ・セットが使用可能になるまで続行できません。

システムの処置: RETRY 応答により、DBRC はデータ・セットに再びアクセスします。CANCEL 応答の場合、DBRC は終了します。

システム・プログラマーの応答: データ・セットをこの DBRC インスタンスで使用可能にするために必要な処置を実行します。その後、RETRY で応答します。デー

DSP1177A • DSP1181E

タ・セットを使用可能にできない場合、CANCEL で応答します。

モジュール: DSPURI10

関連情報:

DSP1175E

DSP1177A RECON INDICATES PARALLEL ACCESS WHICH REQUIRES SCI REGISTRATION

説明: DBRC が SCI に登録されなかったため、RECON へのアクセスがシリアル・モードで試行されました。しかし、RECON の情報は、並行 RECON アクセスがオンになっていることを示しています。

システムの処置: RECON データ・セットが利用不能であるため、DBRC は終了します。

システム・プログラマーの応答: RECON データ・セットにアクセスするには、JCL で IMSPLEX EXEC パラメーターを指定するか、SCI 登録出口ルーチン (DSPSCIX0) を使用して IMSplex 名を指定することにより、DBRC が SCI に登録されていることを確認します。

モジュール: DSPURI10

DSP1178W RECON DATA SET IS UNAVAILABLE: reason DSN=dsname

説明: *dsname* で示されている RECON データ・セットは、示されている *reason* のために DBRC で使用できません。*reason* は次のいずれかです。

SHUNTED I/O

データ・セットに関して、シャント済み入出力が検出されました。Transactional VSAM は、障害 (通常は入出力エラー) が原因でデータをコミットまたはバックアウトできませんでした。

NOT A KSDS

データ・セットが VSAM キー順データ・セット (KSDS) ではありません。

システムの処置: データ・セットは DBRC によって破棄されます。ユーザーがデータ・セットを削除および再定義して、必要な場合はシャント済み入出力データをパージするまで、データ・セットは使用不可です。

データ・セットが破棄された場合の理由が「SHUNTED I/O」である場合、良好な RECON コピーが存在すれば、DBRC は VSAM サービスを呼び出してシャント済み入出力データをパージします。パージ要求が失敗すると、メッセージ DSP1179W が発行されます。

良好な RECON データ・セットが存在しない (例え

ば、すべての RECON データ・セットにシャント済み入出力データがある) 場合、DBRC は、シャント済み入出力データをパージせず、RECON データ・セットが不十分であるために終了します。

システム・プログラマーの応答: データ・セットを削除してから再定義し、予備の RECON データ・セットとして使用できるようにします。メッセージ DSP1179W も出される場合、VSAM SHCDS PURGE コマンドを発行してシャント済み入出力データをパージします。

モジュール: DSPURI10、DSPURI1P、DSPURI30、DSPURI60、DSPURI70、DSPURI80

関連情報:

『DSP1179W』

DSP1179W ATTEMPT TO PURGE SHUNTED I/O FAILED, RC=nnnn DSN=dsname

説明: DBRC は、シャント済み入出力データが存在するために、示されているデータ・セットを破棄した後で、そのデータ・セットに関連するシャント済み入出力データをパージしようとして失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nnnn SHCDS PURGE 要求からの戻りコード
dsname 要求が出されたデータ・セット名

システムの処置: DBRC は処理を継続します。データ・セットは、シャント済み入出力データが関連付けられている限り、利用不能のままです。

システム・プログラマーの応答: VSAM IDCAMS コマンド SHCDS PURGE SPHERE (*dsname*) を発行して、シャント済み入出力データを破棄します。データ・セットを削除してから再定義し、予備の RECON データ・セットとして使用できるようにします。

モジュール: DSPURI80

DSP1181E LOAD OF CALLABLE SERVICE servicename FAILED - RC=nnnn

説明: DBRC が、示された呼び出し可能サービスをロードできませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

servicename
IGWARLS、ATRBACK、ATRCMIT のいずれか

nnnn LOAD 要求からの戻りコード

システムの処置: サービスが IGWARLS である場合、DBRC 初期設定が続行されます。サービスが

ATRCMIT または ATRBACK である場合、DBRC は 2480 異常終了で終了します。

システム・プログラマーの応答: IMS サブシステムを再始動する前、またはバッチまたはユーティリティー・ジョブを再実行依頼する前に、ロード失敗の原因を判別します。

モジュール: DSPURI15、DSPRSYNC

関連情報:

 IMS 異常終了 2480

**DSP1182E CALLABLE SERVICE *servicename*
FAILED - RC=*nnnn* RSN=*mmmm***

説明: 予期しない戻りコードが、DBRC によって使用された呼び出し可能サービスから戻されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

servicename

IGWARLS、ATRBACK、ATRCMIT のいずれか

nnnn LOAD 要求からの戻りコード

mmmm サービスが IGWARLS の場合は理由コード、サービスが ATRBACK または ATRCMIT の場合はブランク

DBRC は、IGWARLS を使用して RECON データ・セットの LOG 指定を判別します。

システムの処置: サービスが IGWARLS の場合、IGWARLS からの結果で LOG(NONE) が RECON データ・セットに対して定義されている場合と同様に処理は続行します。サービスが ATRCMIT または ATRBACK の場合、この DBRC インスタンスは U2480 異常終了で終了します。

システム・プログラマーの応答: IGWARLS 戻りコード、ATRBACK 戻りコード、または ATRCMIT 戻りコードを調べて、エラーの原因を判別し、状況を解決するための適切な処置を実行します。

モジュール: DSPURI15、DSPRSYNC

関連資料:

 z/OS: IGWARLS 戻りコード

 z/OS: ATRCMIT 戻りコード

 z/OS: ATRBACK 戻りコード

**DSP1183W AN RRS COMMIT ERROR WAS
ENCOUNTERED *nnnn* TIMES;
RC=*rrsrc***

説明: DBRC が、z/OS リソース・リカバリー・サービスのコミットまたはバックアウトのエラーを検出して、再度処理を試行することによってリカバリーしようとした。複数回の試行で同じエラーが発生しました。同じ問題が継続している場合は、このメッセージが定期的に発行されます。エラーの原因を訂正するために何らかの処置が必要な可能性があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nnnn エラーが発生した回数

rrsrc RRS 戻りコード

システムの処置: 最後の DBRC 要求を再試行する処理が継続します。

システム・プログラマーの応答: ATRBACK 戻りコードまたは ATRCMIT 戻りコードを参照して、エラーの原因を判別し、状況を解決するための適切な処置を実行します。

モジュール: DSPRSYNC

関連資料:

 z/OS: ATRCMIT 戻りコード

 z/OS: ATRBACK 戻りコード

**DSP1184W VSAM OPEN|ACCESS ERROR
ENCOUNTERED *nnnn* TIMES
RC=*xxxx* RSN=*yyyy***

説明: DBRC が、VSAM オープンまたはアクセス・エラーを検出して、再度処理を試行することによってリカバリーしようとした。複数回の試行で同じエラーが発生しました。エラーの原因を訂正するために処置が必要な場合があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nnnn エラーが発生した回数。同じエラーが 999 回を超えて発生した場合、*nnnn* は >999 に設定されます。

xxxx VSAM 戻りコード。

yyyy VSAM 理由コード。

システムの処置: 処理を続行します。エラーが引き続き発生する場合、DBRC は、エラーが発生しなくなるまで再試行を続けます。

システム・プログラマーの応答: VSAM レコード管理の戻りコードおよび理由コードについては、「z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets」を参照してく

DSP1186I • DSP1190W

ださい。問題を訂正してください。

モジュール: DSPURI1P、DSPURI50、DSPURI60

関連資料:

 z/OS: レコード管理の戻りコードおよび理由コード

DSP1186I DBRC COMMAND RETRY ATTEMPTED

説明: 再試行できるエラーが検出され、DBRC は、外部出力を生成した可能性があるコマンドを再処理しようとしています。DBRC は、エラーが発生して再試行可能であると見なした処理 (例えば、デッドロックまたはタイムアウト) を再試行します。この場合、データ・セット (例えば、SYSPRINT) または JCLOUT データ・セットに書き込まれた可能性があります。コマンド処理が再試行されるため、このメッセージの前に生成された出力は無視してください。内部読み取りプログラムに直接的に実行依頼された JCLOUT データ・セットへの出力は、重複した JCL または実行されない JCL を生成する可能性があります。

システムの処置: コマンドは再処理されます。

プログラマーの応答: このメッセージが正常に実行された LIST コマンドによって発行された場合、メッセージの発行前に生成された出力は無視してください。

モジュール: DSPURX00

DSP1187E DBRC COMMAND RETRY FAILED

説明: 外部出力を生成した可能性がある LIST コマンドの再試行が失敗しました。コマンドは、SYSPRINT またはその他の何らかの外部データ・セットに書き込んだ可能性があります。コマンド再試行制限に達しました。システムは、DBRC LIST コマンドを 1 回のみ再試行します。

システムの処置: コマンドは失敗します。

プログラマーの応答: コマンドで STATIC オプションを指定して (またはデフォルト設定され)、QUIESCE を指定しなかった場合、QUIESCE を使用すると再試行エラーの発行を防止できる可能性があります。

モジュール: DSPURX00

DSP1188A RECON ACCESS DENIED, GROUP ID *nnn* NOT VALID, JOB=*jobname*

説明: DBRC が使用した DBRC グループ ID は、これらの RECON データ・セットに関連していません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

258 メッセージおよびコード 第 2 巻: DFS 以外のメッセージ

nnn RECON アクセスに失敗したグループの ID を示します。*nnn* が *** である場合、RECON によってグループ ID が必要であることが示されているにもかかわらず、グループ ID が指定されませんでした。

jobname

アクセスを拒否されたジョブ名。

システムの処置: RECON アクセスは失敗します。

プログラマーの応答: DBRCGRP EXEC パラメーターまたは SCI 登録出口ルーチン (DSPSCIX0) で正しい DBRC グループ ID を指定します。緊急状態の場合、SCI 登録出口ルーチン (DSPSCIX0) を用いて RECON アクセスを強制することができます。

モジュール: DSPURI30

DSP1189A VALUES FOR PARAMETER IMSPLEX HAVE NOT CHANGED

説明: CHANGE.RECON IMSPLEX() コマンドが発行されました。IMSPLEX パラメーターの値は変更されていません。

システムの処置: コマンドは失敗します。

プログラマーの応答: パラメーター IMSPLEX の値を確認します。パラメーターの値を訂正して、コマンドを再実行依頼します。

問題判別: 2、3

モジュール: DSPURM90

DSP1190W A REQUEST TO OBTAIN A VSAM LOCK ON A RECORD HAS TIMED OUT *nnnn* TIMES.

説明: DBRC は、シリアライゼーションのために VSAM ロックを取得しようとしたのですが、この試行は繰り返しタイムアウトになりました。以下のいずれかの理由で、ロック要求が繰り返しタイムアウトになった可能性があります。

- 複数の IMS システムからの DBRC インスタンスが同じようなアクションを実行しています。例えば、複数のユーティリティーが並行して実行されています。
- DBRC インスタンスが、LIST.RECON コマンドなどの、長時間かかる要求を処理しています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nnnn 要求がタイムアウトになった回数。

システムの処置: 処理は続行されます。

システム・プログラマーの応答: DISPLAY SMS,URID(ALL) コマンドを発行して、DBRC インスタ

ンスが過度に長い時間、ロックを保持しているかどうかを判別してください。これが当てはまる場合は、そのジョブのキャンセルを検討してください。タイムアウトの原因が、上記にリストされている理由のいずれかでない場合は、すべての DBRC インスタンスからダンプを取

集して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DSPURI60

DSP メッセージ DSP1201-DSP2000

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DSP1202A A RECORD WITH AN INCORRECT RECORD LENGTH WAS ENCOUNTERED

Record key

説明: LIST コマンドがこのメッセージを発行した場合、1 つ以上のレコードで誤ったレコード長が検出されました。リストは、レコードをリストせずに、インライン・リストに *******incorrect record length******* を生成します。

CHANGE.RECON UPGRADE コマンドがこのメッセージを発行する場合、追加の出力行で、フォーマットされたレコード・キーが表示されます。

システムの処置: 処理を続行します。完了コードは、戻りコード 4 に設定されます。

プログラマーの応答: このメッセージが LIST コマンドによって発行された場合、出力を検索して、リストで *******incorrect record length******* が付いたレコードを見つけます。コマンドを使用して、レコードを削除するか、追加して元に戻すことが必要になる場合があります。

このメッセージが CHANGE.RECON UPGRADE コマンドによって発行された場合、レコードのキーがメッセージの後に続きます。RECON のリストを調べて、インライン・リストで *******incorrect record length******* が付いたレコードを確認します。コマンドを使用して、レコードを削除するか、追加して元に戻すことが必要になる場合があります。

モジュール: DSPURP00、DSPURU90

DSP1203A LOWEST CROSS DBRC SERVICE LEVEL ALLOWED IS *value*

説明: 相互 DBRC サービス・レベル (CDSLID) を RECON のこのレベルに許されている値より低い値に変更しようとした。異なるリリースの IMS は、この RECON にアクセスする場合がありますが、同じ最小相互 DBRC サービス・レベルで共存している必要があります。最小相互 DBRC サービス・レベルとは、そのリリース用に RECON がアップグレードまたは初期設定されたときに設定された値です。

システムの処置: 処理は終了します。

プログラマーの応答: CDSLID についてこのメッセージで示されている値を使用して、コマンドを再発行します。

モジュール: DSPURM90

DSP1204A DBRC INITIALIZATION FAILED DUE TO INCORRECT MINVERS VALUE

説明: RECON 内の MINVERS 値が、初期設定を試みている IMS リリースより大きいときに、DBRC の初期設定が試みられました。

システムの処置: 処理は終了します。

プログラマーの応答: 正しい RECON が使用されているかどうか判別してください。IMS の適切なリリースを使用して、MINVERS レベルをリセットすることができます。CHANGE.RECON コマンドの詳細については、「CHANGE.RECON コマンド (コマンド)」を参照してください。

モジュール: DSPUIN00

DSP1205E MINVERS VALUE IS INCONSISTENT WITH DB QUIESCE STATUS FOR DATABASE|AREA *dbname|areaname*

説明: 新しい MINVERS 値を 11.1 よりも前の IMS リリースに設定する CHANGE.RECON MINVERS コマンドが発行されました。現行の値は 11.1 以上になっています。QUIESCE IN PROGRESS フラグまたは QUIESCE HELD フラグがオンになっているデータベースまたはエリアが検出されました。DB QUIESCE 機能は、MINVERS が 11.1 以上の場合にのみ有効になります。

このメッセージは、1 つ以上のフラグがオンになっていることが検出されたデータベースまたはエリアごとに発行されます。

システムの処置: コマンドは終了し、後続のコマンドは無視されます。

ユーザーの処置: データベースおよびエリアが QUIESCE を完了するまで待ちます。オンになっている

DSP1206E • DSP1211W

フラグでエラーが発生している場合は、CHANGE.DB コマンドを発行して QUIESCE IN PROGRESS および QUIESCE HELD フラグをオフに設定します。

問題判別: 2、3、および RECON データ・セットのリスト。

モジュール: DSPURM90

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1206E PARAMETER *parameter-name* IS NOT ALLOWED DUE TO INVALID MINVERS VALUE

説明: MINVERS 値が、メッセージに示されているパラメーターをサポートしていません。

OSAM8G または NOOSAM8G キーワードを使用するには、MINVERS レベルの値が 14.1 または 13.1 (相互 DBRC サービス・レベル ID (CDSLID) が 2 に設定されている場合) であることが必要です。CDSLID 値 2 は、8 GB OSAM データ・セットの HALDB サポートに該当する保守が、RECON データ・セットにアクセスするすべての IMS バージョン 13 常駐ライブラリー (RESLIB) に適用されていることを示します。

システムの処置: コマンドは終了し、後続のコマンドは無視されます。

プログラマーの応答: CHANGE.RECON コマンドを使用して MINVERS レベルの値を訂正してから、コマンドを再サブミットしてください。

問題判別: 2、3、および RECON データ・セットのリスト。

モジュール: DSPURM10、DSPURS10

関連資料:

 CHANGE.RECON コマンド (コマンド)

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1210E THE RCNQUAL SPECIFIED IS NOT A SUBSTRING OF THE RECON DSN

説明: CMDAUTH キーワードおよび RECON データ・セット名のサブストリングでないか、RECON データ・セット名の高位修飾子でない (末尾にアスタリスク (*) を指定した場合) *rcnqual* ストリングを指定して、INIT.RECON コマンドまたは CHANGE.RECON コマンドを発行しました。*rcnqual* ストリングの設定または変更は INIT.RECON コマンドまたは CHANGE.RECON コマンドを使用する場合、*rcnqual*

は RECON COPY1 データ・セット名のサブストリングでなければなりません。

システムの処置: コマンドが戻りコード 12 で失敗しました。後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: CMDAUTH キーワード値を訂正し、このコマンド、および処理されなかった他のコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

モジュール: DSPURX00

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1211W THE CURRENT COMMAND AUTHORIZATION SETTING WILL NOT BE ENFORCED DUE TO RCNQUAL MISMATCH

説明: DBRC コマンドを発行しましたが、実際のレベルのコマンド許可を実施できないと DBRC により判断されました。RECON の *rcnqual* の値として指定したストリングが、アクセス対象の RECON データ・セットの名前のサブストリングでないため、DBRC コマンド許可は実行されませんでした。あるいは、末尾にアスタリスク (*) を指定した場合は、ストリングが RECON DSN の高位修飾子ではありませんでした。RECON データ・セットはセキュリティーを必要としない RECON のコピーとして扱われます。

rcnqual の値と RECON データ・セット名の不一致は、以下のいずれかの結果として発生している可能性があります。

- DBRC が実動版の RECON データ・セットのコピーを処理している。
- 実動版の RECON データ・セットが名前変更されたが、*rcnqual* の値が変更されていない。

システムの処置: コマンド許可の検査なしで処理が続行します。

プログラマーの応答: RECON のこのコピーに対して DBRC コマンド許可セキュリティーを実施する場合は、RECON COPY1 データ・セット名のサブストリングである *rcnqual* を指定して、CHANGE.RECON CMDAUTH コマンドを使用してください。このコマンドの発行後に発行されたどのコマンドに対しても、DBRC コマンド許可セキュリティーが実施されます。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

モジュール: DSPDCAI0

関連情報:

『DSP1214I』

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP1212W ALL EXISTING IMAGE COPIES FOR
DBNAME=*dbname* DDN=*ddname* WERE
DELETED**

または

**ALL EXISTING IMAGE COPIES FOR
DBNAME=*dbname* AREA=*areaname* WERE DELETED**

説明: LASTIC オプションを指定した
CLEANUP.RECON コマンドが発行されました。DBRC
は、指定された DBDS またはエリア用の既存のイメ
ージ・コピーがすべて使用されていなかったため、削除
しました。このメッセージは、メッセージ DSP1214I の後
に続きます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりで
す。

dbname イメージ・コピーが削除されたデータベースの
名前

ddname イメージ・コピーが削除されたデータベース・
データ・セットの DD 名

areaname
イメージ・コピーが削除されたエリアの名前

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: メッセージ・テキストに示されて
いるデータベースを確認して、まだ有効かどうかを判別
してください。まだ有効であれば、有効なりカバリー・
ポイントを確立するためのイメージ・コピーを作成しま
す。データベース自体が使用されていない場合は、デー
タベース全体を RECON から削除してもかまいません。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットの
リスト。

モジュール: DSPURC00

関連情報:

『DSP1214I』

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP1213I THE LAST IMAGE COPY FOR
DBNAME=*dbname* DDN=*ddname* WAS
RETAINED BECAUSE THE LASTIC
OPTION WAS NOT SPECIFIED**

または

**THE LAST IMAGE COPY FOR DBNAME=*dbname*
AREA=*areaname* WAS RETAINED BECAUSE THE
LASTIC OPTION WAS NOT SPECIFIED**

説明: LASTIC オプションの指定なしで
CLEANUP.RECON コマンドが発行されました。指定し
た DBDS またはエリアに対する最後のイメージ・コピ
ーは削除基準を満たしていましたが、削除されません
でした。このメッセージは、メッセージ DSP1214I の後に
続きます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりで
す。

dbname 最後のイメージ・コピーが削除されなかったデ
ータベースの名前

ddname 最後のイメージ・コピーが削除されなかったデ
ータベース・データ・セットの DD 名

areaname
最後のイメージ・コピーが削除されなかったエ
リアの名前

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: このデータベースがまだ有効かど
うか、または使用されているかを確認してください。デ
ータベースがまだ有効な場合は、新しいイメージ・コピ
ーが必要かどうかを検討します。データベース自体が使
用されていない場合は、データベース全体を RECON
から削除してもかまいません。

モジュール: DSPURC00

関連情報:

『DSP1214I』

**DSP1214I RECON INFORMATION WAS
DELETED FOR DBNAME=*dbname*
DDN=*ddname***

または

**RECON INFORMATION WAS DELETED FOR
DBNAME=*dbname* AREA=*areaname***

説明: 使用されていないリカバリー関連情報を
RECON データ・セットから削除する

CLEANUP.RECON コマンドが発行されました。
CLEANUP.RECON コマンドに指定されたオプションに
基づいて、DBRC はリストされたリカバリー関連レコ
ードが使用されていないことを確認してから削除します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりで
す。

dbname リカバリー関連情報が削除されたデータベース
の名前

ddname リカバリー関連情報が削除されたデータベ
ース・データ・セットの DD 名

DSP1215I • DSP1223E

areaname

リカバリー関連情報が削除されたエリアの名前

システムの処置: LISTDL オプションが有効な場合は、削除された全レコードに関する情報が表示されます。表示される出力には、以下の情報が含まれます。

RECORD	TIME
ALLOC	time stamp
IMAGE	time stamp
RECOV	time stamp
REORG	time stamp

イメージ・コピーが削除された場合は、各 IMAGE 行に続いて以下の情報も出力に含まれます。ここで *icdsn* はデータ・セット名を表します。

IC1 DSN=*icdsn*
IC2 DSN=*icdsn* (2 次的なイメージ・コピーが存在する場合)

ユーザーのイメージ・コピーには表示対象になる関連 DSN 情報がありません。システムは、このメッセージを繰り返して、関連する DBDS をすべてリストすることがあります。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1215I NO DBDS INFORMATION WAS DELETED

説明: システムは、CLEANUP.RECON の処理中に、処理したいずれの DBDS にも、削除対象になる、使用されていないリカバリー関連情報がないことを確認しました。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DSPURC00

DSP1216I THE PRILOG FAMILY WITH TIME=*time-stamp* AND SSID=*ssid* WAS DELETED

説明: CLEANUP.RECON コマンドまたは DELETE.LOG コマンドの実行中に、PRILOG 全体が、関連する SECLOG、PRISLD、SECSLD、および LOGALL とともに削除されました。LISTDL オプションを指定した場合は、このメッセージに続いて 1 つ以上の DFS1047I メッセージが出力されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

time-stamp

PRILOG ファミリーのタイム・スタンプ

ssid PRILOG ファミリーのサブシステム ID

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DSPURD60

DSP1217E THE LASTDB VALUE MUST BE GREATER THAN THE FIRSTDB VALUE

説明: DBRANGE オプションを指定した CLEANUP.RECON コマンドが発行されました。しかし、*firstdb* パラメーターに対して指定した値が、*lastdb* に対して指定した値よりも大きくなっています。DBRC は範囲が英数字順に並んでいるかどうかを評価します。DBRANGE キーワードにはデータベースの範囲を指定できますが、範囲の値が妥当であり、ラップしないことが必要です。

システムの処置: コマンドが戻りコード 12 で失敗しました。後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: *firstdb* および *lastdb* パラメーターに指定した値を確認します。指定した *lastdb* の値が、指定した *firstdb* の値と同じか、またはそれよりも大きくなるようにします。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

モジュール: DSPURC00

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1223E THE REORGANIZATION NUMBER *yyyyyy* IS INVALID FOR DATABASE *xxxxxxx* REASON: *reason*

説明: NOTIFY.RECOV コマンドが REORG パラメーターと一緒に発行された後に失敗したか、またはデータベース・リカバリー・ユーティリティが DBRC に渡した再編成番号により新しいバージョンのデータ・セットが作成されませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

yyyyyy REORG パラメーターで指定された再編成番号。

xxxxxxx

DBD パラメーターで指定されたデータベース名。

reason

NOT VALID FOR THIS DATABASE

TYPE 指定されたデータベースが HALDB
区画データベースではありません。
REORG パラメーターを指定した
NOTIFY.RECOV コマンドは、
HALDB 区画データベースに対しての
み有効です。

**VALUE MUST BE GREATER THAN THE
CURRENT REORGANIZATION NUMBER**

zzzzz このリカバリーによって新しいバージ
ョンのデータ・セットが作成されるか
どうかを DBRC が検証しました。新
しい再編成番号は、指定されたデー
タベース (zzzzz) の RECON データ・
セットに現在保管されている再編成番
号より大きくなければなりません。

**THE RECOVERY DOES NOT CREATE A
NEW VERSION OF THE DATA SET**

このリカバリー操作は、再編成の前、
あるいは新しいバージョンのデータ・
セットを生成した前回のリカバリーの
後には実行されません。

システムの処置: NOTIFY.RECOV コマンドは戻りコー
ド 12 で失敗します。

ユーザーの処置: 示された理由を基にして、コマンドま
たはデータベース・リカバリー・ユーティリティー操作
が失敗した原因を判別します。その後、コマンドを再発
行するか、新しいパラメーターを指定してデータベー
ス・リカバリー・ユーティリティーを再実行します。

モジュール: DSPURT20

**DSP1225I CHANGE ACCUMULATION
EXECUTION RECORDS WERE
DELETED FOR CA GROUP
GRPNAME=cagrp**

説明: RECON データ・セット内の使用されていない
変更累積レコードを削除する CLEANUP.RECON コマ
ンドが発行されました。CLEANUP.RECON コマンドに
指定されたオプションに基づいて、DBRC はリストされ
た変更累積レコードが使用されていないことを確認し、
これらのレコードを削除しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりで
す。

cagrp 変更累積データ・セットの情報が削除された変
更累積グループの名前。

システムの処置: LISTDL オプションが有効な場合は、
削除された全レコードに関する情報が表示されます。表
示される出力には次の情報が含まれます。

RECORD TIME
CA time stamp
DSN=cadsn

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セット
のリスト。

モジュール: DSPURC00

**DSP1227E THE LASTCAG VALUE MUST BE
GREATER THAN THE FIRSTCAG
VALUE**

説明: CAGRANGE キーワードを指定した
CLEANUP.RECON コマンドが発行されました。しか
し、*firstcag* パラメーターに指定された値が、*lastcag* パ
ラメーターに指定された値よりも大きいです。DBRC
は範囲が英数字順に並んでいるかどうかを評価します。
範囲の値が有効であり、ラップしないことが必要です。

システムの処置: コマンドが戻りコード 12 で失敗しま
した。後続のコマンドは処理されません。

プログラマーの応答: *firstcag* および *lastcag* パラメ
ーターに指定した値を確認します。CAGROUP キーワ
ードの *lastcag* パラメーターに指定された値が、*firstcag* パ
ラメーターに指定された値以上であることを確認してく
ださい。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セット
のリスト。

モジュール: DSPURC00

**DSP1228I NO CHANGE ACCUMULATION
INFORMATION WAS DELETED**

説明: システムは、CLEANUP.RECON コマンドの処
理中に、処理したいずれの CA グループにも削除対象
となる使用されていない変更累積情報がないことを確認
しました。

システムの処置: コマンドは正常に完了します。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: DSPURC00

**DSP1229A THE CHANGE ACCUMULATION
DATA SET IS WITHIN THE
RECOVERY PERIOD AND CANNOT
BE REUSED FOR CA GROUP
GRPNAME=cagrp
RUNTIME=oldest_ca_time**

説明: 変更累積ユーティリティーを実行する前に、以下

DSP1230I • DSP1232I

の 3 つのイベントが発生したことを DBRC が判別しました。

- GRPMAX キーワードに指定された値に達した。
- 最も古い変更累積はリカバリー期間内であるため、再使用できない。
- 使用可能な変更累積データ・セットが存在しない。

システムの処置: 処理は終了します。

プログラマーの応答: INIT.CA コマンドを発行して使用可能な変更累積データ・セットを定義するか、または CHANGE.CAGRP コマンドを発行してリカバリー期間を変更します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

モジュール: DSPUGP00

DSP1230I THE LAST CHANGE ACCUMULATION EXECUTION RECORD FOR CA GROUP GRPNAME=*cagrp* WAS RETAINED BECAUSE THE LASTCA OPTION WAS NOT SPECIFIED

説明: LASTCA キーワードを指定しないで CLEANUP.RECON コマンドが発行されました。指定された CA グループの最後の変更累積実行レコードは削除基準を満たしていると DBRC は判断しましたが、レコードは削除されませんでした。このメッセージは、メッセージ DSP1225I の後に続きます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cagrp 最後の変更累積実行レコードが保持された変更累積グループの名前。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: この変更累積実行レコードがまだ有効であるかどうかを判別します。CA グループがまだ有効である場合は、新しい変更累積が必要であるかどうかを判別します。CA グループが使用されていない場合は、これを RECON データ・セットから削除できます。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

モジュール: DSPURC00

関連情報:

263 ページの『DSP1225I』

DSP1231W ALL EXISTING CHANGE ACCUMULATION EXECUTION RECORDS FOR CA GROUP GRPNAME=*cagrp* WERE DELETED

説明: LASTCA キーワードを指定した CLEANUP.RECON コマンドが発行されました。指定された変更累積 (CA) グループの既存の変更累積実行レコードがすべて使用されていないと DBRC が判断し、これらを削除しました。このメッセージは、メッセージ DSP1225I の後に続きます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cagrp 最後の変更累積実行レコードが削除された変更累積グループの名前。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: メッセージ・テキストに示されている CA グループを確認して、まだ有効かどうかを判別してください。CA グループが有効である場合は、新しい変更累積グループが必要であるかどうかを判別します。CA グループが使用されていない場合は、これを RECON データ・セットから削除できます。

モジュール: DSPURC00

関連情報:

263 ページの『DSP1225I』

DSP1232I GRPMAX WAS EXCEEDED FOR THE CA GROUP GRPNAME=*cagrp*; A PREDEFINED CHANGE ACCUMULATION DATA SET WAS USED

説明: 変更累積ユーティリティを実行する前に、DBRC は以下の状態を判別しました。

- GRPMAX キーワードに指定された値に達した。
- 最も古い変更累積データ・セットはリカバリー期間内であるため、再使用できない。

事前定義された変更累積データ・セットが使用されました。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: CA グループに対する現在の RECOVPD 値では、GRPMAX 値で指定された変更累積データ・セットの数よりも、DBRC によって維持される変更累積データ・セットの方が多くなる場合があります。この場合は、RECOVPD 値と GRPMAX 値を再評価し、必要に応じて CHANGE.CAGRP コマンドを使用してこれらの値を調整します。

モジュール: DSPUGP00

DSP1233I THE CHANGE ACCUMULATION DATA SET IS WITHIN THE RECOVERY PERIOD AND CANNOT BE DELETED FOR CA GROUP
GRPNAME= cagrp RUNTIME=oldest
CA time

説明: 次のいずれかのイベントが発生したため、このメッセージが発行されます。

- 変更累積ユーティリティを実行する前に、NOREUSE 属性を持つように定義された指定の CA グループに対して、RECON データ・セット内の最も古い変更累積実行レコードを削除できないと DBRC が判断しました。GRPMAX 値に達したが、リカバリー期間を超えていません。
- CHANGE.CAGRP コマンドの実行中に、CHANGE.CAGRP コマンドで変更されている GRPMAX の値に適合させるためにリカバリー期間内の変更累積実行レコードを削除できませんでした。新しい GRPMAX 値が記録されました。

システムの処置: 処理は続行されます。

変更累積ユーティリティによってこのメッセージが発行された場合は、新しい変更累積実行レコードが RECON データ・セットに記録され、変更累積データ・セットの数が GRPMAX 値を超えます。

プログラマーの応答: CA グループに対する現在の RECOVPD 値では、GRPMAX 値で指定された変更累積レコードよりも、DBRC によって維持される変更累積レコードの方が多くなる場合があります。RECOVPD 値および GRPMAX 値を確認し、必要に応じて CHANGE.CAGRP コマンドを使用してこれらの値を調整します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データ・セットのリスト。

モジュール: DSPUGP00

DSP1235W THE INTERNAL REPRESENTATION OF THE DMB NUMBER FOR DATABASE xxxxxx IS INCORRECT

説明: REPAIR.RECON コマンドの処理中に、DMB 番号の内部表記が誤ったデータベース・レコードがありました。

REPAIR.RECON DMBTABLE または REPAIR.RECON DMBNUM UPDATE コマンドが発行されていた場合、そのデータベースは許可されていないため、DBRC がデータベース・レコード内の DMB 番号の内部表記を訂正しました。

REPAIR.RECON DMBNUM CHECKUP コマンドが発

行されていた場合、そのデータベースが許可されていないままであれば、REPAIR.RECON DMBTABLE または REPAIR.RECON DMBNUM UPDATE コマンドを使用して DMB 番号を訂正できます。

システムの処置: REPAIR.RECON コマンドが戻りコード 12 で失敗します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: 2、3、40

モジュール: DSPURR01

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1236E THE INTERNAL REPRESENTATION OF THE DMB NUMBER FOR DATABASE xxxxxx COULD NOT BE CORRECTED BECAUSE THE DATABASE IS AUTHORIZED

説明: REPAIR.RECON コマンドの処理中に、DMB 番号の内部表記が誤ったデータベース・レコードがありました。

REPAIR.RECON DMBTABLE または REPAIR.RECON DMBNUM UPDATE コマンドが発行されていた場合、そのデータベースは許可されたものであるため、DBRC はデータベース・レコード内の DMB 番号の内部表記を訂正できませんでした。

REPAIR.RECON DMBNUM CHECKUP コマンドが発行されていた場合、REPAIR.RECON DMBTABLE または REPAIR.RECON DMBNUM UPDATE コマンドを使用して DMB 番号を訂正するには、まずそのデータベースの許可を取り消す必要があります。

システムの処置: すべてのデータベースがチェックされた後に、REPAIR.RECON コマンドが戻りコード 12 で失敗します。

プログラマーの応答: データベースの許可を取り消し、REPAIR.RECON コマンドを再発行してください。

問題判別: 2、3、40

モジュール: DSPURR01

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1238I RECON UPGRADE CHECKUP IS BEGINNING

説明: CHANGE.RECON UPGRADE CHECKUP コマンドが、RECON データ・セットがアップグレード可能な状態であるかどうかを検査しています。RECON デ

DSP1239I • DSP1242E

ータ・セット・レコードは変更されません。

システムの処置: 処理は続行されます。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DSPUGR00

DSP1239I RECON UPGRADE CHECKUP COMPLETED WITH NO ERRORS FOUND

説明: CHANGE.RECON UPGRADE CHECKUP コマンドの処理では、RECON アップグレードが失敗する状態は検出されませんでした。

システムの処置: コマンドは完了しました。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

ユーザーの処置: コマンドが戻りコード 4 で完了した場合は、アップグレードが正常に完了するのを妨げる可能性のある状態を示すメッセージを確認してください。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DSPUGR00

DSP1240E RECON UPGRADE CHECKUP COMPLETED AND FOUND ERRORS

説明: CHANGE.RECON UPGRADE CHECKUP コマンドの処理で、RECON アップグレードが失敗するエラー状態が検出されました。それぞれのエラー状態を示すメッセージがすでに発行されています。

戻りコード 12 が設定されます。

システムの処置: コマンドは完了します。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

プログラマーの応答: エラー状態を修正して、コマンドを再発行してください。

モジュール: DSPURG00

DSP1241W WAITING FOR NOTQUIESCED NOTIFICATION FROM job1 job2 job3 (more)))

説明: DBRC が構造化呼び出しインターフェース (SCI) に登録されてから、あるいは最後にこのメッセージが発行されてから、30 秒間が経過しました。DBRC は、

RECON が静止していないことを示す通知を受け取っていません。RECON が静止しているか、何らかの別の理由により他の DBRC インスタンスが無反応になっています。リストされている jobs は、SCI に応じた同じ IMSplex にある現在アクティブな DBRC ジョブです。

システムの処置: DBRC は、リストされているジョブからの通知を待ちます。

システム・プログラマーの応答: RECON が静止していない場合は、すべての SCI インスタンスが実行中で接続されていること、また DBRC インスタンスが正常に実行されていることを確認してください。

モジュール: DSPRLTI0

DSP1242E A DMB NUMBER OF ZERO WAS FOUND FOR DATABASE xxxxxx

説明: REPAIR.RECON コマンドの処理中に、データ管理ブロック (DMB) 番号の値がゼロである HALDB、DEDB、または IMS データベースが見つかりました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxxxx データベースの名前。

REPAIR.RECON DMBTABLE または REPAIR.RECON DMBNUM UPDATE コマンドが発行されていた場合、データベース・レコード内の DMB 番号の値はゼロ (つまり無効) です。処理は続行し、すべてのデータベースがチェックされます。DEDB データベースのエリア許可レコードはチェックされません。

REPAIR.RECON DMBNUM CHECKUP コマンドが発行されていた場合、データベース・レコード内の DMB 番号の値はゼロです。REPAIR.RECON DMBNUM UPDATE コマンドの発行は失敗します。処理は続行し、すべてのデータベースがチェックされます。DEDB データベースのエリア許可レコードはチェックされません。

システムの処置: REPAIR.RECON コマンドは戻りコード 12 で失敗しますが、引き続き、すべてのデータベース・レコードと、DEDB データベースではないすべての高速機能データベースのエリア許可レコードがチェックされます。

プログラマーの応答: DMB 番号がゼロであるデータベースを RECON データ・セットから削除し、コマンドを再発行してください。そのデータベースがまだ必要であれば、再登録してください。

問題判別: 2、3、40

モジュール: DSPURR01

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP1243W THE DMB NUMBER WAS
CHANGED TO *nnnnn* FOR
DATABASE *xxxxxx***

説明: REPAIR.RECON コマンドの処理中に、パーティション・データベース・レコードのデータ管理ブロック (DMB) 番号が、指定されたデータベースの HALDB レコード内の DMB 番号と一致しませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nnnnn 使用される DMB 番号。

xxxxxx データベースの名前。

REPAIR.RECON DMBTABLE または REPAIR.RECON DMBNUM UPDATE コマンドが発行されていた場合、そのパーティション・データベースは許可されておらず、DBRC は HALDB レコードから DMB 番号を取得しました。パーティション・データベース・レコードは、メッセージに示されている DMB 番号を使用するように変更されました。

REPAIR.RECON DMBNUM CHECKUP コマンドが発行されていた場合、そのパーティション・データベース・エリアが許可されていないままであれば、REPAIR.RECON DMBTABLE または REPAIR.RECON DMBNUM UPDATE コマンドを使用して DMB 番号を変更できます。

システムの処置: REPAIR.RECON コマンドは戻りコード 4 で続行されます。何らかのエラーでコマンドが失敗すると、このレコードへの変更は除去されます。

プログラマーの応答: REPAIR.RECON DMBNUM CHECKUP コマンドが発行されていた場合は、REPAIR.RECON DMBNUM UPDATE コマンドが実行された時点でそのパーティション・データベースが許可されていないことを確認してください。

問題判別: 2、3、40

モジュール: DSPURR01

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP1244E THE DMB NUMBER COULD NOT
BE CHANGED FOR DATABASE
xxxxxx BECAUSE IT IS AUTHORIZED**

説明: REPAIR.RECON コマンドの処理中に、パーティション・データベース・レコードのデータ管理ブロック

(DMB) 番号が、HALDB レコード内の DMB 番号と一致しませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxxxx データベースの名前。

REPAIR.RECON DMBTABLE または REPAIR.RECON DMBNUM UPDATE コマンドが発行されていた場合、そのパーティション・データベースは許可されたものであるため、DBRC はパーティション・データベース・レコードを変更できませんでした。

REPAIR.RECON DMBNUM CHECKUP コマンドが発行されていた場合、REPAIR.RECON DMBTABLE または REPAIR.RECON DMBNUM UPDATE コマンドを使用して DMB 番号を訂正するには、まずそのパーティションの許可を取り消す必要があります。

システムの処置: REPAIR.RECON コマンドは続行されますが、戻りコード 12 が発行されます。

プログラマーの応答: REPAIR.RECON DMBTABLE または REPAIR.RECON DMBNUM UPDATE コマンドが発行されていた場合は、データベースの許可を取り消して、コマンドを再発行してください。

REPAIR.RECON DMBNUM CHECKUP コマンドが発行されていた場合は、REPAIR.RECON DMBNUM UPDATE コマンドが実行された時点でそのパーティション・データベースが許可されていないことを確認してください。

問題判別: 2、3、40

モジュール: DSPURR01

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP1245W THE DMB NUMBER WAS
CHANGED TO *nnnnn* FOR
DATABASE *xxxxxx* AREA *aaaaaaaa***

説明: REPAIR.RECON コマンドの処理中に、エリア許可レコードのデータ管理ブロック (DMB) 番号がそのエリアの DEDB レコード内の DMB 番号と一致しませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nnnnn 使用される DMB 番号。

xxxxxx データベースの名前。

aaaaaaaa

エリア名

REPAIR.RECON DMBTABLE または REPAIR.RECON DMBNUM UPDATE コマンドが発行されていた場合、

DSP1246E • DSP1249E

そのエリアは許可されておらず、DBRC は DEDB レコードから DMB 番号を取得しました。エリア許可レコードは、メッセージに示されている DMB 番号を使用するように変更されました。

REPAIR.RECON DMBNUM CHECKUP コマンドが発行されていた場合、そのエリアが許可されていないままであれば、REPAIR.RECON DMBTABLE または REPAIR.RECON DMBNUM UPDATE コマンドを使用して DMB 番号を変更できます。

システムの処置: REPAIR.RECON コマンドは続行され、戻りコード 4 が発行されます。何らかのエラーでコマンドが失敗すると、このレコードへの変更は除去されます。

プログラマーの応答: REPAIR.RECON DMBNUM CHECKUP コマンドが発行されていた場合は、REPAIR.RECON DMBNUM UPDATE コマンドが実行された時点でそのエリアが許可されていないことを確認してください。

問題判別: 2、3、40

モジュール: DSPURR01

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1246E THE DMB NUMBER COULD NOT BE CHANGED FOR DATABASE xxxxxx AREA aaaaaaaaa SINCE IT IS AUTHORIZED

説明: REPAIR.RECON コマンドの処理中に、エリア許可レコードのデータ管理ブロック (DMB) 番号が DEDB レコード内の DMB 番号と一致しませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxxxx データベースの名前。
aaaaaaaa

エリアの名前。

REPAIR.RECON DMBTABLE または REPAIR.RECON DMBNUM UPDATE コマンドが発行されていた場合、そのエリアは許可されており、DBRC はエリア・レコードを変更できませんでした。

REPAIR.RECON DMBNUM CHECKUP コマンドが発行されていた場合、REPAIR.RECON DMBTABLE または REPAIR.RECON DMBNUM UPDATE コマンドを使用して DMB 番号を訂正するには、まずそのエリアの許可を取り消す必要があります。

REPAIR.RECON DMBTABLE または REPAIR.RECON DMBNUM UPDATE コマンドが発行されている場合、

DBRC が指定されたエリアの DMB 番号を訂正できるのは、そのエリアが許可されていないときに限られません。

システムの処置: REPAIR.RECON DMBTABLE または REPAIR.RECON DMBNUM UPDATE コマンドは戻りコード 12 で失敗します。

REPAIR.RECON DMBNUM CHECKUP コマンドは続行されますが、戻りコード 12 が発行されます。

プログラマーの応答: REPAIR.RECON DMBTABLE または REPAIR.RECON DMBNUM UPDATE コマンドが発行されていた場合は、エリアの許可を取り消して、コマンドを再発行してください。

REPAIR.RECON DMBNUM CHECKUP コマンドが発行されていた場合は、REPAIR.RECON DMBNUM UPDATE コマンドが実行された時点でそのエリアが許可されていないことを確認してください。

問題判別: 2、3、40

モジュール: DSPURR01

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1247W AN INVALID READ INTEGRITY OPTION OF *nmn* WAS FOUND WHEN LOCATING A RECORD

説明: 並行 RECON アクセス (PRA) を使用する RECON データ・セット内のレコードを特定しているときに、無効な読み取り健全性オプションが指定されました。

メッセージ・テキストの *nmn* は健全性オプションを示します。有効なオプションは 1 から 4 です。

システムの処置: 読み取り健全性オプションが明示的な読み取り一貫性 (3) に変更され、処理が続行されます。

ユーザーの処置: 無効な健全性オプションの原因としては、レコードの特定に DBRC 入力モジュールを直接呼び出すベンダー製品であることが最も考えられます。ベンダーまたは IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、無効な読み取り健全性オプションの原因を判別してください。

問題判別: 1、2、3、8、36

モジュール: DSPURI00

DSP1249E MINVERS VALUE IS INCONSISTENT WITH THE HALDB ALTER STATUS FOR DATABASE *database_name* ALTER COUNT=*xxxxx* ALTER COMPLETE COUNT=*xxxxx*

説明: 新しい MINVERS 値を 13.1 よりも前の IMS リリースに設定する CHANGE.RECON MINVERS() コマンドが発行されました。現行の値は 13.1 以上になっています。HALDB の変更は、MINVERS が 13.1 以上の場合にのみ有効になります。

パーティション・データベースの HALDB 変更がアクティブになっている HALDB レコードが検出された場合、このメッセージが発行されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ALTER COUNT=xxxxx
変更されるパーティションの総数。

ALTER COMPLETE COUNT=xxxxx
HALDB 変更プロセスが完了したパーティションの数。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

オペレーターの応答: すべてのパーティション・データベースで HALDB を変更している HALDB オンライン再編成が終了するのを待ちます。オンになっている変更処理中フラグでエラーが発生している場合は、CHANGE.DB コマンドを発行して、各パーティション・データベースの変更処理中フラグをオフに設定します。

問題判別: 2、3

モジュール: DSPURM90

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1250E MINVERS VALUE IS INCONSISTENT WITH THE HALDB ALTER STATUS FOR PARTITION DATABASE
database_name

説明: 新しい MINVERS 値を 13.1 よりも前の IMS リリースに設定する CHANGE.RECON MINVERS() コマンドが発行されました。現行の値は 13.1 以上になっています。HALDB の変更は、MINVERS が 13.1 以上の場合にのみ有効になります。

HALDB 変更プロセスが進行中のパーティション・データベースごとに、このメッセージが発行されます。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

オペレーターの応答: すべてのパーティション・データベースで HALDB を変更している HALDB オンライン再編成が終了するのを待ちます。オンになっている変更処理中フラグでエラーが発生している場合は、

CHANGE.DB コマンドを発行して、各パーティション・データベースの変更処理中フラグをオフに設定します。

問題判別: 2、3

モジュール: DSPURM90

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1251E MINVERS VALUE IS INCONSISTENT WITH THE DEDB ALTER STATUS FOR DEDB dedb_name ALTER
COUNT=xxxxx

説明: 新しい MINVERS 値を 13.1 よりも前の IMS リリースに設定する CHANGE.RECON MINVERS() コマンドが発行されました。現行の値は 13.1 以上になっています。メッセージで指定されている DEDB では、DEDB 変更プロセスが進行中です。DEDB の変更は、MINVERS が 13.1 以上の場合にのみ有効になります。

HALDB 変更プロセスが進行中のパーティション・データベースごとに、このメッセージが発行されます。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。

オペレーターの応答: 構造の変更が完了するまで待つか、DEDB 変更状況を解除するために適切な処置を取ります。

問題判別: 2、3

モジュール: DSPURM90

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1252E RECOVERY NOT VALID FOR THIS INACTIVE DATA SET
DBD=dbname DDN=ddname
THE OLR RUNTIME= time_stamp

説明: データベース・データ・セットのリカバリーに関する情報を RECON データ・セットに追加するために、NOTIFY.RECOV コマンドが発行されました。コマンドに指定された RCVTIME() 値が、RECON データ・セット内の情報によれば無効です。この値は、このデータ・セットがアクティブであった時間でなければなりません。

メッセージ・テキスト内の項目は以下のとおりです。

dbname リカバリーされるデータベースの名前。

ddname リカバリーされるデータベース・データ・セットの DD 名。

time_stamp

このデータ・セットが非アクティブになる原因となった HALDB オンライン再編成レコードのランタイム・タイム・スタンプを示します。値は標準のタイム・スタンプ形式です。

システムの処置: NOTIFY.RECOV コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されませんでした。

プログラマーの応答: NOTIFY.RECOV コマンドで指定された RCVTIME 値を訂正してから、処理されなかった他のコマンドと一緒にこのコマンドを再発行します。

問題判別: 2、3、8、および RECON データセットのリスト。

モジュール: DSPURT20

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1253W THE INTERNAL REPRESENTATION OF THE DMB NUMBER IN THE RECON HEADER IS INCORRECT

説明: REPAIR.RECON コマンドの処理中に、データ管理ブロック (DMB) 番号の内部表記が誤った RECON ヘッダー・レコードが見つかりました。

REPAIR.RECON DMBTABLE または REPAIR.RECON DMBNUM UPDATE コマンドが発行されていた場合、DBRC が RECON ヘッダー・レコード内の DMB 番号の内部表記を訂正しました。

REPAIR.RECON DMBNUM(RECON)CHECKUP コマンドが発行されていた場合、REPAIR.RECON DMBTABLE または DMBNUM UPDATE コマンドが発行されていれば、DBRC は RECON ヘッダー・レコード内の DMB 番号を訂正できます。

システムの処置: REPAIR.RECON コマンドは戻りコード 4 で完了します。何らかのエラーでコマンドが失敗すると、このレコードへの変更は除去されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: 2、3、40

モジュール: DSPURR01

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1254I THE RECON DMB TABLE RECORD DOES NOT EXIST BECAUSE NO DATABASES ARE REGISTERED

説明: DMB テーブル・レコードを再作成するために REPAIR.RECON DMBTABLE コマンドが発行されました。DMB テーブルでは、現在使用中の DMB (データ

管理ブロック) 番号および登録済みデータベースの総数をトラッキングします。RECON データ・セットに登録されているデータベースがないため、DMB テーブル・レコードが存在しません。DMB テーブル・レコードは、最初のデータベースが登録された時点で作成されます。

システムの処置: REPAIR.RECON DMBTABLE コマンドは RECON ヘッダー内の DMB 番号を調べて、RECON データ・セットの作成時にそれらの番号が正しく初期設定されたことを確認します。このコマンドは戻りコード 4 で完了します。

プログラマーの応答: 処置は必要ありません。DMB テーブル・レコードは、最初のデータベースが登録された時点で作成されます。

問題判別: 2、3、40

モジュール: DSPURR01

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1255W THE RECON DMB TABLE RECORD DOES NOT EXIST AND DATABASES ARE REGISTERED

説明: DMB テーブル・レコードを再作成するために REPAIR.RECON DMBTABLE コマンドが発行されました。DMB テーブル・レコードでは、現在使用中の DMB (データ管理ブロック) 番号および登録済みデータベースの総数をトラッキングします。DMB テーブル・レコードが存在せず、データベースが RECON データ・セットに登録されます。DMB テーブル・レコードは、最初のデータベースが登録された時点で作成されます。このレコードは、事前に RECON データ・セット内に存在していなければなりません。

システムの処置: REPAIR.RECON DMBTABLE コマンドによって DMB テーブル・レコードが作成されます。処理は完了し、戻りコード 4 が示されます。

プログラマーの応答: ありません。DMB テーブル・レコードが作成されます。

問題判別: 2、3、40

モジュール: DSPURR01

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1256E MINVERS VALUE IS INVALID FOR HALDB dbname WHICH HAS AN 8-GB OSAM DATA SET ORGANIZATION

説明: MINVERS を以下のいずれかの値に設定するために、CHANGE.RECON MINVERS() コマンドが発行されました。

- 13.1 (相互 DBRC サービス・レベル ID (CDSLID) 値が 2 未満の場合)
- 12.1

このいずれの MINVERS 値でも、HALDB データベースの OSAM PHDAM または PHIDAM データ・セットで可能な最大サイズは 4 GB のみです。メッセージに示されている HALDB は、8 GB OSAM データ・セットを使用するものとして定義されています。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。このコマンドはすべての HALDB を調べて、8 GB OSAM データ・セットのオプションがあるか確認します。8 GB OSAM データ・セットを使用する HALDB ごとに、メッセージ DSP1256E が発行されます。

プログラマーの応答: メッセージ DSP1256E によって示されている各 HALDB データベースの OSAM データ・セットの最大サイズを、8 GB から 4 GB に変更してください。(手順については、HALDB の最大 OSAM データ・セット・サイズの 8 GB から 4 GB への変更 (データベース管理)を参照してください。)その後、CHANGE.RECON MINVERS() コマンドを再サブミットしてください。

問題判別: 2、3

モジュール: DSPURM90

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1257E THE DMB NUMBERS IN THE RECON HEADER CANNOT BE RESET

説明: RECON ヘッダー・レコード内の DMB (データ管理ブロック) 番号をリセットするために

REPAIR.RECON DMBNUM RECON RESET コマンドが発行されました。データベースが RECON データ・セットに登録されていますが、RECON DMB テーブル見つかりませんでした。最初のデータベースが RECON データ・セットに登録される時点で DMB テーブル・レコードが作成されるはずなので、矛盾が存在します。

システムの処置: REPAIR.RECON DMBNUM RECON RESET コマンドは失敗します。

プログラマーの応答: REPAIR.RECON DMBTABLE コマンドを発行して DMB テーブル・レコードを再作成してください。このコマンドによって RECON ヘッダー・レコード内の DMB が変更される可能性があります。

REPAIR.RECON DMBTABLE コマンドが完了したら、必要に応じて REPAIR.RECON DMBNUM RECON RESET コマンドを発行し、RECON ヘッダー内の DMB 値を 32 767 にリセットします。

問題判別: 2、3、40

モジュール: DSPURR01

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1258I THE DMB NUMBERS IN THE RECON HEADER WERE RESET

説明: RECON ヘッダー・レコード内の DMB (データ管理ブロック) 番号をリセットするために REPAIR.RECON DMBNUM RECON RESET UPDATE コマンドが発行されました。

UPDATE キーワードが指定された場合、RECON ヘッダー・レコード内の番号の値は、DMB テーブル・レコードが存在するかどうかに応じて以下のようにリセットされます。

- DMB テーブル・レコードが見つからなかった場合、ヘッダー内の DMB 番号の値はゼロにリセットされます。ゼロは、RECON データ・セットの初期設定時に使用されたものと同じ値です。
- DMB テーブル・レコードが見つかった場合、ヘッダー内の DMB 番号の値は 32 767 にリセットされます。次のデータベースが RECON データ・セットに登録されるときに、DMB テーブル・レコードを使用して、次の未使用 DMB 番号が 1 から割り当てられます。

システムの処置: 処理は正常に完了します。

プログラマーの応答: LIST.RECON STATUS コマンドを発行すると DMB 番号を検証できます。

DMB テーブル・レコードが存在しなかった場合、RECON ヘッダー内の DMB 番号は DMB#=0 として表示されます。DMB テーブル・レコードが存在した場合、RECON ヘッダー内の DMB 番号は DMB#=32767 および LAST USED DMB#=32767 として表示されます。

問題判別: 2、3、40

モジュール: DSPURR01

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP1259I NO RECORDS WERE CHANGED
BECAUSE THE CHECKUP
PARAMETER WAS ACTIVE**

説明: RECON レコード内の DMB (データ管理ブロック) 番号をリセットするために REPAIR.RECON DMBNUM コマンドが発行されました。

CHECKUP キーワードはコマンドに明示的に指定されていたか、デフォルトとして暗黙的に含まれていて、実際にはレコードは変更されませんでした。

システムの処置: 処理は正常に完了します。レコードは変更されませんでした。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: 2、3、40

モジュール: DSPURR01

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP1262I DBD=*dbd* DDN=*ddn* FOR DELETE
COMMAND HAS BEEN PROCESSED**

または

**DBD=*dbd* AREA=*areaname* FOR DELETE
COMMAND HAS BEEN PROCESSED**

説明: このデータベース・データ・セット (DBDS) で DELETE.DB コマンドの削除の処理が行われました。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DSPURCM6

**DSP1263W THE CATALOG *name* ADDED AS
THE DEFAULT IS NOT REGISTERED
IN THE RECON**

説明: デフォルトの IMS カタログ名を RECON ヘッダーに追加するために INIT.RECON コマンドに CATALOG(*name*) キーワードが指定されましたが、その IMS カタログ名が RECON データ・セット内でデータベースとして定義されていません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

name IMS カタログの 8 文字の名前。

システムの処置: IMS カタログの名前が RECON ヘッダーに追加されます。このコマンドは戻りコード 4 で完了します。

プログラマーの応答: IMS カタログにアクセスする前

に、RECON データ・セット内で、INIT.RECON コマンドに指定されている、そのカタログの HALDB データベースを定義してください。

問題判別: 2、3

モジュール: DSPURM90

関連タスク:

➡ DBRC を使用した IMS カタログの定義 (システム定義)

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP1264E THE CATALOG *name* ADDED AS
THE DEFAULT IS NOT REGISTERED
AS A HALDB DATABASE IN THE
RECON**

説明: コマンド CHANGE.RECON、INIT.DB、INIT.DBDS、INIT.PART、NOTIFY.REORG、CHANGE.PART、または CHANGE.DBDS が発行されました。カタログ名は RECON データ・セット内でデータベースとして定義されていますが、HALDB データベースとしては定義されていません。コマンドにパラメーター CATALOG(*name*) が含まれていなかった場合、RECON ヘッダー内で定義されているデフォルトのカタログ名が使用されています。

このカタログにアクセスするには、まずそのカタログ名を HALDB データベースとして RECON データ・セットに登録する必要があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

name 8 文字のカタログ名。

システムの処置: コマンドが戻りコード 12 で失敗します。

プログラマーの応答: カタログ名を RECON データ・セット内で HALDB データベースとして定義するか、使用されるカタログの名前を訂正してください。

問題判別: 2、3

モジュール: DSPURS00、 DSPURM90、
DSPURMPT、 DSPURM60、 DSPURT00、
DSPURSPT、 DSPURS10

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1265E THE CATALOG *name* IS NOT REGISTERED IN THE RECON

説明: コマンド INIT.DB、INIT.DBDS、INIT.PART、NOTIFY.REORG、CHANGE.PART、または CHANGE.DBDS が発行され、そのコマンドはカタログにアクセスする必要がありました。このカタログ名は RECON データ・セットに登録されていません。コマンドにパラメーター CATALOG(*name*) が含まれていなかった場合、RECON ヘッダー内で定義されているデフォルトのカタログ名が使用されています。

このカタログにアクセスするには、まずそのカタログ名を HALDB データベースとして RECON データ・セットに登録する必要があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

name 8 文字のカタログ名。

システムの処置: コマンドが戻りコード 12 で失敗します。

プログラマーの応答: カatalog名を訂正するか、カatalog名を RECON データ・セット内で HALDB データベースとして定義してください。

問題判別: 2、3

モジュール: DSPURS00、 DSPURMPT、 DSPURM60、 DSPURT00、 DSPURSPT、 DSPURS10

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1266E THE CATALOG *name* IS NOT AVAILABLE FOR USE

説明: メッセージ・テキストに指定されている IMS カatalog内のデータベース定義にアクセスする必要がある、コマンド INIT.DB、INIT.DBDS、INIT.PART、NOTIFY.REORG、CHANGE.PART、または CHANGE.DBDS が発行されました。その IMS カatalogは使用可能ではありません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

name 8 文字のカタログ名。

システムの処置: コマンドが戻りコード 12 で失敗します。

プログラマーの応答: IMS カatalog名がコマンドに指定されていた場合は、その名前が正しく指定されていることを確認してください。

IMS カatalog名が正しい場合は、その IMS カatalogが使用可能でない理由を判別してください。

IMS カatalogが使用可能になったら、コマンドを再発行してください。

問題判別: 2、3

モジュール: DSPURS00、 DSPURMPT、 DSPURM60、 DSPURT00、 DSPURSPT、 DSPURS10

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1267E THE CROSS-DBRC SERVICE LEVEL ID IS INVALID FOR HALDB *dbname* WHICH HAS AN 8-GB OSAM DATA SET ORGANIZATION

説明: 相互 DBRC サービス・レベル ID を 2 より低い値に設定する CHANGE.RECON CDSLID() コマンドが発行されましたが、MINVERS 値が 13.1 であるか、その同じ CHANGE.RECON コマンド内で 13.1 に下げられています。メッセージに示されている HALDB データベースは、8 GB OSAM PHDAM データ・セットまたは PHIDAM データ・セットを使用するものとして定義されています。8 GB OSAM データ・セットを使用できるのは、MINVERS が 14.1 の場合、または CDSLID 値が 2 に設定されていれば 13.1 の場合に限られます。

CDSLID 値 2 は、8 GB OSAM データ・セットの HALDB サポートに該当する保守が、RECON データ・セットにアクセスするすべての IMS バージョン 13 常駐ライブラリー (RESLIB) に適用されていることを示します。

システムの処置: コマンドは失敗し、後続のコマンドは処理されません。このコマンドはすべての HALDB を調べて、8 GB OSAM データ・セット使用のオプションがあるか確認します。8 GB OSAM データ・セットを使用する HALDB ごとに、メッセージ DSP1267E が発行されます。

プログラマーの応答: IMS 14 から旧バージョンにフォールバックする必要がなく、8 GB OSAM データ・セットの使用を続ける場合は、CDSLID 値を 2 より低い値に設定しないでください。

フォールバックの必要があり、CDSLID を 2 より低い値に設定する必要もある場合は、メッセージ DSP1267E によって示されている各 HALDB データベースの OSAM データ・セットの最大サイズを 8 GB から 4 GB に変更してください。(手順については、HALDB の最大 OSAM データ・セット・サイズの 8 GB から 4 GB への変更 (データベース管理)を参照してください。)その後、CHANGE.RECON CDSLID コマンドを再サブミットしてください。

問題判別: 2、3

DSP1268E • DSP1270E

モジュール: DSPURM90

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1268E PARAMETER *parameter-name* IS NOT ALLOWED DUE TO INVALID CROSS-DBRC SERVICE LEVEL ID

説明: RECON データ・セット内の相互 DBRC サービス・レベル ID (CDSLID) 値は、メッセージに示されているパラメーターをサポートしません。

OSAM8G または NOOSAM8G キーワードを使用するには、MINVERS が 13.1 であれば CDSLID の値は 2 でなければなりません。CDSLID 値 2 は、8 GB OSAM データ・セットの HALDB サポートに該当する保守が、RECON データ・セットにアクセスするすべての IMS バージョン 13 常駐ライブラリー (RESLIB) に適用されていることを示します。

システムの処置: コマンドは終了し、後続のコマンドは無視されます。

プログラマーの応答: 8 GB OSAM データ・セットの HALDB サポートに該当する保守が適用されている場合は、CHANGE.RECON CDSLID(2) コマンドをサブミットして、CDSLID 値を変更してください。または、CHANGE RECON MINVERS('14.1') コマンドをサブミットし、MINVERS 値を 14.1 に設定します。

CDSLID 値または MINVERS 値を調整した後に、CHANGE.DB または INIT.DB コマンドを再サブミットしてください。

問題判別: 2、3、および RECON データ・セットのリスト。

モジュール: DSPURM10、DSPURS10

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1269E DATA BASE DATA SET NOT DEFINED IN CATALOG *name* DBDNAME=*dbdname* DDNAME=*ddname*

説明: IMS カタログ *name* に ID が *dbdname* および *ddname* のデータベース・データ・セットのレコードが含まれていないため、以下のいずれかのタイプのコマンドが失敗しました。

- RECON データ・セット内のデータベース・データ・セット *dbdname* および *ddname* を識別するコマンド。
- RECON データ・セット内で既に識別されているデータベース・データ・セットの編成を変更するコマンド。

- RECON データ・セット内で既に識別されているデータベース・データ・セットの *ddname* を変更するコマンド。

メッセージ・テキストの *name* は、8 文字のカタログ名です。

システムの処置: コマンドは戻りコード 12 で失敗します。

ユーザーの処置: データベース・データ・セットの ID を訂正するか、正しい ID のデータベース・データ・セットを含む IMS カタログを使用してください。

問題判別: 2、3

モジュール: DSPUCQ00

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1270E DATA SET IDENTIFIER IN CATALOG *name* AND RECON DO NOT MATCH DBDNAME=*dbdname* DDNAME=*ddname*

説明: NOTIFY.REORG、CHANGE.DBDS、または INIT.DBDS コマンドにより、カタログ内のデータ・セット ID が RECON データ・セット内のデータ・セット ID と一致しないことが判明しました。コマンド発行の対象となったデータベース・データ・セットまたはエリア・データ・セットは、メッセージ内に示されています。

メッセージ・テキストの *name* は、8 文字のカタログ名です。

システムの処置: コマンドは戻りコード 12 で失敗します。

ユーザーの処置: データベース・データ・セットの定義が変更された場合は、RECON データ・セット内のデータベース・データ・セット情報を訂正してください。カタログが誤っている場合は、以下のいずれかの処置を実行してください。

- CHANGE.RECON CATALOG(*name*) コマンドを使用して RECON ヘッダー内のカタログ名を変更します。
- CHANGE.PART コマンドに CATALOG(*name*) パラメーターを追加します。

問題判別: 2、3

モジュール: DSPURM60、DSPURS00、DSPURT00

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP1271A THE DATABASE ORGANIZATION
DOES NOT MATCH THE
DATABASE ORGANIZATION IN
CATALOG *name***

説明: CHANGE.PART コマンド処理中、RECON データ・セット内のデータベース編成が、IMS カタログ内のデータベース編成と一致しません。RECON に HALDB を登録した後で DBD 定義が変更されたか、または誤ったカタログを使用しています。

メッセージ・テキストの *name* は、8 文字のカタログ名です。

システムの処置: コマンドは戻りコード 12 で失敗します。

ユーザーの処置: DBD 定義が変更された場合、DBRC 内で該当 HALDB の削除および再定義を行います。カタログが誤っている場合は、以下のいずれかの処置を実行してください。

- CHANGE.RECON CATALOG(*name*) コマンドを使用して RECON ヘッダー・レコード内のカタログ名を変更します。
- CHANGE.PART コマンドに CATALOG(*name*) パラメーターを追加します。

問題判別: 2、3

モジュール: DSPURMPT

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP1272A THE DATA SET GROUP COUNT
DOES NOT MATCH THE DATA SET
GROUP COUNT IN CATALOG *name***

説明: CHANGE.PART コマンドの処理中に、RECON データ・セット内のデータ・セット・グループ・カウントが、IMS カタログ内のデータ・セット・グループ・カウントと一致しませんでした。RECON に HALDB を登録した後で DBD 定義が変更されたか、または誤ったカタログを使用しています。

メッセージ・テキストの *name* は、8 文字のカタログ名です。

システムの処置: コマンドは戻りコード 12 で失敗します。

ユーザーの処置: DBD 定義が変更された場合、DBRC 内で該当 HALDB の削除および再定義を行います。カタログが誤っている場合は、以下のいずれかの処置を実行してください。

- CHANGE.RECON CATALOG(*name*) コマンドを使用して RECON ヘッダー・レコード内のカタログ名を変更します。
- CHANGE.PART コマンドに CATALOG(*name*) パラメーターを追加します。

問題判別: 2、3

モジュール: DSPURMPT

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP1273E THE REQUEST TO CATALOG *name*
DID NOT COMPLETE
SUCCESSFULLY**

説明: IMS カタログ *name* から情報を取得する要求が、ゼロ以外の戻りコードで失敗しました。

メッセージ・テキストの *name* は、8 文字のカタログ名です。

システムの処置: 要求がゼロ以外の戻りコードで失敗しました。IMS カタログに対する要求から生じたゼロ以外の戻りコードが、呼び出し元に返されます。

ユーザーの処置: IMS カタログによって発行されたメッセージを確認し、適切な処置を行ってください。

問題判別: 2、3

モジュール: DSPUCQ00

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DSP1274E I/O ERRORS WERE ENCOUNTERED
ON CATALOG *name***

説明: カタログから情報を取得するための要求が、入出力エラーのために完了しませんでした。

メッセージ・テキストの *name* は、8 文字のカタログ名です。

システムの処置: コマンドは失敗します。

ユーザーの処置: 以下の処置を行ってください。

1. RECON データ・セット内の IMS カタログ・データベースの状況を確認します。
2. 発行されたエラー・メッセージを確認し、適切な処置を行います。

問題判別: 2、3

モジュール: DSPUCQ00

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1275E A PARTITION FOR CATALOG *name* IS NOT DEFINED TO DBRC

説明: DBRC コマンドの処理中に、IMS カタログ・データベースの区画が RECON データ・セット内で見つかりませんでした。

メッセージ・テキストの *name* は、8 文字のカタログ名です。

システムの処置: コマンドは戻りコード 12 で失敗します。

ユーザーの処置: INIT.PART コマンドを発行して区画を登録してください。RECON データ・セット内に区画が存在する場合は、IMS システムが区画を見つけようとしているときに詳細不明のエラーが発生した可能性があります。コマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、IBM サポート・センターに連絡してください。

問題判別: 2、3

モジュール: DSPURM60、DSPURMPT、DSPURS00、DSPURS10、DSPURSPT、DSPURT00

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1276A DATABASE *dbname* IS NOT DEFINED IN CATALOG *name*

説明: IMS™ カタログ *name* からデータベース *dbname* の情報を取得するための要求が、示されているデータベースがそのカタログで定義されていないために失敗しました。

メッセージ・テキストの *name* は、8 文字のカタログ名です。

システムの処置: 要求は戻りコード 12 で失敗します。

ユーザーの処置: そのカタログ内でデータベースを定義し、操作を再試行してください。問題が解決しない場合は、IBM サポート・センターに連絡してください。

問題判別: 2、3

モジュール: DSPUCQ00

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DSP1277A REMOTE SITE RECOVERY FEATURE IS NO LONGER SUPPORTED

説明: RECON データ・セットのアップグレード中に、RECON データ・セット内にグローバル・サービス・グループ (GSG) 情報が見つかりました。この情報は、リモート・サイト・リカバリー (RSR) 機能によ

て使用されますが、RSR は現在サポートされていません。

システムの処置: RECON データ・セットのアップグレードは失敗しました。

出力宛先:

ユーザーの処置: 以下の手順を実行してください。

1. IMS 15 より前の IMS システムの DBRC コマンド・ユーティリティ (DSPURX00) を使用して、RECON データ・セットからすべての GSG を削除します。
 - a. LIST.GSG ALL コマンドを実行して、すべての GSG を特定します。
 - b. DELETE.GSG コマンドを実行して、各 GSG を削除します。
2. すべての GSG を削除した後、再度 RECON データ・セットをアップグレードします。

問題判別: 2、3、および RECON データ・セットのリスト

モジュール: DSPUGR00

DSP1278E THE LOAD FOR MDA MEMBER *name* FAILED FOR IMS CATALOG HLQ WITH REASON=*reason_text*

説明: DBRC が、IMSCATHLQ DFSMDA メンバーで定義されている高位修飾子を使用して、IMS カタログの IMS ディレクトリー・データ・セットにアクセスしようとしてエラーが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

name DBRC に対して、HLQ を付加して指定された IMS カタログ名の最初の 4 文字。

名前は、IMS ディレクトリー・データ・セットの HLQ が含まれている IMSCATHLQ DFSMDA メンバーの名前と一致しなければなりません。このメンバーは、DFSMDA IMSCATHLQ マクロ・ステートメントの DDNAME パラメーターで指定されています。

reason_text

理由は、以下のいずれかのストリングになります。

GETMAIN FAILURE

ストレージに対する要求が失敗しました。

DFSMDA MEMBER NOT FOUND

メッセージ・テキストに表示されてい

る MDA メンバー名に一致する
DFSMDA メンバーが見つかりません
でした。

BLDL ERROR

DFSMDA メンバー名に対する BLDL
マクロ呼び出し中にエラーが発生しま
した。

INVALID DFSMDA MEMBER

メッセージ・テキストに示されている
DFSMDA メンバーにエラーがありま
す。メンバーを定義する DFSMDA
ステートメントを確認してください。

LOAD ERROR

DFSMDA メンバーをロードしようと
して、エラーが発生しました。

BSDS FAILED OPEN

IMS ディレクトリーのブート・ストラ
ップ・データ・セットをオープンでき
ませんでした。

BSDS FAILED ALLOC

IMS ディレクトリーのブート・ストラ
ップ・データ・セットの割り振りに失
敗しました。

システムの処置: プロセスは異常終了します。

メッセージの出力宛先: メッセージは、z/OS システ
ム・コンソールに送信されます。

システム・プログラマーの応答: 理由テキストに基づい
てエラーを訂正し ジョブを再度実行依頼してくださ
い。

モジュール: DSPUCQ00

DSP メッセージ DSP2001 - DSP3000

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DSP2001I DBRC READY

説明: データベース・リカバリー管理 (DBRC) が使用
可能な状態になりました。

システムの処置: 処理は続行されます。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DSPBCM00

DSP2002E DBRC INITIALIZATION ERROR IN *modulename servicename RC=rc detail*

または

DBRC INITIALIZATION ERROR IN *modulename* *servicename RC=rc RSN=rsn*

説明: DBRC アドレス・スペースの初期化中にエラー
が発生しました。初期設定エラーが発生することがある
のは、サービスの処理中、または PROCLIB のパラメー
ターの妥当性検査中です。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりで
す。

modulename

エラーを発行したモジュールの名前

servicename

エラーを検出したサービスの名前。サービス
は、次のいずれかです。

BPEservicename

BPE サービス。BPE サービスの戻り
コードに関する情報を参照してくださ
い。

失敗したサービス名として BPELOAD
が表示される場合、DBRC アドレス・
スペースはモジュールのロードを試み
ていました。メッセージに表示される
テキストは、ロードされなかったモジ
ュールの名前です。モジュールが
IMS.SDFSRESL にリンクされている
かどうかを確認してください。

MVScservicename

サービスは z/OS から指定すること
も可能です。z/OS サービスについて
は、「z/OS MVS Programming:
Authorized Assembler Services
Reference, Volumes 1-4」
(SA22-7609, SA22-7610, SA22-
7611, SA22-7612) を参照してくださ
い。

RECON

RECON データ・セットにアクセスで
きません。関連する DSP メッセージ
が出力されていないかどうか
SYSPRINT を確認してください。

SVCERROR

無効な DBRC タイプ 4 SVC インストールが検出されました。DBRC を初期設定できるように、適切な DBRC タイプ 4 SVC をインストールする必要があります。

rc 失敗したサービスについての戻りコード
detail エラーに関する追加情報です
rsn 失敗したサービスからの理由コード

DBRC ALREADY EXISTS FOR IMS

DBRC 実行開始パラメーターに指定した IMSID 用の DBRC 領域が既に存在します。

システムの処置: DBRC アドレス・スペースは異常終了 2490 で終了します。

オペレーターの応答: レジスター 15 のコードで 2490 の異常終了がないか確認して、問題の原因を判別します。

無効な DBRC タイプ 4 SVC が検出された場合は、適切な DBRC タイプ 4 SVC をインストールし、DBRC を再始動してください。問題を解決できない場合は、SYSLOG およびダンプを保管してから、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DSPBINP0, DSPBIN00, DSPBIN40, DSPBRQ00

関連資料:

 BPE サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

 IMS 異常終了 2490

関連情報:

 IMS 異常終了 2490

DSP2005I DBRC SHUTDOWN COMPLETE

説明: データベース・リカバリー管理 (DBRC) がシャットダウンを完了しました。

システムの処置: DBRC が再始動するまで、処理は停止します。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DSPBCM00

**DSP2003A INVALID VALUE SPECIFIED FOR
keyword PARAMETER**

説明: 無効と識別される値をパラメーターに指定しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

keyword

DBRC 実行パラメーター・キーワードまたは PROCLIB メンバー・キーワードに誤りがあります。

システムの処置: DBRC 初期設定は異常終了 2490 で終了します。

オペレーターの応答: キーワードの値を訂正し、DBRC を再始動してください。

モジュール: DSPBINP0

第 7 章 DSPM メッセージ (HALDB 区画定義ユーティリティー)

HALDB 区画定義ユーティリティーによって発行されるメッセージは、DSPM で始まります。

DSPM メッセージ DSPM000I-DSPM050I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DSPM000I (C) Copyright IBM Corp. 1999. All rights reserved.

説明: IBM の著作権文。

DSPM001I Database information for *dbname* was not found.

説明: *dbname* に示されたデータベースが、検索された DBDLIB データ・セット内で見つかりませんでした。検索された DBDLIB データ・セットは、ファイル名「IMS」の下で割り振られています。

プログラマーの応答: 「IMS」の連結を調べて、適切な DBDLIB データ・セットが割り振られていることを確認します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM002I An error condition occurred. Details of the error are shown in the SYSPRINT file.

説明: 内部呼び出し中に、DBRC がメッセージを戻しました。SYSPRINT ファイルが表示されます。

システムの処置: SYSPRINT ファイルが表示されません。

プログラマーの応答: SYSPRINT ファイルには他のメッセージが含まれます。適宜、それらのメッセージに回答します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM003I Option *n* is not valid for this application.

説明: HALDB パネルにオプションのメニューが表示されます。メニューにリストされているオプションのものを指定できます。

システムの処置: 有効なオプションが指定されるまで、

または Exit キーが押されるまで、HALDB パネルが表示されます。

プログラマーの応答: メニューからオプションを選択し、その番号を **Option** フィールド内に入力します

モジュール: DSPXPDDU

DSPM004I This application cannot execute on this release of ISPF.

説明: 古いバージョンの ISPF が検出されました。パーティション・データベース定義ユーティリティーは、ISPF バージョン 4.2 およびそれ以降のみで動作します。

システムの処置: パーティション・データベース定義ユーティリティーは終了し、前に表示された ISPF パネルが再び表示されます。

プログラマーの応答: ISPF 4.2 またはそれ以降がインストールされ、ユーザーに使用可能になっているかどうかを確認します。

問題判別: 通常の検索順序 (ISPLLIB、STEPLIB、リンク・リスト、および LPA リスト) を調べて、必要な ISPF のレベルが使用されるかどうかを確認します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM005I Load module DSPPDI00 could not be loaded. IMS messages

説明: システムがデータベース・リカバリー管理ユーティリティー・モジュールをロードできませんでした。

システムの処置: パーティション・データベース定義ユーティリティーは終了します。

プログラマーの応答: IMS インストーラーがロード・モジュール・データ・セットを TSO ユーザー環境に準備したかどうかを確認します。

問題判別: 通常の検索順序 (ISPLLIB、STEPLIB、リンク・リスト、および LPA リスト) のデータ・セットの

DSPM006I • DSPM012I

いずれかに、IMS SDFSRESL データ・セットが含まれているかどうかを確認します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM006I DBRC initialization failed. rc = rc

説明: 初期設定中に、DBRC がエラーを検出しました。rc はエラーの種類を示し、一般に IBM 技術員にのみ意味を持ちます。ただし、メッセージ・ファイルが表示される時に、このメッセージは表示されます。メッセージ・ファイルには、より詳細なエラー・メッセージが含まれます。

システムの処置: パーティション・データベース定義ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答: DBRC を使用して問題を解決します。RECON データ・セットに問題がある可能性もあります。

問題判別: SYSPRINT ファイルが表示される場合、表示されるメッセージに応答します。SYSPRINT ファイルが存在しない場合、追加メッセージの情報については、MVS SYSLOG ファイルの中を調べます。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM007I Duplicate partition IDs were encountered. id = id

説明: IMPORT 中に検出された ID が、このデータベースに関してすでに定義されています。

システムの処置: 重複した ID を持つ最初の区画のみが表示されます。

プログラマーの応答: 区画定義で IMPORT コマンドが発行され、STOP ON FIRST ERROR オプションが指定された場合、TRY ALL PARTITIONS オプションを選択して、残りの区画をインポートします。

問題判別: 区画 ID は、データベース内で固有でなければなりません。重複した区画 ID がある場合、このデータベースに対してインポート・データ・セットが作成されたかどうかを確認します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM008I Table add error: not all partitions can be displayed. tbadd rc = rc

説明: 区画のリストが完了していない可能性があります。表示用のリストを作成中に、エラーが発生しました。

システムの処置: 新規の区画は、表示された区画のリストに含まれません。

プログラマーの応答: メッセージに表示された TBADD 戻りコードを調べて、エラーの原因を判別します。追加情報については、「OS/390 対話式システム生産性向上機能 (ISPF) サービスの手引き」を参照してください。

問題判別: TBADD 戻りコードは、発生した問題のタイプを示します。典型的な問題はテーブル行の重複です。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM009I Database dbname is not a partitioned database.

説明: メッセージ内に *dbname* で示されているデータベースが、HALDB として定義されていません。

システムの処置: 直前のパネルが再表示されます。

プログラマーの応答: 別のデータベースを選択するか、または DBD 生成を調べて、選択されたデータベースが HALDB として定義されているかどうかを確認します。

問題判別: DBD 生成でこのデータベースを HALDB として定義しているかどうかを確認します。正しい定義が、IMS ファイル名に割り振られている DBDLIB データ・セット内にあるかどうかを確認します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM010I Changes to the partition were canceled by the CANCEL command.

説明: 区画定義パネルまたは区画変更パネルが表示されたが、Enter キーを押して処理する代わりに、Cancel キーが押されました。

システムの処置: 区画は、定義または変更が行われませんでした。Cancel キーが押された場合、パネルに入力されたデータは廃棄されます。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM011I Partition name was added successfully.

説明: DBRC が正常に新規の区画を追加しました。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM012I Partition name was changed successfully.

説明: DBRC が正常に区画定義の変更を処理しました。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM013I Partition name was deleted successfully.

説明: 区画が正常に RECON データ・セットから削除されました。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM014I Count partitions were added successfully.

説明: 新規の区画が追加されました。Count は、追加された区画の数を示します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM015I Count partitions were deleted.

説明: 区画がいくつか削除されました。Count は、削除された区画の数を示します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM016I Information about partition name was printed successfully.

説明: 区画に関する情報が ISPF リスト・ファイルに保管されました。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM017I Information about count partitions were printed.

説明: いくつかの区画に関する情報が ISPF リスト・ファイルに保管されました。Count は、処理された区画の数を示します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM018I Changes to the database were canceled by CANCEL command.

説明: HALDB マスター情報に対する変更が、Enter キーを押して確認されませんでした。代わりに、Cancel キーが押されました。

システムの処置: 変更情報は RECON データ・セットに保管されません。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM019I Table member was created successfully to data set dsname.

説明: エクスポート機能が、HALDB に関する情報を区分データ・セットのメンバーとして保管しました。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM020I Database definition was canceled by the CANCEL command.

説明: データベース定義パネルが表示されたが、ユーザーは、Enter キーを押す代わりに、Cancel キーを押しました。

システムの処置: このデータベースは、RECON データ・セットに定義されません。

プログラマーの応答: Cancel キーが誤って押された場合、データベース属性を定義し直してから Enter キーを押す必要があります。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM021I Partition name was not added to the list displayed by ISPF. TBADD rc = rc

説明: name で示される区画が RECON データ・セット内で正常に定義されたが、表示される区画のリストに追加できませんでした。

システムの処置: 区画リストを表示するときに、name で示される区画が含まれません。

プログラマーの応答: 区画リストを表示するのに使用される ISPF サービスでエラーがありました。ISPF を終了するか、またはシステムからログオフし、その後パーティション・データベース定義ユーティリティを再始動します。

問題判別: TBADD 戻りコードは、発生した問題のタイプを示します。典型的な問題はテーブル行の重複です。rc で示される戻りコードを、z/OS 対話式システム生産性向上機能 (ISPF) のマニュアルで調べて、問題を判別します。

モジュール: DSPXPDDU

関連資料:

 z/OS: TBADD 戻りコード

DSPM022I Partition name was not changed on the list displayed by ISPF. TBMOD rc = rc

説明: 区画が RECON データ・セット内で正常に変更されたが、表示される区画のリスト内で変更できませんでした。

システムの処置: 区画リストを表示するときに、name で示される区画への変更が表示されません。

プログラマーの応答: 区画リストを表示するのに使用される ISPF サービスでエラーがありました。ISPF を終了するか、またはシステムからログオフし、その後パー

ティション・データベース定義ユーティリティーを再始動します。

問題判別: TBMOD 戻りコードは、発生した問題のタイプを示します。典型的な問題はテーブル行の重複です。 *rc* で示される戻りコードを、z/OS 対話式システム生産性向上機能 (ISPF) のマニュアルで調べて、問題を判別します。

モジュール: DSPXPDDU

関連資料:

 z/OS: TBMOD 戻りコード

DSPM023I Partition name was not deleted from the list displayed by ISPF. tdelete rc = rc

説明: 区画が RECON データ・セットから正常に削除されたが、表示される区画のリストから削除できませんでした。

システムの処置: 区画リストを表示するときに、*name* で示される区画が表示されます。

プログラマーの応答: 区画リストを表示するのに使用される ISPF サービスでエラーがありました。 ISPF を終了するか、またはシステムからログオフし、その後パーティション・データベース定義ユーティリティーを再始動します。

問題判別: TBDELETE 戻りコードは、発生した問題のタイプを示します。典型的な問題はテーブル行の重複です。 *rc* で示される戻りコードを、z/OS 対話式システム生産性向上機能 (ISPF) のマニュアルで調べて、問題を判別します。

モジュール: DSPXPDDU

関連資料:

 z/OS: TBDELETE 戻りコード

DSPM024I Unknown line command or action bar combination. line command: command

説明: 区画リスト・パネルで行コマンドが入力されたが、有効なコマンドとして認識されませんでした。

プログラマーの応答: F1 を押してヘルプ・テキストを表示します。使用可能な行コマンドを判別します。

「Act」列に行コマンドを入力します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM025I Enter a numeric value between low and high

説明: このフィールドには、*low* と *high* で示される範囲内の数値が必要です。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM026I New table member was not created. TBSAVE rc = rc

説明: 新規のテーブルは作成されませんでした。 *rc* は、ISPF tbsave サービスからの戻りコードです。

システムの処置: テーブルは、指定されたデータ・セットに保管されません。「Export a Database」パネルは表示されたままです。

プログラマーの応答: 出力データ・セットが存在するか、それが区分データ・セットであるか、さらに 80 バイト・レコードの固定ブロックであるかどうかを確認します。

問題判別: TBSAVE 戻りコードは、発生した問題のタイプを示します。典型的な問題はテーブル行の重複です。 *rc* で示される戻りコードを、z/OS 対話式システム生産性向上機能 (ISPF) のマニュアルで調べて、問題を判別します。

モジュール: DSPXPDDU

関連資料:

 z/OS: TBSAVE 戻りコード

DSPM027I Data set dsname is not cataloged. libdef rc = rc

説明: *dsname* で示されるデータ・セットがカタログされていません。

システムの処置: エクスポートまたはインポートは実行されません。メッセージが表示され、パネルが引き続き表示されます。

プログラマーの応答: パネルで指定されたデータ・セットの名前が正しくつづられているか、さらに、データ・セットが実際に存在するかどうかを確認します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM028I Changes for changed of total partitions processed.

説明: 複数の区画が変更されました。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

changed

変更された区画の数を示します。

total CHANGE ALL PARTITIONS オプションが指

定された場合、*total* は、定義されている区画の数を示します。CHANGED SELECTED PARTITIONS オプションが選択された場合、*total* は、選択された区画の数を示します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM029I Changes for changed of total partitions processed. Count errors encountered.

説明: 複数の区画が変更のために選択されたが、指定された変更の一部が実行されませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

changed

変更された区画の数を示します。

total CHANGE ALL PARTITIONS オプションが指定された場合、*total* は、定義されている区画の数を示します。CHANGED SELECTED PARTITIONS オプションが選択された場合、*total* は、選択された区画の数を示します。

Count 変更されなかった区画の数を示します。

システムの処置: 区画リストが再表示されます。

プログラマーの応答: 区画が使用可能であるかどうかを確認してから、変更を再実行します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM030I Database definition was not performed. DBRC rc = rc reason = code.

説明: データベースが RECON に定義されませんでした。IMS パーティション・データベース定義ユーティリティーで内部エラーが検出されました。*rc* および *code* は、エラーの種類を示しています。この値は、一般に IBM 技術員にのみ意味を持ちます。

システム・プログラマーの応答: 問題が解決しない場合には、IBM サポートに連絡してください。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM031I Partition name was not added. DBRC rc = rc reason = code.

説明: 新規の区画を RECON に定義できませんでした。IMS パーティション・データベース定義ユーティリティーで内部エラーが検出されました。*rc* および *code* は、エラーの種類を示しています。この値は、一般に IBM 技術員にのみ意味を持ちます。

システム・プログラマーの応答: 問題が解決しない場合には、IBM サポートに連絡してください。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM032I Partition name was not changed. DBRC rc = rc reason = code.

説明: 区画を DBRC で変更できませんでした。IMS パーティション・データベース定義ユーティリティーで内部エラーが検出されました。*rc* および *code* は、エラーの種類を示しています。この値は、一般に IBM 技術員にのみ意味を持ちます。

システム・プログラマーの応答: 問題が解決しない場合には、IBM サポートに連絡してください。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM033I Partition name was not deleted. DBRC rc = rc reason = code.

説明: 区画を RECON から削除できませんでした。IMS パーティション・データベース定義ユーティリティーで内部エラーが検出されました。*rc* および *code* は、エラーの種類を示しています。この値は、一般に IBM 技術員にのみ意味を持ちます。

システム・プログラマーの応答: 問題が解決しない場合には、IBM サポートに連絡してください。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM034I Database dbname was not deleted. DBRC rc = rc reason = code.

説明: *dbname* で示されたデータベースが、RECON データ・セットから削除されませんでした。*rc* および *code* は、エラーの種類を示しています。この値は、一般に IBM 技術員にのみ意味を持ちます。

システム・プログラマーの応答: 問題が解決しない場合には、IBM サポートに連絡してください。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM035I Database name was deleted successfully.

説明: データベースが RECON データ・セットから削除されました。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM036I You must type '/' to confirm the deletion of the database.

説明: 確認のための / が入力されませんでした。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM037I ISPF table error: the change can not be performed. tbquery rc = rc.

説明: 区画情報が表示用に処理されている間に、内部エラーが発生しました。

システムの処置: 区画情報は表示されません。

プログラマーの応答: 区分化アプリケーションを再始動します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM038I Group information has not been set. Use the 'groups' function key to set it.

説明: 区画が複数データ・セット・グループと共に定義されているが、グループのすべてが定義されてはいません。

システムの処置: パネルは、Groups キーまたは Cancel キーが押されるまで表示されています。

プログラマーの応答: グループごとに、情報の設定と確認を行います。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM039I Database dbname has an access method of 'type'. Partitioning is not supported for that access method.

説明: パーティション・データベース定義ユーティリティーは、リストされているアクセス方式をサポートしていません。

システムの処置: 処理は実行されません。

プログラマーの応答: DBD 生成のアクセス方式が正しいかどうかを確認します。

問題判別: データベース名が正しいか、さらに、DBD 生成でアクセス方式が正しく指定されたかどうかを確認します。IMS ファイル名内に正しい DBDLIB データ・セットが存在するかどうかを確認します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM040I Enter a numeric value, 0 or a value between 2 and 100.

説明: フリー・ブロック頻度係数 (FBFF) の値が無効です。

プログラマーの応答: 0 から 100 の範囲で、1 以外の数を入力します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM041I Enter an even numeric value for block size, less than 32766.

説明: ブロック・サイズの値には、偶数のみが可能です。最大は 32766 です。

プログラマーの応答: ブロック・サイズに、32766 より小さい偶数値を入力します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM042I The maximum number of partitions has been reached.

説明: データベースの区画の数が最大値に達しました。

システムの処置: 指定された区画は定義されません。

プログラマーの応答: 使用されていない区画を削除して、最大を超えないようにしてから、新規の区画を定義します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM043I The partition high key length of keylength is longer than the root key length of rootlength at line line.

説明: 区画ハイ・キーが長過ぎます。ハイ・キーが、DBDGEN で指定されたルート・キーの長さより長いのです。

システムの処置: キーが長過ぎる場合、区画の作成または変更は行われません。

プログラマーの応答: ハイ・キーの長さを、ルート・キーの長さ以下に減らします。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM044I Duplicate high key values were encountered.

説明: データベースが区画選択出口ルーチンを持たない場合、区画ハイ・キー値は、区画ごとに固有でなければなりません。

システムの処置: 同じキーを持つ区画がすでに存在する場合、区画の作成または変更は行われません。

プログラマーの応答: 区画ハイ・キーを固有な値に変更します。

問題判別: すでに使用中のキーについて不確実な場合、「Database Partitions」パネルに戻ってから、区画ハイ・キーを表示します。新規の区画を作成する場合、固有なキーを選択します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM045I The value for 'Recoverable?' must be Y (Yes), N (No) or blank.

説明: データベース・イメージ・コピー・ユーティリティーまたはオンライン・データベース・イメージ・コピー・ユーティリティーが、前に定義されたイメージ・コピー・データ・セットをリカバリーすることになっているかどうかを指定します。

システムの処置: パネルは、受け入れ可能な値が入力されるまで表示されます。

プログラマーの応答: 有効な値を入力します。

YES データベースはリカバリー可能です。

NO データベースはリカバリー可能ではありません。

ブランク

値がブランクのままの場合、デフォルトで YES になります。

YES または NO と略さずに入力しても、ワードの先頭文字を使用してもかまいません。YES がデフォルトです。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM046I The value for 'Reusable?' must be Y (Yes), N (No) or blank.

説明: データベース・イメージ・コピー・ユーティリティーまたはオンライン・データベース・イメージ・コピー・ユーティリティーが、前に定義されたイメージ・コピー・データ・セットを再使用することになっているかどうかを指定します。

システムの処置: パネルは、受け入れ可能な値が入力されるまで表示されます。

プログラマーの応答: 有効な値を入力します。

YES 前に定義されたイメージ・コピー・データ・セットが再使用されます。

NO 前に定義されたイメージ・コピー・データ・セットが再使用されません。

ブランク

値がブランクのままの場合、デフォルトで NO になります。

YES または NO と略さずに入力しても、ワードの先頭文字を使用してもかまいません。NO がデフォルト値です。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM047I Enter Y (Yes) or N (No).

説明: AUTOMATIC DEFINITION または USE DEFAULTS FOR DS GROUPS オプションの処理を選択するために、yes または no の値を入力してください。カーソル位置が、どちらのフィールドが必要かを示しています。

YES AUTOMATIC DEFINITION の場合に YES を指定すると、介入なしに複数の区画が作成されます。USE DEFAULTS FOR DS GROUPS の場合に YES を指定すると、データ・セット・グループ情報からのデフォルトを使用して区画が作成されます。

NO AUTOMATIC DEFINITION の場合に NO を指定すると、ユーザーが連続的に区画を作成できません。USE DEFAULTS FOR DS GROUPS の場合に NO を指定すると、ユーザーはデータ・セット・グループ情報を入力するよう強制されます。

システムの処置: パネルは、値が入力されるまで表示されます。

プログラマーの応答: 有効な値を入力します。YES または NO と略さずに入力しても、ワードの先頭文字を使用してもかまいません。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM049I The partition name model will not allow count partitions to be created.

説明: 入力データ・セットには、モデルで可能な数より多くのハイ・キー値または区画選択ストリングが含まれています。

システムの処置: 入力データ・セットで指定された区画の数をモデルがサポートするまで、区画は作成されません。

プログラマーの応答: 次のいずれかの処置を取ってください。

- モデルに、さらに '%' 文字を追加します。
- 入力データ・セットから、不要なキーを除去します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM050I There are too many data lines. Only one line is acceptable.

説明: キー・ストリングは、エディターで 1 行にしか指定できません。

システムの処置: 余分な行が除去されるまで、キー・ストリングを保管できません。

プログラマーの応答: 最初の行で、右側にスクロールし

て、さらに多くの情報を追加します。エディターで、TF (テキスト・フロー) 行コマンドを使用して、複数の行を 1 行に結合することができます。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM メッセージ DSPM051I-DSPM100W

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DSPM051I The value is not a valid hex string.

説明: キー・ストリングが 16 進ストリングとして宣言されていますが、無効な文字の値を含んでいます。16 進フォーマットは X'nn' または 'nn'X のフォーマットです。X'nn' に含めることができる文字は、0 から 9、A から F、および a から f です。

システムの処置: 構文が訂正されるまで、キー・ストリングは保管されません。

プログラマーの応答: キー・ストリングに、有効な 16 進文字を入力します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM052I A hex string must have an even number of hex digits.

説明: キー・ストリングが 16 進ストリングとして宣言されています。このストリング値内には偶数個の 16 進文字がなければならぬが、そうなっていません。16 進フォーマットは X'nn' または 'nn'X のフォーマットです。X'nn' に含めることができる文字は、0 から 9、A から F、および a から f です。

システムの処置: 構文が訂正されるまで、キー・ストリングは保管されません。

プログラマーの応答: キー・ストリングを変更して、偶数個の 16 進文字が含まれるようにします (例えば、X'34')。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM053I There are conflicting string types: prefix and suffix

説明: キー・ストリングは、文字フォーマットまたは 16 進フォーマットのいずれかが可能です。フォーマットのタイプは、先頭の文字または末尾の文字によって識別されます。しかし、この場合は、タイプを判別できません。

システムの処置: 構文が訂正されるまで、キー・ストリングは保管されません。

プログラマーの応答: キー・ストリングの構文を変更して、接頭部文字と接尾部文字の両方を含めないようにします。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM054I Unknown prefix: prefix

説明: キー・ストリングのフォーマットを判別できませんでした。キー・ストリングは、文字フォーマットまたは 16 進フォーマットのいずれかが可能です。

システムの処置: 構文が訂正されるまで、キー・ストリングは保管されません。

プログラマーの応答: キー・ストリングのフォーマットについて、文字の場合は C を、16 進数の場合は X を使用して定義します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM055I Unknown suffix: suffix

説明: キー・ストリングのフォーマットを判別できませんでした。キー・ストリングは、文字フォーマットまたは 16 進フォーマットのいずれかが可能です。

システムの処置: 構文が訂正されるまで、キー・ストリングは保管されません。

プログラマーの応答: キー・ストリングのフォーマットについて、文字の場合は C を、16 進数の場合は X を使用して定義します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM056I There is an unrecognized string type at end of string: suffix

説明: キー・ストリングのフォーマットを判別できませんでした。キー・ストリングは、文字フォーマットまたは 16 進フォーマットのいずれかが可能です。

システムの処置: 構文が訂正されるまで、キー・ストリングは保管されません。

プログラマーの応答: キー・ストリングのフォーマットについて、文字の場合は C を、16 進数の場合は X を使用して定義します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM057I The high key value or partition selection string was longer than 256 bytes.

説明: ハイ・キー値のデータまたは区画選択ストリングが長過ぎます。最大長は 256 バイトです。

システムの処置: 構文が訂正されるまで、キー・ストリングは保管されません。

プログラマーの応答: キー・ストリングを変更して、256 バイト以下の長さにします。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM060I Chars 'text'- not found in any partition.

説明: 検索コマンドが、要求されたテキストを検出しませんでした。検索コマンドは、現在のテーブル位置から区画リストの最下部まで検索しました。

プログラマーの応答: PF5 キーを押して、リストの先頭からの検索を繰り返します。検索ストリングがどの区画でも見つからなかった場合、検索ストリングが正しいかどうかを確認します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM061I Duplicate partition named *partition* already exists.

説明: 区画名は固有でなければなりません。 *partition* で示された区画名は、このデータベースに関してすでに定義されています。

システムの処置: 区画は作成されず、パネルは表示されたままです。

プログラマーの応答: 区画名を変更して、固有な名前にします。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM062I The input data set, *inputds*, contains no key or string values.

説明: 入力データ・セットには、キーまたはストリング値を持ったレコードが含まれていなければなりません。 *inputds* で示された入力データ・セットには、キーまたはストリング値を含んだレコードがありません。

システムの処置: 入力データ・セットが有効なレコードを含むまで、区画は作成されません。

プログラマーの応答: エディターを使用して新規のレコードを追加します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM063I The input data set, *inputds*, contains blank lines.

説明: *inputds* で示された入力データ・セットに、キーもストリング値もない行が含まれています。

システムの処置: 入力データ・セットが有効なレコードを含むまで、区画は作成されません。

プログラマーの応答: エディターを使用して、空の行を除去するか、またはアスタリスクを追加してその行をコメント行に変えます。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM064I THE DATABASE *dbname*, IS NOT DEFINED IN RECON

説明: 指定されたデータベースの名前が、HALDB として RECON に定義されていません。

プログラマーの応答: データ・セット名が正しく指定されているかどうかを調べます。名前が正しい場合、適切な RECON データ・セットが使用されているかどうかを確認します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM065W A problem exists with import data set name: *description*

説明: *name* で示されたインポート・データ・セットを処理できません。メッセージは、REXX 言語の SYSDSN 機能により戻された情報を表示しています。

システムの処置: インポート・データ・セットに問題があるため、インポートは実行されません。

プログラマーの応答: メッセージに示された問題を解決します。このデータ・セットが存在しない場合、名前を正しく指定したかどうかを確認します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM066I Search for *string* was successful.

説明: 検索により、指定された文字が見つかりました。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM067I *string* was not found. Press RFIND key to continue from top.

説明: 検索により、指定された文字が見つかりませんでした。

プログラマーの応答: RFIND キーを押して、リストの先頭からの検索を続けます。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM068I Find cancelled by the cancel command.

説明: 検索要求は、Cancel キーが押されたため、処理されませんでした。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM069I Group information has been set.

説明: グループ情報が、区画の定義の一部として、または区画デフォルトの一部として設定されました。ただし、区画が保管されるまでは、実際にはこの情報は保管されません。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM070I Database *dbname* is already registered in RECON, but not as a partitioned database.

説明: データベースは、RECON データ・セットにすでに登録されています。しかし、HALDB として RECON に定義されていません。

システムの処置: RECON データ・セット内で、HALDB は定義されません。

プログラマーの応答: RECON からデータベースを除去し、そのデータベースを HALDB として定義し、その後、そのデータベースを再び RECON に追加します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM072W Character or hex string does not start or end properly at line *linenum*.

説明: キー・ストリングが 'C' または 'X' で始まるが、引用符で終わらなかったか、あるいは、キー・ストリングが引用符で始まるが、'C' または 'X' で終わらなかった。

システムの処置: 入力データ・セットが正しくなるまで、区画は作成されません。

プログラマーの応答: メッセージで示された行のキー・ストリングを変更して、適切な構文が含まれるようにします。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM073W Hex string contains characters other than a/f, A/F or 0/9 at line *linenum*.

説明: *linenum* で示された行の 16 進ストリングが正しい文字を含んでいません。

システムの処置: 入力データ・セットが正しくなるま

で、区画は作成されません。

プログラマーの応答: 16 進数ストリングに、有効な 16 進文字を入力します。有効な文字は、A から F、a から f、および 0 から 9 です。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM074W Null string is found at line *linenum*.

説明: nul・ストリング (内容がないストリング) は使用できません。

システムの処置: 入力データ・セットが正しくなるまで、区画は作成されません。

プログラマーの応答: この行を削除するか、ストリングに文字を追加するか、または (コメントにするために) カラム 1 にアスタリスクを設定します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM075W A blank line is found at line *linenum*.

説明: 入力ファイル内に空白行は使用できません。

システムの処置: 入力データ・セットが正しくなるまで、区画は作成されません。

プログラマーの応答: 空白行を除去するか、有効なデータと置き換えます。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM076W Length of character key > 256 or hex key > 512 at line *linenum*.

説明: キー・ストリングの長さが最大許容値を超えています。

システムの処置: 入力データ・セットが正しくなるまで、区画は作成されません。

プログラマーの応答: キー・ストリングが長過ぎます。キー・ストリングを変更して、長さが 256 文字以下になるようにします。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM077W Hex string does not contain even numbers of characters at line *linenum*.

説明: 16 進ストリングで、奇数個の文字が含まれています。偶数個の文字が必要です。

システムの処置: 入力データ・セットが正しくなるまで、区画は作成されません。

プログラマーの応答: 16 進ストリングを変更して、偶数個の 16 進数字にします。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM078W *x/X* for hex string or *c/C* for character string appear at both start and end of the string at line *linenum*.

説明: ただ 1 つの *x/X* または *c/C* 文字が、ストリング内の 1 箇所でのみ (ストリングの最初または最後) 使用できます。

システムの処置: 入力データ・セットが正しくなるまで、区画は作成されません。

プログラマーの応答: 先頭または末尾のキー・ストリング ID (*X* または *C*) を除去します。通常、末尾の ID を除去するのが容易です。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM080W OPEN table failed. Check data set/member name specified on the panel.

説明: パネルで指定されたデータ・セットまたはデータ・メンバーが見つからないか、あるいは指定されたメンバーが有効なテーブル名ではありません。

システムの処置: テーブルはオープンできません。インポートは実行されません。

プログラマーの応答: データ・セットおよびメンバーが存在するかどうかを確認します。データ・セットが他で使用されていないかどうかを確認します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM081W Import failed for partition *name* because of DBRC *rc = code*

説明: *name* で示されたデータベースを処理中に DBRC がエラーを検出したため、インポートが失敗しました。IMS パーティション・データベース定義ユーティリティで内部エラーが検出されました。*code* は、エラーの種類を示します。この値は、一般に IBM 技術員にのみ意味を持ちます。

システムの処置: この区画について、インポートは実行されません。他の区画が正常にインポートされている場合もあります。

プログラマーの応答: 通常、エラーを説明する、より詳細なメッセージがログ・ファイルの中にあります。問題が解決しない場合には、IBM サポートに連絡してください。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM082I Count of a total *count2* partitions from table *name* were imported to database successfully.

説明: 区画がデータベースに正常にインポートされました。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

Count データベースに正常にインポートされた区画の数

count2 テーブルからの区画の総数

モジュール: DSPXPDDU

DSPM083I Start Import to DBN=*DBNAME*. from MEM=*member* in DSN=*dataset*. Options=*option*.

説明: これは、ユーザーの DBN、DSN、および MEM オプションを通知するメッセージ・ログの始めの方に表示される状況メッセージです。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

DBNAME

インポートされるデータベースの名前。

member

インポートの入力として使用される PDS メンバーの名前。

dataset

メンバーを含んでいるデータ・セットの名前。

option

インポート処理用に選択されたオプションで、次のものがあります。

- 1 問題があった場合は、インポート処理を停止することを示します。
- 2 一部の区画がインポートできない場合でも、インポート処理が残りの区画のインポートを継続することを示します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM084I Import successful for partition *name*.

説明: *name* で示された区画について、インポートが成功しました。エラーは検出されませんでした。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM085I Imports start at *date time*.

説明: インポートが、*date time* で示された時刻に開始されました。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM086W Enter a value between 1 and 2.

説明: 次のいずれかのタイプのインポート処理を指定する必要があります。

- 1 問題があった場合は、インポート処理を停止することを示します。
- 2 一部の区画がインポートできない場合でも、インポート処理が残りの区画のインポートを継続することを示します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM087W Import process terminated on detection of first error from DBRC.

説明: DBRC がエラーを検出したため、インポート処理が終了しました。エラーの検出後にインポートを終了させるのは、ユーザーによって指定されたオプションです。

システムの処置: インポートは終了します。

プログラマーの応答: 上記メッセージに対応した、発生した問題のタイプを示しているインポート・ログを調べます。そのメッセージで示されたエラーを解決します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM088E Program DSPXPDDU cannot execute outside of ISPF.

説明: DSPXPDDU プログラムは、ISPF の外側では実行できません。

システムの処置: HALDB または DSPXRUN は、何の処置もせずに終了します。

プログラマーの応答: ISPF を開始してから、HALDB コマンドを実行します。バッチのインポートの場合、ISPSTART コマンドを使用して ISPF を開始します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM089W The IMPORT operands specified are invalid or missing.

説明: IMPORT コマンド構文が正しくありません。キーワード DSN、DBN、または MEM が欠落しているか、あるいは、これらに指定された値が正しくないかまたは括弧で囲まれていません。OPT キーワードの場合、有効な値は 1 および 2 のみです。

- 1 問題があった場合は、インポート処理を停止することを示します。
- 2 一部の区画がインポートできない場合でも、インポート処理が残りの区画のインポートを継続することを示します。

システムの処置: インポートは実行されません。

プログラマーの応答: IMPORT コマンドに対して、適切なコマンド構文を指定します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM090E A problem exists with DBD data set name: description.

説明: *name* で示された DBD データ・セットを処理できません。*description* で示された情報は、REXX 言語の SYSDSN 機能により戻されます。

システムの処置: 構成は保管されません。

プログラマーの応答: メッセージに示された問題の解決を試みます。ISPF 3.2 または同等のユーティリティを使用してデータ・セット情報をリストし、データ・セットが存在するか、および使用可能であるかどうかを確認します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM091E A problem exists with the RECON data set name: description.

説明: *name* で示された RECON データ・セットを処理できません。*description* で示されたこの情報は、REXX 言語の SYSDSN 機能により戻されます。

システムの処置: 構成は保管されません。

プログラマーの応答: メッセージに示された問題の解決を試みます。ISPF 3.2 または同等のユーティリティを使用してデータ・セット情報をリストし、データ・セットが存在するか、および使用可能であるかどうかを確認します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM092E File allocation failed for file in configuration cfgname: message

説明: *file* で示されたファイルに対する ALLOCATE コマンドを発行中に、エラーが発生しました。詳しくは、メッセージの最後にある追加説明を参照してください。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

file ALLOCATE コマンドが失敗したファイル。
cfgname

パネルに指定された構成名。

メッセージ (*message*)

問題を示すメッセージ。例えば、'dataset not found'。

システムの処置: 構成は保管されません。

プログラマーの応答: メッセージに示された問題の解決

を試みます。 ISPF 3.2 または同等のユーティリティを使用し、データ・セット情報をリストし、データ・セットが存在するか、および使用可能かどうかを確認します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM093W An enqueue failed for *dbname*, using RECON data set *recon*. This will prevent you from modifying the database.

説明: データベースは別のユーザーが使用中です。区画情報の表示のみが可能であり、情報を変更することはできません。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM094W A modify is not allowed: someone else is using database *dbname*

説明: データベースは別のユーザーが使用中です。どの区画も変更できません。警告として、前もってメッセージ DSPM093W が表示されます。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM096I The master database information for *DBNAME* was defined successfully.

説明: 定義中のデータベースに関する HALDB マスター情報が RECON データ・セットに保管されました。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM097W The name of the partition selection routine was cleared. You must set the high key values for each partition before it can be used.

説明: ユーザーが区画選択ルーチン名を除去した後、すべての区画の区画選択ストリングがクリアされました。

システムの処置: 区画選択ストリングはクリアされます。

プログラマーの応答: 再びハイ・キー値を設定します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM098W The master database for *DBNAME* now uses a partition selection routine.

説明: ハイ・キーの使用から区画選択ルーチンの使用に、HALDB が変更されました。ハイ・キーは区画定義の中に残っており、区画ストリング・データとして使用できます。

プログラマーの応答: 必要であれば、区画ストリング・データを更新します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM099W One of the partitions is currently authorized. You cannot make a change to the master database information at this time.

説明: 区画のいずれかが現在使用中です。その区画が使用可能になるまで、HALDB マスター情報を変更できません。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM100W The input data set, *data set*, was not found.

説明: 入力データ・セットが存在しません。

システムの処置: 入力データ・セットにキー・ストリングが含まれるため、区画は作成されません。

プログラマーの応答: 示されたデータ・セットが存在するか、または使用可能かどうかを確認します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM メッセージ DSPM101W-DSPM145I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DSPM101W Open failed for *data set*.

説明: 入力データ・セットをオープンできませんでした。

システムの処置: 処理は実行されません。

プログラマーの応答: 入力データ・セットが存在するか、または使用中でないかどうかを確認します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM102W A member was specified but *data set* is a sequential data set.

説明: メンバー名が指定されたが、このデータ・セットは順次データ・セットです。

システムの処置: 処理は実行されません。

プログラマーの応答: データ・セットが順次であれば、メンバー名を除去します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM103W Dataset has an unsupported record format.

説明: 入力データ・セットが、サポートされないレコード・フォーマットを持っています。固定ブロック・レコードおよび可変ブロック・レコードのみがサポートされます。

システムの処置: 処理は実行されません。

プログラマーの応答: 固定ブロックまたは可変ブロックのデータ・セットを指定します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM104W Dataset has an unsupported data set organization.

説明: 入力データ・セットが、サポートされないデータ・セット編成を持っています。区分データ・セットおよび順次データ・セットのみがサポートされます。

システムの処置: 処理は実行されません。

プログラマーの応答: 順次データ・セットまたは区分データ・セットを指定します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM105W Member member was not found in data set.

説明: 指定されたメンバー名が、入力データ・セットのメンバーではありませんでした。

システムの処置: 処理は実行されません。

プログラマーの応答: メンバー名が正しいか、あるいは示されたデータ・セットに存在するかどうかを確認します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM106W The data set data set has records longer than 540.

説明: 入力データ・セットは、539 バイト以下のレコード長でなければなりません。

システムの処置: 処理は実行されません。

プログラマーの応答: レコード長が 540 以下のデータ・セットを使用します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM107W The input data set, data set, contains errors.

説明: 入力データ・セットのレコードでエラーが検出されました。

システムの処置: 処理は実行されません。

プログラマーの応答: エラーについての詳細は、表示されたファイル内のメッセージを調べます。このエラーは、おそらく、キー・ストリング値または構文に関連しています。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM108I No changed fields were detected. Use the CANCEL command to leave.

説明: パネル上で、どのフィールドも変更されませんでした。

システムの処置: Enter キーを押しても、何の処理も実行されません。

プログラマーの応答: Cancel ファンクション・キーを使用して、パネルを終了します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM109I Changes to the master database information were successful.

説明: HALDB マスター情報に対する変更が RECON データ・セットに保管されました。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM110E File deallocation failed for ddname: freemsg

説明: ddname で示されたファイルに対して DSPXXALX が FREE コマンドを発行した時に、エラーが発生しました。

ddname FREE コマンドが失敗した対象のファイル。
freemsg FREE コマンドによって戻された TSO メッセージ。

プログラマーの応答: メッセージに示された問題の解決を試みます。例えば、TSO LISTA コマンドを使用して、IMS RECON または DBDLIB データ・セットがまだ割り振られているかどうかを調べます。ISPF コマンド・シェルのオプション 6 から IMS および RECON DD 名に対して TSO FREE コマンドを発行して、それらのデータ・セットを解放します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM111I Invalid Partition High key value. The partition high key length of *keylength* is longer than the root key length of *rootlength*.

説明: 指定されたハイ・キー値が、DBD 生成で指定された長さを超えています。より長いキーは認められません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

keylength

指定されたキーの長さ。

rootlength

DBD 生成中に指定された最大キー長。

システムの処置: 処理は実行されません。

プログラマーの応答: ハイ・キー値を変更して、その長さが最大許容の長さ以下にします。許容されたキー長より短いキーは、X'FF' で埋め込まれます。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM112W Invalid Partition High key value. Character or hex string does not start/end properly.

説明: ハイ・キー値の構文に誤りがあります。

システムの処置: 処理は実行されません。

プログラマーの応答: キー・ストリングを変更して、正しく開始または終了するようにします。ストリングが引用符で開始または終了しているかどうかを確認します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM113W Invalid Partition High key value. Hex string contains characters other than a/f, A/F or 0/9.

説明: 16 進ストリングが 16 進以外の文字を含みます。

システムの処置: 処理は実行されません。

プログラマーの応答: ストリングが、有効な 16 進文字のみを含むかどうかを確認します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM114W Invalid Partition High key value. Null string is found.

説明: ブランク行は認められません。

システムの処置: 処理は実行されません。

プログラマーの応答: 入力ファイルからブランク行を除

去するか、または先頭のカラムにアスタリスクを追加してブランク行をコメントに変えます。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM115W Invalid Partition High key value. Comments are not allowed.

説明: ハイ・キー・フィールド内でコメントは認められません。

システムの処置: 処理は実行されません。

プログラマーの応答: 先頭文字位置にあるアスタリスクを別の文字で置き換えます。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM116W Invalid Partition High key value. Length of character key > 256 or hex key > 512.

説明: 区画ハイ・キー値が、サポートされる長さの 256 を超えています。

システムの処置: 処理は実行されません。

プログラマーの応答: ハイ・キー値から文字を削除して、長過ぎないようにします。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM117W Invalid Partition High key value. Hex string does not contain even numbers of characters.

説明: 偶数個の 16 進数がなければなりません。

システムの処置: 処理は実行されません。

プログラマーの応答: 16 進ストリングを変更して、偶数個の 16 進数字にします。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM118W Invalid Partition High key value. x/X for hex string or c/C for character string appear at both start/end of the string.

説明: ただ 1 つの x/X または c/C 文字が、ストリング内の 1 箇所でのみ (ストリングの最初または最後) 使用できます。

システムの処置: 処理は実行されません。

プログラマーの応答: 先頭または末尾のキー・ストリング ID (X または C) を除去します。通常、末尾の ID を除去するのが容易です。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM120E The saved definition does not match the DBDLIB: *group count*

説明: インポートされる HALDB マスター定義が、DBDLIB メンバー内の定義と異なっています。データ・セット・グループ・カウントが異なります。

システムの処置: インポート機能は区画を処理しません。

プログラマーの応答: DBD 定義を変更して、インポートされるデータベースに一致させます。同じデータ・セット・グループ・カウントを使用します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM121E The saved definition does not match the DBDLIB: *access method*

説明: インポートされる HALDB マスター定義が、DBDLIB メンバー内の定義と異なっています。アクセス方式が異なります。

システムの処置: インポート機能は区画を処理しません。

プログラマーの応答: DBD 定義を変更して、インポートされるデータベースに一致させます。同じアクセス方式を使用します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM122E The saved definition does not match the DBDLIB: *database name*

説明: インポートされる HALDB マスター定義が、DBDLIB メンバー内の定義と異なっています。データベース名が異なります。

システムの処置: インポート機能は区画を処理しません。

プログラマーの応答: DBD 定義を変更して、インポートされるデータベースに一致させます。同じデータベース名を使用します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM123E The function '*function*' is not supported.

説明: IMPORT 以外のバッチ機能が指定されました。その他の機能は認められません。

システムの処置: 処理は実行されません。

プログラマーの応答: "import" が正しくつづられているか、さらに DSPXRUN コマンドに続く最初のワードかどうかを確認します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM124W The database cannot be deleted. A partition is currently authorized.

説明: 区画が、現在は IMS または別のユーティリティで使用中のため、削除できません

プログラマーの応答: データベースおよびその区画のすべてが停止されているかどうかを確認します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM125W The partition is currently authorized and cannot be deleted.

説明: 区画が、現在は IMS または別のユーティリティで使用中のため、削除できません

プログラマーの応答: 区画が停止しているかどうかを確認します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM126W IMS configurations need to be saved to the ISPTABL file, but it is not allocated.

説明: IMS 構成パネルを使用する前に、ISPTABL データ・セットを割り振る必要があります。同じデータ・セットが ISPTLIB データ・セット内にもなければなりません。

システムの処置: 処理は実行されません。

プログラマーの応答: ISPTABL データ・セットを ISPF の外部に割り振り、同じデータ・セットを ISPTLIB データ・セット内に割り振ります。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM127W Changes to this partition affect another partition that is in use.

説明: 区画に対して行われた変更が、現在使用中の別の区画に影響します。影響するすべての区画の許可が取り消されていなければなりません。このメッセージは、区画が追加、変更、または削除される場合に表示されることがあります。

システムの処置: 処理は実行されません。

プログラマーの応答: 影響を受ける区画が停止しているかどうかを確認します。まだ使用中の区画は、変更されていた区画ではないということに注意してください。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM128W The data set prefix name cannot contain quote characters.

説明: データ・セット名接頭部はデータ・セットではありません。動的に作成される名前の接頭部です。実際の名前は、この接頭部、区画 ID、およびデータ・セットのタイプから成ります。データ・セット接頭部はデータ・セット名でないため、完全には修飾されません。すなわち、引用符を含めることができません。

システムの処置: 処理は実行されません。

プログラマーの応答: データ・セット名接頭部から引用符文字を除去し、Enter キーを押して続けます。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM130W The name is missing or invalid.

説明: フィールドには有効な名前が必要です。以下のいずれかが真です。

- 名前が欠落している。
- 名前に無効文字が入っている。

システムの処置: 処理は実行されません。

プログラマーの応答: 名前のスペルが正しく、正常な名前構文に従っていることを確認します。問題を訂正し、Enter キーを押して処理を続けます。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM131W The value contains imbedded blanks.

説明: 値は、中央に空白文字なしで、単一のワードまたは数値として表示される必要があります。

システムの処置: パネルが再表示されます。

プログラマーの応答: 名前のスペルが正しく、正常な名前構文に従っていることを確認します。問題を訂正し、Enter キーを押して処理を続けます。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM132W The name must be an alphanumeric value.

説明: 入力された名前に、名前で使用できない文字が含まれています。

システムの処置: パネルが再表示されます。

プログラマーの応答: 名前のスペルが正しく、正常な名前構文に従っていることを確認します。問題を訂正し、Enter を押して処理を続けます。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM133W 先頭文字は英字でなければならない

説明: 名前の最初の文字は、英字または国別文字でなければなりません。

システムの処置: パネルが再表示されます。

プログラマーの応答: 名前のスペルが正しく、正常な名前構文に従っていることを確認します。問題を訂正し、Enter を押して処理を続けます。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM134W The value is not correct, type = code

説明: フィールドは妥当性検査に失敗しましたが、内部エラーにより、固有のメッセージが表示されません。code 値は、エラーのタイプを示します。この値は、一般に IBM 技術員にのみ意味を持ちます。

システムの処置: パネルが再表示されます。

プログラマーの応答: 問題が解決しない場合には、IBM サポートに連絡し、エラーとタイプの値を報告してください。その値は IBM 担当者にのみ役立ちます。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM135W The only partition status value you can type is 'DISABLE'.

説明: 区画状況フィールドは、通常、ブランクです。この時点で入力できる値は DISABLE だけです。省略形はありません。

システムの処置: パネルが再表示されます。

プログラマーの応答: フィールドから情報を削除して、Enter キーを押します。区画を使用不可にしたい場合は、DISABLE と入力して、Enter キーを押します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM136W Enter a numeric value greater than zero.

説明: 数値を予想しているフィールドに、ブランクまたはゼロが入力されました。

システムの処置: パネルが再表示されます。

プログラマーの応答: 数値を入力し、Enter キーを押して処理を続けます。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM137W Set the partition status to 'ENABLE' or press the Cancel key.

説明: 区画状況は、現在、「使用不可」です。このパネルで入力できる値は ENABLE だけです。省略形は受け入れられません。

システムの処置: パネルが再表示されます。

プログラマーの応答: 区画を使用可能にしたい場合は、ENABLE と入力して、Enter キーを押します。区画を使用可能にしない場合は、Cancel キーを押します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM138I The partition high key contains non-display characters.

説明: 区画ハイ・キーまたは選択ストリングに非表示文字が含まれています。文字は 16 進数の組み合わせで構成されており、有効なキーボード文字を表わしません。

INFO 行に異なる書式のハイ・キーが含まれています。その行を使用するには、最初のデータ行を削除して、INFO 行の左にある行コマンド列に「MD」と入力します。

システムの処置: ISPF エディターが、該当のハイ・キーを HEX ON モードで表示します。

プログラマーの応答: データ行の表示されている文字を上書き入力することができます。また 16 進数行に 16 進値を入力することもできます。

INFO 行を使用するには、最初のデータ行を削除して、INFO 行の左にある行コマンド列に「MD」と入力します。16 進数ストリングを必要に応じて編集します。F3 を押して保管するか、または CANCEL コマンドを使用して、値を変更せずに終了します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM139I Update in HEX mode, or use MD command to edit the 'info' line.

説明: HEX ON モードで有効な ISPF エディター・コマンドを使用してハイ・キー値を編集します。表示されている文字を上書き入力することもできますし、あるいはハイ・キー値の 16 進数表現を示している行に 16 進値を入力することもできます。

INFO 行に異なる書式のハイ・キーが含まれています。その行を使用するには、最初のデータ行を削除して、INFO 行の左にある行コマンド列に「MD」と入力します。

システムの処置: エディターが、該当のハイ・キーを HEX ON モードで表示します。

プログラマーの応答: データ行の表示されている文字を上書き入力することができます。また 16 進数行に 16 進値を入力することもできます。

INFO 行を使用するには、最初のデータ行を削除して、INFO 行の左にある行コマンド列に「MD」と入力します。16 進数ストリングを必要に応じて編集します。F3 を押して保管するか、または CANCEL コマンドを使用して、値を変更せずに終了します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM140I The partition list has been refreshed.

説明: ユーザーが、アクション・バーを使用して「View」および「Refresh」を選択しました。

システムの処置: 区画リストが RECON データ・セットから検索され、再表示されました。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM141W This application will not work properly with keylists turned off.

説明: グローバル ISPF ファンクション・キー設定に、KEYLIST OFF コマンドが使用されました。

ヒント: ISPF コマンド行で KEYLIST ON コマンドを使用して、キー・リスト設定をリセットしてください。いくつかのパネルには固有のコマンドに設定されたファンクション・キーがあり、キー・リストがオフになっていると、要求された機能が正しく働かない場合があります。

システムの処置: Partition Definition Utility は、KEYLIST OFF 設定で作動を継続します。

プログラマーの応答: このアプリケーション用に定義されたファンクション・キーを使用するには、コマンド行に KEYLIST ON コマンドを入力して、Enter キーを押します。

モジュール: DSPXPDDU

DSPM142I Start export to MEM=dspxmeme in DSN=dspxdsn from DBN=DBNAME.

説明: ユーザーがデータベースのエクスポートを要求しました。

システムの処置: データベースに関する情報は、指定されたデータ・セットに保管されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DSPXPDDU

**DSPM143I The export file contains partition
partname.**

説明: ユーザーがデータベースのエクスポートを要求しました。続いて問題がある場合は、支援として、区画名がリストされます。

システムの処置: データベースに関する情報は、指定されたデータ・セットに保管されます。各区画は個別にリストされますが、保管は、一度にリスト全体について行われます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DSPXPDDU

**DSPM144W PARTITION IS BEING
REORGANIZED BY OLR**

説明: ユーザーが区画フリー・スペース属性の変更を要求しましたが、その区画は現在 HALDB オンライン再編成中です。

システムの処置: 区画変更の要求は失敗します。指定された区画のフリー・スペース・パーセント係数およびフリー・ブロック頻度係数は、未変更のままになります。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DSPXPDDU

**DSPM145I THE INPUT DATASET HAS A
DUPLICATE KEY AT LINE xx.**

説明: キー・データ・セットの行番号 *xx* に、重複ハイ・キーがあります。区画定義ユーティリティは、最初の 1001 個のキー・エントリーで重複キーを検査します。このユーティリティは重複キーを受け入れません。

システムの処置: 処理は実行されません。

プログラマーの応答: すべてのキーがユニークになるように、ハイ・キー・データ・セットを変更してください。その後、区画定義ユーティリティを再度実行します。

モジュール: DSPXPDDU

第 8 章 DXR メッセージ (IRLM)

内部リソース・ロック・マネージャー (IRLM) メッセージには、接頭部 DXR が付いています。

IRLM メッセージおよびコードは、IRLM メッセージおよびコードで確認できます。

第 9 章 FRP メッセージ (リポジトリ・サーバー)

リポジトリ・サーバーによって発行されるメッセージには、FRP の接頭部が付いています。

FRP0001E Server terminating due to an error condition.
Feedback: *feedback_word1 feedback_word2 feedback_word3*

説明: サポートされないエラー状態が発生しました。リポジトリ・サーバーは、その安全性が不明なため、終了する必要があります。

メッセージ・テキスト内のフィードバック・ワード (*feedback_word*) は IBM の診断およびデバッグ情報を示します。3 つのフィードバック・ワードは、エラーが生成されたモジュールのモジュール ID と内部の理由コードを示します。

システムの処置: 処理は無条件で終了し、リポジトリ・サーバーは終了します。

ユーザーの処置: エラーを診断するためのフィードバック情報を用意して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: FRPSINIT FRPSINTQ FRPSIOCQ
FRPSIORQ FRPSIOVA

FRP0002E The server experienced an error condition.
Feedback: *feedback_word1 feedback_word2 feedback_word3*

説明: リポジトリ・サーバーでサポートされないエラーが発生しました。サーバーは処理を続行できます。

メッセージ・テキスト内のフィードバック・ワード (*feedback_word*) は IBM の診断およびデバッグ情報を示します。3 つのフィードバック・ワードは、エラーが生成されたモジュールのモジュール ID と内部の理由コードを示します。

システムの処置: 影響を受けるスレッドの処理は終了しますが、サーバーは引き続き処理を試行します。

ユーザーの処置: エラーを診断するためのフィードバック情報を用意して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: FRPSAUD FRPSAUDQ FRPSCOMQ
FRPSHSH FRPSINIT FRPSINTQ FRPSINTQ
FRPSIOCQ FRPSIOH FRPSIORQ FRPSIOU FRPSIOV

FRPSIOVA FRPSLCK FRPSREQQ FRPSSCMD
FRPSSDA FRPSSDMP FRPSSEC FRPSSHUT
FRPSTCPQ FRPSTCPT FRPSTCPT FRPSTDMP
FRPSTERM FRPSXCFT.

FRP0003E Repository initialization error in
modname, rqstname RC=rc RSN=rsn

説明: メッセージに示された要求名に対してモジュールでサポートされないエラー状態が発生しました。メッセージには、要求からのエラーの戻りコードと理由コードがリストされています。

メッセージ・テキスト内の項目は以下のとおりです。

modname

エラーのあるモジュールの名前を示します。

rqstname

エラーのある要求の名前を示します。サポートされる値は CSLSCREG です。

rc

エラーのある要求からの戻りコードを示します。CSLSCREG 要求について、マクロ CSLSRR で戻りコードの意味を参照してください。

rsn

エラーのある要求からの理由コードを示します。CSLSCREG 要求について、マクロ CSLSRR で理由コードの意味を参照してください。

システムの処置: サーバーは処理を続行します。

ユーザーの処置: エラーのある要求のエラーを修正し、リポジトリ・サーバーを再始動します。

モジュール: FRPSINIT FRPSINTQ

FRP0006E Unable to load Catalog Search Interface routine IGGCSI00.
Info=LOAD_abend_code /
LOAD_reason_code

説明: サーバーの初期設定の一環として、サーバーが z/OS Catalog Search Interface (CSI) ルーチンをロードしようとしたのですが、このロード操作は失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

LOAD_abend_code

失敗した LOAD マクロによって戻された異常終了コードを示します。

LOAD_reason_code

失敗した LOAD マクロによって戻された理由コードを示します。

システムの処置: 処理は無条件で終了し、サーバーは終了します。

ユーザーの処置: IGGCSI00 サブルーチンの応答および理由コードを参照し、適切な処置を実行してください。

モジュール: FRPSIOV

関連資料:

 z/OS DFSMS: Catalog Search Interface User's Guide

FRP0007E Repository data set not found.
DSN=*data_set_name*

説明: リポジトリのオープン処理中に、リポジトリ・データ・セットが見つかりませんでした。

システムの処置: リポジトリは停止状態にあるため、アクセスできません。このリポジトリがリポジトリ・サーバー (RS) カタログ・リポジトリである場合は、RS が終了します。

ユーザーの処置: データ・セット名が正しいこと、および z/OS システムでデータ・セットがカタログされていることを確認します。

モジュール: FRPSIOVA

FRP0008E Invalid repository data set name.
DSN=*data_set_name*

説明: リポジトリのオープン処理中に、リポジトリ・データ・セット *data_set_name* が無効な VSAM KSDS 名であることが検出されました。

システムの処置: リポジトリは停止状態にあるため、アクセスできません。このリポジトリがリポジトリ・サーバー (RS) カタログ・リポジトリである場合は、RS が終了します。

ユーザーの処置: データ・セットが VSAM KSDS の命名規則に準拠していることを確認します。

モジュール: FRPSIOVA

FRP0009E Repository data set invalid.
Non-spanned VSAM KSDS required.
DSN=*data_set_name*

説明: リポジトリのオープン処理中に、リポジトリ

ー・データ・セットが VSAM キー順データ・セット (KSDS) でないか、またはリポジトリ・データ・セットがスパン・レコードが許可される VSAM KSDS であることが検出されました。

システムの処置: リポジトリは停止状態にあるため、アクセスできません。このリポジトリがリポジトリ・サーバー (RS) カタログ・リポジトリである場合は、RS が終了します。

ユーザーの処置: 有効な VSAM KSDS の名前を入力するか、データ・セットの定義を修正します。

モジュール: FRPSIOV

FRP0010E Repository data set DYNALLOC error
RC=*rc* RSN=*rsn*.
DSN=*data_set_name*

説明: リポジトリのオープン処理中に、リポジトリ・データ・セットの動的な割り振り (DYNALLOC) を試行しましたが失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc DYNALLOC によって戻された理由コードを示します。

rsn DYNALLOC によって戻された理由コードを示します。

data_set_name

リポジトリ・データ・セット名を示します。

システムの処置: リポジトリは停止状態にあるため、アクセスできません。このリポジトリがリポジトリ・サーバー (RS) カタログ・リポジトリである場合は、RS が終了します。

ユーザーの処置: このエラーには通知メッセージが付随しています。FRP0011I を検索してください。戻りコードと理由コードは DYNALLOC (SVC99) によって生成されます。

モジュール: FRPSIOVA

関連資料:

 z/OS: DYNALLOC 戻りコードの解釈

関連情報:

『FRP0011I』

FRP0011I Variable information from DYNALLOC.

説明: この通知メッセージは、エラー・メッセージ FRP0010E に付随しています。この失敗した要求に関する情報は DYNALLOC によって戻され、リポジトリ・サーバーの通知メッセージとして再フォーマットされます。

システムの処置: FRP0010E のシステム処置に関する情報を参照してください。

ユーザーの処置: この情報を使用して、FRP0010E メッセージに関連するエラーを診断して修正します。

モジュール: FRPSIOVA

関連情報:

302 ページの『FRP0010E』

FRP0012E Insufficient access authority to repository data set.
DSN=data_set_name

説明: リポジトリのオープン処理中に、サーバーに十分な RACF 特権 (または同様の特権) がないため、リポジトリ・データ・セットへのアクセス試行が失敗しました。

システムの処置: リポジトリは停止状態にあるため、アクセスできません。このリポジトリがリポジトリ・サーバー (RS) カタログ・リポジトリである場合は、RS が終了します。

ユーザーの処置: 必要に応じて、データ・セットのアクセス権を変更します。

モジュール: FRPSIOV

FRP0013E Invalid repository data set. REUSE attribute is required.
DSN=data_set_name

説明: リポジトリのオープン処理中に、REUSE 属性が指定されていないリポジトリ・データ・セットが見つかりました。

システムの処置: リポジトリは停止状態にあるため、アクセスできません。このリポジトリがリポジトリ・サーバー (RS) カタログ・リポジトリである場合は、RS が終了します。

ユーザーの処置: 有効な VSAM KSDS の名前を入力するか、REUSE 属性を使用するようにデータ・セットの定義を調整します。

モジュール: FRPSIOV

FRP0014E Repository data set call error
RC=VSAM_return_code
ACBERFLG=access_control_blk_error_flag,
DSN=data_set_name

説明: VSAM データ・セットの OPEN または CLOSE 呼び出しで、サポートされないエラー状態が発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

call 試行された VSAM 機能のタイプ (OPEN または CLOSE) を示します。

VSAM_return_code

VSAM 戻りコード。

access_control_blk_error_flag

ACB の ACBERFLG フィールド内の理由コードを示します。

data_set_name

リポジトリ・データ・セットの名前を示します。

システムの処置: リポジトリは停止状態にあるため、アクセスできません。このリポジトリがリポジトリ・サーバー (RS) カタログ・リポジトリである場合は、RS が終了します。

ユーザーの処置: この VSAM エラーについて詳しくは、「z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets」を参照してください。

モジュール: FRPSIOV

関連情報:

 z/OS: VSAM マクロの戻りコードおよび理由コード

FRP0015E Invalid RID data set. Use KEYS (128 0).
Repository:repository_name
Data set name:data_set_name

説明: リポジトリのオープン処理中に、データ・セットの妥当性検査によって無効な KEYS 値を持つリポジトリ索引データ・セットが特定されました。

システムの処置: リポジトリは停止状態にあるため、アクセスできません。このリポジトリがリポジトリ・サーバー (RS) カタログ・リポジトリである場合は、RS が終了します。

ユーザーの処置: KEYS(128 0) を使用してリポジトリ索引データ・セットを再定義します。

モジュール: FRPSIORQ

FRP0016E Invalid RMD data set. Use KEYS (12 0).
Repository:repository_name
Data set name:data_set_name

説明: リポジトリのオープン処理中に、データ・セットの妥当性検査によって無効な KEYS 値を持つリポジトリ・メンバー・データ・セット (RMD) が特定されました。

システムの処置: リポジトリは停止状態にあるため、アクセスできません。このリポジトリがリポジトリ・サーバー (RS) カタログ・リポジトリである場合は、RS が終了します。

ユーザーの処置: KEYS(12 0) を使用してリポジトリ・メンバー・データ・セットを再定義します。

モジュール: FRPSIORQ

FRP0017E Invalid RID data set. Use RECORDSIZE(282,282).
Repository:*repository_name*
Data set name:*data_set_name*

説明: リポジトリのオープン処理中に、データ・セットの妥当性検査によって無効な RECORDSIZE の最大値を持つリポジトリ索引データ・セットが特定されました。

システムの処置: リポジトリは停止状態にあるため、アクセスできません。このリポジトリがリポジトリ・サーバー (RS) カタログ・リポジトリである場合は、RS が終了します。

ユーザーの処置: RECORDSIZE(282,282) を使用してリポジトリ索引データ・セットを再定義します。

注: リポジトリ索引データ・セットのレコードは固定長です。このため、平均および最大のレコード・サイズに同じ値を指定してください。

モジュール: FRPSIORQ

FRP0018E Invalid RMD data set. Use max RECORDSIZE >= 51 bytes.
Repository:*repository_name*
Data set name:*data_set_name*

説明: リポジトリのオープン処理中に、データ・セットの妥当性検査によって無効な RECORDSIZE の最大値を持つリポジトリ・メンバー・データ・セット (RMD) が特定されました。

システムの処置: リポジトリは停止状態にあるため、アクセスできません。このリポジトリがリポジトリ・サーバー (RS) カタログ・リポジトリである場合は、RS が終了します。

ユーザーの処置: 51 バイト以上の最大 RECORDSIZE を使用してリポジトリ・メンバー・データ・セットを再定義します。

要確認: 51 バイトは最小値です。この値は推奨されません。

モジュール: FRPSIORQ

FRP0019E Invalid repository data set SHAREOPTIONS. Use (2 3) or (1 3).
Repository:*repository_name*
Data set name:*data_set_name*

説明: リポジトリのオープン処理中に、データ・セットの妥当性検査によって無効な SHAREOPTIONS 値を持つリポジトリ・データ・セットが特定されました。

システムの処置: リポジトリは停止状態にあるため、アクセスできません。このリポジトリがリポジトリ・サーバー (RS) カタログ・リポジトリである場合は、RS が終了します。

ユーザーの処置: SHAREOPTIONS (2 3) または SHAREOPTIONS(1 3) を使用してリポジトリ・データ・セットを再定義します。

モジュール: FRPSIORQ

FRP0020E Inconsistent repository data set SHAREOPTIONS.
Share options: DATA (*data_op1 data_op2*), INDEX (*idx_op1 idx_op2*)
Repository:*repository_name*
Data set name:*data_set_name*

説明: リポジトリのオープン処理中に、データ・セットの妥当性検査によって、DATA および INDEX コンポーネントに対して不整合な SHAREOPTIONS 値を持つリポジトリ・データ・セットが特定されました。

システムの処置: リポジトリは停止状態にあるため、アクセスできません。このリポジトリがリポジトリ・サーバー (RS) カタログ・リポジトリである場合は、RS が終了します。

ユーザーの処置: INDEX および DATA コンポーネントのデータ・セット定義を整合するように変更します。両方のコンポーネントに対して SHAREOPTIONS(2 3) または SHAREOPTIONS(1 3) を使用します。

モジュール: FRPSIORQ

FRP0021E Invalid repository data set control record.
Repository:*repository_name*
Data set name:*data_set_name*

説明: リポジトリのオープン処理中に、データ・セットの妥当性検査によって、制御レコードが欠落したリポジトリ・データ・セットまたは無効な制御レコードを持つリポジトリ・データ・セットが特定されました。

システムの処置: リポジトリは停止状態にあるため、アクセスできません。このリポジトリがリポジトリ

ー・サーバー (RS) カタログ・リポジトリである場合は、RS が終了します。

ユーザーの処置: 示されたりポジトリ・データ・セットは無効です。原因としては、誤ったデータ・セットが指定されたか、あるいはデータ・セットを IDCAMS DELETE または DEFINE コマンドで空にする必要があるということが考えられます。

モジュール: FRPSIORQ

FRP0022E Inconsistent type data set maximum RECORDSIZE.
Record size: PRI=primary_type_recordsize,
 SEC=secondary_type_recordsize
Repository: repository_name

説明: リポジトリのオープン処理中に、データ・セットの妥当性検査によって、不整合な RECORDSIZE の最大値を持つ 1 次または 2 次リポジトリ・データ・セット (リポジトリ索引データ・セット (RID) またはリポジトリ・メンバー・データ・セット (RMD)) が検出されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

type RID または RMD.

primary_type_recordsize

1 次 RID または RMD の RECORDSIZE オプション (*type* に基づく) を示します。

secondary_type_recordsize

2 次 RID または RMD の RECORDSIZE オプション (*type* に基づく) を示します。

repository_name

リポジトリの名前を示します。

システムの処置: リポジトリは停止状態にあるため、アクセスできません。このリポジトリがリポジトリ・サーバー (RS) カタログ・リポジトリである場合は、RS が終了します。

ユーザーの処置: 同じ RECORDSIZE の最大値を使用して 1 次および 2 次 RID または RMD データ・セットを定義します。

モジュール: FRPSIORQ

FRP0023I Recoverable data set combination identified.
Repository...: repository_name
Primary RID...: primary_rid_data_set_state
Primary
RMD...: primary_rmd_data_set_state
Secondary
RID: secondary_rid_data_set_state

Secondary

RMD: secondary_rmd_data_set_state

説明: IMSRSC リポジトリのオープン処理中に、データ・セットの分析によって、1 つ以上のデータ・セットをリカバリーする必要があり、リカバリー処理が実行可能であることが検出されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

repository_name

リポジトリの名前を示します。

primary_rid_data_set_state

1 次リポジトリ索引データ・セット (RID) の状態を示します。

primary_rmd_data_set_state

1 次リポジトリ・メンバー・データ・セット (RMD) の状態を示します。

secondary_rid_data_set_state

2 次リポジトリ索引データ・セットの状態を示します。

secondary_rmd_data_set_state

2 次リポジトリ・メンバー・データ・セットの状態を示します。

システムの処置: リポジトリ・サーバー (RS) は、リポジトリ・データ・セットのリカバリー処理を続行します。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: FRPSIORQ

FRP0024E Non-recoverable data set combination identified.

Repository...: repository_name

Primary RID...: primary_rid_data_set_state

Primary RMD...:

primary_rmd_data_set_state

Secondary

RID: secondary_rid_data_set_state

Secondary

RMD: secondary_rmd_data_set_state

説明: リポジトリのオープン処理中に、データ・セットの分析によって、1 つ以上のデータ・セットのリカバリーが必要であることが検出されました。しかし、現在の状態のデータ・セットではリカバリー処理が実行不可能であると最終的に判断されました。

メッセージ・テキスト内の項目は以下のとおりです。

repository_name

リポジトリの名前を示します。

primary_rid_data_set_state

1 次リポジトリ索引データ・セット (RID) の状態を示します。

primary_rmd_data_set_state

1 次リポジトリ・メンバー・データ・セット (RMD) の状態を示します。

secondary_rid_data_set_state

2 次リポジトリ索引データ・セットの状態を示します。

secondary_rmd_data_set_state

2 次リポジトリ・メンバー・データ・セットの状態を示します。

この状態は次のいずれかになります。

Empty data set detected

1 つ以上のデータ・セットが空です。

Update-in-progress state

1 つ以上のデータ・セットに、不完全な書き込み操作があったと考えられます。

Data set consistency token *token*

データ・セットに同じ整合性トークンがありません。これは、1 つ以上のデータ・セットが別のリポジトリに属していることを示します。リカバリーは試行されません。

Last-update timestamp *timestamp*

リポジトリの最終更新のタイム・スタンプが不整合です。これは、不完全な書き込み操作を示します。タイム・スタンプ形式は YYYY/MM/DD HH:MM:SS.thmiju です。

システムの処置: リポジトリは停止状態にあるため、アクセスできません。このリポジトリがリポジトリ・サーバー (RS) カタログ・リポジトリである場合は、RS が終了します。

ユーザーの処置: リポジトリ・データ・セットからのデータのリカバリーを試行する場合は、コピーを取ります。その後、これらのデータ・セットを再初期設定するか、バックアップがある場合はバックアップからデータ・セットをリカバリーして修正します。

重要: リポジトリ・データ・セットを再初期設定すると、すべてのデータが失われます。

モジュール: FRPSIORQ

FRP0025I Repository data set initialization successful.

Repository....:repository_name

説明: IMSRSC リポジトリのオープン処理中に、すべてのリポジトリ・データ・セットが空であることが検出され、その後、正常に初期設定されました。

メッセージ・テキストの *repository_name* はリポジトリの名前を示します。

システムの処置: リポジトリのオープン処理を続行します。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: FRPSIORQ

FRP0026I Recovery of the *data_set_type* data set successful.

Repository....:repository_name

説明: 指定された IMSRSC リポジトリは正常にリカバリーされました。リカバリーされたデータ・セットを見つけるには、そのリポジトリの *data_set_type* に使用されているデータ・セットを特定します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

data_set_type

データ・セットが 1 次または 2 次のいずれであるか、またリポジトリ索引データ・セットまたはリポジトリ・メンバー・データ・セットのいずれかであることを示します。

repository_name

リポジトリの名前を示します。

システムの処置: リポジトリのオープン処理を続行します。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: FRPSIORQ.

FRP0027I Error during phase *n* of the repository update process.

Repository....: repository_name

説明: 指定された IMSRSC リポジトリ・データ・セットの 2 フェーズ更新処理中にエラーが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

n リポジトリの更新処理のフェーズ番号を示します。*n* は 1 または 2 です。

repository_name

リポジトリの名前を示します。

システムの処置: 示されたりポジトリは停止し、リカバリーする必要があります。サーバーは、リポジトリの再始動時にデータ・セットの保全性の復元を試行します。

フェーズ 1 の問題の場合は、1 次リポジトリ索引データ・セットと 1 次リポジトリ・メンバー・データ・セットにエラーがあり、エラーの時点でコミットされる作業単位 (UOW) はロールバックされます。

フェーズ 2 の問題の場合は、2 次リポジトリ索引データ・セットと 2 次リポジトリ・メンバー・データ・セットにエラーがあり、エラーの時点でコミットさ

れる作業単位は正常に完了しています。

ユーザーの処置: このメッセージには、失敗の理由を示すエラー・メッセージが付随しています。問題を修正し、リポジトリを再始動してください。

モジュール: FRPSIOCQ

FRP0028E VSAM function error: function
RC=VSAM_return_code
RPLERRCD=RPL_error_code.
DSN=data_set_name

説明: VSAM 機能呼び出し *function* で、サポートされないエラー状態が発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

function

実行される VSAM 機能のタイプを示します。値は次のいずれかになります。

VERIFY
 POINT
 GET
 PUT
 ERASE
 WRTBFR

VSAM_return_code

VSAM 戻りコードを示します。

RPL_error_code

RPL エラー・コードを示します。

data_set_name

リポジトリ・データ・セット名を示します。

システムの処置: このメッセージに示されたりポジトリは停止状態にあるため、アクセスできません。このリポジトリがリポジトリ・サーバー (RS) カタログ・リポジトリである場合は、RS が終了します。

ユーザーの処置: VSAM エラーについて詳しくは、「z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets」を参照してください。

モジュール: FRPSIOV

関連情報:

 z/OS: VSAM マクロの戻りコードおよび理由コード

FRP0029E Unable to load module module_name:
error_description

説明: サーバーの初期設定の一環として、サーバーがルーチンをロードしようとしたのですが、このロードは失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

module_name

ロードできなかったモジュールの名前。

error_description

次のいずれかです。

- モジュールが見つからなかった。
- モジュールの BLDL が失敗しました
- モジュールの LOAD が失敗しました
- BPELOAD RC=BPE_return_code

システムの処置: リポジトリ・サーバーが終了します。

ユーザーの処置: 可能であれば、この状態を解決して、サーバーを再始動します。それ以外の場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: FRPSIORQ

関連資料:

 BPELOAD コード (メッセージおよびコード)

FRP0030E Data decompression error: description

説明: 圧縮されたりポジトリ・メンバー・データ・セット (RMD) のメンバーが検出されましたが、現行のプラットフォームでは解凍はサポートされていません。

メッセージ・テキストで、*description* は次のいずれかです。

- Unsupported on current MVS level (現行の MVS レベルではサポートされない)
- Up-level data compression detected (上位レベルのデータ圧縮が検出された)
- Invalid data compression detected (無効なデータ圧縮が検出された)
- CSRCESRV RC=macro_return_code

システムの処置: 呼び出し関数が失敗しました。処理は続行されます。

ユーザーの処置: リポジトリ・メンバーのデータが書き込まれたプラットフォームと互換性のあるプラットフォームでリポジトリ・サーバーを始動してください。

モジュール: FRPSIOU

関連資料:

 z/OS: CSRCESRV の戻りコードおよび理由コード

FRP0031E VSAM resource pool build failure:
description

説明: サーバーの初期設定時に、VSAM リソース・プール (BLDVRP) の構築でエラーが発生しました。

メッセージ・テキストで、*description* は次のいずれかです。

- Insufficient virtual storage (仮想ストレージが不足している)
- BLDVRP *macro_return_code*

システムの処置: リポジトリ・サーバーが終了します。

ユーザーの処置: BLDVRP エラーの詳細については、「z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets」を参照してください。問題を修正して、サーバーを再始動してください。

問題が仮想ストレージの不足である場合は、リポジトリ I/O に使用される VSAM LSR プール・バッファに対応するのに十分な仮想ストレージの空きがあることを確認してください。追加の仮想ストレージを割り振るか、バッファの数 (VSAM_BUFNO) を減らすか、各バッファのサイズ (VSAM_BUFSIZE) を小さくします。

モジュール: FRPSIOV

関連情報:

 z/OS: VSAM マクロの戻りコードおよび理由コード

FRP0032E Repository data set control interval exceeds VSAM_BUFSIZE.
DSN=data_set_name

説明: リポジトリのオープン処理中に、VSAM 共用プール・バッファ・サイズを超える制御インターバル・サイズを持つリポジトリ・データ・セットが見つかりました。

メッセージ・テキストの *data_set_name* はリポジトリ・データ・セットの名前を示します。

システムの処置: リポジトリは停止状態にあるため、アクセスできません。このリポジトリがリポジトリ・サーバー (RS) カタログ・リポジトリである場合は、RS が終了します。

ユーザーの処置: データ・セット名が正しいことを確認するか、バッファ・サイズが、示されているリポジトリ・データ・セットの CI サイズ以上になるように VSAM_BUFSIZE 構成パラメーターを変更します。

要確認: データ・セットの DATA と INDEX の両方のコンポーネントを考慮してください。

モジュール: FRPSIOV

FRP0033E Error during CONTROL SET function processing.
Repository...:repository_name

説明: IMSRSC リポジトリ・データ・セット *repository_name* の制御セットの処理中にエラーが発生しました。リポジトリの制御データ (監査規則テーブル、履歴保存テーブル、およびセキュリティー/検索フィールド・テーブル) は不整合のままである可能性があります。

システムの処置: 指定されたリポジトリは停止しました。

ユーザーの処置: リポジトリを再始動して、制御データの健全性を再確立します。

モジュール: FRPSIORQ

FRP0034E Repository data set in use by another job or user.
DSN=data_set_name

説明: リポジトリのオープン処理中に、使用できないリポジトリ・データ・セットが見つかりました。

システムの処置: リポジトリは停止状態にあるため、アクセスできません。このリポジトリがリポジトリ・サーバー (RS) カタログ・リポジトリである場合は、RS が終了します。

ユーザーの処置: データ・セットが使用可能であることを確認してから再試行します。

モジュール: FRPSIOV、FRPSIOVA

FRP0035E VSAM unable to extend data set:
RC=VSAM_return_code
RPLERRCD=RPL_error_code.
DSN=data_set_name

説明: リポジトリ・データ・セットを拡張できなかったため、リポジトリの更新処理が失敗しました。

メッセージ・テキスト内の項目は以下のとおりです。

VSAM_return_code

VSAM 戻りコードを示します。

RPL_error_code

RPL エラー・コードを示します。

data_set_name

リポジトリ・データ・セット名を示します。

システムの処置: リポジトリは停止状態にあるため、

アクセスできません。このリポジトリがリポジトリ・サーバー (RS) カタログ・リポジトリである場合は、RS が終了します。

ユーザーの処置: VSAM エラーの詳細な説明を参照して、データ・セット拡張の失敗の原因を解決してから、リポジトリを再始動してください。

モジュール: FRPSIOV

関連情報:

 z/OS: VSAM マクロの戻りコードおよび理由コード

FRP0036E Invalid SPARE RDS data sets. RDSn is now discarded.

Repository...:repository_name

Description...:description

説明: SPARE として候補になっているリポジトリ・データ・セット (RDS) のデータ・セット妥当性検査が失敗しました。

メッセージ・テキスト内の項目は以下のとおりです。

RDSn リポジトリ・データ・セットの番号 (1、2、または 3) を示します。

repository_name

IMSRSC リポジトリの名前を示します。

description

次のいずれかのテキストになります。

Data set open-time error (データ・セットのオープン時エラー)

Data sets not empty (データ・セットが空でない)

RECORDSIZE inconsistent with other RDS (RECORDSIZE が他の RDS と不整合である)

システムの処置: リポジトリ・データ・セットは廃棄されます。

ユーザーの処置: リポジトリ・データ・セットが廃棄される原因となったデータ・セットの問題を修正します。リポジトリ・データ・セットの状況を DISCARD から SPARE に変更するには、DSCHANGE バッチ・コマンドを使用できます。

モジュール: FRPSIORQ

関連資料:

 FRPBATCH での DSCHANGE コマンド (システム・プログラミング API)

FRP0037I RDSn status has been changed to status.

Repository...:repository_name

説明: IMSRSC リポジトリ・データ・セットのペアの状況が SPARE または DISCARD に変更されました。状況の変更は、ADMIN コマンドが使用された場合、またはリポジトリのエラー・シナリオ (2 フェーズ更新中の物理入出力エラーなど) で動的に発生することがあります。

メッセージ・テキスト内の項目は以下のとおりです。

RDSn リポジトリ・データ・セットの番号 (1、2、または 3) を示します。

status SPARE または DISCARD.

repository_name

リポジトリの名前を示します。

システムの処置: サーバーは続行します。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: FRPSIORQ、FRPSREQQ

FRP0038I VSAM_physical_error_message_text

説明: VSAM 物理エラー (RC=12) を示す FRP0028E メッセージが発行された場合にサポート情報が出力されます。

システムの処置: メッセージ FRP0028E に関する情報を参照してください。

ユーザーの処置: VSAM エラーの詳細については、「z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets」を参照してください。

モジュール: FRPSIOV

関連情報:

307 ページの『FRP0028E』

 z/OS: VSAM マクロの戻りコードおよび理由コード

FRP0039I Spare RDSn has been assigned status status.

Repository...:repository_name

説明: SPARE リポジトリ・データ・セットのペアに COPY1 または COPY2 の状況が割り当てられました。この割り当ては、COPY1 または COPY2 が以前に廃棄された場合にリポジトリのリカバリーの一環として行われます。

メッセージ・テキスト内の項目は以下のとおりです。

RDSn IMSRSC リポジトリ・データ・セットの番号 (1、2、または 3) を示します。

FRP0040E • FRP1001E

status COPY1 または COPY2。

repository_name

リポジトリの名前を示します。

システムの処置: サーバーは続行します。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: FRPSIORQ

FRP0040E Repository cannot be started: reason.

Repository...: *repository_name*

RDS1 status...: *status*

RDS2 status...: *status*

RDS3 status...: *status*

説明: IMSRSC リポジトリを始動できません。この問題の原因は *reason* に示されています。

メッセージ・テキスト内の項目は以下のとおりです。

reason エラーの理由を示します。*reason* は次のいずれかです。

Spare RDS required

リポジトリの始動またはオープン処理中に、COPY1 または COPY2 のリポジトリ・データ・セット (RDS) をリカバリーする必要があるため、リポジトリを始動できないことが検出されました。しかし、このリカバリーを容易に行うための予備のリポジトリ・データ・セットがありません。

No COPY1 or COPY2 RDS

これはリポジトリ・サーバーのエラーを示します。リポジトリの始動またはオープン処理中に、リポジトリ・データ・セットに COPY1 または COPY2 の状況がないため、リポジトリを始動できないことが検出されました。

repository_name

リポジトリの名前を示します。

status COPY1、COPY2、SPARE、または DISCARD。

システムの処置: リポジトリは停止状態にあるため、アクセスできません。

ユーザーの処置: *reason* が Spare RDS required である場合は、廃棄されたデータ・セットをリセットし、関連するリポジトリ・データ・セットの状況を SPARE に変更します。データ・セットが拡張できなかったために廃棄された場合は、データ・セットのサイズを大きくすることを検討してください。

reason が No COPY1 or COPY2 RDS である場合は、次の手順でリポジトリ・データ・セットを修正します。

重要: リポジトリ・データ・セットを再初期設定すると、すべてのデータが失われます。データ・セットからのデータのリカバリーを試行する場合は、次の手順を実行する前にコピーを取ります。

データ・セットを再初期設定するか、バックアップがある場合はバックアップからデータ・セットをリカバリーします。その後、ユーザー・リポジトリを再定義して、RDS1=COPY1 および RDS2=COPY2 を設定します。

モジュール: FRPSINTQ、FRPSIORQ

FRP0041W IMSPLEX(NAME=) is ignored as RSNAME= is not specified

説明: IMSPLEX(NAME=) キーワードが RSNAME= キーワードなしで指定されました。リポジトリ ID (REPOID) を生成して構造化呼び出しインターフェース (SCI) に登録するために RSNAME= キーワードが指定されなかったため、IMSPLEX(NAME=) キーワードは無視されます。

IMSPLEX(NAME=) と RSNAME= の両方のキーワードが指定されている場合は、RSNAME パラメーターから構造化呼び出しインターフェース (SCI) メンバー名として作成されたリポジトリ ID を使用して、リポジトリ・サーバー (RS) アドレス・スペースがローカルの SCI に登録されます。IMSPLEX() キーワードと REPONAME= キーワードを指定すると、RS が QUERY IMSPLEX コマンドの出力に表示されます。

システムの処置: リポジトリは SCI への登録なしに初期設定を続行します。

ユーザーの処置: IMS PROCLIB データ・セットの FRPCFG メンバーを変更して、IMSPLEX() キーワードを除去するか、RSNAME= キーワードを追加します。

モジュール: FRPSINIT

関連資料:

 IMS PROCLIB データ・セットの FRPCFG メンバー (システム定義)

FRP1001E Configuration error: description

説明: JCL 初期設定スクリプトにエラーがあり、リポジトリ・サーバーを初期設定できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

description

エラーの説明。次のいずれかになります。

- FRPCFG keyword is missing; check the parameter in JCL (FRPCFG キーワードが欠落しています。JCL 内のパラメーターを確認してください)
- FRPCFG parameter is missing; check the parameter in JCL (FRPCFG パラメーターが欠落しています。JCL 内のパラメーターを確認してください)
- FRPCFG parameter must specify a PDS member name (FRPCFG パラメーターには PDS メンバー名を指定する必要があります)

システムの処置: サーバーは終了します。

ユーザーの処置: 始動 JCL ですべてのパラメーターが有効であることを確認し、ジョブを再実行します。

モジュール: FRPSINIT

FRP1002E Error processing PROCLIB member
member

Description: *description*

説明: サーバー構成パラメーター・メンバーにエラーがありました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

member

IMS PROCLIB データ・セットの FRPCFG メンバーの名前を示します。

description

このエラーの説明。次のいずれかになります。

- Error reading PROCLIB member (PROCLIB メンバーの読み取りエラー)
- Open failed for PROCLIB PDS (PROCLIB PDS のオープンに失敗)
- PROCLIB PDS not in fixed format (PROCLIB PDS が固定フォーマットでない)
- PROCLIB member not found (PROCLIB メンバーが見つからない)

システムの処置: サーバーは終了します。

ユーザーの処置: 始動 JCL ですべてのパラメーターが有効であることを確認し、ジョブを再実行します。

モジュール: FRPSINIT

関連資料:

 IMS PROCLIB データ・セットの FRPCFG メンバー (システム定義)

FRP1005E Error parsing PROCLIB member
member, BPEPARSE RC=rc

説明: サーバー構成パラメーター・メンバーにエラーがありました。BPE0003E メッセージが発行され、エラーの詳細が示されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

member

IMS PROCLIB データ・セットの FRPCFG メンバーの名前を示します。

rc

BPEPARSE 戻りコードを示します。

システムの処置: サーバーは終了します。

ユーザーの処置: 始動 JCL ですべてのパラメーターが有効であることを確認し、ジョブを再実行します。

モジュール: FRPSINIT

関連資料:

 BPEPARSE コード (メッセージおよびコード)

 IMS PROCLIB データ・セットの FRPCFG メンバー (システム定義)

関連情報:

16 ページの『BPE0003E』

FRP1007E Invalid XCF group name specified:
group

説明: XCF_GROUP_NAME サーバー構成パラメーター値が無効でした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

group

IMS PROCLIB データ・セットの FRPCFG メンバーに指定された z/OS システム間カップリング・ファシリティ (XCF) グループの名前を示します。

システムの処置: サーバーは終了します。

ユーザーの処置: パラメーター値を修正し、ジョブを再実行します。

モジュール: FRPSINIT

関連資料:

 IMS PROCLIB データ・セットの FRPCFG メンバー (システム定義)

FRP1008E Invalid number of XCF threads specified: *nm*. Valid range is 4 through 99.

説明: XCF_THREADS サーバー構成パラメーター値が無効でした。指定する場合、値は 4 から 99 の範囲内であればなりません。デフォルトでは、8 個の z/OS システム間カップリング・ファシリティ (XCF) スレッドが使用されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nm IMS PROCLIB データ・セットの FRPCFG メンバーに指定された XCF スレッド値を示します。

システムの処置: サーバーは終了します。

ユーザーの処置: パラメーター値を修正し、ジョブを再実行します。

モジュール: FRPSINIT

関連資料:

 IMS PROCLIB データ・セットの FRPCFG メンバー (システム定義)

FRP1009E Invalid core size specified: *nnnn*. Valid range is 64 through 4096 (K).

説明: MBR_CORE_MAX サーバー構成パラメーター値が無効でした。指定する場合、値は 64 から 4096 (K) の範囲内であればなりません。デフォルトでは、1024K の最大値が使用されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nnnn IMS PROCLIB データ・セットの FRPCFG メンバーに指定された MBR_CORE_MAX 値を示します。

システムの処置: サーバーは終了します。

ユーザーの処置: パラメーター値を修正し、ジョブを再実行します。

モジュール: FRPSINIT

関連資料:

 IMS PROCLIB データ・セットの FRPCFG メンバー (システム定義)

FRP1010E Invalid SAF class name specified: *name*

説明: 指定された z/OS System Authorization Facility (SAF) クラスが無効な SAF クラス名でした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

名前 IMS PROCLIB データ・セットの FRPCFG メンバーに指定された SAF_CLASS 値を示します。

システムの処置: サーバーは終了します。

ユーザーの処置: SAF_CLASS 値が有効な SAF クラス名であり、定義済みのリソース・クラスが指定されていることを確認してください。

モジュール: FRPSINIT

関連資料:

 IMS PROCLIB データ・セットの FRPCFG メンバー (システム定義)

FRP1011E Invalid number of VSAM buffers specified: *nnnnn*. Valid range is 3 through 65535.

説明: VSAM_BUFNO サーバー構成パラメーター値が無効でした。指定する場合、値は 3 から 65535 の範囲内であればなりません。デフォルトでは、128 個の VSAM バッファが使用されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nnnnn IMS PROCLIB データ・セットの FRPCFG メンバーに指定された VSAM_BUFNO 値を示します。

システムの処置: サーバーは終了します。

ユーザーの処置: パラメーター値を修正し、ジョブを再実行します。

モジュール: FRPSINIT

関連資料:

 IMS PROCLIB データ・セットの FRPCFG メンバー (システム定義)

FRP1012E Invalid maximum retry count specified: *nmn*. Valid range is 1 through 255.

説明: MAX_COMMUNICATION_RETRY サーバー構成パラメーター値が無効でした。指定する場合、値は 1 から 255 の範囲内であればなりません。デフォルトでは、「サーバーのビジー状態」によりクライアント z/OS システム間カップリング・ファシリティ (XCF) 要求が失敗するまでに、32 回の通信が再試行されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nnn IMS PROCLIB データ・セットの FRPCFG メンバーに指定された
MAX_COMMUNICATION_RETRY 値を示します。

システムの処置: サーバーは終了します。

ユーザーの処置: パラメーター値を修正し、ジョブを再実行します。

モジュール: FRPSINIT

関連資料:

 IMS PROCLIB データ・セットの FRPCFG メンバー (システム定義)

FRP1015E SAF class not defined: *name*

説明: z/OS System Authorization Facility (SAF) クラスを識別できませんでした。理由として、次のものが考えられます。

- SAF 対応セキュリティ (RACF または同様の機能) がインストールされていない。
- クラスが定義されていなかった。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

名前 IMS PROCLIB データ・セットの FRPCFG メンバーに指定された SAF_CLASS 値を示します。

システムの処置: サーバーは終了します。

ユーザーの処置: SAF クラスが予期されないものであった場合は IMS PROCLIB データ・セットの FRPCFG メンバーのパラメーターを修正するか、SAF クラスが定義されていることを確認してください。

モジュール: FRPSINIT、FRPSREQQ

関連資料:

 IMS PROCLIB データ・セットの FRPCFG メンバー (システム定義)

FRP1016E Invalid DSN specified: *description*

説明: リポジトリ・サーバー (RS) カタログ・リポジトリ・データ・セット名のいずれかを指定するサーバー構成パラメーターが無効でした。指定された値は有効なデータ・セット名ではありませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

description

無効な名前を持つ RS カタログ・リポジトリ・データ・セットを示します。

システムの処置: サーバーは終了します。

ユーザーの処置: パラメーター値を修正し、ジョブを再実行します。

モジュール: FRPSINIT

FRP1018E Invalid AUDIT_LOGNAME specified: *logname*

説明: AUDIT_LOG サーバー構成パラメーターで指定された値が、有効な監査ログ・ストリーム名ではありません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

logname

IMS PROCLIB データ・セットの FRPCFG メンバーに指定された AUDIT_LOG 値を示します。

システムの処置: サーバーは終了します。

ユーザーの処置: パラメーター値を修正し、ジョブを再実行します。

モジュール: FRPSINIT

関連資料:

 IMS PROCLIB データ・セットの FRPCFG メンバー (システム定義)

FRP1019E Invalid AUDIT_ID number specified: *nnn*. Valid range is 160 through 255.

説明: AUDIT_ID サーバー構成パラメーターで指定された値が無効です。値は 160 から 255 の範囲内でなければなりません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nnn IMS PROCLIB データ・セットの FRPCFG メンバーに指定された AUDIT_ID 値を示します。

システムの処置: サーバーは終了します。

ユーザーの処置: パラメーター値を修正し、ジョブを再実行します。

モジュール: FRPSINIT

関連資料:

 IMS PROCLIB データ・セットの FRPCFG メンバー (システム定義)

FRP2001I Subordinate repository server status obtained

説明: 示された z/OS システム間カップリング・ファシリティ (XCF) グループのマスター・リポジトリ・サーバーがすでに存在するため、このサーバーは従属リポジトリ・サーバーとして指定されました。

システムの処置: XCF グループのマスター・リポジトリ・サーバーが終了するか、それ自体で終了するように指示されるまで、サーバーの始動プロセスは一時停止します。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: FRPSINTQ

関連タスク:

 リポジトリ・サーバーの開始 (オペレーションおよびオートメーション)

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

FRP2002I Master repository server status obtained

説明: このリポジトリ・サーバーは、この z/OS システム間カップリング・ファシリティ (XCF) グループのマスター・リポジトリ・サーバーの状況を取得し、XCF クライアントで使用できるようになりました。

システムの処置: サーバーの始動が完了しました。ただし、一部のユーザー・リポジトリのオープン処理 (AUTOOPEN によって駆動) が進行中である可能性があります。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: FRPSINTQ

関連概念:

 IMSplex でのリカバリー (システム管理)

関連タスク:

 リポジトリ・サーバーの開始 (オペレーションおよびオートメーション)

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

FRP2003I Attempting to become master repository server

説明: 示された z/OS システム間カップリング・ファシリティ (XCF) グループのマスター・リポジトリ

・サーバー (RS) が存在しなかったため、この従属サーバーはマスター・リポジトリ・サーバーの状況の獲得を試行しています。

システムの処置: サーバーは、示された XCF グループにマスター・リポジトリ・サーバーとして加わろうとしています。正常に完了した場合は、マスター・サーバーの始動が開始し、FRP2002I メッセージが発行されません。別のリポジトリ・サーバーがすでにマスター・リポジトリ・サーバーの状況を獲得していた場合は、FRP2001I メッセージが発行されます。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: FRPSINTQ

関連概念:

 IMSplex でのリカバリー (システム管理)

関連情報:

『FRP2001I』

『FRP2002I』

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

FRP2004I FRPPRINT DD not defined. Output to this file will be suppressed.

説明: オプションの FRPPRINT DD が存在しませんでした。このファイルへの出力 (サーバー構成パラメーター・レポート、DUMPTRACE 出力、DUMPSTATS 出力を含む) は抑制されます。

システムの処置: サーバーの始動を続行します。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: FRPSINIT

FRP2005I Shutdown command received, server terminating

説明: リポジトリ・サーバーは SHUTDOWN コマンドを受け取り、サーバーの終了処理を開始しました。

システムの処置: サーバーの終了を続行します。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: FRPSTERM

FRP2006I Server starting: Release relnum, XCF group xcfgprname

説明: リポジトリ・サーバー (RS) を初期設定しています。このメッセージは、アクティブ・サーバーと従属サーバーのサーバー始動中に発行されます。

メッセージ・テキスト内の項目は以下のとおりです。

relnum RS のリリース番号を示します。

xcfgprname

RS の z/OS システム間カップリング・ファシリテーター (XCF) グループ名を示します。

システムの処置: ありません。サーバーの始動を続行します。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: FRPSINTQ

関連タスク:

 リポジトリ・サーバーの開始 (オペレーションおよびオートメーション)

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

FRP2007I Shutdown command received, notifying all repository servers to shut down

説明: リポジトリ・サーバーは SHUTDOWN ALL コマンドを受け取り、サーバーの終了処理を開始しました。同じ z/OS システム間カップリング・ファシリテーター (XCF) グループ内のすべての従属サーバーにも終了するように通知されます。

システムの処置: サーバーの終了を続行します。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: FRPSSCMD

FRP2011E Shutdown command rejected, shutdown in progress

説明: リポジトリ・サーバーはサーバーの終了処理を開始した後に SHUTDOWN コマンドを受け取りました。

システムの処置: サーバーの終了を続行します。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: FRPSTERM

FRP2012I Opening repository: *repository*

説明: リポジトリ・サーバー (RS) は、示された IMSRSC リポジトリのオープンを開始しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

repository

リポジトリの名前を示します。

システムの処置: リポジトリのオープン処理を続行します。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: FRPSREQQ

FRP2013I Closing repository: *repository*

説明: リポジトリ・サーバー (RS) は、示された IMSRSC リポジトリのクローズを開始しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

repository

リポジトリの名前を示します。

システムの処置: リポジトリのクローズ処理を続行します。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: FRPSINTQ

FRP2014I Repository start request initiated: *repository*

説明: リポジトリ・サーバー (RS) は、示された IMSRSC リポジトリを開始する要求を受け取りました。このアクションを実行する非同期処理が開始しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

repository

リポジトリの名前を示します。

システムの処置: 要求が受け入れられたことを開始要求の発行者に通知します。開始アクションを実行する非同期処理を続行します。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: FRPSSCMD

FRP2015I Repository stopped: *repository*

説明: 示された IMSRSC リポジトリに対する ADMIN STOP 要求がコンソールから発行されました。示されたリポジトリは停止しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

repository

リポジトリの名前を示します。

システムの処置: ありません。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: FRPSINTQ

FRP2016I Repository opened: repository

説明: メッセージに示された IMSRSC リポジトリーは正常にオープンしました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

repository

リポジトリーの名前を示します。

システムの処置: ありません。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: FRPSIORQ

FRP2017I Repository closed: repository

説明: メッセージに示された IMSRSC リポジトリーは正常にクローズしました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

repository

リポジトリーの名前を示します。

システムの処置: ありません。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: FRPSIORQ

**FRP2018E Unable to open repository.
Repository...: repository
Description...: repository definition in use**

説明: RS カタログ・リポジトリー・データ・セットのリポジトリー定義が使用されていたため、リポジトリー・サーバー (RS) がメッセージに示されている IMSRSC リポジトリーをオープンできませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

repository

リポジトリーの名前を示します。

システムの処置: ありません。

ユーザーの処置: 定義が使用できるようになるまで待つてから、要求を再試行してください。

**FRP2020I Repository stop request initiated:
repository**

説明: リポジトリー・サーバー (RS) は、メッセージに示されている IMSRSC リポジトリーを停止する要求を受け取りました。このアクションを実行する非同期処理が開始しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

repository

リポジトリーの名前を示します。

システムの処置: 要求が受け入れられたことを停止要求の発行者に通知します。停止アクションを実行する非同期処理を続行します。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: FRPSSCMD

FRP2021I Repository started: repository

説明: メッセージに示されている IMSRSC リポジトリーに対する ADMIN START 要求がコンソールから発行されました。示されたリポジトリーが開始しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

repository

リポジトリーの名前を示します。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: FRPSINTQ

FRP2022E Repository unavailable: repository

説明: サーバーの初期設定中にリポジトリー・サーバー (RS) カタログ・リポジトリーが使用できないことが検出された場合は、このメッセージが発行され、サーバーが終了します。それ以外の場合、このメッセージは、示されたユーザー・リポジトリーに対するコンソール駆動の ADMIN 要求が抑制されたことを示します。この状態が発生するのは、進行中の状態変更によりユーザー・リポジトリーが一時的に使用できない (例えば、リポジトリーが停止中である) 場合です。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

repository

リポジトリーの名前を示します。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 示されたリポジトリーの状況を確認し、コマンドを再発行します (該当する場合)。

モジュール: FRPSINTQ

FRP2023E Repository not found: repository

説明: 示された IMSRSC リポジトリーに対する ADMIN 要求がコンソールから発行されましたが、リポジトリーが不明であったため要求は失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

repository

リポジトリの名前を示します。

システムの処置: 要求は失敗します。

ユーザーの処置: リポジトリ名を修正して、要求を再発行してください。

モジュール: FRPSINTQ

FRP2024E Request ignored, repository already started: *repository*

または

Request ignored, repository already stopped:

repository

説明: 示された IMSRSC リポジトリに対する ADMIN START または STOP 要求がコンソールから発行されましたが、リポジトリがすでに要求された状態であったため要求は無視されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

repository

リポジトリの名前を示します。

システムの処置: 要求は無視されます。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: FRPSINTQ

FRP2025I Server start completed

説明: サーバーはクライアント接続を受け入れる準備ができました。

サーバーがクライアント接続を受け入れる準備ができると、マスター RS によって RS の初期設定中に FRP2025I メッセージが発行されます。このメッセージは、従属 RS が新しいマスター RS になり (古いマスター RS の終了後)、クライアント接続を受け入れる準備ができた後にも発行されます。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: FRPSINTQ

FRP2026I XCF group *group* joined successfully

説明: サーバーは指定されたグループの z/OS システム間カップリング・ファシリティ (XCF) 登録と接続を受け入れるようになりました。

メッセージ・テキスト内の項目は以下のとおりです。

group IMS PROCLIB データ・セットの FRPCFG メンバーの XCF グループ名を示します。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: FRPSINTQ

関連資料:

 IMS PROCLIB データ・セットの FRPCFG メンバー (システム定義)

FRP2027E Unable to connect to audit log stream, server terminating

説明: ログ・ストリームが使用不可になっており、サーバー構成パラメーターに AUDIT_FAIL=ABORT が指定されました。

システムの処置: サーバーは終了します。

ユーザーの処置: AUDIT_LOG パラメーターに有効なログ・ストリーム名が指定され、ログ・ストリームが正しくセットアップされていることを確認してください。オプションとして、AUDIT_FAIL=CONTINUE または AUDIT=NO を設定して監査ログを回避してください。

モジュール: FRPSAUDQ

関連資料:

 IMS PROCLIB データ・セットの FRPCFG メンバー (システム定義)

FRP2028E DUMPTRACE command ignored because FRPPRINT DD not allocated

または

DUMPSTATS command ignored because FRPPRINT DD not allocated

説明: DUMPTRACE または DUMPSTATS 変更コマンドが発行されましたが、DD 名 FRPPRINT が見つからなかったか、オープンしていませんでした。

システムの処置: コマンドは、無視されます。サーバーは続行します。

ユーザーの処置: FRPPRINT DD ステートメントで指定されたデータ・セットが、サーバーの次の再始動時に使用可能であることを確認してください。

モジュール: FRPSSDMP、FRPSTDMP

**FRP2029E Log stream connection failed RC=rc
RSN=rsn**

説明: IXGCONN 要求を介したログ・ストリーム接続が失敗しました。

メッセージ・テキスト内の項目は以下のとおりです。

rc IXGCONN 戻りコードを示します。

rsn IXGCONN 理由コードを示します。

システムの処置: AUDIT_FAIL=ABORT が指定されている場合は、サーバーが終了します。

ユーザーの処置: 戻りコードおよび理由コードを調べて、エラーの原因を判別してください。オプションとして、AUDIT_FAIL=CONTINUE または AUDIT=NO を設定して監査ログを回避してください。

モジュール: FRPSAUDQ

関連資料:

 IMS PROCLIB データ・セットの FRPCFG メンバー (システム定義)

 z/OS: IXGCONN マクロの戻りコードおよび理由コード

FRP2030E ENF listener activation failed RC=rc

説明: ENF リスナーの活動化 (ENFREQ) が失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc ENFREQ 戻りコードを示します。

システムの処置: AUDIT_FAIL=ABORT が指定されている場合は、サーバーが終了します。

ユーザーの処置: 戻りコードを調べて、エラーの原因を判別してください。オプションとして、AUDIT_FAIL=CONTINUE または AUDIT=NO を設定して監査ログを回避することができます。

モジュール: FRPSAUDQ

関連資料:

 IMS PROCLIB データ・セットの FRPCFG メンバー (システム定義)

 z/OS: ENFREQ マクロの戻りコード

**FRP2031I Audit logging suspended due to
CONNECT RC=rc RSN=rsn**

または

**Audit logging suspended due to WRITE RC=rc
RSN=rsn**

説明: ログ・ストリームへの接続または書き込み (IXGCONN REQUEST=CONNECT または IXGWRITE) 中に、未解決のエラーにより監査ロギングが中断しました。AUDIT_TERM=ABORT が指定されている場合は、問題が修正されるか (一時エラー)、サーバーが停止するか、または z/OS MODIFY AUDIT RESTART コマンドが正常に完了するまでサーバーは待機します。

メッセージ・テキスト内の項目は以下のとおりです。

rc IXGCONN REQUEST=CONNECT または IXGWRITE 戻りコードを示します。

rsn IXGCONN REQUEST=CONNECT または IXGWRITE 理由コードを示します。

システムの処置: 問題が解決するまでロギングは実行されません。

ユーザーの処置: ロギングの問題を修正し、MODIFY AUDIT RESTART コマンドを発行してロギング・サービスをリセットします。

モジュール: FRPSINTQ

関連資料:

 IMS PROCLIB データ・セットの FRPCFG メンバー (システム定義)

 z/OS: IXGCONN マクロの戻りコードおよび理由コード

 z/OS: IXGWRITE マクロの戻りコードおよび理由コード

 F reposervername,AUDIT (コマンド)

FRP2032I Audit logging resumed

説明: 監査ロギング・エラーが修正されました。監査は続行されます。

システムの処置: ありません。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: FRPSAUDQ、FRPSINTQ

**FRP2034I Lost XCF client Sysname=MVS_system
Jobname=client_job_name, response
discarded**

説明: z/OS システム間カップリング・ファシリティ (XCF) クライアント要求に対する応答がリポジトリ・サーバー (RS) によって送信できなかったため、廃棄されました。このエラーが発生するのは、リポジトリ・

サーバーがクライアントの代わりに要求を処理しているときにクライアントが失敗した (例えば、クライアントがキャンセルされた) 場合です。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

MVS_system

XCF クライアントの MVS システム名を示します。

client_job_name

XCF クライアントのジョブ名を示します。

システムの処置: ありません。

ユーザーの処置: 詳しくは、IXCMMSGO マクロの RC=8、RSN=IXCMMSGORSNTARGETNOTVALID を参照してください。

モジュール: FRPSCOMQ

関連資料:

 IMS PROCLIB データ・セットの FRPCFG メンバー (システム定義)

 z/OS: IXCMMSGO マクロの戻りコードおよび理由コード

FRP2100I **ADMIN DISPLAY repository repository**
 - **Last updated date/time** : *date_time*
 userID
 - **Status** : *status*
 - **Auto-open** : *autoopen_flag*
 - **Security Class** : *class*

説明: このメッセージには、次のコンソール z/OS MODIFY ADMIN コマンドの結果が表示されます。

F server,ADMIN DISPLAY(*repository*)

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

repository

IMSRSC リポジトリの名前を示します。

date_time

リポジトリが最後に更新された日時を示します。

userID

リポジトリを最後に更新したユーザーのユーザー ID を示します。

status

リポジトリの状況を示します。

autoopen_flag

リポジトリの始動時にリポジトリ・データ・セットを割り振るかどうかを示します。

class

セキュリティー・クラスの名前を示します。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: FRPSINTQ

関連資料:

 F reposervername,ADMIN (コマンド)

FRP2101I **ADMIN DISPLAY repository RDSn:**
 - **Index (RID)..** : *RID_name*
 - **Member (RMD)** . : *RMD_name*
 - **Status** : *status*

説明: このメッセージには、次のコンソール z/OS MODIFY ADMIN コマンドの結果が表示されます。

F server,ADMIN DISPLAY(*repository*)

これは FRP2100I に対する補足情報です。このメッセージは、定義されている IMSRSC リポジトリ・データ・セット・ペアごとに 1 回表示されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

RDSn リポジトリ・データ・セット (RDS) の番号 (1、2、または 3) を示します。

RID_name

リポジトリ索引データ・セット (RID) の名前を示します。

RMD_name

リポジトリ・メンバー・データ・セット (RMD) の名前を示します。

status 示されたりポジトリの状況を示します。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: FRPSINTQ

関連資料:

 F reposervername,ADMIN (コマンド)

FRP2102I *repository repository_status update_date*
 update_userID RDS1_status RDS2_status
 RDS3_status

説明: このメッセージには、次のコンソール z/OS MODIFY ADMIN コマンドの結果が表示されます。

F server,ADMIN DISPLAY()

このメッセージは、IMSRSC リポジトリごとに繰り返し表示されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

repository

リポジトリの名前を示します。

FRP2103I • FRP2106E

repository_status

リポジトリの現在の状況を示します。

update_date

リポジトリの最終更新日を示します。

update_userID

リポジトリを最後に更新したユーザー ID を示します。

RDS1_status

RDS1 の状況を示します。

RDS2_status

RDS2 の状況を示します。

RDS3_status

RDS3 の状況を示します。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: FRPSINTQ

関連資料:

 F reposervername,ADMIN (コマンド)

FRP2103I Audit level changed from *old_level* to *new_level*

説明: このメッセージには、次のコンソール z/OS MODIFY AUDIT コマンドの結果が表示されます。

F server,AUDIT LEVEL(*new_level*)

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

old_level

リポジトリの古い監査レベルを示します。

new_level

リポジトリの新しい監査レベルを示します。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: FRPSINTQ

関連資料:

 F reposervername,AUDIT (コマンド)

FRP2104I Audit level unchanged from *old_level*

説明: このメッセージには、次のコンソール z/OS MODIFY AUDIT コマンドの結果が表示されます。

F server,AUDIT LEVEL(*new_level*)

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

old_level

IMSRSC リポジトリの古い監査レベルを示します。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: FRPSINTQ

関連資料:

 F reposervername,AUDIT (コマンド)

FRP2105I In-core user security profiles refreshed

説明: このメッセージには、次のコンソール z/OS MODIFY SECURITY コマンドの結果が表示されます。

F server,SECURITY REFRESH

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: FRPSINTQ.

関連資料:

 F reposervername,AUDIT (コマンド)

FRP2106E Security request rejected, CLASS not defined

説明: このメッセージには、次のコンソール z/OS MODIFY SECURITY コマンドの結果が表示されます。

F server,SECURITY REFRESH

この IMSRSC リポジトリに対してセキュリティがアクティブでないため、セキュリティ設定をリフレッシュできません。

システムの処置: 処理は続行されますが、セキュリティ設定はリフレッシュされません。

ユーザーの処置: IMS PROCLIB データ・セットの FRPCFG メンバーの SAF_CLASS パラメーターでセキュリティ・クラスを指定します。その後、サーバーを再始動します。

モジュール: FRPSINTQ

関連資料:

 F reposervername,SECURITY (コマンド)

 IMS PROCLIB データ・セットの FRPCFG メンバー (システム定義)

FRP2107E DSCHANGE request rejected, reason

説明: このメッセージには、次のコンソール z/OS MODIFY ADMIN DSCHANGE コマンドの結果が表示されます。

F server,ADMIN DSCHANGE(*repname,S|D,1|2|3*)

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

reason このエラーの理由を示します。 *reason* は次のいずれかです。

- リポジトリ・データ・セット (RDS) の状況が未変更である
- 要求に対する RDS 状況 N/A
- DISCARD がリジェクトされる。SPARE RDS なし
- DISCARD がリジェクトされる。最後の COPY RDS
- 無効な RDS データ・セットである
- RDS の状況変更が検出される
- リポジトリが停止していない

システムの処置: コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ADMIN DISPLAY コマンドを使用して IMSRSC リポジトリの詳細を表示し、リポジトリ・データ・セットの状況を調べてからコマンドを再発行します。

モジュール: FRPSINTQ

関連資料:



F reposervername,ADMIN (コマンド)

FRP3101E XCF SRB FAILURE: FRPCMSRB - Txxxx REASON=xxxxxxx

説明: クライアント・サイドの z/OS システム間カップリング・ファシリティ (XCF) メッセージ出口 (FRPCMSRB) で障害が発生しました。サービス要求ブロック (SRB) の機能復旧ルーチン (FRR) が、このメッセージを使用して、イベントを記録するために異常終了をトラップしました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxx このエラーの異常終了コードを示します。

xxxxxxx

このエラーの理由コードを示します。

システムの処置: 影響を受ける SRB の処理は終了します。クライアントは待ち状態になる可能性があります。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

FRP3102E XCF SRB FAILURE: FRPCGSRB - Txxxx REASON=xxxxxxx

説明: クライアント・サイドの z/OS システム間カップリング・ファシリティ (XCF) グループ出口 (FRPCGSRB) で障害が発生しました。サービス要求ブロック (SRB) の機能復旧ルーチン (FRR) が、この WTO メッセージを使用して、イベントを記録するために異常終了をトラップしました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxx このエラーの異常終了コードを示します。

xxxxxxx

このエラーの理由コードを示します。

システムの処置: 影響を受ける SRB の処理は終了します。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

FRP3103E XCF SRB FAILURE: FRPSMSRB - Txxxx REASON=xxxxxxx

説明: サーバー・サイドの z/OS システム間カップリング・ファシリティ (XCF) メッセージ出口 (FRPSMSRB) で障害が発生しました。サービス要求ブロック (SRB) の機能復旧ルーチン (FRR) が、この WTO メッセージを使用して、イベントを記録するために異常終了をトラップしました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxx このエラーの異常終了コードを示します。

xxxxxxx

このエラーの理由コードを示します。

システムの処置: 影響を受ける SRB の処理は終了します。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

FRP3104E XCF SRB FAILURE: FRPSGSRB - Txxxx REASON=xxxxxxx

説明: サーバー・サイドの XCF グループ出口 (FRPSGSRB) で障害が発生しました。サービス要求ブロック (SRB) の機能復旧ルーチン (FRR) が、この WTO メッセージを使用して、イベントを記録するために異常終了をトラップしました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxx このエラーの異常終了コードを示します。

FRP3105E • FRP3109E

xxxxxxx

このエラーの理由コードを示します。

システムの処置: 影響を受ける SRB の処理は終了します。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

FRP3105E XCF SRB FAILURE: FRPSSSRB - Txxxx REASON=xxxxxxxx

説明: 従属サーバーの XCF グループ出口 (FRPSSSRB) で障害が発生しました。サービス要求ブロック (SRB) の機能復旧ルーチン (FRR) が、この WTO メッセージを使用して、イベントを記録するために異常終了をトラップしました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxx このエラーの異常終了コードを示します。

xxxxxxxx

このエラーの理由コードを示します。

システムの処置: 影響を受ける SRB の処理は終了します。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

FRP3106E XCF ERROR: module - MSGX RC=xx REASON=xxxxxxxx

説明: XCF メンバー出口で障害が発生しました。IXCMSGI (XCF 入力メッセージ) または IXCMSGO (XCF 出力メッセージ) マクロが失敗しました。このエラーの発生は予期されていないため、この SRB イベントはこのメッセージを使用して記録されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

module 障害が発生したモジュールを示します。 *module* は FRPCMSRB (クライアント・サイドの出口) または FRPSMSRB (サーバー・サイドの出口) です。

xx このエラーの戻りコードを示します。

xxxxxxxx

このエラーの理由コードを示します。

システムの処置: 影響を受ける SRB の処理は終了します。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

FRP3107E XCF SRB FAILURE: module - CB=xxxx ARCLEV=xx

説明: システム間カップリング・ファシリティ (XCF) メンバー出口で障害が発生しました。サービス要求ブロック (SRB) は、サポートされていないアーキテクチャー・レベルまたは制御ブロックを検出しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

module 障害が発生したモジュールを示します。 *module* は FRPCMSRB (クライアント・サイドの出口) または FRPSMSRB (サーバー・サイドの出口) です。

xxxx 制御ブロックの目印が予期された制御ブロックで見つかったデータを示します。

xx サポートされていない、抽出されたアーキテクチャー・レベルを示します。目印が有効なブロックを表す場合は、アーキテクチャー・レベル (ARCLEV) の値が表示されます。

システムの処置: 影響を受ける SRB の処理は終了します。

ユーザーの処置: クライアントとサーバーの両方が同じ保守レベルで実行されていることを確認します。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

FRP3108E ENF ERROR: FRPSENF - MSGx RC=xx REASON=xxxxxxxx

説明: サーバー・サイドの ENF リスナー出口 (FRPSENF) で障害が発生しました。サービス要求ブロック (SRB) の機能復旧ルーチン (FRR) が、このメッセージを使用して、イベントを報告するために異常終了をトラップしました。

システムの処置: 影響を受ける SRB の処理は終了します。

ユーザーの処置: クライアントとサーバーの両方が同じ保守レベルで実行されていることを確認します。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

FRP3109E XCF SRB FAILURE: FRPCMSRB - SLOT MISMATCH

説明: クライアント・サイドの XCF メンバー出口 (FRPCMSRB) で障害が発生しました。サービス要求ブロック (SRB) は、サーバー応答と関連のクライアント・スロット間で整合性トークンの不一致を識別しました。

システムの処置: 影響を受ける SRB の処理は終了します。クライアントは待ち状態になる可能性があります。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

FRP3110E XCF SRB FAILURE: FRPCMSRB - BAD SLOT STATE FLAG1=xx

説明: クライアント・サイドの XCF メンバー出口 (FRPCMSRB) で障害が発生しました。SRB はサーバー応答の処理中に問題を識別しました。関連するクライアント・スロットの状態が予期されないものでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xx スロット状態のフラグ・バイトを示します。この値は、診断のために戻されます。

システムの処置: 影響を受ける SRB の処理は終了します。クライアントは待ち状態になる可能性があります。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

FRP3111I RESMGR FRPSRV RC=rclrsn FC=fc FDBK=xxxxxxxx xxxxxxxx xxxxxxxx

説明: リポジトリ・サーバー (RS) クライアント・オブジェクトのクリーンアップを試行中に、RS クライアント・サイド RESMGR 出口 (FRPCRMGR) が RS 要求を発行しましたが、その要求が失敗したか、エラーで終了しました。このメッセージは診断のためのフィードバックを入手するために発行され、エラーを表していない場合があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc このエラーの戻りコードを示します。

rsn このエラーの理由コードを示します。

fc FRPSRVPL マクロにリストされている RS 機能コードを示します。

xxxxxxxx xxxxxxxx xxxxxxxx

診断のために入手されたフィードバックを示します。

システムの処置: RESMGR 処理の続行が試行されます。

ユーザーの処置: IBM からの要求に応じて診断情報を入力してください。

FRP3112E RESMGR XCF2 RC=rclrsn FC=fc FDBK=xxxxxxxx xxxxxxxx xxxxxxxx

説明: リポジトリ・サーバー (RS) クライアント・オブジェクトのクリーンアップを試行中に、RS クライアント・サイド RESMGR 出口 (FRPCRMGR) が RS ス

タッキング PC (FRPCXCF2) 要求を発行しましたが、この要求が失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc このエラーの戻りコードを示します。

rsn このエラーの理由コードを示します。

fc CSSP 機能コードを示します。このコードは API マクロに定義されておらず、IBM ソフトウェア・サポート用の値です。

xxxxxxxx xxxxxxxx xxxxxxxx

診断のために入手されたフィードバックを示します。

システムの処置: RESMGR 処理の続行が試行されません。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

FRP3113E RESMGR DELETE UNSUCCESSFUL RC=xx TCB=xxxxxxxx

説明: クライアント FRP オブジェクトのクリーンアップを試行中に、FRP クライアント・サイド RESMGR 出口 (FRPCRMGR) がこのタスクのために RESMGR を削除しようとして失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xx RESMGR マクロからの戻りコードを示します。

xxxxxxxx

RESMGR が実行されているタスクの TCB を示します。

システムの処置: RESMGR 処理の続行が試行されません。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

FRP4000E Function func failed with reason code rsn

Feedback: *feedback_word1 feedback_word2 feedback_word3*

説明: 機能 *func* が理由コード *rsn* でエラーを受け取りました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

func リポジトリ・サーバーのバッチ ADMIN 機能を示します。

rsn このエラーの理由コードを示します。

feedback_word1 feedback_word2 feedback_word3

IBM の診断情報およびデバッグ情報を示します。

FRP4001E • FRP4006E

す。3つのフィードバック・ワードは、エラーが生成されたモジュールのモジュール ID と内部の理由コードを表しています。

システムの処置: エラー発生時点で処理は停止しました。

ユーザーの処置: 戻りコードとエラーの説明について IMS.SDFSMAC データ・セット内の FRPSRVRSマクロを参照してください。

モジュール: FRPBATCH

FRP4001E FRPSSID subsystem not found

説明: サブシステムがインストールされていません。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。
FRPSSID

FRP サブシステム ID を示します。

システムの処置: 必要なアクションはありません。

ユーザーの処置: サブシステムのインストールが正常に実行されたことを確認してください。

モジュール: FRPBATCH

FRP4002E XCF group group not found

説明: EXEC ステートメントに指定された z/OS システム間カップリング・ファシリティ (XCF) グループ名が見つかりません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

group EXEC ステートメントの PARM パラメーターに指定された XCF グループ名を示します。

システムの処置: ありません。

ユーザーの処置: リポジトリ・サーバーの構成に指定された XCF グループ名が、ジョブ・パラメーターに指定された名前と一致することを確認します。リポジトリ・サーバーが正常に始動したことを確認してください。

モジュール: FRPBATCH

FRP4003E No FRP server is active in the XCF group group

説明: リポジトリ・サーバーが、EXEC ステートメントに指定された z/OS システム間カップリング・ファシリティ (XCF) グループで見つかりませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

group EXEC ステートメントの PARM パラメーターに指定された XCF グループ名を示します。

システムの処置: ありません。

ユーザーの処置: リポジトリ・サーバーの構成に指定された XCF グループ名が、ジョブ・パラメーターに指定された名前と一致することを確認します。リポジトリ・サーバーが正常に始動したことを確認してください。

モジュール: FRPBATCH

FRP4004E The FRP server is in shutdown mode

説明: エラーが発生してサーバーがシャットダウン中であるか、またはサーバーに対してシャットダウン・コマンドが発行されてサーバーがシャットダウン中でした。

システムの処置: エラー発生時点で処理は停止しました。

ユーザーの処置: エラー・メッセージまたはシャットダウン要求メッセージがないか、サーバーのメッセージ・ログを調べてください。

モジュール: FRPBATCH

FRP4005E The FRP server has shutdown or has failed

説明: サーバーでエラーが発生したか、またはサーバーに対してシャットダウン・コマンドが発行されたため、現在サーバーはアクティブではありません。

システムの処置: エラー発生時点で処理は停止しました。

ユーザーの処置: エラー・メッセージまたはシャットダウン要求メッセージがないか、サーバーのメッセージ・ログを調べてください。

モジュール: FRPBATCH

FRP4006E The FRP server is busy, try again later

説明: FRP サーバーがビジーです。

システムの処置: エラー発生時点で処理は停止しました。

ユーザーの処置: JCL の再実行依頼を試行してください。

モジュール: FRPBATCH

FRP4008E *repository_name repository not found*

説明: サーバーは、メッセージに示されている IMSRSC リポジトリを検出できませんでした。

システムの処置: エラー発生時点で処理は停止しました。

ユーザーの処置: 指定したリポジトリ名が正しいことを確認します。エラー・メッセージがないか、サーバーのメッセージ・ログを調べてください。

モジュール: FRPBATCH

FRP4009E *repository_name repository not available*

説明: メッセージに示されている IMSRSC リポジトリが停止したか、停止中であるか、またはエラー状態である可能性があります。

システムの処置: エラー発生時点で処理は停止しました。

ユーザーの処置: サーバーのメッセージ・ログを確認して、エラーの原因を調べてください。リポジトリが停止した状況である場合は、START コマンドを使用してこのリポジトリを再始動できます。エラーが原因である場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: FRPBATCH

FRP4010E **User has insufficient access**

説明: 権限の不足により、機能呼び出しが z/OS System Authorization Facility (SAF) によってリジェクトされました。

システムの処置: 必要なアクションはありません。

ユーザーの処置: セキュリティ違反の特性を報告する SAF エラー・メッセージがないか、サーバー・ジョブ・ログを調べてください。必要な SAF セキュリティを定義したことを確認します。サーバーを再始動するか、SECURITY REFRESH オペレーター・コマンドを実行して最新のセキュリティ設定値をロードします。

モジュール: FRPBATCH

FRP4022E **Repository repository_name already defined in the catalog**

説明: リポジトリ・サーバー (RS) カタログ・リポジトリにリポジトリを追加しようとしたますが、同じ名前のリポジトリがすでに存在しています。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 固有のリポジトリ名を指定して再試行します。

モジュール: FRPBATCH

FRP4031E **Catalog busy, repository definition entry repository_name is not available**

説明: IMSRSC リポジトリ *repository_name* のリポジトリ・サーバー (RS) カタログ・リポジトリの項目は現在使用できません。RS カタログ・リポジトリは、別の競合する更新を実行していました。

システムの処置: コマンドはリジェクトされました。

ユーザーの処置: 後でもう一度試行してください。

モジュール: FRPBATCH

FRP4032E **Repository repository_name is not in stopped status**

説明: これを更新または削除する場合は、IMSRSC リポジトリが停止している必要があります。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: リポジトリに対して停止要求を発行します。停止完了メッセージがないか、サーバーのメッセージ・ログを調べてください。

モジュール: FRPBATCH

FRP4040W **Repository repository_name RDS status is unchanged**

説明: リポジトリ・データ・セット (RDS) の状況が未変更です。リポジトリ・データ・セットはすでに必要な状態になっています。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: FRPBATCH

FRP4041E **Repository repository_name RDS status not applicable**

説明: この要求に IMSRSC リポジトリ・データ・セット (RDS) の状況を適用できません。このメッセージが発行されるのは、例えば、SPARE データ・セットとして COPY1 または COPY2 の状態を持つリポジトリ・データ・セットを使用する場合です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: リポジトリの情報を表示し、その現在の状態を確認します。エラー・メッセージがないか、サーバーのメッセージ・ログを調べてください。

モジュール: FRPBATCH

FRP4042E Repository repository_name DISCARD rejected, need SPARE RDS

説明: SPARE リポジトリ・データ・セットが使用できないため、廃棄要求がリジェクトされました。このメッセージが発行されるのは、例えば、使用可能な SPARE リポジトリ・データ・セットがないときに COPY1 または COPY2 の IMSRSC リポジトリ・データ・セット (RDS) を廃棄する場合です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: リポジトリの情報を表示し、その現在の状態を確認します。エラー・メッセージがないか、サーバーのメッセージ・ログを調べてください。

モジュール: FRPBATCH

FRP4043E Repository repository_name DISCARD rejected, last COPY RDS

説明: これが使用可能な最後の COPY リポジトリ・データ・セット (RDS) であるため、廃棄要求がリジェクトされました。このメッセージが発行されるのは、例えば、COPY2 リポジトリ・データ・セットがないときに COPY1 リポジトリ・データ・セットを廃棄する場合です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: リポジトリの情報を表示し、その現在の状態を確認します。エラー・メッセージがないか、サーバーのメッセージ・ログを調べてください。

モジュール: FRPBATCH

FRP4044E Repository repository_name RDS data sets invalid

説明: IMSRSC リポジトリ・データ・セットが無効です。このメッセージが発行されるのは、例えば、廃棄されたリポジトリ・データ・セット (RDS) を SPARE リポジトリ・データ・セットにコピーしようとしたが、データ・セットの基本的な妥当性検査が失敗した場合です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: リポジトリの情報を表示し、その現在の状態を確認します。エラー・メッセージがないか、サーバーのメッセージ・ログを調べてください。

モジュール: FRPBATCH

FRP4045E Repository repository_name RDS data sets not empty

説明: IMSRSC リポジトリ・データ・セットが空ではありません。このメッセージが発行されるのは、例えば、リポジトリ・データ・セット・ペア (RDS) の状況を DISCARD から SPARE に変更しようとしたが、データ・セットが空ではなかった場合です。この場合、RDS の状況は変更されず、廃棄状態のままとなります。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: リポジトリの情報を表示し、その現在の状態を確認します。エラー・メッセージがないか、サーバーのメッセージ・ログを調べてください。

モジュール: FRPBATCH

FRP4046E Resultant repository definition is invalid. Request rejected.

説明: リポジトリの定義の妥当性検査中にエラーが検出されたため、IMSRSC リポジトリの定義に対する ADD または UPDATE バッチ要求がリジェクトされました。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: 要求に指定されたパラメーター値を確認し、エラーがあった場合はエラーを修正し、要求を再試行します。UPDATE 要求の場合、指定されたパラメーター値は現在のリポジトリ定義に応じて考慮する必要があります。

モジュール: FRPBATCH

関連資料:

 FRPBATCH での ADD コマンド (システム・プログラミング API)

 FRPBATCH での UPDATE コマンド (システム・プログラミング API)

FRP4273E Server error.

Feedback: *feedback_word1 feedback_word2 feedback_word3*

説明: サーバーで予期しないエラーが発生しました。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

feedback_word1 feedback_word2 feedback_word3

IBM の診断情報およびデバッグ情報を示します。3 つのフィードバック・ワードは、エラーが生成されたモジュールのモジュール ID と内部の理由コードを表しています。

システムの処置: エラー発生時点で処理は停止しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: FRPBATCH

FRP4700E SYSPRINT DD is missing

説明: SYSPRINT DD が JCL に指定されていませんでした。

システムの処置: 処理は即時に停止します。

ユーザーの処置: JCL で SYSPRINT DD を指定して再試行します。

モジュール: FRPBATCH

FRP4701E Error opening SYSPRINT file, RC=rc

説明: SYSPRINT ファイルのオープン中にエラーが発生しました。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc DFSMS 戻りコードを示します。

システムの処置: 処理は即時に停止します。

ユーザーの処置: OPEN マクロ戻りコードに関する情報を参照してください。

モジュール: FRPBATCH

関連資料:

 z/OS: 非 VSAM マクロ命令の OPEN 戻りコードと理由コード

FRP4702E SYSIN file missing

説明: SYSIN DD が JCL に指定されていませんでした。

システムの処置: 処理は即時に停止します。

ユーザーの処置: JCL で SYSIN DD を指定して再試行します。

モジュール: FRPBATCH

FRP4703E Error opening SYSIN file. RC=rc

説明: SYSIN ファイルを開いている最中に、エラーが発生しました。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc DFSMS 戻りコードを示します。

システムの処置: 処理は即時に停止します。

ユーザーの処置: OPEN マクロ戻りコードに関する情報を参照してください。

モジュール: FRPBATCH

関連資料:

 z/OS: 非 VSAM マクロ命令の OPEN 戻りコードと理由コード

FRP4704E Virtual storage obtain request failed. Length=storage_length

説明: 指定されたストレージ量を取得できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

storage_length

取得に失敗したストレージ量を示します。

システムの処置: 処理は即時に停止します。

ユーザーの処置: ジョブの領域サイズを大きくします。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: FRPBATCH

FRP4705E XCFGROUP must be supplied in the PARM parameter on the job EXEC statement

説明: EXEC ステートメントの PARM パラメーターに XCFGROUP 名を指定する必要があります。

システムの処置: 処理は即時に停止します。

ユーザーの処置: EXEC ステートメントに必須パラメーターを指定して再試行します。

モジュール: FRPBATCH

FRP4706E The parm parameter is invalid

説明: PARM パラメーターに指定されたパラメーター値が無効でした。

システムの処置: 処理は即時に停止します。

ユーザーの処置: EXEC ステートメントで必須パラメーターを修正して再試行します。

モジュール: FRPBATCH

FRP4710E The command command is unknown

説明: 認識できないコマンド *command* が SYSIN データで検出されました。

システムの処置: 入力パラメーターの検査は続行されますが、処理は実行されません。

FRP4711E • FRP4719E

ユーザーの処置: SYSIN データで入力ステートメントを修正します。

モジュール: FRPBATCH

FRP4711E The parameter *parm* is unknown

説明: 示されたパラメーター *parm* が現行のコマンドに対して有効ではありません。

システムの処置: 入力パラメーターの検査は続行されませんが、処理は実行されません。

ユーザーの処置: SYSIN データで入力ステートメントを修正します。

モジュール: FRPBATCH

FRP4712E *parm* parameter parentheses error

説明: パラメーター値を括弧で囲む必要があります。

システムの処置: 入力パラメーターの検査は続行されませんが、処理は実行されません。

ユーザーの処置: SYSIN データで入力ステートメントを修正します。

モジュール: FRPBATCH

FRP4713E *parm* parameter length error

説明: *parm* パラメーター長の指定でエラーが検出されました。

システムの処置: 入力パラメーターの検査は続行されませんが、処理は実行されません。

ユーザーの処置: SYSIN データで入力ステートメントを修正します。

モジュール: FRPBATCH

FRP4714E *parm* parameter value error

説明: 指定されたパラメーターに無効なパラメーター値が入力されました。

システムの処置: 入力パラメーターの検査は続行されませんが、処理は実行されません。

ユーザーの処置: SYSIN データで入力ステートメントを修正します。

モジュール: FRPBATCH

FRP4715E Too many values specified for parameter *parm*

説明: パラメーター *parm* に指定した値が多すぎます。

システムの処置: 入力パラメーターの検査は続行されませんが、処理は実行されません。

ユーザーの処置: SYSIN データで入力ステートメントを修正します。

モジュール: FRPBATCH

FRP4716E *parm* parameter requires a value

説明: パラメーター *parm* に対して値が指定されていませんでした。このパラメーターには値が必要です。

システムの処置: 入力パラメーターの検査は続行されませんが、処理は実行されません。

ユーザーの処置: SYSIN データで入力ステートメントを修正します。

モジュール: FRPBATCH

FRP4717E The parameter *parm* is required

説明: 示されたパラメーターは現行のコマンドで必須です。

システムの処置: 入力パラメーターの検査は続行されませんが、処理は実行されません。

ユーザーの処置: SYSIN データで入力ステートメントを修正します。

モジュール: FRPBATCH

FRP4718E The repository name CATALOG is reserved and cannot be used

説明: CATALOG という名前は予約済みです。IMSRSC リポジトリの名前として使用することはできません。

システムの処置: 入力パラメーターの検査は続行されませんが、処理は実行されません。

ユーザーの処置: 別のリポジトリ名を選択して再試行します。

モジュール: FRPBATCH

FRP4719E Specify either STATUS or a repository name

説明: STATUS と IMSRSC リポジトリ名の両方を指定することはできません。

システムの処置: 入力パラメーターの検査は続行されませんが、処理は実行されません。

ユーザーの処置: すべてのリポジトリの状況をリストする場合は、STATUS のみを指定します。1 つのリポジ

トリーの詳細を表示する場合は、リポジトリ名のみを指定します。

モジュール: FRPBATCH

FRP4720E Parameter *parm* already specified

説明: 示されたパラメーター (*parm*) はこのコマンドに対して 1 つしか指定できません。

システムの処置: 入力パラメーターの検査は続行されませんが、処理は実行されません。

ユーザーの処置: SYSIN データで入力ステートメントを修正して、ジョブを再実行依頼します。

モジュール: FRPBATCH

FRP4721E No command parameters specified

説明: コマンド *command* に対してパラメーターが指定されていませんでした。

システムの処置: 入力パラメーターの検査は続行されませんが、処理は実行されません。

ユーザーの処置: SYSIN データで入力ステートメントを修正して、ジョブを再実行依頼します。

モジュール: FRPBATCH

FRP4730E Cannot connect to the CATALOG

説明: リポジトリ・サーバー (RS) カタログ・リポジトリに接続しようとして失敗しました。この理由は、このメッセージの後のメッセージに記載されています。

システムの処置: 必要なアクションはありません。

ユーザーの処置: この後のメッセージを確認し、問題を修正して再試行します。

モジュール: FRPBATCH

FRP4733W Repository *repository_name* is already started

説明: IMSRSC リポジトリ *repository_name* の状態を *started* に変更しようとしたのですが、このリポジトリはすでに始動状態です。

システムの処置: 処理は継続します。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: FRPBATCH

FRP4734W Repository *repository_name* is already stopped

説明: IMSRSC リポジトリ *repository_name* の状態を *stopped* に変更しようとしたのですが、このリポジトリはすでに停止状態です。

システムの処置: 処理は継続します。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: FRPBATCH

FRP4736W No repositories are defined in the CATALOG

説明: 現在リポジトリ・サーバー (RS) カタログ・リポジトリに IMSRSC リポジトリが定義されていません。

システムの処置: ありません。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: FRPBATCH

FRP4737I The repository START request has been scheduled successfully

または

The repository STOP request has been scheduled successfully

説明: IMSRSC リポジトリの要求 (START または STOP) が正常にスケジュールされました。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: FRPBATCH

FRP4739W Repository *repository_name* is not state, processing continues

説明: IMSRSC リポジトリ *repository_name* に対する START または STOP 要求が MAXWAIT 時間内に正常に完了せず、CONTINUE 処理オプションが指定されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

repository_name

リポジトリの名前を示します。

state リポジトリの状態を示します。*state* は、*started*、*stopped*、または *started/open* のいずれかです。

システムの処置: 処理は続行されます。

FRP4740E • FRP4753I

ユーザーの処置: リポジトリの情報を表示し、その現在の状態を確認します。エラー・メッセージがないか、サーバーのメッセージ・ログを調べてください。必要に応じて、MAXWAIT 時間を増やします。

モジュール: FRPBATCH

FRP4740E Repository *repository_name* is not state, processing is aborted

説明: リポジトリの要求が MAXWAIT 時間内に正常に完了せず、ABORT 処理オプションが指定されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

repository_name

IMSRSC リポジトリの名前を示します。

state リポジトリの状態を示します。*state* は START または STOP です。

システムの処置: 処理は停止します。

ユーザーの処置: リポジトリの情報を表示し、その現在の状態を確認します。エラー・メッセージがないか、サーバーのメッセージ・ログを調べてください。必要に応じて、MAXWAIT 時間を増やすか、処理オプションを ABORT から CONTINUE に変更します。

モジュール: FRPBATCH

FRP4741W *repository_name* repository not found

説明: サーバーは、示された IMSRSC リポジトリを検出できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

repository_name

リポジトリの名前を示します。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 指定したリポジトリ名が正しいことを確認します。エラー・メッセージがないか、サーバーのメッセージ・ログを調べてください。

モジュール: FRPBATCH

FRP4750I *command_name* command processing completed successfully

説明: コマンドの処理は正常に完了しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

command_name

コマンドの名前を示します。

システムの処置: ありません。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: FRPBATCH

FRP4751I *command_name* command processing completed with errors

説明: コマンドの処理はエラーで完了しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

command_name

コマンドの名前を示します。

システムの処置: エラー発生時点で処理は停止しました。

ユーザーの処置: このメッセージの前のメッセージを確認して、エラーのあるコマンドを特定します。エラーを修正し、この時点から JCL ステートメントを再実行依頼します。

モジュール: FRPBATCH

FRP4752I No commands processed due to control statement errors

説明: SYSIN 入力の構文検査中にエラーが検出されました。コマンドは処理されませんでした。

システムの処置: 処理は実行されません。

ユーザーの処置: 前に示されたエラーを確認し、SYSIN データを修正します。

モジュール: FRPBATCH

FRP4753I *command_name* command processing completed with warnings

説明: コマンドの処理は警告で完了しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

command_name

コマンドの名前を示します。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: このメッセージの前のメッセージを確認して、警告のあるコマンドを特定します。警告が重要な場合は、エラーを修正し、この時点から JCL ステートメントを再実行依頼します。

モジュール: FRPBATCH

第 10 章 G メッセージ (システム定義)

システム定義に関連するメッセージは、接頭部 G で始まります。

エラー・メッセージは、エラー条件のため、ステージ 2 のジョブ・ストリームが生成されないことを示します。追加説明が必要な場合は、IMS システム定義の説明を参照してください。

G メッセージ G000 - G100

ここでは、次のメッセージについて説明します。

G000 IMSCTRL MUST BE 1ST STMT, IMSGEN MUST BE LAST.

説明: IMS システム定義への入力順序では、IMSCTRL ステートメントが最初のステートメントで、IMSGEN ステートメントが最後のステートメントでなければなりません。このメッセージは、他のステージ 1 マクロでも発行されます。

G001 MORE THAN ONE IMSCTRL STMT SPECIFIED.

説明: IMS システム定義では、IMSCTRL ステートメントは 1 つしか指定できません。

G002 FOLLOWING OPERAND(S) OMITTED OR INVALID:

説明: このリストには、DBRC、ETOFEAT、IRLMNM、MSID、MAXCLAS、MAXIO、MAXREGN、MSVID、または SYSTEM のうちの 1 つ以上が含まれます。

オペランド別に、リストされた下記のエラーのいずれかが検出されました。

DBRC

- 複数のパラメーターが指定された。
- パラメーターが、「YES」または「NO」で指定されなかった。

ETOFEAT

- 4 つ以上のサブパラメーターが指定された。
- 最初のパラメーターが、YES、NO、またはヌルではなかった。
- 2 番目のパラメーターが、ALL または ONLY ではなかった。
- 最初のパラメーターが NO の場合に、2 番目のパラメーターが指定された。

- 3 番目のサブパラメーターが ALL、NO、または ONLY でなかった。

IRLMNM

- 複数のパラメーターが指定された。
- パラメーターの長さが 1 から 4 文字ではなかった。
- パラメーターが英数字で構成されていない。

MSID

- 複数のパラメーターが指定された。
- 指定されたパラメーターが 4 文字を超えている。
- 指定されたパラメーターが英数字ではなかった。

MAXCLAS

- 複数のパラメーターが指定された。
- パラメーターが、1 から 255 の 10 進数値で指定されなかった。

MAXIO

- 3 つ以上のパラメーターが指定された。
- 最初のパラメーターは使用されない。互換性の目的でのみ確保されています。
- 2 番目のパラメーターが指定されたが、7 から 255 の 10 進数値ではなかった。

MAXREGN

- 5 つ以上のパラメーターが指定された。
- 最初のパラメーターが指定されたが、1 から 999 の 10 進数値ではなかった。
- 2 番目のパラメーターが指定されたが、1 KB から 99999 KB の値ではなかった。
- 3 番目のパラメーターが指定されたが、英数字ではなかった。
- 4 番目のパラメーターが指定されたが、英数字ではなかった。

MSVID

- 複数のパラメーターが指定された。

- パラメーターが、1 から 255 の 10 進数で指定された。
- パラメーターが、MSVERIFY タイプのシステム定義に対して指定されなかった。

SYSTEM

- 5 つ以上のパラメーターが指定された。
- 最初のパラメーターが指定されたが、1 から 31 の 10 進数値ではなかった。
- 2 番目のパラメーターの先頭の部分が、ALL、CTLBLKS、NUCLEUS、BATCH、ON-LINE、MSVERIFY、または MODBLKS ではなかった。
- 2 番目のパラメーターの 2 番目の部分が、DB/DC、DBCTL、DCCTL、またはヌルではなかった。

G003 RELEASE AND MOD LEVEL NOT SPECIFIED OR INVALID; DEFAULT xxx ASSUMED.

説明: これは警告メッセージです。システム・キーワードの、指定された 3 番目のサブパラメーターが、指定またはデフォルト設定されたシステムには無効です。フィールド xxx は、指定されたシステムのデフォルトのリリースまたは修正レベルです。最初のサブパラメーターで VS/1 または VS/1V が指定された場合、デフォルトはリリース 7 修正レベル 0 です。VS/2 が指定された場合、デフォルトはリリース 3 修正レベル 8 です。

問題判別: IMSCTRL に有効なキーワード・パラメーターについては、IMS システム定義の情報を参照してください。

G004 HOST SYSTEM MUST BE MVS FOR IRLM

説明: IRLM 機能は、IMSCTRL マクロで指定されるホスト・システムが VS/2 として指定された場合のみ、組み込むことができます。

G005 DBRCNM OPERAND IS INVALID. DEFAULT ASSUMED.

説明: これは警告メッセージです。次のいずれかが発生しました。

- 複数のオペランドが指定された。
- オペランドが英数字 8 文字を超えている。
- オペランドが英字で始まっていない。

システムの処置: パラメーターは無視され、デフォルト名が使用されます。

G006 IRLM OPERAND IS INVALID. NULL ASSUMED.

説明: これは警告メッセージです。次のいずれかが発生しました。

- 複数のオペランドが指定された。
- 使用できる YES および NO 以外のオペランドが使用された。
- IRLM キーワードが指定されたが、IRLMNM キーワードは指定されていない。

システムの処置: パラメーターは無視され、デフォルトが使用されます。

G007 WARNING: PRDR PARM INCORRECT.

説明: PRDR パラメーターは、1 から 8 文字の英数字または国別文字で構成されなければなりません。また、最初の文字は、英字または国別文字でなければなりません。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

重大度: 4

G009 SCP LEVEL MUST BE AT LEAST SP 2.1.3 - HSB KEYWORD IGNORED.

説明: 指定された MV5/XA のレベルでは、XRF 処理をサポートできません。

G010 NAMECHK= SPECIFICATION INVALID

説明: 名前チェック・パラメーターが、次のいずれかの理由で無効です。

- 最初の定位置パラメーターが正しく指定されなかった。デフォルトは YES で、YES または NO のいずれかを指定する必要がある。
- 2 番目の定位置パラメーターが正しく指定されなかった。デフォルトは S1 で、S1 または S2 のいずれかを指定する必要がある。
- 最初の定位置パラメーターと 2 番目のパラメーターとが、無効な組み合わせである。

次の組み合わせが可能です。

```
NAMECHK=YES
NAMECHK=(,S1)
NAMECHK=(YES,S1)
NAMECHK=NO
NAMECHK=(NO,S1)
NAMECHK=(NO,S2)
```

システムの処置: 無効なパラメーターに対しては、デフォルトが使用されます。

プログラマーの応答: NAMECHK= キーワード指定を変更します。

重大度: 2

**G011 WARNING: THE DBRC|MAXIO
KEYWORD IS NO LONGER USED
AND IS IGNORED.**

説明: DBRC|MAXIO キーワードは、互換性のみを目的としています。指定しても、無視されます。DFSDEF0 モジュール (IVP によって作成されたか、または SDFSSMPL で提供されているサンプルからアセンブルしてバインドできる) で、DBRC 値が指定されました。

システムの処置: ありません。

重大度: 2

**G012 HSB KEYWORD INVALID FOR
BATCH SYSTEM - IGNORED**

説明: バッチ・システムを定義する場合、XRF 機能を要求できません。

**G013 NO XRF CAPABILITY DUE TO
PREVIOUS ERROR(S)**

説明: IMSCTRL マクロの HSB キーワードが、前のエラーのために無視されました。このメッセージの前に発行されたメッセージ G009 または G012 を参照して、キーワードが無視された理由を判別してください。

関連情報:

332 ページの『G009』

『G012』

**G014 HSB KEYWORD PARAMETER
INVALID - DEFAULT 'NO'
ASSUMED**

説明: IMSCTRL キーワードの HSB キーワードで受け入れ可能な値は YES および NO のみです。いずれも指定されなかったため、NO が想定されます。

**G015 MORE THAN ONE IMSCTF STMT
SPECIFIED.**

説明: IMS システム定義では、IMSCTF ステートメントは 1 つしか指定できません。

**G016 FOLLOWING OPERAND
SPECIFICATIONS ARE INVALID: list**

説明: オペランドのリスト (*list*) には、APNDG、CORE、CPLOG、DISKLOG、DYLOG、LOG、RDS、または SVCNO の 1 つ以上が含まれます。(このメッセージは IMSGEN マクロによって発行されることもあります)

考えられるエラー条件をオペランド別に下記にリストします。

APNDG

- 指定されたパラメーターが多過ぎる。
- 指定されたまたはデフォルト設定されたパラメーターが、それぞれ 2 文字ではなかった。
- 指定されたパラメーターが、WA から Z9 の範囲内になかった。
- 指定されたパラメーターが固有ではなかった。
- CTC アペンデージが、z/OS 以外のシステムに指定された。

CORE

- 5 つ以上のパラメーターが指定された。
- 指定された 1 つ以上のパラメーターが、10 進数値ではなかった。
- 最初の 3 つのパラメーターのうちの 1 つ以上が、1 から 16000 の範囲内になかった。
- 4 番目のパラメーターが、0 から 252 の範囲内になかった。
- 値 1 と値 3 の和が値 2 を超えた。

CPLOG

- 複数のパラメーターが指定された。
- 指定されたパラメーターが、500 から 16777215 の範囲の 10 進数ではなかった。

DISKLOG

- 複数のパラメーターが指定された。
- 指定されたパラメーターが、YES または NO ではなかった。

DYLOG

- 4 つ以上のパラメーターが指定された。
- 最初のパラメーターで、3350、3340、3330、2314、または 2305 のいずれも指定されなかった。
- 2 番目のパラメーターが、516 から、最初のパラメーターに指定された (または、デフォルトで設定された) 装置のトラック・サイズまでの範囲に含まれる 10 進数ではなかった。
- 3 番目のパラメーターが、2 から 32767 の範囲内ではなかった。

LOG

- 3 つ以上のパラメーターが指定された。
- SNGL、DUAL、または MONITOR 以外のパラメーターが指定された。
- 無効な組み合わせのパラメーターが指定された。例えば、LOG=(SNGL,DUAL) などです。

RDS

- 4 つ以上のパラメーターが指定された。
- 最初のパラメーターで、3350、3340、3330、2314、または 2305 のいずれも指定されなかった。
- 2 番目のパラメーターが、1024 から最初のパラメーターに指定された (または、デフォルトで設定された) 装置のトラック・サイズまでの範囲に含まれる 10 進数ではなかった。
- 3 番目のパラメーターが、2 から 32767 の範囲内ではなかった。

SVCNO

- 指定されたパラメーターが多過ぎる。
- 2 番目のオペランドが 128 から 255 の範囲の 10 進数でないか、または 3 番目のパラメーターが 200 から 255 の範囲の 10 進数ではなかった。
- 指定された、またはデフォルト設定されたパラメーターのいずれか 2 つが同じである。

G017 WARNING: TYPE 1 SCVNO IGNORED

説明: これは警告メッセージです。IMSCTF マクロの SVCNO キーワードで、タイプ 1 SVC 番号が指定されています。タイプ 1 SVC は使用されなくなったので無視されます。

G018 WARNING: OSAM CHANNEL END APPENDAGE IGNORED

または

OSAM OR CTC CHANNEL END APPENDAGE IS IGNORED.

説明: これは警告メッセージです。

最初の形式のメッセージが発行されるのは、IMSCTF マクロの APNDG キーワードで OSAM チャンネル終了アペンデージ接尾部が指定されている場合です。現在、IMS では OSAM チャンネル終了アペンデージは使用されていません。したがって、この指定は無視されます。

2 番目の形式のメッセージが発行されるのは、IMSCTF マクロの APNDG キーワードで OSAM または MSC CTC チャンネル終了アペンデージ接尾部が指定されてい

る場合です。現在、IMS では OSAM および CTC チャンネル終了アペンデージ接尾部は使用されていません。したがって、この指定は無視されます。

G019 MACLIB OPERAND IS OBSOLETE.

説明: システム定義で、マクロ用のコピーのジョブ・ステップが作成されなくなりました。SMP/E は、下位の名前に ADFSMAC および SDFSMAC を使用して、データベースにマクロを収めます。

システムの処置: システム定義は継続します。

プログラマーの応答: 処置は必要ありません。

IMSGEN マクロから MACLIB オペランドを除去して、次のシステム定義実行時にこのメッセージが除去されるようにします。

重大度: 2

G032 DASD OPERAND IS INVALID.

説明: DASD の指定はサポートされなくなりました。CORE が想定されます。

システムの処置: システム定義は継続します。

システム・プログラマーの応答: 次のシステム定義を実行する前に、この指定を除去します。

重大度: 2

G034 SPAREA MACRO NO LONGER REQUIRED. ALL PARAMETERS IGNORED.

説明: SPAREA マクロは必要なくなりました。パラメーターはすべて無視されます。

システムの処置: システム定義は正常に継続します。

SPAREA マクロは無視されます。

システム・プログラマーの応答: 次のシステム定義を実行する前に、SPAREA マクロを除去します。

重大度: 2

G035 FIXED OPERAND IS INVALID.

説明: FIXED オペランドはサポートされなくなりました。

システムの処置: システム定義は継続します。

システム・プログラマーの応答: 次のシステム定義を実行する前に、FIXED オペランドを除去します。

重大度: 2

G040 MORE THAN ONE BUFPOOLS STMT SPECIFIED.

説明: IMS システム定義内では、BUFPOOLS マクロ命令ステートメントは 1 つしか使用できません。

G041 THE FOLLOWING OPERANDS ARE INVALID: *list*

説明: このリストには、PSB、PSBW、DMB、DBASE、COMM、GENERAL、FORMAT、FRE、または SASPSB のうちの 1 つ以上が含まれます。

- GENERAL オペランド指定の場合、オペランドに複数のパラメーターが指定されたか、またはパラメーターが 5000 から 999000 の範囲の 10 進数で指定されなかった。
- PSB、PSBW、DMB、DBASE、および COMM オペランド指定の場合、オペランドに複数のパラメーターが指定されたか、またはパラメーターが 999000 以下の 10 進数で指定されなかった。
- FORMAT オペランド指定の場合、オペランドに 3 つ以上のパラメーターが指定されたか、最初のパラメーターが 2000 から 999000 の範囲の 10 進数で指定されなかったか、2 番目のパラメーターが 0 から 998999 の範囲の 10 進数で指定されなかったか、または、2 番目のパラメーターが最初のパラメーターより大きいか等しい。
- FRE オペランド指定の場合、オペランドに複数のパラメーターが指定されたか、またはパラメーターが 10 から 65535 の範囲の 10 進数で指定されなかった。
- SASPSB オペランド指定の場合、オペランドが 1 つしか指定されなかった。オペランドは 2 つ必要です。
- SASPSB オペランド指定の場合、SASPSB オペランドのいずれか、または両方が、0 から 9999000 の範囲の数値ではなかった。

G050 MORE THAN ONE MSGQUEUE STMT SPECIFIED.

説明: IMS システム定義では、MSGQUEUE ステートメントは 1 つしか指定できません。

ユーザーの処置: 定義を訂正します。

G051 DSETS OPERAND IS OMITTED OR INVALID.

説明: 次のいずれかが発生しました。

- DSETS オペランドが指定されなかった。

- 指定されたオペランドに、4 つ以上のパラメーターが含まれている。
- 1 つ以上のパラメーターで、サポートされない装置が指定された。

G052 FOLLOWING OPERAND SPECIFICATIONS ARE INVALID: *list*

説明: オペランドのリスト (*list*) には、BUFFERS、RECLNG、または SHUTDWN のうちの 1 つ以上が含まれます。

オペランド別の考えられるエラー条件は次のとおりです。

BUFFERS

- 3 つ以上のパラメーターが指定された。
- 最初のパラメーターが、3 から 9999 の 10 進数ではなかった。
- 2 番目のパラメーターが、RECLNG= キーワードの 2 番目のパラメーターに指定された (またはデフォルト設定された) 値から 32 764 までの範囲の 10 進数ではなかった。

RECLNG

- 3 つ以上のパラメーターが指定された。
- 最初のパラメーターが、392 から 32 764 までの 10 進数値ではなかった。
- 2 番目のパラメーターが、672 から 32 764 までの 10 進数値ではなかった。
- 最初のパラメーターが 2 番目のパラメーターより大きかった。

SHUTDWN

- 複数のパラメーターが指定された。
- 指定されたパラメーターが、32768 より小さい 10 進数ではなかった。

G053 BUFFER SIZE EXCEEDS TRACK LENGTH; TRACK=*length*.

説明: BUFFERS キーワードの 2 番目のパラメーターに指定された (またはデフォルト設定された) 値が、DSETS キーワード・オペランドで指定された最小のトラック長を含む装置のトラック容量より小さい値でした。バッファー・サイズは、32K バイトまたはトラック長のいずれかが小さい方を超えることはできません。

G054 ERROR IN MRQPSBN OPERAND. DEFAULT ASSUMED.

説明: 次の 1 つ以上が発生しました。

- MSGQUEUE マクロ・ステートメントの MRQPSBN キーワードに、複数のオペランドが指定された。
- 指定されたオペランドが英数字ではなかった。

- 指定されたオペランドが 8 文字を超えていた。

システムの処置: この警告メッセージが発行され、デフォルト名の MRQPSB が割り当てられます。

G055 RECLNG PARAMETER 1 OR 2 IS NOT EVENLY DIVISIBLE BY THE QBLKS LRECL VALUE OF 56.

説明: RECLNG パラメーターで、IMS.QBLKS データ・セットの論理レコード長 (LRECL) で割り切れない値が指定されました。この結果、OLDS データ・セット上に使用されないスペースが生じます。

システムの処置: BUFFERS パラメーターの size3 値が指定されなかった場合、RECLNG パラメーターの size1 および size2 の値が size3 の計算に使用されます。BUFFERS の size3 が指定された場合は、RECLNG の size1 および size2 は、size3 の計算には使用されません。ステージ 1 は正常に完了します。

プログラマーの応答: 処置は必要ありません。size3 が指定されないときに、OLDS データ・セット上の使用されないスペース量を削減する場合、IMS.QBLKS データ・セットの LRECL 値の 56 の倍数になるように、RECLNG の size1 および size2 を再指定します。

重大度: 0

G056 THE MAXIMUM OF 999 LTERMS WAS EXCEEDED FOR MASTER, SECONDARY MASTER, OR XRF LU6 TERMINAL STATEMENTS.

説明: 999 を超える NAME ステートメント (LTERMS) が、マスター端末、2 次マスター端末、または XRF LU6 端末に対して定義されました。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: ステージ 1 の入力データを訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G060 POOL STMT MUST OCCUR WITHIN A SWITCHED LINEGRP.

説明: 先行する LINEGRP ステートメントで、SWITCHED 回線グループが定義されていません。

G061 LINE/POOL SPECIFICATION LIMIT EXCEEDED.

説明: LINE ステートメントの数と POOL ステートメントの数の和が、999 を超えました。

G070 SUBPOOL STMT MUST FOLLOW POOL/VTAMPOOL STMT; SUBPOOL SPECIFICATION IS IGNORED.

説明: 次のいずれかが発生しました。

- この SUBPOOL ステートメントの前に、POOL または VTAMPOOL ステートメントがない。POOL ステートメントは、1 つ以上の交換 BTAM LTERM SUBPOOL を定義するのに必要であり、VTAMPOOL ステートメントは、並列 LUTYPE6 セッション用に 1 つ以上の VTAM LTERM SUBPOOL を定義するのに必要です。
- LINE ステートメントが、この SUBPOOL ステートメントの前にあり、かつ、先行する POOL ステートメントの後にある。
- LUTYPE6 並列セッション用の VTAM LTERM SUBPOOL の場合、TYPE、TERMINAL、または NAME ステートメントが、この SUBPOOL ステートメントの前にあり、かつ、先行する VTAMPOOL ステートメントの後にある。

G072 NAME OPERAND IS OMITTED OR INVALID

説明: 次のいずれかが発生しました。

- LUTYPE6 並列セッション用の VTAM LTERM SUBPOOL で、オペランドが省略された。
- パラメーターが英数字 8 文字を超えていた。
- パラメーターが英字で始まっていなかった。
- 複数のパラメーターが指定された。
- BTAM 交換 LTERM SUBPOOL に対してオペランドが指定された。

G073 MSGDEL OPERAND IS INVALID

説明: 次のいずれかが発生しました。

- パラメーターに SYSINFO または NONIOPCB が指定されなかった。
- 複数のパラメーターが指定された。

G074 SPECIFIED SUBPOOL NAME IS A DUPLICATE

説明: SUBPOOL NAME オペランドは以前に指定されました。

G080 USER ROUTINE TABLE FULL.

説明: これは警告メッセージです。200 を超えるユーザー・ルーチンが、生成システムに組み込まれるように定義されました。

システムの処置: 制限を超えたユーザー・ルーチンのす

べては、組み込まれません。

**G085 COMMUNICATION TERMINAL
TABLE (CTT) EXCEEDED.**

説明: 255 を超える固有の通信装置が定義されました。

**G090 MORE THAN ONE COMM
STATEMENT SPECIFIED.**

説明: IMS システム定義内では、COMM マクロ命令
ステートメントは 1 つしか使用できません。

APPLID

- パラメーターが英数字で始まっていなかった。
- パラメーターが、8 文字を超える英数字を含んでい
た。
- 複数のパラメーターが指定された。

CIPHER

- 3 つ以上のパラメーターが指定された。
- 英字で始まらないか、または 8 文字より長いパラメ
ーターが使用された。
- OPTIONS=NOCIPH がコーディングされたが、競合
する CIPHER オペランドが使用された。

MFSEXIT

- 3 つ以上のパラメーターが指定された。
- パラメーターが指定されたが、10 進数ではなかつ
た。
- 最初のパラメーターが、0 より小さく、2 番目のパラ
メーターのデフォルト値または指定された値より小さ
かった。
- 2 番目のパラメーターが、最初のパラメーターのデフ
ォルト値または指定された値より小さかった。

OPTIONS

- 10 個を超えるパラメーターが指定された。
- 有効なパラメーター指定がなかった。
- 矛盾または重複するパラメーター指定があった。

PASSWD

- パラメーターが英数字で始まっていなかった。
- パラメーターが、8 文字を超える英数字を含んでい
た。
- 複数のパラメーターが指定された。

RECANY

- 3 つ以上のパラメーターが指定された。
- 最初のパラメーターが指定されたが、0 より大きくか
つ 500 以下の 10 進数ではなかった。
- 2 番目のパラメーターが指定されたが、50 から 4095
の範囲の 10 進数ではなかった。

SECCNT

- 複数のパラメーターが指定された。
- パラメーターが指定されたが、0 から 3 の範囲の 10
進数ではなかった。

**G091 COMM STATEMENT MUST BE
DEFINED BEFORE ANY VTAM
TERMINAL OR VTAMPOOL
DEFINITIONS.**

説明: COMM マクロは、ステージ 1 入力順序で、
VTAM TERMINAL または VTAMPOOL 定義の前にな
ければなりません。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再
実行します。

**G092 THE OPTIONS PARAMETERS
MSEXIT AND NOMSTEX ARE NO
LONGER USED AND WILL BE
IGNORED.**

説明: MSEXIT および NOMSTEX パラメーターは、
COMM マクロの OPTIONS キーワードでコーディン
グできなくなりました。以下のオプション・パラメータ
ーは無効です。

- MSEXIT および NOMSPEX
ユーザー出口 DFSCMPRO は無効です。DFSMSCE0
出口を使用してください。
- MSLEXIT および NOMSLEX
ユーザー出口 DFSCMLR0 は無効です。DFSMSCE0
出口を使用してください。

システムの処置: パラメーターは無視されます。

プログラマーの応答: 処置は必要ありません。ただし、
COMM マクロの OPTIONS キーワードから無効なパ
ラメーターを除去してください。

重大度: 2

**G098 THE FOLLOWING OPERANDS ARE
INVALID: list**

説明: オペランド AOEXIT について検出される可能性
があるエラーは次のとおりです。

- 複数のパラメーターが指定された。
- パラメーターに、YES または NO が指定されなかつ
た。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再
実行します。

重大度: 4

G メッセージ G101 - G400

ここでは、次のメッセージについて説明します。

**G101 POSITIONAL PARAMETER(S)
INVALID.**

説明: DATABASE ステートメントの定位置パラメータは、INDEX または RESIDENT (あるいは両方) が指定されている場合にのみ有効です。

プログラマーの応答: DATABASE 定義の数を 32,700 に制限します。

重大度: 4

**G102 DBD OPERAND IS OMITTED OR
INVALID.**

説明: 次のいずれかが発生しました。

- DBD キーワード・オペランドが指定されなかった。
- DBD キーワード・オペランド・パラメーターが、英字で始まっていなかった。
- DBD キーワード・オペランド・パラメーターが、8 文字を超える英数字を含んでいた。
- 値が、ストリング「DFS」または「DBCDM」で始まるか、または予約語を含んでいる。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

**G103 DBD OPERAND CONTAINS
DUPLICATE SPECIFICATION.
SPECIFIED DBD NAME WAS *name***

説明: DBD 名は、DATABASE ステートメントで前に指定されていました。

**G104 ACCESS OPERAND SPECIFIED
INCORRECTLY**

説明: 次のいずれかが発生しました。

- 複数のパラメーターが指定された。
- 指定されたパラメーターが、RO、RD、UP、EX のいずれでもなかった。

**G105 DATABASE STATEMENT TOTAL
SPECIFICATION EXCEEDED.**

説明: DATABASE 指定の総数が制限を超えました。DATABASE 定義の合計が 32,700 を超えてはなりません。

システムの処置: ステージ 1 アセンブリーは失敗します。

**G110 MORE THAN 1 SECURITY
STATEMENT SPECIFIED**

説明: SECURITY マクロ・ステートメントはすでに処理されています。複数の指定は無効です。

**G111 RACF NOT SUPPORTED FOR THE
OPERATING SYSTEM SPECIFIED ON
IMSCTRL.**

説明: RACF 指定 (TYPE=RACFTERM または RACFAGN) は、VS/2 リリース 3.7 またはそれ以降 (z/OS) の場合のみ有効です。

**G112 THE FOLLOWING OPERANDS ARE
INVALID: *list***

説明: このリストには、PASSWD、RCLASS、SECCNT、SECLVL、TERMNL、TRANCMD、または TYPE のうちの 1 つ以上が含まれます。

オペランド別の考えられるエラー条件は次のとおりです。

RECLASS

- 複数のパラメーターが指定された。
- パラメーターが、1 から 7 文字の英数字で指定されなかった。

SECCNT

- 複数のパラメーターが指定された。
- パラメーターに 0、1、2、または 3 が指定されなかった。

SECLVL

- 無効なパラメーターが指定された。
- 2 つの互いに排他的なパラメーターが指定された。
- 3 つ以上のパラメーターが指定された。
- TRANAUTH が NOSIGN と共に指定された。
- FORCTRAN が NOSIGN または SIGNON と共に指定された。

TRANCMD、PASSWD、または TERMNL

- 複数のパラメーターが指定された。

- パラメーターに、FORCE、YES、または NO が指定されなかった。

TYPE

- 無効なパラメーターが指定された。
- 2 つの互いに排他的なパラメーターが指定された。
- 7 つを超えるパラメーターが指定された。
- TRANEXIT が NORACTRM および NOSIGNEX と共に指定された。
- RAS、NORAS、RASRACF、および RASEXIT のパラメーターから複数指定された。

G113 TYPE SECLVL PARAMETER COMBINATION IS INVALID

説明: 次のいずれかの問題が発生しました。

- TYPE=(NORACTRM,NOTRANEX, NOSIGNEX) が指定またはデフォルト設定されたが、SECLVL オペランドでは FORCTAN、TRANAUTH、FORCSIGN、または SIGNON のいずれかが指定された。
- TYPE=(NORACTRM,NOTRANEX) が指定またはデフォルト設定されたが、SECLVL オペランドでは FORCTAN または TRANAUTH のいずれかが指定された。
- SECLVL に対応する値がない状態で、TYPE=(TRANEXIT) が指定された。TRANEXIT を指定する場合、TRANAUTH|FORCTAN および SIGNON|FORCSIGN の有効な組み合わせを指定した状態で、SECLVL を指定する必要があります。

G114 TYPE=RACFTERM NOT SPECIFIED; RCLASS IGNORED.

説明: これは警告メッセージです。RACF サブシステム ID の指定は、TYPE=RACFTERM または RACFAGN も指定されていない限り無効です。したがって、指定は無視されます。

G115 SECURITY MACRO IS NOT SUPPORTED. SPECIFY SECURITY OPTIONS USING IMS EXECUTION PARAMETERS.

説明: SECURITY マクロはサポートされなくなりました。SECURITY マクロにあったパラメーターはすべて、DFSPBxxx または DFSDCxxx IMS PROCLIB メンバーで指定する必要があります。

システムの処置: SECURITY マクロは無視され、IMS ステージ 1 処理は続行されます。ステージ 1 ジョブに対して戻りコード 2 が発行されます。

システム・プログラマーの応答: DFSPBxxx および DFSDCxxx IMS PROCLIB メンバーに正しいセキュリティ定義が含まれていることを確認します。含まれている場合は、このメッセージを無視できます。含まれていない場合は、SECURITY マクロ定義を DFSPBxxx または DFSDCxxx IMS PROCLIB メンバーに移動して、IMS が次回のコールド・スタート後に正しいセキュリティ定義を使用するようにします。

G116 BUFPOOLS MACRO IS NOT SUPPORTED. SPECIFY BUFFER POOL OPTIONS USING IMS EXECUTION PARAMETERS.

説明: BUFPOOLS マクロはサポートされなくなりました。BUFPOOLS マクロ内のパラメーターはすべて、IMS PROCLIB データ・セットの DFSPBxxx メンバーに指定してください。

システムの処置: BUFPOOLS マクロは無視され、IMS ステージ 1 処理は続行されます。ステージ 1 ジョブに対して戻りコード 2 が発行されます。

出力宛先:

システム・プログラマーの応答: DFSPBxxx IMS PROCLIB メンバーに、正しいバッファー・プール・オプションが含まれていることを確認してください。含まれている場合は、このメッセージを無視できます。含まれていない場合は、IMS が次回のコールド・スタート後に正しいバッファー・プール定義を使用するように、BUFPOOLS マクロ定義を IMS PROCLIB データ・セットの DFSPBxxxメンバに移動してください。

モジュール:

G117 SIMEXIT=YES IS NOT SUPPORTED. SPECIFY SIMEXIT USING IMS EXECUTION PARAMETERS.

説明: COMM マクロの SIMEXIT= キーワードはサポートされなくなりました。IMS PROCLIB データ・セットの DFSPBxxx メンバー内に SIMEXIT キーワードを指定してください。

システムの処置: COMM マクロの SIMEXIT= キーワードは無視されます。IMS ステージ 1 処理は続行されます。ステージ 1 ジョブに対して戻りコード 2 が発行されます。

システム・プログラマーの応答: IMS システムが IMS 初期設定時に DFSSIML0 ユーザー出口をロードするように、IMS.PROCLIB データ・セットの DFSPBxxx メンバー内に SIMEXIT=Y を指定してください。

関連資料:

 COMM マクロ (システム定義)

G118 FESEXIT=YES IS NOT SUPPORTED. SPECIFY FESEXIT AND FESTIM USING IMS EXECUTION PARAMETERS.

説明: COMM マクロの **FESEXIT=** キーワードはサポートされなくなりました。IMS.PROCLIB データ・セットの DFSPBxxx メンバーで、**FESEXIT** キーワードおよびオプションで **FESTIM** キーワードを指定してください。

システムの処置: COMM マクロの **FESEXIT** キーワードは無視され、IMS ステージ 1 の処理は続行されます。ステージ 1 ジョブに対して戻りコード 2 が発行されます。

システム・プログラマーの応答: IMS システムが IMS 初期設定時に DFSFEBJ0 ユーザー・出口をロードするように、IMS.PROCLIB データ・セットの DFSPBxxx メンバーに **FESEXIT=Y** を指定してください。FES タイムアウト値をオーバーライドする場合は、IMS.PROCLIB データ・セットの DFSPBxxx メンバーで **FESTIM=** を指定してください。

関連資料:

 COMM マクロ (システム定義)

G119 MFSEXIT= IS NOT SUPPORTED. SPECIFY MFSEXITF= AND MFSEXITS= USING IMS EXECUTION PARAMETERS.

説明: COMM マクロの **MFSEXIT=** キーワードはサポートされなくなりました。IMS.PROCLIB データ・セットの DFSPBxxx メンバー内に **MFSEXITF** キーワードおよび **MFSEXITS** キーワードを指定してください。

システムの処置: COMM マクロの **MFSEXIT** キーワードは無視されます。IMS ステージ 1 処理は続行されます。ステージ 1 ジョブに対して戻りコード 2 が発行されます。

システム・プログラマーの応答: IMS.PROCLIB データ・セットの DFSPBxxx メンバーに **MFSEXITF=** および **MFSEXITS=** を指定して、IMS システムが IMS 初期設定時に MFS フィールドおよびセグメント・ユーザー・出口 DFSME000-DFSME127 をロードするようにしてください。

モジュール:

関連資料:

 COMM マクロ (システム定義)

G120 OPTIONS=USERMSGSGS IS NOT SUPPORTED. SPECIFY USERMSGSGS USING IMS EXECUTION PARAMETERS.

説明: COMM マクロの **OPTIONS=USERMSGSGS** キーワード・パラメーターは、サポートされなくなりました。IMS.PROCLIB データ・セットの DFSPBxxx メンバー内に **USERMSGSGS** キーワードを指定してください。

システムの処置: COMM マクロの **OPTIONS=USERMSGSGS** キーワード・パラメーターは無視されます。IMS ステージ 1 処理は続行されます。ステージ 1 ジョブに対して戻りコード 2 が発行されます。

システム・プログラマーの応答: IMS システムが IMS 初期設定時に DFSCMTU0 ユーザー・メッセージ・テーブルをロードするように、IMS.PROCLIB データ・セットの DFSPBxxx メンバー内に **USERMSGSGS=Y** を指定してください。

関連資料:

 COMM マクロ (システム定義)

G121 USERLIB= IS NOT SUPPORTED.

説明: IMSGEN マクロの **USERLIB=** キーワードはサポートされなくなりました。以前、システム生成時に **USERLIB** からリンクされていたユーザー提供出口ルーチンは、IMS 初期設定時にロードされるようになりました。

システムの処置: IMSGEN マクロの **USERLIB** キーワードは無視されます。IMS ステージ 1 処理は続行されます。

システム・プログラマーの応答: IMS 初期設定時に IMS システムによってロードされる必要があるユーザー提供出口ルーチンは、IMS.SDFSRSL データ・セットの前に連結されている JOBLIB、STEPLIB、または LINKLIST ライブラリー内の許可ライブラリーに配置してください。

G122 IMSCTF MACRO IS NOT SUPPORTED. SPECIFY IMSCTF OPTIONS USING IMS EXECUTION PARAMETERS, OR BY CODING THE DFSIDEF0 MODULE.

説明: IMSCTF マクロはサポートされなくなりました。

システムの処置: IMSCTF マクロは無視され、IMS ステージ 1 処理は続行されます。ステージ 1 ジョブに対して戻りコード 2 が発行されます。

| システム・プログラマーの応答: CPLOG=、PRDR、お
| よび RDS= の各キーワードは、以下のロケーションで
| 指定できます。

- | • IMS PROCLIB データ・セットの DFSPBxxx メンバ
| ー
- | • JCL

| SVC2= キーワードは、以下のロケーションで指定でき
| ます。

- | • IMS PROCLIB データ・セットの DFSPBxxx メンバ
| ー
- | • JCL

- | • DFSIDEF0 モジュールの DFSIDEF マクロ。
| DFSPBxxx メンバーまたは JCL に指定された値は、
| DFSIDEF マクロに指定された値をオーバーライドし
| ます。

| SVC4= キーワードは、DFSIDEF0 モジュールの
| DFSIDEF マクロで指定できます。

| LOG= キーワードは、サポートされなくなり、これに相
| 当するオンライン指定もありません。

| 関連概念:

|  IMS SVC モジュール (システム管理)

| 関連資料:

|  IMS PROCLIB データ・セットの DFSPBxxx メ
| ンバー (システム定義)

|  プロシーチャーの SVC2= パラメーター (システ
| ム定義)

|  プロシーチャーの CPLOG= パラメーター (シス
| テム定義)

|  プロシーチャーの PRDR=name パラメーター (シ
| ステム定義)

|  プロシーチャーの RDS= パラメーター (システム
| 定義)

| G123 LGEN IS NO LONGER SUPPORTED. | USE STANDARD SYSGEN.

| 説明: IMSCTRL マクロに LGEN パラメーターが指定
| されていますが、LGEN はサポートされなくなりました。
|

| システムの処置: ステージ 1 アセンブリーは、戻りコ
| ード 4 で失敗します。

| システム・プログラマーの応答: LGEN パラメーター
| を削除して、標準のシステム生成を使用してください。

G140 NUMBER OF NAMED MACROS DEFINED EXCEEDS MAXIMUM

説明: ステージ 1 で指定された NAME マクロまたは
ステートメントの数が、内部制限の最大値を超えていま
す。システム定義での実際の最大値は、定義されるリモ
ート LTERM の数により異なります。

システムの処置: NOGO スイッチが設定され、ステー
ジ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再
実行します。

G141 INTERNAL ERROR DETECTED IN PCHCOMU MACRO

説明: ステージ 1 アセンブリー中、PCHCOMU マク
ロの実行のときに、内部エラーが検出されました。

システムの処置: NOGO スイッチが設定され、ステー
ジ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: ステージ 1 アセンブリーの実行
を試みます。この問題が続く場合、IBM サポートに連
絡して、支援を受けてください。

G142 MSNAME BEGINS WITH NUMERIC CHARACTER - msname

| 説明: ステージ 1 アセンブリー中、PCHCOMC マク
| ロの実行時に、示されている msname が検出されまし
| た。これは、msname 名が数字で始まっているためで
| す。

| **msname**

| SYSGEN ステージ 1 定義内の MSNAME マ
| クロのラベル。

| システムの処置: NOGO スイッチが設定され、ステー
| ジ 1 アセンブリーは正常に完了しません。

| プログラマーの応答: msname を訂正し、ステージ 1
| アセンブリーを再実行してください。

G143 MSNAME IS A RESERVED NAME - msname

| 説明: ステージ 1 アセンブリー中、PCHCOMC マク
| ロの実行時に、示されている msname が検出されまし
| た。この msname は、以下の予約語またはコマンド・
| キーワードのいずれかと一致するためです。

| - Starts with numeric character

| - BASICEDT

| - DBCDM : starts with DBCDM

| - DBRC : starts with DBRC

| - DFS : starts with DFS
 | - ISCEDT : starts with ISCEDT
 | - MSDB : starts with MSDB
 | - MSNI : starts with MSNI
 | - MSNS : starts with MSNS
 | - SDB : starts with SDB
 | - SECURITY
 | - WTOR : starts with WTOR

| **msname**

| SYSGEN ステージ 1 定義内の MSNAME マ
 | クロのラベル。

| システムの処置: NOGO スイッチが設定され、ステー
 | ジ 1 アセンブリーは正常に完了しません。

| プログラマーの応答: msname を訂正し、ステージ 1
 | アセンブリーを再実行してください。

**G151 THE MAXIMUM NUMBER OF STEPS
 (255) FOR THIS JOB HAS BEEN
 EXCEEDED**

説明: IMSGEN マクロの ONEJOB= サブパラメーター
 を YES に設定した場合、最大 255 ステップが可能にな
 ります。このメッセージは PCHJOB マクロから発行さ
 れます。

システムの処置: ステージ 1 アセンブリーは正常に完
 了しません。

システム・プログラマーの応答: ONEJOB=NO を指定
 することによってジョブ当たりのステップの数を削減
 し、ステージ 1 アセンブリーを再実行します。

重大度: 4

**G170 ETOFEAT=(,ALL|ONLY) IS INVALID
 IF NO DC IS DEFINED.**

説明: サブパラメーター 3 に ALL または ONLY を
 指定して、ETOFEAT キーワードが定義されました。
 しかし、ステージ 1 入力デッキには、データ通信シス
 テム定義マクロ・ステートメントが含まれていません
 でした。したがって、正常なステージ 1 出力は生成でき
 ません。

システムの処置: NOGO スイッチが設定され、ステー
 ジ 1 は正常に完了しません。

システム・プログラマーの応答: キーワードを再定義す
 るか、またはデータ通信システム定義マクロ・ステート
 メントをステージ 1 入力デッキに追加します。ステー
 ジ 1 入力ジョブを再実行します。

重大度: 4

**G201 POSITIONAL PARAMETER(S)
 INVALID.**

説明: 次のいずれかが発生しています。

- 複数の定位置パラメーターが指定された。
- DOPT または RESIDENT 以外の定位置パラメータ
 ーが指定された。
- 互いに排他的な DOPT と SCHTYP=PARALLEL が
 指定された。

G202 PGMTYPE OPERAND IS INVALID.

説明: 次のいずれかが発生しました。

- 4 つ以上のパラメーターが指定された。
- TP と BATCH の両方が指定された。
- TP、BATCH、または OVLY が 2 度指定された。
- パラメーターに、TP、BATCH、または OVLY が指
 定されなかった。
- クラス番号が、1 から 255 の範囲の値で指定されな
 かった。
- クラス番号が、IMSCTRL ステートメントの
 MAXCLAS オペランドで指定またはデフォルト設定
 された値より大きかった。

G203 SCHDTYP OPERAND IS INVALID.

説明: 次のいずれかが発生しました。

- 複数のパラメーターが指定された。
- パラメーターに、SERIAL または PARALLEL が指
 定されなかった。

**G205 PSB OPERAND IS OMITTED OR
 INVALID.**

説明: 次のいずれかが発生しました。

- PSB キーワード・オペランドが指定されなかった。
- 複数のパラメーターが指定された。
- パラメーターが、英字で始まっていないか、または 8
 文字を超える英数字を含んでいた。
- 値が、ストリング DFS または DBCDM で始まるか、ま
 たは予約語を含んでいます。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再
 実行します。

重大度: 4

G206 PSB OPERAND IS A DUPLICATE.

説明: 指定された PSB 名は、APPLCTN マクロ命令ス
 テートメントで前に指定されていました。

G207 SYSID OPERAND IS INVALID.

説明: 次のいずれかが発生しました。

- 指定された SYSID キーワード・オペランドに、2 つのパラメーターが含まれなかった。
- 指定されたパラメーターが、1 から 2036 の 10 進数値ではなかった。
- 両方の SYSID パラメーターに同じ値が指定された。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G208 FPATH OPERAND IS INVALID.

説明: FPATH= キーワード・オペランドが、有効な指定である FPATH=YES、FPATH=NO、FPATH=、FPATH=0、FPATH=size のいずれでもありません。

システムの処置: 生成は終了します。

システム・プログラマーの応答: APPLCTN または TRANSACT マクロの FPATH= キーワード指定を訂正し、ステージ 1 アセンブリーを再実行します。

問題判別: 10

重大度: 4

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**G209 OVLY IS INVALID WHEN
FPATH=YES. PGMTYPE OPERAND
OVLY PARAMETER IS IGNORED.**

説明: これは警告メッセージです。PGMTYPE= キーワード・オペランドの OVLY パラメーターは、FPATH=YES と両立しません。

システムの処置: 警告メッセージを出力後、APPLCTN マクロは OVLY 指定を無視します。

プログラマーの応答: OVLY パラメーター指定を除去します。

**G210 CLASS IS INVALID WHEN
FPATH=YES**

説明: これは警告メッセージです。高速機能では、プログラム・スケジューリングにクラス指定が使用されません。

プログラマーの応答: PGMTYPE キーワード・オペランドの CLASS パラメーターを除去します。

**G212 SYSID IS INVALID WHEN
FPATH=YES**

説明: SYSID= キーワード・オペランドは、FPATH=YES と両立しません。

プログラマーの応答: SYSID= または FPATH= キーワード指定を除去します。

**G213 FPATH=YES IS INVALID WITH
PGMTYPE=BATCH**

説明: 非メッセージ・ドリブンの高速機能領域はサポートされません。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 非メッセージ・ドリブン・プログラムを、メッセージ・ドリブン・プログラムまたは BMP のいずれかで実行するように変更する必要があります。

G214 GPSB IS INVALID

説明: GPSB= パラメーターが正しく指定されていません。

プログラマーの応答: GPSB= キーワード指定を訂正し、ステージ 1 アセンブリーを再実行します。

**G215 RESIDENT AND DOPT ARE
INVALID WITH GPSB**

説明: GPSB= パラメーターが、RESIDENT パラメーターまたは DOPT パラメーターのいずれかと共に指定されました。RESIDENT および DOPT パラメーターは、GPSB= パラメーターとは互いに排他的です。RESIDENT または DOPT パラメーターは無視されません。

**G216 LANG=xxxxx IS ONLY VALID WITH
GPSB OR DOPT**

または

LANG=xxxxx IS ONLY VALID WITH GPSB

説明: LANG= パラメーターが指定されましたが、GPSB= (Java™ の場合は DOPT) パラメーターが指定されませんでした。

システムの処置: ステージ 1 は完了しません。

プログラマーの応答: LANG= パラメーターおよび GPSB= (または DOPT) パラメーターの指定を訂正します。

重大度: 4

G217 LANG IS INVALID

説明: LANG= パラメーターが正しく指定されませんでした。指定する値は、ASSEM、COBOL、JAVA、PL/I、または PASCAL でなければなりません。

プログラマーの応答: LANG= パラメーターの指定を訂正し、ステージ 1 アセンブリーを再実行します。

G218 GPSB OPERAND IS INVALID

説明: 次のいずれかが発生しました。

- GPSB= パラメーターが、英字で始まらないか、または 8 文字を超える英数字を含んでいる。
- 値が、ストリング「DFS」または「DBCDM」で始まるか、または予約語を含んでいる。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G219 PSB IS INVALID WITH GPSB

説明: PSB= と GPSB= の両方のキーワードが指定されました。これらのキーワードは互いに排他的です。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: PSB= または GPSB= キーワード指定を除去し、ステージ 1 アセンブリーを再実行します。

重大度: 4

G220 LANG=JAVA INVALID WHEN FPATH=YES

説明: FPATH=YES は、LANG=JAVA と一緒に指定できません。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: FPATH=YES キーワード指定を除去するか、または LANG= キーワード指定を訂正します。

重大度: 4

G221 TRANSTAT operand is invalid.

説明: 次のいずれかの問題が発生しました。

- 複数のパラメーターを指定した。
- オペランドが Y(es) または N(o) ではなかった。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: TRANSTAT= 指定を訂正して、ステージ 1 アセンブリーを再実行します。

重大度: 4

G300 TRANSACT SPECIFICATION CANNOT PRECEDE APPLCTN.

説明: TRANSACT ステートメントは、先行する APPLCTN ステートメントと共に使用しなければなりません。

G302 POSITIONAL PARAMETER(S) INVALID.

説明: 複数の定位置パラメーターが指定されたか、または指定されたパラメーターが WFI ではありませんでした。

G303 PRIORITY VALUES FOR TRANSACTION CODES USED BY BATCH PROGRAMS MUST BE NULL; SPECIFIED PRIORITY VALUES RESET TO ZERO.

説明: これは警告メッセージです。

G304 INQUIRY AND INQ OPERANDS ARE MUTUALLY EXCLUSIVE; ONLY ONE MAY BE SPECIFIED.

説明: INQUIRY と INQ の両方のオペランドを、1 つの TRANSACT ステートメント上で指定することはできません。

G305 CONVERSATIONAL AND WFI TRANSACTIONS MUST BE MODE=SNGL; MODE RESET TO INDICATE SNGL.

説明: これは警告メッセージです。

G306 THE FOLLOWING OPERANDS ARE INVALID: *list*

説明: 次のいずれかが発生しました。

- 値が、ストリング DFS または DBCDM で始まるか、または予約語を含んでいます。
- *list* には、EDIT、INQ/INQUIRY、MODE、MSGTYPE、PARLIM、PROCLIM、PRTY、SCHD、SEGNO、SEGSIZE、SPA、または SYSID のうちの 1 つ以上が含まれます。

オペランド別の考えられるエラー条件は次のとおりです。

EDIT

- 3 つ以上のパラメーターが指定された。
- 最初のパラメーターが指定されたが、UC または ULC が指定されなかった。
- 2 番目のパラメーターが指定されたが、英字で始まる 1 から 8 文字の英数字名として指定されなかった。

INQ/INQUIRY

- 3 つ以上のパラメーターが指定された。
- 指定されたパラメーターは、YES、NO、RECOVER、または NORECOV ではなかった。
- NORECOV と SPA の両方が指定された。
- 矛盾するパラメーターが指定された。例えば、INQ=(YES,NO) または INQ=(NO,NORECOV) などです。

MODE

- 複数のパラメーターが指定された。
- SNGL または MULT 以外のパラメーターが指定された。

MSGTYPE

- 4 つ以上のパラメーターが指定された。
- 指定されたパラメーターが、MULTSEG、SNGLSEG、NONRESPONSE、RESPONSE ではなかったか、あるいは 1 から 255 の範囲の、IMSCTRL ステートメント MAXCLAS キーワード・オペランドで指定またはデフォルト設定された値より小さい 10 進数ではなかった。
- 無効な組み合わせのパラメーターが指定された。

PARLIM

- 先行する APPLCTN マクロ命令ステートメントで、SCHDTYP=PARALLEL が指定されなかった。
- パラメーターが指定されたが、1 から 32767 の 10 進数ではなかった。

PROCLIM

- 3 つ以上のパラメーターが指定された。
- 指定されたパラメーターのいずれかが、1 から 65535 の 10 進数ではなかった。

PRTY

- 4 つ以上のパラメーターが指定された。
- 最初のパラメーターまたは 2 番目のパラメーター (あるいは両方) が指定されたが、1 から 14 の 10 進数ではなかった。
- 3 番目のパラメーターが指定されたが、1 から 65535 の 10 進数ではなかった。

SCHD

- 複数のパラメーターが指定された。
- 指定されたパラメーターが、1 から 4 の 10 進数ではなかった。

SEGN0 または **SEGSIZE**、あるいは両方。

- 複数のパラメーターが指定された。
- 指定されたパラメーターが、1 から 65535 の 10 進数ではなかった。

SPA

- 3 つ以上のサブパラメーターが指定された。
- 最初のサブパラメーターが、16 から 32767 の 10 進数ではなかった。
- 2 番目のサブパラメーターが、文字 STRUNC または RTRUNC ではなかった。

SYSID

- オペランドに、2 つのパラメーターが含まれていなかった。
- 指定されたパラメーターが、1 から 2036 の 10 進数値ではなかった。
- 両方の SYSID パラメーターに同じ値が指定された。
- このパラメーターは、高速機能専用のトランザクションには指定できない。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G307 **CODE OPERAND CONTAINS
DUPLICATE ENTRY. SPECIFIED
TRANSACTION CODE-code.**

説明: 指定されたトランザクション・コード名は、前にトランザクション・コード名として定義されています。

G308 **TRANSACTION CODE IS DEFINED
AS AN LTERM. SPECIFIED
TRANSACTION CODE-code.**

説明: 指定されたトランザクション・コード名は、論理端末名としても定義されています。

G309 **CODE OPERAND IS OMITTED OR
INVALID. SPECIFIED
TRANSACTION CODE-code.**

説明: 次のいずれかが発生しました。

- CODE オペランドが指定されなかった。
- パラメーターにヌル・サブパラメーターが含まれている。

- パラメーターが、1 から 8 文字の英数字で指定されなかった。

**G310 TRANSACT MACRO INVALID FOR
FAST PATH NONMESSAGE DRIVEN
APPL PROGRAM.**

説明: 高速機能の非メッセージ・ドリブン・アプリケーション・プログラムは、端末メッセージを検索または挿入するファイル呼び出しを発行できません。したがって、高速機能の非メッセージ・ドリブン APPLCTN マクロの後の TRANSACT マクロは無効です。

プログラマーの応答: FPATH=YES および PGMTYPE=BATCH が指定された APPLCTN マクロの後に続く、すべての TRANSACT マクロを除去します。

**G311 SPA OPERAND(S) INVALID FOR
FAST PATH APPLICATION
PROGRAMS.**

説明: 高速機能では、会話型トランザクションはサポートされません。

プログラマーの応答: すべての高速機能トランザクションから、SPA= キーワード・オペランド指定を除去します。

**G313 IMS BMP APPLICATION
INCOMPATIBLE WITH FAST PATH
POTENTIAL TRANSACTION.**

説明: 高速機能では、BMP アプリケーション・プログラムでの高速機能利用可能トランザクションがサポートされません。

プログラマーの応答: TRANSACT マクロから FPATH= キーワード・オペランドを除去するか、または BMP アプリケーションを MPP アプリケーションに変換します。

**G314 FAST PATH TRANSACTION MUST
BE MODE=SNGL. MODE RESET TO
SNGL.**

説明: これは警告メッセージです。高速機能では、MODE=SNGL と指定されたトランザクションのみがサポートされます。

プログラマーの応答: MODE=SNGL を指定するか、または MODE キーワード・オペランドを除去します。

**G315 FAST PATH TX MUST BE
MSGTYPE=(SNGLSEG,RESPONSE).
MSGTYPE RESET TO
(SNGLSEG,RESPONSE).**

説明: 高速機能では、MSGTYPE=(SNGLSEG,RESPONSE) と指定されたトランザクションのみがサポートされます。これは単なる警告メッセージです。

プログラマーの応答: MSGTYPE キーワード・オペランドを変更して MSGTYPE=(SNGLSEG,RESPONSE) を指定するか、またはこの指定を除去します。

**G316 THE EXPRTIME OPERAND IS
INVALID; DEFAULT OF WAS ZERO
ASSUMED.**

説明: トランザクション有効期限に無効な値を指定しました。次のいずれかのイベントが発生しました。

- キーワードに複数の値を入力した。
- 値が、0-65535 の範囲内ではなかった。
- 値が数値ではなかった。

システムの処置: デフォルト値であるゼロがトランザクションに設定され、このメッセージが発行されます。戻りコードは 2 に設定されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

トランザクション有効期限を設定する必要がある場合は、問題を訂正してやり直してください。

重大度: 2

**G317 MAXRGN OPERAND INVALID,
DEFAULT ASSUMED.**

説明: 次のいずれかが発生しました。

- TRANSACT マクロの MAXRGN= キーワードに、複数の値が指定された。
- 値がゼロでないのに、PARLIM= が指定されなかった。
- MAXRGN= キーワードが、0 から 255 の値ではない。

システムの処置: デフォルト値のゼロが使用されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

重大度: 2

**G318 SERIAL OPERAND INVALID,
DEFAULT ASSUMED.**

説明: 次のいずれかが発生しました。

- TRANSACT マクロの SERIAL= キーワードに、複数の値が指定された。

- PARLIM= キーワードに値が指定されている。
- SERIAL= キーワードが、YES、NO、またはヌルに設定されていない。

システムの処置: デフォルト値の NO が使用されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

重大度: 2

G399 SESSION BACKUP PARAMETER INVALID

説明: BACKUP キーワードが、次のいずれかの理由で無効です。

- BACKUP キーワードの最初の値が、1 より小さいか、または 7 より大きい。
- BACKUP キーワードの 2 番目の値が、YES または NO ではない。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G400 LINEGRP SPECIFICATION LIMIT EXCEEDED.

説明: 指定された LINEGRP ステートメントの数が、255 から、装置タイプ SPOOL を指定している各 LINEGRP ステートメントの DD 名の数、および SPOOL LINEGRP ステートメントの数を引いたものを超えました。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G メッセージ G401 - G500

ここでは、次のメッセージについて説明します。

G401 DDNAME OPERAND IS OMITTED OR INVALID.

説明: 次のいずれかが発生しました。

- オペランドが指定されなかった。
- オペランドに、SPOOL 回線グループ以外に対する複数の DD 名が含まれている。
- 指定された DD 名が、英字で始まらないか、または 1 から 8 文字ではない。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G402 ENTERED DDNAME IS A DUPLICATE-ddname.

説明: この LINEGRP ステートメントの DDNAME オペランドで指定された名前が、前の LINEGRP ステートメントで指定されたものと重複しています。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G403 ENTERED DDNAME IS RESERVED-ddname.

説明: IMS によって予約済みの DD 名が指定されました。IMS システム定義の説明を参照してください。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G404 UNITYPE OPERAND IS OMITTED OR INVALID.

説明: 次のいずれかが発生しています。

- 最初のオペランドに、IMS でサポートされる端末装置タイプが指定されていない。
- 2 番目のオペランドに、無効な装置または無効な値が指定されている。(LOCAL、NOSTACTL、および CONTENTION のみが有効な値である)
- 3 番目のオペランドが無効値である。(S/S および BSC のみが有効な値である)
- 4 つ以上のオペランドが指定された。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G405 FEAT AND UNITYPE OPERANDS NOT COMPATIBLE.

説明: FEAT=SWITCHED は、3275 の場合にのみ有効です。FEAT=NONSWITCHED は、3275 では無効です。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G406 FOLLOWING OPERANDS ARE INVALID: *list*

説明: *list* には、CODE、EDIT、FEAT、または MODE のうちの 1 つ以上が含まれます。

検出される可能性があるオペランド別のエラーは次のとおりです。

CODE

- 端末で複数のパラメーターが指定された。
- 3270 リモートまたは 3275 以外の端末に対してコード・キーワードが指定された。
- 最初または 2 番目のパラメーターが、IMS でサポートされる伝送コードではない

EDIT

- 3 つ以上のパラメーターが指定された。
- パラメーターが指定されたが、英字で始まっていない。
- パラメーターが指定されたが、8 文字より長い。

FEAT

- 3 つ以上のパラメーターが指定された。
- 最初のパラメーターで、SWITCHED または NONSWITCHED が指定されなかった。
- 2 番目のパラメーターで、POLL または AUTOPOLL が指定されなかった。
- 最初のパラメーターで SWITCHED が指定されたが、2 番目のパラメーターが省略されなかった。
- 最初のパラメーターが省略されたが、2 番目のパラメーターが指定された。

MODE

- 3 つ以上のパラメーターが指定された。
- パラメーターに、A または B が指定されなかった。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G408 BTAM TERMINAL SPECIFICATIONS MUST PRECEDE VTAM TERMINAL SPECIFICATIONS.

説明: これは警告メッセージです。IMS システム定義では、すべての VTAM 端末が最後に定義されるように、通信制御ブロックが構成されます。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 2

G409 BTAM TERMINAL SPECIFICATIONS MUST PRECEDE MULT SYSTEM SPECIFICATIONS.

説明: BTAM 端末定義ステートメントは、複数システム定義ステートメントの前になければなりません。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G410 MORE THAN 20 DDNAMES SPECIFIED FOR ONE LINEGRP.

説明: 1 つの LINEGRP マクロの DD 名の数、DD 名の最大数の 20 を超えました。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G411 MACRO STATEMENT ASSOCIATED WITH AN UNSUPPORTED BTAM TERMINAL

説明: BTAM 端末は、IMS V10 以降でサポートされていません。以下のいずれかの条件が真です。

- IMS マクロ・ステートメントが、サポートされない BTAM 端末を指定しています。
- IMS マクロ・ステートメントが、サポートされない BTAM 端末に関連付けられています。

システムの処置: IMS は、サポートされない BTAM 端末に関連付けられている IMS マクロ・ステートメントを無視します。システム定義は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

重大度: 2

G430 MSPLINK STATEMENT SPECIFICATION EXCEEDED.

説明: MSPLINK ステートメントの数が、999 を超えてはなりません。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G431 PLINK NAME SPECIFICATION OMITTED OR INVALID.

説明: 次のいずれかが発生しました。

- MSPLINK ステートメントで、必要な名前が指定されなかった。
- 指定された名前が、英数字で始まる 1 から 8 文字ではなかった。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G432 PLINK NAME SPECIFIED BY PREVIOUS MSPLINK MACRO.

説明: 指定された物理リンク名が、前の MSPLINK ステートメントで指定されたものと重複しています。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G433 DDNAME SPECIFICATION IS INVALID FOR TYPE=MTM|VTAM.

説明: 複数システム・リンク・タイプが主記憶域間または MSC/VTAM の場合、DDNAME を指定してはなりません。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G434 DDNAME SPECIFICATION IS OMITTED OR INVALID.

説明: 次のいずれかが発生しました。

- TYPE=CTC の場合に必要な DD 名が指定されなかった。
- 指定された ddname が、英数字で始まる 1 から 8 文字の名前ではなかった。
- 複数の DD 名が指定された。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G435 ENTERED DDNAME IS RESERVED-ddname...

説明: IMS によって予約済みの DD 名が指定されました。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G436 ENTERED DDNAME IS DUPLICATE-ddname...

説明: ddname オペランドで指定された名前が、前の LINEGRP または MSPLINK ステートメントで指定されたものと重複しています。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G437 ADDR SPECIFICATION IS INVALID FOR TYPE=MTM|VTAM.

説明: 複数システム・リンク・タイプが主記憶域間または MSC/VTAM の場合、ADDR オペランドは無効です。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G438 ADDR SPECIFICATION IS OMITTED OR INVALID.

説明: 次のいずれかが発生しました。

- TYPE=CTC の場合に必要な ADDR オペランドが指定されなかった。
- 指定された ADDR が、3 または 4 桁の 16 進数字の単一オペランドではなかった。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G439 SESSION BACKUP PARAMETER INVALID

説明: MSPLINK マクロの BACKUP キーワードの値が、NO または 1 から 7 ではありませんでした。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G440 TYPE SPECIFICATION OMITTED OR INVALID.

説明: 次のいずれかが発生しました。

- 必要なオペランドが指定されなかった。
- TYPE= キーワードの値が、VTAM、MTM、または CTC のいずれでもなかった。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G441 BUFSIZE SPECIFICATION OMITTED OR INVALID.

説明: 次のいずれかが発生しました。

- 必要なオペランドが指定されなかった。
- MSPLINK マクロの BUFSIZE オペランドは 1024 から 65 536 の範囲の数値でなければならない (CTC、MTM、および VTAM リンクの場合)。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G445 NAME OPERAND VALID ONLY FOR TYPE=VTAM

説明: NAME オペランドは、複数システム・リンク・タイプが MSC/VTAM でない限り無効です。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G446 NAME OPERAND IS OMITTED OR INVALID

説明: 次のいずれかが発生しました。

- 複数システム・リンク・タイプが MSC/VTAM の場合に必要な NAME が、指定されなかった。
- 指定された NAME が、英字で始まる 1 から 8 文字の名前ではなかった。
- 値が、ストリング「DFS」または「DBCMD」で始まるか、または予約語を含んでいる。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G447 ENTERED NAME IS DUPLICATE NAME-name

説明: NAME オペランドで指定されたノード名 (*name*) が、前に指定されたノード名と重複しています。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G448 SESSION OPERAND VALID ONLY FOR TYPE=VTAM

説明: SESSION オペランドが指定されたが、複数システム・リンク・タイプが MSC/VTAM でない場合には、このオペランドは無効です。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G449 SESSION OPERAND INVALID

説明: 指定された SESSION オペランドが数値でないか、または 1 から 999 の範囲の値ではありません。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G452 UNITYPE SPECIFICATION IS INVALID.

説明: 次のいずれかが発生しました。

- UNITYPE オペランドが指定されなかった。
- 3 つ以上のパラメーターが指定された。
- 最初のパラメーターが指定されたが、3270、3601、SLUTYPE1、SLUTYPE2、SLUTYPEP、または LUTYPE6 ではなかった。
- 2 番目のパラメーターが指定されたが、LOCAL ではなかった。
- 2 番目のパラメーターで LOCAL が指定されたが、最初のパラメーターが 3270 ではなかった。

このタイプの指定に関連する追加のマクロ命令ステートメントで生成されるエラー・メッセージは、不適切な場合があります。これらのマクロ命令の処理は不適切なこともあります。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G453 EDIT OPERAND IS INVALID.

説明: 次のいずれかが発生しました。

- 3 つ以上のパラメーターが指定された。
- パラメーターのいずれか 1 つまたは両方が指定されたが、英字で始まる 1 から 8 文字の英数字ではなかった。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G454 FOLLOWING DEFAULT TERMINAL SPECIFICATIONS ARE INVALID: *list*

説明: リストされたオペランドに関連した TERMINAL マクロのエラー・メッセージを参照してください。

エラーのあったオペランドの正しい指定については、IMS システム定義の説明にある TERMINAL マクロの説明を参照してください。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G455 FOLLOWING SPECIFICATIONS ARE IGNORED: *list*

説明: これは警告メッセージです。リストされたオペランドは、指定された UNITYPE ではこのオペランドの指定が認められていないため、無視されました。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

重大度: 2

G456 WARNING: SIZE OPERAND FOR DISPLAY EXCEEDS 255 AND MAY BE INCONSISTENT WITH VTAM REQUIREMENTS.

説明: SIZE= キーワードの行または桁のオペランドが 255 を超えています。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

重大度: 2

G457 FPACK/NFPACK OPERAND IGNORED

説明: 次のいずれかが発生しました。

- FPACK/NFPACK が、3601 または SLUTYPEP 以外の端末タイプに対して指定された。
- 3601 または SLUTYPEP 端末で、端末が高速機能に適格でない (FPBUF=0) 場合は、FPACK/NFPACK パラメーターが無視されます。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

重大度: 2

G458 SESSION BACKUP PARAMETER INVALID

説明: BACKUP キーワードが、次のいずれかの理由で無効です。

G460 • G508

- BACKUP キーワードの最初の値が、1 より小さいか、または 7 より大きい。
- BACKUP キーワードの 2 番目の値が、YES または NO ではない。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G460 ASR OPTION IS NOT VALID FOR THIS DEVICE TYPE

説明: これは警告メッセージであり、TYPE または TERMINAL マクロによって発行されます。OPTIONS パラメーターで ASR が指定されたが、ASR 指定は SNA VTAM 装置の場合のみ有効です。

システムの処置: ASR 指定は無視されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

重大度: 2

G470 TRSOSI/NOTRSOSI OPTIONS IGNORED

説明: TRSOSI/NOTRSOSI が、3270 VTAM または SLUTYPE2 以外の端末タイプに対して指定されました。

システムの処置: TRSOSI/NOTRSOSI 指定は無視されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

重大度: 2

G500 LINE SPECIFICATION CANNOT OCCUR BEFORE LINEGRP.

説明: IMS システム定義ステートメントの入力順序では、LINEGRP ステートメントは LINE ステートメントより先行しなければなりません。各 LINE ステートメントは、先行する LINEGRP ステートメントと共に使用しなければなりません。

G メッセージ G501 - G600

ここでは、次のメッセージについて説明します。

G501 LINE SPECIFICATION LIMIT EXCEEDED.

説明: LINE ステートメントの数と POOL ステートメントの数の和が、999 を超えてはなりません。

G502 LINE SPECIFICATION EXCEEDED FOR LINE GROUP.

説明: 回線指定が、回線グループの制限を超えました。2260 ローカル、3270 ローカル、SPOOL、および SYSIN/SYSOUT 回線の場合は、LINE を 1 つしか指定できません。

G503 REFERENCED CONFIG STMT NOT PREVIOUSLY DEFINED.

説明: CONFIG キーワード・オペランド・パラメーターが、この LINE ステートメントの前に定義されなかった CONFIG ステートメントのラベルを参照しています。

G504 REFERENCED IDLIST STMT NOT PREVIOUSLY DEFINED.

説明: IDS キーワード・オペランド・パラメーターが、この LINE ステートメントの前に定義されなかった IDLIST ステートメントのラベルを参照しています。

G505 REFERENCED LINE HAS NO TERMINAL.

説明: IDS キーワード・オペランド・パラメーターで参照された IDLIST ステートメントに関連する LINE ステートメントが、TERMINAL ステートメントと関連付けられていません。

G506 ADDR OPERAND IS OMITTED OR INVALID.

説明: 次のいずれかが発生しました。

- オペランドが、必要な場合に指定されなかった。
- オペランドが、3270 ローカルまたは 2260 ローカル回線グループに対して指定された。
- 指定された値が、3 桁の FFF までの 16 進数字ではない。
- 複数のパラメーターが指定された。

G507 ADDR VALUE HAS BEEN PREVIOUSLY SPECIFIED.

説明: システム定義で指定される回線アドレスは、すべて固有の値でなければなりません。

G508 BUFSIZE OPERAND IS OMITTED OR INVALID.

説明: BUFSIZE キーワードで問題が発生しました。次のいずれかの状態が検出されました。

- このキーワード・パラメーターが、3270 ローカル、7770-3、DISK、TAPE、または SPOOL 回線以外に対して指定された。
- このキーワード・パラメーターが、DISK、TAPE、または SPOOL 回線に対して指定されなかった。
- 7770 回線に対して 3 つ以上のパラメーターが指定されたか、これらの装置以外の回線に対して複数のパラメーターが指定された。
- 3270 ローカル回線の場合、300 から 32,000 の範囲の 10 進数以外の値が指定された。
- 7770 回線の場合、最初のパラメーターに 1 から 240 の 10 進数が指定されなかったか、または 2 番目のパラメーターに 1 から 250 の 10 進数が指定されなかった。
- DISK、TAPE、または SPOOL 回線の場合、パラメーターに 16 から 32,767 の 10 進数が指定されなかった。

G509 FOLLOWING OPERANDS ARE INVALID: list

説明: list には、CONFIG、FEAT、IDS、MODEL、RESP、または VERIFY のうちの 1 つ以上が含まれます。

オペランド別の考えられるエラーは次のとおりです。

CONFIG

- このキーワード・オペランドが、3275 回線以外の回線に対して指定された。
- 指定されたパラメーターが 8 文字より長い。
- 参照された CONFIG ステートメントが、前に定義されていなかった。

FEAT

- このキーワード・オペランドが、2770、2980、または 7770 回線以外の回線に対して指定された。
- 2770 または 2980 回線に対して、複数のパラメーターが指定されたか、あるいは、7770 回線に対して、3 つ以上のパラメーターが指定された。
- 最初のパラメーターが、7770 回線の場合に ABC または ABB ではなかったか、2770 回線の場合に BUFEXP または BUFEXP1 ではなかったか、あるいは、2980 回線の場合に BUFEXP ではなかった。
- 2 番目のパラメーターで、REPEAT または NOREPEAT が指定されなかった。

IDS

- このキーワード・オペランドが、3275 回線以外の回線に対して指定された。

- 指定されたパラメーターが 8 文字より長い。
- 参照された IDLIST ステートメントが、前に定義されていなかった。

MODEL

- 4 つ以上のパラメーターが指定された。
- 最初のパラメーターで 1 が指定されたが、後続のパラメーターが省略されていない。
- 最初のパラメーターで、交換回線に対して 2 が指定された。
- 最初のパラメーターが、1 または 2 ではなかった。
- 2 番目のパラメーターが、120、248、または 440 ではなかった。
- 3 番目のパラメーターが、28 以下で 4 の倍数の 10 進数ではなかった。

RESP

- 複数のパラメーターが指定された。
- オペランドに、LINE または TERM が指定されなかった。

VERIFY

- このキーワード・オペランドが、3275 回線以外の回線に対して指定された。
- パラメーターに、YES または NO が指定されなかった。

G520 3275 LINEGRP STMT MUST PRECEDE CONFIG STMT.

説明: CONFIG ステートメントは、3275 交換回線グループ内でのみ指定できます。

G521 CONFIG STATEMENT SPECIFICATION LIMIT EXCEEDED.

説明: 255 を超える CONFIG ステートメントが指定されました。

G522 ANTICIPATED 3275 TERMINAL SPECIFICATION WILL EXCEED MAXIMUM ALLOWABLE TERMINALS; CONFIG STATEMENT SPECIFICATION IS IGNORED.

説明: これは警告メッセージです。5000 端末がすでに定義されているので、この CONFIG ステートメントは無視されます。

G523 REQUIRED CONFIG STATEMENT LABEL OMITTED.

説明: 各 CONFIG ステートメントに、ラベルが付けられていなければなりません。

G524 FOLLOWING KEYWORD SPECIFICATIONS ARE INVALID: *list*

説明: *list* には、FEAT、MODEL、OPTIONS、PTRSIZE のうちの 1 つ以上が含まれます。

オペランド別の考えられるエラー条件は次のとおりです。

FEAT

- 4 つ以上のパラメーターが指定された。
- 有効なパラメーター指定がなかった。
- 矛盾するパラメーター指定があった。

MODEL

このオペランドに、1 または 2 が指定されなかった。

OPTIONS

- 3 つ以上のパラメーターが指定された。
- 有効なパラメーター指定がなかった。
- 矛盾するパラメーター指定があった。

PTRSIZE

このオペランドに、120、126、または 132 が指定されなかった。

G540 3275 LINE STMT MUST PRECEDE IDLIST STMT.

説明: IDLIST ステートメントは、3275 交換回線グループ内でのみ指定でき、前に LINE ステートメントがなければなりません。

G541 IDLIST STATEMENT SPECIFICATION LIMIT EXCEEDED.

説明: 1000 を超える IDLIST ステートメントが指定されました。

G542 LINE IDLIST STMT SPECIFICATION LIMIT EXCEEDED.

説明: 回線ごとに、IDLIST ステートメントは 1 つしか指定できません。

G543 SPECIFIED IDLIST STMT LABEL IS INVALID.

説明: 指定されたラベルが 8 文字を超えています。

G544 NO IDLIST STATEMENT POSITIONAL PARAMETERS SPECIFIED. IDLIST STATEMENT IS IGNORED.

説明: 定位置パラメーターが必要であるが、見つかりませんでした。

G545 MAXIMUM ALLOWABLE ID ENTRIES EXCEEDED.

説明: すべての IDLIST ステートメントで指定された定位置パラメーターの合計は、5000 を超えてはなりません。

G546 POSITIONAL PARAMETER IS INVALID; POSITIONAL PARAMETER NUMBER *number*

説明: 参照された定位置パラメーターの最初のサブリスト項目が 6 文字の英数字ではないか、または 2 番目のサブリスト項目が 8 文字を超える英数字でした。

G547 REFERENCED CONFIG STATEMENT NOT FOUND. POSITIONAL PARAMETER NUMBER *number*

説明: 参照された定位置パラメーターの 2 番目のサブリスト項目が、前に定義されていない CONFIG ステートメントのラベルを参照しています。

G560 MULT SYST SPECIFICATIONS MUST PRECEDE VTAM TERMINAL SPECIFICATIONS.

説明: 複数システム定義ステートメントは、VTAM 定義ステートメントの前になければなりません。

G561 MSLINK STATEMENT SPECIFICATION EXCEEDED.

説明: MSLINK ステートメントの数が、999 を超えてはなりません。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G562 PARTNER ID OMITTED OR INVALID.

説明: 次のいずれかが発生しました。

- 必要なオペランドが指定されなかった。
- 指定された PARTNER ID が、2 文字の英字フィールドではなかった。

- ASR が指定されたが、MSPLINK マクロで TYPE=VTAM が指定されなかった。
- ASR と NOASR の両方、または SYNCSESS と FORCSESS の両方が指定されました (例えば、OPTIONS=(ASR,NOASR))。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

G563 PARTNER ID PREVIOUSLY SPECIFIED.

説明: 指定された PARTNER ID が、前の MSLINK ステートメントで指定されたものと重複しています。

PARTNER ID は固有でなければなりません。

G567 OPTIONS OPERAND PRESENT, BUT MSPLINK IS OMITTED OR NOT MSC/VTAM.

説明: MSLINK マクロで OPTIONS オペランドが指定されたが、MSPLINK オペランドが省略されたか、指定された MSPLINK がタイプ MSC/VTAM ではありませんでした。

システムの処置: 示された値

(ASR、NOASR、SYNCSESS、または FORCSESS) が CTB 内に設定されます。

重大度: 2

G564 MSPLINK NAME INVALID OR NOT PREVIOUSLY DEFINED IN MSPLINK MACRO.

説明: 次のいずれかが発生しました。

- 指定された MSPLINK 名が、英字で始まらないか、または 1 から 8 文字の英数字ではない。
- 指定された MSPLINK 名が、前の MSPLINK ステートメントで定義されていなかった。
- 値が、ストリング「DFS」または「DBCDM」で始まるか、または予約語を含んでいる。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G568 MODE TABLE SPECIFICATION INVALID.

説明: このメッセージは、MSLINK または MSPLINK マクロ、あるいは DCLIST 内部マクロによって発行されることがあります。MODETBL 指定が、英字で始まらないか、または 1 から 8 文字の英数字ではない。このパラメーターは、MSPLINK マクロで TYPE=VTAM が指定された場合のみ有効です。

システムの処置: パラメーターは無視されます。

重大度: 2

G565 MSPLINK NAME SPECIFIED BY PREVIOUS MSLINK MACRO.

説明: 指定された MSPLINK 名が、前の MSLINK ステートメントで指定されたものと重複しています。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G570 MSLINK BACKUP PARAMETER INVALID

説明: MSLINK マクロの BACKUP キーワードに指定された値が、1 より小さいか、または 7 より大きな値です。

G566 OPTIONS PARAMETER INVALID

説明: このメッセージは MSPLINK または MSLINK マクロによって発行されることもあります。次のいずれかが発生しました。

- OPTIONS パラメーターで、SYNCSESS、FORCSESS、ASR、または NOASR 以外のオペランドが指定された。

G571 MSLINK LINKNAME INVALID

説明: 次のいずれかが発生しています。

- リンク名がブランクではなく、1 から 8 文字の名前ではありません。
- 値が、ストリング DFS または DBCDM で始まるか、または予約語を含んでいます。

システムの処置: ステージ 1 は完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G0579 MSPLINK, MSLINK AND MSNAME MUST HAVE AT LEAST ONE OF EACH MACRO TYPE SPECIFIED.

説明: メッセージ・テキストにリストされた MSC マクロの 1 つをコーディングする場合、それぞれのタイプを少なくとも 1 つ、システム定義にコーディングする必要があります。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: システム定義では、MSPLINK、MSLINK、および MSNAME のマクロのそれぞれを、少なくとも 1 つコーディングします。

重大度: 4

G580 MSNAME STATEMENT SPECIFICATION EXCEEDED.

説明: MSNAME ステートメントの数が、255 を超えてはなりません。

G581 MSNAME LINKNAME OMITTED OR INVALID.

説明: 次のいずれかが発生しました。

- 必要なオペランドが指定されなかった。
- MSNAME ステートメントに指定されたリンク名が、英字で始まっていないか、または 1 から 8 文字の英数字でなかった。

G582 SYSID SPECIFICATION OMITTED OR INVALID.

説明: 次のいずれかが発生しました。

- 必要なオペランドが指定されなかった。
- オペランドに、共に 1 から 255 の範囲の 2 つの数値オペランドが指定されなかった。
- 最初のパラメーターの値が、2 番目のものと等しい。

G583 SYSID SPECIFIED PREVIOUSLY AS A REMOTE OR LOCAL SYSID.

説明: SYSID に指定されたパラメーターが、前の

MSNAME ステートメントでリモートまたはローカルの SYSID として指定されたものと重複しています。

G584 MSLINK STATEMENT MUST PRECEDE MSNAME STATEMENT.

説明: IMS システム定義ステートメントの入力順序では、MSLINK ステートメントは MSNAME ステートメントより先行しなければなりません。各 MSNAME ステートメントは、先行する MSLINK ステートメントと共に使用しなければなりません。

G585 MSNAME IS A DUPLICATE LINKNAME.

説明: このリンク名は、前の MSNAME ステートメントのリンク名でも指定されていました。

G586 MSNAME IS DEFINED AS AN LTERM.

説明: 指定されたリンク名は、論理端末名としても定義されています。

G587 MSNAME IS DEFINED AS A TRANSACT CODE.

説明: 指定されたリンク名は、トランザクション・コードとしても定義されています。

G600 CTLUNIT SPECIFICATION CANNOT OCCUR BEFORE LINE. CTLUNIT STATEMENT IGNORED.

説明: IMS システム定義ステートメントの入力順序では、LINE ステートメントは CTLUNIT ステートメントより先行しなければなりません。CTLUNIT ステートメントは、先行する LINE ステートメントと共に使用しなければなりません。システム定義で、この CTLUNIT ステートメントは無視されました。このステートメントは、CTLUNIT ステートメントの最大カウンには加算されていません。

G メッセージ G601 - G800

ここでは、次のメッセージについて説明します。

G601 CTLUNIT SPECIFICATION LIMIT EXCEEDED.

説明: 1000 を超える CTLUNIT ステートメントが指定されました。

G602 CTLUNIT STMT IS INVALID FOR THIS LINEGRP.

説明: CTLUNIT ステートメントは、2260、2980、および 3270 リモート回線グループの場合のみ有効です。

G603 ADDR OPERAND IS OMITTED OR INVALID.

説明: 次のいずれかが発生しました。

- オペランドが省略された。
- オペランドが、有効な 2 桁の 16 進アドレスではなかった。
- 複数のパラメーターが指定された。
- オペランドが、2260 ローカル回線グループに対して指定された。
- オペランドが、2972 制御装置を表す英字 A から Z の 16 進表記ではなかった。

G604 WLA OPERAND IS INVALID.

説明: 次のいずれかが発生しました。

- オペランドが、2980 または 3270 リモート BTAM 回線グループに対して指定された。
- オペランドが、2260 ローカル回線グループに対して指定されたが、2 番目のパラメーターが省略されなかった。
- 3 つ以上のパラメーターが指定された。
- 最初のパラメーターが指定されたが、YES または NO ではなかった。
- 2 番目のパラメーターが指定されたが、1053 ではなかった。

G605 MODEL OPERAND IS INVALID.

説明: 次のいずれかが発生しました。 MODEL オペランドが、次のように指定されました。

- 2980 回線グループに対して。
- 3270 リモート BTAM 回線グループに対して、1 または 2 以外の値で。
- 2260 回線グループに対して、1、2、または 3 以外の値で。
- 複数のパラメーターを使用して。

G606 BUFSIZE OPERAND IS INVALID.

説明: 次のいずれかが発生しています。

- 複数のオペランドが指定された。
- オペランドが、2980 回線グループ以外の回線グループに対して指定された。
- 指定された値が、48 または 96 ではなかった。
- このオペランドに 96 が指定されたが、先行する LINE マクロで FEAT=BUFEXP が指定されなかった。

G650 STATION SPECIFICATION CANNOT PRECEDE LINE.

説明: IMS システム定義ステートメントの入力順序では、LINE ステートメントは STATION ステートメントより先行しなければなりません。STATION ステートメントは、先行する LINE ステートメントと共に使用しなければなりません。

G651 STATION STMT IS INVALID FOR THIS LINEGRP.

説明: STATION ステーションは、システム/3 およびシステム/7 回線グループにのみ有効です。

G653 ADDR OPERAND IS OMITTED OR INVALID.

説明: 次のいずれかが発生しました。

- 非コンテンション・ステーションの場合に、オペランドが省略された。
- オペランドに、2 桁の有効な 16 進数字が指定されなかった。
- 複数のパラメーターが指定された。

G654 ALIGN OPERAND IS INVALID.

説明: オペランドに 0、2、4、または 8 以外が指定されたか、あるいは複数のパラメーターが指定されました。

G655 TRANSLM OPERAND IS INVALID.

説明: オペランドに 0 から 15 の 10 進数以外が指定されたか、または複数のパラメーターが指定されました。

G656 TYPE OPERAND IS INVALID.

説明: 次のいずれかが発生しました。

- 最初のオペランドが、ASK または NOASK として指定されなかった。
- オペランドに、POSTPONE または NOPOSTPONE が指定されなかった。
- 3 つ以上のオペランドが指定された。

G657 FEAT OPERAND IS INVALID.

説明: 次のいずれかが発生しました。 FEAT オペランドが、次のように指定されました。

- PTTC/EBCD、PSEUDOBIN、または MIXED 以外の値で。
- 複数のパラメーターを使用して。

**G659 CONTENTION LINES MAY NOT BE
 MULTI-STATION.**

説明: システム/3 またはシステム/7 コンテンション回線に対して、2 番目またはそれ以降の STATION ステートメントが検出されました。コンテンツ回線に対しては、STATION ステートメントを 1 つしか指定できません。

**G700 TERMINAL SPECIFICATION
 CANNOT PRECEDE LINE.**

説明: IMS システム定義ステートメントの入力順序では、LINE ステートメントは TERMINAL ステートメントより先行しなければなりません。TERMINAL ステートメントは、先行する TYPE または LINE ステートメントと共に使用しなければなりません。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

**G701 3275 TERMINAL DEFINITION MUST
 PRECEDE CTLUNIT.**

説明: 3270 リモート BTAM 回線グループ内では、この回線に関する CTLUNIT ステートメントは、3275 TERMINAL ステートメントより前には指定できません。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

**G702 TERMINAL SPECIFICATION
 CANNOT PRECEDE CTLUNIT.**

説明: 3270 リモート BTAM 回線グループ内では、回線ごとの CTLUNIT ステートメントは、3270 リモート BTAM TERMINAL ステートメントより前に指定する必要があります。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

**G703 TERMINAL SPECIFICATION
 CANNOT PRECEDE STATION.**

説明: システム/3 およびシステム/7 TERMINAL ステートメントは、先行する STATION ステートメントと共に使用しなければなりません。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

**G705 ADDR OPERAND IS OMITTED OR
 INVALID.**

説明: ADDR オペランドで問題が発生しました。問題は、次のいずれかである可能性があります。

- VTAM 端末に対して ADDR オペランドが指定された。
- ADDR オペランドの指定が必要な端末に対してオペランドが省略された。
- オペランドが、定義された端末に応じて正しく指定されなかった。
- 複数のパラメーターが指定された。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

**G706 NAME OPERAND IS OMITTED OR
 INVALID.**

説明: 次のいずれかが発生しました。オペランドが次のとおりでした。

- VTAM 端末以外に対して指定された。
- VTAM 端末に対して指定されなかった。
- 英数字が 8 文字を超えていた。
- 英字で始まっていなかった。
- 複数のパラメーターが含まれていた。
- 値が、ストリング DFS または DBCDM で始まるか、または予約語を含んでいます。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G707 SPECIFIED VTAM NODE NAME IS A DUPLICATE.

説明: 指定された VTAM ノード名は、前に TERMINAL または MSPLINK マクロで VTAM ノード名として指定されました。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G708 OUTPUT EDIT ROUTINE REQUEST IS IGNORED.

説明: これは警告メッセージです。この端末に対して出力編集ルーチンを要求するために、この TERMINAL ステートメントで EDIT=YES が指定されたが、それぞれの編集ルーチン名が、この TERMINAL ステートメントに関連する TYPE または LINEGRP ステートメントを使用して指定されていません。

システムの処置: OUTPUT EDIT 指定は無視されません。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

重大度: 2

G709 INPUT EDIT ROUTINE REQUEST IS IGNORED.

説明: これは警告メッセージです。この端末に対して入力編集ルーチンを要求するために、この TERMINAL ステートメントで EDIT=YES が指定されたが、それぞれの編集ルーチン名が、この TERMINAL ステートメントに関連する TYPE または LINEGRP ステートメントを使用して指定されていません。

システムの処置: INPUT EDIT 指定は無視されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

重大度: 2

G710 LTERM OPERAND IS REQUIRED.

説明: このオペランドは、READER 端末の場合に必要です。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G711 LTERM VALUE IS NOT A PREVIOUSLY-DEFINED LTERM.

説明: 参照された NAME ステートメントが、この TERMINAL ステートメントの前にありません。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G712 LTERM VALUE CHANGED TO INDICATE THE FIRST NAME FOR DESIGNATED TERMINAL-name

説明: これは警告メッセージです。参照された TERMINAL ステートメントの下で定義された最初の論理端末名以外を選択しようとしてしました。

システムの処置: LTERM 値は変更されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

重大度: 2

G713 IDLIST STMT REQUIRED FOR THIS TERMINAL STMT

説明: この 3275 交換回線端末に対する LINE ステートメントの指定 (VERIFY=YES) のため、この TERMINAL ステートメントの前に IDLIST ステートメントの指定が必要です。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G715 ADDR VALUE HAS BEEN PREVIOUSLY SPECIFIED.

説明: 指定された 3270 BTAM ADDR キーワード・オペランド値が、前に指定された非 3270 BTAM 回線アドレスと等しいか、または前に指定された 3270 BTAM 端末 ADDR キーワード・オペランド値と等しい値です。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G716 MULTI-DROP 2740 NSC, 2741, LOCAL 3284/3286 WITH 3277, AND SYSIN/SYSOUT TERMINALS INVALID.

説明: 次のいずれかが発生しました。

- 1 つの回線に、複数の 2741 または LOCAL READER/SYSOUT 端末が指定された。
- LINEGRP ステートメントで、FEAT=NONSWITCHED および UNITYPE=(2740,NOSTACTL) が指定された。しかし、その回線に、複数の TERMINAL ステートメントが指定された。回線ごとに、2740 非端末局制御端末は 1 つしか指定できません。
- 3277 端末と同じ回線上にある 3284/3286 印刷装置に対して、ローカル 3270 回線が指定された。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G717 SESSION BACKUP PARAMETER INVALID

説明: TERMINAL マクロで、次のいずれかの BACKUP キーワード制限に違反がありました。

- 最初の BACKUP 値は、NO または 1 から 7 の値に設定しなければならない。
- 2 つの BACKUP 値が指定される場合、2 番目の BACKUP 値は YES または NO に設定しなければならない。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G719 SWITCHED TERMINALS CANNOT BE MULTI-DROPPED.

説明: この TERMINAL ステートメントは、交換回線上に 2 番目またはそれ以降の端末を定義しています。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G720 LUTYPE6 LINK ALREADY DEFINED FOR XRF

説明: アクティブ・システムと代替システムとの間の通信用のシステム間連絡 (ISC) リンクが、2 つのオペランド (ノード名) を含む前の NAME キーワードによってすでに定義されていました。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G721 THE FOLLOWING OPERANDS ARE INVALID: list

説明: このリストには、次に示すものが 1 つ以上含まれています。BUFSIZE、COMPT(N)

、EDIT、ERROPT、FEAT、FPBUF、HEADCTL、LTERM、MDISEG、MODEL、MODETBL、MSGDEL、OPTIONS、OUTBUF、PAGDEL、PTRSIZE、PTSEG、REPLACE、SEGSIZE、SESSION、SIZE、TYPE、UNIT、または VERCHK。

オペランド別にリストされた下記のエラーのいずれかが検出されました。

BUFSIZE

- このキーワード・オペランドが、3284/3286 付きの 3270 端末、PTR1 コンポーネント付きの 3275 端末以外に対して指定された。
- このオペランドは、PTRSIZE キーワード・オペランドが指定された場合、3270 および 3275 端末には無効である。
- 複数のパラメーターが指定されたか、あるいは指定されたパラメーターが 120、126、または 132 ではなかった (3270/3275 の場合)。

COMPT(N)

- このキーワード・オペランドが、3270 リモート、3601、SLUTYPE1、SLUTYPEP、および LUTYPE6 以外の端末タイプに対して指定された。
- 指定されたパラメーターが固有ではなかった。
- FEAT=INPUT が指定されたが、COMPT= キーワード・オペランドが指定されなかった。
- パラメーターと端末タイプについては、特定の組み合わせのみが有効である。

有効な組み合わせについては、IMS システム定義の説明にある TERMINAL マクロの説明を参照してください。

EDIT

- 3 つ以上のパラメーターが指定された。
- 指定されたパラメーターのいずれかが、YES または NO ではなかった。

ERROPT

- 磁気データ記録機 (MDI) コンポーネントを含む端末以外に対して、このオペランドが指定された。
- オペランドが IGNORE、ACCEPT、または REJECT ではなかった。

FEAT

- オペランドが、このような指定ができない端末タイプに対して指定された。
- オペランドが、端末タイプに応じて正しく指定されなかった。

FPBUF

- 複数のパラメーターが指定された。
- ゼロ以外のオペランドが、このような指定ができない端末タイプに対して指定された。
- 指定されたオペランドが、ゼロではなかったか、または 12 から 32 767 (この端末に対して出力編集が指定されている場合は 32 757 まで) の範囲の 10 進数ではなかった。
- ゼロ以外のオペランドが、NORESP、BID、NPGDEL、または (PAGDEL=NO) のいずれかのオプションが指定またはデフォルト指定された端末に対して指定された。
- 指定された値が、MSGQUEUE マクロの RECLING= パラメーターで指定された長メッセージ・キュー・データ・セットの論理レコード長以下でなければならない。

HEADCTL

- オペランドに、0 から 28 の範囲で 4 の倍数の 10 進数が指定されなかった。
- 複数のパラメーターが指定された。

LTERM

- 複数のパラメーターが指定された。
- オペランドが、交換回線端末に対して指定された。
- 指定された LTERM が、マスター端末または 2 次マスター端末に関連付けられている。
- VTAM 端末には、LTERM オペランドを指定できない。共用 LTERM は、VTAM ではサポートされません。

MDISEG

- 磁気データ記録機 (MDI) コンポーネントを含む端末以外に対して、このオペランドが指定された。
- オペランドが、10 000 より小さい 10 進数ではなかった。

MODEL

- オペランドが、3270 端末以外に対して指定された。
- 複数のパラメーターが指定された。
- パラメーターが指定されたが、1 または 2 ではなかった。

MODETBL

- 複数のパラメーターが指定された。
- パラメーターが 8 文字を超えていた。
- パラメーターが英字で始まっていなかった。
- 255 を超える固有のモード・テーブル項目数が指定された。

MSGDEL

- 指定された論理端末が、IMS マスター端末として定義されている。
- オペランドに、NONE、SYSINFO、または NONIOPCB が指定されなかった。
- 複数のパラメーターが指定された。

OPTIONS

- 定義された端末タイプに対して、制限を超えるオプションが指定された。
- 指定されたパラメーターの 1 つ以上が無効である。

OUTBUF

- オペランドが、指定できない端末タイプに対して指定された。
- 複数のパラメーターが指定された。
- パラメーターが指定されたが、その端末タイプに対して受け入れ可能な範囲内の 10 進数ではなかった。

PAGDEL

- オペランドに、YES または NO が指定されなかった。
- 複数のパラメーターが指定された。

PTRSIZE

- このキーワード・オペランドが、3284/3286 付きの 3270 端末、PTR1 コンポーネント付きの 3275 端末以外に対して指定された。
- 複数のパラメーターが指定されたか、あるいは指定されたパラメーターが 120、126、または 132 ではなかった。

PTSEG

- オペランドが、紙テープ (PT) または紙テープ読取装置 (PTRDR) コンポーネントを含む端末以外に対して指定された。
- オペランドが、10 000 より小さい 10 進数ではなかった。

REPLACE

- 磁気データ記録機 (MDI) コンポーネントを含む端末以外に対して、このオペランドが指定された。
- オペランドが、2 桁の 16 進数字ではなかった。

SEGSIZE

- 複数のパラメーターが指定された。
- オペランドが、このような指定ができない端末タイプに対して指定された。
- 指定されたパラメーターが、その端末タイプに対して受け入れ可能な範囲内の 10 進数ではなかった。

SESSION

- このオペランドが、LUTYPE6 以外の端末タイプに対して指定された。
- 指定されたパラメーターが、1 から 255 の範囲の 10 進数ではなかった。

SIZE

- パラメーターが、ちょうど 2 つではなかった。
- 最初の値が 1 から 16 384 の範囲の数値ではない。
- 2 番目の値が 2 から 16384 の範囲の数値ではない。
- 2 つの値の積が、80 から 16 384 の範囲の数値ではない。
- オペランドが、3270 または SLUTYPE2 以外の端末タイプに対して指定された。
- オペランドが、UNIT=3284 または 3286 も指定された端末に対して指定された。

TYPE

- パラメーターが、「3270-Ann」のフォーマットではなかった。ここで、「nn」は、1 から 9 の範囲の 1 桁の数字、または 01 から 15 の範囲の 2 桁の数字です。
- オペランドが、3270 または SLUTYPE2 以外の端末タイプに対して指定された。
- オペランドが、UNIT=3284 または 3286 も指定された端末に対して指定された。

UNIT

- オペランドが、指定できない回線グループ内の端末に対して指定された。
- オペランドが正しく指定されなかった。

3270 ローカル回線グループの場合、UNIT キーワード・オペランドの指定は、LINE マクロの BUFSIZE キーワード・オペランドの指定とまったく矛盾します。

有効なオペランドについては、IMS システム定義情報の中の TERMINAL マクロの説明を参照してください。

VERCHK

- 磁気データ記録機 (MDI) コンポーネントを含む 2770 端末以外に対して、このオペランドが指定された。
- オペランドが、NOCHK または VOKCHK ではなかった。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G722 THE FOLLOWING OPERANDS ARE IGNORED: list

説明: これは警告メッセージです。list には、MSGDEL、MODETBL、NORELRQ、OPTIONS、PAGEDEL、または RELRQ のうちの 1 つ以上が含まれます。

オペランド別にリストされた下記のエラーのいずれかが検出されました。

MSGDEL

VTAM 端末の場合、NONE の指定は無視され、デフォルトの SYSINFO が使用される。

MODETBL

オペランドが、このような指定ができない端末タイプに対して指定された。

NORELRQ

- VTAM 端末以外の場合、NORELRQ は無視され、RELRQ が使用される。
- 有効な端末では、NORELRQ と RELRQ の両方が指定されれば、NORELRQ は無視され、RELRQ が使用される。

OPTIONS

- 正しい COMPT オペランドの指定がない 2770 および 3601 端末の場合、NPGDEL および PAGDEL は無視される。
- 3600 および SLUTYPEP 端末の場合、FPACK または NFPACK は、FPBUF=0 であれば無視される。
- 3270 および SLUTYPE2 端末の場合、TRSOSI または NOTRSOSI は無視される。

PAGDEL

正しいコンポーネントを持たない 2770 および 3601 端末の場合、PAGDEL は無視される。

RELRQ

- VTAM 3270 ローカル端末および VTAM 3275/3277 3275/3277 リモート端末の場合、RELRQ は無効なオプションであり、無視される。

- SLUTYPE2 端末の場合、RELRQ は無効なオプションであり、無視される。
- NTO 端末の場合、RELRQ は無効なオプションであり、無視される。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G723 COMBINATION OF FORCED RESPONSE AND NO AUTOMATIC PAGE DELETION IS NOT RECOMMENDED, AND MAY CAUSE OTHER THAN DESIRED RESULTS DURING EXECUTION.

説明: これは警告メッセージです。OPTIONS=FORCRESP と OPTIONS=NPGDEL または PAGDEL=NO を組み合わせると、実行時に端末がロック状態になることがあります。

システムの処置: 処置は取られません。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

重大度: 2

G724 WARNING: SIZE OPERAND FOR DISPLAY EXCEEDS 255 AND MAY BE INCONSISTENT WITH VTAM REQUIREMENTS

説明: これは警告メッセージです。SIZE パラメーターのいずれかで、SLUTYPE2 端末に対して、255 を超える行数または桁数が指定されました。これにより、VTAM BIND パラメーターとの矛盾が生じる可能性があります。

システムの処置: 処置は取られません。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

重大度: 2

G725 TYPE/SIZE PARAMETER COMBINATION IS INVALID

説明: 次のいずれかが発生しました。

- このシンボル名に対して、有効な画面サイズが宣言されていない。
- この画面サイズに対して、シンボル名が指定されていない。
- 指定されたシンボル名に宣言された画面サイズが、同じシンボル名に対して前に宣言されたものと同じではない。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G728 SECOND NODE NAME FOR MASTER ALREADY DEFINED OR INVALID

説明: マスター端末に対する 2 番目のオペランド (ノード名) が無効であったか、または前の TERMINAL マクロの NAME キーワードですでに定義されています。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G729 NAMES DO NOT MATCH APPLID NAMES IN COMM MACRO

説明: アクティブ・システムと代替システムとの間の通信のシステム間連絡 (ISC) リンクを定義するには、TERMINAL マクロの NAME キーワードの両方のオペランド (ノード名) が、COMM マクロの APPLID キーワードのオペランドと一致しなければなりません。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G730 ASR OPTION IS NOT VALID FOR THIS DEVICE TYPE

説明: これは警告メッセージであり、TYPE または TERMINAL マクロによって発行されることがあります。OPTIONS パラメーターで ASR が指定されたが、ASR 指定は SNA VTAM 装置の場合のみ有効です。

システムの処置: ASR 指定は無視されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

重大度: 2

G731 NUMBER OF VTAM TERMINALS DEFINED EXCEEDS MAXIMUM

説明: 定義された VTAM 端末の数が最大値を超えました。定義した端末の数を削減してください。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

G732 • G809

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G732 DPM-xxx NOT VALID FOR LU6 XRF LINK, DEFAULT ASSUMED.

説明: XRF/ISC リンクでは DPM=xxx サブパラメーターが使用できないため、TERMINAL マクロによって、このメッセージが出力されます。

システムの処置: デフォルト値の VLVB が使用されま

す。
プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

重大度: 2

G メッセージ G801 - G900

ここでは、次のメッセージについて説明します。

G802 COMPT OPERAND IS INVALID.

説明: 次のいずれかが発生しました。

- オペランドが、このような指定ができない端末タイプに対して指定された。
- オペランドが、定義された端末タイプに応じて正しく指定されなかった。端末ごとの有効な指定の説明については、IMS システム定義の情報を参照してください。

G803 OUTPUT TERMINAL NOT DEFINED OR INVALID

説明: 次のいずれかが発生しました。

- 指定された OUTPUT キーワード・オペランドが、前の TERMINAL ステートメントに先行する、TERMINAL ステートメントのラベル・フィールドとして指定されていない。
- VTAM LTERM は、分割 LTERM として定義できない。VTAM の場合、入力端末と出力端末は同じ物理端末でなければなりません。

G804 EDIT OPERAND IS INVALID.

説明: 次のいずれかが発生しました。

- オペランドに 3 つ以上のパラメーターが含まれていた。
- 最初のパラメーターが指定されたが、YES または NO ではなかった。
- 2 番目のパラメーターが指定されたが、UC または ULC ではなかった。

G805 LTERM PARAMETER number IS

G800 NAME SPECIFICATION CANNOT PRECEDE TERMINAL OR MSNAME. NAME STATEMENT IGNORED.

説明: IMS システム定義ステートメントの入力順序では、TERMINAL または MSNAME ステートメントは NAME ステートメントより先行しなければなりません。NAME ステートメントは、先行する TERMINAL または MSNAME ステートメントと共に使用しなければなりません。システム定義は、この NAME ステートメントを無視し、参照される名前が重複しているかどうかを検査しませんでした。このステートメントは、端末およびリモート端末の最大カウントには加算されていません。

OMITTED OR INVALID.

説明: 次のいずれかが発生しました。

- 定位置パラメーターが指定されなかった。
- 定位置パラメーターで、3 つ以上のサブパラメーターが指定された。
- 最初のサブパラメーターが指定されたが、1 から 8 文字の名前ではなかった。
- 2 番目のサブパラメーターが指定されたが、MASTER または SECONDARY ではなかった。

G806 SPECIFIED LTERM IS A DUPLICATE-name.

説明: 論理端末名 (メッセージ・テキストの name) は以前に指定されました。

G807 SPECIFIED LTERM PREVIOUSLY DEFINED AS A TRANSACTION CODE-name.

説明: トランザクション・コードおよび論理端末の名前は全体として固有でなければなりません。名前 name を複数回にわたって定義しました。

G808 MULTIPLE MASTER SPECIFICATIONS ARE INVALID.

説明: NAME ステートメントの LTERM 定位置パラメーターで、サブリストとして指定され、かつ MASTER と指定された 2 番目のパラメーターを含んでいるものが、前に指定されました。

G809 MULTIPLE SECONDARY

SPECIFICATIONS ARE INVALID.

説明: NAME ステートメントの LTERM 定位置パラメーターで、サブパラメーター SECONDARY が指定されたものが、前に指定されています。

G810 OUTPUT OPERAND IS INVALID FOR MASTER OR SECONDARY MASTER TERMINAL.

説明: LTERM 定位置パラメーターで、MASTER または SECONDARY MASTER 端末が定義されている場合に、OUTPUT オペランドが指定されました。

G811 ICOMPT/COMPT OPERAND SPECIFICATION IS INVALID FOR MASTER SPECIFICATION.

説明: COMPT および ICOMPT オペランドは、MASTER 端末を定義する際には、コンソール・コンポーネントを参照しません。

G812 MASTER OR SECONDARY MASTER TERMINAL CANNOT BE ON A SWITCHED LINE.

説明: この NAME ステートメントで、MASTER または SECONDARY MASTER 端末が定義されました。しかし、LINEGRP ステートメントでは、FEAT=SWITCHED が指定されました。これは無効な組み合わせです。IMS マスター端末または 2 次マスター端末は、交換回線上では作動できません。

G813 MASTER TERMINAL MUST BE A 1050, 2740, 3275, 3277, SLUTYPE2, or 3767/3770/SLUTYPE1 CONSOLE.

説明: MASTER 端末として許容されるのは、1050、2740、3275、3277、SLU タイプ 2 として定義された端末、3767、3770 として定義された端末のコンソール・コンポーネント、または SLU タイプ 1 として定義された端末のコンソール・コンポーネントのみです。2740 端末では、端末局制御機構を含めなければなりません。

G814 SECONDARY MASTER TERMINAL MUST BE A 1050, 2740, 3284, 3286, 3767, 3770, SLUTYPE1, SPOOL, OR PRINTER.

説明: SECONDARY MASTER 端末として許容されるのは、1050、2740、328x、3767、3770 のコンソール・コンポーネント、SLU タイプ 1 として定義された端末のコンソールまたは 3784 コンポーネント、SPOOL ま

たは PRINTER として定義された回線グループ上の端末のみです。

システムの処置: ステージ 1 アセンブリーは失敗します。

プログラマーの応答: 許容される端末タイプのいずれかを、2 次マスターに指定します。

重大度: 4

G815 PRIMARY MASTER-SECONDARY MASTER COMBINATION SPECIFICATION INVALID.

説明: 1050 端末タイプを指定しました。ただし、マスター端末および 2 次マスター端末が同じ物理端末に関連付けられていません。

G816 NAME STMT INVALID FOR PRECEDING TERMINAL STMT.

説明: 次のいずれかが発生しました。

- LTERM キーワード・オペランド指定を含む TERMINAL ステートメント、または交換回線グループ内の TERMINAL ステートメントの後に、NAME ステートメントを続けることはできない。
- NAME マクロ・ステートメントが、1 より大きな値を指定した SESSION キーワード・オペランドを含む TERMINAL ステートメントの後に続いた。並列セッションが定義されている場合、関連する論理端末名は SUBPOOL 内に指定しなければならない。
- XRF 固定 LUTYPE6 監視リンクを定義する場合は、複数の LTERM 名は無効である。

システムの処置: ステージ 1 アセンブリーは失敗します。

プログラマーの応答: エラーの原因になっている NAME マクロ・ステートメントを除去します。

重大度: 4

G817 ICOMPT OPERAND IS INVALID.

説明: 次のいずれかが発生しました。

- オペランドが、このような指定ができない端末タイプに対して指定された。
- オペランドが、定義された端末タイプに応じて正しく指定されなかった。
- オペランドが、端末の出力専用コンポーネントを参照した。

G818 MSGDEL=NONIOPCB INVALID FOR MASTER OR SECONDARY MASTER TERMINAL.

説明: MASTER または SECONDARY は、次の場合には指定できません。

- 先行する TERMINAL ステートメントで、MSGDEL=NONIOPCB が指定された。
- 先行する TYPE ステートメントから、MSGDEL=NONIOPCB が暗黙指定された。
- この端末に対して、UNITYPE=3790 が指定された。

G819 ICOMPT OPERAND SPECIFICATION IS INVALID FOR SECONDARY SPECIFICATION.

説明: ICOMPT オペランドが、SECONDARY MASTER 端末を定義するために、端末の最初のコンポーネントを参照していません。

G820 SPECIFIED LTERM PREVIOUSLY DEFINED AS AN MS LINKNAME-name.

説明: 指定された論理端末名が、前に、複数システム・リンク名を定義するために使用されました。

G821 RESERVED NAME WAS USED FOR LTERM.

説明: 値が、ストリング DFS または DBCDM で始まるか、または予約語を含んでいます。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

IMSGEN

G822 THE NUMBER OF LTERMS DEFINED EXCEEDS THE MAXIMUM

説明: ステージ 1 システム定義で定義された LTERM の数が、1 つの DFSCLCxy モジュールに含むことができる数を超えています。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 定義済みの LTERM の数を少なくするか、ETO 機能を使用してください。

重大度: 4

G898 UPDTPRT KEYWORD PARAMETER IS INVALID

説明: UPDTPRT キーワードに ON または OFF が含まれていないか、複数のパラメーターがあります。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G899 ONLY 2 SUBPARAMETERS ARE ALLOWED FOR ONEJOB= KEYWORD

説明: ONEJOB= キーワードでは、3 つ以上のサブパラメーターを指定してはならず、また、値が YES または NO でなければなりません。

システムの処置: ステージ 1 アセンブリーは正常に完了しません。

プログラマーの応答: おそらく構文エラーです。

IMSGEN マクロの ONEJOB= パラメーターを訂正し、ステージ 1 アセンブリーを再実行します。

重大度: 4

G900 ONEJOB KEYWORD PARAMETER 1 OR 2 IS INVALID

説明: ONEJOB= サブパラメーターでは、値 YES または NO を括弧内に指定する必要があります。

システムの処置: ステージ 1 アセンブリーは正常に完了しません。

プログラマーの応答: おそらく構文エラーです。

IMSGEN マクロの ONEJOB= パラメーターを訂正し、ステージ 1 アセンブリーを再実行します。

重大度: 4

G メッセージ G901 - G1000

ここでは、次のメッセージについて説明します。

G901 JOBCTL= AND/OR SCL= PARM 1 WILL BE IGNORED WITH ONEJOB= PARM SPECIFIED

説明: JOBCTL= および SCL= のサブパラメーター 1 は、ONEJOB= と互いに排他的です。ONEJOB=YES キーワードが指定された場合、SCL= および JOBCTL= のサブパラメーター 1 は無視されます。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

重大度: 2

G902 TERM OPERAND IS INVALID; DEFAULT OF 'NO' ASSUMED.

説明: TERM オペランドに指定するパラメーターは、YES、NO、またはヌル値でなければなりません。

システムの処置: デフォルト値の NO が使用されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

重大度: 2

G903 MSGQUEUE STATEMENT NOT SPECIFIED.

説明: DB/DC 環境では、MSGQUEUE ステートメントが必要です。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G905 NO APPLCTN SPECIFICATIONS.

説明: この IMS システム定義内に、APPLCTN ステートメントが指定されていません。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G906 NO TRANSACTIONS SPECIFIED FOR THIS APPLCTN.

説明: これは警告メッセージです。次のいずれかが発生しました。

- TRANSACT ステートメントが後に指定されていない APPLCTN ステートメントが見つかった。
- IMS システム定義への入力で、TRANSACT ステートメントが指定されなかった。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

重大度: 2

G908 NO DATA BASE SPECIFICATIONS.

説明: これは警告メッセージです。IMS システム定義への入力で、DATABASE ステートメントが指定されなかった。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

重大度: 2

G909 NO COMMUNICATION SPECIFICATIONS.

説明: この IMS システム定義内には、VTAM 端末または複数システム通信リンクが定義されていません。

システムの処置: ステージ 1 処理は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G910 NO LINES SPECIFIED FOR THIS LINEGRP.

説明: この LINEGRP 定義内に、LINE ステートメントが指定されていません。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G911 NO TERMINALS SPECIFIED FOR THIS LINE.

説明: 定義される LINE に対して、TERMINAL ステートメントが指定されていません。以前に通信構成エラー

G912 • G919

ーを示すエラー・メッセージを受け取っていた場合、このエラー・メッセージが誤って生成される可能性があります。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G912 NO CTLUNITS SPECIFIED FOR THIS LINE.

説明: 定義される回線に対して、CTLUNIT ステートメントが指定されていません。以前に通信構成エラーを示すエラー・メッセージを受け取っていた場合、このエラー・メッセージが誤って生成される可能性があります。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G913 NO TERMINALS SPECIFIED FOR THIS CTLUNIT.

説明: 定義される CTLUNIT に対して、TERMINAL ステートメントが指定されていません。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G914 NO NAMES SPECIFIED FOR THIS TERMINAL.

説明: 定義される TERMINAL に対して、NAME ステートメントが指定されていません。したがって、この物理端末には論理端末名が指定されていません。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G916 THE FESEXIT KEYWORD COMM MACRO IS MISSING OR INVALID

説明: FESEXIT=YES が必要であるが、COMM マクロには FESEXIT=NO がコーディングされました。

システムの処置: ステージ 1 は、戻りコード 4 で完了します。

プログラマーの応答: フロントエンド・スイッチを活動化するには、TERMINAL マクロで OPTION=FES、および COMM マクロで FESEXIT=YES の両方を指定します。FES を非活動化するには、OPTION= および FESEXIT= ステートメントを完全に除去するか、または OPTION=NOFES および FESEXIT=NO を指定します。OPTION=NOFES および FESEXIT=NO はデフォルトです。

重大度: 2

G917 NO MASTER TERMINAL SPECIFICATION.

説明: 論理端末パラメーターに MASTER 指定を定義した NAME ステートメントがありません。このシステムに IMS マスター端末を定義する必要があります。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G918 PROCLIB OPERAND IS INVALID; DEFAULTS ASSUMED.

説明: これは警告メッセージです。次のいずれかが発生しました。

- オペランドに 3 つ以上のパラメーターが含まれていた。
- 最初のパラメーターが指定されたが、YES または NO ではなかった。
- 2 番目のパラメーターが指定されたが、10 進数ではなかった。

システムの処置: デフォルト値の PROCLIB=(YES,7) が使用されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

重大度: 2

G919 MACLIB OPERAND IS OBSOLETE.

説明: システム定義で、マクロ用のコピーのジョブ・ステップが作成されなくなりました。SMP/E は、下位の名前に ADFSMAC および SDFSMAC を使用して、データベースにマクロを取めます。

システムの処置: システム定義は継続します。

プログラマーの応答: 処置は必要ありません。

IMSGEN マクロ呼び出しから MACLIB オペランドを除去して、次のシステム定義実行時にこのメッセージが除去されるようにします。

重大度: 2

**G920 PAGE OPERAND IS INVALID;
DEFAULT ASSUMED.**

説明: これは警告メッセージです。PAGE オペランドを YES または NO として指定する必要があります。

システムの処置: デフォルト値の PAGE=NO が使用されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

重大度: 2

**G921 PAGE SPECIFICATION WILL BE
INEFFECTIVE.**

説明: これは警告メッセージです。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了します。

プログラマーの応答: IMSGEN マクロの PAGE キーワードの指定については、IMS システム定義の情報を参照してください。

重大度: 2

**G922 SUFFIX OPERAND IS INVALID;
DEFAULT ASSUMED.**

説明: これは警告メッセージです。SUFFIX キーワード・オペランドが 1 文字の英数字で指定されなかった。

システムの処置: デフォルト値の 0 が使用されます。

プログラマーの応答: 使用すべき接尾部が 0 でない場合は、SUFFIX オペランドを変更します。

重大度: 2

**G923 THE FOLLOWING OPERANDS ARE
INVALID: list**

説明: このリストには、OBJDSET、USERLIB、SYSMAC、MODGEN、UMAC1、UMAC2、または UMAC3 のうちの 1 つ以上が含まれます。

指定されたオペランドが、44 文字を超える英数字であるか、または英字で始まっていません。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

**G925 ASMPRT OPERAND IS INVALID;
DEFAULT ASSUMED.**

説明: これは警告メッセージです。ASMPRT オペランドを ON または OFF として指定する必要があります。

システムの処置: デフォルト値の OFF が使用されません。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

重大度: 2

**G926 {JCL AND/OR SCL|JOBCTL AND/OR
PRTY} KEYWORD SPECIFICATIONS
INVALID. {JCL AND/OR
SCL|JOBCTL AND/OR PRTY}
DEFAULTS ASSUMED.**

説明: これは次の指定が無効であることを示す警告メッセージです。

- JCL または SCL、あるいは両方。
- JOBCTL キーワードまたは PRTY キーワード、あるいは両方。

システムの処置: デフォルト値が使用されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

重大度: 2

**G928 NO TERMINALS SPECIFIED FOR
THIS STATION.**

説明: 定義される STATION に対して、TERMINAL ステートメントが指定されていません。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

**G929 THE FOLLOWING REMOTE 3270
TERMINAL CONFIGURATION IS
INVALID IN RESPECT TO THE
COPY FEATURE SPECIFIED FOR
TERMINAL ADDRESS.**

説明: このリモート 3270 回線グループ内で、示された 3277 端末に対して TERMINAL ステートメントで COPY 機能の使用が指定されたが、候補プリンターが見つからないか、または 3277 端末の型式番号といずれかの候補プリンターの型式番号に互換性がありません。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

G930 • G937

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G930 ASM OPERAND IS INVALID; DEFAULT OF 'HLASM,SYSLIN' ASSUMED.

説明: 次のいずれかが発生しました。

- 最初のサブパラメーターが高水準アセンブラーではなかった。この値が、最初のサブパラメーターに有効な唯一の値です。
- 3 つ以上のサブパラメーターが指定された。
- 2 番目のサブパラメーターが英数字で始まっていなかった。
- 2 番目のサブパラメーターが 8 文字より長かった。

システムの処置: デフォルト値 'HLASM,SYSLIN' が使用されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

重大度: 2

G931 LKSIZE OPERAND IS INVALID; DEFAULT ASSUMED.

説明: これは警告メッセージです。次のいずれかが発生しました。

- 3 つ以上のパラメーターが指定された。
- 最初のパラメーターの指定が、最大指定の 16384000 (または 16000K) を超えた。
- 2 番目のパラメーターの指定が、最大指定の 65520 (または 63K) を超えた。

システムの処置:

バインダー SIZE オプションのデフォルトが使用されません。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

重大度: 2

G932 LKRGN OPERAND IS INVALID; DEFAULT ASSUMED.

説明: これは警告メッセージです。複数のパラメーターが指定されたか、またはパラメーターの長さが 6 文字を超えています。

システムの処置:

デフォルト値の 4M が使用されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

重大度: 2

G933 MFSTEST OPERAND IS INVALID.

説明: 次のいずれかが発生しました。

- 3 つ以上のパラメーターが指定された。
- 最初のパラメーターが指定されたが、YES または NO ではなかった。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G935 SYSMMSG OPERAND IS INVALID; DEFAULT ASSUMED.

説明: これは警告メッセージです。指定されたオペランドが、TIMESTAMP または NOTIMESTAMP ではありません。

システムの処置: デフォルト値の NOTIMESTAMP が使用されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

重大度: 2

G936 NODE OPERAND IS INVALID-operand.

説明: 指定されたオペランドが、8 文字を超える英数字を含んでおり、文字 @、\$, または # で始まっていません。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G937 IMSPLEX OPERAND IS INVALID. operand

説明: *operand* に示されたオペランドが、(組み込みピリオドを含め) 35 文字を超えているか、修飾子が英字、@、\$, または # 以外の文字で始まっているか、また z/OS データ・セット命名規則に違反しています。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

**G939 SECCNT OPERAND IS INVALID;
 DEFAULT ASSUMED.**

説明: これは警告メッセージです。指定されたオペランドが、0 から 3 の範囲の 10 進数ではありません。

システムの処置: デフォルト値の 0 が使用されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

重大度: 2

**G940 PSWDSEC OPERAND IS INVALID;
 DEFAULT ASSUMED.**

説明: これは警告メッセージです。指定されたオペランドが、YES、NO、または FORCE ではありません。

システムの処置: デフォルト値の NO が使用されません。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

重大度: 2

**G941 TERMSEC OPERAND IS INVALID;
 DEFAULT ASSUMED.**

説明: これは警告メッセージです。指定されたオペランドが、YES、NO、または FORCE ではありません。

システムの処置: デフォルト値の NO が使用されません。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

重大度: 2

**G942 SECONDARY MASTER
 SPECIFICATION OMITTED OR
 INVALID.**

説明: 3277 1 次マスター端末が指定されている場合、有効な 2 次マスターの指定が必要です。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

**G943 RECANY BUFFERS DEFINED BUT
 NO VTAM TERMINALS. RECANY
 BUFFER SPECIFICATION IGNORED.**

説明: これは警告メッセージです。COMM ステートメントに VTAM RECEIVE ANY バッファが指定されているが、システム定義の入力では VTAM 端末が定義されていません。

システムの処置: VTAM バッファの指定は無視されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

重大度: 2

**G944 NO VTAM TERMINAL
 SPECIFICATION.**

説明: TYPE ステートメントが指定されたが、対応する TERMINAL ステートメントが指定されていません。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

**G945 VTAM RECEIVE ANY BUFFERS
 SPECIFICATION OMITTED OR
 INVALID.**

説明: 次のいずれかが発生しました。

- COMM マクロの VTAM RECEIVE ANY バッファの数が 0 であった。
- COMM マクロの VTAM RECEIVE ANY バッファのサイズが 0 であった。
- VTAM 端末が定義されたが、COMM マクロの RECANY キーワード・オペランドが指定されなかった。このオペランドは、VTAM 端末に必要です。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

**G946 COMM STATEMENT NOT
 SPECIFIED.**

説明: 1 つ以上の VTAM 端末が指定されましたが、IMS システム定義への入力に COMM ステートメントが提供されていません。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

**G947 3270 VTAM TERMINAL
 CONFIGURATION IS INVALID IN
 RESPECT TO THE COPY FEATURE
 SPECIFIED FOR THIS TERMINAL.**

説明: 示された 3277 端末に対して TERMINAL ステ

ートメントで COPY 機能が指定されたが、候補プリンターが見つからないか、または 3277 端末と候補プリンターの型式番号に互換性がありません。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

**G948 SPECIAL MASTER TERMINAL
FORMATTING REQUEST IS
IGNORED; REQUIRED CAPABILITY
NOT SPECIFIED.**

説明: これは警告メッセージです。3270 特殊マスター端末フォーマット設定が要求されたが、VTAM またはその他の IMS でサポートされる端末が定義されていないか、または 1 次マスター端末が定義されていません。

システムの処置: 要求は無視されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

重大度: 2

**G949 JOBCTL AND/OR PRTY
SPECIFICATIONS ARE MUTUALLY
EXCLUSIVE WITH JCL AND/OR SCL
SPECIFICATIONS. JCL/SCL
DEFAULTS OR SPECIFICATIONS
ASSUMED.**

説明: これは警告メッセージです。JCL キーワードまたは SCL キーワード (あるいは両方) は、JOBCTL キーワードまたは PRTY キーワード (あるいは両方) と相互に排他的です。複数のセットは指定できません。

システムの処置: JOBCTL/PRTY 指定は無視されます。JCL/SCL 指定またはデフォルトが想定されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

重大度: 2

**G950 REMOTE SYSID DEFINED BUT NO
MSNAME RESOURCES DEFINED**

説明: APPLCTN ステートメントまたは TRANSACT ステートメントの SYSID= キーワード・オペランドでリモート・システム ID が指定されましたが、MSNAME ステートメントが指定されていません。

システムの処置: ステージ 1 は完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

**G951 THIS REMOTE SYSID WAS NOT
SPECIFIED AS A REMOTE SYSID IN
ANY MSNAME STMT.**

説明: APPLCTN ステートメントの SYSID= キーワード・オペランドで指定されたリモート・システム ID が、この IMS システム定義への入力で、どの MSNAME ステートメントにもリモート・システム ID として指定されませんでした。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

**G952 LOGICAL LINKS DEFINED BUT NO
PHYSICAL LINKS.**

説明: 論理リンクを定義するために 1 つ以上の MSLINK ステートメントが指定されたが、この IMS システム定義で MSPLINK ステートメントが指定されていません。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

**G953 PHYSICAL LINKS DEFINED BUT NO
LOGICAL LINKS.**

説明: 物理リンクを定義するために 1 つ以上の MSPLINK ステートメントが指定されたが、この IMS システム定義で MSLINK ステートメントが指定されていません。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

**G954 NO MSNAMES SPECIFIED WITH
THIS LOGICAL LINK.**

説明: これは警告メッセージです。MSLINK ステートメントが指定されたが、関連する MSNAME ステートメントがありません。少なくとも 1 つの MSNAME SYSID ステートメントを指定しないと、異常終了 U0833 の原因になります。

以前に通信構成エラーを示すエラー・メッセージを受け

取っていた場合、このエラー・メッセージが誤って生成される可能性があります。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

重大度: 2

G955 NO REMOTE LTERMS SPECIFIED FOR THIS LOGICAL LINK.

説明: これは警告メッセージです。MSNAME ステートメントが指定されたが、関連する NAME ステートメントがありません。以前に通信構成エラーを示すエラー・メッセージを受け取っていた場合、このエラー・メッセージが誤って生成される可能性があります。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

重大度: 2

G956 MSVERIFY DEFINITION TYPE IS INVALID; NO VALID MS STATEMENT SPECIFICATIONS.

説明: IMSCTRL ステートメントで、IMS 生成のタイプとして MSVERIFY が指定されたが、このシステム定義への入力に、有効な複数のシステム定義ステートメントが含まれていませんでした。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G957 IMSCTRL MSVID SPECIFICATION IGNORED; NO VALID MS STATEMENT SPECIFICATIONS.

説明: これは警告メッセージです。IMSCTRL ステートメントで、MSVID キーワード・オペランドが指定されたが、このシステム定義への入力に、有効な複数のシステム定義ステートメントが含まれていませんでした。

システムの処置: オペランドは無視されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

重大度: 2

G959 FAST PATH MESSAGE-DRIVEN APPLCTN(S) DEFINED BUT NO TERMINAL ELIGIBLE TO ENTER FP TRANS.

説明: これは警告メッセージです。高速機能バッファを指定した端末は定義されていません。したがって、メッセージ・ドリブン・アプリケーション・プログラムにメッセージを送信できる端末はありません。

システムの処置: オペランドは無視されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

重大度: 2

G961 FAST PATH POTENTIAL TRANSACT(S) REQUIRE AT LEAST ONE FAST PATH MESSAGE DRIVEN APPLCTN.

説明: これは警告メッセージです。すべての高速機能利用可能トランザクションでは、端末からの入力を処理するように定義された高速機能アプリケーション・プログラムが少なくとも 1 つ必要です。

システムの処置: オペランドは無視されます。

プログラマーの応答: 少なくとも 1 つの高速機能アプリケーション・プログラムを定義に追加するか、またはすべての高速機能利用可能な TRANSACT マクロ指定を除去します。

重大度: 2

G963 NO RTCODE(S) SPECIFIED FOR THIS APPLCTN.

説明: これは警告メッセージです。識別された APPLCTN ステートメントの後に、RTCODE マクロがコーディングされていません。

システムの処置: オペランドは無視されます。

プログラマーの応答: 高速機能アプリケーションを処理するために、少なくとも 1 つの TRANSACT マクロをコーディングします。

重大度: 2

G964 THIS LOCAL SYSID WAS SPECIFIED AS A REMOTE SYSID IN AN MSNAME STATEMENT.

説明: この APPLCTN ステートメントでローカル SYSID として指定された SYSID が、MSNAME ステートメントでリモート SYSID として指定されています。両方を指定することはできません。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G965 NO FAST PATH APPLCTN SPECIFICATIONS.

説明: これは通知メッセージです。高速機能端末に関連するリソースが定義されましたが、高速機能アプリケーション・プログラムが指定されていません。

システムの処置: これは通知メッセージです。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

重大度: 4

G966 NO VALID VTAM SUBPOOL DEFINED FOR LUTYPE6 NODE WITH MULTIPLE SESSIONS

説明: LUTYPE6 TERMINAL ステートメントでサブプール LTERM 割り振りが指定されたが、IMS システム定義に、有効な VTAM LTERM SUBPOOL 定義が含まれていません。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G968 MSGDEL SPECIFICATIONS WILL NOT ALLOW ANY DEFINED SUBPOOL TO BE ALLOCATED TO A SESSION FOR THIS NODE

説明: 次のいずれかが発生しました。

- TERMINAL ステートメントで MSGDEL=NONIOPCB が指定されたが、MSGDEL=NONIOPCB の指定が認識された VTAM SUBPOOL ステートメントがない。
- TERMINAL ステートメントで MSGDEL=NOTERM が指定されたが、MSGDEL=NONIOPCB の指定が認識された VTAM SUBPOOL ステートメントがない。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G969 SECONDARY MASTER HARDCOPY LOGGING SPECIFIED BUT NO SECONDARY MASTER DEFINED.

説明: COMM マクロの COPYLOG キーワード指定で、2 次マスター端末でのハードコピーのログオンが指定されたが、システム定義のステージ 1 入力には、有

効な指定が見つかりませんでした。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G970 VTAM APPLID FROM COMM MACRO STATEMENT IS ALSO DEFINED AS AN LTERM NAME

説明: COMM マクロ・ステートメントで指定された APPLID の名前が、NAME マクロ・ステートメントで論理端末名としても使用されています。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G971 IMSGEN MACRO GENERAL COMMUNICATIONS OPTIONS IGNORED; COMM MACRO SPECIFICATIONS USED

説明: IMSGEN マクロ・ステートメントで 1 つ以上の一般通信オプションが指定されたが、ステージ 1 入力ストリームには COMM マクロ・ステートメントが存在します。これらのオプションには、COMM マクロ指定およびデフォルトが使用されます。IMSGEN マクロ・ステートメントのオプションは無視されます。

システムの処置: オペランドは無視されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

重大度: 2

G972 SECURITY OPTIONS SPECIFIED ON MORE THAN ONE MACRO; THOSE FROM THE [COMM|SECURITY] STATEMENT WILL BE USED.

説明: セキュリティー・カウント (SECCNT) に関連する指定は、IMSGEN、COMM、または SECURITY マクロ・ステートメントで指定できますが、これらのマクロ・ステートメントのうちの複数で指定されていました。MNOTE に指定されたマクロの指定またはデフォルトが使用されます。他のマクロ・ステートメントの指定は無視されます。

システムの処置: オペランドは無視されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

重大度: 2

**G973 SURVEY OPERAND IS INVALID;
 DEFAULT ASSUMED.**

説明: これは警告メッセージです。オペランドに、YES または NO が指定されませんでした。複数のパラメーターが指定された。

システムの処置: デフォルト値の SURVEY=NO が使用されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

重大度: 2

**G974 THE FOLLOWING ARE DUPLICATE
 DBD NAMES:**

説明: 示された DBD 名が、複数の DATABASE マクロ・ステートメントで指定されました。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

**G975 THE FOLLOWING ARE DUPLICATE
 PSB NAMES:**

説明: 示された PSB 名が、複数の APPLCTN マクロ・ステートメントで指定されました。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

**G976 THE FOLLOWING ARE DUPLICATE
 TRANSACTION CODES:**

説明: 示されたトランザクション・コード名が、複数の TRANSACT マクロ・ステートメントで指定されました。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

**G977 THE FOLLOWING ARE DUPLICATE
 MSNAME LINKNAMES:**

説明: 示されたリンク名が、複数の MSNAME マクロ・ステートメントで指定されました。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

**G978 THE FOLLOWING ARE DUPLICATE
 VTAM NODE NAMES:**

説明: 示された VTAM ノード名が、複数の TERMINAL マクロ・ステートメントで指定されました。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

**G979 THE FOLLOWING ARE DUPLICATE
 LTERM NAMES:**

説明: 示された論理端末名が、複数の NAME マクロ・ステートメントで指定されました。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

**G980 THE FOLLOWING ARE DUPLICATE
 ROUTING CODES:**

説明: 示された宛先コードが、複数の RTCODE マクロ・ステートメントで指定されました。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

**G981 THE FOLLOWING ARE DUPLICATE
 SUBPOOL NAMES:**

説明: 示された SUBPOOL 名が、複数の SUBPOOL マクロ・ステートメントで指定されました。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G982 THE FOLLOWING ARE DUPLICATE PARTNER IDS:

説明: 示された PARTNER ID が、複数の MSLINK マクロ・ステートメントで指定されました。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G983 THE FOLLOWING ARE DUPLICATE PHYSICAL LINKNAMES:

説明: 示された物理リンク名が、複数の MSPLINK マクロ・ステートメントで指定されました。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G984 THE FOLLOWING ARE DUPLICATE REMOTE SYSTEM VTAM NODE NAMES:

説明: 示されたりモート・システム VTAM ノード名が、複数の MSPLINK マクロ・ステートメントで指定されました。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G985 CROSS-CHECK FAILED FOR THE FOLLOWING RESOURCE NAMES:

説明: 次のいずれかが発生しました。

- トランザクション・コードが、LTERM としても指定されている。
- MSNAME リンク名が、LTERM としても指定されている。
- MSNAME リンク名が、トランザクション・コードとしても指定されている。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G986 THE FOLLOWING ARE DUPLICATE BTAM xxxxxxxx ADDRESSES:

説明: フィールド xxxxxxxx は、LINE、CTLUNIT、STATION、TERMINAL のいずれかです。検出された重複アドレスがリストされます。

オペランド別の考えられるエラーは次のとおりです。

LINE LINE マクロの ADDR オペランドで指定されたアドレスが、前の LINE または MSPLINK ステートメントで指定されたアドレスと重複している。

CTLUNIT

CTLUNIT マクロの ADDR オペランドで指定されたアドレスが、前に、この回線の制御装置で指定されている。

STATION

STATION マクロの ADDR オペランドで指定されたアドレスが、この回線について前の STATION ステートメントで指定されたアドレスと重複している。

TERMINAL

端末タイプとは関係なく、1 つの回線ではすべての入力端末アドレスは固有でなければなりません。

システムの処置: ステージ 1 アセンブリーは正常に完了しません。

プログラマーの応答: 重複指定を訂正し、再実行します。

重大度: 4

G987 MFSDFMT KEYWORD PARAMETER IS INVALID

説明: MFSDFMT キーワードに YES または NO が含まれていないか、複数のパラメーターがあります。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G988 NO TRANSACT MACROS CODED. AT LEAST ONE TRANSACT MACRO MUST BE INCLUDED WHEN AN APPLCTN MACRO IS INCLUDED.

説明: APPLCTN マクロがステージ 1 で定義されたが、対応する TRANSACT マクロが指定されていません。

システムの処置: ステージ 1 アセンブリーは正常に完了しません。

プログラマーの応答: 少なくとも 1 つの TRANSACT マクロを定義に追加します。

重大度: 4

**G989 DATABASE SPECIFICATIONS ARE
REQUIRED FOR DBCTL, NONE
SPECIFIED.**

説明: DBCTL 生成のための IMS システム定義への入力に、DATABASE ステートメントが指定されていません。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

**G992 THE FESEXIT KEYWORD COMM
MACRO IS MISSING OR INVALID**

説明: FESEXIT=YES が必要であるが、COMM マクロには FESEXIT=NO が指定されました。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: フロントエンド・スイッチ (FES) を活動化するには、TERMINAL マクロで OPTION=FES、および COMM マクロで FESEXIT=YES の両方を指定します。FES を非活動化するには、OPTION= ステートメントと FESEXIT= ステートメントを完全に除去するか、または OPTION=NOFES と FESEXIT=NO を指定するかのいずれかです。(OPTION=NOFES および FESEXIT=NO はデフォルトです。)

重大度: 4

**G999 GENERATION TERMINATED; NOGO
SET.**

説明: 1 つ以上のエラーが発生しました。ステージ 1 は終了するが、ステージ 2 の JCL または制御ステートメントは生成されません。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

**G1000 RTCODE SPECIFICATION CANNOT
PRECEDE APPLCTN.**

説明: RTCODE ステートメントは、先行する APPLCTN ステートメントと共に使用しなければなりません。

システムの処置: RTCODE ステートメントが最初の APPLCTN ステートメントの後に続いているかのように、残りのオペランドについて妥当性検査が継続します。メッセージ G1002 が表示されることもあります。

プログラマーの応答: RTCODE ステートメントを、正しい APPLCTN ステートメントの後に挿入します。

G メッセージ G1001 - G9999

ここでは、次のメッセージについて説明します。

G1002 RTCODE MUST FOLLOW FAST PATH MSG-DRIVEN APPLCTN SPEC.

説明: RTCODE 指定は、高速機能メッセージ・ドリブン・アプリケーション・プログラムの場合のみ有効です。RTCODE 指定は、トランザクションを正しいアプリケーション・プログラムに送るために使用されます。非メッセージ・ドリブン・プログラムは、入力メッセージを検索することも、それを処理することもできません。

システムの処置: 前の APPLCTN ステートメントで高速機能アプリケーション・プログラムが定義されたかのように、パラメーターの妥当性検査が継続します。

プログラマーの応答: RTCODE ステートメントを除去するか、またはそれを正しい APPLCTN ステートメントの後に移動します。

G1003 CODE OPERAND CONTAINS DUPLICATE ENTRY. SPECIFIED RTCODE-code

説明: 指定された宛先コード名は、前に宛先コード名として定義されています。

システムの処置: 重複した宛先コードは無視されます。

プログラマーの応答: 除去するか、またはその名前を変更することによって重複した宛先コードを解消します。

G1004 CODE OPERAND IS OMITTED OR INVALID.

説明: 次のいずれかが発生しました。

- CODE オペランドが指定されなかった。
- パラメーターにヌル・サブパラメーターが含まれている。
- パラメーターまたはサブパラメーターが、1 から 8 文字の英数字で指定されていなかった。
- 値が、ストリング「DFS」または「DBCDM」で始まるか、または予約語を含んでいる。

システムの処置: 無効な名前の後に続く宛先コード名は、サブパラメーターとして指定されていても、妥当性が検査されません。それらはスキップされます。ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: CODE パラメーターを指定するか、または指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G1005 INQ/INQUIRY OPERAND IS INVALID.

説明: 次のいずれかが発生しました。

- 複数のパラメーターが指定された。
- 指定されたパラメーターが、YES または NO ではなかった。
- INQ と INQUIRY パラメーターの両方が指定された。

プログラマーの応答: 指定を訂正して、INQ=YES または INQ=NO のいずれかにします。

G1010 OTHREAD OPERAND IS INVALID.

説明: 次のいずれかのイベントが発生しました。

- 複数のパラメーターが指定された。
- パラメーターが数値ではなかった。
- 最初のパラメーターが指定されたが、1 から 31 の 10 進数値ではなかった。
- FPCTRL マクロへの呼び出しが行われた。このマクロはサポートされなくなりました。

システムの処置: BFALLOC および INREXIT パラメーターに対する妥当性検査は継続します。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。システム定義時に、任意の有効な数値を指定できます。このパラメーターは、システム初期設定時に指定できます。

G1011 BFALLOC OPERAND IS INVALID.

説明: 次のいずれかが発生しました。

- 4 つ以上のサブパラメーターが指定された。
- 指定されたパラメーターが数値ではなかった。
- サブパラメーター 1 および 2 が、999 までの範囲内ではなかった。
- サブパラメーター 3 が、512、1024、2048、または 4096 ではなかった。

システムの処置: サブパラメーターの検査は、左から右に行われます。最初のエラーによって、エラー・メッセージが発行され、エラーの右側にあるサブパラメーターは妥当性が検査されません。INREXIT パラメーターに対して、妥当性検査は継続します。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。このパラメーターは、システム初期設定時に除去および指定できます。

G1012 INREXIT OPERAND IS INVALID.

説明: 次のいずれかが発生しました。

- パラメーターは 1 つのみが有効であるが、複数のパラメーターが指定された。
- 指定されたパラメーターが、英字で始まらないか、または 8 文字を超える英数字を含んでいた。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

G1016 FAST PATH NOT SUPPORTED ON VS/L.

説明: IMSTRL マクロで、ホスト・システムが z/OS であることが示された場合のみ、高速機能を指定できません。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

モジュール: IMSCTRL

重大度: 4

G1200 HSB KEYWORD INVALID FOR DBCTL

説明: HSB キーワードは、DBCTL クラスのシステム定義では指定できません。 HSB キーワードは無視されます。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

重大度: 2

G1201 WARNING: CMDCHAR INCORRECT.

説明: 次のいずれかが発生しました。

- 複数のパラメーターが指定された。
- オペランドが 1 文字ではなかった。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

重大度: 4

G1206 THE MCS SUBPARAMETER IS OUTSIDE THE RANGE OF ACCEPTABLE VALUES. DEFAULT OF (2,7) ASSUMED.

説明: これは警告メッセージです。次の 1 つ以上が発生しました。

- MCS 宛先コードに、16 個を超える値が指定された。余分な値は無視されます。
- MCS 宛先コード値が、1 から 16 の許容範囲内ではなかった。

システムの処置: サブパラメーターは無視され、デフォルト値が使用されます。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

重大度: 2

G1207 THE DESC SUBPARAMETER IS OUTSIDE THE RANGE OF ACCEPTABLE VALUES. DEFAULT OF (7) IS ASSUMED.

説明: これは警告メッセージです。次の 1 つ以上が発生しました。

- DESC コードに、16 個を超える値が指定された。余分な値は無視されます。
- DESC コード値が、1 から 16 の範囲内ではなかった。

システムの処置: サブパラメーターは無視され、デフォルト値が使用されます。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

重大度: 2

G1208 TYPE/CLASS OF ALL,DCCTL SPECIFIED; TYPE/CLASS OF ON-LINE,DCCTL USED.

説明: これは、通知メッセージであり、IMSCTRL マクロの SYSTEM キーワードの 2 番目のサブパラメーターが変更されたことを示します。

重大度: 2

G1209 ETOFEAT= sub parameters 1 and/or 2 have been specified. These sub parameters are no longer valid and are ignored.

説明: これは通知メッセージで、IMSCTRL マクロの ETOFEAT= キーワードのサブパラメーター 1 または 2 (あるいは両方) が無効であることを示します。

システムの処置: サブパラメーターは無視されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

重大度: 2

**G1210 ETO DESCRIPTORS REQUESTED,
BUT INVALID SYSGEN CLASS OR
TYPE.**

説明: ETOFEAT=(,ALL) または ETOFEAT=(,ONLY) が指定されました。記述子が要求されましたが、無効なシステム定義クラスまたはタイプが指定されています。

システムの処置: ETO 記述子を作成する要求は無視されます。

プログラマーの応答: ETO 機能を備えたシステムを作成するのでない限り、処置は必要ありません。

重大度: 2

G1300 TYPE OPERAND IS OMITTED.

説明: TYPE オペランドの指定が必要です。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: DCTENTRY マクロ呼び出しに TYPE オペランドを指定します。

重大度: 4

**G1301 THE FOLLOWING OPERANDS ARE
INVALID: list**

説明: このリストには、FEAT、SIZE、または TYPE のうちの 1 つ以上が含まれます。各オペランドは、次のいずれかのエラーが発生したことを示します。

FEAT

- オペランドが、2 回以上指定された。
- 互いに排他的なオペランドが指定された。
- IGNORE が、他のオペランドと共に指定された。

SIZE

- パラメーターが、ちょうど 2 つではなかった。
- 最初の値が 1 から 16384 の範囲の数値ではない。
- 2 番目の値が 2 から 16384 の範囲の数値ではない。
- 2 つの値の積が 80 から 16384 の範囲の数値ではない。

TYPE パラメーターが、「3270-Ann」のフォーマットではなかった。ここで、「nn」は、1 から 9 の範囲の 1 桁の数字、または 01 から 15 の範囲の 2 桁の数字です。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

**G1302 TYPE / SIZE PARAMETER
COMBINATION IS INVALID.**

説明: 次のいずれかが発生しました。

- このシンボル名に対して、有効な画面サイズが宣言されていない。
- この画面サイズに対して、シンボル名が指定されていない。
- 宣言された画面サイズが、同じシンボル名に対して前に宣言されたものと同じではない。

システムの処置: ステージ 1 は正常に完了しません。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

**G1303 WARNING: SIZE OPERAND FOR
DISPLAY EXCEEDS 255 AND MAY
BE INCONSISTENT WITH VTAM
REQUIREMENTS.**

説明: 表示のサイズ・オペランドが 255 を超えており、VTAM 要件と不整合である可能性があります。

システムの処置: ステージ 1 は通常の処理を継続します。

重大度: 2

**G9000 THE xxxxxxxx MACRO IS INVALID
FOR A DBCTL GEN**

説明: データベース制御サブシステム (DBCTL) は、DBCTL ステージ 1 システム定義で指定されたマクロ xxxxxxxx をサポートしません。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: DBCTL ステージ 1 システム定義から、示されたマクロを削除します。

重大度: 2

**G9001 INVALID PARAMETER - xxxxxxxx -
SPECIFIED IN xxxxxxxx MACRO.**

説明: 処理中のステートメントのパラメーターの 1 つ以上に、構文エラーがあります。

システムの処置: 無効なパラメーターは無視され、デフォルトが使用されます。

プログラマーの応答: 無効なパラメーターを除去または訂正し、IMS システム定義のステージ 1 を再実行します。

重大度: 4

G9002 *xxxxxxx* OPERAND IS IGNORED
FOR DBCTL GEN

説明: オペランド *xxxxxxx* は、DBALL/DBCTL ではサポートされません。このメッセージは、マクロ内の無効なオペランドごとに発行されます。

システムの処置: オペランドは無視されます。

プログラマーの応答: DBCTL ステージ 1 システム定義から、オペランドを除去する必要があります。

重大度: 2

第 11 章 HWS メッセージ (IMS Connect)

IMS Connect メッセージは、接頭部 HWS で始まります。

一部のメッセージには、**E=ec** 値が含まれています。ec 値は、TCP/IP エラー・コードを表します。ec 値について詳しくは、「TCP/IP Messages and Codes」資料を参照してください。

メッセージには、**M=mc** 値が含まれている場合があります。mc 値は、メッセージを発行した IMS Connect モジュールの接尾部を表します。例えば、**M=CPAR** の場合、発行したモジュールは HWSCPAR0 です。

HWS メッセージ HWSA0300E-HWSI1816W

ここでは、次のメッセージについて説明します。

**HWSA0300E A FAILURE OCCURRED QUEUING
WORK FOR ADAPTER *adptname*;
R=*rc*, M=*mc***

説明: アダプター・サポートのための作業をキューに入れようとしている間に、IMS Connect 内部エラーが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

adptname

アダプターを識別します。

rc 戻りコード。次のいずれかです。

X'80' ターゲット・サーバーの ECB についての通知が失敗しました。

X'84' 無効な AWE サーバー索引が渡されました。

mc メッセージを発行したモジュールを示します。

システムの処置: IMS Connect は完全に実行を続けます。クライアントのソケット接続は切断されます。

システム・プログラマーの応答: このエラーは内部問題が発生したものです。問題が続く場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正方法を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ SYSLOG およびメモリー・ダンプを提出してください。

モジュール: HWSSDRCV, HWSSDXMT

**HWSA0305E ADAPTER *adptname* DID NOT
RETURN *type* BUFFER; M=*mc***

説明: アダプターが無効なバッファー・アドレスを戻したか、あるいはバッファー・アドレスを戻しませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

adptname

呼び出されたアダプターを示します。

type バッファー・エラーのタイプを示します。次のいずれかです。

- MESSAGE - バッファーは戻されなかった
- VALID - 戻されたバッファーは無効だった

mc このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: IMS Connect は完全に実行を続けます。クライアントのソケット接続は切断されます。

システム・プログラマーの応答: このエラーはアダプターが失敗したときに発生します。問題が続く場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正方法を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ SYSLOG およびメモリー・ダンプを提出してください。

モジュール: HWSSDRCV, HWSSDXMT

**HWSA0310E A FAILURE OCCURRED RELEASING
type BUFFER FOR ADAPTER *adptname*;
R=*rc*, M=*mc***

説明: IMS Connect は指定されたストレージ域を解放できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

HWSA0315E • HWSA0325E

type エラーが発生したバッファのタイプを示します。値は次のいずれかです。

- READ INPUT - 元の TCP/IP 入力バッファ
- ADAPTER OUTPUT - アダプターが戻したバッファ

adptname

呼び出されたアダプターを示します。

rc 戻りコード。次のいずれかです。

X'04' 無効なタイプのストレージを要求

X'08' 要求を満たすストレージが利用不能

mc このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: IMS Connect は完全に実行を続けます。クライアントのソケット接続は切断されます。

システム・プログラマーの応答: このエラーは、解放中のストレージをアダプターが誤って変更したとき、あるいは内部エラーの結果発生する可能性があります。問題が続く場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正方法を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ SYSLOG およびメモリー・ダンプを提出してください。

モジュール: HWSSDRVCV、HWSSDXMT

HWSA0315E INVALID EXIT FUNCTION WAS REQUESTED; FUNC=*ft*, *msgid1**msgid2*, M=*mc*

説明: IMS Connect ユーザー・メッセージ出口は、要求された FUNC=*ft* を処理できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ft ユーザー・メッセージ出口に渡された機能を示します。値は次のいずれかです。

- READ - 入力メッセージの処理
- XMIT - 出力メッセージの処理
- RXML - ADAPTER/TAG 名を戻す

msgid1 メッセージ接頭語の中の EBCDIC MSGID (*HWSOA1*) を示します。

msgid2 メッセージ接頭語の中の ASCII MSGID (*HWSOA1*) を示します。

mc このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: IMS Connect は完全に実行を続けます。クライアントのソケット接続は切断されます。

システム・プログラマーの応答: このエラーは、ユーザー・メッセージ出口が無効な機能要求によって呼び出されたときに発生する可能性があります。問題となる可能性があるのは、クライアント・アプリケーションが不適切なユーザー・メッセージ出口を識別したこと、およびこの出口が RXML または XXML の機能によって呼び

出され、さらにこのユーザー・メッセージ出口がアダプター機能をサポートしないことです。正しいユーザー・メッセージ出口を呼び出していること、およびその出口は実行中の機能呼び出しをサポートすることを確認してください。

モジュール: HWSSDRVCV

HWSA0320E USER MESSAGE EXIT RETURNED AN INVALID RETURN CODE; R=*rc*, M=*mc*

説明: ユーザー・メッセージ出口が、不明または無効な戻りコードを戻しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc ユーザー・メッセージ出口が戻した戻りコードを示します。

mc このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: IMS Connect は完全に実行を続けます。クライアントのソケット接続は切断されます。

システム・プログラマーの応答: ユーザー・メッセージ出口の正しいコピーを使用するか、または正しい戻りコードを戻すようにユーザー・メッセージ出口を訂正してください。

モジュール: HWSSDRVCV

HWSA0325E ADAPTER *adptname* RETURNED AN INVALID RETURN CODE; R=*rc*, M=*mc*

説明: アダプターは無効な戻りコードを戻しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

adptname

呼び出されたアダプターを示します。

rc アダプターが返した無効な戻りコードを示します。

mc このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: IMS Connect は完全に実行を続けます。クライアントのソケット接続は切断されます。

システム・プログラマーの応答: アダプターの正しいコピーを使用するか、または有効な戻りコードを戻すようにアダプターを訂正してください。

モジュール: HWSSDRVCV、HWSSDXMT

**HWSA0330E NO ADAPTER NAME RETURNED
FROM USER MESSAGE EXIT; M=mc**

説明: ユーザー・メッセージ出口は、アダプター名を戻しませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

mc このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: IMS Connect は完全に実行を続けます。クライアントのソケット接続は切断されます。

システム・プログラマーの応答: ユーザー・メッセージ出口の正しいコピーを使用するか、またはアダプター名を戻すようにユーザー・メッセージ出口を訂正してください。

モジュール: HWSSDRVC

**HWSA0335E ADAPTER *adptname* MIGHT BE IN A
LOOP, REQUESTING OUTPUT
BUFFER; M=mc**

説明: アダプターは新規バッファについて別の要求を行いました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

adptname

呼び出されたアダプターを示します。

mc このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: IMS Connect は完全に実行を続けます。クライアントのソケット接続は切断されます。

システム・プログラマーの応答: アダプターの正しいコピーを使用するか、または出力バッファ要求でループしないようにアダプターを訂正してください。

モジュール: HWSSDRVC, HWSSDXMT

**HWSA0340E *type* MESSAGE WAS NOT
PROCESSED BY ADAPTER *adptname*;
R=rc, M=mc**

説明: アダプターがメッセージ処理を行わずに、IMS Connect へ制御が戻されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

type メッセージ・タイプを示します。次のいずれかです。

- INPUT - 入力メッセージの場合
- OUTPUT - 出力メッセージの場合

adptname

呼び出されたアダプターを示します。

rc 指定されたアダプターによって返された戻りコード。

mc メッセージを発行したモジュールを示します。

システムの処置: IMS Connect は完全に実行を続けます。クライアントのソケット接続は切断されます。

システム・プログラマーの応答: アダプターの正しいコピーを使用するか、またはメッセージを処理するようにアダプターを訂正してください。

IMS Connect BPE 構成 PROCLIB メンバーには、以下のステートメントが含まれています。

EXITMBR=(HWSEXIT0,HWS)

BPE 出口リストの IMS PROCLIB データ・セット・メンバー HWSEXIT0 には、以下のステートメントが含まれています。

EXITDEF (TYPE=XMLADAP, EXITS=(HWSXMLA0), ABLIM=8, COMP=HWS)

この EXITDEF ステートメントは、XML アダプター (HWSXMLA0) を出口として定義します。

モジュール: HWSSDRVC, HWSSDXMT

関連タスク:

 IMS Connect クライアントの XML 変換サポートの構成 (システム定義)

**HWSA0345E ADAPTER *adptname* ENCOUNTERED
AN ERROR; R=rc, M=mc**

説明: 実行中にアダプターで問題が検出されました。アダプターがメッセージ処理を行わずに、IMS Connect へ制御が戻されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

adptname

呼び出されたアダプターを示します。この値は次のアダプターを示します。

HWSXMLA0

XML アダプター

rc アダプターからの戻りコード

mc このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: IMS Connect は実行を続けます。クライアントのソケット接続は切断されます。

システム・プログラマーの応答: アダプターの正しいコピーを使用するか、または戻された戻りコード値に基づいてメッセージを処理するようにアダプターを訂正してください。

モジュール: HWSSDRVC

関連資料:

XML アダプターの戻りコードおよび理由コード
(メッセージおよびコード)

IBM Rational Developer for System z
Enterprise Service Tools に関するエラー・メッセージ

**HWSA0350E ADAPTER *adptname* RETURNED AN
INVALID DATA LENGTH; LEN=*len*,
M=*mc***

説明: アダプターは、8 文字以下の無効なデータ長を戻しました。データは、9 文字から 32,767 文字でなければなりません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

adptname

呼び出されたアダプター

len アダプターが戻したデータ長

mc このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: IMS Connect は完全に実行を続けます。クライアントのソケット接続は切断されます。

システム・プログラマーの応答: アダプターの正しいコピーを使用するか、または有効なデータ長を戻すようにアダプターを訂正してください。

モジュール: HWSSDRCV、HWSSDXMT

**HWSA0355E ADAPTER *adptname* FAILED TO
INITIALIZE; ADAPTER SUPPORT IS
DISABLED; RC=*rc*, M=*mc***

説明: アダプターはその初期設定処理を失敗しました。アダプター・サポートは無効になっています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

adptname

呼び出されたアダプターを示します。

rc アダプターが戻した戻りコード

mc このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: IMS Connect は完全に実行を続けますが、アダプター・サポートは行われません。クライアントのソケット接続は切断されます。

システム・プログラマーの応答: アダプターの正しいコピーを使用するか、または戻された戻りコード値に基づいてメッセージを正しく処理するようにアダプターを訂正してください。

モジュール: HWSSDOPN

**HWSA0365E INVALID FUNCTION WAS
REQUESTED FOR ADAPTER
adptname; FUNC=*ft*, M=*mc***

説明: IMS Connect アダプターは、要求された FUNC=*ft* を処理できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

adptname

呼び出されたアダプターを示します。

ft アダプターに渡された機能を示します。

mc このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: IMS Connect は完全に実行を続けます。クライアントのソケット接続は切断されます。

システム・プログラマーの応答: このエラーは、アダプターが無効な機能要求によって呼び出されたときに発生する可能性があります。問題となる可能性があるのは、クライアント・アプリケーションが不適切なアダプターを識別し、サポートされていなかった機能によってこのアダプターが呼び出されたことです。正しいアダプターを呼び出していること、および行われている機能呼び出しをそのアダプターがサポートすることを確認してください。

モジュール: HWSSDRCV

**HWSA0370E THE TRancode WAS NOT
PROVIDED TO IMS CONNECT
EITHER FROM THE XML
CONVERTER OR FROM THE
IRM_TRNCOD FIELD; M=*mc***

説明: IMS Connect が、XML からアプリケーション・データ・フォーマットに変換しようとした。しかし、IMS Connect が変換されたアプリケーション・データに入れるトランザクション・コードがデータまたは IMS 要求メッセージ (IRM) の IRM_TRNCOD フィールドのいずれでも検出されませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

mc メッセージを出すモジュール

システムの処置: IMS Connect は実行を続けます。クライアントのソケット接続は切断されます。

システム・プログラマーの応答: トランザクション・コードを設定するためにコンバーターを使用している場合、IMS Connect に送信された XML メッセージにトランザクション・コードが含まれていることを確認します。トランザクション・コードを IRM_TRNCOD フィールドで指定している場合、トランザクション・コード

が IRM の IRM_TRNCOD フィールドで設定されていることを確認します。

モジュール: HWSSDRCV

HWSA0375I XML CONVERTER *cotrname* WAS SUCCESSFULLY REFRESHED, M=*xxxx*

説明: 次のいずれかのコマンドが発行されたときに、IMS Connect XML コンバーターが正常にリフレッシュされました。

- WTOR コマンド REFRESH CONVERTER
- z/OS Modify コマンド UPDATE CONVERTER
- タイプ 2 コマンド UPDATE IMSCON TYPE(CONVERTER)

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cotrname

リフレッシュされた XML コンバーターの名前。ワイルドカード (*) が含まれている場合、*cotrname* はリフレッシュされたすべてのコンバーターのマスクとなります。ワイルドカードのみが表示される場合は、すべてのコンバーターが正常にリフレッシュされました。

xxxx このメッセージを発行したモジュールの 4 文字の名前。

システムの処置: システムは、通常の処理を続行します。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: HWSXMLA0

HWSA0380E ADAPTER *adptname* WAS UNABLE TO LOAD *cnvname*; R=*rc*, S=*sc*, M=*mc*

説明: 実行中にアダプターで問題が検出されました。アダプターがメッセージ処理を行わずに、IMS Connect へ制御が戻されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

adptname

呼び出されたアダプターの名前。

cnvname

呼び出された XML コンバーターの名前。

rc アダプターからの戻りコード。

sc アダプターからのサービス・コード。

mc メッセージを発行したモジュールの名前。

システムの処置: IMS Connect は実行を続けます。進行中の現在のメッセージは処理されません。

システム・プログラマーの応答: 正しいコンバーターと

その関連プログラムが正しいデータ・セットにリンクされていることを確認します。

HWSB0005W A FAILURE OCCURRED OBTAINING STORAGE; R=*rc*, B=*type*, M=*mc*

説明: IMS Connect は指定されたストレージ域を獲得できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc アダプターが戻した戻りコード

type 次のようなバッファー・タイプを示します。

- 'HWSHLES' LES ブロック
- 'ONEKBUF' 1K バッファー
- 'DDABUF' 変換サービス用の動的データ域

mc このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: IMS Connect は完全に実行を続けます。クライアントのソケット接続は切断されます。

システム・プログラマーの応答: これはおそらくストレージ・エラーです。IMS Connect の領域サイズが十分であることを確認してください。エラーが再発する場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびメモリー・ダンプを提出してください。

モジュール: HWSXMLA0

HWSB0010W A FAILURE OCCURRED RELEASING STORAGE; R=*rc*, B=*type*, M=*mc*

説明: IMS Connect は指定されたストレージ域を解放できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc 指定されたアダプターによって返された戻りコード。

type 次のようなバッファー・タイプを示します。

- 'OUTBUF' - 出力バッファー

mc このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: IMS Connect は完全に実行を続けます。クライアントのソケット接続は切断されます。

システム・プログラマーの応答: これはおそらく内部エラーです。問題報告データベースを検索して、問題の修正を探してください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびメモリー・ダンプを提出してください。

モジュール: HWSXMLA0

```

HWSB0105E <XMLAdapterOutput>
  <XMLAdapterError> HWSB0105E
  Inbound Error: Failed to obtain
  storage for storing the converted
  message. BPEGETM RC=rc.
  </XMLAdapterError>
</XMLAdapterOutput>

```

説明: IMS Connect はストレージ域を獲得できませんでした。このエラーは、XML アダプターによってクライアントに戻されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc BPEGETM サービスからの戻りコードを示します。

システムの処置: IMS Connect は完全に実行を続けます。クライアントのソケット接続は切断されます。

システム・プログラマーの応答: 処置は必要ありません。これは内部エラーです。

モジュール: HWSXMLA0

関連資料:

 XML アダプターの戻りコードおよび理由コード (メッセージおよびコード)

```

HWSB0110E <XMLAdapterOutput>
  <XMLAdapterError> HWSB0110E
  Inbound Error: LE failed to invoke the
  XML Converter. LE CEEPIPI (call_sub)
  function RC=rc. </XMLAdapterError>
  </XMLAdapterOutput>

```

説明: XML コンバーターの呼び出し時に、言語環境 CEEPIPI モジュールがエラーを戻しました。このエラーは、XML アダプターによってクライアントに戻されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc XML コンバーターの呼び出しに使用される言語環境 CEEPIPI モジュールからの戻りコード

システムの処置: IMS Connect は完全に実行を続けます。クライアントのソケット接続は切断されます。

システム・プログラマーの応答: これは内部エラーです。CEEPIPI (call_sub) 機能のエラーについては、「z/OS 言語環境プログラム プログラミング・ガイド」(SA88-8549) を参照してください。

モジュール: HWSXMLA0

関連資料:

 z/OS: アプリケーションの呼び出し (CEEPIPI)

 XML アダプターの戻りコードおよび理由コード (メッセージおよびコード)

```

HWSB0115E <XMLAdapterOutput>
  <XMLAdapterError> HWSB0115E
  Inbound Error: The converted inbound
  message is greater than the supported
  size of 32767 bytes. The message that
  caused this failure is n bytes.
  </XMLAdapterError>
</XMLAdapterOutput>

```

説明: 渡されているデータは有効な長さを超えています。このエラーは、XML アダプターによってクライアントに戻されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

n 障害を引き起こしたメッセージの長さ (バイト単位)

システムの処置: IMS Connect は完全に実行を続けます。クライアントのソケット接続は切断されます。

システム・プログラマーの応答: 使用している XML コンバーターの入力データ構造が 32,767 バイト以下であることを確認してください。

モジュール: HWSXMLA0

関連資料:

 XML アダプターの戻りコードおよび理由コード (メッセージおよびコード)

```

HWSB0205E <XMLAdapterOutput>
  <XMLAdapterError> HWSB0205E
  Outbound Error: Failed to obtain
  storage for storing converted message.
  BPEGETM RC=rc. </XMLAdapterError>
  </XMLAdapterOutput>

```

説明: IMS Connect はストレージ域を獲得できませんでした。このエラーは、XML アダプターによってクライアントに戻されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc BPEGETM サービスによって戻された戻りコード

システムの処置: IMS Connect は完全に実行を続けます。クライアントのソケット接続は切断されます。

システム・プログラマーの応答: 処置は必要ありません。これは内部エラーです。

モジュール: HWSXMLA0

関連資料:

 XML アダプターの戻りコードおよび理由コード (メッセージおよびコード)

```

HWSB0210E <XMLAdapterOutput>
  <XMLAdapterError> HWSB0210E
  Outbound Error: LE failed to invoke
  the XML Converter. LE CEEPIPI
  (call_sub) function RC=rc.
  </XMLAdapterError>
</XMLAdapterOutput>

```

説明: XML コンバーターの呼び出し時に、言語環境 CEEPIPI モジュールがエラーを戻しました。このエラーは、XML アダプターによってクライアントに戻されません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc XML コンバーターを呼び出した LE CEEPIPI モジュールからの戻りコード

システムの処置: IMS Connect は完全に実行を続けます。クライアントのソケット接続は切断されます。

システム・プログラマーの応答: これは内部エラーです。

モジュール: HWSXMLA0

関連資料:

 z/OS: アプリケーションの呼び出し (CEEPIPI)

 XML アダプターの戻りコードおよび理由コード (メッセージおよびコード)

```

HWSC0000I nm HWSC0000I *IMS CONNECT
  READY* hid

```

説明: IMS Connect コマンドの入力の際に使用される z/OS 未解決の応答メッセージ。

hid は、HWS (HWSCFGxx 構成ファイルにある HWS ステートメントの ID パラメーター) を識別する。

HWSC0001I *message_text*

説明: このメッセージは、複数の行で構成されることがあります。ここで、各行の *message_text* は、IMS Connect WTOR VIEW コマンド (VIEWDS、VIEWHWS、VIEWPORT など)、あるいは同等の IMS Connect z/OS コマンド (QUERY DATASTORE、

QUERY MEMBER、QUERY PORT など) のコマンド応答で構成されます。

message_text 値の説明については、実行されたコマンドの出力フィールドのセクションを参照してください。

システムの処置: メッセージが発行され、IMS Connect は実行を続けます。

関連資料:

 IMS Connect WTOR コマンド (コマンド)

 IMS Connect z/OS コマンド (コマンド)

```

HWSC0010I HELLO, WELCOME TO IMS
  CONNECT!

```

説明: IMS Connect が作動可能であることを示します。

HWSC0020I IMS CONNECT IN TERMINATION

説明: IMS Connect がシャットダウンされたことを示します。

HWSC0030I *PING RESPONSE* *CSMOKY*

説明: このメッセージは、IMS Connect の ping 要求に対する応答です。ping が正常に実行されたことを示しています。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

```

HWSC0031I PASSWORD CHANGE SUCCESSFUL
  *CSMOKY*

```

説明: パスワード変更要求は正常に完了しました。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

```

HWSC0032E INVALID ERROR CODE x
  *CSMOKY*

```

説明: IMS Connect は、戻された 10 進数の無効なエラー・コードを検出しました。メッセージ・テキストの *x* は、検出されたコードです。

ユーザーの処置: これは内部エラーです。問題が続く場合には、IBM ソフトウェア・サポートに連絡し、コードを報告してください。

モジュール: HWSSMPL1

HWSC0033E PASSWORD CHANGE FUNCTION IS NOT SUPPORTED *CSMOKY*

説明: ご使用のシステムでセットアップされた IMS Connect はパスワード変更をサポートしません。問題の考えられる原因として、HWSPWCH0 モジュールのアドレスが欠落しているか、RACF=N が指定されたことが挙げられます。

ユーザーの処置: IMS Connect が、パスワード変更サポートを使用するように適切にセットアップされていることを確認します。

モジュール: HWSSMPL1

HWSC0034W RACF IS NOT ACTIVE *CSMOKY*

説明: IMS Connect が、RACF が現在アクティブでないことを検出しました。

ユーザーの処置: RACF がアクティブであることを確認して、パスワード変更を再実行します。

HWSC0035E THE OLD PASSWORD IS NOT AUTHORIZED *CSMOKY*

説明: パスワードを変更しようとしたのですが、RACF が、指定された古いパスワードが許可されていないことを検出しました。

システムの処置: パスワードは未変更のままです。

ユーザーの処置: RACF パスワードを確認して、パスワード変更を再実行します。

HWSC0036E THE PASSWORD HAS EXPIRED *CSMOKY*

説明: パスワードを変更しようとしたのですが、RACF が、指定された古いパスワードの有効期限が切れていることを検出しました。

システムの処置: パスワードは未変更のままです。

ユーザーの処置: RACF パスワードの問題を訂正して、パスワード変更を再実行します。

HWSC0037E THE NEW PASSWORD IS INVALID *CSMOKY*

説明: パスワードを変更しようとしたのですが、RACF は、指定された新規パスワードが無効であることを検出しました。

システムの処置: パスワードは未変更のままです。

ユーザーの処置: 有効な新規パスワードを指定してパスワード変更を再実行します。

HWSC0038E PASSWORD CHANGE ERROR *CSMOKY*

説明: パスワードを変更しようとしたときに、RACROUTE 呼び出しがゼロ以外の戻りコードを戻しました。

システムの処置: パスワードは未変更のままです。

ユーザーの処置: 先行する RACF エラーに関する情報を参照して問題を判別し、パスワード変更を再実行します。

関連資料:

 z/OS: RACROUTE の戻りコードおよび理由コード

HWSC0039E INVALID OLD PASSWORD LENGTH *CSMOKY*

説明: パスワードを変更しようとしたのですが、指定された古いパスワードの長さが無効でした。

システムの処置: パスワードは未変更のままです。

ユーザーの処置: 正確な古いパスワードを使用していることを確認して、パスワード変更を再実行します。

モジュール: HWSPWCH0

HWSC0040E INVALID NEW PASSWORD 1 LENGTH *CSMOKY*

説明: パスワードを変更しようとしたのですが、指定された新規パスワードの長さが無効でした。

システムの処置: パスワードは未変更のままです。

ユーザーの処置: 有効な新規パスワードを指定してパスワード変更を再実行します。

モジュール: HWSPWCH0

HWSC0041E INVALID NEW PASSWORD 2 LENGTH *CSMOKY*

説明: パスワードを変更しようとしたのですが、新規パスワードの確認パスワードの長さが無効でした。

システムの処置: パスワードは未変更のままです。

ユーザーの処置: 新規パスワードと確認パスワードに同じものを指定してパスワード変更を再実行します。

モジュール: HWSPWCH0

**HWSC0042E OLD PASSWORD CONTAINED
NON-ALPHANUMERIC OR
LOWERCASE CHARACTER
*CSMOKY***

説明: パスワードを変更しようとしたが、入力された古いパスワードに、文字および数字以外の文字が含まれていたか、小文字が含まれていました。

システムの処置: パスワードは未変更のままです。

ユーザーの処置: 有効な古いパスワードを指定してパスワード変更を再実行します。

モジュール: HWSPWCH0

**HWSC0043E NEW PASSWORD 1 CONTAINED
NON-ALPHANUMERIC OR
LOWERCASE CHARACTER
*CSMOKY***

説明: パスワードを変更しようとしたが、入力された新規パスワードに、文字および数字以外の文字が含まれていたか、小文字が含まれていました。

システムの処置: パスワードは未変更のままです。

ユーザーの処置: 有効な新規パスワードを指定してパスワード変更を再実行します。

モジュール: HWSPWCH0

**HWSC0044E NEW PASSWORD 2 CONTAINED
NON-ALPHANUMERIC OR
LOWERCASE CHARACTER
*CSMOKY***

説明: パスワードを変更しようとしたが、確認パスワードに、文字および数字以外の文字が含まれていたか、小文字が含まれていました。

システムの処置: パスワードは未変更のままです。

ユーザーの処置: 有効な新規パスワードと一致する確認パスワードを指定してパスワード変更を再実行します。

モジュール: HWSPWCH0

**HWSC0045E NEW PASSWORDS DO NOT
MATCH *CSMOKY***

説明: パスワードを変更しようとしたが、新規パスワードと確認パスワードが同じではありませんでした。

システムの処置: パスワードは未変更のままです。

ユーザーの処置: 有効な新規パスワードと一致する確認パスワードを指定してパスワード変更を再実行します。

モジュール: HWSPWCH0

**HWSC0046E INVALID REQUEST SYNTAX
*CSMOKY***

説明: IMS Connect が、パスワード変更要求で構文の問題を検出しました。

システムの処置: パスワードは未変更のままです。

ユーザーの処置: HWSPWCH コマンドを訂正して、パスワード変更を再実行します。

**HWSC0100W UNABLE TO ALLOCATE STORAGE
FOR COMMAND; R=rc, S=sc, M=mc**

説明: コマンド・バッファのストレージを割り振ることができませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *rc* は、戻りコードを識別します。
- *sc* は、サービス・コードを識別します。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

サービス・コードおよび戻りコードについては、次の表を参照してください。

表 3. HWSC0100W のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
GETC01L	BPECBGET。C01K を獲得するのに使用されるシステム・サービス。	4	誤った CBTE アドレスが CG 取得 (get) ルーチンに渡されている。これは、内部システム・エラーです。
		8	ストレージが不足なので、要求を満たすことができません。

表 3. HWSC0100W のサービス・コードおよび戻りコードの説明 (続き)

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
GETFWEB	BPECBGET。FWEB を獲得するのに使用されるシステム・サービス。	4	誤った CBTE アドレスが CB 取得ルーチンに渡されている。これは、内部システム・エラーです。
		8	ストレージが不足なので、要求を満たすことができません。

システムの処置: このメッセージが発行されるときは、可能な限り、コマンドの要求者に通知されます。どのような場合も IMS Connect は実行を続けます。

システム・プログラマーの応答: これはおそらくストレージ・エラーです。IMS Connect の領域サイズが十分であることを確認してください。エラーが再発する場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

モジュール: CMDC - HWSCMOP0

**HWSC0101E FUNCTION WORK ELEMENT
PROCESSING FAILURE, FUNC=func;
R=rc, S=sc, M=mc**

説明: 機能作業エレメント (FWE) を処理できません。FWE は、コンポーネント間の作業およびコンポーネント内の作業を要求します。この構造には、処理の際にサービスが必要とする機能とパラメーターが入っています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *func* は、要求された機能を識別します。
- *rc* は、戻りコードを識別します。
- *sc* は、サービス・コードを識別します。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード

ド、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。

- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 4. HWSC0101E のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
INVFUNC	FWE で要求された機能が正しくない。	4	これは処理エラーです。

システムの処置: このメッセージが発行され、可能な限り、機能の要求者に通知されます。その他の場合は、FWE は解放されます。どのような場合も IMS Connect は実行を続けます。

システム・プログラマーの応答: これはおそらく内部エラーです。問題報告データベースを検索して、問題の修正を探してください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

モジュール: CMDC - HWSCMDC0、CMOP - HWSCMOP0

**HWSC0110W COMMAND VERB BLOCK
PROCESS FAILURE; R=rc, S=sc, M=mc**

説明: コマンド verb ブロック (CVB) のストレージを割り振ることができません。CVB の内容は、コマンド verb とそのパラメーターであり、IMS Connect でコマンドを処理する際にすべてのコマンド・プロセッサが使用する構造です。このブロックなしに、コマンドを処理することはできません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *rc* は、戻りコードを識別します。
- *sc* は、サービス・コードを識別します。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

サービス・コードおよび戻りコードについては、次の表を参照してください。

表 5. HWSC0110W のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
GETCVBB	BPECBGET。CVB を獲得するのに使用されるシステム・サービス。	4	誤った CBTE アドレスが CB 取得ルーチンに渡されている。これは、内部システム・エラーです。
		8	ストレージが不足なので、要求を満たすことができません。

システムの処置: このメッセージが発行され、可能な限り、機能の要求者に通知されます。どのような場合も IMS Connect は実行を続けます。

システム・プログラマーの応答: これはおそらくストレージ・エラーです。IMS Connect の領域サイズが十分であることを確認してください。エラーが再発する場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

モジュール: CMDC - HWSCMDC0

**HWSC0112W COMMAND PARSER FAILED,
COMMAND=*hwscmd*; R=*rc*, S=*sc*,
M=*mc***

説明: コマンド・バッファからのコマンドの構文解析中にエラーが起こっています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *hwscmd* は、コマンドを識別する。
- *rc* は、戻りコードを識別します。
- *sc* は、サービス・コードを識別します。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコー

ド、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。

- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

次の表では、HWSC0112W のサービス・コードおよび戻りコードについて説明します。

表 6. HWSC0112W のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
NODATA	コマンド・バッファにデータが存在しません。	40	これは処理エラーです。
INVCMD	コマンド <i>verb cmd</i> は有効な HWS コマンドではありません。	41	これは処理エラーです。
NOPARM	このコマンドにはパラメーターが必要であるのに何も指定されていません。	42	これは処理エラーです。
NO2PARM	このコマンドの 2 番目のパラメーターが欠落しています。	43	これは処理エラーです。
PARM1ERR	最初のパラメーターが間違っています。	44	構文を訂正します。
PARM2ERR	2 番目のパラメーターが間違っています。	45	構文を訂正します。

システムの処置: このメッセージが発行され、可能な限り、機能の要求者に通知されます。それ以外の場合は、コマンド・バッファが解放され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: 正しいコマンドを入力していることを確認します。エラーが再発する場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際に

HWSC0114W

は、できるだけ JCL、SYSLOG、およびメモリー・ダンプを提出してください。

モジュール: CPAR - HWSCPAR0

HWSC0114W COMMAND=hwscmd; R=rc, S=sc, M=mc

説明: コマンドを次のレベルのコマンド処理に伝搬しようとするときに、エラーが検出されています。コマンドは、それを処理できるコンポーネントに転送されています。しかし、このコマンドがターゲットにしているリソースが使用可能ではありません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *hwscmd* は、コマンドを識別する。
- *rc* は、戻りコードを識別します。
- *sc* は、サービス・コードを識別します。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 7. HWSC0114W のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
INVLCMD	コマンドが正しくない。	4	これは処理エラーです。
NFNDDCT	データ・ストア通信テーブルが見つかりません。このテーブルには、定義されたデータ・ストアごとに構成メンバー HWSCFGxx から検索された情報が含まれます。	8	これは処理エラーです。
NFNDDST	データ・ストア・テーブルが見つかりません。このテーブルは、データ・ストアのアクティビティが維持されています。	4	これは処理エラーです。

表 7. HWSC0114W のサービス・コードおよび戻りコードの説明 (続き)

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
NFNDSVT	サーバー・テーブルが見つかりません。このテーブルでは、接続されたクライアントのアクティビティが維持されています。	4	これは処理エラーです。
NACTO/C	オープン/クローズ・スレッドがアクティブではありません。このコマンドは、オープン/クローズ・コントローラーによってのみ処理できますが、コントローラーがすでにアクティブではありません。IMS Connect は、シャットダウンする可能性があります。	4	これは処理エラーです。
BPEGETM	応答バッファーを獲得するのに使用されるシステム・サービス。	4	正しくないサブプールまたはサポートされないサブプールが指定されている。
		8	長さゼロが要求されている。
		12	要求されたストレージを取得できません (z/OS GETMAIN が失敗)。
NFNDCOMP	要求された機能を処理するコンポーネントが見つかりません。HWS コンポーネントが別のコンポーネントのサービスに対するインターフェース呼び出しを発行しているが、そのサービスが要求されているコンポーネントが見つからない。	4	これは処理エラーです。

表 7. HWSC0114W のサービス・コードおよび戻りコードの説明 (続き)

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
NFNDFUNC	要求された機能が見つかりません。HWS コンポーネントが別のコンポーネントのサービスに対するインターフェイス呼び出しを発行しているが、要求されているサービスが見つからない。	8	これは処理エラーです。
NFNDDIMSA	IMS 別名が見つかりませんでし。指定した IMS 別名および ODBM 名が正しいことを確認してください。	8	これは処理エラーです。
NFNDDINTF	IMS Connect コンポーネントの呼び出しに必要なインターフェイスが使用できません。	4	これはコマンド処理エラーです。内部 IMS Connect インターフェイスが初期化されていません。
PORTNACT	非アクティブな、またはすでに停止している PORT に対して、STOPPORT コマンドが出されました。	4	PORT がアクティブになっていません。
PORTINIT	PORT 初期設定がまだ進行中であるため、コマンドはリジェクトされました。	4	ポートが初期設定された後で、コマンドを再入力してください。
STA/STO	START() と STOP() の両方のキーワードで同じ属性を指定したコマンドが発行されました。	4	START と STOP の両方のキーワードで同じ属性を指定したコマンドを発行することはできません。

システムの処置: このメッセージが発行され、可能な限り、機能の要求者に通知されます。それ以外の場合は、コマンド・バッファが解放され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: 正しいコマンドを入力していることを確認します。サービス・コードが NFNDCOMP または NFNDFUNC の場合、問題はおそらく内部エラーです。問題報告データベースを検索して、問題の修正を探してください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびメモリー・ダンプを提出してください。

モジュール: CVBC - HWSCVBC0, DUPD - HWS DUPD0, DUP1 - HWS DUPD1

HWSC0120W UNABLE TO SEND COMMAND RESPONSE TO HWSHOST; R=rc, S=sc, M=mc

説明: コマンド応答をシステム・コンソールに送り返すときにエラーが起っています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- rc は、戻りコードを識別します。
- sc は、サービス・コードを識別します。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
- mc は、このメッセージを出すモジュールを示します。

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 8. HWSC0120W のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
INVLTAG	コマンド応答タグが正しくない。コマンド応答タグは、送信中の応答のタイプを表します。	4	これは処理エラーです。

表 8. HWSC0120W のサービス・コードおよび戻りコードの説明 (続き)

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
NFNDCOMP	要求された機能を処理するコンポーネントが見つかりません。HWS コンポーネントが別のコンポーネントのサービスのための呼び出しインターフェースに対する呼び出しを発行しているが、要求されたコンポーネントが見つからない。	4	これは処理エラーです。
NFNDFUNC	要求された機能が見付かりません。HWS コンポーネントが別のコンポーネントのサービスのための呼び出しインターフェースに対する呼び出しを発行しているが、要求されたサービスが見つからない。	8	これは処理エラーです。

システムの処置: このメッセージが発行され、コマンド応答バッファが解放されます。IMS Connect は実行を続けます。

システム・プログラマーの応答: これはおそらく内部エラーです。問題報告データベースを検索して、問題の修正を探してください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

モジュール: CRSP - HWSCRSP0

HWSC0130I CLOSEHWS ALREADY IN PROGRESS; M=mc

説明: IMS Connect がクローズ処理中です。このメッセージは、CLOSEHWS コマンドが複数回入力されたときに発行されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: CLOSEHWS コマンドの入力後に

IMS Connect が終了しない場合は、VIEWHWS コマンドを使用して、データ・ストアおよびクライアントの状況とキューを判断します。アクティブになっているクライアントがないことを確認してください。いずれかのクライアントがアクティブになっていると、IMS Connect は終了しません。ユーザーは、IMS Connect コマンド CLOSEHWS FORCE を発行して、IMS Connect を強制的に終了させることができます。

モジュール: CHWS - HWSCHWS0

HWSD0200E FUNCTION WORK ELEMENT PROCESSING FAILURE, FUNC=func;

R=rc, S=sc, M=mc

説明: 機能作業エレメント (FWE) を処理できません。FWE は、コンポーネント同士の間とコンポーネントの内部での作業を要求します。この構造には、処理の際にサービスが必要とする機能とパラメーターが入っています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *func* は、要求された機能を識別します。
- *rc* は、戻りコードを識別します。
- *sc* は、サービス・コードを識別します。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 9. HWSD0200E のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
INVFUNC	FWE で要求された機能が正しくない。	4	これは処理エラーです。

システムの処置: このメッセージが発行され、可能な限り、機能の要求者に通知されます。その他の場合は、FWE は解放されます。どのような場合も IMS Connect は実行を続けます。

システム・プログラマーの応答: これはおそらく内部エラーです。問題報告データベースを検索して、問題の修正を探してください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。そ

の際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

モジュール: DOCC- HWSDOCC0、DSCH - HWSDSCH0、DCVC - HWSDCVC0

HWSD0202W FWE FUNCTION=*func* FAILED FOR DS=*did*, COMMAND=*hwscmd* IN PROGRESS; M=*mc*

説明: *hwscmd* で示されたコマンドが既に処理中であるため、機能 *func* は処理できません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *func* は、要求された機能を識別します。
- *did* は、データ・ストアを識別します。
- *hwscmd* は、進行中の IMS Connect コマンドを識別します。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: このメッセージが発行され、可能な限り、機能の要求者に通知されます。その他の場合は、FWE は解放されます。どのような場合も IMS Connect は実行を続けます。

システム・プログラマーの応答: 進行中の IMS Connect コマンドがデータ・ストアを終了中です。したがって、そのデータ・ストアに関する新機能はいずれも処理できません。

モジュール: DSCM - HWSDSCM0

HWSD0204W COMMAND=*hwscmd* FAILED FOR DS=*did*, COMMAND=*prev_hwscmd* ALREADY IN PROGRESS; M=*mc*

説明: データ・ストアに対して入力された IMS Connect コマンド *hwscmd* は、そのデータ・ストアに対するコマンド *prev_hwscmd* が既に進行中であるため、処理できません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *hwscmd* は、*prev_hwscmd* によって実行をブロックされた IMS Connect コマンドを識別する。
- *did* は、*hwscmd* および *prev_hwscmd* の影響を受けたデータ・ストアを識別する。
- *prev_hwscmd* は、*hwscmd* の実行をブロックする IMS Connect コマンドです。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: このメッセージが発行され、可能な限り、機能の要求者に通知されます。その他の場合は、

FWE は解放されます。どのような場合も IMS Connect は実行を続けます。

システム・プログラマーの応答: 進行中の IMS Connect コマンドがデータ・ストアを終了中です。したがって、新しいコマンドは、いずれも処理できません。IMS Connect コマンド (*hwscmd*) が CLOSEHWS であった場合は、IMS Connect *prev_hwscmd* の処理の完了後に終了します。

モジュール: DSCM - HWSDSCM0

HWSD0205W GETMAIN FOR OTOKEN + IXCQUERY CONTROL BUFFER FAILED; R=*rc*, S=*sc*, M=*mc*

説明: OTOKEN バッファのストレージを割り振ることができませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *rc* は、戻りコードを識別します。
- *sc* は、サービス・コードを識別します。サービス・コードには、エラーをより具体的に識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
- *mc* は、このメッセージを出したモジュールを示します。

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 10. HWSD0205W のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
GETOTOKN	BPEGETM。OTOKEN を獲得するのに使用されるシステム・サービス。	4	正しくないサブプールまたはサポートされないサブプールが指定されている。
		8	長さゼロが要求されている。
		12	要求されたストレージを取得できません (z/OS GETMAIN が失敗)。

システムの処置: IMS Connect は実行を続けます。

HWSD0212E

システム・プログラマーの応答: これはおそらくストレージ・エラーです。IMS Connect の領域サイズが十分であることを確認してください。エラーが再発する場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。

モジュール: DOCC - HWSDOCC0

HWSD0212E UNABLE TO START SCHEDULER CONTROLLER; R=rc, S=sc, M=mc

説明: スケジューラー・コントローラー構造にストレージを割り振ることができないか、またはスケジューラー・コントローラー・スレッドをスケジュールできません。IMS Connect に対して定義されているデータ・ストアのそれぞれについて、スケジューラー・コントローラーが開始されます。スケジューラー・コントローラーは、データ・ストアと関連付けられたスレッドをスケジュールするコントローラーです。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- rc は、戻りコードを識別します。
- sc は、サービス・コードを識別します。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
- mc は、このメッセージを出すモジュールを示します。

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 11. HWSD0212E のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
GETDSTB	BPECBGET。データ・ストア・テーブル (DST) を獲得するのに使用されるシステム・サービス。	4	誤った CBTE アドレスが CB 取得ルーチンに渡されている。これは、内部システム・エラーです。

表 11. HWSD0212E のサービス・コードおよび戻りコードの説明 (続き)

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
		8	ストレージが不足なので、要求を満たすことができません。
GETTWUB	BPECBGET。スケジューラー・コントローラー用のスレッド作業単位 (TWU) の獲得に使用されるシステム・サービス。	4	誤った CBTE アドレスが CB 取得ルーチンに渡されている。これは、内部システム・エラーです。
		8	ストレージが不足なので、要求を満たすことができません。
INCLOSE	IMS Connect がクローズ処理中です。データ・ストアを開始することはできません。	12	これは処理エラーです。
SCHEDTWU	BPETHDCR。スケジューラー・コントローラー・スレッドをスケジュールするのに使用されるシステム・サービス。	4	誤ったディスパッチャー作業域が、スレッド作成ルーチンに渡されている。
		8	誤った TCB 索引値が TCBIDX パラメーターに渡されている。

表 11. HWSD0212E のサービス・コードおよび戻りコードの説明 (続き)

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
		12	ゼロのルーチン・アドレスが、ROUTINE=パラメータに渡されている。
		16	誤った TCB 表エントリ・アドレスが、スレッド作成ルーチンに渡されている。 BPETHDCR マクロは、パラメータ TCBTYPE、TCBIDX、あるいは TCBDWA のいずれが指定されているかに基づいて、TCBT アドレスを判別する。このパラメータが正しくコーディングされていることを確認してください。
		20	該当のスレッドのスレッド制御ブロック (THCB) 用のストレージを入手できません。

表 11. HWSD0212E のサービス・コードおよび戻りコードの説明 (続き)

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
		24	該当のスレッド用のスタック・ストレージを入手できません。
		28	該当のスレッドの初期ポストが失敗しました。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: JCL ステートメントで指定された領域サイズが、IMS Connect 領域を十分収容できるものであることを確認してください。エラーが再発する場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびメモリー・ダンプを提出してください。

モジュール: DOCC - HWSDOCC0、DOCM - HWSDOCM0

**HWSD0222W UNABLE TO START
TRANSMIT/RECEIVE THREADS FOR
DS=did; R=rc, S=sc, M=mc**

説明: 送信または受信スレッド構造にストレージを割り振ることができないか、あるいは伝送スレッドまたは受信スレッドのいずれかをスケジュールできません。メッセージ伝送およびメッセージ受信用に定義された各データ・ストアごとに、伝送スレッドと受信スレッドが割り当てられます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *did* は、データ・ストアを識別します。
- *rc* は、戻りコードを識別します。
- *sc* は、サービス・コードを識別します。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

HWSD0222W

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 12. HWSD0222W のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
GETDSBB	BPECBGET。伝送スレッドと受信スレッドのためのデータ・ストア・ブロック (DSB) を獲得するのに用いられるシステム・サービス。これはスレッド用の実行ブロックです。	4	誤った CBTE アドレスが CB 取得ルーチンに渡されている。これは、内部システム・エラーです。
		8	ストレージが不足なので、要求を満たすことができません。
GETC01K	BPECBGET。会話コントローラーのための共通の 1024 バイト (C01K) を獲得するのに使用されるシステム・サービス。この領域は作業域として使用されます。	4	誤った CBTE アドレスが CB 取得ルーチンに渡されている。これは、内部システム・エラーです。
		8	ストレージが不足なので、要求を満たすことができません。

表 12. HWSD0222W のサービス・コードおよび戻りコードの説明 (続き)

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
GETTWUB	BPECBGET。伝送スレッドと受信スレッドのためのスレッド作業単位 (TWU) を獲得するのに用いられるシステム・サービス。	4	誤った CBTE アドレスが CB 取得ルーチンに渡されている。これは、内部システム・エラーです。
		8	ストレージが不足なので、要求を満たすことができません。
SCHEDTWU	BPETHDCR。スケジューラー・コントローラー・スレッドをスケジュールするのに使用されるシステム・サービス。	4	誤ったディスプレイパッチャー作業域が、スレッド作成ルーチンに渡されている。
		8	誤った TCB 索引値が TCBIDX パラメーターに渡されている。
		12	ゼロのルーチン・アドレスが、ROUTINE=パラメーターに渡されている。

表 12. HWSD0222W のサービス・コードおよび戻りコードの説明 (続き)

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
		16	誤った TCB 表エントリ・アドレスが、スレッド作成ルーチンに渡されている。 BPETHDCR マクロは、パラメーター TCBTYPE、TCBIDX、あるいは TCBWA のいずれが指定されているかに基づいて、TCBT アドレスを判別する。このパラメーターが正しくコーディングされていることを確認してください。
		20	該当のスレッドのスレッド制御ブロック (THCB) 用のストレージを入手できません。
		24	該当のスレッド用のスタック・ストレージを入手できません。

表 12. HWSD0222W のサービス・コードおよび戻りコードの説明 (続き)

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
		28	該当のスレッドの初期ポストが失敗しました。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は開始できるデータ・ストアについて実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: IMS Connect のその後のクローズと始動の際、JCL ステートメントで指定された領域サイズが、IMS Connect 領域を十分収容できるものであることを確認してください。エラーが再発する場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびメモリー・ダンプを提出してください。

モジュール: DSC1 - HWSDSC10、DSCM - HWSDSCM0

HWSD0227W CLOSE FAILED FOR DS=did; R=rc, S=sc, M=mc

説明: IMS Connect のシャットダウン中に、指定されたデータ・ストアをクローズしようとして失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *did* は、データ・ストアを識別します。
- *rc* は、戻りコードを識別します。
- *sc* は、サービス・コードを識別します。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 13. HWSD0227W のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
GETFWEB	BPECBGET。クローズすることをすべてのデータ・ストアに通知するために、FWE を獲得するのに使用されるシステム・サービス。	4	誤った CBTE アドレスが CB 取得ルーチンに渡されている。これは、内部システム・エラーです。
		8	ストレージが不足なので、要求を満たすことができません。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: データ・ストアのクローズを通知するためのストレージを割り振ることができません。エラーが再発する場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびメモリー・ダンプを提出してください。

モジュール: DOC3 - HWSDOC30

HWSD0230I *type=id* ALREADY ACTIVE; R=*rc*, S=*sc*, M=*mc*

説明: OPENDS または OPENIP コマンドが、すでにアクティブになっているデータ・ストアまたは IMSplex に対して発行されています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *type* は、データ・ストア (DS) または IMSplex (IP) を識別します。
- *id* はデータ・ストア名または IMSplex 名を識別する。
- *rc* は、戻りコードを識別します。
- *sc* は、サービス・コードを識別します。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 14. HWSD0230I のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
ACTIVDST	データ・ストアがアクティブです。	0	処理が正常に行われた。
ACTIVEIP	IMSplex がアクティブです。	0	処理が正常に行われた。
ACTVDISC	IMSplex は、アクティブですが、現在切断されています。	0	IMSplex は切断され、SCI が開始されるまで切断されたままです。SCI が開始されると、IMS Connect は自動的に SCI に再接続します。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: OPENDS または OPENIP コマンドで正しい名前が与えられているか、確認してください。OPENIP コマンドを発行している場合は、SCI が初期設定されているかどうかを確認してください。エラーが再発する場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

状況 ACTIVE は、構成ファイルで定義されたデータ・ストアが IMS Connect に既知で、接続の準備ができているか、すでに接続されていることを意味します。データ・ストアの VIEWHWS コマンドの出力内にある、CONNECTED または DISCONNECTED という状況は、接続の状態を示しています。状況 NOT ACTIVE は、IMS Connect の状況が STOPDS コマンドを使用して変更されたことを意味します。OPENDS コマンドがこの状況を変更します。以下に例を示します。

- ACTIVE。このメッセージで示されているように、データ・ストアの制御ブロック構造はそのまま残されます。
- DISCONNECTED (VIEWHWS 出力で示される) は、データ・ストアが XCF グループから切り離されていることを意味します。データ・ストアが XCF グループ

ループを再結合すると、自動的に IMS Connect の ACTIVE 構造に再接続します (そのため、CONNECTED になります)。

モジュール: DOCM - HWSDOCM0

HWSD0250W UNABLE TO NOTIFY MSG
ORIGIN=clientid OF OTMA
COMMUNICATION ERROR; R=rc,
S=sc, M=mc

説明: IMS Connect は、IMS OTMA との通信エラーが発生したことを、処理中またはキューに入れられて処理待機中のメッセージの発信元である TCP/IP クライアントに通知できません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *clientid* は、TCP/IP クライアントを識別する。
- *rc* は、戻りコードを識別します。
- *sc* は、サービス・コードを識別します。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 15. HWSD0250W のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
COMMERR	IMS OTMA との通信エラー	4	これは処理エラーです。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。エラーを起こした処理のメッセージが廃棄されます。

システム・プログラマーの応答: このエラーは、データ・ストアがアクティブでなくなるか、IMS Connect への通信リネージが切断された場合に発生することがあります。

モジュール: DXMT - HWSDXMT0、DSC3 - HWSDESC30、DSCE - HWSDESCE0

HWSD0252W UNABLE TO SEND RESPONSE
RECEIVED FROM DS=did to
CLIENT=clientid; R=rc, S=sc, M=mc

説明: IMS Connect は、データ・ストアからメッセージを受け取りましたが、必要な TCP/IP クライアントに応答を送信できませんでした。この状況は、要求を出したクライアントがアクティブでなくなった場合に起こります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *did* は、データ・ストアを識別します。
- *clientid* は、TCP/IP クライアントを識別する。
- *rc* は、戻りコードを識別します。
- *sc* は、サービス・コードを識別します。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

戻りコードおよびサービス・コードの説明については、次の表を参照してください。

表 16. HWSD0252W のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
INVLTKN	メッセージのトークン ID と現行セッションの不一致が検出されました。	4	メッセージは T パイプ非同期保留キューに入れられました。
LATEMSG	IMS Connect でタイムアウトになった後、ソケットがクローズされた後、あるいは TCP/IP が終了された後で、IMS からのメッセージが受信されました。IMS Connect が IMS 出力を受け取る前に、ソケットがクローズされた可能性があります。このメッセージは、トランザクションのタイムアウト間隔を超えた場合にも永続ソケットに対して発行されません。	4	IMS からのメッセージは IMS Connect によって受信されましたが、クライアントには送信されませんでした。

表 16. HWSD0252W のサービス・コードおよび戻りコードの説明 (続き)

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
NFNDCOMP	要求された機能を処理するコンポーネントが見つかりません。IMS Connect コンポーネントの 1 つが、サービスを要求するために別のコンポーネントにインターフェース呼び出しを発行しましたが、要求されたコンポーネントが見つかりません。	4	これは処理エラーです。
NFNDFUNC	要求された機能が見つかりません。IMS Connect コンポーネントの 1 つが、サービスを要求するために別のコンポーネントにインターフェース呼び出しを発行しましたが、要求されたサービスが見つかりません。	8	これは処理エラーです。
NFNDSVT	サーバー・テーブルが見つかりません。このテーブルには、接続された IMS Connect クライアントのアクティビティが維持されています。	4	これは処理エラーです。あるいは、タイムアウトが発生しました。
NFNDFPORT	IMS Connect は、データ・ストアからのメッセージ応答に示されているポートを見つけられませんでした。	4	メッセージは T パイプ非同期保留キューに入れられました。
TIMEOUT	メッセージは、タイムアウト処理中のクライアント・セッションに宛てられていました。IMS Connect が応答を受け取る前にタイムアウト間隔が経過しました。	4	これは、内部処理エラーです。
GETWFWEB	IMS Connect は、処理に必要な制御ブロックを取得できませんでした。この状態は一時的なものである可能性があります。	4	これは処理エラーです。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。応答メッセージは廃棄されます。

システム・プログラマーの応答: このエラーは、クライアントがアクティブでなくなって、IMS Connect に接続されなくなったときに、起こる可能性があります。クライアントがログオフしたか、接続がタイムアウトになった可能性があります。メッセージが非同期保留キューに入れられた場合、RESUME TPIPE 呼び出しを発行することによって取得できます。

サービス・コードが NFNDCOMP または NFNDFUNC のときは、内部エラーが発生した可能性があります。問題報告データベースを検索して、問題の修正を探してください。問題が続く場合は、戻りコードおよびサービス・コードを記録して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびメモリー・ダンプを提出してください。

モジュール: DREC - HWSDDREC0

HWSD0254W UNABLE TO NOTIFY DS=did SCHEDULER OF COMMUNICATION ERROR; R=rc, S=sc, M=mc

説明: IMS Connect は、通信エラーが起こったことを、指定されたデータ・ストアのスケジューラー・コントローラーに通知できません。この状態が起こると、IMS Connect は指定されたデータ・ストアをアクティブとして表示します。しかし、そのデータ・ストアのキューに入れられたメッセージは送信されません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *did* は、データ・ストアを識別します。
- *rc* は、戻りコードを識別します。
- *sc* は、サービス・コードを識別します。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 17. HWSD0254W のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
COMMERR	通信エラー	4	これは処理エラーです。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: STOPDS コマンドを発行して、データ・ストアを終了します。エラーが再発する場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

モジュール: DREC - HWSDREC0、DXMT
-HWSDXMT0

**HWSD0255W RECEIVED A MESSAGE WITH NO
USER DATA PREFIX FROM DS=*did*;
TM=*tmember*; CLIENT=*cn*; M=*drec***

説明: IMS Connect は、ユーザー・データ接頭部を含まないメッセージをデータ・ストアから受け取りました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *did* は、このメッセージを送ったデータ・ストアを示します。
- *tmember* は、エラーを検出した IMS Connect のインスタンスを示します。
- *cn* は、このメッセージが送られたクライアント名を示します。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: IMS Connect は NACK を戻し、データ・ストアは出力を TPIPE HWS\$DLQ へ転送します。

システム・プログラマーの応答: データ・ストアのログ・レコードを検討して、ユーザー・データ接頭部がメッセージに含まれなかった理由を判別してください。TPIPE HWS\$DLQ は、無効なメッセージの送達不能キューとして機能します。

モジュール: DREC- HWSDREC0

**HWSD0260I DS=*did* *tname* THREAD
TERMINATED; M=*mc***

説明: データ・ストア送信スレッドまたは受信スレッドが終了しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *did* は、データ・ストアを識別します。
- *tname* は、スレッド・タイプを示します。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: このメッセージは、データ・ストアのスレッドが終了したときに発行されます。

モジュール: DREC - HWSDREC0、DXMT
-HWSDXMT0

HWSD0270I OTMA OPEN FAILED; R=*rc*, M=*mc*

説明: IMS Connect の始動中、または IMS Connect OPENDS コマンドへの応答時にデータ・ストアとの通信に障害が起こり、その結果、OTMA オープン機能に障害が発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *rc* は、戻りコードを識別します。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: このメッセージは、データ・ストアとの通信障害のため OTMA への通信が失敗したときに発行されます。この障害についての詳細は、メッセージ HWSO1105W またはメッセージ HWSO1110W を参照してください。

システム・プログラマーの応答: このエラーは、IMS OTMA のグループおよびメンバーが正しく定義されていないと、起こる可能性があります。IMS Connect VIEWDS または VIEWHWS コマンドを使用して、システム内のデータ・ストアの状況を表示して、どのデータ・ストアがオープンできなかったのかを判別してください。問題が解決しない場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびメモリー・ダンプを提出してください。

モジュール: DOC1 - HWSDOC10

関連情報:

456 ページの『HWSO1105W』

456 ページの『HWSO1110W』

**HWSD0280I DATASTORE COMMUNICATION
FUNCTION CLOSED; M=*mc***

説明: データ・ストア用の通信機能が非アクティブになりました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: このメッセージは、データ・ストアとの間のすべての通信が終了して、IMS Connect がシャットダウンしている間に発行されます。

モジュール: DOC3 - HWSDOC30

**HWSD0282I COMMUNICATION WITH DS=*did*
CLOSED; M=*mc***

説明: 指定されたデータ・ストアとの通信が終了しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *did* は、データ・ストアを識別します。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置:

HWSDSCL0

STOPDS コマンドが正常に完了しました。

HWSDREC0

指定されたデータ・ストアへの接続は終了しました。

このメッセージは、STOPDS コマンドが正常に終了したときに発行されます。

モジュール: DSCL - HWSDSCL0、DREC - HWSDREC0

**HWSD0284I COMMUNICATION WITH DS=*did*
STOPPED; M=*mc***

説明: 指定されたデータ・ストアとの通信が停止しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *did* は、データ・ストアを識別します。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: このメッセージは、STOPDS コマンドが正常に終了したときに発行されます。

モジュール: DSCM - HWSDSCM0

**HWSD0286I COMMUNICATION WITH DS=*did*
STOPPED DUE TO
COMMUNICATION ERROR; M=*mc***

説明: 指定されたデータ・ストアとの通信がエラーのため停止されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *did* は、データ・ストアを識別します。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: このメッセージは、データ・ストアとの通信にエラーが起こったときに発行されます。OTMA を停止 (/STOP OTMA) して再始動 (/START OTMA)

し、次にデータ・ストアをクローズ (STOPDS) して再オープン (OPENDS) します。

モジュール: DSCM - HWSDSCM0

HWSD0290I Connected to DATASTORE=*did*; M=*mc*

説明: メッセージ・テキストに示されたデータ・ストアとの通信が確立されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *did* は、データ・ストアを識別します。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置:

HWSDSC10

データ・ストアとの接続が確立されました。これは、IMS Connect の始動中か、または OPENDS コマンドが正常に完了したときに起こる可能性があります。

HWSDREC0

データ・ストアとの接続が再確立されました。

モジュール: DSC1 - HWSDSC10、DREC - HWSDREC0

**HWSD0292I CONNECTION TO DATASTORE=*did*;
FAILED; M=*mc***

説明: *did* で示されたデータ・ストアとの通信が確立されていません。このデータ・ストアは、まだ XCF グループに加わっていません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *did* は、データ・ストアを識別します。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: このメッセージは、CONFIG ファイルで定義したデータ・ストアとの接続が確立されなかったときに発行されます。これは IMS Connect 始動時に起こります。

モジュール: DSC1 - HWSDSC10

**HWSE3130W THE MSC DRIVER FAILED TO
OBTAIN STORAGE; R=*rc*, S=*sc*, B=*bn*,
M=*mc***

説明: おそらく処理を完了するのに十分なストレージがなかったため、IMS Connect MSC 通信ドライバーは内部バッファ用ストレージを取得できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc サービスの戻りコード。
sc サービス・コード。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。次のコードは、BPE ストレージ・サービス・コードです。
 • BPECBGET
 • BPEGETM
bn バッファ名。
mc メッセージの発行元のモジュール。

考えられる原因: 処理を完了するのに必要なストレージが不足しています。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。ストレージの取得の失敗によって通信エラーが発生した場合は、追加のエラー・メッセージが発行されます。

システム・プログラマーの応答: エラーが BPE サービスに関連する場合は、メッセージに示された BPE サービスの戻りコードを調べてください。

問題が解決しない場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。原因が見つからない場合は、戻りコード、サービス・コード、バッファ名、およびバッファ・アドレスを記録して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

モジュール: IXMT - HWSIDXMT、IXOT - HWSIDXOT

関連資料:

 BPE コード (メッセージおよびコード)

HWSE3135W THE MSC DRIVER FAILED TO RELEASE STORAGE; R=*rc*, S=*sc*, B=*bn*, A=*a*, M=*mc*

説明: IMS Connect MSC 通信ドライバーが内部バッファ用のストレージを解放できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc サービスの戻りコード。
sc サービス・コード。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
bn バッファ名。
a バッファ・アドレス。

mc メッセージを出すモジュール。
 システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は引き続き正常に実行されます。

システム・プログラマーの応答: この問題はおそらく内部エラーです。問題報告データベースを検索して、問題の修正を探してください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

モジュール: IXRC - HWSIDXRC

HWSE3155W MSC IS NOT AVAILABLE: MEMBER=*mbrname*; STATE=*s*, M=*mc*

説明: IMS Connect はメッセージ・テキストの MEMBER で示された IMS システムに MSC メッセージを送信しようとしたましたが、IMS システムが使用できなかったため失敗しました。メッセージ・テキストの STATE の値は、IMS システムが使用できなかった理由を示します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

mbrname IMSplex 内の MSC 対応 IMS システムの名前。
s IMS システムの状況。s の有効な値は次のとおりです。
DISC IMS Connect と MSC 間の通信が IMS Connect でコマンドによって停止されました。
TERM メッセージ・テキストの *mbrname* で示された IMS システムがダウンしています。

mc メッセージを出すモジュール。

システムの処置: IMS Connect は否定応答 (NAK) を送信側に発行します。このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: 状態が DISC である場合は、IMS Connect で MSC 通信を再開する必要があります。MSC 通信を再開するには、次のいずれかの IMS Connect コマンドを発行します。

- IMS タイプ 2 コマンド UPDATE IMSCON TYPE(MSC)
- WTOR コマンド STARTMSC
- z/OS MODIFY コマンド UPDATE MSC

状態が TERM である場合は、メッセージ・テキストに示された IMS システムを再始動する必要があります。

モジュール: IXMT - HWSIDXMT

関連資料:

-  UPDATE IMSCON TYPE(MSC) コマンド (コマンド)
-  STARTMSC コマンド (コマンド)
-  IMS Connect UPDATE MSC コマンド (コマンド)

HWSF3300I COMMUNICATIONS ON MSC PHYSICAL LINK *lclplkid* STARTED; M=*mc*

説明: 示された複数システム結合機能 (MSC) 物理リンクに対して IMS との MSC 通信が確立されました。このメッセージは、IMS Connect の始動時、または次の IMS Connect コマンドが正常に完了したときに発行されます。

- IMS タイプ 2 コマンド UPDATE IMSCON TYPE(MSC) START(COMM)
- WTOR コマンド STARTMSC
- z/OS MODIFY コマンド UPDATE MSC START(COMM)

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

lclplkid IMS Connect 構成メンバーの MSC ステートメントの LCLPLKID パラメーターで IMS Connect に定義された MSC 物理リンク ID。
mc メッセージを出すモジュール。

システムの処置: 示された MSC 物理リンクに対して IMS との MSC 通信が確立されました。IMS Connect は引き続き正常に実行されます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: ISC1 - HWSISC10

HWSF3305I COMMUNICATIONS ON MSC PHYSICAL LINK *lclplkid* STOPPED; M=*mc*

説明: メッセージに示されている複数システム結合機能 (MSC) 物理リンク上の IMS との通信が停止しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

lclplkid IMS Connect 構成メンバーの MSC ステートメントの LCLPLKID パラメーターで IMS Connect に定義された MSC 物理リンクの ID。
mc メッセージを出すモジュール。

考えられる原因: CLOSEHWS または同様のコマンドによって IMS Connect がシャットダウンされたか、または次のいずれかのコマンドによって MSC 物理リンク上の MSC 通信が停止された可能性があります。

- IMS タイプ 2 コマンド UPDATE IMSCON TYPE(MSC) STOP(COMM)
- WTOR コマンド STOPMSC
- z/OS MODIFY コマンド UPDATE MSC STOP(COMM)

システムの処置: 示された MSC 物理リンクに対して IMS との MSC 通信が停止しました。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

MSC 物理リンクに対して IMS との MSC 通信を再開するには、次のいずれかの IMS Connect コマンドを発行できます。

- IMS タイプ 2 コマンド UPDATE IMSCON TYPE(MSC) START(COMM)
- WTOR コマンド STARTMSC
- z/OS MODIFY コマンド UPDATE MSC START(COMM)

モジュール: DSCM - HWSDCM0

関連資料:

-  UPDATE IMSCON TYPE(MSC) コマンド (コマンド)
-  STARTMSC コマンド (コマンド)
-  IMS Connect UPDATE MSC コマンド (コマンド)

HWSF3310I LOGICAL LINK *mslink* TERMINATED; MSC=*lclplkid*, M=*mc*

説明: IMS Connect コマンドによって、複数システム結合機能 (MSC) 物理リンク上の MSC 論理リンクが停止しました。論理リンク上のすべての通信が停止し、この論理リンクで使用される制御ブロックとストレージが解放されます。

次の IMS Connect コマンドによって MSC 論理リンクが停止します。

- WTOR コマンド STOPLINK
- z/OS MODIFY コマンド DELETE LINK
- IMS タイプ 2 コマンド UPDATE IMSCON TYPE(LINK)

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

mslink 停止した MSC 論理リンクを示します。

lclplkid 論理リンクが割り当てられた MSC 物理リンク

と、IMS Connect に MSC 物理リンクを定義する IMS Connect 構成メンバーの MSC ステートメントの両方を示します。

mc メッセージを発行したモジュールを示します。

システムの処置: IMS Connect は論理リンクの制御ブロックとストレージを解放し、引き続き正常に実行されます。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: ISC2 - HWSISC20

関連資料:

 IMS Connect コマンド (コマンド)

HWSF3315E COMMUNICATIONS WITH MSC FAILED TO OPEN BECAUSE IMS CONNECT IS NOT CONNECTED TO AN IMSPLEX; M=*mc*

説明: IMS Connect は IMS との複数システム結合機能 (MSC) 通信を確立しようとしたのですが、IMS Connect が IMSplex の登録済みメンバーでないため失敗しました。この失敗は IMS Connect の始動時に発生する可能性が高いですが、STARTMSC コマンドが発行された後に発生することもあります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

mc メッセージを発行したモジュール。

考えられる原因: IMSplex ステートメントが IMS Connect 構成 PROCLIB メンバーに正しく指定されていないか、または CSL 構造化呼び出しインターフェース (SCI) のインスタンスが使用できません。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect が引き続き実行されますが、MSC メッセージを IMS システムに送付できません。

システム・プログラマーの応答: SCI のインスタンスが使用できないために MSC 通信の開始が失敗した場合は、IMS Connect 構成 PROCLIB メンバーの IMSPLEX ステートメントに指定されている IMSplex の SCI のインスタンスを始動します。

SCI のインスタンスの実行時に MSC 通信の開始が失敗した場合は、IMS Connect 構成 PROCLIB メンバーの MSC ステートメントの IMSPLEX= サブステートメントに指定された IMSplex の名前が、SCI が実行されている IMSplex の名前と一致していることを確認します。IMS Connect で使用可能な SCI インスタンスの名前を判別するには、IMS タイプ 2 コマンド QUERY IMSPLEX を使用できます。

IMSplex の名前が一致しない場合は、IMS Connect 構

成メンバーの IMSplex 名を修正し、IMS Connect を再始動します。

モジュール: IXOT - HWSIDXOT、IOC1 - HWSIOC10

関連資料:

 IMS PROCLIB データ・セットの HWSCFGxx メンバー (システム定義)

 QUERY IMSPLEX コマンド (コマンド)

HWSF3330W THE MSC COMMUNICATIONS COMPONENT FAILED TO OBTAIN STORAGE; R=*rc*, S=*sc*, B=*bn*, M=*mc*

説明: おそらく処理を完了するのに十分なストレージがなかったため、IMS Connect MSC 通信コンポーネントは内部バッファ用ストレージを取得できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc メッセージ・テキストの *sc* で示されたサービスによって発行された戻りコード。

sc サービス・コード。これはサービス (通常は BPE サービス) の名前です。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。

bn バッファ名。

mc メッセージの発行元のモジュール。

考えられる原因: 処理を完了するのに必要なストレージが不足しています。

システムの処置: このメッセージが発行され、MSC に通知され、IMS Connect は引き続き実行されます。進行中の要求メッセージが廃棄されます。

システム・プログラマーの応答: IMS Connect の領域サイズが十分であることを確認してください。

エラーが BPE サービスに関連する場合は、メッセージに示された BPE サービスの戻りコードを調べてください。

問題が解決しない場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびメモリー・ダンプを提出してください。

モジュール: IREC - HWSIRECO

関連資料:

 BPE コード (メッセージおよびコード)

HWSF3340W SEND FAILED FROM
LCLMSC=*lclplkid* TO
RMTMSC=*rmtplkid* ON
RMTIMSCON=*rmtimscon*; R=*rc*, S=*sc*,
M=*mc*

説明: IMS Connect は、*rmtimscon* で示されている、RMTIMSCON ステートメントで定義された接続上のリモートの複数システム結合機能 (MSC) 物理リンク *rmtplkid* にメッセージを送信できませんでした。IMS Connect は、*lclplkid* で示されている、ローカルで定義された MSC 物理リンクでローカルの IMS システムから配信に関するメッセージを受信しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

lclplkid ローカルの送信側 IMS システムの MSC 物理リンクの名前。ローカルの MSC 物理リンクの名前は、IMS Connect 構成 PROCLIB メンバーの MSC ステートメントの LCLPLKID パラメーターでローカルの IMS Connect インスタンスに定義されます。

rmtplkid

リモートの宛先 IMS システムの MSC 物理リンクの名前。リモートの MSC 物理リンクの名前は、IMS Connect 構成 PROCLIB メンバーの MSC ステートメントの RMTPLKID パラメーターでローカルの IMS Connect インスタンスに定義されます。

rc サービスの戻りコード。

sc サービス・コード。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。次のいずれかのサービス・コードの場合、戻りコードは BPE サービス BPECBGET によって発行されます。

- GTFWEME
- GTFWEMQ
- GETFWEB

mc メッセージを出すモジュール。

考えられる原因: このエラーが発生する可能性があるのは、リモートの IMS Connect インスタンスが使用できなくなったか、または IMS.PROCLIB データ・セットの IMS Connect 構成メンバーにパラメーターが誤って指定されている場合です。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。IMS Connect は、否定応答を送信側の IMS に発行します。

システム・プログラマーの応答: リモートの IMS Connect が使用可能であるかどうかを確認してください。リモートの IMS Connect が使用可能である場合は、RMTIMSCON ステートメントのパラメーターの指定を確認します。

エラーが BPE サービスに関連する場合は、メッセージに示された BPE サービスの戻りコードを調べてください。

問題が解決しない場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびメモリー・ダンプを提出してください。

モジュール: IREC - HWSIRECO

関連資料:

 IMS PROCLIB データ・セットの HWSCFGxx メンバー (システム定義)

 BPE コード (メッセージおよびコード)

HWSF3345W UNABLE TO NOTIFY MSC=*lclplkid*
SCHEDULER OF COMMUNICATION
ERROR; R=*rc*, S=*sc*, M=*mc*

説明: エラーが発生し、IMS Connect は、メッセージに示されている複数システム結合機能 (MSC) 物理リンクのスケジューラー・コントローラーに通知を送信できませんでした。メッセージ・テキストの *sc* で示されたサービス・コードにこのエラーの説明が示されます。

IMS Connect は、IMS Connect がローカルの IMS システムから MSC メッセージを受信しているときに発生した前のエラーをスケジューラー・コントローラーに通知しようとしてしました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

lclplkid MSC ステートメントの LCLPLKID パラメーターで識別されたローカルの MSC 物理リンク。

rc サービスの戻りコード。

sc サービス・コード。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。以下のコードはストレージ・サービスです。

mc メッセージを出すモジュール。

表 18. HWSF3345W のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
GETFWEB	ストレージ・エラーの獲得	BPE サービス BPECBGET によって発行された戻りコード	これは処理エラーです。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: この問題がサービス・コード GETFWEB である場合は、IMS Connect の領域サイズが十分であることを確認します。

エラーが BPE サービスに関連する場合は、メッセージに示された BPE サービスの戻りコードを調べてください。

問題が解決しない場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびメモリー・ダンプを提出してください。

モジュール: IREC - HWSIREC0

関連資料:

 BPE コード (メッセージおよびコード)

**HWSF3350W UNABLE TO NOTIFY MSG
ORIGIN=*clientid* OF MSC COMM.
ERROR; R=*rc*, S=*sc*, P=*portid*,
PARTNER=*partnerid*, M=*mc***

説明: IMS Connect がリモートの IMS システムからローカルの IMS システムに MSC メッセージを送信しているときにエラーが発生しました。IMS Connect は、リモートの IMS Connect にこのエラーを通知しようとしたが、別のエラーが発生したため失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

clientid 配信できなかった MSC メッセージを送信したリモートの IMS Connect のクライアント ID。

rc サービスの戻りコード。

sc サービス・コード。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービス

から戻されたコードが入っている可能性があります。以下のコードはストレージ・サービスです。

portid 受信側のポート ID。

partnerid MSC 論理リンクのパートナー ID。

mc メッセージを出すモジュール。

表 19. HWSF3350W のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
NFNDRICN	RMTIMSCON が見つかりません	4	リモートの IMS Connect が見つかりませんでした。
INVLFUNC	無効な機能。	8	これは内部エラーです。
NOTACTV	RMTIMSCON がアクティブでない	8	リモートの IMS Connect がアクティブではありません。
GETFWEB	ストレージ・エラーの獲得	ストレージ・サービスの戻りコード	これは処理エラーです。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: この問題がサービス・コード GETFWEB である場合は、IMS Connect の領域サイズが十分であることを確認します。

問題が解決しない場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびメモリー・ダンプを提出してください。

モジュール: IXMT - HWSIXMT0

**HWSF3355E SHUT DOWN WAS REQUESTED
FOR MSC LOGICAL LINK OF
partnerid BUT THE LINK CANNOT
BE FOUND; M=*mc***

説明: IMS Connect は IMS から *partnerid* で示された

論理リンクに対する MSC シャットダウン・ディレクティブ・メッセージを受信しましたが、IMS Connect はそのパートナー ID を持つ MSC 論理リンクを検出できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

partnerid

IMS Connect が IMS システムからシャットダウン・ディレクティブで受信した MSC 論理リンクのパートナー ID。

mc メッセージを出すモジュール。

考えられる原因: STOPLINK または同様の IMS Connect コマンドによって、IMS でリンクがシャットダウンされたときとほぼ同時にリンクが削除された可能性があります。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題が解決しない場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびメモリー・ダンプを提出してください。

モジュール: IREC - HWSIREC0

HWSF3360I THE *threadtype* THREAD TERMINATED FOR MSC PHYSICAL LINK *lclplkid*; M=*mc*

説明: MSC 物理リンクの送信スレッドまたは受信スレッドが終了しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

lclplkid スレッドに関連付けられた MSC 物理リンクの ID。物理リンクの ID は、IMS.PROCLIB データ・セットの IMS Connect 構成メンバーの MSC ステートメントの LCLPLKID パラメーターで指定されます。

threadtype

終了したスレッドのタイプ。

RECEIVE

受信スレッド

TRANSMIT

送信スレッド

mc メッセージを出すモジュール。

考えられる原因: IMS Connect がシャットダウン中であるか、または IMS Connect コマンド (STOPMSC など) が発行されました。また、通信エラーが発生した可能性もあります。この場合は、他のエラー・メッセージが発行されます。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は引き続き実行されますが、IMS Connect は示された MSC 物理リンクで MSC メッセージを処理できません。

システム・プログラマーの応答: 通信エラーによりスレッドが終了した場合は、他の IMS Connect エラー・メッセージを確認してエラーの原因を判別してください。

問題が解決しない場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびメモリー・ダンプを提出してください。

モジュール: IREC - HWSIREC0、IXMT - HWSIXMT0

HWSF3365E UNABLE TO SEND MESSAGE TO MSC ON *lclplkid*; C=*clientid*; P=*portid*, PARTNER=*partnerid*, R=*rc*, S=*sc*, M=*mc*

説明: IMS Connect は、メッセージ・テキストの *lclplkid* 値で示されている MSC 物理リンクで IMS に MSC メッセージを送信できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

lclplkid IMS Connect がローカルの IMS システムにメッセージを送信できなかった MSC 物理リンクの ID。*lclplkid* 値は、MSC ステートメントの LCLPLKID パラメーターで指定されます。

clientid 失敗したメッセージが受信された受信ソケットを識別するクライアント ID。この ID はリモートの IMS Connect インスタンスによって生成されます。

rc サービスの戻りコード。

sc サービス・コード。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。

portid 受信側のポート ID。

partnerid

MSC 論理リンクのパートナー ID。

mc メッセージを発行したモジュール。

表 20. HWSF3365E のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
BPEGETM	ストレージを獲得するサービスが失敗しました。	BPE サービス BPEGETM によって発行された戻りコード	サービスが IMS に MSC メッセージを送信しようとしたときにストレージ・エラーが発生しました。
HWSFSTOR	ストレージをリリースするサービスが失敗しました。	HWSFSTOR サービスによる戻りコード。 HWSFSTOR サービスは、BPE ストレージ解放サービスまたは MVS ストレージ解放サービスです。	サービスが IMS に MSC メッセージを送信しようとしたときにストレージ・エラーが発生しました。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

失敗したメッセージがリモートの IMS Connect インスタンスからの MSC トランザクションまたは応答メッセージであった場合、IMS Connect はリモートの IMS Connect インスタンスにエラー・メッセージを戻します。

失敗したメッセージがリモートの IMS Connect インスタンスからのエラー・メッセージであった場合、IMS Connect はそのメッセージを廃棄します。

システム・プログラマーの応答: ストレージの獲得に関するエラーが発生した場合は、JCL ステートメントで指定された領域サイズが IMS Connect 領域を十分収容できるものであることを確認してください。

エラーが BPE サービスに関連する場合は、メッセージに示された BPE サービスの戻りコードを調べてください。

エラーが再発する場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびメモリー・ダンプを提出してください。

ストレージのリリースに関するエラーが発生した場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびメモリー・ダンプを提出してください。

モジュール: IXMT – HWSIXMT0

関連資料:

 BPE コード (メッセージおよびコード)

HWSF3370E IMS CONNECT WAS UNABLE TO NOTIFY IMS THAT MSC PHYSICAL LINK *lclplkid* STOPPED; R=*rc*, S=*sc*, M=*mc*

説明: メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

lclplkid IMS Connect 構成メンバーの MSC ステートメントの LCLPLKID パラメーターで IMS Connect に定義された MSC 物理リンク ID。

rc MSC から IMS Connect に渡された CSLCMSG 戻りコード。

sc サービス・コード。サービス・コード MSCMSC は MSC レベルのディレクティブを示します。

mc メッセージを出すモジュール。

考えられる原因: 最も可能性の高い原因として、SCI が使用できないことが考えられます。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は引き続き正常に実行されます。

SCI が使用できない場合、MSC は IMS Connect にメッセージを送信できません。このメッセージが別のエラーがきっかけで発行され、IMS Connect がリンクに関する追加のメッセージを受信する場合、IMS Connect は IMS に別のエラー・メッセージを発行します。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: IXMT – HWSIXMT0

関連資料:

 CSLCMSG: メッセージ送信要求 (システム・プログラミング API)

HWSF3375E IMS CONNECT WAS UNABLE TO NOTIFY IMS THAT MSC LOGICAL LINK *logicallink* STOPPED; R=*rc*, S=*sc*, M=*mc*

説明: IMS Connect は、複数システム結合機能 (MSC) 論理リンク *logicallink* が停止したことを示す通知を IMS に送信できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

logicallink

MSC 論理リンク名

rc MSC から IMS Connect に渡された CSLCMSG 戻りコード。
sc サービス・コード。サービス・コード MSCLINK は MSC リンク・レベルのディレクティブを示します。
mc メッセージを出すモジュール。

考えられる原因: 最も可能性の高い原因として、SCI が使用できないことが考えられます。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は引き続き正常に実行されます。

SCI が使用できない場合、MSC は IMS Connect にメッセージを送信できません。このメッセージが別のエラーがきっかけで発行され、IMS Connect がリンクに関する追加のメッセージを受信する場合、IMS Connect は IMS に別のエラー・メッセージを発行します。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: IXMT - HWSIXMT0

**HWSF3400E FUNCTION WORK ELEMENT
 PROCESSING FAILED, FUNC=*fn*;
 R=*rc*, S=*sc*, M=*mc***

説明: 機能作業エレメント (FWE) を処理できません。FWE は、コンポーネント間の作業およびコンポーネント内の作業を要求します。この構造には、処理の際にサービスが必要とする機能とパラメーターが入っています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

fn 要求された機能。
rc サービスの戻りコード。
sc サービス・コード。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
mc メッセージを出すモジュール。

表 21. HWSF3400E のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
INVFUNC	FWE で要求された機能が正しくない。	4	この問題は、処理エラーです。

システムの処置: このメッセージが発行され、可能な限り、機能の要求者に通知されます。その他の場合は、

FWE は解放されます。どのような場合も IMS Connect は実行を続けます。

システム・プログラマーの応答: これはおそらく内部エラーです。問題報告データベースを検索して、問題の修正を探してください。修正方法が見つからない場合は、IBM サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

モジュール: ISCH - HWSISCH0

**HWSF3405W PROCESS OF STOPPING MSC
 LOGICAL OR PHYSICAL LINK
 FAILED BECAUSE MSC=*lclplkid* IS IN
 DISCONNECT STATE; M=*mc***

説明: MSC 物理リンクがすでに切断されているため、IMS Connect は MSC 論理リンクまたは物理リンクを停止できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

lclplkid IMS Connect 構成メンバーの MSC ステートメントの LCLPLKID パラメーターで IMS Connect に定義された MSC 物理リンク ID。
mc メッセージを出すモジュール。

考えられる原因: SCI または IMS が使用できないか、または IMSplex との通信を停止するために STOPIP などの IMS Connect コマンドが発行されました。

システムの処置: メッセージが発行され、MSC 論理リンクまたは物理リンクの停止処理が無視されます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: ISCH - HWSISCH00

**HWSG4000I COMMUNICATIONS ON ISC LINK
isclnkid STARTED; M=*mc***

説明: ISC リンク用の IMS でシステム間連絡 (ISC) リンクが開始されました。このメッセージは、IMS Connect の始動中、または IMS タイプ 2 コマンド UPDATE IMSCON TYPE(ISC) START(COMM) の正常完了時に発行されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

isclnkid IMS Connect に ISC リンクを定義する ISC 構成ステートメントの ID。
mc メッセージを出すモジュール。

システムの処置: 示された ISC リンクに対して IMS との ISC 通信が確立されました。IMS Connect は引き続き正常に実行されます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: JSC1 - HWSJSC10

HWSG4005I COMMUNICATIONS ON ISC LINK

isclnkid STOPPED; M=mc

説明: IMS とのシステム間連絡 (ISC) リンクが停止しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

isclnkid IMS Connect に ISC リンクを定義する ISC 構成ステートメントの ID。

mc メッセージを出すモジュール。

考えられる原因: CLOSEHWS または同様のコマンドによって、IMS Connect がシャットダウンされたか、IMS タイプ 2 コマンド UPDATE IMSCON TYPE(ISC) STOP(COMM) によって ISC リンクの通信が停止された可能性があります。

システムの処置: 示された ISC リンクに対して IMS との ISC 通信が停止しました。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

ISC リンクの IMS との通信を再開するには、IMS タイプ 2 コマンド UPDATE IMSCON TYPE(ISC) START(COMM) を発行します。

モジュール: DSCM - HWS DSCM0

HWSG4010I ISCUSER *sessn_id* TERMINATED;

ISC=*isclnkid*, M=mc

説明: IMS Connect コマンドによって、ISC リンク上の ISC 並列セッション (ISCUSER) が停止しました。並列セッション上のすべての通信が停止し、この並列セッションで使用される制御ブロックとストレージが解放されます。

並列セッションは、IMS タイプ 2 コマンド UPDATE IMSCON TYPE(ISCUSER) STOP(COMM) で停止できます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

isclnkid IMS Connect に ISC リンクを定義する ISC 構成ステートメントの ID。

mc メッセージを発行したモジュール。

sessn_id

終了された ISC 並列セッションの ISCUSER ID。

システムの処置: IMS Connect は、並列セッションに

より使用される制御ブロックとストレージを解放し、引き続き正常に実行されます。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: JSC20 - HWSJSC20

関連資料:

 UPDATE IMSCON コマンド (コマンド)

HWSG4015E COMMUNICATIONS ON ISC LINK

isclnkid FAILED TO OPEN; IMS CONNECT IS NOT CONNECTED TO AN IMSPLEX; M=mc

説明: IMS Connect は IMS とのシステム間連絡 (ISC) を確立しようとしたましたが、IMS Connect が IMSplex の登録済みメンバーでないため失敗しました。この失敗は IMS Connect の始動時に発生する可能性が高いですが、タイプ 2 UPDATE IMSCON TYPE(ISC) START(COMM) コマンドが発行された後に発生することもあります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

isclnkid IMS Connect に ISC リンクを定義する ISC 構成ステートメントの ID。

mc メッセージを発行したモジュール。

考えられる原因: IMSplex ステートメントが IMS Connect 構成 PROCLIB メンバーに正しく指定されていないか、または CSL 構造化呼び出しインターフェース (SCI) のインスタンスが使用できません。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect が引き続き実行されますが、ISC メッセージを IMS システムに送付できません。

システム・プログラマーの応答: SCI のインスタンスが使用できないために ISC 通信の開始が失敗した場合は、IMS Connect 構成 PROCLIB メンバーの IMSPLEX ステートメントに指定されている IMSplex の SCI のインスタンスを始動します。

SCI のインスタンスの実行時に ISC 通信の開始が失敗した場合は、IMS Connect 構成 PROCLIB メンバーの ISC ステートメントの IMSPLEX= サブステートメントに指定された IMSplex の名前が、SCI が実行されている IMSplex の名前と一致していることを確認します。IMS Connect で使用可能な SCI インスタンスの名前を判別するには、IMS タイプ 2 コマンド QUERY IMSPLEX を使用できます。

IMSplex の名前が一致しない場合は、IMS Connect 構成メンバーの IMSplex 名を修正し、IMS Connect を再始動します。

HWMSG4020W • HWMSG4030W

モジュール: JXOT - HWSJDXOT, JOC1 - HWSJOC10

HWMSG4020W FWE FUNCTION=*func* FAILED FOR ISC=*isclnkid*, COMMAND=*hwscmd* IN PROGRESS; M=*mc*

説明: *hwscmd* に示されたコマンドがすでに処理中であるため、機能 *func* は処理できません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

func 要求された機能を示します。

isclnkid IMS Connect に ISC リンクを定義する ISC 構成ステートメントを示します。

hwscmd 進行中の IMS Connect コマンドを識別します。

mc このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: このメッセージが発行され、可能な限り、機能の要求者に通知されます。その他の場合は、FWE は解放されます。どのような場合も IMS Connect は実行を続けます。

システム・プログラマーの応答: 進行中の IMS Connect コマンドがデータ・ストアを終了中です。したがって、そのデータ・ストアに関する新機能はいずれも処理できません。

モジュール: DSCM - HWSDCM0

HWMSG4025W COMMAND=*hwscmd* FAILED FOR ISC=*isclnkid*, COMMAND=*prev_hwscmd* ALREADY IN PROGRESS; M=*mc*

説明: ISC リンクに対して入力された IMS Connect コマンド *isclnkid* は、すでにその ISC リンクに対するコマンド *prev_hwscmd* が進行中であるため、処理できません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

hwscmd *prev_hwscmd* によって実行をブロックされた IMS Connect コマンド

isclnkid *hwscmd* および *prev_hwscmd* に影響される ISC リンクを定義する ISC 構成ステートメントの ID

prev_hwscmd *hwscmd* を実行からブロッキングする IMS Connect コマンド

mc メッセージを出すモジュール

システムの処置: このメッセージが発行され、可能な限り、機能の要求者に通知されます。その他の場合は、FWE は解放されます。どのような場合も IMS Connect は実行を続けます。

システム・プログラマーの応答: 進行中の IMS Connect コマンドが ISC リンクを終了中です。したがって、新しいコマンドは、いずれも処理できません。IMS Connect コマンド (*hwscmd*) が CLOSEHWS であった場合は、IMS Connect *prev_hwscmd* の処理の完了後に終了します。

モジュール: DSCM - HWSDCM0

HWMSG4030W THE ISC COMMUNICATIONS COMPONENT FAILED TO OBTAIN STORAGE; R=*rc*, S=*sc*, B=*bn*, M=*mc*

説明: おそらく処理を完了するのに十分なストレージがなかったため、IMS Connect ISC 通信コンポーネントは内部バッファ用ストレージを取得できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc メッセージ・テキストの *sc* で示されたサービスによって発行された戻りコード。

sc サービス・コード。これはサービス (通常は BPE サービス) の名前です。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。

bn バッファ名。

mc メッセージの発行元のモジュール。

考えられる原因: 処理を完了するのに必要なストレージが不足しています。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS に通知され、IMS Connect は引き続き実行されます。進行中の要求メッセージが廃棄されます。

システム・プログラマーの応答: IMS Connect の領域サイズが十分であることを確認してください。

エラーが BPE サービスに関連する場合は、メッセージに示された BPE サービスの戻りコードを調べてください。

問題が解決しない場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。その際には、できるだけ

JCL、SYSLOG、およびメモリー・ダンプを提出してください。

モジュール: JREC - HWSJREC0、JSC2 - HWSJSC20

**HWSG4040W SEND FAILED FROM ISC=*isclnkid*
TO NODE=*nodename* ON
RMTCICS=*rmtcicsid*; R=*rc*, S=*sc*; M=*mc***

説明: IMS Connect は、RMTCICS ステートメント *rmtcicsid* により、IMS Connect に定義されているリモート CICS サブシステムにメッセージを送信できませんでした。IMS Connect は、ISC ステートメント *isclnkid* により IMS Connect に定義されている ISC リンク上のローカル IMS システムから配信に関するメッセージを受信しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

isclnkid IMS Connect に ISC リンクを定義する ISC 構成ステートメントの ID。

nodename

宛先 ISC ノードの名前。これは ISC 構成ステートメントの NODE パラメーター、およびターゲット CICS サブシステムの DFHSIT マクロ定義上の APPLID= パラメーターの両方に定義されています。

ローカル IMS システム上の静的定義済み端末では、この値は TERMINAL システム定義マ

クロの NAME パラメーターと DFSDCxxx PROCLIB メンバーの ISCTCPIP パラメーターにも定義されています。

rmtcicsid

リモートの CICS サブシステムへの接続の IMS Connect 属性に定義する RMTCICS ステートメントの ID。

rc

サービスの戻りコード。

考えられる戻りコードとその関連サービス・コードを以下の表に示します。

sc

サービス・コード。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。考えられる戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

mc

メッセージを出すモジュール。

考えられる原因: このエラーが発生する可能性があるのは、リモートの CICS サブシステムが使用できなくなったか、または IMS.PROCLIB データ・セットの IMS Connect 構成メンバーにパラメーターが誤って指定されている場合です。

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 22. HWSV4840W のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
GETFWEB	BPECBGET サービスは、FWEB 制御ブロックを作成できませんでした。	<i>rc</i>	<i>rc</i> は、BPECBGET サービスからの戻りコードを示します。使用可能なストレージを確認してください。
GETSSTB	BPECBGET サービスは、SSTB 制御ブロックを作成できませんでした。	4	使用可能なストレージを確認してください。
INVLFUNC	内部 FWE 要求に、無効な機能コードが含まれていました。	8	これは、内部処理エラーです。
NFNDRCIC	IMS からのメッセージを処理している ISC データ・ストアが、無効な RMTCICS 宛先を定義しました。RMTCICS が見つかりませんでした。	4	IMS Connect 構成の ISC ステートメントに指定された RMTCICS= を確認してください。
NOTACTV	RMTCICS 宛先が非アクティブでした。	8	UPD IMSCON TYPE(RMTCICS) START(COMM) コマンドを使用して、RMTCICS を開始します。

表 22. HWSV4840W のサービス・コードおよび戻りコードの説明 (続き)

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
SSTNFND	CICS に ISC メッセージを送信するために使用された送信クライアントが見つかりません。	4	送信クライアントは終了しており、ISC 並列セッションが終了します。セッションは、IMS (/OPNDST コマンド) または CICS から再確立する必要があります。
STOPRCIC	RMTCICS 宛先が停止されました。	4	UPD IMSCON TYPE(RMTCICS) START(COMM) コマンドを使用して、RMTCICS を開始します。
STOPSCLN	CICS に ISC メッセージを送信するために使用された送信クライアントが停止処理中です。	4	ISC 並列セッションは終了します。セッションは、IMS (/OPNDST コマンド) または CICS から再確立する必要があります。

システムの処置: IMS Connect は、否定応答を送信側の IMS システムに発行し、セッションを終了します。このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: リモート CICS サブシステムの可用性を確認します。リモートの CICS サブシステムが使用可能である場合は、RMTCICS ステートメントのパラメーターの指定を確認します。

エラーが BPE サービスに関連する場合は、メッセージに示された BPE サービスの戻りコードを調べてください。

問題が解決しない場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびメモリー・ダンプを提出してください。

モジュール: JREC - HWSJREC0

関連資料:

 IMS PROCLIB データ・セットの HWSCFGxx メンバー (システム定義)

 BPE コード (メッセージおよびコード)

**HWSG4045W UNABLE TO NOTIFY ISC=*isclnkid*
SCHEDULER OF COMMUNICATION
ERROR; R=*rc*, S=*sc*, M=*mc***

説明: エラーが発生し、IMS Connect は、メッセージ

に示されているシステム間連絡 (ISC) リンクのスケジューラー・コントローラーに通知を送信できませんでした。メッセージ・テキストの *sc* で示されたサービス・コードにこのエラーの説明が示されます。

IMS Connect は、IMS Connect がローカルの IMS システムから ISC メッセージを受信しているときに発生した前のエラーをスケジューラー・コントローラーに通知しようとした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- isclnkid* IMS Connect に ISC リンクを定義する ISC 構成ステートメントの ID。
- rc* サービスの戻りコード。
- sc* サービス・コード。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。以下のコードはストレージ・サービスです。
- mc* メッセージを出すモジュール。

表 23. HWSG4045W のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
GETFWEB	ストレージ・エラーの獲得	BPE サービス BPECBGET によって発行された戻りコード	これは処理エラーです。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS

Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: この問題がサービス・コード GETFWEB である場合は、IMS Connect の領域サイズが十分であることを確認します。

エラーが BPE サービスに関連する場合は、メッセージに示された BPE サービスの戻りコードを調べてください。

問題が解決しない場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびメモリー・ダンプを提出してください。

モジュール: JREC - HWSJREC0

関連資料:

 BPE コード (メッセージおよびコード)

HWSG4060I THE *threadtype* THREAD TERMINATED FOR ISC LINK *isclnkid*; M=*mc*

説明: ISC リンクの送信スレッドまたは受信スレッドが終了しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

isclnkid スレッドに関連付けられている ISC リンクを定義する ISC 構成ステートメントの ID。リンクの ID は、IMS.PROCLIB データ・セットの IMS Connect 構成メンバーの ISC ステートメントの ID パラメーターで指定されます。

threadtype 終了したスレッドのタイプ。

RECEIVE

受信スレッド

TRANSMIT

送信スレッド

mc メッセージを出すモジュール。

考えられる原因: IMS Connect がシャットダウン中であるか、または IMS タイプ 2 コマンド UPDATE IMSCON TYPE(ISC) STOP(COMM) が発行されました。別のタイプの通信エラーが発生した場合、他のエラー・メッセージが発行されます。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は引き続き実行されますが、IMS Connect は示された ISC リンクで ISC メッセージを処理できません。

システム・プログラマーの応答: 通信エラーによりスレッドが終了した場合は、他の IMS Connect エラー・メ

ッセージを確認してエラーの原因を判別してください。

問題が解決しない場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびメモリー・ダンプを提出してください。

モジュール: JREC - HWSJREC0、JXMT - HWSJXMT0

HWSG4065E UNABLE TO SEND MESSAGE TO ISC ON *isclnkid*; C=*clientid*; P=*portid*, ISCUSER=*sessn_id*, R=*rc*, S=*sc*, M=*mc*

説明: IMS Connect は、メッセージ・テキストの *isclnkid* 値で示されている ISC リンクで IMS に ISC メッセージを送信できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

isclnkid IMS Connect がローカルの IMS システムにメッセージを送信できなかった ISC リンクの ID。 *isclnkid* 値は、ISC ステートメントの ID パラメーターで指定されます。

clientid 失敗したメッセージが受信された受信ソケットを識別するクライアント ID。この ID は IMS Connect によって生成されます。

rc サービスの戻りコード。

sc サービス・コード。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。

portid 受信側のポート ID。

sessn_id ISC 並列セッションの ISCUSER ID。

mc メッセージを発行したモジュール。

表 24. HWSG4065E のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
NISC	ISC が切断されます。	4	ISC リンクが停止、IMSplex が停止、または SCI や IMS システムが使用不可であるために、メッセージを送信できませんでした。メッセージは破棄され、並列セッションは終了します。

表 24. HWMSG4065E のサービス・コードおよび戻りコードの説明 (続き)

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
NOISCUSR	ISCUSER が存在しません。	4	ISC 並列セッションは、このメッセージが IMS に送信される前に終了されました。メッセージは廃棄されます。
SCIF	CSLSCMSG が失敗。	CSLSCMSG サービスによって発行される理由コード。	IMS Connect は、IMS へのメッセージの送信を試みましたが、CSLSCMSG サービスはエラーを返しました。サービスからの理由コードは、メッセージ内の戻りコードとして表示されません。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

IMS Connect はメッセージを破棄します。ISC 並列セッションはまだアクティブである場合、セッションは終了します。

システム・プログラマーの応答: エラーが使用不可能な ISCUSER または ISC に関連する場合、ISCUSER または ISC の状況を判別し、可能であれば、それらを開始してください。

エラーが CSL サービスに関連する場合は、メッセージに示された CSL サービスの理由コードを調べてください。

モジュール: JXMT - HWSJXMT0

関連資料:

 QUERY IMSCON TYPE(ISC) コマンド (コマンド)

 QUERY IMSCON TYPE(ISCUSER) コマンド (コマンド)

 CSLSCMSG: メッセージ送信要求 (システム・プログラミング API)

**HWMSG4080W SEND FAILED FROM ISC=*isclnkid*
TO NODE=*nodename* ON
CICSPORT=*port_id*; R=*rc*, S=*sc*, M=*mc***

説明: IMS Connect は、ローカルで定義された CICSPORT *port_id* で CICS サブシステムにメッセージを送信できませんでした。CICSPORT は、CICS からの

トランザクション・メッセージとデータ応答を受信するために使用します。IMS Connect が送信できなかったメッセージは、おそらく CICS により送信された前のメッセージへの ACK または NAK 応答でした。IMS Connect は、ISC リンク *isclnkid* でメッセージを送信しようとした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

isclnkid IMS Connect に ISC リンクを定義する ISC 構成ステートメントの ID。

mc メッセージを発行したモジュール。

nodename

宛先 ISC ノードの名前。これは ISC 構成ステートメントの NODE パラメーター、およびターゲット CICS サブシステムの DFHSIT マクロ定義上の APPLID= パラメーターの両方に定義されています。

port_id ポート番号。ISC および TCPIP 構成ステートメント両方に CICSPORT パラメーターで定義されています。

rc サービスの戻りコード。

sc サービス・コード。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。

考えられる原因: このエラーが発生する可能性があるのは、リモートの CICS サブシステムが使用できなくなったか、または IMS.PROCLIB データ・セットの IMS Connect 構成メンバーにパラメーターが誤って指定されている場合です。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。IMS Connect は、否定応答を送信側の IMS に発行します。

システム・プログラマーの応答: リモート CICS サブシステムの可用性を確認します。リモートの CICS サブシステムが使用可能である場合は、RMTICICS ステートメントのパラメーターの指定を確認します。

エラーが BPE サービスに関連する場合は、メッセージに示された BPE サービスの戻りコードを調べてください。

問題が解決しない場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびメモリー・ダンプを提出してください。

モジュール: JREC - HWSJREC0

関連資料:

➡ ISC ステートメント (システム定義)

➡ TCPIP ステートメント (システム定義)

**HWSG4100E FUNCTION WORK ELEMENT
PROCESSING FAILED, FUNC=*fn*;
R=*rc*, S=*sc*, M=*mc***

説明: 機能作業エレメント (FWE) を処理できません。FWE は、コンポーネント間の作業およびコンポーネント内の作業を要求します。この構造には、処理の際にサービスが必要とする機能とパラメーターが入っています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- fn* 要求された機能。
- rc* サービスの戻りコード。
- sc* サービス・コード。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
- mc* メッセージを出すモジュール。

表 25. HWSG4100E のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
INVFUNC	FWE で要求された機能が正しくない。	4	この問題は、処理エラーです。

システムの処置: このメッセージが発行され、可能な限り、機能の要求者に通知されます。その他の場合は、FWE は解放されます。どのような場合も IMS Connect は実行を続けます。

システム・プログラマーの応答: これはおそらく内部エラーです。問題報告データベースを検索して、問題の修正を探してください。修正方法が見つからない場合は、IBM サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

モジュール: JSCH - HWSJSCH0

**HWSG4105W PROCESS OF STOPPING ISC LINK
OR ISCUSER FAILED, ISC=*isclnkid* IS
IN DISCONNECT STATE; M=*mc***

説明: ISC リンクが既に切断されているため、IMS

Connect は、ISC リンクまたは並列セッションを停止できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- isclnkid* IMS Connect 構成メンバーの ISC ステートメントの ID パラメーターで IMS Connect に定義された ISC リンク ID。
- mc* メッセージを出すモジュール。

考えられる原因: SCI または IMS が使用できないか、または IMSplex との通信を停止するために STOPIP などの IMS Connect コマンドが発行されました。

システムの処置: メッセージが発行され、MSC 論理リンクまたは物理リンクの停止処理が無視されます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: JSCH - HWSJSCH0

**HWSG4230W THE ISC DRIVER FAILED TO
OBTAIN STORAGE; R=*rc*, S=*sc*, B=*bn*,
M=*mc***

説明: おそらく処理を完了するのに十分なストレージがなかったため、IMS Connect ISC 通信ドライバーは内部バッファ用ストレージを取得できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- rc* サービスの戻りコード。
- sc* サービス・コード。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。次のコードは、BPE ストレージ・サービス・コードです。
 - BPECBGET
 - BPEGETM
- bn* バッファ名。
- mc* メッセージの発行元のモジュール。

考えられる原因: 処理を完了するのに必要なストレージが不足しています。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。ストレージの取得の失敗によって通信エラーが発生した場合は、追加のエラー・メッセージが発行されます。

システム・プログラマーの応答: エラーが BPE サービスに関連する場合は、メッセージに示された BPE サービスの戻りコードを調べてください。

問題が解決しない場合は、問題報告データベースを検索

HWMSG4235W • HWSI1601W

して、問題の修正を見つけてください。原因が見つからない場合は、戻りコード、サービス・コード、バッファ一名、およびバッファ・アドレスを記録して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

モジュール: JXOT - HWSJDXOT

**HWMSG4235W THE ISC DRIVER FAILED TO
RELEASE STORAGE; R=rc, S=sc,
B=bn, A=a, M=mc**

説明: IMS Connect ISC 通信ドライバーが内部バッファ用のストレージを解放できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc サービスの戻りコード。
sc サービス・コード。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
bn バッファ一名。
a バッファ・アドレス。
mc メッセージを出すモジュール。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は引き続き正常に実行されます。

システム・プログラマーの応答: この問題はおそらく内部エラーです。問題報告データベースを検索して、問題の修正を探してください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

モジュール: JXMT - HWSJDXMT、JXRC - HWSJDXRC

**HWMSG4255W ISC IS NOT AVAILABLE:
MEMBER=mbrname; STATE=s, M=mc**

HWS メッセージ HWSI0001 - HWSK3500

ここでは、次のメッセージについて説明します。

**HWSI1601W FAILED TO RELEASE STORAGE;
R=rc, B=bn, A=a, M=mc**

説明: The IMS Connect IMSplex ドライバーが内部バッファ用のフリー・ストレージをリリースできません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

422 メッセージおよびコード 第 2 巻: DFS 以外のメッセージ

説明: IMS Connect はメッセージ・テキストの MEMBER で示された IMS システムに ISC メッセージを送信しようとしたましたが、IMS システムが使用できなかったため失敗しました。メッセージ・テキストの STATE の値は、IMS システムが使用できなかった理由を示します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

mbrname IMSplex 内の ISC 対応 IMS システムの名前。
s IMS システムの状況。s の有効な値は次のとおりです。
DISC IMS Connect と ISC 間の通信が IMS Connect でコマンドによって停止されました。
TERM メッセージ・テキストの *mbrname* で示された IMS システムがダウンしています。
mc メッセージを出すモジュール。

システムの処置: IMS Connect は否定応答 (NAK) を送信側に発行します。このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: 状態が DISC である場合は、IMS Connect で ISC 通信を再開する必要があります。ISC 通信は、IMS タイプ 2 コマンド UPDATE IMSCON TYPE(ISC) を発行すると再開できます。

状態が TERM である場合は、メッセージ・テキストに示された IMS システムを再始動する必要があります。

モジュール: JXCN - HWSJDXCN、JXMT - HWSJDXMT

関連資料:

 UPDATE IMSCON TYPE(ISC) コマンド (コマンド)

rc 戻りコードを識別します。
bn バッファ一名を示します。
a バッファ・アドレスを示します。
mc このメッセージを発行したモジュールを示します。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: この問題はおそらく内部エラーです。問題報告データベースを検索して、問題の修正を探してください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびメモリー・ダンプを提出してください。

モジュール: OMXM HWSOMXMT

**HWSI1605W GETMAIN FOR OTOKEN AND
REGISTRATION CONTROL BUFFER
FAILED; R=rc, S=sc, M=mc**

説明: OTOKEN バッファのストレージを割り振ることができませんでした。

- *rc* は、戻りコードを識別します。
- *sc* は、サービス・コードを識別します。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っています。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

次の表では、HWSI1605W メッセージの戻りコードについて説明しています。サービス・コードは GETOTOKEN であり、BPEGETM は、OTOKEN の獲得に使用されるシステム・サービスです。

表 26. HWSI1605W の戻りコード

戻りコード	意味
4	正しくないサブプールまたはサポートされないサブプールが指定されている。
8	長さゼロが要求されている。
12	要求されたストレージを取得できません (z/OS GETMAIN が失敗)。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: このエラーはおそらくストレージ・エラーです。IMS Connect の領域サイズが十分であることを確認してください。エラーが再発する場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、JCL、SYSLOG、およびダンプ (入手可能な場合) を提出してください。

モジュール: OMXR HWSOMXRG

**HWSI1615W SCI FUNC=function, ERROR FOR
IMSPLEX ENVIRONMENT; DS=ipid,
R=rc, S=sc, M=mc**

説明: 指定された IMSplex に対する SCI 呼び出しの機能がエラーで終了しました。

- *ipid* は、IMSplex を識別する。
- *rc* は、SCI 戻りコードを識別します。
- *sc* は、SCI サービス・コードを識別します。サービス・コードには、特定のエラーを示すコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入ります。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: このメッセージは、IMSplex との間で送受信が行われるときに発行されます。接続が切断されます。

モジュール: OXMT HWSOMXMT、OMXRC
HWSOMXRC

**HWSI1618W SCI IS NOT EXECUTING, FOR
IMSPLEX=ipid, R=rc, S=sc, M=mc**

説明: IMS OM に送信された IMS コマンド要求が、リジェクトされました。

- *ipid* は、IMSplex を識別する。
- *rc* は、戻りコードを識別します。
- *sc* は、サービス・コードを識別します。サービス・コードには、特定のエラーを示すコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入ります。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 27. HWSI1618W のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	戻りコード	意味
SCI 理由コード	X'01nnnnnn'	SCI 戻りコード。
OM 理由コード	X'02nnnnnn'	OM 戻りコード。
SCI および OM の戻りコードと理由コードについて詳しくは、CSL コード情報を参照してください。		

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: SCI 要求がリジェクト

されました。SCI は、IMS Connect STOPIP コマンド以外の方法で終了させられました。戻りコードが X'01nnnnnn' の場合は、SCI を再始動する必要があります。戻りコードが X'02nnnnnn' の場合は、OM を再始動する必要があります。

モジュール: OMXM HWSOMXMT

関連資料:

 CSL コード (メッセージおよびコード)

**HWSI1619W OM IS NOT ACTIVE FOR
IMSPLEX=ipid, R=rc, S=sc, M=mc**

説明: SCI インターフェースが要求をリジェクトしました。Operation Manager (OM) がアクティブではありません。

- *ipid* は、IMSpIex を識別します。
- *rc* は、戻りコードを識別します。
- *sc* は、サービス・コードを識別します。サービス・コードには、特定のエラーを示すコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入ります。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

次の表では、サービス・コードおよび戻りコードについて説明します。

表 28. HWSI1619W のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	戻りコード	意味
SCI 理由コード	X'01nnnnnn'	SCI 戻りコード。
OM 理由コード	X'02nnnnnn'	OM 戻りコード。
SCI および OM の戻りコードと理由コードについて詳しくは、CSL コード情報を参照してください。		

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: SCI 要求がリジェクトされました。OM は終了しています。戻りコードが X'01nnnnnn' の場合は、SCI を再始動する必要があります。戻りコードが X'02nnnnnn' の場合は、OM を再始動する必要があります。

モジュール: OMXM HWSOMXMT

関連資料:

 CSL コード (メッセージおよびコード)

**HWSI1620W COMMAND FAILURE: CMD CMD
ERROR FOR IMSPLEX=ipid, R=rc,
S=sc, M=mc**

説明: SCI 要求がリジェクトされました。渡された OM コマンド構造が無効です。

ipid

IMSpIex ID。

rc 戻りコード

sc 要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻された特定のエラーまたはコードを示すサービス・コード

mc メッセージを発行したモジュール

次の表では、サービス・コードおよび戻りコードについて説明します。

表 29. HWSI1620W のサービス・コードおよび戻りコード

サービス・コード	戻りコード	意味
SCI 理由コード	X'01nnnnnn'	SCI 戻りコード
OM 理由コード	X'02nnnnnn'	OM 戻りコード
SCI および OM の戻りコードと理由コードについて詳しくは、CSL コード情報を参照してください。		

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: SCI 要求がリジェクトされました。OM はコマンドをリジェクトしました。コマンド構造が無効です。コマンド構造を訂正してから、コマンドを再実行します。

モジュール: OMXM HWSOMXMT

関連資料:

 CSL コード (メッセージおよびコード)

**HWSI1650I COMMAND REGISTRATION
SUCCESSFUL FOR IMSPLEX=imspIex;
M=mc**

説明: IMS Connect は、そのコマンド・セットを IMSpIex の Operations Manager (OM) コンポーネントに正常に登録しました。これにより、IMS Connect は、Operations Manager によって IMS Connect に送られるコマンドを処理できるようになりました。コマン

ドは次の状況で Operations Manager に登録されま
す。

- IMS Connect と IMSplex 間の通信の開始時に IMS Connect を初期設定している場合
- IMS Connect と IMSplex 間の通信の開始時に STARTIP または同等のコマンドを処理している場合
- IMS Connect が IMSplex との通信を開始した後に Operations Managers コンポーネントが IMSplex に加わる場合

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりで
す。

imsplex コマンド処理が使用可能になった IMSplex の
名前を示します。

mc このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: IMS Connect は Operations
Manager を使用して入力されたコマンドを処理できる
ようになりました。IMS Connect は引き続き正常に実
行されます。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

Operations Manager を使用して、サポートされている
IMS Connect コマンドを発行できるようになりまし
た。

モジュール: OREG HWSOREG0

**HWSI1655W WAITING FOR OM, COMMANDS
FROM OM API UNAVAILABLE FOR
IMSPLEX=*imsplex*; M=*mc***

説明: IMS Connect はそのコマンド・セットを
IMSplex の Operations Manager (OM) コンポーネン
トに登録しようとしたましたが、Operations Manager が
使用可能でないか、コマンドを受け入れる準備ができて
いません。コマンドは次の状況で OM に登録されま
す。

- IMS Connect と IMSplex 間の通信の開始時に IMS Connect を初期設定している場合
- IMS Connect と IMSplex 間の通信の開始時に STARTIP または同等のコマンドを処理している場合
- IMS Connect が IMSplex との通信を開始した後に OM コンポーネントが IMSplex に加わる場合

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりで
す。

imsplex コマンドの登録が失敗した IMSplex の名前を
示します。

mc このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: IMS Connect は引き続き正常に実行
されます。IMSplex は、コマンド処理以外では引き続き
使用可能です。ただし、OM API を使用したコマンド
の処理は使用できません。

ユーザーの処置: 登録の失敗の原因としては、IMSplex
の Operations Manager または構造化呼び出しインタ
ーフェース (SCI) コンポーネントが使用不可であるか、
ready 状態でないことが考えられます。

OM API を介してコマンド・サポートを使用しない場
合、処置は必要ありません。

それ以外の場合は、次のいずれかの処置を実行します。
これにより、IMS Connect はコマンドの登録を再試行
します。

- STOPIP または同等のコマンドを使用して IMSplex との通信を停止し、STARTIP または同等のコマンドを使用して IMSplex との通信を再開する。
- キャンセルして OM を再始動する。
- キャンセルして SCI を再始動する。

IMS Connect は、登録の試行が失敗した理由を判別す
るのに使用できる HWSI1665E メッセージも発行する場
合があります。

モジュール: OREG HWSOREG0

関連情報:

426 ページの『HWSI1665E』

**HWSI1660E CSLOMREG REQUEST FAILED,
VERB=*vvvvvvvvvvvvvvvvvv*
KEYWORD=*kkkkkkkkkkkkkkkk* CC=*cccccccc*
OM=*omname*; M=*mc***

説明: IMS Connect はそのコマンド・セットを
IMSplex の Operations Manager (OM) コンポーネン
トに登録しようとしたましたが、このコマンドとキーワ
ードの組み合わせに対する登録の要求は失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりで
す。

vvvvvvvvvvvvvvvvvv

OM に登録されたコマンドを示します。

kkkkkkkkkkkkkkkk

OM に登録されたキーワードを示します。

cccccccc

コマンドおよびキーワード登録の完了コードを
示します。*cccccccc* の値は、CSLORR マクロで
定義されています。

omname

コマンドの登録が失敗した OM の名前を示し
ます。

mc このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: IMS Connect は残りのコマンドの
OM への登録を試行し続けます。IMS Connect は引き
続き正常に実行されます。IMSplex は コマンド処理以
外では引き続き使用可能であり、他のコマンドとキーワ

ードの組み合わせに対するコマンド処理で引き続き使用できる可能性があります。

ユーザーの処置: 登録の失敗は、一時的な内部エラーまたは通信エラーです。次のいずれかの処置を実行します。これにより、IMS Connect はコマンドの登録を再試行します。

- STOPIP または同等のコマンドを使用して IMSplex との通信を停止し、STARTIP または同等のコマンドを使用して IMSplex との通信を再開する。
- キャンセルして OM を再始動する。
- キャンセルして SCI を再始動する。

問題が解決しない場合は、必要な診断データを収集し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して支援を受けてください。

モジュール: OREG HWSOREG0

HWSI1665E *macroname* REQUEST FAILED FOR
IMSPLEX=*imsplex*; R=*rrrrrrrr* S=*ssssssss*;
M=*mc*

説明: IMS Connect は、Common Service Layer (CSL) サービス要求から予期しない戻りコードまたは理由コード、あるいはその両方を受け取りました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

macroname

失敗したサービス・マクロの名前を示します。

imsplex 要求が出された IMSplex の名前を示します。

rrrrrrrr

サービスからの戻りコードを示します。

ssssssss サービスからの理由コードを示します。

mc このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: このエラーが IMS Connect の初期設定中に発生した場合は、システムが異常終了する可能性があります。それ以外の場合は、現行処理がリジェクトされ、オンライン処理が続行されます。

ユーザーの処置: 処理が失敗する原因となっている戻りコードと理由コードを判別します。この状態が一時的である場合は、処理を再試行します。必要に応じて、IMSplex との通信を再開します。

- STOPIP または同等のコマンドを使用して IMSplex との通信を停止し、STARTIP または同等のコマンドを使用して IMSplex との通信を再開する。
- キャンセルして OM を再始動する。
- キャンセルして RM を再始動する。
- キャンセルして SCI を再始動する。

モジュール: OREG HWSOREG0, ORMS
HWSORMS0

関連概念:

➡ CSL 要求の戻りコードおよび理由コードの解釈方法 (システム・プログラミング API)

関連資料:

➡ STOPIP コマンド (コマンド)

➡ STARTIP コマンド (コマンド)

HWSI1705W GETMAIN FOR CTOKEN AND
REGISTRATION CONTROL BUFFER
FAILED; R=*rc*, S=*sc*, M=*mc*

説明: ストレージ・バッファを割り振ることができませんでした。

- *rc* は、戻りコードを識別します。
- *sc* は、サービス・コードを識別します。サービス・コードには、特定のエラーを示すコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入ります。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 30. HWSI1705W のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	簡単な説明	戻りコード	意味
GETCTOKN	BPEGETM。失敗した CTOKEN を獲得するのに使用されるシステム・サービス。	4	正しくないサブプール、またはサポートされないサブプールが指定されているか、あるいは使用可能なストレージがありません。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: これはおそらくストレージ・エラーです。IMS Connect の領域サイズが十分であることを確認してください。エラーが再発する場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

モジュール: OMXO HWSOMXOT

HWSI1720W REGISTRATION TO SCI FAILED FOR IMSPLEX=*ipid*; R=*rc*, S=*sc*, M=*mc*

説明: IMS Connect が Structure Call Interface (SCI) に登録しようとして失敗しました。この問題の原因は、おそらく、SCI アドレス・スペースが開始されていないためです。SCI を開始するとすぐに、指定された IMSplex (ID=構成ファイルで指定した *name*) に対して IMS Connect コマンド OPENIP を発行することができます。

- *ipid* は、IMSplex を識別する。
- *rc* は、戻りコードを識別します。
- *sc* は、サービス・コードを識別します。サービス・コードには、特定のエラーを示すコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入ります。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 31. HWSI1720W のサービス・コードおよび戻りコードの説明

IMSplex 名	戻りコード	理由コード
IMS Connect 構成ファイルで指定した ID 名	SCI および OM の戻りコードと理由コードについて詳しくは、CSL コードおよび CSL SCI 要求に関する情報を参照してください。	

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: SCI 登録失敗の理由を判別するには、CSL コードおよび CSL SCI 要求に関する情報を参照してください。

モジュール: OMXO HWSOMXOT

関連概念:

 CSL SCI 要求 (システム・プログラミング API)

関連資料:

 CSL コード (メッセージおよびコード)

HWSI1754W UNABLE TO NOTIFY IMSPLEX=*ipdi*, SCHEDULER OF COMMUNICATION ERROR; R=*rc*, S=*sc*, M=*mc*

説明: IMS Connect は、要求を処理するのに必要なストレージを獲得できず、スケジューラーに通知できません。

- *ipid* は、IMSplex を識別する。
- *rc* は、戻りコードを識別します。

- *sc* は、サービス・コードを識別します。サービス・コードには、特定のエラーを示すコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入ります。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 32. HWSI1754W のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
GETFWEB	BPECBGET。クローズすることをすべてのデータ・ストアに通知するために、FWE を獲得するのに使用されるシステム・サービス。	4	誤った CBTE アドレスが CB 取得ルーチンに渡されている。これは、内部システム・エラーです。
		8	ストレージが不足なので、要求を満たすことができません。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: これはおそらくストレージ・エラーです。IMS Connect の領域サイズが十分であることを確認してください。エラーが再発する場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびメモリー・ダンプを提出してください。

モジュール: OMXM HWSOMXMT

HWSI1815W DEREGISTRATION FAILED FOR MEMBER=*member*;R=*rc*, S=*sc*, M=*mc*

説明: 登録を抹消しようとして、失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

member

IMS Connect の IMSplex メンバー名。

rc CSLSCDRD 要求からの戻りコード。

sc サービス・コード。サービス・コードには、特

定のエラーを示すコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入ります。

mc メッセージを出すモジュール

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connects は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: 戻りコードを使用して問題を判別し、修正してください。

モジュール: OMXC HWSOMXCN

関連資料:

 CSLSCDRG: 登録解除要求 (システム・プログラミング API)

HWSI1816W THE SCI IS NOT AVAILABLE: MEMBER=*ipid*, STATE=*st*, M=*mc*

説明: SCI アドレス・スペースが終了しました。

- *ipid* は、IMSpIex を識別する。
- *st* は SCI 状態を識別します。
 - DISC - 切断。SCI アドレス・スペースは、存在したが、正常終了または異常終了した。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: SCI 要求がリジェクトされました。SCI は、IMS Connect STOPIP コマンド以外の方法で終了させられました。SCI を再始動する必要があります。

モジュール: OMXC HWSOMXCN

HWSJ2500E FUNCTION WORK ELEMENT PROCESSING FAILED; FUNC=*fn*, R=*rc*, S=*sc*, M=*mc*.

説明: 機能作業エレメント (FWE) を処理できません。FWE は、コンポーネント間およびコンポーネント内の作業を要求します。この構造には、処理の際にサービスが必要とする機能とパラメーターが入っています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *func* は、要求された機能を識別します。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。
- *rc* は、戻りコードを識別します。
- *sc* は、サービス・コードを識別します。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコー

ド、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 33. HWSJ2500E のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
INVFUNC	FWE で要求された機能が正しくない。	4	これは処理エラーです。

システムの処置: このメッセージが発行され、可能な限り、機能の要求者に通知されます。その他の場合は、FWE は解放されます。どのような場合も IMS Connect は実行を続けます。進行中の要求メッセージが廃棄されます。

システム・プログラマーの応答: この問題はおそらく内部エラーです。問題報告データベースを検索して、問題の修正を探してください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

モジュール: MCV C - HWSMVCVC0

HWSJ2510W IMS CONNECT WAS UNABLE TO NOTIFY ORIGIN=*portid clientid* OF MESSAGE FAILURE; R=*rc*, S=*sc*, M=*mc*.

説明: IMS Connect は、IMS Connect が受信した要求メッセージの処理中に発生したエラーについて、指定された TCP/IP クライアントに通知できません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *clientid* は、TCP/IP クライアントを識別する。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。
- *portid* は、TCP/IP ポートを識別します。
- *rc* は、戻りコードを識別します。
- *sc* は、サービス・コードを識別します。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 34. HWSJ2510W のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
GETFWEB	BPECBGET。メッセージのキューイング用に FWE を獲得するために使用されるシステム・サービス。FWE がキューイング構造として使用され、メッセージは、FWE のアンカーをオフにする。	4	誤った CBTE アドレスが CB 取得ルーチンに渡されている。この問題は、内部システム・エラーです。
GETMFAIL	BPEGETM。クライアントに送り返すメッセージを作成するためのストレージを獲得するのに使用されるシステム・サービス。	4	ストレージが不足なので、要求を満たすことができません。
GETC01K	BPECBGET。エラー・メッセージを作成するストレージを獲得するのに使用されるシステム・サービス。	4	誤った CBTE アドレスが CB 取得ルーチンに渡されている。この問題は、内部システム・エラーです。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。進行中の要求メッセージが廃棄されます。

システム・プログラマーの応答: このエラーは、処理を完了するのに必要なストレージが十分に取得できないときに起こる可能性があります。問題が解決しない場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

モジュール: MCVC - HWSMCVC0; MREC - HWSMREC0, MRE4 - HWSMRE40

HWSJ2520E IMS CONNECT HAS FAILED TO RECEIVE OR SEND A MESSAGE FROM CLIENT=*portid clientid* TO ODBM=*odbm*; R=*rc*, S=*sc*, CP=*cp*, M=*mc*

説明: IMS Connect が、指定された TCP/IP クライアントからメッセージを受け取ることができないか、Open Database Manager (ODBM) にメッセージを送信できません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

portid TCP/IP ポート

clientid TCP/IP クライアント

odbm ターゲット ODBM

rc 戻りコード。

sc サービス・コード。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。

cp クライアントが最初に実行依頼したコマンドの DDM コード・ポイント。

mc メッセージを出すモジュール。

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 35. HWSJ2520E のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
DSCLOSE	すべての ODBM が非アクティブになっています。この状態は、IMS Connect をシャットダウンしている CLOSEHWS コマンドの結果として生じた可能性があります。	12	これは処理エラーです。
DUPECLNT	重複したクライアント ID が検出されました。	8	クライアント ID は固有でなければなりません。
FREEFAIL	HWSFSTOR。ストレージを解放するのに使用されるシステム・サービス。	4	ストレージの解放の障害

表 35. HWSJ2520E のサービス・コードおよび戻りコードの説明 (続き)

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
GETAWE	BPECBGET。RRS AWE サーバーへの RRS 要求のキューイング用に AWE を獲得するために使用されるシステム・サービス。	4	AWE は要求を満たすことができません。
GETFWEB	BPECBGET。メッセージのキューイング用に FWE を獲得するために使用されるシステム・サービス。FWE がキューイング構造として使用され、メッセージは、FWE のアンカーをオフにする。	4	誤った CBTE アドレスが CB 取得ルーチンに渡されている。この問題は、内部システム・エラーです。
GETMFAIL	BPEGETM。クライアントに送り返すメッセージを作成するためのストレージを獲得するのに使用されるシステム・サービス。	4	ストレージが不足なので、要求を満たすことができません。
INVLDFUC	無効な RRS 機能を受け取った。	4	RRS 機能は、以下の値のいずれかである必要があります。 PREPARE COMMIT BACKOUT NEUOR FORGET RECOVER
NFNDDST	リカバリー単位の制御ブロックが見つかりません。	4	これは処理エラーです。
NFNDUOR	リカバリー単位の制御ブロックが見つかりません。	4	これは処理エラーです。

表 35. HWSJ2520E のサービス・コードおよび戻りコードの説明 (続き)

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
NOTACTV	ODBM がアクティブではありません。	8	これは処理エラーです。
RRSNAVAIL	IMS Connect で RRS 環境がセットアップされていないか、または RRS を使用した IMS Connect の再始動が完了していません。	4	これは処理エラーです。
SHUTDOWN	CLOSEHWS コマンドが発行されました。IMS Connect 終了の処理中です。	8	終了の処理中。
STP/CLSE	ODBM が停止またはクローズの処理中です。	4	これは処理エラーです。
TRANSMIT	RRS 応答を元のクライアントに送信できませんでした。	4	これは処理エラーです。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。進行中の要求メッセージが廃棄されます。

システム・プログラマーの応答: 応答はサービス・コードによって異なります。

サービス・コード DSCLOSE、NFNDDST、NOTACTV、SHUTDOWN、および STP/CLSE の場合、ODBM はアクティブでなくなったか、または IMS Connect に接続されなくなりました。ODBM が終了した理由、または STOPDS コマンドが発行されたかどうかを調べてください。

サービス・コード DUPLNT の場合、IMS Connect 現在識別されているのと同じクライアント ID を使用して 2 番目のクライアントが IMS Connect に接続します。クライアントが、切断した後に、同じクライアント ID で再接続した可能性があります。しかし、クライアントが IMS からの応答を待機して CONN 状態にあるため、IMS Connect は切断を認識しません。

サービス・コードが FREEFAIL、GETAWE、GETFWEB、および GETMFAIL の場合は、その処理を完了するために使用可能なストレージが十分にありません。問題が解決しな

い場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

サービス・コードが RRSNAVAIL の場合は、IMS Connect で RRS が使用可能にならない原因を調査してください。

サービス・コードが TRANSMIT の場合、この問題はおそらく内部エラーです。問題報告データベースを検索して、問題の修正を探してください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

モジュール: MRE4 - HWSMRE40

HWSJ2530W A CONNECTION FOR A CLIENT ACCESSING IMS DB TIMED OUT;
PORT=portid, CLIENT=clientid,
ODBM=odbm, CP=cp, M=mc

説明: CSL Open Database Manager (ODBM) が IMS データベースからの応答を IMS Connect に返す前に、IMS Connect とクライアントとの間の接続がタイムアウトしました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- portid* クライアントが使用していた DRDA ポート。
- clientid* 終了したソケットを使用していたクライアントのクライアント ID。
- odbm* IMS Connect が応答の発信元として想定していた ODBM のインスタンス。
- cp* クライアントが最初に実行依頼した DDM コマンドのコード・ポイント。
- mc* メッセージを出すモジュール。

システムの処置: TCP/IP ソケットが終了し、IMS Connect が実行を継続します。ソケットが終了した後に、IMS Connect が IMS から応答を受け取った場合は、IMS Connect は応答メッセージを破棄します。

システム・プログラマーの応答: ODBM、SCI、および IMS がアクティブかどうかを確認してください。すべてがアクティブであれば、クライアントと IMS Connect との間の接続を復元し、要求を再送します。

ODBM、SCI、および IMS のいずれかがアクティブでない場合は、非アクティブなシステムを再始動し、クライアントに再接続してから、要求を再送します。

プログラマーの応答: 新しい接続を開始し、データベース要求を再実行依頼してください。

モジュール: MCVC - HWSMCVC0

HWSJ2540E UNABLE TO SEND A DATABASE DEALLOCATION REQUEST TO ODBM=odbm; C=clientid, R=rc, S=sc, P=portid, M=mc

説明: IMS Connect は、Open Database Manager (ODBM) に内部データベース割り振り解除要求を送信できませんでした。サービス・コードは、障害の原因を識別します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- odbm* ターゲット ODBM
- clientid* クライアント ID
- rc* 戻りコード
- sc* サービス・コード
- portid* ポート ID
- mc* メッセージを出すモジュール

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 36. HWSJ2540W のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
DSCLOSE	すべての ODBM が非アクティブになっています。これは、IMS Connect をシャットダウンしている CLOSEHWS コマンドの結果として起こる可能性があります。	12	これは処理エラーです。
NFNDDST	データ・ストア・テーブルが見つかりません。このテーブルは、データ・ストアのアクティビティが維持されています。	4	これは処理エラーです。
NOTACTV	ODBM がアクティブではありません。	8	これは処理エラーです。

表 36. HWSJ2540W のサービス・コードおよび戻りコードの説明 (続き)

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
SHUTDOWN	CLOSEHWS コマンドが発行されました。IMS Connect 終了の処理中です。	8	終了の処理中。
STP/CLSE	ODBM が停止またはクローズの処理中です。	4	これは処理エラーです。
TRANSMIT	RRS 応答を元のクライアントに送信できませんでした。	4	これは処理エラーです。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。TCP/IP ソケットは終了します。

システム・プログラマーの応答: この問題がストレージ・エラーの場合、IMS Connect の領域サイズが十分であることを確認してください。エラーが再発する場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびメモリー・ダンプを提出してください。

モジュール: MREC - HWSMREC0

**HWSJ2700W UNABLE TO NOTIFY ODBM=*odbm*
OF MESSAGE FAILURE; R=*rc*, S=*sc*,
M=*mc***

説明: IMS Connect が応答メッセージの処理中に発生したエラーについて、Open Database Manager (ODBM) に通知できません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

odbm ターゲット ODBM
rc 戻りコード。
sc サービス・コード。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
mc メッセージを出すモジュール。

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 37. HWSJ2700W のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
GETFWEB	BPECBGET。メッセージのキューイング用に FWE を獲得するために使用されるシステム・サービス。FWE がキューイング構造として使用され、メッセージは、FWE のアンカーをオフにする。	4	誤った CBTE アドレスが CB 取得ルーチンに渡されている。この問題は、内部システム・エラーです。
GETMFAIL	BPEGETM。クライアントに送り返すメッセージを作成するためのストレージを獲得するのに使用されるシステム・サービス。	4	ストレージが不足なので、要求を満たすことができません。
GETC01K	BPECBGET。エラー・メッセージを作成するためのストレージを獲得するのに使用されるシステム・サービス。	4	誤った CBTE アドレスが CB 取得ルーチンに渡されている。この問題は、内部システム・エラーです。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。進行中の要求メッセージが廃棄されます。

システム・プログラマーの応答: この問題は、おそらくストレージ・エラーです。IMS Connect の領域サイズが十分であることを確認してください。エラーが再発する場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびメモリー・ダンプを提出してください。

モジュール: MXMT - HWSMXMT0

**HWSJ2710W IMS CONNECT FAILED TO
RELEASE STORAGE; R=rc, B=bn, A=a,
M=mc**

説明: IMS Connect の ODBM ソケット・コンポーネントが内部バッファ用ストレージを解放できません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc z/OS FREEMAIN の障害に関する z/OS からの戻りコード。
bn バッファ名
a バッファのアドレス
mc メッセージを発行したモジュール

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。進行中の要求メッセージが廃棄されます。

システム・プログラマーの応答: この問題は、おそらくストレージ・エラーです。IMS Connect の領域サイズが十分であることを確認してください。エラーが再発する場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびメモリー・ダンプを提出してください。

モジュール: MXMT - HWSMXMT0

**HWSJ2740E THE ROUTING EXIT FAILED TO
INITIALIZE; R=rc, S=rsn, M=mc**

説明: 経路指定出口 IMS Connect DB 経路指定ユーザー出口 (HWSROUT0) が初期設定に失敗しました。理由コードが障害の原因を識別します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc 戻りコード
rsn 理由コード
mc メッセージを発行したモジュール

戻りコードおよび理由コードは、IMS Connect DB 経路指定ユーザー出口に定義されています。

システムの処置: IMS Connect は機能を継続します。IMS Connect DB 経路指定ユーザー出口は無効になります。

システム・プログラマーの応答: 戻りコードと理由コードを見て、出口の所有者を確認してください。

モジュール: SDOP - HWSSDOPN

**HWSK2800E THE WAITING ECB FAILED; F=fn,
C=pc, M=mc**

説明: IMS Connect TCP/IP ドライバーに通知コードの失敗が通知されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

fn 実行された機能を識別する。
mc メッセージを出すモジュール。
pc IMS Connect によって設定された通知コードを識別する。

システムの処置: IMS Connect は実行を続けます。

システム・プログラマーの応答: このエラーはおそらく内部エラーです。通知コードを確認して、考えられる原因を調べます。

問題報告データベースを検索して、問題の修正を探してください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびメモリー・ダンプを提出してください。

モジュール: MRCV - HWSMDRCV

関連資料:

 IMS Connect 通知コード (メッセージおよびコード)

**HWSK2805E TCP/IP SOCKET FUNCTION CALL
FAILED; F=fn, R=rc, E=ec, C=cl,
P=portid, M=mc**

説明: IMS Connect TCP/IP は、指定されたソケット機能を実行できません。IMS Connect のシャットダウン中に TCP/IP ソケット機能呼び出しが失敗した場合、イベントはエラーとしては扱われません。その場合は、このメッセージの代わりに HWSK2805I が発行されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

fn TCP/IP ソケット機能呼び出しを識別する。
rc TCP/IP 戻りコードを識別する。
ec TCP/IP エラー・コードを識別する。
cl TCP/IP クライアントを識別する。
portid TCP/IP ポートを識別します。
mc メッセージを出すモジュール。

システムの処置: IMS Connect は実行を続けます。

システム・プログラマーの応答: 示された戻りコードおよびエラー・コードの考えられる原因については、「z/OS UNIX System Services メッセージおよびコード」(SA88-8645)、または TCP/IP マクロ API について

ては、「z/OS Communications Server IP ソケット・アプリケーション・プログラミング・インターフェースのガイドとリファレンス」(SC88-8932)を参照してください。

モジュール: MRCV – HWSMDRCV

関連資料:

 z/OS: z/OS UNIX システム・サービスの戻りコード

 z/OS: マクロ・アプリケーション・プログラミング・インターフェース

関連情報:

『HWSK2805I』

HWSK2805I TCP/IP SOCKET FUNCTION CALL FAILED; F=fn, R=rc, E=ec, M=mc

説明: IMS Connect TCP/IP は、指定されたソケット機能を実行できません。HWSK2805I は、IMS Connect のシャットダウン中に出されます。通常のシャットダウン処理中ではないときに TCP/IP ソケット呼び出しが失敗した場合、このメッセージではなく HWSK2805E が発行されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

<i>cl</i>	TCP/IP クライアントを識別する。
<i>ec</i>	TCP/IP エラー・コードを識別する。
<i>fn</i>	TCP/IP ソケット機能呼び出しを識別する。
<i>mc</i>	メッセージを出すモジュール。
<i>portid</i>	TCP/IP ポートを識別します。
<i>rc</i>	TCP/IP 戻りコードを識別する。

システムの処置: IMS Connect は実行を続けます。

システム・プログラマーの応答: 示された戻りコードおよびエラー・コードの考えられる原因については、「z/OS Unix System Services メッセージおよびコード」(SA88-8645)、または TCP/IP マクロ API については、「z/OS Communications Server IP ソケット・アプリケーション・プログラミング・インターフェースのガイドとリファレンス」(SC88-8932)を参照してください。

モジュール: MRCV – HWSMDRCV

関連資料:

 z/OS: z/OS UNIX システム・サービスの戻りコード

 z/OS: マクロ・アプリケーション・プログラミング・インターフェース

関連情報:

HWSK2810E TCP/IP ASYNCHRONOUS FUNCTION CALL FAILED; F=fn, R=rc, E=ec, M=mc

説明: TCP/IP は、非同期機能処理の要求をリジェクトしました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

<i>ec</i>	TCP/IP エラー・コードを識別する。
<i>fn</i>	TCP/IP ソケット機能呼び出しを識別する。
<i>mc</i>	メッセージを出すモジュール。
<i>rc</i>	TCP/IP 戻りコードを識別する。

システムの処置: IMS Connect は実行を続けます。

システム・プログラマーの応答: 示された TCP/IP 戻りコードおよびエラー・コードの考えられる原因については、「z/OS UNIX システム・サービス メッセージおよびコード」(SA88-8645)を参照してください。

モジュール: MRCV – HWSMDRCV

関連資料:

 z/OS: z/OS UNIX システム・サービスの戻りコード

HWSK2815E TCP/IP INTERNAL ERROR; F=fn, R=rc, E=ec, M=mc

説明: TCP/IP は指定されたソケット機能を実行できません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

<i>ec</i>	TCP/IP エラー・コードを識別する。
<i>fn</i>	TCP/IP ソケット機能呼び出しを識別する。
<i>mc</i>	メッセージを出すモジュール。
<i>rc</i>	TCP/IP 戻りコードを識別する。

システムの処置: IMS Connect は実行を続けます。

システム・プログラマーの応答: 示された TCP/IP 戻りコードおよびエラー・コードの考えられる原因については、「z/OS UNIX システム・サービス メッセージおよびコード」(SA88-8645)を参照してください。

モジュール: MRCV – HWSMDRCV

HWSK2820W FAILED TO OBTAIN STORAGE; R=rc, B=bn, M=mc

説明: CSL Open Database Manager (ODBM) 対応の IMS Connect ODBM ソケット・ドライバが、内部バッファ用のストレージを取得できません。このエラーは、処理を完了するのに必要なストレージが十分に取得できないときに起こる可能性があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc z/OS GETMAIN 障害について z/OS から戻された戻りコード。
bn バッファ名。
mc メッセージを出すモジュール。

システムの処置: IMS Connect は実行を続けます。

システム・プログラマーの応答: 問題が解決しない場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびメモリー・ダンプを提出してください。

モジュール: MRCV - HWSMDRCV

HWSK2825E A DDM COMMAND IS

INCOMPLETE; C=*cl*, P=*portid*, M=*mc*

説明: 着信メッセージの何らかのデータを受け取る前に、IMS Connect クライアントが TCP/IP ソケット接続をクローズしました。このエラーは、以下の TCP/IP 値のいずれかが指定されたときに発生することがあります。

- SO_LINGER=Y,VALUE=0
- SO_LINGER=NO

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cl クライアント ID。 *cl* にブランクが入っている場合、クライアント ID は使用できません。
portid DDM コマンドを受け取った DRDA ポート
mc メッセージを発行したモジュール

システムの処置: 要求メッセージは破棄され、IMS Connect は実行を続けます。

システム・プログラマーの応答: TCP/IP 値が SO_LINGER=Y,VALUE=0 または SO_LINGER=NO であることが原因でこのエラーが発生した場合は、TCP/IP 値を SO_LINGER=Y,VALUE=10 に変更してください。VALUE パラメーターには 0 以外の任意の値を指定できます。指定しない場合は、クライアント・アプリケーションがソケットを終了した原因を確認してください。

モジュール: MRCV - HWSMDRCV

HWSK2830E INVALID LENGTH SPECIFIED IN THE DDM COMMAND HEADER;

L=*ll*, C=*cl*, P=*portid*, M=*mc*

説明: IMS Connect から受け取った分散データ管理 (DDM) コマンドのヘッダー (DSSHDR) の長さフィー

ルドに、無効な値が含まれています。メッセージの長さは 10 バイトから 32,767 バイトまでです。長さフィールドに指定する値は、送信されるデータの長さと正確に一致している必要があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ll メッセージ接頭語に現在、指定されている長さ
cl DDM ソース・サーバーのクライアント ID
portid DDM コマンドを受け取った DRDA ポート
mc メッセージを発行したモジュール

システムの処置: 要求メッセージは破棄され、IMS Connect は実行を続けます。

プログラマーの応答: クライアント・アプリケーション・プログラムのエラーを訂正してください。

モジュール: MRCV - HWSMDRCV

HWSK2835E INVALID DDM COMMAND

LENGTH IS SPECIFIED; L=*ll*, C=*cl*, P=*portid*, M=*m*

説明: 分散データ管理 (DDM) コマンドの全体の長さが、データ・ストリーム構造 (DSS) の全体の長さから DSS ヘッダーの長さを引いた値と等しくありません。DDM コマンドの有効な長さの値は、DSS の長さから DSS ヘッダーの長さである 6 バイトを引いた数と正確に一致しなければなりません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cl クライアント ID
ll メッセージ接頭語に指定されている DDM コマンドの長さ。
m メッセージを発行したモジュール
portid DDM コマンドを受け取った DRDA ポートを示します。

システムの処置: メッセージは破棄され、IMS Connect は実行を続けます。

プログラマーの応答: DDM ソース・アプリケーション・プログラムまたは DDM ソース・サーバーの問題を訂正してください。

モジュール: MRCV - HWSMDRCV

HWSK2840E INVALID DDM SERVER CLASS

NAME IS SPECIFIED; C=*cl*, P=*portid*, M=*mc*

説明: 無効な分散データ管理 (DDM) ターゲット・サーバー・クラス名を指定しました。必要な SRVCLSNM コード・ポイントが EXCSAT DDM コマンドに指定されていないか、または SRVCLSNM の値がテキスト・

HWSK2845E • HWSK2860E

ストリング DFS ではありません。DFS は、IMS がサポートする唯一のサーバー・クラス名です。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cl DDM ソース・サーバーのクライアント ID
portid DDM コマンドを受け取った DRDA ポート
mc メッセージを発行したモジュール

システムの処置: メッセージは破棄され、IMS Connect は実行を継続します。

プログラマーの応答: EXCSAT コマンドの SRVCLSNM の値として DFS を指定するように、DDM ソース・サーバーを変更します。

モジュール: MRCV - HWSMDRCV

HWSK2845E A DDM COMMAND IS ISSUED OUT OF ORDER; C=*cl*, CP=*cp*, P=*portid*, M=*mc*

説明: 分散データ管理 (DDM) ソース・サーバーが、IMS ターゲット・サーバーによってサポートされていない順序で DDM コマンドまたはその他のコード・ポイントを実行依頼しました。例えば、ACCRDB コマンドを実行依頼する前に OPNQRY コマンドを実行依頼することはできません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cl DDM ソース・サーバーのクライアント ID
cp 誤った順序で実行依頼されたコマンドを示すコード・ポイント
portid DDM コマンドを受け取った DRDA ポート
mc メッセージを発行したモジュール

システムの処置: IMS Connect はメッセージを破棄して、実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: DDM ターゲット・サーバーとしての IMS によってサポートされている順序に従って DDM コマンドを実行依頼するように、DDM ソース・サーバーを変更してください。

モジュール: MRCV - HWSMDRCV

HWSK2850E THE REQUIRED DDM COMMAND INSTANCE VARIABLE IS MISSING; C=*cl*, CP=*cp*, P=*portid*, M=*mc*

説明: 分散データ管理 (DDM) コマンドに必要な変数が欠落しています。例えば、SECMEC 変数が ACCSEC コマンドに指定されていません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cl DDM ソース・サーバーのクライアント ID

cp DDM コマンドから欠落している変数のコード・ポイント

mc メッセージを発行したモジュール

portid DDM コマンドを受け取った DRDA ポート

システムの処置: IMS Connect はメッセージを破棄して、実行を継続します。

プログラマーの応答: DDM コマンドに必要なパラメーターを組み込むように、DDM ソース・サーバーを変更してください。

モジュール: MRCV - HWSMDRCV

HWSK2855E A DDM COMMAND INSTANCE VARIABLE CONTAINS INVALID DATA; C=*cl*, CP=*cp*, P=*portid*, M=*mc*

説明: 分散データ管理 (DDM) コマンドの変数に非英数字のデータが含まれています。例えば、DDM SECCHK コマンドの変数 USRID は、英数字以外の文字を含んではなりません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cl DDM ソース・サーバーのクライアント ID
cp 無効なデータを含んでいる変数のコード・ポイント
portid DDM コマンドを受け取った DRDA ポート
mc メッセージを発行したモジュール

システムの処置: IMS Connect はメッセージを破棄して、実行を継続します。

プログラマーの応答: 必要なデータを含むように、DDM ソース・サーバーで変数を変更してください。

モジュール: MRCV - HWSMDRCV

HWSK2860E A DDM COMMAND INSTANCE VARIABLE DOES NOT CONTAIN REQUIRED DATA; C=*cl*, CP=*cp*, P=*portid*, M=*mc*

説明: 分散データ管理 (DDM) コマンドのパラメーターに必要なデータが含まれていないか、またはパラメーターのデータ部分が欠落しています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cl DDM ソース・サーバーのクライアント ID
cp 必要なデータが欠落している DDM コマンド・パラメーターのコード・ポイント
portid DDM コマンドを受け取った DRDA ポート
mc メッセージを発行したモジュール

システムの処置: IMS Connect はメッセージを破棄して、実行を継続します。

プログラマーの応答: 必要なデータを含むように、DDM ソース・サーバーで変数を変更してください。

モジュール: MRCV - HWSMDRCV

**HWSK2865E SECURITY VIOLATION; R=rc, C=cl,
U=uid, RACFRC=rrc, RACFRS=rsn,
M=mc**

説明: クライアントからのユーザー ID およびパスワードに対する RACF 検証が失敗しました。ユーザー ID およびパスワードは、SECCHK DDM コマンドに含まれていました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

<i>rc</i>	SAF 戻りコード
<i>cl</i>	クライアント ID。クライアント ID が利用不可の場合は、このフィールドに空白が入られます。
<i>uid</i>	ユーザー ID。
<i>rrc</i>	RACF 戻りコード
<i>rsn</i>	RACF 理由コード
<i>mc</i>	メッセージを発行したモジュール

戻りコード (10 進数): R=rc、RACFRC=rrc、および RACFRS=rrs の値については、RACROUTE REQUEST=VERIFY マクロの戻りコードおよび理由コードを参照してください。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。要求メッセージは廃棄されます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: MRCV - HWSMDRCV

関連資料:

 z/OS: RACF RACROUTE REQUEST=VERIFY の戻りコードおよび理由コード

**HWSK2870E DUPLICATE ACCESS DATABASE
COMMAND ACCRDB IS DETECTED;
C=cl, P=portid, M=mc**

説明: IMS Connect は、その前の分散データ管理 (DDM) ACCRDB コマンドで確立されたデータベース接続が DEALLOCDB コマンドでクローズされる前に、ACCRDB コマンドが実行依頼されたものと判断しました。現行では、ソケット接続ごとに 1 つのデータベースにのみアクセスすることが許可されています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

<i>cl</i>	クライアント ID を識別します。 <i>cl</i> に空白が入っている場合、クライアント ID は使用できません。
<i>portid</i>	DDM コマンドを受け取った DRDA ポートを示します。
<i>mc</i>	メッセージを出すモジュール。

システムの処置: 要求メッセージは破棄され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

プログラマーの応答: JCA 準拠の IMS データベース・リソース・アダプター (DRA)、IMS 用タイプ 4 JDBC ドライバー、または DL/I 対応の Java API などの IMS DB API を使用しているアプリケーション・プログラムから ACCRDB コマンドが発行された場合、この問題は内部エラーです。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

(DRDA プログラマー) ユーザー作成の分散リレーショナル・データベース体系 (DRDA) DDM ソース・サーバーから ACCRDB コマンドが発行された場合は、データベースへの別の接続の確立を試みる前に、DEALLOCDB コマンドを発行して現在の PSB を割り振り解除するか、または現在のデータベース接続が終了するまで待って、DDM ソース・サーバーを変更してから、ACCRDB コマンドを発行してください。

モジュール: MRCV - HWSMDRCV

**HWSK2875W NO ODBM IS AVAILABLE FOR
MESSAGE ROUTING; C=cl,
IMSA=alias, P=portid, M=mc**

説明: 以下のいずれかの理由により IMS Connect が Open Database Manager (ODBM) に送信できない処理用のメッセージが、IMS Connect クライアントから処理依頼されました。

- 示された IMS 別名が、IMS Connect から認識されている ODBM のどのインスタンスとも関連付けられていません。
- 示された IMS 別名が、IMS Connect から認識されている ODBM インスタンスでも非アクティブになっています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

<i>cl</i>	DDM ソース・サーバーのクライアント ID
<i>alias</i>	IMS Connect から受け取った DDM メッセージに示される IMS 別名
<i>portid</i>	DDM コマンドを受け取った DRDA ポート
<i>mc</i>	メッセージを発行したモジュール

システムの処置: IMS Connect はメッセージを破棄して、実行を継続します。

オペレーターの応答: 以下の IMS Connect コマンドのいずれかを発行して、問題のある IMS 別名の状況と、関連する ODBM インスタンスの状況を確認してください。

```
VIEWHWS
VIEWDS ALL
QUERY MEMBER
QUERY DATASTORE NAME(*)
```

システム・プログラマーの応答: IMS データ・ストアの別名が、CSLDCxxx PROCLIB メンバーに正しく指定されていることを確認してください。

プログラマーの応答: IMS 別名が DDM ソース・サーバーから正しく指定されていることを確認してください。

モジュール: MRCV - HWSMDRCV

HWSK2880E RRS REQUEST FAILED; C=cl, CP=cp, P=portid, M=mc

説明: IMS Connect が z/OS リソース・リカバリー・サービス (RRS) に要求を発行し、その要求が失敗しました。このメッセージは、HWSR0698W メッセージに伴って出力され、その中に RRS 戻りコードが入っています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

```
cl      クライアント ID を識別します。cl にブランクが入っている場合、クライアント ID は使用できません。
cp      IMS Connect が RRS 要求を発行した際の DDM コマンドのコード・ポイント。
mc      メッセージを出すモジュール。
portid  DDM コマンドを受け取った DRDA ポートを示します。
```

システムの処置: 要求メッセージは破棄され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: このメッセージとともに発行された HWSR0698W メッセージの内容を確認してください。HWSR0698 に入っている RRS 理由コードが RRSNAVIL である場合は、RRS の状況を確認してください。この問題はおそらく内部エラーです。

モジュール: MRCV - HWSMDRCV

関連情報:

472 ページの『HWSR0698W』

HWSK2885E THE DDM COMMAND ACCRDB WAS NOT ISSUED BEFORE ATTEMPTING TO ACCESS A DATABASE; C=cl, CP=cp, P=portid, M=mc

説明: データベースにアクセスしようとしたが、その前に ACCRDB コマンドが実行されていませんでした。ACCRDB コマンドを発行してデータベースを割り振ってから、データベースにアクセスする必要があります。例えば、OPNQRY コマンドを発行する前に、ACCRDB コマンドを発行する必要があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

```
cl      DDM ソース・サーバーのクライアント ID
cp      DDM コマンドから欠落しているパラメーターのコード・ポイント
portid  DDM コマンドを受け取った DRDA ポート
mc      メッセージを発行したモジュール
```

システムの処置: IMS Connect はメッセージを破棄して、実行を継続します。

プログラマーの応答: IMS ターゲット・サーバーから要求される順序に従って DDM コマンドを実行依頼するように、DDM ソース・サーバーを変更します。

モジュール: MRCV - HWSMDRCV

HWSK2900E AN INVALID IMS ALIAS IS SPECIFIED; C=clientid, P=portid, s=sc, M=mc

説明: クライアント・アプリケーションがデータベースの割り振り要求を発行しましたが、その要求に必要な IMS ALIAS がなかったか、その要求の長さが 4 文字ではありませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

```
clientid  クライアント ID
portid    ポート ID
sc        理由コード
mc        メッセージを発行したモジュール
```

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 38. HWSK2900E サービス・コードと戻りコード

コード	概説	意味
NOALIAS	別名の指定がない。	この問題は、処理エラーです。
INVLDLNA	指定された別名が 4 文字の名前ではない。	この問題は、処理エラーです。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。TCP/IP ソケットは終了します。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

プログラマーの応答: 有効な 4 文字の IMS 別名をアプリケーション・プログラムに指定していることを確認してください。

モジュール: MDRC - HWSMDRCV

HWSK2910W FAILED TO RELEASE STORAGE;

R=rc, B=bn, A=a, M=mc

説明: IMS Connect Open Database Manager (ODBM) ソケット・ドライバが内部バッファ用のストレージをリリースできませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

<i>rc</i>	戻りコード
<i>bn</i>	バッファ名
<i>a</i>	バッファのアドレス
<i>mc</i>	メッセージを発行したモジュール

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: この問題はおそらく内部エラーです。問題報告データベースを検索して、問題の修正を探してください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびメモリー・ダンプを提出してください。

モジュール: MDRC - HWSMDRCV

HWSK2915E THERE IS NO ODBM AVAILABLE FOR DATABASE ACCESS; P=portid, M=mc

説明: IMS Connect Open Database Manager (ODBM) ソケット・コンポーネントが、以下のいずれかの理由により、交換属性の EXCSAT 要求に否定応答 MGRDEPRM を送信しました。

- 使用可能な ODBM がない。
- ODBM に関連付けられた別名がない。
- ODBM に適したリリース・レベルのハンドシェイクがない。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

<i>portid</i>	TCP/IP ポート
<i>mc</i>	メッセージを発行したモジュール

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: ODBM に別名と適切なリリース・レベルのハンドシェイクを関連付けてください。

モジュール: MRCV - HWSMDRCV

HWSK3000W FAILED TO RELEASE STORAGE;

R=rc, B=bn, A=a, M=mc

説明: IMS Connect Open Database Manager (ODBM) ソケット・ドライバが内部バッファ用のストレージをリリースできません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

<i>rc</i>	z/OS GETMAIN の障害に関する戻りコード
<i>bn</i>	バッファ名
<i>a</i>	バッファのアドレス
<i>mc</i>	メッセージを発行したモジュール

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: この問題はおそらく内部エラーです。問題報告データベースを検索して、問題の修正を探してください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびメモリー・ダンプを提出してください。

モジュール: MDRC - HWSMDXMT

HWSK3005I TCP/IP SOCKET FUNCTION CALL

FAILED; F=fn, R=rc, E=ec, C=cl,

P=portid, M=mc

説明: IMS Connect TCP/IP は、メッセージの *fn* で示される指定されたソケット機能を実行できませんでした。このメッセージは、IMS Connect のシャットダウン中に発行されます。HWSK3005E は、IMS Connect の正常実行中に発行されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

<i>fn</i>	TCP/IP ソケット機能呼び出し
<i>rc</i>	TCP/IP 戻りコード
<i>ec</i>	TCP/IP エラー・コード
<i>cl</i>	クライアント ID
<i>portid</i>	TCP/IP ポート
<i>mc</i>	メッセージを発行したモジュール

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect はシャットダウンを継続します。

システム・プログラマーの応答: 示された戻りコードお

HWSK3005E • HWSL0101I

よびエラー・コードの考えられる原因については、「z/OS Unix System Services メッセージおよびコード」(SA88-8645)、または TCP/IP マクロ API については、「z/OS Communications Server IP ソケット・アプリケーション・プログラミング・インターフェースのガイドとリファレンス」(SC88-8932)を参照してください。

モジュール: MRCV - HWSMDXMT

関連資料:

➡ z/OS: z/OS UNIX システム・サービスの戻りコード

➡ z/OS: マクロ・アプリケーション・プログラミング・インターフェース

関連情報:

『HWSK3005E』

HWSK3005E TCP/IP SOCKET FUNCTION CALL

**FAILED; F=fn, R=rc, E=ec, C=cl,
P=portid, M=mc**

説明: IMS Connect TCP/IP は、メッセージの *fn* で示される指定されたソケット機能を実行できませんでした。このメッセージは、IMS Connect の正常実行中に発行されます。HWSK3005I は、IMS Connect のシャットダウン中に発行されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

<i>fn</i>	TCP/IP ソケット機能呼び出し
<i>rc</i>	TCP/IP 戻りコード
<i>ec</i>	TCP/IP エラー・コード
<i>cl</i>	クライアント ID
<i>portid</i>	TCP/IP ポート
<i>mc</i>	メッセージを発行したモジュール

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を続けます。

システム・プログラマーの応答: 示された戻りコードおよびエラー・コードの考えられる原因については、「z/OS Unix System Services メッセージおよびコード」(SA88-8645)、または TCP/IP マクロ API については、「z/OS Communications Server IP ソケット・アプリケーション・プログラミング・インターフェースの

ガイドとリファレンス」(SC88-8932)を参照してください。

モジュール: MRCV - HWSMDXMT

関連資料:

➡ z/OS: z/OS UNIX システム・サービスの戻りコード

➡ z/OS: マクロ・アプリケーション・プログラミング・インターフェース

関連情報:

439 ページの『HWSK3005I』

HWSK3010E TCP/IP ASYNCHRONOUS FUNCTION

**CALL FAILED; F=fn, R=rc, E=ec, C=cl,
P=portid, M=mc**

説明: TCP/IP は、非同期機能処理の要求をリジェクトしました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

<i>fn</i>	TCP/IP ソケット機能呼び出し
<i>rc</i>	TCP/IP 戻りコード
<i>ec</i>	TCP/IP エラー・コード
<i>cl</i>	クライアント ID
<i>portid</i>	TCP/IP ポート
<i>mc</i>	メッセージを発行したモジュール

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を続けます。

システム・プログラマーの応答: 示された戻りコードおよびエラー・コードの考えられる原因については、関連するリリースの「z/OS UNIX システム・サービス メッセージおよびコード」(SA88-8645)を参照してください。

モジュール: MRCV - HWSMDXMT

関連資料:

➡ z/OS: z/OS UNIX システム・サービスの戻りコード

関連情報:

『HWSK3005E』

HWS メッセージ HWSL0001 - HWSQ3000

ここでは、次のメッセージについて説明します。

HWSL0101I HWS CLEANUP SUCCESSFUL

説明: IMS Connect ローカル・オプション・リソース・クリーンアップが終了中に正常に完了しました。

440 メッセージおよびコード 第 2 巻: DFS 以外のメッセージ

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は終了します。

モジュール: HWSRSM00

HWSL0103I CLEANUP SUCCESSFUL:**Client=cccccccc**

説明: IMS Connect リソース・マネージャーは、cccccccc で示されたクライアント・アドレス・スペースのインターフェース・ストレージを正常にクリーンアップしました。このメッセージは、クライアント・アドレス・スペースで発行されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cccccccc

クライアント・アドレス・スペース名。通常、この名前は、クライアント・サブレットが実行される Web サーバーのジョブ名です。

重要: クライアント・アドレス・スペース名は、STOPCLNT や VIEWHWS などの IMS Connect コマンドの入力または出力で使用されるクライアント ID とは異なります。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は終了します。

モジュール: HWSRSM20

HWSL0104W CLEANUP FAILED: CLIENT=cccccccc, RSN=rrr

説明: IMS Connect リソース・マネージャーが、クライアント・アドレス・スペース内のクライアントに関連するインターフェース・ストレージのクリーンアップ中に、問題を検出しました。理由コードが問題を識別します。メッセージは、クライアント・アドレス・スペースで発行されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cccccccc

クライアント・アドレス・スペース名。通常、この名前は、クライアント・サブレットが実行される Web サーバーのジョブ名 (例えば、IMWEBSRV) です。

重要: クライアント・アドレス・スペースは、STOPCLNT や VIEWHWS などの IMS Connect コマンドの入力または出力で使用されるクライアント ID とは異なります。

rrr

次のいずれかの理由コード。

- 104: CGCT ブロックが損傷を受けました。
- 108: CCIB ブロックが損傷を受けました。
- 10C: CCIB ストレージが解放されるときにエラーが発生した。
- 110: CRET ブロックが損傷を受けました。

- 114: CRET ブロックのストレージが解放されるときにエラーが発生しました。
- 118: 不明な理由で HWSRSM20 が異常終了しました。
- 11C: 不明なエラーが発生しました。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は終了します。

システム・プログラマーの応答: このエラー・メッセージは、CSA ストレージが使用できない可能性があることを示します。IBM ソフトウェア・サポートにお問い合わせください。

モジュール: HWSRSM20

HWSL0105I INTF CLEANUP SUCCESSFUL:**Client=cccccccc**

説明: 終了前に、IMS Connect は、ローカル・オプション・クライアントからの未解決の HWS 要求をすべて通知または再開しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cccccccc

クライアント・アドレス・スペース名。通常、この名前は、クライアント・サブレットが実行される Web サーバーのジョブ名です。

重要: クライアント・アドレス・スペース名は、STOPCLNT や VIEWHWS などの IMS Connect コマンドの入力または出力で使用されるクライアント ID とは異なります。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は終了します。

モジュール: HWSRSM10

HWSL0106W INTF CLEANUP FAILED:**CLIENT=cccccccc, RSN=rrr**

説明: IMS Connect アドレス・スペースが終了すると、クライアントの代わりに IMS Connect をモニターしていた IMS Connect リソース・マネージャーが、クリーンアップ中に障害を起こしました。理由コードが、発生した問題を識別します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cccccccc

クライアント・アドレス・スペース名。通常、この名前は、クライアント・サブレットが実行される Web サーバーのジョブ名 (例えば、IMWEBSRV) です。

rrr 次のいずれかの理由コード。

- 104: リソース・マネージャーは、IMS Connect が終了したことをクライアントに通知するための CXSH ブロック用の共通ストレージを獲得することができなかった。
- 108: リソース・マネージャーは、IMS Connect が終了したことをクライアントに通知するための、クライアント・アドレス・スペースに対する SRB をスケジュールすることができなかった。
- 10C: リソース・マネージャーは、IMS Connect インターフェース・ブロックをクリーンアップするための、クライアント・アドレス・スペースに対する SRB をスケジュールすることができなかった。
- 110: リソース・マネージャー (HWSRSM10) が異常終了した。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は終了します。

システム・プログラマーの応答: IMS Connect リソース・マネージャーが処理を完了する前にクライアント・アドレス・スペースが終了すると、メッセージ HWS0106W が、理由コード 108 または 10C を伴って出力されることがあります。その場合、他の IMS Connect リソース・マネージャーが IMS Connect インターフェース・ストレージをクリーンアップしたので、アクションは必要ありません。それ以外の場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。理由コード 110 が表示された場合、SYS1.LOGREC のレコードを印刷して、異常終了に関する情報を入手します。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

モジュール: HWSRSM10

HWSL0111W HWS INTERFACE ABEND *abend_code*
PSW=*psw* **R15=***r15* **MODULE**
module_addr **STATUS**

説明: IMS Connect 要求の処理中にクライアントと IMS Connect 間のインターフェースに異常終了が発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

abend_code

発生した異常終了 (システム異常終了の場合は Sxxx、ユーザー異常終了の場合は Uxxx) を示します。

psw

異常終了時点での PSW の内容を示します。

r15

異常終了時点でのレジスター 15 の内容を示す。一部の異常終了では、この値が異常終了サブコードになります。

module_addr

異常終了を検出した IMS Connect インターフェース・モジュールの名前を示します。この値は必ずしも異常終了したモジュールとは限らず、異常終了のために駆動されたリカバリー・ルーチン (ESTAE または FRR) を含んでいるモジュールの場合もあります。可能なモジュールは次のとおりです。

HWSREG20

IMS Connect への登録中に異常終了が発生しました。

HWSRQS00

IMS Connect アドレス・スペースに要求を送信するインターフェースの入力側で異常終了が発生しました。

HWSR00

IMS Connect からクライアントへ HWS 要求の結果を送信するインターフェースの出力側で異常終了が発生しました。

Status

状況は異常終了が発生した場所を示すテキスト・ストリングです。この情報は、すべてのモジュールに対しては提供されません。例えば、モジュールが HWSREG20 の場合、状況はブランクです。モジュールが HWSRQS00 または HWSR00 の場合、状況は以下の値のいずれかです。

BEFORE COPY

要求されたデータが IMS Connect アドレス・スペースにコピーされる前に、異常終了が発生しました。

IN COPY

要求されたデータが IMS Connect アドレス・スペースにコピーされているときに、異常終了が発生しました。この異常終了は、不正なデータがクライアントから渡された場合に発生します。

AFTER COPY

データが IMS Connect アドレス・スペースにコピーされ、キューに入れられた後で、異常終了が発生しました。

STATUS UNKWN

異常終了が発生したときに、FRR が要求の状況を判別できませんでした。

HWSRQS00 は、次の値を追加で提供します。

IN ENQUEUE

要求が IMS Connect アドレス・スペースのキューに入れられたときに、異常終了が発生しました。

HWSRB00 は、次の値を追加で提供します。

IN POST

要求が完了した後、クライアントをウェイクアップさせるための POST が行われているときに異常終了が発生しました。

システムの処置: メッセージがクライアント・アプリケーションに対して発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: 製品のダンプのコピーを保管し、この異常終了に関連する LOGREC レコードのコピーを保管または印刷してください。クライアントが IBM 製品の場合、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。クライアントが IBM 製品でない場合、そのクライアントの提供業者に連絡してください。

モジュール: HWSREG20, HWSRQS00, HWSRB00

**HWSL0281I CONNECT REJECTED FOR
CLIENT=client, USERID=userid;
INSUFFICIENT AUTHORITY TO
HWS ICON_NAME; RACROUTE
AUTH R15=r15, RC=rc, RSN=rsn**

説明: クライアントがローカル・オプションを使用して IMS Connect に接続しようとしたが、そのクライアントは IMS Connect へのアクセスを許可されていません。IMS Connect は、RACROUTE REQUEST=AUTH 呼び出しを発行して、接続元のクライアントがローカル・オプションを使用して IMS Connect にアクセスする適切な権限を持っているかどうかを判別します。IMS Connect は、クライアントのジョブ・ユーザー ID を使用して、権限を付与します。

- *client* は、接続しようとしているクライアント ID を参照します。
- *userid* は、クライアントのアドレス・スペースに関連したユーザー ID です。このフィールドに「NONE」が含まれる場合、クライアントはユーザー ID 指定なしで実行中です。
- *icon_name* は、クライアントが接続しようとしている対象の IMS Connect を参照します。
- *r15* は、RACROUTE 呼び出しからのレジスター 15 の値を参照します。
- *rc* は、RACROUTE 呼び出しからの RACF 戻りコードを参照します。
- *rsn* は、RACROUTE 呼び出しからの RACF 理由コードを参照します。

システムの処置: 接続要求はリジェクトされ、クライアントは、要求された IMS Connect にアクセスすることができません。

システム・プログラマーの応答: 要求された IMS Connect へのアクセスを特定のユーザーに許可する場

合、少なくとも RACF UPDATE 権限で IMS Connect にアクセスする許可を与えてください。要求された IMS Connect へのアクセスを特定のユーザーに許可しない場合は、そのユーザーが接続しようとする理由を確認し、無許可または悪意のあるアクセスに対する適切な保護処置を講じる必要があります。

**HWSM0500E FUNCTION WORK ELEMENT
PROCESSING FAILURE, FUNC=func,
R=rc, S=sc, M=mc**

説明: 機能作業エレメント (FWE) を処理できません。FWE は、コンポーネント間およびコンポーネント内の作業を要求します。この構造には、処理の際にサービスが必要とする機能とパラメーターが入っています。

- *func* は、要求された機能を識別します。
- *rc* は、戻りコードを識別します。
- *sc* は、サービス・コードを識別します。サービス・コードには、特定のエラーを示すコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入ります。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 39. HWSM0500E のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
INVFUNC	FWE で要求された機能が正しくない。	4	これは処理エラーです。

システムの処置: このメッセージが発行され、可能な限り、機能の要求者に通知されます。その他の場合は、FWE は解放されます。どのような場合も IMS Connect は実行を続けます。

システム・プログラマーの応答: これはおそらく内部エラーです。問題報告データベースを検索して、問題の修正を探してください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

モジュール: OOC HWSOOC0, OSCH
HWSOSCH0, DCVC HWSDCVC0

**HWSM0502W FWE FUNCTION=*func* FAILED FOR
IMSPLEX=*ipid*, COMMAND=*hwscmd*
IN PROGRESS; M=*mc***

説明: *hwscmd* で示されたコマンドが既に処理中であるため、機能 *func* は処理できません。

- *func* は、要求された機能を識別します。
- *ipid* は、IMSPlex 接続を識別する。
- *hwscmd* は、進行中の IMS Connect コマンドを識別する。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: IMS Connect コマンドが進行中で、IMSPlex を終了中です。したがって、その IMSPlex 用の新機能は処理できません。

モジュール: DSCM HWSOSCH0

**HWSM0504W COMMAND=*hwscmd* FAILED FOR
IMSPLEX=*ipid*,
COMMAND=*prev_hwscmd* ALREADY
IN PROGRESS; M=*mc***

説明: IMSPlex に対して入力された IMS Connect コマンド *hwscmd* は、すでにその IMSPlex に対するコマンド *prev_hwscmd* が進行中であるため、処理できません。

- *hwscmd* は、*prev_hwscmd* によって実行をブロックされた IMS Connect コマンドを識別する。
- *ipid* は、IMSPlex を識別する。
- *prev_hwscmd* は、*hwscmd* の実行をブロックする IMS Connect コマンドを識別する。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: 進行中の IMS Connect コマンドが IMSPlex を終了中です。したがって、新しいコマンドは、いずれも処理できません。IMS Connect コマンド (*hwscmd*) が CLOSEHWS であった場合は、IMS Connect *prev_hwscmd* の処理の完了後に終了します。

モジュール: DSCM HWSOSCH0

**HWSM0510W STOPIP COMMAND FAILED DUE
TO IMSPLEX IN DISCONNECT
STATE; M=*mc***

説明: STOPIP コマンドが発行されたが、IMSPlex 接

続は DISCONNECT 状態です。したがって、STOPIP コマンドを処理することができません。SCI アドレスが再始動されると、IMS Connect は自動的に SCI に再接続します。接続が再確立されたら、STOPIP コマンドを発行できます。

mc は、このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: このメッセージが発行され、STOPIP コマンドは無視されます。

システム・プログラマーの応答: DISCONNECT 状態は、STOPPED 状態と同じ影響があります。SCI アドレス・スペースが再始動されると、接続が再確立されます。接続が再確立されると、STOPIP コマンドを発行できます。

モジュール: OSCH HWSOSCH0

**HWSM0522W UNABLE TO START
TRANSMIT/RECEIVE THREADS FOR
IMSPLEX=*ipid*, R=*rc*, S=*sc*, M=*mc***

説明: 送信または受信スレッド構造にストレージを割り振ることができないか、あるいは伝送スレッドまたは受信スレッドをスケジュールできません。メッセージ伝送およびメッセージ受信用に定義された IMSPlex ごとに、伝送スレッドと受信スレッドが割り振られます。

- *ipid* は、IMSPlex を識別する。
- *rc* は、戻りコードを識別します。
- *sc* は、サービス・コードを識別します。サービス・コードには、特定のエラーを示すコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入ります。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 40. HWSM0522W のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
GETDSBB	BPECBGET。伝送スレッドと受信スレッドのための IMSplex (DSB) を獲得するのに用いられるシステム・サービス。これはスレッド用の実行ブロックです。	4	誤った CBTE アドレスが CBGET ルーチンに渡されている。これは内部エラーです。
		8	ストレージが不足なので、要求を満たすことができません。
GETC01K	BPECBGET。コントローラーのための共通の 1024 バイト (C01K) を獲得するのに使用されるシステム・サービス。この領域は作業域として使用されます。	4	誤った CBTE アドレスが CBGET ルーチンに渡されている。これは、内部システム・エラーです。
		8	ストレージが不足なので、要求を満たすことができません。
GETTWUB	BPECBGET。伝送スレッドと受信スレッドのためのスレッド作業単位 (TWU) を獲得するのに用いられるシステム・サービス。	4	誤った CBTE アドレスが CBGET ルーチンに渡されている。これは内部エラーです。

表 40. HWSM0522W のサービス・コードおよび戻りコードの説明 (続き)

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
		8	ストレージが不足なので、要求を満たすことができません。
SCHEDTWU	BPETHDCR。スケジューラー・コントローラー・スレッドをスケジューリングするのに使用されるシステム・サービス。	4	誤ったディスクパッチャー作業域が、スレッド作成ルーチンに渡されている。
		8	誤った TCB 索引値が TCBIDX パラメーターに渡されている。
		12	ゼロのルーチン・アドレスが、ROUTINE= パラメーターにあります。

表 40. HWSM0522W のサービス・コードおよび戻りコードの説明 (続き)

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
		16	誤った TCB 表エントリ・アドレスが、スレッド作成ルーチンに渡されている。 BPETHDCR マクロは、パラメーター TCBTYPE、TCBIDX、あるいは TCBDDWA のいずれかが指定されているかに基づいて、TCBT アドレスを判別する。このパラメーターが正しくコーディングされていることを確認してください。
		20	該当のスレッドのスレッド制御ブロック (THCB) 用のストレージを入手できません。
		24	該当のスレッド用のスタック・ストレージを入手できません。
		28	該当のスレッドの初期ポストが失敗しました。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect はこの IMSplex なしで実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: IMS Connect のその

後のクローズおよび始動の際、JCL ステートメントで指定された領域サイズは、IMS Connect 領域を十分収容できるものであることを確認してください。エラーが再発する場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

モジュール: DSC1 HWSM0527W, DSCM HWSM0527W

**HWSM0527W CLOSE FAILED FOR IMSplex=ipid;
R=rc, S=sc, M=mc**

説明: IMS Connect のシャットダウン中に、指定された IMSplex をクローズしようとして失敗しました。

- ipid は、IMSplex を識別する。
- rc は、戻りコードを識別します。
- sc は、サービス・コードを識別します。サービス・コードには、特定のエラーを示すコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入ります。
- mc は、このメッセージを出すモジュールを示します。

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 41. HWSM0527W のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
GETFWEB	BPECBGET。クローズすることをすべての IMSplex に通知するために、FWE を獲得するのに使用されるシステム・サービス。	4	誤った CBTE アドレスが CBGET ルーチンに渡されている。これは内部エラーです。
		8	ストレージが不足なので、要求を満たすことができません。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: IMSplex のクローズ

を通知するためのストレージを割り振ることができません。エラーが再発する場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

モジュール: DOC3 HWSDOC30

**HWSM0538E UNABLE TO PROCESS COMMAND
FROM OM=*om_name*, IMSPLEX=*ipid*,
R=*rc*, S=*sc*, M=*mc***

説明: IMS Connect は Operations Manager (OM) からコマンドを受け取りました。しかし、IMS Connect の内部エラーが発生したため、IMS Connect はそのコマンドを処理できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

om_name

コマンドを開始した OM の名前を示します。

ipid

コマンドを受け取った IMSplex の名前を示します。

rc

戻りコードを識別します。

sc

サービス・コードを示します。サービス・コードは、要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたエラーまたはコードを識別します。

mc

このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: IMS Connect は実行を続けます。コマンドは廃棄され、OM に応答は送られません。

ユーザーの処置: 処理が失敗する原因となっている戻りコードとサービス・コードを判別します。この状態が一時的である場合は、処理を再試行します。それ以外の場合は、次のいずれかの処置を実行します。これにより、IMS Connect はコマンドの登録を再試行します。

- STOPIP または同等のコマンドを使用して IMSplex との通信を停止し、STARTIP または同等のコマンドを使用して IMSplex との通信を再開する。
- キャンセルして OM を再始動する。
- キャンセルして SCI を再始動する。

モジュール: OREG HWSOREC0

**HWSM0540E UNABLE TO PROCESS READY
NOTIFICATION FROM OM=*om_name*,
IMSPLEX=*ipid*, R=*rc*, S=*sc*, M=*mc***

説明: IMS Connect は、構造化呼び出しインターフェース (SCI) から ready 通知を受け取りました。この状態は、Operations Manager (OM) システムが IMS Connect からコマンドの登録要求を受け取る準備ができ

ていることを示します。しかし、IMS Connect の内部エラーにより IMS Connect はそのコマンドを処理できません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

om_name

ready 通知を開始した OM の名前を示します。

ipid

ready 通知を受け取った IMSplex の名前を示します。

rc

戻りコードを識別します。

sc

サービス・コードを示します。サービス・コードは、要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻された特定のエラーまたはコードを識別します。

mc

このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: IMS Connect は実行を続けます。ready 通知が廃棄され、IMS Connect はコマンドの登録を実行しません。示された OM から IMS Connect タイプ 2 コマンド処理を使用することはできません。

ユーザーの処置: 処理が失敗する原因となっている戻りコードとサービス・コードを判別します。この状態が一時的である場合は、処理を再試行します。それ以外の場合は、次のいずれかの処置を実行します。これにより、IMS Connect はコマンドの登録を再試行します。

- STOPIP または同等のコマンドを使用して IMSplex との通信を停止し、STARTIP または同等のコマンドを使用して IMSplex との通信を再開する。
- キャンセルして OM を再始動する。
- キャンセルして SCI を再始動する。

モジュール: OREG HWSOREC0

**HWSM0550W UNABLE TO NOTIFY MSG
ORIGIN=*clientid* OF IMSPLEX
COMMUNICATION ERROR; R=*rc*,
S=*sc*, M=*mc***

説明: IMS Connect は、IMS Operations Manager (OM) との通信エラーが発生したことを、処理中かまたは処理を待つキューにあるコマンド・メッセージの発信元である TCP/IP クライアントに通知できません。

- *clientid* は、TCP/IP クライアントを識別する。
- *rc* は、戻りコードを識別します。
- *sc* は、サービス・コードを識別します。サービス・コードには、特定のエラーを示すコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入ります。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

HWSM0552W

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 42. HWSM0550W のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
COMMERR	IMSplex との通信エラー	4	これは処理エラーです。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。エラーを起こした処理のメッセージが廃棄されます。

システム・プログラマーの応答: このエラーは、IMSplex がすでにアクティブでない場合、または IMS Connect への通信リンクが切断された場合に発生することがあります。

モジュール: OXMT HWSOXMT0、DSC3
HWSOXC30、DSCE HWSOXC30

HWSM0552W UNABLE TO SEND RESPONSE RECEIVED FROM IMSPLEX=*ipid* TO CLIENT=*clientid*; R=*rc*, S=*sc*, M=*mc*

説明: IMS Connect は、IMSplex から受信した応答を、必要な TCP/IP クライアントに送信できません。

- *ipid* は、IMSplex を識別する。
- *clientid* は、TCP/IP クライアントを識別する。
- *rc* は、戻りコードを識別します。
- *sc* は、サービス・コードを識別します。サービス・コードには、特定のエラーを示すコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入ります。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 43. HWSM0552W のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
INVLDTOK	無効なサーバー・トークンが検出されました。	4	コマンドおよびコマンド応答の交換に必要な正しいサーバー・トークンを使用してください。

表 43. HWSM0552W のサービス・コードおよび戻りコードの説明 (続き)

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
NFNDCOMP	要求された機能を処理するコンポーネントが見つかりません。IMS Connect コンポーネントの 1 つが別のコンポーネントのサービスのインターフェース呼び出しを発行しましたが、要求されたコンポーネントが見つかりません。	4	これは処理エラーです。
NFNDFUNC	要求された機能がみつかりません。IMS Connect コンポーネントの 1 つが別のコンポーネントのサービスのインターフェース呼び出しを発行しましたが、要求されたサービスが見つかりません。	4	これは処理エラーです。
NFNDSVT	サーバー・テーブルが見つかりません。このテーブルには、接続された IMS Connect クライアントのアクティビティが維持されています。	4	これは処理エラーです。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。応答メッセージは廃棄されます。

システム・プログラマーの応答: このエラーは、クライアントがすでにアクティブでなく、IMS Connect に接続していない場合に発生します。サービス・コードが NFNDCOMP または NFNDFUNC のときは、おそらく内部エラーです。問題報告データベースを検索して、問題の修正を探してください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

モジュール: OREC HWSOREC0

HWSM0554W UNABLE TO NOTIFY IMSPLEX=ipid SCHEDULER OF COMMUNICATION ERROR; R=rc, S=sc, M=mc

説明: IMS Connect は、通信エラーが起こったことを、指定された IMSplex のスケジューラー・コントローラーに通知できません。この状態が起こると、IMS Connect は、指定された IMSplex をアクティブとして表示します。しかし、その IMSplex のキューに入れられたメッセージは、送信されません。

- *ipid* は、IMSplex を識別する。
- *rc* は、戻りコードを識別します。
- *sc* は、サービス・コードを識別します。サービス・コードには、特定のエラーを示すコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入ります。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 44. HWSM0554W のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
COMMERR	IMSplex との通信エラー	4	これは処理エラーです。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: STOPIP コマンドを発行して、IMSplex を終了します。エラーが再発する場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

モジュール: OREC HWSOREC0、OXMT HWSOXMT0

HWSM0560I IMSPLEX=ipid THREAD TERMINATED; M=mc

説明: IMSplex 送信スレッドまたは受信スレッドが終了しました。

- *ipid* は、IMSplex を識別する。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: このメッセージは、IMSplex スレッドが終了したときに発行されます。

モジュール: OREC HWSOREC0、OXMT HWSOXMT0

HWSM0570W IMSPLEX OPEN FAILED; R=rc, M=mc

説明: IMS Connect の始動中、あるいは IMS Connect OPENIP コマンドへの応答時に、IMSplex との通信に障害が起こり、その結果、IMSplex オープン機能に障害が発生しました。

- *rc* は、戻りコードを識別します。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: IMSplex との通信障害のために IMSplex との通信が失敗すると、このメッセージが発行されます。この障害についての詳細は、メッセージ HWSI1605W を参照してください。

システム・プログラマーの応答: このエラーは、IMSplex が正しく定義されていない場合に発生する可能性があります。VIEWIP または VIEWHWS コマンドを使用して、IMSplex の状況を表示してください。問題が解決しない場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

モジュール: OOC1 HWSOOC10

関連情報:

423 ページの『HWSI1605W』

HWSM0580I IMSPLEX COMMUNICATION FUNCTION CLOSED; M=mc

説明: IMSplex 用の通信機能が非アクティブになりました。

- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: このメッセージは、IMSplex との間のすべての通信が終了して、IMS Connect がシャット

ダウンしている間に発行されます。

モジュール: DOC3 HWSDOC30

HWSM0582I COMMUNICATION WITH IMSPLEX=*ipid* CLOSED; M=*mc*

説明: 指定された IMSplex の通信が終了しました。

- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: このメッセージは、CLOSEIP コマンドが正常に完了したときに発行されます。

モジュール: DSCL HWSDSL0

HWSM0584 COMMUNICATION WITH IMSPLEX=*ipid* STOPPED; M=*mc*

説明: 指定された IMSplex の通信が停止しました。

- *ipid* は、IMSplex を識別する。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: このメッセージは、STOPIP コマンドが正常に完了したときに発行されます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DSCM HWSDCM0

HWSM0590I CONNECTED TO IMSPLEX=*ipid*; M=*mc*

説明: 指定された IMSplex との通信が確立されました。

システムの処置: このメッセージは、IMSplex との接続が確立されたときに発行されます。これは、IMS Connect の始動中か、または OPENIP コマンドが正常に完了したときに起こる可能性があります。

モジュール: OSC10 HWSOSC10

HWSN1900I IMS CONNECT IS CONNECTED TO ODBM=*odbmname*; M=*mc*

説明: メッセージ・テキストに示された Open Database Manager (ODBM) との通信が確立されました。このメッセージは、IMS Connect の始動時、または ODBM との接続を開始したコマンドが正常終了したときに発行されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

odbmname

通信が確立された ODBM

mc メッセージを発行したモジュール

システムの処置: ODBM との接続が確立されました。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: HWSOSC10

HWSN1910E COMMUNICATIONS WITH ODBM FAILED TO OPEN BECAUSE AN IMSPLEX WAS NOT SPECIFIED; M=*mc*

説明: IMSplex に接続していないため、IMS Connect は ODBM との通信をオープンできませんでした。IMS Connect が IMSplex に接続していないか、SCI が使用できないために、IMS Connect が IMSplex に対して ODBM のリストを取得するための照会を実行できないときに、このメッセージが発行されます。この障害は、IMS Connect 始動時に起こることがあります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

mc メッセージを発行したモジュール

システムの処置: IMS Connect は実行を継続しますが、データベース接続要求を DBCTL または DB/DC システム内の IMS DB に送ることができません。

システム・プログラマーの応答: IMS Connect 構成 PROCLIB メンバーに IMSplex 名を指定し、IMS Connect を再始動してください。IMSPLEX ステートメントの IMSPLEX グローバル・パラメーター、または ODACCESS ステートメントの ODBM に固有の IMSPLEX パラメーターに IMSplex 名を指定できます。

モジュール: NOC1 - HWSNOC10

HWSN1915E COMMUNICATIONS WITH ODBM FAILED TO OPEN BECAUSE IMS CONNECT IS NOT CONNECTED TO AN IMSPLEX; M=*mc*

説明: IMS Connect が IMSplex に接続されていないか、SCI のインスタンスが使用できないため、IMS Connect は ODBM との通信をオープンできません。この障害は、IMS Connect 始動時に起こることがあります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

mc メッセージを発行したモジュール

システムの処置: IMS Connect は実行を継続しますが、データベース接続要求を DBCTL または DB/DC システム内の IMS DB に送ることができません。

システム・プログラマーの応答: SCI のインスタンスが使用できないために IMS Connect と ODBM との通信

が開始されない場合は、IMS Connect 構成 PROCLIB メンバーに指定されている IMSplex で SCI のインスタンスを開始してください。

SCI の開始後に、自動的に ODBM に接続するように IMS Connect を構成 (IMS Connect 構成 PROCLIB メンバーに ODBMAUTOCONN=Y を指定) した場合は、IMS Connect が IMSplex 内で実行しているすべての ODBM インスタンスに接続します。ODBM に自動的に接続するように IMS Connect を構成しない場合は、IMS Connect STARTOD コマンドを発行して ODBM に接続してください。

SCI の実行時に IMS Connect と ODBM との通信が開始されない場合は、IMS Connect 構成 PROCLIB メンバーの IMSPLEX= パラメーターに指定した IMSplex の名前と、SCI が実行している IMSplex の名前が一致していることを確認してください。IMSplex の名前が一致していなければ、IMSplex の名前を訂正してから、IMS Connect を再始動します。

モジュール: NOC1 - HWSNOC10

**HWSN1920E COMMUNICATIONS WITH ODBM
FAILED TO OPEN BECAUSE
CSLSCQRY FAILED WITH RC=*rc*
RSN=*rsn*; M=*mc***

説明: IMS Connect は、接続先の ODBM のインスタンスを取得するために IMSplex を照会しようとした。しかし、戻りコードおよび理由コードで示される問題が発生したため、CSLSCQRY 照会要求は失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc CSLSCQRY から戻された戻りコード
rsn CSLSCQRY から戻された理由コード
mc メッセージを発行したモジュール

システムの処置: IMS Connect は実行を継続しますが、データベース接続要求を DBCTL または DB/DC システム内の IMS DB に送ることができません。

システム・プログラマーの応答: SCI CSLSCQRY の戻りコードおよび理由コードを確認して、問題の原因を究明してください。問題が解決したら、IMS Connect コマンドの STARTOD を発行して、ODBM の特定インスタンスに接続してください。

モジュール: NOC1 - HWSNOC10

関連資料:

 CSLSCQRY: 照会要求 (システム・プログラミング API)

**HWSN1925E COMMUNICATIONS WITH ODBM
FAILED TO OPEN BECAUSE NO
ODBMS ARE AVAILABLE; M=*mc***

説明: IMSplex 内にアクティブな ODBM のインスタンスがないため、IMS Connect は Open Database Manager (ODBM) との通信をオープンできません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

mc メッセージを発行したモジュール

システムの処置: IMS Connect は実行を継続しますが、データベース接続要求を DBCTL または DB/DC システム内の IMS DB に送ることができません。

システム・プログラマーの応答: ODBM のインスタンスを少なくとも 1 つ開始してください。

ODBM の開始後に、自動的に ODBM に接続するように IMS Connect を構成 (IMS Connect 構成 PROCLIB メンバーに ODBMAUTOCONN=Y を指定) した場合は、IMS Connect が IMSplex 内で実行しているすべての ODBM インスタンスに接続します。ODBM に自動的に接続するように IMS Connect を構成しない場合は、該当する IMS Connect コマンドを発行して、ODBM との通信を再開します。

モジュール: NOC1 - HWSNOC10

**HWSN1930E COMMUNICATIONS WITH ODBM
FAILED TO OPEN BECAUSE IMS
CONNECT FAILED TO GET
STORAGE; RC=*rc*; M=*m***

説明: 必要なストレージを獲得する際にエラーが発生したため、IMS Connect は ODBM との通信をオープンできませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc BPE サービス BPECBGET の戻りコード
m メッセージを発行したモジュール

システムの処置: IMS Connect は実行を継続しますが、データベース接続要求を DBCTL または DB/DC システム内の IMS DB に送ることができません。

システム・プログラマーの応答: JCL ステートメントで指定された領域サイズが IMS Connect 領域を十分収容できるものであることを確認してください。エラーが再発する場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびメモリー・ダンプを提出してください。

モジュール: NOC1 - HWSNOC10

HWSN1935W OPEN COMMUNICATIONS TO ODBM FAILED BECAUSE ODBM DRIVER OPEN FAILED; M=mc

説明: ODBM ドライバーが通信のオープンに失敗したため、IMS Connect は ODBM との通信をオープンできませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

mc メッセージを発行したモジュール

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続しますが、ODBM に使用可能な通信機能がありません。

システム・プログラマーの応答: エラーが再発する場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびメモリー・ダンプを提出してください。

モジュール: NOC1 - HWSNOC10

HWSN1940W UNABLE TO SEND RESPONSE FROM ODBM=odbmname TO CLIENT=clientid; R=rc, S=sc, M=mc

説明: IMS Connect は、メッセージに示される Open Database Manager (ODBM) からメッセージを受け取りましたが、指定された TCP/IP クライアントに応答を送信できませんでした。この状況は、要求を出したクライアントがアクティブでなくなった場合に起こります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

odbmname

応答を送信した ODBM

clientid 要求を発行したクライアント

rc 戻りコード

sc サービス・コード。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。

mc メッセージを発行したモジュール

表 45. HWSN1940W のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
GETFWEB	IMS Connect は、処理に必要な制御ブロックを取得できませんでした。この状態は一時的なものである可能性があります。	<i>rc</i>	この問題は、処理エラーです。 <i>rc</i> は、BPECBGET からの戻りコードです。
LATEMSG	IMS Connect でタイムアウトが発生した後、ソケットがクローズされた後、または TCP/IP が終了された後で、ODBM からのメッセージが受信されました。IMS Connect が IMS 出力を受け取る前に、ソケットがクローズされた可能性があります。	4	IMS からのメッセージは IMS Connect によって受信されましたが、クライアントには送信されませんでした。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。応答メッセージは廃棄されます。

システム・プログラマーの応答: このエラーは、クライアントがアクティブでなくなって、IMS Connect に接続されなくなったときに、起こる可能性があります。クライアントがログオフしたか、接続がタイムアウトになった可能性があります。

問題が解決しない場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。原因が見つからない場合は、戻りコードおよびサービス・コードを記録して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびメモリー・ダンプを提出してください。

モジュール: NREC - HWSNREC0

HWSN1950E UNABLE TO NOTIFY THE CLIENT *clientid* OF ODBM COMMUNICATION ERROR; R=rc, S=sc, M=mc, P=portid

説明: IMS Connect は、ODBM との通信エラーが発生したことをメッセージ発行元の TCP/IP クライアン

トに通知できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

clientid TCP/IP クライアント
rc 戻りコード
sc サービス・コード。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
mc メッセージを発行したモジュール
portid ポート ID。クライアントのメッセージを受け取る IMS Connect ポート。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。エラーを起こした処理のメッセージが廃棄されます。

システム・プログラマーの応答: このエラーは、ODBM がアクティブでなくなったか、IMS Connect と ODBM との通信リンケージが切断された場合に発生することがあります。エラーが再発する場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。原因が見つからない場合は、戻りコード、サービス・コード、およびメッセージ・コードを記録して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびメモリー・ダンプを提出してください。

モジュール: NXMT - HWSNXMT0, DSCE - HWSDSCE0

HWSN1960I ODBM=odbmname threadtype THREAD TERMINATED; M=m

説明: ODBM 送信スレッドまたは受信スレッドが終了しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

odbmname スレッドを処理した ODBM のインスタンス
threadtype 終了したスレッドのタイプ
RECEIVE 受信スレッド
TRANSMIT 送信スレッド
m メッセージを発行したモジュール

システムの処置: IMS Connect は実行を継続しますが、データベース接続要求を DBCTL または DB/DC システム内の IMS DB に送ることができません。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: NREC - HWSNREC0; NXMT - HWSNXMT0

HWSN1965E IMS CONNECT WAS UNABLE TO SEND A MESSAGE TO ODBM=odbmname; C=clientid, P=portid, R=rc, S=sc, M=mc

説明: IMS Connect は Open Database Manager (ODBM) にメッセージを送信できません。サービス・コードは、このエラーが発生したサービスを示します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

odbmname ODBM の名前
clientid TCP/IP クライアント ID
portid TCP/IP クライアントからメッセージを受け取ったポート
rc 戻りコード
sc サービス・コード。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
mc メッセージを発行したモジュール

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 46. HWSN1965E サービス・コードと戻りコード

コード	概説	戻りコード	意味
BPEGETM	ストレージを獲得するサービスが失敗しました。	4	この問題は、処理エラーです。
HWSFSTOR	ストレージをリリースするサービスが失敗しました。	4	この問題は、処理エラーです。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: ストレージの獲得に関するエラーが発生した場合は、JCL ステートメントで指定された領域サイズが IMS Connect 領域を十分収容できるものであることを確認してください。エラーが再発する場合は、問題報告データベースを検索して、問題の

修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびメモリー・ダンプを提出してください。

ストレージのリリースに関するエラーが発生した場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびメモリー・ダンプを提出してください。

モジュール: NXMT - HWSNXMT0

**HWSN1985I COMMUNICATION WITH
ODBM=odbmname CLOSED; M=mc**

説明: 以下のいずれかの理由により、ODBM インスタンスとの通信が終了しました。

- IMS Connect を終了する CLOSEHWS コマンドが発行された。
- *odbmname* で示される ODBM インスタンスが終了した。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

odbmname

通信が終了させられた ODBM インスタンスの名前

mc メッセージを発行したモジュール

システムの処置: ODBM が終了した場合、IMS Connect は実行を継続しますが、メッセージ・テキストに示される ODBM インスタンスにデータベース接続要求を送ることはできません。

CLOSEHWS コマンドが発行された場合、IMS Connect は実行していません。

システム・プログラマーの応答: ODBM インスタンスが終了した後に ODBM との通信を再開する場合は、ODBM を開始してください。

CLOSEHWS コマンドの発行後に ODBM との通信を再開する場合は、IMS Connect を始動してください。

モジュール: DSCL - HWSDSL0

**HWSN2000E FUNCTION WORK ELEMENT
PROCESSING FAILURE, FUNC=func;
R=rc, S=sc, M=mc**

説明: 機能作業エレメント (FWE) を処理できません。FWE は、コンポーネント同士の間とコンポーネントの内部での作業を要求します。この構造には、処理の際にサービスが必要とする機能とパラメーターが入っています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

<i>func</i>	機能
<i>rc</i>	戻りコード
<i>sc</i>	サービス・コード。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
<i>mc</i>	メッセージの発行元のモジュール。

表 47. HWSN2000E のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
INVFUNC	FWE で要求された機能が正しくない。	4	この問題は、処理エラーです。

システムの処置: このメッセージが発行され、可能な限り、機能の要求者に通知されます。その他の場合は、FWE は解放されます。どのような場合も IMS Connect は実行を続けます。

システム・プログラマーの応答: この問題はおそらく内部エラーです。問題報告データベースを検索して、問題の修正を探してください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

モジュール: NSCH - HWSNSCH0

**HWSN2010E STOP ODBM COMMAND FAILED
BECAUSE ODBM IS IN
DISCONNECT STATE, M=mc**

説明: Open Database Manager (ODBM) が切断された状態になっているため、ODBM をクローズしようとして失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

mc メッセージの発行元のモジュール

システムの処置: メッセージが発行され、STOPODBM コマンドは無視されます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: NSCH - HWSNSCH0

**HWSN2020W STOP ODBM COMMAND FAILED
DUE TO IMS CONNECT FAILED TO
GET STORAGE; ODBM=odbm, R=rc,
S=sc, M=mc**

説明: メッセージに示された Open Database Manager (ODBM) をクローズしようとして失敗しました。システムは、ODBM に対してクローズするように通知するためのストレージを割り振ることができませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

<i>odbm</i>	ターゲット ODBM の名前
<i>rc</i>	戻りコード
<i>sc</i>	サービス・コード。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
<i>mc</i>	メッセージの発行元のモジュール

表 48. HWSN2020 のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
GETFWEB	BPECBGET。クローズすることを ODBM に通知するために、FWE を獲得するのに使用されるシステム・サービス。	4	誤った CBTE アドレスが CB 取得ルーチンに渡されている。この問題は、内部システム・エラーです。
		8	ストレージが不足なので、要求を満たすことができません。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: エラーが再発する場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびメモリー・ダンプを提出してください。

モジュール: DSCM - HWSO1101W

**HWSN2030W FWE FUNCTION=func; FAILED FOR
DS=odbm, COMMAND=hwscmd IN
PROGRESS; M=mc**

説明: *hwscmd* で示されたコマンドが既に処理中であるため、機能 *func* は処理できない場合があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

<i>func</i>	要求先の機能の名前
<i>odbm</i>	ターゲット ODBM の名前
<i>hwscmd</i>	処理中の IMS Connect コマンド
<i>mc</i>	メッセージの発行元のモジュール

システムの処置: このメッセージが発行され、可能な限り、機能の要求者に通知されます。その他の場合は、FWE は解放されます。どのような場合も IMS Connect は実行を続けます。

システム・プログラマーの応答: 進行中の IMS Connect コマンドが ODBM を終了中です。したがって、その ODBM に関する新機能はいずれも処理できません。

モジュール: DSCM - HWSO1101W

**HWSO1100W FAILED TO OBTAIN FREE
STORAGE; R=rc, B=bn, M=mc**

説明: IMS Connect OTMA ドライバーが内部バッファ用のフリー・ストレージを取得できません。

- *rc* は、戻りコードを識別します。
- *bn* は、バッファ名を識別する。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: このエラーは、処理を完了するのに必要なストレージが十分に取得できないときに起こる可能性があります。問題が解決しない場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

**HWSO1101W FAILED TO RELEASE STORAGE;
R=rc, B=bn, M=mc**

説明: IMS Connect OTMA ドライバーが、内部バッファ用のストレージを解放できません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *rc* は、戻りコードを識別します。
 - FST4 = 無効なバッファ
- *bn* は、バッファ名を識別する。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

HWSO1105W • HWSO1115W

システム・プログラマーの応答: これはおそらく内部エラーです。問題報告データベースを検索して、問題の修正を探してください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

HWSO1105W GETMAIN FOR OTOKEN + IXCQUERY CONTROL BUFFER FAILED; R=rc, S=sc, M=mc

説明: OTOKEN バッファのストレージを割り振ることができませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *rc* は、戻りコードを識別します。
- *sc* は、サービス・コードを識別します。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 49. HWSO1105W のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
GETOTOKN	BPEGETM。OTOKEN を獲得するのに使用されるシステム・サービス。	4	正しくないサブプールまたはサポートされないサブプールが指定されている。
		8	長さゼロが要求されている。
		12	要求されたストレージを取得できません (z/OS GETMAIN が失敗)。

システム・プログラマーの応答: これはおそらくストレージ・エラーです。IMS Connect の領域サイズが十分であることを確認してください。エラーが再発する場合

は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

モジュール: DDXR - HWSDDXRG

HWSO1110W IXCQUERY FAILED FOR OTMA SYSPLEX ENVIRONMENT; R=rc, S=sc, M=mc

説明: OTMA シスプレックス環境情報を照会しようとして (REQINFO=SYSPLEX) 失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *rc* は、戻りコードを識別します。
- *sc* は、理由コードを識別します。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

戻りコードおよび理由コードについては、「z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Reference」を参照してください。

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 50. HWSO1110W のサービス・コードおよび戻りコードの説明

グループ名	メンバー名	戻りコード (10 進数)	理由コード (10 進数)
			「z/OS MVS プログラミング: シスプレックス・サービス解説書」を参照してください。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: 「z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Reference」および「z/OS MVS プログラミング: シスプレックス・サービス解説書」を参照してください。該当する処置を取ってください。

モジュール: DDXR - HWSDDXRG

HWSO1115W XCF FUNC=func, ERROR FOR OTMA SYSPLEX ENVIRONMENT; DS=did, R=rc, S=sc, M=mc

説明: メッセージで示されているデータ・ストアについ

て XCF 呼び出しの機能がエラーにより終了しました。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *func* は、機能 (送信または受信) を識別します。
- *did* は、データ・セットを識別します。
- *rc* は、XCF 戻りコードを識別します。
- *sc* は、XCF 理由コードを識別します。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

戻りコードおよび理由コードについては、「z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Reference」を参照してください。

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 51. HWSO1115W のサービス・コードおよび戻りコードの説明

グループ名	メンバー名	戻りコード (10 進数)	理由コード (10 進数)
			「z/OS MVS プログラミング: シスプレックス・サービス解説書」を参照してください。

システムの処置: このメッセージは、IMS との間の送信または受信が行われるときに発行されます。接続は失われます。

システム・プログラマーの応答: 「z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Reference」および「z/OS MVS プログラミング: シスプレックス・サービス解説書」を参照してください。適切な処置を取って、問題を訂正します。

モジュール: DXMT - HWSDDXMT、DXRC - HWSDDXRC

HWSO1120W XCF FUNC=*func* TRANSMIT XCF ENVIRONMENT ERROR; DS=*did*, R=*rc*, S=*sc*, M=*mc*

説明: 指定されたデータ・ストアについて XCF 呼び出しの機能がエラーにより終了しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *func* は、機能 (送信または受信) を識別します。
- *did* は、データ・ストアを識別します。
- *rc* は、XCF 戻りコードを識別します。
- *sc* は、XCF 理由コードを識別します。

- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

戻りコードおよび理由コードについては、「z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Reference」を参照してください。

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 52. HWSO1120W のサービス・コードおよび戻りコードの説明

グループ名	メンバー名	戻りコード (10 進数)	理由コード (10 進数)
			「z/OS MVS プログラミング: シスプレックス・サービス解説書」を参照してください。

システムの処置: このメッセージは、IMS との間で送受信が行われるときに発行されます。指定されたデータ・ストアへの接続は終了します。

システム・プログラマーの応答: 「z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Reference」および「z/OS MVS プログラミング: シスプレックス・サービス解説書」を参照してください。該当する処置を取ってください。

モジュール: DXMT - HWSDDXMT、DXRC - HWSDDXRC

HWSO1205W GETMAIN FOR CTOKEN + IXCJOIN CONTROL BUFFER FAILED; R=*rc*, S=*sc*, M=*mc*

説明: CTOKEN + IXCJOIN バッファーストレージを割り振ることができませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *rc* は、戻りコードを識別します。
- *sc* は、サービス・コードを識別します。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 53. HWSO1205W のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
GETCTOKN	BPEGETM。CTOKEN を獲得するのに使用されるシステム・サービス。	4	正しくないサブプールまたはサブポートされないサブプールが指定されている。
		8	長さゼロが要求されている。
		12	要求されたストレージを取得できません (z/OS GETMAIN が失敗)。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: これはおそらくストレージ・エラーです。IMS Connect の領域サイズが十分であることを確認してください。エラーが再発する場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

モジュール: DDXO - HWSDDXOT

HWSO1210W IXCQUERY FAILED FOR
GROUP=group, MEMBER=tmember;
R=rc, S=sc, M=mc

説明: OTMA グループ情報を照会 (REQINFO=GROUP) しようとして失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- group* XCF グループ名。
- tmember* IMS XCF ターゲット・メンバー名。
- rc* 戻りコード。
- sc* サービス・コード。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
- mc* メッセージを発行したモジュール。

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 54. HWSO1210W のサービス・コードおよび戻りコードの説明

グループ名	メンバー名	戻りコード	理由コード
XCF グループ名	IMS の XCF メンバー名	「z/OS MVS プログラミング: シスプレックス・サービス解説書」を参照してください。	

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: 戻りコードを調べて、適切な処置を行ってください。

モジュール: DDXO - HWSDDXOT

関連資料:

 z/OS: IXCQUERY の戻りコードおよび理由コード

HWSO1215W XCF GROUP=group,
MEMBER=tmember IS NOT ACTIVE;
R=rc, S=sc, M=mc

説明: ターゲットの XCF メンバーがアクティブになっていません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *group* は、XCF グループ名を識別する。
- *tmember* は、IMS システムの XCF ターゲット・メンバー名を識別します。
- *rc* は、戻りコードを識別します。
- *sc* は、サービス・コードを識別します。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 55. HWSO1215W のサービス・コードおよび戻りコードの説明

グループ名	メンバー名	サービス・コード	戻りコード	意味
XCF グループ名	IMS XCF メンバー名	NOTACTV	4	ターゲット・メンバーがアクティブになっていません。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: ターゲット・メンバーの状況を確認して、ターゲット・メンバーを再始動します。

モジュール: DDXO - HWSDDXOT

HWSO1220W IXCJOIN FAILED FOR
GROUP=group, MEMBER=member;
R=rc, S=sc, M=mc

説明: XCF グループを結合しようとして失敗しました。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

group XCF グループ名。
member

IMS Connect の XCF メンバー名。
rc 戻りコード。
sc サービス・コード。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
mc メッセージを出すモジュール。

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 56. HWSO1220W のサービス・コードおよび戻りコードの説明

グループ名	メンバー名	戻りコード	理由コード
XCF グループ名	IMS Connect の XCF メンバー名	「z/OS MVS プログラミング: シスプレックス・サービス解説書」を参照してください。	

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: 「z/OS MVS プログラミング: シスプレックス・サービス解説書」を参照して、適切な処置を取ってください。

モジュール: DDXO - HWSDDXOT

関連資料:

 z/OS: IXCJOIN の戻りコードおよび理由コード

HWSO1305W CBGET FOR C512 BLOCK FAILED;
R=rc, S=sc, M=mc

説明: クライアント・ビッド・バッファのストレージを割り振ることができません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *rc* は、戻りコードを識別します。
- *sc* は、サービス・コードを識別します。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

戻りコードおよびサービス・コードの説明については、次の表を参照してください。

表 57. HWSO1305W のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
GETC512	BPECBGET。C512 を取得するのに使用されるシステム・サービス。	4	誤った CBTE アドレスが CB 取得ルーチンに渡されている。これは、内部システム・エラーです。
		8	ストレージが不足なので、要求を満たすことができません。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: これはおそらくストレ

ージ・エラーです。IMS Connect の領域サイズが十分であることを確認してください。エラーが再発する場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

モジュール: DDXC - HWSDDXC

HWSO1310W IXCMSSGO FAILED FOR CLIENT
BID GROUP=group, MEMBER=member;
R=rc, S=sc, M=mc

説明: IMS OTMA にクライアント・ビッドを送信しようとして失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

group XCF グループ名。
member

IMS Connect の XCF メンバー名。

rc 戻りコード。

sc サービス・コード。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。

mc メッセージを出すモジュール。

戻りコードおよび理由コードの説明については、次の表を参照してください。

表 58. HWSO1310W の戻りコードと理由コード

グループ名	メンバー名	戻りコード	理由コード
XCF グループ名	IMS Connect の XCF メンバー名	「z/OS MVS プログラミング: シスプレックス・サービス解説書」を参照してください。	

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: 示された戻りコードおよび理由コードの考えられる原因については、「z/OS MVS プログラミング: シスプレックス・サービス解説書」を参照してください。

モジュール: DDXC - HWSDDXC

関連資料:

 z/OS: IXCMSSGO の戻りコードおよび理由コード

HWSO1315W IXCLEAVE FAILED FOR
GROUP=group, MEMBER=member;
R=rc, S=sc, M=mc

説明: XCF グループから離れようとして失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

group XCF グループ名。

member

IMS Connect の XCF メンバー名。

rc 戻りコード。

sc サービス・コード。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。

mc メッセージを出すモジュール。

戻りコードおよび理由コードの説明については、次の表を参照してください。

表 59. HWSO1315W の戻りコードと理由コード

グループ名	メンバー名	戻りコード	理由コード
XCF グループ名	IMS Connect の XCF メンバー名	「z/OS MVS プログラミング: シスプレックス・サービス解説書」を参照してください。	

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: 示された戻りコードおよび理由コードの考えられる原因については、「z/OS MVS プログラミング: シスプレックス・サービス解説書」を参照してください。

モジュール: DDXC - HWSDDXC

関連資料:

 z/OS: IXCLEAVE の戻りコードおよび理由コード

HWSO1320W CLIENT BID FAILED FOR
GROUP=group, MEMBER=member;
R=rc, RS=rs, S=sc, M=mc

説明: IMS OTMA とのクライアント・ビッドが失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

group XCF グループ名。

member

IMS Connect の XCF メンバー名。

rc 戻りコード。

rs 理由コード。

sc サービス・コード。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。

mc メッセージを出すモジュール。

サービス・コードおよび戻りコードとそれらの説明については、次の表を参照してください。

表 60. HWSO1320W のサービス・コードおよび戻りコードの説明

グループ名	メンバー名	サービス・コード	戻りコード	意味
XCF グループ名	IMS Connect の XCF メンバー名	CBERROR	OTMA C/I 戻りコード	これはクライアント・ピット・エラーです。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: 指定された戻りコードの考えられる原因については、OTMA C/I 戻りコードを参照してください。

モジュール: DDXC - HWSDDXCN

関連資料:

 NAK メッセージの OTMA センス・コード (メッセージおよびコード)

HWSO1325W RACROUTE REQUEST=TOKENXTR FAILED FOR R=*rc*, S=*sc*, M=*mc*

説明: IMS Connect アドレス・スペース ID (ASID) の UTOKEN を抽出しようとして失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *rc* は、SAF 戻りコードを識別します。詳しくは、「RACROUTE macro reference for z/OS」を参照してください。
- *sc* は、サービス・コードを識別します。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

戻りコードおよび理由コード (10 進数): 「RACROUTE macro reference for z/OS」を参照してください。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: 指定された戻りコードおよび理由コードの考えられる原因については、「RACROUTE macro reference for z/OS」を参照してください。

モジュール: DDXC - HWSDDXCN

HWSO1330W CASCADE=Y SPECIFIED FOR DATASTORE=*did*, BUT DATASTORE DOES NOT SUPPORT CASCADE; M=*mc*

説明: z/OS イメージ (LPAR) 間でのグローバル 2 フェーズ・コミット (synclevel=syncpoint) トランザクションのカスケードをサポートするために、示されたデータ・ストアへの接続が IMS Connect で定義されています。しかし、IMS データ・ストアのバージョンが、グローバル 2 フェーズ・コミット・トランザクションのカスケードをサポートしていません。

このメッセージが発行されるのは、IMS Connect と IMS が異なる LPAR 上にある場合のみです。IMS Connect と IMS が同じ LPAR 上にある場合、synclevel=syncpoint トランザクションではカスケードのサポートは必要ありません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

did DATASTORE ステートメント上で IMS Connect に対して定義されているデータ・ストア・リソースの名前。

mc メッセージを発行したモジュール。

システムの処置: データ・ストアとの通信は確立されていますが、synclevel=syncpoint トランザクションはこのデータ・ストアによってサポートされず、IMS Connect によってリジェクトされます。

システム・プログラマーの応答: synclevel=syncpoint トランザクションのカスケードのサポートが必要な場合は、IMS データ・ストアを、synclevel=syncpoint トランザクションのカスケードをサポートするリリースにマイグレーションしてください。

モジュール: HWSDDXCN

関連タスク:

 IMS TM Resource Adapter から別の z/OS イメージ上の IMS システムへのグローバル・トランザクションのカスケード (コミュニケーションおよびコネクション)

関連資料:

 DATASTORE ステートメント (システム定義)

HWSP1400W IPV6 PROCESSING NOT ENABLED;
FUNC=fn, R=rc, S=sc, M=mc

説明: IMS Connect は、インターネット・プロトコル・バージョン 6 (IPV6) ソケットを取得できません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- fn* 機能コード。
- rc* 戻りコード。
- sc* サービス・コード。サービス・コードには、エラーを特定して識別するコード、または要求の完了に失敗した原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っています。
- mc* メッセージを出すモジュール。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は引き続き IPV4 のサポート付きで実行されます。

システム・プログラマーの応答: BPXPRMxx メンバーを調整して、IPV6 処理用に TCP/IP スタックを使用可能にします。詳しくは、IMS システム定義の情報を参照してください。

HWSP1402W SSL PROCESSING NOT ENABLED;
FUNC=fn, R=rc, S=sc, M=mc

説明: IMS Connect が SSL サポートを取得できません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- fn* 機能コード。
- rc* 戻りコード。
- sc* サービス・コード。サービス・コードには、エラーを特定して識別するコード、または要求の完了に失敗した原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っています。
- mc* メッセージを出すモジュール。

システムの処置: このメッセージが発行されます。SSL ソケットはクローズされます。IMS Connect は完全に実行を続けます。メッセージが SSL 環境初期設定中に発生した場合、ポートがクローズされることがあります。

システム・プログラマーの応答: z/OS の要件を満たしていることを確認します。

モジュール: HWSDDPN0、HWSLEPS0、HWSDDOTD

HWSP1405W FAILED TO OBTAIN FREE
STORAGE; R=rc, B=bn, M=mc

説明: IMS Connect OTMA は、内部バッファ用のフリー・ストレージを取得できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- rc* GETMAIN の失敗に対して z/OS から戻された戻りコード
- bn* バッファ名。
- mc* メッセージを出すモジュール

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: このエラーは、処理を完了するのに必要なストレージが十分に取得できないときに起こる可能性があります。問題が解決しない場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

関連資料:

 z/OS: GETMAIN の戻りコードおよび理由コード

HWSP1410W FAILED TO RELEASE STORAGE;
R=rc, B=bn, M=mc

または

FAILED TO RELEASE STORAGE; R=rc, B=bn, A=a, M=mc

説明: IMS Connect OTMA ドライバーが内部バッファ用のストレージをリリースできません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- rc* GETMAIN の失敗に対して z/OS から戻された戻りコード。
- bn* バッファ名。
- a* バッファのアドレス。
- mc* メッセージを出すモジュール

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: この問題はおそらく内部エラーです。問題報告データベースを検索して、問題の修正を探してください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびメ

モリー・ダンプを提出してください。

関連資料:

 z/OS: GETMAIN の戻りコードおよび理由コード

**HWSP1415E TCP/IP SOCKET FUNCTION CALL
FAILED; F=fn, R=rc, E=ec, M=mc,
ID=cn, IPvn=ip**

説明: IMS Connect TCP/IP ドライバーは、指定されたソケット機能を実行できません。このメッセージは、IMS Connect の通常の実行中に発行されます。HWSP1415I は、IMS Connect のシャットダウン中に発行されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

fn TCP/IP ソケット機能呼び出し。
rc TCP/IP 戻りコード。これは -1 (問題が発生したことを示す) または 0 です。
ec TCP/IP エラー・コード。
mc メッセージを出すモジュール。
cn クライアント名またはポート名。
n IP アドレス指定標準 (すなわち、IPv4 または IPv6)。
ip TCP/IP アドレス (該当する場合)。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: エラー・コード *ec* を調べて、問題の原因を判別します。「z/OS: 戻りコード (エラー)」を参照してください。

TCP/IP API マクロ呼び出しから生じた問題については、z/OS: ソケット戻りコード (ERRNO)を参照してください。

関連情報:

『HWSP1415I』

**HWSP1415I TCP/IP SOCKET FUNCTION CALL
FAILED; F=fn, R=rc, E=ec, M=mc,
ID=cn, IPvn=ip**

説明: IMS Connect TCP/IP ドライバーは、指定されたソケット機能を実行できません。HWSP1415E は、IMS Connect の正常実行中に発行されます。このメッセージは、IMS Connect のシャットダウン中に発行されます。

このメッセージの詳細については、HWSP1415E を参照してください。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect はシャットダウンを継続します。

関連情報:

『HWSP1415E』

**HWSP1420E PORT NUMBER CONTAINS
NON-NUMERIC VALUE; P=portid,
M=mc**

説明: IMS Connect TCP/IP ドライバーは、*portid* ストリングを数値に変換できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

portid IMS Connect 構成メンバー HWSCFGxx にある TCPIP ステートメントの PORT サブステートメントのポート ID。
mc メッセージを出すモジュール。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: IMS Connect 構成メンバー HWSCFGxx にある TCPIP ステートメントの PORT サブステートメントの数字が正しいか確認してください。問題を訂正し、IMS Connect を再始動してください。

HWSP1425E WAIT ECB FAILED; F=fn, C=pc, M=mc

説明: IMS Connect TCP/IP ドライバーで、操作が正常に実行されなかったことを示すイベント制御ブロック (ECB) 内のコードが検出されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

fn 実行された機能
pc IMS Connect によって設定された通知コード
mc メッセージを出すモジュール

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: 通知コードを確認して、考えられる原因を調べます。IMS Connect 通知コード情報を参照してください。このエラーはおそらく内部エラーです。問題報告データベースを検索して、問題の修正を探してください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

モジュール: HWSSDOTD、HWSSDCON、HWSSDDSC、HWSSDRCV、HWSSDTTD、HWSSDXM

関連資料:

➡ IMS Connect 通知コード (メッセージおよびコード)

HWSP1426E WAIT ECB FAILED; F=fn, C=pc, M=mc

説明: 無効な通知コードが IMS Connect に戻されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

fn 実行された機能
pc IMS Connect によって設定された通知コード
mc メッセージを出すモジュール

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: 通知コードを確認して、考えられる原因を調べます。IMS Connect 通知コード情報を参照してください。

モジュール: HWSSDOTD

関連資料:

➡ IMS Connect 通知コード (メッセージおよびコード)

HWSP1430E TCP/IP INTERNAL ERROR; F=fn, R=rc, E=ec, M=mc

説明: TCP/IP は指定されたソケット機能を実行できません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

fn TCP/IP ソケット機能呼び出し
rc TCP/IP 戻りコード
ec TCP/IP エラー・コード
mc メッセージを出すモジュール

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: 示された戻りコードおよびエラー・コードの考えられる原因については、「z/OS UNIX System Services」の情報を参照してください。

関連資料:

➡ z/OS: 戻りコード (エラー)

➡ z/OS: マクロ・アプリケーション・プログラミング・インターフェース

HWSP1435E SOCKET CLOSED; REQUEST MESSAGE INCOMPLETE; M=mc

説明: すべてのデータを受信する前に、TCP/IP ソケットがクローズしています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

mc メッセージを出すモジュール

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

クライアント・コードにより接続が終了し、IMS Connect はクライアントからデータを受信しなかったか、またはデータの一部を受信しました。このエラーは、TCP/IP 値に `SO_LINGER=Y,VALUE=0` または `SO_LINGER=NO` を指定した場合に発生する可能性があります。代わりに、`SO_LINGER=Y,VALUE=10` を指定してください。VALUE パラメーターは、0 以外の値にする必要があります。SO_LINGER= および VALUE= の詳細については、「z/OS UNIX System Services メッセージおよびコード」(SA88-8645) を参照してください。要求メッセージは廃棄されます。

関連資料:

➡ z/OS: GETSOCKOPT/SETSOCKOPT コマンド値

HWSP1440E INVALID LENGTH SPECIFIED IN MESSAGE PREFIX; L=ll, M=mc

または

INVALID LENGTH SPECIFIED IN MESSAGE PREFIX; L=ll, M=mc, ID=, IPvn=address

説明: メッセージ接頭語の長さフィールドに無効な値が含まれています。有効なメッセージの長さ値は 12 から 10,000,000 までであり、送信されているデータそのものと等しい必要があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ll メッセージ接頭語に指定された長さ。これは 12 バイトのメッセージ接頭語を含むメッセージ全体の長さです。
mc メッセージを出すモジュール。
id クライアント ID。
 アドレス

クライアント IP アドレス。このアドレスは、インターネット・プロトコル・バージョン 4 (IPv4) または IPv6 フォーマットです。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。要求メッセージは廃棄されます。

システム・プログラマーの応答: 問題が解決しない場合は、メッセージでクライアント ID とクライアント IP アドレスを調べて、問題を判別します。必要に応じて、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

HWSP1445E UNKNOWN EXIT IDENTIFIER SPECIFIED IN MESSAGE PREFIX; MSGID=msgid1/msgid2, M=mc

または

UNKNOWN EXIT IDENTIFIER SPECIFIED IN MESSAGE PREFIX; MSGID=msgid1/msgid2, M=mc, IPon=address

説明: メッセージ接頭語の MSGID ID に不明な ID が含まれています。ユーザー出口の INIT サブルーチンで出口の ID が IMS Connect に与えられます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

msgid1 メッセージ接頭語の EBCDIC MSGID。

msgid2 メッセージ接頭語の ASCII MSGID。

mc メッセージを出すモジュール。

アドレス

クライアント IP アドレス。このアドレスは、インターネット・プロトコル・バージョン 4 (IPv4) または IPv6 フォーマットです。

msgid1 または *msgid2* が部分的に読める場合は、メッセージが正しく作成されておらず、IRM_ID フィールドに ID の一部だけが入っている可能性があります。以下に例を示します。

- 余分な 4 バイトが IRM_ID の前にあると、次のいずれかのメッセージが表示されることがあります。

```
HWSP1445E Unknown EXIT identifier specified in message prefix; MSGID=(S
HWSP1445E Unknown EXIT identifier specified in message prefix; MSGID="+_1)"/($)*$AN
```

- IRM_ID の前の 4 バイトが欠落すると、次のいずれかのメッセージが表示されることがあります。

```
HWSP1445E Unknown EXIT identifier specified in message prefix; MSGID=PLE*(S
HWSP1445E Unknown EXIT identifier specified in message prefix; MSGID="+_1)"/PLE*(S)
```

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。要求メッセージは廃棄されます。

システム・プログラマーの応答: *msgid1* と *msgid2* が両方とも読めない場合は、次のいずれかの問題が発生した可能性があります。

1. メッセージが正しく作成されなかった。メッセージの IMS 要求メッセージ (IRM) ID が誤っている

か、または欠落しています。メッセージが正しく作成されていることを確認してください。

2. メッセージがクライアント定義の Secure Socket Layer (SSL) ポートで送信されたが、そのポートは IMS Connect に SSL ポートとして定義されなかった。

HWSP1450E MESSAGE CONTAINS INVALID LENGTH; SEG_NO=sn, APP_LL=al, TOTAL MSG LEN=tl, EXPECTED MSG LEN=el, C=clientid, M=mc

説明: 入力 OTMA メッセージに誤ったアプリケーション・データの長さが含まれています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

sn OTMA セグメント番号。

al OTMA セグメントにあるアプリケーション・データの長さ。

tl 指定された全体のメッセージの長さ。

el 予期されたメッセージの長さ。

clientid クライアント名。クライアント名が使用不可である場合、このフィールドにはブランクが含まれます。

mc メッセージを出すモジュール。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: 指定された値が正しいことを確認してください。

HWSP1455E MESSAGE CONTAINS INVALID LENGTH; AREA_LL=ar, APP_LL=al, M=mc

説明: 入力 OTMA メッセージに誤ったアプリケーション・データの長さが含まれています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ar 内部バッファ長。

al OTMA セグメントにあるアプリケーション・データの長さ。

mc メッセージを出すモジュール

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。要求メッセージは廃棄されます。

システム・プログラマーの応答: これは IMS Connect または IMS の内部エラーです。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびメモリー・ダンプを提出してください。

**HWSP1460E MISSING FIC IN OTMA PREFIX;
M=mc**

説明: 入力 OTMA メッセージの最初のセグメントに first-in-chain (FIC) フラグが含まれていません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

mc メッセージを出すモジュール

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: メッセージに FIC フラグが含まれていることを確認します。

**HWSP1465E MISSING LIC IN OTMA PREFIX;
SEG_NO=sn, M=mc**

説明: 入力 OTMA メッセージの最後のセグメントに last-in-chain (LIC) フラグが含まれていません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

sn セグメントの数

mc メッセージを出すモジュール

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: メッセージに LIC フラグが含まれていることを確認します。

**HWSP1470E LOADING EXIT FAILED; EXIT=msgid,
R=rc, M=mc**

説明: IMS Connect がユーザー出口のロードに失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *msgid* は、メッセージ接頭語の中の MSGID (出口名) を識別します。
- *rc* は、z/OS ロード障害について z/OS から返される戻りコードを識別します。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: このメッセージは、ロードに失敗したユーザー出口ごとに発行されます。少なくとも 1 つのユーザー出口が正しくロードした場合、IMS Connect は継続して実行します。しかし、ロードに失敗した出口は IMS Connect で使用できません。

ユーザー出口がすべてロードに失敗した場合、IMS Connect は継続して実行するが、TCP/IP 通信は確立されません (HWSS0785W を参照)。

システム・プログラマーの応答: 有効な戻りコードを戻

す出口がなかったために TCP/IP 通信の確立に失敗した場合、CLOSEHWS を実行して IMS Connect を終了してください。

戻りコードを調べて問題を解決した後、IMS Connect を再始動して、出口 (複数可) を再ロードしてください。

関連情報:

488 ページの『HWSS0785W』

**HWSP1475E EXIT EXECUTION FAILED;
EXIT=msgidmsgid, F=fn, R=rc, M=mc**

説明: INIT または TERM 機能の実行のために IMS Connect によって呼び出されたときに、ユーザー出口が誤った戻りコードを IMS Connect に戻しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *msgid* は、メッセージ接頭語の中の MSGID (出口名) を識別します。
- *fn* は、失敗した機能を識別する。
- *rc* は、z/OS ロード障害について z/OS から返される戻りコードを識別します。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: このメッセージは、誤った戻りコードを戻すユーザー出口ごとに発行されます。少なくとも 1 つの出口が有効な戻りコードを戻した場合、IMS Connect は継続して実行します。しかし、障害のある出口は IMS Connect で使用できません。

ユーザー出口がすべて無効な戻りコードを戻した場合、IMS Connect は継続して実行するが、TCP/IP 接続は確立されません (HWSS0785W を参照)。

システム・プログラマーの応答: 戻りコードと機能名を出口の所有者に渡して、問題を解決してください。

有効な戻りコードを戻す出口がなかったために TCP/IP 通信が確立されない場合、CLOSEHWS を実行して IMS Connect を終了してください。

関連情報:

488 ページの『HWSS0785W』

**HWSP1480E CONFLICT IDENTIFIERS RETURNED
FROM EXIT; EXIT1=en1, EXIT2=en2,
M=mc**

説明: 同じ出口名を使用する複数のユーザー出口が、HWSCFGxx 構成メンバーにある TCP/IP ステートメントの EXIT サブステートメントの中で定義されています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *en1* は、最初の出口名を識別します。
- *en2* は、2 番目の出口名を識別します。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続しますが、TCP/IP の通信機能はいずれも正しく作動しません。

システム・プログラマーの応答: EXIT1 と EXIT2 の所有者に命名の問題を解決してもらい、HWSCFGxx にある EXIT サブステートメントの出口名を訂正してから、IMS Connect をシャットダウンし、再始動してください。

HWSP1485E PASSING TO TCP/IP ASYNC

FAILED; F=*fn*, R=*rc*, E=*ec*, M=*mc*,
ID=*cn*, IP=*ip*

説明: TCP/IP は、非同期機能処理の要求をリジェクトします。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

<i>fn</i>	TCP/IP ソケット機能呼び出し
<i>rc</i>	TCP/IP 戻りコード
<i>ec</i>	TCP/IP エラー・コード
<i>mc</i>	メッセージを出すモジュール
<i>cn</i>	クライアント名またはポート名
<i>n</i>	IP アドレス指定標準 (すなわち、IPv4、IPv6)
<i>ip</i>	TCP/IP アドレス (該当する場合)

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: 示された戻りコードおよびエラー・コードの考えられる原因については、関連するリリースの「z/OS UNIX システム・サービス メッセージおよびコード」(SA88-8645) を参照してください。

関連資料:

 z/OS: 戻りコード (エラー)

 z/OS: マクロ・アプリケーション・プログラミング・インターフェース

HWSP1490E INVALID OTMA SEQUENCE

NUMBER; Seg=*gn*, SEQ=*qn*, C=*cn*,
M=*mc*

説明: クライアントから入った要求メッセージ、またはユーザー出口で生成された要求メッセージの OTMA 接頭部に、無効なシーケンス番号が含まれています。シーケンス番号は、セグメント番号と一致する必要があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *gn* は、セグメント番号を識別する。
- *qn* は、シーケンス番号を識別する。
- *cn* は、クライアント名を識別する。クライアント名が利用不能である場合は、ブランクが入れられます。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: ありません。要求メッセージは廃棄されます。

HWSP1495E PROTOCOL VIOLATION; R=*rc*, C=*cn*,

DS=*ds*, M=*mc*

説明: IMS Connect が ACK/NAK 応答を待っている間に入力メッセージを受信しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *rc* は、戻りコードを識別します。
- *cn* は、クライアント名を識別する。クライアント名が利用不能である場合は、ブランクが入れられます。
- *ds* は、データ・ストア名を識別します。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は IMS に NAK を送信します。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

要求メッセージはリジェクトされます。

モジュール: SDRC - HWSSDRCV

HWSP1500E SECURITY VIOLATION; R=*rc*, C=*cn*,

U=*un*, RACFRC=*rrc* RACFS=*rrs*, M=*mc*

説明: クライアントまたはユーザー・メッセージ出口ルーチンからのユーザー ID およびパスワードに対する RACF 検証が失敗しました。ユーザー ID およびパスワードは、要求メッセージの OTMA 接頭部のユーザー・データ・セクションに含まれていました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- rc* System Authorization Facility (SAF) 戻りコード。
- cn* クライアント名。クライアント名が利用不能である場合は、ブランクが入れられます。
- un* ユーザー名。ユーザー名が利用不能である場合は、ブランクが入れられます。

HWSP1501I • HWSP1504I

rrc RACF 戻りコード。
rrs RACF 理由コード。
mc メッセージを出すモジュール。

戻りコード (10 進数): $R=rc$ 、 $RACFRC=rrc$ 、および $RACFS=rrs$ 値については、「RACROUTE REQUEST=VERIFY macro reference for z/OS」を参照してください。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: ユーザー ID とパスワード、PassTicket、およびグループ名が有効であり、正しい権限を持っていることを確認します。システム・セキュリティ管理者に確認して必要な変更を実行します。

モジュール: SDRC - HWSSDRCV、PCRC - HWSPCRCV

関連資料:

 z/OS: RACF RACROUTE REQUEST=VERIFY の戻りコードおよび理由コード

HWSP1501I RACF USERID CACHING {ENABLED | DISABLED},M=xxxx

説明: IMS Connect は、RACF ユーザー ID キャッシュを使用可能または使用不可にするコマンドを正常に処理しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxx メッセージを発行したモジュールの 4 文字の名前。

システムの処置: 通常の処理が続けられます。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: HWSCHWS0、HWSCUPD0、および HWSCUPR0

HWSP1503E SECURITY VIOLATION, NO RACROUTE CALL; R=rc, C=clientid, U=userid, M=mc

説明: IMS Connect が、ユーザー ID またはパスワードのセキュリティ入力データをリジェクトしました。RACF=Y が指定されていましたが、ユーザー作成の出口から IMS Connect にユーザー ID またはパスワードが渡されていませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *rc* は、IMS Connect からの戻りコードを識別します。

- 255 - OTMA セキュリティー・ヘッダーがありません。IMS Connect セキュリティー検査を行うことができません。
- 252 - 無効なセキュリティ・ヘッダーの長さ。セキュリティ・ヘッダー長が X'6A' より小さく、セキュリティ・パラメーターが欠落しています。
- 248 - パスワードがありません (注 1 を参照)。
- 244 - ユーザー ID がありません (注 2 を参照)。
- 242 - ユーザー ID、グループ名、またはパスワード・フィールドに無効文字が検出されました。
- 240 - パスワードとユーザー ID がありません (注 3 を参照)。
- *clientid* は、クライアント ID を識別します。
- *userid* は、ユーザー ID を識別します。
- *mc* は、このエラー・メッセージを出すモジュールを示します。

注:

1. IMS 要求メッセージ (IRM) にパスワードがありませんが、ユーザー ID が IRM にあります。または、IRM にパスワードやユーザー ID がありませんが、IMS Connect 構成ファイルにデフォルトのユーザー ID があります。
2. IRM にユーザー ID がなく、IMS Connect 構成ファイルにデフォルトのユーザー ID がありません。
3. IRM にパスワードまたはユーザー ID がなく、IMS Connect 構成ファイルにデフォルトのユーザー ID がありません。

システムの処置: 要求メッセージはリジェクトされません。IMS Connect は実行を続けます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題が続く場合は、有効なセキュリティ・データを渡すようにユーザー出口を訂正します。

モジュール: SDRC - HWSSDRCV、PCRC - HWSPCRCV

HWSP1504I RACF USERID *uidname* WAS SUCCESSFULLY REFRESHED,M=xxxx

説明: IMS Connect は、RACROUTE REQUEST=VERIFY コマンドを使用して、指定された RACF ユーザー ID のキャッシュ・データを正常にリフレッシュしました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

uidname

RACF ユーザー ID。

xxxx メッセージを発行したモジュールの 4 文字の名前。

システムの処置: IMS Connect は、更新された RACF ユーザー ID 情報を使用して通常の処理を続行します。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: HWSCUPR0

**HWSP1505E NEGATIVE SEGMENT LEN; SEG
LEN=1111, R=rc, M=mc**

説明: データ・セグメントのいずれかに無効なセグメントの長さ (長さが負) が入っています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- 1111 は、メッセージ・セグメント内の長さ値を示します。
- rc は、XCF 戻りコードを識別します。
- mc は、このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: 要求メッセージはリジェクトされます。このメッセージは、負のセグメントの長さをクライアントから受け取ったときに発行されます。接続はクローズされます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DRCV - HWSSDRCV

**HWSP1506I RACF USERID uidname NOT FOUND,
M=xxxx**

説明: 要求された RACF ユーザー ID *uidname* が IMS Connect の RACF ユーザー ID キャッシュになかったため、RACF ユーザー ID はリフレッシュされませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

uidname

WTOR コマンド REFRESH RACFUID または z/OS Modify コマンド UPDATE RACFUID で指定された RACF ユーザー ID 名。

xxxx メッセージを発行したモジュールの 4 文字の名前。

システムの処置: 通常の処理が続けられます。

ユーザーの処置: ユーザー ID のスペルを確認し、コマンドを再発行してください。

モジュール: HWSCUPR0

**HWSP1507E CONNECTION SECURITY ERROR;
C=clientid, U=userid, A=applid,
SAFRC=safrc, RACFRC=racfrc
RACFRSN=racfrsn, M=mc**

説明: *clientid* で示された接続のセキュリティー資格情報を認証または許可するための RACF に対する IMS Connect RACROUTE REQUEST 呼び出しが失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- clientid* 接続のクライアント ID を示します。
- userid* 認証および許可に使用されるユーザー ID。
- applid* 認証および許可に使用されるアプリケーション ID。
- safrc* SAF 戻りコードを識別します。
- racfrc* RACF 戻りコード。
- racfrsn* RACF 理由コード。
- mc* このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: IMS Connect はメッセージをリジェクトし、OTMA センス・コード 002A/0005 とともに NAK を戻します。OTMA は送達不能キュー HWS\$DLQ にメッセージを転送します。IMS Connect はソケット接続をクローズします。

システム・プログラマーの応答: 「z/OS Security Server RACROUTE マクロ解説書」で、RACROUTE REQUEST=VERIFY 呼び出しの RACF 戻りコードおよび理由コードを調べます。

送信側から渡されたセキュリティー資格情報が正しいことを確認します。IMS Connect のこのインスタンスがあるシステムの RACF セキュリティー定義が正しいことを確認してください。

モジュール: MSCX - HWSMSCX0, OTMX - HWSOTMX0

関連資料:

 z/OS: RACF RACROUTE REQUEST=VERIFY の戻りコードおよび理由コード

関連情報:

 002A (メッセージおよびコード)

**HWSP1510E AN ERROR OCCURRED
PROCESSING THE OUTBOUND
MESSAGE; THE MESSAGE WAS
REROUTED TO THE DEAD LETTER
QUEUE queueName; M=mc**

説明: IMS Connect が、アウトバウンド・メッセージ処理中にエラーを検出しました。IMS Connect は、

OTMA にアウトバウンド・メッセージに対する否定応答 (NAK) を発行して、デッド・レター・キューに転送しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

queuename

メッセージの転送先となったキュー

mc

メッセージを出すモジュール

システムの処置: アウトバウンド・メッセージはデッド・レター・キューに転送されます。IMS Connect は実行を続けます。

システム・プログラマーの応答: このメッセージの前に、IMS Connect は、エラーを示す別のエラー・メッセージを発行しました。IMS Connect がアウトバウンド・メッセージをデッド・レター・キューに転送したのは、メッセージがリカバリー可能でないためです。前のメッセージを確認して、問題を解決します。

モジュール: HWSSXMT0

HWSQ2200E IMS CONNECT RECEIVED THE ERROR RESPONSE FROM ODBM=*odbmname*; R=*rc*, S=*rsn*, M=*mc*

または

IMS CONNECT WAS UNABLE TO PROCESS THE ERROR RESPONSE FROM ODBM=*odbmname*; R=*rc*, S=*rsn*, M=*mc*

説明: IMS Connect は、Open Database Manager (ODBM) からエラー応答メッセージを受け取り、これを処理できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

odbmname

ODBM の名前

rc

戻りコード

rsn

理由コード

mc

メッセージを出すモジュール

システムの処置: IMS Connect は実行を続けます。

システム・プログラマーの応答: この問題はおそらく内部エラーです。問題報告データベースを検索して、問題の修正を探してください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびメモリー・ダンプを提出してください。

モジュール: NXRC - HWSNDXRC

HWSQ2205E IMS CONNECT WAS UNABLE TO PROCESS THE CSLDMI ERROR RESPONSE FROM ODBM=*odbmname*; R=*rc*, S=*rsn*, M=*mc*

説明: IMS Connect は、Open Database Manager (ODBM) から CSLDMI エラー応答メッセージを受け取り、これを処理できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

odbmname

ODBM の名前

rc

ODBM CSLDMI からの戻りコード

rsn

ODBM CSLDMI からの理由コード

mc

メッセージを出すモジュール

システムの処置: IMS Connect は実行を続けます。

システム・プログラマーの応答: CSLDMI 戻りコードおよび理由コードを調べて、適切な処置を行ってください。問題が解決しない場合は、内部エラーが考えられます。問題報告データベースを検索して、問題の修正を探してください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびメモリー・ダンプを提出してください。

モジュール: NXRC - HWSNDXRC

関連資料:

 CSLDMI: ODBM アプリケーション・プログラム・インターフェース (システム・プログラミング API)

HWSQ2225E IMS CONNECT DID NOT RECEIVE THE DIRECTIVE PARMLIST FROM ODBM=*odbmname*, M=*mc*

説明: IMS Connect が、ディレクティブ・パラメーター・リストを含んでいない応答メッセージを Open Database Manager (ODBM) から受け取りました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

odbmname

ODBM の名前

mc

メッセージを出すモジュール

システムの処置: IMS Connect は実行を続けます。

システム・プログラマーの応答: この問題はおそらく内部エラーです。問題報告データベースを検索して、問題の修正を探してください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびメモ

モリー・ダンプを提出してください。

モジュール: NXRC-HWSNDXRC

HWSQ2230W FAILED TO OBTAIN STORAGE;

R=rc, S=sc, B=bn, M=mc

説明: The IMS Connect ODBM ドライバーが内部バッファ用のフリー・ストレージを取得できません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- rc* サービスの戻りコード。
- sc* サービス・コード。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。以下のコードはストレージ・サービスです。
- BPECBGET
 - BPEGETM
- bn* バッファ名。以下のコードはバッファ名です。
- CTOKEN は通信トークンのブロックを示します。
 - FWE は機能作業エレメントのブロックを示します。
 - HASTBL はハッシュ・テーブルのブロックを示します。
 - IMSA は IMS 別名のブロックを示します。
- mc* メッセージの発行元のモジュール。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: このエラーは、処理を完了するのに必要なストレージが十分に取得できないときに起こる可能性があります。問題が解決しない場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。原因が見つからない場合は、戻りコード、サービス・コード、バッファ名、およびバッファ・アドレスを記録して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

モジュール: NXMT - HWSNDXMT; NXOT - HWSNDXOT

HWSQ2235W FAILED TO RELEASE STORAGE;

R=rc, S=sc, B=bn, A=addr, M=mc

説明: The IMS Connect ODBM ドライバーが内部バッファ用のフリー・ストレージをリリースできません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- rc* サービスの戻りコード
- sc* サービス・コード。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。以下のコードはストレージ・サービスです。
- BPECBGET
 - BPEGETM
- bn* バッファ名。以下のコードはバッファ名です。
- CTOKEN: 通信トークンのブロック
 - FWE: 機能作業エレメントのブロック
 - HASTBL: ハッシュ・テーブルのブロック
 - IMSA: IMS 別名のブロック
- addr* バッファのアドレス
- mc* メッセージの発行元のモジュール

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: このエラーは、処理を完了するのに必要なストレージが十分に取得できないときに起こる可能性があります。問題が解決しない場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。原因が見つからない場合は、戻りコード、サービス・コード、バッファ名、およびバッファ・アドレスを記録して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびメモリー・ダンプを提出してください。

モジュール: NXMT - HWSNDXMT

HWSQ2240W REGISTRATION TO ODBM

FAILED: MEMBER=odbmname; R=rc, S=sc, M=mc

説明: 指定された ODBM に IMS Connect ODBM ドライバーを登録できません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- odbm* ODBM の名前
- rc* サービスの戻りコード。
- sc* サービス・コード。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
- mc* メッセージの発行元のモジュール。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS

HWSQ2245W • HWSR0698W

Connect は実行を継続しますが、ODBM に使用可能な通信機能がありません。

システム・プログラマーの応答: 問題がなおも続く場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。原因が見つからない場合は、戻りコードおよびサービス・コードを記録して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびメモリー・ダンプを提出してください。

モジュール: NXOT - HWSNDXOT

HWSQ2245W DEREGISTRATION TO ODBM

FAILED: MEMBER=odbmname; R=rc, S=sc, M=mc

説明: 指定された ODBM から IMS Connect Open Database Manager (ODBM) ドライバーを登録抹消できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

odbm ODBM の名前
rc サービスの戻りコード。
sc サービス・コード。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
mc メッセージの発行元のモジュール。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: 問題がなおも続く場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見

つけてください。原因が見つからない場合は、戻りコードおよびサービス・コードを記録して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびメモリー・ダンプを提出してください。

モジュール: NXCN - HWSNDXCN

HWSQ2255W THE ODBM IS NOT AVAILABLE:

MEMBER=odbmname; STATE=s, M=mc

説明: *odbmname* という ODBM に要求が送信されましたが、状態が *s* であるため、その ODBM は使用できません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

odbm ODBM の名前
s ODBM の状態。状態には次のものがあります。

- DISC
- TERM

mc メッセージの発行元のモジュール

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。IMS Connect は否定応答をクライアントに発行します。

システム・プログラマーの応答: 状態が DISC である場合は、IMS Connect コマンドの STARTOD を発行して、ODBM との接続を開始してください。

状態が TERM である場合は、メッセージに示される ODBM を再始動してください。

モジュール: NXMT - HWSNDXMT

HWS メッセージ HWSR0001 - HWSX2000

ここでは、次のメッセージについて説明します。

HWSR0653I PROTECTED CONVERSATION PROCESSING WITH RRS/MVS ENABLED M=mc

説明: RRS と通信し、再開しようとする試みが成功しました。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

モジュール: RRSI - HWSRRSIO

HWSR0698W PROTECTED CONVERSATION PROCESSING NOT ENABLED FUNC=fn; R=rc, S=sc, M=mc

説明: z/OS リソース・リカバリー・サービス (RRS) と通信しようとして失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *fn* は、発行された RRS 呼び出しを識別する。
- *rc* は、RRS 戻りコードを識別します。
- *sc* は、発行された RRS 呼び出しを識別します。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: RRS が正しく立ち上げられたことを確認します。エラーが再発する場合は、

問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

モジュール: RRSI - HWSRRSIO

関連資料:

 z/OS: z/OS 呼び出し可能リソース・リカバリー・サービス

**HWSR0800E FUNCTION WORK ELEMENT
PROCESSING FAILURE, FUNC=func;
R=rc, S=sc, M=mc**

説明: 機能作業エレメント (FWE) を処理できません。FWE は、コンポーネント間の作業およびコンポーネント内の作業を要求します。この構造には、処理の際にサービスが必要とする機能とパラメーターが入っています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *func* は、要求された機能を識別します。
- *rc* は、戻りコードを識別します。
- *sc* は、サービス・コードを識別します。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 61. HWSR0800E のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
INVFUNC	FWE で要求された機能が正しくない。	4	これは処理エラーです。

システムの処置: このメッセージが発行され、可能な限り、機能の要求者に通知されます。その他の場合は、FWE は解放されます。どのような場合も IMS Connect は実行を続けます。

システム・プログラマーの応答: この問題はおそらく内部エラーです。問題報告データベースを検索して、問題の修正を探してください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

い。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびメモリー・ダンプを提出してください。

モジュール: HWSRCDR0

**HWSR0810E STORAGE ALLOCATE FAILED FOR
RECORDER DCB; R=rc, S=sc, M=mc**

説明: レコーダー・データ・セット DCB 制御ブロックのストレージ割り振りが失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *rc* は、戻りコードを識別します。
- *sc* は、サービス・コードを識別します。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 62. HWSR0810E のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
GETDCB	BPEGETM、CTOKEN を獲得するのに使用されるシステム・サービス。	4	正しくないサブプールまたはサポートされないサブプールが指定されている。
		8	長さゼロが要求されている。
		12	要求されたストレージを取得できません (z/OS GETMAIN が失敗)。

システムの処置: システムは操作を続けますが、入力または出力メッセージのロギングは行われなくなります。

システム・プログラマーの応答: IMS Connect アドレス・スペースを実行するには、さらにストレージが必要です。

モジュール: HWSRCDR0

HWSR0820E DCB OPEN FAILED FOR RECORDER DATASET; R=rc, S=sc, M=mc

説明: レコーダー・データ・セット DCB に対する DCB オープンが失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *rc* は、OPEN 要求から戻された戻りコードを識別します。
- *sc* は、サービス・コード DCBOPEN を識別します。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: このメッセージが発行され、レコーダー・データ・セットはクローズ状態に設定されます。

システム・プログラマーの応答: システム・プログラマー用の z/OS コンソールで、このエラー・メッセージの直前の行にあるエラー・メッセージを表示して、適切な処置を決定します。

モジュール: HWSRCDR0

HWSR0880I RECORDER OPENED; M=mc

説明: レコーダー機能が正常にオープンされました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: これで、レコーダーのデータ・セットがオープンされ、入力および出力メッセージ・テキストのロギングが開始されました。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: HWSRCDR0

HWSR0881I RECORDER ALREADY OPENED;

M=mc

説明: レコーダー・オープン・コマンドが発行されたが、レコーダー・トレースはすでにオープンしています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: レコーダー・オープン要求は無視されます。

モジュール: HWSCHWS0

HWSR0890I RECORDER CLOSED; M=mc

説明: レコーダー機能が正常にクローズされました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: これで、レコーダーのデータ・セットがクローズされ、入力および出力メッセージ・テキストのロギングが終了しました。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: HWSRCDR0

HWSR0891I RECORDER ALREADY CLOSED;

M=mc

説明: レコーダー・クローズ・コマンドが発行されたが、レコーダー・トレースはすでにクローズしています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: レコーダー・クローズ要求は無視されます。

モジュール: HWSCHWS0

HWSS0700E FUNCTION WORK ELEMENT PROCESSING FAILURE; FUNC=fn, R=rc, S=sc, M=mc

説明: 機能作業エレメント (FWE) を処理できません。FWE は、コンポーネント間の作業およびコンポーネント内の作業を要求します。この構造には、処理の際にサービスが必要とする機能とパラメーターが入っていません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *fn* は、要求された機能を識別します。
- *rc* は、戻りコードを識別します。
- *sc* は、サービス・コードを識別します。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 63. HWSS0700E のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
INVFUNC	FWE で要求された機能が正しくない。	4	これは処理エラーです。

システムの処置: このメッセージが発行され、可能な限り、機能の要求者に通知されます。その他の場合は、FWE は解放されます。どのような場合も IMS Connect は実行を続けます。

システム・プログラマーの応答: これはおそらく内部エラーです。問題報告データベースを検索して、問題の修正を探してください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

モジュール: SOCC - HWSSOCC0、SCVC - HWSSVC0

表 64. HWSS0712W のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
GETTWUB	BPECBGET。スケジューラー・コントローラー用のスレッド作業単位 (TWU) の獲得に使用されるシステム・サービス。	4	誤った CBTE アドレスが CB 取得ルーチンに渡されている。これは、内部システム・エラーです。
		8	ストレージが不足なので、要求を満たすことができません。
NOLOCAL	ローカル・ポートを開きます。	4	ローカルの portid が指定されていません。
OPENERR	ローカル通信メカニズムを確立する。	4	ローカル・メカニズムの初期設定が失敗しました。
SCHEDTWU	BPETHDCR。スケジューラー・コントローラー・スレッドをスケジュールするのに使用されるシステム・サービス。	4	誤ったディスパッチャー作業域が、スレッド作成ルーチンに渡されている。
		8	誤った TCB 索引値が TCBIIDX パラメーターに渡されている。
		12	ゼロのルーチン・アドレスが、ROUTINE= パラメーターに渡されている。

**HWSS0712W UNABLE TO START SCHEDULER CONTROLLER FOR PORT=portid;
R=rc, S=sc, M=mc**

説明: スケジューラー・コントローラー構造にストレージを割り振ることができないか、またはスケジューラー・コントローラー・スレッドをスケジュールできません。このコントローラーは、TCP/IP クライアントまたはローカル・クライアントの接続を処理します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- portid は、TCP/IP ポートまたはローカル・ポートを識別します。
- rc は、戻りコードを識別します。
- sc は、サービス・コードを識別します。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
- mc は、このメッセージを出すモジュールを示します。

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 64. HWSS0712W のサービス・コードおよび戻りコードの説明 (続き)

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
		16	誤った TCB 表エントリー・アドレスが、スレッド作成ルーチンに渡されている。 BPETHDCR マクロは、パラメーター TCBTYPE、TCBIDX、あるいは TCBDWA のいずれが指定されているかに基づいて、TCBT アドレスを判別する。このパラメーターが正しくコーディングされていることを確認してください。
		20	該当のスレッドのスレッド制御ブロック (THCB) 用のストレージを入手できません。
		24	該当のスレッド用のスタック・ストレージを入手できません。
		28	該当のスレッドの初期ポストが失敗しました。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続しますが、識別されたローカル・ポートの TCP/IP に使用可能な通信機能がありません。

システム・プログラマーの応答: IMS Connect を終了し、JCL ステートメント内の領域サイズを、IMS Connect 領域を収容するのに十分な大きさにします。IMS Connect を再始動します。エラーが再発する場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

モジュール: SOC3 - HWSSOC30

HWSS0714E UNABLE TO START A TCP/IP CLIENT ON PORT=portid; R=rc, S=sc, M=mc

説明: 会話コントローラー構造にストレージを割り当て

表 65. HWSS0714E のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
DUPESVT	このクライアントに対してクライアント ID (LUNAME) が重複して指定された。	4	2 つの異なるクライアントが同じユーザー ID を使用しています。

られないか、または会話コントローラー・スレッドをスケジュールできません。このコントローラーは、TCP/IP クライアントのための通信機能をスケジュールするものです。このエラーの原因は、IMS Connect 用に使用した領域サイズが小さすぎるか、処理エラーまたは内部システム・エラーのためです。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- portid は、TCP/IP ポートを識別します。
- rc は、戻りコードを識別します。
- sc は、サービス・コードを識別します。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
- mc は、このメッセージを出すモジュールを示します。

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 65. HWSS0714E のサービス・コードおよび戻りコードの説明 (続き)

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
GETSVTB	BPECBGET。TCP/IP クライアント・テーブル (SVT) を獲得するのに使用されるシステム・サービス。このテーブルは、接続された TCP/IP クライアントを表します。	4	誤った CBTE アドレスが CB 取得ルーチンに渡されている。これは、内部システム・エラーです。
		8	ストレージが不足なので、要求を満たすことができません。
GETTWUB	BPECBGET。会話コントローラ用のスレッド作業単位 (TWU) の獲得に使用されるシステム・サービス。	4	誤った CBTE アドレスが CB 取得ルーチンに渡されている。これは、内部システム・エラーです。
		8	ストレージが不足なので、要求を満たすことができません。
INCLOSE	IMS Connect がクローズ処理中です。IMS Connect との新しい接続は不可能。	12	これは処理エラーです。
SCHEDTWU	BPETHDCR。スケジューラ・コントローラ・スレッドをスケジュールするのに使用されるシステム・サービス。	4	誤ったディスパッチャー作業域が、スレッド作成ルーチンに渡されている。これは、システム・エラーです。
		8	誤った TCB 索引値が TCBIDX パラメーターに渡されている。これは、内部システム・エラーです。
		12	ゼロのルーチン・アドレスが、ROUTINE= パラメーターに渡されている。これは、内部システム・エラーです。
		16	誤った TCB 表エントリ・アドレスが、スレッド作成ルーチンに渡されている。BPETHDCR マクロは、パラメーター TCBTYPE、TCBIDX、あるいは TCBDWA のいずれが指定されているかに基づいて、TCBT アドレスを判別する。これは、内部システム・エラーです。
		20	該当のスレッドのスレッド制御ブロック (THCB) 用のストレージを入手できません。
		24	該当のスレッド用のスタック・ストレージを入手できません。

表 65. HWSS0714E のサービス・コードおよび戻りコードの説明 (続き)

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
		28	該当のスレッドの初期ポストが失敗しました。これは、内部システム・エラーです。
SHUT/STO		4	<p>新しいセッション接続の処理中に、IMS Connect は、以下の 2 つの状態のどちらかを検出しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> IMS Connect がシャットダウンの処理中である。 接続が行われているポートが停止されている (IMS Connect の STOPPORT コマンドの前に) <p>セッション接続要求は無視され、IMS Connect は処理を続行します (シャットダウンの場合は、終了します)。</p>

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: 次のいずれかの処置を取ってください。

- 問題内部システム・エラーによるものであって、IMS Connect を停止し、再始動しても、問題がさらに続く場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。
- 問題の原因がストレージ不足の場合は、次のいずれかを行ってください。
 - IMS Connect が、現在接続されている TCP/IP クライアントの実行を継続できるようにします。
 - TCP/IP クライアント接続の増加に適応するように IMS Connect 領域サイズを十分大きくして、IMS Connect を終了してから再始動します。

エラーが再発する場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

モジュール: SSC1 - HWSSSC10

説明: 指定されたクライアントを終了しようとして失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- portid は、ポートを識別します。
- clientid は、TCP/IP クライアントを識別する。
- rc は、戻りコードを識別します。
- sc は、サービス・コードを識別します。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
- mc は、このメッセージを出すモジュールを示します。

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

HWSS0727W TERMINATE FAILED FOR TCP/IP
 CLIENT=portid clientid; R=rc, S=sc,
 M=mc

表 66. HWSS0727W のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
NFNDSVT	検索値として <i>portid</i> と <i>clientid</i> を使用した TCP/IP クライアント・テーブル (SVT) を見つけることができません。このテーブルは、IMS Connect との TCP/IP クライアント接続を表します。	4	これは処理エラーです。

システムの処置: これはおそらく内部エラーです。問題報告データベースを検索して、問題の修正を探してください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

モジュール: SCCL - HWSSCCL0

HWSS0730W COMMAND=*command* FOR PORT=*portid* REJECTED, CLIENT(S) IN PROGRESS; M=*mc*

説明: IMS Connect のクライアントが現在このポートに対してスケジュールされているため、コマンドを用いてポートを終了させる処理ができません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *command* は、データ・ストアを識別します。
- *portid* は、ポートを識別します。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: このポートに対するすべてのアクティブなクライアントが非アクティブになった後に、コマンドをもう一度入力してください。VIEWPORT コマンドを使用して、ポートにおけるアクティビティを判別してください。

モジュール: SSTP - HWSSSTP0

HWSS0742W HWSS0742W MESSAGE FAILED, ORIGIN=*portid clientid* TO DESTID=*did*; R=*rc*, S=*sc*, M=*mc*

説明: IMS Connect は、ポート *portid* を介して必要なデータ・ストア宛先と通信している TCP/IP クライアント *clientid* から受信したメッセージを転送することができません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *portid* は、TCP/IP ポートを識別します。
- *clientid* は、TCP/IP クライアントを識別する。
- *did* は、データ・ストアを識別します。
- *rc* は、戻りコードを識別します。
- *sc* は、サービス・コードを識別します。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
- *mc* は、このメッセージを出したモジュールを示します。

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 67. HWSS0742W のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
CANCRTP	IMS が RESUME TPIPE を取り消したため、ACK を IMS に送信できません。	8	IMS が RESUME TPIPE を取り消したため、RESUME TPIPE 要求の結果として IMS Connect がクライアントに送信した出力に対する ACK 応答を、IMS に送信できません。この状況が発生するのは、ACKTO タイムアウトが発生したとき、または IMS オペレーターが IMS で TMEMBER/TPIPE を停止したときです。
DSCLOSE	すべてのデータ・ストアが非アクティブになっています。これは、IMS Connect をシャットダウンしている CLOSEHWS コマンドの結果として起こる場合があります。	12	これは処理エラーです。
DUPECLNT	重複したクライアント ID が検出されました。	8	クライアント ID は固有でなければなりません。
GETFWEB	BPECBGET。メッセージのキューイング用に FWE を獲得するために使用されるシステム・サービス。FWE はメッセージのキューイング構造として使用されます。	4	誤った CBTE アドレスが CB 取得ルーチンに渡されている。これは、内部システム・エラーです。
		8	ストレージが不足なので、要求を満たすことができません。
INVCNVCS	IMS Connect がエラーを検出しました。	60	次のいずれかの状態が検出されました。 <ul style="list-style-type: none"> 要求メッセージが共用可能な永続ソケットに宛てられていません。 要求メッセージが CM1 入力データではありません。 要求メッセージは廃棄されます。IMS はソケット接続および会話をそのまま残します。
INVCNVAK	IMS Connect がエラーを検出しました。	60	前の出力メッセージに関連する ACK/NAK メッセージに、IMS Connect と競合する可能性のある会話型トランザクション情報が含まれています。要求メッセージは廃棄されます。IMS はソケット接続および会話をそのまま残します。
INVLDCNV	入力メッセージに無効な会話型情報が含まれていました。	60	これは処理エラーです。

表 67. HWSS0742W のサービス・コードおよび戻りコードの説明 (続き)

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
INVLDSTA	無効な状態が検出されました。	8	IMS は、入力メッセージではなく、ACK、NACK、または割り振り解除を予期しています。
INVLDTOK	無効なサーバー・トークンが検出されました。	8	会話の反復に必要な正しいサーバー・トークンを使用してください。さもないと、最初のクライアントの会話中に 2 番目のクライアントが会話を開始するので、重複した ID を使用することになります。
LATEMSG	IMS Connect でタイムアウトになった後、またはソケットがクローズされた後、あるいは TCP/IP が終了された後で、IMS からのメッセージが受信されました。IMS Connect が IMS 出力を受け取る前に、ソケットがクローズされた可能性があります。	4	IMS からのメッセージは IMS Connect によって受信されましたが、クライアントには送信されませんでした。
MISMATCH	IMS Connect は、MSC TCP/IP リンクを介してリモート IMS Connect インスタンスから受信されたメッセージを配信できません。これは、この IMS Connect インスタンスに定義された MSC ステートメントの LCLIMS パラメーターに指定されている IMS ID と一致する宛先 IMS ID がメッセージに含まれていないためです。メッセージを送信したリモート IMS Connect インスタンスの MSC ステートメントの RMTIMS パラメーター、またはメッセージを受信したローカル IMS Connect インスタンスの MSC ステートメントの LCLIMS パラメーターに正しい IMS ID が指定されていることを確認します。	16	メッセージは配信できず、廃棄されます。
NCASCADE	IMS Connect のカスケード・グローバル・トランザクションに対するサポートが使用可能になっていないため、IMS Connect は、グローバル RRS トランザクション・メッセージを別の z/OS イメージ (LPAR) 上にある IMS TM データ・ストアに転送することができません。	4	

表 67. HWSS0742W のサービス・コードおよび戻りコードの説明 (続き)

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
NFNDCOMP	要求された機能を処理するコンポーネントが見つかりません。IMS Connect コンポーネントの 1 つが別のコンポーネントのサービスのインターフェース呼び出しを発行しましたが、要求されたコンポーネントが見つかりません。	4	これは処理エラーです。
NFNDDST	データ・ストア・テーブルが見つかりません。このテーブルは、データ・ストアのアクティビティーが維持されています。	4	これは処理エラーです。
NFNDFUNC	要求された機能が見つかりません。IMS Connect コンポーネントの 1 つが別のコンポーネントのサービスのインターフェース呼び出しを発行しましたが、要求されたサービスが見つかりません。	8	これは処理エラーです。
NFNDUOR	リカバリー単位の制御ブロックが見つかりません。	4	これは処理エラーです。
RRSNAVIL	問題が RRS で発生しました。	4	RRS フィードを確認します。また、IMS Connect 構成ファイルで RRS=Y が定義されていることを確認します。
SHUTDOWN	CLOSEHWS コマンドが発行されました。IMS Connect 終了の処理中です。	8	終了の処理中。
STP/CLSE	Datastore/IMSplex の停止またはクローズ処理中。	4	これは処理エラーです。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。進行中のメッセージがリリースされます。

システム・プログラマーの応答: 応答はサービス・コードによって異なります。

サービス・コード DSCLOSE、NFNDDST、および SHUTDOWN の場合、データ・ストアはアクティブでなくなったか、または IMS Connect に接続されなくなりました。データ・ストアが終了した理由、あるいは STOPDS コマンドが発行されたかどうかを調べてください。

サービス・コード DUPLNT および INVLDTOK の場合、IMS Connect 現在識別されているのと同じクライアント ID を使用して 2 番目のクライアントが IMS Connect に接続します。クライアントは、同じクライアント ID を使用して切断し、再接続した可能性があります。しかし、クライアントが IMS からの応答を待機し

て CONN 状態にあるため、IMS Connect は切断を認識しません。

サービス・コード INVLDST の場合、同期レベルが CONFIRM と定義されている場合に、クライアントが ACK/NAK 応答を送信するのに失敗しました。あるいは、クライアントが、IMS Connect に DEALLOCATE 要求を発行せずに、会話を初期状態のままにしました。

サービス・コード INVLDENV の場合、要求メッセージに IMS Connect と競合する可能性のある会話型ランザクション情報が含まれていました。コミット・モード 1 で共用可能な永続ソケットに宛てられていなかったか、会話が類似性を持つ同じデータ・ストアに接続しない IMS Connect に経路指定されていました。要求メッセージは廃棄されます。IMS はソケット接続および会話をそのまま残します。

モジュール: SRE4 - HWSSRE40

**HWSS0743I DUPLICATE CLIENT ID
TERMINATED, ORIGIN=portid
CID=clientid; R=rc, S=sc, M=mc**

説明: IRM_F3=IRM_F3_CANCLID (X'80') を設定することにより、クライアントは、同じポート ID の同じクライアント ID を持つ前のセッションの終了を要求しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- portid は、TCP/IP ポートを識別します。
- clientid は、TCP/IP クライアントを識別する。
- rc は、戻りコードを識別します。
- sc は、サービス・コードを識別します。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
- mc は、このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: IMS Connect は、セッションの前のインスタンスの状態に関係なく、STOP CLIENT コマンドを内部的に発行しました。新しいセッションが活動化されます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: HWSSREC0

**HWSS0746W UNABLE TO NOTIFY ORIGIN=portid
clientidOF MESSAGE FAILURE; R=rc,
S=sc, M=mc**

説明: IMS Connect は、IMS Connect が受信した要求メッセージまたは応答の処理中に発生したエラーについて、指定された TCP/IP クライアントに通知できません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- portid は、TCP/IP ポートを識別します。
- clientid は、TCP/IP クライアントを識別する。
- rc は、戻りコードを識別します。
- sc は、サービス・コードを識別します。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
- mc は、このメッセージを出すモジュールを示します。

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 68. HWSS0746W のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
GETFWEB	BPECBGET。メッセージのキューイング用に FWE を獲得するために使用されるシステム・サービス。FWE がキューイング構造として使用され、メッセージは、FWE のアンカーをオフにする。	4	誤った CBTE アドレスが CB 取得ルーチンに渡されている。これは、内部システム・エラーです。
		8	ストレージが不足なので、要求を満たすことができません。
GETC01K	BPECBGET。エラー・メッセージを作成するためのストレージを獲得するのに使用されるシステム・サービス。	4	誤った CBTE アドレスが CB 取得ルーチンに渡されている。これは、内部システム・エラーです。
		8	ストレージが不足なので、要求を満たすことができません。

表 68. HWSS0746W のサービス・コードおよび戻りコードの説明 (続き)

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
NFNDSVT	TCP/IP クライアント・テーブルが見つかりませんでした。このテーブルは、接続された TCP/IP クライアントのアクティビティを維持されています。	4	これは処理エラーです。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。処理中の要求または応答メッセージが廃棄されます。

システム・プログラマーの応答: このエラーは、処理を完了するのに必要なストレージが十分に取得できないときに起こる可能性があります。問題がなおも続く場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

モジュール: SRE4 - HWSSRE40

HWSS0748W FAILED TO OBTAIN FREE STORAGE ORIGIN=portid_clientid; R=rc, S=sc, M=mc

説明: IMS Connect は、ACK または NAK 肯定応答をデータ・ストアへ送信するためのバッファを獲得できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *portid* は、TCP/IP ポートを識別します。
- *clientid* は、TCP/IP クライアントを識別する。
- *rc* は、戻りコードを識別します。
- *sc* は、サービス・コードを識別します。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

サービス・コードおよび戻りコードとそれらの説明については、次の表を参照してください。

表 69. HWSS0748W のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
GETC01K	BPECBGET。ACK/NAK メッセージを作成するためのストレージを獲得するのに使用されるシステム・サービス。	4	ストレージが不足なので、要求を満たすことができません。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を続けます。ACK/NAK 肯定応答は、クライアント接続時に獲得される緊急バッファ内のデータ・ストアへ送信されます。

システム・プログラマーの応答: この問題は、おそらく一時ストレージ・エラーによるものです。問題が解決しない場合には、IMS Connect の領域サイズを調べて、その大きさが十分であるかどうか判断してください。

モジュール: SCCL-HWSSCCL0

HWSS0761I TCPIP COMMUNICATION WITH CLIENT=portid_clientid STOPPED; M=mc

説明: 指定された TCP/IP クライアントの通信が停止します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *portid* は、TCP/IP ポートを識別します。
- *clientid* は、TCP/IP クライアントを識別する。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: このメッセージは、STOPCLNT コマンドが有効になったときに発行されます。

モジュール: SCCM - HWSSCCM0

HWSS0762I LOCAL COMMUNICATION WITH CLIENT=cname STOPPED; M=mc

説明: 指定されたクライアントのローカル通信が停止しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *cname* は、クライアントを識別する。

- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: このメッセージは、Local オプション接続を使用するクライアントに対して STOPCLNT コマンドが有効になったときに発行されます。IMS Connect は実行を続けます。

モジュール: PCCM - HWSPCCM0

HWSS0763W LOCAL COMMUNICATIONS WITH CLIENT=*cname* CONNECTION FAILURE; R=*rc* S=*sc* M=*mc*

説明: IMS Connect クライアントが IMS Connect に接続できませんでした。詳しくはサービス・コード (*sc*) を参照してください。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *cname* は、クライアントを識別する。
- *rc* は、戻りコードを識別します。
- *sc* は、サービス・コードを識別します。サービス・コードは、エラーを特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードである可能性があります。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。進行中の応答がリリースされます。

システム・プログラマーの応答: これはおそらくストレージ・エラーです。IMS Connect の領域サイズが処理を完了するのに十分な大きさであることを確認してください。エラーが再発する場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正が存在しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

モジュール: PSCH - HWSPSCH0

HWSS0770I LISTENING ON PORT=*portid* TERMINATED; M=*mc*

説明: 指定されたポートとの通信が終了しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *portid* は、TCP/IP ポートを識別します。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: このメッセージは、listen がポートで終了したときに発行されます。

モジュール: SCCH - HWSSSCH0

HWSS0771W LISTENING ON PORT=*portid* FAILED; R=*rc*, S=*sc*, M=*mc*

説明: 指定されたポートでの listen を開始しようとして失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *portid* は、TCP/IP ポートを識別します。
- *rc* は、戻りコードを識別します。
- *sc* は、サービス・コードを識別します。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 70. HWSS0771W のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
COMMAND	接続が完了していません。	4	STOPCLNT、STOPPORT、または CLOSEHWS が、完了しなかった接続を終了しました。
ENVHANDL	接続が完了していません。	4	HWS 構成ファイルで SLENVAR が指定されていません。
GETMFAIL	接続が完了していません。	4	IMS Connect の内部 GETMAIN が失敗しました。
MAXSOC	ソケットの最大番号に達しました。	4	IMS Connect は、ソケットが使用可能になるまで入力を受け入れません。
SOCKFAIL	TCP/IP SOCKET 機能が失敗しました。	-1	TCP/IP からの戻りコード。TCP/IP の障害に関するメッセージ HWSP1415E を参照。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: 指定されたポートが IMS Connect で通信に使用できることを確認してください。エラーが再発する場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

モジュール: SSCH -HWSSSCH0

関連情報:

463 ページの『HWSP1415E』

HWSS0772W THE CURRENT NUMBER OF SOCKETS n ($p\%$) IS NEARING THE MAX SOCKETS LIMIT m , $M=mc$

説明: IMS Connect で使用されている現在のソケットの数が、IMS Connect 構成の MAXSOC= パラメーターに指定されている上限数に到達しています。このメッセージは、WARNSOC= パラメーターに指定されている警告レベルにソケット数が到達したときに最初に発行されます。その後は、WARNINC= パラメーターに指定されている増分の値の分だけソケット数が増えるごとに、このメッセージが発行されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- n 現在のソケット数
- $p\%$ ソケットの上限数に対する現在のソケット数の割合
- m ソケットの上限数
- mc メッセージを出すモジュール

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: 使用しているソケットの使用数を適宜、減らしてください。

HWSS0773I THE CURRENT NUMBER OF SOCKETS n ($p\%$) IS BELOW THE WARNING LEVEL $w\%$; $M=mc$

説明: 現在のソケット数は、ソケットの上限数に達した状態ではなくなりました。現在の数は、IMS Connect 構成メンバーの WARNSOC= パラメーターに指定されている警告レベルよりも減っており、リセット比率に達しています。リセット比率は、WARNSOC 値から WARNINC 値の 2 倍を減じた数と、WARNSOC 値から 5% 分を減じた数のうち、小さい方の数になります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- n 現在のソケット数

- $p\%$ ソケットの上限数に対する現在のソケット数の割合
- w 警告レベルの割合
- mc メッセージを出すモジュール

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

HWSS0775W UNABLE TO START PORT= $portid$; $R=rc$, $S=sc$, $M=mc$

説明: 指定されたポートをオープンしようとして失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- $portid$ は、TCP/IP ポートを識別します。
- rc は、戻りコードを識別します。
- sc は、サービス・コードを識別します。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
- mc は、このメッセージを出すモジュールを示します。

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 71. HWSS0775W のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
NFNDSCT	検索値として $portid$ を使用したポート・エントリー・テーブル (SCT) を見つけることができません。このテーブルは、IMS Connect に接続されているポートを表します。	4	これは処理エラーです。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: OPENPORT コマンドにあるポート名が正しいことを確認してください。エラーが再発する場合は、問題報告データベースを検索し

て、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

モジュール: SOCM - HWSSOCM0

**HWSS0776W ALREADY ACTIVE PORT=*portid*;
R=*rc*, S=*sc*, M=*mc***

説明: 指定されたポートをオープンしようとしたが、ポートがすでにオープンであるため、失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *portid* は、TCP/IP ポートを識別します。
- *rc* は、戻りコードを識別します。
- *sc* は、サービス・コードを識別します。サービス・コードには、エラーをより具体的に識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
- *mc* は、このメッセージを出したモジュールを示します。

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 72. HWSS0776W のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
ACTIVE	<i>portid</i> によって識別されたポートは、すでにアクティブです。	4	オペレーターはポートのオープンを試みましたが、ポートはすでにオープンされています。ポートは、処理に使用できません。処置は必要ありません。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。ポートは、処理に使用できます。

システム・プログラマーの応答: ポートは、処理に使用できます。処置は必要ありません。

モジュール: SOCC - HWSSOCC0

**HWSS0777W LISTENING ON PORT=*portnumber*
FAILED. THE ONLY AVAILABLE
SOCKETS ARE RESERVED;
MAXSOC=*maxsoc*, NUMSOC=*numsoc***

説明: 着信接続要求のためのソケットが使用可能でないため、IMS Connect はメッセージ・テキストで示されているポートで着信接続を listen できません。使用可能な唯一のソケットは、IMS Connect 間の通信用に予約済みです。ソケットが使用可能になると、IMS Connect は着信接続要求の listen を再開するか、またはすでにキューに入れられた着信接続要求の処理を続行します。

IMS Connect が IMS Connect 間の通信用に予約するソケットの数は、IMS Connect 構成メンバーの RMTIMSCON ステートメントの RESVSOC パラメーターに指定されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

portnumber

ポート番号。

maxsoc IMS Connect のこのインスタンスが同時にオープン状態で持つことができるソケットの最大数 (予約済みと予約なしの両方)。この数値は、IMS Connect 構成 PROCLIB メンバーの TCPIP ステートメントの MAXSOC パラメーターで定義されます。

numsoc IMS Connect のこのインスタンスが現在オープンしているソケットの総数。

mc メッセージを出すモジュール。

システムの処置: この IMS Connect に対するクライアント接続要求は、予約されていないソケットが使用可能になるまで保留されます。IMS Connect は引き続き正常に実行されます。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。ただし、今後このメッセージが発行される可能性を減らすには、RMTIMSCON ステートメントの RESVSOC パラメーターと TCPIP ステートメントの MAXSOC パラメーターのいずれか一方または両方の値を調整することができます。

メッセージ・テキストで *numsoc* 値が *maxsoc* 値に近い場合は、TCPIP ステートメントの MAXSOC 値を増やして、IMS Connect がより多くのソケットを使用できるようにします。

numsoc 値が *maxsoc* 値よりかなり小さい場合は、RMTIMSCON ステートメントの RESVSOC 値を減らして、IMS Connect 間の通信用に予約するソケット数を少なくします。

モジュール: SSCH - HWSSSCH0

**HWSS0780I TCPIP COMMUNICATION ON
HOSTNAME=hostnamemc OPENED;
M=mc**

説明: TCP/IP の通信機能が使用可能です。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *hostname* は、TCP/IP のホスト名を識別する。
 - *hostname* が TCP/IP ジョブ名の場合は、IMS Connect には、この TCP/IP ジョブ名で識別される単一トランスポート (TCP/IP スタック) との類似性があります。
 - *hostname* がブランクの場合は、IMS Connect は CINET 環境内にあるアクティブなトランスポート (TCP/IP スタック) を使用します。
 - *hostname* が HWS\$TCP の場合は、無効な TCP/IP ジョブ名が、TCP/IP 構成ステートメントの HOSTNAME キーワードに指定されています。IMS Connect は、CINET 環境内にあるアクティブなトランスポート (TCP/IP スタック) を使用します。
 - *hostname* が HWS\$TCP の場合は、システムが複数 TCPIP スタック環境 (CINET) で、無効な TCPIP スタック名が TCPIP 構成ステートメントの HOSTNAME= キーワードに指定されています。IMS Connect はデフォルトの TCPIP スタックに接続しました。
- 単一 TCPIP スタック環境 (INET) では、*hostname* は HWSCFG ファイルの HOSTNAME パラメーターの値ですが、これは IMS Connect の接続先 TCPIP スタックの名前でない可能性があります。INET 環境では、IMS Connect は、HOSTNAME パラメーターが何であるかに関係なく、使用可能な単一スタックに接続します。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: このメッセージは、IMS Connect の始動中、および TCP/IP 通信機能との通信が確立されたときに常に発行されます。

モジュール: SOC1 - HWSOC10

**HWSS0781I TCPIP COMMUNICATION
FUNCTION FAILED; M=mc**

説明: TCP/IP 用の通信機能が非アクティブになりました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: TCP/IP 通信機能との間の IMS Connect 通信の結合が解除されると、このメッセージが発行されます。

モジュール: SOCL - HWSOCL0

**HWSS0785W OPEN TCPIP COMMUNICATION
ON HOSTNAME=hostname FAILED;
R=rc, S=sc, M=mc**

説明: TCP/IP との通信を開始しようとして失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *hostname* は、TCP/IP のホスト名を識別する。
- *rc* は、戻りコードを識別します。
- *sc* は、サービス・コードを識別します。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: TCP/IP ホスト名が HWSCFGxx メンバーの中で正しく指定されているか、あるいは z/OS TCPIP 通信機能がアクティブになっているか確認してください。エラーが再発する場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

モジュール: SOC1-HWSOC10

**HWSS0790I LISTENING ON PORT=portid
STARTED; M=mc**

説明: 指定された TCP/IP ポートとの通信が開始されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *portid* は、TCP/IP ポートを識別します。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: このメッセージは、listen が TCP/IP ポートで開始されたときに発行されます。

モジュール: SDOT - HWSDDOTD

HWSSSL00E *timestamp* **UNABLE TO** *action*, **RC=rc**:
error
(IPv4|IPv6)=client_ip_address,
PORT=client_port, **CLIENTID=clientid**

説明: SSL でエラーが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *timestamp* は、このエラーが検出された時刻を識別します。言語環境 (LE) で指定された時間帯がない場合には、ストリング UTC と一緒に協定世界時 (UTC) が表示されます。
- *action* は、失敗した処置の名前を示します。
- *rc* は、戻りコードを識別します。
- *error* は、`gsk_strerror()` によって指定されたエラー・メッセージを識別する。
- *IPv4|IPv6* は、内部プロトコル・バージョンを識別します (32 ビット・アドレスの場合は IPv4、128 ビット・アドレスの場合は IPv6)。
- *client_ip_address* は、障害が起きたクライアントの IP アドレスを識別します。
- *client_port* は、クライアント・ポート番号を識別します。
- *clientid* は、障害が起きたクライアントを識別します。

このメッセージは 2 行から 3 行です。

システムの処置: このメッセージが発行されます。SSL ソケットはクローズされます。IMS Connect は完全に実行を続けます。メッセージが SSL 環境初期設定中 (`listen` するようにポートがセットアップされる場合) に発生した場合、ポートがクローズされることがあります。

このメッセージが RC=503 で発行され、処置が INITIALIZE SSL SOCKET または RETRY INITIALIZE SSL SOCKET の場合、このメッセージは警告です。503 戻りコードは、SSL ソケット上の READ が何もデータを返さなかったことを示します。SSL ハンドシェイク・プロセス中に、IMS Connect は、それが満足されるまで、またはクライアントがソケットをクローズするまで、READ の再試行を続けます。

システム・プログラマーの応答: この問題が初期設定エラーである場合、受け取ったエラー・メッセージに応じて SSL 入力ファイルを調べ、修正する必要があります。

モジュール: HWSSSL00

HWSSSL00I SSL DEBUG MESSAGE

説明: このメッセージは SSL デバッグ・メッセージに対応します。このメッセージは、DEBUG_SSL 変数をオンにした場合にのみ使用可能になります。メッセージ・テキストは、SSL 暗号化/転送処理または SSL 初期設定処理に関連します。

システムの処置: ありません。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: HWSSSL00

HWST3500I COMMUNICATIONS WITH REMOTE IMS CONNECT *rmtimscon* STARTED; M=*mc*

説明: *rmtimscon* で示された接続でリモートの IMS Connect インスタンスとの通信が開始しました。このメッセージは、IMS Connect の始動時または次のいずれかの IMS Connect コマンドが発行された後に接続が開始したときに発行されます。

- IMS タイプ 2 コマンド UPDATE IMSCON TYPE(RMTIMSCON) NAME(*rmtimscon_id*) START(COMM)
- WTOR コマンド STARTRMT
- z/OS MODIFY コマンド UPDATE RMTIMSCON NAME(*rmtimscon_id*) START(COMM)

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rmtimscon

IMS Connect 構成 PROCLIB メンバーの RMTIMSCON ステートメントの ID パラメーターで定義されたりリモートの IMS Connect インスタンスへの接続の ID。

mc

メッセージを出すモジュール。

システムの処置: IMS Connect はこのメッセージを発行し、引き続き正常に実行されます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: TSCH - HWSTSCH0

HWST3505I COMMUNICATIONS WITH REMOTE IMS CONNECT *rmtimscon* STOPPED; M=*mc*

説明: *rmtimscon* で示された接続でリモートの IMS Connect インスタンスとの通信が停止しました。このメッセージは、IMS Connect のシャットダウン時または次のいずれかの IMS Connect コマンドが発行された後

に接続が停止したときに発行されます。

- IMS タイプ 2 コマンド UPDATE IMSCON TYPE(RMTIMSCON) NAME(*rmtimscon_id*) STOP(COMM)
- WTOR コマンド STOPRMT
- z/OS MODIFY コマンド UPDATE RMTIMSCON NAME(*rmtimscon_id*) STOP(COMM)

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rmtimscon

IMS Connect 構成 PROCLIB メンバーの RMTIMSCON ステートメントの ID パラメーターで定義されたりモートの IMS Connect インスタンスへの接続の ID。

mc メッセージを出すモジュール。

システムの処置: IMS Connect は引き続き正常に実行されます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

通信を再開するには、次のいずれかのコマンドを発行します。

- IMS タイプ 2 コマンド UPDATE IMSCON TYPE(RMTIMSCON) NAME(*rmtimscon_id*) START(COMM)
- WTOR コマンド STARTRMT
- z/OS MODIFY コマンド UPDATE RMTIMSCON NAME(*rmtimscon_id*) START(COMM)

モジュール: TSCH0 - HWSTSCH0

HWST3510E COMMUNICATIONS WITH REMOTE IMS CONNECT *rmtimscon* FAILED TO START; R=*rc*, S=*sc*, M=*mc*

説明: *rmtimscon* で示された接続でリモートの IMS Connect インスタンスとの通信が開始に失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rmtimscon

IMS Connect 構成 PROCLIB メンバーの RMTIMSCON ステートメントの ID パラメーターで定義されたりモートの IMS Connect インスタンスへの接続の ID。

rc サービスの戻りコード。出される戻りコードとその意味は次のとおりです。

- 4 CTOKEN のストレージ取得エラー。HWST3510E の前に HWST3730 が発行されます。

- 8 IPv4 の BPX1GAI エラー。HWST3510E の前に HWST3700 が発行されます。
- 12 IPv6 の BPX1GAI エラー。HWST3510E の前に HWST3700 が発行されます。
- 16 BPX1FAI エラー。HWST3510E の前に HWST3700 が発行されます。

sc サービス・コード。
mc メッセージを出すモジュール。

考えられる原因: リモートの IMS Connect が使用不可であるか、または RMTIMSCON 構成ステートメントに指定された IP アドレスまたはホスト名が誤っている可能性があります。

システムの処置: IMS Connect はこのメッセージを発行し、引き続き正常に実行されます。

システム・プログラマーの応答: リモートの IMS Connect インスタンスが使用可能であり、正しいポート上で listen していることを確認します。

RMTIMSCON 構成ステートメントの IPADDR または HOSTNAME パラメーターに指定された値が正しいことを確認してください。

モジュール: TSCH - HWSTSCH0

HWST3515E IMS CONNECT CANNOT START THE SCHEDULER CONTROLLER FOR RMTIMSCON=*rmtimscon*; R=*rc*, S=*sc*, M=*mc*

説明: スケジューラー・コントローラー構造にストレージを割り振ることができないか、またはスケジューラー・コントローラー・スレッドをスケジュールまたは付加できませんでした。このコントローラーは、IMS Connect - IMS Connect 間の TCP/IP 接続を処理しません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rmtimscon

失敗した IMS Connect 間の接続。示された値は、IMS.PROCLIB データ・セットの IMS Connect 構成メンバーで接続を定義する RMTIMSCON 構成ステートメントの ID パラメーターに指定された値です。

rc サービスの戻りコード。
sc サービス・コード。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。

mc メッセージを出すモジュール。

表 73. HWST3515E のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
GETTWUB	BPECBGET。スケジューラ・コントローラ用のスレッド作業単位 (TWU) の獲得に使用されるシステム・サービス。	4	誤った CBTE アドレスが CB 取得ルーチンに渡されている。この問題は、内部システム・エラーです。
		8	ストレージが不足なので、要求を満たすことができません。この問題は、内部システム・エラーです。
SCHEDTWU	BPETHDCR。スケジューラ・コントローラ・スレッドをスケジュールするのに使用されるシステム・サービス。	4	誤ったデイスパッチャー作業域が、スレッド作成ルーチンに渡されている。この問題は、システム・エラーです。
		8	誤った TCB 索引値が TCBIDX パラメーターに渡されている。この問題は、内部システム・エラーです。
		12	ゼロのルーチン・アドレスが、ROUTINE= パラメーターに渡されています。この問題は、内部システム・エラーです。
		16	誤った TCB 表エントリ・アドレスが、スレッド作成ルーチンに渡されています。BPETHDCR マクロは、パラメーター TCBTYPE、TCBIDX、あるいは TCBDWA のいずれが指定されているかに基づいて、TCBT アドレスを判別する。この問題は、内部システム・エラーです。
		20	該当のスレッドのスレッド制御ブロック (THCB) 用のストレージを入手できません。この問題は、内部システム・エラーです。
		24	該当のスレッド用のスタック・ストレージを入手できません。この問題は、内部システム・エラーです。
28	該当のスレッドの初期ポストが失敗しました。この問題は、内部システム・エラーです。		

表 73. HWST3515E のサービス・コードおよび戻りコードの説明 (続き)

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
BPEATTC	BPEATTC。スケジューラ・コントローラ・スレッドを付加するために使用されるシステム・サービス。	4	無効な TCB 索引値が TCBIDX パラメーターに渡されています。この問題は、内部システム・エラーです。
		8	BPE に定義された要求タイプの TCB がありません。この問題は、内部システム・エラーです。
		12	IMS Connect 構成メンバーの RMTIMSCON ステートメントの数が最大許容数を超過しました。その結果、失敗した RMTIMSCON 接続の TCB の BPE TCB 表に使用可能なエントリがありませんでした。 永続的にエラーを修正するには、IMS Connect 構成メンバーから未使用の RMTIMSCON ステートメントを除去し、IMS Connect を再始動します。 IMS Connect を再始動せずにエラーを修正するには、STOPRMT コマンドを使用して未使用の RMTIMSCON 接続を停止し、その後 STARTRMT コマンドを使用して失敗した RMTIMSCON 接続を開始します。IMS Connect 構成メンバーの RMTIMSCON ステートメントの数がまだ最大数を超過しているため、次回 IMS Connect を再始動したときにエラーが再発します。 RMTIMSCON ステートメントの最大許容数については、RMTIMSCON ステートメント (システム定義)を参照してください。
		16	新しい TCB に対する z/OS ATTACH が失敗しました。この問題は、内部システム・エラーです。
		20	呼び出し側は、付加するように要求された TCB の親 TCB の下で実行中の非スレッドです。この環境は、BPEATTC 呼び出しでは無効です。この問題は、内部システム・エラーです。
		32	要求された TCB タイプについて、TCB 付加プロセッサに対する AWE のエンキューが失敗しました。この問題は、内部システム・エラーです。
		36	要求された TCB について、TCB 付加プロセッサからの応答に対する BPEWAIT が失敗しました。この問題は、内部システム・エラーです。
		40	要求された TCB について、BPEATTC によって呼び出されたルーチンが TCB 付加プロセッサに対して AWE をエンキューしました。しかし、そのルーチンが AWE に保管した DDB アドレスが無効なため、付加プロセッサが付加要求をリジェクトしました。この問題は、内部システム・エラーです。
		44	要求された TCB について、BPEATTC によって呼び出されたルーチンが TCB 付加プロセッサに対して AWE をエンキューしました。しかし、無効な機能コードが含まれていたため、TCB 付加プロセッサが AWE をリジェクトしました。この問題は、内部システム・エラーです。
		48	BPEATTC が新しい TCB のための DQCB (ディスパッチャー・キュー制御ブロック) を取得できませんでした。すなわち、DQCB に対する BPECBGET 呼び出しは失敗しました。この問題は、内部システム・エラーです。
		248	要求された機能が、実行時に BPE システム内に存在していません。この問題は、内部システム・エラーです。
		252	マクロによって生成されたパラメーター・リストのバージョンが、呼び出されたサービス・ルーチンでサポートされていません。この問題は、内部システム・エラーです。

システムの処置: IMS Connect は引き続き実行されますが、RMTIMSCON 接続は使用できません。

システム・プログラマーの応答: JCL ステートメントで指定された領域サイズが、IMS Connect 領域を十分収容できるものであることを確認してください。領域サイズが小さすぎる場合は、JCL で領域サイズを増やして、IMS Connect を再始動します。エラーが再発する場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびメモリー・ダンプを提出してください。

モジュール: TOC2 - HWSTOC20

関連資料:

 RMTIMSCON ステートメント (システム定義)

 BPE サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

HWST3520E PASSTICKET GENERATION FAILED FOR USER=*user_id*, APPL=*appl_id*; RIC=*rmtimscon*, R=*rc*, M=*mc*

説明: IMS Connect は、メッセージ・テキストに示されているユーザー ID とアプリケーション名を使用して接続セキュリティのために PassTicket を生成しているときにエラーを検出しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

user_id RMTIMSCON ステートメントの USERID パラメーターに指定されたユーザー ID。

appl_id RMTIMSCON ステートメントの APPL パラメーターに指定されたアプリケーション名。

rmtimscon IMS Connect 構成 PROCLIB メンバーの RMTIMSCON ステートメントの ID パラメーターで定義されたリモートの IMS Connect インスタンスへの接続の ID。

rc サービスの戻りコード。RACF を使用している場合、これは保護されたサインオン・サービスです。戻りコード 8 は、PassTicket が作成されなかったことを意味します。

mc メッセージを出すモジュール。

考えられる原因: APPL クラスが定義されていなかったか、あるいは RACF PTKTDATA クラスまたは IMS Connect RMTIMSCON ステートメントにアプリケーション名が誤って指定されている可能性があります。

システムの処置: IMS Connect は、PassTicket なしでメッセージをリモートの IMS Connect インスタンスに

送信します。リモートの IMS Connect インスタンスで RACF が使用可能である場合、リモートの IMS Connect インスタンスはそのメッセージをリジェクトし、接続を終了します。リモートの IMS Connect インスタンスで RACF が使用可能でない場合は、メッセージがリモートの IMS システムに渡されて処理されます。OTMA 問題の場合は、元のメッセージの転送先を示す別のエラー・メッセージがコンソールに対して発行されます。

システム・プログラマーの応答: RACF で PTKTDATA クラスが正しく定義されていることを確認します。PTKTDATA クラスに定義されたアプリケーション名が、RMTIMSCON ステートメントの APPL パラメーターに指定されたアプリケーション名と一致している必要があります。

問題が解決しない場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際に、可能であれば HWSCFGxx 構成メンバー、JCL、SYSLOG、およびメモリー・ダンプを提出してください。

モジュール: TDXM - HWSTDXTM

関連タスク:

 IMS 間 TCP/IP 接続の保護 (コミュニケーションおよびコネクション)

HWST3525I THE SEND CLIENT *sendclient* WAS TERMINATED FOR REMOTE IMS CONNECT *rmtimscon*; M=*mc*

説明: *sendclient* で示された送信クライアント・ソケットがコマンドによって終了されました。送信クライアント・ソケットは、*rmtimscon* で示された接続でリモートの IMS Connect インスタンスに OTMA メッセージを送信するために使用されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

sendclient

終了した送信クライアント・ソケットの名前。この名前は IMS Connect によって生成されます。

rmtimscon

送信クライアント・ソケットがオープンしていた接続の ID。これはリモートの IMS Connect インスタンスへの接続です。接続の ID は、IMS Connect 構成 PROCLIB メンバーの RMTIMSCON ステートメントの ID パラメーターで定義されます。

mc

メッセージを出すモジュール。

考えられる原因: 送信クライアント・ソケットは、次のいずれかの IMS Connect コマンドで終了された可能性があります。

- IMS タイプ 2 コマンド UPDATE IMSCON TYPE(SENDCLNT) NAME(*client_id*) RMTIMSCON(*rmtimscon_id*) STOP(COMM)
- WTOR コマンド STOPSCLN
- z/OS MODIFY コマンド DELETE RMTIMSCON NAME(*rmtimscon_id*) SENDCLNT(*client_id*)

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は引き続き正常に実行されます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: TCVC - HWSTCVC0

HWST3530W THE RMTIMSCON COMMUNICATION COMPONENT FAILED TO OBTAIN STORAGE; R=rc, S=sc, B=bn, M=mc

説明: メッセージの送信中に、リモートの IMS Connect インスタンスへの接続用の通信コンポーネントが内部バッファ用ストレージを取得できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- rc* メッセージ・テキストの *sc* で示されたサービスによって発行された戻りコード。
- sc* サービス・コード。これはサービス (通常は BPE サービス) の名前です。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
- bn* バッファ名。
- mc* メッセージを出すモジュール。

考えられる原因: 処理を完了するのに必要なストレージが不足しています。

システムの処置: IMS Connect は実行を続けます。進行中の要求メッセージが廃棄されます。

システム・プログラマーの応答: IMS Connect の領域サイズが十分であることを確認してください。

エラーが BPE サービスに関連する場合は、メッセージに示された BPE サービスの戻りコードを調べてください。

問題が解決しない場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポート に連絡

してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

モジュール: TXMT - HWSTXMT0

関連資料:

 BPE コード (メッセージおよびコード)

HWST3540E UNABLE TO START TCP/IP SEND CLIENT TO REMOTE IMS CONNECT rmtimscon, R=rc, S=sc, M=mc

説明: IMS Connect は、リモートの IMS Connect への TCP/IP 接続に対する会話コントローラー・スレッドを開始しているときにエラーを検出しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- rmtimscon* IMS Connect 構成 PROCLIB メンバーの RMTIMSCON ステートメントの ID パラメーターで定義されたりリモートの IMS Connect インスタンスへの接続の ID。
- rc* サービスの戻りコード。
- sc* サービス・コード。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
- mc* メッセージを出すモジュール。

次の表では、サービス・コードおよび戻りコードについて説明します。

表 74. HWST3540E のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード (10 進数)	意味
GETSST	BPECBGET ストレージ取得サービスが失敗しました。		ストレージ・エラーが発生しました。
GETSTAT	BPECBGET ストレージ取得サービスが失敗しました。		ストレージ・エラーが発生しました。
NOTACTV		4	RMTIMSCON がアクティブではありません。
GETTWUB	BPECBGET ストレージ取得サービスが失敗しました。	ストレージ・サービスの戻りコード	ストレージ・エラーが発生しました。
SCHEDTWU	BPETHDCR (スレッドをスケジュールするために使用されるシステム・サービス) が失敗しました。	サービスの戻りコード	会話コントローラー・スレッドをスケジュールするために使用されるシステム・サービスが失敗しました。

表 74. HWST3540E のサービス・コードおよび戻りコードの説明 (続き)

サービス・コード	概説	戻りコード (10 進数)	意味
SHUT/STO		4	RMTIMSCON が停止しているか、またはシャットダウン中です。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。このエラーの発生時にこの接続を必要とするメッセージが処理されていた場合は、メッセージに対して発生した問題の説明が別のエラー・メッセージに示されます。

システム・プログラマーの応答: これがストレージ関連のエラーである場合は、IMS Connect のストレージ割り振りを増やすことを検討してください。

トランザクション・メッセージの配信が中断した場合は、他の HWS エラー・メッセージ (HWSF3340W など) を調べて OTMA によってメッセージで何が生じたかを判別します。

問題が解決しない場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびメモリー・ダンプを提出してください。

モジュール: TSC1 - HWSTSC10

関連資料:

 BPE サービス戻りコード

関連情報:

410 ページの『HWSF3340W』

HWST3545E CONNECTION REQUEST FOR *comp* MESSAGE FAILED BECAUSE RMTIMSCON *rmtimscon* IS FOR *conntype*; M=*mc*

説明: IMS Connect は、複数システム結合機能 (MSC) または OTMA からのメッセージをサポートしない別の IMS Connect インスタンス宛ての、RMTIMSCON 接続が指定された MSC または OTMA からメッセージを受け取りました。MSC メッセージは OTMA のサポートが定義された RMTIMSCON 接続では送信できず、OTMA メッセージは MSC のサポートが定義された RMTIMSCON 接続では送信できません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

comp メッセージを送信した IMS 通信コンポーネント。

rmtimscon

IMS Connect 構成 PROCLIB メンバーの RMTIMSCON ステートメントの ID パラメーターで定義された RMTIMSCON 接続の ID。

conntype

接続でサポートされている IMS 通信コンポーネント。

mc

メッセージを出すモジュール。

考えられる原因: OTMA 宛先記述子、MSC MSPLINK マクロ、または IMS Connect MSC 構成ステートメントに誤った RMTIMSCON ID が指定されています。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。要求者にエラー・メッセージが戻されます。OTMA はキューの先頭でこのメッセージを保持します。

システム・プログラマーの応答: OTMA メッセージの場合は、OTMA 宛先記述子または IMS Connect 構成メンバーに指定された RMTIMSCON を修正します。

MSC メッセージの場合は、MSPLINK マクロまたは MSC 構成ステートメントに指定された RMTIMSCON を修正します。

問題が解決しない場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびメモリー・ダンプを提出してください。

モジュール: TSCH - HWSTSCH0

関連資料:

 MSC ステートメント (システム定義)

 OTMA 宛先記述子の構文およびパラメーター (システム定義)

 MSPLINK マクロ (システム定義)

HWST3550W UNABLE TO NOTIFY MSG ORIGIN=*clientid* OF MSC COMM. ERROR; R=*rc*, S=*sc*, MSC=*lclplkid*, PARTNER=*partnerid*, M=*mc*

説明: IMS Connect は、リモートの IMS システムに MSC メッセージを送信しようとしたときにエラーが発生したことをローカルの IMS システムに通知できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- clientid* 配信できなかった MSC メッセージを送信したリモートの IMS Connect のクライアント ID。
- rc* サービスの戻りコード。この戻りコードは、内部の IMS モジュールによって発行され、IBM サポートが使用するためのものです。
- sc* サービス・コード。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
- lclplkid* IMS Connect が IMS から失敗したメッセージを受信したローカルの物理リンクの ID。
- partnerid* MSC 論理リンクのパートナー ID。
- mc* メッセージを出すモジュール。

考えられる原因: このエラーは、IMS システムがアクティブでなくなったか、IMS と IMS Connect 間の通信リンクが切断された場合に発生することがあります。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は引き続き正常に実行されます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: TXMT - HWSTXMT0

HWST3560W AUTO RE-CONNECT TO RMTIMSCON rmtimscon FAILED;
R=rc, S=sc, M=mc

説明: IMS Connect はリモートの IMS Connect への接続を試行し続けていました。しかし、エラーが発生し、IMS Connect はリモートの IMS Connect への接続を試行できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rmtimscon

IMS Connect 構成 PROCLIB メンバーの RMTIMSCON ステートメントの ID パラメーターで定義されたりモートの IMS Connect インスタンスへの接続の ID。

- rc* メッセージ・テキストの *sc* で示されたサービスによって発行された戻りコード。
- sc* サービス・コード。これはサービス (通常は BPE サービス) の名前です。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
- mc* メッセージを出すモジュール。

次の表では、サービス・コードおよび戻りコードについて説明します。

表 75. HWST3560W のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
C512	ストレージ・エラー。		メッセージ HWST3530W も出されます。
CONNECT	接続エラー。	4、8、または 12	戻りコード 4 は、ストレージ取得エラーを示します。戻りコード 8 は、ソケット作成エラーを示します。戻りコード 12 は、接続エラーを示します。
FWEB	ストレージ・エラー。		メッセージ HWST3530W も出されます。
HWSTSC10		可変	

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。リモートの IMS Connect への接続を試行し続けたスレッドは終了します。

システム・プログラマーの応答: 問題がストレージ・エラーである場合は、IMS Connect のストレージ設定を確認します。ソケット作成エラーの場合は、ソケットの最大数に達していないかどうかを確認します。

問題が解決しない場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

モジュール: TSC2 - HWSTSC20

関連資料:

 BPE コード (メッセージおよびコード)

HWST3570E OTMA Remote Message was rejected for TPIPE tpipeName from DATASTORE dsname;
Sense=sensecodeIrsncode, M=mc

説明: IMS Connect は、リモートの IMS システム宛ての OTMA ALTPCB 出力メッセージを配信できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

tpipeName

メッセージの送信元の T パイプ名。

dsname メッセージの送信先の IMS システム。
sensecode OTMA に戻されたセンス・コード。
rsncode OTMA に戻された理由コード。
mc メッセージを出すモジュール。

考えられる原因: 未配布メッセージの OTMA 接頭部に保管されているセンス・コードと理由コードを参照してください。

システムの処置: IMS Connect は NAK を OTMA に戻して、未配布メッセージを OTMA 送達不能キュー HWS\$DLQ に転送するように OTMA に指示します。NAK には、失敗のタイプを示すセンス・コードと理由コードが含まれています。OTMA はそのセンス・コードと理由コードを未配布メッセージの OTMA 接頭部に保管し、メッセージを HWS\$DLQ のキューに入れます。IMS Connect は引き続き正常に実行されます。

システム・プログラマーの応答: OTMA センス・コードおよび理由コードを調べて問題を判別します。HWS\$DLQ キューからメッセージを取得して分析します。

モジュール: DREC - HWS\$DREC0, TDRC - HWSTDRCV

関連概念:

➡ IMS Connect デッド・レター・キュー (HWS\$DLQ) (コミュニケーションおよびコネクション)

関連資料:

➡ NAK メッセージの OTMA センス・コード (メッセージおよびコード)

**HWST3575W OTMA Remote Message was
 queued to *newtpipe* from
 DATASTORE/TPIPE *dsname/tpipename*;
 Sense=*sensecode/rsncode*, M=*mc***

説明: IMS Connect によって、リモートの IMS システム宛ての OTMA ALTPCB 出力メッセージがリジェクトされ、メッセージに示されているローカルの IMS システムにおいて、メッセージに示されている T パイプ・キューの先頭で再びキューに入れられました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

newtpipe メッセージが再びキューに入れられた T パイプ名。
dsname メッセージの送信元のデータ・ストア IMS システム。

tpipename メッセージの送信元の T パイプ名。
sensecode OTMA に戻されたセンス・コード。
rsncode OTMA に戻された理由コード。
mc メッセージを出すモジュール。

考えられる原因: このエラーの考えられる原因については、NAK で戻された OTMA センス・コードと理由コードを調べてください。

システムの処置: IMS Connect は、失敗のタイプを示すセンス・コードと理由コードを含む NAK を OTMA に戻します。OTMA はメッセージを T パイプ・キューの先頭で再びキューに入れます。IMS Connect は引き続き正常に実行されます。

システム・プログラマーの応答: OTMA センス・コードおよび理由コードを調べて問題を判別します。問題を修正したら、IMS コマンド /STA TMEMBER TPIPE を発行して、指定された TPIPE から IMS Connect への出力を再開します。

モジュール: DREC - HWS\$DREC0, TDRC - HWSTDRCV

関連資料:

➡ NAK メッセージの OTMA センス・コード (メッセージおよびコード)

➡ /START TMEM コマンド (コマンド)

**HWST3600E FUNCTION WORK ELEMENT
 PROCESSING FAILED; FUNC=*fn*,
 R=*rc*, S=*sc*, M=*mc***

説明: 機能作業エレメント (FWE) を処理できません。FWE は、コンポーネント間の作業およびコンポーネント内の作業を要求します。この構造には、処理の際にサービスが必要とする機能とパラメーターが入っています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

fn 要求された機能を示します。
rc サービスの戻りコード。詳しくは、以下の表を参照してください。
sc サービス・コード。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
mc メッセージを出すモジュール。

次の表では、サービス・コードおよび戻りコードについて説明します。

表 76. HWST3600E のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
INVFUNC	FWE で要求された機能が正しくない。	4	この問題は、処理エラーです。

システムの処置: このメッセージが発行され、可能な限り、機能の要求者に通知されます。その他の場合は、FWE は解放されます。どのような場合も IMS Connect は実行を続けます。

システム・プログラマーの応答: これはおそらく内部エラーです。問題報告データベースを検索して、問題の修正を探してください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

モジュール: TSCH - HWSTSCH0

HWST3700E TCP/IP SOCKET FUNCTION CALL FAILED; F=fn, R=rc, E=ec, N=rsn, RIC=ri, M=mc

説明: IMS Connect RMTIMSCON 通信ドライバーは、指定されたソケット機能を実行できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- fn TCP/IP ソケット機能呼び出しを識別する。可能な機能とその関連 z/OS UNIX System Services 呼び出し可能サービスについては、以下の表を参照してください。
- rc TCP/IP 戻りコードを識別する。
- ec TCP/IP エラー・コードを識別する。
- rsn TCP/IP 理由コードを示します。
- ri リモートの IMS Connect インスタンスへの接続を示します。
- mc このメッセージを出すモジュールを示します。

表 77. HWST3700E に対する機能名および関連 UNIX System Services 呼び出し可能サービス

機能名	UNIX System Services 呼び出し可能サービス
CLOSESOC	BPX1CLO
CONNECT	BPX1CON
CONNECT6	BPX1CON
FREIPADR	BPX1FAI
GETIPADR	BPX1GAI

表 77. HWST3700E に対する機能名および関連 UNIX System Services 呼び出し可能サービス (続き)

機能名	UNIX System Services 呼び出し可能サービス
GETSOCK	BPX1SOC
GETSOCK6	BPX1SOC
READ	BPX1AIO (AIO#READ)
READNOCN	なし - おそらく TCP/IP がダウンしているため、現在この接続は使用できません。
READSTOP	なし - TCP/IP 読み取り機能は、STOPSCLN などのコマンドまたは CLOSEHWS FORCE WTOR 形式のコマンドによって停止しました。
SHUTDSOC	BPX1SHT
WRITE	BPX1AIO (AIO#WRITE)

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は引き続き正常に実行されます。

システム・プログラマーの応答: 示された戻りコードおよびエラー・コードの考えられる原因については、「z/OS Communications Server IP and SNA Codes」を参照してください。

モジュール:

- TDCO - HWSTDCON
- TDDS - HWSTDDSC
- TDOT - HWSTDOTD
- TDRC - HWSTDRCV
- TDXM - HWSTDXTM
- TSCH - HWSTSCH0

関連資料:

- ➡ z/OS: ソケット戻りコード (ERRNO)
- ➡ z/OS: z/OS UNIX システム・サービスの戻りコード
- ➡ z/OS: 呼び出し可能サービスの説明

HWST3730W THE RMTIMSCON DRIVER FAILED TO OBTAIN STORAGE; R=rc, S=sc, B=bn, M=mc

説明: IMS Connect RMTIMSCON 通信ドライバーが内部バッファ用ストレージを取得できませんでし

た。このエラーは、処理を完了するのに必要なストレージが十分に取得できないときに起こる可能性があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- rc* サービスに関連付けられた BPE 戻りコードを示します。
- sc* サービス・コードを示します。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
- bn* バッファー名を示します。
- mc* このメッセージを出すモジュールを示します。

考えられる原因: 処理を完了するのに必要なストレージが不足しています。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。進行中の要求メッセージが廃棄されます。

システム・プログラマーの応答: IMS Connect の領域サイズが十分であることを確認してください。問題が解決しない場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびメモリー・ダンプを提出してください。

モジュール:

- TCN - HWSTDCON
- TDOT - HWSTDOTD
- TDRC - HWSTDRCV
- TDXM - HWSTDXTM

関連資料:

 BPE コード (メッセージおよびコード)

HWST3735W THE RMTIMSCON DRIVER FAILED TO RELEASE STORAGE; R=rc, S=sc, B=bn, A=a, M=mc

説明: IMS Connect RMTIMSCON 通信ドライバーが内部バッファ用ストレージを解放できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- rc* サービスの戻りコードを示します。
- sc* サービス・コードを示します。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコー

ド、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。

- bn* バッファー名を示します。
- a* バッファー・アドレスを示します。
- mc* このメッセージを出すモジュールを示します。

考えられる原因: 処理を完了するのに必要なストレージが不足しています。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は引き続き正常に実行されます。

システム・プログラマーの応答: この問題はおそらく内部エラーです。問題報告データベースを検索して、問題の修正を探してください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

モジュール: TDDS - HWSTDDSC, TDTT - HWSTDTTD

関連資料:

 BPE コード (メッセージおよびコード)

HWSU3900E ASYNCHRONOUS WORK ELEMENT PROCESSING FAILURE, FUNC=func; R=rc, S=sc, M=mc

説明: 指定された機能の非同期作業エレメント (AWE) を処理できませんでした。

説明: メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- func* 要求された機能。
- rc* 戻りコード。
- sc* サービス・コード。サービス・コードは、要求の処理に失敗した呼び出し先サービスから戻されたエラーをより具体的に識別するか、そのコードをカプセル化するために使用します。
- mc* メッセージを発行したモジュール。

表 78. HWSU3900E のサービス・コードおよび戻りコードの詳細

サービス・コード	説明	戻りコード	拡張した意味
INVFUNC	AWE で要求された機能が正しくない。	4	これは処理エラーです。

システムの処置: このメッセージが発行され、可能な限

り、機能の要求者に通知されます。その他の場合は、AWE は解放されます。いずれにせよ、IMS Connect は実行を続けます。

システム・プログラマーの応答: このメッセージは IMS Connect 内の内部エラーが原因です。問題が何度も発生する場合は、問題報告データベースで解決方法を検索してください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびメモリー・ダンプを収集してください。

モジュール: UENF - HWSUENF0

UGPA - HWSUGPA0

UWLM - HWSUWLM0

HWSV4400I COMMUNICATIONS SUPPORT FOR REMOTE CICS *rmtcics* STARTED; M=*mc*

説明: リモート CICS インスタンスとの通信のサポートは、IMS Connect で正常に使用可能です。このメッセージが発行されるのは、IMS Connect の始動時、または IMS タイプ 2 コマンド UPDATE IMSCON TYPE(RMTCICS) NAME(*rmtcics*) START(COMM) が発行された後のいずれかです。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rmtcics IMS Connect 構成 PROCLIB メンバーの RMTCICS ステートメントの ID パラメーターで定義されたりリモートの CICS インスタンスへの接続の ID。

mc メッセージを出すモジュール。

システムの処置: メッセージ・テキストに指定された RMTCICS 構成ステートメントで IMS Connect に対して定義されているリモート CICS との通信は IMS Connect で使用可能になっています。IMS Connect は引き続き正常に実行されます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: QSCH - HWSQSCH0

関連資料:

 RMTCICS ステートメント (システム定義)

 UPDATE IMSCON TYPE(RMTCICS) コマンド (コマンド)

HWSV4405I COMMUNICATIONS SUPPORT FOR REMOTE CICS *rmtcics* STOPPED; M=*mc*

説明: *rmtcics* で示された接続でリモートの CICS サブシステムとの通信が停止しました。このメッセージは、IMS Connect のシャットダウン中か、IMS タイプ 2 コマンド UPDATE IMSCON TYPE(RMTCICS) NAME(*rmtcics_id*) STOP(COMM) が発行された後のどちらかで通信が中断された場合に発行されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rmtcics IMS Connect 構成 PROCLIB メンバーの RMTCICS ステートメントの ID パラメーターで定義されたりリモートの CICS サブシステムへの接続の ID。

mc メッセージを出すモジュール。

システムの処置: IMS Connect は引き続き正常に実行されます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

通信を再開するには、IMS タイプ 2 コマンド UPDATE IMSCON TYPE(RMTCICS) NAME(*rmtcics_id*) START(COMM) を発行してください。

モジュール: QSCH0 - HWSQSCH0

HWSV4410E COMMUNICATIONS SUPPORT FOR REMOTE CICS *rmtcics* FAILED TO START; R=*rc*, S=*sc*, M=*mc*

説明: リモート CICS サブシステムとの通信は、メッセージ・テキスト内の *rmtcics* フィールドに示される接続での開始に失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rmtcics IMS Connect 構成 PROCLIB メンバーの RMTCICS ステートメントの ID パラメーターで定義されたりリモートの CICS インスタンスへの接続の ID。

rc サービスの戻りコード。出される戻りコードとその意味は次のとおりです。

- 4 CTOKEN のストレージ取得エラー。HWSV4630W は、HWSV4410E より前に発行されます。
- 8 BPX1GAI エラー。HWSV4600E は、HWSV4410E より前に発行されます。
- 12 BPX1GAI は IPv6 以外および IPv4 以外のアドレス構造を返しました。

HWSV4600E は、HWSV4410E より前に発行されます。

- 16 BPX1FAI エラー。HWSV4600E は、HWSV4410E より前に発行されます。
- sc サービス・コード。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
- mc メッセージを出すモジュール。

考えられる原因: リモートの CICS サブシステムが使用不可であるか、または RMTICICS 構成ステートメントに指定された IP アドレスまたはホスト名が誤っている可能性があります。

システムの処置: IMS Connect はこのメッセージを発行し、引き続き正常に実行されます。

システム・プログラマーの応答: リモートの CICS サブシステムが使用可能であり、正しいポート上で listen していることを確認します。

RMTICICS 構成ステートメントの IPADDR または HOSTNAME パラメーターに指定された値が正しいことを確認してください。

モジュール: QSCH - HWSQSCH0

関連資料:

 RMTICICS ステートメント (システム定義)

表 79. HWSV4415E のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
GETTWUB	BPECBGET。スケジューラー・コントローラー用のスレッド作業単位 (TWU) の獲得に使用されるシステム・サービス。	rc	戻りコード は、BPECBGET サービスからのものです。この問題は、内部システム・エラーです。
SCHEDTWU	BPETHDCR。スケジューラー・コントローラー・スレッドをスケジュールするのに使用されるシステム・サービス。	rc	戻りコード は、BPETHDCR サービスからのものです。この問題は、内部システム・エラーです。
BPEATTC	BPEATTC。スケジューラー・コントローラー・スレッドを付加するために使用されるシステム・サービス。	rc	戻りコード は、BPEATTC サービスからのものです。これは、内部システム・エラーです。

システムの処置: IMS Connect は引き続き実行されませんが、RMTICICS 接続は使用できません。

システム・プログラマーの応答: JCL ステートメントで指定された領域サイズが、IMS Connect 領域を十分収容できるものであることを確認してください。領域サ

HWSV4415E IMS CONNECT CANNOT START THE SCHEDULER CONTROLLER FOR RMTICICS=rmticics; R=rc, S=sc, M=mc

説明: スケジューラー・コントローラー構造にスレッドを割り振ることができないか、またはスケジューラー・コントローラー・スレッドをスケジュールまたは付加できませんでした。このコントローラーは、IMS Connect と CICS 間の TCP/IP 接続を処理します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- rmticics CICS への IMS Connect RMTICICS 接続の ID。これは、IMS Connect 構成 PROCLIB メンバーに接続を定義する RMTICICS 構成ステートメントの ID パラメーターに定義されています。
- rc サービスの戻りコード。詳しくは、以下の表を参照してください。
- sc サービス・コード。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
- mc メッセージを出すモジュール。

イズが小さすぎる場合は、JCL で領域サイズを増やして、IMS Connect を再始動します。エラーが再発する場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。そ

HWSV4420E

の際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびメモリー・ダンプを提出してください。

モジュール: QOC2 - HWSQOC20

関連資料:

- ➡ RMTTCICS ステートメント (システム定義)
- ➡ BPE サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

HWSV4420E CICS IPIC ERROR RC=ipicrc
HTTPRC=httprc MSGTYPE=msgtype
TEXT=description; RCICS=rmttcicsid,
C=clientid, M=QREC

説明: IMS Connect は、ISC TCP/IP セッションで CICS から IP 相互接続性 (IPIC) エラー・メッセージを受け取りました。

IMS が使用可能な場合、IMS Connect は、IMS にエラーを通知します。

IMS が使用可能ではない場合、IMS Connect は、受け取ったエラー標識のタイプによっては、CICS にエラーを通知する場合があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

clientid エラー・メッセージを受け取った TCP/IP ソケット接続を識別するクライアント ID。クライアント ID は、IMS Connect によって生成されます。

description

エラーを説明するテキスト。

httprc Hypertext Transfer Protocol -- HTTP/1.1 規格に定義される 4 バイトの状況コード。HTTP 状況コードは、TCP/IP サーバーによってカスタマイズ可能です。特定の状況コードの意味および実行できるアクションについては、表 503 ページの表 80 の TEXT 値を調べてください。

2nn 200 から 299 までの範囲にある HTTP 状況コードは、エラーが HTTP 層内では発生しなかったことを示します。

4nn 400 から 499 の範囲内にある HTTP 状況コードは、エラーが「クライアン

ト」に関連していることを示します。ISC TCP/IP の場合、クライアントは通常、セッションを開始したサブシステムです。

5nn 500 から 599 の範囲内にある HTTP 状況コードは、エラーが「サーバー」に関連していることを示します。ISC TCP/IP の場合、サーバーは通常、セッション開始要求を受け取ったサブシステムです。

ipicrc 2 バイトの CICS IPIC 応答コードおよび理由コード。最初のバイトは応答コードです。2 つ目のバイトは理由コードです。

理由コードの解説と、実行できるアクションについては、表 503 ページの表 80 内で理由コードと共に示されているテキスト記述を参照してください。

以下のリストで考えられる応答コードについて説明します。

CICS IPIC 応答コード

- 02** 例外イベントを示します
- 03** 災害イベントを示します
- 04** メッセージが CICS では無効であることを示します
- 05** カーネル・エラーを示します
- 06** CICS がエラーをパージしたことを示します

msgtype

CICS IPIC メッセージ・タイプを示す 2 バイトのコード。

- 0001** 機能交換要求
- 0002** 機能交換応答
- 0006** 同期点コマンド
- 0007** API 会話エラー
- 0008** セキュリティー・データ
- 000A** 作業単位 ID
- 0043** API 要求または応答
- 0046** 解放要求

QREC エラーの通知を受信した IMS Connect モジュール HWSQREC0

rmttcics CICS サブシステムへの TCP/IP 接続を定義する IMS Connect RMTTCICS 構成ステートメントの ID。

表 80. HWSV4420E の TEXT フィールドのエラー説明

サービス・コード	HTTP 状況コード	IPIC 理由コード	意味
APPLID		X'06'	<p>CICS が受け取った機能交換メッセージでは、<i>server_applid</i> およびその高位修飾子が、CICS サブシステムの APPLID や高位修飾子と一致しません。</p> <p>こうなる可能性が最も高いのは、ISC ステートメントの CICSAPPL キーワードの値が、リモート CICS サブシステムの APPLID と一致しない場合です。</p> <p>IMS.PROCLIB データ・セットの IMS Connect 構成メンバーの ISC ステートメントで CICSAPPL キーワードの値を修正してください。</p> <p>CICS 理由テキスト: ISCE_INVALID_APPLID</p>
AUTOINSTALL		X'01'	<p>CICS 自動インストール機能は、CICS サブシステム内に必要な IPCONN リソースを作成できませんでした。</p> <p>自動インストール機能は、新規 IPCONN リソースの名前が、既存の IPCONN リソースの名前と同じ場合に失敗する可能性があります。</p> <p>自動インストール機能が作成する IPCONN リソースの名前は、/OPNDST NODE コマンドなどの IMS セッション開始要求で指定されるユーザー名から生成されるため、異なるユーザー名でのセッションの開始を試みてください。</p> <p>CICS 理由テキスト: AUTOINSTALL_FAILED</p>
CAPEXRACE		X'15'	<p>機能交換の競合。IMS と CICS 間のセッションが、IMS と CICS で同時に開始されたので、2 つの機能交換要求の間に競合状態が発生しました。IMS /OPNDST コマンドを再試行してください (6)。</p> <p>IMS または CICS のいずれかで、セッションの開始を再試行してください。</p> <p>CICS 理由テキスト: CAPEX_RACE</p>
DFHxxxxx			<p>API 会話エラー。DFHxxxxx は、IMS Connect に返された CICS API エラー・メッセージです。ここで xxxxx は番号、DFH は CICS メッセージ接頭語です。</p> <p>これはおそらく内部エラーです。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。</p>
HTTPRQST	X'400'		<p>HTTP プロトコルまたは TCP/IP サーバーにより定義され、誤った形式の構文のためにサーバーが要求を認識できなかったことを示します。</p> <p>セッション開始要求はおそらく無効であり、受信側のサブシステムが認識できませんでした。</p> <p>セッションを開始しているサブシステムで ISC TCP/IP セッション開始要求が正しく構成されていることを確認してください。</p> <p>問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。</p>
HTTPERR		X'0B'	<p>コールバック接続に関連付けられている機能交換応答に、エラーを示す HTTP 状況コードが含まれていました。</p> <p>CICS 理由テキスト: ISCE_HTTP_ERROR</p>

表 80. HWSV4420E の TEXT フィールドのエラー説明 (続き)

サービス・コード	HTTP 状況コード	IPIC 理由コード	意味
IPCONNNO		X'13'	<p>IPCONN リソースがありません。</p> <p>CICS TCPIP SERVICE リソースの接続を獲得または解放する試みが行われましたが、TCPIP SERVICE リソースには関連する IPCONN リソースがありません。</p> <p>エラーの原因は、CICS サブシステム内の不適切な TCPIP SERVICE または IPCONN リソース定義である可能性があります。リソース定義のエラーがあればすべて訂正して、セッションの開始を再試行してください。</p> <p>CICS 理由テキスト: NO_IPCONN</p>
IPCONNNOTFND		X'04'	<p>IPCONN が見つからない。</p> <p>CICS サブシステムとの接続を獲得または解放する試みが行われましたが、必要な IPCONN リソースが現在存在していないか、見つかりません。</p> <p>CICS 理由テキスト: IPCONN_NOT_FOUND</p>
IPCONNONEWAY		X'14'	<p>ISC TCP/IP セッションには、両方向接続が必要ですが、CICS IPCONN リソースは、片方向接続を使用するように定義されています。</p> <p>CICS IPCONN リソース定義を訂正します。</p> <p>CICS 理由テキスト: IS CER_ONE_WAY_IPCONN</p>
IPCONNSTATE		X'02'	<p>IPCONN 状態が無効。</p> <p>ISCO ACQUIRE_CONNECTION が発行されましたが、CICS IPCONN リソースが適切な状態ではないため失敗しました。</p> <p>IPCONN リソースの状態は IN SERVICE および RELEASED でなければなりません。</p> <p>セッションの開始を再度試みてください。問題が引き続き発生する場合は、CICS システム管理者に連絡してください。</p> <p>CICS 理由テキスト: INVALID_IPCONN_STATE</p>

表 80. HWSV4420E の TEXT フィールドのエラー説明 (続き)

サービス・コード	HTTP 状況コード	IPIC 理由コード	意味
OPENERR		X'0D'	<p>オープン・セッションのエラーです。</p> <p>IMS は、IMS Connect を使用して CICS との ISC TCP/IP セッションを開始しようとしたが、IMS と CICS サブシステム間の機能交換が失敗しました。</p> <p>例えば、CICS DFHCSD データ・セットの IPCONN リソース定義の PORT キーワードに指定した値が、HWSCFGxx PROCLIB メンバーの TCPIP ステートメントの CICSPORT キーワードの ID サブパラメーターで IMS Connect にも定義されていない場合に、このエラーが発行されます。</p> <p>これは、構成上の問題または定義の問題である可能性があります。</p> <p>すべての IMS、IMS Connect、および CICS PROCLIB メンバーとリソースが正しく定義されていることを確認してください。定義ステートメントにエラーがあれば訂正してください。</p> <p>CICS 理由テキスト:</p>
PARTNERSTATE		X'03'	<p>パートナー状態が無効です。</p> <p>CICS は、無効な状態にある IPCONN リソースの機能交換要求を受け取りました。</p> <p>IPCONN リソースの状態は INSERVICE であることが必要ですが、まだ獲得されていません。</p> <p>セッションの開始を再度試みてください。問題が引き続き発生する場合は、CICS システム管理者に連絡してください。</p> <p>CICS 理由テキスト: INVALID_PARTNER_STATE</p>
RECOVERR		X'08'	<p>機能交換リカバリー・エラー。</p> <p>CICS はサポートされない <i>isce_preferred_recovery</i> 値を含む機能交換要求を受け取り、フォールバック先として一致する <i>isce_supported_protocols</i> フラグが設定されていません。</p> <p>これはおそらく内部エラーです。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。</p> <p>CICS 理由テキスト: ISCE_BAD_RECOV</p>

表 80. HWSV4420E の TEXT フィールドのエラー説明 (続き)

サービス・コード	HTTP 状況コード	IPIC 理由コード	意味
RESPBAD		X'09'	<p>CICS IPIC 応答が不適切です。</p> <p>CICS が受け取ったコールバック機能交換応答には、不適切な応答と理由コードが含まれています。</p> <p>CICS IPCONN リソース定義の PORT 属性で定義されたポートが、IMS Connect PROCLIB 構成メンバーの TCPIP ステートメントの CICSSPORT キーワードの ID サブパラメーターで IMS Connect にも定義されていない場合に、このエラーが機能交換中に発生する可能性があります。</p> <p>すべての IMS、IMS Connect、および CICS PROCLIB メンバーとリソースが正しく定義されていることを確認してください。</p> <p>CICS 理由テキスト: IS CER_BAD_RESPONSE</p>
RESPERR		X'0A'	<p>機能交換応答エラー。</p> <p>コールバック機能交換応答が無効なことが判明しました。</p> <p>これは、IMS、IMS Connect、または CICS いずれかの内部エラーです。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。</p> <p>CICS 理由テキスト: IS CER_ERROR</p>
RESPTIMEOUT		X'0C'	<p>機能交換応答がタイムアウトになりました。</p> <p>機能交換要求への応答が、指定したタイムアウト期間内に受信されませんでした。</p> <p>システム・プロファイル DFHCICSC の CICS IPIC 要求のタイムアウト値 (RTIMOUT) を増やします。</p> <p>RTIMOUT 値の形式は <i>mmss</i> であり、ここで <i>mm</i> は分、<i>ss</i> は秒です。例えば、タイムアウト値を 1 分に変更するには、ALTER PROFILE(DFHCICSx) GROUP(IMSISCIPI) RTIMOUT(0100) と指定します。</p> <p>CICS トランザクション CEDA を使用してタイムアウト値を表示または更新します</p> <p>CICS 理由テキスト: IS CER_TIMED_OUT</p>
RQSTERR		X'05'	<p>機能交換要求エラー。</p> <p>機能交換要求は無効なことが判明し、パートナー CICS サブシステムにリジェクトされました。IMS または IMS Connect がセッションを開始するために誤った機能交換要求メッセージを作成しました。</p> <p>IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。</p> <p>CICS 理由テキスト:</p>

表 80. HWSV4420E の TEXT フィールドのエラー説明 (続き)

サービス・コード	HTTP 状況コード	IPIC 理由コード	意味
RQSTTIMEOUT		X'07'	<p>CICS IPIC 要求がタイムアウトになりました。</p> <p>TCPIPSERVICE トランザクション (デフォルトでは CISS) は、IPCONN リソースの接続を初期設定するために接続されましたが、トランザクション・プロファイルに定義されているタイムアウト期間内に機能交換要求を受け取りませんでした。</p> <p>システム・プロファイル DFHCICSC の CICS IPIC 要求のタイムアウト値 (RTIMOUT) を増やします。</p> <p>RTIMOUT 値の形式は <i>mmss</i> であり、ここで <i>mm</i> は分、<i>ss</i> は秒です。例えば、タイムアウト値を 1 分に変更するには、ALTER PROFILE(DFHCICSC) GROUP(IMSICIP) RTIMOUT(0100) と指定します。</p> <p>CICS トランザクション CEDA を使用してタイムアウト値を表示または更新します</p> <p>CICS 理由テキスト: ISCE_TIMED_OUT</p>
SECURITY		X'16'	<p>セキュリティ・エラー。呼び出し元のセキュリティ資格情報が、パートナー・システムに受け入れられません。</p> <p>CICS 理由テキスト: ISCE_SECURITY_VIOLATION</p>
SHUTDOWN		X'0E'	<p>CICS がシャットダウンされています。</p> <p>IPCONN リソースを獲得または初期設定するために DFHISCO への呼び出しが行われましたが、CICS は呼び出しが完了する前にシャットダウンされています。</p> <p>CICS がアクティブであることを確認してください。CICS がアクティブになっていない場合は、開始してください。</p> <p>CICS 理由テキスト: SHUTDOWN</p>
SOCKETERR		X'18'	<p>クライアント・ソケット・エラークライアント接続はクローズされました。</p> <p>CICS 理由テキスト: ISCE_CLIENT_CONNECTION_CLOSED</p>
SOCKETSECERR		X'19'	<p>2 次ソケット・エラー。2 次ソケットを取得しようとしたときにエラーが発生しました。</p> <p>CICS 理由テキスト: ISCE_SEC SOCK_ERROR</p>
SRVCCLOSED		X'0F'	<p>TCP/IP サービスが使用不可です。</p> <p>接続を得ようとする試みは、TCP/IP サポートが使用不可のために失敗しました。</p> <p>TCP/IP サービスを開始してから、ISC TCP/IP セッションの開始を再試行してください。</p> <p>CICS 理由テキスト: TCPIP_CLOSED</p>

表 80. HWSV4420E の TEXT フィールドのエラー説明 (続き)

サービス・コード	HTTP 状況コード	IPIC 理由コード	意味
SRVCMISMATCH		X'10'	<p>TCPIPSERVICE ミスマッチ。</p> <p>TCPIPSERVICE とは異なる TCPIPSERVICE を使用するように定義されている IPCONN リソースに対する機能交換要求を受け取りました。</p> <p>このエラーは、CICS TCPIPSERVICE と IPCONN のリソース定義に定義されているポートが一致しない場合に発生する可能性があります。</p> <p>すべての IMS、IMS Connect、および CICS PROCLIB メンバーとリソースが正しく定義されていることを確認してください。エラーがあれば訂正します。</p> <p>CICS 理由テキスト: TCPIPSERVICE_MISMATCH</p>
SRVCNOTFOUND		X'11'	<p>IPCONN リソースに参照される TCPIPSERVICE リソースが CICS サブシステムで見つかりませんでした。</p> <p>IPCONN リソース定義内で参照されている TCPIPSERVICE リソースがインストールされていないか、削除されたために、CICS は接続を獲得または解放できませんでした。</p> <p>セッションの開始を再度試みてください。問題が引き続き発生する場合は、CICS システム管理者に連絡してください。TCPIPSERVICE リソースを再インストールして開くことが必要な場合があります。</p> <p>CICS 理由テキスト: TCPIPSERVICE_NOT_FOUND</p>
SRVCNOTOPEN		X'12'	<p>CICS サブシステムの TCPIPSERVICE リソースがオープンされていません。</p> <p>CICS サブシステムは、IPCONN リソースの接続を獲得しようとしたが、IPCONN リソース定義で指定されている TCPIPSERVICE がオープンされていません。</p> <p>セッションの開始を再度試みてください。問題が引き続き発生する場合は、CICS システム管理者に連絡してください。</p> <p>CICS 理由テキスト: TCPIPSERVICE_NOT_OPEN</p>
SRVCUNAVAIL	X'503'		<p>HTTP プロトコルまたは z/OS TCP/IP サーバーにより定義され、過負荷または保守のためのサービス停止が理由で TCP/IP サーバーが一時的に使用不可であることを示します。</p> <p>TCP/IP サーバーがアクティブであることを確認してください。TCP/IP サーバーがアクティブになっていない場合は、開始してください。</p>
SRVRERR	X'500'		<p>HTTP プロトコルまたは z/OS TCP/IP サーバーによって定義され、TCP/IP サーバーで予期しない状態が検出されたために、要求を実行できなかったことを示しています。</p> <p>Hypertext Transfer Protocol -- HTTP/1.1</p>
UNKNOWN		X'63'	<p>不明なエラー。これはおそらく内部エラーです。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。</p>

システムの処置: セッションがすでに確立されている場合、IMS Connect はメッセージを IMS に転送しません。メッセージの内容によっては、IMS もエラー・メッセージを発行し、セッションを強制終了します。

セッションがまだ確立されていない場合、IMS Connect はメッセージを破棄します。

システム・プログラマーの応答: 前述の表にある TEXT= の値を参照して、問題を解決するために実行可能なアクションを調べてください。

モジュール: QREC - HWSQREC0

関連資料:

 RMTTCICS ステートメント (システム定義)

HWSV4425I THE SEND CLIENT *sendclient* WAS TERMINATED FOR REMOTE CICS *rmttcics*; ISCUSER *isc_user*; M=*mc*

説明: *sendclient* で示されたクライアント送信ソケットがコマンドによって終了されました。クライアント送信ソケットは、*rmttcics* で示された接続でリモート CICS サブシステムにメッセージを送信するために使用されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

sendclient

終了した送信クライアント・ソケットの名前。
この名前は IMS Connect によって生成されます。

rmttcics RMTTCICS パラメーターの ID パラメーターと ISC ステートメントの RMTTCICS パラメーター両方に定義されている接続の ID。
RMTTCICS ステートメントと ISC ステートメントは一緒に IMS Connect 構成 PROCLIB メンバーの接続を定義します。

isc_user

セッション開始要求に関連付けられているユーザー名。

mc メッセージを発行したモジュール。

考えられる原因: 送信クライアント・ソケットは、次のいずれかの IMS タイプ 2 コマンドで終了された可能性があります。

- UPDATE IMSCON TYPE(SENDCLNT)
NAME(*client_id*) RMTTCICS(*rmttcics*) STOP(COMM)
- UPDATE IMSCON TYPE(RMTTCICS)
NAME(*rmttcicsid*) STOP(COMM)

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は引き続き正常に実行されます。

システム・プログラマーの応答: *isc_user* 値を使用し

て、可能な DFS3298E メッセージと関連させます。

モジュール: QCVC - HWSQCVC0

関連資料:

 UPDATE IMSCON TYPE(RMTTCICS) コマンド (コマンド)

 UPDATE IMSCON TYPE(SENDCLNT) コマンド (コマンド)

 RMTTCICS ステートメント (システム定義)

 ISC ステートメント (システム定義)

HWSV4435W THE RMTTCICS COMM. COMPONENT FAILED TO RELEASE STORAGE; R=*rc*, S=*sc*, B=*bn*, A=*a*, M=*mc*

説明: IMS Connect RMTTCICS 通信コンポーネントが内部バッファ用ストレージを解放できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc サービスの戻りコード。

sc サービス・コード。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。

bn バッファ名。

a バッファ・アドレス。

mc メッセージを出すモジュール。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は引き続き正常に実行されます。

システム・プログラマーの応答: この問題はおそらく内部エラーです。問題報告データベースを検索して、問題の修正を探してください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

モジュール: QCVC - HWSQCVC0、QOCC - HWSQOCC0、QSCH - HWSQSCH0

HWSV4440E UNABLE TO START TCP/IP SEND CLIENT TO REMOTE CICS *rmttcics*, R=*rc*, S=*sc*, M=*mc*

説明: IMS Connect は、リモートの CICS サブシステムへの TCP/IP 接続に対する会話コントローラー・スレッドを開始しているときにエラーを検出しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

<i>rmtcics</i>	IMS Connect に CICS 接続を定義する RMTICICS ステートメントの ID。
<i>rc</i>	サービスの戻りコード。
<i>sc</i>	サービス・コード。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
<i>mc</i>	メッセージを出すモジュール。

次の表では、サービス・コードおよび戻りコードについて説明します。

表 81. HWSV4440E のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード (10 進数)	意味
GETSST	BPECBGET ストレージ取得サービスが失敗しました。		ストレージ・エラーが発生しました。
GETSTAT	BPECBGET ストレージ取得サービスが失敗しました。		ストレージ・エラーが発生しました。
SHUT/STO		4	RMTICICS が停止しているか、またはシャットダウン中です。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。このエラーの発生時にこの接続を必要とするメッセージが処理されていた場合は、メッセージに対して発生した問題の説明が別のエラー・メッセージに示されます。

システム・プログラマーの応答: これがストレージ関連のエラーである場合は、IMS Connect のストレージ割り振りを増やすことを検討してください。

問題が解決しない場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびメモリー・ダンプを提出してください。

モジュール: QSC1 - HWSQSC10

関連資料:

 BPE サービス戻りコード

HWSV4480W UNABLE TO START COMMUNICATIONS WITH REMOTE CICS *rmtcics*, *R=rc*, *S=sc*, *M=mc*

説明: IMS タイプ 2 コマンド UPDATE IMSCON TYPE(RMTICICS) NAME(*rmtcics*) START(COMM) の処理中に、IMS Connect は、*rmtcics* によって識別されるリモート CICS インスタンスとの通信の開始に失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

<i>rmtcics</i>	UPDATE IMSCON TYPE(RMTICICS) NAME(<i>rmtcics</i>) START(COMM) コマンドの NAME キーワードで指定された値。
<i>rc</i>	エラー条件を識別する戻りコード。
4	メッセージ・テキストに表示された <i>rmtcics</i> 値は、IMS Connect 構成 PROCLIB メンバーの RMTICICS ステートメントの ID パラメーターと一致しません。
<i>sc</i>	サービス・コード。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。

NOTFND

メッセージ・テキストに表示された *rmtcics* 値は、IMS Connect 構成 PROCLIB メンバーの RMTICICS ステートメント内で検出されませんでした。

mc メッセージを発行したモジュール。

考えられる原因: UPDATE IMSCON TYPE(RMTICICS) コマンドの NAME キーワードに指定された *rmtcics* 値が正しくないか、IMS Connect 構成 PROCLIB メンバーの RMTICICS 構成ステートメントの ID キーワードに指定された値が正しくありません。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は引き続き正常に実行されます。ただし、ISC メッセージを、*rmtcics* 接続のリモート CICS インスタンスに送信できません。

システム・プログラマーの応答: このコマンドの NAME キーワードに指定された値が正しいことを確認してください。正しい場合は、RMTICICS ステートメントの ID キーワードと、ISC ステートメントの RMTICICS キーワードが正しいことを確認してください。

モジュール: QOCC - HWSQOCC0

関連資料:

➡ UPDATE IMSCON TYPE(RMTCICS) コマンド
(コマンド)

➡ RMTCICS ステートメント (システム定義)

➡ ISC ステートメント (システム定義)

**HWSV4485W COMMUNICATIONS WITH
REMOTE CICS *rmtcics* ARE ALREADY
STARTED; R=*rc*, S=*sc*, M=*mc***

説明: IMS タイプ 2 コマンド UPDATE IMSCON TYPE(RMTCICS) NAME(*rmtcics*) START(COMM) が、すでに開始されているリモート CICS 接続のために発行されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rmtcics UPDATE IMSCON TYPE(RMTCICS) NAME(*rmtcics*) START(COMM) コマンドの NAME キーワードで指定された値。

rc エラー条件を識別する戻りコード。

4 接続 *rmtcics* は既に開始しています。

sc サービス・コード。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。

ACTIVE

接続 *rmtcics* は既に開始しています。

mc メッセージを発行したモジュール。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は引き続き正常に実行されます。メッセージ・テキスト内で *rmtcics* によって示される接続は、アクティブであり、リモート CICS インスタンスに ISC メッセージを送信するために使用可能です。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: QOCC - HWSQOCC0

関連資料:

➡ UPDATE IMSCON TYPE(RMTCICS) コマンド
(コマンド)

➡ RMTCICS ステートメント (システム定義)

**HWSV4500E FUNCTION WORK ELEMENT
PROCESSING FAILED; FUNC=*fn*,
R=*rc*, S=*sc*, M=*mc***

説明: 機能作業エレメント (FWE) を処理できません。FWE は、コンポーネント間の作業およびコンポーネン

ト内の作業を要求します。この構造には、処理の際にサービスが必要とする機能とパラメーターが入っています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

fn 要求された機能を示します。

rc サービスの戻りコード。詳しくは、以下の表を参照してください。

sc サービス・コード。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。

mc メッセージを出すモジュール。

次の表では、サービス・コードおよび戻りコードについて説明します。

表 82. HWSV4500E のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
INVFUNC	FWE で要求された機能が正しくない。	4	この問題は、処理エラーです。

システムの処置: このメッセージが発行され、可能な限り、機能の要求者に通知されます。その他の場合は、FWE は解放されます。どのような場合も IMS Connect は実行を続けます。

システム・プログラマーの応答: これはおそらく内部エラーです。問題報告データベースを検索して、問題の修正を探してください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

モジュール: QCVC - HWSQCVC0、QOCC - HWSQOCC0、QSCH - HWSQSCH0

**HWSV4600E TCP/IP SOCKET FUNCTION CALL
FAILED; F=*fn*, R=*rc*, E=*ec*, N=*rsn*,
RCIC=*rmtcics*, M=*mc***

説明: IMS Connect RMTCICS 通信ドライバーは、指定されたソケット機能を実行できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

fn TCP/IP ソケット機能呼び出しを識別する。可能な機能とその関連 z/OS UNIX System Services 呼び出し可能サービスについては、以下の表を参照してください。

rc TCP/IP 戻りコードを識別する。

- ec* TCP/IP エラー・コードを識別する。
- rsn* TCP/IP 理由コードを示します。
- rmtcics* リモート CICS サブシステムへの接続を示します。これは、RMTCICS 構成ステートメントの ID パラメーターに定義されています。
- mc* このメッセージを出すモジュールを示します。

表 83. HWSV4600E に対する機能名および関連 UNIX System Services 呼び出し可能サービス

機能名	UNIX System Services 呼び出し可能サービス
FREIPADR	BPX1FAI
GETIPADR	BPX1GAI

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は引き続き正常に実行されます。

システム・プログラマーの応答: 示された戻りコードおよびエラー・コードの考えられる原因については、「z/OS Communications Server IP and SNA Codes」を参照してください。

モジュール: QDCO - HWSQDCON, QDOT - HWSQDOTD, QDRC - HWSQDRCV, QDXM - HWSQDXMT

関連資料:

-  z/OS: ソケット戻りコード (ERRNO)
-  z/OS: z/OS UNIX システム・サービスの戻りコード
-  z/OS: 呼び出し可能サービスの説明

HWSV4630W THE RMTCICS DRIVER FAILED TO OBTAIN STORAGE; R=rc, S=sc, B=bn, M=mc

説明: IMS Connect RMTCICS 通信ドライバーが内部バッファ用のストレージを取得できませんでした。このエラーは、処理を完了するのに必要なストレージが十分に取得できないときに起こる可能性があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- rc* サービスに関連付けられた BPE 戻りコードを示します。
- sc* サービス・コードを示します。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
- bn* バッファ名を示します。
- mc* このメッセージを出すモジュールを示します。

考えられる原因: 処理を完了するのに必要なストレージが不足しています。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。進行中の要求メッセージが廃棄されます。

システム・プログラマーの応答: IMS Connect の領域サイズが十分であることを確認してください。問題が解決しない場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびメモリー・ダンプを提出してください。

モジュール: QDCO - HWSQDCON, QDOT - HWSQDOTD, QDRC - HWSQDRCV

関連資料:

-  BPE コード (メッセージおよびコード)

HWSV4800E FUNCTION WORK ELEMENT PROCESSING FAILED, FUNC=fn; R=rc, S=sc, M=mc

説明: 機能作業エレメント (FWE) を処理できません。FWE は、コンポーネント間の作業およびコンポーネント内の作業を要求します。この構造には、処理の際にサービスが必要とする機能とパラメーターが入っています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- fn* 要求された機能。
- rc* サービスの戻りコード。
- sc* サービス・コード。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
- mc* メッセージを出すモジュール。

表 84. HWSV4800E のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
INVFUNC	FWE で要求された機能が正しくない。	4	この問題は、処理エラーです。

システムの処置: このメッセージが発行され、可能な限り、機能の要求者に通知されます。その他の場合は、FWE は解放されます。どのような場合も IMS Connect は実行を続けます。

システム・プログラマーの応答: これはおそらく内部エ

ラーです。問題報告データベースを検索して、問題の修正を探してください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

モジュール: GCVC - HWSGCVC0

HWSV4820E CICS IPIC ERROR RC=ipicrc
HTTPRC=httprc MSGTYPE=msgtype
TEXT=description; PORT=port, C=clientid,
M=QREX

説明: IMS Connect は、ISC TCP/IP セッションで CICS から IP 相互接続性 (IPIC) エラー・メッセージを受け取りました。

IMS が使用可能な場合、IMS Connect は、IMS にエラーを通知します。

IMS が使用可能ではない場合、IMS Connect は、受け取ったエラー標識のタイプによっては、CICS にエラーを通知する場合があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

clientid エラー・メッセージを受け取った TCP/IP ソケット接続を識別するクライアント ID。クライアント ID は、IMS Connect によって生成されます。

description

エラーを説明するテキスト。

httprc Hypertext Transfer Protocol -- HTTP/1.1 規格に定義される 4 バイトの状況コード。HTTP 状況コードは、TCP/IP サーバーによってカスタマイズ可能です。特定の状況コードの意味および実行できるアクションについては、表 514 ページの表 85 の TEXT 値を調べてください。

2nn 200 から 299 までの範囲にある HTTP 状況コードは、エラーが HTTP 層内では発生しなかったことを示します。

4nn 400 から 499 の範囲内にある HTTP 状況コードは、エラーが「クライアント」に関連していることを示します。

ISC TCP/IP の場合、クライアントは通常、セッションを開始したサブシステムです。

5nn 500 から 599 の範囲内にある HTTP 状況コードは、エラーが「サーバー」に関連していることを示します。ISC TCP/IP の場合、サーバーは通常、セッション開始要求を受け取ったサブシステムです。

ipicrc 2 バイトの CICS IPIC 応答コードおよび理由コード。最初のバイトは応答コードです。2 つ目のバイトは理由コードです。

理由コードの解説と、実行できるアクションについては、表 514 ページの表 85 内で理由コードと共に示されているテキスト記述を参照してください。

以下のリストで考えられる応答コードについて説明します。

CICS IPIC 応答コード

02	例外イベントを示します
03	災害イベントを示します
04	メッセージが CICS では無効であることを示します
05	カーネル・エラーを示します
06	CICS がエラーをパージしたことを示します

msgtype

CICS IPIC メッセージ・タイプを示す 2 バイトのコード。

0001	機能交換要求
0002	機能交換応答
0006	同期点コマンド
0007	API 会話エラー
0008	セキュリティー・データ
000A	作業単位 ID
0043	API 要求または応答
0046	解放要求

QREX エラーの通知を受信した IMS Connect モジュール HWSQREX0

port CICS からのトランザクションと応答データを IMS Connect が受け取るソケットと関連付けられているポート番号。

表 85. HWSV4820E の TEXT フィールドのエラー説明

サービス・コード	HTTP 状況コード	IPIC 理由コード	意味
APPLID		X'06'	<p>CICS が受け取った機能交換メッセージでは、<i>server_applid</i> およびその高位修飾子が、CICS サブシステムの APPLID や高位修飾子と一致しません。</p> <p>こうなる可能性が最も高いのは、ISC ステートメントの CICSAPPL キーワードの値が、リモート CICS サブシステムの APPLID と一致しない場合です。</p> <p>IMS.PROCLIB データ・セットの IMS Connect 構成メンバーの ISC ステートメントで CICSAPPL キーワードの値を修正してください。</p> <p>CICS 理由テキスト: ISCE_INVALID_APPLID</p>
AUTOINSTALL		X'01'	<p>CICS 自動インストール機能は、CICS サブシステム内に必要な IPCONN リソースを作成できませんでした。</p> <p>自動インストール機能は、新規 IPCONN リソースの名前が、既存の IPCONN リソースの名前と同じ場合に失敗する可能性があります。</p> <p>自動インストール機能が作成する IPCONN リソースの名前は、/OPNDST NODE コマンドなどの IMS セッション開始要求で指定されるユーザー名から生成されるため、異なるユーザー名でのセッションの開始を試みてください。</p> <p>CICS 理由テキスト: AUTOINSTALL_FAILED</p>
CAPEXRACE		X'15'	<p>機能交換の競合。IMS と CICS 間のセッションが、IMS と CICS で同時に開始されたので、2 つの機能交換要求の間に競合状態が発生しました。IMS /OPNDST コマンドを再実行してください (6)。</p> <p>IMS または CICS のいずれかからセッションの開始を再実行してください。</p> <p>CICS 理由テキスト: CAPEX_RACE</p>
DFHxxxxx			<p>API 会話エラー。DFHxxxxx は、IMS Connect に返された CICS API エラー・メッセージです。ここで xxxxx は番号、DFH は CICS メッセージ接頭語です。</p> <p>これはおそらく内部エラーです。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。</p>
HTTPRQST	X'400'		<p>HTTP プロトコルまたは TCP/IP サーバーにより定義され、誤った形式の構文のためにサーバーが要求を認識できなかったことを示します。</p> <p>セッション開始要求はおそらく無効であり、受信側のサブシステムが認識できませんでした。</p> <p>セッションを開始しているサブシステムで ISC TCP/IP セッション開始要求が正しく構成されていることを確認してください。</p> <p>問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。</p>
HTTPERR		X'0B'	<p>コールバック接続に関連付けられている機能交換応答に、エラーを示す HTTP 状況コードが含まれていました。</p> <p>CICS 理由テキスト: IS CER_HTTP_ERROR</p>

表 85. HWSV4820E の TEXT フィールドのエラー説明 (続き)

サービス・コード	HTTP 状況コード	IPIC 理由コード	意味
IPCONNNO		X'13'	<p>IPCONN リソースがありません。</p> <p>CICS TCPIP SERVICE リソースの接続を獲得または解放する試みが行われましたが、TCPIP SERVICE リソースには関連する IPCONN リソースがありません。</p> <p>エラーの原因は、CICS サブシステム内の不適切な TCPIP SERVICE または IPCONN リソース定義である可能性があります。リソース定義のエラーがあればすべて訂正して、セッションの開始を再試行してください。</p> <p>CICS 理由テキスト: NO_IPCONN</p>
IPCONNNOTFND		X'04'	<p>IPCONN が見つからない。</p> <p>CICS サブシステムとの接続を獲得または解放する試みが行われましたが、必要な IPCONN リソースが現在存在していないか、見つかりません。</p> <p>CICS 理由テキスト: IPCONN_NOT_FOUND</p>
IPCONNONEWAY		X'14'	<p>ISC TCP/IP セッションには、両方向接続が必要ですが、CICS IPCONN リソースは、片方向接続を使用するように定義されています。</p> <p>CICS IPCONN リソース定義を訂正します。</p> <p>CICS 理由テキスト: IS CER_ONE_WAY_IPCONN</p>
IPCONNSTATE		X'02'	<p>IPCONN 状態が無効。</p> <p>ISCO ACQUIRE_CONNECTION が発行されましたが、CICS IPCONN リソースが適切な状態ではないため失敗しました。</p> <p>IPCONN リソースの状態は INSERVICE および RELEASED でなければなりません。</p> <p>セッションの開始を再度試みてください。問題が引き続き発生する場合は、CICS システム管理者に連絡してください。</p> <p>CICS 理由テキスト: INVALID_IPCONN_STATE</p>

表 85. HWSV4820E の TEXT フィールドのエラー説明 (続き)

サービス・コード	HTTP 状況コード	IPIC 理由コード	意味
OPENERR		X'0D'	<p>オープン・セッションのエラーです。</p> <p>IMS は、IMS Connect を使用して CICS との ISC TCP/IP セッションを開始しようとしたが、IMS と CICS サブシステム間の機能交換が失敗しました。</p> <p>例えば、CICS DFHCSD データ・セットの IPCONN リソース定義の PORT キーワードに指定した値が、HWSCFGxx PROCLIB メンバーの TCPIP ステートメントの CICSPORT キーワードの ID サブパラメーターで IMS Connect にも定義されていない場合に、このエラーが発行されます。</p> <p>これは、構成上の問題または定義の問題である可能性があります。</p> <p>すべての IMS、IMS Connect、および CICS PROCLIB メンバーとリソースが正しく定義されていることを確認してください。定義ステートメントにエラーがあれば訂正してください。</p> <p>CICS 理由テキスト:</p>
PARTNERSTATE		X'03'	<p>パートナー状態が無効です。</p> <p>CICS は、無効な状態にある IPCONN リソースの機能交換要求を受け取りました。</p> <p>IPCONN リソースの状態は INSERVICE であることが必要ですが、まだ獲得されていません。</p> <p>セッションの開始を再度試みてください。問題が引き続き発生する場合は、CICS システム管理者に連絡してください。</p> <p>CICS 理由テキスト: INVALID_PARTNER_STATE</p>
RECOVERR		X'08'	<p>機能交換リカバリー・エラー。</p> <p>CICS はサポートされない <i>isce_preferred_recovery</i> 値を含む機能交換要求を受け取り、フォールバック先として一致する <i>isce_supported_protocols</i> フラグが設定されていません。</p> <p>これはおそらく内部エラーです。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。</p> <p>CICS 理由テキスト: ISCE_BAD_RECOV</p>

表 85. HWSV4820E の TEXT フィールドのエラー説明 (続き)

サービス・コード	HTTP 状況コード	IPIC 理由コード	意味
RESPBAD		X'09'	<p>CICS IPIC 応答が不適切です。</p> <p>CICS が受け取ったコールバック機能交換応答には、不適切な応答と理由コードが含まれています。</p> <p>CICS IPCONN リソース定義の PORT 属性で定義されたポートが、IMS Connect PROCLIB 構成メンバーの TCPIP ステートメントの CICSSPORT キーワードの ID サブパラメーターで IMS Connect にも定義されていない場合に、このエラーが機能交換中に発生する可能性があります。</p> <p>すべての IMS、IMS Connect、および CICS PROCLIB メンバーとリソースが正しく定義されていることを確認してください。</p> <p>CICS 理由テキスト: IS CER_BAD_RESPONSE</p>
RESPERR		X'0A'	<p>機能交換応答エラー。</p> <p>コールバック機能交換応答が無効なことが判明しました。</p> <p>これは、IMS、IMS Connect、または CICS いずれかの内部エラーです。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。</p> <p>CICS 理由テキスト: IS CER_ERROR</p>
RESPTIMEOUT		X'0C'	<p>機能交換応答がタイムアウトになりました。</p> <p>機能交換要求への応答が、指定したタイムアウト期間内に受信されませんでした。</p> <p>システム・プロファイル DFHCICSC の CICS IPIC 要求のタイムアウト値 (RTIMOUT) を増やします。</p> <p>RTIMOUT 値の形式は <i>mmss</i> であり、ここで <i>mm</i> は分、<i>ss</i> は秒です。例えば、タイムアウト値を 1 分に変更するには、ALTER PROFILE(DFHCICSx) GROUP(IMSISCIP) RTIMOUT(0100) と指定します。</p> <p>CICS トランザクション CEDA を使用してタイムアウト値を表示または更新します</p> <p>CICS 理由テキスト: IS CER_TIMED_OUT</p>
RQSTERR		X'05'	<p>機能交換要求エラー。</p> <p>機能交換要求は無効なことが判明し、パートナー CICS サブシステムにリジェクトされました。IMS または IMS Connect がセッションを開始するために誤った機能交換要求メッセージを作成しました。</p> <p>IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。</p> <p>CICS 理由テキスト:</p>

表 85. HWSV4820E の TEXT フィールドのエラー説明 (続き)

サービス・コード	HTTP 状況コード	IPIC 理由コード	意味
RQSTTIMEOUT		X'07'	<p>CICS IPIC 要求がタイムアウトになりました。</p> <p>TCPIPSERVICE トランザクション (デフォルトでは CISS) は、IPCONN リソースの接続を初期設定するために接続されましたが、トランザクション・プロファイルに定義されているタイムアウト期間内に機能交換要求を受け取りませんでした。</p> <p>システム・プロファイル DFHCICSC の CICS IPIC 要求のタイムアウト値 (RTIMOUT) を増やします。</p> <p>RTIMOUT 値の形式は <i>mmss</i> であり、ここで <i>mm</i> は分、<i>ss</i> は秒です。例えば、タイムアウト値を 1 分に変更するには、ALTER PROFILE(DFHCICSC) GROUP(IMSICIP) RTIMOUT(0100) と指定します。</p> <p>CICS トランザクション CEDA を使用してタイムアウト値を表示または更新します</p> <p>CICS 理由テキスト: ISCE_TIMED_OUT</p>
SECURITY		X'16'	<p>セキュリティ・エラー。呼び出し元のセキュリティ資格情報が、パートナー・システムに受け入れられません。</p> <p>CICS 理由テキスト: ISCE_SECURITY_VIOLATION</p>
SHUTDOWN		X'0E'	<p>CICS がシャットダウンされています。</p> <p>IPCONN リソースを獲得または初期設定するために DFHISCO への呼び出しが行われましたが、CICS は呼び出しが完了する前にシャットダウンされています。</p> <p>CICS がアクティブであることを確認してください。CICS がアクティブになっていない場合は、開始してください。</p> <p>CICS 理由テキスト: SHUTDOWN</p>
SOCKETERR		X'18'	<p>クライアント・ソケット・エラークライアント接続はクローズされました。</p> <p>CICS 理由テキスト: ISCE_CLIENT_CONNECTION_CLOSED</p>
SOCKETSECERR		X'19'	<p>2 次ソケット・エラー。2 次ソケットを取得しようとしたときにエラーが発生しました。</p> <p>CICS 理由テキスト: ISCE_SEC SOCK_ERROR</p>
SRVCCLOSED		X'0F'	<p>TCP/IP サービスが使用不可です。</p> <p>接続を得ようとする試みは、TCP/IP サポートが使用不可のために失敗しました。</p> <p>TCP/IP サービスを開始してから、ISC TCP/IP セッションの開始を再試行してください。</p> <p>CICS 理由テキスト: TCPIP_CLOSED</p>

表 85. HWSV4820E の TEXT フィールドのエラー説明 (続き)

サービス・コード	HTTP 状況コード	IPIC 理由コード	意味
SRVCMISMATCH		X'10'	<p>TCPIPSERVICE ミスマッチ。</p> <p>TCPIPSERVICE とは異なる TCPIPSERVICE を使用するように定義されている IPCONN リソースに対する機能交換要求を受け取りました。</p> <p>このエラーは、CICS TCPIPSERVICE と IPCONN のリソース定義に定義されているポートが一致しない場合に発生する可能性があります。</p> <p>すべての IMS、IMS Connect、および CICS PROCLIB メンバーとリソースが正しく定義されていることを確認してください。エラーがあれば訂正します。</p> <p>CICS 理由テキスト: TCPIPSERVICE_MISMATCH</p>
SRVCNOTFOUND		X'11'	<p>IPCONN リソースに参照される TCPIPSERVICE リソースが CICS サブシステムで見つかりませんでした。</p> <p>IPCONN リソース定義内で参照されている TCPIPSERVICE リソースがインストールされていないか、削除されたために、CICS は接続を獲得または解放できませんでした。</p> <p>セッションの開始を再度試みてください。問題が引き続き発生する場合は、CICS システム管理者に連絡してください。TCPIPSERVICE リソースを再インストールして開くことが必要な場合があります。</p> <p>CICS 理由テキスト: TCPIPSERVICE_NOT_FOUND</p>
SRVCNOTOPEN		X'12'	<p>CICS サブシステムの TCPIPSERVICE リソースがオープンされていません。</p> <p>CICS サブシステムは、IPCONN リソースの接続を獲得しようとしたが、IPCONN リソース定義で指定されている TCPIPSERVICE がオープンされていません。</p> <p>セッションの開始を再度試みてください。問題が引き続き発生する場合は、CICS システム管理者に連絡してください。</p> <p>CICS 理由テキスト: TCPIPSERVICE_NOT_OPEN</p>
SRVCUNAVAIL	X'503'		<p>HTTP プロトコルまたは z/OS TCP/IP サーバーにより定義され、過負荷または保守のためのサービス停止が理由で TCP/IP サーバーが一時的に使用不可であることを示します。</p> <p>TCP/IP サーバーがアクティブであることを確認してください。TCP/IP サーバーがアクティブになっていない場合は、開始してください。</p>
SRVRERR	X'500'		<p>HTTP プロトコルまたは z/OS TCP/IP サーバーによって定義され、TCP/IP サーバーで予期しない状態が検出されたために、要求を実行できなかったことを示しています。</p> <p>Hypertext Transfer Protocol -- HTTP/1.1</p>
UNKNOWN		X'63'	<p>不明なエラー。これはおそらく内部エラーです。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。</p>

システムの処置: セッションがすでに確立されている場合、IMS Connect はメッセージを IMS に転送しません。メッセージの内容によっては、IMS もエラー・メッセージを発行し、セッションを強制終了します。

セッションがまだ確立されていない場合、IMS Connect はメッセージを破棄します。

システム・プログラマーの応答: 前述の表にある TEXT= の値を参照して、問題を解決するために実行可能なアクションを調べてください。

モジュール: GREC - HWSGRECO

関連タスク:

 CICS との ISC TCP/IP 接続のセットアップ (コミュニケーションおよびコネクション)

HWSV4830W THE CICSPT COMMUNICATIONS COMPONENT FAILED TO OBTAIN STORAGE; R=rc, S=sc, B=bn, M=mc

説明: おそらく処理を完了するのに十分なストレージがなかったため、IMS Connect CICSPT 通信コンポーネントは内部バッファ用ストレージを取得できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- rc* メッセージ・テキストの *sc* で示されたサービスによって発行された戻りコード。
- sc* サービス・コード。これはサービス (通常は BPE サービス) の名前です。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
- bn* バッファ名。
- mc* メッセージの発行元のモジュール。

考えられる原因: 処理を完了するのに必要なストレージが不足しています。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS に通知され、IMS Connect は引き続き実行されます。進行中の要求メッセージが廃棄されます。

システム・プログラマーの応答: IMS Connect の領域

サイズが十分であることを確認してください。

エラーが BPE サービスに関連する場合は、メッセージに示された BPE サービスの戻りコードを調べてください。

問題が解決しない場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびメモリー・ダンプを提出してください。

モジュール: GREC - HWSGRECO

HWSV4840W HWSV4840W MESSAGE FAILED, ORIGIN=portid clientid TO DESTID=isc_id; CICSAPPL=cicsappl; R=rc, S=sc, M=mc

説明: IMS Connect は、ポート *portid* のソケット接続 *clientid* 上の CICS サブシステム *cicsappl* から受信したメッセージを、宛先 ISC リンク *isc_id* に転送できません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- cicsappl* メッセージを送信した CICS サブシステムの APPLID。
- clientid* IMS Connect によって生成され、ISC リンクに割り当てられた TCP/IP クライアント。
- isc_id* ISC ステートメントの ID キーワードに指定されている宛先 ISC リンクの ID。宛先 ISC リンクが判別できない場合は、UNKNOWN が表示されます。
- mc* メッセージを出すモジュール。
- portid* TCP/IP ポート (CICSPT)。
- rc* 戻りコード。
- sc* サービス・コード。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 86. HWSV4840W のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
DISCONN	アクティブなデータ・ストア・テーブル (DST) ブロックが見つかりましたが、ターゲット IMS が到達可能ではありません。IMSPLEX が停止されている可能性があります。そうではない場合、ターゲット IMS または SCI が使用可能ではありません。	4	これは処理エラーです。 IMSPLEX が開始されていること、IMS と SCI が使用可能であることを確認してください。
DSCLOSE	すべての ISC リンクが非アクティブになっています。IMS Connect は、CLOSEHWS コマンドに応じてシャットダウンしている可能性があります。	12	これは処理エラーです。
NFNDDST	DST ブロックが見つかりません。このテーブルでは、IMS への ISC 接続のアクティビティが維持されています。	4	これは処理エラーです。
NFNDFUNC	要求された機能が見つかりません。IMS Connect コンポーネントの 1 つが別のコンポーネントのサービスのインターフェース呼び出しを発行しましたが、要求されたサービスが見つかりません。	8	これは処理エラーです。
NOTACTV	DST ブロックがアクティブではないか、停止されています。	8	これは処理エラーです。IMS との ISC 接続が IMS Connect で開始されることを確認してください。
SHUTDOWN	CLOSEHWS コマンドが発行されました。IMS Connect 終了の処理中です。	8	終了の処理中。
STP/CLSE	ISC リンクまたは IMSplex が停止またはクローズの処理中です。	4	これは処理エラーです。

システムの処置: IMS Connect はこのメッセージを発行し、引き続き実行されます。進行中のメッセージがリリースされます。IMS Connect は、ソケット接続を終了し、クライアント・リソースを削除します。

システム・プログラマーの応答: 応答はサービス・コードによって異なります。

サービス・コード DSCLOSE、NFNDDST、および SHUTDOWN の場合、データ・ストアはアクティブでなくなったか、または IMS Connect に接続されなくなりました。データ・ストアが終了した理由、または ISC 接続を停止するためのコマンドが発行されたかどうかを調べてください。

サービス・コード DISCONN の場合、IMS へのパスが

IMS Connect では使用可能ではなくなりました。IMSPLEX データ・ストアが停止されているかどうか、SCI が使用不可か、IMS が使用不可かどうかを調査してください。

モジュール: GREC - HWSGREC0

関連資料:

 CLOSEHWS コマンド (コマンド)

 IMS Connect SHUTDOWN MEMBER コマンド (コマンド)

 UPDATE IMSCON TYPE(ISC) コマンド (コマンド)

ISC ステートメント (システム定義)

HWSV5000E TCP/IP SOCKET FUNCTION CALL

**FAILED; F=fn, R=rc, E=ec, N=rsn,
PORT=port, M=mc**

説明: IMS Connect CICSPOINT 通信ドライバーは、指定されたソケット機能を実行できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- fn* TCP/IP ソケット機能呼び出しを識別する。可能な機能とその関連 z/OS UNIX System Services 呼び出し可能サービスについては、以下の表を参照してください。
- rc* TCP/IP 戻りコードを識別する。
- ec* TCP/IP エラー・コードを識別する。
- rsn* TCP/IP 理由コードを示します。
- port* ソケットに関連付けられているポートを識別します。
- mc* このメッセージを出すモジュールを示します。

表 87. HWSV5000E に対する機能名および関連 UNIX System Services 呼び出し可能サービス

機能名	UNIX System Services 呼び出し可能サービス
CLOSESOC	BPX1CLO
CONNECT	BPX1CON
CONNECT6	BPX1CON
FREIPADR	BPX1FAI
GETIPADR	BPX1GAI
GETSOCK	BPX1SOC
GETSOCK6	BPX1SOC
READ	BPX1AIO (AIO#READ)
READNOCN	なし - おそらく TCP/IP がダウンしているため、現在この接続は使用できません。
READSTOP	なし - TCP/IP 読み取り機能は、STOPSLCN などのコマンドまたは CLOSEHWS FORCE WTOR 形式のコマンドによって停止しました。
SHUTDSOC	BPX1SHT
WRITE	BPX1AIO (AIO#WRITE)

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は引き続き正常に実行されます。

システム・プログラマーの応答: 示された戻りコードおよびエラー・コードの考えられる原因については、「z/OS Communications Server IP and SNA Codes」を参照してください。

モジュール: GDRC - HWSGDRCV、GDXM - HWSGDXTM

関連資料:

- z/OS: ソケット戻りコード (ERRNO)
- z/OS: z/OS UNIX システム・サービスの戻りコード
- z/OS: 呼び出し可能サービスの説明

HWSV5030W THE CICSPOINT DRIVER FAILED TO OBTAIN STORAGE; R=rc, S=sc, B=bn, M=mc

説明: おそらく処理を完了するのに十分なストレージがなかったため、IMS Connect CICSPOINT 通信ドライバーは内部バッファ用ストレージを取得できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- rc* サービスの戻りコード。
- sc* サービス・コード。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。次のコードは、BPE ストレージ・サービス・コードです。
 - BPECBGET
 - BPEGETM
- bn* バッファ名。
- mc* メッセージの発行元のモジュール。

考えられる原因: 処理を完了するのに必要なストレージが不足しています。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。ストレージの取得の失敗によって通信エラーが発生した場合は、他のエラー・メッセージも発行されます。

システム・プログラマーの応答: エラーが BPE サービスに関連する場合は、メッセージに示された BPE サービスの戻りコードを調べてください。

問題が解決しない場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。原因が見つからない場合は、戻りコード、サービス・コード、バッファ名、およびバッファ・アドレスを記録して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際に

は、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

モジュール: GDRC - HWSGDRCV

HWSX0901E UNABLE TO ALLOCATE ENVIRONMENT SYSTEM TABLE;
R=rc, S=sc, M=mc

説明: 環境システム・テーブル (EST) にストレージを割り振ることができません。EST は、IMS Connect コンポーネントが使用するすべての共通サービス・ルーチン、制御テーブル、および制御ブロックを固定 (アンカー) します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *rc* は、戻りコードを識別します。
- *sc* は、サービス・コードを識別します。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 88. HWSX0901E のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
BPEGETM	BPEGETM。ストレージを獲得するのに使用されるシステム・サービス。	4	正しくないサブプールまたはサブプールが指定されている。
		8	長さゼロが要求されている。
		12	要求されたストレージを取得できません (z/OS GETMAIN が失敗)。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は終了します。

システム・プログラマーの応答: JCL ステートメントで指定された領域サイズが、IMS Connect 領域を十分収容できるものであることを確認してください。エラーが再発する場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してく

ださい。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

モジュール: XTRS - HWSXTRS0

HWSX0902E UNABLE TO ALLOCATE INTERFACE STRUCTURE; R=rc, S=sc, M=mc

説明: インターフェース実行構造にストレージを割り振ることができません。この構造は、IMS Connect 内の各コンポーネントがサポートする機能へのリンケージを含みます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *rc* は、戻りコードを識別します。
- *sc* は、サービス・コードを識別します。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 89. HWSX0902E のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
GETINTF	BPEGETM。インターフェース制御ブロック構造を獲得するのに使用されるシステム・サービス。	4	誤った CBTE アドレスが CB 取得ルーチンに渡されている。これは、内部システム・エラーです。
		8	ストレージが不足なので、要求を満たすことができません。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は終了します。

システム・プログラマーの応答: JCL ステートメントで指定された領域サイズが、IMS Connect 領域を十分収容できるものであることを確認してください。エラーが再発する場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

モジュール: ITBL - HWSITBL0

HWSX0903E UNABLE TO ALLOCATE EXECUTION TABLE; R=rc, S=sc, M=mc

説明: 実行テーブル (E_table) にストレージを割り振ることができません。この構造には、IMS Connect 環境で実行するために、それぞれのコンポーネントで必要になるコンポーネント関連データが含まれています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- rc は、戻りコードを識別します。
- sc は、サービス・コードを識別します。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
- mc は、このメッセージを出すモジュールを示します。

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 90. HWSX0903E のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
GETETBL	BPEGETM。実行表を取得するために使用されるシステム・サービス。	4	誤った CBTE アドレスが CB 取得ルーチンに渡されている。これは、内部システム・エラーです。
		8	ストレージが不足なので、要求を満たすことができません。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は終了します。

システム・プログラマーの応答: JCL ステートメントで指定された領域サイズが、IMS Connect 領域を十分収容できるものであることを確認してください。エラーが再発する場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからな

い場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

モジュール: XHD0 - HWSXHD00、XSH0 - HWSXSH00、XCM0 - HWSXCM00

HWSX0904E UNABLE TO ALLOCATE COMPONENT INTERFACE; R=rc, S=sc, M=mc

説明: コンポーネントが、サポートしている機能用のインターフェースを登録できません。このメッセージは、メッセージ HWSX0902E に続いて出され、コンポーネント・インターフェース構造にストレージを割り振ることができないことを示します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- rc は、戻りコードを識別します。
- sc は、サービス・コードを識別します。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
- mc は、このメッセージを出すモジュールを示します。

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 91. HWSX0904E のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
REGINTFR	HWSINTFR は、コンポーネントのインターフェースを登録するのに使用される IMS Connect サービスです。	4	誤った CBTE アドレスが CB 取得ルーチンに渡されている。これは、内部システム・エラーです。
		8	ストレージが不足なので、要求を満たすことができません。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は終了します。

システム・プログラマーの応答: JCL ステートメントで指定された領域サイズが、IMS Connect 領域を十分収容できるものであることを確認してください。エラーが再発する場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

モジュール: XHD1 - HWSXHD10、XSH1 - HWSXSH10、XCM1 - HWSXCM10

HWSX0905E UNABLE TO ALLOCATE MASTER SERVER; R=rc, S=smc, M=mc

説明: マスター・サーバー制御構造にストレージを割り当てられないか、またはマスター・サーバー・スレッド

表 92. HWSX0905E のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
GETTWUB	BPECBGET。スレッド作業単位 (TWU) を獲得するのに使用されるシステム・サービス。	4	誤った CBTE アドレスが CB 取得ルーチンに渡されている。これは、内部システム・エラーです。
		8	ストレージが不足なので、要求を満たすことができません。
SCHEDTWU	BPETHDCR。スレッドをスケジュールするのに使用されるシステム・サービス。	4	誤ったディスパッチャー作業域が、スレッド作成ルーチンに渡されている。
		8	誤った TCB 索引値が TCBIDX パラメーターに渡されている。
		12	ゼロのルーチン・アドレスが、ROUTINE= パラメーターに渡されている。
		16	誤った TCB 表エントリー・アドレスが、スレッド作成ルーチンに渡されている。 BPETHDCR マクロは、パラメーター TCBTYPE、TCBIDX、あるいは TCBDWA のいずれかが指定されているかに基づいて、TCBT アドレスを判別する。このパラメーターが正しくコーディングされていることを確認してください。
		20	該当のスレッドのスレッド制御ブロック (THCB) 用のストレージを入手できません。

をスケジュールできません。このサーバーは、IMS Connect 環境に送信された要求のうち、特定のコンポーネントに送信されないすべての要求にサービスを提供します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *rc* は、戻りコードを識別します。
- *sc* は、サービス・コードを識別します。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 92. HWSX0905E のサービス・コードおよび戻りコードの説明 (続き)

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
		24	該当のスレッド用のスタック・ストレージを入手できません。
		28	該当のスレッドの初期ポストが失敗しました。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は終了します。

システム・プログラマーの応答: JCL ステートメントで指定された領域サイズが、IMS Connect 領域を十分収容できるものであることを確認してください。エラーが再発する場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

モジュール: XTRS - HWSXTRS0

XUGP - HWSXUGP0

HWSX0907E UNABLE TO START OPEN/CLOSE CONTROLLER; R=rc, S=sc, M=mc

説明: オープン/クローズ・コントローラ構造にストレージを割り振ることができないか、またはオープン/

表 93. HWSX0907E のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
GETTWUB	BPECBGET。オープン/クローズ・コントローラ用のスレッド作業単位 (TWU) の獲得に使用されるシステム・サービス。	4	誤った CBTE アドレスが CB 取得ルーチンに渡されている。これは、内部システム・エラーです。
		8	ストレージが不足なので、要求を満たすことができません。
GTCLTWUB	BPECBGET。RMTIMSCON オープン/クローズ・コントローラ用のスレッド作業単位 (TWU) の獲得に使用されるシステム・サービス。	4	誤った CBTE アドレスが CB 取得ルーチンに渡されている。これは、内部システム・エラーです。
		8	ストレージが不足なので、要求を満たすことができません。
GTRCTWUB	BPECBGET。RMTICICS オープン/クローズ・コントローラ用のスレッド作業単位 (TWU) の獲得に使用されるシステム・サービス。	4	誤った CBTE アドレスが CB 取得ルーチンに渡されている。これは、内部システム・エラーです。
		8	ストレージが不足なので、要求を満たすことができません。

クローズ・コントローラ・スレッドをスケジュールできません。このコントローラは、IMS Connect がデータ・ストアおよび IMS Connect クライアントと通信するために使用する通信機能とのリンケージを管理しません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *rc* は、戻りコードを識別します。
- *sc* は、サービス・コードを識別します。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 93. HWSX0907E のサービス・コードおよび戻りコードの説明 (続き)

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
HWSDOTMA	OTMA ドライバーのロードに失敗しました。	12	モジュールが見つかりません。
		16	BLDL が失敗しました。
		20	ロードに失敗しました。
HWSOPMGR	IMSPLEX ドライバーのロードに失敗しました。	12	モジュールが見つかりません。
		16	BLDL が失敗しました。
		20	ロードに失敗しました。
HWSODOBM	ODBM ドライバーのロードに失敗しました。	12	モジュールが見つかりません。
		16	BLDL が失敗しました。
		20	ロードに失敗しました。
HWSDMTCP	MSC ドライバーのロードに失敗しました。	12	モジュールが見つかりません。
		16	BLDL が失敗しました。
		20	ロードに失敗しました。
HWSDITCP	ISC ドライバーのロードに失敗しました。	12	モジュールが見つかりません。
		16	BLDL が失敗しました。
		20	ロードに失敗しました。
SCHEDTWU	BPETHDCR。オープン / クローズ・コントローラー・スレッドをスケジューリングするのに使用されるシステム・サービス。	4	誤ったディスパッチャー作業域が、スレッド作成ルーチンに渡されている。
		8	誤った TCB 索引値が TCBIDX パラメーターに渡されている。
		12	ゼロのルーチン・アドレスが、ROUTINE= パラメーターに渡されている。
		16	誤った TCB 表エントリー・アドレスが、スレッド作成ルーチンに渡されている。 BPETHDCR マクロは、パラメーター TCBTYPE、TCBIDX、あるいは TCBDWA のいずれが指定されているかに基づいて、TCBT アドレスを判別する。このパラメーターが正しくコーディングされていることを確認してください。
		20	該当のスレッドのスレッド制御ブロック (THCB) 用のストレージを入手できません。
		24	該当のスレッド用のスタック・ストレージを入手できません。
28	該当のスレッドの初期ポストが失敗しました。		

表 93. HWSX0907E のサービス・コードおよび戻りコードの説明 (続き)

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
SCHRITWU	BPETHDCR。 RMTIMSCON オープン/クローズ・コントローラー・スレッドをスケジュールするのに使用されるシステム・サービス。	4	誤ったディスパッチャー作業域が、スレッド作成ルーチンに渡されている。
		8	誤った TCB 索引値が TCBIDX パラメーターに渡されている。
		12	ゼロのルーチン・アドレスが、ROUTINE= パラメーターに渡されている。
		16	誤った TCB 表エントリー・アドレスが、スレッド作成ルーチンに渡されている。 BPETHDCR マクロは、パラメーター TCBTYPE、TCBIDX、あるいは TCBDWA のいずれが指定されているかに基づいて、TCBT アドレスを判別する。このパラメーターが正しくコーディングされていることを確認してください。
		20	該当のスレッドのスレッド制御ブロック (THCB) 用のストレージを入手できません。
		24	該当のスレッド用のスタック・ストレージを入手できません。
SCHRCTWU	BPETHDCR。 RMTICICS オープン/クローズ・コントローラー・スレッドをスケジュールするのに使用されるシステム・サービス。	4	誤ったディスパッチャー作業域が、スレッド作成ルーチンに渡されている。
		8	誤った TCB 索引値が TCBIDX パラメーターに渡されている。
		12	ゼロのルーチン・アドレスが、ROUTINE= パラメーターに渡されている。
		16	誤った TCB 表エントリー・アドレスが、スレッド作成ルーチンに渡されている。 BPETHDCR マクロは、パラメーター TCBTYPE、TCBIDX、あるいは TCBDWA のいずれが指定されているかに基づいて、TCBT アドレスを判別する。このパラメーターが正しくコーディングされていることを確認してください。
		20	該当のスレッドのスレッド制御ブロック (THCB) 用のストレージを入手できません。
		24	該当のスレッド用のスタック・ストレージを入手できません。
		28	該当のスレッドの初期ポストが失敗しました。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は終了します。

システム・プログラマーの応答: JCL ステートメントで指定された領域サイズが、IMS Connect 領域を十分収容できるものであることを確認してください。エラー

が再発する場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

モジュール: XHD3 - HWSXHD30、XSH3 - HWSXSH30

関連資料:

 BPE コード (メッセージおよびコード)

HWSX0909E ERROR IN PROCESSING CONFIG MEMBER *name*; **M=mc**
variable text

説明: CONFIG メンバー指定の処理中に、実行制御構造用のストレージの指定または割り振りが正しくない、などのエラーが検出されています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

name CONFIG メンバーの名前を示します。

rc 戻りコードを識別します。

sc サービス・コードを示します。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。

mc このメッセージを出すモジュールを示します。

pt PORTID パラメーターまたは SSLPORT パラメーターを示します。

表 1 は、戻りコード別に編成された HWSX0909E のサービス・コードと戻りコードを示しています。表 2 には、表 1 に示すサービス・コードのうち、可変の戻りコードがあるものを示しています。

表 94. 戻りコード別に編成された HWSX0909E のサービス・コードおよび戻りコードの説明

戻りコード	サービス・コード	可変テキスト	意味
rc	BPEGETM	UNABLE TO GET STORAGE; R=rc, S=sc	BPEGETM サービスが、ストレージを取得できませんでした。rc は、BPEGETM からの戻りコードです。
rc	BPERDPDS	ERROR READING MEMBER; R=rc, S=sc	BPERDPDS サービスが構成データ・セットを読み取ることができませんでした。rc は、BPERDPDS からの戻りコードです。
rc	BPEPARSE	ERROR PARSING MEMBER; R=rc, S=sc	BPEPARSE からの rc。
rc	GETSCTB	UNABLE TO ALLOCATE SCT; R=rc, S=sc	BPECBGET からの rc。
rc	GETDCTB	UNABLE TO ALLOCATE DCT; R=rc, S=sc	BPECBGET からの rc。
32	DUPPORT	DUPLICATE PORTID; R=rc, S=sc	複数の PORT ステートメントに同じポート ID が指定されました。
rc	GETXIB	UNABLE TO ALLOCATE XIB; R=rc, S=sc	BPEGETM からの rc。
rc	GETXIBDS	UNABLE TO ALLOCATE XIBDS; R=rc, S=sc	BPEGETM からの rc。
44	MULSSLPT	MULTIPLE SSL PORT IS NOT ALLOWED; R=rc, S=sc	複数の SSL ポートが指定されました。SSL ポートは 1 つしか認められません。
48	DUPODBM	DUPLICATE ODACCESS DEFINITION; R=rc, S=sc	複数の ODACCESS ステートメントが指定されました。
52	DUPDSID	DUPLICATE DATASTORE ID; R=rc, S=sc	複数の DATASTORE ステートメントに同じデータ・ストア ID が指定されました。
56	INVPTID	INVALID PORTID SPECIFIED; R=rc, S=sc	指定されたポート ID が 1 から 65535 の範囲内にありませんでした。

表 94. 戻りコード別に編成された HWSX0909E のサービス・コードおよび戻りコードの説明 (続き)

戻りコード	サービス・コード	可変テキスト	意味
60	NOIMSPLX	ODBMAUTOCONN=Y IS SPECIFIED WITHOUT IMSPLEX; R=rc, S=sc	ODBMAUTOCONN=Y の指定時には IMSPLEX が必須です。
64	NOUSERID	THE USERID IS NOT SPECIFIED BUT THE APPL IS; R=rc, S=sc	RMTIMSCON ステートメントでは、 APPL の指定時に USERID が必須です。
68	NOAPPLID	THE APPL IS NOT SPECIFIED BUT THE USERID IS; R=rc, S=sc	RMTIMSCON ステートメントでは、 USERID の指定時に APPL が必須です。
72	DUPRMTID	DUPLICATE RMTIMSCON ID; R=rc, S=sc	同じ ID が、複数の RMTIMSCON ステ ートメントで指定されました。
76	NOIPHOST	NO IP ADDRESS OR HOSTNAME IS SPECIFIED; R=rc, S=sc	RMTIMSCON ステートメントでは、 IPADDR または HOSTNAME のいずれ かが必須です。RMTICICS ステートメント では HOSTNAME が必須です。
80	IPADHOST	BOTH IP ADDRESS AND HOSTNAME ARE SPECIFIED; R=rc, S=sc	RMTIMSCON ステートメントに IPADDR と HOSTNAME の両方が指定 されましたが、指定できるのは 1 つのみ です。
84	INVIPADD	AN INVALID IP ADDRESS IS SPECIFIED; R=rc, S=sc	IPADDR に無効値が指定されました。
88	MAXSOCKS	TOTAL RESVSOC VALUES EXCEED MAXSOC VALUE; R=rc, S=sc	構成で指定された予約済みソケットの総数 が MAXSOC 値を超えています。
92	DUPMSCID	DUPLICATE MSC LCLPLKID; R=rc, S=sc	MSC 物理リンク名が、それ以前に定義さ れたデータ・ストア名と重複しています。
96	INVRMTIC	INVALID RMTIMSCON VALUE IN MSC STATEMENT; R=rc, S=sc	MSC ステートメントに指定された RMTIMSCON 名は、RMTIMSCON ステ ートメントの ID パラメーターの値と一 致していなければなりません。
100	NORMTIC	NO RMTIMSCON DEFINED FOR THE MSC STATEMENT; R=rc, S=sc	MSC ステートメントでは RMTIMSCON 名が必須です。
104	INVPLXID	INVALID IMSPLEX VALUE IN MSC STATEMENT; R=rc, S=sc	MSC ステートメントに指定された IMSPLEX は無効です。IMSPLEX は ODACCESS ステートメントに指定されて いるように ODBM の専用であるため です。
108	NOPORTID	NO PORTID SPECIFIED IN THE RMTIMSCON STMT; R=rc, S=sc	RMTIMSCON ステートメントでは PORT パラメーターが必須です。
112	INVRMTID	INVALID ID IS SPECIFIED IN RMTIMSCON STMT; R=rc, S=sc	RMTIMSCON ステートメントの ID パラ メーターに指定された値が無効です。
116	INVUSRID	INVALID USERID SPECIFIED IN RMTIMSCON STMT; R=rc, S=sc	RMTIMSCON ステートメントの USERID パラメーターに指定された値が無効です。
120	INVAPPL	INVALID APPL IS SPECIFIED IN RMTIMSCON STMT; R=rc, S=sc	RMTIMSCON ステートメントの APPL パラメーターに指定された値が無効です。

表 94. 戻りコード別に編成された HWSX0909E のサービス・コードおよび戻りコードの説明 (続き)

戻りコード	サービス・コード	可変テキスト	意味
124	DPLCLIMS	GENIMSID DUPLICATES LCLIMS IN MSC STMT; R= <i>rc</i> , S= <i>sc</i>	MSC ステートメント内で GENIMSID に指定された総称名が、別の MSC ステートメントの LCLIMS に指定されたローカル IMS 名と一致していました。
128	DPRMTIMS	GENIMSID DUPLICATES RMTIMS IN MSC STMT; R= <i>rc</i> , S= <i>sc</i>	MSC ステートメント内で GENIMSID に指定された総称名が、別の MSC ステートメントの RMTIMS に指定されたリモート IMS 名と一致していました。
132	MORE2IMS	TWO OR MORE LCLIMS SPECIFIED IN MSC STMT; R= <i>rc</i> , S= <i>sc</i>	MSC ステートメントの LCLIMS パラメーターに 2 つ以上のローカル IMS ID が指定されています。
136	SAMELIMS	LCLIMS1 DUPLICATES LCLIMS2 IN MSC STMT; R= <i>rc</i> , S= <i>sc</i>	MSC ステートメントの LCLIMS パラメーターに指定されている 2 つのローカル IMS ID が同じです。これらは異なる ID でなければなりません。
140	NOGIMSID	GENIMSID IS MISSING IN THE MSC STMT; R= <i>rc</i> , S= <i>sc</i>	MSC ステートメントの LCLIMS パラメーターに 2 つのローカル IMS ID が指定されている場合は、GENIMSID が必要です。
144	NOPORTID	NO PORTID SPECIFIED IN THE RMTICICS STMT; R= <i>rc</i> , S= <i>sc</i>	RMTICICS ステートメントでは PORT パラメーターが必須です。
148	DUPCICID	DUPLICATE RMTICICS ID; R= <i>rc</i> , S= <i>sc</i>	RMTICICS ステートメントに指定された ID が別の RMTICICS ステートメントに指定された ID と同じです。
152	DUPCIMID	DUPLICATE RMTICICS AND RMTIMSCON ID; R= <i>rc</i> , S= <i>sc</i>	RMTICICS ステートメントに指定された ID が別の RMTIMSCON ステートメントに指定された ID と同じです。
156	DUPISCID	DUPLICATE ISC ID; R= <i>rc</i> , S= <i>sc</i>	ISC ID が、前に定義されたデータ・ストア名と重複しています。
160	NORCIMS	NO RMTIMSCON OR RMTICICS DEFINED IN ISC STMT; R= <i>rc</i> , S= <i>sc</i>	ISC ステートメントでは RMTICICS パラメーターが必須です。
172	INVIRMTIC	INVALID RMTICICS VALUE IN ISC STATEMENT; R= <i>rc</i> , S= <i>sc</i>	ISC ステートメントに指定された RMTICICS 名は、RMTICICS ステートメントの ID パラメーターの値と一致していなければなりません。
184	MAXPORTS	TOTAL NUMBER OF PORTS EXCEEDS MAXIMUM; R= <i>rc</i> , S= <i>sc</i>	PORT パラメーターによって指定されたポートの総数が、IMS Connect の許容最大値を超えています。
188	MAXRMTS	TOTAL NUMBER OF RMT CONNECTIONS EXCEEDS MAX; R= <i>rc</i> , S= <i>sc</i>	リモート接続 (RMTIMSCON および RMTICICS) の総数が、IMS Connect の許容最大値を超えています。
192	ISCLTID	INVALID ID VALUE IN ISC STATEMENT; R= <i>rc</i> , S= <i>sc</i>	ISC ステートメントの ID パラメーターに指定された名前が無効です。
196	ISCRTID	INVALID TERMINAL VALUE IN ISC STATEMENT; R= <i>rc</i> , S= <i>sc</i>	ISC ステートメントの NODE パラメーターに指定された名前が無効です。

表 94. 戻りコード別に編成された HWSX0909E のサービス・コードおよび戻りコードの説明 (続き)

戻りコード	サービス・コード	可変テキスト	意味
200	ISCLIID	INVALID LCLIMS VALUE IN ISC STATEMENT; R= <i>rc</i> , S= <i>sc</i>	ISC ステートメントの LCLIMS パラメータに指定された名前が無効です。
208	ISCTMEM	INVALID TMEMBER VALUE IN ISC STATEMENT; R= <i>rc</i> , S= <i>sc</i>	ISC ステートメントの TMEMBER パラメータに指定された名前が無効です。
212	ISCMEM	INVALID MEMBER VALUE IN ISC STATEMENT; R= <i>rc</i> , S= <i>sc</i>	ISC ステートメントの MEMBER パラメータに指定された名前が無効です。
216	INVCICID	INVALID ID IS SPECIFIED IN RMTICICS STMT; R= <i>rc</i> , S= <i>sc</i>	RMTICICS ステートメントの ID パラメータに指定された名前が無効です。
228	ISCCAREQ	CICSAPPL REQ'D WITH RMTICICS IN ISC STMT; R= <i>rc</i> , S= <i>sc</i>	ISC ステートメントでは CICSAPPL パラメータが必須です。
236	ISCCAERR	INVALID CICSAPPL VALUE IN ISC STATEMENT; R= <i>rc</i> , S= <i>sc</i>	ISC ステートメントの CICSAPPL パラメータに指定された名前が無効です。
240	ISCCPREQ	CICSPORT REQ'D WITH RMTICICS IN ISC STMT; R= <i>rc</i> , S= <i>sc</i>	ISC ステートメントでは CICSPORT パラメータが必須です。
248	ISCCPERR	INVALID CICSPORT VALUE IN ISC STATEMENT; R= <i>rc</i> , S= <i>sc</i>	ISC ステートメントの CICSPORT パラメータに指定された値が無効です。
252	ISCNLDUP	DUPLICATE NODE/LCLIMS IN ISC STATEMENT; R= <i>rc</i> , S= <i>sc</i>	ISC ステートメントの NODE パラメータと LCLIMS パラメータに指定する名前は固有でなければなりません。別の ISC ステートメントに同じ名前の組み合わせを指定することはできません。
256	ISCIILC	INVALID LCLIMS/CICSPORT IN ISC STATEMENT; R= <i>rc</i> , S= <i>sc</i>	複数の ISC ステートメントに同じ CICSPORT 値が指定されましたが、LCLIMS 値は異なっています。
264	ISCCNERR	INVALID CICSNETID VALUE IN ISC STATEMENT; R= <i>rc</i> , S= <i>sc</i>	ISC ステートメントの CICSNETID パラメータに指定された名前が無効です。
268	ISCAPDUP	DUPLICATE CICSAPPL/ CICSPORT IN ISC STMT; R= <i>rc</i> , S= <i>sc</i>	ISC ステートメントの CICSAPPL パラメータと CICSPORT パラメータに指定された名前の組み合わせが別の ISC ステートメントと重複しています。この組み合わせは固有でなければなりません。
288	DUPGIMS	DUPLICATE GENIMSID MSC STATEMENT; R= <i>rc</i> , S= <i>sc</i>	複数の MSC ステートメントに同じ GENIMSID 値、LCLIMS 値、および RMTIMS 値が指定されました。
292	SOCLTPRT	MAXSOC IS TOO LOW FOR NUMBER OF PORTS; R= <i>rc</i> , S= <i>sc</i>	TCPIP ステートメントに指定された MAXSOC 値は、定義されたポートの合計数より大きくなければなりません。

表 95. サービス・コード別に編成された HWSX0909E のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
BPEPARSE	パラメーターを構文解析するために使用されるシステム・サービス。	4	PADER で渡されたパーサー定義文法が正しい BPEPADEF 文法ではありません。
		8	CBSTG で渡された制御ブロックのストレージの大きさが不足のため、構文解析された入力データを収容するために作成の必要がある制御ブロックを収容できません。
		12	構文解析サービスに渡される CBSTG アドレスが 0 です。
		16	構文解析サービスに渡される入力データ・アドレスが 0 です。
		20	構文解析サービス中に内部エラーが起こった。
	パラメーターを構文解析するために使用されるシステム・サービス。	64	入力データに無効なキーワードが検出されました。
		68	入力に不明の定位置パラメーターが検出されている。
		72	等号の後に値のサブリストが続くキーワード・パラメーターが指定されました (KEYWORD= xxx,yyy[,...])。サブリストは括弧で囲んで指定しなければなりません。等号は、サブリストとともに使用する場合はオプションですが、キーワードが単一の値のみを持つ場合は必須です。
		76	すべてのサブリストまたはキーワードが構文解析される前に、入力が終了しました。
		80	1 つの値が予期されているときに、キーワードに (KEYWORD(...)) または KEYWORD=... が出ている。
		84	構文解析されている入力番号が、その出力フィールドの長さとして許可される範囲外である。
		88	10 進数として定義されたパラメーター値に、10 進数以外の数字が含まれている。
		92	16 進数として定義されたパラメーター値に、16 進数以外の数字が含まれている。
96	キー値パラメーターとして定義されたパラメーター値に、不明なキー値があります。		
100	1 つのキーワード・パラメーターが複数回現れますが、反復可能として定義されていません。		
104	BPEPADEF で REQUIRED= YES として定義されているパラメーターが、入力データに見つかりません (省略されています)。		
252	BPEPARSE で生成されたパラメーター・リストのバージョンが、構文解析サービス・モジュールでサポートされていない - マクロ / モジュールのレベルのミスマッチ。		
GETSCTB	BPECBGET。サーバー通信テーブル (SCT) の獲得に使用されるシステム・サービス。	4	誤った CBTE アドレスが CB 取得ルーチンに渡されている。この問題は、内部システム・エラーです。
		8	ストレージが不足なので、要求を満たすことができません。

表 95. サービス・コード別に編成された HWSX0909E のサービス・コードおよび戻りコードの説明 (続き)

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
GETDCTB	BPECBGET。データ・ストア通信テーブル (DCT) の獲得に使用されるシステム・サービス。	4	誤った CBTE アドレスが CB 取得ルーチンに渡されている。この問題は、内部システム・エラーです。
		8	ストレージが不足なので、要求を満たすことができません。
GETXIB		36	要求を満たすために使用できるストレージが不足しています。
GETXIBDS		40	要求を満たすために使用できるストレージが不足しています。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は終了します。

システム・プログラマーの応答: CONFIG メンバーにパラメーターが正しく指定されていることを確認してください。ストレージの問題である場合は、JCL ステートメントの領域サイズが IMS Connect 領域を十分収容できるものであることを確認してください。エラーが再発する場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびメモリー・ダンプを提出してください。

モジュール: XCFG - HWSXCFG0

を割り当てられないか、またはコマンド・コントローラー・スレッドをスケジュールできません。このサーバーは、IMS Connect 環境に送信された要求のうち、特定のコンポーネントに送信されないすべての要求にサービスを提供します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *rc* は、戻りコードを識別します。
- *sc* は、サービス・コードを識別します。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

HWSX0910E UNABLE TO START COMMAND CONTROLLER; R=*rc*, S=*sc*, M=*mc*

説明: コマンド・コントローラー制御構造にストレージ

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 96. HWSX0910E のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード (10 進数)	意味
GETTWUB	BPECBGET。スレッド作業単位 (TWU) を獲得するのに使用されるシステム・サービス。	4	誤った CBTE アドレスが CB 取得ルーチンに渡されている。これは、内部システム・エラーです。
		8	ストレージが不足なので、要求を満たすことができません。
SCHEDTWU	BPETHDCR。スレッドをスケジュールするのに使用されるシステム・サービス。	4	誤ったディスパッチャー作業域が、スレッド作成ルーチンに渡されている。
		8	誤った TCB 索引値が TCBIDX パラメーターに渡されている。
		12	ゼロのルーチン・アドレスが、ROUTINE= パラメーターに渡されている。

表 96. HWSX0910E のサービス・コードおよび戻りコードの説明 (続き)

サービス・コード	概説	戻りコード (10 進数)	意味
		16	誤った TCB 表エントリー・アドレスが、スレッド作成ルーチンに渡されている。BPETHDCR マクロは、パラメーター TCBTYPE、TCBIDX、あるいは TCBDWA のいずれかが指定されているかに基づいて、TCBT アドレスを判別する。このパラメーターが正しくコーディングされていることを確認してください。
		20	該当のスレッドのスレッド制御ブロック (THCB) 用のストレージを入手できません。
		24	該当のスレッド用のスタック・ストレージを入手できません。
		28	該当のスレッドの初期ポストが失敗しました。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は終了します。

システム・プログラマーの応答: JCL ステートメントで指定された領域サイズが、IMS Connect 領域を十分収容できるものであることを確認してください。エラーが再発する場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

モジュール: XCM3 - HWSXCM30

**HWSX0911E UNABLE TO START COMMAND
VERB CONTROLLER; R=rc, S=sc,
M=mc**

説明: コマンド・コントローラー制御構造にストレージを割り当てられないか、またはコマンド・コントローラ

表 97. HWSX0911E のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
GETTWUB	BPECBGET。スレッド作業単位 (TWU) を獲得するのに使用されるシステム・サービス。	4	誤った CBTE アドレスが CB 取得ルーチンに渡されている。これは、内部システム・エラーです。
		8	ストレージが不足なので、要求を満たすことができません。
SCHEDTWU	BPETHDCR。スレッドをスケジューリングするのに使用されるシステム・サービス。	4	誤ったディスパッチャー作業域が、スレッド作成ルーチンに渡されている。

ー・スレッドをスケジューリングできません。このサーバーは、IMS Connect 環境に送信された要求のうち、特定のコンポーネントに送信されないすべての要求にサービスを提供します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *rc* は、戻りコードを識別します。
- *sc* は、サービス・コードを識別します。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 97. HWSX0911E のサービス・コードおよび戻りコードの説明 (続き)

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
		8	誤った TCB 索引値が TCBDIX パラメーターに渡されている。
		12	ゼロのルーチン・アドレスが、ROUTINE=パラメーターに渡されている。
		16	誤った TCB 表エントリー・アドレスが、スレッド作成ルーチンに渡されている。 BPETHDCR マクロは、パラメーター TCBTYPED、TCBDIX、あるいは TCBDWA のいずれが指定されているかに基づいて、TCBT アドレスを判別する。このパラメーターが正しくコーディングされていることを確認してください。
		20	該当のスレッドのスレッド制御ブロック (THCB) 用のストレージを入手できません。
		24	該当のスレッド用のスタック・ストレージを入手できません。
		28	該当のスレッドの初期ポストが失敗しました。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は終了します。

システム・プログラマーの応答: JCL ステートメントで指定された領域サイズが、IMS Connect 領域を十分収容できるものであることを確認してください。エラーが再発する場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびダンプを提出してください。

モジュール: XCM3 - HWSXCM30

HWSX0912E HWS STARTED IN KEYkey - KEY 7 IS REQUIRED

説明: IMS Connect が監視プログラム状態で実行されましたが、キー 7 では実行されませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- ky は、キーを識別します。

この問題は、プログラム・プロパティ・テーブル (PPT) メンバーに問題がある場合に発生する可能性があります。

システムの処置: IMS Connect は終了します。

| オペレーターの応答:

| IMS Connect モジュールが常駐している常駐ライブラ

| リー (IMS.RESLIB) を、APF に対して許可します。
| PPT 内の SCHEDxx メンバーを更新してください。

```
| PPT PGMNAME(HWSHWS00) /*
| PROGRAM NAME = HWSHWS00 */
| CANCEL /*
| PROGRAM CAN BE CANCELED */
| KEY(7) /*
| PROTECT KEY ASSIGNED IS 7 */
```

| モジュール: HWS - HWSHWS00

HWSX0912W HWSUINIT RETURNS WARNING CODE; R=rc, S=sc, M=mc

説明: ユーザーの初期設定出口 HWSUINIT が警告の戻りコードを発行しました。その戻りコードの意味は、ユーザーの初期設定出口自体で定義されます。IMS Connect は、この警告コードに影響されず、初期設定処理を継続します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- rc は、HWSUINIT が設定する戻りコードを識別します。
- sc は、サービス・コードを識別します。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。

- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 98. HWSX0912W のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
UINITFAIL	HWSUINIT は、警告コードを出して戻ります。警告コードは、出口によって定義されます。	1 から 7	HWSUINIT の意味 - 戻される警告コードは、ユーザーの初期設定出口自体で定義されません。IMS Connect は、この警告に影響されず、その初期設定処理を継続します。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は初期設定処理を継続します。

システム・プログラマーの応答: この警告コードは、ご使用のシステムで定義されるので、実行する修正処置と、IMS Connect を再始動するかどうかを、ユーザーが決定する必要があります。

モジュール: XITF - HWSXITF0

HWSX0913E HWSUINIT RETURN CODE >=8, IMS CONNECT SHUTDOWN; R=*rc*, S=*sc*, M=*mc*

説明: ユーザーの初期設定出口 HWSUINIT が 8 以上の戻りコードを発行しました。IMS Connect は、初期設定処理を終了し、アドレス・スペースをシャットダウンします。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *rc* は、HWSUINIT が設定する戻りコードを識別します。
- *sc* は、サービス・コードを識別します。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード

ド、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。

- *mc* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 99. HWSX0913E のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
UINITFAIL	HWSUINIT、8 以上のエラー・コードを戻して、IMS Connect を強制終了します。	8 またはそれ以上	8 以上のエラー戻りコードは、ユーザー初期設定出口ルーチン HWSUINIT がエラーを見つけたことを IMS Connect に通知しています。IMS Connect の初期設定は停止し、IMS Connect は終了します。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は終了します。

システム・プログラマーの応答: このエラー・コードはご使用のシステムで定義されるので、実行する修正処置と、IMS Connect を再始動するかどうかを、ユーザーが決定する必要があります。

モジュール: XITF - HWSXITF0

HWSX0914E LOADING THE HWSUINIT EXIT FAILED; IMS CONNECT HAS SHUT DOWN; R=*rc*, S=*sc*, M=*mc*

説明: HWSXITF0 が HWSUINIT 出口のロードに失敗しました。IMS Connect は、初期設定処理を終了し、アドレス・スペースをシャットダウンします。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- rc* HWSUINIT のロードの試行からの戻りコード。
- sc* サービス・コード。サービス・コードには、エラーをさらに特定して識別するコード、または要求の失敗の原因となった呼び出し先サービスから戻されたコードが入っている可能性があります。
- mc* メッセージを出すモジュール。

次の表に、サービス・コードおよび戻りコードとそれらの意味を示します。

表 100. HWSX0914E のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	概説	戻りコード	意味
UINITLDF	HWSUINIT のロードが失敗しました。	rc	HWSXITF0 が HWSUINIT のロードに失敗しました。HWSUINIT がロード・ライブラリーに存在しません。IMS Connect の初期設定は停止し、IMS Connect は終了します。

システムの処置: IMS Connect は終了します。

システム・プログラマーの応答: HWSUINIT が必要であるため、IMS Connect を再始動する前に、出口を IMS ロード・ライブラリー (ADFSLOAD) にインストールする必要があります。

モジュール: XITF - HWSXITF00

HWSX0915W OBSOLETE SSL PARAMETER IS IGNORED; PARM=parameter, M=mc

説明: IMS Connect は SSL 機能をサポートしません。メッセージに示されている *parameter* は使用されなくなりました。IMS Connect は、このパラメーターを無視し、始動処理を続行します。

IMS Connect への TCP/IP 接続で Secure Socket Layer (SSL) をセットアップするには、IBM z/OS Communications Server Application Transparent Transport Layer Security (AT-TLS) を使用します。

メッセージ・テキスト内の変数の定義は、以下のとおりです。

- *parameter* は、このメッセージの原因となったパラメーターを示します。
- *mc* は、このメッセージを出したモジュールを示します。

システムの処置: IMS Connect は、パラメーターを無視して処理を続行します。

出力宛先: システム・コンソール。

システム・プログラマーの応答: IMS PROCLIB データ・セットの IMS Connect 構成メンバー内で、この警告メッセージを引き起こす可能性がある以下の SSL 関

連のパラメーターおよびステートメントを除去してください。

- **SSLENVAR** パラメーター
- **SSLPORT** パラメーター
- **RUNOPTS** ステートメント

モジュール: XCFG - HWSXCFG0

関連概念:

 SSL および IMS Connect (コミュニケーションおよびコネクション)

HWSX0916W OBSOLETE "LOCAL" VALUE IN PORT DEFINITION IS IGNORED; M=mc

説明: IMS Connect は、IMS 15 以降のバージョンのローカル・オプション接続をサポートしません。PORT パラメーターおよび PORTID パラメーターで指定された LOCAL 値は使用されません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

mc
このメッセージを発行するモジュール。

システムの処置: IMS Connect は、LOCAL パラメーター値を無視し、実行を正常に続行します。

システム・プログラマーの応答: IMS PROCLIB データ・セットの IMS Connect 構成メンバー内の PORT パラメーターまたは PORTID パラメーターの LOCAL 値を除去してください。

モジュール: XCFG - HWSXCFG0

HWX0920W VALUE OF PARAMETER parm IN STATEMENT statement=id CHANGED TO newvalue FROM oldvalue BECAUSE reason; M=mc

説明: IMS Connect 構成メンバーの処理中に、無効なパラメーター値、または現在の IMS Connect 構成ではサポートされていないパラメーター値が検出されました。IMS Connect により、このパラメーター値は、メッセージ・テキストに示されている *newvalue* に変更されました。この新しいパラメーター値は、IMS Connect が次回再始動するまで有効のままです。変更の理由がメッセージ内に示されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。
parm 変更されたパラメーターを示します。

statement

パラメーターが指定されたステートメントのタイプを示します。

id

パラメーターが指定されたステートメントの ID を示します。

newvalue

パラメーターのランタイム値を示します。

oldvalue

IMS.PROCLIB データ・セットの IMS Connect 構成メンバーに指定されたパラメーターの値を示します。

reason

変更の理由を示します。

mc

このメッセージを出すモジュールを示します。

表 101. 構成パラメーターの値をリセットする理由

パラメーター	理由	説明
AUTOCONN	THE RMTIMSCON IS USED BY MSC	MSC TCP/IP リンクでは AUTOCONN=Y はサポートされていません。MSC ステートメントが AUTOCONN=Y である RMTIMSCON ステートメントを参照する場合、または AUTOCONN パラメーター全体が省略されている場合は、IMS Connect によって始動時にこの指定が AUTOCONN=N に変更されます。
	PERSISTENT=N WAS SPECIFIED	AUTOCONN=Y および PERSISTENT=N が指定されている場合は、IMS Connect によって AUTOCONN の値が N に変更されます。

表 101. 構成パラメーターの値をリセットする理由 (続き)

パラメーター	理由	説明
PERSISTENT	THE RMTIMSCON IS USED BY MSC	MSC TCP/IP リンクでは PERSISTENT=N はサポートされていません。MSC ステートメントが PERSISTENT=N である RMTIMSCON ステートメントを参照する場合、または PERSISTENT パラメーター全体が省略されている場合は、IMS Connect によって始動時にこの指定が PERSISTENT=Y に変更されます。
IDLETO	THE RMTIMSCON IS USED BY MSC	MSC TCP/IP リンクでは IDLETO=0 の指定が必要です。MSC ステートメントが IDLETO パラメーターの値が 0 以外である RMTIMSCON ステートメントを参照する場合は、IMS Connect によって始動時にこの指定が IDLETO=0 に変更されます。

システムの処置: IMS Connect により、パラメーター値が新しい値に変更されます。このメッセージが発行され、IMS Connect は引き続き正常に実行されます。

システム・プログラマーの応答: 処置は不要です。ただし、今後このメッセージが発行されないようにするため

に、IMS Connect 構成 PROCLIB メンバーのパラメータ値を、MSC TCP/IP リンクでサポートされる値に変更してください。

モジュール: XCFG - HWSXCFG0

関連資料:

 IMS PROCLIB データ・セットの HWSCFGxx メンバー (システム定義)

**HWSX0930I HWSTECL0 NOT INITIALIZED,
R15=nn, R0=mm, M=xxx**

説明: IMS Connect は、モジュール HWSTECL0 をロードし、イベント記録初期設定のために呼び出します。HWSTECL0 は、初期設定が正常に実行されなかったことを示す戻りコードおよび理由コードを戻します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *nn* は、HWSTECL0 が設定した戻りコードを示します。
- *mm* は、渡された、ゼロ以外の戻りコードに関連する理由コードを示します。
- *xxx* は、このメッセージを出したモジュールを示します。

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、次の表を参照してください。

表 102. HWSX0930I のサービス・コードおよび戻りコードの説明

サービス・コード	レジスター番号	戻りコード	意味
HWSTECL0	R0		渡された、ゼロ以外の戻りコードに関連する理由コード。
	R15	0	初期設定は正常に完了したトレースまたはイベント記録がアクティブかどうかを調べるために、EICBを確認してください。
		8	初期設定は正常に行われませんでした。詳しくは、理由コードを参照してください。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: ゼロ以外の戻りコードおよび対応する理由コードの考えられる原因については、HWSTECL0 の提供者に相談してください。

モジュール: HWSINIT0

**HWSX0931I HWSTECL0 INIT SUCCESSFUL,
R15=nn, R0=mm, M=xxx**

説明: IMS Connect は、モジュール HWSTECL0 をロードし、イベント記録初期設定のために呼び出します。HWSTECL0 は、初期設定が正常に終了したことを示す戻りコードおよび理由コードを戻しました。

サービス・コードおよび戻りコードの説明については、HWSX0930I を参照してください。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- *nn* は、HWSTECL0 が設定した戻りコードを示します。
- *mm* は、渡された、ゼロ以外の戻りコードに関連する理由コードを示します。
- *xxx* は、このメッセージを出すモジュールを示します。

システムの処置: このメッセージが発行され、IMS Connect は実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: HWSINIT0

関連情報:

540 ページの『HWSX0930I』

HWSX0940A IMS CONNECT IS WAITING FOR

comp; M=mc

説明: IMS Connect は、メッセージ・テキストに示されるコンポーネントがアクティブになるまで待機しています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

comp IMS Connect の待機の元となっているコンポーネント。

mc メッセージを出すモジュール。

システムの処置: IMS Connect は、コンポーネントのアドレス・スペースとの通信を試行し続けます。

コンポーネントが SCI である場合、IMS Connect は、IMS DB システムにデータベース接続要求を送ることも、CSL Operations Manager (OM) に IMS コマンド要求を送ることもできません。

コンポーネントに関連しない IMS Connect 機能は、実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: メッセージ・テキストに示されるコンポーネントを開始してください。

モジュール: OMXO - HWSOMXOT

第 12 章 MDA メッセージ (動的割り振り)

動的割り振り (IMSDALOC) メッセージには接頭部 MDA が付いています。

動的割り振りメッセージは、DFSMDA マクロによって発行されます。DFSMDA マクロは、動的に割り振られるデータベース用に SDFSRESL 内でパラメーター・リストを作成するために使用します。

パラメーター・リストの作成ではアセンブリ言語マクロ命令を使用するため、無効なキーワード・パラメーターの場合は、アセンブラー・プログラムからのエラー・メッセージも出力されることがあります。

メッセージごとに、システムの処置の他に、特に明示されない限り、次のシステム処置も取られます。

システム処置 (一般):

残りの DFSMDA マクロ・ステートメントについて妥当性検査が行われます。システムがエラーを検出した場合は、パラメーター・リストは作成されません。

MDA001 TYPE=*operand* INVALID

説明: メッセージ・テキストで *operand* によって示されているオペランドが、このタイプには無効です。

システムの処置: 他のステートメントは、妥当性を検査されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行します。

MDA005 MONITOR CANNOT BE SPECIFIED MORE THAN ONCE

説明: モニターを複数回指定することはできません。

システムの処置: 他のステートメントは、妥当性を検査されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行します。

MDA010 TYPE=FINAL CANNOT BE SPECIFIED MORE THAN ONCE

説明: TYPE=FINAL は、1 回のみ指定できます。

システムの処置: 他のステートメントは、妥当性を検査されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行します。

MDA012 TYPE=*operand* CANNOT BE SPECIFIED BEFORE TYPE=INITIAL

説明: TYPE=INITIAL を指定する前に、メッセージ・テキストで示されている TYPE=*operand* を指定しました。

システムの処置: 他のステートメントは、妥当性を検査されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行します。

MDA013 TYPE=INITIAL MUST BE SPECIFIED FIRST

説明: TYPE=INITIAL は、最初に指定する必要があります。

システムの処置: 他のステートメントは、妥当性を検査されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行します。

MDA014 NO PARAMETERS SPECIFIED PRIOR TO TYPE=FINAL

説明: TYPE=FINAL の前にパラメーターを指定する必要があります。

システムの処置: 他のステートメントは、妥当性を検査されます。

MDA015 • MDA026

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行します。

MDA015 NO PARAMETERS ACCEPTED AFTER TYPE=FINAL

説明: TYPE=FINAL の後にパラメーターを指定することはできません。

システムの処置: 他のパラメーターは、妥当性を検査されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行します。

MDA017 DBNAME REQUIRED

説明: TYPE=DATABASE にデータベース名を指定する必要があります。

システムの処置: 他のパラメーターは、妥当性を検査されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行します。

MDA018 DBNAME CANNOT EXCEED 8 CHARACTERS

説明: データベース名は 8 文字以下でなければなりません。

システムの処置: 他のパラメーターは、妥当性を検査されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行します。

MDA019 DDNAME REQUIRED FOR TYPE=DATASET

説明: TYPE=DATASET に DD 名を指定する必要があります。

システムの処置: 他のパラメーターは、妥当性を検査されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行します。

MDA020 DSNAME REQUIRED FOR TYPE=DATASET

説明: TYPE=DATASET にデータ・セット名 (DSNAME) を指定する必要があります。

システムの処置: 他のパラメーターは、妥当性を検査されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行します。

MDA021 DISP=OLD DEFAULTED

説明: これは警告メッセージです。

システムの処置: DISP=はデフォルトで OLD になります。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

MDA022 DISP=operand IS INVALID

説明: メッセージ・テキストで operand によって示されているオペランドが、DISP キーワードには無効です。

システムの処置: 他のステートメントは、妥当性を検査されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

MDA023 INDEX PARAMETER IGNORED

説明: 索引はサポートされなくなりました。

システムの処置: パラメーターは無視されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

MDA025 DDNAME CANNOT EXCEED 8 CHARACTERS

説明: DD 名は 8 文字以下でなければなりません。

システムの処置: 他のパラメーターは、妥当性を検査されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行します。

MDA026 DSNAME CANNOT EXCEED 44 CHARACTERS

説明: DSNAME は 44 文字以下でなければなりません。

システムの処置: 他のパラメーターは、妥当性を検査されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行します。

MDA027 DDNAME DEFAULTED TO IMSMON

説明: DC モニターの場合、DDNAME は IMSMON でなければなりません。これは警告メッセージです。

システムの処置: DDNAME はデフォルトの IMSMON になります。

MDA028 DDNAME=*operand* INVALID FOR TYPE=DCMONITOR DDNAME=IMSMON ASSUMED

説明: 無効な DD 名が指定されました。

システムの処置: DDNAME はデフォルトの IMSMON になります。

プログラマーの応答: DD 名を調べて、有効であることを確認します。

MDA29 DBNAME MUST NOT START WITH CHARACTERS DFS

説明: DFS で始まるデータベース名が検出されました。

システムの処置: 他のパラメーターは、妥当性を検査されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行します。

MDA030 MAXIMUM NUMBER OF DATA BASES EXCEEDED. LIMIT IS 250

説明: 250 を超えるデータベース名が指定されました。

システムの処置: 他のパラメーターは、妥当性を検査されます。

プログラマーの応答: ジョブを複数のジョブに分割し、それらのジョブを再実行します。

MDA031 UNIT DEFAULTED TO TAPE

説明: この警告メッセージは、UNIT が正しくないことを示しています。

システムの処置: UNIT はデフォルトのテープ装置になります。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

MDA032 UNITNAME MUST NOT EXCEED 8 CHARACTERS

説明: 9 文字以上の装置名が検出されました。装置名は 8 文字以下でなければなりません。

システムの処置: 他のパラメーターは、妥当性を検査されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行します。

MDA033 NO DATA SET SPECIFIED FOR PREVIOUS DATA BASE

説明: データベースのデータ・セット名が欠落しています。

システムの処置: 他のパラメーターは、妥当性を検査されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行します。

MDA034 NO DATABASE SPECIFIED FOR THIS DATA SET

説明: データ・セット用のデータベースが欠落しています。

システムの処置: 他のパラメーターは、妥当性を検査されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行します。

MDA035 UNITNAME IS IGNORED FOR DATA BASE

説明: これは警告メッセージです。

システムの処置: パラメーターは無視されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

MDA036 DBNAME IGNORED FOR FP DATA BASE

説明: これは警告メッセージです。

システムの処置: パラメーターは無視されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

MDA037 NO SPECIAL CHARACTERS ALLOWED

説明: 許可されない場所で特殊文字が検出されました。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行します。

MDA038 NO DATA SET SPECIFIED FOR PREVIOUS DB

説明: データベースに対してデータ・セットが指定されませんでした。

システムの処置: 他のパラメーターは、妥当性を検査されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行します。

MDA039 NO DATA SET SPECIFIED FOR PREVIOUS DB.

説明: データベースに対してデータ・セットが指定されませんでした。

システムの処置: 他のパラメーターは、妥当性を検査されます。

MDA040 BUFNO DEFAULTED TO 5

説明: DFSMDA マクロの場合、BUFNO= は、モニター・データ・セットに望ましいバッファの数を記述します。この値が指定されない場合、デフォルトは 5 です。

システムの処置: 他のパラメーターは、妥当性を検査されます。

MDA041 BLKSIZE DEFAULTED TO 27992 FOR DCMONITOR

説明: DFSMDA マクロの場合、ブロック・サイズは指定されなかったため、デフォルト設定されました。テープはデフォルトの 32,768 で、DASD はデフォルトの 27,992 になります。

システムの処置: 他のパラメーターは、妥当性を検査されます。

MDA042 LABEL PARAMETER IGNORED FOR IMS MONITOR/XTRC

説明: LABEL パラメーターは不要で、無視されます。

システムの処置: 他のパラメーターは、妥当性を検査されます。

MDA043 TCBNUM PARAMETER REQUIRED FOR FUNC=*func*

説明: DFSMDA から要求された一部の機能では、TCBNUM パラメーターが必要です。メッセージ・テキストで、*func* は、FUNC パラメーターで指定された機能を識別します。

MDA044 TFPAOCE PARAMETER REQUIRED FOR FUNC=*func*

説明: DFSMDA から要求された一部の機能では、TFPAOCE パラメーターが必要です。メッセージ・テキストで、*func* は、FUNC パラメーターで指定された機能を識別します。

MDA045E YOU DID NOT SPECIFY A DATA SET FOR IMSACB(A or B)

説明: IMSACBA または IMSACBB 動的割り振りメンバー用の DFSMDA メンバーを作成するときに、示される DATASET ステートメントがありませんでした。

システムの処置: DFSMDA のコンパイルは MNOTE 8 で失敗します。

ユーザーの処置: IMSACBA または IMSACBB DD ステートメント用の DFSMDA メンバーを作成するときに、TYPE=DATASET ステートメントが省略されています。割り振るデータ・セットごとに TYPE=DATASET ステートメントを 1 つ指定する必要があります。

MDA046E YOU CANNOT SPECIFY OTHER MEMBERS WITH THE IMSACBA OR IMSACBB MEMBER

説明: IMSACBA または IMSACBB 動的割り振りメンバー用の DFSMDA ステートメントの処理中に、他の IMS データ・セットの MDA メンバーを作成するための DFSMDA ステートメントが検出されました。

システムの処置: DFSMDA のコンパイルは MNOTE 8 で失敗します。

ユーザーの処置: IMSACBA または IMSACBB データ・セット用の DFSMDA メンバーを作成するときは、他の IMS データ・セットに MDA メンバーを作成する DFSMDA ステートメントをすべて除去してください。

第 13 章 PSBGEN メッセージ (PCB、PGEN、SEG、SFLD)

プログラム仕様ブロック生成 (PSBGEN) メッセージは、接頭部 PCB、PGEN、SEG、および SFLD で始まります。

PSB 生成は、オペレーティング・システムのアセンブラー言語マクロ命令から構成されているため、IMS PSB ステートメントの欠落または無効なシーケンス、あるいは無効なキーワード・パラメーターの場合は、オペレーティング・システムのアセンブラー・プログラムからのエラー・ステートメントも出力されます。

これらのメッセージごとに、このトピックに示される「システムの処置」の他に、(明示的に他の処置が示されていない限り) 次の処置が取られます。残りの PSBGEN ステートメントについて妥当性が検査され、PSB 生成はマクロ展開の前に終了します。

PSBGEN の PCB メッセージ

ここでは、次のメッセージについて説明します。

PCB100 PCB SPECIFICATION LIMIT EXCEEDED

説明: PCB ステートメントの 2500 の制限を超えました。

システムの処置: この PCB ステートメントが使用され、前の PCB の値はオーバーレイされます。

プログラマーの応答: PCB ステートメントの数を 256 以下に減らし、PSBGEN を再実行します。

PCB110 TYPE OPERAND IS OMITTED OR INVALID

説明: PCB マクロの TYPE オペランドが省略されたか、あるいは "TP" または "DB" 以外の値が指定されました。

システムの処置: デフォルトはありません。

プログラマーの応答: TYPE オペランドを訂正し、PSBGEN を再実行します。

PCB120 LTERM, DBDNAME, OR NAME OPERAND IS INVALID

説明: PCB マクロ・ステートメントの LTERM、DBDNAME、または NAME オペランドに入力された値のいずれかが、8 文字を超えています。

システムの処置: この名前、後続のオペランドの妥当性検査で使用されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、PSBGEN を再実行します。

PCB130 NAME, LTERM, AND DBDNAME OPERANDS ARE MUTUALLY EXCLUSIVE, ONLY ONE MAY BE ENTERED

説明: 任意の PCB ステートメントに対して、NAME、LTERM、および DBDNAME はすべて論理的に同じ意味を持ちます。

システムの処置: TP PCB では、LTERM がデフォルトです。DB PCB では、DBDNAME が使用されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、PSBGEN を再実行します。

PCB140 LTERM OR NAME OPERAND IS OMITTED

説明: TYPE=TP の PCB で、宛先名が省略されました。

システムの処置: デフォルトは与えられていません。

プログラマーの応答: LTERM または NAME オペランドを定義し、PSBGEN を再実行します。

PCB150 INVALID OPERANDS ARE SPECIFIED FOR A TP OR GSAM PCB

PCB160 • PCB234

説明: TYPE=TP の PCB に対して、PROCOPT=、KEYLEN=、FB=、POS=、DBDNAME= のうちの 1 つ以上の値が入力されました。

TYPE=GSAM の PCB に対して、LTERM=、POS=、EXPRESS=、MODIFY=、PROCSEQ=、FB= のうちの 1 つ以上の値が入力されました。

システムの処置: その PCB ステートメントに関して、他に何も処理されません。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、PSBGEN を再実行します。

PCB160 TP PCBS MUST BE SPECIFIED BEFORE DB OR GSAM PCBS

説明: TYPE=TP のすべての PCB マクロは、PSBGEN アセンブリー内で、TYPE=DB の PCB マクロより前になければなりません。

システムの処置: その PCB ステートメントに関して、他に何も処理されません。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、PSBGEN を再実行します。

PCB170 DBDNAME OR NAME OPERAND IS OMITTED

説明: TYPE=DB の PCB に対して、データベース名が指定されていません。

システムの処置: 残りの PCB パラメーターが妥当性検査のためにスキャンされます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、PSBGEN を再実行します。

PCB180 PROCOPT OPERAND IS INVALID

説明: TYPE=DB の PCB マクロの PROCOPT オペランドに指定された値が無効です。

システムの処置: デフォルトはありません。

プログラマーの応答: PROCOPT オペランドを訂正し、PSBGEN を再実行します。

PCB190 KEYLEN OPERAND IS OMITTED OR INVALID

説明: KEYLEN オペランドが省略されているか、数値でないか、または 32,767 を超えています。

システムの処置: KEYLEN の数値が 32,767 を超えている場合、後続の計算では、その無効な数値が使用されます。

プログラマーの応答: KEYLEN オペランドを訂正し、PSBGEN を再実行します。

PCB210 POS OPERAND IS INVALID

説明: PCB TYPE=DB マクロに指定された POS オペランドが無効です。受け入れ可能な値は、S、SINGLE、M、および MULTIPLE です。

システムの処置: オペランドは無視されます。

プログラマーの応答: POS オペランドを訂正し、PSBGEN を再実行します。

PCB220 LTERM OPERAND IS INVALID FOR DB PCBS

説明: TYPE=DB の PCB に対して、LTERM オペランドを指定できません。

システムの処置: オペランドは無視されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、PSBGEN を再実行します。

PCB230 NAME OR DBDNAME OPERAND MUST BE ALPHA

説明: DB PCB の場合、入力されるデータベース名の値は、英字で始まらなければなりません。

システムの処置: 無効であれば、オペランドは無視されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、PSBGEN を再実行します。

PCB234 THE PSELOPT OPERAND MUST BE PSELOPT=MULT OR PSELOPT=SNGL

説明: PSELOPT オペランドで指定されたユーザー区画選択オプションが無効です。

有効な PSELOPT= 値は以下のとおりです。

- 複数区画の場合は PSELOPT=MULT
- 単一区画の場合は PSELOPT=SNGL

システムの処置: PSB 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答:

- ユーザー・データ区画化が要求される場合 (2 つ以上の HISAM 副次索引区画データベースまたは 2 つ以上の SHISAM 副次索引区画データベースを使用して LCHILD ステートメントの NAME オペランドで定義されている) は、次のようにします。

PSELOPT=MULT または PSELOPT=SNGL を (PROCSEQD オペランドを指定した PCB ステート

メントまたは 1 次 DEDB DBD の XDFLD ステートメントに) 指定して、論理区画データベース・グループでの区画の処理方法を指定します。PROCSEQD オペランドを指定した PCB ステートメントと 1 次 DEDB DBD の XDFLD ステートメントの両方に PSELOPT オペランドを指定した場合、PCB ステートメント上の PSELOPT オペランドが 1 次 DEDB DBD の XDFLD ステートメント上の PSELOPT オペランドをオーバーライドします。

- ユーザー・データ区画化が要求されない場合 (1 つの HISAM 副次索引データベースまたは 1 つの SHISAM 副次索引データベースを使用して LCHILD ステートメントの NAME オペランドで定義されている) は、次のようにします。
 - XDFLD ステートメントの PSELOPT オペランドと PSELRTN オペランドを削除します。
 - PROCSEQD オペランドを指定した PCB ステートメントに PSELOPT オペランドが指定されている場合は、PCB ステートメントの PSELOPT オペランドを削除します。
- 必要に応じて DBDGEN および PSBGEN ユーティリティーを再実行します。

関連資料:

 XDFLD ステートメント (システム・ユーティリティー)

 全機能または高速機能データベースの PCB ステートメント (システム・ユーティリティー)

PCB235 THE PSELOPT OPERAND IS VALID ONLY WHEN THE PROCSEQD OPERAND IS SPECIFIED

説明: PROCSEQD オペランドが指定されていない PCB ステートメントの PSELOPT オペランドに、ユーザー区画選択オプションが指定されています。

PSELOPT オペランドは、PROCSEQD オペランドを指定した PCB ステートメントにのみ指定できます。

システムの処置: PSB 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答:

- ユーザー・データ区画化が要求される場合 (2 つ以上の HISAM 副次索引区画データベースまたは 2 つ以上の SHISAM 副次索引区画データベースを使用して LCHILD ステートメントの NAME オペランドで定義されている) は、次のようにします。

PSELOPT=MULT または PSELOPT=SNGL を (PROCSEQD オペランドを指定した PCB ステートメントまたは 1 次 DEDB DBD の XDFLD ステートメントに) 指定して、論理区画データベース・グループでの区画の処理方法を指定します。PROCSEQD オペランドを指定した PCB ステートメントと 1 次 DEDB DBD の XDFLD ステートメントの両方に PSELOPT オペランドを指定した場合、PCB ステートメント上の PSELOPT オペランドが 1 次 DEDB DBD の XDFLD ステートメント上の PSELOPT オペランドをオーバーライドします。

メントに) 指定して、論理区画データベース・グループでの区画の処理方法を指定します。PROCSEQD オペランドを指定した PCB ステートメントと 1 次 DEDB DBD の XDFLD ステートメントの両方に PSELOPT オペランドを指定した場合、PCB ステートメント上の PSELOPT オペランドが 1 次 DEDB DBD の XDFLD ステートメント上の PSELOPT オペランドをオーバーライドします。

- ユーザー・データ区画化が要求されない場合 (1 つの HISAM 副次索引データベースまたは 1 つの SHISAM 副次索引データベースを使用して LCHILD ステートメントの NAME オペランドで定義されている) は、次のようにします。
 - XDFLD ステートメントの PSELOPT および PSELRTN オペランドを削除します。
 - PROCSEQD オペランドを指定した PCB ステートメントに PSELOPT オペランドが指定されている場合は、PCB ステートメントの PSELOPT オペランドを削除します。
- 必要に応じて DBDGEN および PSBGEN ユーティリティーを再実行します。

PCB236 THE ACCESS OPERAND IS ONLY VALID WHEN THE PROCSEQD OPERAND IS ALSO SPECIFIED

説明: 高速処理データベース (DEDB) の PCB ステートメントには、ACCESS および PROCSEQD オペランドを両方とも指定する必要があります。ACCESS オペランドには以下を指定することができます。

- 副次索引シーケンスを使用して 1 次 DEDB データベースにアクセスするには、ACCESS=DB を使用します。PROCSEQD オペランドは、副次索引データベースを示すか、またはユーザー区画が使用中の場合は、ユーザー区画グループ内の最初のユーザー区画データベースを示します。ACCESS=DB がデフォルトです。
- 別個の論理データベースとしてユーザー区画グループ内の 1 つ以上のユーザー区画データベースにアクセスするには、ACCESS=INDEX を使用します。

システムの処置: PSB 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: 高速機能副次索引から DEDB データベースにアクセスするときに PCB ステートメントが使用されていない場合は、ACCESS オペランドを除去して、PSBGEN ユーティリティーを再実行します。

高速機能副次索引から DEDB データベースにアクセスするときに PCB ステートメントが使用されている場合は、PCB ステートメントに PROCSEQD オペランドを

追加して、PSBGEN ユーティリティを再実行します。

PCB237 THE ACCESS OPERAND MUST BE ACCESS=DB OR ACCESS=INDEX

説明: PCB ステートメントの ACCESS オペランドに無効な値が含まれています。有効な値は ACCESS=DB または ACCESS=INDEX です。ACCESS オペランドには以下を指定することができます。

- ACCESS=DB は、副次索引シーケンスを使用して、1 次高速処理データベース (DEDB) にアクセスするために使用されます。ACCESS=DB がデフォルトです。
- 別個の論理データベースとしてユーザー区画グループ内の 1 つ以上のユーザー区画データベースにアクセスするには、ACCESS=INDEX を使用します。

DEDB データベースの PCB ステートメントには、ACCESS および PROCSEQD オペランドを両方とも指定する必要があります。PROCSEQD オペランドは、副次索引データベースを示すか、またはユーザー区画が使用中の場合は、ユーザー区画グループ内の最初のユーザー区画データベースを示します。

システムの処置: PSB 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: ACCESS オペランドを ACCESS=DB または ACCESS=INDEX に変更して、PSBGEN ユーティリティを再実行します。

PCB240 MODIFY OPERAND IS INVALID

説明: PCB マクロで MODIFY オペランドが指定されたが、TYPE=TP オペランドが指定されなかったか、あるいは NAME または LTERM オペランドも指定されました。

システムの処置: MODIFY オペランドが無視されません。

プログラマーの応答: MODIFY オペランドを訂正し、PSBGEN を再実行します。

PCB250 EXPRESS OPERAND IS INVALID

説明: 無効なオペランドが指定されました。有効なオペランドは、EXPRESS=YES または EXPRESS=NO です。

システムの処置: デフォルトはありません。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、PSBGEN を再実行します。

PCB260 PROCSEQ OPERAND IS INVALID

説明: PCB TYPE=DB マクロ・ステートメントの PROCSEQ オペランドが、8 文字を超えているため無効です。

システムの処置: PROCSEQ オペランドが無視されません。

プログラマーの応答: PROCSEQ オペランドを訂正し、PSBGEN を再実行します。

PCB270 PROCOPT SPECIFICATION IS INVALID

説明: PROCSEQ 指定と共に、PROCOPT=L または PROCOPT=LS が指定されました。

システムの処置: 両方の値が、残りのステートメントの検査に使用されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、PSBGEN を再実行します。

PCB280 DB PCBs MUST BE SPECIFIED BEFORE GSAM PCBs.

説明: GSAM PCB は、TP PCB または DB PCB があれば、それらの後に指定する必要があります。

システムの処置: 指定エラーのため、PSBGEN は終了します。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

PCB300 ALTRESP OPERAND IS INVALID

説明: 無効なオペランドが指定されました。有効なオペランドは、ALTRESP=YES または ALTRESP=NO です。

システムの処置: デフォルトはありません。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、PSBGEN を再実行します。

PCB310 SAMETRM OPERAND IS INVALID

説明: 無効なオペランドが指定されました。有効なオペランドは、SAMETRM=YES または SAMETRM=NO です。

システムの処置: デフォルトはありません。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、PSBGEN を再実行します。

**PCB350 PCBNAME/LABEL xxxxxxxx IS NOT
UNIQUE. PCB NUMBER yy
ALREADY USES zzzzzzzz**

説明: PCB に xxxxxxxx と名前を付けるために
PCBNAME または LABEL が使用されたが、PCB 番号
yy はすでに zzzzzzzz と名前が付けられています。

システムの処置: 戻りコード 8 で処理は終了します。

プログラマーの応答: PCB 名を訂正します。

問題判別: 2、3、8、および 19

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**PCB352 PCBNAME/LABEL xxxxxxxx IS TOO
LONG. MAXIMUM LENGTH IS 8
CHARACTERS**

説明: PCB に xxxxxxxx と名前を付けるために
PCBNAME または LABEL が使用されたが、その名前
が最大の 8 文字を超えています。

システムの処置: 処理は終了し、RC=8 が示されます。

プログラマーの応答: PCB 名の長さを訂正します。

問題判別: 2、3、8、および 19

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**PCB355 PCBNAME/LABEL xxxxxxxx BEGINS
WITH THE PREFIX 'DFS' WHICH IS
RESERVED FOR IMS.**

説明: PCB に xxxxxxxx と名前を付けるために
PCBNAME または LABEL が使用されましたが、その
名前が、IMS 用に予約済みの DFS で始まっていま
した。

システムの処置: 処理は終了し、RC=8 が示されます。

プログラマーの応答: PCB 名を訂正します。

問題判別: 2、3、8、および 19

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**PCB360 SB CAN ONLY BE SPECIFIED WITH
TYPE=DB**

説明: PCB マクロで、SB パラメーターと共に
TYPE=DB が指定されていません。SB パラメーターが
指定される場合は、TYPE=DB も指定されなければなり
ません。

システムの処置: IMS PSBGEN を終了させます。

ユーザーの処置: TYPE=DB を指定するか、または
PCB マクロから SB パラメーターを除去し、その後、
PSBGEN を再実行します。

**PCB365 PCBNAME AND LABEL ARE
CONFLICTING**

説明: PCBNAME および LABEL が使用されたが、い
ずれか一方のみが PCB に名前を付けるのに使用できま
す。

システムの処置: 処理は終了し、RC=8 が示されます。

プログラマーの応答: PCBNAME/LABEL を訂正しま
す。

問題判別: 2、3、8、および 19

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**PCB370 LIST= xxx IS INVALID -- YES/NO
REQUIRED**

説明: PCB で LIST=xxx が指定されたが、無効です。
YES または NO のみが認められます。

システムの処置: 処理は終了し、RC=8 が示されます。

プログラマーの応答: PCB の LIST= パラメーターを
訂正します。

問題判別: 2、3、8、および 19

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**PCB375 LIST=NO IS INVALID FOR PCB
WITHOUT NAME**

説明: PCB に LIST=NO が指定されたが、
PCBNAME/LABEL が使用されませんでした。
LIST=NO の場合は、PCB に名前が必要です。

システムの処置: 処理は終了し、RC=8 が示されます。

プログラマーの応答: PCB 定義を訂正します。

問題判別: 2、3、8、および 19

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

PCB400 INVALID SB PARAMETER xxxxxxxx

説明: SB パラメーター値 xxxxxxx が無効です。有効
な SB パラメーター値は、COND および NO のみで
す。

システムの処置: IMS PSBGEN を終了させます。

ユーザーの処置: パラメーター値を COND または NO にすることによってエラーを訂正し、PSBGEN を再実行します。

PCB410 TOO MANY SB PARAMETERS

説明: SB パラメーターに対して、4 つ以上のサブパラメーターが指定されています。

システムの処置: IMS PSBGEN を終了させます。

ユーザーの処置: SB パラメーターに指定するサブパラメーターを 3 つ以下にすることによってエラーを訂正し、PSBGEN を再実行します。

PCB420 VIEW parameter is invalid

説明: VIEW パラメーターが無効です。正しい値は MSDB です。

システムの処置: PSBGEN は終了します。

システム・プログラマーの応答: VIEW パラメーターを訂正し、PSBGEN を再実行します。

PCB540 DBVER OPERAND IS INVALID

説明: PCB ステートメントの DBVER オペランドの値は無効です。

PCB ステートメントの DBVER オペランドの有効な値は、0 から 2147483647 です。

システムの処置: PSB 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: PCB ステートメントを訂正して、PSB 生成ユーティリティを再実行します。

PCB600 THE VALUE SPECIFIED ON THE EXTERNALNAME PARAMETER EXCEEDS 128 CHARACTERS.

説明: EXTERNALNAME パラメーターに指定された値が 128 文字を超えています。外部名は 128 文字以下でなければなりません。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: EXTERNALNAME パラメーターに 128 文字より小さい外部名を指定して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 全機能または高速機能データベースの PCB ステートメント (システム・ユーティリティ)

PCB601 THE VALUE OF THE EXTERNALNAME PARAMETER CONTAINS INVALID CHARACTERS.

説明: EXTERNALNAME パラメーターに指定された値に無効文字が含まれています。EXTERNALNAME パラメーターに大文字の英数字を使用して、外部名を指定する必要があります。下線文字も使用できます。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: EXTERNALNAME パラメーターに、大文字の英数字と、オプションとして下線文字のみを含む外部名を指定します。

関連資料:

 全機能または高速機能データベースの PCB ステートメント (システム・ユーティリティ)

PCB602 THE VALUE OF EXTERNALNAME CANNOT BE A RESERVED SQL KEYWORD.

説明: EXTERNALNAME パラメーターに指定された値は予約済みの SQL キーワードであり、フィールドの外部名として使用することはできません。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: このフィールドに予約済み SQL キーワード以外の外部名を指定して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 全機能または高速機能データベースの PCB ステートメント (システム・ユーティリティ)

 IMS JDBC ドライバーにより制限されるポータブル SQL キーワード (アプリケーション・プログラミング)

PCB603 THE VALUE SPECIFIED ON THE REMARKS PARAMETER EXCEEDS 256 CHARACTERS.

説明: REMARKS パラメーターは、最大 256 文字のストリングを受け入れることができます。REMARKS パラメーターに現在入力されているコメントが 256 文字の制限を超えています。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: REMARKS パラメーターに入力

したコメント・ストリングを 256 文字以下になるように修正して、PSB 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 全機能または高速機能データベースの PCB ステートメント (システム・ユーティリティ)

PCB604 THE VALUE OF THE EXTERNALNAME PARAMETER xxxxxxxx IS NOT UNIQUE WITHIN THE PSB.

説明: EXTERNALNAME パラメーターに指定された値が、以前 PSB 生成ユーティリティによって読み取られた PCB ステートメントの EXTERNALNAME パラメーターに指定された値と同じです。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxxxxx

EXTERNALNAME パラメーターの非固有値。

システムの処置: PSB 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: このフィールドに固有の外部名を指定して、PSB 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 全機能または高速機能データベースの PCB ステートメント (システム・ユーティリティ)

PCB605 THE VALUE OF THE REMARKS PARAMETER CONTAINS INVALID CHARACTERS.

説明: PCB ステートメントの REMARKS パラメーターに指定されたコメントに、1 つ以上の無効文字が含まれています。

REMARKS キーワードで指定される値に、以下の文字を含むことはできません。

- 単一引用符 (コメント・ストリング全体を囲むために使用されている場合を除く)。単一引用符がコメント・ストリング全体の末尾より前に入力されると、そのコメント・ストリングの残りの部分は切り捨てられます。以下の例では、REMARKS キーワードでの単一引用符の正しい使い方と誤った使い方を示します。

CORRECT

```
REMARKS='These remarks apply to the XYZ application'
```

INCORRECT

```
REMARKS='These remarks apply to the 'XYZ' application'
```

- 二重引用符。
- より小 (<) 記号。
- より大 (>) 記号。
- アンパーサンド (&)。

システムの処置: PSBGEN は終了します。後続のステートメントの妥当性検査は継続します。

プログラマーの応答: PCB ステートメントの REMARKS パラメーターに指定されたコメントから無効文字を除去して、PSBGEN ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 代替 PCB ステートメント (システム・ユーティリティ)

 全機能または高速機能データベースの PCB ステートメント (システム・ユーティリティ)

 GSAM PCB ステートメント (システム・ユーティリティ)

PSBGEN の PGEN メッセージ

ここでは、次のメッセージについて説明します。

PGEN100 PSBNAME OPERAND IS OMITTED OR INVALID

説明: PSBNAME オペランドが省略されているか、あるいは、8 文字より長い、特殊文字を含むために無効です。

システムの処置: 他のパラメーターを処理してから、PSBGEN を終了させます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、PSBGEN を再実行します。

PGEN110 LANG OPERAND IS OMITTED OR INVALID

説明: LANG オペランドが省略されたか、あるいは、指定された値が COBOL、PL/I、ASSEM、PLI、または PL1 ではありません。

システムの処置: このステートメントの他のパラメーターを処理してから、PSBGEN を終了させます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、PSBGEN を再実行します。

PGEN120 PSBGEN TERMINATED; ERRORS IN PSB

説明: PSBGEN または別の PSB ステートメントの前の展開で、レベル 8 の MNOTE が発生しました。

システムの処置: 処理を終了します。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、PSBGEN を再実行します。

PGEN130 PCB_n HAS NO SENSITIVE SEGMENTS

説明: PCB の後に、SENSEG ステートメントがありません。

システムの処置: これは警告メッセージです。処理は続行されます。

PGEN140 INTERNAL PSBGEN ERROR, PSB NOT USABLE, SUBMIT APAR

説明: ソース・セグメント・テーブル生成中にエラーが発生しました。

システムの処置: PSBGEN アセンブリーは終了します。

問題判別: 19、35

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

PGEN150 SSASIZE OPERAND IS INVALID

説明: SSASIZE オペランドには、0 から 256000 の 10 進数を指定する必要があります。

システムの処置: このステートメントの他のパラメーターを処理してから、PSBGEN を終了させます。

プログラマーの応答: SSASIZE オペランドを訂正し、PSBGEN を再実行します。

PGEN160 IOASIZE OPERAND IS INVALID

説明: IOASIZE オペランドには、0 から 256000 の 10 進数を指定する必要があります。

システムの処置: このステートメントの他のパラメーターを処理してから、PSBGEN を終了させます。

プログラマーの応答: IOASIZE オペランドを訂正し、PSBGEN を再実行します。

PGEN170 MAXQ OPERAND IS INVALID

説明: 指定された MAXQ オペランドが、非数値であるか、32767 を超えているか、または複数の値を含んでいます。有効なオペランドについては、PSBGEN ステートメントを参照してください。

システムの処置: デフォルトはありません。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、PSBGEN を再実行します。

関連資料:

 PSBGEN ステートメント (システム・ユーティリティー)

PGEN180 CMPAT OPERAND IS INVALID

説明: 無効なオペランドが指定されました。有効なオペランドは、CMPAT=YES または CMPAT=NO です。

システムの処置: デフォルトはありません。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、PSBGEN を再実行します。

PGEN200 EITHER OLIC=YES OR OLIC=NO MUST BE SPECIFIED

説明: 無効なオペランド値が指定されました。有効なオペランド値は、OLIC=YES または OLIC=NO のいずれかです。

システムの処置: PSBGEN アセンブリーは終了します。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、PSBGEN を再実行します。

PGEN210 OLIC=YES IS INVALID IF ANY PCB SPECIFIES PROCOPT=L/LS

説明: DL/I データベース PSB で、PROCOPT=L/LS が指定されました。これは、OLIC=YES との組み合わせでは無効です。

システムの処置: PSBGEN アセンブリーは終了します。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、PSBGEN を再実行します。

PGEN220 OLIC=YES REQUIRES AT LEAST ONE DATA BASE PCB BE SPECIFIED

説明: OLIC=YES が指定されたが、この PSBGEN には DL/I データベース PCB がありません。

システムの処置: PSBGEN アセンブリーは終了します。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、PSBGEN を再実行します。

PGEN230 LOCKMAX MUST BE NUMERIC VALUE BETWEEN 0 AND 255

説明: PSBGEN で、LOCKMAX 指定が非数値であったか、または 0 から 255 でないことが検出されました。

システムの処置: PSBGEN アセンブリーは終了します。

プログラマーの応答: LOCKMAX 指定を訂正し、PSBGEN を再実行します。

PGEN259 DBLEVEL IS INVALID.

説明: PSBGEN ステートメントの DBLEVEL オペランドの値は無効です。

DBLEVEL の有効値は以下のとおりです。

- CURR
- BASE

システムの処置: PSB 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: PSB ステートメントを訂正して、PSB 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 PSBGEN ステートメント (システム・ユーティリティ)

PGEN500 INVALID POSITIONAL OPERAND-operand- SPECIFIED ON THIS STATEMENT

説明: 処理中のステートメント・タイプの構文では未定義の定位置オペランドが、1 つ以上指定されました。

システムの処置: 無効な定位置オペランドは無視されます。

プログラマーの応答: この定位置オペランドを除去して、PSBGEN を再実行します。

PGEN600 THE VALUE SPECIFIED ON THE REMARKS PARAMETER EXCEEDS 256 CHARACTERS.

説明: REMARKS パラメーターは、最大 256 文字のストリングを受け入れることができます。REMARKS パ

ラメーターに現在入力されているコメントが 256 文字の制限を超えています。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: REMARKS パラメーターに入力したコメント・ストリングを 256 文字以下になるように修正して、PSB 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 PSBGEN ステートメント (システム・ユーティリティ)

PGEN601 THE VALUE OF THE REMARKS PARAMETER CONTAINS INVALID CHARACTERS.

説明: PSBGEN ステートメントの REMARKS パラメーターに指定されたコメントに、1 つ以上の無効文字が含まれています。

REMARKS キーワードで指定される値に、以下の文字を含むことはできません。

- 単一引用符 (コメント・ストリング全体を囲むために使用されている場合を除く)。単一引用符がコメント・ストリング全体の末尾より前に入力されると、そのコメント・ストリングの残りの部分は切り捨てられます。以下の例では、REMARKS キーワードでの単一引用符の正しい使い方と誤った使い方を示します。

CORRECT

```
REMARKS='These remarks apply to the XYZ application'
```

INCORRECT

```
REMARKS='These remarks apply to the 'XYZ' application'
```

- 二重引用符。
- より小 (<) 記号。
- より大 (>) 記号。
- アンパーサンド (&)。

システムの処置: PSBGEN は終了します。後続のステートメントの妥当性検査は継続します。

プログラマーの応答: PSBGEN ステートメントの REMARKS パラメーターに指定されたコメントから無効文字を除去して、PSBGEN ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 PSBGEN ステートメント (システム・ユーティリティ)

PSBGEN の SEG メッセージ

ここでは、次のメッセージについて説明します。

SEG100 SENSEG SPECIFICATION LIMIT EXCEEDED

説明: SENSEG ステートメントの数が 3000 の制限を超えました。

システムの処置: 最初の 999 個および最後の SENSEG ステートメントが使用されます。999 番目より後の各ステートメントは、妥当性が検査されてから、その次の SENSEG ステートメントによってオーバーレイされません。

プログラマーの応答: 余分な SENSEG ステートメントを除去してから、PSBGEN を再実行します。

SEG110 PCB STMT MUST PRECEDE SENSEG STMT

説明: PCB ステートメントは、SENSEG ステートメントより前になければなりません。

システムの処置: 前の PCB ステートメントが使用されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、PSBGEN を再実行します。

SEG120 NAME PARAMETER IS OMITTED Extra

説明: SENSEG ステートメントの NAME パラメーターが省略されたか、または指定された値が 1 から 8 文字の英数字ではありません。

システムの処置: NAME が省略された場合、名前が使用されません。8 文字を超えて指定された場合、最初の 8 文字が使用されます。

プログラマーの応答: NAME パラメーターを訂正し、PSBGEN を再実行します。

SEG130 PARENT PARAMETER IS OMITTED OR INVALID

説明: SENSEG ステートメントの PARENT パラメーターが省略されたか、あるいは、指定された値がゼロまたは 1 から 8 文字の英数字ではありません。

システムの処置: 省略された場合には、親の名前が与えられません。パラメーターが 8 文字を超えている場合、最初の 8 文字が使用されます。

プログラマーの応答: PARENT パラメーターを訂正し、PSBGEN を再実行します。

SEG140 SENSEG STMT IS INVALID FOR TP OR GSAM PCBs

説明: TYPE=TP の PCB の後に、TYPE=DB の PCB が間に入らずに、SENSEG ステートメントが続いています。

システムの処置: 指定された SENSEG は処理されません。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、PSBGEN を再実行します。

SEG150 DUPLICATE SENSEG NAME IN PCB

説明: この SENSEG ステートメントの NAME オペランドで指定された名前が、前に、この PCB の別の SENSEG ステートメントで指定されています。

プログラマーの応答: SENSEG 名を訂正し、PSBGEN を再実行します。

SEG160 SENSEG PARENT NOT DEFINED

説明: 指定された親の値が、センシティブ・セグメントとして前に定義されていません。

システムの処置: その SENSEG ステートメントの妥当性検査は終了します。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、PSBGEN を再実行します。

SEG170 POSITIONAL/KEYWORD OPERAND MIX IS INVALID

説明: IMS キーワードが指定された同じ SENSEG ステートメントに、定位置オペランドが指定されました。いずれか一方のみを使用する必要があります。

システムの処置: この SENSEG ステートメントは処理されません。

プログラマーの応答: SENSEG ステートメントを訂正し、PSBGEN を再実行します。

SEG180 NAME OPERAND IS OMITTED OR INVALID

説明: SENSEG ステートメントの NAME オペランドが省略されたか、または指定された名前が 1 から 8 文字の英数字ではありません。

システムの処置: 省略された場合、名前が使用されません。指定されていて、そのオペランドが 8 文字を超え

ている場合、最初の 8 文字が使用されます。

プログラマーの応答: NAME オペランドを指定または訂正し、PSBGEN を再実行します。

SEG190 PARENT OPERAND IS OMITTED OR INVALID

説明: SENSEG ステートメントの PARENT オペランドが省略されたか、あるいは、指定された値がゼロまたは 1 から 8 文字の英数字ではありません。

システムの処置: 省略された場合には、親の名前が与えられません。オペランドが 8 文字を超えている場合、最初の 8 文字が使用されます。

プログラマーの応答: PARENT オペランドを訂正し、PSBGEN を再実行します。

SEG230 PROCOPT OPERAND IS OMITTED OR INVALID

説明: このメッセージは、次の場合に発行されます。

- SENSEG ステートメントの PROCOPT パラメーターが省略された。
- PROCOPT パラメーターで無効な処理オプションが指定された。

システムの処置: 指定エラーのため、PSBGEN は終了します。

プログラマーの応答: PROCOPT オペランドを訂正し、PSBGEN を再実行します。

SEG250 MAXIMUM NUMBER OF INDICES PER SENSEG IS 32

説明: この SENSEG ステートメントの INDICES パラメーターで 32 を超える副次索引が指定されました。

システムの処置: この SENSEG ステートメントの処理は終了します。

プログラマーの応答: 指定される副次索引の数を 32 以下に減らし、PSBGEN を再実行します。

SEG260 INDICES OPERAND IS INVALID

説明: INDICES オペランドで指定された副次索引名の 1 つ以上が、8 文字を超えています。

システムの処置: この SENSEG の処理は終了します。

プログラマーの応答: INDICES オペランドを訂正し、PSBGEN を再実行します。

SEG270 SECONDARY INDEX NAME IS A DUPLICATE

説明: この SENSEG ステートメントの INDICES オペランドで指定された副次索引名のいずれかが、前に、この PCB の別の SENSEG ステートメントで指定されています。

プログラマーの応答: INDICES オペランドを訂正し、PSBGEN を再実行します。

SEG280 SECONDARY INDICES LIMIT PER PSB EXCEEDED

説明: この PSBGEN で、1000 を超える副次索引が指定されています。

システムの処置: この SENSEG の処理は終了します。

プログラマーの応答: 副次索引の総数を 1000 以下に減らし、PSBGEN を再実行します。

SEG290 INDICES OPERAND IS INVALID WITH PROCOPT=OPTION

説明: PROCOPT=LS または L を指定した PCB の後に、INDICES オペランドを指定した SENSEG ステートメントが続いています。

システムの処置: この SENSEG の処理は終了します。

プログラマーの応答: INDICES オペランドを除去し、PSBGEN を再実行します。

SEG300 SUBSET POINTER IS NOT SUPPORTED

説明: SSPTR オペランドが、ルート・セグメントに対して指定されています。

システムの処置: 指定エラーのため、PSBGEN は終了します。

プログラマーの応答: SENSEG ステートメントを訂正し、PSBGEN を再実行します。

SEG310 UPDATE NOT ALLOWED FOR SSPTR *subset_pointer_number*

説明: 処理オプションが A、R、I、または D でないため、サブセット・ポインター *subset_pointer_number* に指定された更新センシティブティビティーは使用できません。

システムの処置: PSBGEN は終了します。

プログラマーの応答: 問題を訂正するために、次のいずれかの処置を取ります。

- PCB または SENSEG の PROCOPT を更新オプションに変更する。

- サブセット・ポインターのセンシティブティイーを READ に変更する。

モジュール: DFSFLOAT

SEG600 THE VALUE SPECIFIED ON THE REMARKS PARAMETER EXCEEDS 256 CHARACTERS.

説明: REMARKS パラメーターは、最大 256 文字のストリングを受け入れることができます。REMARKS パラメーターに現在入力されているコメントが 256 文字の制限を超えています。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: REMARKS パラメーターに入力したコメント・ストリングを 256 文字以下になるように修正して、DBD 生成ユーティリティーを再実行します。

関連資料:

 SENSEG ステートメント (システム・ユーティリティー)

SEG601 THE VALUE OF THE REMARKS PARAMETER CONTAINS INVALID CHARACTERS.

説明: SENSEG ステートメントの REMARKS パラメーターに指定されたコメントに、1 つ以上の無効文字が含まれています。

REMARKS キーワードで指定される値に、以下の文字を含むことはできません。

PSBGEN の SFLD メッセージ

ここでは、次のメッセージについて説明します。

SFLD100 PCB AND SENSEG STATEMENTS MUST PRECEDE SENFLD STATEMENT

説明: PCB および SENSEG ステートメントは、SENFLD ステートメントより前になければなりません。

システムの処置: 指定された SENFLD は処理されません。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、PSBGEN を再実行します。

SFLD110 SENSEG STATEMENT MUST PRECEDE SENFLD STATEMENT

- 単一引用符 (コメント・ストリング全体を囲むために使用されている場合を除く)。単一引用符がコメント・ストリング全体の末尾より前に入力されると、そのコメント・ストリングの残りの部分は切り捨てられます。以下の例では、REMARKS キーワードでの単一引用符の正しい使い方と誤った使い方を示します。

CORRECT

REMARKS='These remarks apply to the XYZ application'

INCORRECT

REMARKS='These remarks apply to the 'XYZ' application'

- 二重引用符。
- より小 (<) 記号。
- より大 (>) 記号。
- アンパーサンド (&)。

システムの処置: PSBGEN は終了します。後続のステートメントの妥当性検査は継続します。

プログラマーの応答: SENSEG ステートメントの REMARKS パラメーターに指定されたコメントから無効文字を除去して、PSBGEN ユーティリティーを再実行します。

関連資料:

 SENSEG ステートメント (システム・ユーティリティー)

説明: SENSEG ステートメントは、SENFLD ステートメントより前になければなりません。

システムの処置: 指定された SENFLD は処理されません。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、PSBGEN を再実行します。

SFLD120 THE LIMIT OF 10 000 SENFLDS WITHIN A PSBGEN HAS BEEN EXCEEDED

説明: SENFLD の数が 10000 という制限を超えました。

システムの処置: この SENFLD ステートメントが使用

され、前の SENFLD の値はオーバーレイされます。

プログラマーの応答: SENFLD ステートメントの数を 10000 以下に減らし、PSBGEN を再実行します。

**SFLD130 THE LIMIT OF 255 SENFLDS
WITHIN A SENSEG HAS BEEN
EXCEEDED**

説明: SENSEG 内で SENFLD の数が 255 の制限を超えました。

システムの処置: この SENFLD ステートメントが使用され、前の SENFLD の値はオーバーレイされます。

プログラマーの応答: SENFLD ステートメントの数を 255 以下に減らし、PSBGEN を再実行します。

**SFLD140 NAME PARAMETER IS OMITTED
OR INVALID**

説明: SENFLD ステートメントの NAME パラメーターが省略されたか、または指定された値が 1 から 8 文字の英数字ではありません。

システムの処置: NAME パラメーターが省略された場合、名前が使用されません。8 文字を超えて指定された場合、最初の 8 文字が使用されます。

プログラマーの応答: NAME パラメーターを指定または訂正し、PSBGEN を再実行します。

**SFLD160 START PARAMETER IS OMITTED
OR INVALID**

説明: SENFLD ステートメントの START パラメーターが省略されたか、または指定された値が 1 から 32767 の数値ではありません。

システムの処置: START パラメーターが省略された場合、1 が使用されます。指定された場合、指定された値が使用されます。

プログラマーの応答: START パラメーターを指定または訂正し、PSBGEN を再実行します。

SFLD170 REPLACE PARAMETER IS INVALID

説明: 指定された値が無効です。有効なオペランドは、REPLACE=YES および REPLACE=NO です。

システムの処置: REPLACE=NO が想定されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、PSBGEN を再実行します。

**SFLD180 SENFLD STATEMENT NOT VALID
WITH PROCOPT=K**

説明: PROCOPT=K を指定した SENSEG の後に、SENFLD ステートメントが指定されています。

システムの処置: この SENFLD ステートメントは処理されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、PSBGEN を再実行します。

**SFLD600 THE VALUE SPECIFIED ON THE
REMARKS PARAMETER EXCEEDS
256 CHARACTERS.**

説明: REMARKS パラメーターは、最大 256 文字のストリングを受け入れることができます。REMARKS パラメーターに現在入力されているコメントが 256 文字の制限を超えています。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: REMARKS パラメーターに入力したコメント・ストリングを 256 文字以下になるように修正して、DBD 生成ユーティリティーを再実行します。

関連資料:

 SENFLD ステートメント (システム・ユーティリティー)

**SFLD601 THE VALUE OF THE REMARKS
PARAMETER CONTAINS INVALID
CHARACTERS.**

説明: SENFLD ステートメントの REMARKS パラメーターに指定されたコメントに、1 つ以上の無効文字が含まれています。

REMARKS キーワードで指定される値に、以下の文字を含むことはできません。

- 単一引用符 (コメント・ストリング全体を囲むために使用されている場合を除く)。単一引用符がコメント・ストリング全体の末尾より前に入力されると、そのコメント・ストリングの残りの部分は切り捨てられます。以下の例では、REMARKS キーワードでの単一引用符の正しい使い方と誤った使い方を示します。

CORRECT

REMARKS='These remarks apply to the XYZ application'

INCORRECT

REMARKS='These remarks apply to the 'XYZ' application'

SFLD601

- 二重引用符。
- より小 (<) 記号。
- より大 (>) 記号。
- アンパーサンド (&)。

システムの処置: PSBGEN は終了します。後続のステートメントの妥当性検査は継続します。

プログラマーの応答: SENFLD ステートメントの REMARKS パラメーターに指定されたコメントから無効文字を除去して、PSBGEN ユーティリティーを再実行します。

関連資料:

 SENFLD ステートメント (システム・ユーティリティー)

第 14 章 DBDGEN メッセージ (AREA、DBD、DGEN、DMAN、EXT、FIN、FLD、LCHD、SEGM、SOUR、XDFLD)

データベース記述生成 (DBDGEN) メッセージは、DBD 生成エラー条件に対して表示され、さまざまな接頭部が付けられています。

DBDGEN 中にメッセージが発生する接頭部のおおよその順序、および発行モジュールは次のとおりです。

メッセージ接頭語	発行する主なマクロ
AREA	AREA
DBD	DBD
DGEN	DBDGEN
DMAN	DATASET、DMAN
EXT	LCHILD、DBDGEN
FIN	FIN
FLD	FIELD、FLD、FLDK、 DFSMARSH、DFSMAP、DFSCASE
LCHD	LCHILD
SEGM	SEGM
SOUR	SEGM
XDFLD	XDFLD

DBD 生成は、オペレーティング・システムのアセンブラ言語マクロ命令から構成されているため、DBD 制御ステートメントの欠落または無効なシーケンス、あるいは無効なキーワード・パラメーターの場合は、オペレーティング・システムのアセンブラからのエラー・ステートメントも出力されます。これらのメッセージごとに、このトピックで示される「システムの処置」の他に (明示的に他の処置が示されていない限り)、残りの DBDGEN ステートメントは、使用可能な情報に基づいて妥当性が検査されます。DBD 生成は、マクロ展開の前に終了します。

DBD 生成の AREA メッセージ

ここでは、次のメッセージについて説明します。

AREA100 AREA STMT IS INVALID FOR ACCESS=*access* DBDS.

説明: ACCESS= オペランドに DEDB 以外の値が含まれているか、または AREA ステートメントが誤って使用されています。

システムの処置: システムは、AREA ステートメントで指定されたオペランドをすべて無視し、残りのステートメントの処理を継続します。

プログラマーの応答: DBD ステートメントの ACCESS

オペランドを訂正するか、または AREA ステートメントを DATASET ステートメントに変更します。DBDGEN を再実行します。

AREA120 AREA SPECIFICATION LIMIT EXCEEDED.

説明: ACCESS=DEDB を指定した DBDGEN で許容される数より多くの AREA ステートメントがあります。AREA ステートメントの有効な数は 2048 以下です。

AREA140 • DBD001

システムの処置: 最初 10 エリアは順に入力され、残りの AREA ステートメントは無視されます。

プログラマーの応答: AREA ステートメントの数を 2048 以下に減らして、DBDGEN を再実行します。

AREA140 MODEL OPERAND SPECIFICATION IS INVALID

説明: MODEL オペランドで、次のいずれかの有効な値が指定されていません。

- DEVICE=2305 の場合、model=1 または 2 が可能です。
- DEVICE=3330 の場合、model=1 または 11 が可能です。
- DEVICE=2314、2319、3340、および 3350 の場合、MODEL オペランドは指定できません。

システムの処置: 展開の前に DBDGEN を終了します。

プログラマーの応答: MODEL オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

AREA644 THE VALUE SPECIFIED ON THE REMARKS PARAMETER EXCEEDS 256 CHARACTERS.

説明: REMARKS パラメーターは、最大 256 文字のストリングを受け入れることができます。REMARKS パラメーターに現在入力されているコメントが 256 文字の制限を超えています。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: REMARKS パラメーターに入力したコメント・ストリングを 256 文字以下になるように修正して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 AREA ステートメント (システム・ユーティリティ)

AREA645 THE VALUE OF THE REMARKS PARAMETER CONTAINS INVALID CHARACTERS.

説明: AREA ステートメントの REMARKS パラメーターで指定されたコメントに、1 つ以上の無効文字が含まれています。

REMARKS キーワードで指定される値に、以下の文字を含むことはできません。

- 単一引用符 (コメント・ストリング全体を囲むために使用されている場合を除く)。単一引用符がコメント・ストリング全体の末尾より前に入力されると、そのコメント・ストリングの残りの部分は切り捨てられます。以下の例では、REMARKS キーワードでの単一引用符の正しい使い方と誤った使い方を示します。

CORRECT

```
REMARKS='These remarks apply to the XYZ application'
```

INCORRECT

```
REMARKS='These remarks apply to the 'XYZ' application'
```

- 二重引用符。
- より小 (<) 記号。
- より大 (>) 記号。
- アンパーサンド (&)。

システムの処置: DBDGEN は終了します。後続のステートメントの妥当性検査は継続します。

プログラマーの応答: AREA ステートメントの REMARKS パラメーターに指定されたコメントから無効文字を除去し、DBDGEN ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 AREA ステートメント (システム・ユーティリティ)

DBD 生成の DBD メッセージ

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DBD001 DBD CARD MUST OCCUR 1ST IN A DBDGEN

説明: DBDGEN に対する最初の入力は、DBD ステートメントでなければなりません。DBDGEN が機能するには、まずその前に、データベースの DL/I 編成および名前を認識する必要があります。

システムの処置: 後続のステートメントのスキャンから得られる結果は予測不能です。

プログラマーの応答: DBDGEN への最初の入力として DBD ステートメントを指定してから、DBDGEN を再実行します。

DBD100 MORE THAN ONE DBD CARD SPECIFIED

説明: データベースごとに 1 つの DBD ステートメントしか受け入れられません。

システムの処置: 2 番目の DBD ステートメントのパラメーターは、最初の DBD ステートメントのパラメーターをオーバーレイします。結果は予測不能です。

プログラマーの応答: 余分な DBD ステートメントを除去してから、DBDGEN を再実行します。

DBD110 NAME OPERAND IS OMITTED OR INVALID

説明: 次のいずれかが発生しました。

- NAME オペランドが省略されました。
- NAME オペランドで指定されたデータベース名が、8 文字を超えるか、予約名の RDMVTAB に等しいか、先頭の文字が英字、#、@、または \$ のいずれでもないか、あるいは先頭以外の文字が英字、数字、#、@ または \$ のいずれでもありません。
- NAME オペランドで複数のデータベース名が指定されたが、ACCESS が INDEX でないか、あるいは、ACCESS=INDEX であるが、データベース名の最大数を超えているか、またはリスト内で重複しています。

システムの処置: デフォルトは想定されていません。指定された名前は、後続の妥当性検査で使用されます。

プログラマーの応答: NAME オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

DBD113 PASSWD=*value* OPERAND IS INVALID

説明: メッセージ・テキスト内の *value* で示される無効なパスワード・オペランドが指定されました。有効なオペランド値は PASSWD=YES および PASSWD=NO です。

システムの処置: 後続の妥当性検査では、PASSWD=NO が想定されます。

プログラマーの応答: PASSWD オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

DBD118 PASSWD OPERAND IS INVALID WITH ACCESS=*access*

説明: DL/I アクセス方式が HISAM、SHISAM、HDAM、HIDAM、INDEX、GSAM、PHDAM、PHIDAM、または PSINDEX 以外の場合に、PASSWD=YES を指定しました。LOGICAL データベースの場合、パスワード処理が必要であれば、パスワード・

オペランドを物理データベース記述で指定する必要があります。

システムの処置: 後続の妥当性検査では、PASSWD=NO が想定されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

DBD119 PASSWD OPERAND MAY ONLY BE SPECIFIED IF VSAM IS THE SYSTEM ACCESS METHOD

説明: PASSWD=YES を指定しましたが、システム・アクセス方式として VSAM が指定されませんでした。

システムの処置: 後続の妥当性検査では、PASSWD=NO が想定されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

DBD120 ACCESS OPERAND IS OMITTED OR INVALID

説明: 次のいずれかが発生しました。

- ACCESS オペランドが省略されました。
- DL/I アクセス方式またはオペレーティング・システム・アクセス方式が、リストされた有効なタイプまたは組み合わせではありません。
- ACCESS オペランドで、INDEX を指定せずに 3 つ以上のパラメーター値が含まれているか、または INDEX を指定した上で 5 つ以上のパラメーター値が含まれています。
- ACCESS オペランドで、VSAM を指定せずに、PROT または DOSCOMP オプションが指定されたが、PROT または NOPROT ではなかったか、あるいは 4 番目のパラメーター値が指定されたが、DOSCOMP ではありませんでした。

このエラーは、続いて出力されるエラー・メッセージ (生成されていれば) の妥当性を判別する前に訂正しておく必要があります。

システムの処置: デフォルトは想定されていません。後続のパラメーターのスキャンを意味のあるものにするために、このエラーを訂正しておく必要があります。

プログラマーの応答: ACCESS オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

DBD130 RMNAME OPERAND IS OMITTED OR INVALID

説明: 次のいずれかが発生しました。

- DL/I アクセス方式が HDAM、DEDB、または PHDAM 以外の場合に、RMNAME オペランドが指定されました。
- HDAM または PHDAM の場合、RMNAME オペランドが省略されたか、あるいは指定されたが、ランダム化モジュール名が省略されたか、または指定されたランダム化モジュール名が 8 文字を超えているか、内容に無効文字が含まれています。あるいは、RMNAME オペランドのパラメーターが 4 つを超えているか、または後ろの 3 つのパラメーター値のいずれかが自己定義でなく、許容下限より小さいか、許容上限より大きい値です。
- DEDB の場合、RMNAME ランダム化モジュール名が省略されたか、または指定されたランダム化モジュール名が 8 文字を超えているか、内容に無効文字が含まれています。あるいは、RMNAME オペランドに、複数のランダム化モジュール名が含まれていません。

システムの処置: デフォルト値とユーザー情報の組み合わせが、後続の妥当性検査に使用されます。

プログラマーの応答: RMNAME オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

DBD131 RBN OPERAND MUST BE SPECIFIED

説明: ランダム化モジュール名 DFSHDC10 または DFSHDC40 を使用する場合、RBN オペランドを指定する必要があります。

システムの処置: DBD のエラーにより、DBDGEN は終了します。

プログラマーの応答: RBN オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

DBD140 A SHARED SECONDARY INDEX REQUIRES VSAM AS THE SYSTEM ACCESS METHOD

説明: ACCESS=INDEX の場合に NAME オペランドに複数のデータベース名を指定しましたが、指定されたシステム・アクセス方式が VSAM ではありませんでした。

システムの処置: 指定された情報は、後続の妥当性検査で使用されます。

プログラマーの応答: 不整合なオペランド情報を訂正し、DBDGEN を再実行します。

DBD150 ISAM ACCESS METHOD IS NO LONGER SUPPORTED

説明: DBDGEN で ACCESS=(xxxx,ISAM) を指定しました。ISAM アクセス方式はIMS の下ではサポートされていません。

システムの処置: システムは、DBDGEN の残りのパラメーターの妥当性検査を継続します。

プログラマーの応答: ACCESS= オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

DBD160 PSNAME OPERAND IS INVALID.

説明: PSNAME オペランドが名前規則に違反しています。オペランドが次のとおりでした。

- 8 文字を超えてはならない
- 先頭文字は英字でなければならない
- 残りの文字は、英字、数字、あるいは #、@、\$ でなければならない

システムの処置: DBDGEN は終了します。後続のステートメントの妥当性検査は継続します。

プログラマーの応答: PSNAME 指定を訂正し、DBDGEN を再処理します。

DBD170 PSNAME OPERAND IS INVALID WITH ACCESS=

説明: PSNAME オペランドは、ACCESS=PHDAM、PHIDAM、または PSINDEX の場合のみ有効です。

システムの処置: DBDGEN は終了します。後続のステートメントの妥当性検査は継続します。

プログラマーの応答: PSNAME オペランドを除去するか、または ACCESS パラメーターを変更して使用可能な編成のいずれかにします。

DBD180 DBVER SPECIFIED ON UNSUPPORTED DB TYPE

説明: DBVER オペランドが、データベースのバージョン管理をサポートしないデータベース・アクセス・タイプの DBD ステートメントで指定されています。

DBVER は、以下のデータベース・アクセス・タイプの DBD ステートメントでのみ指定できます。

- DEDB
- HDAM
- HIDAM
- PHDAM
- PHIDAM

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: DBD ステートメントを訂正して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

DBD181 DBVER OPERAND IS INVALID

説明: DBD ステートメントの DBVER オペランドの値は無効です。

DBVER の有効な値は 1 から 2147483647 です。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: DBD ステートメントを訂正して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

DBD200 FPINDEX OPERAND IS ONLY VALID FOR A INDEX DATABASE

説明: DBDGEN ユーティリティが、副次索引データベースではないデータベースの DBD ステートメントで FPINDEX オペランドを検出しました。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: DBD ステートメントを訂正して、DBDGEN ユーティリティを再実行します。

DBD210 FPINDEX OPERAND VALUE IS INVALID

説明: DBD ステートメントの FPINDEX オペランドの値が無効です。

システムの処置: DBDGEN の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: DBD ステートメントを訂正して、DBDGEN ユーティリティを再実行します。

DBD300 PASSWD OPERAND IS INAPPLICABLE TO ACCESS={MSDB|DEDB}

説明: DBD ステートメントで ACCESS=MSDB または ACCESS=DEDB が指定された場合の DBDGEN には、PASSWD オペランドは無効です。

システムの処置: システムは、DBD ステートメントのパラメーターおよび残りのステートメントの処理を継続します。

プログラマーの応答: DBD ステートメントから PASSWD パラメーターを除去して、DBDGEN を再実行するか、あるいは、警告メッセージを無視します。

DBD600 THE VALUE SPECIFIED ON THE ENCODING PARAMETER EXCEEDS 25 CHARACTERS

説明: DBD ステートメントの ENCODING パラメーターに指定された値が、最大長の 25 文字を超えています。

システムの処置: DBDGEN は終了します。後続のステートメントの妥当性検査は継続します。

プログラマーの応答: ENCODING パラメーターの値を訂正し、DBDGEN ユーティリティを再実行します。

DBD601 THE VALUE SPECIFIED ON THE REMARKS PARAMETER EXCEEDS 256 CHARACTERS

説明: DBD ステートメントの REMARKS キーワードで指定されたコメントが、最大長の 256 文字を超えています。

システムの処置: DBDGEN は終了します。後続のステートメントの妥当性検査は継続します。

プログラマーの応答: DBD ステートメントの REMARKS の長さ指定を短くして、DBDGEN ユーティリティを再実行します。

DBD602 THE VALUE OF THE REMARKS PARAMETER CONTAINS INVALID CHARACTERS

説明: DBD ステートメントの REMARKS パラメーターに指定されたコメントに、1 つ以上の無効文字が含まれています。

REMARKS キーワードで指定される値に、以下の文字を含むことはできません。

- 単一引用符 (コメント・ストリング全体を囲むために使用されている場合を除く)。単一引用符がコメント・ストリング全体の末尾より前に入力されると、そのコメント・ストリングの残りの部分は切り捨てられます。以下の例では、REMARKS キーワードでの単一引用符の正しい使い方と誤った使い方を示します。

CORRECT

```
REMARKS='These remarks apply to the XYZ application'
```

INCORRECT

```
REMARKS='These remarks apply to the 'XYZ' application'
```

- 二重引用符。
- より小 (<) 記号。

- より大 (>) 記号。
- アンパーサンド (&)。

システムの処置: DBDGEN は終了します。後続のステートメントの妥当性検査は継続します。

プログラマーの応答: DBD ステートメントの REMARKS パラメーターで指定されたコメントから無効文字を除去し、DBDGEN ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 DBD ステートメント (システム・ユーティリティ)

DBD603 THE VALUE OF THE ENCODING PARAMETER CONTAINS INVALID CHARACTERS

説明: DBD ステートメントの ENCODING パラメーターに指定された値に、以下の無効文字が 1 つ以上含まれています。

- 単一および二重引用符
- ブランク
- より小 (<) およびより大 (>) 記号
- アンパーサンド (&)

システムの処置: DBDGEN は終了します。後続のステートメントの妥当性検査は継続します。

プログラマーの応答: ENCODING パラメーターから無効文字を除去し、DBDGEN ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 DBD ステートメント (システム・ユーティリティ)

DBD700 xxxxxxxx IGNORED FOR EXIT yyyyyyyy BECAUSE zzzzzzzz ALREADY SPECIFIED

説明: DBD ステートメントで、出口 yyyyyyyy に対して出口オプション xxxxxxxx が指定されましたが、zzzzzzzz オプションと矛盾するため、このオプションは無視されます。zzzzzzzz オプションが使用されます。

システムの処置: RC=4 で処理は続行されます。

プログラマーの応答: DBD ステートメントの EXIT 指定を訂正します。

問題判別: 2、3、8、および 18

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DBD750 EXIT NOT SUPPORTED FOR DB ORGANIZATION. HDAM, HIDAM, DEDB, HISAM, OR SHISAM DATA BASE ORGANIZATION IS REQUIRED

説明: DBD ステートメントで、サポートされていないデータベース編成のときに EXIT= パラメーターが指定されました。

システムの処置: 処理は終了し、RC=8 が示されます。

プログラマーの応答: DBD ステートメントの EXIT 指定を訂正します。

問題判別: 2、3、8、および 18

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DBD755 EXIT NAME xxxxxx IS INVALID

説明: DBD ステートメントの EXIT= パラメーターで、出口名定位置パラメーター xxxxxx を指定しました。しかし、無効文字を指定したか、8 バイトを超える長さを使用しました。

システムの処置: 処理は終了し、RC=8 が示されます。

プログラマーの応答: DBD ステートメントの EXIT 指定を訂正します。

問題判別: 2、3、8、および 18

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DBD760 xxxxxxxx EXIT OPTION SPECIFIED FOR EXIT yyyyyyyy IS NOT A VALID OPTION. KEY, NOKEY, DATA, NODATA, PATH, NOPATH, FLD, NOFLD, INPOS, NOINPOS, SSPCMD, NOSSPCMD, BEFORE, NOBEFORE, DLET, NODLET, CASCADE, NOCASCADE ARE VALID OPTIONS

説明: DBD ステートメントの EXIT= パラメーターに、無効なオプション xxxxxxxx が含まれています。

システムの処置: 処理は終了し、RC=8 が示されます。

プログラマーの応答: DBD ステートメントの EXIT 指定を訂正します。

問題判別: 2、3、8、および 18

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DBD765 *xxxxxxx EXIT CASCADE OPTION SPECIFIED FOR EXIT yyyyyyyy IS NOT A VALID OPTION. KEY, NOKEY, DATA, NODATA, PATH, NOPATH ARE VALID OPTIONS*

説明: DBD ステートメントの EXIT= パラメーターに、CASCADE 用の無効なオプション xxxxxxx が含まれています。

システムの処置: 処理は終了し、RC=8 が示されます。

プログラマーの応答: DBD ステートメントの EXIT 指定を訂正します。

問題判別: 2、3、8、および 18

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DBD770 *xxxxxxx WAS SPECIFIED, BUT xxxxxxx IS ONLY FOR DEDB.*

説明: DEDB データベースの DBD ステートメントの EXIT= パラメーターに、パラメーター xxxxxxx が指定されています。ただし、パラメーター xxxxxxx は

DEDB の場合にのみ有効です。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxxxxx

DEDB データベースの DBD ステートメントの EXIT= パラメーターには、次のいずれかのパラメーターを指定します。

- NODLET
- DLET
- NOBEFORE
- BEFORE

システムの処置: RC=4 で処理は続行されます。

システム・プログラマーの応答: DEDB データベースの DBD ステートメントの EXIT= パラメーターの指定を訂正します。

関連資料:

 DBD ステートメント (システム・ユーティリティー)

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DBD 生成の DGEN メッセージ

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DGEN100 **DBD CONTAINS NO SEGMENTS**

説明: この DBDGEN の SEGM ステートメントが指定されませんでした。

システムの処置: 残りの DBDGEN パラメーターの妥当性が検査されます。以前に指定されたパラメーターは、可能であれば、妥当性が検査されます。展開の前に DBDGEN は終了します。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

DGEN110 **DBDGEN TERMINATED, ERRORS IN DBD**

説明: DBDGEN マクロの展開の前に、レベル 8 以上の条件コードが検出されました。

システムの処置: ありません。

プログラマーの応答: エラーのステートメントを訂正し、DBDGEN を再実行します。

DGEN115 **NUMBER OF SEGM STATEMENTS MUST EQUAL THE NUMBER OF INDEX DATA BASE NAMES**

説明: SEGM ステートメントの数が、索引 DBD に関する DBD ステートメントでコーディングされた共用副次索引名の数より多いか、または少ない数でした。

システムの処置: IMS は DBDGEN を終了させます。

プログラマーの応答: 名前の数と SEGM ステートメントの数は同じでなければなりません。

DGEN117 **THE BLOCK SIZE VALUE EXCEEDS 32752 BYTES. IMAGE COPY WILL NOT BE AVAILABLE.**

説明: これは警告メッセージです。DBDGEN ユーティリティーは、値 32752 では最長のセグメントおよび必要なオーバーヘッドを保持するには不十分な長さなので、ブロック・サイズに 32767 バイトを割り当てました。

イメージ・コピー処理モジュール DFSUDMP0 は、接頭部のダブルワード位置合わせのためブロック・サイズに 15 バイトを追加するので、指定された 32752 バイトでは、イメージ・コピー・ユーティリティーを実行できません。DBDGEN ステートメントの最大ブロック・サイズは 32767 バイトです。

ユーザーの処置: イメージ・コピー・ユーティリティーを使用してデータベースを保管するには、SEGM ステ

DGEN118 • DGEN165

ートメントの BYTES オペランドにより小さな値を指定するか、または DATASET ステートメントの BLOCK/SIZE オペランドにより小さな値を指定します。その後、DBDGEN を再実行します。

DGEN118 THE USER SPECIFIED CI SIZE VALUE EXCEEDS 30720, WILL NOT HOLD THE MINIMUM SIZE BIT MAP, OR WILL NOT HOLD THE MAXIMUM SIZE SEGMENT IN THIS DATA SET GROUP

説明: これは警告メッセージです。(HDAM, VSAM) または (HIDAM, VSAM) データベースの場合、DATASET ステートメントで指定された CI サイズが、30720 を超えるか、あるいは最小サイズのビットマップにオーバーヘッドを加えたもの、または最大サイズのセグメントにオーバーヘッドを加えたものを保持するには小さ過ぎます。固定長圧縮セグメントの場合、最大セグメント・サイズは、圧縮できないセグメント・オカレンスを考慮に入れて、10 バイトの拡張を含めて計算されます。

システムの処置: ユーザー指定の値が後続の処理で使用されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

DGEN120 SEGMENT *name* NOT IN DATABASE *db_name*

説明: メッセージ・テキストで *name* によって示されているセグメントを、現在定義されているデータベースに存在するものとして定義しました。示されたセグメントを NAME オペランドで指定している SEGM ステートメントが見つかりませんでした。

システムの処置: デフォルトは与えられていません。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

DGEN130 REFERENCED PAIRED SEGMENT DOES NOT SPECIFY 'PAIRED' IN ITS POINTER OR PTR OPERAND. PAIRED SEGMENT IS *name*.

説明: (メッセージで説明されたとおりです)

システムの処置: ありません。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

DGEN140 DATASET-*n name* CONTAINS NO SEGMENTS

説明: メッセージに示された DATASET ステートメントの後に SEGM ステートメントがありません。

システムの処置: このメッセージが発行され、処理は継続します。

DGEN150 LCHILD STATEMENT FOR ROOT SEGMENT *name* OMITTED OR INVALID

説明: ルート・セグメントに対する LCHILD ステートメントが指定されなかったか、または正しく指定されませんでした。HIDAM データベースでは、基本 HIDAM 索引データベースに LCHILD ステートメントが必要です。索引データベース内の各セグメントで、LCHILD ステートメントを定義する必要があります。

システムの処置: デフォルトはありません。

プログラマーの応答: ルート・セグメントに LCHILD ステートメントを指定して、DBDGEN を再実行します。

DGEN160 ROOT SEGMENT *name* HAS NO SEQUENCE FIELD

説明: ルート・セグメントを定義している SEGM ステートメントに対応する FIELD ステートメントのいずれにも、シーケンス・フィールドが定義されていません。索引データベース内の各セグメントで、シーケンス・フィールドを定義する必要があります。

システムの処置: デフォルトはありません。

プログラマーの応答: ルート・セグメントにシーケンス・フィールドを指定して、DBDGEN を再実行します。

DGEN165 PREFIX LENGTH OF ALL SEGM STATEMENTS IN A SHARED SECONDARY INDEX MUST BE EQUAL

説明: キー・オフセット位置が各索引元セグメントで同じであれば、複数の副次索引を単一の索引共用データベースに設定することができます。このことは、各セグメントの接頭部の長さが同じであることを意味していません。

システムの処置: 指定されたオペランド情報は、後続の妥当性検査で使用されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

DGEN170 **SEGMENT (*name*) LENGTH PLUS PREFIX EXCEEDS BLOCKSIZE MINUS FREE SPACE PERCENTAGE REQUESTED. SEGMENT WILL BE STORED AS ONLY SEGMENT IN A BLOCK.**

説明: 通知のみです。

システムの処置: このセグメントは、ブロック内の唯一のセグメントとして保管されます。フリー・スペースは、セグメントが要求を超えた分だけ削除されます。

DGEN185 **LCHILD STATEMENT, *name*, REFERENCES A PAIRED SEGMENT, *segname*, WHICH IS NOT A CHILD OF THE LOGICAL PARENT**

説明: 上記メッセージに示された LCHILD ステートメントには、物理的または仮想的な対セグメントを指定する PAIR オペランドがあります。しかし、この対セグメントの物理親は、LCHILD ステートメントを含むセグメントと同じではありません。

システムの処置: 指定されたオペランド情報は、後続の妥当性検査で使用されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

DGEN200 **BLOCK SIZE EXCEEDS MAXIMUM BLOCK ON TRACK-*size***

説明: HSAM または SHSAM データベースの場合に、トラックの最大許容ブロック・サイズを超えるブロック・サイズまたはブロック化因数が、DATASET ステートメントで指定されました。最大許容ブロック・サイズは、トラックの長さまたは 32K バイトのいずれか小さい方です。

システムの処置: ユーザー指定のブロック・サイズ値はリセットされます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

DGEN210 **ONE OR MORE SEGMENTS IN THE ABOVE DATA SET GROUP WILL NOT FIT IN THE MAXIMUM ALLOWABLE CI SIZE-30720**

説明: これは (HDAM,VSAM) または (HIDAM,VSAM) データベースの場合に生成される警告メッセージです。1 つ以上のセグメントおよびオーバーヘッドの合計バイトが、最大 CI サイズの 30720 を超えます。

DGEN220 **SPECIFIED KSDS LOGICAL RECORD LENGTH RESET TO MULTIPLE OF 2...*length***

説明: これは (HISAM,VSAM) または (INDEX,VSAM) データベースの場合に生成される警告メッセージです。ユーザーの指定した KSDS の論理レコードが、2 の倍数ではありません。

DGEN229 **THE MAXIMUM ROOT SEGMENT SIZE WILL NOT FIT IN THE USER SPECIFIED OR MAXIMUM KSDS PRIME LOGICAL RECORD LENGTH...*lrecl***

説明: これは警告メッセージです。(HISAM, VSAM)、SHISAM、または (INDEX, VSAM) データベースの場合に、最大サイズのルート・セグメントにオーバーヘッドを加えたものが、このデータ・セット・グループに関するユーザー指定の論理レコード長または最大 KSDS 基本論理レコード長に適合しません。固定長圧縮ルート・セグメントの場合、最大ルート・セグメント・サイズは、圧縮できないルート・セグメント・オカレンスを考慮に入れて、10 バイトの拡張が追加で含まれます。

システムの処置: ユーザー指定の論理レコード長または最大 KSDS 基本論理レコード長が、後続の処理で使用されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

DGEN232 **THE MAXIMUM SEGMENT LENGTH IN THIS DATA SET GROUP WILL NOT FIT IN THE USER SPECIFIED OR MAXIMUM ESDS OVERFLOW LRECL...*lrecl***

説明: (HISAM, VSAM) データベースの場合に、ユーザー指定の LRECL または最大 ESDS オーバーフローの LRECL が、このデータ・セット・グループ内の最大サイズのルート・セグメントにオーバーヘッドを加えたものを含めるには不十分な大きさです。固定長圧縮セグメントの場合、最大セグメント・サイズは、圧縮できないセグメント・オカレンスを考慮に入れて、10 バイトの拡張が追加で含まれます。

システムの処置: ユーザー指定または最大の ESDS オーバーフロー LRECL が後続の処理で使用されます。

プログラマーの応答: これは警告メッセージです。

DGEN240 SPECIFIED BLOCKING FACTOR CAUSES MAXIMUM ALLOWABLE CI SIZE (30720) TO BE EXCEEDED. BLOCKING FACTOR SPECIFIED-number RESET TO BLOCKING FACTOR-number

説明: これは警告メッセージです。

DGEN245 SPECIFIED CI SIZE IS LESS THAN CALCULATED OR SPECIFIED LOGICAL RECORD LENGTH-xxxxx

説明: ユーザー指定の CI サイズから VSAM オーバーヘッドを引いたものが、指定または計算された論理レコード長より小さい値です。

システムの処置: DBDLRECL マクロが CI サイズを内部的な計算値にリセットし、DBDGEN は継続します。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

DGEN250 SPECIFIED ESDS LRECL-size RESET TO MULTIPLE OF 2-size

説明: これは (HISAM,VSAM) または (INDEX,VSAM) データベースの場合に生成される警告メッセージです。ユーザーが ESDS データ・セットに指定した論理レコードが、2 の倍数ではありませんでした。

DGEN260 SPECIFIED ESDS BLOCKSIZE INVALID. LRECL AND BLOCKSIZE RESET TO PRIME VALUES.

説明: これは警告メッセージです。

DGEN265 ESDS LRECL AND/OR CI SIZE INVALID.

説明: オーバーフロー ESDS の論理レコード長に VSAM オーバーヘッドを加えたものが、オーバーフロー ESDS の CI サイズに適合しないか、またはオーバーフロー ESDS の CI サイズが 30720 を超えています。

システムの処置: オーバーフロー LRECL および CI サイズの値は、このデータ・セット・グループの基本の値にリセットされます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

DGEN270 ESDS DATA SET SPECIFICATION IS IGNORED. (INDEX,VSAM) DATA SET CONTAINS SEGMENTS WITH UNIQUE KEYS ONLY.

説明: この警告メッセージは、(INDEX,VSAM) データベースの場合に生成されます。入力順データ・セットは、固有キーのセグメントを含む INDEX データベースの場合には、使用されず、また必要ありません。

DGEN271 ESDS DATA SET SPECIFICATION IS IGNORED. (HISAM, VSAM) DATA SET WITH A SINGLE SEGM.

説明: この警告メッセージは、(HISAM/VSAM) データベースの場合に生成されます。入力順データ・セットは、ただ 1 つのセグメントしか含まない HISAM データベースの場合には、使用されず、また必要ありません。

DGEN300 INVALID POSITIONAL OPERAND-operand- SPECIFIED ON THIS STATEMENT

説明: 処理中のステートメント・タイプで指定した 1 つ以上の定位置オペランドが無効でした。operand は、無効なオペランドを示します。

システムの処置: 無効な定位置オペランドは無視されません。

プログラマーの応答: この定位置オペランドを除去して、DBDGEN を再実行します。

DGEN305 SHSAM SEGMENT SIZE MUST BE AN EXACT DIVISOR OF BLOCK SIZE

説明: SHSAM データベースの場合、ルート・セグメントのサイズは、ユーザー指定のブロック・サイズをちょうど割り切れる除数でなければなりません。

システムの処置: ユーザー指定の情報が後続の処理で使用されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

DGEN310 PRIOR DBDGEN STATEMENT SHOULD NOT BE PRESENT

説明: DBDGEN ステートメントが、DATASET、AREA、SEGM、LCHILD、FIELD、XDFLD、または DBDGEN ステートメントの前に指定されました。DBDGEN ステートメントは、ただ 1 つ、入力ストリームの終わりに存在しなければなりません。

システムの処置: このステートメントおよび後続のステートメントのスキャンから得られる結果は予測不能です。

プログラマーの応答: 誤りのあるステートメントを除去または再配列してから、DBDGEN を再実行します。

DGEN320 THERE IS A SECONDARY INDEX LCHILD STATEMENT (PTR=INDX/SYMB) WHICH IS NOT PAIRED TO AN XDFLD STATEMENT.

説明: XDFLD ステートメントの数より多くの副次索引 LCHILD ステートメントが存在します。

システムの処置: 指定されたオペランド情報のすべては、後続の妥当性検査で使用されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

DGEN330 THE /CK OPERAND IS INVALID ON A FIELD STATEMENT WITHOUT LCHILD/XDFLD STATEMENTS FOR ACCESS=DEDB

説明: DEDB データベースの FIELD ステートメントの NAME オペランドで /CK オペランドが使用されていますが、対応する LCHILD または XDFLD ステートメントが FIELD ステートメントに定義されていません。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: DEDB データベースの FIELD ステートメントの NAME オペランドにある /CK オペランドを除去して、DBDGEN ユーティリティを再実行します。

DGEN331 THE /CK OPERAND IS NOT USED ON AN XDFLD STATEMENT AS A SUBSEQ OR DDATA FIELD FOR ACCESS=DEDB

説明: /CK オペランドは、SUBSEQ オペランドのフィールドとして、あるいは LCHILD、および XDFLD ステートメントが定義された DEDB データベースの DDATA オペランドのフィールドとして、XDFLD ステートメントでのみ使用できます。しかし、XDFLD ステートメントで /CK オペランドが検出されましたが、それは SUBSEQ または DDATA オペランドでフィールドとして使用されていませんでした。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: XDFLD ステートメントの /CK オペランドを除去するか、または /CK オペランドを、SUBSEQ オペランドのフィールドとして、あるいは XDFLD ステートメントの DDATA オペランドのフィールドとして使用されるように変更し (あるいはその両方を行って)、DBDGEN ユーティリティを再実行します。

DGEN332 THE FIELD STMT FOR A PARENT OF A TARGET SEGMENT DOES NOT HAVE A UNIQUE KEY DEFINED

説明: ルート・セグメントでないターゲット・セグメントの場合、そのターゲット・セグメントからルート・セグメントまでの直接の親セグメントは、それぞれの直接の親セグメントが定義された固有キーの FIELD ステートメントを持っている必要があります。ターゲット・セグメントの親に、固有キーを定義された FIELD ステートメントがありません。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: 親セグメントの FIELD ステートメントを固有キーの FIELD ステートメントとなるように変更して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

DGEN440 COMPRTN= IS INVALID FOR SEGMENT xxxxxxxx.

説明: COMPRTN= は、次のいずれかの場合は指定できません。

- DEDB データベースで、セグメントにはキー・フィールドのみが含まれる。
- DEDB データベースで、キー・フィールドがセグメントの終わりにある。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

DGEN500 SEGMENT PREFIX LENGTH EXCEEDS 1022 BYTES. SEGMENT NAME=xxxxxxx PREFIX LENGTH = yyyy.

説明: xxxxxxxx で示されたセグメント用に生成された接頭部の長さが yyyy バイトであり、最大許容の 1022 バイトを超えています。この状態が発生するのは、セグメント接頭部のポインターが 255 個を超えている場合です。ポインターはそれぞれ 4 バイトです。

プログラマーの応答: xxxxxxxx に示されたセグメント接頭部のポインターの数を削減し、DBD を再コンパイルします。

DBD 生成の DMAN メッセージ

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DMAN100 DATA SET SPECIFICATION LIMIT EXCEEDED

説明: 指定された DL/I アクセス方式に認められているよりも、多くの DATASET ステートメントが指定されました。

システムの処置: 現在の DATASET ステートメントに指定された情報が、後続の妥当性検査で使用されます。DATASET ステートメントの数が 10 を超える場合、10 番目の DATASET ステートメントの情報は、10 番目より後の各 DATASET ステートメントによってオーバーレイされます。

プログラマーの応答: DATASET ステートメントの数を正しい制限値まで削減して、DBDGEN を再実行します。

DMAN110 DD1 OPERAND IS OMITTED OR INVALID

説明: DD1 オペランドが省略されたか、あるいは 8 文字を超えるか、先頭の文字が英字、#、@、または \$ のいずれでもないか、あるいは先頭以外の文字が英字、数字、#、@、または \$ のいずれでもありません。

システムの処置: 指定された値は、後続の従属パラメーターの妥当性検査に使用されます。省略された場合、ヌル値が入力されます。

プログラマーの応答: DD1 オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

DMAN120 DD2 OPERAND IS OMITTED OR INVALID

説明: DD2 オペランドが省略されているか、あるいは 8 文字を超えるか、先頭の文字が英字、#、@、または \$ のいずれでもないか、あるいは先頭以外の文字が英字、数字、#、@、または \$ のいずれでもありません。このオペランドは、HSAM、単純 HSAM データベース、または GSAM データベースの場合のみ有効です。

システムの処置: 指定された値は、後続の従属パラメーターの妥当性検査に使用されます。省略された場合、ヌル値が入力されます。

プログラマーの応答: DD2 オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

DMAN130 OVFLW AND DD2 OPERANDS ARE CONFLICTING

説明: OVFLW と DD2 は、相互に排他的なオペランドです。

システムの処置: OVFLW オペランドが無視されます。

プログラマーの応答: OVFLW または DD2 オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

DMAN140 OVFLW OPERAND IS OMITTED OR INVALID

説明: OVFLW オペランドが省略されたか、あるいは 8 文字を超えるか、先頭の文字が英字、#、@、または \$ のいずれでもないか、あるいは先頭以外の文字が英字、数字、#、@、または \$ のいずれでもありません。

システムの処置: 指定された値は、後続の従属パラメーターの妥当性検査に使用されます。省略された場合、ヌル値が入力されます。

プログラマーの応答: OVFLW オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

DMAN150 DEVICE OPERAND xxx IS OMITTED OR INVALID. A 3330 MODEL 1 HAS BEEN ASSUMED.

説明: DEVICE オペランドが省略されているか、またはいずれかの有効な値 (2314、2305、2319、3330、3340、3350、2400、3400、または TAPE) が指定されていません。ACCESS=DEDDB の場合、このオペランドに有効な値は、2314、2319、2305、3330、3340、および 3350 です。

システムの処置: スペース計算の目的で、3330 モデル 1 が想定されます。ACCESS=DEDDB の場合は、DBDGEN は展開前に終了します。

プログラマーの応答: DEVICE オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

DMAN155 MODEL xx INVALID, MODEL 2 ASSUMED FOR SPACE CALCULATION

説明: 2305 に対して無効なオペランドが指定されまし

た。DEVICE=2305 の場合に有効なオペランドは、MODEL=1 または MODEL=2 です。

システムの処置: DATASET マクロは、スペース計算にデフォルトの MODEL=2 を使用し、DBDGEN は継続します。

DMAN157 MODEL *xx* INVALID, MODEL 1 ASSUMED FOR SPACE CALCULATIONS

説明: DEVICE=3330 が指定されたが、MODEL オペランドが省略されているか、あるいは 1 または 11 以外です。

システムの処置: MODEL=1 が想定され、DBDGEN は継続します。

プログラマーの応答: MODEL オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

DMAN160 DEVICE OPERAND IS INVALID FOR ACCESS=*access*

説明: DEVICE オペランドで値 TAPE、2400、または 3400 が入力されたが、DBD ACCESS オペランドで HSAM または単純 HSAM が指定されませんでした。

システムの処置: スペース計算は、指定された装置タイプおよび指定されたアクセス方式に基づいて行われません。スペース計算は、ほとんどの場合、正確ではありません。

プログラマーの応答: DEVICE オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

DMAN170 ENTERED DDNAME IS A DUPLICATE-*name*

説明: 指定された DD 名は、前に DD1、DD2、または OVFLW オペランドで指定された名前と重複しています。

システムの処置: この名前は、後続の妥当性検査で使用されます。

プログラマーの応答: DD 名を訂正し、DBDGEN を再実行します。

DMAN180 DATA SET NAME IS A DUPLICATE

説明: この DATASET ステートメントのラベルが、前の DATASET ステートメントのラベルと同じであり、両方にオペランドが含まれています。共通のラベルを持つ最初の DATASET ステートメントのみに、オペランドを含めることができます。

システムの処置: 新規のデータ・セット・グループが作

成されます。後続のパラメーターは、新規の DATASET ステートメントに基づいて評価されます。

プログラマーの応答: 要件を調べて、エラー情報を訂正してから、DBDGEN を再実行します。

DMAN190 DATA SET NAME FIELD IS INVALID

説明: DATASET ステートメントのラベル・フィールドが無効です。8 文字を超えるか、あるいは先頭の文字が英字、#、@、または \$ のいずれでもないか、あるいは先頭以外の文字が英字、数字、#、@、または \$ のいずれでもないためです。

システムの処置: 指定された値は、後続の従属パラメーターの妥当性検査に使用されます。

プログラマーの応答: DATASET ステートメントのラベル・フィールドを訂正して、DBDGEN を再実行します。

DMAN200 RECORD OPERAND IS INVALID

説明: 次のいずれかが発生しました。

- VSAM がシステム・アクセス方式の場合に、RECORD オペランドに 3 つ以上の値、自己定義でない値、ゼロ以下の値、または 30713 を超える値が含まれている。
- GSAM の場合に、2 番目の RECORD オペランド値が最初の値より大きいか、または、RECFM=F/FB が指定されたが、最初の RECORD オペランド値が 2 番目の RECORD オペランド値と等しくない。

システムの処置: RECORD オペランドのスキャンは、エラーが検出された時点で終了します。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

DMAN210 BLOCK OPERAND IS INVALID

説明: 次のいずれかが発生しました。

- BLOCK オペランドに、3 つ以上の値、自己定義でない値、またはゼロ以下の値が含まれている。
- HDAM および HIDAM の場合、VSAM がシステム・アクセス方式のときに、複数の BLOCK オペランド値が指定されたか、または値が 30709 を超えている。
- GSAM の場合に、複数の BLOCK オペランド値が指定された。

システムの処置: BLOCK オペランドのスキャンは、エラーが検出された時点で終了します。

プログラマーの応答: BLOCK オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

DMAN215 SIZE OPERAND IS INVALID

説明: 次のいずれかが発生しました。

- SIZE オペランドに、3 つ以上の値、自己定義でない値、またはゼロ以下の値が含まれている。
- BLOCK オペランドも指定されたが、BLOCK と SIZE は相互に排他的なオペランドである。
- HSAM および SHSAM の場合に、SIZE オペランドが指定された (これらのデータベースの場合には無効)。
- VSAM がシステム・アクセス方式で、SIZE オペランドの値が 30720 を超えている。
- HDAM、HIDAM、および GSAM データベースの場合に、複数のオペランド値が指定された。
- DBD ステートメントで ACCESS=DEDDB が指定された場合、このオペランドに有効な値は、512、1024、2048、および 4096 である。2314 または 2319 の場合には、4096 は無効です。

システムの処置: SIZE オペランドのスキャンは、エラーが検出された時点で終了します。

プログラマーの応答: SIZE オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

DMAN217 SIZE SPECIFICATION ROUNDED TO NEXT 512 OR 2K MULTIPLE

説明: VSAM 制御インターバル・サイズは、512 の倍数でなければなりません。8K より大きい場合は、2048 の倍数でなければなりません。

システムの処置: ユーザー指定の値は、正しい VSAM の倍数にリセットされます。

プログラマーの応答: エラーを訂正してください。

DMAN220 POSITIONAL OPERAND ASSUMES LOGICAL DATA SET

説明: 定位置オペランドが含まれている場合、論理データ・セットの DBDGEN を想定しています。

システムの処置: これは警告メッセージであり、DBDGEN は継続します。他のデータ・セット・パラメーターは、論理 DBDGEN には無効なため、スキャンされません。

DMAN230 KEYWORD SPECIFICATIONS ARE INVALID FOR A LOGICAL DATA SET DEFINITION

説明: DATASET ステートメントに LOGICAL オペランドを指定した場合、他のオペランドを指定できません。

システムの処置: DBDGEN は、論理 DBDGEN として処理されます。他のデータ・セット・オペランドはスキャンされません。

プログラマーの応答: エラーのキーワード・パラメーターを除去して、DBDGEN を再実行します。

DMAN240 DD2 AND OVFLW OPERANDS ARE INVALID FOR {HDAM|HIDAM}

説明: アクセス方式として HDAM または HIDAM を使用するデータ・セットに対しては、DD2 オペランドも OVFLW オペランドも指定できません。

システムの処置: 指定された値は無視されます。

プログラマーの応答: DD2 オペランドまたは OVFLW オペランド (あるいは両方) を除去して、DBDGEN を再実行します。

DMAN250 DATA SET NOT PREVIOUSLY ESTABLISHED.

説明: この DATASET ステートメントのラベル・フィールドと同じラベルを持つ DATASET ステートメントが、これより前にはありません。

システムの処置: 処理された最後のデータ・セット・グループが、現在のデータ・セット・グループのまま残り、後続のステートメントの妥当性検査に使用されません。

プログラマーの応答: DATASET ラベル・フィールドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

DMAN260 ENTERED DDNAME IS RESERVED-*name*

説明: IEFORDER、IMSLOGR、QBLKS、SHMSG、LGMSG、IMSACB、IMSDILIB、IMSSPA、IMSDBL、SYSUDUMP、STEPLIB のいずれかの名前が指定されました。メッセージ・テキストの *name* は、予約済み DD 名を示します。

システムの処置: デフォルトは使用されません。

プログラマーの応答: DD 名を訂正し、DBDGEN を再実行します。

DMAN270 REVERSE REFERENCE TO A PREVIOUS DATA SET GROUP IS ONLY VALID FOR HD ORGANIZATIONS

説明: この DATASET ステートメントのラベル・フィールドと同じラベルを持つ DATASET ステートメントが、これより前にあります。このようなラベル・フィー

ルドの使用法は、HDAM および HIDAM の場合のみ有効です。特に、HISAM の場合は、セグメントを、データ構造内の階層的な位置に従って各データ・セット・グループに配置する必要があります。

システムの処置: DBDGEN は、参照されたデータ・セット・グループを、現在のデータ・セット・グループとして設定するか、あるいは DATASET ステートメントのオペランドが指定された場合は、重複した名前フィールドを持つ新規のデータ・セット・グループと見なします。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

DMAN275 ACCESS=LOGICAL MUST BE CODED IN THE DBD STATEMENT FOR A LOGICAL DATA SET

説明: DATASET ステートメントでは、これが LOGICAL データベースを示すように指定されたが、DBD ステートメントではこのことが指定されていません。

システムの処置: DBDGEN では、これが LOGICAL データベースであると想定されます。そうでない場合は、予測不能の結果が発生することがあります。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

DMAN280 SCAN OPERAND IS INVALID

説明: 入力された値が、10 進整数値でないか、ゼロより小さいか、255 を超えているか、あるいは HDAM または HIDAM 以外のデータベース・タイプに対して指定されました。

システムの処置: デフォルトは使用されません。

プログラマーの応答: SCAN オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

DMAN290 FRSPC OPERAND IS INVALID

説明: 次のいずれかが発生しました。

- オペランドが、HDAM または HIDAM 以外のデータベース・タイプに対して指定された。
- オペランドに 3 つ以上のパラメーターが含まれていた。
- 最初のパラメーターが指定されたが、ゼロでないか、または 2 から 100 の範囲内になかった。
- 2 番目のパラメーターが、0 から 99 の範囲の 10 進数で指定されなかった。

システムの処置: デフォルトは使用されません。

プログラマーの応答: FRSPC オペランドを訂正し、

DBDGEN を再実行します。

DMAN300 INVALID KEYWORD PARAMETERS SPECIFIED FOR ACCESS=xxx

説明: 次のいずれかが発生しました。

- ACCESS=MSDB の場合に、DATASET ステートメントで REL 以外のオペランドが指定された。
- ACCESS が MSDB でも DEDB でもない場合に、REL、ROOT、または UOW キーワード・パラメーターが指定された。これらのオペランドは、MSDB/DEDB のみのキーワード・パラメーターです。

メッセージ・テキストの xxx は、ユーザーが指定したアクセスを示します。

システムの処置: 無効なオペランドは無視されます。

プログラマーの応答: 無効なオペランドを除去するか、DL/I アクセス方式を訂正して、DBDGEN を再実行します。

DMAN305 ACCESS=LOGICAL ONLY ALLOWS A LOGICAL DATA SET TO BE SPECIFIED

説明: DBD ステートメントで ACCESS=LOGICAL が指定されたが、論理以外の DATASET ステートメントが指定されました。

システムの処置: この DATASET ステートメント上のオペランドは、これ以上処理されません。これは、予測不能の結果を引き起こす可能性のある重大エラーです。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

DMAN320 REL OPERAND IS OMITTED OR INVALID.

説明: REL オペランドが省略されたか、または次の有効な値の 1 つを指定していません。最初の値が、NO、TERM、FIXED、または DYNAMIC。TERM、FIXED、および DYNAMIC の場合には、2 番目の値が 1 から 8 文字の英数字。

システムの処置: システムは、残りのステートメントの処理を継続します。

プログラマーの応答: REL オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

DMAN330 INVALID AREA STMT PLACEMENT FOR ACCESS=DEDB.

説明: ACCESS=DEDB を指定した DBDGEN の場合の AREA ステートメントは、入力ストリング内で DBD ステートメントの後、SEGM ステートメントの前に置く必要があります。

システムの処置: システムは、AREA ステートメントのパラメーターおよび残りのステートメントの処理を継続します。

プログラマーの応答: 置き場所を間違えた AREA ステートメントを訂正し、DBDGEN を再実行します。

DMAN340 ROOT OPERAND IS OMITTED OR INVALID.

説明: ROOT オペランドが省略されたか、または次のいずれかが起きました。

- オペランドに、2 つのパラメーターが含まれていなかった。
- 最初のパラメーターが指定されたが、2 から 32767 の範囲外であった。
- 2 番目のパラメーターが指定されたが、ゼロより大きくないか、または最初のパラメーターより小さい。

システムの処置: システムは、AREA ステートメントのパラメーターおよび残りのステートメントの処理を継続します。

プログラマーの応答: ROOT オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

DMAN350 UOW OPERAND IS OMITTED OR INVALID.

説明: UOW オペランドが省略されたか、または次のいずれかが起きました。

- オペランドに、2 つのパラメーターが含まれていなかった。
- 最初のパラメーターが指定されたが、2 から 32767 の範囲外であった。
- 2 番目のパラメーターが指定されたが、ゼロより大きくないか、または最初のパラメーターより小さい。

システムの処置: システムは、AREA ステートメントのパラメーターおよび残りのステートメントの処理を継続します。

プログラマーの応答: UOW オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

DMAN355E AREA EXCEEDS 4 GIGABYTES LIMIT.

説明: DBDGEN の AREA ステートメントに、そのエリアの限度である 4 ギガバイト (4,294,967,296) を超える定義が含まれています。エリアのサイズを計算するための公式は、次のとおりです。

$$\text{Area Size} = \text{CI Size} \times ((\#\text{UOW}+1) \times \text{Root Addr Part}) + 2)$$

各エリアには、余分の再編成作業単位 (UOW) が 1 つと余分の制御インターバル (CI) が 2 つあります。

次の例では、4 ギガバイトの制限を超えるエリア定義を示しています。

$$\begin{aligned} \text{AREA DD1} &= \text{D0010001,SIZE} \\ &= (8192),\text{UOW}=(42,15),\text{ROOT}=(12230,9746) \\ \text{Area Size} &= 8192 \times ((42+1) \times 12230 + 2) \\ &= 4,308,107,264 \end{aligned}$$

システムの処置: DBDGEN は、エラーにより AREA ステートメントで終了します。

プログラマーの応答: AREA ステートメント定義を訂正して、DBDGEN を再実行します。

DMAN360 DATASET STMT IS INVALID FOR ACCESS=access

説明: DATASET ステートメントは、HALDB ではサポートされません。

システムの処置: DATASET ステートメントは無視されます。

プログラマーの応答: DATASET ステートメントを削除して、DBDGEN を再実行します。

DMAN400 OVERFLOW/OUTPUT RECORD SIZE CANNOT BE LESS THAN PRIME/INPUT RECORD SIZE.

説明: RECORD オペランドの 2 番目の値は、最初の値より大きいか等しくなければなりません。

システムの処置: 指定された値は無視されます。

プログラマーの応答: RECORD オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

DMAN420 RECORD/BLOCK SIZE EXCEEDS TRACK LENGTH

説明: 次のいずれかが発生しました。

- HSAM、SHSAM、HISAM、または INDEX データベースの場合に、論理レコード・サイズが、トラック上の最大許容ブロックまたは 32K バイトのいずれか小さい方のサイズを超えている。
- HDAM または HIDAM の場合に、ブロック・サイズ (オーバーヘッドを含む、または含まない) がトラック上の最大許容ブロックまたは 32K バイトのいずれか小さい方のサイズを超えている。

システムの処置: 指定されたオペランド情報は、後続の妥当性検査で使用されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

DMAN425 BLOCK SIZE EXCEEDS TRACK LENGTH

説明: HISAM または INDEX データベースの場合、指定されたブロック・サイズがトラック上の最大許容ブロックまたは 32K バイトのいずれか小さい方のサイズを超えてはなりません。

システムの処置: 指定されたオペランド情報は、後続の妥当性検査で使用されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

DMAN430 RECORD FORMAT IS OMITTED OR INVALID.

説明: RECFM= オペランドが無効な値を含むか、または不適切に指定されています。このオペランドの有効な値は、F/FB/V/VB/U のいずれかです。

システムの処置: DBDGEN は、オペランド・エラーのために、終了します。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DMAN432 BLOCK AND SIZE OPERANDS ARE MUTUALLY EXCLUSIVE

説明: BLOCK オペランドと SIZE オペランドの両方が指定されました。これは無効です。

システムの処置: DATASET オペランドのスキャンは、エラーが検出された時点で終了します。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

DMAN440 DEVICE AND MODEL OPERANDS ARE INAPPLICABLE TO GSAM.

説明: DEVICE および MODEL オペランドは、ACCESS=GSAM を指定した DBDGEN では無効です。

システムの処置: DBDGEN は、オペランド・エラーのために、終了します。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DMAN465 SPECIFICATION OF OVERFLOW/OUTPUT RECORD, BLOCK, OR SIZE OPERAND VALUE REQUIRES OVERFLOW/OUTPUT DDNAME BE GIVEN.

説明: オーバーフローまたは出力論理レコード・サイズ、あるいはブロックまたは CI サイズが指定されたが、オーバーフローまたは出力データ・セットの DD 名が指定されていません。VSAM 1 次索引 (INDEX,VSAM) データベースの場合、すべての索引セグメントは索引 KEY SEQUENCED DATA SET に挿入されるので、RECORD= オペランドでオーバーフロー論理レコード長 (reclen2) パラメーターを定義してはなりません。

システムの処置: 指定されたオペランド情報は、後続の妥当性検査で使用されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

DMAN470 {INPUT|OUTPUT} BLOCKING FACTOR FOR HSAM MUST BE 1. RESET TO 1

説明: これは警告メッセージです。HSAM の場合の入力ブロック化因数または出力ブロック化因数に 1 が指定されませんでした。HSAM は、常に、非ブロック化フォーマットです。

システムの処置: 論理レコード・サイズが指定された場合、指定されたブロック化因数に基づいてリセットされます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

DMAN475 {INPUT|OUTPUT} LOGICAL RECORD SIZE RESET TO LRECL TIMES BLOCKING FACTOR

説明: これは警告メッセージです。HSAM の場合の入力ブロック化因数または出力ブロック化因数に 1 が指

DMAN490 • DMAN601

定されませんでした。HSAM は、常に、非ブロック化フォーマットです。論理レコード・サイズは、ユーザー指定のブロック化因数に基づいてリセットされ、後続の妥当性検査ではブロック化因数 1 が使用されます。

システムの処置: 変更されたオペランド情報が、後続の妥当性検査で使用されます。

DMAN490 RECORD OPERAND IS IGNORED FOR HD

説明: これは警告メッセージです。RECORD オペランド値が指定されました。これは、HDAM または HIDAM では無効です。

システムの処置: 指定された RECORD オペランド値は無視されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

DMAN510 SEARCHA IS INSIGNIFICANT WITHOUT FREE BLOCK FREQ FACTOR

説明: DATASET マクロの FRSPC パラメーターに、フリー・ブロック頻度係数が欠落しています。

SEARCHA パラメーターを指定した場合、FRSPC パラメーターにフリー・ブロック頻度係数も指定する必要があります。これらのパラメーターは、一体となって機能します。

システムの処置: IMS は SEARCHA パラメーターを無視します。

ユーザーの処置: フリー・ブロック頻度係数を省略しない場合、DATASET マクロで FRSPC を指定して、DBDGEN を再実行します。

DMAN520 INVALID SEARCH ALGORITHM ID. DEFAULT TO 0

説明: DATASET マクロの SEARCHA パラメーターで指定された値が無効です。

システムの処置: IMS は、SEARCHA パラメーターにデフォルト値 0 を割り当てます。DBDGEN は、4 以上のジョブ・ステップ戻りコードで完了します。

ユーザーの処置: SEARCHA=0 が受け入れられない場合、SEARCHA 指定を訂正して、DBDGEN を再実行します。

DMAN530 INVALID RECORD LENGTH SPECIFIED FOR ACCESS=(GSAM, BSAM) AND FOR RECFM=(V OR VB).

説明: DATASET ステートメントの RECORD パラメーターで、無効なレコード長が指定されました。

RECORD サイズは、SIZE から 6 を引いた値を超えてはなりません。

ユーザーの処置: RECORD サイズを訂正し、DBDGEN を再実行します。

DMAN600 THE VALUE SPECIFIED ON THE REMARKS PARAMETER EXCEEDS 256 CHARACTERS.

説明: REMARKS パラメーターは、最大 256 文字のストリングを受け入れることができます。REMARKS パラメーターに現在入力されているコメントが 256 文字の制限を超えています。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: REMARKS パラメーターに入力したコメント・ストリングを 256 文字以下になるように修正して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 DATASET ステートメント (システム・ユーティリティ)

DMAN601 THE VALUE OF THE REMARKS PARAMETER CONTAINS INVALID CHARACTERS.

説明: DATASET ステートメントの REMARKS パラメーターに指定されたコメントに、1 つ以上の無効文字が含まれています。

REMARKS キーワードで指定される値に、以下の文字を含むことはできません。

- 単一引用符 (コメント・ストリング全体を囲むために使用されている場合を除く)。単一引用符がコメント・ストリング全体の末尾より前に入力されると、そのコメント・ストリングの残りの部分は切り捨てられます。以下の例では、REMARKS キーワードでの単一引用符の正しい使い方と誤った使い方を示します。

CORRECT

```
REMARKS='These remarks apply to the XYZ application'
```

INCORRECT

```
REMARKS='These remarks apply to the 'XYZ' application'
```

- 二重引用符。
- より小 (<) 記号。

- より大 (>) 記号。
- アンパーサンド (&)。

システムの処置: DBDGEN は終了します。後続のステートメントの妥当性検査は継続します。

プログラマーの応答: DATASET ステートメントの REMARKS パラメーターに指定されたコメントから無

効文字を除去し、DBDGEN ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 DATASET ステートメント (システム・ユーティリティ)

DBD 生成の EXT メッセージ

ここでは、次のメッセージについて説明します。

EXT001 EXTERNAL REFERENCE TABLE FULL

説明: DBDGEN に 255 を超える外部データベースまたは編集/圧縮ルーチン (あるいは両方) が指定されました。

システムの処置: 最初の 254 項目がテーブルに入ります。255 番目の項目は、256 番目以降の項目によってオーバーレイされます。最後に参照されるデータベースは、255 番目の項目になります。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

説明: DBDGEN ステートメントの前に FINISH ステートメントが検出されました。DBD ソース内では、DBDGEN ステートメントは FINISH ステートメントより前になければなりません。

システムの処置: DBDGEN は警告 RC=04 で完了します。

ユーザーの処置: DBDGEN ステートメントが FINISH ステートメントの前にくるよう DBD ソースを変更することによってエラーを訂正し、DBDGEN を再実行してください。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

FIN001 DBDGEN STATEMENT SHOULD PRECEDE THIS FINISH STATEMENT.

DBD 生成の FLD メッセージ 100 から 615

ここでは、次のメッセージについて説明します。

FLD100 SEGM CARD MUST PRECEDE FIELD

説明: DBDGEN への入力 of 順序で、SEGM ステートメントは、FIELD ステートメントより前になければなりません。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

- ACCESS=MSDB の場合に、無効なシーケンス・フィールドが指定された。
- キー付き DEDB 従属セグメントで M が指定された。U のみが有効です。

システムの処置: NAME オペランドのスキンは、エラーが検出された時点で終了します。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

FLD110 NAME OPERAND IS OMITTED OR INVALID

説明: 次のいずれかの問題が検出されました。

- NAME オペランドが指定されなかった。
- NAME オペランドに、4 つ以上のパラメーターが指定されたか、あるいは 2 つ以上指定されたが、2 番目のパラメーターが SEQ ではない。
- NAME オペランドに、8 文字を超える名前が指定されたか、または内容に無効文字が含まれている。
- NAME オペランドの 3 番目のパラメーターで、M でも U でもない値が指定された。

FLD120 SEGMENT name HAS MULTIPLE SEQUENCE FIELDS

説明: 仮想対の双方向論理関係に関係していない限り、セグメントはシーケンス・フィールドを 1 つだけしか持てません。示されたセグメントに関して、2 つ以上の FIELD ステートメントに SEQ パラメーターが指定されました。

システムの処置: 指定されたオペランド情報は、後続の妥当性検査で使用されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

FLD130 TYPE OPERAND IS INVALID

説明: TYPE オペランドで、X、P、または C 以外の値が指定されました。DBD ステートメントで ACCESS=MSDB が指定された場合に、TYPE オペランドで、X、P、C、F、または H 以外の値が指定されました。あるいは、MSDB シーケンス・フィールドで、X または C 以外の TYPE 値が指定されました。

システムの処置: TYPE オペランドのスキューンは、エラーが検出された時点で終了します。

プログラマーの応答: TYPE オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

FLD135 ALL SEQUENCE SUBFIELDS MUST HAVE THE SAME UNIQUE OR MULTIPLE SPECIFICATIONS

説明: 処理中の現在のセグメントに複数のシーケンス・フィールドが指定されたが、固有として定義されたものと非固有として定義されたものが混在しています。

システムの処置: 指定されたオペランド情報は、後続の妥当性検査で使用されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

FLD140 NON-UNIQUE KEYS REQUIRE AN OVERFLOW DATA SET

説明: 非固有キーを持つ索引 DBD では、DATASET マクロにオーバーフロー・データ・セットの DD 名をコーディングする必要があります。

システムの処置: 指定されたオペランド情報は、後続の妥当性検査で使用されます。

プログラマーの応答: DATASET ステートメントでオーバーフロー・データ・セットの DD 名をコーディングするか、またはこの FIELD ステートメントで固有キーを指定します。

FLD145 NONUNIQUE KEYS WITH DOSCOMP ARE INVALID

説明: 非固有キーを指定して FIELD マクロがコーディングされました。DBD は、これが DOS 互換であることを示しています。DOS/VS DL/I では、非固有キーが受け入れられません。

システムの処置: IMS は、後続のパラメーターすべてを検査してから、DBDGEN を終了させます。

プログラマーの応答: キーを固有キーに変更します。

FLD150 BYTES OPERAND IS OMITTED OR INVALID

説明: BYTES オペランドが省略されているか、または、システム関連フィールドでない場合に 255 以下の値の自己定義項を含んでいません。/CK システム関連フィールドの場合は、値が、索引ソース・セグメントの連結キーの長さを超えてはなりません。BYTES オペランドでは、ゼロまたは負の値を使用できません。DBD ステートメントで ACCESS=MSDB が指定された場合、次のフィールド長が可能です。

- タイプ X のバイト: 1 から 256
- タイプ P のバイト: 1 から 16
- タイプ C のバイト: 1 から 256
- タイプ F のバイト: 4
- タイプ H のバイト: 2

さらに、MSDB の場合は、シーケンス・フィールドが 240 を超えてはなりません。

システムの処置: 指定された BYTES オペランド情報は、後続の妥当性検査で使用されます。

プログラマーの応答: BYTES オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

FLD155 NON-UNIQUE ROOT SEGMENT KEYS ARE INVALID WITH ACCESS=access

説明: DBD ステートメントで指定されたデータベース・タイプでは、固有ルート・セグメント・キーを指定する必要があります。

システムの処置: 指定されたオペランド情報は、後続の妥当性検査で使用されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

FLD160 START OPERAND IS OMITTED OR INVALID

説明: FIELD ステートメントの START オペランドが省略されているか、または最大許容値以下の正の数値項目ではありません。これが、索引 DBDGEN の場合で、FIELD ステートメントに SEQ パラメーターがコーディングされる場合は、START は 1 でなければなりません。

システムの処置: 指定された START オペランド情報は、後続の妥当性検査で使用されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

FLD170 FIELD EXTENDS BEYOND DEFINED SEGMENT LENGTH

説明: FIELD ステートメントの BYTES オペランドで指定された値に、START オペランドで指定された値から 1 を引いた値を加えたものが、SEGM ステートメントの BYTES オペランドで指定された値を超えています。

システムの処置: 指定されたオペランド情報の一部は、後続の妥当性検査で使用されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

FLD180 FIELD SPECIFICATION LIMIT EXCEEDED

説明: 次のいずれかのエラーが発生しました。

- DBD 内で、NAME パラメーターを含む FIELD ステートメントおよび XDFLD ステートメントの合計が 1,000 を超えています。
- DBD 内で、以下のすべてのステートメントの合計を超えています。
 - NAME パラメーターを含む FIELD ステートメント
 - NAME パラメーターを含まない FIELD ステートメント
 - XDFLD ステートメント

プログラマーの応答: FIELD または XDFLD ステートメントの数を 10000 以下に減らして、DBDGEN を再実行します。

以下のタスクを行ってエラーを訂正してください。

1. FIELD ステートメントまたは XDFLD ステートメント、あるいはこの両方を減らして、以下の条件が満たされるようにします。
 - NAME パラメーターを含む FIELD ステートメントおよび XDFLD ステートメントの合計が 1,000 を超えない。
 - すべての FIELD ステートメントと XDFLD ステートメントの合計が 10000 を超えない。
2. DBDGEN ユーティリティを再実行します。

FLD190 DUPLICATE FIELD NAME IN SEGMENT *name*

説明: この FIELD または XDFLD ステートメントの NAME オペランドで指定された値が、このセグメントの別の FIELD または XDFLD ステートメントで指定された値と重複しています。

プログラマーの応答: セグメントについて、各 FIELD

または XDFLD ステートメントが固有の名前を持つようしてから、DBDGEN を再実行します。

FLD200 SEGMENT FIELD LIMIT EXCEEDED

説明: 255 を超える FIELD または XDFLD ステートメントが、1 つのセグメント内で定義されています。

プログラマーの応答: FIELD または XDFLD ステートメントの数を 255 以下に減らして、DBDGEN を再実行します。

FLD210 FIELD STATEMENT IS INVALID FOR PRECEDING SEGM

説明: 非対論理セグメントの場合には、FIELD ステートメントは無効です。

プログラマーの応答: このセグメントに関する FIELD ステートメントを除去し、DBDGEN を再実行します。

FLD220 SEQUENCE FIELD INVALID FOR PRECEDING SEGM

説明: セグメントに TWIN、TWINBWD、HIER、または HIERBWD ポインターが含まれない場合、シーケンス・フィールドは HD 編成では無効です。

プログラマーの応答: この FIELD ステートメントの SEQ キーワードを除去するか、または SEGM ステートメントを訂正して、DBDGEN を再実行します。

FLD225 SEQUENCE FIELD SPECIFICATION IS INVALID

説明: システム関連フィールド名がシーケンス・フィールドとして指定されました。これは無効です。

プログラマーの応答: この FIELD ステートメントから SEQ パラメーターを除去して、DBDGEN を再実行します。

FLD230 SEQUENCE FIELDS MUST IMMEDIATELY FOLLOW SEGM

説明: キーワード SEQ を含む FIELD または XDFLD ステートメントは、DBDGEN への入力で、SEGM ステートメントに続く最初の FIELD または XDFLD ステートメントでなければなりません。

プログラマーの応答: SEQ キーワードを含む FIELD ステートメントが、DBDGEN への入力の中で正しい位置にあるかどうかを確認して、DBDGEN を再実行します。

**FLD235 SYSTEM RELATED FIELD IS
INVALID WITH ACCESS=*access***

説明: DBD ステートメントで指定された DL/I データベース編成では、/SX または /CK システム関連フィールドを使用できません。

システムの処置: 指定されたオペランド情報は、後続の妥当性検査で使用されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

**FLD300 INVALID FIELD OVERLAP FOR
MSDB DBDS.**

説明: 次のいずれかが発生しました。

- シーケンス・フィールドが、別のフィールドの一部として指定された。
- フィールドに算術フィールドが含まれているが、完全な算術フィールドが含まれていなかった。
- 算術フィールドに別のフィールドが含まれていた。
- 2 つのフィールドが互いに完全にオーバーラップしている場合、DBDGEN 入力ストリームに最初に現れる方のフィールドは、収容フィールドとして定義される。後続のフィールドは、収容されているフィールドとして定義される。

システムの処置: システムは、FIELD ステートメントのパラメーターおよび残りのステートメントの処理を継続します。

プログラマーの応答: FIELD ステートメントの START または BYTES オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

**FLD600 NEITHER THE NAME PARAMETER
NOR THE EXTERNALNAME
PARAMETER IS SPECIFIED**

説明: すべての FIELD ステートメントに、NAME パラメーターまたは EXTERNALNAME パラメーター (あるいはその両方) が含まれている必要があります。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: FIELD ステートメントの NAME パラメーターまたは EXTERNALNAME パラメーターのフィールドに名前を指定して、DBD 生成ユーティリティーを再実行します。SSA にそのフィールド名を指定できるようにするには、NAME パラメーターを使用する必要があります。

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティー)

**FLD601 DATATYPE = xxxxxxxx IS NOT A
VALID DATA TYPE.**

説明: FIELD ステートメントの DATATYPE パラメーターに指定した値が、DATATYPE パラメーターに有効な値ではありません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxxxxx

現在、DATATYPE パラメーターに無効な値が指定されています。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: DATATYPE パラメーターに有効な値を指定して、DBD 生成ユーティリティー再実行します。

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティー)

**FLD602 WHEN DATATYPE = *datatype*,
BYTES=1 MUST BE SPECIFIED.**

説明: 現在 DATATYPE パラメーターに指定されているデータ・タイプは、1 バイトのフィールド長を必要とします。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

datatype

現在 FIELD ステートメントの DATATYPE パラメーターに指定されているデータ・タイプの値。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: メッセージ・テキストに示されている DATATYPE 値を含む FIELD ステートメントの BYTES パラメーターに 1 の値を指定します。

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティー)

FLD603 **WHEN DATATYPE = datatype,
BYTES=2 MUST BE SPECIFIED.**

説明: 現在 DATATYPE パラメーターに指定されているデータ・タイプは、2 バイトのフィールド長を必要とします。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

datatype

現在 FIELD ステートメントの DATATYPE パラメーターに指定されているデータ・タイプの値。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: メッセージ・テキストに示されている DATATYPE 値を含む FIELD ステートメントの BYTES パラメーターに 2 の値を指定します。

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティー)

FLD604 **WHEN DATATYPE = datatype,
BYTES=4 MUST BE SPECIFIED.**

説明: 現在 DATATYPE パラメーターに指定されているデータ・タイプは、4 バイトのフィールド長を必要とします。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

datatype

現在 FIELD ステートメントの DATATYPE パラメーターに指定されているデータ・タイプの値。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: メッセージ・テキストに示されている DATATYPE 値を含む FIELD ステートメントの BYTES パラメーターに 4 の値を指定します。

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティー)

FLD605 **WHEN DATATYPE = datatype,
BYTES=8 MUST BE SPECIFIED.**

説明: 現在 DATATYPE パラメーターに指定されているデータ・タイプは、8 バイトのフィールド長を必要とします。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

datatype

現在 FIELD ステートメントの DATATYPE パラメーターに指定されているデータ・タイプの値。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: メッセージ・テキストに示されている DATATYPE 値を含む FIELD ステートメントの BYTES パラメーターに 8 の値を指定します。

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティー)

FLD606 **WHEN DATATYPE = datatype, THE
NAME PARAMETER IS NOT
SUPPORTED.**

説明: NAME パラメーターが指定されている場合、メッセージ・テキストに示されている DATATYPE= パラメーターの指定は無効です。このデータ・タイプを指定するには、代わりに EXTERNALNAME パラメーターを使用しなければなりません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

datatype

現在 FIELD ステートメントの DATATYPE パラメーターに指定されているデータ・タイプの値。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: 無効なデータ・タイプを指定している FIELD ステートメントで、NAME パラメーターを EXTERNALNAME パラメーターに置き換えます。

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティー)

FLD607 **WHEN DATATYPE = datatype, THE
EXTERNALNAME PARAMETER IS
REQUIRED.**

説明: メッセージ・テキストに示されている DATATYPE= パラメーターの指定では、EXTERNALNAME パラメーターが必要です。このデータ・タイプが指定されている場合、NAME パラメーターはサポートされません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

datatype

現在 FIELD ステートメントの DATATYPE パラメーターに指定されているデータ・タイプの値。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: 無効な DATATYPE= 指定のある FIELD ステートメントで、EXTERNALNAME パラメーターを指定して、フィールド名を定義します。NAME パラメーターは指定しないでください。

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティー)

FLD608 THE PRECISION OR SCALE SPECIFICATION FOR DATATYPE=DECIMAL IS INVALID.

説明: FIELD ステートメントで DATATYPE=DECIMAL(*pp,ss*) が指定されましたが、*pp* または *ss*、あるいはその両方の値が無効です。非数値が入力されたか、*pp* に 0 が入力されたか、または別の理由により、精度またはスケールが無効となっている可能性があります。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: *pp* および *ss* の指定を訂正してください。変更を完了してから、DBD 生成ユーティリティーを再実行します。

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティー)

FLD609 THE SCALE VALUE CANNOT BE GREATER THAN THE PRECISION VALUE IN THE DECIMAL PARAMETER.

説明: FIELD ステートメントで DATATYPE=DECIMAL(*pp,ss*) が指定されましたが、スケール *ss* に指定された値が精度 *pp* に指定された値より大きくなっています。*ss* 値は、*pp* 値以下でなければなりません。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: *pp* および *ss* の指定を訂正して

ください。変更を完了してから、DBD 生成ユーティリティーを再実行します。

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティー)

FLD610 THE LENGTH OF THE EXTERNALNAME PARAMETER EXCEEDS 128.

説明: EXTERNALNAME パラメーターに指定された値が 128 文字を超えています。外部名は 128 文字以下でなければなりません。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: EXTERNALNAME パラメーターに 128 文字より小さい外部名を指定して、DBD 生成ユーティリティーを再実行します。

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティー)

FLD611 THE VALUE OF THE EXTERNALNAME PARAMETER CONTAINS INVALID CHARACTERS.

説明: EXTERNALNAME パラメーターに指定された値に無効文字が含まれています。EXTERNALNAME パラメーターに大文字の英数字を使用して、外部名を指定する必要があります。さらに次の文字も使用できます。

- _ (下線)
- \$
- #
- @

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: EXTERNALNAME パラメーターに、大文字の英数字と、オプションとして下線文字のみを含む外部名を指定します。

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティー)

FLD613 THE VALUE OF THE EXTERNALNAME PARAMETER IS NOT UNIQUE IN SEGMENT

xxxxxxx.

説明: EXTERNALNAME パラメーターに指定された値が、以前 DBD 生成ユーティリティによって読み取られた FIELD ステートメントの NAME パラメーターまたは EXTERNALNAME パラメーターに指定された値と同じです。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxxxxx

同じ名前を指定する両方のフィールドが含まれるセグメント。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: このフィールドに固有の外部名を指定して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD614 THE VALUE OF THE EXTERNALNAME PARAMETER CANNOT BEGIN WITH 'DFS'.

説明: EXTERNALNAME パラメーターに指定された値が、文字 DFS で始まっています。DFS で始まる名前は IMS によって予約されており、外部名として使用することはできません。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: このフィールドに DFS で始まらない外部名を指定して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティ)

DBD 生成の FLD メッセージ 616 から 649

ここでは、次のメッセージについて説明します。

FLD616 THE VALUE OF EXTERNALNAME CANNOT BE A RESERVED SQL KEYWORD.

説明: EXTERNALNAME パラメーターに指定された値は予約済みの SQL キーワードであり、フィールドの外部名として使用することはできません。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: このフィールドに予約済み SQL キーワード以外の外部名を指定して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティ)

 IMS JDBC ドライバーにより制限されるポータブル SQL キーワード (アプリケーション・プログラミング)

定義されるフィールドの FIELD ステートメントの EXTERNALNAME パラメーターに指定される値と一致していなければなりません。

再定義フィールドの FIELD ステートメントに EXTERNALNAME パラメーターが指定されていない場合、代わりに NAME パラメーターの値を使用することができます。

このステートメントの入力順序では、再定義されるフィールドの FIELD ステートメントは、REDEFINES パラメーターを指定する FIELD ステートメントの前にコーディングする必要があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

value REDEFINES パラメーターに指定される値。
segmname

REDEFINES パラメーターに指定された値と一致する名前のフィールドがあるセグメント名を検出する必要があります。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: REDEFINES パラメーターの値が、再定義されるフィールドの NAME パラメーターまたは EXTERNALNAME パラメーターの値と一致していることを確認します。値が一致しない場合は、エラー

FLD617 THE VALUE OF REDEFINES, *value* IS NOT A PREVIOUSLY DEFINED FIELD IN SEGMENT *segmname*.

説明: REDEFINES パラメーターに指定される値は、再

を訂正してください。値が一致する場合は、再定義されるフィールドの FIELD ステートメントが、REDEFINES パラメーターを指定する FIELD ステートメントの前に配置されていることを確認します。そうでない場合は、FIELD ステートメントの順序を訂正してください。訂正を行ってから、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD618 REDEFINES=*fldname* IS INVALID BECAUSE THE REFERENCED FIELD SPECIFIES DATATYPE=ARRAY.

説明: REDEFINES パラメーターで参照したフィールドが、DATATYPE=ARRAY により配列として定義されています。配列として定義されたフィールドは再定義できません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

fldname

REDEFINES パラメーターに指定される値。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: REDEFINES パラメーターに正しいフィールド名が指定されていることを確認します。

REDEFINES パラメーターのフィールド名が正しい場合は、再定義されるフィールドの FIELD ステートメントの DATATYPE パラメーターを変更してください。訂正を行ってから、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD619 THE VALUE OF BYTES IS LESS THAN THE BYTES FIELD OF THE REDEFINED FIELD *fldname*.

説明: 再定義されるフィールドは、REDEFINES パラメーターを指定するフィールド以上のサイズでなければなりません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

fldname

REDEFINES パラメーターに指定される値。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: REDEFINES パラメーターを持つフィールドの値が、再定義されるフィールドの BYTES パラメーター以下になるように指定します。訂正を行ってから、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD620 THE VALUE OF THE MINOCCURS PARAMETER IS NOT A NUMERIC VALUE.

説明: MINOCCURS パラメーターに指定された値に、1 つ以上の非数値文字が含まれています。サポートされる値は 0 から 9 の数字だけです。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: MINOCCURS の値を数字のみから成るように変更して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD621 THE MINOCCURS PARAMETER IS VALID ONLY WHEN DATATYPE=ARRAY IS ALSO SPECIFIED.

説明: MINOCCURS パラメーターが指定されていますが、フィールドが DATATYPE=ARRAY で配列として定義されていません。MINOCCURS パラメーターは、配列内での配列エレメントの最小出現回数を定義します。したがって、ARRAY 以外のどのデータ・タイプでも無効です。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: FIELD ステートメントから MINOCCURS パラメーターを削除するか、DATATYPE=ARRAY を指定してください。その上で、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連タスク:

 DBD ソース・ステートメントでの配列の定義 (データベース管理)

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティー)

FLD622 WHEN DATATYPE=ARRAY IS SPECIFIED, THE MINOCCURS PARAMETER IS REQUIRED.

説明: DATATYPE=ARRAY が指定されていますが、MINOCCURS パラメーターが指定されていません。MINOCCURS パラメーターは、配列内での配列エレメントの最小出現回数を定義するもので、FIELD ステートメントで DATATYPE=ARRAY が指定されている場合に必須です。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: MINOCCURS パラメーターを指定するか、DATATYPE パラメーターの値を変更して、DBD 生成ユーティリティーを再実行します。

関連タスク:

 DBD ソース・ステートメントでの配列の定義 (データベース管理)

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティー)

FLD623 THE VALUE OF THE MAXOCCURS PARAMETER IS NOT A NUMERIC VALUE.

説明: MAXOCCURS パラメーターに指定された値に、1 つ以上の非数値文字が含まれています。サポートされる値は 0 から 9 の数字だけです。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: MAXOCCURS の値を数字のみから成るように変更して、DBD 生成ユーティリティーを再実行します。

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティー)

FLD624 THE VALUE OF THE MAXOCCURS PARAMETER CANNOT BE 0.

説明: MAXOCCURS パラメーターの値は 0 として指定されます。MAXOCCURS パラメーターは、配列内での配列エレメントの最大出現回数を定義します。

MAXOCCURS は、0 より大きい値にする必要があります。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: MAXOCCURS パラメーターに 0 より大きい値を指定して、DBD 生成ユーティリティーを再実行します。

関連タスク:

 DBD ソース・ステートメントでの配列の定義 (データベース管理)

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティー)

FLD625 WHEN DATATYPE=ARRAY IS SPECIFIED, THE MAXOCCURS PARAMETER IS REQUIRED.

説明: DATATYPE=ARRAY が指定されていますが、MAXOCCURS パラメーターが指定されていません。MAXOCCURS パラメーターは、配列内のインスタンスでの配列エレメントの最大出現回数を定義するもので、FIELD ステートメントで DATATYPE=ARRAY が指定されている場合に必須です。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: MAXOCCURS パラメーターを指定するか、DATATYPE パラメーターの値を変更して、DBD 生成ユーティリティーを再実行します。

関連タスク:

 DBD ソース・ステートメントでの配列の定義 (データベース管理)

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティー)

FLD626 THE VALUE OF MAXOCCURS IS LESS THAN THE VALUE OF MINOCCURS.

説明: MAXOCCURS パラメーターの値は MINOCCURS パラメーターの値以上でなければなりません。MINOCCURS および MAXOCCURS パラメーターは、配列フィールドのインスタンスで発生する可能性のある配列エレメントの最小数と最大数を定義します。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: FIELD ステートメントの MINOCCURS または MAXOCCURS パラメーターの値を訂正して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD627 THE DEPENDSON FIELD *fieldname* MUST HAVE A DATATYPE OF INT, SHORT, LONG, DECIMAL, BYTE, UBYTE, UINT, USHORT OR ULONG.

説明: DEPENDSON パラメーターに指定されている制御フィールドのデータ・タイプが、INT、SHORT、LONG、DECIMAL、BYTE、UBYTE、UINT、USHORT、または ULONG として定義されていません。DEPENDSON パラメーターに指定されている制御フィールドには、配列のインスタンスに配列エレメントがどれだけ存在するかを示す整数が入っているので、参照フィールドの DATATYPE パラメーターには、INT、SHORT、LONG、DECIMAL、BYTE、UBYTE、UINT、USHORT、または ULONG の値が入っていない必要があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dfieldname

この配列フィールドに含まれる配列エレメントの数を識別するために、このフィールドが依存している制御フィールドの名前。制御フィールドの名前は、この制御フィールドの FIELD ステートメントの EXTERNALNAME パラメーターに定義されています。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: DEPENDSON パラメーターに正しいフィールド名が指定されていることを確認します。正しいフィールド名が指定されている場合は、参照フィールドの DATATYPE パラメーターの値を訂正して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD628 FIELD *dfieldname* REFERENCED BY DEPENDSON MUST SPECIFY 0 FOR SS IN DATATYPE=DECIMAL(PP,SS).

説明: DEPENDSON パラメーターに指定された制御フィールドの FIELD ステートメントで、10 進数のデータ・タイプに指定されたスケールが 0 ではありません。制御フィールドには、配列のインスタンスでの配列エレメントの発生回数を決定する整数が含まれます。したがって、制御フィールドのデータ・タイプとして DATATYPE=DECIMAL(*pp,ss*) を指定する場合は、*ss* の値としてスケール 0 を指定する必要があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dfieldname

この配列フィールドに含まれる配列エレメントの数を識別するために、このフィールドが依存している制御フィールドの名前。制御フィールドの名前は、この制御フィールドの FIELD ステートメントの EXTERNALNAME パラメーターに定義されています。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: *ss* の値を 0 に変更して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD629 DEPENDSON IS REQUIRED IF MAXOCCURS AND MINOCCURS VALUES ARE DIFFERENT.

説明: MAXOCCURS パラメーターの値が MINOCCURS パラメーターの値より大きい場合、このフィールドの所定のインスタンス内の配列エレメント数を指定する制御フィールドを参照するには、DEPENDSON パラメーターが必須です。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: MINOCCURS および MAXOCCURS パラメーターが予定どおりにコーディングされている場合は、DEPENDSON パラメーターを指定します。DEPENDSON パラメーターの値は制御フィールドを参照する必要があります。制御フィールドがまだ定義されていない場合は、FIELD ステートメントをコーディングして定義してください。制御フィールドの FIELD ステートメントは、入力順序でこの FIELD ステートメントの前に配置する必要があります。

DEPENDSON パラメーターに制御フィールドの名前を指定してください。

あるいは、MINOCCURS および MAXOCCURS パラメーターに等しい値を指定した場合は、DEPENDSON パラメーターを指定する必要はありません。

エラーを訂正してから、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

➡ FIELD ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD630 THE VALUE OF DEPENDSON, *d fldname*, IS NOT A PREVIOUSLY DEFINED FIELD IN SEGMENT *segname*.

説明: 現在の FIELD ステートメントの DEPENDSON パラメーターに指定された値が、DBD 生成入力の前どの FIELD ステートメントの EXTERNALNAME パラメーターの値とも一致しません。DEPENDSON パラメーターに指定された値は、DBD 生成入力順序でこの FIELD ステートメントの前の FIELD ステートメントの EXTERNALNAME 値と一致していなければなりません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

d fldname

この配列フィールドに含まれる配列エレメントの数を識別するために、このフィールドが依存している制御フィールドの名前。制御フィールドの名前は、この制御フィールドの FIELD ステートメントの EXTERNALNAME パラメーターに定義されています。

segname

これらのフィールドが定義されるセグメント。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: 現在の FIELD ステートメントの DEPENDSON パラメーター、または制御フィールドを定義する FIELD ステートメントの EXTERNALNAME パラメーターのいずれかのフィールド名を訂正してください。DBD 生成ステートメントの入力順序で、DEPENDSON パラメーターによって参照される FIELD ステートメントが、DEPENDSON パラメーターを指定する FIELD ステートメントの前に配置されていることを確認してください。その上で、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

➡ FIELD ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD631 THE DEPENDSON PARAMETER IS VALID ONLY WHEN DATATYPE=ARRAY IS ALSO SPECIFIED.

説明: DEPENDSON パラメーターが指定されていますが、フィールドが DATATYPE=ARRAY で配列として定義されていません。DEPENDSON パラメーターは、可変長配列のインスタンスを含む配列エレメントの数を示す制御フィールドを参照します。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: FIELD ステートメントから DEPENDSON パラメーターを削除するか、DATATYPE=ARRAY を指定してください。その上で、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

➡ FIELD ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD632 THE VALUE OF MAXBYTES IN FIELD *c fldname* IS GREATER THAN THE BYTES OF PARENT *p fldname*.

説明: 別のフィールドを親として指定するフィールドを、親フィールドより大きくすることはできません。メッセージ・テキストの *c fldname* フィールドで指定されている MAXBYTES パラメーターのバイト・サイズが、親フィールド *p fldname* に指定されているバイト・サイズより大きくなっています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

c fldname

MAXBYTES パラメーターを含む子 FIELD ステートメントの EXTERNALNAME パラメーターの値。

p fldname

BYTES パラメーターを含む親 FIELD ステートメントの EXTERNALNAME パラメーターの値。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: MAXBYTES の値または親フィールドのバイト・サイズを調整して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティー)

FLD633 THE VALUE OF PARENT, *pfldname*, IS NOT A PREVIOUSLY DEFINED FIELD IN SEGMENT *segname*.

説明: PARENT パラメーターで参照されるフィールドを定義する FIELD ステートメントは、DBD 生成入力では、PARENT パラメーターを指定する FIELD ステートメントの前に配置する必要があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

pfldname

EXTERNALNAME パラメーターにより親フィールドの FIELD ステートメントに定義される、親フィールドの名前。

segname

これらのフィールドが定義されるセグメント。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: 親フィールドを定義する FIELD ステートメントが、PARENT パラメーターを含む FIELD ステートメントの前に配置されるように、FIELD ステートメントを移動します。FIELD ステートメントが参照フィールドに存在しない場合は、FIELD ステートメントをコーディングしてください。その上で、DBD 生成ユーティリティーを再実行します。

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティー)

FLD634 THE PARENT FIELD *pfldname* MUST HAVE A DATATYPE OF ARRAY OR STRUCT.

説明: 現在の FIELD ステートメントの PARENT パラメーターが、構造または配列として定義されていない別のフィールドの外部名を指定しています。PARENT パラメーターで指定できるのは、構造または配列として定義されたフィールドのみです。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

pfldname

EXTERNALNAME パラメーターにより親フィールドの FIELD ステートメントに定義される、親フィールドの名前。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

590 メッセージおよびコード 第 2 巻: DFS 以外のメッセージ

プログラマーの応答: PARENT パラメーターによって参照されるフィールドの FIELD ステートメントに、適宜 DATATYPE=STRUCT または DATATYPE=ARRAY を指定してください。あるいは、このメッセージをトリガーした FIELD ステートメントから PARENT パラメーターを削除してください。変更を完了してから、DBD 生成ユーティリティーを再実行します。

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティー)

FLD635 THE VALUE OF CASENAME IS NOT A DFSCASE STATEMENT IN THE SEGMENT.

説明: CASENAME の値は、この FIELD ステートメントの前にこのセグメントにコーディングされた、DFSCASE ステートメントの NAME パラメーターに指定されている値と一致していなければなりません。このエラーは、次の問題のいずれかが原因で起こることがあります。

- DFSCASE ステートメントがその名前でセグメントに定義されていない
- DFSCASE ステートメントはその名前で定義されているが、入力順序でこの FIELD ステートメントの前に配置されていない
- CASENAME パラメーターに指定された値が正しくない

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: CASENAME パラメーターに指定された名前を訂正するか、CASENAME パラメーターで名前を指定する DFSCASE ステートメントを入力順序でこの FIELD ステートメントより前にコーディングしてください。エラーを訂正してから、DBD 生成ユーティリティーを再実行します。

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティー)

FLD636 THE VALUE OF STARTAFTER, *fldname*, IS NOT A PREVIOUSLY DEFINED FIELD IN SEGMENT *segname*.

説明: STARTAFTER パラメーターに指定された値は、STARTAFTER パラメーターを含む FIELD ステートメントの前の FIELD ステートメントの

EXTERNALNAME パラメーターの値と一致していなければなりません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

fldname

このフィールドが後で開始するフィールドの名前で、EXTERNALNAME パラメーターにより親フィールドの FIELD ステートメントに定義されます。

segname

これらのフィールドが定義されるセグメント。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: STARTAFTER パラメーターに指定されたフィールド名を訂正して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD637 YOU CANNOT SPECIFY BOTH STARTAFTER AND START IN THE SAME FIELD STATEMENT.

説明: START および STARTAFTER パラメーターは相互に排他的で、同じ FIELD ステートメントに両方を指定することはできません。セグメントの先頭に相対するフィールドの開始位置を計算できる場合は、START パラメーターを使用してください。セグメントの先頭に相対するフィールドの開始位置を計算できず、そのフィールドが PARENT パラメーターの配列フィールドを指定しない場合は、STARTAFTER パラメーターを使用してください。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: 適宜 START パラメーターまたは STARTAFTER パラメーターを除去して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD638 YOU CANNOT SPECIFY BOTH MAXBYTES AND BYTES IN THE SAME FIELD STATEMENT.

説明: BYTES および MAXBYTES パラメーターは相互に排他的で、同じ FIELD ステートメントに両方を指定

することはできません。フィールドが配列エレメントの変数番号を指定した配列として定義されているか、または配列エレメントの変数番号を指定した配列を含む構造として定義されている場合にのみ、MAXBYTES パラメーターを使用してください。その他のすべてのフィールド・タイプでは、BYTES パラメーターを使用します。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: 適宜 BYTES パラメーターまたは MAXBYTES パラメーターを除去して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD639 THE VALUE OF THE MAXBYTES PARAMETER IS NOT A NUMERIC VALUE.

説明: MAXBYTES パラメーターに指定された値に、1 つ以上の非数値文字が含まれています。サポートされる値は 0 から 9 の数字だけです。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: MAXBYTES パラメーターに数値を指定して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD640 THE VALUE OF THE MAXBYTES PARAMETER MUST BE GREATER THAN 0.

説明: MAXBYTES パラメーターが、配列エレメントの変数番号を指定した配列フィールドまたは配列エレメントの変数番号を指定した配列を含む構造に、許容最大サイズを指定しています。MAXBYTES の値は 0 より大きい数値として指定しなければなりません。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: MAXBYTES パラメーターに 0 より大きい数値を指定して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティー)

**FLD641 MAXBYTES IS INVALID IN THE
CURRENT SPECIFICATION OF THE
FIELD STATEMENT.**

説明: MAXBYTES パラメーターは、動的配列を定義する FIELD ステートメントまたは動的配列が入っている構造を定義する FIELD ステートメントにのみ指定できます。他のすべての FIELD ステートメントでは、BYTES パラメーターを使用する必要があります。

動的配列を定義する FIELD ステートメントには、以下のパラメーターが含まれていなければなりません。

- EXTERNALNAME=*fldname*
- DATATYPE=ARRAY
- DEPENDSON=*cntrlfld*
- MINOCCURS=*min_elmnts*
- MAXOCCURS=*max_elmnts*

構造に動的配列が含まれている場合、FIELD ステートメントには、構造フィールドの名前が指定されている PARENT パラメーターも含まれます。構造を定義する FIELD ステートメントは、DATATYPE=STRUCT を指定します。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: MAXBYTES の代わりに BYTES を指定するか、可変長配列または構造を定義するように FIELD ステートメントを変更してください。変更を完了してから、DBD 生成ユーティリティーを再実行します。

関連概念:

 生成ユーティリティーに対する DBD および PSB メタデータの定義 (データベース管理)

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティー)

**FLD642 THE MAXBYTES PARAMETER IS
REQUIRED WHEN
DATATYPE=ARRAY AND
DEPENDSON ARE SPECIFIED.**

説明: DATATYPE=ARRAY および DEPENDSON=*cntrlfld* の指定は、この FIELD ステートメントが動的配列を定義しているのに、MAXBYTES パラメーターが指定されていないことを示します。

動的配列のための FIELD ステートメントには、以下のパラメーターが含まれていなければなりません。

- EXTERNALNAME=*fldname*
- DATATYPE=ARRAY
- DEPENDSON=*cntrlfld*
- MINOCCURS=*min_elmnts*
- MAXOCCURS=*max_elmnts*

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: 動的配列を定義する場合は、BYTES パラメーターの代わりに MAXBYTES パラメーターを指定してください。静的配列を定義する場合は、DEPENDSON パラメーターを除去してください。FIELD ステートメントのパラメーターの変更を完了してから、DBD 生成ユーティリティーを再実行します。

関連タスク:

 DBD ソース・ステートメントでの配列の定義 (データベース管理)

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティー)

**FLD643 NEITHER THE BYTES NOR THE
MAXBYTES PARAMETER IS
SPECIFIED.**

説明: このフィールドのバイト・サイズを指定するには、BYTES パラメーターを使用するか、あるいは、このフィールドが動的配列として定義されているか、動的配列を含む構造として定義されている場合は、MAXBYTES パラメーターを使用する必要があります。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: BYTES パラメーターまたは MAXBYTES パラメーターを指定して、DBD 生成ユーティリティーを再実行します。

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティー)

**FLD644 THE VALUE SPECIFIED ON THE
REMARKS PARAMETER EXCEEDS
256 CHARACTERS.**

説明: REMARKS パラメーターは、最大 256 文字のストリングを受け入れることができます。REMARKS パ

ラメーターに現在入力されているコメントが 256 文字の制限を超えています。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: REMARKS パラメーターに入力したコメント・ストリングを 256 文字以下になるように修正して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

➡ FIELD ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD645 THE MAXOCCURS PARAMETER IS VALID ONLY WHEN DATATYPE=ARRAY IS SPECIFIED.

説明: MAXOCCURS パラメーターが指定されていますが、フィールドが DATATYPE=ARRAY で配列として定義されていません。MAXOCCURS パラメーターは、配列内での配列エレメントの最大出現回数を定義します。したがって、ARRAY 以外のどのデータ・タイプでも無効です。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: FIELD ステートメントから MAXOCCURS パラメーターを削除するか、DATATYPE=ARRAY を指定してください。その上で、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連タスク:

➡ DBD ソース・ステートメントでの配列の定義 (データベース管理)

関連資料:

➡ FIELD ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD646 THE NAME PARAMETER CANNOT BE SPECIFIED ON FIELDS THAT ARE ELEMENTS OF AN ARRAY OR STRUCT.

説明: 配列フィールドまたは構造フィールドの名前が PARENT パラメーターに指定されているため、現在の FIELD ステートメントで、NAME パラメーターの代わりに EXTERNALNAME パラメーターを使用する必要があります。配列または構造フィールドを親として指定するフィールドは、その配列または構造のエレメントと見なされます。配列または構造のエレメントを持つことができるのは外部名のみです。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: NAME パラメーターを EXTERNALNAME パラメーターで置き換えて、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連概念:

➡ 生成ユーティリティに対する DBD および PSB メタデータの定義 (データベース管理)

関連資料:

➡ FIELD ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD647 YOU CANNOT SPECIFY BOTH STARTAFTER AND NAME IN THE SAME FIELD STATEMENT.

説明: NAME および STARTAFTER パラメーターの両方が現在の FIELD ステートメントに指定されていますが、NAME および STARTAFTER パラメーターの両方を同じ FIELD ステートメントに指定することはできません。STARTAFTER パラメーターを必要とするフィールドの場合は、EXTERNALNAME パラメーターでフィールド名を定義します。NAME パラメーターを必要とするフィールドの場合は、START パラメーターで開始位置を定義します。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: NAME パラメーターを EXTERNALNAME パラメーターで置き換えるか、STARTAFTER パラメーターを START パラメーターで置き換えて、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連概念:

➡ 生成ユーティリティに対する DBD および PSB メタデータの定義 (データベース管理)

関連資料:

➡ FIELD ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD648 YOU CANNOT SPECIFY STARTAFTER OR START IN THE SAME FIELD STATEMENT WITH RELSTART.

説明: 現在の FIELD ステートメントに、RELSTART パラメーターと START パラメーターまたは STARTAFTER パラメーターのいずれかが指定されてい

ます。RESTART、START、および STARTAFTER はすべて相互に排他的です。これらのパラメーターのいずれかを指定した場合、他のパラメーターは指定できません。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: RELSTART、START、または STARTAFTER のいずれか 1 つを使用してフィールドの開始位置を定義するように FIELD ステートメントを変更して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD649 THE VALUE OF RELSTART MUST BE A NUMERIC VALUE BETWEEN 1 AND 32767.

説明: RELSTART パラメーターに指定された値が 1 から 32767 までの数値ではありません。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: RELSTART パラメーターに 1 から 32767 までの値を指定して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティ)

DBD 生成の FLD メッセージ 650 から 692

ここでは、次のメッセージについて説明します。

FLD650 A DFSMARSH STATEMENT MUST BE PRECEDED BY A FIELD STATEMENT.

説明: DFSMARSH ステートメントは、それが適用される FIELD ステートメントの後に配置しなければなりません。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: DFSMARSH ステートメントが適用される FIELD ステートメントの直後に配置されるように、DBD 生成入力ステートメントを変更してください。その上で、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連概念:

 生成ユーティリティに対する DBD および PSB メタデータの定義 (データベース管理)

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティ)

 DFSMAP ステートメント (システム・ユーティリティ)

現在入力されている値が 256 文字の制限を超えています。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: URL パラメーターに指定された値を 256 文字以下になるように修正して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 DFSMAP ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD652 THE ENCODING PARAMETER IS VALID ONLY WHEN INTERNALTYPECONVERTER=CHAR.

説明: ENCODING パラメーターが指定されていますが、INTERNALTYPECONVERTER=CHAR が指定されていません。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: DFSMARSH ステートメントから ENCODING パラメーターを除去するか、または INTERNALTYPECONVERTER=CHAR を指定してください。変更を完了してから、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 DFSMAP ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD651 THE VALUE SPECIFIED ON THE URL PARAMETER EXCEEDS 256 CHARACTERS.

説明: URL パラメーターは、最大 256 文字のストリングを受け入れることができます。URL パラメーターに

FLD653 THE VALUE SPECIFIED ON THE ENCODING PARAMETER EXCEEDS 25 BYTES.

説明: ENCODING パラメーターは、最大 25 文字のストリングを受け入れることができます。現在パラメーターに入力されている値がその制限を超えています。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: ENCODING パラメーターに指定された値を 25 文字以下になるように修正して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

➡ DFSMAP ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD654 THE VALUE SPECIFIED ON THE PATTERN PARAMETER EXCEEDS 50 CHARACTERS.

説明: PATTERN パラメーターは、最大 50 文字のストリングを受け入れることができます。現在パラメーターに入力されている値がその制限を超えています。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: PATTERN パラメーターに指定された値を 50 文字以下になるように修正して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

➡ DFSMAP ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD655 THE PATTERN PARAMETER IS VALID ONLY WHEN THE FIELD DATATYPE IS DATE, TIME, OR TIMESTAMP.

説明: DFSMARSH ステートメントに PATTERN パラメーターが指定されていますが、DFSMARSH ステートメントが適用される前の FIELD ステートメントで、DATATYPE パラメーターに DATE、TIME、または TIMESTAMP が指定されていません。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: DFSMARSH ステートメントから PATTERN パラメーターを除去するか、前の FIELD ステートメントの DATATYPE の値を DATE、TIME、または TIMESTAMP に変更します。変更を完了してか

ら、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

➡ FIELD ステートメント (システム・ユーティリティ)

➡ DFSMAP ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD656 THE PATTERN PARAMETER IS VALID ONLY WHEN INTERNALTYPECONVERTER=CHAR.

説明: DFSMARSH ステートメントに PATTERN パラメーターが指定されていますが、INTERNALTYPECONVERTER=CHAR が指定されていません。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: DFSMARSH ステートメントで、PATTERN パラメーターを除去するか INTERNALTYPECONVERTER=CHAR を指定します。変更を完了してから、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

➡ DFSMAP ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD657 THE VALUE SPECIFIED ON THE PATTERN PARAMETER MUST BE ENCLOSED IN APOSTROPHES.

説明: PATTERN パラメーターに指定された値が単一引用符で囲まれていません。PATTERN パラメーターでは、指定された値の前後に単一引用符が必要です。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: 単一引用符を追加して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

➡ DFSMAP ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD658 THE SEGMENT *segment1* SPECIFIED ON OVERFLOW DOES NOT SPECIFY *segment2* AS PARENT.

説明: DFSMARSH ステートメントの OVERFLOW パラメーターに指定されているセグメントが、この

DFSMARSH ステートメントが適用されるフィールドに収まらない XML 文書の残りすべてを保管するために使用されています。オーバーフロー・セグメントを定義する SEGM ステートメントは、SEGM ステートメントの PARENT パラメーターに、該当するフィールドが入っているセグメントの名前を指定する必要があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

segment1

その SEGM ステートメントの PARENT パラメーターに訂正を必要とするセグメントの名前。これは、XML 文書にオーバーフローの部分があれば、それを入れるために使用されるセグメントです。

segment2

segment1 の SEGM ステートメントの PARENT パラメーターに指定する必要があるセグメント名。これは、XML 文書フィールドと関連するマーシャル属性が定義されているセグメントです。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: オーバーフロー・セグメントを定義する SEGM ステートメントの PARENT パラメーターの指定を訂正するか、現行セグメントの子セグメントを参照するように OVERFLOW パラメーターの値を変更してください。訂正を完了してから、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 DFSMAP ステートメント (システム・ユーティリティ)

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティ)

 SEGM ステートメント (システム・ユーティリティ)

**FLD659 YOU CANNOT SPECIFY BOTH
INTERNALTYPECONVERTER AND
USERTYPECONVERTER IN THE
SAME DFSMARSH STATEMENT.**

説明: 現在の DFSMARSH ステートメントに、INTERNALTYPECONVERTER および USERTYPECONVERTER の両方のパラメーターが指定されています。これらのパラメーターは相互に排他的で、同じ DFSMARSH ステートメントに両方を指定することはできません。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: DFSMARSH ステートメントから INTERNALTYPECONVERTER パラメーターまたは USERTYPECONVERTER パラメーターのいずれかを除去して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 DFSMAP ステートメント (システム・ユーティリティ)

**FLD660 FOR DATATYPES OF
DATE/TIME/TIMESTAMP, THE ONLY
VALID INTERNALTYPECONVERTER
VALUES ARE LONG & CHAR.**

説明: DFSMARSH ステートメントの INTERNALTYPECONVERTER の指定が、DFSMARSH ステートメントが適用される前の FIELD ステートメントの、DATATYPE パラメーターの指定と整合していません。FIELD ステートメントの DATATYPE パラメーターは DATE、TIME、または TIMESTAMP に設定されます。この場合、DFSMARSH ステートメントの INTERNALTYPECONVERTER パラメーターを LONG または CHAR に設定する必要があります。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: DFSMARSH ステートメントの INTERNALTYPECONVERTER パラメーターの値を変更するか、あるいは前の FIELD ステートメントの DATATYPE パラメーターの値を変更してください。変更を完了してから、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティ)

 DFSMAP ステートメント (システム・ユーティリティ)

**FLD661 THE VALUE SPECIFIED ON THE
INTERNALTYPECONVERTER
PARAMETER IS NOT A SUPPORTED
CONVERTER TYPE.**

説明: INTERNALTYPECONVERTER は次のコンバーター・タイプをサポートします。

- ARRAY
- BINARY
- BIT

- BLOB
- BYTE
- CHAR
- CLOB
- DOUBLE
- FLOAT
- INT
- LONG
- PACKEDDECIMAL
- SHORT
- STRUCT
- XML_CLOB
- ZONEDDECIMAL

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: INTERNALTYPECONVERTER パラメーターの値を変更するか、代わりに USERTYPECONVERTER パラメーターを使用してください。変更を完了してから、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 DFSMAP ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD662 AN INTERNALTYPECONVERTER OF PACKEDDECIMAL OR ZONEDDECIMAL MUST SPECIFY A DATATYPE OF DECIMAL.

説明: 現在の DFSMARSH ステートメントの INTERNALTYPECONVERTER パラメーターの値は PACKEDDECIMAL または ZONEDDECIMAL ですが、DFSMARSH ステートメントが適用される前の FIELD ステートメントで、DATATYPE=DECIMAL が指定されていません。

PACKEDDECIMAL または ZONEDDECIMAL の値を INTERNALTYPECONVERTER パラメーターに指定できるのは、前の FIELD ステートメントに DATATYPE=DECIMAL が指定されている場合のみです。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: DFSMARSH ステートメントの INTERNALTYPECONVERTER パラメーターの値を変更するか、あるいは前の FIELD ステートメントの DATATYPE パラメーターの値を変更してください。変更を完了してから、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティ)

 DFSMAP ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD663 THE DATATYPE PARAMETER MUST BE SPECIFIED IF INTERNALTYPECONVERTER IS SPECIFIED.

説明: 現在の DFSMARSH ステートメントに INTERNALTYPECONVERTER パラメーターが指定されていますが、DFSMARSH ステートメントが適用される前の FIELD ステートメントに、DATATYPE パラメーターが指定されていません。DFSMARSH ステートメントに INTERNALTYPECONVERTER パラメーターを指定するには、INTERNALTYPECONVERTER パラメーターの値と整合した値を使用して、DATATYPE パラメーターを前の FIELD ステートメントに指定する必要があります。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: DFSMARSH ステートメントの INTERNALTYPECONVERTER パラメーターを削除するか、あるいは前の FIELD ステートメントに DATATYPE パラメーターを指定してください。変更を完了してから、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティ)

 DFSMAP ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD664 WHEN AN INTERNALTYPECONVERTER OF XML_CLOB IS SPECIFIED, THE DATATYPE MUST BE XML.

説明: 現在の DFSMARSH ステートメントの INTERNALTYPECONVERTER パラメーターの値は XML_CLOB ですが、この DFSMARSH ステートメントが適用される前の FIELD ステートメントで、DATATYPE=XML が指定されていません。

XML_CLOB の値を INTERNALTYPECONVERTER パラメーターに指定できるのは、前の FIELD ステートメントに DATATYPE=XML が指定されている場合のみです。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: DFSMARSH ステートメントの INTERNALTYPECONVERTER パラメーターの値を変更するか、あるいは前の FIELD ステートメントの DATATYPE パラメーターの値を変更してください。変更を完了してから、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティ)

 DFSMAP ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD665 WHEN AN INTERNALTYPECONVERTER OF CLOB IS SPECIFIED, THE DATATYPE MUST BE BINARY.

説明: 現在の DFSMARSH ステートメントの INTERNALTYPECONVERTER パラメーターの値は CLOB ですが、この DFSMARSH ステートメントが適用される前の FIELD ステートメントで、DATATYPE=BINARY が指定されていません。

CLOB の値を INTERNALTYPECONVERTER パラメーターに指定できるのは、前の FIELD ステートメントに DATATYPE=BINARY が指定されている場合のみです。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: DFSMARSH ステートメントの INTERNALTYPECONVERTER パラメーターの値を変更するか、あるいは前の FIELD ステートメントの DATATYPE パラメーターの値を変更してください。変更を完了してから、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティ)

 DFSMAP ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD666 AN INTERNALTYPECONVERTER OF xxxxxxxx MUST SPECIFY DATATYPE OF yyyyyyyy

説明: 現在の DFSMARSH ステートメントの

INTERNALTYPECONVERTER パラメーターの値が、この DFSMARSH ステートメントが適用される前の FIELD ステートメントの、DATATYPE パラメーターの値と整合していません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxxxxx

現在 DFSMARSH ステートメントの INTERNALTYPECONVERTER パラメーターに指定されている、矛盾する値。

yyyyyyy

現在、前の FIELD ステートメントの DATATYPE パラメーターに指定されている、矛盾する値。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: DFSMARSH ステートメントの INTERNALTYPECONVERTER パラメーターの値を変更するか、あるいは前の FIELD ステートメントの DATATYPE パラメーターの値を変更してください。変更を完了してから、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティ)

 DFSMAP ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD667 THE DATATYPE MUST BE BINARY FOR INTERNALTYPECONVERTER = BLOB.

説明: 現在の DFSMARSH ステートメントの INTERNALTYPECONVERTER パラメーターの値は BLOB ですが、この DFSMARSH ステートメントが適用される前の FIELD ステートメントで、DATATYPE=BINARY が指定されていません。

BLOB の値を INTERNALTYPECONVERTER パラメーターに指定できるのは、前の FIELD ステートメントに DATATYPE=BINARY が指定されている場合のみです。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: DFSMARSH ステートメントの INTERNALTYPECONVERTER パラメーターの値を変更するか、あるいは前の FIELD ステートメントの DATATYPE パラメーターの値を変更してください。変

更を完了してから、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティ)

 DFSMAP ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD668 WHEN INVOKING DFSMARSH, AN INTERNALTYPECONVERTER OR USERTYPECONVERTER MUST BE SPECIFIED.

説明: 現在の DFSMARSH ステートメントに、INTERNALTYPECONVERTER パラメーターまたは USERTYPECONVERTER パラメーターが含まれていません。DFSMARSH ステートメントには、この 2 つのパラメーターのいずれかを指定する必要があります。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: DFSMARSH ステートメントに INTERNALTYPECONVERTER パラメーターまたは USERTYPECONVERTER パラメーターのいずれかを指定してください。指定するタイプ・コンバーターは、この DFSMARSH ステートメントが適用される FIELD ステートメントの、DATATYPE パラメーターの指定と一致している必要があります。

変更を完了してから、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティ)

 DFSMAP ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD669 AN INTERNALTYPECONVERTER OF CHAR MUST SPECIFY A DATATYPE OF CHAR, DATE, TIME OR TIMESTAMP.

説明: 現在の DFSMARSH ステートメントの INTERNALTYPECONVERTER パラメーターの値は CHAR ですが、この DFSMARSH ステートメントが適用される前の FIELD ステートメントで、DATATYPE パラメーターに CHAR、DATE、TIME、または TIMESTAMP が指定されていません。

CHAR の値を INTERNALTYPECONVERTER パラメ

ーターに指定できるのは、前の FIELD ステートメントの DATATYPE パラメーターに

CHAR、DATE、TIME、または TIMESTAMP が指定されている場合のみです。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: DFSMARSH ステートメントの INTERNALTYPECONVERTER パラメーターの値を変更するか、あるいは前の FIELD ステートメントの DATATYPE パラメーターの値を変更してください。変更を完了してから、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティ)

 DFSMAP ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD670 AN INTERNALTYPECONVERTER OF LONG MUST SPECIFY A DATATYPE OF LONG, DATE, TIME OR TIMESTAMP.

説明: 現在の DFSMARSH ステートメントの INTERNALTYPECONVERTER パラメーターの値は LONG ですが、この DFSMARSH ステートメントが適用される前の FIELD ステートメントで、DATATYPE パラメーターに LONG、DATE、TIME、または TIMESTAMP が指定されていません。

LONG の値を INTERNALTYPECONVERTER パラメーターに指定できるのは、前の FIELD ステートメントの DATATYPE パラメーターに

LONG、DATE、TIME、または TIMESTAMP が指定されている場合のみです。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: DFSMARSH ステートメントの INTERNALTYPECONVERTER パラメーターの値を変更するか、あるいは前の FIELD ステートメントの DATATYPE パラメーターの値を変更してください。変更を完了してから、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティ)

 DFSMAP ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD671 THE BYTES VALUE MUST BE 1 FOR INTERNALTYPECONVERTER

xxxxxxx.

説明: 現在の DFSMARSH ステートメントの INTERNALTYPECONVERTER パラメーターの値は 1 バイトのフィールド長を必要としますが、この DFSMARSH ステートメントが適用される前の FIELD ステートメントで、BYTES=1 が指定されていません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxxxxx

現在 DFSMARSH ステートメントの INTERNALTYPECONVERTER パラメーターに指定されている値。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: 前の FIELD ステートメントの BYTES パラメーターの値を変更するか、DFSMARSH ステートメントの INTERNALTYPECONVERTER パラメーターの値を変更してください。変更を完了してから、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

➡ FIELD ステートメント (システム・ユーティリティ)

➡ DFSMAP ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD672 THE BYTES VALUE MUST BE 2 FOR INTERNALTYPECONVERTER

xxxxxxx.

説明: 現在の DFSMARSH ステートメントの INTERNALTYPECONVERTER パラメーターの値は 2 バイトのフィールド長を必要としますが、この DFSMARSH ステートメントが適用される前の FIELD ステートメントで、BYTES=2 が指定されていません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxxxxx

現在 DFSMARSH ステートメントの INTERNALTYPECONVERTER パラメーターに指定されている値。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: 前の FIELD ステートメントの BYTES パラメーターの値を変更するか、DFSMARSH ステートメントの INTERNALTYPECONVERTER パラ

メーターの値を変更してください。変更を完了してから、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

➡ FIELD ステートメント (システム・ユーティリティ)

➡ DFSMAP ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD673 THE BYTES VALUE MUST BE 4 FOR INTERNALTYPECONVERTER

xxxxxxx.

説明: 現在の DFSMARSH ステートメントの INTERNALTYPECONVERTER パラメーターの値は 4 バイトのフィールド長を必要としますが、この DFSMARSH ステートメントが適用される前の FIELD ステートメントで、BYTES=4 が指定されていません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxxxxx

現在 DFSMARSH ステートメントの INTERNALTYPECONVERTER パラメーターに指定されている値。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: 前の FIELD ステートメントの BYTES パラメーターの値を変更するか、DFSMARSH ステートメントの INTERNALTYPECONVERTER パラメーターの値を変更してください。変更を完了してから、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

➡ FIELD ステートメント (システム・ユーティリティ)

➡ DFSMAP ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD674 THE BYTES VALUE MUST BE 8 FOR INTERNALTYPECONVERTER

xxxxxxx.

説明: 現在の DFSMARSH ステートメントの INTERNALTYPECONVERTER パラメーターの値は 8 バイトのフィールド長を必要としますが、この DFSMARSH ステートメントが適用される前の FIELD ステートメントで、BYTES=8 が指定されていません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxxxxx

現在 DFSMARSH ステートメントの
INTERNALTYPECONVERTER パラメーター
に指定されている値。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: 前の FIELD ステートメントの
BYTES パラメーターの値を変更するか、DFSMARSH
ステートメントの INTERNALTYPECONVERTER パラ
メーターの値を変更してください。変更を完了してか
ら、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリ
ティー)

 DFSMAP ステートメント (システム・ユーティリ
ティー)

FLD675 OVERFLOW IS SPECIFIED, BUT THE FIELD IS NOT DEFINED WITH DATATYPE=XML.

説明: DFSMARSH ステートメントに OVERFLOW が
指定されていますが、現在の FIELD ステートメントに
指定されている DATATYPE の値が XML ではありま
せん。OVERFLOW パラメーターが DFSMARSH ス
テートメントで有効となるのは、DFSMARSH が適用さ
れる FIELD ステートメントで DATATYPE=XML が指
定されている場合のみです。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗
します。

プログラマーの応答: FIELD ステートメントに
DATATYPE=XML を指定するか、あるいは、
OVERFLOW パラメーターが不要な場合は
DFSMARSH から除去します。DBD 生成ユーティリ
ティを再実行します。

関連資料:

 DFSMAP ステートメント (システム・ユーティリ
ティー)

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリ
ティー)

FLD676 THE VALUE SPECIFIED ON THE USERTYPECONVERTER PARAMETER EXCEEDS 256 CHARACTERS.

説明: USERTYPECONVERTER パラメーターは、256

文字を超えない文字ストリング受け入れることができ
ます。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失
敗します。

プログラマーの応答: USERTYPECONVERTER パラメ
ーターに指定された値を 256 文字以下になるように修
正して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 DFSMAP ステートメント (システム・ユーティリ
ティー)

FLD677 A NAME AND VALUE PAIR SPECIFIED ON THE PROPERTIES PARAMETER IS INCOMPLETE.

説明: PROPERTIES パラメーターのプロパティの名
前と値の指定が、現在の DFSMARSH ステートメント
では不完全です。

PROPERTIES パラメーターに指定される値はそれぞ
れ、次のフォーマットに準拠する必要があります。
propertyname=propertyvalue。複数のプロパティを指定
する場合、それぞれの名前と値のペアは、コンマで区切
る必要があります。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失
敗します。

プログラマーの応答: プロパティの名前と値の指定を
訂正して、DBD 生成ユーティリティを再実行しま
す。

関連資料:

 DFSMAP ステートメント (システム・ユーティリ
ティー)

FLD678 THE PROPERTIES PARAMETER IS SPECIFIED BUT THE USERTYPECONVERTER PARAMETER IS NOT.

説明: DFSMARSH ステートメントに PROPERTIES
パラメーターが指定されている場合は、
USERTYPECONVERTER パラメーターが必須です。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失
敗します。

プログラマーの応答: DFSMARSH ステートメント
で、USERTYPECONVERTER パラメーターを指定する
か、または PROPERTIES パラメーターを除去してくだ
さい。変更を完了してから、DBD 生成ユーティリ
ティを再実行します。

関連資料:

 DFSMAP ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD679 THE VALUE OF THE URL PARAMETER CONTAINS INVALID CHARACTERS.

説明: DFSMARSH ステートメントの URL パラメーターで指定された値に、以下の無効文字が 1 つ以上含まれています。

- 単一および二重引用符
- ブランク
- より小 (<) およびより大 (>) 記号
- アンパーサンド (&)

システムの処置: DBDGEN は終了します。後続のステートメントの妥当性検査は継続します。

プログラマーの応答: DFSMARSH ステートメントの URL パラメーターに指定された値から無効文字を除去し、DBDGEN ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 DFSMAP ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD680 THE VALUE OF THE USERTYPECONVERTER PARAMETER CONTAINS INVALID CHARACTERS.

説明: DFSMARSH ステートメントの USERTYPECONVERTER パラメーターに指定された値に、以下の無効文字が 1 つ以上含まれています。

- 単一および二重引用符
- ブランク
- より小 (<) およびより大 (>) 記号
- アンパーサンド (&)

システムの処置: DBDGEN は終了します。後続のステートメントの妥当性検査は継続します。

プログラマーの応答: DFSMARSH ステートメントの USERTYPECONVERTER パラメーターに指定された値から無効文字を除去し、DBDGEN ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 DFSMAP ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD681 THE VALUE OF THE ENCODING PARAMETER CONTAINS INVALID CHARACTERS.

説明: DFSMARSH ステートメントの ENCODING パラメーターに指定された値に、以下の無効文字が 1 つ以上含まれています。

- 単一および二重引用符
- ブランク
- より小 (<) およびより大 (>) 記号
- アンパーサンド (&)

システムの処置: DBDGEN は終了します。後続のステートメントの妥当性検査は継続します。

プログラマーの応答: DFSMARSH ステートメントの ENCODING パラメーターに指定された値から無効文字を除去し、DBDGEN ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 DFSMAP ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD682 THE ONLY VALID VALUE FOR THE ISSIGNED PARAMETER IS Y OR N.

説明: 現在の DFSMARSH ステートメントで、ISSIGNED パラメーターの値が Y または N ではありません。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: DFSMARSH ステートメントで、ISSIGNED パラメーターの値を Y または N に変更してください。変更を完了してから、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 DFSMAP ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD683 THE ISSIGNED PARAMETER IS VALID ONLY WHEN DATATYPE=DECIMAL ON THE FIELD STATEMENT.

説明: 現在の DFSMARSH ステートメントに ISSIGNED パラメーターが指定されていますが、この DFSMARSH ステートメントが適用される前の FIELD ステートメントに、DATATYPE=DECIMAL が指定されていません。

ISSIGNED パラメーターを指定できるのは、前の

FIELD ステートメントに DATATYPE=DECIMAL が指定されている場合のみです。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: 前の FIELD ステートメントに DATATYPE=DECIMAL を指定するか、または DFSMARSH ステートメントから ISSIGNED パラメーターを削除します。変更を完了してから、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

➡ FIELD ステートメント (システム・ユーティリティ)

➡ DFSMAP ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD684 THE VALUE SPECIFIED ON THE REMARKS PARAMETER IN THE DFSMARSH STATEMENT EXCEEDS 256 CHARACTERS.

説明: REMARKS パラメーターは、最大 256 文字のストリングを受け入れることができます。REMARKS パラメーターに現在入力されているコメントが 256 文字の制限を超えています。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: REMARKS パラメーターに入力したコメント・ストリングを 256 文字以下になるように修正して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

➡ DFSMAP ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD685 A NAME AND VALUE PAIR SPECIFIED ON THE PROPERTIES PARAMETER EXCEEDS 128.

説明: PROPERTIES パラメーターのプロパティーの名前および値の指定は、長さが 128 文字を超えています。

それぞれのプロパティーの名前と値の各ペアは、128 文字以下でなければなりません。複数のプロパティーを指定する場合、名前と値のペアはコンマで区切る必要があります。プロパティーの名前と値は、以下のフォーマットで指定しなければなりません。

propertyname=propertyvalue

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: プロパティーの名前と値の指定を訂正して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

➡ DFSMAP ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD686 THE PROPERTIES PARAMETER CONTAINS INVALID CHARACTERS.

説明: DFSMARSH ステートメントの PROPERTIES パラメーターに指定された値に、以下の無効文字が 1 つ以上含まれています。

- 単一および二重引用符
- ブランク
- より小 (<) およびより大 (>) 記号
- アンパーサンド (&)

システムの処置: DBDGEN は終了します。後続のステートメントの妥当性検査は継続します。

プログラマーの応答: DFSMARSH ステートメントの PROPERTIES パラメーターに指定された値から無効文字を除去し、DBDGEN ユーティリティを再実行します。

関連資料:

➡ DFSMAP ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD687 THE PATTERN PARAMETER CONTAINS INVALID CHARACTERS

説明: DFSMARSH ステートメントの PATTERN パラメーターに指定された値に、1 つ以上の無効文字が含まれています。

キーワード値の区切り文字として使用される単一引用符を除いて、PATTERN パラメーターに指定された値に、以下の文字を含めることはできません。

- 単一および二重引用符
- より小 (<) およびより大 (>) 記号
- アンパーサンド (&)

システムの処置: DBDGEN は終了します。後続のステートメントの妥当性検査は継続します。

プログラマーの応答: DFSMARSH ステートメントの PATTERN パラメーターに指定された値から無効文字を除去し、DBDGEN ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 DFSMAP ステートメント (システム・ユーティリティ)

**FLD692 YOU CANNOT SPECIFY BOTH
STARTAFTER AND RELSTART IN
THE SAME FIELD STATEMENT.**

説明: 現在の FIELD ステートメントに、RELSTART パラメーターおよび STARTAFTER パラメーターが指定されています。RESTART、START、および STARTAFTER はすべて相互に排他的です。これらのパラメーターのいずれかを指定した場合、他のパラメーターは指定できません。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: RELSTART、START、または STARTAFTER のいずれか 1 つを使用してフィールドの開始位置を定義するように FIELD ステートメントを変更して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティ)

DBD 生成の FLD メッセージ 700 から 999

ここでは、次のメッセージについて説明します。

**FLD700 A DFSCASE STATEMENT MUST BE
PRECEDED BY A DFSMAP
STATEMENT.**

説明: DFSMAP ステートメントが、入力順序で現在の DFSCASE ステートメントの前の DBD 生成入力にコーディングされていません。DFSCASE ステートメントが MAPNAME パラメーターで参照する DFSMAP ステートメントは、DBD 生成ステートメントの入力順序で、DFSCASE ステートメントの前に配置する必要があります。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: DFSCASE ステートメントが DFSCASE ステートメントの MAPNAME パラメーターに指定されている DFSMAP ステートメントの後に配置されるように、DBD 生成入力ステートメントを変更してください。変更を完了してから、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連タスク:

 セグメントの代替フィールド・マップの定義 (データベース管理)

関連資料:

 DFSCASE ステートメント (システム・ユーティリティ)

 DFSMAP ステートメント (システム・ユーティリティ)

**FLD701 THE NAME PARAMETER IS
REQUIRED ON A DFSCASE
STATEMENT.**

説明: 現在の DFSCASE ステートメントに NAME パラメーターが指定されていません。NAME パラメーターは必須です。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: DFSCASE ステートメントに NAME パラメーターを指定して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 DFSCASE ステートメント (システム・ユーティリティ)

**FLD702 THE VALUE SPECIFIED ON THE
NAME PARAMETER IN THE
DFSCASE STATEMENT EXCEEDS 128
CHARACTERS.**

説明: DFSCASE ステートメントの NAME パラメーターは、128 文字を超える文字ストリングを受け入れることができません。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: NAME パラメーターに指定された値を 128 文字以下になるように修正して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 DFSCASE ステートメント (システム・ユーティリティ)

**FLD703 THE VALUE OF THE NAME
PARAMETER IN THE DFSCASE
STATEMENT CONTAINS INVALID
CHARACTERS.**

説明: 現在の DFSCASE ステートメントの NAME パラメーターに指定された値に無効文字が含まれていません。DFSCASE 名の指定に使用できるのは、以下の文字のみです。

- 英字 a から z および A から Z
- 国別文字 @、\$、および #
- 数字 0 から 9
- 下線文字 _

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: NAME パラメーターの値を、有効な文字のみを含むように変更して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティ)

**FLD705 THE VALUE OF THE NAME
PARAMETER IN THE DFSCASE
STATEMENT CANNOT BEGIN WITH
"DFS".**

説明: 現在の DFSCASE ステートメントの NAME パラメーターに指定された値が、文字 DFS で始まります。DFS で始まる名前は IMS によって予約されており、DFSCASE ステートメントの名前として使用することはできません。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: この DFSCASE ステートメントに DFS で始まらない名前を指定して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 DFSCASE ステートメント (システム・ユーティリティ)

**FLD706 THE VALUE OF THE NAME
PARAMETER IS NOT UNIQUE
WITHIN THE DFSMAP STATEMENT.**

説明: 現在の DFSCASE ステートメントの名前が、MAPNAME パラメーターで同じ DFSMAP ステートメントを指定する別の DFSCASE ステートメントの名前と重複しています。

DFSCASE ステートメント名は、同じ DFSMAP ステートメントを参照する一連の DFSCASE ステートメント内で固有でなければなりません。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: この DFSCASE ステートメントに固有の名前を指定して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連タスク:

 セグメントの代替フィールド・マップの定義 (データベース管理)

関連資料:

 DFSCASE ステートメント (システム・ユーティリティ)

 DFSMAP ステートメント (システム・ユーティリティ)

**FLD707 THE CASEID PARAMETER IS
REQUIRED ON A DFSCASE
STATEMENT.**

説明: 現在の DFSCASE ステートメントに CASEID パラメーターが指定されていません。CASEID パラメーターは必須です。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: DFSCASE ステートメントに CASEID パラメーターを指定して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連タスク:

 セグメントの代替フィールド・マップの定義 (データベース管理)

関連資料:

 DFSCASE ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD710 THE VALUE OF THE CASEID PARAMETER IN THE DFSCASE STATEMENT CONTAINS INVALID CHARACTERS.

説明: 現在の DFSCASE ステートメントの CASEID パラメーターに指定されている値に、無効文字が含まれています。

CASEIDTYPE パラメーターの値に応じて、DFSCASE ステートメント名に使用できる文字は異なります。

CASEIDTYPE=C の場合、DFSCASE 名には以下の文字を含めることができます。

- 英字 a から z および A から Z
- 数字 0 から 9
- 国別文字 @、\$、および #
- 下線文字 _

CASEIDTYPE=X の場合、DFSCASE 名には以下の文字のみを含めることができます。

- 英字 a から z および A から Z
- 数字 0 から 9

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: CASEID パラメーターの値を、有効な文字のみを含むように変更して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD711 THE VALUE OF THE CASEID PARAMETER CANNOT BEGIN WITH DFS.

説明: 現在の DFSCASE ステートメントの CASEID パラメーターに指定された値が、文字 DFS で始まっています。DFS で始まる値は IMS によって予約されており、DFSCASE ステートメントの ID として使用することはできません。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: この DFSCASE ステートメントに DFS で始まらない ID を指定して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 DFSCASE ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD712 THE LENGTH OF THE CASEID PARAMETER EXCEEDS 128.

説明: DFSCASE ステートメントの CASEID パラメーターは、128 文字を超える文字ストリングを受け入れることができません。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: CASEID パラメーターに指定された値の長さが 128 文字以下になるように修正して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 DFSCASE ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD713 "C" OR "X" IS THE ONLY VALID VALUE FOR THE CASEIDTYPE PARAMETER.

説明: 現在の DFSCASE ステートメントで、CASEIDTYPE パラメーターの値が C または X ではありません。

値 C は、DFSCASE ステートメントの ID が文字データとして指定されていることを示します。値 X は、DFSCASE ステートメントの ID が 16 進データとして指定されていることを示します。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: DFSCASE ステートメントで、CASEIDTYPE パラメーターの値を C または X に変更してください。変更を完了してから、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 DFSMAP ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD714 THE CASEIDTYPE PARAMETER IS REQUIRED ON A DFSCASE STATEMENT.

説明: 現在の DFSCASE ステートメントに CASEIDTYPE パラメーターが指定されていません。

CASEID パラメーターの値が文字または 16 進値のいずれであるかを示す CASEIDTYPE パラメーターは必須です。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: DFSCASE ステートメントに CASEIDTYPE パラメーターを指定して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連タスク:

➡ セグメントの代替フィールド・マップの定義 (データベース管理)

関連資料:

➡ DFSCASE ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD715 THE MAPNAME PARAMETER IS REQUIRED ON A DFSCASE STATEMENT.

説明: 現在の DFSCASE ステートメントに MAPNAME パラメーターが指定されていません。

この DFSCASE ステートメントが属する DFSMAP ステートメントを指定する MAPNAME パラメーターは必須です。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: DFSCASE ステートメントに MAPNAME パラメーターを指定して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連タスク:

➡ セグメントの代替フィールド・マップの定義 (データベース管理)

関連資料:

➡ DFSCASE ステートメント (システム・ユーティリティ)

➡ DFSMAP ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD716 THE VALUE OF MAPNAME, *dfsmapnm*, DOES NOT MATCH ANY PREVIOUSLY DEFINED DFSMAP NAMES.

説明: 現在の DFSCASE ステートメントの MAPNAME パラメーターに指定された名前が、前の DBD 生成入力のどの DFSMAP ステートメントに指定された名前とも一致しません。

MAPNAME パラメーターに指定された値は、DBD 生成入力での DFSCASE ステートメントの前の DFSMAP ステートメントの NAME パラメーターに指定された値と一致していなければなりません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dfsmapnm

現在 DFSCASE ステートメントの MAPNAME パラメーターに指定されている値。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: DFSCASE ステートメントの MAPNAME パラメーターまたは DFSMAP ステートメントの NAME パラメーターの名前を訂正してください。DBD 生成入力での DFSCASE ステートメントの前に、一致する名前を持つ DFSMAP ステートメントが配置されていることを確認してください。変更を完了してから、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連タスク:

➡ セグメントの代替フィールド・マップの定義 (データベース管理)

関連資料:

➡ DFSCASE ステートメント (システム・ユーティリティ)

➡ DFSMAP ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD717 THE VALUE SPECIFIED ON THE REMARKS PARAMETER IN THE DFSCASE STATEMENT EXCEEDS 256 CHARACTERS.

説明: REMARKS パラメーターは、最大 256 文字のストリングを受け入れることができます。REMARKS パラメーターに現在入力されているコメントが 256 文字の制限を超えています。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: REMARKS パラメーターに入力したコメント・ストリングを 256 文字以下になるように修正して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

➡ DFSCASE ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD730 A DFSMAP STATEMENT WAS ENTERED WITHOUT A DFSCASE STATEMENT.

説明: DBD 生成入力で、DFSCASE ステートメントが指定されていません。DFSCASE ステートメントが指定されていない場合、DFSMAP ステートメントは不要です。

DFSCASE ステートメントは、セグメントにマップ・ケース (代替フィールド・マップ) を定義します。

DFSMAP ステートメントは、セグメントの所定のインスタンスにどのマップ・ケースが有効であるかを決定する制御フィールドに、一連のマップ・ケースをリンクさせます。

DBD 生成入力で DFSCASE ステートメントが指定されていない場合、DFSMAP ステートメントは不要です。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: DFSCASE ステートメントを少なくとも 1 つコーディングするか、または DFSMAP ステートメントを削除してください。変更を完了してから、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連タスク:

 セグメントの代替フィールド・マップの定義 (データベース管理)

関連資料:

 DFSCASE ステートメント (システム・ユーティリティ)

 DFSMAP ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD731 THE NAME PARAMETER IS REQUIRED ON THE DFSMAP STATEMENT.

説明: 現在の DFSMAP ステートメントに NAME パラメーターが指定されていません。NAME パラメーターは必須です。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: DFSMAP ステートメントに NAME パラメーターを指定して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 DFSMAP ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD732 THE VALUE SPECIFIED ON THE NAME PARAMETER IN THE DFSMAP STATEMENT EXCEEDS 128 CHARACTERS.

説明: DFSMAP ステートメントの NAME パラメーターは、128 文字を超える文字ストリングを受け入れることができません。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: NAME パラメーターに指定された値を 128 文字以下になるように修正して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 DFSMAP ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD733 THE VALUE OF THE NAME PARAMETER IN THE DFSMAP STATEMENT CONTAINS INVALID CHARACTERS.

説明: 現在の DFSMAP ステートメントの NAME パラメーターに指定された値に無効文字が含まれています。DFSMAP 名の指定に使用できるのは、以下の文字のみです。

- 英字 a から z および A から Z
- 国別文字 @、\$、および #
- 数字 0 から 9
- 下線文字 _

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: NAME パラメーターの値を、有効な文字のみを含むように変更して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 DFSMAP ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD734 THE VALUE OF THE NAME PARAMETER IN THE DFSCASE STATEMENT IS NOT UNIQUE IN SEGMENT.

説明: 現在の DFSCASE ステートメントの NAME パラメーターに指定された値が、現在のセグメント内で固有ではありません。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: この DFSCASE ステートメントに固有の名前を指定して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 DFSCASE ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD735 THE VALUE OF THE NAME PARAMETER IN THE DFSMAP STATEMENT CANNOT BEGIN WITH DFS.

説明: 現在の DFSMAP ステートメントの NAME パラメーターに指定された値が、文字 DFS で始まっています。DFS で始まる名前は IMS によって予約されており、DFSMAP ステートメントの名前として使用することはできません。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: この DFSMAP ステートメントに DFS で始まらない名前を指定して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 DFSMAP ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD738 THE VALUE OF DEPENDINGTON, *dflname*, DOES NOT MATCH ANY PREVIOUSLY DEFINED FIELD NAMES.

説明: 現在の DFSMAP ステートメントの DEPENDINGTON パラメーターに指定されたフィールド名が、前の DBD 生成入力のどの FIELD ステートメントに指定されたフィールド名とも一致しません。

DEPENDINGTON パラメーターで参照される FIELD ステートメントは、DBD 生成の入力順序で、DFSMAP ステートメントの前にコーディングする必要があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dflname

セグメントのインスタンスで、どの DFSCASE ステートメントが使用されるかを決定する制御フィールドの名前。制御フィールドの名前は、

この制御フィールドを定義する FIELD ステートメントの EXTERNALNAME パラメーターの値です。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: DFSMAP ステートメントの DEPENDINGTON パラメーター、または DEPENDINGTON パラメーターによって参照されるフィールドを定義する FIELD ステートメントの EXTERNALNAME パラメーターのいずれかのフィールド名を訂正してください。DEPENDINGTON パラメーターによって参照される FIELD ステートメントが、DBD 生成ステートメントの入力順序で DFSMAP ステートメントの前に配置されていることを確認してください。その上で、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連タスク:

 セグメントの代替フィールド・マップの定義 (データベース管理)

関連資料:

 DFSMAP ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD739 THE DEPENDINGTON PARAMETER IS REQUIRED ON A DFSMAP STATEMENT.

説明: 現在の DFSMAP ステートメントに必須の DEPENDINGTON パラメーターが指定されていません。

DEPENDINGTON パラメーターには、制御フィールドの名前を指定します。セグメント・インスタンスで、制御フィールドには、このセグメント・インスタンス内のフィールドをマップする DFSCASE ステートメントのケース ID が入っています。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: DFSMAP ステートメントに DEPENDINGTON パラメーターを指定して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 DFSMAP ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD740 THE LENGTH OF THE REMARKS PARAMETER ON THE DFSMAP STATEMENT EXCEEDS 256 CHARACTERS.

説明: REMARKS パラメーターは、最大 256 文字のストリングを受け入れることができます。REMARKS パラメーターに現在入力されているコメントが 256 文字の制限を超えています。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: REMARKS パラメーターに入力したコメント・ストリングを 256 文字以下になるように修正して、DBD 生成ユーティリティーを再実行します。

関連資料:

 DFSMAP ステートメント (システム・ユーティリティー)

FLD741 THE LENGTH OF THE CASEID VALUE MUST BE TWICE THE BYTE LENGTH OF FIELD *dfldname*.

説明: メッセージ・テキストに示されている制御フィールドのバイト長が、現在の DFSCASE ステートメントで定義されている CASEID の 16 進値の長さをサポートしていません。CASEID の 16 進値の長さは、制御フィールドのバイト長のちょうど 2 倍でなければなりません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dfldname

DFSMAP ステートメントの DEPENDINGTON パラメーターに指定されている、制御フィールドの外部名。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: 制御フィールドを定義する FIELD ステートメントの BYTES パラメーターに指定された値を変更するか、あるいは CASEID パラメーターの値を制御フィールドのバイト長の 2 倍になるように変更してください。変更を完了してから、DBD 生成ユーティリティーを再実行します。

関連タスク:

 セグメントの代替フィールド・マップの定義 (データベース管理)

関連資料:

 DFSMAP ステートメント (システム・ユーティリティー)

 DFSCASE ステートメント (システム・ユーティリティー)

FLD742 THE LENGTH OF THE CASEID PARAMETER MUST NOT BE GREATER THAN THE LENGTH OF THE DEPENDINGTON FIELD *dfldname*.

説明: メッセージ・テキストに示されている制御フィールドのバイト長が、現在の DFSCASE ステートメントで定義されている CASEID の値をサポートするには短すぎます。制御フィールドのバイト長は CASEID の長さ以上でなければなりません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dfldname

DFSMAP ステートメントの DEPENDINGTON パラメーターに指定されている、制御フィールドの外部名。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: 制御フィールドを定義する FIELD ステートメントの BYTES パラメーターに指定された値を変更するか、あるいは CASEID パラメーターの値を制御フィールドのバイト長以下になるように変更してください。変更を完了してから、DBD 生成ユーティリティーを再実行します。

関連タスク:

 セグメントの代替フィールド・マップの定義 (データベース管理)

関連資料:

 DFSMAP ステートメント (システム・ユーティリティー)

 DFSCASE ステートメント (システム・ユーティリティー)

FLD743 THE VALUE OF THE REMARKS PARAMETER CONTAINS INVALID CHARACTERS.

説明: DFSCASE ステートメントの REMARKS パラメーターに指定されたコメントに、1 つ以上の無効文字が含まれています。

REMARKS キーワードで指定される値に、以下の文字を含むことはできません。

- 単一引用符 (コメント・ストリング全体を囲むために使用されている場合を除く)。単一引用符がコメント・ストリング全体の末尾より前に入力されると、そのコメント・ストリングの残りの部分は切り捨てられます。以下の例では、REMARKS キーワードでの単一引用符の正しい使い方と誤った使い方を示します。

CORRECT

```
REMARKS='These remarks apply to the XYZ
application'
```

INCORRECT

```
REMARKS='These remarks apply to the
'XYZ' application'
```

- 二重引用符。
- より小 (<) 記号。
- より大 (>) 記号。
- アンパーサンド (&)。

システムの処置: DBDGEN は終了します。後続のステートメントの妥当性検査は継続します。

プログラマーの応答: DFSCASE ステートメントの REMARKS パラメーターに指定されたコメントから無効文字を除去し、DBDGEN ユーティリティを再実行します。

関連資料:

➡ DFSCASE ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD751 THE SPECIFIED BYTE SIZE OF A STRUCTURE OR ARRAY IS LESS THAN THE TOTAL SIZE OF ALL FIELDS THAT IT CONTAINS

説明: このフィールドを親として指定するすべてのフィールドの合計バイト・サイズが、MAXBYTES パラメーターでこのフィールドに指定されているバイト・サイズより大きくなっています。

このフィールドが DATATYPE=ARRAY によって配列として定義されている場合、MAXOCCURS パラメーターに指定した数で値を乗算すると、MAXBYTES に指定されている値は、配列フィールドを親として指定するすべてのフィールドの合計バイト・サイズより大きくなければなりません。

このフィールドが DATATYPE=STRUCT によって構成として定義されている場合、MAXBYTES に指定されている値は、構造フィールドを親として指定するすべてのフィールドの合計バイト・サイズより大きくなければなりません。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: このフィールドの MAXBYTES パラメーターに指定された値を調整するか、このフィールドを親として指定するフィールドのバイト・サイズを調整してください。変更を完了してから、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

関連概念:

➡ 生成ユーティリティに対する DBD および PSB メタデータの定義 (データベース管理)

関連資料:

➡ FIELD ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD752 THE BYTES VALUE AND THE PRECISION VALUE IN THE DECIMAL PARAMETER ARE INCONSISTENT FOR FIELD *fldname*.

説明: メッセージ・テキストで指定されているフィールドのバイト・サイズが、DATATYPE=DECIMAL(*pp,ss*) に指定されている精度 (*pp*) の値と整合していません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

fldname

エラーを含むフィールドの名前。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: このフィールドの BYTES パラメーターに指定された値を調整するか、DATATYPE=DECIMAL(*pp,ss*) に指定された精度を調整します。

関連資料:

➡ FIELD ステートメント (システム・ユーティリティ)

FLD753 THE VALUE OF START IS NOT EQUAL TO THE START FIELD OF THE REDEFINED FIELD *fldname*.

説明: 別のフィールドを再定義するフィールドの開始オフセットが、再定義中のフィールドの開始オフセットと同じではありません。両方のフィールドの開始オフセットが同じでなければなりません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

fldname

現在のフィールドによって再定義されているフィールドの名前。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: この 2 つのフィールドの開始オフセットが同じになるように開始オフセットを変更して、DBDGEN ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティー)

FLD754 THE START PARAMETER VALUE IS LESS THAN THE START PARAMETER VALUE OF THE PARENT FIELD

説明: 別のフィールドを親として指定するフィールドの開始オフセットが、親の開始オフセットより小さい開始オフセットを指定しています。子フィールドで指定されるオフセットは、親フィールドの開始オフセット以上の値でなければなりません。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: 開始オフセットを訂正して、DBDGEN ユーティリティーを再実行します。

関連資料:

 FIELD ステートメント (システム・ユーティリティー)

FLD756 THE VALUE OF THE CASEID PARAMETER IS NOT UNIQUE IN DFSMAP *dfsmapnm*

説明: 現在の DFSCASE ステートメントの CASEID 値が、同じ DFSMAP ステートメントを指定する別の DFSCASE ステートメントの CASEID 値と重複しています。

DFSCASE ステートメント ID は、同じ DFSMAP ステートメントを参照する DFSCASE ステートメントのグループ内で固有でなければなりません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dfsmapnm

重複する CASEID 値を持つ DFSCASE ステートメントの MAPNAME パラメーターに指定されている、DFSMAP ステートメントの名前。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: この DFSCASE ステートメントに固有の CASEID 値を指定して、DBD 生成ユーティリティーを再実行します。

関連タスク:

 セグメントの代替フィールド・マップの定義 (データベース管理)

関連資料:

 DFSCASE ステートメント (システム・ユーティリティー)

 DFSMAP ステートメント (システム・ユーティリティー)

FLD997 START AND BYTES OPERAND FOR EACH SEQUENCE FIELD IN A MULTI-INDEX DBD MUST EQUAL START AND BYTES OPERANDS OF EACH PREVIOUSLY DEFINED SEGMENT SEQUENCE FIELD

説明: DBD ステートメントの NAME オペランドで、複数のデータベース名が指定されました。これは、共用副次索引データベースが定義されたことを DBDGEN で示しています。共用副次索引のセグメントは、同じ物理的特性を持たなければなりません。これには、各セグメント内でのシーケンス・フィールドの位置も含まれます。

プログラマーの応答: 共用副次索引のセグメントのシーケンス・フィールドを定義する各 FIELD ステートメントが、シーケンス・フィールドを定義している他の FIELD ステートメントの START および BYTES オペランドと等しい START および BYTES オペランドを持つかどうかを確認します。

FLD999 START + BYTES - 1 EXCEEDS CONCATENATED KEY LENGTH CONCATENATED KEY LENGTH=length

説明: この索引ソース・セグメントの連結キーの一部を記述するために、/CK システム関連フィールドが指定されたが、START および BYTES オペランドに指定された値に対して、このシステム関連フィールドは、この索引ソース・セグメントの連結キーの範囲内にありません。

システムの処置: 指定されたオペランド情報は、後続の妥当性検査で使用されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

DBD 生成の LCHD メッセージ

ここでは、次のメッセージについて説明します。

LCHD100 SEGM STATEMENT MUST PRECEDE LCHILD STMT

説明: DBDGEN の入力順序では、SEGM ステートメントが LCHILD ステートメントより前になければなりません。

システムの処置: デフォルトはありません。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

LCHD110 LCHILD SPECIFICATION LIMIT EXCEEDED

説明: 許容限度である 255 を超える LCHILD ステートメントまたは論理子 SEGM ステートメントが指定されました。

システムの処置: 255 番目の LCHILD の値は、処理される他の LCHILD ステートメントによって引き続きオーバーレイされます。最終的な 255 番目の値は、最後に処理される LCHILD ステートメントの値になります。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

LCHD120 NAME OPERAND IS OMITTED OR INVALID

説明: NAME オペランドを指定しなかったか、あるいは指定されたオペランドの名前が 8 文字を超えているか、内容に無効文字が含まれています。

システムの処置: 指定された値は、妥当性検査で使用されます。オペランドが省略された場合は、ヌル値が使用されます。

プログラマーの応答: この LCHILD ステートメントの NAME オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

LCHD130 DATABASE NAME PARAMETER IS INVALID

説明: 次のいずれかが発生しました。

- NAME オペランドに入力されたデータベース名パラメーターで、内容に無効文字が含まれている。
- 入力されたデータベース名が、この LCHILD ステートメントを含むデータベースを無効に参照している。

システムの処置: 指定されたオペランド情報は、後続の妥当性検査で使用されます。

プログラマーの応答: データベース名パラメーターまたは PTR オペランド・パラメーターを訂正し、DBDGEN を再実行します。

LCHD140 POINTER OR PTR OPERAND IS INVALID

説明: 次のいずれかの問題が発生しました。

- POINTER と PTR の両方のオペランドが指定された。
- POINTER または PTR オペランドに、この DBD に定義されたアクセス方式に対応しない無効な値が含まれている。
- POINTER または PTR オペランドに、この DBD 内に記述されている現在の関係に対応しない無効な値が含まれている。
- 高速機能副次索引が DBD に定義されている場合、高速副次索引は、シンボリック・ポインター (PTR=SYMB または POINTER=SYMB) を使用して指定する必要があります。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: POINTER オペランドまたは PTR オペランドを訂正して、DBDGEN ユーティリティを再実行します。

LCHD150 PAIR OPERAND IS INVALID

説明: PAIR オペランドで指定された値が、8 文字を超えています。

システムの処置: 指定された値は、後続のパラメーターの妥当性検査で使用されます。

プログラマーの応答: PAIR オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

LCHD160 INDEX OPERAND IS INVALID

説明: 次のいずれかが発生しました。

- DBD ステートメントで ACCESS=INDEX が現れるが、LCHILD INDEX オペランドが省略されている。
- DBD ステートメントで ACCESS=INDEX が現れないが、LCHILD INDEX オペランドが指定されている。
- INDEX オペランドが PAIR オペランドと共に指定されている。
- INDEX オペランドが 8 文字を超えている。

システムの処置: LCHILD ステートメントの処理は終了します。残りのステートメントが妥当性検査のためにスキャンされます。

プログラマーの応答: INDEX オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

LCHD170 LCHILD STMT INVALID FOR LOGICAL SEGMENTS

説明: SEGM ステートメントで SOURCE オペランドが指定される場合、その SEGM に対する LCHILD ステートメントを指定できません。

システムの処置: 指定された LCHILD オペランド情報は、後続の妥当性検査で使用されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

LCHD180 A LOGICAL CHILD SEGMENT CANNOT BE A LOGICAL PARENT OR BE INDEXED.

説明: 論理親を持つセグメントが、論理子を持つことはできません。SEGM ステートメントの PARENT オペランドで論理親セグメント名が指定された場合、索引関係または論理関係に関する LCHILD ステートメントをその SEGM に指定できません。

プログラマーの応答: LCHILD ステートメントを除去するか、または論理親名を指定しないで、DBDGEN を再実行します。

LCHD190 RULES OPERAND IS INVALID; DEFAULT ASSUMED

説明: これは警告メッセージです。RULES オペランドに指定する値は、FIRST、LAST、または HERE でなければなりません。

システムの処置: 規則のデフォルト値の LAST が使用されます。

プログラマーの応答: LAST 以外の値が要求される場合は、RULES オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

LCHD200 REFERENCED LCHILD CANNOT PRECEDE LCHILD STMT

説明: この LCHILD ステートメントの NAME オペランドで指定されたセグメント名が、直前の SEGM ステートメントの NAME オペランドで指定されたセグメント名と同じであってはなりません。すなわち、セグメントは、それ自体の論理子にはなれません。

プログラマーの応答: LCHILD ステートメントの NAME オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

LCHD205 NAME OPERAND CANNOT REFERENCE THE SAME SEGMENT AS THE LCHILD STATEMENT UNDER SEGMENT *name*

説明: この LCHILD ステートメントの NAME オペランドは、参照されるセグメントの下の LCHILD ステートメントのものと同じセグメント名およびデータベースを参照することはできません。

システムの処置: 指定されたオペランド情報は、後続の妥当性検査で使用されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

LCHD210 LCHILD STATEMENT IS INVALID

説明: LCHILD ステートメントは、ACCESS=SHISAM が定義されている DBD には無効です。

システムの処置: 後続の LCHILD パラメーターは検査されません。残りの DBDGEN ステートメントが妥当性検査のためにスキャンされます。

プログラマーの応答: LCHILD ステートメントを除去するか、または DBD ステートメントの ACCESS オペランドを変更して、DBDGEN を再実行します。

LCHD215 LCHILD STATEMENT FOR PRIMARY HIDAM INDEX MUST PRECEDE ALL SECONDARY INDEX LCHILD STATEMENTS

説明: PTR=INDX を指定した HIDAM 1 次索引用の LCHILD ステートメントは、PTR=SYMB を指定したすべての副次索引用の LCHILD ステートメントより前になければなりません。

システムの処置: 指定されたオペランド情報は、後続の妥当性検査で使用されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

LCHD230 THE LCHILD STATEMENT IS INVALID FOR A DEDB SDEP SEGMENT

説明: DEDB 順次従属 (SDEP) セグメントに対して LCHILD ステートメントが指定されています。この指定は、高速機能副次索引データベースでは無効なオプションです。SDEP セグメントを高速機能副次索引のソース・セグメントまたはターゲット・セグメントとして使用することはできません。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: DBD の DEDB SDEP セグメントから LCHILD ステートメントを削除して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

LCHD240 THE NUMBER OF USER PARTITION DATABASES EXCEEDED THE 500 LIMIT

説明: LCHILD ステートメントの NAME オペランドに指定されたユーザー・データ区画グループ内の HISAM 副次索引区画データベースまたは SHISAM 副次索引データベースの数が制限値 500 を超えました。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: DEDB DBD のユーザー・データ区画グループ内の区画データベースの数を削減して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

LCHD241 A USER PARTITION GROUP CONTAINS DUPLICATE USER PARTITION DATABASES

説明: ユーザー区画グループ内のユーザー区画データベース (LCHILD ステートメントの NAME オペランドに定義されている) は固有でなければなりません。LCHILD ステートメントの NAME オペランドに指定されたユーザー区画グループ内の HISAM 副次索引区画データベースまたは SHISAM 副次索引データベースに、1 つ以上のユーザー区画データベースが含まれています。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: ユーザー区画グループ内のユーザー区画データベースの重複する名前を固有の名前に変更して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

LCHD242 THE NAME OPERANDS OF MULTIPLE SECONDARY INDEX SEGMENTS ARE DIFFERENT

説明: 複数の副次索引セグメントが定義された 1 次 DEDB データベースに、矛盾するプロパティが含まれています。複数の副次索引セグメントの LCHILD ステートメントにある NAME オペランドが異なります。HISAM または SHISAM ユーザー・データ区画が要求された場合、ユーザー区画データベース名またはユーザー区画データベースの順序が異なります。NAME オペランドには、複数の副次索引セグメントに対して、同じターゲット・セグメント名および同じ副次索引データベ

ース名を指定する必要があります。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答:

1. NAME オペランドを訂正して、複数の副次索引セグメントに対して同じターゲット・セグメント名および同じ副次索引データベース名を指定してください。HISAM または SHISAM ユーザー・データ区画が要求される場合は、NAME オペランドを訂正して、複数の副次索引セグメントに対して同じターゲット・セグメント名、同じユーザー区画データベース名、および同じ順序のユーザー区画データベース名を指定してください。
2. DBDGEN ユーティリティを再実行します。

LCHD243 THE PAIR OPERAND IS INVALID FOR A FAST PATH SECONDARY INDEX DATABASE

説明: LCHILD ステートメントの PAIR オペランドが論理関係に使用されていますが、それは 1 次 DEDB DBD の高速機能副次索引データベースでは無効です。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: LCHILD ステートメントの PAIR オペランドを除去して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

LCHD244 THE RULES OPERAND IS INVALID FOR A FAST PATH SECONDARY INDEX DATABASE

説明: LCHILD ステートメントの RULES オペランドが論理関係に使用されていますが、それは 1 次 DEDB データベース DBD の高速機能副次索引データベースでは無効です。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: LCHILD ステートメントの RULES オペランドを除去して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

LCHD245 THE MULTISEG OPERAND IS ONLY VALID FOR A DEDB

説明: MULTISEG オペランドが有効なのは高速処理データベース (DEDB) の LCHILD ステートメントでのみですが、DEDB 以外のデータベースに対して指定されました。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: LCHILD ステートメントの MULTISEG オペランドを除去して、DBDGEN ユーティリティーを再実行します。

LCHD246 THE MULTISEG OPERAND MUST BE MULTISEG=YES OR MULTISEG=NO

説明: MULTISEG= オペランドに指定された値が無効です。MULTISEG オペランドは、高速処理データベース (DEDB) の LCHILD ステートメントでのみ使用することができます。MULTISEG= オペランドには、次の指定を行うことができます。

- MULTISEG=NO はデフォルトであり、LCHILD および XDFLD ステートメントのセットが複数の副次索引セグメント・グループに属していないことを示します。
- MULTISEG=YES は、LCHILD および XDFLD ステートメントのセットが複数の副次索引セグメント・グループに属していることを示します。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: LCHILD ステートメントの MULTISEG オペランドを MULTISEG=YES または MULTISEG=NO に変更して、DBDGEN ユーティリティーを再実行します。

DBD 生成の SEGM メッセージ 100 から 480

ここでは、次のメッセージについて説明します。

SEGM100 PRIOR DATASET/AREA STATEMENT IS MISSING OR INVALID

説明: 作成中のデータベース・タイプに必要な DATASET/AREA ステートメントが、前に指定されていませんでした。あるいは、LOGICAL DATASET ステートメントが指定されたが、これは LOGICAL データベースではありません。

システムの処置: DATASET/AREA パラメーターは想定されていません。後続の検査で、予測不能な結果が発生する可能性があります。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

SEGM105 *multisegment* SHSAM DATA BASE SHOULD SPECIFY ACCESS=HSAM IN ITS DBD

説明: DBD ステートメントで ACCESS=SHSAM が指

LCHD300 LCHILD STMT IS INVALID FOR *access* DBDS

説明: LCHILD ステートメントが、無効なデータベース・タイプに対して指定されました。

システムの処置: DBDGEN は、LCHILD ステートメントで指定されたオペランドをすべて無視し、残りのステートメントの処理を継続します。

プログラマーの応答: DBDGEN 入力ストリームから LCHILD ステートメントを除去するか、または DL/I データベース編成を変更して、DBDGEN を再実行します。

LCHD320 RKSIZE NOT VALID

説明: RKSIZE オペランドが、ACCESS=PSINDEX のデータベースで定義されなかったか、または ACCESS=PSINDEX 以外のデータベース編成で定義されなかったかのいずれかです。

システムの処置: DBDGEN は終了します。後続のステートメントの妥当性検査は継続します。

プログラマーの応答: RKSIZE オペランドを除去するか、または ACCESS パラメーターを変更して使用可能な編成のいずれかにします。

定されたが、複数の SEGM ステートメントが指定されました。

システムの処置: この複数セグメントの SHSAM データベースは HSAM データベースのように取り扱われません。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

SEGM110 SEGM SPECIFICATION LIMIT EXCEEDED

説明: 次のいずれかが発生しました。

- 255 を超える SEGM ステートメントが指定された。
- DBD ステートメントで ACCESS=SHISAM が指定されたが、複数の SEGM ステートメントが指定されている。

- DBD ステートメントで ACCESS=HISAM が指定され、DATASET ステートメントで OVFLW オペランドが指定されなかったが、複数の SEGM ステートメントが指定されている。
- DBD ステートメントで ACCESS=INDEX が指定されたが、DBD ステートメントの NAME オペランドで指定されたデータベース名の数より多くの SEGM ステートメントが指定されている。
- DBD ステートメントで ACCESS=MSDB または ACCESS=DEDB が指定されたが、MSDB に対して複数の SEGM ステートメントが指定されているか、または DEDB に対して 3 つ以上の SEGM ステートメントが指定されている。

システムの処置: この SEGM ステートメントの情報が、前の SEGM ステートメントをオーバーレイすることがあります。後続の妥当性検査で、予測不能な結果が発生する可能性があります。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

SEGM120 NAME OPERAND IS OMITTED OR INVALID

説明: NAME オペランドが必要で、その値は 1 から 8 文字の英数字、#、@、または \$ でなければなりません。

システムの処置: 指定された名前は、妥当性検査で使用されます。省略された場合は、ヌル値が挿入されます。

プログラマーの応答: NAME オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

SEGM130 POSITIONAL PARAMETERS ARE INVALID FOR SEGM

説明: キーワードのみが受け入れられるマクロで、定位置パラメーターがコーディングされました。等号または括弧記号が欠落しているか、またはキーパンチ・エラーがありました。

システムの処置: 展開の前に DBDGEN を終了します。

プログラマーの応答: 定位置パラメーターを除去して、DBDGEN を再実行します。

SEGM140 SEGMENT NAME IS A DUPLICATE NAME

説明: NAME オペランドで指定された値が、この DBDGEN の別の SEGM ステートメントで指定された値と重複しています。これは認められません。

システムの処置: この名前が、指定されるたびに妥当性検査に使用されます。

プログラマーの応答: セグメント名を変更し、DBDGEN を再実行します。

SEGM150 PHYSICAL PARENT PARAMETER IS OMITTED OR INVALID

説明: 次のいずれかが発生しました。

- このオペランドの構文に有効な数より多くのパラメーターが指定された。
- SNGL/DBLE オプションが、ルート・セグメント、あるいは INDEX または DEDB データベースのセグメントに指定された。あるいは、従属セグメントに対する SNGL/DBLE オプションの指定に誤りがあった。
- ルート・セグメントに対する PARENT オペランドが指定されたが、PARENT=0 として指定された。

システムの処置: 指定された値は、後続の妥当性検査で使用されます。省略された場合は、ヌル値と見なされません。

プログラマーの応答: PARENT オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

SEGM160 PHYSICAL PARENT PARAMETER IS INVALID

説明: 物理親名が省略されたか、または従属セグメントに対して 0 が指定されました。

システムの処置: 指定された値は、後続の妥当性検査で使用されます。省略された場合は、ヌル値と見なされません。

プログラマーの応答: PARENT オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

SEGM170 SEGMENT PHYSICAL PARENT IS NOT DEFINED

説明: PARENT オペランドで指定されたセグメント名が、前の SEGM ステートメントの NAME オペランドで定義されていません。

システムの処置: 指定された名前は、妥当性検査で使用されます。

プログラマーの応答: PARENT オペランドを訂正して、有効な親セグメントを指定するようにし、DBDGEN を再実行します。

SEGM180 IF SOURCE SEGMENT OPERAND IS SPECIFIED, ALL OTHER OPERANDS ARE INVALID EXCEPT THE SEGMENT NAME, PARENT NAME, AND PTR=PAIRED (FOR VIRTUAL LOGICAL CHILDREN) PARAMETERS

説明: (メッセージで説明されたとおりです)

システムの処置: SEGM ステートメントの処理は終了します。残りの DBDGEN ステートメントが妥当性検査のために処理されます。DBDGEN は、DBDGEN マクロの展開前に終了します。

プログラマーの応答: 無効なオペランドを除去して、DBDGEN を再実行します。

SEGM190 LOGICAL PARENT PARAMETER IS INVALID

説明: 次のいずれかが発生しました。

- PARENT オペランドの論理親名が省略された。
- 2 番目のサブパラメーターに、VIRTUAL、V、PHYSICAL、または P 以外の値が指定された。
- 論理親が、ルート・セグメント、あるいは INDEX または DEDB データベースのセグメントに指定された。

システムの処置: 指定されたオペランド情報は、後続の妥当性検査で使用されます。

プログラマーの応答: 論理親パラメーターを訂正し、DBDGEN を再実行します。

SEGM195 VIRTUAL DEFAULTED TO PHYSICAL FOR ACCESS=

説明: これは、HALDB では PHYSICAL のみがサポートされることを示す通知メッセージです。

システムの処置: VIRTUAL は無視され、PHYSICAL が使用されます。

プログラマーの応答: 応答は必要ありません。VIRTUAL 指定を PHYSICAL に変更することによって、DBDGEN 出力からこのメッセージを除去できます。

SEGM200 LOGICAL PARENT DBNAME IS INVALID-name

説明: 入力された論理親データベース名が、英字で始まっていないか、または 8 文字を超えています。

システムの処置: 入力された名前が使用されます。

プログラマーの応答: PARENT オペランドの論理親データベース名を訂正し、DBDGEN を再実行します。

SEGM210 BYTES OPERAND IS OMITTED OR INVALID

説明: 次のいずれかが発生しました。

- BYTES オペランドが省略されたか、3 つ以上のパラメーターが指定されたか、またはパラメーター値が自己定義でない。
- 最大バイト値が 32767 を超えている。
- 最小バイト値が、最大バイト値を超えているか、あるいは SHISAM または INDEX データベース、または VSAM 以外のデータベースに対して指定されている。
- DBD ステートメントで ACCESS=MSDB が指定された場合に、最小バイト値が指定されたか、または最大バイト値のみが指定されたが、4 の倍数の符号なし 10 進数ではない。
- DBD ステートメントで ACCESS=DEDB が指定された場合に、最小バイト値と最大バイト値の両方が指定されなかったか、または最小バイト値が 4 より小さい。
- DBD ステートメントで ACCESS=DEDB が指定された場合に、指定された BYTES= 値が 4 より小さい。

システムの処置: 指定されたオペランド情報が、後続の妥当性検査で使用されるか、または値ゼロが想定されません。

プログラマーの応答: BYTES オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

SEGM211 BYTES OPERAND FOR MULTI-INDEX DBDGENS MUST BE EQUAL ON ALL SEGM STATEMENTS

説明: 異なる長さのセグメントを持つ共用副次索引データベースが指定されました。

システムの処置: 指定されたオペランド情報は、後続の妥当性検査で使用されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

SEGM220 FREQ OPERAND IS INVALID

説明: FREQ オペランドは、0.01 から (2²⁴ -1) の範囲の符号なし 10 進数でなければなりません。

システムの処置: オペランドが省略された場合、デフォルトは想定されていません。

プログラマーの応答: FREQ オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

SEGM240 ptrparm CHANGED TO TWINBWD FOR access

説明: これは、PHDAM または PHIDAM の場合に、SEGM ステートメントで POINTER=(HIER または HIERBWD が指定されたときに生成される通知メッセージです。HALDB では、階層ポインティングは無効です。

システムの処置: POINTER=(TWINBWD,...) が使用されます。

プログラマーの応答: 応答は必要ありません。ポインター指定を TWIN、TWINBWD、または NOTWIN に変更することによって、DBDGEN 出力からこのメッセージを除去できます。

SEGM250 POINTER AND PTR OPERANDS ARE EXCLUSIVE

説明: PTR は POINTER オペランドの省略形であり、このオペランドは各 SEGM ステートメントで 1 回しか指定できません。

システムの処置: SEGM ステートメントの後続のスキャンは終了します。残りの DBDGEN ステートメントが妥当性検査のためにスキャンされます。DBDGEN は、DBDGEN マクロの展開前に終了します。

プログラマーの応答: PTR または POINTER を指定し、DBDGEN を再実行します。

SEGM260 SEGMENT SIZE EXCEEDS SPECIFIED BLOCK SIZE

説明: SEGM ステートメントの BYTES オペランドで指定された長さが、DATASET ステートメントの BLOCK/SIZE オペランドで指定された長さを超えています。

システムの処置: BYTES オペランドで指定された値は、妥当性検査で使用されます。

プログラマーの応答: BYTES オペランドで指定された長さを削減し、DBDGEN を再実行します。

SEGM270 POINTER OR PTR OPERAND CONTAINS INVALID OR CONFLICTING KEYWORD VALUES

説明: (メッセージで説明されたとおりです)

システムの処置: PTR オペランドのスキャンは、エラーが検出された時点で終了します。

プログラマーの応答: POINTER オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

SEGM280 RULES OPERAND IS INVALID

説明: 次のいずれかが発生しました。

- この SEGM ステートメントで複数の RULES オペランドが指定された。
- 最初のパラメーターの値が P、L、V、または B ではなかった。
- 最初のパラメーターに 4 文字以上が含まれている。
- 2 番目のパラメーターの値が FIRST、LAST、または HERE ではなかった。

システムの処置: RULES オペランドのスキャンは、エラーが検出された時点で終了します。

プログラマーの応答: RULES オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

SEGM285 POINTER OPTIONS PTR=LT/LTB/LPARNT REQUIRE THAT THE SEGMENT BE A LOGICAL CHILD

説明: (メッセージで説明されたとおりです)

システムの処置: 指定されたオペランド情報は、後続の妥当性検査で使用されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。既存ベースの DBD についてこのエラーを訂正する場合、新しい DBD でのこのセグメントの接頭部の記述が、古い DBD での記述と異なる場合がありますので、注意してください。その結果、既存のデータベースに対して新しい DBD を使用しても無効になる可能性があります。

SEGM290 SEGMENT LENGTH IS GREATER THAN SPECIFIED RECORD LENGTH PLUS ROOT SEGMENT KEY

説明: SEGM ステートメントの BYTES オペランドで指定された長さが、DATASET ステートメントの RECORD オペランドで指定された長さを超えています。

プログラマーの応答: エラーのオペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

SEGM300 SOURCE SEGMENT IS INVALID FOR INDEX DBD'S

説明: SOURCE オペランドが索引データベースの索引セグメントに対して指定されたか、または SOURCE オペランドで 3 つ以上のセグメントが指定されました。

プログラマーの応答: SOURCE オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

SEGM302 SOURCE OPERAND IS INVALID FOR *access* DBDS

説明: SOURCE オペランドが、このオペランドの指定ができないデータベース・タイプに対して指定されました。

システムの処置: ユーザー指定の SOURCE オペランド情報は、後続の妥当性検査で使用されます。後続の妥当性検査で、予測不能な結果が発生する可能性があります。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

SEGM305 EXCESSIVE SUBLISTS SPECIFIED IN SOURCE= OPERAND; SYNTAX: SOURCE=((...)) OR SOURCE=((...),(...))

説明: SOURCE オペランドは、2 つまでのソース・セグメントを記述するために、最大 2 つのサブリストを持ちます。3 つ以上のサブリストが指定されたか、または DL/I 編成が LOGICAL 以外の場合に 2 番目のサブリストが指定されました。仮想論理子を定義する場合は、1 つのサブリストしか指定できません。

システムの処置: ユーザーによって指定された SOURCE オペランド情報は、後続の妥当性検査で使用されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

SEGM310 SOURCE OPERAND MUST BE SPECIFIED FOR A LOGICAL DBD

説明: DBD ステートメントで ACCESS=LOGICAL が指定されたが、この SEGM ステートメントに SOURCE オペランドが指定されませんでした。

システムの処置: デフォルトは想定されていません。後続の妥当性検査で、予測不能な結果が発生する可能性があります。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

SEGM315 THE PARENT OF THIS SEGMENT CANNOT BE A LOGICAL SEGMENT

説明: このセグメントの親は、仮想論理子セグメントです。仮想論理子セグメントが子を持つことはできません。

システムの処置: 指定されたオペランド情報は、後続の妥当性検査で使用されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

SEGM320 HIERARCHY SEQUENCE ERROR

説明: 現在のセグメントの指定された PARENT オペランドが、階層シーケンスに違反しています。セグメント・レベルの最大数を越えた可能性があります。

システムの処置: 指定された PARENT オペランドは、エラーであるか、階層シーケンスの誤りのために無視されます。後続の妥当性検査で、予測不能な結果が発生する可能性があります。

プログラマーの応答: PARENT オペランドにエラーがないかどうか調べ、階層シーケンスを訂正し、DBDGEN を再実行します。

SEGM330 SEGMENT *name* LENGTH PLUS PREFIX-*n* IS GREATER THAN SPECIFIED RECORD LENGTH

説明: SEGM BYTES オペランドで指定された長さにセグメント接頭部の長さを加えたものが、DATASET ステートメントの RECORD オペランドに指定されたレコード長より大きな値です。

システムの処置: 指定されたオペランド情報は、後続の妥当性検査で使用されます。

プログラマーの応答: エラーのある長さを訂正し、DBDGEN を再実行します。

SEGM340 SEGMENT *name* LENGTH PLUS PREFIX-*n* EXCEEDS SPECIFIED BLOCK/CI SIZE

説明: SEGM BYTES オペランドで指定された長さにセグメント接頭部の長さを加えたものが、DATASET ステートメントの BLOCK/SIZE オペランドに指定されたブロック/CI サイズより大きな値です。

システムの処置: 指定されたオペランド情報は、後続の妥当性検査で使用されます。

プログラマーの応答: エラーのある長さを訂正し、DBDGEN を再実行します。

SEGM350 SEGMENT (*name*) SIZE EXCEEDS {TRACK LENGTH|CI SIZE}. SEGMENT SIZE=*n* {TRACK LENGTH=*n*| MAXIMUM CI SIZE=32256}

説明: BYTES オペランドで指定された長さは、32K バイト、DATASET ステートメントの DEVICE/MODEL オペランドで指定された装置のトラック長、または

VSAM データ・セットの最大制御インターバル・サイズの中で最も小さい値を超えてはなりません。

プログラマーの応答: BYTES オペランドで指定された長さを削減し、DBDGEN を再実行します。

SEGM351 **SEGMENT (name) SIZE EXCEEDS
MAXIMUM CI SIZE MINUS VSAM
OVERHEAD. SEGMENT SIZE=*n*
MAXIMUM ALLOWED=30713**

説明: SEGM BYTES オペランドで指定された長さにセグメント接頭部の長さを加えたものが、VSAM データ・セットの最大使用可能制御インターバル・サイズである 30720 から 7 を引いた長さを超えています。

システムの処置: 指定されたオペランド情報は、後続の妥当性検査で使用されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

SEGM352 **SEGMENT (name) SIZE EXCEEDS
MAXIMUM BLOCK ALLOWED.
SEGMENT SIZE=*n* MAXIMUM
BLOCK=*m***

説明: SEGM BYTES オペランドで指定された長さにセグメント接頭部の長さを加えたものが、DATASET ステートメントの DEVICE/MODEL オペランドで指定された装置のトラック上の最大 (キー付きまたはキーなし) ブロックを超えています。

システムの処置: 指定されたオペランド情報は、後続の妥当性検査で使用されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

SEGM354 **SEGMENT (name) SIZE EXCEEDS
LIMIT. SEGMENT SIZE=*n*
MAXIMUM LIMIT=*m***

説明: MSDB に対する BYTES オペランドで指定された長さが、最大許容値を超えています。

システムの処置: 指定されたオペランド情報は、後続の妥当性検査で使用されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

SEGM360 **PHYSICAL PARENT MUST RESIDE
IN THE SAME DATA SET GROUP
AS ITS PHYSICAL CHILDREN**

説明: 物理親がルート・セグメントある (HISAM デー

タベース) か、または物理親が SEGM ステートメントの POINTER オペランドで HIER ポインティングを指定していない (HDAM または HIDAM データベース) 場合を除いて、この物理子セグメントは、その物理親と別のデータ・セット・グループには存在できません。

システムの処置: 指定されたオペランド情報は、後続の妥当性検査で使用されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

SEGM380 **CHILD MUST CONTAIN SAME
NUMBER OF PHYSICAL TWIN
POINTER AS ITS PARENT**

説明: 親セグメントに POINTER=HIER を指定した場合、子セグメントには POINTER=HIER または POINTER=TWIN を指定する必要があります。親セグメントに POINTER=HIERBWD を指定した場合、子セグメントには POINTER=HIERBWD または POINTER=TWINBWD を指定する必要があります。

システムの処置: 指定されたオペランド情報は、後続の妥当性検査で使用されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

SEGM400 **{SNGL|DBLE} PTR FROM
HIERARCHICAL PARENT IS
IGNORED**

説明: 親セグメントに PTR=HIER または PTR=HIERBWD を指定した場合、子セグメントの SEGM ステートメントは PARENT オペランドで SNGL または DBLE を指定できません。

SEGM410 **INVALID OR INCOMPLETE
SEGMENT PAIRING**

説明: SEGM ステートメントの PTR オペランドに PAIRED が指定されています。次のいずれかが発生しました。

- その親が、LCHILD の PAIR オペランドに、そのセグメントを指定する LCHILD ステートメントを持っていない。
- 親セグメントが、関連する LCHILD ステートメントを持っていない。
- そのセグメントがルート・セグメントである。

システムの処置: デフォルトは想定されていません。使用可能なオペランド情報が、後続の妥当性検査で使用されます。

SEGM415 • SEGM450

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

SEGM415 SEGM SOURCE= OPERAND MUST SPECIFY SAME NAME AS PAIRED LCHILD NAME= OPERAND

説明: この SEGM ステートメントの SOURCE オペランドの論理子名は、対になっている LCHILD NAME オペランドと同じセグメント名およびデータベースを指定する必要があります。

システムの処置: 指定されたオペランド情報は、後続の妥当性検査で使用されます。

プログラマーの応答: オペランドの誤った名前値を訂正し、DBDGEN を再実行します。

SEGM420 LCHILD STMT-name-MUST [NOT] SPECIFY POINTERS WHEN PAIRED WITH A {PHYSICAL|LOGICAL} SEGMENT

説明: 次の条件が、仮想論理子と対になっている LCHILD ステートメントに適用されます。

- POINTER=SNGL または POINTER=DBLE が指定されなければならない。
- 対セグメントが SOURCE オペランドを指定する。
- POINTER が指定されない場合、SNGL がデフォルトである。

次の条件が、実論理子と対になっている LCHILD ステートメントに適用されます。

- POINTER=NONE が指定されなければならない。
- 対セグメントが SOURCE オペランドを指定しない。
- POINTER が指定されない場合、NONE がデフォルトである。

システムの処置: 対セグメントに SOURCE オペランドが指定された場合、SNGL が想定されます。それ以外の場合、制御ステートメントで指定されたオペランド情報は、後続の妥当性検査で使用されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。既存データベースの DBD についてこのエラーを訂正する場合、新しい DBD での論理親の接頭部が、古い DBD のものと同じであるかどうかを確認します。特に、エラーのある LCHILD ステートメントが PTR=NONE を指定したか、または PTR オペランドを省略した場合、カウンター・フィールド (CTR) が、暗黙的に古い DBD の論理親の接頭部に入れられることに注意してください。

SEGM430 PTR/POINTER OPERAND IS INVALID

説明: ACCESS オペランドに HSAM、SHSAM、または SHISAM が指定されている DBD では、SEGM ステートメントで POINTER/PTR オペランドを指定することはできません。

システムの処置: SEGM ステートメントのこれ以上のスキャンを終了させます。

プログラマーの応答: PTR/POINTER オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

SEGM440 COMPRTN OPERAND IS INVALID

説明: 次のいずれかが発生しました。

- このオペランドが、論理関係にある従属セグメントに対して指定された。
- このオペランドが、システム・アクセス方式が VSAM 以外のときに指定された。
- このオペランドが、ACCESS=INDEX または ACCESS=SHISAM が定義された DBD に対して指定された。
- KEY パラメーターは、ACCESS=DEDB の場合には無効である。
- KEY 圧縮が、HISAM DBD のルート・セグメントに対して指定された。
- 4 つ以上のパラメーターが指定された。
- 最初のパラメーターの内容に無効文字が含まれている。
- 2 番目のパラメーターが指定されたが、KEY または DATA が指定されていない。
- 3 番目のパラメーターが指定されたが、INIT が指定されていない。

システムの処置: COMPRTN のスキャンは、エラーが検出された時点で終了します。

プログラマーの応答: COMPRTN オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

SEGM450 SEGMENT NAME IS INVALID FOR COMPRESSION

説明: 内部的に使用される DBD ラベルのいずれかと重複するセグメント名が指定されました。

システムの処置: 指定されたオペランド情報は、後続の妥当性検査で使用されます。

プログラマーの応答: セグメント名を変更し、DBDGEN を再実行します。

SEGM460 INDEX SOURCE SEGMENT IS A LOGICAL SEGMENT. REFERENCE XDFLD STATEMENT NAME-name

説明: 上記に示された XDFLD ステートメントが、索引ソース・セグメントとして、この論理子セグメントを指定しました。これは無効です。

システムの処置: 指定されたオペランド情報は、後続の妥当性検査で使用されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

SEGM470 SEGM STMT IS NOT APPLICABLE TO GSAM.

説明: ACCESS=GSAM を指定した DBDGEN では、SEGM 制御ステートメントは使用できません。

システムの処置: DBDGEN は、制御ステートメント・エラーのために、終了します。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

SEGM475 PHYSICAL PARENT OF THIS LOGICAL CHILD CANNOT ALSO BE A LOGICAL CHILD.

説明: 論理子セグメントが、論理子セグメントでもある

物理親を持っています。これは許可されません。

システムの処置: 指定されたオペランド情報は、後続の妥当性検査で使用されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

SEGM480 WARNING: THIS LOGICAL CHILD SEGMENT HAS A NON-VIRTUAL DELETE RULE. THIS MAY CAUSE DL/I DELETE PROCESSING TO ORPHAN LOGICAL CHILDREN THAT EXIST HIERARCHICALLY ABOVE THIS SEGMENT.

説明: これは警告メッセージです。DL/I 削除規則の使用の説明については、『論理関係に関する挿入、削除、および置き換え』のトピックを参照してください。

システムの処置: 警告メッセージを出力して、DBDGEN は継続します。

プログラマーの応答: セグメントの論理関係を復元しない場合は、削除規則を仮想に変更し、ジョブを再実行します。

関連概念:

 論理関係の挿入規則、削除規則、および置き換え規則 (データベース管理)

DBD 生成の SEGM メッセージ 500 から 840

ここでは、次のメッセージについて説明します。

SEGM500 INVALID KEYWORD PARAMETERS SPECIFIED FOR ACCESS={MSDB|DEDB}

説明: 次のいずれかが発生しました。

- ACCESS=MSDB の場合に、SEGM ステートメントで無効なオペランドが指定された。このステートメントに有効なオペランドは、NAME および BYTES です。
- ACCESS=DEDB の場合に、SEGM ステートメントで無効なオペランドが指定された。このステートメントに有効なオペランドは、NAME、PARENT、BYTES および TYPE です。
- COMPRTN オペランドは、ACCESS=MSDB の場合には無効です。

システムの処置: システムは、SEGM ステートメントのパラメーターおよび残りのステートメントの処理を継続します。

プログラマーの応答: SEGM ステートメントから無効

なオペランドを除去し、DBDGEN を再実行します。

SEGM510 TYPE OPERAND IS INVALID.

説明: TYPE= オペランドが、無効な値を含むか、または不適切に指定されました。このオペランドの有効な値は、SEQ です。

システムの処置: システムは、SEGM ステートメントのパラメーターおよび残りのステートメントの処理を継続します。

プログラマーの応答: TYPE オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

SEGM520 SEGM SIZE EXCEEDS SPECIFIED CI SIZE. SEGM SIZE=nnn CI SIZE-120=nnn

説明: BYTES オペランドの最初のパラメーターに指定された長さが、AREA ステートメントの SIZE オペラ

SEGM530 • SEGM603

ンドに指定された長さから 120 を引いた値を超えています。

システムの処置: システムは、SEGM ステートメントのパラメーターおよび残りのステートメントの処理を継続します。

プログラマーの応答: BYTES オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

SEGM530 INVALID SEGM LEVEL SPECIFIED FOR DEDB DBDS. THE LEVEL LIMIT IS 2.

説明: DEDB DBD の場合に、SEGM ステートメントで、無効なセグメント階層構造が指定されました。

システムの処置: システムは、残りのステートメントの処理を継続します。

プログラマーの応答: PARENT オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

SEGM540 SUBSET POINTER IS NOT SUPPORTED

説明: 次のいずれかが発生しました。

- DEDB 以外のデータベースに対して、SSPTR オペランドが指定された。
- セグメントが、ルート・セグメントまたは順次従属セグメントである。
- SSPTR オペランドに指定された値が、0 から 8 の範囲ではない。

システムの処置: 指定されたオペランド情報は、後続の妥当性検査で使用されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

SEGM600 THE VALUE SPECIFIED ON THE ENCODING PARAMETER EXCEEDS 25 CHARACTERS

説明: SEGM ステートメントの ENCODING パラメーターに指定された値が、最大長の 25 文字を超えています。

システムの処置: DBDGEN は終了します。後続のステートメントの妥当性検査は継続します。

プログラマーの応答: ENCODING パラメーターの値を訂正して、DBDGEN を再実行します。

関連資料:

 SEGM ステートメント (システム・ユーティリティー)

SEGM601 THE VALUE OF THE EXTERNALNAME PARAMETER CONTAINS INVALID CHARACTERS

説明: EXTERNALNAME パラメーターに指定された値に、サポートされていない文字が含まれています。外部名は大文字の英数字の文字ストリングとして指定する必要があります。外部名には下線文字を含めることができません。

システムの処置: DBDGEN は終了します。後続のステートメントの妥当性検査は継続します。

プログラマーの応答: EXTERNALNAME キーワードを訂正し、DBDGEN を再実行します。

関連資料:

 SEGM ステートメント (システム・ユーティリティー)

SEGM602 THE VALUE SPECIFIED ON THE EXTERNALNAME PARAMETER EXCEEDS 128 CHARACTERS

説明: SEGM ステートメントの EXTERNALNAME パラメーターに指定された値が、最大長の 128 文字を超えています。

システムの処置: DBDGEN は終了します。後続のステートメントの妥当性検査は継続します。

プログラマーの応答: EXTERNALNAME パラメーターに指定された値を短くして、DBDGEN を再実行します。

関連資料:

 SEGM ステートメント (システム・ユーティリティー)

SEGM603 NEITHER NAME NOR EXTERNALNAME ARE SPECIFIED

説明: SEGM ステートメントに、NAME パラメーターも EXTERNALNAME パラメーターも指定されていません。SEGM ステートメントには、NAME パラメーターまたは EXTERNALNAME パラメーター (あるいはその両方) を指定する必要があります。

システムの処置: DBDGEN は終了します。後続のステートメントの妥当性検査は継続します。

プログラマーの応答: SEGM ステートメントに NAME パラメーターまたは EXTERNALNAME パラメーターを指定して、DBDGEN を再実行します。

関連資料:

➡ SEGM ステートメント (システム・ユーティリティー)

SEGM604 THE VALUE OF THE EXTERNALNAME PARAMETER IS NOT UNIQUE

説明: EXTERNALNAME パラメーターに指定された値が、データベース定義内で固有ではありません。

システムの処置: DBDGEN は終了します。後続のステートメントの妥当性検査は継続します。

プログラマーの応答: EXTERNALNAME パラメーターに固有値を指定して、DBDGEN を再実行します。

関連資料:

➡ SEGM ステートメント (システム・ユーティリティー)

SEGM605 THE VALUE OF THE EXTERNALNAME PARAMETER CANNOT BEGIN WITH "DFS"

説明: 外部名を文字 DFS で始めることはできません。DFS で始まる値は、IMS によって予約されています。

システムの処置: DBDGEN は終了します。後続のステートメントの妥当性検査は継続します。

プログラマーの応答: EXTERNALNAME パラメーターの値を、DFS で始まらないように変更して、DBDGEN を再実行します。

関連資料:

➡ SEGM ステートメント (システム・ユーティリティー)

SEGM607 THE VALUE OF EXTERNALNAME CANNOT BE THE RESERVED SQL KEYWORD: *sqlkeyword*.

説明: EXTERNALNAME パラメーターに指定された値は予約済みの SQL キーワードであり、外部名として使用することはできません。

システムの処置: DBDGEN は終了します。後続のステートメントの妥当性検査は継続します。

プログラマーの応答: EXTERNALNAME パラメーターに別の外部名を定義して、DBDGEN を再実行します。

関連資料:

➡ SEGM ステートメント (システム・ユーティリティー)

➡ IMS JDBC ドライバーにより制限されるポータブル SQL キーワード (アプリケーション・プログラミング)

SEGM608 THE VALUE SPECIFIED ON THE REMARKS PARAMETER EXCEEDS 256 CHARACTERS.

説明: SEGM ステートメントの REMARKS パラメーターに指定された値が、最大長の 256 文字を超えています。

システムの処置: DBDGEN は終了します。後続のステートメントの妥当性検査は継続します。

プログラマーの応答: REMARKS パラメーターのコメントを短くして、DBDGEN を再実行します。

関連資料:

➡ SEGM ステートメント (システム・ユーティリティー)

SEGM610 THE VALUE OF THE REMARKS PARAMETER CONTAINS INVALID CHARACTERS.

説明: SEGM ステートメントの REMARKS パラメーターに指定されたコメントに、1 つ以上の無効文字が含まれています。

REMARKS キーワードで指定される値に、以下の文字を含むことはできません。

- 単一引用符 (コメント・ストリング全体を囲むために使用されている場合を除く)。単一引用符がコメント・ストリング全体の末尾より前に入力されると、そのコメント・ストリングの残りの部分は切り捨てられます。以下の例では、REMARKS キーワードでの単一引用符の正しい使い方と誤った使い方を示します。

CORRECT

```
REMARKS='These remarks apply to the XYZ application'
```

INCORRECT

```
REMARKS='These remarks apply to the 'XYZ' application'
```

- 二重引用符。
- より小 (<) 記号。
- より大 (>) 記号。
- アンパーサンド (&).

システムの処置: DBDGEN は終了します。後続のステートメントの妥当性検査は継続します。

プログラマーの応答: SEGM ステートメントの

SEGM611 • SEGM765

REMARKS パラメーターに指定されたコメントから無効文字を除去し、DBDGEN ユーティリティを再実行します。

関連資料:

➡ SEGM ステートメント (システム・ユーティリティ)

SEGM611 THE VALUE OF THE ENCODING PARAMETER CONTAINS INVALID CHARACTERS

説明: SEGM ステートメントの ENCODING パラメーターに指定された値に、以下の無効文字が 1 つ以上含まれています。

- 単一および二重引用符
- ブランク
- より小 (<) およびより大 (>) 記号
- アンパーサンド (&)

システムの処置: DBDGEN は終了します。後続のステートメントの妥当性検査は継続します。

プログラマーの応答: ENCODING パラメーターから無効文字を除去し、DBDGEN ユーティリティを再実行します。

関連資料:

➡ DBD ステートメント (システム・ユーティリティ)

SEGM700 xxxxxxxx IGNORED FOR EXIT yyyyyyyy BECAUSE zzzzzzzz ALREADY SPECIFIED

説明: SEGM ステートメントで、出口 yyyyyyyy に対して出口オプション xxxxxxxx が検出されましたが、zzzzzzzz オプションと矛盾するため、このオプションは無視されます。zzzzzzzz オプションが使用されます。

システムの処置: RC=4 で処理は続行されます。

プログラマーの応答: SEGM ステートメントの EXIT 指定を訂正します。

問題判別: 2、3、8、および 18

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

SEGM750 EXIT NOT SUPPORTED FOR DB ORGANIZATION. HDAM, HIDAM, DEDB, HISAM, OR SHISAM DATA BASE ORGANIZATION IS REQUIRED

説明: DBD ステートメントで、EXIT= パラメーターが検出されましたが、これは当該データベース編成ではサポートされていません。

システムの処置: 処理は終了し、RC=8 が示されます。

プログラマーの応答: SEGM ステートメントの EXIT 指定を訂正します。

問題判別: 2、3、8、および 18

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

SEGM755 EXIT NAME xxxxxx IS INVALID

説明: SEGM ステートメントの EXIT= パラメーターで、出口名 xxxxxxxx が検出されましたが、この名前は有効なモジュール名ではありません。出口名の長さが 8 バイトを超えているか、または先頭文字が英字以外です。

システムの処置: 処理は終了し、RC=8 が示されます。

プログラマーの応答: SEGM ステートメントの EXIT 指定を訂正します。

問題判別: 2、3、8、および 18

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

SEGM760 xxxxxxxx EXIT OPTION SPECIFIED FOR EXIT yyyyyyyy IS NOT A VALID OPTION. KEY, NOKEY, DATA, NODATA, PATH, NOPATH, FLD, NOFLD, INPOS, NOINPOS, SSPCMD, NOSSPCMD, BEFORE, NOBEFORE, DLET, NODLET, CASCADE, NOCASCADE ARE VALID OPTIONS

説明: SEGM ステートメントの EXIT= パラメーターで、無効なオプション xxxxxxxx が検出されました。

システムの処置: 処理は終了し、RC=8 が示されます。

プログラマーの応答: SEGM ステートメントの EXIT 指定を訂正します。

問題判別: 2、3、8、および 18

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

SEGM765 xxxxxxxx EXIT CASCADE OPTION SPECIFIED FOR EXIT yyyyyyyy IS NOT A VALID OPTION. KEY, NOKEY, DATA, NODATA, PATH, NOPATH ARE VALID OPTIONS

説明: SEGM ステートメントの EXIT= パラメーターで、CASCADE に無効なオプション xxxxxxxx が検出されました。

システムの処置: 処理は終了し、RC=8 が示されます。

プログラマーの応答: SEGM ステートメントの EXIT 指定を訂正します。

問題判別: 2、3、8、および 18

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

SEGM770 EXIT SPECIFICATION ON SEGM NOT VALID FOR SEGM xxxxxxxx BECAUSE yyyyyyyy ARE NOT SUPPORTED

説明: セグメント xxxxxxxx に対する SEGM ステートメントで EXIT= パラメーターが検出されましたが、yyyyyyyy セグメントがサポートされていないため、このセグメント・タイプはサポートされません。

システムの処置: 処理は終了し、RC=8 が示されます。

プログラマーの応答: SEGM ステートメントの EXIT 指定を訂正します。

問題判別: 2、3、8、および 18

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

SEGM780 EXIT SPECIFICATION ON DBD IGNORED FOR SEGMENT xxxxxxxx BECAUSE VIRTUAL LOGICAL CHILDREN ARE NOT SUPPORTED. SPECIFY EXIT=NONE TO ELIMINATE THE WARNING

説明: DBD ステートメントで EXIT= パラメーターが検出されましたが、仮想論理子がサポートされていないため、セグメント xxxxxxxx に関する出口は無視されます。この警告メッセージは、セグメントに EXIT=NONE を指定することによって抑止できます。

システムの処置: RC=4 で処理は続行されます。

プログラマーの応答: SEGM ステートメントの EXIT 指定を訂正します。

問題判別: 2、3、8、および 18

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

SEGM810 DSGROUP SPECIFICATION IS NOT VALID

説明: DSGROUP オペランドが、有効な指定ではありません。ルート・セグメントでは、A のみが有効な指定です。単一文字オペランドの A から J のみが指定可能です。

システムの処置: DBDGEN は終了します。後続のステートメントの妥当性検査は継続します。

プログラマーの応答: DSGROUP 指定を訂正し、DBDGEN を再処理します。

SEGM820 DSGROUP KEYWORD NOT VALID FOR ACCESS=

説明: DSGROUP オペランドは、ACCESS=PHDAM および PHIDAM の場合のみ有効です。

システムの処置: DBDGEN は終了します。後続のステートメントの妥当性検査は継続します。

プログラマーの応答: DSGROUP 指定を除去するか、または ACCESS パラメーターを変更して使用可能な編成のいずれかにします。

SEGM830 DSGROUP SPECIFICATION MUST BE CONTIGUOUS A-J.

説明: HALDB の複数データ・セット・グループの指定では、ギャップは認められません。例えば、SEGM ステートメントでデータ・セット・グループ D を定義する場合、データ・セット・グループ B および C も定義する必要があります。

システムの処置: DBDGEN は終了します。

プログラマーの応答: DSGROUP 指定を訂正し、DBDGEN を再処理します。

SEGM840 SOURCE= SPECIFICATION NOT ALLOWED FOR ACCESS=

説明: 仮想対は、HALDB ではサポートされません。PHDAM および PHIDAM の SEGM ステートメントでは、仮想対のための SOURCE= 指定は無効です。

システムの処置: DBDGEN は終了します。

プログラマーの応答: エラーのある指定を訂正し、DBDGEN を再処理します。

DBD 生成の SOUR メッセージ

ここでは、次のメッセージについて説明します。

SOUR100 SOURCE SEGMENT TABLE LIMIT EXCEEDED

説明: SEGM SOURCE オペランド値および XDFLD SRCH、DDATA、SUBSEQ、EXTRTN、および NULLVAL オペランド値を取容するのに使用されるテーブルのサイズが制限を超えました。

システムの処置: テーブルのオーバーフローの原因になった SEGM SOURCE オペランド値は無視されます。

プログラマーの応答: オペランド値の数を削減し、DBDGEN を再実行します。

SOUR110 SOURCE SEGMENT NAME IS OMITTED

説明: SEGM ステートメントの SOURCE オペランドで、セグメント名パラメーターが省略されています。

システムの処置: 残りの SOURCE オペランド値が妥当性検査のためにスキャンされます。

プログラマーの応答: セグメント名を指定し、DBDGEN を再実行します。

SOUR120 SOURCE SEGMENT DATA OPTION IS INVALID OPTION=*opt*

説明: SEGM ステートメントの SOURCE オペランド

の DATA パラメーターが、KEY または DATA が指定されていないため、無効です。

システムの処置: 残りの SOURCE オペランド値が妥当性検査のためにスキャンされます。

プログラマーの応答: SOURCE オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

SOUR130 SOURCE SEGMENT DATABASE IS INVALID-*name*

説明: SEGM ステートメントの SOURCE オペランドで入力されたデータベース名 (*name*) パラメーターが無効です。DBD ステートメントに指定された名前と同じため、または内容に無効文字が含まれているためです。

システムの処置: 残りの SOURCE オペランド値が妥当性検査のためにスキャンされます。

プログラマーの応答: SOURCE オペランドの dbname パラメーターを訂正します。

SOUR140 A SOURCE SEGMENT OPTION OF DATA SHOULD BE SPECIFIED WHEN DEFINING A VIRTUAL LOGICAL CHILD SEGM

説明: これは警告メッセージです。

DBD 生成の XDFLD メッセージ

ここでは、次のメッセージについて説明します。

XDFLD001 XDFLD STATEMENT INVALID FOR HSAM, INDEX, AND (HISAM,ISAM) MULTIPLE DATA SET DBDS

説明: DBD 生成で指定されたアクセス方式が HSAM または INDEX の場合、XDFLD ステートメントは無効です。

プログラマーの応答: XDFLD ステートメントを除去して、DBDGEN を再実行します。

XDFLD002 SECONDARY INDEX LCHILD STATEMENT WITH PTR=INDX/SYMB MUST PRECEDE THIS XDFLD STATEMENT.

説明: この XDFLD ステートメントは、INDX または SYMB の POINTER 値を持つ、先行する LCHILD ステートメントと対でなければなりません。この必要な

LCHILD ステートメントが欠落しています。

システムの処置: 指定された XDFLD オペランド情報は、後続の妥当性検査で使用されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

XDFLD003 SEGM CARD MUST PRECEDE XDFLD CARD

説明: DBDGEN の入力順序では、SEGM ステートメントが XDFLD ステートメントより前になければなりません。

システムの処置: デフォルトはありません。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

XDFLD004 NAME OPERAND IS OMITTED OR INVALID

説明: 次のいずれかが発生しました。

- NAME オペランドが指定されなかった。
- 複数のパラメーターが指定された。
- 指定されたオペランドが、8 文字を超えているか、または内容に無効文字が含まれている。

プログラマーの応答: NAME オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

XDFLD005 SRCH OPERAND IS OMITTED OR INVALID

説明: 次のいずれかが発生しました。

- SRCH オペランドが指定されなかった。
- 6 つ以上のパラメーターが指定された。
- 指定されたパラメーターが 8 文字を超えている。
- システム関連フィールドが指定された。

プログラマーの応答: SRCH オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

XDFLD006 SUBSEQ OPERAND IS INVALID

説明: 6 つ以上のパラメーターが指定されたか、または指定されたパラメーターが 9 文字以上を含んでいました。

プログラマーの応答: SUBSEQ オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

XDFLD007 DDATA OPERAND IS INVALID

説明: 6 つ以上のパラメーターが指定されたか、または指定されたパラメーターが 9 文字以上を含んでいたか、または /SX システム関連フィールドが指定されました。

プログラマーの応答: DDATA オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

XDFLD008 EXTRTN OPERAND IS INVALID

説明: 次のいずれかが発生しました。

- 複数のパラメーターが指定された。
- オペランドが、8 文字を超えているか、または内容に無効文字が含まれている。

プログラマーの応答: EXTRTN オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

XDFLD009 CONST OPERAND IS INVALID

説明: CONST オペランドが、1 バイトの自己定義項として指定されませんでした。CONST オペランドは、以下ではサポートされていません。

- HALDB
- DEDB

プログラマーの応答: CONST オペランドを訂正または削除して、DBDGEN ユーティリティを再実行します。

XDFLD010 NULLVAL OPERAND IS INVALID

説明: NULLVAL オペランドが、1 バイトの自己定義項、ゼロ、またはブランクとして指定されませんでした。

プログラマーの応答: NULLVAL オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

XDFLD011 SEGMENT OPERAND IS INVALID

説明: 複数のパラメーターが指定されたか、または指定されたパラメーターが 9 文字以上を含んでいます。

プログラマーの応答: SEGMENT オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

XDFLD012 SRCH/DDATA/SUBSEQ/EXTRTN/NULLVAL NAME TABLE LIMIT EXCEEDED

説明: SEGM SOURCE オペランド値および XDFLD SRCH、DDATA、SUBSEQ、EXTRTN、および NULLVAL オペランド値を収容するのに使用されるテーブルのサイズが制限を超えました。

システムの処置: テーブルのオーバーフローの原因になった XDFLD オペランド値は無視されます。XDFLD ステートメントの処理は終了します。

プログラマーの応答: オペランド値の数を削減し、DBDGEN を再実行します。

XDFLD013 SEGMENT XDFLD LIMIT EXCEEDED

説明: SEGM ステートメントごとに、指定できる XDFLD ステートメントは 32 個までです。

プログラマーの応答: XDFLD ステートメントの数を 32 以下に減らして、DBDGEN を再実行します。

XDFLD014 SPECIFIED NAME MAY NOT BE THE OBJECT OF PREVIOUS XDFLD SRCH, DDATA, OR SUBSEQ

説明: 指定された NAME オペランドが無効です。この名前が、前の XDFLD ステートメントの SRCH、DDATA、または SUBSEQ オペランドで指定された名前と重複しているためです。

プログラマーの応答: NAME オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

XDFLD015 SEGMENT KEYWORD MAY NOT SPECIFY A PREVIOUSLY DEFINED SEGMENT NAME

説明: SEGMENT オペランドで指定されるセグメント名は、索引ターゲット・セグメント・タイプより階層的に下位で引き続き定義されるセグメント・タイプの名前であるか、またはその索引ターゲット・セグメント・タイプ自体の名前でなければなりません。

プログラマーの応答: SEGMENT オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

XDFLD016 SPECIFIED INDEX SOURCE SEGMENT NAME NOT FOUND. NAME EQUALS-name

説明: SEGMENT オペランドで指定されたセグメント名 (*name*) を検出できませんでした。

プログラマーの応答: SEGMENT オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

XDFLD017 SPECIFIED SRCH FIELD NAME-name NON-EXISTENT IN INDEX SOURCE SEGMENT

説明: XDFLD ステートメントの SRCH オペランドで指定された値が、SEGMENT オペランドで定義された索引ソース・セグメントに対する FIELD ステートメントのいずれにも見つかりませんでした。

プログラマーの応答: SRCH オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

XDFLD018 SPECIFIED SUBSEQ FIELD NAME-name NON-EXISTENT IN INDEX SOURCE SEGMENT

説明: XDFLD ステートメントの SUBSEQ オペランドで指定された値が、SEGMENT オペランドで定義された索引ソース・セグメントに対する FIELD ステートメントのいずれにも見つかりませんでした。

プログラマーの応答: SUBSEQ オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

XDFLD019 SPECIFIED DDATA FIELD NAME-name NON-EXISTENT IN INDEX SOURCE SEGMENT

説明: XDFLD ステートメントの DDATA オペランドで指定された値が、SEGMENT オペランドで定義された索引ソース・セグメントに対する FIELD ステートメントのいずれにも見つかりませんでした。

プログラマーの応答: DDATA オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

XDFLD020 PREVIOUS LCHILD POINTER OPERAND INVALID

説明: PTR=SYMB が指定されたが、索引ターゲット・セグメントへのシンボリック・ポインターが固有ではありません。

プログラマーの応答: LCHILD ステートメントの PTR オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

XDFLD021 INDEX SOURCE SEGMENT (name) IS NOT HIERARCHICALLY BELOW INDEXED SEGMENT (name)

説明: この SEGMENT オペランドで指定されるセグメント名は、索引ターゲット・セグメント・タイプより階層的に下位で引き続き定義されるセグメント・タイプの名前であるか、またはその索引ターゲット・セグメント・タイプ自体の名前でなければなりません。

プログラマーの応答: SEGMENT オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

XDFLD022 INDEX SOURCE SEGMENT IS A LOGICAL SEGMENT

説明: SEGMENT オペランドで指定されたセグメント名は、論理子セグメントであってはなりません。

プログラマーの応答: SEGMENT オペランドを訂正し、DBDGEN を再実行します。

XDFLD023 XDFLD STATEMENT IS INVALID FOR A LOGICAL CHILD SEGMENT OR A PHYSICAL DEPENDENT OF A LOGICAL CHILD SEGMENT. REFERENCE SEGM STATEMENT name

説明: 参照されたセグメント・タイプに対して副次索引が指定されました。これは無効です。

システムの処置: DBDGEN は終了します。

プログラマーの応答: SEGMENT 名を訂正し、DBDGEN を再実行します。

XDFLD077 HDAM LCHILD STATEMENTS WITH POINTER=INDX MUST HAVE A CORRESPONDING XDFLD STATEMENT

説明: PTR=INDX を指定した HDAM LCHILD ステートメントは、副次索引関係を定義しています。このタイプの各 LCHILD ステートメントに続いて、対応する XDFLD ステートメントがなければなりません。この必要な XDFLD ステートメントが欠落しています。

システムの処置: デフォルトは想定されていません。ユーザー指定のステートメントは、後続の妥当性検査で使用されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

XDFLD111 SPECIFIED SRCH FIELD NAME NON-EXISTENT. FIELD NAME EQUALS-name

説明: XDFLD ステートメントの SRCH オペランドで指定された値が、この DBD の FIELD ステートメントのいずれにも見つかりませんでした。

プログラマーの応答: SRCH オペランドを訂正するか、または FIELD ステートメントに正しい名前を指定して、DBDGEN を再実行します。

XDFLD112 SPECIFIED SUBSEQ FIELD NAME NON-EXISTENT. FIELD NAME EQUALS-name

説明: XDFLD ステートメントの SUBSEQ オペランドで指定された値 (*name*) が、DBD の FIELD ステートメントのいずれにも見つかりませんでした。

システムの処置: ありません。

プログラマーの応答: SUBSEQ オペランドを訂正するか、または FIELD ステートメントに正しい名前を指定して、DBDGEN を再実行します。

XDFLD113 SPECIFIED DDATA FIELD NAME NON-EXISTENT. FIELD NAME EQUALS-name

説明: この XDFLD ステートメントの DDATA オペランドで指定された値が、この DBD の FIELD ステートメントのいずれにも見つかりませんでした。

システムの処置: ありません。

プログラマーの応答: DDATA オペランドを訂正するか、または FIELD ステートメントに正しい名前を指定して、DBDGEN を再実行します。

XDFLD115 SRCH HAS INVALID PARAMETER LIST

説明: SRCH オペランド (/CK,*start,length*) のフォーマットに従っていないか、あるいは指定された *start* または *length* の値が数値ではありません。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: SRCH オペランドを訂正して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

XDFLD116 SUBSEQ HAS INVALID PARAMETER LIST

説明: SUBSEQ オペランド (/CK,*start,length*) のフォーマットに従っていないか、あるいは指定された *start* または *length* の値が数値ではありません。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: SUBSEQ オペランドを訂正して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

XDFLD120 COMBINED LENGTH OF CONSTANT, SEARCH, AND SUBSEQUENCE FIELDS FOR XDFLD STATEMENT-name-EXCEEDS 240 BYTES

説明: メッセージで *name* によって示された XDFLD ステートメントで、結合した長さが最大許容値を超えるオブジェクト・フィールドが指定されました。

システムの処置: ありません。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DBDGEN を再実行します。

XDFLD124 THIS XDFLD STATEMENT -name- REFERENCES ANOTHER XDFLD STATEMENT IN ITS SEARCH, SUBSEQUENCE, OR DUPLICATE DATA OPERAND

説明: メッセージで *name* によって示されている XDFLD ステートメントが、SRCH オペランド・オブジェクト FIELD、SUBSEQ オペランド・オブジェクト FIELD、または DDATA オペランド・オブジェクト

FIELD を持っています。ここで、指定された FIELD は XDFLD の名前です。FLD ステートメントで定義されたフィールドのみが、指定できるオペランドです。

システムの処置: ありません。

プログラマーの応答: XDFLD ステートメントを訂正し、DBDGEN を再実行します。

XDFLD126 THIS XDFLD STATEMENT *-name-* HAS A PACKED DECIMAL (TYPE=P) SEARCH FIELD, BUT THE NULLVAL= OPERAND CONTAINS AN UNACCEPTABLE PACKED DECIMAL VALUE

説明: これは警告メッセージです。メッセージに示された XDFLD ステートメントが、TYPE=P を指定した SRCH オペランド・オブジェクト FIELD を持つが、XDFLD NULLVAL オペランドには有効なパック 10 進数値が含まれていません。

システムの処置: ありません。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

XDFLD230 THE XDFLD STATEMENT IS INVALID FOR A DEDB SDEP SEGMENT

説明: DEDB 順次従属 (SDEP) セグメントに対して XDFLD ステートメントが指定されています。これは、高速機能副次索引データベースでは無効なオプションです。SDEP セグメントを高速機能副次索引のソース・セグメントまたはターゲット・セグメントとして使用することはできません。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: DBD の DEDB SDEP セグメントから XDFLD ステートメントを削除して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

XDFLD231 PSELRTN OPERAND IS OMITTED BUT USER PARTITIONING IS REQUESTED

説明: 1 次 DEDB データベースでは、LCHILD ステートメントに 2 つ以上の HISAM 副次索引データベースまたは 2 つ以上の SHISAM 副次索引データベースを指定することによる NAME オペランドでのユーザー・データ区画化が要求されます。しかし、LCHILD ステートメントに対応する XDFLD ステートメントの PSELRTN オペランドに、ユーザー区画ルーチンが指定されています。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: ユーザー・データ区画化を意図している場合 (2 つ以上の HISAM 副次索引データベースまたは 2 つ以上の SHISAM 副次索引データベースを使用して LCHILD ステートメントの NAME オペランドで定義されている) は、次のようにします。

- 対応する LCHILD ステートメントの区画データベースの、ユーザー区画選択出口を指定した XDFLD ステートメントに PSELRTN= オペランドを追加します。
- PSELOPT=MULT または PSELOPT=SNGL を (PROCSEQD オペランドを指定した PCB ステートメントまたは 1 次 DEDB DBD の XDFLD ステートメントに) 指定して、ユーザー区画グループでの区画の処理方法を示します。XDFLD ステートメントの PSELOPT オペランドでは、デフォルトは PSELOPT=MULT です。PSELOPT オペランドは、PROCSEQD オペランドを指定した PCB ステートメントに明示的に指定する必要がありますが、PCB ステートメント内の PSELOPT オペランドにデフォルトがありません。
- PROCSEQD オペランドを指定した PCB ステートメントと 1 次 DEDB DBD の XDFLD ステートメントの両方に PSELOPT オペランドを指定した場合、PCB ステートメント上の PSELOPT オペランドが 1 次 DEDB DBD の XDFLD ステートメント上の PSELOPT オペランドをオーバーライドします。

ユーザー・データ区画化を意図していない場合 (1 つの HISAM 副次索引データベースまたは 1 つの SHISAM 副次索引データベースを使用して LCHILD ステートメントの NAME オペランドで定義されている) は、次のようにします。

- 1 次 DEDB DBD の LCHILD ステートメントにある NAME オペランドに指定されたデータベース名が 1 つだけであることを確認して、DBDGEN ユティリティを再実行します。

XDFLD232 PSELRTN OPERAND IS SPECIFIED BUT USER PARTITIONING IS NOT REQUESTED

説明: 1 次 DEDB データベースで、LCHILD ステートメントに 2 つ以上の HISAM 副次索引データベースまたは 2 つ以上の SHISAM 副次索引データベースを指定することによる NAME オペランドでのユーザー・データ区画化が要求されませんでした。しかし、LCHILD ステートメントに対応する XDFLD ステートメントの PSELRTN オペランドに、ユーザー区画ルーチンが指定されています。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: ユーザー・データ区画化を意図している場合 (2 つ以上の HISAM 副次索引データベースまたは 2 つ以上の SHISAM 副次索引データベースを使用して LCHILD ステートメントの NAME オペランドで定義されている) は、次のようにします。

- XDFLD ステートメントに対応する LCHILD ステートメントの NAME オペランドに、区画データベースの名前を 2 つ以上追加します。
- PSELOPT=MULT または PSELOPT=SNGL を (PROCSEQD オペランドを指定した PCB ステートメントまたは 1 次 DEDB DBD の XDFLD ステートメントに) 指定して、ユーザー区画グループでの区画の処理方法を示します。XDFLD ステートメントの PSELOPT オペランドでは、デフォルトは PSELOPT=MULT です。PSELOPT オペランドは、PROCSEQD オペランドを指定した PCB ステートメントに明示的に指定する必要がありますが、PCB ステートメント上の PSELOPT オペランドにデフォルトがありません。

PROCSEQD オペランドを指定した PCB ステートメントと 1 次 DEDB DBD の XDFLD ステートメントの両方に PSELOPT オペランドを指定した場合、PCB ステートメント上の PSELOPT オペランドが 1 次 DEDB DBD の XDFLD ステートメント上の PSELOPT オペランドをオーバーライドします。

ユーザー・データ区画化を意図していない場合 (1 つの HISAM 副次索引データベースまたは 1 つの SHISAM 副次索引データベースを使用して LCHILD ステートメントの NAME オペランドで定義されている) は、次のようにします。

- XDFLD ステートメントの PSELRTN オペランドを削除します。

XDFLD233 PSELOPT OPERAND IS SPECIFIED BUT USER PARTITIONING IS NOT REQUESTED

説明: 1 次 DEDB データベースで、LCHILD ステートメントに 2 つ以上の HISAM 副次索引データベースまたは 2 つ以上の SHISAM 副次索引データベースを指定することによる NAME オペランドでのユーザー・データ区画化が要求されませんでした。しかし、LCHILD ステートメントに対応する XDFLD ステートメントの PSELOPT オペランドに、ユーザー区画選択オプションが指定されています。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: ユーザー・データ区画化を意図し

ている場合 (2 つ以上の HISAM 副次索引データベースまたは 2 つ以上の SHISAM 副次索引データベースを使用して LCHILD ステートメントの NAME オペランドで定義されている) は、次のようにします。

- XDFLD ステートメントに対応する LCHILD ステートメントの NAME オペランドに、区画データベースの名前を 2 つ以上追加します。
- PROCSEQD オペランドを指定した PCB ステートメントまたは 1 次 DEDB DBD の XDFLD ステートメントに、PSELOPT=MULT または PSELOPT=SNGL を指定して、ユーザー区画グループでの区画の処理方法を示します。XDFLD ステートメントの PSELOPT オペランドでは、デフォルトは PSELOPT=MULT です。PSELOPT オペランドは、PROCSEQD オペランドを指定した PCB ステートメントに明示的に指定する必要がありますが、PCB ステートメント上の PSELOPT オペランドにデフォルトがありません。
- PROCSEQD オペランドを指定した PCB ステートメントと 1 次 DEDB DBD の XDFLD ステートメントの両方に PSELOPT オペランドを指定した場合、PCB ステートメント上の PSELOPT オペランドが 1 次 DEDB DBD の XDFLD ステートメント上の PSELOPT オペランドをオーバーライドします。

ユーザー・データ区画化を意図していない場合 (1 つの HISAM 副次索引データベースまたは 1 つの SHISAM 副次索引データベースを使用して LCHILD ステートメントの NAME オペランドで定義されている) は、次のようにします。

- XDFLD ステートメントの PSELOPT オペランドを削除します。

XDFLD234 THE PSELOPT OPERAND MUST BE PSELOPT=MULT OR PSELOPT=SNGL

説明: PSELOPT オペランドで指定されたユーザー区画選択オプションが無効です。

PSELOPT オペランドの有効値は以下のとおりです。

- 複数区画の場合は PSELOPT=MULT
- 単一区画の場合は PSELOPT=SNGL

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: ユーザー・データ区画化が要求される場合 (2 つ以上の HISAM 副次索引区画データベースまたは 2 つ以上の SHISAM 副次索引区画データベースを使用して LCHILD ステートメントの NAME オペランドで定義されている) は、次のようにします。

- PROCSEQD オペランドを指定した PCB ステートメントまたは 1 次 DEDB DBD の XDFLD ステートメントに、PSELOPT=MULT または

PSELOPT=SNGL を指定して、ユーザー区画グループでの区画の処理方法を指定します。

PROCSEQD オペランドを指定した PCB ステートメントと 1 次 DEDB DBD の XDFLD ステートメントの両方に PSELOPT オペランドを指定した場合、PCB ステートメント上の PSELOPT オペランドが 1 次 DEDB DBD の XDFLD ステートメント上の PSELOPT オペランドをオーバーライドします。

ユーザー・データ区画化が要求されない場合 (1 つの HISAM 2 次索引データベースまたは 1 つの SHISAM 2 次索引データベースを使用して LCHILD ステートメントの NAME オペランドで定義されている) は、次のようになります。

- XDFLD ステートメントの PSELOPT オペランドと PSELRTN オペランドを削除します。
- PROCSEQD オペランドを指定した PCB ステートメントに PSELOPT オペランドが指定されている場合は、PCB ステートメントの PSELOPT オペランドを削除します。

必要に応じて、DBD または PSB 生成ユーティリティを再実行します。

関連資料:

 XDFLD ステートメント (システム・ユーティリティ)

 全機能または高速機能データベースの PCB ステートメント (システム・ユーティリティ)

XDFLD235 THE PSELRTN OPERAND SPECIFIED IS INVALID

説明: PSELRTN オペランドで指定されたユーザー区画選択出口が、1 つ以上の命名規則に違反しています。

- このルーチンの名前は、8 文字以下でなければなりません。
- 名前の最初の文字は英字でなければなりません。
- 残りの文字は、英字、数字、あるいは記号 #、@、\$ でなければなりません。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: PSELRTN オペランドのユーザー区画選択出口名を訂正して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

XDFLD236 THE PSELRTN OPERAND IS INVALID FOR A FULL FUNCTION DATABASE

説明: XDFLD ステートメントの PSELRTN オペラ

ンドは、高速機能ユーザー区画化副次索引データベースが定義されている DEDB データベースに対してのみ有効です。ただし、全機能データベースの場合は、XDFLD ステートメントに PSELRTN オペランドが指定されません。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: XDFLD ステートメントの PSELRTN オペランドを除去して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

XDFLD237 THE PSELOPT OPERAND IS INVALID FOR A FULL FUNCTION DATABASE

説明: XDFLD ステートメントの PSELOPT オペランドは、高速機能ユーザー区画化副次索引データベースが定義されている DEDB データベースに対してのみ有効です。ただし、全機能データベースの場合は、XDFLD ステートメントに PSELOPT オペランドが指定されません。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: XDFLD ステートメントの PSELOPT オペランドを除去して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

XDFLD240 THE SEARCH KEY LENGTHS OF MULTIPLE SECONDARY INDEX SEGMENTS

説明: 複数の副次索引セグメントが定義された 1 次 DEDB データベースに、矛盾するプロパティが含まれています。複数の副次索引セグメントの XDFLD ステートメントにある SRCH オペランドと SUBSEQ オペランド上の検索キーの長さの合計が異なります。複数の副次索引セグメントの検索キーの長さは同じでなければなりません。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: SRCH オペランドと SUBSEQ オペランドのフィールドを、複数の副次索引セグメントの検索キー長の合計が同一になるように訂正してから、DBDGEN ユティリティを再実行します。

XDFLD241 THE SRCH OPERANDS OF MULTIPLE SECONDARY INDEX SEGMENTS ARE NOT DIFFERENT

説明: 複数の副次索引セグメントを指定された 1 次

DEDB データベースでは、複数の副次索引セグメントごとに固有の検索キーを作成するために、複数の副次索引セグメントの XDFLD ステートメント上の SRCH オペランドで、少なくとも 1 つのフィールドは異ならなければなりません。しかし、複数の副次索引セグメントの XDFLD ステートメントにある SRCH オペランドが異なっていません。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: 複数の副次索引セグメントごとに SRCH オペランドの少なくとも 1 つのフィールドは異ならなければなりません。複数の副次索引セグメントの XDFLD ステートメントにある SRCH オペランドのフィールドを、固有の検索キーを作成するように訂正して、DBDGEN ユーティリティを再実行します。

XDFLD242 THE NAME OPERANDS OF MULTIPLE SECONDARY INDEX SEGMENTS ARE DIFFERENT

説明: 複数の副次索引セグメントが定義された 1 次 DEDB データベースに、矛盾するプロパティが含まれています。複数の副次索引セグメントの XDFLD ステートメントにある NAME オペランドが異なります。NAME オペランドには、複数の副次索引セグメントに対して、同じ副次索引フィールド名を指定する必要があります。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: 複数の副次索引セグメントに対して同じ副次索引フィールド名を指定するように、XDFLD ステートメントの NAME オペランドを訂正して、DBDGEN ユーティリティを再実行します。

XDFLD243 THE SEGMENT OPERANDS OF MULTIPLE SECONDARY INDEX SEGMENTS ARE DIFFERENT

説明: 複数の副次索引セグメントが定義された 1 次 DEDB データベースに、矛盾するプロパティが含まれています。複数の副次索引セグメントの XDFLD ステートメントにある SEGMENT オペランドが異なります。SEGMENT オペランドには、複数の副次索引セグメントに対して、同じソース・セグメント名を指定する必要があります。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: 複数の副次索引セグメントに対して同じソース・セグメント名を指定するように、

SEGMENT オペランドを訂正して、DBDGEN ユーティリティを再実行します。

XDFLD244 THE PSELRTN OPERANDS OF MULTIPLE SECONDARY INDEX SEGMENTS ARE DIFFERENT

説明: 複数の副次索引セグメントが定義された 1 次 DEDB データベースに、矛盾するプロパティが含まれています。複数の副次索引セグメントの XDFLD ステートメントにある PSELRTN オペランドが異なります。PSELRTN オペランドには、複数の副次索引セグメントに対して、同じユーザー区画選択出口を指定する必要があります。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: 複数の副次索引セグメントに対して同じユーザー区画選択出口を指定するように、PSELRTN オペランドを訂正して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

XDFLD245 THE PSELOPT OPERANDS OF MULTIPLE SECONDARY INDEX SEGMENTS ARE DIFFERENT

説明: 複数の副次索引セグメントが定義された 1 次 DEDB データベースに、矛盾するプロパティが含まれています。複数の副次索引セグメントの XDFLD ステートメントにある PSELOPT オペランドが異なります。PSELOPT オペランドには、複数の副次索引セグメントに対して、同じユーザー区画選択オプション (PSELOPT=MULT または PSELOPT=SNGL) を指定する必要があります。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: 複数の副次索引セグメントに対して同じユーザー区画選択オプションを指定するように、PSELOPT オペランドを訂正して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

XDFLD246 THE EXTRTN OPERANDS OF MULTIPLE SECONDARY INDEX SEGMENTS ARE DIFFERENT

説明: 複数の副次索引セグメントが定義された 1 次 DEDB データベースに、矛盾するプロパティが含まれています。複数の副次索引セグメントの XDFLD ステートメントにある EXTRTN オペランドが異なります。EXTRTN オペランドには、複数の副次索引セグメントに対して、同じユーザー指定の索引保守出口を指定する必要があります。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: 複数の副次索引セグメントに対して同じユーザー指定の索引保守出口ルーチンを指定するように、EXTRTN オペランドを訂正して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

XDFLD247 THE NULLVAL OPERANDS OF MULTIPLE SECONDARY INDEX SEGMENTS ARE DIFFERENT

説明: 複数の副次索引セグメントが定義された 1 次 DEDB データベースに、矛盾するプロパティーが含まれています。複数の副次索引セグメントの XDFLD ステートメントにある NULLVAL オペランドが異なります。NULLVAL オペランドには、複数の副次索引セグメントに対して、同じ 1 バイト値を指定する必要があります。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: 複数の副次索引セグメントに対して同じ 1 バイト値を指定するように、NULLVAL オペランドを訂正して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

XDFLD248 THE SUBSEQ OPERANDS OF MULTIPLE SECONDARY INDEX SEGMENTS ARE DIFFERENT

説明: 複数の副次索引セグメントが定義された 1 次 DEDB データベースに、矛盾するプロパティーが含まれています。複数の副次索引セグメントの XDFLD ステートメントにある SUBSEQ オペランドが異なります。SUBSEQ オペランドには、複数の副次索引セグメントに対して、同じフィールドを指定する必要があります。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: 複数の副次索引セグメントに対して同じフィールドを指定するように、SUBSEQ オペランドを訂正して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

XDFLD249 THE DDATA LENGTHS OF MULTIPLE SECONDARY INDEX SEGMENTS ARE DIFFERENT

説明: 複数の副次索引セグメントが定義された 1 次 DEDB データベースに、矛盾するプロパティーが含まれています。複数の副次索引セグメントの XDFLD ステートメントにある DDATA オペランドの長さの合計が異なります。複数の副次索引セグメントの DDATA の

長さは同じでなければなりません。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: 複数の副次索引セグメントの DDATA の長さの合計が同一になるように DDATA オペランドのフィールドを訂正して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

XDFLD250 THE SEARCH KEY LENGTHS OF MULTIPLE SECONDARY INDEX SEGMENTS ARE DIFFERENT: XDFLD NAME=xdfldname

説明: 複数の副次索引セグメントが定義された 1 次 DEDB データベースに、矛盾するプロパティーが含まれています。複数の副次索引セグメントの XDFLD ステートメントにある SRCH オペランド上の検索キーの長さの合計が異なります。複数の副次索引セグメントの検索キーの長さは同じでなければなりません。

メッセージ・テキスト内の項目は以下のとおりです。

xdfldname

XDFLD ステートメントに指定されている索引ターゲット・セグメントの索引付きデータ・フィールドの名前を示します。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: 複数の副次索引セグメントの検索キーの長さの合計が同一になるように SRCH オペランドのフィールドを訂正して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

XDFLD251 THE DDATA LENGTHS OF MULTIPLE SECONDARY INDEX SEGMENTS ARE DIFFERENT: XDFLD NAME=xdfldname

説明: 複数の副次索引セグメントが定義された 1 次 DEDB データベースに、矛盾するプロパティーが含まれています。複数の副次索引セグメントの XDFLD ステートメントにある DDATA オペランドの長さの合計が異なります。複数の副次索引セグメントの DDATA の長さは同じでなければなりません。

メッセージ・テキスト内の項目は以下のとおりです。

xdfldname

XDFLD ステートメントに指定されている索引ターゲット・セグメントの索引付きデータ・フィールドの名前を示します。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: 複数の副次索引セグメントの DDATA の長さの合計が同一になるように DDATA オペランドのフィールドを訂正して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

**XDFLD300 XDFLD STMT IS INVALID FOR
database_type DBDS**

説明: メッセージ・テキストで、*database_type* は次のいずれかになります。

- MSDB
- DEDB

DBD ステートメントで ACCESS=MSDB または ACCESS=DEDB が指定された DBDGEN に対して、XDFLD ステートメントが不適切に指定されました。

システムの処置: システムは、XDFLD ステートメントで指定されたオペランドをすべて無視し、残りのステートメントの処理を継続します。

プログラマーの応答: DBDGEN 入力ストリームから XDFLD ステートメントを除去して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

**XDFLD600 THE VALUE OF THE
EXTERNALNAME PARAMETER IS
NOT UNIQUE IN SEGMENT
xxxxxxx.**

説明: EXTERNALNAME パラメーターに指定された値が、以前 DBD 生成ユーティリティによって読み取られた FIELD ステートメントの NAME パラメーターまたは EXTERNALNAME パラメーターに指定された値と同じです。

メッセージ・テキスト内の項目は以下のとおりです。

xxxxxxx

同じ名前を指定する両方のフィールドが含まれるセグメント。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: この XDFLD ステートメントに固有の外部名を指定して、DBD 生成ユーティリティを再実行します。

**XDFLD601 THE VALUE OF EXTERNALNAME
CANNOT BE A RESERVED SQL
KEYWORD.**

説明: EXTERNALNAME パラメーターに指定された値は予約済みの SQL キーワードであり、XDFLD ステートメントの外部名として使用することはできません。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: この XDFLD ステートメントに予約済み SQL キーワードでない外部名を指定し、DBD 生成ユーティリティを再実行してください。

**XDFLD602 THE LENGTH OF THE
EXTERNALNAME PARAMETER
EXCEEDS 26.**

説明: EXTERNALNAME パラメーターに指定されている値が 26 文字を超えています。外部名は 26 文字以下でなければなりません。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: EXTERNALNAME パラメーターに 26 文字以下の外部名を指定し、DBD 生成ユーティリティを再実行してください。

**XDFLD603 THE VALUE OF THE
EXTERNALNAME PARAMETER
CANNOT BEGIN WITH "DFS".**

説明: EXTERNALNAME パラメーターに指定された値が、文字 DFS で始まっています。DFS で始まる名前は IMS によって予約されており、外部名として使用することはできません。

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: この XDFLD ステートメントに先頭が DFS でない外部名を指定し、DBD 生成ユーティリティを再実行してください。

**XDFLD604 THE VALUE OF THE
EXTERNALNAME PARAMETER
CONTAINS INVALID CHARACTERS.**

説明: EXTERNALNAME パラメーターに指定された値に無効文字が含まれています。EXTERNALNAME パラメーターに大文字の英数字を使用して、外部名を指定する必要があります。さらに次の文字も使用できます。

– (下線)
\$

@

システムの処置: DBD 生成の試みは MNOTE 8 で失敗します。

プログラマーの応答: EXTERNALNAME パラメーターに、大文字の英数字と、オプションで下線文字、\$、#、および@ のみを含む外部名を指定してください。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。本書の他言語版を IBM から入手できる場合があります。ただし、ご利用にはその言語版の製品もしくは製品のコピーを所有していることが必要な場合があります。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町19番21号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Director of Licensing
IBM Corporation
North Castle Drive, MD-NC119
Armonk, NY 10504-1785
US

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

記載されている性能データとお客様事例は、例として示す目的でのみ提供されています。実際の結果は特定の構成や稼働条件によって異なります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名前はすべて架空のものであり、類似する個人や企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (年).

このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。

© Copyright IBM Corp. _年を入れる_.

商標

IBM、IBM ロゴおよび [ibm.com](http://www.ibm.com)[®] は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

Adobe、Adobe ロゴ、PostScript ロゴは、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

製品資料に関するご使用条件

これらの資料は、以下のご使用条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

適用される条件

このご使用条件は、IBM Web サイトのすべてのご利用条件に追加して適用されます。

個人使用

これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布 (頒布、送信を含む) または表示 (上映を含む) することはできません。

商業的使用

これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

権利

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入 関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

IBM オンライン・プライバシー・ステートメント

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品（「ソフトウェア・オファリング」）では、製品の使用に関する情報の収集、エンド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のために、Cookie はじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。多くの場合、ソフトウェア・オファリングにより個人情報が収集されることはありません。IBM の「ソフトウェア・オファリング」の一部には、個人情報を収集できる機能を持つものがあります。ご使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらの Cookie およびそれに類するテクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的事項をご確認ください。

この「ソフトウェア・オファリング」は、Cookie もしくはその他のテクノロジーを使用して個人情報を収集することはありません。

この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人を特定できる情報を収集する機能を提供する場合、お客様は、このような情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライン等を遵守する必要があります。これには、エンドユーザーへの通知や同意の要求も含まれますがそれらには限られません。

このような目的での Cookie を含む様々なテクノロジーの使用の詳細については、IBM の『IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント』（<http://www.ibm.com/privacy/details/jp/ja/>）の『クッキー、ウェブ・ビーコン、その他のテクノロジー』および『IBM Software Products and Software-as-a-Service Privacy Statement』（<http://www.ibm.com/privacy/details>）を参照してください。

参考文献

この参考文献のリストには、IMS 15 ライブラリーのすべての資料が記載されています。

表題	頭字語	資料番号
IMS V15 アプリケーション・プログラミング	APG	SC27-6778
IMS V15 アプリケーション・プログラミング API	APR	SC27-6779
IMS V15 コマンド 第 1 巻: IMS コマンド A-M	CR1	SC27-6780
IMS V15 コマンド 第 2 巻: IMS コマンド N-V	CR2	SC27-6781
IMS V15 コマンド 第 3 巻: IMS コンポーネント および z/OS コマンド	CR3	SC27-6782
IMS V15 コミュニケーションおよびコネクション	CCG	SC27-6783
IMS V15 データベース管理	DAG	SC27-6784
IMS V15 データベース・ユーティリティー	DUR	SC27-6785
IMS Version 15 Diagnosis	DGR	GC27-6786
IMS V15 出口ルーチン	ERR	SC27-6787SC43- 3856
IMS V15 インストール	INS	SC27-6788
IMS Version 15 Licensed Program Specifications	LPS	GC27-6799
IMS V15 メッセージおよびコード 第 1 巻: DFS メッセージ	MC1	GC27-6789
IMS V15 メッセージおよびコード 第 2 巻: DFS 以外メッセージ	MC2	GC27-6790
IMS V15 メッセージおよびコード 第 3 巻: IMS 異常終了コード	MC3	GC43-4469
IMS V15 メッセージおよびコード 第 4 巻: IMS コンポーネント・コード	MC4	GC43-4470
IMS V15 オペレーションおよびオートメーション	OAG	SC27-6793
IMS V15 リリース計画	RPG	GC27-6794
IMS V15 システム管理	SAG	SC27-6795
IMS V15 システム定義	SDG	GC27-6796
IMS V15 システム・プログラミング API	SPR	SC27-6797
IMS V15 システム・ユーティリティー	SUR	SC27-6798



プログラム番号: 5635-A06
5655-DS5
5655-TM4

Printed in Japan

GC43-4283-00



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19-21

Spine information:

IMS バージョン 15.1.0

メッセージおよびコード 第 2 巻: DFS 以外のメッセージ

